

令和5年度 自己点検・評価報告書



名古屋市立大学
医薬学総合研究院
大学院医学研究科・医学部

医学研究科 自己点検・評価報告書の公表について

平成 11 年に改正された大学設置基準により、自己点検・評価の実施と結果の公表が義務化され、その結果に対して学外者による検証が努力義務として求められています。そのため、令和 5 年度の名古屋市立大学大学院医学研究科における自己点検・評価報告書を作成し、ここに公表いたします。令和 6 年度からは新たに策定された第四期中期目標・計画が始まり、研究推進、研究力強化が大きな目標として掲げられています。今回の報告書は昨年と同様に「教育」「研究」に関する内容をまとめたものであり、各講座、各教員がこの 1 年間の業績・成果を振り返る機会として活用していただければ幸いです。

名古屋市立大学医学部は、令和 3 年 4 月の名古屋市立東部・西部医療センターの医学部附属病院化を皮切りに、急速な変革の時期を迎えています。名古屋市立緑市民病院（現みどり市民病院）、名古屋市厚生院附属病院（現みらい光生病院）、名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院（リハビリテーション病院に改称）の大学病院化が進み、さらには救急災害医療センターの開棟が予定されています。その結果、約 2,250 床を有する全国国公立大学医学部の中で最大規模の附属病院群が形成されることとなりますが、単に病床数が多いだけではなく、高度急性期から慢性期に至る多種多様な医療に対応し、それぞれの附属病院が特色のある医療、幅広い医療人材育成を実践しています。

令和 6 年 4 月施行の医師の働き方改革により時間外労働の上限規制が導入され、業務の効率化のためにタスクシフト/シェアの推進が求められています。その一環として、診療看護師養成コースを医学研究科修士課程に設置しました。さらに、医療を軸とした研究および多職種連携教育の一層の充実を図ることを目的に、令和 7 年 4 月には医学部と看護学部を統合すると同時にリハビリテーション学専攻が新たに設置し、医学科、保健医療学科の 2 学科体制の新たな医学部がスタートすることとなります。また、令和 4 年改訂の医学教育モデルコアカリキュラムに基づく教育カリキュラムの改変を進めており、令和 8 年に予定されている日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価の 2 巡目の受審に向けて診療参加型臨床実習の充実等の課題についての改革を実施しています。

教員の責務として「教育」「研究」「診療」「地域貢献」があります。名古屋市および市民から名古屋市立大学医学部および附属病院群に期待される具体的な内容は、①優れた医療人育成、②基礎・臨床研究の推進、③研究成果の社会への還元、④地域に根ざした手厚い医療の提供です。各教員はこれらの内容が我々の使命であることを深く認識する必要があり、それにより名古屋市立大学医学部の益々の発展・進化が期待されます。

最後になりますが、本報告書の作成にご協力を頂きました教職員の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

令和 7 年 2 月

名古屋市立大学大学院医学研究科長 高橋 智

—令和5年度 自己点検・評価報告書—

目次

はじめに

第1章 分野・部門別研究活動実績

基礎医科学講座	薬理学.....120
統合解剖学.....1	細菌学.....124
機能組織学.....3	免疫学.....126
神経生化学.....5	ウイルス学.....129
細胞生化学.....8	病態モデル医学.....132
細胞生理学.....10	社会復帰医学講座
脳神経生理学.....12	整形外科学.....134
病態外科学講座	リハビリテーション医学.....162
消化器外科学.....15	精神・認知・行動医学.....168
呼吸器・小児外科学.....37	脳神経外科学.....174
腎・泌尿器科学.....41	こころの発達医学（寄附講座）.....182
心臓血管外科学.....63	生殖・遺伝学講座
乳腺外科学.....68	産科婦人科学.....184
小児泌尿器科学.....71	新生児・小児医学.....197
感覚器・形成医学講座	分子医学講座（脳神経科学研究所）
視覚科学.....77	認知症科学.....203
耳鼻咽喉・頭頸部外科学.....84	神経発達症遺伝学.....208
加齢・環境皮膚科学.....92	神経毒性学.....211
口腔外科学.....100	神経発達・再生医学.....213
形成外科学.....111	認知機能病態学(寄附講座).....218
病態医科学講座	生体総合医療学講座
実験病態病理学.....113	消化器・代謝内科学.....221
臨床病態病理学.....117	呼吸器・免疫アレルギー内科学.....247

循環器内科学	258	医学教育・社会医学講座	
腎臓内科学	274	環境労働衛生学	331
神経内科学	282	公衆衛生学.....	343
血液・腫瘍内科学	286	法医学	348
麻酔科学・集中治療医学	294	医学・医療情報管理学	351
放射線医学	307	医学・医療教育学.....	353
総合診療医学・総合内科学	313	次世代医療開発学.....	356
地域医療学(寄附講座)	316	臨床感染制御学	360
地域包括医療学(寄附講座).....	318	病院中央部門	
臨床薬剤学	319	中央臨床検査部	363
先進急性期医療学	326	緩和ケアセンター.....	366
救命救急医療学.....	329	医療デザイン研究センター	369

第2章 教育活動実績.....370

令和5年度医学部教育要項

令和5年度医学研究科修士課程教育要項

令和5年度医学研究科博士課程教育要項

令和5年度自己点検・評価委員会簿

第 1 章

分野・部門別研究活動実績

—統合解剖学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Koketsu S, Matsubara K, Ueki Y, Shinohara Y, Inoue K, Murakami S, Ueki T. **The defects of the hippocampal ripples and theta rhythm in depression, and the effects of physical exercise on their amelioration.** *Heliyon*. **10(1)**: e23738, 2023

Uchida M, Tanikawa M, Nishikawa Y, Yamanaka T, Ueki T, Mase M. **Endoscope-Controlled High Frontal Approach for Dural Arteriovenous Fistula in Anterior Cranial Fossa.** *World Neurosurg*. **175**:e421-e427, 2023

Yamanaka T, Ueki T, Mase M, Inoue K. **Arbitrary Ca²⁺ regulation for endothelial nitric oxide, NFAT and NF- κ B activities by an optogenetic approach.** *Front Pharmacol*. **13**:1076116, 2023

Tasaki E, Mitaka Y, Takahashi Y, Waliullah ASM, Tamannaa Z, Sakamoto T, Islam A, Kamiya M, Sato T, Aramaki S, Kikushima K, Horikawa M, Nakamura K, Kahyo T, Takata M, Setou M, Matsuura K. **The royal food of termites shows king and queen specificity.** *PNAS Nexus*. **2(7)**: pgad222, 2023.

Aramaki S, Tsuge S, Islam A, Eto F, Sakamoto T, Oyama S, Li W, Zhang C, Yamaguchi S, Takatsuka D, Hosokawa Y, Waliullah ASM, Takahashi Y, Kikushima K, Sato T, Koizumi K, Ogura H, Kahyo T, Baba S, Shiiya N, Sugimura H, Nakamura K, Setou M. **Lipidomics-based tissue heterogeneity in specimens of luminal breast cancer revealed by clustering analysis of mass spectrometry imaging: A preliminary study.** *PLoS One*. **18(5)**: e0283155, 2023.

Ping Y, Ohata K, Kikushima K, Sakamoto T, Islam A, Xu L, Zhang H, Chen B, Yan J, Eto F, Nakane C, Takao K, Miyakawa T, Kabashima K, Watanabe M, Kahyo T, Yao I, Fukuda A, Ikegami K, Konishi Y, Setou M. **Tubulin Polyglutamylation by TTLL1 and TTLL7 Regulate Glutamate Concentration in the Mice Brain.** *Biomolecules*. **13(5)**: 784, 2023.

Sano F, Kikushima K, Benner S, Xu L, Kahyo T, Yamasue H, Setou M. **Associations between prefrontal PI (16:0/20:4) lipid, TNC mRNA, and APOA1 protein in schizophrenia: A trans-omics analysis in post-mortem brain.** *Front Psychiatry*. **14**: 1145437, 2023.

Xu L, Kikushima K, Sato S, Islam A, Sato T, Aramaki S, Zhang C, Sakamoto T, Eto F, Takahashi Y, Yao I, Machida M, Kahyo T, Setou M. **Spatial distribution of the Shannon entropy for mass spectrometry imaging.** *PLoS One*. **18(4)**: e0283966, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	植木 孝俊	3	3	0
准教授	内田 周作	0	0	0
講師	菊島 健児	5	5	0
講師(助教級)	森本 浩之	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【外部資金獲得実績】

内田 周作. 文部科学省科学研究費（基盤B・代表）. 令和4年度-令和6年度、3,700千円/13,500千円

内田 周作. 受託研究費（AMED・分担）. 令和5年度-令和7年度、3,000千円/9,000千円

【その他】

学会座長

菊島健児. 第61回日本生物物理学会年会. 学生発表賞口頭発表. 2023年11月14日

シンポジウム講演

菊島健児. 名古屋大学脳とこころの研究センター第8回東海地区連携拡大ワークショップ. 脳グリア細胞セノリシスによる老化に伴う認知機能防止療法の探索. 2023年12月9日

学会発表

森本浩之, 他. リン酸化酵素 SGK の末梢神経損傷時のシュワン細胞での役割
第129回日本解剖学会総会・全国学術集会. 2024

森本浩之, 他. 腸管機能に着目した迷走神経耳介枝への電気刺激の効果
第84回日本解剖学会中部支部学術集会. 2024

—機能組織学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

1. Castleberry M, Raby CA, Ifrim A, Shibata Y, Matsushita S, Ugawa S, Miura Y, Hori A, Miida T, Linton MF, Michell DL, Tsujita M, Vickers KC. **High-density lipoproteins mediate small RNA intercellular communication between dendritic cells and macrophages.** J. Lipid Res. **64(2)**: 100328, 2023.
2. Ueda T, Watanabe M, Miwa Y, Shibata Y, Kumamoto N, Ugawa S. **Vascular endothelial growth factor-A is involved in intramuscular carrageenan-induced cutaneous mechanical hyperalgesia through the vascular endothelial growth factor-A receptor 1 and transient receptor potential vanilloid 1 pathways.** Neuroreport **34(4)**: 238, 2023.

【和文業績】

なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	鵜川真也	2 (0)	2 (0)	0
准教授 (講師級)	植田高史	1 (1)	1 (1)	0
講師	熊本奈都子	1 (0)	1 (0)	0
講師 (助教級)	柴田泰宏	2 (0)	2 (0)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

該当なし

【外部資金獲得実績】

鵜川 真也. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和5年度-令和7年度、300千円

鵜川 真也. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和5年度-令和7年度、600千円

鵜川 真也. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和5年度-令和7年度、300千円

鵜川 真也. 文部科学省科学研究費（挑戦的研究（萌芽）・代表）. 令和5年度-令和7年度、1,400千円/4,900千円

鵜川 真也. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和4年度-令和6年度、300千円

鵜川 眞也. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・代表). 令和 4 年度-令和 8 年度、200 千円/13,400 千円

鵜川 眞也. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和元年度-令和 5 年度、250 千円

植田 高史. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 5 年度-令和 7 年度、1,600 千円/3,500 千円

植田 高史. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-令和 7 年度、300 千円

植田 高史. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 4 年度-令和 6 年度、300 千円

植田 高史. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 4 年度-令和 8 年度、250 千円

熊本 奈都子. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 5 年度-令和 7 年度、130 千円/3,600 千円

熊本 奈都子. 文部科学省科学研究費 (挑戦的研究 (萌芽)・分担). 令和 5 年度-令和 7 年度、300 千円

熊本 奈都子. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 4 年度-令和 8 年度、500 千円

柴田 泰宏. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 5 年度-令和 7 年度、130 千円/4,680 千円

柴田 泰宏. 文部科学省科学研究費 (挑戦的研究 (萌芽)・分担). 令和 5 年度-令和 7 年度、300 千円

柴田 泰宏. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 4 年度-令和 8 年度、500 千円

【その他】

なし

—神経生化学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Chen Y, Zhou C, Abdelhamid M, Jung CG, Michikawa M. **Inhibition of Sirt2 Decreases ApoE Secretion in Astrocytes and Microglial Cells.** *J Biochem.* **174(5)**: 409-420, 2023.

Otsuji S, Nishio Y, Tsujita M, Rio M, Huber C, Antón-Plágaro C, Mizuno S, Kawano Y, Miyatake S, Simon M, van Binsbergen E, van Jaarsveld RH, Matsumoto N, Cormier-Daire V, J Cullen P, Saitoh S, Kato K. **Clinical diversity and molecular mechanism of VPS35L-associated Ritscher-Schinzel syndrome.** *J Med Genet.* **60(4)**: 359-367, 2023.

Honda K, Saito Y, Saito H, Toyoda M, Abe R, Saito T, Saido TC, Michikawa M, Taru H, Sobu Y, Hata S, Nakaya T, Suzuki T. **Accumulation of amyloid- β in the brain of mouse models of Alzheimer's disease is modified by altered gene expression in the presence of human apoE isoforms during aging.** *Neurobiol Aging.* **123**: 63-74, 2023.

Sun Y, Islam S, Gao Y, Nakamura T, Zou K, Michikawa M. **Apolipoprotein E4 inhibits γ -secretase activity via binding to the γ -secretase complex.** *J Neurochem.* **164(6)**: 858-874, 2023.

Sheikh AM, Yano S, Tabassum S, Mitaki S, Michikawa M, Nagai A. **Alzheimer's Amyloid β Peptide Induces Angiogenesis in an Alzheimer's Disease Model Mouse through Placental Growth Factor and Angiopoietin 2 Expressions.** *Int J Mol Sci.* **24(5)**: 4510, 2023.

Gao Y, Sun Y, Islam S, Nakamura T, Tomita T, Zou K, Michikawa M. **Presenilin 1 deficiency impairs A β 42-to-A β 40- and angiotensin-converting activities of ACE.** *Front Aging Neurosci.* **15**: 1098034, 2023.

Jung CG, Yamashita H, Kato R, Zhou C, Matsushita H, Takeuchi T, Abdelhamid M, Chen Y, Michikawa M. **Deletion of UCP1 in Tg2576 Mice Increases Body Temperature and Exacerbates Alzheimer's Disease-Related Pathologies.** *Int J Mol Sci.* **24(3)**: 2741, 2023.

Castleberry M, Raby CA, Ifrim A, Shibata Y, Matsushita S, Ugawa S, Miura Y, Hori A, Miida T, Linton MF, Michell DL, Tsujita M, Vickers KC. **High-density lipoproteins mediate small RNA intercellular communication between dendritic cells and macrophages.** *J Lipid Res.* **64(2)**: 100328, 2023.

Ahsanul Haque M, Omori N, Md Sheikh A, Yano S, Osago H, Mitaki S, Kalam Azad A, Sakai H, Michikawa M, Nagai A. **Analysis of the time-dependent changes of phospholipids in the brain regions of a mouse model of Alzheimer's disease.** *Brain Res.* **1800**: 148197, 2023.

Nakamura T, Hashita T, Chen Y, Gao Y, Sun Y, Islam S, Sato H, Shibuya Y, Zou K, Matsunaga T, Michikawa M. **A β 42 treatment of the brain side reduced the level of flotillin from endothelial cells on the blood side via FGF-2 signaling in a blood-brain barrier model.** *Mol Brain.* **16(1)**: 15, 2023.

Morikawa T, Uehara O, Paudel D, Yoshida K, Harada F, Hiraki D, Sato J, Matsuoka H, Kuramitsu Y, Michikawa M, Abiko Y. **Systemic Administration of Lipopolysaccharide from *Porphyromonas gingivalis* Decreases Neprilysin Expression in the Mouse Hippocampus.** *In Vivo.* **37(1)**: 163-172, 2023.

【和文業績】

なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	道川 誠	9 (5)	9 (5)	0
准教授	鄒 鶴	3 (2)	3 (2)	0
講師	辻田 麻紀	2	2	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

鄒 鶴. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 4 年度-令和 7 年度、700 千円/3, 200 千円

辻田 麻紀. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 4 年度-令和 6 年度、700 千円/3, 200 千円

鄒 鶴. 文部科学省科学研究費（特別奨励研究費・代表）. 令和 5 年度-令和 8 年度、1, 000 千円/2, 000 千円

辻田 麻紀. 受託研究費（AMED・分担）. 令和 5 年度、500 千円

【その他】

欧文書籍

Maki Tsujita, **Research on novel HDL cholesterol excretion mechanism**, *Impact*. **2023(3)**: 43-45, 2023

国際学会発表（ポスター）

Maki Tsujita, Kosuke Nakasuka, Hiroshi Takase, Mayuko Kamiya, Chieko Mineo, Phillip W Shaul, Keiichiro Okuhira, Shinji Yokoyama, Alan T Remaley. ATVB 2023. ApoA-I/SR-BI double knockout mice plasma is rich in very large HDL with high free cholesterol. 2023 年 5 月 10-13 日

Maki Tsujita, Kosuke Nakasuka, Yutaka Miura, Kasey C Vickers, Takashi Miida. HDL workshop 2023. Short-term whole grain rice diet triggered plasma HTGL reduction and increased HDL-C in healthy volunteers. 2023 年 5 月 13-14 日

国外学術セミナー

Maki Tsujita, Brigham and Women's Hospital Genetics Division Seminar, Harvard New Research Building (NRB), room 457. Lipoprotein characteristics in VPS35L-associated Ritscher-Schinzel syndrome. 2023 年 5 月 11 日

国内学会発表（ポスター）

辻田麻紀, 中須賀公亮, 横山信治. 第 161 回日本循環器学会東海地方会. SR-BI 欠損マウスは遊離コレステロールに富む大型 HDL が上昇する. 2023 年 6 月 3 日

辻田麻紀, 山本惇貴, 奥平桂一郎, 横山信治, 鶴川眞也. 第 55 回日本動脈硬化学会総会. マウスは高コレステロール飼料を嗜好するが高齢マウスではその嗜好が消失する. 2023 年 7 月 8-9 日

鄒鶴, 高原, 孫陽, イスラム サデクル, 中村知寿, 富田泰輔, 道川誠. 第 96 回日本

生化学会大会. プレセニン1欠損/変異はACEのA β 42変換活性を阻害する. 2023年10月31日

辻田麻紀, 中須賀公亮, 上木あかね, 堀敦詞, 三井田孝, Kasey C Vickers, 三浦裕. 第96回日本生化学会. 健常者への短期の玄米食負荷により血漿 miR203a と miR205 が減少し、血漿 HTGL の減少を引き起こし、HDL-C を増加させた. 2023年10月31日-11月2日

Maki Tsujita, Leticia Alves de Silva, Rie Inoue, Kosuke Nakasuka, Junki Yamamoto, Robert C Ford, Thomas Stockner. 第7回日本循環器学会基礎研究フォーラム. Tetra-tert-butyl-diphenylquinone concurrently binds with cholesterol in the transmembrane domain of ATP-Binding Cassette A1 but not by probucol. 2023年12月9-10日

Maki Tsujita, Sten Braesh Andersen. 第88回日本循環器学会学術集会. Novel *Vps35* Deficient Model Mice Increased Serum HDL with Elevation of APOA1 and APOE. 2024年3月8-10日

—細胞生化学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Nakamura Y, Shimada IS, Kato Y, Saitoh S. et. al. **Biallelic null variants in PNPLA8 cause microcephaly through the reduced abundance of basal radial glia.** medRxiv. 2023

Palicharla VR, Hwang SH, Somatilaka BN, Legué E, Shimada IS, Familiari NE, Tran VM, Woodruff JB, Liem KF Jr, Mukhopadhyay S. **Interactions between TULP3 tubby domain and ARL13B amphipathic helix promote lipidated protein transport to cilia.** Molecular Biology of the Cell **34(3):ar18**, 2023.

【和文業績】

嶋田 逸誠, 加藤 洋一. **脳オルガノイドを用いた神経幹細胞研究の新たな展望.** Bio Clinica. **38(11): 55-57**, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	加藤 洋一	2	1	1
講師	嶋田 逸誠	3	2	1
講師	二宮 裕将	0	0	0
助教	橋本 寛	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

嶋田 逸誠. 研究助成金（公益財団法人日東学術振興財団）. 令和 5 年 12 月-令和 7 年 12 月、2,000 千円

加藤 洋一. 文部科学省科学研究費（基盤 A・分担）. 令和 4 年度-令和 7 年度、500 千円

二宮 裕将. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 4 年度-令和 6 年度、1,100 千円/3,300 千円

嶋田 逸誠. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 2 年度-令和 6 年度、600 千円/3,200 千円

嶋田 逸誠. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 2 年度-令和 6 年度、50 千円

加藤 洋一. 文部科学省科学研究費 (挑戦的研究(萌芽)・代表). 令和2年度-令和5年度、1,114千円/5,000千円

加藤 洋一. 文部科学省科学研究費 (基盤B・分担). 令和2年度-令和5年度、100千円

橋本 寛. 文部科学省科学研究費 (若手・代表). 令和2年度-令和5年度、1,100千円/4,290千円

嶋田 逸誠. 文部科学省科学研究費 (基盤B・分担). 令和元年度-令和5年度、300千円

【その他】

特別研究奨励費

嶋田 逸誠. 名古屋市立大学特別研究奨励費 先端的研究活性化支援 a (名古屋市立大学・分担). 令和4年度、400千円

国際学会発表 (ポスター)

1. Udval Uuganbayar, Hiromasa Ninomiya, Chisato Yamada, Yutaka Hashimoto, Tohru Akiyama-Miyoshi, Yoichi Kato. Challenges using model organisms. Molecular analysis of nephronophthisis in a Joubert syndrome related disorders model using Xenopus embryo. Toward understanding of Mechanisms of Human Diseases. 2023 November 9-10.
2. Issei S. Shimada, Akiko Goto and Yoichi Kato. The 21st Takeda Science Foundation symposium on Bioscience. Basal suppression of Sonic Hedgehog signaling confers dorsal neural stem cell identity in a brain organoid model. 2023 January 27-28.

国際学会発表 (口頭)

1. Issei S. Shimada and Yoichi Kato. Cold Spring Harbor Asia Cilia & Centrosomes, Awaji Japan. GPR161 regulates ventral/dorsal fate of neural stem cells in a brain organoid model. 2023 February 28-March 3

国内学会発表 (ポスター)

1. 嶋田 逸誠, 加藤 洋一. 第46回日本分子生物学会. 脳オルガノイドモデルを活用した、神経幹細胞の背側/腹側の運命制御機構の解明. 2023年12月6-8日
2. 山口 玲子, 橋本 寛, 嶋田 逸誠, 伊藤 雅之, 加藤 洋一. 第13回繊毛研究会. 腎オルガノイドを用いた繊毛異常に起因する腎障害の発症機序の解明. 2023年10月23~24日
3. 嶋田 逸誠, 加藤 洋一. 第13回繊毛研究会. GPR161欠損脳オルガノイドモデルを活用した、背側/腹側運命制御機構の解明. 2023年10月23~24日
4. 二宮 裕将. 日本動物学会第94回大会 (山形). 両生類における外胚葉層形成の解析. 2023年9月7~9日

嶋田 逸誠, 加藤 洋一. 特願 2023-157480. 背側脳オルガノイドの製造方法およびその利用

—細胞生理学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Mitsui R, Miwa-Nishimura K, Hashitani H. Roles of endothelial prostaglandin I₂ in maintaining synchronous spontaneous Ca²⁺ transients in rectal capillary pericytes. The Journal of Physiology. 601(23):5213-5240, 2023.

Nakamori H, Hashitani H. Neural targets of the enteric dopaminergic system in regulating motility of rat proximal colon. Pflügers Archiv - European Journal of Physiology. 475(11):1315-1327, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	橋谷光	4	4(2)	0
講師	三井烈	1	1(1)	0
助教	高野博充	0	0	0
助教	中森裕之	1	1(1)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【外部資金獲得実績】

高野 博充. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 6 年度-令和 9 年度、300 千円

橋谷 光. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 5 年度-令和 7 年度、2,100 千円/3,700 千円

中森 裕之. 文部科学省科学研究費（若手研究・代表）. 令和 5 年度-令和 7 年度、1,100 千円/3,500 千円

中森 裕之. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 5 年度-令和 7 年度、100 千円

高野 博充. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 3 年度-令和 7 年度、400 千円/3,100 千円

三井 烈. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 1 年度-令和 6 年度、120 千円/3,400 千円

【その他】

学会発表（シンポジスト、口頭発表など）

Hikaru Hashitani. International Continence Society (ICS) 2023 Round Table Discussion 'What Do We Really Know about the External Urethral Sphincter?' 'Age-related changes and potential therapies'. 2023 年 9 月 29、Toronto、シンポジスト

橋谷 光. 第 101 回日本生理学会大会. シンポジウム ‘新たな平滑筋ペースメーカーとしての PDGFR α 陽性細胞’ シンポジウム概要 ～平滑筋自発活動における PDGFR α 陽性細胞の役割～、2024 年 3 月 28 日、北九州国際会議場・西日本総合展示場、オーガナイザー兼シンポジスト

橋谷 光、工藤 亘. 第 30 回日本排尿機能学会. 副甲状腺ホルモン関連蛋白による BK チャネルを介した排尿筋自発収縮の抑制. 2023 年 9 月 8 日、京成ホテルミラマーレ

中森 裕之. 2023 Hallym University-Nagoya City University International Symposium. Role of Glucagon-like peptide-1-secreting L cells in regulating peristalsis of rat proximal colon. 2023 年 5 月 18 日

三井 烈、橋谷 光. 第 65 回日本平滑筋学会総会. 内臓微小血管におけるペリサイトの自発活動. 2023 年 8 月 4 日-5 日、東京大学

主要な国内学会活動の参加状況

橋谷光、日本生理学会、理事

三井烈 日本平滑筋学会、評議員

—脳神経生理学—

＜研究活動実績＞

【欧文業績】

Chen Y, Zhou C, Abdelhamid M, Jung CG, Michikawa M. **Inhibition of Sirt2 Decreases ApoE Secretion in Astrocytes and Microglial Cells.** J Biochem. **174(5)**: 409-420, 2023.

Jung CG, Yamashita H, Kato R, Zhou C, Matsushita H, Takeuchi T, Abdelhamid M, Chen Y, Michikawa M. **Deletion of UCP1 in Tg2576 Mice Increases Body Temperature and Exacerbates Alzheimer's Disease-Related Pathologies.** Int J Mol Sci. **24(3)**: 2741, 2023

【和文業績】

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	飛田秀樹	0	0	0
准教授	鄭且均	2 (2)	2 (2)	0
准教授	田尻直輝	0	0	0
助教	上野新也	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

鄭且均. 名古屋市立大学発高インパクト論文表彰. 名古屋市立大学. 令和5年11月8日

【外部資金獲得実績】

飛田秀樹. 文部科学省科学研究費（挑戦（萌芽）・代表）. 令和5年度－令和7年度、2,470千円/6,240千円

飛田秀樹. 文部科学省科学研究費（基盤B・代表）. 令和4年度－令和6年度、4,940千円/17,680千円

飛田秀樹. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度－令和5年度、50千円

飛田秀樹. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度－令和5年度、100千円

飛田秀樹. 受託研究費（株式会社ツムラ）. 令和元年9月－令和7年3月、1,650千円

飛田秀樹. 共同研究費（第一三共株式会社）. 令和2年3月－令和5年9月、0千円/4,000千円

鄭且均. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和5年度－令和7年度、200千円

鄭且均. 研究助成金（公益信託第24回日本医学会総会記念医学振興基金）. 令和5年8月－令和6年7月、1,000千円

田尻直輝. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度－令和5年度、1,560千円/4,160千円

【その他】

国外学術セミナー

Cha-Gyun Jung, Sachiyo Misumi, Eun-Kyoung Choi, Yong-Sun Kim, Makoto Michikawa, Hideki Hida. FAPOS2023. Transcription factor ZFHX3 arrests cell cycle inducing oligodendrocyte differentiation. November 11-15, 2023, Daegu, Korea.

Hideki Hida, Shinya Ueno, Shiori Tominaga, Dewi Mustika, Takeshi Shimizu, Naoki Tajiri, Cha-Gyun Jung, Kenta Kobayashi. The 10th Federation of the Asian and Oceanian Physiological Societies (FAOPS) Congress in conjunction with The 75th annual meeting of the Korean Physiological Society. Kinematics analysis by deep learning in the recovered forelimb by rehabilitation after hemorrhagic stroke in rats. November 11-15, 2023, Daegu, Korea.

Shinya Ueno, Shiori Tominaga, Dewi Mustika, Takeshi Shimizu, Kenta Kobayashi, Cha-Gyun Jung, Naoki Tajiri, Hideki Hida. Kinematics detail analysis reveals quality changes of the recovered forelimb function by forced limb use after hemorrhagic stroke in rats. The 52rd annual meeting of the Society for Neuroscience. November 1-4, 2023, Washington, D.C.

国内学会発表（シンポジウム・ポスター）

Jung Cha-Gyun, Michikawa Makoto. Tooth loss exacerbates molecular pathogenesis in Alzheimer's disease. 第66回日本神経化学学会大会, シンポジウム. 2023年7月. 神戸.

飛田秀樹. 注意欠如多動症モデルラットにおいて発育期のうま味経口摂取は迷走神経を介して情動形成に関与する. 日本薬学会第114年会, シンポジウム. 2024年3月.

Hideki Hida, Dewi Mustika, Shinya Ueno, Shiori Tominaga, Takeshi Shimizu. Adaptive cerebellar oligodendrogenesis relates to better motor function recovery by forelimb reach exercise after intracerebral hemorrhage in rats. 第46回日本神経科学大会. 2023年8月.

Shinya Ueno, Shiori Tominaga, Takeshi Shimizu, Kenta Kobayashi, Naoki Tajiri, Hideki Hida. Involvement of cerebello-rubral tract in the functional recovery by intensive use of the paralyzed forelimb after cerebral hemorrhage and analysis of skilled forelimb kinematics with deep learning. 第46回日本神経科学大会. 2023年8月.

田尻直輝, 上野新也, Mustika Dewi, 清水健史, 水野景太, 飛田秀樹. 人参養栄湯と麻痺側集中使用の併用は内包出血後の運動機能障害を回復する. 第46回日本神経科学大会. 2023年8月.

Dewi Mustika, Yu Nishimura, Shinya Ueno, Cha-Gyun Jung, Hideki Hida. Amygdala is involved in reduced aggression by monosodium glutamate ingestion during the period of development. 第70回中部日本生理学会. 2023年10月.

上野新也, 富永 栞, 小林憲太, 岡本秀貴, 飛田秀樹. 脳出血後の運動機能回復における運動調節系の関与とマーカーレスの上肢運動解析. 第70回中部日本生理学会. 2023年10月.

田尻直輝, 上野新也, 水野景太, 飛田秀樹. 脳内出血モデルラットに対する人参養榮湯の効果およびその作用メカニズム. 第70回中部日本生理学会. 2023年10月.

Shiori Tominaga, Jung Cha-Gyun, Naoki Tajiri, Shinya Ueno, Hideki Hida. Morphological change of climbing fibers in the cerebellar cortex are not shown at P15 but at P28 in rats of neonatal white matter injury. 第101回日本生理学会大会. 2024年3月.

Yu Nishimura, Dewi Mustika, Shinya Ueno, Naoki Tajiri, Cha-Gyun Jung, Hideki Hida. Strain differences in aggressive behavior induced by social isolation during the developmental period in rats. 第101回日本生理学会大会. 2024年3月.

Naoki Tajiri, Shinya Ueno, Dewi Mustika, Keita Mizuno, Hideki Hida. Additive effect of Ninjin'yoeito on forced limb after intracerebral hemorrhage in rats is mediated by prevention of fast-twitch muscle atrophy. 第101回日本生理学会大会. 2024年3月.

Dewi Mustika, Yu Nishimura, Shinya Ueno, Shiori Tominaga, Naoki Tajiri, Jung Cha-Gyun, Hideki Hida. Oral Ingestion of Monosodium Glutamate Decreases Strong Aggression Related to Nucleus of Solitary Tract Activation via Vagus Nerve. 第101回日本生理学会大会. 2024年3月.

Jung Cha-Gyun, Shiori Tominaga, Yu Nishimura, Dewi Mustika, Shinya Ueno, Naoki Tajiri, Hideki Hida. Effect of ZFH3 on oligodendrocyte differentiation. 第101回日本生理学会大会. 2024年3月.

Yuki Hayashida, Satomi Chiken, Nobuhiko Hatanaka, Hideki Hida, Atsushi Nambu. Therapeutic mechanism of an anticholinergic agent on parkinsonian symptoms: a monkey study. 第101回日本生理学会大会. 2024年3月.

—消化器外科学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Ito S, Ogawa R, Saito M, Ueno S, Hayakawa S, Okubo T, Sagawa H, Tanaka T, Takahashi H, Matsuo Y, Takiguchi S. **Laparoscopic gastrectomy for gastric cancer with two left gastric arteries: Safe and adequate lymphadenectomy in a rare arterial abnormality.** Asian J Endosc Surg. **16(1)**: 105-109, 2023.

Yanagi T, Takama N, Kato E, Baba F, Kitase M, Shimohira M, Sawai H, Kato T, Matsuo Y, Shibamoto Y. **Clinical Outcomes of Intraoperative Radiotherapy, Postoperative Radiotherapy, and Definitive Radiotherapy for Non-metastatic Pancreatic Cancer.** Kurume Med J. **67(4)**: 163-170, 2023.

Kajiwara Y, Takahashi A, Ueno H, Kakeji Y, Hasegawa H, Eguchi S, Goi T, Saiura A, Sasaki A, Takiguchi S, Takeuchi H, Tanaka C, Hashimoto M, Hiki N, Horiguchi A, Matsuda S, Mizushima T, Marubashi S, Gotoh M, Konno H, Yamamoto H, Miyata H, Seto Y, Kitagawa Y. **National Clinical Database. Annual report on National Clinical Database 2020 for gastroenterological surgery in Japan.** Ann Gastroenterol Surg. **7(3)**: 367-406, 2023.

Harata S, Suzuki T, Takahashi H, Hirokawa T, Kato A, Watanabe K, Yanagita T, Ushigome H, Shiga K, Ogawa R, Mitsui A, Kimura M, Matsuo Y, Takiguchi S. **AZD6738 promotes the tumor suppressive effects of trifluridine in colorectal cancer cells.** Oncol Rep. **49(3)**: 52, 2023.

Sawai H, Kiriya Y, Kuzuya H, Fujii Y, Ueno S, Koide S, Kurimoto M, Yamao K, Matsuo Y, Morimoto M, Koide H, Kamiya A. **Adenosquamous carcinoma coexisting with intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas: a case report.** J Med Case Rep. **17(1)**: 72, 2023.

Ueno S, Murashima M, Ogawa R, Saito M, Ito S, Hayakawa S, Okubo T, Sagawa H, Tanaka T, Takahashi H, Matsuo Y, Mitsui A, Kimura M, Hamano T, Takiguchi S. **The cisplatin-induced acute kidney injury is a novel risk factor for postoperative complications in patients with esophageal cancer: a retrospective cohort study.** BMC Surg. **23(1)**: 67, 2023.

Saito K, Matsuo Y, Denda Y, Nonoyama K, Murase H, Kato T, Hayashi Y, Imafuji H, Morimoto M, Ogawa R, Takahashi H, Takiguchi S. **Neuroendocrine carcinoma of the minor papilla with pancreas divisum: a case report and review of the literature.** J Med Case Rep. **17(1)**: 127, 2023.

Ushigome H, Takahashi H, Maeda A, Kato A, Harata S, Watanabe K, Yanagita T, Suzuki T, Shiga K, Harata K, Ogawa R, Matsuo Y, Mitsui A, Kimura M, Takiguchi S. **Incomplete lymphatic sealing around the inferior mesenteric artery is a risk factor for chylous ascites in robotic rectal cancer surgery.** Asian J Endosc Surg. **16(2)**: 163-172, 2023.

Ueno S, Ogawa R, Saito M, Ito S, Hayakawa S, Okubo T, Sagawa H, Tanaka T, Takahashi H, Matsuo Y, Mitsui A, Kimura M, Takiguchi S. **Benefits of laparoscopic trans-hiatal approach with Heller-Dor surgery in a case of mid-esophageal diverticulum.** Asian J Endosc Surg. **16(2)**: 289-292, 2023.

Toriumi T, Terashima M, Mizusawa J, Sato Y, Kurokawa Y, Takiguchi S, Doki Y, Shinohara H, Teshima S, Yasuda T, Ito S, Yoshikawa T, Sano T, Sasako M. **Recurrence patterns after curative gastrectomy for pStage II/III gastric cancer: Exploratory analysis of the randomized controlled JCOG1001 trial.** Eur J Surg Oncol. **49(4)**: 838-844, 2023.

Harata S, Takahashi H, Ando N, Kato A, Watanabe K, Yanagita T, Suzuki T, Ushigome H, Shiga K, Ogawa R, Matsuo Y, Mitsui A, Kimura M, Takiguchi S. **Spontaneous regression of advanced transverse colon cancer with deficient mismatch repair: a case report.** Surg Case Rep. **9(1)**: 64, 2023.

Saito K, Morimoto M, Denda Y, Nonoyama K, Murase H, Kato T, Hayashi Y, Imafuji H, Ogawa R, Takahashi H, Matsuo Y, Takiguchi S. **Accurate intraoperative real-time blood flow assessment of the remnant stomach during robot-assisted distal pancreatectomy with celiac axis resection using indocyanine green fluorescence imaging and da Vinci Firefly technology.** Asian J Endosc Surg. **16(3)**: 386-392, 2023.

Ito S, Sagawa H, Yamamoto S, Saito M, Ueno S, Hayakawa S, Okubo T, Saito K, Tanaka T, Morimoto M, Ogawa R, Takahashi H, Matsuo Y, Mitsui A, Kimura M, Takiguchi S. **Simultaneous robotic distal gastrectomy and distal pancreatectomy: Avoiding total gastrectomy using indocyanine green fluorescence imaging.** Asian J Endosc Surg. **16(3)**: 550-553, 2023.

Morimoto M, Matsuo Y, Nonoyama K, Denda Y, Murase H, Kato T, Imafuji H, Saito K, Takiguchi S. **Glissonean Pedicle Isolation Focusing on the Laennec's Capsule for Minimally Invasive Anatomical Liver Resection.** J Pers Med. **13(7)**: 1154, 2023.

Toriumi T, Terashima M, Mizusawa J, Uemura K, Kurokawa Y, Takiguchi S, Doki Y, Hihara J, Imamura H, Takagane A, Ito S, Yoshikawa T, Sano T, Sasako M. **Association between the antiadhesion membrane and small bowel obstruction after open gastrectomy: A supplemental analysis of the randomized controlled JCOG1001 trial.** Ann Gastroenterol Surg. **8(1)**: 30-39, 2023.

Ota M, Oiwa Y, Maki Y, Utaka I, Arima S, Matsuo Y, Makino T, Nojiri S. **Evaluation of capsules containing Valeriana fauriei root extract for sleep improvement: A randomized, double - blind, placebo - controlled, cross - over comparative trial.** Traditional & Kampo Medicine **10(2)**: 177-184, 2023.

Murase H, Matsuo Y, Denda Y, Nonoyama K, Kato T, Aoyama Y, Hayashi Y, Imafuji H, Saito K, Morimoto M, Ogawa R, Takahashi H, Mitsui A, Kimura M, Takiguchi S. **Upregulation of**

integrin-linked kinase enhances tumor progression in gemcitabine-resistant pancreatic cancer. *Oncol Rep.* **50(3)**: 164, 2023.

Hayashi Y, Matsuo Y, Denda Y, Nonoyama K, Murase H, Ueda G, Aoyama Y, Kato T, Omi K, Imafuji H, Saito K, Morimoto M, Ogawa R, Takahashi H, Mitsui A, Kimura M, Takiguchi S. **Girdin regulates both migration and angiogenesis in pancreatic cancer cell lines.** *Oncol Rep.* **50(3)**: 169, 2023.

Ota M, Oiwa Y, Maki Y, Utaka I, Arima S, Matsuo Y, Makino T, Nojiri S. **Safety evaluation of continuous administration of a high dose of Valeriana fauriei root extract in mice and in humans through an open - label study.** *Traditional & Kampo Medicine* 10(3): 269-277, 2023.

Denda Y, Matsuo Y, Nonoyama K, Murase H, Kato T, Hayashi Y, Imafuji H, Saito K, Morimoto M, Kato H, Yoshida M, Naitoh I, Hayashi K, Ogawa R, Takahashi H, Takiguchi S. **Simultaneous presentation and resection of esophageal cancer and metastasis to the pancreas: A case report and literature review.** *Mol Clin Oncol.* **20(1)**, 2023.

Matsuo Y. **Natural Products and Cancer.** *Nutrients.* **15(24)**: 5064, 2023.

Ban T, Hayashi K, Kubota Y, Urano M, Takahama T, Matsuo Y, Joh T. **Introducer-assisted endoscopic transpapillary gallbladder biopsy for indeterminate gallbladder fundal wall thickness.** *Endoscopy.* **55(S 01)**: E382-E383, 2023.

Tasaki Y, Sugiyama Y, Hamamoto S, Naiki T, Uemura T, Yokota K, Kawakita D, Nakamura M, Ogawa R, Shimura T, Mimura Y, Hotta Y, Odagiri K, Ito N, Iida M, Kimura Y, Komatsu H, Kataoka H, Takiguchi S, Morita A, Iwasaki S, Okuda K, Niimi A, Yasui T, Furukawa-Hibi Y. **Eosinophil may be a predictor of immune-related adverse events induced by different immune checkpoint inhibitor types: A retrospective multidisciplinary study.** *Cancer Med.* **12(24)**: 21666-21679, 2023.

Toyohara T, Yoshida M, Miyabe K, Hayashi K, Naitoh I, Kondo H, Hori Y, Kato A, Kachi K, Asano G, Sahashi H, Adachi A, Kuno K, Kito Y, Matsuo Y, Kataoka H. **Dual role of autotaxin as novel biomarker and therapeutic target in pancreatic neuroendocrine neoplasms.** *Cancer Sci.* **114(12)**: 4571-4582, 2023.

Miyai H, Fujita K, Saito M, Fujii Y, Saito T, Kato J, Sawai M, Eguchi Y, Hirokawa T, Yamamoto M, Kobayashi K, Takiguchi S. **Solo surgery in robot-assisted gastrectomy versus laparoscopic gastrectomy for gastric cancer: a propensity score-matched analysis.** *Surg Endosc.* **37(7)**: 5726-5736, 2023.

Kako T, Kimura M, Nomura R, Uehara S, Uematsu H, Nakaya S, Maeda Y, Tsuboi K, Harata K, Takiguchi S. **A case of laparoscopic sigmoidectomy using thermography for colonic blood flow assessment.** *Surg Case Rep.* **9(1)**: 170, 2023.

Ito S, Ogawa R, Komura M, Hayakawa S, Okubo T, Sagawa H, Tanaka T, Mitsui A, Takahashi S, Takiguchi S. **Severe esophageal stricture after perforation and necrotizing esophagitis: unusual presentation of a duodenal gastrinoma.** *J Surg Case Rep.* **2023(12)**: rjad679, 2023.

Ito S, Sagawa H, Yamamoto S, Saito M, Ueno S, Hayakawa S, Okubo T, Tanaka T, Ogawa R, Takahashi H, Matsuo Y, Mitsui A, Kimura M, Takiguchi S. **Robotic gastrectomy for remnant gastric cancer after pancreaticoduodenectomy.** Asian J Endosc Surg. **16(3)**: 537-541, 2023.

Nakai N, Maeda A, Yanagita T, Suzuki T, Maeda Y, Hirokawa T, Shiga K, Hara M, Takahashi H, Ogawa R, Matsuo Y, Takiguchi S. **Elevated Preoperative Serum Vascular Endothelial Growth Factor Does Not Predict Poor Outcomes in Curatively Resected Non-metastatic Colorectal Cancer Treated Without Neoadjuvant Therapy.** Anticancer Res. **43(5)**: 2333-2341, 2023.

【和文業績】

佐川 弘之, 伊藤 直, 瀧口 修司. 特集低侵襲内視鏡外科手術の最前線 II 各論2 胃癌 2) 胃癌/接合部癌においてロボット支援下手術は腹腔鏡手術を凌駕するか. 外科. **85(3)**: 251-259, 2023.

佐川 弘之, 伊藤 直, 齋藤 正樹, 大久保 友貴, 小川 了, 瀧口 修司. II 食道・胃 8 腹腔鏡下胃全摘術における体腔内吻合. 手術. **77(6)**: 773-779, 2023.

佐川 弘之, 早川 俊輔, 瀧口 修司. 特集 最新医療機器・材料を使いこなす 上部消化管ロボット支援下胃切除術でのエネルギーデバイス, ステープラーの選択とコツ. 臨床外科. **78(2)**: 147-151, 2023.

早川 俊輔, 佐川 弘之, 瀧口 修司. 特集 10年前の常識は非常識!?イマド消化器診療にアップデート 疾患 胃癌・早期胃癌 (EMR/ESD) 胃癌治療 10年の変化~『胃癌治療ガイドライン』第3版と第6版の比較から. 内科臨床誌メディチーナ. **60(1)**: 82-87, 2023.

齋藤 正樹, 佐川 弘之, 藤田 康平, 伊藤 直, 小川 了, 瀧口 修司. ロボット支援下噴門側胃切除術における再建法 -食道残胃手縫い吻合(背枕法)の手技と利点. 手術. **77(11)**: 1633-1641, 2023.

高橋 広城, 加藤 瑛, 原田 真之資, 渡部 かをり, 柳田 剛, 牛込 創, 鈴木 卓弥, 志賀 一慶, 小川 了, 松尾 洋一, 三井 章, 木村 昌弘, 瀧口 修司. 当院におけるロボット支援手術トレーニングを基軸とした外科志望者増加の取り組み. 日本外科学会雑誌. **124(1)**: 93-95, 2023.

柳田 剛, 鈴木 卓弥, 牛込 創, 志賀 一慶, 高橋 広城, 瀧口 修司. ロボット手術時代の周術期感染対策. 外科. **85(5)**: 463-467, 2023.

高橋 広城, 藤井 善章, 渡部 かをり, 柳田 剛, 鈴木 卓弥, 牛込 創, 小川 了, 松尾 洋一, 瀧口 修司. ロボット支援腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(右半切除). 臨床外科. **78(8)**: 982-989, 2023.

牛込 創, 高橋 広城, 瀧口 修司. 特集 ロボット手術新時代!-極めよう食道癌・胃癌・大腸癌手術 総論 Da Vinci Xi における名市大式次世代ロボット手術トレーニングシステム-「タイムテーブルを用いたロールシェアリング手術」-ロボット手術の early exposure. 臨

床外科. 78(8): 911-915, 2023.

上原 崇平, 伊藤 直, 長崎 高也, 木村 昌弘, 小林 健司, 瀧口 修司. 腹腔鏡下空腸癌手術の2例—腫瘍局在に基づく根治的リンパ節郭清と再建. 手術. (77)12: 1813-1820, 2023.

森本 守, 松尾 洋一, 加藤 知克, 今藤 裕之, 齊藤 健太, 瀧口 修司. 特集 進化する肝臓外科—高難度腹腔鏡下手術からロボット支援下手術の導入まで ロボット肝切除の導入と未来 ロボット肝部分切除・外側区域切除. 臨床外科. 78(3): 334-339, 2023.

森本 守, 松尾 洋一, 加藤 知克, 林 祐一, 今藤 裕之, 齊藤 健太, 瀧口 修司. 最新の膵癌診療 ロボット支援下膵体尾部切除術—左腎静脈先行アプローチの有用性—. 消化器外科. 46(5): 503-513, 2023.

杉田 三郎, 松尾 洋一, 江口 祐輝, 傳田 悠貴, 野々山 敬介, 瀧口 修司. 化学放射線耐性膵がんに対するCXCR4を標的とした新規治療薬の開発. Bio clinica = バイオクリニカ. 38(10): 859-861, 2023.

上原 侑里子, 社本 智也, 荻野 浩幸, 横井 佑梨, 林 祥平, 辻 恵理, 安藤 奈菜子, 大久保 友貴, 原 賢康, 三井 章, 松尾 洋一, 木村 昌弘, 瀧口 修司. スペーサーを用いて陽子線治療を施行した幽門側胃切除術後吻合部に接する肝内胆管癌の1例. 癌と化学療法. 50(13): 1453-1455, 2023.

齊藤 健志, 松尾 洋一, 青山 佳永, 加藤 知克, 大見 関, 林 祐一, 今藤 裕之, 齊藤 健太, 森本 守, 小川 了, 高橋 広城, 三井 章, 木村 昌弘, 瀧口 修司. 外科的切除術を行った成人輪状膵に合併した進行胆嚢癌の1例. 癌と化学療法. 50(4): 520-522, 2023.

加古 智弘, 松尾 洋一, 加藤 寛之, 加藤 知克, 林 祐一, 今藤 裕之, 齊藤 健太, 社本 智也, 坪井 謙, 森本 守, 小川 了, 高橋 広城, 三井 章, 木村 昌弘, 瀧口 修司. 肝へモクロマトーシスを背景に発症した肝血管肉腫の1例. 癌と化学療法. 50(2): 242-244, 2023.

上田 晶彦, 松尾 洋一, 山本 誠也, 楠戸 夏城, 伊東 剛, 村瀬 寛倫, 加藤 知克, 今藤 裕之, 齊藤 健太, 森本 守, 小川 了, 高橋 広城, 三井 章, 木村 昌弘, 瀧口 修司. 異時性四重複癌を併発した膵頭部膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)の1例. 癌と化学療法. 50(13): 1402-1404, 2023.

伊藤 直, 佐川 弘之, 高橋 広城, 瀧口 修司. 内科と外科のコラボレーション手術の今胃癌に対するコラボレーション手術 ロボット支援下手術における腫瘍位置同定法 近赤外線強調画像の応用. 消化器内視鏡. 35(11): 1584-1587, 2023.

佐川 弘之, 藤田 康平, 齋藤 正樹, 原田 真之資, 伊藤 直, 早川 俊輔, 田中 達也, 小川 了, 三井 章, 木村 昌弘, 瀧口 修司. 進行胃癌に対する集学的治療の現状と展望 Stage IV胃癌に対する集学的治療戦略 化学療法+ロボット手術がもたらす展望. 癌の臨床. 67(4): 149-155, 2023.

森本 守(名古屋市立大学 消化器外科), 松尾 洋一, 加藤 知克, 今藤 裕之, 齊藤 健太,

瀧口 修司. 必携 ロボット支援下消化器外科手術-基本手技とトラブルシューティング
肝胆膵領域 低～中悪性腫瘍に対する微細解剖に沿ったロボット支援膵体尾部切除の手術
手技. 手術 77(8): 1249-1258, 2023.

伊藤 直(名古屋市立大学 大学院医学研究科消化器外科学), 佐川 弘之, 小川 了, 高橋
広城, 松尾 洋一, 瀧口 修司. こだわりの体腔内縫合・吻合術 胃外科 ロボット支援下
胃全摘後の食道空腸吻合. 手術. 77(2): 181-187, 2023.

北川 雄光(日本消化器外科学会), 瀬戸 泰之, 比企 直樹, 瀧口 修司. 働き方改革に伴う
収入減を補填するためのドクターインセンティブ 「休日・深夜・時間外加算」を医師に配
分する為の日本消化器外科学会としての提言. 日本消化器外科学会雑誌. 56(2): 108-109,
2023.

澤井 美里, 木村 昌弘, 上野 修平, 杉田 三郎, 江口 祐輝, 浅井 宏之. 心膜損傷を合併
した外傷性横隔膜ヘルニアの1例. 日本臨床外科学会雑誌 84(9): 1449-1453. 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	瀧口修司	44(40)	22(18)	22(22)
教授	松尾洋一	33(15)	22(6)	11(7)
准教授	高橋広城	23(4)	14(2)	9(2)
講師	小川了	25(3)	16(3)	9(0)
講師	森本守	14(5)	8(2)	6(3)
講師	田中達也	7(0)	6(0)	1(0)
助教	佐川弘之	14(8)	6(2)	8(6)
助教	齊藤健太	13(2)	7(2)	6(0)
助教	今藤裕之	12(0)	6(0)	6(0)
助教	鈴木卓弥	7(1)	4(1)	3(0)
助教	牛込創	7(2)	3(1)	4(1)
助教	柳田剛	7(1)	4(0)	3(1)
助教	加藤知克	14(0)	7(0)	7(0)
助教	渡部かをり	5(0)	3(0)	2(0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	木村 昌弘	18(0)	10(0)	8(0)
准教授	原田 幸志朗	2(0)	2(0)	0(0)
講師	田中 達也	7(0)	6(0)	1(0)
講師	坪井 謙	2(0)	1(0)	1(0)
助教	志賀 一慶	6(0)	4(0)	2(0)
助教	前田 祐三	2(0)	2(0)	0(0)
助教	上原 侑里子	1(1)	0(0)	1(1)

助教	加古 智弘	2(2)	1(1)	1(1)
助教	林 祥平	1(0)	0(0)	1(0)
助教	高阪 重行	0(0)	0(0)	0(0)

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	三井 章	16(0)	10(0)	6(0)
准教授	原 賢康	2(0)	1(0)	1(0)
講師	社本 智也	2(0)	0(0)	2(0)
助教	大久保 友貴	8(0)	6(0)	2(0)
助教	安藤 菜奈子	2(0)	1(0)	1(0)
助教	植松 宏	1(0)	1(0)	0(0)
助教	楠戸 夏城	0(0)	0(0)	1(0)

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（みどり）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
准教授	若杉 健弘	0	0(0)	0(0)
講師	中屋 誠一	1(0)	1(0)	0(0)

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

森本 守. 名古屋市立大学. 名市大発高インパクト論文. Glissonean Pedicle Isolation Focusing on the Laennec's Capsule for Minimally Invasive Anatomical Liver Resection. J Pers Med. 13(7): 1154, 2023, 令和5年10月

森本 守. 第16回日本ロボット外科学会学術集会. 優秀演題賞. 胆道癌手術におけるロボット手術の有用性, 令和6年2月

【外部資金獲得実績】

瀧口修司. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和5年度-令和7年度、2,000千円 / 3,300千円

瀧口修司. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和5年度、150千円

松尾洋一. 文部科学省科学研究費（基盤B・代表）. 令和3年度-令和5年度、3,800千円 / 13,300千円

松尾洋一. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度、150 千円

松尾洋一. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度、200 千円

松尾洋一. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度、300 千円

松尾洋一. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度、50 千円

松尾洋一. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度、200 千円

高橋広城. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度、200 千円

高橋広城. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度、150 千円

佐川弘之. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度、100 千円

齋藤健太. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度、300 千円

今藤裕之. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 4 年度-令和 6 年度、600 千円/3, 200 千円

今藤裕之. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度、600 千円

今藤裕之. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度、400 千円

今藤裕之. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度、200 千円

牛込創. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 4 年度-令和 6 年度、300 千円/3, 200 千円

鈴木卓弥. 文部科学省科学研究費 (若手・代表). 令和 4 年度-令和 8 年度、600 千円/3, 500 千円

渡部かをり. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 3 年度-令和 5 年度、300 千円/3, 100 千円

瀧口修司. 共同研究費 (シスメックス). 令和 4 年 1 月-令和 6 年 12 月、21, 800 千円

瀧口修司. 受託研究費 (国立がん研究センター). 令和 5 年 6 月-令和 6 年 3 月、256 千円

松尾洋一. 受託研究費 (ミヤリサン製薬). 令和 5 年 10 月-令和 7 年 3 月、11 千円

高橋広城. 受託研究費 (アルフレッサファーマ). 令和 5 年 2 月-令和 6 年 3 月、44 千円

小川了. 受託研究費 (第一三共). 令和 5 年 4 月-令和 10 年 3 月、82 千円

小川了. 受託研究費 (小野薬品工業). 令和5年4月-令和11年1月、132千円

田中達也. 受託研究費 (小野薬品工業). 令和5年11月-令和6年3月、22千円

牛込創. 受託研究費 (大鵬薬品工業). 令和5年10月-令和6年3月、11千円

瀧口修司. 研究助成金 (大塚製薬). 令和5年、420千円

瀧口修司. 研究助成金 (大鵬薬品工業). 令和5年、420千円

瀧口修司. 研究助成金 (中外製薬). 令和5年、420千円

瀧口修司. 研究助成金 (テルモ). 令和5年、336千円

瀧口修司. 研究助成金 (科研製薬). 令和5年、168千円

瀧口修司. 研究助成金 (コビディエンジャパン). 令和5年、840千円

瀧口修司. 研究助成金 (アボットジャパン). 令和5年、84千円

前田祐三. 文部科学省科学研究費 (若手・代表). 令和3年度-令和5年度、1,500千円
/5,000千円

原賢康. 文部科学省科学研究費 (基盤C・代表). 令和1年度-令和5年度、581千円
/3,300千円

社本智也. 文部科学省科学研究費 (基盤C・代表). 令和4年度-令和6年度、1,200千
円/3,000千円

安藤菜奈子. 文部科学省科学研究費 (若手・代表). 令和5年度-令和6年度、1,040千円
/4,550千円

中屋誠一. 文部科学省科学研究費 (若手・代表). 令和5年度-令和7年度、2,470千円
/4,550千円

【その他】

・国際学会

柳田剛. 2023 SAGES annual meeting. Comparison between retroperitoneal approach by
robotic right hemicolectomy and pincer approach by Laparoscopic right hemicolectomy
with Japanese D3 Lymph node dissection. 2023年3月29日-4月1日

瀧口修司. 第15回国際胃癌学会. (司会:Sponsored Symposium 3) Surgery3:Tips and
Pitfalls in robotic surgery in advanced gastric cancer. 2023年6月14日-17日

瀧口修司. 第15回国際胃癌学会. Practical Use of hinotori Made in Japan. 2023年6月14日-17日

佐川弘之. 第15回国際胃癌学会. Robotic surgery for advanced gastric cancer: "precise" and "reliable" lymph node dissection technique. 2023年6月14日-17日

松尾洋一. the 16th Annual Meeting of the Korean Society of Medical Oncology & 2023 International Conference. Development of novel therapeutic agents for pancreatic cancer from the perspective of precision medicine and cancer stem cell markers. 2023年9月7日-8日

瀧口修司. International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists. (座長:Poster Discussion) 「Upper GI 1」. 2023年11月1日

若杉健弘. International Gastric Cancer Congress 2023. Effectiveness of intraoperative radiography for tumor localization in laparoscopic distal gastrectomy for gastric cancer. 2023年6月14日-17日

上原侑里子. the15th International Gastric Cancer Congress. Effectiveness of nasopharyngeal extraluminal drainage for esophagojejunal anastomotic leakage after laparoscopic total gastrectomy: a case report. 2023年6月14日-17日

中屋誠一. International Gastric Cancer Congress2023. INITIAL SHORT-TERM RESULTS OF ROBOT-ASSISTED GASTRECTOMY IN OUR DEPARTMENT. 2023年6月14日-17日

・国内学会

森本守. 第27回群馬県内視鏡外科学研究会. 肝胆膵外科におけるロボット手術の役割. 2023年1月21日

鈴木卓弥. 第98回大腸癌研究会. T因子に着目した若年者大腸癌の臨床病理学的検討. 2023年1月26-27日

森本守. 第15回日本ロボット外科学会学術集会. 高難度肝切除におけるロボット手術の有用性. 2023年2月2日-2月3日

高橋広城. 第15回日本ロボット外科学会学術集会. より安全で快適な手術を目指したロボット支援結腸切除術の工夫と短期成績. 2023年2月2-3日

佐川弘之. 第15回日本ロボット外科学会学術集会. ロボット手術がもたらす「精緻」かつ「確実」なそのリンパ節郭清. 2023年2月2-3日

牛込創. 第15回日本ロボット外科学会学術集会. 明日から出来る簡単確実なロボット支援下腹膜外経路ストーマ造設術. 2023年2月2-3日

瀧口修司. 第55回制癌剤適応研究会. 座長:一般口演8-1「症例 上部」. 2023年2月17日

瀧口修司. 座長:シホ°ジウム「State of the art: Robotic gastrectomy」. 第95回日本胃癌学会総会. 2023年2月23-25日

佐川弘之. 第95回日本胃癌学会総会. Robotic surgery for advanced gastric cancer: Toward a more highly desired lymph node dissection technique. 2023年2月23-25日

佐川弘之. 「進行胃癌に対する内視鏡手術のコツ」高度進行胃癌に対してロボット手術がもたらす根治性を意識した「精緻」かつ「確実」なそのリンパ節郭清手技. 第95回日本胃癌学会総会. 2023年2月23-25日

大久保友貴. 第95回日本胃癌学会総会. ロボット支援胃癌手術における教育システムの構築～エキスパート術者を目指して～. 2023年2月23-25日

森本守. 第66回東海肝臓外科フォーラム. 『肝左葉切除』腹腔鏡. 2023年3月4日

瀧口修司. (司会:一般演題53)胃⑤. 第59回日本腹部救急医学会総会. 2023年3月9-10日

柳田剛. 第59回日本腹部救急医学会総会. Oncologic EmergencyにおけるBestな術式選択-ロボット,ラパロの比較. 2023年3月9-10日

森本守. 第303回東海外科学会. 新規保険収載後の歩みとこれから～ダビンチ結腸切除術・肝切除術～. 2023年4月2日

松尾洋一. 第109回消化器病学会. 膵癌の発癌, 進行および治療耐性に対するがん微小循環の関与. 2023年4月6日-4月8日

瀧口修司. 第43回関東腹腔鏡下胃切除研究会. 大動脈周囲リンパ節郭清. 2023年4月22日

瀧口修司. 第123回日本外科学会定期学術集会. (司会:シホ°ジウム1) 上部進行胃癌に対する手術術式の個別化. 2023年4月27-29日

松尾洋一. 第123回日本外科学会定期学術集会. 外科医療から見た膵癌に対するゲノム医療の問題点と今後の展望. 2023年4月27-29日

高橋広城. 第123回日本外科学会定期学術集会. 適応拡大の道筋 ～ロボット大腸がん手術～. 2023年4月27-29日

高橋広城. 第123回日本外科学会定期学術集会. 根治性と臓器温存を目指したcT4b直腸癌に対するロボット支援手術の手技と今後の課題. 2023年4月27-29日

森本守. 第123回日本外科学会定期学術集会. 解剖学的肝切除におけるロボット手術の有用性. 2023年4月27-29日

田中達也. 第123回日本外科学会定期学術集会. 施設集約化の進む食道癌手術におけるロボット支援手術の術者育成. 2023年4月27-29日

佐川弘之. 第 123 回日本外科学会定期学術集会. StageIV 胃癌に対して化学療法+ロボット手術が 鍵をにぎる新たな治療戦略とその展望. 2023 年 4 月 27-29 日

志賀一慶. 第 123 回日本外科学会定期学術集会. 細胞レベルからみたロボット支援直腸癌手術の有用性. 2023 年 4 月 27-29 日

牛込創. 第 123 回日本外科学会定期学術集会. フレイル高齢患者の大腸癌に対する Minimally invasive surgery がもたらす影響～前向き検討から見えてきた適切な治療戦略～. 2023 年 4 月 27-29 日

柳田剛. 第 123 回日本外科学会定期学術集会. ラパロを超えるロボット右半結腸切除を目指して～IPW 法での質と合併症の比較～. 2023 年 4 月 27-29 日

渡部かをり. 第 123 回日本外科学会定期学術集会. 当科における外科志望者増加への取り組み～今の時代にどう外科医を増やすか?. 2023 年 4 月 27-29 日

瀧口修司. 第 77 回手術手技研究会. (司会:主題Ⅱ)「自慢の教育プログラム」胃. 2023 年 5 月 12 日-2023 年 5 月 13 日

松尾洋一. 第 77 回手術手技研究会. サージカルフォーラム 7 司会. 2023 年 5 月 12 日-2023 年 5 月 13 日

小川 了. 第 77 回手術手技研究会. ロボット支援下手術がもたらす精緻で緻密なリンパ節郭清. 2023 年 5 月 12 日-2023 年 5 月 13 日

高橋広城. 第 77 回手術手技研究会. RS-RARP を応用したロボット支援腹腔鏡下前立腺合併直腸切除術の手術手技と短期成績. 2023 年 5 月 12 日-2023 年 5 月 13 日

森本守. 第 77 回手術手技研究会. 紡いだ手術手技をロボットで継承する-微細解剖観察下での基本手技の再現- イブニングセミナー. 2023 年 5 月 12 日-2023 年 5 月 13 日

森本守. 第 77 回手術手技研究会. 解剖学的肝切除におけるロボット手術の有用性. 2023 年 5 月 12 日-2023 年 5 月 13 日

佐川弘之. 第 77 回手術手技研究会. 高度進行胃癌に対する開腹手術との視野角度の違いに着目した そのロボット手術手技. 2023 年 5 月 12 日-2023 年 5 月 13 日

齋藤健太. 第 77 回手術手技研究会. ロボット支援下膵頭十二指腸切除術における SMA アプローチの手術手技. 2023 年 5 月 12 日-2023 年 5 月 13 日

牛込創. 第 77 回手術手技研究会. 脾彎曲受動における腓落とし～IMV と壁側腹膜に着目したロボット脾彎曲受動～. 2023 年 5 月 12 日-2023 年 5 月 13 日

齋藤健太. 第 21 回日本ヘルニア学会学術集会. 司会: サージカルフォーラム 3 JSES 技術認定取得. 2023 年 5 月 27 日

齋藤健太. 第 21 回日本ヘルニア学会学術集会. ロボット手術時代における大学病院でのロボット支援腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術. 2023 年 5 月 27 日

瀧口修司. 第 45 回日本癌局所療法研究会. (座長:主題 4)「低侵襲手術(ロボット・内視鏡手術). 2023 年 6 月 2 日

高橋広城. 第 48 回日本外科系連合学会学術集会. 直腸癌に対するロボット手術の功罪～デバイスを見極め Multi-robot 時代を切り開く～. 2023 年 6 月 7～9 日

齋藤健太. 日本消化器病学会東海支部第 138 回例会. ボーダーライン膵癌に対する治療戦略 専門医セミナー. 2023 年 6 月 17 日

加藤知克. 第 167 回名古屋市立大学医学会例会. 新規治療薬の開発を目指した放射線耐性膵癌における CXCR4 の機能解析. 2023 年 6 月 26 日

瀧口修司. 第 18 回近畿腹腔鏡下胃切除研究会. 高度進行胃癌に対するラパ、ロボット手術の工夫. 2023 年 6 月 24 日

小川 了. 第 77 回日本食道学会. ロボット支援手術がもたらす精緻で緻密なリンパ節郭清. 2023 年 6 月 29 日-30 日

田中 達也. 第 77 回日本食道学会. 進行再発食道癌に対する免疫チェックポイント阻害剤併用化学療法の臨床使用の短期成績. 2023 年 6 月 29 日-30 日

松尾洋一. 第 35 回日本肝胆膵外科学会学術集会. 一般口演 17 座長. 2023 年 6 月 30 日-7 月 1 日

森本守. 第 35 回日本肝胆膵外科学会学術集会. ポスター15 座長. 2023 年 6 月 30 日-7 月 1 日

森本守. 第 35 回日本肝胆膵外科学会学術集会. Standardization of the techniques for anatomic liver resection in robotic surgery focusing on the blunt dissection. 2023 年 6 月 30 日-7 月 1 日

齋藤健太. 第 35 回日本肝胆膵外科学会学術集会. 2023 年 6 月 30 日-7 月 1 日

今藤裕之. 第 35 回日本肝胆膵外科学会学術集会. Perioperative management of pancreatoduodenectomy for the elderly patients with a focus on nutritional indicators. 2023 年 6 月 30 日-7 月 1 日

加藤知克. 第 35 回日本肝胆膵外科学会学術集会. Robot-assisted DPCAR for pancreatic body cancer with anomaly of hepatic artery. 2023 年 6 月 30 日-7 月 1 日

瀧口修司. 日本外科代謝栄養学会第 60 回学術集会. (座長: スポンサーセミナー)「栄養サポートと総合医療・代替医療」. 2023 年 7 月 6 日-7 日

瀧口修司. 日本外科代謝栄養学会第 60 回学術集会. (司会:シンポジウム1)「チームでベストサイトに寄り添う周術期栄養管理」. 2023 年 7 月 6 日-7 日

松尾 洋一. 日本外科代謝栄養学会第 60 回学術集会. 消化器疾患の周術期管理を強化する～外科医を助ける亜鉛の知識. 2023 年 7 月 6 日-7 日

瀧口修司. 第 78 回日本消化器外科学会総会. (座長:ワークショップ 7) 転移の外科治療. 2023 年 7 月 12 日 - 14 日

瀧口修司. 第 78 回日本消化器外科学会総会. (講師:ランチョンセミナー)「ロボット手術教育の新たな新機軸」-ロールシェアリング手術教育-. 2023 年 7 月 12 日 - 14 日

瀧口修司. 第 78 回日本消化器外科学会総会. (司会:ヒデオンシンポジウム3) (英語)【上部】進行胃癌に対するロボット支援 下手術の現状と今後の展望. 2023 年 7 月 12 日 - 14 日

瀧口修司. 第 78 回日本消化器外科学会総会. 「困った時の手術の引き出し:胃外科」. 2023 年 7 月 12 日 - 14 日

瀧口修司. 第 78 回日本消化器外科学会総会. 「消化器外科の明るい未来に向けて」. 2023 年 7 月 12 日 - 14 日

瀧口修司. 第 78 回日本消化器外科学会総会. hinotori 羽ばたく! 次のステージへ～上部消化管領域～. 2023 年 7 月 12 日 - 14 日

松尾洋一. 第 78 回日本消化器外科学会総会. 一般演題 266 座長. 2023 年 7 月 12 日 - 14 日

松尾洋一. 第 78 回日本消化器外科学会総会. ランチョンセミナー13 周術期管理のステップアップ～外科医を助ける亜鉛の知識. 2023 年 7 月 12 日 - 14 日

松尾洋一. 第 78 回日本消化器外科学会総会. 膣手術後の出血性合併症による Failure to Rescue を回避するには. 2023 年 7 月 12 日 - 14 日

高橋広城. 第 78 回日本消化器外科学会総会. 座長:一般演題 110【大腸】ロボット手術 5. 2023 年 7 月 12 日 - 14 日

高橋広城. 第 78 回日本消化器外科学会総会. ランチョンセミナー19 hinotori™羽ばたく! 次のステージへ～下部消化管領域～. 2023 年 7 月 12 日 - 14 日

高橋広城. 第 78 回日本消化器外科学会総会. ロボット支援結腸癌手術定型化のその向こう～レジデント執刀機会の創出を目指して～. 2023 年 7 月 12 日 - 14 日

森本守. 第 78 回日本消化器外科学会総会. 解剖学的肝切除術におけるロボット手術の有用性. 2023 年 7 月 12 日 - 14 日

小川 了. 第 78 回日本消化器外科学会総会. 「チームでベストサイトに寄り添う周術期栄養管理」

食道癌周術期栄養管理のためのベッドサイドに寄り添うチーム医療の構築. 2023年7月12日 - 14日

小川 了. 第78回日本消化器外科学会総会. 食道癌術後外来栄養介入と長期成績)食道癌手術患者に対するきめ細やかな外来栄養介入と予後改善への可能性. 2023年7月12日 - 14日

小川 了. 第78回日本消化器外科学会総会. 上部消化器癌術後1年におけるフレイル評価とフレイル化リスク因子の前向き研究. 2023年7月12日 - 14日

田中 達也. 第78回日本消化器外科学会総会. ロボット支援胸腔鏡下食道切除術の次世代術者養成への取り組み. 2023年7月12日 - 14日

佐川弘之. 第78回日本消化器外科学会総会. Current Status and Future Prospects of Robot-Assisted Surgery for Advanced Gastric Cancer) Robotic surgery for advanced gastric cancer focusing on visual field angle compared to laparotomy. 2023年7月12日 - 14日

齋藤健太. 第78回日本消化器外科学会総会. 低侵襲手術時代の脾臓十二指腸切除術術後脾液瘻に対する治療戦略. 2023年7月12日 - 14日

牛込 創. 第78回日本消化器外科学会総会. 困難な症例にも確実にできる, 微細解剖にこだわったロボット脾臓彎曲受動. 2023年7月12日 - 14日

鈴木卓弥. 第78回日本消化器外科学会総会. Extended Pelvic Surgery Requiring Combined Resection of Other Organs, Blood Vessels, and Bone Surgical Technique and Short-Term Outcome of Robotic-Assisted Other Organs Combined Rectal Resection. 2023年7月12日 - 14日

今藤裕之. 第78回日本消化器外科学会総会. 栄養指標に着目した高齢者脾臓に対する脾臓十二指腸切除術の適応と留意点. 2023年7月12日 - 14日

柳田 剛. 第78回日本消化器外科学会総会. 閉塞性大腸癌に対する治療戦略のアップデート 閉塞性大腸癌症例におけるQuality改善のためのRobot手術の有用性. 2023年7月12日 - 14日

渡部 かをり. 第78回日本消化器外科学会総会. ロボット支援手術全例適応時代の我々の選択-パート執刀教育法の開発とその展望. 2023年7月12日 - 14日

今藤裕之. 第58回愛知臨床外科学会. 肝臓・脾臓 座長. 2023年7月17日

松尾洋一. 第32回日本がん転移学会学術集会・総会. ポスターセッション5 座長. 2023年7月20日～7月21日

森本守. 第54回日本脾臓学会大会. より精緻なロボット支援脾臓十二指腸切除術の追求.

2023年7月21日～7月22日

瀧口修司. 10th Reduced Port Surgery Forum in Kitakyushu 第15回単孔式内視鏡手術研究会/第24回Needlescopic Surgery Meeting. (座長:主題2)「RPS手技と工夫におけるNew era」. 2023年8月18日

齋藤健太. 第50回日本膵切研究会. 膵体尾部癌に対するロボット支援膵体尾部切除術の有用性-Left Renal Vein First Approach-. 2023年8月25日-8月26日

瀧口修司. 第98回中国四国外科学会総会. (座長:LS4) ICI時代食道癌集学的治療とロボット手術. 2023年9月1日

瀧口修司. 第98回中国四国外科学会総会. ロボット手術が変える胃癌手術のNew normal. 2023年9月1日

瀧口修司. 第33回九州内視鏡・ロボット外科手術研究. ロボット支援下手術における若手医師の『教育』と『育成』. 2023年9月9日

今藤裕之. 第59回日本胆道学会学術集会. 栄養指標に着目した高齢胆道癌患者に対する膵頭十二指腸切除術の検討. 2023年9月14日-9月15日

瀧口修司. 第20回神戸消化器外科懇話会. 胃癌治療最前線-ロボット手術から術後栄養管理まで-. 2023年10月6日

瀧口修司. Gastric Cancer seminar in Gunma. ロボット手術が変えるこれからの胃癌治療. 2023年10月13日

松尾洋一. 第27回日本外科病理学会学術集会. 一般演題③座長. 2023年10月13日-14日

瀧口修司. 第77回国立病院総合医学会. ダビンチ運用のNext Phase～経営的、臨床的な効果と安全で効率的な活用からロボット Surgeon 育成まで～. 2023年10月20日

瀧口修司. 第31回日本消化器病関連学会週間. (司会:ワークショップ)「高度進行胃癌に対する低侵襲アプローチの課題と現状」. 2023年11月2日-5日

高橋広城. 第31回日本消化器病関連学会週間. 右側結腸癌に対するロボット支援手術の工夫と短期成績. 2023年11月2日-5日

森本守. 第31回日本消化器病関連学会週間. これからの肝臓外科においてロボット手術が果たす役割. 2023年11月2日-5日

田中達也. 第31回日本消化器病関連学会週間. 進行再発食道癌に対する免疫チェックポイント阻害剤併用化学療法 of 短期成績. 2023年11月2日-5日

佐川 弘之. 第31回日本消化器病関連学会週間. 高度進行胃癌に対するロボット手術にお

いて求められるコンピテンシー. 2023年11月2日-5日

牛込創. 第31回日本消化器病関連学会週間. 側方郭清症例に対する術前治療の検討 ~最適なTNTの導入を目指して~. 2023年11月2日-5日

高橋広城. 第78回日本大腸肛門病学会学術集会. 左側横行結腸・下行結腸癌に対するロボット支援手術の工夫と短期成績. 2023年11月10日-11日

高橋広城. 第78回日本大腸肛門病学会学術集会. 一般演題(口演)1-14 ロボット支援下結腸癌手術③ 座長. 2023年11月10日-11日

牛込創. 第78回日本大腸肛門病学会学術集会. 側方郭清症例に対する最適な治療法を考える~ロボット手術とNACとCRTを組み合わせた最適なTNT導入にむけて~. 2023年11月10日-11日

鈴木卓弥. 第78回日本大腸肛門病学会学術集会. 国産手術支援ロボット「hinotori」による直腸癌手術の経験と治療成績. 2023年11月10日-11日

柳田剛. 第78回日本大腸肛門病学会学術集会. 閉塞性大腸癌に対するStent留置後Robot手術の優位性 ~Inverse Probability weighting法による比較~. 2023年11月10日-11日

渡部かをり. 第78回日本大腸肛門病学会学術集会. 当科における結腸切除術の体腔内overlap吻合の手技と手術成績. 2023年11月10日-11日

瀧口修司. 第23回日本クリニカルパス学会学術集会. (演者:漢方教育セミナー)胃がん集学的治療における漢方の役割-パス導入によるコンプライアンス向上効果-. 2023年11月11日

瀧口修司. 第53回胃外科術後障害研究会. (座長:要望演題)術中トラブルシューティング・手術手技の工夫. 2023年11月11-12日

佐川弘之. 第53回胃外科術後障害研究会. 「胃がん手術の継承と教育」Role Sharing Surgery -胃癌手術の教育・継承への鍵-. 2023年11月11-12日

森本守. 第17回肝臓内視鏡外科研究会. バイポーラカットを駆使したロボット膵切除における精緻な郭清手技の確立. 2023年11月15日

森本守. 第17回肝臓内視鏡外科研究会. 2023年11月15日

齋藤健太. 第17回肝臓内視鏡外科研究会. ロボット支援下膵頭十二指腸切除術導入時の安全性に対する工夫とその変遷. 2023年11月15日

加藤知克. 第17回肝臓内視鏡外科研究会. ロボット支援腹腔鏡下肝S8切除術の問題点とその対策. 2023年11月15日

瀧口修司. 第85回日本臨床外科学会総会. (司会:総会特別企画 11-3)「魅力的な外科であるために必要な施策を考える③」. 2023年11月16日-18日

瀧口修司. 第85回日本臨床外科学会総会. (司会:パネディスカッション3)「上部進行胃がんに対する低侵襲手術」. 2023年11月16日-18日

高橋広城. 第85回日本臨床外科学会総会. 複数デバイスを用いて行うロボット支援結腸がん手術の功罪. 2023年11月16日-18日

小川了. 第85回日本臨床外科学会総会. ロボット支援手術が食道手術にもたらす功罪. 2023年11月16日-18日

田中達也. 第85回日本臨床外科学会総会. 術後再発食道癌に対する一次治療としての免疫チェックポイント阻害剤併用化学療法の使用. 2023年11月16日-18日

佐川弘之. 第85回日本臨床外科学会総会. Role Sharing Surgery -胃癌手術の教育・継承への鍵-. 2023年11月16日-18日

柳田剛. 第85回日本臨床外科学会総会. 新型コロナウイルス感染症流行に後押しされた外科医の手指衛生増加によるMRSA水平伝播の減少. 2023年11月16日-18日

瀧口修司. 第122回日本消化器病学会九州支部例会. (演者:ランチョンセミナー4)「胃がん集学的治療における漢方の役割」. 2023年11月24日

松尾洋一. 第34回日本消化器癌発生学会総会. ポスターセッション9; 司会. 2023年11月24日-25日

松尾洋一. 第34回日本消化器癌発生学会総会. 癌幹細胞マーカーCXCR4に着目した膵癌における化学放射線耐性メカニズムの解明と治療応用. 2023年11月24日-25日

田中達也. 第44回日本肥満学会. 胃管狭窄難症例から学んだ合併症対策. 2023年11月25日

瀧口修司. 第36回日本内視鏡外科学会総会. (司会:Educational Symposium6) 未来に繋がる新しい縫合針-内視鏡・ロボット縫合での実際-. 2023年12月7日-9日

瀧口修司. 第36回日本内視鏡外科学会総会. (司会:シンポジウム9) 高度進行胃癌に対する化学療法後の低侵襲手術. 2023年12月7日-9日

瀧口修司. 第36回日本内視鏡外科学会総会. (司会:パネディスカッション10) 開腹・腹腔鏡手術経験がなくてもロボット支援手術? 激論-Pros and Cons-. 2023年12月7日-9日

瀧口修司. 第36回日本内視鏡外科学会総会. (司会:Educational Lecture 16) 次世代消化器外科ロボット手術育成の現場を語る. 2023年12月7日-9日

高橋広城. 第36回日本内視鏡外科学会総会. 直腸癌に対する低侵襲手術の最前線～hinotori 導入から見据えるロボット支援手術の未来～. 2023年12月7日-9日

高橋広城. 第36回日本内視鏡外科学会総会. シンポジウム6 / ロボット支援結腸癌手術の現状と課題 ロボット支援結腸癌手術の現状と課題～da Vinci と hinotori の共存を目指して～ (司会 兼 筆頭). 2023年12月7日-9日

高橋広城. 第36回日本内視鏡外科学会総会. Educational Lecture 11 / hinotoriTM Integrated (Fusion) Surgery の可能性. 2023年12月7日-9日

森本守. 第36回日本内視鏡外科学会総会. Educational Symposium 4; ロボット手術における電気メス戦略を考える. 2023年12月7日-9日

森本守. 第36回日本内視鏡外科学会総会. ワークショップ39; 司会. 2023年12月7日-9日

森本守. 第36回日本内視鏡外科学会総会. ロボット支援解剖学的肝切除のコツ～グリソン一括と肝静脈に沿った実質切離～. 2023年12月7日-9日

小川了. 第36回日本内視鏡外科学会総会. ロボット支援手術がもたらす精緻な上縦隔リンパ節郭清. 2023年12月7日-9日

田中達也. 第36回日本内視鏡外科学会総会. 「私はこうやって減量・代謝改善手術を増やしました」継続したアピールによる減量代謝改善手術増加への取り組み. 2023年12月7日-9日

佐川弘之. 第36回日本内視鏡外科学会総会. 「高齢者進行胃癌」ロボット支援下傍腹部大動脈リンパ節郭清手技 -左腎静脈ファーストアプローチ-. 2023年12月7日-9日

佐川弘之. 第36回日本内視鏡外科学会総会. (Educational Lecture 16 / 次世代消化器外科ロボットサージョン育成の現場を語る) 大学病院の立場から. 2023年12月7日-9日

佐川弘之. 第36回日本内視鏡外科学会総会. ロボット支援下胃癌拡大手術をより安全に施行するために-傍腹部大動脈リンパ節郭清と他臓器合併切除-. 2023年12月7日-9日

齊藤健太. 第36回日本内視鏡外科学会総会. 膣体尾部癌に対するロボット支援下膣体尾部切除術 -Left Renal Vein First Approach-. 2023年12月7日-9日

牛込創. 第36回日本内視鏡外科学会総会. ロボット支援直腸癌手術から見てきた最適な治療戦略～手術と前治療の最適な融合を～. 2023年12月7日-9日

鈴木卓弥. 第36回日本内視鏡外科学会総会. 中期成績から考える臓器浸潤を有する直腸癌に対するロボット支援手術. 2023年12月7日-9日

柳田剛. 第36回日本内視鏡外科学会総会. Robot 手術で重篤な術後合併症を減らす！～IPW

法を用いた腹腔鏡手術との比較～. 2023年12月7日-9日

渡部かをり. 第36回日本内視鏡外科学会総会. ロボット支援手術時代にアップデートしていく結腸切除術体腔内 T-shaped overlap 吻合. 2023年12月7日-9日

木村 昌弘. 第123回日本外科学会定期学術集会. ブタ小腸を用いた自動縫合器による Slow firing の有効性. 2023年4月27-29日

原田幸志朗. 第36回日本内視鏡外科学会総会. 当院におけるロボット支援下結腸手術の導入と短期成績. 2023年12月7日-9日

田中達也. 第41回日本肥満症治療学会. 胃管狭窄難治症例から学んだ合併症対策 JSTO ビデオシンポジウム. 2023年11月25日

田中達也. 第97回日本糖尿病学会中部地方会. ディベートセッション 「より善い肥満症治療方針決定で何を判断する?」 「肥満症治療における内科医の視点、外科医の視点」. 2023年9月23日-24日

坪井 謙. 第85回日本臨床外科学会. 肝切除時における肝血流評価にサーモグラフィーを使用した経験. 2023年11月16日-18日

志賀一慶. 第123回日本外科学会定期学術集. 口演. Intraoperative measurement of free cancer cells using the PCR to diagnose the risk of local recurrence~The Future of Robotic-Assisted Rectal Surgery from the Perspective of Free Cancer Cells. 2023年7月12日-14日

志賀一慶. 第32回日本がん転移学会. シンポジウム. 微小転移診断・術後再発予測の up to date 術中遊離癌細胞の観点からみた直腸癌の局所再発予測. 2023年7月20日-21日

前田祐三. 第78回日本消化器外科学会総会. 維持透析中の肛門管癌に対して 5-FU 投与後に高アンモニア血症により意識障害を発症した1例. 2023年7月12-14日

上原侑里子. 微量のガーゼ繊維の遺残により小腸肉芽腫性病変を生じ絞扼性イレウスを来した1例. 第59回日本腹部救急医学会総会. 2023年3月9日-10日

上原侑里子. 第45回癌局所療法研究会. スペーサーを用いて陽子線治療を施行した幽門側胃切除術後吻合部に接する肝内胆管癌の1例. 2023年6月2日

上原侑里子. 第123回日本外科学会定期学術集会. 腹腔鏡手術での左側結腸癌, 直腸癌手術における腫大した大動脈リンパ節に関する検討. 2023年4月27日-29日

上原侑里子. 第78回日本消化器外科学会総会. 左側結腸癌, 直腸癌の手術において摘出した傍大動脈リンパ節に関する検討. 2023年7月12-14日

林 祥平. 第303回東海外科学会. 食道まで広範囲に気腫が及んだが, 保存的に軽快した

腸管気腫症の1例. 2023年4月2日

林 祥平. 第78回日本消化器外科学会総会. 当院における胆嚢捻転症6例の検討. 2023年7月12日-14日

林 祥平. 第85回日本臨床外科学会総会. ニンテダニブ内服による間質性肺炎の治療中に, 腹腔内遊離ガスを伴う腸管気腫症を呈した1例. 2023年11月16日-18日

高阪重行. 第60回愛知臨床外科学会. 人工肛門造設後に発生した肛門側断端縫合不全の1例. 2023年7月17日

高阪重行. 第36回日本内視鏡外科学会. 微量のガーゼ繊維の遺残により小腸肉芽腫性病変を生じ絞扼性イレウスを来した1例. 2023年12月7日-9日

社本智也. 第78回日本消化器外科学会, 急性胆嚢炎に対する待機手術を原則とした当院の治療戦略. 2023年7月13日

社本智也. 第34回日本消化器癌発生学会, Zerumboneは膀胱癌細胞の血管新生能・浸潤能を抑制する. 2023年11月24日

大久保友貴. 第77回日本食道学会学術集会. QOL向上を目指した再発食道癌に対する外来short hydration FP+ICI療法. 2023年6月27日-30日

大久保友貴. 第36回日本内視鏡外科学会総会. ロボット支援腹腔鏡下胃全摘を施行した食道裂孔ヘルニアを伴う進行胃癌の1例. 2023年12月7日-9日

楠戸夏城. 第78回日本消化器外科学会総会. Clostridium butyricum MIYAIRI投与中にClostridium butyricum菌血症を来した5例の検討. 2023年7月12日

楠戸夏城. 第36回日本内視鏡外科学会総会. 名市大式ロボット手術トレーニングシステム: ロールシェアリング手術で育むロボット世代の若手外科医. 2023年12月9日

楠戸夏城. 第95回日本胃がん学会総会. 切除不能胃癌への3次治療として免疫チェックポイント阻害薬開始時におけるサルコペニアの有病率の検討. 2023年2月24日

若杉健弘. 第36回日本外科感染症学会総会学術集会. 外科診療とCOVID-19感染対策 アフターコロナで変わったか? 2023年12月16日~17日

若杉健弘. 第3回みどり地域医療研究会. 消化器悪性疾患と外科感染症 ~消化器外科の取り組みと今後の展望~ 2024年1月24日

若杉健弘. 第60回日本腹部救急医学会総会. 手術室の空調から考える手術部位感染対策. 2024年3月21日~22日

中屋誠一. 第78回日本消化器外科学会総会. 腹痛とは異なる主訴で発症した上部消化管穿孔の検討. 2023年7月12日-14日

・書籍

瀧口 修司, 齋藤 健太, 早川 俊輔. Chapter4 エネルギーデバイス ロボット支援下鼠径部ヘルニア手術入門. 監修: 嶋田 元, 編集: 松原猛人, 今村清隆. 中外医学社. 43-50, 2023

佐川 弘之, 小川 了, 瀧口 修司. 8. ロボット支援下胃癌手術: 幽門側胃切除術 ビジュアルサージカル消化器腹腔鏡下手術上部消化管. 編集: 瀬戸 泰之, 総監修: 上西 紀夫. Gakken. 156-174, 2023

佐川 弘之, 小川 了, 瀧口 修司. 第2章 胃 13 ロボット支援腹腔鏡下傍腹部大動脈リンパ節郭清. 消化器内視鏡外科手術バイブル 動画で学ぶハイボリュームセンターの手技. 監修: 北川 雄光, 編集: 宮澤 光男, 竹内 裕也. 医学書院. 96-99, 2023

・教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績

ベトナム国立がんセンター (K 病院) での派遣手術と ロボット手術技術に関する連携協定締結, 2024年2月23日

JAPAN-VIETNAM Robotic Laparoscopy Surgery Week での活動

-セミナー発表-

瀧口 修司. 「Robotic Surgery from Now!

高橋 広城. 「Current situation and future potential of robotic surgery for colorectal cancer in Japan」

-手術-

瀧口 修司, 高橋 広城, 小川 了, 森本 守, 佐川 弘之, 齋藤 健太, 鈴木 卓弥, 牛込 創, 早川 俊輔. 4疾患5症例のロボット手術 (胃がん手術 (ロボット支援幽門側胃切除術), 直腸がん手術 (ロボット支援直腸低位前方切除術), 肝臓がん手術 (ロボット支援肝左葉切除術), 食道がん手術 (ロボット支援食道亜全摘術))

<研究活動実績>

【欧文業績】

- 1) Sakane T, Nakano T, Hagui E, Haneda H, Okuda K. **Everolimus in combination with octreotide LAR in thymic atypical carcinoid.** *Thorac Cancer.* **14(15)**: 1404-1407, 2023.
- 2) Fukumitsu K, Ning Y, Kanemitsu Y, Tajiri T, Okuda K, Fukuda S, Uemura T, Ohkubo H, Takemura M, Maeno K, Ito Y, Oguri T, Takakuwa O, Niimi A. **Tracheal Glomus Tumor Complicated with Asthma Exacerbation in a Pregnant Woman.** *Intern Med.* **62(14)**: 2123-2128, 2023.
- 3) Matsui T, Takahashi Y, Nakada T, Sugita Y, Shinohara S, Suzuki A, Sakakura N, Takano T, Chiba K, Nakamura R, Oda R, Tatematsu T, Yokota K, Mizuno K, Haneda H, Okuda K, Kuroda H. **Thoracoscopic Anatomical Sublobar Resection Including Subsegmentectomy for Non-Small Cell Lung Cancer.** *World J Surg.* **47(8)**: 2065-2075, 2023.
- 4) Nakanishi T, Sento Y, Kamimura Y, Nakamura R, Hashimoto H, Okuda K, Nakanishi R, Sobue K. **Combined use of the ProSeal laryngeal mask airway and a bronchial blocker vs a double-lumen endobronchial tube in thoracoscopic surgery: A randomized controlled trial.** *J Clin Anesth.* **88**: 111136, 2023
- 5) Yamaba Y, Yoshihara M, Takakuwa O, Iwata H, Ogino H, Sakane T, Haneda H, Nakao M, Yamada K, Inoue Y, Kunii E, Akita K. **Factors related to fixedness after transbronchial fiducial marker placement for image-guided proton therapy: A retrospective study.** *Respir Investig.* **61(5)**: 636-642, 2023.
- 6) Zhang X, Guo X, Gao Q, Zhang J, Zheng J, Zhao G, Okuda K, Tartarone A, Jiang M. **Association between cigarette smoking history, metabolic phenotypes, and EGFR mutation status in patients with non-small cell lung cancer.** *J Thorac Dis.* **15(10)**: 5689-5699, 2023.
- 7) Okumura M, Yoshino I, Funaki S, Okuda K, Watanabe SI, Tsuboi M, Shimizu K, Date H, Chen-Yoshikawa TF, Nakajima J, Toyooka S, Asamura H. **Long-term outcomes following surgical treatment for thymic epithelial tumor in Japan and an analysis of prognostic factors based on the Japanese Association for Research on the Thymus nationwide database.** *Surg Today.* **53(11)**: 1247-1259, 2023.
- 8) Sakane T, Nakajima K, Iwata H, Nakano T, Hagui E, Oguri M, Nomura K, Hattori Y, Ogino H, Haneda H. **Lobectomy versus proton therapy for stage I non-small cell lung cancer.** *J Thorac Cardiovasc Surg.* **166(6)**: 1490-1501.e2, 2023.
- 9) Tasaki Y, Sugiyama Y, Hamamoto S, Naiki T, Uemura T, Yokota K, Kawakita D, Nakamura M, Ogawa R, Shimura T, Mimura Y, Hotta Y, Odagiri K, Ito N, Iida M, Kimura Y, Komatsu H, Kataoka H, Takiguchi S, Morita A, Iwasaki S, Okuda K, Niimi A, Yasui T, Furukawa-Hibi Y. **Eosinophil may be a predictor of immune-related adverse events induced by different immune checkpoint inhibitor types: A retrospective multidisciplinary study.** *Cancer Med.* **12(24)**: 21666-21679, 2023.

【和文業績】

- 1) 奥田勝裕. 縦隔腫瘍に対する低侵襲手術. 現代医学. 70(1): 73-77, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	奥田 勝裕	8(2)	7(1)	1(1)
准教授	横田 圭右	2(0)	2(0)	0
講師	近藤 知史	0	0	0
講師	立松 勉	1(0)	1(0)	0
講師	小田 梨紗	1(0)	1(0)	0
助教	高木 大輔	0	0	0
助教	中村 龍二	1(0)	1(0)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
准教授	水野 幸太郎	1(0)	1(0)	0
助教	小林 彩子	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授（診療担当）	佐藤 陽子	0	0	0
教授（診療担当）	羽田 裕司	4(1)	4(1)	0
講師	坂根 理司	3(2)	3(2)	0
助教	羽喰 英美	2(0)	2(0)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【外部資金獲得実績】

- 横田 圭右. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和5年度-令和7年度、4,700千円/4,500千円（内、独立基盤形成支援3,000千円）
- 奥田 勝裕. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和5年度-令和7年度、100千円

- 3) 立松 勉. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-令和 7 年度、100 千円
- 4) 高木 大輔. 治験研究費 (アルフレッサファーマ株式会社). 令和 5 年度、44 千円
- 5) 中村 龍二. 治験研究費 (アムジェン株式会社). 令和 5 年度、11 千円

【その他】

- 1) 名古屋市立大学特別研究奨励費
坂根 理司. 令和 5 年度、402 千円
- 2) 国内学会発表 (上級演題等)
 1. 立松 勉, 奥田勝裕, 横田圭右, 小田梨紗, 中村龍二, 松井琢哉, 高野崇継, 小林彩子. 第 123 回日本外科学会定期学術集会. パネルディスカッション 21「縦隔病変に対する手術の工夫」 剣状突起下アプローチにおけるロボット支援下前縦隔腫瘍手術の工夫. 2023 年 4 月 27 日-29 日 (東京)
 2. 松井琢哉, 高橋祐介, 篠原周一, 鈴木あゆみ, 瀬戸克年, 坂倉範昭, 高野崇継, 中村龍二, 小田梨紗, 立松 勉, 横田圭右, 奥田勝裕, 黒田浩章. 第 46 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. シンポジウム 2「呼吸器外科手術の現在・将来」 臨床病期 IA 期非小細胞肺癌への肺区域切除術 ; 腫瘍局在による治療成績への影響. 2023 年 6 月 29-30 日 (横浜)
 3. 立松 勉, 奥田勝裕, 横田圭右, 小田梨紗, 中村龍二, 松井琢哉, 高野崇継, 平野絢子. 第 40 回日本呼吸器外科学会学術集会. パネルディスカッション 1「縦隔疾患に対するロボット手術の現在地」 当院における縦隔腫瘍に対するロボット支援下手術の適応と限界. 2023 年 7 月 13-14 日 (新潟)
 4. 横田圭右, 平野絢子, 日置啓介, 高野崇継, 中村龍二, 松井琢哉, 小田梨紗, 立松 勉, 奥田勝裕. 第 40 回日本呼吸器外科学会学術集会. ワークショップ 2「ロボット支援下手術に特有に起きる合併症とその対策」 当科における RATS の短期成績と RATS 特有の合併症対策. 2023 年 7 月 13-14 日 (新潟)
 5. 奥田勝裕, 横田圭右, 立松 勉, 小田梨紗, 松井琢哉, 中村龍二, 高野崇継. 第 76 回日本胸部外科学会定期学術集会. 会長要望演題「胸腺上皮性腫瘍に対する標準術式」 Examination of the extent of resection including pericardial fat tissue in extended thymectomy for myasthenia gravis including thymoma complicated. 2023 年 10 月 19-21 日 (仙台)
 6. 中村龍二, 奥田勝裕, 小林彩子, 高野崇継, 松井琢哉, 小田梨紗, 立松 勉, 横田圭右. 第 64 回日本肺癌学会学術集会. ワークショップ 5「オリゴ転移に対する治療戦略」 肺癌の単発副腎転移に関する予後の検討～副腎摘出術は妥当であったか～. 2023 年 11 月 2-4 日 (千葉)
 7. 坂根理司, 中畠晃一朗, 岩田宏満, 羽喰英美, 須藤宗應, 都築侑介, 野村研人, 服部有希子, 荻野浩幸, 羽田裕司. 第 64 回日本肺癌学会学術集会. ワークショップ 12 「高精度放射線治療の最前線」 臨床病期 1 期非小細胞肺癌に対する胸腔鏡下肺葉切除術と陽子線治療の後ろ向き比較検討の最終報告. 2023 年 11 月 2-4 日 (千葉)
 8. 立松 勉, 日置啓介, 中村龍二, 松井琢哉, 小田梨紗, 横田圭右, 奥田勝裕. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会. パネルディスカッション 23「縦隔疾患に対する低侵襲手術を考える」 当院における縦隔疾患に対するロボット支援胸腔鏡下手術の取り組み. 2023 年 12 月 7-9 日 (横浜)

3) 主要な国内学会活動の参加状況

- 1: 奥田 勝裕.
日本外科学会. 代議員
日本呼吸器外科学会. 評議員、総合医療安全管理委員会委員、ガイドライン検討委員会委員
日本胸部外科学会. 評議員、会誌編集委員会委員
日本呼吸器内視鏡学会. 評議員、評議員資格審査委員会委員、気管支鏡専門医制度委員会施設認定小委員会委員
関西胸部外科学会. 評議員
日本胸腺研究会. 理事
- 2: 近藤 知史.
日本小児外科学会. 評議員
- 3: 横田 圭右.
日本呼吸器外科学会. 評議員
関西胸部外科学会. 評議員
- 4: 立松 勉.
日本呼吸器外科学会. 評議員
関西胸部外科学会. 評議員
- 5: 高木 大輔.
日本小児外科学会. 評議員
- 6: 小田 梨紗.
日本呼吸器外科学会. 評議員
日本呼吸器内視鏡学会. 評議員
- 7: 水野 幸太郎.
日本呼吸器外科学会. 評議員
日本呼吸器内視鏡学会. 評議員
- 8: 佐藤 陽子.
日本小児外科学会. 評議員
- 9: 羽田 裕司.
日本呼吸器外科学会. 評議員
日本呼吸器内視鏡学会. 評議員
日本内視鏡外科学会. 評議員
関西胸部外科学会. 評議員
- 10: 坂根 理司.
日本呼吸器外科学会. 評議員
関西胸部外科学会. 評議員

—腎・泌尿器科学分野—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Michelle A Baum, Craig Langman, Pierre Cochat, John C Lieske, Shabbir H Moochhala, Hamamoto S, Satoh H, Chebl Mourani, Gema Ariceta, Armando Torres, Martin Wolley, Vladimir Belostotsky, Thomas A Forbes, Jaap Groothoff, Wesley Hayes, Burkhard Tönshoff, Takayama T, Ralf Roskamp, Kerry Russell, Jing Zhou, Aniruddha Amrite, Bernd Hoppe, PHYOX study investigators. **PHYOX2: a pivotal randomized study of nedosiran in primary hyperoxaluria type 1 or 2.** *Kidney Int.* **103(1)**: 207-217, 2023.

Unno R, Taguchi K, Gregory Hosier, Manint Usawachintachit, Wilson Sui, Heiko Yang, Fadl Hamouche, David Bayne, Marshall Stoller, Thomas Chi. **Maternal family history of urolithiasis is associated with earlier age of onset of stone disease.** *World J Urol.* **41(1)**: 241-247, 2023.

Nishio H, Mizuno K, Matsumoto D, Nakane A, Yasui T, Hayashi Y. **Conservative management of pubertal segmental testicular infarction associated with epididymitis.** *Urol Case Rep.* **46**: 102324, 2023.

Sugiyama Y, Naiki T, Tasaki Y, Mimura Y, Etani T, Noda Y, Nozaki S, Shimizu N, Banno R, Nagai T, Isobe T, Ando R, Moritoki Y, Kataoka T, Odagiri K, Aoki M, Gonda M, Yasui T, Hibi Y. **GNRI sustainability during one cycle of first-line chemotherapy as a prognostic indicator in patients with metastatic urothelial carcinoma.** *Oncology.* **101(4)**: 224-233, 2023.

Unno R, Gregory Hosier, Fadl Hamouche, David B Bayne, Marshall L Stoller, Thomas Chi. **Single-Use Ureteroscopes Are Associated with Decreased Risk of Urinary Tract Infection After Ureteroscopy for Urolithiasis Compared to Reusable Ureteroscopes.** *J Endourol.* **37(2)**: 133-138, 2023.

Inoue T, Hamamoto S, Okada S, Imai S, Yamamichi F, Fujita M, Tominaga K, Fujisawa M. **Pelvicalyceal anatomy on the accessibility of reusable flexible ureteroscopy to lower pole calyx during retrograde intrarenal surgery.** *IJU.* **30(2)**: 220-225, 2023.

Morino T, Kawai N, Ito A, Kobayashi T, Yasui T. **Novel nano-thermal ablation therapy using functionalized heat-generating nanoparticles for solid cancer treatment.** *World Journal of Cancer and Oncology Research*, 2023.

Nagai T, Kawai N, Gonda M, Iida K, Etani T, Kobayashi D, Naiki T, Naiki-Ito A, Ando R, Yamaguchi S, Sugahara Y, Ueno S, Tsutsumiuchi K, Imae T, Yasui T. **Role of HIKESHI on Hyperthermia for Castration-Resistant Prostate Cancer and Application of a Novel Magnetic Nanoparticle with Carbon Nanohorn for Magnetic Hyperthermia.** *Pharmaceutics.* **15(2)**: 626, 2023.

Fitriani Jati Rahmania, Yi-Shou Huang, Yitayal Admassu Workie, Imae T, Kondo A, Miki Y, Imai R, Nagai T, Nakagawa H, Kawai N, Tsutsumiuchi K. **Preparation of Functional Nanoparticles-Loaded Magnetic Carbon Nanohorn Nanocomposites towards Composite Treatment.** *Nanomaterials.* **13(5)**: 839, 2023.

Nagai T, Taguchi K, Isobe T, Matsuyama N, Hattori T, Unno R, Kato T, Etani T, Hamakawa T, Fujii Y, Ikegami Y, Kamiya H, Hamamoto S, Nakane A, Ando R, Maruyama T, Okada A, Kawai N, Yasui T. **A Multicenter, Prospective, Non-randomized Study Evaluating Surgical Hand Preparation between Double-Gloving and Single-Gloving for Preventing Postoperative Infection in Robotic and Laparoscopic Minimally Invasive Surgeries.** *Urol J.* **20(2)**: 109-115, 2023.

Matsunaga H, Fukumori A, Mori K, Morihara T, Sato S, Kitauchi K, Yanagida K, Taguchi K,

Honda T, Tomonaga K. **Ribavirin Treatment for Severe Schizophrenia with Anti-Borna Disease Virus 1 Antibodies 30 Years after Onset.** Case Reports in Psychiatry, 2023.

Kawase K, Hamamoto S, Taguchi K, Inoue T, Okada S, Sugino T, Isogai M, Torii K, Yanase T, Okada T, Hattori T, Chaya R, Okada A, Yasui T. **Impact of pelvicalyceal anatomical variation on surgical outcomes of endoscopic combined intrarenal surgery.** BJUI compass. **4(2)**: 173-180, 2023.

Shimizu N, Naya Y, Sekine K, Hou Kyokushin, Okada A, Suyama T, Araki K, Masuda H, Kojima S. **Laparoscopic redo pyeloplasty with a buccal mucosal graft.** IJU Case Reports. **6(2)**: 124-127, 2023.

Etani T, Kondo S, Yanase T, Morikawa T, Aoki M, Gonda M, Tomiyama N, Nagai T, Iida K, Iwatsuki S, Taguchi K, Naiki T, Hamamoto S, Okada A, Kawai N, Nakamura A, Yasui T. **Clinical characteristics of Raoultella ornithinolytica bacteremia and antimicrobial susceptibility of Raoultellaornithinolytica.** J Infect Chemother. **29(5)**: 554-557, 2023.

Nakane K, Watanabe H, Naiki T, Takahara K, Yasui T, Miyake H, Shiroki R, Koie T. **Trends in the Use of Second-Generation Androgen Receptor Axis-Targeted Agents for Metastatic Hormone-Sensitive Prostate Cancer and Clinical Factors Predicting Biological Recurrence.** Diagnostics. **13(9)**: 1661, 2023.

Matsumoto D, Mizuno K, Kamisawa H, Kato T, Nishio H, Kurokawa S, Nakane A, Kubota H, Maruyama T, Yasui T, Hayashi Y. **Usefulness of uroflowmetry for the management of urethral prolapse in a prepubertal girl.** J Pediatr Surg Case Rep. **92**: 102616, 2023.

Maruyama M, Koichi P Sawada, Tanaka Y, Okada A, Momma K, Nakamura M, Mori R, Furukawa Y, Sugiura Y, Tajiri R, Taguchi K, Hamamoto S, Ando R, Tsukamoto K, Takano K, Imanishi M, Yoshimura M, Yasui T, Mori Y. **Quantitative analysis of calcium oxalate monohydrate and dihydrate for elucidating the formation mechanism of calcium oxalate kidney stones.** PLoS One. **18(3)**: e0282743, 2023.

Kadono Yo, Konaka H, Nohara T, Izumi K, Anai S, Fujimoto K, Koguchi T, Ishibashi K, Kawai N, Nakane K, Iba A, Masumori N, Takahara S, Mizokami A. **Efficacy and Safety of First-Line Cytokines Versus Sunitinib and Second-Line Axitinib for Patients with Metastatic Renal Cell Carcinoma (ESCAPE Study): A Phase III, Randomized, Sequential Open-Label Study.** cancers. **15(10)**: 2745, 2023.

Vineet Gauhar, Carlo Giulioni, Nariman Gadzhiev, Virgilio De Stefano, Jeremy Yuen-Chun Teoh, Ho Yee Tiong, Taguchi K, Giulio Milanese, Andrea Benedetto Galosi, Bhaskar Kumar Somani, Daniele Castellani. **An Update of In Vivo Application of Artificial Intelligence and Robotics for Percutaneous Nephrolithotripsy: Results from a Systematic Review.** Curr Urol Rep. **24(6)**: 271-280, 2023.

Gregory Hosier, Nizar Hakam, Fadl Hamouche, Xavier Cortez, Leslie Diana Bernal Charondo, Heiko Yang, Carter Chan, Kevin Chang, Unno R, Wilson Sui, David Bayne, Marshall Stoller, Thomas Chi. **Ultrasound-Only Percutaneous Nephrolithotomy is Safe and Effective Compared to Fluoroscopy-Directed Percutaneous Nephrolithotomy.** J Endourol. **37(6)**: 634-641, 2023.

Nishio H, Mizuno K, Kato T, Kamisawa H Kurokawa S, Nakane A, Maruyama T, Kawai N, Yasui T, Hayashi Y. **Surgical management of prepubertal testicular tumors: A30 year study in our institution.** Int J Urol. **30(6)**: 521-525, 2023.

Tasaki Y, Hamamoto S, Sugiyama Y, Tomiyama N, Naiki T, Etani T, Taguchi K, Matsuyama N, Sue Y, Mimura Y, Kubota H, Noda Y, Aoki M, Moritoki Y, Nozaki S, Kurokawa S, Okada A, Kawai N, Yasui T, Kimura K. **Elevated eosinophils proportion as predictor of immune-related adverse events after ipilimumab and nivolumab treatment of advanced and metastatic renal cell carcinoma.** International Journal of Urology. **30(10)**: 866-874, 2023.

Okada T, Hamamoto S, Taguchi K, Okada S, Inoue T, Ando R, Okada A, Yasui T, SMART study group. **Quality of life after urinary stone surgery based on Japanese Wisconsin Stone Quality of Life questionnaire: multicenter analysis from SMART study group.** *Urolithiasis*. **51(1)**: 113, 2023.

Hamamoto S, Inoue T, Okada S, Taguchi K, Yasui T. **Application of ultrasound imaging in the treatment of urinary tract stones.** *J Med Ultrason*. Online ahead of print(7/10 現在), 2023.

Takeda T, Iwatsuki S, Nozaki S, Okada A, Mizuno K, Umemoto Y, Yasui T. **Identification of active spermatogenesis using a multiphoton microscope.** *Andrology*. **11(6)**: 1147-1156, 2023.

Tomiyama N, Tasaki Y, Hamamoto S, Sugiyama Y, Naiki T, Etani T, Taguchi K, Matsuyama N, Sue Y, Mimura Y, Odagiri K, Noda Y, Aoki M, Moritoki Y, Nozaki S, Kurokawa S, Okada A, Kawai N, Furukawa-Hibi Y, Yasui T. **Hemoglobin and neutrophil levels stratified according to International Metastatic Renal Cell Carcinoma Database Consortium risk predict the effectiveness of ipilimumab plus nivolumab in patients with advanced metastatic renal cell carcinoma.** *Int J Urol*. **30(9)**: 754-761, 2023.

Nishio H, Mizuno K, Matsumoto D, Tozawa K, Yasui T, Hayashi Y. **Combination of robot-assisted laparoscopic pyeloplasty for lower moiety ureteropelvic junction obstruction in a partial duplex system and percutaneous endoscopic surgery for renal calculi reusing the port for robotic pyeloplasty.** *IJU Case Rep*. **6(6)**: 390-393, 2023.

Matsuyama N, Naiki T, Hamamoto S, Sugiyama Y, Kubota Y, Hamakawa T, Etani T, Iwatsuki S, Taguchi K, Ota Yuya, Gonda M, Aoki M, Morikawa T, Kato T, Okada A, Yasui T. **Postoperative Bladder Neck to Pubic Symphysis Ratio Predictive for De Novo Overactive Bladder after Robot-Assisted Radical Prostatectomy.** *Diagnostics*. **13(20)**: 3173, 2023.

Fadl Hamouche, Nizar Hakam, Unno R, Justin Ahn, Heiko Yang, David Bayne, Marshall L Stoller, Susan Smith, Emily Finlayson, James Smith, Thomas Chi. **Reimagining Ambulatory Care in Urology: Conversion of the Urology Clinic into a Procedure Center Improves Patient's Experience.** *Telemed J E Health*. **30(3)**: 748-753, 2023.

Naiki T, Takahara K, Watanabe H, Nakane K, Sugiyama Y, Koie T, Shiroki R, Miyake H, Yasui T. **The Geriatric Nutritional Risk Index Predicts Prognosis in Japanese Patients with LATITUDE High-Risk Metastatic Hormone-Sensitive Prostate Cancer: A Multi-Center Study.** *cancers*. **15(22)**: 5333, 2023.

Tasaki Y, Sugiyama Y, Hamamoto S, Naiki T, Uemura T, Yokota K, Kawakita D, Nakamura M, Ogawa R, Shimura T, Mimura Y, Hotta Y, Odagiri K, Ito N, Iida M, Kimura Y, Komatsu H, Kataoka H, Takiguchi S, Morita A, Iwasaki S, Okuda K, Niimi A, Yasui T, Furukawa-Hibi Yoko. **Eosinophil may be a predictor of immune-related adverse events induced by different immune checkpoint inhibitor types: A retrospective multidisciplinary study.** *Cancer Med*. **12(24)**: 21666-21679, 2023.

Nagai Ta Naiki T, Sugiyama Y, Etani T, Aoki M, Gonda M, Morikawa T, Iida K, Tomiyama N, Ando R, Kawai N, Yasui T. **A narrative review of peripheral blood parameters for urothelial carcinoma treated with systemic antitumor drugs.** *Transl Androl Urol*. **12(5)**: 790-801, 2023.

Aoki M, Naiki T, Naiki-Ito A, Morikawa T, Matsuyama N, Torii K, Kato T, Maruyama T, Inaguma S, Yasui T. **Successful treatment with enfortumab-vedotin of metastatic signet ring cell cancer expressing nectin-4 and originating from the bladder.** *IJU Case Reports*. **7(2)**: 110-114, 2023.

Morikawa T, Iwatsuki S, Naiki-Ito A, Gonda M, Taguchi K, Naiki T, Hamamoto S, Okada A, Yasui T. **Urothelial carcinoma occurring in a defunctionalized bladder after urinary**

diversion due to the bladder exstrophy-epispadias complex. IJU Case Reports. 7(2): 101-104, 2023.

Hamamoto S, Taguchi K, Kawase K, Unno R, Isogai M, Torii K, Iwatsuki S, Etani T, Naiki T, Okada A, Yasui T. Efficacy of Robot-Assisted Ureteroureterostomy in Patients with Complex Ureteral Stricture after Ureteroscopic Lithotripsy. J. Clin. Med. 12(24): 7726, 2023.

【和文業績】

安井 孝周. 腎動脈瘤、腎動静脈瘻、腎梗塞. 今日の治療指針 2023 年版. 65: 1179-1181, 2022.

安藤 亮介, 安井 孝周. 糖尿病と尿路結石. 泌尿器外科. 36(1): 19-23, 2022.

安井 孝周. 泌尿器科医療の発展に貢献するために (講座クローズアップ). 医事新報社. 2023 年 3 月 20 日合併号: 24, 2022.

岡田 淳志, 大橋 一也, 杉本 真樹, 谷口 直嗣, 林 知樹, 野田 祐介, 岡田 朋記, 茶谷 亮輔, 河瀬 健吾, 永井 隆, 加藤 大貴, 太田 裕也, 杉野 輝明, 海野 怜, 岩月 正一郎, 恵谷 俊紀, 田口 和己, 内木 拓, 瀧本 周造, 河合 憲康, 戸澤 啓一, 安井 孝周. XR (VR・AR・MR) とメタバースの最前線 第 4 回 泌尿器科手術における VR とメタバースの活用について. インナービジョン. 38(4): 76-80, 2022.

田中 勇太郎, 安井 孝周. 結石関連の手術 16. 経皮的腎碎石術 (PNL). 2023 後期研修医がおさえておきたい泌尿器手術. 122-126, 2023.

瀧本 周造, 安井 孝周. 【産婦人科 画像診断アトラス 婦人科疾患】水尿管・水腎症. 臨床婦人科産科. 77(4): 224-231, 2023.

安井 孝周, 他 111 名. 専門医のための腎臓病学 第 3 版, 2023.

岡田 淳志. Doctors White Paper 結石の研究は宇宙へと広がる. precio. 2023 年 7 月号東海版, 2023.

安井 孝周. 尿路結石診療の最新の話と研究への展開. 臨床と研究. 100(7): 109-114, 2023.

竹島 徹平, 安東 聡, 岩端 威之, 梅本 幸裕, 加藤 繭子, 小林 秀行, 小宮 颯, 白石 晃司, 谷口 久哲, 千葉 公嗣, 辻村 晃, 福原 慎一郎, 湯村 寧. 令和 4 年 4 月からの不妊治療保険適用化に伴う保険医療機関における男性不妊診療の変化～生殖医学会男性不妊 Special Interest Group (SIG) アンケートより. 日本泌尿器科学会雑誌. 114(3): 75-80, 2023.

西尾 英紀, 水野 健太郎, 林 祐太郎, 松本 大輔, 加藤 大貴, 丸山 哲史. 精巣付属小体捻転 (精巣垂捻転・精巣上体垂捻転). 小児外科. 55(9): 937-946, 2023.

海野 怜, 安井 孝周. 尿路結石. 最新ガイドラインに基づく 腎・透析診療指針 2023-24. 271-276, 2023.

海野 怜, 安井 孝周. 尿路結石に対する最新の内視鏡治療. 医学のあゆみ (内視鏡医学のすべて-各領域における診断・治療の進歩). 286(14): 1286-1289, 2023.

内木 拓, 安井 孝周. 【どうする! 前立腺癌-多彩な治療薬をどう上手く使うか】mCSPC の薬物治療 mCSPC に対するアピラテロンによる up-front 治療. 臨床泌尿器科. 77(11): 848-852, 2023.

梅本 幸裕. 無精子症について教えてください (泌尿器科で行う治療法). はじめての

精子学. 161-164, 2023.

酒井 亮介、坂田 卓弥、神沢 英幸、廣瀬 泰彦、金本 一洋、窪田 裕樹、安井 孝周. 集学的治療により寛解した陰茎癌 StageIV の 1 例(原著論文). 泌尿器外科. 36(11): 1267-1271, 2023.

原 勲、安井 孝周. ECIRS の標準手術手技を考える(序文). Japanese Journal of Endourology and Robotics. 36(2): 193-193, 2023.

濱本 周造、鳥居 孝英、磯谷 正彦、河瀬 健吾、海野 怜、田口 和己、岡田 淳志、安井 孝周. サング状結石に対する ECIRS (特集 3: ECIRS の標準手術手技を考える). Japanese Journal of Endourology and Robotics. 36(2): 205-211, 2023.

水野 健太郎、西尾 英紀、林 祐太郎、松本 大輔、加藤 大貴、丸山 哲史. 女性外陰形成術(特集:これならわかる性分化疾患). 小児外科. 55(12): 1331-1336, 2023.

【各教員の論文数 (桜山)】

職 名	氏 名	論文数	内訳	
			欧 文	和 文
教授	安井 孝周	38(29)	24(15)	14(14)
准教授	岡田 淳志	15(2)	12(0)	3(2)
講師	濱本 周造	17(4)	14(2)	3(2)
講師	内木 拓	15(2)	13(1)	2(1)
講師	田口 和己	16(0)	14(0)	2(0)
講師	恵谷 俊紀	10(1)	9(1)	1(0)
講師	岩月 正一郎	9(0)	5(0)	4(0)
助教	海野 怜	10(4)	6(2)	4(2)
助教	武田 知樹	1(1)	1(1)	0(0)
教授(地域医療教育研究センター)	安藤 亮介	8(2)	6(0)	2(2)
准教授(地域医療教育研究センター)	中根 明宏	4(0)	4(0)	0(0)

注: () 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す(教授の場合は最終著者の論文も含む)

【各教員の論文数 (東部)】

職 名	氏 名	論文数	内訳	
			欧 文	和 文
部長	丸山 哲司	6(1)	4(0)	2(1)
助教	加藤 大貴	8(0)	5(0)	3(0)
助教	杉野 輝明	2(0)	1(0)	1(0)
助教	茶谷 亮輔	2(0)	1(0)	1(0)

注: () 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す(教授の場合は最終著者の論文も含む)

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
部長	梅本 幸裕	3(1)	1(0)	2(1)
講師	濱川 隆	2(0)	2(0)	0(0)
助教	服部 竜也	2(0)	2(0)	0(0)
助教	松本 大輔	5(1)	3(1)	2(0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（みどり）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
部長	河合 憲康	11(0)	10(0)	1(0)
助教	権田 将一	6(0)	6(0)	0(0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

加藤 大貴. 日本アンドロロジー学会第42回学術大会. 学術奨励賞臨床部門. Low Serum Inhibin B/Follicle-Stimulating Hormones and Anti-Müllerian Hormone/Follicle-Stimulating Hormones Ratios as Markers of Decreased Germ Cells in Infants with Bilateral Cryptorchidism. J Urol 2022, 令和5年6月

加藤 大貴. 第32回日本小児泌尿器科学会・学術集会. 第11回優秀論文賞【臨床部門】. Transvesicoscopic ureteral reimplantation and ureteroscopy for management of primary obstructed non-refluxing megaureter with ureteral calculus. (尿路結石を伴う原発性閉塞性非逆流性巨大尿管に対して内視鏡・気膀胱下手術を行い治癒し得た1例), 令和5年7月

加藤 大貴. 第32回日本小児泌尿器科学会・学術集会. 第11回優秀論文賞【症例部門】. Low Serum Inhibin B/Follicle-Stimulating Hormones and Anti-Müllerian Hormone/Follicle-Stimulating Hormones Ratios as Markers of Decreased Germ Cells in Infants with Bilateral Cryptorchidism. (両側停留精巣患児において、血清インヒビンB/FSH比とAMH/FSH比の低下は、将来の造精機能障害の予測因子となる), 令和5年7月

中根 明宏. 第32回日本小児泌尿器科学会・学術集会. 会長賞. 地方総合病院に開設した小児泌尿器科専門外来の地域医療における役割, 令和5年7月

内木 拓. 第61回日本癌治療学会学術集会. AOS2023 Best Oral Presentation Award. The efficacy of geriatric nutritional risk index as a prognostic marker for up-front abiraterone plus androgen deprivation therapy for Japanese patients with LATITUDE high-risk prostate cancer, 令和5年10月

田口 和己. 一般社団法人日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会. 第37回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会第14回学会賞. A Randomized, Single-Blind Clinical Trial Comparing Robotic-Assisted Fluoroscopic-Guided with Ultrasound-Guided Renal Access for Percutaneous Nephrolithotomy, 令和5年11月

梅本 幸裕. 一般社団法人名古屋市立大学医学部同窓会. 令和5年度 瑞友会賞(臨床部門). 男性不妊症への取り組み, 令和5年11月

【外部資金獲得実績】

・研究助成金

権田 将一、研究助成金(公益財団法人渡邊財団)、令和5年4月-令和6年3月、1,000千円

茶谷 亮輔、研究助成金(公益財団法人愛知腎臓財団 研究助成)、令和5年8月-令和6年3月、250千円

海野 怜、研究助成金(一般財団法人横山臨床薬理研究助成基金)、令和5年10月-令和6年6月、1,000千円

内木 拓、研究助成金(公益信託第24回日本医学会総会記念医学振興基金)、令和5年10月-令和6年10月、1,000千円

内木 拓、研究助成金(一般財団法人愛知健康増進財団)、令和5年12月-令和6年12月、500千円

内木 拓、研究助成金(公益財団法人日東学術振興財団)、令和5年12月-令和7年12月、2,000千円

岡田 淳志、研究助成金(公益財団法人豊秋奨学会)、令和6年2月-令和8年1月、1,680千円

・その他研究費

安井 孝周. 受託研究費(医受2-1). 令和2年度-令和6年度、2,103千円

濱本 周造. 受託研究費(医受2-51). 令和2年度-令和10年度、467千円

濱本 周造. 受託研究費(医受3-93). 令和3年度-令和5年度、255千円

梅本 幸裕. 製版後(西部19-03-654-34). 令和4年度-令和5年度、50千円

濱本 周造. 治験. 令和2年度-令和7年度、609千円

内木 拓. 治験. 平成30年度-令和5年度、1,514千円

内木 拓. 治験. 令和2年度-令和6年度、350千円

内木 拓. 治験. 令和4年度-令和7年度、528千円

惠谷 俊紀. 治験. 令和3年度-令和6年度、1,233千円

・科研費

安井 孝周. 文部科学省科学研究費(基盤B・分担). 令和5年度-7年度、200千円/600千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/400
千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-9 年度、50 千円、250
千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 A・代表) . 令和 4 年度-7 年度、9,500 千円
/31,740 千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300
千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300
千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300
千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 4 年度-6 年度、
安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300
千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300
千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300
千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300
千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300
千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300
千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300
千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 3 年度-7 年度、25 千円/125
千円

安井 孝周. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300
千円

河合 憲康. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

河合 憲康. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300
千円

岡田 淳志. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・代表) . 令和 5 年度-7 年度、4000 千円/12000
千円

岡田 淳志. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

岡田 淳志. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

岡田 淳志. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

岡田 淳志. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

岡田 淳志. 文部科学省科学研究費 (基盤 A・分担) . 令和 4 年度-7 年度、200 千円/800
千円

岡田 淳志. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300
千円

岡田 淳志. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300
千円

岡田 淳志. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300
千円

岡田 淳志. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担) . 令和 4 年度-7 年度、100 千円/300
千円

岡田 淳志. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300
千円

岡田 淳志. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 3 年度-7 年度、25 千円/125
千円

濱本 周造. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担) . 令和 5 年度-7 年度、200 千円/600
千円

濱本 周造. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

濱本 周造. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

濱本 周造. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

濱本 周造. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

濱本 周造. 文部科学省科学研究費 (基盤 A・分担) . 令和 4 年度-7 年度、100 千円/400
千円

濱本 周造. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表) . 令和 4 年度-6 年度、1400 千円/5000
千円

濱本 周造. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300
千円

濱本 周造. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300
千円

内木 拓. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300 千
円

内木 拓. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表) . 令和 3 年度-5 年度、561 千円/5000
千

田口 和己. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

田口 和己. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

田口 和己. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表) . 令和 5 年度-7 年度、1210 千円/5000
千円

田口 和己. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

田口 和己. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

田口 和己. 文部科学省科学研究費 (基盤 A・分担) . 令和 4 年度-7 年度、200 千円/800
千円

田口 和己. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300
千円

田口 和己. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300
千円

田口 和己. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300
千円

田口 和己. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300
千円

田口 和己. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300
千円

田口 和己. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 3 年度-7 年度、25 千円、125
千円

千円

惠谷 俊紀. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

岩月 正一郎. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 5 年度-8 年度、100 千円/400
千円

岩月 正一郎. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300
千円

海野 怜. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 5 年度-7 年度、200 千円/600 千
円

海野 怜. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300 千
円

海野 怜. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300 千
円

海野 怜. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300 千
円

海野 怜. 文部科学省科学研究費 (基盤 A・分担). 令和 4 年度-7 年度、100 千円/400 千
円

海野 怜. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 4 年度-6 年度、2100 千円/5000
千円

武田 知樹. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300
千円

安藤 亮介. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

安藤 亮介. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 5 年度-7 年度、1570 千円/4170
千円

安藤 亮介. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

安藤 亮介. 文部科学省科学研究費 (基盤 A・分担). 令和 4 年度-7 年度、250 千円/1000
千円

安藤 亮介. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 4 年度-6 年度、100 千円-300
千円

中根 明宏. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 4 年度-6 年度、1790 千円/4995
千円

中根 明宏. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300
千円

中根 明宏. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300
千円

丸山 哲史. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

丸山 哲史. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300
千円

丸山 哲史. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300
千円

丸山 哲史. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 3 年度-5 年度、1300 千円/50000
千円

加藤 大貴. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 5 年度-8 年度、100 千円/400
千円

加藤 大貴. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-7 年度、850 千円/5000
千円

加藤 大貴. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

加藤 大貴. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

加藤 大貴. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-9 年度、100 千円/500
千円

加藤 大貴. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300
千円

加藤 大貴. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300
千円

加藤 大貴. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300
千円

杉野 輝明. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

杉野 輝明. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300
千円

杉野 輝明. 文部科学省科学研究費 (基盤 A・分担). 令和 4 年度-7 年度、250 千円/1000
千円

杉野 輝明. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300
千円

杉野 輝明. 文部科学省科学研究費 (若手・代表). 令和 3 年度-5 年度、960 千円/5000
千円

茶谷 亮輔. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300
千円

梅本 幸裕. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 5 年度-8 年度、100 千円/400
千円

梅本 幸裕. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300
千円

濱川 隆. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 3 年度-5 年度、1589 千円/5000
千円

服部 竜也. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 5 年度-7 年度、2000 千円/5000 千円

松本 大輔. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300 千円

松本 大輔. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 5 年度-7 年度、2330 千円/4990 千円

河合 憲康. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300 千円

河合 憲康. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300 千円

権田 将一. 文部科学省科学研究費 (スタート・代表). 令和 4 年度-5 年度、1500 千円/3000 千円

【その他】

・特別研究奨励費

濱本 周造、特別研究奨励費 (国際交流推進関係)、令和 5 年度、180 千円

恵谷 俊紀、特別研究奨励費 (科学研究費獲得活性化事業)、令和 5 年度、600 千円

岩月 正一郎、特別研究奨励費 (科学研究費獲得活性化事業)、令和 5 年度、600 千円

梅本 幸裕、特別研究奨励費 (科学研究費獲得活性化事業)、令和 5 年度、300 千円

茶谷 亮輔、特別研究奨励費 (科学研究費獲得活性化事業)、令和 5 年度、597 千円

河合 憲康、特別研究奨励費 (科学研究費獲得活性化事業)、令和 5 年度、247 千円

権田 将一、特別研究奨励費 (科学研究費獲得活性化事業)、令和 5 年度、600 千円

安井 孝周、特別研究奨励費 (外部資金獲得活性化事業)、令和 5 年度、2,140 千円

・国際学会業績(筆頭のみ)

Okada Atsushi. American Urological Association's 2023 Annual Meeting (AUA2023). (Poster)The Usefulness of the Resection Process Map for Robot-Assisted Partial Nephrectomy for Renal Tumors: Propensity Score Matching. 2023.4.28-5.1

Okada Atsushi. American Urological Association's 2023 Annual Meeting (AUA2023). (Poster)Development of virtual reality (VR) simulation of robot-assisted partial nephrectomy using Metaverse. 2023.4.28-5.1

Hamamoto Shuzo. American Urological Association's 2023 Annual Meeting (AUA2023). Ureteral stent biomaterial encrustation after endoscopic surgery: a prospective, randomized study. 2023.4.28-5.1

Taguchi Kazumi. American Urological Association's 2023 Annual Meeting (AUA2023). (Evening Seminar)Economic impact of single-use flexible ureteroscopes. 2023.4.28-5.1

Taguchi Kazumi. 36th annual meeting of the Engineering and Urology Society. Efficacy for robot-

assisted fluoroscopic renal puncture in mitigating learning curve for PCNL. 2023.4.28-5.1

Iwatsuki Shoichiro. American Urological Association's 2023 Annual Meeting (AUA2023). (Poster)Effects of age on testicular function and the sperm retrieval rate in men with nonobstructive azoospermia. 2023.4.28-5.1

Unno Rei. American Urological Association's 2023 Annual Meeting (AUA2023). Single cell transcriptional profiles of benign prostatic hyperplasia. 2023.4.28-5.1

Unno Rei. American Urological Association's 2023 Annual Meeting (AUA2023). (Judge and Moderator)AUA Early Career Investigator Showcase. 2023.4.28-5.1

Sugino Teruaki. American Urological Association's 2023 Annual Meeting (AUA2023). Robot-assisted fluoroscopy versus ultrasound-guided renal puncture for nephrolithotomy in the spine position: Multicenter prospective study. 2023.4.28-5.1

Takeda Tomoki. American Urological Association's 2023 Annual Meeting (AUA2023). Serum anti-Müllerian hormone in relation to sperm retrieval rate and testicular histopathology in non-obstructive azoospermia. 2023.4.28-5.1

Yasui Takahiro. 2023 Hallym University-Nagoya City University International Symposium(The 15th Basic-Clinical Translation Research Workshop). (Chair)Session3. 2023.5.18

Hamamoto Shuzo. APAC Urology Strategic Advisory Board 2023. 2023.6.23

Taguchi Kazumi. JRRMMC Urology Post Graduate Course 2023.50th Founding Anniversary Beyond Limits: Exploring New Frontiers. PRONE ECIRS. 2023.7.17-22

Hamamoto Shuzo. 5th Endoluminal&Technology Symposium in Seoul 2023. (Moderator)New Technology in Flexible Ureteroscopy. 2023.8.11-12

Hamamoto Shuzo. 5th Endoluminal&Technology Symposium in Seoul 2023. Endoscopic surgery vs. nephrectomy in patients with decreased renal function. 2023.8.11-12

Taguchi Kazumi. 5th Endoluminal&Technology Symposium in Seoul 2023. Technology-based PCNL. 2023.8.11-12

Unno Rei. The Hong Kong Congress of Endourology2023. How cai I du better in RIRS?. 2023.8.27

Unno Rei. The Hong Kong Congress of Endourology2023. (Judge)video presentation. 2023.8.27

Taguchi Kazumi. 39th World Congress of Endourology and Uro-Technology. (Plenary Presentation)Percutaneous: Robotic access. 2023.10.4

Naiki Taku. The 3rd International Congress of the Asian Oncology Society(AOS2023). The efficacy of geriatric nutritional risk index as a prognostic marker for up-front abiraterone plus androgen deprivation therapy for Japanese patients with LATITUDE high-risk prostate cancer. 2023.10.19-21

Shuzo Hamamoto. World Congress of Endourology and Uro-Technology(WCET2023). Quality of life after urinary stone surgery based on Japanese Wisconsin Stone Quality of Life Questionnaire. 2023.10.23-27

Taguchi kazumi. World Congress of Endourology and Uro-Technology(WCET2023). (Poster)Efficacy of a ureteral illuminating catheter in robot-assisted ureteral reconstruction. 2023.10.23-27

Taguchi kazumi. World Congress of Endourology and Uro-Technology(WCET2023). (Poster)Efficacy for robot-assisted fluoroscopic renal puncture in mitigating learning curve for

percutaneous nephrolithotomy. 2023.10.23-27

Unno Rei. World Congress of Endourology and Uro-Technology(WCET2023). (Poster)Single cell transcriptional profiles of benign prostatic hyperplasia. 2023.10.23-27

・国内学会業績(筆頭のみ)

Yasui Takahiro. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (Facilitator)Panel Discussion Theme: Stones. 2023.4.20-22

Yasui Takahiro. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (Chairs)(Panel Discussion)How to manage complications of endoscopic surgery for urinary stones. 2023.4.20-22

安井 孝周. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. NCD 運営委員会活動報告. 2023.4.20-22

Yasui Takahiro. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (Chairs)(Cross Innovation: New Developments Created by Industry-Academia-Government Collaboration 3)Development of medical engineering technology for medicine in the future. 2023.4.20-22

Yasui Takahiro. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (Symposium)Diagnostic evaluation and Conservative management. 2023.4.20-22

安井 孝周. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (座長)(ランチョンセミナー)次世代内視鏡リソビューエリートの可能性-腎内圧の術中リアルタイムモニタリングの臨床的価値. 2023.4.20-22

岡田 淳志. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (ビデオ)(総会賞ビデオ 副腎・腎・尿管・その他)ロボット支援腎部分切除術(RAPN)のためのバーチャルリアリティ・カンファレンス開発. 2023.4.20-22

Okada Atsushi. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (Chair)(Symposium)First penguin and scrap and build in endourological stone surgery. 2023.4.20-22

Hamamoto Shuzo. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (Chair)(International Session Poster 06)Infectious disease, Pediatric urology, Urethroplasty and genital reconstruction, Stones. 2023.4.20-22

Hamamoto Shuzo. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (Symposium)Scrap and build - Technological evolution of ECIRS. 2023.4.20-22

Hamamoto Shuzo. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (Poster)A prospective, randomized, single-blind study of ureteral stent biomaterial encrustation after endoscopic surgery. 2023.4.20-22

濱本 周造. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (イブニングセミナー)ECIRS の課題を考える. 2023.4.20-22

内木 拓. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. 前立腺発がん・進展予防を目的としたルテオリンを用いた臨床試験のための安全性の検証. 2023.4.20-22

Taguchi Kazumi. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (Panel Discussion)Optimizing percutaneous access and increasing efficacy of double endoscopic tools for mitigating complications during ECIRS. 2023.4.20-22

Taguchi Kazumi. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (Chair)一般ポスター73 結石/基礎. 2023.4.20-22

田口 和己. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (パネルディスカッション)ECIRS におけ

る合併症予防:最適な腎穿刺と経皮的・経尿道的スコープの協調運動. 2023.4.20-22

田口 和己. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (ポスター)尿路結石症データバンク構築のための REDCap を利用した多施設共同前向き研究の設立. 2023.4.20-22

Etani Toshiki. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (Chair)一般ポスター39 感染症①. 2023.4.20-22

恵谷 俊紀. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (ポスター)Staphylococcus saprophyticus の抗菌薬感受性とその臨床像. 2023.4.20-22

Etani Toshiki. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (Symposium)Updated descriptions of the field of urologic stone surgery in the Guidelines for the Prevention of Perioperative Infections in Urology 2023. 2023.4.20-22

Iwatsuki Shoichiro. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (International Session Award)Effects of age on testicular function and the sperm retrieval rate in men with nonobstructive azoospermia. 2023.4.20-22

Unno Rei. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (Panelist)Lasers for Intracorporeal Lithotripsy. 2023.4.20-22

Unno Rei. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (Symposium)Deregulated mTOR is responsible for autophagy defects exacerbating kidney stone development. 2023.4.20-22

Unno Rei. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (Poster)Maternal family history of urolithiasis is associated with earlier age of onset of stone disease. 2023.4.20-22

Kawai Noriyasu. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (Chair)(一般口演 66 前立腺腫瘍/手術①). 2023.4.20-22

丸山 哲史. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. 思春期以降の症例に対する内視鏡的逆流防止術における尿管口形態の影響. 2023.4.20-22

杉野 輝明. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. 単回使用ごとに生じる軟性尿管鏡の損傷に關与する因子の検討:単一施設前向き研究. 2023.4.20-22

濱川 隆. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (ポスター)前立腺癌に対する陽子線治療が下部尿路機能に及ぼす影響の検討. 2023.4.20-22

服部 竜也. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (ポスター)マクロファージの結晶付着におけるオステオポンチンの機能解析. 2023.4.20-22

茶谷 亮輔. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (総会賞ポスター 感染症・尿路結石)結石モデルマウスの網羅的解析とヒト GWAS の統合解析による腎臓特異的尿路結石関連遺伝子の同定. 2023.4.20-22

茶谷 亮輔. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (若手研究者クローズアップ企画<非腫瘍>)結石モデルマウスの網羅的解析とヒト GWAS の統合解析による腎臓特異的尿路結石関連遺伝子の同定. 2023.4.20-22

松本 大輔. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (総会賞ポスター アンドロロジー・不妊・性機能)遊走精巣における精細管あたりの生殖細胞数とセルトリ細胞ホルモンとの関連についての検討. 2023.4.20-22

中根 明宏. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (ポスター)地方総合病院に開設された小児泌尿器科専門外来の地域医療における役割. 2023.4.20-22

加藤 大貴. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. 高齢の前立腺肥大症患者に対する PUL の

術後早期の成績と安全性. 2023.4.20-22

惠谷 俊紀. 第 97 回日本感染症学会総会・学術講演会/第 71 回日本化学療法学会学術集会. (シンポジウム)結石性腎盂腎炎の診断と治療アップデート. 2023.4.28-30

丸山 哲史. 令和 5 年度名古屋市立大学オープンカレッジ「今、知りたい、子どもたちのための最先端の医療～名市大病院群の最新の小児医療～」. 小児の尿失禁と夜尿症. 2023.5.19

安井 孝周. 第 96 回日本内分泌学会学術総会. (シンポジウム)副腎手術の進化と現在・未来. 2023.6.1-3

服部 竜也. 第 293 回日本泌尿器科学会東海地方会. 陰嚢内巨大脱分化型脂肪肉腫の一例. 2023.6.10

惠谷 俊紀. さくらやま抗菌化学療法セミナー. 泌尿器科領域感染症の抗菌化学療法. 2023.6.16

武田 知樹. 第 41 回中部生殖医学会学術集会. 当科における非閉塞性無精子症患者の染色体異常. 2023.6.17

安井 孝周. 日本アンドロロジー学会第 42 回学術大会. (座長)(シンポジウム)超少子・超高齢を診る 臨床編. 2023.6.23-24

武田 知樹. 日本アンドロロジー学会第 42 回学術大会. (シンポジウム)蛍光標識剤と多光子顕微鏡を用いた活発な精子形成領域の同定. 2023.6.23-24

岩月 正一郎. 日本アンドロロジー学会第 42 回学術大会. (シンポジウム)無精子症患者の病理組織から少子・高齢・晩婚化社会を考える. 2023.6.23-24

岩月 正一郎. 日本アンドロロジー学会第 42 回学術大会. (学会賞候補演題:臨床部門)無精子症患者のメンズヘルス～Aging Males' Symptoms スケールを用いた評価の多変量解析～. 2023.6.23-24

濱本 周造. 日本アンドロロジー学会第 42 回学術大会. (スポンサードシンポジウム)前立腺がん手術治療における Retzius 腔温存ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術(Retzius spearing RARP)の現状と課題. 2023.6.23-24

武田 知樹. 日本アンドロロジー学会第 42 回学術大会. 当科における非閉塞性無精子症患者の染色体異常. 2023.6.23-24

田口 和己. 令和 4 年度愛知腎臓財団助成研究発表会. 尿路結石患者のデータ・バイオバンク情報の統合解析によるオミクス医療の確立. 2023.7.1

濱本 周造. Stone Expert Meeting 尿路結石症トータルケアセミナー. (座長)尿路結石症外科的治療の現状と今後. 2023.7.1

濱本 周造. Stone Expert Meeting 尿路結石症トータルケアセミナー. (座長)尿路結石症の再発管理のために. 2023.7.1

安藤 亮介. 第 72 回三重泌尿器科医会. 膀胱原発形質細胞様尿路上皮癌の 1 例. 2023.7.2

濱本 周造. 第 34 回新潟泌尿器科手術手技研究会. 合併症を起こさない「尿路結石内視鏡手術」の極め方. 2023.7.4

濱本 周造. 増え続ける慢性腎臓病-無視できない国民病-. 泌尿器科疾患と CKD. 2023.7.6

- 安井 孝周. 第 32 回日本腎泌尿器疾患予防医学研究会. (座長)(一般演題). 2023.7.6-7
- 梅本 幸裕. 令和 5 年度名古屋市立大学オープンカレッジ「今、知りたい、子どもたちのための最先端の医療～名市大病院群の最新の小児医療～」. 少子化のなかの生殖補助医療-思春期からできる不妊症予防-. 2023.7.7
- 梅本 幸裕. 第 33 回日本性機能学会中部総会. (座長). 2023.7.8
- 岩月 正一郎. 第 33 回日本性機能学会中部総会. 射精障害を有する Zinner 症候群の 3 例. 2023.7.8
- 濱本 周造. The 14th Tokai Robotic Urology Symposium. 難治性尿管狭窄に対するロボット支援尿管形成術の取り組み. 2023.7.14
- 岩月 正一郎. 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会. 顕微鏡下低位結紮. 2023.7.19-21
- 岩月 正一郎. 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会. (座長)(ポスター)停留精巣 2/精索静脈瘤. 2023.7.19-21
- 岩月 正一郎. 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会. (ポスター)小児精索静脈瘤低位結紮後のフォローアップにおける問題点～これまでの当科の経験から～. 2023.7.19-21
- 丸山 哲史. 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会. (教育プログラム)小児排尿障害の薬物療法. 2023.7.19-21
- 丸山 哲史. 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会. (ポスター)デフラックス注入療法の工夫：小児症例における尿管口の開大と変形. 2023.7.19-21
- 松本 大輔. 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会. 陰嚢アプローチ. 2023.7.19-21
- 松本 大輔. 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会. (学会賞候補演題 臨床部門)両側遊走精巣におけるセルトリ細胞ホルモンと精細管あたりの生殖細胞数との関連についての検討. 2023.7.19-21
- 松本 大輔. 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会. (学会賞候補演題 症例報告部門)摘除性腺に gonadoblastoma を認めた 45,X/46,XY モザイク型 Turner 症候群の 1 例. 2023.7.19-21
- 加藤 大貴. 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会. (ポスター)消退精巣のセルトリ細胞機能に着目した対側精巣の代償性肥大の機序の考察～停留精巣のセルトリ細胞機能との比較～. 2023.7.19-21
- 加藤 大貴. 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会. (座長)(ポスター)感染. 2023.7.19-21
- 中根 明宏. 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会. (座長)(ポスター)地域医療. 2023.7.19-21
- 中根 明宏. 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会. (ポスター)地方総合病院に開設した小児泌尿器科専門外来の地域医療における役割. 2023.7.19-21
- 恵谷 俊紀. 第 38 回日本環境感染学会総会・学術集会. (ポスター)当院における *Providencia rettgeri* の臨床像と抗菌薬感受性. 2023.7.20-22
- 濱本 周造. Final Announcement GU Master Class 2023 in Osaka. 名古屋市立大学とその関連病院における NIVO+IPI の使用経験 ～irAE の観点から～. 2023.7.29
- 安井 孝周. 日本尿路結石症学会第 33 回学術集会. (座長)尿路結石内視鏡手術の Tips and Tricks. 2023.8.25-26

岡田 淳志. 日本尿路結石症学会第 33 回学術集会. マクロファージの結晶貪食能を用いた FDA 承認化合物ライブラリー解析による創薬研究. 2023.8.25-26

岡田 淳志. 日本尿路結石症学会第 33 回学術集会. (座長)(シンポジウム)結石形成機序の解明と臨床実装への可能性. 2023.8.25-26

濱本 周造. 日本尿路結石症学会第 33 回学術集会. (スポンサーセミナー)Unleash the full power of lithotripsy~New wave of the Standard IntraRenal Pressure Monitoring LithoVue™EliteElite~. 2023.8.25-26

濱本 周造. 日本尿路結石症学会第 33 回学術集会. 尿路結石治療におけるハイブリッド・ツリウムレーザーへの期待と課題. 2023.8.25-26

田口 和己. 日本尿路結石症学会第 33 回学術集会. (シンポジウム)マクロファージによる結石溶解治療の臨床実装を目指して. 2023.8.25-26

田口 和己. 日本尿路結石症学会第 33 回学術集会. (座長)(一般演題)教育・診断・ESWL. 2023.8.25-26

安藤 亮介. 日本尿路結石症学会第 33 回学術集会. 尿路結石症診療ガイドライン第 3 版を読みとく「保存的治療」. 2023.8.25-26

杉野 輝明. 日本尿路結石症学会第 33 回学術集会. ロボット支援透視ガイド下腎穿刺 vs 超音波ガイド下腎穿刺：多施設共同前向き研究. 2023.8.25-26

茶谷 亮輔. 日本尿路結石症学会第 33 回学術集会. 尿路結石症の種横断的オミクス解析による細胞種特異的結石関連分子の同定. 2023.8.25-26

服部 竜也. 日本尿路結石症学会第 33 回学術集会. マクロファージにおける結晶付着のオステオポンチンの機能解析. 2023.8.25-26

内木 拓. 第 30 回日本排尿機能学会. (モーニングセミナー)リアルワールドデータに基づいた Up front による mHSPC 治療の最新トレンド. 2023.9.7-9

濱川 隆. 第 30 回日本排尿機能学会. 前立腺癌に対する寡分割照射による陽子線治療が下部尿路へ及ぼす影響の検討. 2023.9.7-9

加藤 大貴. 第 30 回日本排尿機能学会. 前立腺腫大に伴う下部尿路症状に対する PUL と WAVE の手術成績と安全性. 2023.9.7-9

加藤 大貴. 第 30 回日本排尿機能学会. (モーニングセミナー)MIST- 導入における患者選択のポイントと手術手技の tips and tricks. 2023.9.7-9

恵谷 俊紀. ID フォーラム 2023. 尿路感染症. 2023.9.9

安井 孝周. わかしゃち泌尿器科セミナー. (座長)尿路上皮癌に関する研究と治療. 2023.9.13

海野 怜. 桜山地域医療連携勉強会. かくれたコモンディジェズ、副腎腫瘍-副腎腫瘍センター設立のご案内-. 2023.9.14

岩月 正一郎. 日本性機能学会第 33 回学術総会/第 31 回日本性機能学会西部総会. 無精子症患者に潜在する男性更年期症状. 2023.9.15-17

梅本 幸裕. 愛知県看護協会 名古屋南地区支部・名古屋北地区支部主催 医療従事者による健康応援フェスタ「COLORFFUL 彩」企画. (県民公開講座)ペアで取り組む不妊症治療. 2023.9.24

内木 拓. Next Generation Prostate Cancer Seminar in TAMA2023. 進行性前立腺癌の薬物

療法について-アパルタミドを中心に-. 2023.9.27

安井 孝周. 第 88 回日本泌尿器科学会東部総会. (座長)日本泌尿器科学会 NCD 事業 update2023. 2023.10.5-7

安井 孝周. 第 88 回日本泌尿器科学会東部総会. (座長)(ワークショップ)どうする泌尿器科領域感染症. 2023.10.5-7

海野 怜. 第 88 回日本泌尿器科学会東部総会. (パネルディスカッション)尿路結石に対する薬物療法. 2023.10.5-7

安井 孝周. 第 73 回日本泌尿器科学会中部総会. (座長)(シンポジウム)尿路結石の手術から再発予防まで. 2023.10.12-14

安井 孝周. 第 73 回日本泌尿器科学会中部総会. (司会)(教育セミナー)前立腺癌 診断と治療 up to date. 2023.10.12-14

安井 孝周. 第 73 回日本泌尿器科学会中部総会. (座長)日本泌尿器科学会 NCD 事業 update2023. 2023.10.12-14

岡田 淳志. 第 73 回日本泌尿器科学会中部総会. (座長)外傷/異物/その他. 2023.10.12-14

濱本 周造. 第 73 回日本泌尿器科学会中部総会. (座長)尿路上皮癌 2. 2023.10.12-14

内木 拓. 第 73 回日本泌尿器科学会中部総会. 転移性尿路上皮癌に対する 3 次治療施行症例の後方視的解析. 2023.10.12-14

海野 怜. 第 73 回日本泌尿器科学会中部総会. (シンポジウム)尿路結石に対する再発予防-現況と基礎研究からみた未来. 2023.10.12-14

武田 知樹. 第 73 回日本泌尿器科学会中部総会. (ポスター)Micro-TESE への応用を目指した多光子顕微鏡観察における蛍光標識剤の毒性評価. 2023.10.12-14

安藤 亮介. 第 73 回日本泌尿器科学会中部総会. (座長)腎癌 1. 2023.10.12-14

加藤 大貴. 第 73 回日本泌尿器科学会中部総会. 前立腺腫大による下部尿路症状に対する経尿道的水蒸気治療の手術成績と安全性. 2023.10.12-14

加藤 大貴. 第 73 回日本泌尿器科学会中部総会. (ポスター)消退精巣症例における健側精巣の代償性肥大とセルトリ細胞ホルモンの関連についての検討. 2023.10.12-14

茶谷 亮輔. 第 73 回日本泌尿器科学会中部総会. (総会賞候補演題)ヒト GWAS とマウス腎の解析を統合した種横断的オミクス解析による尿路結石関連分子と細胞種の同定. 2023.10.12-14

恵谷 俊紀. 第 61 回日本癌治療学会学術集会. (ポスター)オピオイド内服中の患者における便秘症に対するエロピキシバット投与の効果. 2023.10.19-21

内木 拓. 日本泌尿器腫瘍学会 第 9 回学術集会. 非転移性去勢抵抗性前立腺癌に対する後方視的解析. 2023.10.21-22

内木 拓. Conference on Clinical Prostate Cancer. (パネリスト)mCSPC の最適な集学的治療を考える. 2023.10.28

岡田 淳志. 第 75 回西日本泌尿器科学会総会. (シンポジウム)近未来の尿路結石治療. 2023.11.2-5

安井 孝周. 第 33 回臨床内分泌代謝 Update. (座長)臨床内分泌代謝入門:フレイル・サルコペニアと性ホルモン. 2023.11.3-4

- 安井 孝周. 第 33 回臨床内分泌代謝 Update. (座長)(教育講演)男性の性腺機能低下症. 2023.11.3-4
- 安井 孝周. 第 37 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会. (座長)最新のエビデンスからみる尿路結石手術の適応と守備範囲. 2023.11.9-11
- 岡田 淳志. 第 37 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会. (座長)(ポスター)Endourology 腎. 2023.11.9-11
- 岡田 淳志. 第 37 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会. (シンポジウム)最新の腎結石治療の総括. 2023.11.9-11
- 岡田 淳志. 第 37 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会. (総会賞ポスター)ESWL 公式トレーニング advanced course の確立. 2023.11.9-11
- 濱本 周造. 第 37 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会. (シンポジウム)ESWL 治療を再考する. 2023.11.9-11
- 濱本 周造. 第 37 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会. (総会賞ポスター)難治性尿管狭窄に対するロボット支援尿管形成術 (単施設前向き観察研究: 第一相試験). 2023.11.9-11
- 内木 拓. 第 37 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会. Retzius-sparing RARP における術後 de novo OAB 発症に関する検討. 2023.11.9-11
- 海野 怜. 第 37 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会. (ポスター)単回使用軟性尿管鏡による術後尿路感染症・医療機関利用の関連. 2023.11.9-11
- 田口 和己. 第 37 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会. (総会賞ビデオ)ロボット支援下尿管形成術に対する尿管照明用カテーテルの有用性の調査. 2023.11.9-11
- 中根 明宏. 第 37 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会. 操作性・制癌性改善とランニングコスト抑制を両立したロボット支援下前立腺全摘除術. 2023.11.9-11
- 岩月 正一郎. 第 68 回日本生殖医学会学術講演会・総会. (座長)精子・精巣. 2023.11.9-10
- 岩月 正一郎. 第 68 回日本生殖医学会学術講演会・総会. TESE を受ける患者の妻年齢と不妊期間からみた早期受診の重要性. 2023.11.9-10
- 安井 孝周. わかしやち泌尿器科セミナー. (座長)私の行ってきた診療研究のこれまでとこれから～前立腺癌と前立腺肥大症も含めて～. 2023.11.29
- 安井 孝周. 第 4 回山梨泌尿器科治療 UPDATE. 尿路結石をどうするかーガイドライン改訂と形成機序からみた未来ー. 2023.11.30
- 濱本 周造. 第 52 回結晶成長国内会議 (JCCG-52). 分子レベルで紐解く尿路結石形成機序の解明と新たな治療方法の開発に向けた臨床的挑戦. 2023.12.4-6
- 安井 孝周. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会. (司会)泌尿器 疾患・その他. 2023.12.7-9
- 濱本 周造. 第 36 回日本内視鏡外科学会総会. ロボット支援手術における鉗子の耐久性を調べる後方視的研究. 2023.12.7-9
- 濱本 周造. Young Urologist Interactive Seminar. (司会). 2023.12.15
- 安井 孝周. わかしやち泌尿器科セミナー. (座長). 2024.1.31

濱本 周造. わかしやち泌尿器科セミナー. 進行性腎癌に対する薬物治療について. 2024.1.31

惠谷 俊紀. 第 35 回日本臨床微生物学会総会・学術集会. *Aerococcus urinae* の抗菌薬感受性とその臨床像. 2024.2.9-11

安井 孝周. 第 16 回日本ロボット外科学会学術集会. (シンポジウム)泌尿器ロボット手術の展望. 2024.2.10-11

安井 孝周. 第 16 回日本ロボット外科学会学術集会. (座長)腎膀胱②. 2024.2.10-11

武田 知樹. 第 16 回日本ロボット外科学会学術集会. ロボット支援手術における鉗子の耐久性を調べる後方視的研究. 2024.2.10-11

・新聞・広報誌等の掲載

安井 孝周. 医師国家試験出題基準令和 6 年度版, 2023.

井川 掌、三井 貴彦、伊藤 敬一、白木 良一、安井 孝周、溝上 敦、斎藤 誠一、宮里 実、望月 孝規、堀口 明男、黒田 健司、糠谷 拓尚、河合 昭浩、中根 明宏、泉 浩二、築井 克聡、上村 慶一郎、仲西 昌太郎、須田 哲司. (小改訂). 泌尿器科用語集 (第 5 版) 日本泌尿器科学会【第 5 版】, 2023.

岡田 淳志. (解説執筆). 第 117 回医師国家試験問題解説, 2023.

安井 孝周、他 111 名. 専門医のための腎臓病学 第 3 版, 2023.

梅本 幸裕. (ピックアップニュース)幅広い不妊治療に取り組む「生殖医療センター」を開設(9/4~). 広報なごや. 令和 5 年 9 月号, 2023.

梅本 幸裕. 「まったなしの生殖医療～生殖医療センター始動～」/西部医療センター. 瑞医. 51: 6, 2023.

梅本 幸裕. 生殖医療センター始動. 西部医療センター院内ニュース SKY. 9: 1-2, 2023.

梅本 幸裕、他 86 名. 生殖医療の必修知識 2023, 2023.

(泌尿器科領域)協力委員:安井 孝周、協力者:水野 健太郎、編集:一般社団法人日本内視鏡外科学会. 2023 年技術認定取得者のための内視鏡外科診療ガイドライン, 2023.

梅本 幸裕. 男性不妊受診しやすく. 中日新聞. 日刊(2023.12.19): 15, 2023.

安井 孝周(ガイドライン改訂統括委員会委員、ガイドライン改訂委員会、教科書的記載作成チーム)、濱本 周造(ガイドライン改訂委員会、システムティックレビューチーム、アルゴリズム作成チーム、教科書の記載作成チーム)、安藤 亮介(システムティックレビューチーム、教科書の記載作成チーム)、宇佐美 雅之(システムティックレビューチーム)、海野 怜(システムティックレビューチーム、教科書の記載作成チーム)、岡田 淳志(システムティックレビューチーム、教科書の記載作成チーム)、杉野 輝明(システムティックレビューチーム)、田口 和己(システムティックレビューチーム、教科書の記載作成チーム)、戸澤 啓一(システムティックレビューチーム)、林 勇太郎(リエゾン委員)、他. 尿路結石症診療ガイドライン第 3 版 023 年版, 2023.

—心臓血管外科学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

1. Ayako Chida-Nagai, Naoki Masaki, Kay Maeda, Konosuke Sasaki, Hiroki Sato, Jun Muneuchi, Yoshie Ochiai, Hiroomi Murayama, Masahiro Tahara, Atsuko Shiono, Atsushi Shinozuka, Fumihiko Kono, Daisuke Machida, Shinichi Toyooka, Seiichiro Sugimoto, Kazufumi Nakamura, Satoshi Akagi, Maiko Kondo, Shingo Kasahara, Yasuhiro Kotani, Junichi Koizumi, Katsuhiko Oda, Masako Harada, Daisuke Nakajima, Akira Murata, Hazumu Nagata, Koichi Yatsunami, Tomio Kobayashi, Yoshikiyo Matsunaga, Takahiro Inoue, Hiroyuki Yamagishi, Naomi Nakagawa, Katsuki Ohtani, Masaki Yamamoto, Yushi Ito, Tatsunori Hokosaki, Yuta Kuwahara, Satoshi Masutani, Koji Nomura, Tsutomu Wada, Hirofumi Sawada, Masayuki Abiko, Tatsunori Takahashi, Yuichi Ishikawa, Seigo Okada, Atsushi Naitoh, Takako Toda, Tatsuya Ando, Akihiro Masuzawa, Shinsuke Hoshino, Masaaki Kawada, Yuichi Nomura, Kentaro Ueno, Naoki Ohashi, Tsuyoshi Tachibana, Yuchen Cao, Hideaki Ueda, Sadamitsu Yanagi, Masaaki Koide, Norie Mitsushita, Kouji Higashi, Yoshihiro Minosaki, Tomohiro Hayashi, Takashi Okamoto, Kenji Kuraishi, Eiji Ehara, Hidekazu Ishida, Hitoshi Horigome, Takashi Murakami, Kohta Takei, Taku Ishii, Gen Harada, Yasutaka Hirata, Jun Maeda, Shunsuke Tatebe, Chiharu Ota, Yasunobu Hayabuchi, Hisanori Sakazaki, Takashi Sasaki, Keiichi Hirono, Sayo Suzuki, Masahiro Yasuda, Atsuhito Takeda, Madoka Sawai, Kagami Miyaji, Atsushi Kitagawa, **Yosuke Nakai**, Nobuyuki Kakimoto, Kouta Agematsu, Atsushi Manabe, Yoshikatsu Saiki. **Use of the index of pulmonary vascular disease for predicting long-term outcome of pulmonary arterial hypertension associated with congenital heart disease.** *Frontiers in Cardiovascular Medicine.* **10:** 1212882, 2023.
2. Tsubata H, Nakanishi N, Itatani K, Takigami M, Matsubara Y, Ogo T, Fukuda T, Matsuda H, Matoba S. **Pulmonary artery blood flow dynamics in chronic thromboembolic pulmonary hypertension.** *Sci Rep.* **13(1):** 6490, 2023.
3. Akiyama K, Wu I, Itatani K, Tachibana Y, Obata Y, Takayama H. **Loss of left ventricular vortex ring in left ventricular assist device-induced right ventricular failure.** *Ann Card Anaesth.* **26(2):** 235,2023.
4. Horiguchi R, Takehara Y, Sugiyama M, Hyodo R, Komada T, Matsushima M, Naganawa S, Mizuno T, Sakurai Y, Sugimoto M, Banno H, Komori K, Itatani K. **Postendovascular Aneurysmal Repair Increase in Local Energy Loss for Fusiform Abdominal Aortic Aneurysm: Assessments With 4D flow MRI.** *J Magn Reson Imaging.* **57(4):** 1199-1211, 2023.
5. Kobsa S, Akiyama K, Nemeth SK, Kurlansky PA, Naka Y, Takeda K, Itatani K, Werth EG, Brown LM, Ferrari G, Takayama H. **Correlation between aortic valve protein levels and vector flow mapping of wall shear stress and oscillatory shear index in patients supported with continuous-flow left ventricular assist devices.** *J Heart Lung Transplant.* **42(1):** 64-75, 2023.
6. Akiyama K, Colombo PC, Stöhr EJ, Ji R, Wu IY, Itatani K, Miyazaki S, Nishino T, Nakamura N, Nakajima Y, McDonnell BJ, Takeda K, Yuzefpolskaya M, Takayama H. **Blood flow kinetic energy is a novel marker for right ventricular global systolic function in patients with left ventricular assist device therapy.** *Front Cardiovasc Med.* **16(10):** 1093576, 2023.

7. Saito J, Kamiya S, Numata Y, Sasaki H, Asano M. **Management of Coronary Artery Bypass Grafting Using an Arteriovenous Fistula: An Intraoperative Change in the Preoperative Plan.** *Cureus.* **15(2):** e35517,2023.
8. Sasaki H, Numata Y, Saito J, Kamiya S, Asano M. **Posterior Mitral Leaflet Prolapse and Subsequent Mitral Valve Endocarditis Complicated With Anterior Leaflet Perforation.** *Cureus.* **15(3):** e36315, 2023.
9. Sasaki H, Numata Y, Saito J, Sone Y, Asano M. **Posterior Mitral Leaflet (PML) Perforation due to Infective Endocarditis (IE) Complicated with Cerebral Infarction.** *Cureus.* **15(3):** e36491, 2023.
10. Sasaki H, Numata Y, Saito J, Asano M, Sasaki O. **Partial Arch Replacement Using Common Trunk Perfusion in Type A Acute Aortic Dissection.** *Cureus.* **15(3):** e36553, 2023.
11. Sasaki H, Numata Y, Kamiya S, Sone Y, Sasaki O. **Conservative Treatment for Isolated Superior Mesenteric Artery Dissection With Severely Narrowed True Lumen.** *Cureus.* **15(4):** e37852, 2023.
12. Sasaki H, Sone Y, Numata Y, Kamiya S, Asano M. **Worsening Isolated Superior Mesenteric Artery Dissection on the Day After Discharge.** *Cureus.* **15(4):** e38100. 2023.
13. Sasaki H, Numata Y, Kamiya S, Sone Y, Sasaki O. **An Escherichia coli-Induced Distal Arch Aneurysm Presenting With Hemoptysis.** *Cureus.***15(6):** e40654, 2023.
14. Sasaki H, Numata Y, Kamiya S, Sone Y, Hayakawa S. **Distal Arch Aneurysm Discovered With Dysphagia.** *Cureus.* **15(8):** e43406, 2023.
15. Sasaki H, Sone Y, Numata Y, Kamiya S, Hayakawa S. **Deep Femoral Artery Aneurysm Resection and Revascularization With a Saphenous Vein.** *Cureus.* **15(8):** e44092, 2023.
16. Sasaki H, Sone Y, Kamiya S, Numata Y, Hayakawa S. **Type A Acute Aortic Dissection Presenting With Arch and Abdominal Aortic Aneurysms.** *Cureus.* **15(9):**e44629, 2023
17. Sasaki H, Kamiya S, Numata Y, Saito J, Sone Y, Asano M. **Pulsatile thrombus evacuation from the false lumen of an occluded carotid artery in acute aortic dissection.** *J Vasc Surg Cases Innov Tech.* **9(3):** 101264, 2023.
18. Shinji Ogawa, Yoshiharu Mori, Tumurbaatar Batkhishig, Toshiyuki Yamada, Yuhei Saito, Yukihide Numata, Shinji Kamiya, Miki Asano, Takayuki Saito, Hisao Suda.**Propensity score analysis comparing off-pump versus on-pump coronary artery bypass grafting in older adults.***General Thoracic and Cardiovascular Surgery.* 71: 498-504, 2023.

【和文業績】

- 1) 板谷 慶一. 【大動脈弁逆流を徹底的に学ぶ】MRI による AR の重症度評価(解説). 心エコー. 24(11): 1094-1099, 2023.
- 2) 板谷 慶一. 【絶対苦手分野にしない 成人先天性心疾患の画像診断】4D フローMRI による先天性心疾患の手術戦略(解説). 臨床画像. 39(6): 679-684, 2023.
- 3) 荒川衛、山田敏之. 持続可能な外科医教育のための Off the job training ecosystem. 日本外科学会雑誌 124(6) 575-577 2023 年 4 月.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	須田久雄	0	0	0
准教授	板谷慶一	6(2)	6	2(2)
講師	中井洋佑	1	1	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
准教授	佐々木英樹	11(10)	11(10)	0
准教授	神谷信次	9	9	0
助教	沼田幸英	11	11	0
助教	曾根良晃	8	8	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（みどり）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
講師	山田敏之	2	1	1

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

山田敏之 一般社団法人名古屋市立大学外科同門会研究奨励賞（2023/5/20）

【外部資金獲得実績】

- 1) 竹原康雄. 文部科学省科学研究費(基盤 B・分担). 令和 5 年度-令和 7 年度. 50 千円

- 2) 板谷慶一. 文部科学省科学研究費(基盤B・代表). 令和3年度-令和7年度. 1,800千円
- 3) 中村 信久. 文部科学省科学研究費 (基盤C・分担) 令和4年度 - 令和7年度. 10千円
- 4) 山田敏之. READYFOR (クラウドファンディング) (~2023/8/26) 588千円
- 5) 山田敏之. 共同研究費(株式会社ファソテック). 令和4年7月~令和5年6月30日, 500千円
- 6) 山田敏之. 共同研究費(メドトロニック). 令和4年4月~, 500千円
- 7) 山田敏之. 共同研究費(センチュリーメディカル). 令和4年4月~, 200千円
- 8) 中村信久. 科学研究費補助金(基盤C・分担). 令和4年度, 100千円

【その他】

<講義>

スチューデントドクターズデイ 2023年12月14日

<学内研究費>

山田敏之. 特別研究奨励費 (代表) 310千円

<学会発表>

1. 早川峻太、齋藤慈円、沼田幸英、曾根良晃、神谷信次、佐々木英樹、浅野實樹. 第51回日本血管外科学会. 静脈破格を伴う左総腸骨動脈瘤静脈穿破に対して経カテーテル的静脈遮断を併用して治療しえた一例. 2023年5月31日~6月2日
2. 山田敏之、榛原梓良、川瀬匠、板谷慶一、須田久雄. 第76回日本胸部外科学会定期学術集会. 創トラブルゼロを目指したno touch SVG採取法の工夫と管理. 2023年10月19日~21日
3. 山田敏之、須田久雄、荒川衛、吉武明弘、志水秀行. 第76回日本胸部外科学会定期学術集会. スマートフォンを用いた手術トレーニングアプリの開発と普及. 2023年10月19日~21日
4. 山田敏之、正木祥太、北村浩平、板谷慶一、齋藤雄平、須田久雄. 第27回日本冠動脈外科学会学術大会. 急性心筋梗塞後心室中隔穿孔に対して術前・術中・術後にImpellaを用いた一例. 2023年7月13日(木)~14日(金)
5. 山田敏之、須田久雄、荒川衛、吉武明弘、志水秀行. 第123回日本外科学会定期学術集会. 「スマートフォンを用いた手術トレーニングアプリの開発・普及とクラウドファンディングの活用」. 2023年4月27日(木)
6. 山田敏之、小川真司、齋藤雄平、北村浩平、須田久雄. 第53回日本心臓血管外科学会学術総会. 「MICSトレーニングと実際のMICS MVP~シミュレータトレーニングの有効性の検証~」. 2023年3月24日(金)

<メディア報道>

- 1) 日本の医療危機を救うもの。それは「こんにやく」と「金魚すくいのポイ」
TBS ラジオ 森本毅郎・スタンバイ！ <https://www.tbsradio.jp/articles/71151/>
2023年6月15日 テレビ・ラジオ番組

- 2) 金魚すくいのポイ、業者「まさか医療貢献するとは」…若手外科医の練習道具に変身
読売新聞 <https://www.yomiuri.co.jp/medical/20230516-OYT1T50097/> 2023年5月
16日 新聞・雑誌

- 3) 金魚すくいの『ポイ』が手術トレーニングで大活躍！？「紙が破れないように縫う能力は血管をきれいに縫うことに通じる」 日本一のポイ工場も驚き : MBS NEW
[Shttps://www.mbs.jp/news/feature/kansai/article/2023/04/094393.shtml](https://www.mbs.jp/news/feature/kansai/article/2023/04/094393.shtml). 2023
年4月28日

<研究活動実績>

【欧文業績】

1. Iwata H, Yamamoto Y, Sakai T, Hasegawa Y, Nakamura R, Akabane H, Ohtani S, Kashiwaba M, Taira N, Toyama T, Fujisawa T, Masuda N, Shibahara Y, Sasano H, Yamaguchi T. **Phase III study of long-term prognosis of estrogen receptor-positive early breast cancer treated with neoadjuvant endocrine therapy with/without adjuvant chemotherapy.** Breast Cancer Res Treat. **199(2)**: 231-241, 2023.
2. Minohara K, Imai M, Matoba T, Wing JB, Shime H, Odanaka M, Uraki R, Kawakita D, Toyama T, Takahashi S, Morita A, Murakami S, Ohkura N, Sakaguchi S, Iwasaki S, Yamazaki S. **Mature dendritic cells enriched in regulatory molecules may control regulatory T cells and the prognosis of head and neck cancer.** Cancer Sci. **114(4)**: 1256-1269, 2023
3. Uchida M, Furukawa TA, Yamaguchi T, Imai F, Momino K, Katsuki F, Sakurai N, Miyaji T, Horikoshi M, Iwata H, Zenda S, Iwatani T, Ogawa A, Inoue A, Abe M, Toyama T, Uchitomi Y, Matsuoka H, Noma H, Akechi T. **Optimization of smartphone psychotherapy for depression and anxiety among patients with cancer using the multiphase optimization strategy (MOST) framework and decentralized clinical trial system (Smartphone Intervention to LEssen depression/Anxiety and GAIN resilience: SMILE AGAIN project): a protocol for a randomized controlled trial.** Trials. **24(1)**: 344, 2023
4. Kato A, Kondo N, Wanifuchi-Endo Y, Fujita T, Asano T, Hisada T, Uemoto Y, Terada M, Kato H, Komura M, Okuda K, Takahashi S, Toyama T. **Low TINAGL1 expression is a marker for poor prognosis in breast cancer.** J Cancer Res Clin Oncol. **149(8)**: 4771-4782, 2023.
5. Kureyama N, Terada M, Kusudo M, Nozawa K, Wanifuchi-Endo Y, Fujita T, Asano T, Kato A, Mori M, Horisawa N, Toyama T. **Fact-Checking Cancer Information on Social Media in Japan: Retrospective Study Using Twitter.** JMIR Form Res. **7**: e49452, 2023.
6. Terada M, Ito A, Kikawa Y, Koizumi K, Naito Y, Shimoi T, Ishihara M, Yamanaka T, Ozaki Y, Hara F, Nakamura R, Hattori M, Miyashita M, Kondo N, Yoshinami T, Takada M, Matsumoto K, Narui K, Sasada S, Iwamoto T, Hosoda M, Takano Y, Oba T, Sakai H, Murakami A, Higuchi T, Tsuchida J, Tanabe Y, Shigechi T, Tokuda E, Harao M, Kashiwagi S, Mase J, Watanabe J, Nagai SE, Yamauchi C, Yamamoto Y, Iwata H, Saji S, Toyama T. **The Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guidelines for systemic treatment of breast cancer, 2022 edition.** Breast Cancer. **30(6)**: 872-884, 2023
7. Krop IE, Masuda N, Mukohara T, Takahashi S, Nakayama T, Inoue K, Iwata H, Yamamoto Y, Alvarez RH, Toyama T, Takahashi M, Osaki A, Saji S, Sagara Y, O'Shaughnessy J, Ohwada S, Koyama K, Inoue T, Li L, Patel P, Mostillo J, Tanaka Y, Sternberg DW, Sellami D, Yonemori K. **Patritumab Deruxtecan (HER3-DXd), a Human Epidermal Growth Factor Receptor 3-Directed Antibody-Drug Conjugate, in Patients With Previously Treated Human Epidermal Growth Factor Receptor 3-Expressing Metastatic Breast Cancer: A Multicenter, Phase I/II Trial.** J Clin Oncol. **41(36)**: 5550-5560, 2023

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	遠山 竜也	7	7	0
准教授	鰐淵 友美	2	2	0
講師	藤田 崇史	2	2	0
助教	浅野 倫子	2	2	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
准教授	杉浦 博士	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【外部資金獲得実績】

杉浦 博士. 文部科学省科学研究費(基盤 C・代表). 令和 3 年度-令和 5 年度、1,200 千円/3,310 千円

鰐淵 友美. 文部科学省科学研究費(基盤 C・代表). 令和 4 年度-令和 6 年度、400 千円/3,200 千円

遠山 竜也. 文部科学省科学研究費(基盤 C・代表). 令和 5 年度-令和 7 年度、900 千円/3,600 千円

遠山 竜也. 受託研究費 (AMED・分担). 令和 5 年度、200 千円

遠山 竜也. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 5 年度-令和 8 年度、200 千円

遠山 竜也. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-令和 8 年度、200 千円

【その他】

<国内学会発表>

Hiroji Iwata, Ian E. Krop, Norikazu Masuda, Toru Mukohara, Shunji Takahashi, Takahiro Nakayama, Kenichi Inoue, Tatsuya Toyama, Yutaka Yamamoto, Ricardo H. Alvarez, Masato Takahashi, Akihiko Osaki, Shoichi Ohwada, Joseph Mostillo, Yoshimi Tanaka, David Sternberg, Dalila Sellami, Kan Yonemori. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術総会. **Phase 1/2 Study of HER3-DXd in HER3-Expressing Metastatic Breast Cancer: Subgroup Analysis by HER2 Expression.** 2023 年 3 月 16 日~18 日 (福岡)

遠山 竜也, 久田 知可, 鰐淵-遠藤 友美, 藤田 崇史, 浅野 倫子, 上本 康明, 加藤

明子, 寺田 満雄, 森 万希子, 堀澤 七恵, 上野真帆, 呉山 菜梨, 羽原 誠, 島田 緑,
第 31 回日本乳癌学会学術総会. エストロゲン受容体陽性乳がんに対する治療戦略.
2023 年 6 月 28 日-7 月 1 日 (横浜)

浅野 倫子, 鰐淵-遠藤 友美, 藤田 崇史, 久田 知可, 加藤 明子, 寺田 満雄, 堀澤
七恵, 森 万希子, 上野 真帆, 呉山 菜梨, 遠山 竜也, 第 31 回日本乳癌学会学術総
会. 乳癌患者におけるニューモシスチス肺炎の臨床的検討. 2023 年 6 月 28 日-7 月 1
日 (横浜)

加藤 明子, 鰐淵-遠藤 友美, 浅野 倫子, 久田 知可, 森 万希子, 堀澤 七恵, 寺田
満雄, 上野 真帆, 呉山 菜梨, 遠山 竜也, 第 31 回日本乳癌学会学術総会. 乳がん
における TINAGL1 遺伝子の予後因子としての意義. 2023 年 6 月 28 日-7 月 1 日 (横浜)

波戸 ゆかり, 小川 莉佳子, 川原 光, 伊藤 由加志, 安藤 由明, 白木 法雄, 杉浦
博士, 第 31 回日本乳癌学会学術総会. 乳腺 low-grade adenosquamous carcinoma の 1
例. 2023 年 6 月 29 日-7 月 1 日 (横浜)

杉浦 博士, 波戸 ゆかり, 小川 莉佳子, 川原 光, 白木 法雄, 伊藤 由加志, 安藤
由明 第 31 回日本乳癌学会学術総会. 当院で oncotype Dx を行った症例の検討. 2023
年 6 月 29 日-7 月 1 日 (横浜)

川原 光, 杉浦 博士, 波戸 ゆかり, 加藤 江梨, 白木 法雄, 伊藤 由加志, 安藤 由
明, 石川 操, 第 20 回日本乳癌学会中部地方会. 周産期に副乳に発生した管状腺腫の
一例. 2023 年 9 月 2 日-3 日 (甲府市)

<主要な国内学会活動の参加状況>

遠山竜也、日本乳癌学会、評議員
遠山竜也、日本乳癌学会、教育・研修委員会副委員長
遠山竜也、日本乳癌学会、診療ガイドライン委員会委員
遠山竜也、日本臨床腫瘍学会、協議員
遠山竜也、日本癌治療学会、代議員
遠山竜也、日本癌治療学会、教育委員会委員
遠山竜也、日本癌治療学会、編集委員会 IJCO 編集部会 Associate Editor
遠山竜也、ホルモンと癌研究会、理事

杉浦博士、日本乳癌学会、評議員
杉浦博士、日本癌治療学会、広報・渉外委員会委員

鰐淵友美、日本乳癌学会、評議員

—小児泌尿器科学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Nishio H, Mizuno K, Matsumoto D, Nakane A, Yasui T, Hayashi Y. **Conservative management of pubertal segmental testicular infarction associated with epididymitis.** Urol Case Rep. **46**:102324, 2023.

Nishio H, Mizuno K, Kato T, Kamisawa H, Kurokawa S, Nakane A, Maruyama T, Kawai N, Yasui T, Hayashi Y. **Surgical management of prepubertal testicular tumors: A 30-year study in our institution.** Int J Urol. **30(6)**:521-525, 2023.

Takeda T, Iwatsuki S, Nozaki S, Okada A, Mizuno K, Umemoto Y, Yasui T. **Identification of active spermatogenesis using a multiphoton microscope.** Andrology. **11(6)**:1147-1156, 2023.

Nishio H. **Response to Comment: Surgical management of prepubertal testicular tumors: A 30-year study in our institution.** Int J Urol. **30(8)**:689, 2023.

Masunaga Y, Fujisawa Y, Francesco Massart, Claudio Spinelli, Kojima Y, Mizuno K, Hayashi Y, Sasagawa I, Yoshida R, Kato F, Fukami M, Kamatani N, Saitsu H, Ogata T. **Microdeletion at ESR1 Intron (DEL_6_75504) Is a Susceptibility Factor for Cryptorchidism and Hypospadias.** J Clin Endocrinol Metab. **108(10)**:2550-2560, 2023.

Matsumoto D, Mizuno K, Kamisawa H, Kato T, Nishio H, Kurokawa S, Nakane A, Kubota H, Maruyama T, Yasui T, Hayashi Y. **Usefulness of uroflowmetry for the management of urethral prolapse in a prepubertal girl.** J Pediatr Surg Case Rep. **92**:102616, 2023.

Nishio H, Mizuno K, Matsumoto D, Tozawa K, Yasui T, Hayashi Y. **Combination of robot-assisted laparoscopic pyeloplasty for lower moiety ureteropelvic junction obstruction in a partial duplex system and percutaneous endoscopic surgery for renal calculi reusing the port for robotic pyeloplasty.** IJU Case Rep. **6(6)**:390-393, 2023.

【和文業績】

林 祐太郎. 企画にあたって(特集 もう悩まない!小児泌尿器科疾患へのファーストタッチ). 臨床泌尿器科. **77(1)**:5, 2023.

西尾 英紀, 水野 健太郎, 林 祐太郎. 特集 もう悩まない!小児泌尿器科疾患へのファーストタッチ 尿道下裂 尿道下裂に対するファーストタッチ. 臨床泌尿器科. **77(1)**:44-51, 2023.

林 祐太郎, 西尾 英紀, 水野 健太郎. 膀胱尿管逆流に対する Lich-Gregoir 法による腹腔鏡下手術・ロボット支援手術の長期成績. Japanese Journal of Endourology and Robotics. **36(1)**:49-55, 2023.

林 祐太郎, 西尾 英紀, 水野 健太郎. 陰嚢内容臓器, 陰茎の手術 . 陰嚢内容手術(停留精巣・陰嚢水腫・精巣腫瘍・精巣捻転). 2023 後期研修医がおさえておきたい泌尿器手術. 28-41, 2023.

水野 健太郎, 西尾 英紀, 林 祐太郎. 小児膀胱尿管逆流ロボット手術. 小児外科. **55(5)**:556-561, 2023.

西尾 英紀, 水野 健太郎, 林 祐太郎. 腹腔鏡下精巣固定術+摘除術. 臨床泌尿器科. **77(4)**:194-198, 2023.

西尾 英紀, 水野 健太郎, 林 祐太郎, 松本 大輔, 加藤 大貴, 丸山 哲史. 精巣

付属小体捻転(精巣垂捻転・精巣上体垂捻転). 小児外科. 55(9):937-946, 2023.

西尾 英紀、水野 健太郎、林 祐太郎. 尿道下裂術後の排尿評価. 日排尿会誌. 33(2):393-397, 2023.

林 祐太郎. 小児泌尿器科におけるロボット支援手術はどこまで進歩してきたか? 【先天性水腎症と膀胱尿管逆流へのロボット支援手術の普及が見込まれる】. 週刊日本医事新報 Japan Medical Journal. 5196:56-57, 2023.

西尾 英紀、水野 健太郎、林 祐太郎. 小児の過活動膀胱の診断と治療. 臨床泌尿器科. 77(12):964-972, 2023.

水野 健太郎、西尾 英紀、林 祐太郎、松本 大輔、加藤 大貴、丸山 哲史. 女性外陰形成術(特集:これならわかる性分化疾患). 小児外科. 55(12):1331-1336, 2023.

西尾 英紀、水野 健太郎、林 祐太郎. 【子どもの検査値の判断に迷ったら】(12章)腫瘍マーカー 泌尿生殖器系. 小児科. 64(13):1680-1684, 2023.

佐藤 裕之、林 祐太郎. 泌尿器科: 停留精巣の手術治療時期などについて【停留精巣の手術は、現時点では1歳前後から2歳頃までが妥当な時期と考えられる】. 日本医事新報. 5199:56-57, 2023.

林 祐太郎、西尾 英紀、水野 健太郎: 一般的な手術 陰嚢内容臓器, 陰茎の手術 陰嚢内容手術(停留精巣・陰嚢水腫・精巣腫瘍・精巣捻転). 【後期研修医がおさえておきたい泌尿器手術 TOP30 2023】. 36:28-41. 2023

【各教員の論文数(桜山)】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	林 祐太郎	19(16)	5(4)	14(12)
准教授	水野 健太郎	17(9)	6(4)	11(5)
講師	西尾 英紀	16(10)	5(4)	11(6)

注:()内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す(教授の場合は最終著者の論文も含む)

【表彰・受賞】

西尾 英紀. 第32回日本小児泌尿器科学会・学術集会. 第11回優秀論文賞【症例部門】. Ureterocele prolapse eliciting unusual patient behavior to control intermittent voiding (途絶した排尿を変わった仕草により再開させた尿管瘤). 令和5年7月

西尾 英紀. 第32回日本小児泌尿器科学会・学術集会. 学会賞【基礎部門】. 陰嚢の冷却機能についての基礎的研究 ~hemiscrotumにおける組織学的検討~. 令和5年7月

西尾 英紀. 第32回日本小児泌尿器科学会・学術集会. 学会賞【症例報告部門】. 不完全重複腎盂尿管の下位腎の水腎症に起因したpage kidneyの1例. 令和5年7月

水野 健太郎. 一般社団法人日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会. 第37回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会 第4回 インテュイティブ賞

【外部資金獲得実績】

・ 科研費

- 林 祐太郎. 文部科学省科学研究費（基盤 B・分担）. 令和 5 年度-8 年度、100 千円/400 千円
- 林 祐太郎. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300 千円
- 林 祐太郎. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300 千円
- 林 祐太郎. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300 千円
- 林 祐太郎. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 5 年度-9 年度、100 千円/500 千円
- 林 祐太郎. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300 千円
- 林 祐太郎. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300 千円
- 林 祐太郎. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300 千円
- 林 祐太郎. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 3 年度-5 年度、1700 千円/5000 千円
- 林 祐太郎. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300 千円
- 水野 健太郎. 文部科学省科学研究費（基盤 B・代表）. 令和 5 年度-8 年度、3780 千円/19950 千円
- 水野 健太郎. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300 千円
- 水野 健太郎. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300 千円
- 水野 健太郎. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300 千円
- 水野 健太郎. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 5 年度-9 年度、100 千円/500 千円
- 水野 健太郎. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300 千円
- 水野 健太郎. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300 千円
- 水野 健太郎. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300 千円
- 水野 健太郎. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300 千円

千円

西尾 英紀. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 5 年度-8 年度、100 千円/400 千円

西尾 英紀. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300 千円

西尾 英紀. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300 千円

西尾 英紀. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-7 年度、100 千円/300 千円

西尾 英紀. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-9 年度、100 千円/500 千円

西尾 英紀. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300 千円

西尾 英紀. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 4 年度-6 年度、1600 千円/5000 千円

西尾 英紀. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 4 年度-6 年度、100 千円/300 千円

西尾 英紀. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-5 年度、100 千円/300 千円

【その他】

・ 国際学会発表

Mizuno Kentaro. 8th International Pediatric Robotics and Complex Lower Urinary Tract Reconstruction with Live Surgery Demonstration. (Moderator) Complex Reconstructions, 2023.4.28

Mizuno Kentaro. 8th International Pediatric Robotics and Complex Lower Urinary Tract Reconstruction with Live Surgery Demonstration. Japanese Perspective on Pediatric Robotic Surgery, 2023.4.28

Mizuno Kentaro. 2024KSER Robotic Urologic surgical video Congress. Benign disease reconstruction surgery: Robotic Pyeloplasty, 2024.2.16-17

・ 国内学会発表

Hayashi Yutaro. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (Chair) Invited Lecture. 2023.4.20-22.

Hayashi Yutaro. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (Chair) International Session Award. 2023.4.20-22.

Hayashi Yutaro. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (Chair) (Symposium) Key to the success of laparoscopic surgery for the vesicoureteral reflux. 2023.4.20-22.

Mizuno Kentaro. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (Poster) Effectiveness of laparoscopic and robot-assisted laparoscopic ureteral reimplantation in infants with bilateral high-grade VUR. 2023.4.20-22.

Mizuno Kentaro. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (Symposium)A future perspective on laparoscopic surgery for vesicoureteral reflux: Robot-assisted laparoscopic ureteral reimplantation. 2023.4.20-22.

Nishio Hidenori. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. (Symposium)Robot-assisted laparoscopic pyeloplasty for ureteropelvic junction obstruction with duplex system. 2023.4.20-22.

西尾 英紀. 第 110 回日本泌尿器科学会総会. 腹膜鞘状突起の開存率の評価による遊走精巣の上昇精巣化リスクについての考察. 2023.4.20-22.

林 祐太郎. 令和 5 年度名古屋市立大学オープンカレッジ「今、知りたい、子どもたちのための最先端の医療～名市大病院群の最新の小児医療～」. (座長)最新医学講座. 2023.5.19.

水野 健太郎. 第 96 回日本内分泌学会学術総会. 精子幹細胞の分化過程における甲状腺機能の役割. 2023.6.1-3.

水野 健太郎. 第 35 回日本小切開・鏡視外科学会. 膀胱尿管逆流に対する低侵襲手術～膀胱外アプローチによる腹腔鏡・ロボット手術～. 2023.6.2-3.

水野 健太郎. 第 60 回日本小児外科学会学術集会. (ワークショップ)これからはじめるロボット支援下腎盂形成術. 2023.6.1-3.

水野 健太郎. 令和 5 年度名古屋市立大学オープンカレッジ「今、知りたい、子どもたちのための最先端の医療～名市大病院群の最新の小児医療～」. 小児を救う最先端のロボット手術. 2023.6.9.

林 祐太郎. 日本アンドロロジー学会第 42 回学術大会. (特別講演)アンドロロジーの視点からみた小児泌尿器科の現状と未来. 2023.6.23-24.

水野 健太郎. 日本アンドロロジー学会第 42 回学術大会. (シンポジウム)生殖・腎機能の維持へ向けた小児泌尿器科の取り組み. 2023.6.23-24.

西尾 英紀. 日本アンドロロジー学会第 42 回学術大会. (ポスター)停留精巣患児の anogenital distance の評価によるアンドロゲン曝露と精巣下降との関連についての検討. 2023.6.23-24.

林 祐太郎. 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会. (スポンサーセミナー)Deflux®注入療法～私はこうしている～. 2023.7.19-21.

林 祐太郎. 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会. (特別企画)コロナ渦、我かく闘えり. 2023.7.19-21.

林 祐太郎. 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会. JSPU 理事会からの報告 専門医委員会レポート. 2023.7.19-21.

水野 健太郎. 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会. (ワークショップ)小児泌尿器腹腔鏡下手術・ロボット支援手術の近未来-必然と蓋然-. 2023.7.19-21.

水野 健太郎. 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会. (スポンサーセミナー)ロボット支援下手術の現状と展望. 2023.7.19-21.

水野 健太郎. 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会. (ポスター)排尿自立前の VUR 患児に対する腹腔鏡・ロボット手術の長期成績. 2023.7.19-21.

西尾 英紀. 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会. (ワークショップ)膀胱尿管逆流に対する Lich-Gregoir 法の術後排尿機能への影響-開放・腹腔鏡・ロボット手術の比較検討-. 2023.7.19-21.

西尾 英紀. 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会. (学会賞候補演題 基礎部門)陰囊の冷却機能についての基礎的研究～hemiscrotum における組織学的検討～. 2023.7.19-21.

西尾 英紀. 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会. (学会賞候補演題 臨床部門)尿道下裂術後の思春期における排尿機能の解析. 2023.7.19-21.

西尾 英紀. 第 32 回日本小児泌尿器科学会総会. (学会賞候補演題 症例報告部門)不完全重複腎盂尿管の下位腎の水腎症に起因した page kidney の 1 例. 2023.7.19-21.

林 祐太郎. 第 88 回日本泌尿器科学会東部総会. (卒後教育プログラム)急性陰囊症. 2023.10.5-7.

林 祐太郎. 第 73 回日本泌尿器科学会中部総会. (シンポジウム)小児ロボット・腹腔鏡手術の将来展望. 2023.10.12-14.

水野 健太郎. 第 73 回日本泌尿器科学会中部総会. (シンポジウム)小児アンドロロジー診療の最前線. 2023.10.12-14.

水野 健太郎. 第 73 回日本泌尿器科学会中部総会. (シンポジウム)膀胱尿管逆流に対するロボット支援手術. 2023.10.12-14.

西尾 英紀. 第 73 回日本泌尿器科学会中部総会. (ポスター)尿道下裂術後の幼少期と思春期との排尿状態の比較検討. 2023.10.12-14.

水野 健太郎. 第 37 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会. (シンポジウム)ロボット支援腎盂形成術に必要な解剖. 2023.11.9-11.

西尾 英紀. 第 37 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会. 腹腔鏡下腫瘍切除により患側腎を温存しえた小児腎芽腫の 1 例. 2023.11.9-11.

林 祐太郎. 第 44 回日本小児腎不全学会学術集会. (スポンサードセミナー)VUR に対する Deflux 治療の実際. 2023.11.30-12.1.

水野 健太郎. 第 16 回日本ロボット外科学会学術集会. 体重 20kg 未満の幼少児に対するロボット支援腎盂形成術. 2024.2.10-11.

水野 健太郎. 第 16 回日本ロボット外科学会学術集会. (シンポジウム)再発症例に対するロボット支援腎盂形成術. 2024.2.10-11.

・新聞・広報誌等の掲載

安井 孝周(ガイドライン改訂統括委員会委員、ガイドライン改訂委員会、教科書的記載作成チーム)、瀧本 周造(ガイドライン改訂委員会、システムティックレビューチーム、アルゴリズム作成チーム、教科書的記載作成チーム)、安藤 亮介(システムティックレビューチーム、教科書的記載作成チーム)、宇佐美 雅之(システムティックレビューチーム)、海野 怜(システムティックレビューチーム、教科書的記載作成チーム)、岡田 淳志(システムティックレビューチーム、教科書的記載作成チーム)、杉野 輝明(システムティックレビューチーム)、田口 和己(システムティックレビューチーム、教科書的記載作成チーム)、戸澤 啓一(システムティックレビューチーム)、林 祐太郎(リエゾン委員)、他.. 尿路結石症診療ガイドライン第 3 版 023 年版. , 2023.

(泌尿器科領域) 協力委員：安井 孝周、協力者：水野 健太郎、編集：一般社団法人日本内視鏡外科学会. . 2023 年技術認定取得者のための内視鏡外科診療ガイドライン. , 2023.

<研究活動実績>

【欧文業績】

- 1) Tabuchi H, Yamauchi T, Nagasawa T, Deguchi H, Tanabe M, Tanaka H, Yasukawa T. **Revolutionizing patient monitoring in age-related macular degeneration: a comparative study on the necessity and efficiency of the AMD VIEWER.** Bioengineering. **10(12)**: 1426, 2023.
- 2) Kurobe R, Hirano Y, Yuguchi T, Suzuki N, Yasukawa T. **Severe macular ischemia is associated with a poor visual prognosis and serious complications in eyes with central retinal vein occlusion.** J Clin Med. **12(21)**: 6710, 2023.
- 3) Akiyama M, Miyake M, Momozawa Y, Arakawa S, Maruyama-Inoue M, Endo M, Iwasaki Y, Ishigaki K, Matoba N, Okada Y, Yasuda M, Oshima Y, Yoshida S, Nakao SY, Morino K, Mori Y., Kido A, Kato A, Yasukawa T, Obata R, Nagai Y, Takahashi K, Fujisawa K, Miki A, Nakamura M, Honda S, Ushida H, Yasuma T, Nishiguchi KM, Mori R, Tanaka K, Wakatsuki Y, Yamashiro K, Kadonosono K, Terao C, Ishibashi T, Tsujikawa A, Sonoda KH, Kubo M, Kamatani Y. **Genome-wide association study of age-related macular degeneration reveals 2 new loci impying shared genetic components with central serous chorioretinopathy.** Ophthalmology. **130(4)**: 361-372, 2023.
- 4) Yoneda K, Takeuchi M, Yasukawa T, Terasaki H, Yamamoto Y, Jujo T, Wakuta M, Matsubara H, Mitamura Y, Kato A, Kondo M, Kimura K, Takagi H, Gomi F, Sakamoto T: Japanese Clinical Retinal Study (J-CREST) Group. **Anti-VEGF treatment strategies for 3 subtypes of neovascular age-related macular degeneration in a clinical setting: a multicenter cohort study in Japan.** Ophthalmol Retina. **7(10)**: 869-878, 2023.
- 5) Sakamoto T, Terasaki H, Yamashita T, Shiihara H, Funatsu R, Uemura A: Japanese Retina and Vitreous Society. Kitano S, Ishikawa K, Ikeda Y, Sugita N, Mawatari G, Enaida H, Yamamoto S, Kobayashi Y, Sakamoto T, Yamashita T, Terasaki H, Funatsu R, Shiihara H, Sonoda KH, Takeda A, Ishikawa K, Notomi S, Yamaguchi M, Nakatake S, Koizumi H, Yamauchi Y, Terao N, Imanaga N, Sawaguchi S, Ishida S, Ando R, Kijima R, Gomi F, Araki T, Doi N, Mizushima T, Fujiwara Y, Miyake S, Mizushima Y, Kato K, Suzuma K, Nakano Y, Osaka R, Uemura A, Yamakiri K, Yoshida S, Kato N, Furushima K, Kondo M, Kato K, Ogata N, Ueda T, Mizusawa Y, Jimura H, Takeuchi M, Kanda T, Sato T, Kusaka S, Iwahashi C, Yamao S, Maeno T, Masahara H, Murata T, Hirano T, Ohji M, Sawada T, Ozawa Y, Nagai N, Takagi H, Jujo T, Shimura M, Asakage M, Yasuda K, Iida T, Matuko I, Hasegawa T, Ohnami A, Kodama Y, Tabuchi H, Nagasawa D, Kadonosono K, Maruyama-Inoue M, Tanaka S, Tsujikawa A, Suda K, Yasukawa T, Kato A, Kusuhara S, Kurimoto Y, Hiramami Y, Yakahashi M, Inoue M, Hirakata A, Koto T, Hirota K, Ishida T, Ando Y, Mizuno M, Takahashi A, Mitamura Y. **Increased incidence of endophthalmitis after vitrectomy relative to face mask wearing during COVID-19 pandemic.** Br J Ophthalmol. **107(10)**: 1472-1477, 2023.
- 6) Obata S, Sawada O, Kakinoki M, Matsumoto R, Saishin Y, Ohji M; Japan-Retinal Detachment Registry Group. Yamamoto S, Baba T, Sato E, Kitahashi M, Tatsumi T, Miura G, Nizawa T, Sakamoto T, Yamakiri K, Yamashita T, Otsuka H, Sameshima S, Yoshinaga N, Sonoda S, Hirakata A, Koto T, Inoue M, Hirota K, Itoh Y, Orihara T, Emoto Y, Sano M, Takahashi H, Tokizawa R, Yamashita H, Nishitsuka K, Kaneko Y, Nishi K, Yoshida A, Ono S, Hirokawa H, Sogawa K, Omae T, Ishibazawa A, Kishi S, Akiyama H, Matsumoto H,

- Mukai R, Morimoto M, Nakazawa M, Suzuki Y, Kudo T, Adachi K, Ishida S, Noda K, Kase S, Mori S, Ando R, Saito M, Suzuki T, Takahashi K, Nagai Y, Nakauchi T, Yamada H, Kusaka S, Tsujioka D, Tsujikawa A, Suzuma K, Ishibashi T, Sonoda KH, Ikeda Y, Kohno R, Ishikawa K, Kondo M, Kozawa M, Kitaoka T, Tsuiki E, Ogura Y, Yoshida M, Morita H, Kato A, Hirano Y, Sugitani K, Terasaki H, Iwase T, Ito Y, Ueno S, Kaneko H, Nnobe N, Kominami T, Azuma N, Yokoi T, Shimada H, Nakashizuka H, Hattori T, Shinojima A, Kitagawa Y, Shiraga F, Morizane Y, Kimura S, Ikeda T, Kida T, Sato T, Fukumoto M, Emi K, Nakashima H, Takeuchi S, Tanaka S, Iida T, Koizumi H, Maruko I, Hasegawa T, Kogure A, Iijima H, Oshiro T, Tateno Y, Kikushima W, Sugiyama A, Yoneyama S, Kadonosono K, Sato S, Yamane S. **Effects of internal limiting membrane peeling on anatomical and functional outcomes in macula-off rhegmatogenous retinal detachment complicated by proliferative vitreoretinopathy: Japan-Retinal Detachment Registry.** *Jpn J Ophthalmol.* **67(4)**: 417-423, 2023.
- 7) Kimura T, Ogura S, Yasukawa T, Nozaki M. **Quantitative evaluation of fundus autofluorescence in laser photocoagulation scars for diabetic retinopathy: conventional vs. short-pulse laser.** *Life.* **13(9)**: 1901, 2023.
 - 8) Sakaeda Y, Kato A, Kuwayama S, Hirahara S, Suzuki N, Ogura Y, Nakazawa Y, Yasukawa T. **Long-term prognosis of patients with polypoidal choroidal vasculopathy treated with photodynamic therapy.** *J Clin Med.* **12(14)**: 4707, 2023.
 - 9) Kato F, Nozaki M, Kato A, Yasukawa T. **Retinal microvascular changes after intravitreal triamcinolone acetonide in diabetic macular edema.** *J Clin Med.* **12(10)**: 3475, 2023.
 - 10) Nozaki M, Ando R, Kimura T, Kato F, Yasukawa T. **The role of laser photocoagulation in treating diabetic macular edema in the era of intravitreal drug administration: a descriptive review.** *Medicina.* **59(7)**: 1319, 2023.
 - 11) Shimura M, Kitano S, Ogata N, Mitamura Y, Oh H, Ochi H, Ohsawa S, Hirakata A, YOSEMITE and RHINE investigators: Bolz M, Findl O, Pollreisz A, Weger M, Daskalov V, Misheva A, Petkova I, Guneva DT, Vassileva P, Cornut PL, Korobelnik JF, Lebreton O, Tadayoni R, Eter N, Feltgen N, Framme C, Lorenz K, Spital G, Bator G, Seres A, Szalczner L, Toth-Molnar E, Vajas A, Varsanyi B, Goldstein M, Levy J, Morori-Katz H, Rosenblatt I, Yoreh B, Bandello F, Cagini C, Mastropasqua L, Nicolo M, Parravano MC, Viola F, Fukutomi A, Hayashi K, Hirakata A, Honda S, Ikeda Y, Ito Y, Kawasaki T, Kimura K, Kishino G, Kitano S, Maeno T, Mitamura Y, Murakami T, Noda K, Obana A, Ogata N, Oh H, Sawada O, Shimouchi A, Shimura M, Sugimoto M, Sugita I, Takagi H, Takayama K, Tanabe T, Yasukawa T, Yoshida S, Garcia R, Rechy DL, Canton VM, Estudillo JR, Barraza K, Fernandez C, Guzman M, Lujan S, Gawecki M, Herba E, Michalska-Malecka K, Muzyka-Wozniak M, Nester-Ostrowska K, Oleksy P, Wowra B, Wylęgała E, Budzinskaya M, Kulikov A, Morugova T, Hurcikova M, Kacerík M, Lipkova B, Abengoechea S, Civera AA, Amat P, Cabrera F, Cava C, Garcia-Layana A, Gomez Ulla F, Moreno JMR, Vela JI, Eldem B, Mentis J, Ozturk B, Aaberg T, Abbey ACK, Abraham P, Alam S, Almony A, Amini P, Antoszyk A, Baker C, Bertolucci G, Bochow T, Brown J, Busquets MIR, Campochiaro P, Carlson J, Chan C, Chang E, Chang J, Charles SCJ, Chen JFA, Danzig C, Das A, Dessouki A, Do BJM, Feiner L, Ferrone P, Fine H, Fox GM, Foxman S, Ghorayeb G, Gonzalez V, Greven C, Gupta S, Hau VHV, Heier J, Holekamp N, Hsu JRC, Hu A, Jacoby R, Javey G, Javid C, Kapoor K, Khanani A, Kim B, Kwun R, Laird P, Lee S, Liu M, London N, Makkouk FJC, Malik K, Maturi R, McCabe F, Moore J, Newell C, Nielsen J, Oh K, Ohr M, Osher J, Parke DW, Patel S, Patel S, Rathod R, Rofagha S, Rosberger D, Schadlu

R, Shah S, Singer M, Singerman L, Stern J, Stoltz R, Stone C, Suan E, Sun J, Suner I, Tlucek P, Torti R, Weber P, Kokame R, Wee G, Weishaar P, Williams TRW, Wolfe J, Wykoff CC, You G, Alezzandrini A, Bafalluy J, Sola FF, Schlottmann P, Zambrano A, Zeolite C, Chang A, Chen F, Fraser-Bell S, Mitchell P, Sandhu S, Wickremasinghe S, Wong J, Avila M, Bordon RBA, Lavinsky D, Neto J, Penha F, Salomão G, Taleb A, Zacharias L, Brent M, Chow D, Dickinson J, Dollin M, Lalonde L, Olivier PMS, Sheidow T, Williams G, Wong D, Sun D, Dusova J, Ernest J, Farkas A, Nemcansky J, Veith M, Larsen M, Laugesen C, Vorum H, Buffet S, Razavi H, Souied E, Agostini H, Kampik DAT, Lohmann CP, Priglinger SWA, Sandner D, Wecke C, Schuart T, Seitz B, Wong N, Fung I, Lai T, Kerényi A, Papp A, Szecsko T, Vogt G, Lanzetta P, Nardi M, Pertile G, Ricci F, Virgili G, Kang SW, Park KH, Yoon YH, Yu H, Yu SY, Borcz E, Kaluzny J, Raczynska D, Romanczak D, Romanowska-Dixon B, Sikorski B, Zakrzewska KZ, Zatorska B, Figueira J, Gomes N, Silva R, Pereira SV, Abdulaeva E, Bratko G, Pozdeyeva N, Yurieva T, Chee C, Rajagopalan R, Tan G, Aliseda D, Arias L, Desco C, Escobar JJ, Vega AF, Figueroa M, Gallego-Pinazo R, Montero J, Sararols L, Hatz K, Chen SJ, Lai CC, Yang CH, Chaikitmongkol V, Pongsachareonnont P, Ruamviboonsuk P, Karabas L, Perente L, Ozcalışkan I, Sermet F, Yilmaz G, Asaria R, Burton B, Cheong-Leen RGS, Esposti S, Ghanchi F, Harris MMH, Jackson T, Jafree A, Lotery A, McKibbin M, Menon G, Mohamed Q, Pearce I, Peto T, Ross A, Stone AMS, Talks J, Varma D, Adams S, Adrean S, Alfaro V, Awh CC, Dugel M, Barakat P, Baumal C, Bergstrom C, Boyer D, Brown DM, Burgess S, Castellarin A, Chaudhry N, Ho A, Chiang A, Connolly B, Eichenbaum D, Engstrom R, Falk N, Fortun J, Goldberg R, Hershberger V, Higgins P, Khurana R, Kuriyan A, Klein-Mascia H, Kwong K, Thach J, Liu A, Marcus D, Margherio A, Modi Y, Oliver S, Pearlman J, Perkins S, Pieramici D, Qureshi J, Raskauskas P, Rosenblatt B, Shah A, Shah R, Singh S, Sharma R, Sheth V, Spinak DJ, Steinle N, Stoller G, Tabassian A, Chittum S, Taylor M, Thompson J, Uchiyama E, Wells JA, Wong R, Yates P, Zheutlin J. **Efficacy, durability, and safety of faricimab with extended dosing up to every 16 weeks in Japanese patients with diabetic macular edema: 1-year results from the Japan subgroup of the phase 3 YOSEMITE trial.** *Jpn J Ophthalmol.* **67(3):** 264-279, 2023.

- 12) Ishiguro K, Hirano Y, Esaki Y, Yasukawa T. **Central retinal vein occlusion after mRNA COVID-19 vaccination.** *Case Rep Ophthalmol.* **14(1):** 234-240, 2023.
- 13) Yuguchi T, Ogura S, Hirano Y, Suzuki N, Yasukawa T, Ogura Y. **Autologous posterior capsule flap transplantation of refractory macular hole in a pseudophakic eye.** *Retin Cases Brief Rep.* **17(2):** 85-88, 2023.
- 14) Sawada T, Yasukawa T, Imaizumi H, Matsubara H, Kimura K, Terasaki H, Ishikawa H, Murakami T, Takeuchi M, Mitamura Y, Mizusawa Y, Takamura Y, Murata T, Kogo J, Ohji M. **Subtype prevalence and baseline visual acuity by age in Japanese patients with neovascular age-related macular degeneration.** *Jpn J Ophthalmol.* **67:** 149-155, 2023.

【和文業績】

- 1) 安川力, 加藤亜紀, 久保田綾恵, 臼井英晶, 若生里奈, 西脇晶子, 平田恵美, 小椋俊太郎, 桑山創一郎, 平野佳男, 小椋祐一郎, 篠島亜里, 三浦央子, 山内知房, 西起史, 後藤謙元, 森隆三郎, 上田奈央子, 高橋綾子, 辻川明孝, 大石明生, 山城健児. **眼科診断・治療のイノベーション 加齢黄斑変性の病態仮説.** *日本眼科学会雑誌.* **127(3):** 329-366, 2023.
- 2) 平野佳男, 曾我奈里子, 湯口貴彬, 湯口幹典, 安川力. **裂孔原性網膜剥離術後に**

黄斑部に生じた全層性の網膜皺壁に対して手術加療を行い良好な結果を得た 1 例。
日本眼科学会雑誌. 127(2): 100-108, 2023.

- 3) 木村俊哉, 小椋俊太郎, 西村祐加, 安川力, 野崎実穂. アダリムマブ投与中の妊娠に伴い管理に苦慮した Behcet 病の 1 例. 眼科臨床紀要. 16(8): 593-598, 2023.
- 4) 山田一貴, 山羽悠介, 井上芳次, 榮枝幸紀, 吉原実鈴, 國井英治, 中沢陽子, 秋田憲志. 抗 MOG 抗体陽性視神経炎の治療中に発症した間質性肺炎の 1 例. 日本内科学会雑誌. 112(10): 1937-1941, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	安川力	16(8)	13(6)	3(2)
准教授	平野佳男	6(4)	4(3)	2(1)
講師	加藤亜紀	7(1)	6(1)	1(0)
講師	木村雅代	0	0	0
助教	森田裕	1(0)	1(0)	0
助教	湯口貴彬	2(1)	2(1)	0(0)
助教	榮枝幸紀	2(1)	1(1)	1(0)

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	野崎実穂	4(4)	3(3)	1(1)

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
准教授(診療担当)	中沢陽子	2(0)	1(0)	1(0)
助教	藤井彩加	0	0	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（みどり）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
助教	稲垣美保	0	0	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（みらい）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
助教	平田怜子	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

安川 力. 文部科学省科学研究費（基盤 B・代表）. 令和 4 年度-令和 6 年度、4,600 千円 / 13,400 千円

平野 佳男. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 3 年度-令和 5 年度、1,000 千円 / 3,200 千円

加藤 亜紀. 文部科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 3 年度-令和 5 年度、600 千円 / 3,200 千円

木村 雅代. 文部科学研究費（若手・代表）. 令和 5 年度-令和 7 年度、1,300 千円 / 3,200 千円

野崎実穂. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 2 年度-令和 5 年度、900 千円 / 3,300 千円

平野佳男. 文部科学省科学研究費（基盤 B・分担）. 令和 5 年度、300 千円 / 13,400 千円

加藤亜紀. 文部科学省科学研究費（基盤 B・分担）. 令和 5 年度、300 千円 / 13,400 千円

野崎実穂. 文部科学省科学研究費（基盤 B・分担）. 令和 5 年度、300 千円 / 13,400 千円

【その他】

Invited speaker

1. Miho Nozaki. The 16th Congress of the Asia-Pacific Vitreo-Retina Society (APVRS). OCT Angiography-Guided Laser Photocoagulation for Refractory Macular Edema. 2023 年 12 月 9 日
2. Miho Nozaki, Fusae Kato, Tsutomu Yasukawa, Yuichiro Ogura. The 10th International Symposium APRIS 2023. Impacts of intravitreal triamcinolone acetonide on retinal hemodynamics in diabetic macular edema. 2023 年 6 月 30 日

シンポジウム

1. 野崎実穂. 第 62 回日本網膜硝子体学会総会. “Women in Japan RETINA シンポジウム” わたしと糖尿病網膜症研究. 2023 年 11 月 25 日

総説

1. 安川力. 【分野横断的に斬る！網膜疾患のマネージメント】白内障手術前に加齢黄斑変性を見つけたら. あたらしい眼科. 40(7): 859-866, 2023.
2. 安川力. 【眼科とサプリメント】わかりやすい臨床講座 加齢黄斑変性とサプリメント. 日本の眼科. 94(7): 830-837, 2023.
3. 安川力. 眼科領域の人工知能. Nagoya Medical Journal. 57(2): 153-158, 2023.
4. 二之宮信幸, 後藤謙元, 安川力. 【患者さんに寄り添うためのピカピカ新人スタッフの眼科疾患・ケア入門】(1章)屈折異常. 眼科ケア. 25(5): 406-411, 2023.
5. 野崎実穂. 【令和の眼科クルズス】網膜硝子体・ぶどう膜 糖尿病網膜症. あたらしい眼科. 40(臨増):321-326, 2023.
6. 野崎実穂. 【眼科の処置・小手術・最新の治療-基本手技から緊急時の対応まで】緑内障 レーザー線維柱帯形成術 SLT・PSLT(解説). 臨床眼科 77(11):142-146, 2023.
7. 野崎実穂. 網膜光凝固(解説). 日本糖尿病眼学会誌 27: 24-30, 2023.
8. 野崎実穂. パターンレーザー線維柱帯形成術(解説). 眼科手術. 36(4):555-558, 2023.

hemodynamics in diabetic macular edema. 2023 年 6 月 30 日

シンポジウム

1. 野崎実穂. 第 62 回日本網膜硝子体学会総会. “Women in Japan RETINA シンポジウム” わたしと糖尿病網膜症研究. 2023 年 11 月 25 日

<研究活動実績>

【欧文業績】

Tasaki Y, Sugiyama Y, Hamamoto S, Naiki T, Uemura T, Yokota K, Kawakita D, Nakamura M, Ogawa R, Shimura T, Mimura Y, Hotta Y, Odagiri K, Ito N, Iida M, Kimura Y, Komatsu H, Kataoka H, Takiguchi S, Morita A, Iwasaki S, Okuda K, Niimi A, Yasui T, Furukawa-Hibi Y. **Eosinophil may be a predictor of immune-related adverse events induced by different immune checkpoint inhibitor types: A retrospective multidisciplinary study.** *Cancer Med.* **12(24):21666-21679**, 2023.

Kinoshita M, Fujimoto C, Iwasaki S, Kondo K, Yamasoba T. **Oral Administration of TrkB Agonist, 7, 8-Dihydroxyflavone Regenerates Hair Cells and Restores Function after Gentamicin-Induced Vestibular Injury in Guinea Pig.** *Pharmaceutics.* **15(2):493**, 2023.

Sanuki T, Takemoto N. **Comparison of Botulinum Toxin Injections and Type 2 Thyroplasty for Adductor Spasmodic Dysphonia.** *Laryngoscope.* **133(12): 3443-3448**.2023.

Ueda K, Murase T, Kawakita D, Nagao T, Kusafuka K, Nakaguro M, Urano M, Yamamoto H, Taguchi KI, Kano S, Tada Y, Tsukahara K, Okami K, Onitsuka T, Fujimoto Y, Sakurai K, Hanai N, Nagao T, Kawata R, Hato N, Nibu KI, Inagaki H. **The Landscape of MYB/MYBL1- and Peri-MYB/MYBL1-Associated Rearrangements in Adenoid Cystic Carcinoma.** *Mod Pathol.* **36(10): 100274**, 2023.

Shimoda H, Teshima M, Murase T, Nagao T, Kusafuka K, Nakaguro M, Urano M, Taguchi KI, Yamamoto H, Kano S, Tada Y, Tsukahara K, Okami K, Onitsuka T, Fujimoto Y, Kawakita D, Sakurai K, Hanai N, Nagao T, Kawata R, Hato N, Nibu KI, Inagaki H. **Prognostic scores for patients with salivary adenoid cystic carcinoma without lymph node metastasis.** *Oral Oncol.* **145: 106491**, 2023.

Sawabe M, Kawakita D, Oze I, Iwasaki S, Hasegawa Y, Murakami S, Ito H, Hanai N, Matsuo K. **Heterogeneous Impact of Prediagnostic Folate Intake for Fluorouracil-containing Induction Chemotherapy of Head and Neck Cancer.** *Cancers(Basel).* **15(21): 5150**,2023.

Fujimoto C, Kawahara T, Kinoshita M, Kamogashira T, Oka M, Ichijo K, Koda K, Yamasoba T, Iwasaki S. **Inter-day and intra-day variations in effective intensity of noisy galvanic vestibular stimulation to improve postural stability in bilateral vestibulopathy.** *J Vestib Res.* **33(6): 423-429**, 2023.

Iida M, Murai T, Kuno M, Osumi K, Nakanishi-Imai M, Okazaki D, Murase T, Kawakita D, Iwasaki S, Inagaki H, Tomita N, Shibamoto Y, Hiwatashi A. **Importance of the Number and Location of Lymph Node Metastasis in Oropharyngeal Cancer.** *In Vivo.* **37(5):2210-2218**, 2023.

Hirai H, Nakaguro M, Tada Y, Saigusa N, Kawakita D, Honma Y, Kano S, Tsukahara K, Ozawa H, Okada T, Okami K, Yamazaki K, Sato Y, Urano M, Kajiwara M, Utsumi Y, Shimura T, Fushimi C, Shimizu A, Kondo T, Imanishi Y, Akihiro Sakai A, Sato Y, Togashi T, Hanazawa T, Matsuki T, Yamazaki K, Nagao T. **Prognostic value and clinicopathological roles of the tumor immune microenvironment in salivary duct carcinoma.** *Virchows archive.* **483(3): 367-379**, 2023.

Tomita N, Hayashi N, Mizuno T, Kitagawa Y, Yasui K, Saito Y, Sudo S, Takano S, Kita N, Torii A, Niwa M, Okazaki D, Takaoka T, Kawakita D, Iwasaki S, Hiwatashi A. **Dosimetric and radiobiological analyses of a de-escalation strategy for elective nodal regions in human papillomavirus-associated oropharyngeal cancer.** *Tech Innov Patient Support*

Radiat Oncol. 13:100221, 2023 .

Miyamaru S, Sanuki T, Miyamoto Y, Nishimoto K, Masuda M , Honda Y, Mikami Y, Orita Y. **Human papillomavirus-related multiphenotypic sinonasal carcinoma: A report of two patients and review of the literature.** *Auris Nasus Larynx.* **50(3):** 473-477, 2023.

Tajiri T, Suzuki M, Kutsuna T, Nishiyama H, Ito K, Takeda N, Fukumitsu K, Kanemitsu Y, Fukuda S, Umemura T, Ohkubo H, Maeno K, Ito Y, Oguri T, Takemura M, Yoshikawa K, Niimi A. **Specific IgE Response and Omalizumab Responsiveness in Severe Allergic Asthma.** *J Asthma Allergy.* 22(16): 149-157, 2023.

Koyama H, Kashio A, Nishimura S, Takahashi H, Iwasaki S, Doi K, Nakagawa T, Ito K, Yamasoba T. **Etiology, Severity, Audiogram Type, and Device Usage in Patients with Unilateral Moderate to Profound Sensorineural Hearing Loss in Japan.** *J Clin Med.* **12(13):** 4290, 2023.

Minohara K, Imai M, Matoba T, Wing JB, Shime H, Odanaka M, Uraki R, Kawakita D, Toyama T, Takahashi S, Morita A, Murakami S, Ohkura N, Sakaguchi S, Iwasaki S, Yamazaki S. **Mature dendritic cells enriched in regulatory molecules may control regulatory T cells and the prognosis of head and neck cancer.** *Cancer Sci.* **114(4):** 1256-1269, 2023.

Kabaya K, Fukushima A, Katsumi S, Minakata T, Iwasaki S. **Presence of corrective saccades in patients with normal vestibulo-ocular reflex gain in video head impulse test.** *Front Neurol.* **14:** 1152052, 2023.

Kondo T, Tsukahara K, Kawakita D, Yoshimoto S, Miura K, Sugawara M, Chikamatsu K, Matsuzuka T, Oze I, Kitamura M, Murakami Y, Otozai S, Shinozaki T, Ohba S, Araki K, Mizumachi T, Sato D, Wakisaka N, Hirakawa H, Hasegawa Y. **Macroscopic and multiple metastases in sentinel lymph node biopsy are respectively associated with poor prognosis in early oral cancer.** *International Journal of Clinical Oncology.* **28(4):** 512-520. 2023.

Suzuki H, Takano G, Tsukushi S, Ando M, Yatabe Y, Kodaira T, Nishikawa D, Beppu S, Hasegawa Y, Hanai N. **Impact of age for overall survival in head and neck sarcoma.** *Medicine (Baltimore).* **102(7),** e32966,2023.

Sanuki T. **Spasmodic dysphonia: An overview of clinical features and treatment options.** *Auris Nasus Larynx.* 50(1): 17-22, 2023.

Kabaya K, Katsumi S, Fukushima A, Esaki S, Minakata T, Iwasaki S. **Assessment of semicircular canal function in benign paroxysmal positional vertigo using the video head impulse test and caloric test.** *Laryngoscope Investig Otolaryngol.* **8(2):** 525-531, 2023.

Kinoshita M, Fujimoto C, Iwasaki S, Kondo K, Yamasoba T. **Oral Administration of TrkB Agonist, 7, 8-Dihydroxyflavone Regenerates Hair Cells and Restores Function after Gentamicin-Induced Vestibular Injury in Guinea Pig.** *Pharmaceutics.* **15(2):** 493, 2023.

Share

Tajiri T, Suzuki M, Kutsuna T, Nishiyama H, Ito K, Takeda N, Fukumitsu K, Kanemitsu Y, Fukuda S, Umemura T, Ohkubo H, Maeno K, Ito Y, Oguri T, Takemura M, Yoshikawa K, Niimi A. **Specific IgE Response and Omalizumab Responsiveness in Severe Allergic Asthma.** *J Asthma Allergy.* **22(16):**149-157, 2023.

【和文業績】

蒲谷 嘉代子. 持続性知覚性姿勢誘発めまいの臨床像 頻度・先行するめまい・重症度. 明日の臨床. 35(2): 1-9, 2023.

蒲谷 嘉代子, 岩崎 真一. 【めまい・耳鳴りへの適切なアプローチ】耳鳴りの診断(解説) 臨床と研究. 100(11): 1363-1368, 2023.

北條 渉, 高野 学, 川北 大介, 的場 拓磨, 小栗 恵介, 村嶋 明大, 蓑原 潔, 中井 一之, 岩城 翔, 柘植 博之, 近藤 綾乃, 塚本 康二, 岩崎 真一. ペムプロリズマブによる免疫関連有害事象により脳炎を発症した上咽頭癌例. 耳鼻咽喉科臨床. 116 (12): 1217-1223, 2023.

増田 聖子, 植田 寛之, 高野 若菜, 村上 瑛, 岡崎 太郎, 宮丸 悟, 讃岐 徹治. 眼症状で発見された乳癌副鼻腔転移例. 耳鼻咽喉科臨床 116 (12): 1189-1197. 2023. 12.

村嶋 明大, 川北 大介, 的場 拓磨, 高野 学, 小栗 恵介, 蓑原 潔, 岩城 翔, 柘植 博之, 今泉 冴恵, 近藤 綾乃, 塚本 康二, 田中 達也, 小川 了, 岩崎 真一. 喉頭摘出術を併施した頸部食道癌例-頭頸部外科の役割に関する考察. 頭頸部癌. 49(3): 262-266, 2023.

鈴木 克代, 欄 真一郎, 丹羽 正樹, 服部 杏子, 讃岐 徹治, 岩崎 真一. 気道狭窄のため喉頭摘出を要した喉頭軟骨腫例. 耳鼻咽喉科臨床. 16(6): 601-606, 2023.

服部 杏子, 欄 真一郎, 丹羽 正樹, 鈴木 克代, 森 浩紀, 岩崎 真一. 被膜間摘出術を行った咬筋内神経鞘腫の一例. 口腔・咽頭. 36(2): 222-227, 2023.

竹本 直樹, 讃岐 徹治. 【高齢者の疑問にどう答えるか】声がつまってしまう、うまく話せません。病気なのでしょうか？ JOHNS. 39(9): 1109-1112, 2023.

鈴木 海斗, 岩崎 真一. 【高齢者の疑問にどう答えるか】耳領域 めまいを手術や薬以外で治す方法はありますか？. JOHNS. 39(9): 949-951, 2023.

岩崎 真一. 軽視しない！めまいの薬物治療—①知っておきたいめまいの知識. 薬局. 74(10): 67-70, 2023.

塚本 康二, 川北 大介, 的場 拓磨, 高野 学, 小栗 恵介, 村嶋 明大, 蓑原 潔, 角谷 尚悟, 中井 一之, 岩城 翔, 今泉 冴恵, 近藤 綾乃, 北條 渉, 岩田 宏満, 讃岐 徹治, 岩崎 真一. 集学的治療を行った鼻腔粘膜悪性黒色腫の臨床的検討. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 126(6): 786-793, 2023.

井上 亜希, 西村 信一, 藤本 千里, 岩崎 真一. めまい疾患における日常生活障害度に関連する心理学的特性について. EQUILIBRIUM RESEARCH. 82(2): 98-104, 2023.

岩崎 真一. 超高齢社会におけるめまい対策 超高齢化社会における加齢性平衡障害の現状と問題点. EQUILIBRIUM RESEARCH. 82(3): 216-223, 2023.

山口 慎人, 岩崎 真一. 急性の平衡障害. ENTONI. 284: 64-70, 2023.

鈴木 元彦, 田尻 智子, 金光 禎寛. 【アレルギー性鼻炎, 慢性副鼻腔炎の薬物療法-適応と効果-】アレルギー性鼻炎に対する生物学的製剤の現状と将来. ENTONI. 286: 21-30. 2023.

江崎 伸一, 高野 学, 五島 典, 岩崎 真一. 口腔癌モデルマウスを用いた腫瘍溶解ウイルス HF10 の抗腫瘍効果の検討. 耳鼻咽喉科ニューロサイエンス. 36: 25-28, 2023.

江崎 伸一, 勝見 さち代. 小児の顔面神経麻痺. ENTONI. 282: 46-50, 2023.

高橋 真理子. 【豊富な処方例でポイント解説！耳鼻咽喉科・頭頸部外科処方マニュアル】難聴・めまい 耳鳴/聴覚過敏. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 95(5)：272-276, 2023.

岩城 翔、川北 大介、多田 雄一郎. 豊富な処方例でポイント解説！耳鼻咽喉科・頭頸部外科処方マニュアル-唾液腺癌. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科. 95(5), 317-320, 2023.

勝見 さち代、江崎 伸一、服部 公央亮、南方 寿哉、梅崎 太造、岩崎 真一、村上 信五. 顔面神経麻痺の予後予測 自動予後診断システムによる急性片側性顔面神経麻痺の予後予測(第3報). Facial Nerve Research. 42: 87-89, 2023.

南方 寿哉、勝見 さち代、江崎 伸一. Hunt 症候群、zoster sine herpette 患者の前庭機能障害の検討. Facial Nerve Research. 42: 125-127, 2023.

讃岐 徹治. 音声改善手術の基本 内転型痙攣性発声障害に対する咽頭形成術. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 126(2)：111-114, 2023.

讃岐 徹治. 痙攣性発声障害診療のポイント. 耳鼻咽喉科臨床. 116(2)：190-191, 2023.

川北 大介、猪原 秀典、折館 伸彦、守本 倫子、丹生 健一. 【ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン】HPV と中咽頭がん・喉頭乳頭腫. 臨床とウイルス 51(1)：16-21, 2023.

青山 堯央、川北 大介、的場 拓磨、村嶋 明大、養原 潔、中井 一之、岩城 翔、柘植 博之、近藤 綾乃、讃岐 徹治、岩崎 真一. 悪性腫瘍との鑑別を要した喉頭放線菌症例. 耳鼻と臨床. 69(2)：134-138, 2023.

朝岡 龍博、小澤 泰次郎、山口 慎人、岡島 諒奈、岩崎 真一. 耳後部腫脹を契機に診断できたランゲルハンス細胞組織球症例. 耳鼻咽喉科臨床 116(2)：153-159, 2023.

金屋 歳三、欄 真一郎、丹羽 正樹、鈴木 克代、服部 杏子、岩崎 真一. 甲状腺濾胞癌の遠隔転移の予測因子に関する検討. 耳鼻咽喉科臨床. 116(1)：73-79, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	岩崎 真一	27(18)	11(3)	16(15)
准教授	讃岐 徹治	10(5)	3(2)	7(3)
准教授	川北 大介	15(1)	9	6(1)
講師	江崎 伸一	5(2)	1	4(2)
講師	蒲谷 嘉代子	4(4)	2(2)	2(2)
助教	的場 拓磨	4	1	3
助教	南方 寿哉	3(1)	1	2(1)
助教	村嶋 明大	4(1)	0	4(1)
助教	竹本 直樹	2(1)	1	1(1)

注：()内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
助教	高野 学	4	1	3
助教	中井 一之	3		3

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（みどり市民）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	鈴木 元彦	2	1	1(1)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（みらい光生）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	高橋 真理子	1(1)		1(1)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【外部資金獲得実績】

岩崎 真一．文部科学省科学研究費（基盤 A・分担）．令和 2 年度-令和 5 年度、300 千円/35,400 千円

岩崎 真一．文部科学省科学研究費（基盤 B・代表）．令和 3 年度-令和 6 年度、1,200 千円/13,500 千円

岩崎 真一．文部科学省科学研究費（基盤 B・分担）．令和 3 年度-令和 6 年度、100 千円/13,300 千円

岩崎 真一．文部科学省科学研究費（基盤 B・分担）．令和 4 年度-令和 8 年度、100 千円/13,400 千円

岩崎 真一．文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）．令和 4 年度-令和 7 年度、80 千円/3,100 千円

岩崎 真一．文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）．令和 5 年度-令和 7 年度、200 千円/3,700 千円

岩崎 真一．共同研究費（The University of New South Wales）．令和 5 年 3 月-令和 7 年 12 月、278 千円

讃岐 徹治. 治験研究費（ノーベルファーマ株式会社）. 平成 31 年 2 月-令和 5 年 12 月、1,518 千円/1,973 千円

讃岐 徹治. 厚生労働省科学研究費（代表）. 令和 4 年度-令和 5 年度、1,960 千円/2,680 千円

讃岐 徹治. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 4 年度-令和 6 年度、80 千円/3,200 千円

讃岐 徹治. 受託研究費（AMED・代表）. 令和 4 年度-令和 5 年度、1,400 千円/9,420 千円

讃岐 徹治. 受託研究費（AMED・代表）. 令和 5 年度、4,500 千円/11,260 千円

川北 大介. 文部科学省科学研究費（基盤 B・分担）. 令和 3 年度-令和 5 年度、100 千円/13,500 千円

川北 大介. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 3 年度-令和 5 年度、52 千円/3,200 千円

川北 大介. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 4 年度-令和 7 年度、40 千円/3,100 千円

江崎 伸一. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 平成 31 年度-令和 6 年度、40 千円/2,800 千円

江崎 伸一. 文部科学省科学研究費（基盤 B・代表）. 令和 2 年度-令和 5 年度、1,600 千円/13,600 千円

江崎 伸一. 文部科学省科学研究費（基盤 B・分担）. 令和 3 年度-令和 6 年度、500 千円/13,500 千円

江崎 伸一. 研究助成金（公益財団法人日東学術振興財団）. 令和 3 年 12 月-令和 5 年 12 月、514 千円/1,000 千円

江崎 伸一. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 4 年度-令和 6 年度、300 千円/3,200 千円

江崎 伸一. 研究助成（公益財団法人愛知県がん研究振興会）. 令和 5 年 10 月-令和 6 年 3 月、250 千円

蒲谷 嘉代子. 治験研究費（ファイザー株式会社）. 平成 31 年 12 月-令和 5 年 8 月、269 千円

蒲谷 嘉代子. 文部科学省科学研究費（基盤 B・分担）. 令和 3 年度-令和 6 年度、

100 千円/13,500 千円

蒲谷 嘉代子. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 5 年度-令和 7 年度、1,600 千円/3,700 千円

的場 拓磨. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 4 年度-令和 7 年度、40 千円/3,100 千円

南方 寿哉. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和 3 年度-令和 6 年度、2,804 千円/3,500 千円

南方 寿哉. 文部科学省科学研究費（基盤 B・分担）. 令和 3 年度-令和 6 年度、100 千円/13,500 千円

村嶋 明大. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和 4 年度-令和 6 年度、1,200 千円/3,500 千円

有馬 菜千枝. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和 4 年度-令和 7 年度、1,223 千円/2,900 千円

鈴木 元彦. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 平成 31 年度-令和 5 年度、39 千円/2,800 千円

鈴木 元彦. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 3 年度-令和 7 年度、2,164 千円/3,200 千円

高野 学. 文部科学省科学研究費（基盤 B・分担）. 令和 2 年度-令和 5 年度、100 千円/13,600 千円

高野 学. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和 4 年度-令和 6 年度、2,900 千円/3,500 千円

【その他】

岩崎 真一：今日の治療指針 めまい・平衡障害；医学書院：1590，2023.

村上 信五：最新ガイドラインに基づく耳鼻咽喉科頭頸部疾患診療指針 Ramsay Hunt 症候群；総合医学社：124-129，2023.

高橋 真理子：歯科医師のための耳鼻咽喉科頭頸部外科 1 章耳科学；医歯薬出版株式会社：1-23，2023.

浅井 友詞、岩崎 真一：前庭リハビリテーション 第 2 版；三輪書店，2023.

高橋真理子：口唇口蓋裂 Update 患者・保護者と、寄り添う医療者のための Q & A 第 8 章 耳・鼻の問題；医歯薬出版：122-127，2023.

高橋真理子：歯科医師のための外科学 第 3 版、2 編外科学各論 2 章 顔面・頸部；医歯薬出版：121-127，2023.

高橋真理子：プラクティス耳鼻咽喉科の臨床 5. 難聴・耳鳴診療ハンドブック. 最新の検査・鑑別診断と治療. 2 章 D. 非拍動性耳鳴の治療 薬物療法; 中山書店: 339-344, 2023.

Sanuki T, Esaki S: Difficult Tracheostomy in a Case of Tracheal Stenosis due to Airway Burns; 100 Complications of ENT and Skull base Surgery- Each case from different Surgeons around the Globe; Elsevier: 262-264, 2023.
讃岐 徹治：内転型痙攣性発声障害に対する音声改善手術—甲状軟骨形成術 II 型; エキスパートによる短期入院のための耳鼻咽喉科手術手技; 日本医事新報社: 269-277, 2023.

蒲谷 嘉代子：プラクティス耳鼻咽喉科の臨床 5 難聴・耳鳴診療ハンドブック 耳鳴診断のアルゴリズム; 中山書店: 321-325, 2023.

蒲谷 嘉代子：名市大ブックス 13 ストレスとは?あなたに合う生き方のヒント ストレスから起こるめまい; 名古屋市立大学: 76-83, 2023.

川北 大介. 特別研究奨励費. 令和 5 年度. 600 千円

<研究活動実績>

【欧文業績】

- 1) Kanayama Y, Ikumi K, Sakurai M, Enomoto Y, Nishida E, Yamamoto A, Morita A. **Bath-psoralen plus UVA therapy changes inflammatory proteomic signatures for systemic effects beyond the skin.** *J Dermatol Sci.* **112(3)**: 162-165, 2023.
- 2) Passeron T, Lim HW, Goh CL, Kang HY, Ly F, Morita A, Ocampo-Candiani J, Puig S, Schalka S, Liu W, Demessant-Flavigny AL, Le Floch C, Kerob D, Dreno B, Krutmann J. **Sun exposure behaviours as a compromise to paradoxical injunctions: Insight from a worldwide survey.** *Journal of the European Academy of Dermatology and Venereology.* **37(12)**: 2481-2489, 2023.
- 3) Tasaki Y, Sugiyama Y, Hamamoto S, Naiki T, Uemura T, Yokota K, Kawakita D, Nakamura M, Ogawa R, Shimura T, Mimura Y, Hotta Y, Odagiri K, Ito N, Iida M, Kimura Y, Komatsu H, Kataoka H, Takiguchi S, Morita A, Iwasaki S, Okuda K, Niimi A, Yasui T, Furukawa-Hibi Y. **Eosinophil may be a predictor of immune-related adverse events induced by different immune checkpoint inhibitor types: A retrospective multidisciplinary study.** *Cancer Medicine.* **12(24)**: 21666-21679, 2023.
- 4) Boonpethkaew S, Meephansan J, Ponnikorn S, Jumlongpim O, Juntongjin P, Chakkavittumrong P, Wongpiyabovorn J, Morita A, Komine M. **Exploring the role of growth factors as potential regulators in psoriatic plaque formation.** *Exp Dermatol.* **32(11)**: 1924-2934, 2023.
- 5) Morita A, Seité S, Le Dantec G, Kerob D. **Development of actinic lentiginos due to multiple sub-erythemal exposure to UVA1 radiation in Asian skin.** *Exp Dermatol.* **32(11)**: 2034-2037, 2023.
- 6) Tada Y, Morita A, Yamanaka K, Kono M, Imafuku S, Okubo Y, Yamazaki F, Kawamura T, Itakura A, Ohtsuki M. **Real-world retention rates and effectiveness of secukinumab in psoriasis: Results from a multicenter cohort study (RAILWAY).** *J Dermatol.* **50(11)**: 1415-1426, 2023.
- 7) Burden AD, Bissonnette R, Navarini AA, Murakami M, Morita A, Haeufel T, Ye B, Baehner F, Terui T. **Spesolimab Efficacy and Safety in Patients with Moderate-to-Severe Palmoplantar Pustulosis: A Multicentre, Double-Blind, Randomised, Placebo-Controlled, Phase IIb, Dose-Finding Study.** *Dermatology and Therapy.* **13(10)**: 2279-2297, 2023.
- 8) Morita A, Strober B, Burden AD, Choon SE, Anadkat MJ, Marrakchi S, Tsai TF, Gordon KB, Thaçi D, Zheng M, Hu N, Haeufel T, Thoma C, Lebwohl MG. **Efficacy and safety of subcutaneous spesolimab for the prevention of generalised pustular psoriasis flares (Effisayil 2): an international, multicentre, randomised, placebo-controlled trial.** *Lancet.* **402(10412)**: 1541-1551, 2023.
- 9) Takeuchi T, Nishikawa K, Yamada F, Morita A, Ohtsuki M, Suzuki Y, Watanabe M, Yamanaka H, Hibi T. **Real-World Safety and Efficacy of Biosimilar CT-P13 in Patients with Immune-Mediated Inflammatory Diseases: Integrated Analysis of Three Japanese Prospective Observational Studies.** *Drug Safety.* **46(10)**: 991-1005, 2023.
- 10) Doi R, Baba N, Kato H, Nakamura M, Matsushita S, Aoki M, Fujimoto N, Kato T, Iino S, Saito S, Yasuda M, Asai J, Ishikawa M, Yatsushiro H, Kawahara Y, Inafuku K, Matsuya T, Araki R, Teramoto Y, Hasegawa M, Nakama T, Nakamura Y. **Evaluation of prognostic prediction ability of the novel Japanese risk factor scoring system in a Japanese cohort of resectable cutaneous squamous cell carcinoma: A retrospective cross-sectional study.** *Exp Dermatol.* **32(10)**: 1682-1693, 2023.

- 11) Kato H, Kano S, Yasui Y, Nojiri Y, Yoshimitsu M, Nakamura M, Morita A. **Effectiveness Treatment of a BRAF-ZKSCAN5 Fusion Gene Melanoma Case with Dabrafenib/Trametinib**. Case report in Oncology. **16(1)**: 1007-1012, 2023.
- 12) Nakahara T, Onozuka D, Nunomura S, Saeki H, Takenaka M, Matsumoto M, Kataoka Y, Fujimoto R, Kaneko S, Morita E, Tanaka A, Saito R, Okano T, Miyagaki T, Aoki N, Nakajima K, Ichiyama S, Kido-Nakahara M, Tonomura K, Nakagawa Y, Tamagawa-Mineoka R, Masuda K, Takeichi T, Akiyama M, Ishiujii Y, Katsuta M, Kinoshita Y, Tateishi C, Yamamoto A, Morita A, Matsuda-Hirose H, Hatano Y, Kawasaki H, Fukushima-Nomura A, Ohtsuki M, Kamiya K, Kabata Y, Abe R, Mitsui H, Kawamura T, Tsuji G, Katoh N, Furue M, Izuhara K. **The ability of biomarkers to assess the severity of atopic dermatitis**. J Allergy Clin Immunol Glob. **3(1)**: 100175, 2023.
- 13) Terui T, Okubo Y, Kobayashi S, Sano S, Morita A, Imafuku S, Tada Y, Abe M, Yaguchi M, Uehara N, Handa T, Tanaka M, Zhang W, Paris M, Murakami M. **Efficacy and Safety of Apremilast for the Treatment of Japanese Patients With Palmoplantar Pustulosis: Results From a Phase 2, Randomized, Placebo-Controlled Study**. Am J Clin Dermatol. **24(5)**: 837-847, 2023.
- 14) Namikawa K, Ito T, Yoshikawa S, Yoshino K, Kiniwa Y, Ohe S, Isei T, Takenouchi T, Kato H, Mizuhashi S, Fukushima S, Yamamoto Y, Inozume T, Fujisawa Y, Yamasaki O, Nakamura Y, Asai J, Maekawa T, Funakoshi T, Matsushita S, Nakano E, Oashi K, Kato J, Uhara H, Miyagawa T, Uchi H, Hatta N, Tsutsui K, Maeda T, Matsuya T, Yanagisawa H, Muto I, Okumura M, Ogata D, Yamazaki N. **Systemic therapy for Asian patients with advanced BRAF V600-mutant melanoma in a real-world setting: A multi-center retrospective study in Japan (B-CHECK-RWD study)**. Cancer Med. **12(17)**: 17967-17980,2023.
- 15) Armstrong AW, Gooderham M, Warren RB, Papp KA, Strober B, Taçi D, Morita A, Szepletowski JC, Imafuku S, Colston E, Throup J, Kundu S, Schoenfeld S, Linaberry M, Banerjee S, Blauvelt A. **Treatment of plaque psoriasis with deucravacitinib (POETYK PSO-1 study): a plain language summary**. Immunotherapy. **15(12)**: 787-797, 2023.
- 16) Mori T, Namikawa K, Yamazaki N, Kiniwa Y, Yamasaki O, Yoshikawa S, Inozume T, Kato H, Nakai Y, Fukushima S, Takenouchi T, Maekawa T, Matsushita S, Otsuka A, Nomura M, Baba N, Isei T, Saito S, Fujimoto N, Tanaka R, Kaneko T, Kuwatsuka Y, Matsuya T, Nagase K, Onishi M, Onuma T, Nakamura Y. **Efficacy of salvage therapies for advanced acral melanoma after anti-PD-1 monotherapy failure: a multicenter retrospective study of 108 Japanese patients**. Front Med (Lausanne). **10**: 1229937,2023.
- 17) Sanagawa A, Hayakawa T, Nishida E, Yamamoto A, Ikumi K, Mori Y, Hotta Y, Kimura K, Furukawa-Hibi Y, Morita A. **Impact of body mass index on the severity of bexarotene-associated hypertriglyceridemia: a post-hoc analysis of an open-labeled clinical study of combined bexarotene and phototherapy in Japanese patients with cutaneous T-cell lymphoma**. J Dermatol. **50(7)**: 917-926, 2023.
- 18) Burden AD, Bachelez H, Choon SE, Marrakchi S, Tsai TF, Turki H, Morita A, Lebwohl MG, Bissonnette R, Zheng M, Anadkat MJ, Navarini AA, Tang M, Thoma C, Duffin KC. **The Generalized Pustular Psoriasis Physician Global Assessment (GPPGA) score: online assessment and validation study of a specific measure of GPP disease activity**. Br J Dermatol. **189(1)**: 138-140, 2023.
- 19) Niwa M, Tomita N, Takaoka T, Takano H, Makita C, Matsuo M, Adachi S, Oshima Y, Yamamoto S, Kuno M, Miyakawa A, Okazaki D, Torii A, Kita N, Takano S, Nakamura M, Kato H, Morita A, Hiwatashi A. **Clinical outcomes of radiation therapy for angiosarcoma of the scalp and face: A multi-institutional observational study**. Cancers. **15(14)**: 3696, 2023.
- 20) Fujimura T, Maekawa T, Kato H, Ito T, Matsushita S, Yoshino K, Fujisawa Y, Ishizuki S, Segawa K, Yamamoto J, Hashimoto A, Kambayashi Y, Asano Y. **Treatment for taxane-**

resistant cutaneous angiosarcoma: A multicenter study of 50 Japanese cases. *J Dermatol.* **50(7):** 912-916, 2023.

21) Fujisawa Y, Namikawa K, Yoshino K, Kiniwa Y, Ito T, Kato H, Matsushita S, Hoashi T, Nakamura Y, Yoshikawa S, Miyagawa T, Asai J, Matsuya T, Fukushima S, Kato J, Takenouchi T, Uchi H, Masuzawa M, Yanagi T, Maekawa T. **Combined use of nivolumab and ipilimumab in Japanese patients with melanoma: a multicentre retrospective study of 111 cases.** *Br J Dermatol.* **189(2):** 223-250, 2023.

22) Morita A, Okubo Y, Imafuku S, Tada Y, Yamanaka K, Sugiura K, Yamaguchi Y, Yasuda M, Tsuchihashi H, Saitoh M, Sakamoto W, Okuyama R. **Assessment of flare frequency and severity of generalized pustular psoriasis in Japanese patients: A retrospective chart review study.** *JEADV Clinical Practice.* **2(2):** 261-272, 2023.

23) Imafuku S, Tada Y, Hippeli L, Banerjee S, Morita A, Ohtsuki M. **Efficacy and safety of the selective TYK2 inhibitor, deucravacitinib, in Japanese patients with moderate to severe plaque psoriasis: Subgroup analysis of a randomized, double-blind, placebo-controlled, global phase 3 trial.** *J Dermatol.* **50(5):** 588-595, 2023.

24) Saeki H, Mabuchi T, Asahina A, Abe M, Igarashi A, Imafuku S, Okubo Y, Komine M, Takahashi K, Torii H, Morita A, Yotsuyanagi H, Watanabe A, Ohtsuki M, Committee for reviewing the safety of molecularly targeted drugs for psoriasis, Japanese Dermatological Association. **English version of Japanese guidance for the use of oral Janus kinase inhibitors (JAK1 and TYK2 inhibitors) in the treatments of psoriasis.** *J Dermatol.* **50(5):** e138-150, 2023.

25) Vogeley C, Kress S, Lang D, Vogel CFA, Hartung F, Brenden H, Nakamura M, Grether-Beck S, Rossi A, Krutmann J, Schikowski T, Haarmann-Stemmann T. **A gene variant of AKR1C3 contributes to interindividual susceptibilities to atopic dermatitis triggered by particulate air pollution.** *Allergy.* **78(5):** 1372-1375, 2023.

26) Magara T, Nakamura M, Nojiri Y, Yoshimitsu M, Kano S, Kato H, Morita A. **Tumor immune microenvironment of cutaneous angiosarcoma with cancer testis antigens and the formation of tertiary lymphoid structures.** *Frontiers in Oncology.* **13:** 1106434, 2023.

27) Minohara K, Imai M, Matoba T, Wing JB, Shime H, Odanaka M, Uraki R, Kawakita D, Toyama T, Takahashi S, Morita A, Murakami S, Ohkura N, Sakaguchi S, Iwasaki S, Yamazaki S. **Mature dendritic cells enriched in regulatory molecules may control regulatory T cells and the prognosis of head and neck cancer.** *Cancer Science.* **114(4):** 1256-1269, 2023.

28) Navarini AA, Prinz JC, Morita A, Tsai TF, Viguier MA, Li L, Thoma C, Sivalingam M, Lebwohl MG. **Spesolimab improves patient-reported outcomes in patients with generalized pustular psoriasis: Results from the Effisayil I study.** *Journal of the European Academy of Dermatology and Venereology.* **37(4):** 730-736, 2023.

29) Takimoto-Ito R, Kambe N, Kogame T, Nomura T, Izawa K, Jo T, Kazuma Y, Yoshifuji H, Tabuchi Y, Abe H, Yamamoto M, Nakajima K, Tomita O, Yagi Y, Katagiri K, Matsuzaka Y, Takeuchi Y, Hatanaka M, Kanekura T, Takeuchi S, Kadono T, Fujita Y, Migita K, Fujino T, Akagi T, Mukai T, Nagano T, Kawano M, Kimura H, Okubo Y, Morita A, Hide M, Satoh T, Asahina A, Kanazawa N, Kabashima K. **Summary of the current status of clinically diagnosed cases of Schnitzler syndrome in Japan.** *Allergology International.* **72(2):** 297-305, 2023.

30) Toriyama M, Rizaldy D, Nakamura M, Atsumi Y, Toriyama M, Fujita F, Okada F, Morita A, Itoh H, Ishii KJ. **Dendritic cell proliferation by primary cilium in atopic dermatitis.** *Frontiers in Molecular Biosciences.* **10:** 1149828, 2023.

31) Inozume T, Namikawa K, Kato H, Yoshikawa S, Kiniwa Y, Yoshino K, Mizuhashi S, Ito T, Takenouchi T, Matsushita S, Fujisawa Y, Matsuzawa T, Sugihara S, Asai J, Kitagawa H,

- Maekawa T, Isei T, Yasuda M, Yamazaki N, Uhara H, Nakamura Y. **Analyzing the relationship between the efficacy of first-line immune checkpoint inhibitors and cumulative sun damage in Japanese patients with advanced BRAF wild-type nonacral cutaneous melanoma: A retrospective real-world, multicenter study.** *J Dermatol Sci.* **110(1)**: 19-26,2023.
- 32) Kano S, Nakamura M, Nojiri Y, Magara T, Yoshimitsu M, Kato H, Morita A. **Differences in the immune microenvironment between improved and non-improved cases of vitiligo after halo nevus excision.** *J Dermatol Sci.* **109(3)**: 136-142, 2023.
- 33) Asahina A, Okubo Y, Morita A, Tada Y, Igarashi A, Langley RG, Deherder D, Matano M, Vanvoorden V, Wang M, Ohtsuki M, Nakagawa H. **Bimekizumab Efficacy and Safety in Japanese Patients with Plaque Psoriasis in BE VIVID: A Phase 3, Ustekinumab and Placebo-Controlled Study.** *Dermaotlogy and Therapy.* **13(3)**: 751-768, 2023.
- 34) Boonpethkaew S, Meephansan J, Charoensuksira S, Jumlongpim O, Tangtanatakul P, Wongpiyabovorn J, Komine M, Morita A. **Elucidating the NB-UVB Mechanism by Comparing Transcriptome Alteration on the Edge and Center of Psoriatic Plaques.** *Scientific Reports.* **13(1)**: 4384, 2023.
- 35) Morita A, Chen Y, Leung WL, Kawashima N, Terui T. **Effect of Guselkumab on Serum Biomarkers in Japanese Palmoplantar Pustulosis Patients in a Randomized Phase 3 Study.** *JEADV Clinical Practice* **2(1)**: 59-72, 2023.
- 36) Kokolakis G, Warren RB, Strober B, Blauvelt A, Puig L, Morita A, Gooderham M, Körber A, Vanvoorden V, Wang M, de Cuyper D, Madden C, Nunez Gomez N, Lebwohl M. **Bimekizumab efficacy and safety in patients with moderate to severe plaque psoriasis who switched from adalimumab, secukinumab or ustekinumab: Results from phase 3/3b trials, in preparation.** *Br J Dermatol.* **188(3)**: 330-340, 2023.
- 37) Morita A, Tsai TF, Yee EYW, Okubo Y, Imafuku S, Zheng M, Li L, Quaresma M, Thoma C, Choon SE. **Efficacy and safety of spesolimab in Asian patients with a generalized pustular psoriasis flare: Results from the randomized, double-blind, placebo-controlled Effisayil™ 1 study.** *J Dermatol.* **50(2)**: 183-194, 2023.
- 38) Nakahara T, Izuhara K, Onozuka D, Saeki H, Nunomura S, Takenaka M, Matsumoto M, Kataoka Y, Fujimoto R, Kaneko S, Morita E, Tanaka A, Hide M, Okano T, Miyagaki T, Aoki N, Nakajima K, Ichiyama S, Kido-Nakahara M, Tonomura K, Nakagawa Y, Tamagawa-Mineoka R, Masuda K, Takeichi T, Akiyama M, Ishiujii Y, Katsuta M, Kinoshita Y, Tateishi C, Yamamoto A, Morita A, Matsuda-Hirose H, Hatano Y, Kawasaki H, Tanese K, Ohtsuki M, Kamiya K, Kabata Y, Abe R, Mitsui H, Kawamura T, Tsuji G, Katoh N, Furue M. **Exploring biomarkers to predict clinical improvement of Atopic Dermatitis in patients treated with dupilumab (B-PAD study).** *Clinical and Experimental Allergy.* **53(2)**: 233-238, 2023.
- 39) Nojiri Y, Nakamura M, Magara T, Yamamoto A, Ikumi K, Nakamura R, Nishida E, Haarmann-Stemmann T, Morita A. **Influence of aldo-keto reductase 1C3 polymorphisms in early-onset female psoriasis patients.** *Scientific Reports.* **13(1)**: 3280, 2023.
- 40) Saeki H, Mabuchi T, Asahina A, Abe M, Igarashi A, Imafuku S, Okubo Y, Komine M, Sano S, Torii H, Morita A, Yotsuyanagi H, Watanabe A, Ohtsuki M; Committee for reviewing the safety of molecularly targeted drugs for psoriasis, Japanese Dermatological Association. **English version of Japanese guidance for use of biologics for psoriasis (the 2022 version).** *J Dermatol.* **50(2)**: e41-e68, 2023.
- 41) Yamanaka K, Okubo Y, Yasuda I, Saito N, Messina I, Morita A. **Efficacy and safety of risankizumab in Japanese patients with generalized pustular psoriasis or erythrodermic psoriasis: Primary analysis and 180-week follow-up results from the phase 3, multicenter IMMSpire study.** *J Dermatol.* **50(2)**: 195-202, 2023.

42) Noborio R, Nomura Y, Nakatani K, Kiyohara T, Morita A. **The role of pigment stem cells in hair follicles in the treatment of vitiligo with 308-nm excimer laser: immunohistochemical study of human cases.** Journal of Cutaneous Immunology and Allergy. **6(1): 35-37, 2023.**

43) Armstrong AW, Gooderham M, Warren RB, Papp KA, Strober B, Thaçi D, Morita A, Szepletowski JC, Imafuku S, Colston E, Throup J, Kundu S, Schoenfeld S, Linaberry M, Banerjee S, Blauvelt A. **Deucravacitinib versus placebo and apremilast in moderate to severe plaque psoriasis: efficacy and safety results from the 52-week, randomized, double-blinded, placebo-controlled phase 3 POETYK PSO-1 trial.** J Am Acad Dermatol **88(1): 29-39, 2023.**

44) Ikumi K, Torii K, Kio T, Masuda H, Kanayama Y, Morita A. **A case of mycosis fungoides effectively treated with ultraviolet light A 1-light-emitting diode phototherapy.** Photodermatol Photoimmunol Photomed. **39(1): 69-71, 2023.**

45) Yasui Y, Kato H, Oda T, Nakamura M, Morita A. **Complications and risk factors of punch biopsy: A retrospective large-scale study.** J Dermatol. **50(1): 98-101, 2023.**

46) Morita A, Choon SE, Bachelez H, Anadkat MJ, Marrakchi S, Zheng M, Tsai TF, Turki H, Hua H, Rajeswari S, Thoma C, Burden AD. **Design of Effisayil™ 2: A Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Study of Spesolimab in Preventing Flares in Patients with Generalized Pustular Psoriasis.** Dermatology and Therapy. **13(1): 347-359, 2023.**

47) Atsumi Y, Toriyama M, Kato H, Nakamura M, Morita A, Takaishi M, Saito K, Tanaka M, Okada F, Tominaga M, Ishii KJ, Fujita F. **Anti-inflammatory role of TRPV4 in human macrophages.** ImmunoHorizons. **7(1): 81-96, 2023.**

【和文業績】

1) 森田 明理. **【乾癬の診療 update-病態・臨床の最新動向-】乾癬の治療 生物学的製剤 IL-17A/F 阻害薬.** 日本臨床. **81(12): 1901-1908, 2023.**

2) 井汲 今日子. **【乾癬の診療 update-病態・臨床の最新動向-】乾癬・乾癬性関節炎の疫学.** 日本臨床. **81(12): 1787-1794, 2023.**

3) 中西 健史, 池上 隆太, 大森 俊, 加藤 裕史, 小森 敏史, 清水 知道, 杉田 和成, 谷崎 英昭, 中島 英貴, 林 周次郎, 松尾 梨沙, 三井 広, 柳澤 宏人, 山口 道也, 山崎 修, 西出 薫, 浅野 善英, 藤原 浩, 前川 武雄, 茂木 精一郎, 吉野 雄一郎, 長谷川 稔, 藤本 学, 立花 隆夫, 創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン策定委員会. **日本皮膚科学会ガイドライン 創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン(2023) 糖尿病性皮膚潰瘍・壊疽診療ガイドライン(第3版).** 日本皮膚科学会雑誌. **133(13): 2969-3024, 2023.**

4) 中村 元樹. **グルコース-6-リン酸脱水素酵素と腫瘍免疫活性.** 加齢皮膚医学セミナー. **18(2): 17-20, 2023.**

5) 加藤 裕史. **MRSA による皮膚軟部感染症.** 西日本皮膚. **85(6): 439-443, 2023.**

6) 加古 志織, 小林 瑞穂, 澤田 啓生. **頭頂部に生じた異型紡錘形細胞/多形脂肪腫様腫瘍の1例.** 西日本皮膚科. **85(6): 477-480, 2023.**

7) 中村 元樹. **皮膚がん診療の新しいバイオマーカー 腫瘍微小環境と三次リンパ様構造.** Skin Cancer. **38(2): 50-54, 2023.**

8) 櫻井 麻衣, 森田 明理. **【紫外線の基本知識と皮膚へのかかわり】乾癬に対する紫外線療法.** 皮膚科. **4(4): 444-451, 2023.**

9) 山本 礼, 森田 明理. **わかりやすい皮膚光線テストの方法.** 皮膚科. **4(4): 494-504, 2023.**

- 10) 渡邊 大起, 井汲 今日子, 古賀 浩嗣, 山本 礼, 石井 文人, 森田 明理. 【psoriatic disease～全身疾患へのアプローチ～】尋常性乾癬に抗ラミニン $\gamma 1$ 類天疱瘡が合併した例. 皮膚病診療. 45(10): 921-925, 2023.
- 11) 中島 真以, 加藤 裕史, 的屋 真美, 森田 明理. 慢性に経過した播種状円板状エリテマトーデス型皮疹に有棘細胞癌を合併した 1 例. 皮膚科の臨床. 65(11): 1699-1702, 2023.
- 12) 中村 元樹. 【切らずに勝負!皮膚科医のための美容皮膚診療】治療の取り組み 光・環境因子による皮膚老化とその対策. Derma. (340): 1-8, 2023.
- 13) 中村 元樹. 芳香族炭化水素受容体(AHR)と紫外線応答. 皮膚科. 4(4): 488-493, 2023.
- 14) 亀田 秀人, 渥美 達也, 岸本 暢将, 岡本 奈美, 川上 純, 大久保 ゆかり, 森 雅亮, 辻 成佳, 藤本 学, 富田 哲也, 森田 明理. 乾癬性関節炎患者の重症度評価に関する検討. 日本脊椎関節炎学会誌. 10(2): 85-91, 2023.
- 15) 井汲 今日子. 明日からやってみよう光線療法. 日本皮膚科学会雑誌. 133(109): 2355-2361, 2023.
- 16) 森田 明理. 【アンチエイジング-運動・栄養・環境・精神の観点から-】老化とは外的老化. 美容皮膚医学 Beauty. 6(8): 21-25, 2023.
- 17) 中村 元樹. 【皮膚悪性腫瘍の最前線】メルケル細胞がんの全身療法. 皮膚科. 4(1): 37-43, 2023.
- 18) 真柄 梓, 加藤 裕史, 森田 明理. 【埋もれた症例に光をあてる～潰瘍底から掘り起こすさまざまな皮膚潰瘍 II～】(Part3.)誘因不明, その他(case 21) 両踵部に難治性皮膚潰瘍を伴った Werner 症候群. Visual Dermatology. 22(7): 697-699, 2023.
- 19) 加納 慎二, 西尾 栄一, 森田 明理. アセトアミノフェンによる汎発性水疱性固定薬疹の 1 例. 西日本皮膚科. 85(3): 169-171, 2023.
- 20) 吉井 章一郎, 加藤 裕史, 佐藤 秀吉, 鳥山 和宏, 森田 明理. 広範囲切除を要した鼻尖部 Microcystic adnexal carcinoma の 1 例. 西日本皮膚科. 85(3): 188-191, 2023.
- 21) 森田 明理. ここまできた分子標的薬・抗体製剤の最新情報 from A to Z(No.20) 乾癬の分子標的薬. 日本医師会雑誌. 152(1): 76-77, 2023.
- 22) 高木 佐千代, 西原 春奈, 中村 令子, 亀井 美智, 森田 明理. 【気をつけるべき小児の腫瘤～悪性腫瘍を見逃さない～】左眼球結膜と肝臓, 皮膚に多発の血管腫を認めたびまん性新生児血管腫症. 皮膚病診療. 45(4): 321-325, 2023.
- 23) 森田 明理. 【最近のトピックス 2023】皮膚疾患治療のポイント 皮膚疾患に対する紫外線の影響とその防御へのアプローチ. 臨床皮膚科. 77(5): 132-136, 2023.
- 24) 中村 元樹. 新・皮膚科セミナーリウム ここまでわかった皮膚悪性腫瘍の発生機序メルケル細胞癌の起源とその特性. 日本皮膚科学会雑誌. 133(3): 459-465, 2023.
- 25) 井汲 今日子, 森田 明理. 【皮膚科領域でのビッグデータの活用法】日本乾癬学会データベースについて. Derma., (331): 51-57, 2023.
- 26) 大林 三裕佳, 中村 賢人, 古橋 卓也, 岩月 啓氏, 三宅 智子, 平井 陽至, 谷田 けい, 金兼 弘和, 西田 徹也, 木村 宏, 森田 明理. CD8+ $\alpha \beta$ T 細胞優位型種痘様水疱症リンパ増殖異常症の 1 例. 皮膚科の臨床. 65(2): 273-278, 2023.

27) 長村 美佳, 岩井 敦子, 不破 大祐, 李 政樹, 加藤 千晶, 石井 文人. **特発性血小板減少性紫斑病を合併した線状 IgA 水疱性皮膚症の 1 例**. 皮膚科の臨床. **65(2)**: 235-238, 2023.

28) 西村 香菜, 中村 元樹, 安井 由希子, 宮崎 愛子, 小田 隆夫, 加藤 裕史, 森田 明理. **右耳垂部脂腺母斑から発生した基底細胞癌の 1 例**. 皮膚科の臨床. **65(1)**: 105-109, 2023.

29) 佐伯 秀久, 馬淵 智生, 朝比奈 昭彦, 安部 正敏, 五十嵐 敦之, 今福 信一, 大久保 ゆかり, 小宮根 真弓, 高橋 健造, 鳥居 秀嗣, 森田 明理, 四柳 宏, 渡辺 彰, 大槻 マミ太郎, 日本皮膚科学乾癬分子標的薬安全性検討委員会. **乾癬におけるヤヌスキナーゼ(JAK)阻害内服薬(JAK1 阻害薬と TYK2 阻害薬)の使用ガイドンス**. 日本皮膚科学会雑誌. **133(1)**: 1-12, 2023.

30) 加古 志織, 澤田 啓生. **臀部に生じた皮膚線毛嚢腫の 1 例**. 西日本皮膚科. **85(1)**: 41-45, 2023.

【各教員の論文数 (桜山)】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	森田 明理	57(33)	40(17)	17(16)
准教授	加藤 裕史	18(2)	12(1)	6(1)
准教授	中村 元樹	18(6)	11(0)	7(6)
助教	中村 令子	2(0)	1(0)	1(0)
助教	山本 礼	7(1)	5(0)	2(1)
助教	井汲 今日子	8(4)	4(1)	4(3)

【各教員の論文数 (東部)】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
准教授(診療担当)	岩井 敦子	1	0	1(0)
助教(診療担当)	加藤 彰大	0	0	0

【各教員の論文数 (西部)】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授(診療担当)	澤田 啓生	2(2)	0	2(2)

【各教員の論文数 (みどり)】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
助教	野尻 由佳	4(1)	4(1)	0

【各教員の論文数 (みらい)】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
助教	高木 佐千代	1(1)	0	1(1)

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す (教授の場合は最終著者の論文も含む)

【表彰・受賞】

森田 明理. **The Journal of Dermatology**. Most Cited Articles 2022. Patient characteristics and burden of disease in Japanese patients with generalized pustular psoriasis: Results from the Medical Data Vision claims database, 令和5年6月

【外部資金獲得実績】

- 1) 森田 明理. 文部科学省科学研究費(基盤B・代表). 令和2年度-令和6年度、2,000千円/14,000千円
- 2) 森田 明理. 受託研究費(AMED・分担). 令和5年度、2,000千円
- 3) 加藤 裕史. 受託研究費(AMED・分担). 令和5年度、1,500千円

<研究活動実績>

【欧文業績】

Mizutani T, Tsuchiya S, Honda M, Jorge Luis Montenegro Raudales, Kuroda K, Miyamoto H, Nakamura T, Ishibashi K, Shibuya Y. **Alkali-treated titanium dioxide promotes formation of proteoglycan layer and altered calcification and immunotolerance capacity in bone marrow stem cell.** *Biochem Biophys Rep.* **36**: 1001569, 2023.

Ohara G, Okabe K, Toyama N, Ohta Y, Xinman S, Ichimura N, Sato K, Urata Y, Hibi H. **Hyperthermia maintains death receptor expression and promotes TRAIL-induced apoptosis.** *J Oral Pathol Med.* **52(8)**: 718-726, 2023.

Song X, Okabe K, Ohta Y, Ohara G, Toyama N, Chang Q, Wang Y, Hibi H. **Family with sequence similarity 20 member B regulates osteogenic differentiation of bone marrow mesenchymal stem cells on titanium surfaces.** *Acta Biomater.* **161**: 298-308, 2023.

Sakai K, Yamamoto N, Yamaguchi S, Okabe K, Koma Y, Hibi H. **Langerhans cell histiocytosis of single-system multifocal bone, including the mandible, in a 22-month-old child: A case report.** *Oral Science International.* **20(1)**: 60-64, 2023.

Sun Y, Islam S, Gao Y, Nakamura T, Zou K, Michikawa M. **Apolipoprotein E4 inhibits γ -secretase activity via binding to the γ -secretase complex.** *J Neurochem.* **164(6)**: 858-874, 2023.

Gao Y, Sun Y, Islam S, Nakamura T, Tomita T, Zou K, Michikawa M. **Apolipoprotein E4 inhibits γ -secretase activity via binding to the γ -secretase complex. Presenilin 1 deficiency impairs A β 42-to-A β 40- and angiotensin-converting activities of ACE.** *Front. Aging Neurosci.* **15**: 1098034, 2023.

Nakamura T, Hashita T, Chen Y, Gao Y, Sun Y, Islam S, Sato H, Shibuya Y, Zou K, Matsunaga T, Michikawa M. **A β 42 treatment of the brain side reduced the level of flotillin from endothelial cells on the blood side via FGF-2 signaling in a blood-brain barrier model.** *Mol Brain.* **16(1)**: 15, 2023.

Kurita H, Umeda M, Ueno T, Uzawa N, Shibuya Y, Nakamura N, Nagatsuka H, Hayashi T, Mizoguchi I, Tomihara K, Ikegami Y, Noguchi K, Takiguchi Y, Yamamoto N, Sakai H. **Management of odontogenic foci of infection (dental caries, periodontal disease and odontogenic infections) in the oral functional management of patients receiving cancer treatments: Guidelines based on a systematic review.** *Oral Science International.* In press

【和文業績】(2023年1~12月)

三浦真香, 渋谷恭之. 回復期リハビリテーション患者における歯科治療の重要性について. *Hospital Dentistry & Oral-Maxillofacial Surgery.* **35(1)**: 9-11, 2023.

石橋謙一郎, 森田麻希, 鍋田剛志, 中村知寿, 宮本大模, 菱田純代, 加藤伸一郎, 渋谷恭之. 高齢口腔扁平上皮癌患者へのS-1投与における臨床病理学的検討. *日本口腔腫瘍学会誌.* **35(3)**: 89-95, 2023.

渋谷恭之. 医療安全を見据えたインプラント卒業教育に、キャダバーを用いたサージカルトレーニング(CST)をどのように活用すべきか?. 日本顎顔面インプラント学会誌. 22(2): 79-85, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	渋谷恭之	5(4)	3(1)	3(3)
講師	土屋周平	1(1)	1(1)	0
講師	石橋謙一郎	2(1)	1(0)	1(1)
講師	宮本大模	2(0)	1(0)	1(0)
助教	中村知寿	5(1)	4(1)	1(0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
講師	岡部一登	3(2)	3(2)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	深野英夫	0	0	0
准教授	土持師	0	0	0
助教	加藤伸一郎	1(0)	0	1(0)
助教	菱田純代	1(0)	0	1(0)
助教	谷口弘樹	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（みらい光生）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
助教	高島裕之	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】 (2023 年度)

石橋謙一郎，森田麻希，鍋田剛志，中村知寿，宮本大模，菱田純代，加藤伸一郎，渋谷恭之. **一般社団法人日本口腔腫瘍学会**. 日本口腔腫瘍学会学会賞.
高齢口腔扁平上皮癌患者への S-1 投与における臨床病理学的検討
日本口腔腫瘍学会誌. 35(3): 89-95, 令和 6 年 1 月

【外部資金獲得実績】 (2023 年度)

【桜山】

渋谷 恭之. 文部科学省科学研究費(基盤 C・代表). 令和 2 年度-令和 5 年度、780 千円 /4, 290 千円

渋谷 恭之. 文部科学省科学研究費(基盤 C・分担). 令和 5 年度-令和 7 年度、100 千円

渋谷 恭之. 文部科学省科学研究費(基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 5 年度、50 千円

渋谷 恭之. 文部科学省科学研究費(基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 6 年度、50 千円

土屋 周平. 文部科学省科学研究費(基盤 C・代表). 令和 3 年度-令和 5 年度、1, 430 千円 /4, 290 千円

石橋 謙一郎. 文部科学省科学研究費(基盤 C・分担). 令和 4 年度-令和 6 年度年度、30 千円

宮本 大模. 文部科学省科学研究費(基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 6 年度、0 千円

中村 知寿. 文部科学省科学研究費(基盤 C・分担). 令和 5 年度-令和 7 年度、200 千円

【東部】

岡部 一登. 文部科学省科学研究費(基盤 C・代表). 令和 5 年度-令和 7 年度、1, 560 千円 /4, 810 千円

【西部】

加藤 伸一郎. 文部科学省科学研究費(基盤 C・代表). 令和 3 年度-令和 6 年度、520 千円 /3, 770 千円

【その他】

●国内主要学会発表（2023年度）

菱田純代，加藤伸一郎，荒川美貴子，中村知寿，鍋田剛志，高島裕之，中根昇吾，渋谷恭之．第33回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会．当院における血液培養陽性患者の検討．2024年3月8日-10日

横井駿太，木下史緒理，伊藤栞，中村知寿，大喜多賢治，中村敦，飯田真介．第252回日本内科学会東海地方会．脳静脈血栓症を併発したレミエール症候群の一例．2024年2月18日

松山楓，宮本大模，渋谷恭之．第39回日本臨床栄養代謝学会学術集会．咀嚼機能評価のための食品テクスチャー測定による食品物性の検討．2024年2月15-16日

石橋謙一郎，土屋周平，渋谷恭之．第42回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会．口腔扁平上皮癌においてNGI-1はPDL-1の発現および腫瘍増殖能を抑制する．2024年1月25-26日

大原賢治，堀部桃子，中村知寿，鍋田剛志，宮本大模，石橋謙一郎，菱田純代，加藤伸一郎，渋谷恭之．第42回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会．上顎前歯部歯肉に認められた無色素性悪性黒色腫に対して陽子線治療を行った1例．2024年1月25-26日

松山楓，宮本大模，土屋周平，岡部一登，水谷友美，高島裕之，中根昇吾，谷口弘樹，渋谷恭之．第27回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会．咀嚼機能評価に用いられる食品試料のテクスチャー分析．2023年12月2-3日

水谷友美，土屋周平，松山楓，谷口弘樹，中根昇吾，宮本大模，石橋謙一郎，岡部一登，渋谷恭之．第27回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会．アルカリ処理した二酸化チタンはプロテオグリカン層形成を促進し骨髄幹細胞の石灰化と免疫寛容能を変化させる．2023年12月2-3日

石橋謙一郎，前田悠雅，長屋櫻子，堀部桃子，大原賢治，水谷友美，鍋田剛志，中村知寿，土屋周平，渋谷恭之．第68回日本口腔外科学会総会・学術大会．口腔扁平上皮癌においてNGI-1はPD-L1の発現および腫瘍形成能を抑制する．2023年11月10-12日

宮本大模，西村みのり，小林寛子，安永奈津子，加古まり，荒川美貴子，中村知寿，石橋謙一郎，土屋周平，渋谷恭之．第68回日本口腔外科学会総会・学術大会．当科における放射線性顎骨壊死15例に関する臨床的検討．2023年11月10-12日

土屋周平，森晶穂，松山楓，中根昇吾，森田麻希，松本圭司，中村知寿，宮本大模，石橋謙一郎，渋谷恭之．第68回日本口腔外科学会総会・学術大会．口腔扁平上皮癌細胞におけるSTT3AおよびSTT3Bはシスプラチンによる細胞死を抑制する．2023年11月10-12日

深野英夫，加藤伸一郎，渡邊裕之，菱田純代，仲谷佐奈子，宮本大模，小嶋大輝．第68回日本口腔外科学会総会・学術大会．頬骨に発症した骨血管腫に対する超音波骨手

術器械の使用経験. 2023年11月10-12日

西村みのり, 宮本大模, 松本圭司, 長屋櫻子, 中根昇吾, 谷口弘樹, 鍋田剛志, 石橋謙一郎, 土屋周平, 渋谷恭之. 第66回日本口腔科学会中部支部学術集会. 上顎歯肉に発生した無色素性悪性黒色腫に対して陽子線治療を行った1例. 2023年10月14日

森晶穂, 石橋謙一郎, 前田悠雅, 松山楓, 小林寛子, 大原賢治, 水谷友美, 中村知寿, 土屋周平, 渋谷恭之. 第66回日本口腔科学会中部支部学術集会. 舌下面に生じたリンパ上皮性嚢胞の一例. 2023年10月14日

小原豪, 岡部一登, 外山直人, 太田優也, 渡邊純奈, 佐藤康太郎, 日比英晴. 第66回日本口腔科学会中部支部学術集会. ヒト歯髄幹細胞由来細胞外小胞は放射線性顎骨壊死の発症を予防する. 2023年10月14日

谷口弘樹, 堤康輔, 西村みのり, 加藤伸一郎, 菱田純代, 深野英夫. 第66回日本口腔科学会中部支部学術集会. conservative surgery を反復し症状の改善が得られた下顎MRONJの治療経験. 2023年10月14日

長屋櫻子, 宮本大模, 山内千佳, 中村知寿, 宮本大模, 石橋謙一郎, 加藤伸一郎, 渋谷恭之. 第43回日本歯科薬物療法学会・第33回日本口腔内科学会・第32回日本口腔感染症学会・第36回日本口腔診断学会. 当科における口腔カンジダ症に対する臨床的検討. 2023年9月22-24日

山内千佳, 長屋櫻子, 中村知寿, 宮本大模, 石橋謙一郎, 渋谷恭之. 第43回日本歯科薬物療法学会・第33回日本口腔内科学会・第32回日本口腔感染症学会・第36回日本口腔診断学会. 口腔・咽頭の剥離上皮膜による気道狭窄を認めた下腿壊死性筋膜炎の1例. 2023年9月22-24日

深野英夫, 渡邊裕之. 第43回日本歯科薬物療法学会・第33回日本口腔内科学会・第32回日本口腔感染症学会・第36回日本口腔診断学会. 上顎部に発症したリンパ増殖性病変9例の検討. 2023年9月22-24日

大原賢治, 中村知寿, 森田麻希, 宮本大模, 石橋謙一郎, 加藤伸一郎, 渋谷恭之. 第47回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会. 口腔潜在的悪性疾患のアピゲニン含有フィルムによる発癌予防効果の検討. 2023年6月15-16日

安永奈津子, 池森宇泰, 渋谷恭之. 第33回日本顎変形症学会総会・学術大会. 著しい骨格性下顎前突症例に対して下顎骨単独後方移動術を施行した1例. 2023年6月8-9日

前田悠雅, 土屋周平, 石橋謙一郎, 加藤伸一郎, 鍋田剛志, 渋谷恭之. 第48回日本口腔外科学会中部支部学術集会. 下顎歯肉に発生した乳頭状扁平上皮癌の1例. 2023年6月4日

仙頭佳起, 中村知寿, 安藤翔悟, 野木村茜, 中西俊之, 辻達也, 上村友二, 佐藤曾士, 加古英介, 鈴木伸幸, 橋本大哉, 渋谷恭之, 植木美乃, 道川誠, 祖父江和哉. 第

27 回日本神経麻酔集中治療学会. 術前の血清プロチリンレベルと術後の神経認知障害の関連性探索 前向き観察研究(パイロットスタディ). 2023 年 5 月 19-20 日

仙頭佳起, 鄭且均, 中村知寿, 周春雨, MonaAbdullatif, 志田恭子, 藤掛数馬, 太田晴子, 加古英介, 田村哲也, 祖父江和哉, 道川誠. 第 27 回日本神経麻酔集中治療学会. 全身麻酔と開腹手術が脳のリン酸化タウ蛋白質レベルに及ぼす影響 アルツハイマー病モデルマウスを用いた検討. 2023 年 5 月 19-20 日

鹿間優子, 才川皓平, 中村健人, 中根昇吾, 鍋田剛志, 荒川美貴子, 高岡素子, 渋谷恭之. 第 77 回日本口腔科学会学術集会. 咀嚼機能評価における食品物性特性の測定と分析. 2023 年 5 月 19-20 日

山内千佳, 石橋謙一郎, 水谷友美, 中村知寿, 堀部桃子, 安永奈津子, 安東孝純, 渋谷恭之. 第 77 回日本口腔科学会学術集会. 当科における口腔カンジダ症の臨床的検討. 2023 年 5 月 19-20 日

安東孝純, 土屋周平, 高島裕之, 小林寛子, 鹿間優子, 林恒希, 渋谷恭之. 第 77 回日本口腔科学会学術集会. FLNA 異常症患者に生じた歯原性角化嚢胞の一例. 2023 年 5 月 19-20 日

深野英夫, 渡辺裕之, 加藤伸一郎. 第 77 回日本口腔科学会学術集会. 頬粘膜下の小唾液腺唾石症の 6 例. 2023 年 5 月 19-20 日

中根昇吾, 伊藤由起, 加藤沙耶香, 金子佳世, 榎原毅, 渋谷恭之, 上島通浩. 第 93 回日本衛生学会学術総会. エコチル調査参加学童児における口腔衛生状態と血圧高値の関連. 2023 年 3 月 2 - 4 日

山田悠史, 小川了, 末次彩, 寺西絵美, 川瀬理絵子, 森田裕之, 塚本香織, 飯塚みさき, 伊藤夕貴, 渋谷恭之, 瀧口修司. 第 26 回日本病態栄養学会年次学術集会. “食道癌術後患者は禁酒が必須なのか” 飲酒量が体組成に及ぼす影響についての検討. 2023 年 1 月 13-15 日

●研究会発表 (2023 年度)
該当なし

●著書 (2023 年)
(分担執筆)

三浦真香, 渋谷恭之: 認定 NST ガイドブック 2023(改訂第 6 版)Chapter5 発展的な栄養管理 4. 歯科領域との連携, 日本病態栄養学会編, 株式会社南江堂

渋谷恭之. 口腔がんとは?. 産経新聞. 2023 年 5 月 28 日

●講演（2023年度）

渋谷恭之：第38回日本臨床栄養代謝学会学術集会．教育講演 栄養管理における口腔機能の重要性について．2023年5月9-10日

渋谷恭之：(株)久光製薬 口腔感染症領域 Web Symposium. 2023年1月1日

石橋謙一郎，山内千佳：令和5年度がん診療に関する講演会「周術期口腔管理について」．2024年3月1日

深野英夫：「頭頸部がん 第二部・口腔がん～当院の役割～」名古屋市立大学医学部附属西部医療センター・第15回周術期口腔管理セミナー. 2023年12月7日

土持師：第74回名古屋市立大学医学会総会，警戒区域における法歯学的災害支援. 2023年12月3日

●シンポジウム・ワークショップ（2023年度）

該当なし

●学会活動

【桜山】

渋谷恭之

- ・日本口腔外科学会 代議員
- ・日本口腔科学会 評議員
- ・日本口腔腫瘍学会 評議員
- ・日本顎顔面インプラント学会 運営審議委員
- ・日本顎顔面補綴学会 代議員
- ・日本頭頸部癌学会 代議員
- ・日本口腔感染症学会 代議員・理事
- ・日本口腔ケア学会 評議員

【西部】

深野英夫

- ・日本口腔外科学会 代議員
- ・日本口腔科学会 評議員
- ・日本口腔内科学会 代議員
- ・愛知県病院歯科医会 理事

土持 師

- ・日本法歯科医学会 評議員
- ・愛知県保険医協会 勤務医会 評議員

加藤伸一郎

- ・日本口腔外科学会 代議員

【東部】

岡部一登

- ・日本口腔インプラント学会 代議員

●学会等資格

【桜山】

渋谷恭之

- ・日本口腔外科学会 専門医，指導医
- ・日本顎顔面インプラント学会 指導医
- ・日本がん治療認定医機構 認定医（歯科口腔外科）
- ・日本口腔腫瘍学会 口腔がん専門医
- ・日本障害者歯科学会 指導医
- ・日本口腔科学会 認定医，指導医
- ・日本口腔感染症学会 院内感染予防対策認定医
- ・がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
- ・歯科医師臨床研修指導歯科医
- ・神戸大学非常勤講師
- ・愛知学院大学講師（非常勤）

土屋周平

- ・日本口腔外科学会 専門医
- ・歯科医師臨床研修指導歯科医
- ・がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
- ・愛知学院大学歯学部非常勤講師

石橋謙一郎

- ・日本口腔外科学会 専門医，指導医
- ・日本口腔科学会 認定医，指導医
- ・国際口腔顎顔面外科専門医 (FIBCSOMS : Fellow of the International Board for the Certification of Specialists in Oral and Maxillofacial Surgery)
- ・日本がん治療認定医機構 認定医（歯科口腔外科）
- ・がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
- ・歯科医師臨床研修指導歯科医
- ・愛知学院大学歯学部非常勤講師

宮本大模

- ・日本口腔外科学会 認定医
- ・日本口腔科学会 認定医
- ・がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
- ・歯科医師臨床研修指導歯科医

中村知寿

- ・日本口腔外科学会 認定医
- ・日本口腔科学会 認定医
- ・日本有病者歯科医療学会 認定医
- ・日本口腔内科学会 認定医
- ・日本口腔顔面痛学会 認定医
- ・日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士

- ・インфекションコントロールドクター
- ・がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
- ・歯科医師臨床研修指導歯科医

【西部】

深野英夫

- ・日本口腔外科学会 専門医，指導医
- ・日本口腔科学会 認定医，指導医
- ・日本口腔内科学会 専門医，指導医
- ・がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
- ・歯科医師臨床研修指導歯科医
- ・愛知学院大学歯学部非常勤講師

土持 師

- ・日本口腔科学会 認定医，指導医
- ・日本外傷歯学会 認定医，指導医
- ・歯科医師臨床研修指導歯科医

加藤伸一郎

- ・日本口腔外科学会 専門医，指導医
- ・日本口腔科学会 認定医
- ・日本がん治療認定医機構 認定医（歯科口腔外科）
- ・がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
- ・歯科医師臨床研修指導歯科医

菱田純代

- ・日本口腔科学会 認定医
- ・日本有病者歯科医療学会 専門医
- ・日本外傷歯学会 認定医
- ・インфекションコントロールドクター
- ・歯科医師臨床研修指導歯科医
- ・がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
- ・がんリハビリテーション研修会終了
- ・日本化学療法学会 抗菌化学療法認定歯科医師

谷口弘樹

- ・日本口腔外科学会 認定医

【東部】

岡部一登

- ・日本口腔外科学会 認定医，専門医
- ・日本口腔科学会 認定医，指導医
- ・日本有病者歯科医療学会 認定医，専門医，指導医
- ・インфекションコントロールドクター

- ・がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
- ・歯科医師臨床研修指導歯科医

【みらい光生】

高島裕之

- ・日本口腔外科学会 認定医
- ・日本有病者歯科医療学会 認定医
- ・摂食嚥下リハビリテーション学会認定士
- ・がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

＜教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績＞

●臨床業務（桜山）

【外来診療】

外来診療：外来新患 3,982 名であった。

院内 NST チームのメンバーとして歯科医、師 1 名 AST、ICT ラウンドチームメンバーとして歯科医師 1 名が活動した。

【入院診療】

当科入院患者総数は 2,325 件、全身麻酔下での手術 137 件であった。

●臨床業務（東部）

【外来診療】

2023 年度の延べ患者数 5358 人、外来新患 1494 名で紹介率 40.4%であった。

NST チームのメンバーとして歯科医師 1 名、RST チームのメンバーとして歯科医師 1 名、糖尿病教室のメンバーとして歯科医師 1 名および歯科衛生士 1 名、摂食嚥下センターのメンバーとして歯科医師 1 名および歯科衛生士 1 名が活動した。

【入院診療】

2023 年度の延入院患者総数は 310 人、手術室全身麻酔下（鎮静を含む）の手術は 38 件であった。

●臨床業務（西部）

【外来診療】

初診患者は 3,204 人（紹介患者 2,714 人）、再診患者は 13,173 人、1 日平均 64 人。

紹介率は 84.7%。

NST チームのメンバーとして歯科医師 1 名、歯科衛生士 1 名が活動している。

毎週木曜日に放射線治療科の医師、看護師と歯科医師と合同で陽子線カンファランスを行っている。

【入院診療】

入院患者総数は 462 人、入院月平均 38.5 人。

全身麻酔手術件数は 121 件で、静脈鎮静（局麻のみを含む）での手術件数は 275 件であ

った。

●臨床業務（みらい光生）

令和5年度より名古屋市立大学病院附属となり、立ち上げ初年度であるため物品や体制整備等に尽力した。

【外来診療】近在歯科からの依頼は少しずつ増加している。耳鼻科主導で外来患者に対する嚥下外来が設立され、チームの一員として従事した。歯科口腔外科では口腔機能低下症に関する精査および口腔ケアなどで協力をしている。

【病棟業務】歯科口腔外科での入院はないが、他科入院患者の歯科診察依頼は右肩上がりにより上昇している。内容は口腔ケア、義歯調整、BP前スクリーニングなど様々である。また、耳鼻科・歯科口腔外科・リハビリ科（ST）による入院患者に対する摂食嚥下リハビリチームを設立し、歯科医師による病棟での嚥下内視鏡検査・多職種でのカンファレンスなど摂食嚥下リハビリテーションに対するチーム医療が可能な体制を整備した。2024年1月に内視鏡が納品され、病棟でのVE検査を開始したところである。

●教育活動・地域貢献（桜山）

講義

渋谷恭之，コミュニティヘルスケア卒前教育

行動科学・地域医療学コース コミュニティ・ヘルスケア基礎（IPE）ユニット

2023年4月14日，名古屋市立大学医学部M2

渋谷恭之，病理学 歯、口腔病理-1,2

2023年6月13日，名古屋市立大学医学部M3

渋谷恭之，2023年度 薬学部コミュニティヘルスケア基礎（CHC基礎）集中講義
栄養管理における口腔機能の重要性について

2023年9月19日，名古屋市立大学薬学部

渋谷恭之，愛知学院大学歯学部3年，口腔外科「口腔・顎顔面領域の疾患I-1」

2023年12月7日 愛知学院大学 楠元校舎 第3講義室

—形成外科学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

1:

Takahashi H, Sato H, Tsunekawa Y, Fujioka U, Wanifuchi-Endo Y, Toyama T, Toriyama K. **Ruptured breast implant removal because of patient anxiety in the absence of breast implant-associated anaplastic large cell lymphoma.** Nagoya J Med Sci. **85(4): 852-856**, 2023.

2:

Kambe M, Hashikawa K, Takanari K, Yagi S, Toriyama K, Ebisawa K, Nishio N, Maruo T, Mukoyama N, Fujimoto Y, Fujii M, Saito K, Takahashi M, Kamei Y. <Editors' Choice> **Long-term outcomes of lateral skull base reconstruction with a free omental flap and facial nerve reconstruction.** Nagoya J Med Sci. **85(2): 255-264**, 2023.

3:

Sato H, Toriyama K, Ogawa R, Yamada T, Suda H. **Divided omental flap wrapping a multiple-branched graft replaced with an infected thoracic aortic aneurysm: A case report.** JPRAS Open. **36: 72-75**, 2023.

【和文業績】

1: 齊藤 慈円, 鳥山 和宏, 曾根 良晃, 沼田 幸英, 神谷 信次, 浅野 實樹. **大腿動脈瘤破裂の術後創部感染に対して腹直筋皮弁と持続陰圧療法で救肢した1例.** 日本外科感染症学会雑誌. **19(6): 432-436**, 2023.

2: 吉井 章一郎, 加藤 裕史, 佐藤 秀吉, 鳥山 和宏, 森田 明理. **広範囲切除を要した鼻尖部 Microcystic adnexal carcinoma の1例.** 西日本皮膚科. **85(3): 188-191**, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	鳥山和宏	5	3	2
助教	中村亮太	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

鳥山 和宏. 文部科学省科学研究費(基盤C・代表). 令和2年度-令和5年度、650千円/3,000千円
中村 亮太. 文部科学省科学研究費(基盤C・代表). 令和5年度-令和7年度、910千円/3,100千円
中村 亮太. 文部科学省科学研究費(基盤C・分担). 令和4年度-令和6年度、1,170千円/3,100千円

【その他】

<記入要領>

国際学会発表(口演)

1:中村亮太. PRS KOREA2023. Comparison of Postoperative Function of Mandibular Reconstruction: a Propensity Score-Overlap Weighted Analysis. 2023/11/12

主要な国内学会活動の参加状況

鳥山 和宏. 日本形成外科学会. 評議員
鳥山 和宏. 日本創傷外科学会, 広報委員
鳥山 和宏. 現在 日本形成学会, 社保委員
鳥山 和宏. 現在 日本褥瘡学会, 評議員
鳥山 和宏. 現在 日本手外科学会, 代議員
鳥山 和宏. 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会, 評議員
鳥山 和宏. 日本創傷外科学会, 評議員

<研究活動実績>

【欧文業績】

1. Ito S, Ogawa R, Komura M, Hayakawa S, Okubo T, Sagawa H, Tanaka T, Mitsui A, Takahashi S, Takiguchi S. **Severe esophageal stricture after perforation and necrotizing esophagitis: unusual presentation of a duodenal gastrinoma.** *J Surg Case Rep.* **2023**(12): rjad679, 2023.
2. Kato S, Iwata O, Kato H, Fukaya S, Imai Y, Saitoh S. **Furin regulates the alveolarization of neonatal lungs in a mouse model of hyperoxic lung injury.** *Biomolecules.* **13**: 1656, 2023.
3. Ota H, Sato H, Mizumoto S, Wakai K, Yoneda K, Yamamoto K, Nakanishi H, Ikeda J-I, Sakamoto S, Ichikawa T, Yamada S, Takahashi S, Ikehara Y, Nishihara S. **Switching mechanism from AR to EGFR signaling via-3-O-sulfated heparan sulfate in castration-resistant prostate cancer.** *Sci Rep.* **13**(1): 11618, 2023.
4. Kato A, Kondo N, Wanifuchi-Endo Y, Fujita T, Asano T, Hisada T, Uemoto Y, Terada M, Kato H, Komura M, Okuda K, Takahashi S, Toyama T. **Low TINAGL1 expression is a marker of poor prognosis in breast cancer.** *J Cancer Res Clin Oncol.* **149**(8): 4771-4782, 2023.
5. Tomita N, Hotta Y, Ito H, Naiki-Ito A, Matsuta K, Yamamoto Y, Ohashi K, Hayakawa T, Sanagawa A, Horita Y, Kondo M, Kataoka T, Takahashi S, Sobue K, Kimura K. **High preoperative serum strontium levels increase the risk of acute kidney injury after cardiopulmonary bypass.** *Clin Exp Nephrol.* **27**(4): 382-391, 2023.
6. Inaguma S, Ueki A, Lasota J, Komura M, Sheema A.N, Czapiewski P, Langfort R, Rys J, Szpor J, Waloszczyk P, Okoń K, Biernat W, Schrupp D.S, Hassan R, Miettinen M, Takahashi S. **CD70 and PD-L1 (CD274) co-expression predicts poor clinical outcomes in patients with pleural mesothelioma.** *J Pathol Clin Res.* **9**(3): 195-207, 2023.
7. Minohara K, Imai M, Matoba T, Wing J, Shime H, Odanaka M, Uraki R, Kawakita D, Toyama T, Takahashi S, Morita A, Murakami S, Ohkura N, Sakaguchi S, Iwasaki S, Yamazaki S. **Mature dendritic cells enriched in regulatory molecules may control regulatory T cells and the prognosis of head and neck cancer.** *Cancer Sci.* **114**(4): 1256-1269, 2023.
8. Nagai T, Kawai N, Gonda M, Iida K, Etani T, Kobayashi D, Naiki T, Naiki-Ito A, Ando R, Yamaguchi S, Sugahara Y, Ueno S, Tsutsumiuchi K, Imae T, Yasui T. **Role of HIKESHI on hyperthermia for castration-resistant prostate cancer and application of a novel magnetic nanoparticle with carbon nanohorn for magnetic hyperthermia.** *Pharmaceutics.* **15**(2): 626, 2023.
9. Goto T, Goto S, Ozawa F, Yoshihara H, Kitaori T, Komura M, Takahashi S, Ozaki Y, Sugiura-Ogasawara M. **The association between chronic deciduitis and recurrent pregnancy loss.** *J Reprod Immunol.* **156**: 103824, 2023.
10. Kachi K, Naitoh I, Ban T, Hayashi K, Yoshida M, Hori Y, Natsume M, Kato A, Kito Y, Saito K, Matsuo Y, Kato H, Naiki-Ito A, Takahashi S, Notohara K, Kataoka H. **Concomitant pancreatic ductal adenocarcinoma and type 1 autoimmune pancreatitis: A potential issue in the diagnosis of carcinoma by endoscopic ultrasound-guided fine-needle biopsy.** *Intern Med.* **62**(4): 545-551, 2023.
11. Ueki A, Komura M, Koshino A, Wang C, Nagao K, Homochi M, Tsukada Y, Ebi M, Ogasawara N, Tsuzuki T, Kasai K, Kasugai K, Takahashi S, Inaguma S. **Stromal POSTN enhances motility of both cancer and stromal cells and predicts poor survival of colorectal cancer.** *Cancers.* **15**(3): 606, 2023.
12. Yamamoto Y, Hotta Y, Tomita N, Naiki-Ito A, Kitagawa A, Kuboshiki U, Hagita T, Noda M, Sanagawa A, Kataoka T, Kondo M, Furukawa-Hibi Y, Takahashi S, Kimura K. **Changes in zinc and manganese concentrations in cisplatin-induced acute kidney injury.** *Biochem Biophys Rep.* **33**: 101422, 2023.

【和文業績】

1. 加古智弘, 松尾洋一, 加藤寛之, 加藤知克, 林祐一, 今藤裕之, 齊藤健太, 社本智也, 坪井謙, 森本守, 小川了, 高橋広城, 三井章, 木村昌弘, 瀧口修司. 肝へモクロマトーシスを背景に発症した肝血管肉腫の1例. 癌と化学療法. 50: 242-244, 2023.
2. 小林瑞穂, 高橋智. 羊水塞栓症. 病理と臨床 病理診断クイックリファレンス. 41: 19, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	高橋 智	11(2)	10(1)	1(1)
准教授	内木 綾	4(0)	4	0
講師	加藤 寛之	4(0)	3	1
助教	小村 理行	5(0)	5	0
助教	長野 愛矢	0		

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	稲熊 真悟	2(2)	2(2)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
助教	石川 操	0		

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

該当なし

【外部資金獲得実績】

内木 綾. 厚生労働科学研究費（代表）. 令和5年度、9,462千円

稲熊 真悟. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和5年度-令和7年度、1,400千円/3,600千円

小村 理行. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和5年度-令和7年度、1,300千円/7,700千円

高橋 智. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和5年度-令和7年度、100千円

稲熊 真悟. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 5 年度-令和 7 年度、150 千円

内木 綾. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 5 年度-令和 7 年度、50 千円

加藤 寛之. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 5 年度-令和 7 年度、100 千円

内木 綾. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 4 年度-令和 6 年度、1,200 千円/3,200 千円

高橋 智. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 4 年度-令和 6 年度、50 千円

高橋 智. 共同研究費（住友化学株式会社）. 令和 4 年 3 月-令和 6 年 3 月、1,739 千円

加藤 寛之. 治験研究費（第一三共株式会社・分担）. 令和 3 年 10 月-令和 8 年 7 月、62 千円

内木 綾. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 3 年度-令和 5 年度、50 千円

加藤 寛之. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 3 年度-令和 5 年度、100 千円

高橋 智. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和元年度-令和 5 年度、306 千円/3,300 千円

【その他】

1) 内部資金獲得実績

加藤 寛之. 特別研究奨励費. 令和 5 年度、600 千円

2-1) 主要な国内・国際学会活動の参加状況（口頭）

内木 綾. 第113回日本病理学会総会、シンポジウム. モデル動物と臨床検体を用いた前立腺・肝発がんメカニズムの解析と予防研究. 2024年3月28日-30日

稲熊 真悟. 第113回日本病理学会総会. CD70およびPD-L1は協調的に腫瘍浸潤・免疫逃避を促進し悪性胸膜中皮腫の予後を予測する. 2024年3月28日-30日

稲熊 真悟. 第112回日本癌学会学術総会. CD70およびPD-L1は協調的に腫瘍浸潤・免疫逃避を促進し悪性胸膜中皮腫患者の予後を悪化させる. 2023年9月21日-23日

加藤 寛之. 第36回発癌病理研究会. 膵癌におけるdihydropyrimidine dehydrogenase (DPYD)の機能とその抑制物質Luteolinと5-FU併用治療の検討. 2023年8月24日-8月25日

稲熊 真悟. 第112回日本病理学会総会. PD-L1陽性大腸癌細胞は幹細胞様表現型を示し、特徴的な遺伝子発現、高悪性形質を示す. 2023年4月13日-15日

内木 綾. 第112回日本病理学会総会. 非アルコール性脂肪肝炎および肝繊維化に対するlactoferrinの抑制効果. 2023年4月13日-15日

加藤 寛之. 第112回日本病理学会総会. 膵癌におけるDihydropyrimidin Dehydrogenase(DPYD)発現の意義. 2023年4月13日-15日

2-2) 主要な国内・国際学会活動の参加状況（ポスター）

加藤 寛之. 第113回日本病理学会総会. プロテームによる膵炎発症膵癌における初期変化の解析. 2024年3月28日-30日

小村 理行. 第113回日本病理学会総会. 腫瘍細胞および間質組織に発現するテトラスパニンは乳癌の予後を予測する. 2024年3月28日-30日

内木 綾. 第40回日本毒性病理学会. 非アルコール性脂肪肝および肝繊維化に対するlactoferrinの抑制効果. 2024年1月23日-1月24日

加藤 寛之. 第40回日本毒性病理学会. マウス膵炎モデルを用いたプロテオーム解析による膵発癌メカニズムの検討. 2024年1月23日-1月24日

内木 綾. 第112回日本癌学会学術総会. 多層カーボンナノチューブとフラーレンウィスカーの肺発がん性の解析. 2023年9月21日-23日

加藤 寛之. 第112回日本癌学会学術総会. 膵癌における5-FUとluteolinの併用投与効果の検討. 2023年9月21日-23日

小村 理行. 第112回日本癌学会学術総会. 腫瘍細胞および間質組織に発現するテトラスパニンは乳癌の予後を予測する. 2023年9月21日-23日

内木 綾. がん予防学術大会2023金沢. 非アルコール性脂肪肝炎および肝発がんに対するlactoferrinの化学予防効果の検討. 2023年9月8日-9月9日

小村 理行. 第112回日本病理学会総会. 若年で発症した肝血管肉腫の一例. 2023年4月13日-15日

3) 主要な国内学会活動の参加状況

高橋 智. 日本癌学会. 評議員、Cancer Science 編集委員

高橋 智. 日本病理学会. 評議員、Pathology International 編集委員

高橋 智. 日本毒性病理学会. 理事、評議員、J Toxicol Pathol 編集委員

高橋 智. 日本がん予防学会. 評議員

稲熊 真悟. 日本病理学会. 評議員

内木 綾. 日本病理学会. 評議員

内木 綾. 日本癌学会. 評議員

内木 綾. 日本毒性病理学会. 評議員

内木 綾. 日本がん予防学会. 評議員

<研究活動実績>

【欧文業績】

Takase H, Murase T, Hachisuka D, Sakamoto Y, Sugiura M, Nakano S, Fujii K, Masaki A, Inagaki H. **7-Amino-4-methylcoumarin as a fluorescent substitute for Schiff's reagent: a new method that can be combined with hemalum and eosin staining on the same tissue section.** *Biotech Histochem.* **98(1)**: 54-61, 2023

Suzuki T, Yokomori R, Sanda T, Kikuchi T, Marumo Y, Kinoshita S, Narita T, Masaki A, Ito A, Ri M, Kusumoto S, Komatsu H, Inagaki H, Iida S. **Case report: Genomic analysis of a therapy-related chronic myelomonocytic leukemia with *KMT2A* rearrangement that progressed to acute myeloid leukemia with acute promyelocytic leukemia-like features.** *Front Oncol.* **13**: 1116418, 2023

Ban T, Kubota Y, Okubo D, Murase T, Takahama T, Sasoh S, Tanida S, Ando T, Nakamura M, Joh T. **A Transanal Endoscopic Ultrasound-guided Fine-needle Aspiration Biopsy for an Intrapelvic Tumor Diagnosed as Recurrence of a Smooth Muscle Tumor of Uncertain Malignant Potential Following Uterine Morcellation.** *Intern Med.* **62(9)**: 1287-1292, 2023

Asano A, Ri M, Masaki A, Maeda Y, Tachita T, Hirade K, Marumo Y, Nakashima T, Hagiwara S, Kinoshita S, Suzuki T, Narita T, Kusumoto S, Komatsu H, Inagaki H, Iida S. **Aberrant tryptophan metabolism leads to unfavorable outcomes in lenalidomide-treated myeloma patients.** *Hematol Oncol.* **41(3)**: 424-433, 2023

Alaggio R, Amador C, Anagnostopoulos I, Attygalle AD, de Oliveira Araujo IB, Berti E, Bhagat G, Borges AM, Boyer D, Calaminici M, Chadburn A, Chan JKC, Cheuk W, Chng WJ, Choi JK, Chuang SS, Coupland SE, Czader M, Dave SS, de Jong D, Di Napoli A, Du MQ, Elenitoba-Johnson KS, Ferry J, Geyer J, Gratzinger D, Guitart J, Gujral S, Harris M, Harrison CJ, Hartmann S, Hochhaus A, Jansen PM, Karube K, Kempf W, Khoury J, Kimura H, Klapper W, Kovach AE, Kumar S, Lazar AJ, Lazzi S, Leoncini L, Leung N, Leventaki V, Li XQ, Lim MS, Liu WP, Louissaint A Jr, Marcogliese A, Medeiros LJ, Michal M, Miranda RN, Mitteldorf C, Montes-Moreno S, Morice W, Nardi V, Naresh KN, Natkunam Y, Ng SB, Oschlies I, Ott G, Parrens M, Pulitzer M, Rajkumar SV, Rawstron AC, Rech K, Rosenwald A, Said J, Sarkozy C, Sayed S, Saygin C, Schuh A, Sewell W, Siebert R, Sohani AR, Suzuki R, Tooze R, Traverse-Glehen A, Vega F, Vergier B, Wechalekar AD, Wood B, Xerri L, Xiao W. **Correction: "The 5th edition of The World Health Organization Classification of Haematolymphoid Tumours: Lymphoid Neoplasms" Leukemia.** *Leukemia.* **37(9)**: 1944-1951, 2023

Iida M, Murai T, Kuno M, Osumi K, Nakanishi-Imai M, Okazaki D, Murase T, Kawakita D, Iwasaki S, Inagaki H, Tomita N, Shibamoto Y, Hiwatashi A. **Importance of the Number and Location of Lymph Node Metastasis in Oropharyngeal Cancer.** *In Vivo.* **37(5)**: 2210-2218, 2023

Shimoda H, Teshima M, Murase T, Nagao T, Kusafuka K, Nakaguro M, Urano M, Taguchi KI, Yamamoto H, Kano S, Tada Y, Tsukahara K, Okami K, Onitsuka T, Fujimoto Y, Kawakita D, Sakurai K, Hanai N, Nagao T, Kawata R, Hato N, Nibu KI, Inagaki H. **Prognostic scores for patients with salivary adenoid cystic carcinoma without lymph node metastasis.** *Oral Oncol.* **145**: 106491, 2023

Ueda K, Murase T, Kawakita D, Nagao T, Kusafuka K, Nakaguro M, Urano M, Yamamoto H, Taguchi KI, Kano S, Tada Y, Tsukahara K, Okami K, Onitsuka T, Fujimoto Y, Sakurai K, Hanai N, Nagao T, Kawata R, Hato N, Nibu KI, Inagaki H. **The Landscape of MYB/MYBL1- and Peri-MYB/MYBL1-Associated Rearrangements in Adenoid Cystic Carcinoma.** *Mod Pathol.* **36(10)**: 100274, 2023

Horimoto Y, Sato C, Anan C, Suzuki A, Inagaki A, Tajima T, Hibino H, Inagaki H. A descriptive study of Parkinson disease and atypical parkinsonisms in the Annuals of the Pathological Autopsy Cases in Japan. *Neuropathology*. **43(4)**: 297-305, 2023

【和文業績】

なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	稲垣 宏	8 (4)	8 (4)	0
准教授	村瀬 貴幸	5	5	0
准教授	正木 彩子	3	3	0
助教	藤井 慶一郎	1	1	0
助教	中野 さつき	1	1	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

稲垣 宏. 文部科学省科学研究費（基盤B・代表）. 令和3年度-令和5年度、2,400千円/5,700千円

稲垣 宏. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度-令和5年度、100千円

稲垣 宏. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和5年度-令和7年度、100千円

稲垣 宏. 共同研究費（塩野義株式会社）. 令和5年度-令和5年度、800千円

村瀬 貴幸. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和5年度-令和7年度、1,400千円/3,500千円

村瀬 貴幸. 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）. 令和3年度-令和5年度、100千円

正木 彩子. 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）. 令和3年度-令和5年度、100千円

正木 彩子. 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）. 令和4年度-令和5年度、200千円

藤井 慶一郎. 文部科学省科学研究費（若手研究・代表）. 令和3年度-令和5年度、1,600千円

【その他】

研究以外の活動において特筆すべき実績があれば自由に報告可。

乳癌センチネルリンパ節生検で発見された原発不明悪性黒色腫の2例
杉山 美緒, 正木 彩子, 杉浦 真理子, 中野 さつき, 藤井 慶一郎, 津田 香那, 村瀬 貴幸, 稲垣 宏. 日本病理学会会誌 112(1) 301-301 2023 年 3 月.

肉芽腫を伴わず、膿瘍形成の目立った抗酸菌感染症の2例
杉浦 真理子, 村瀬 貴幸, 杉山 美緒, 中野 さつき, 藤井 慶一郎, 津田 香那, 正木 彩子, 服部 日出雄, 稲垣 宏. 日本病理学会会誌 112(1) 351-351 2023 年 3 月.

日本人集団における唾液腺癌組織型別の遺伝子異常について C-CAT に集積されたデータを用いた実態調査
岩城 翔, 川北 大介, 長尾 俊孝, 多田 雄一郎, 本間 義崇, 安藤 瑞生, 的場 拓磨, 蓑原 潔, 中野 さつき, 村瀬 貴幸. 日本唾液腺学会誌 63 33-34 2023 年 11 月.

唾液腺腺様嚢胞癌における MYB/MYBL1 遺伝子関連異常の検索
上田 佳緒璃, 村瀬 貴幸, 川北 大介, 長尾 俊孝, 草深 公秀, 中黒 匡人, 浦野 誠, 山元 英崇, 田口 健一, 加納 里志. 頭頸部癌 49(2) 193-193 2023 年 5 月. 研究員. 准教授.

唾液腺腺様嚢胞癌 cN0/pN0 症例における予後スコアの作成
下田 光, 手島 直則, 村瀬 貴幸, 長尾 俊孝, 草深 公秀, 中黒 匡人, 浦野 誠, 田口 健一, 山元 英崇, 加納 里志. 頭頸部癌 49(2) 193-193 2023 年 5 月. 准教授

褐色細胞腫クリーゼの亜急性期に副腎腫瘍摘出によって循環動態が改善した1例
加藤 春佳, 青谷 大介, 位田 敬明, 浜田 けい子, 竹田 勝志, 伊藤 隆彦, 服部 麗, 小山 博之, 中野 さつき, 太田 裕也. 日本内分泌学会雑誌 99(1) 335-335 2023 年 5 月. 助教

—薬理学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Kito H, Kawagishi R, Ryu T, Endo K, Kajikuri J, Giles WR, Ohya S. **K_{Ca}3.1 regulates cell cycle progression by modulating Ca²⁺ signaling in murine preosteoblasts.** *J Pharmacol Sci.* **153(3)**: 142-152, 2023.

Ohya S, Kajikuri J, Kito H, Matsui M. **Down-Regulation of CYP3A4 by the K_{Ca}1.1 Inhibition Is Responsible for Overcoming Resistance to Doxorubicin in Cancer Spheroid Models.** *Int J Mol Sci.* **24(21)**: 15672, 2023.

Ohya S. **Recent developments in ion channel and ion-related signaling.** *Int J Mol Sci.* **24(19)**: 14419, 2023.

Fujii M, Kobayashi S, Ueda A, Sakagami M, Matsui R, Yamada Y, Nabe T, Ohya S. **STIM/Orai-mediated calcium entry may elicit spontaneous TSLP overproduction in epidermal cells of atopic dermatitis mice.** *Explor Immunol.* **3**: 174-185, 2023.

【和文業績】

西山 雅祥, 山口 陽平, 金子 智之, 森松 賢順. **高圧力顕微鏡による心筋細胞の収縮イメージング.** *月刊細胞.* **55(14)**: 1134-1136, 2023.

大矢 進. **カルシウム活性化カリウムチャネル阻害による抗がん薬耐性の克服.** *日本薬理学雑誌.* **158(6)**: 478-482, 2023.

大矢 進, 酒井 秀紀. **がん悪性化シグナル制御に着眼したイオンチャネル・トランスポーター創薬研究の新展開.** *日本薬理学雑誌.* **158(6)**: 464, 2023.

山口 陽平, 森松 賢順. **高静水圧で誘発される心筋細胞の緩やかな収縮現象.** *生物物理.* **63(5)**: 261-262, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	大矢 進	6 (6)	4 (4)	2 (2)
講師	鬼頭 宏彰	2 (1)	2 (1)	0
助教	山口 陽平	2 (1)	0 (0)	2 (1)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

該当なし

【外部資金獲得実績】

〔科研費〕

山口 陽平. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 5 年度-令和 7 年度、1,200 千円/3,600 千円

大矢 進. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 4 年度-令和 7 年度、150 千円

鬼頭 宏彰. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 3 年度-令和 5 年度、1,427 千円/3,200 千円

山口 陽平. 文部科学省科学研究費 (若手・代表). 令和 3 年度-令和 5 年度、147 千円/3,600 千円

大矢 進. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 2 年度-令和 5 年度、500 千円/3,300 千円

鬼頭 宏彰. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 2 年度-令和 5 年度、100 千円

〔研究助成金〕

大矢 進. 研究助成金 (公益財団法人 ソルト・サイエンス研究財団). 令和 5 年 4 月-令和 6 年 3 月、1,000 千円.

山口 陽平. 研究助成金 (公益財団法人 堀科学芸術振興財団). 令和 5 年 4 月-令和 6 年 3 月、2,000 千円.

山口 陽平. 研究助成金 (公益財団法人 福田記念医療技術振興財団). 令和 5 年 6 月-令和 6 年 5 月、2,000 千円.

山口 陽平. 研究助成金 (海外学会等参加費用援助) (公益信託 日本医学会総会記念医学振興基金). 令和 5 年、300 千円.

【その他】

1) 国際学会発表

Susumu Ohya, Miki Matsui, Junko Kajikuri, Hiroaki Kito, Kyoko Endo. 19th World Congress of Basic & Clinical Pharmacology 2023 (Glasgow, Scotland). **Transcriptional repression of pro-tumorigenic IL-8 and IL-10 by the Ca²⁺-activated K⁺ channel activator in THP-1-derived M₂ macrophages.** 2023 年 7 月 3 日 [ポスター]

Susumu Ohya. Ion Channel Modulation Symposium 2023 UK (Cambridge, UK). **Role of Ca²⁺-activated K⁺ and Cl⁻ channels in cancer drug resistance.** 2023 年 6 月 21 日 [口頭]

Masanori Fujii, Susumu Ohya, Takeshi Nabe. 1st International Societies for Investigative Dermatology 2023 (Tokyo, Japan). **Topical γ -linolenic acid restores skin barrier dysfunction and ameliorates atopic dermatitis in hairless mice.** 2023 年 5 月 11 日 [口頭]

2) 招待講演・シンポジウム (国内)

大矢 進. Sophion Bioscience User Meeting (東京). **がん悪性化シグナルにおけるカル**

シウム活性化カリウムチャネルの役割. 2023年11月2日〔口頭〕

大矢 進. 第17回トランスポーター研究会(名古屋). **がん悪性化シグナルにおけるCa²⁺活性化K⁺チャネルの役割**. 2023年5月27日〔口頭〕

3) 国内学会発表

鬼頭 宏彰, 劉 澤成, 雑賀 紀明, 遠藤 京子, 梶栗 潤子, 大矢 進. 第97回日本薬理学会年会(神戸). **ATP受容体P2X4を介した骨芽細胞分化制御**. 2023年12月16日〔ポスター〕

山口 陽平, 金子 智之, 入部 玄太郎, 大矢 進. 第97回日本薬理学会年会(神戸). **マウス心筋のTRPC6によるZn²⁺を介した伸展誘発性収縮力増加反応の制御**. 2023年12月15日〔ポスター〕

大矢 進, 梶栗 潤子, 鬼頭 宏彰, 松井 未来. 第97回日本薬理学会年会((神戸). **Ca²⁺活性化K⁺チャネルK_{Ca}1.1阻害によるドキシソルビシン耐性の克服におけるCYP3A4の関与**. 2023年12月14日〔ポスター〕

山口 陽平, 金子 智之, 大矢 進, 西山 雅祥. 第61回日本生物物理学会年会(名古屋). **心筋細胞における生理的レベルの圧負荷のカルシウムハンドリングへの影響**. 2023年11月16日〔ポスター〕

大矢 進, 梶栗 潤子, 鬼頭 宏彰. 第82回日本癌学会学術総会(横浜). **カルシウム活性化カリウムチャネルK_{Ca}1.1阻害による3次元がんスフェロイドモデルにおけるドキシソルビシン耐性克服**. 2023年9月21日〔ポスター〕

鬼頭 宏彰, 劉 澤成, 山口 莉奈, 遠藤 京子, 梶栗 潤子, 大矢 進. 第143回日本薬理学会近畿部会(名古屋). **骨芽細胞分化におけるATP受容体P2X4の役割**. 2023年6月24日〔口頭〕

鬼頭 宏彰, 劉 澤成, 山口 莉奈, 遠藤 京子, 梶栗 潤子, 大矢 進. 第17回トランスポーター研究会(名古屋). **ATP受容体P2X4を介した骨芽細胞分化制御機構の解明**. 2023年5月27日〔ポスター〕

山口 陽平, 金子 智之, 入部 玄太郎, 成瀬 恵治, 大矢 進. 第17回トランスポーター研究会(名古屋). **マウス心筋細胞におけるTRPC6による力学特性の制御機構**. 2023年5月27日〔ポスター〕

山口 陽平, 金子 智之, 成瀬 恵治, 大矢 進, 入部 玄太郎. TRP研究会2023(岡崎). **マウス心筋細胞の力学特性に対するTRPC6ノックアウトの影響**. 2023年5月25日〔ポスター〕

大矢 進, 松井 未来, 梶栗 潤子, 鬼頭 宏彰, 遠藤 京子. 日本生理学会第100回記念大会(京都). **M2様マクロファージにおけるカルシウム活性化カリウムチャネルK_{Ca}3.1による腫瘍形成促進性サイトカイン発現制御**. 2023年3月14日〔ポスター〕

鬼頭 宏彰, 劉 澤成, 雑賀 紀明, 山口 莉奈, 遠藤 京子, 梶栗 潤子, 大矢 進. 日本薬学会第143年会(札幌). **P2X4を介した骨芽細胞分化調節におけるKir2.1K⁺チャネルの役割**. 2023年3月27日〔ポスター〕

4) 主要な国内学会活動の参加状況、他

大矢 進

- ・ 日本薬理学会 学術評議員、広報委員、日本薬理学雑誌編集委員、国際対応アソシエイト
- ・ International Journal of Molecular Sciences, Biochemistry Section, Editorial Board

Member

- *Frontiers in Physiology, Cell physiology section*, Associate Editor
- 一般演題座長・口頭発表学生発表賞審査員。日本薬学会第143年会（札幌）。2023年3月27日
- 日本薬学会、日本生理学会、日本免疫学会、日本癌学会、日本薬剤師会：一般会員
- Biophysical Society Regular member、American Physiological Society Regular member

鬼頭 宏彰

- 日本薬理学会 学術評議員
- 日本薬学会、日本生理学会、日本癌学会：一般会員
- 第46回若手ジャーナルクラブ（名古屋）。**Tumor-associated macrophages are shaped by intratumoral high potassium via Kir2.1**. 2023年9月14日
- Hiroaki Kito, Takusei Ryu, Noriaki Saiga, Kyoko Endo, Junko Kajikuri, Susumu Ohya. NCU Life Science + IBS poster workshop（名古屋）。**Involvement of Kir2.1 K⁺ channel in osteoblast differentiation mediated by ATP-conductive hemichannels**. 2023年3月14日

山口 陽平

- 日本生理学会、日本薬理学会、日本生体医工学会、日本生物物理学会、日本メカノバイオロジー学会、日本内科学会：一般会員
- Biophysical Society, Early career member
- 山口 陽平. **After コロナ, After 北海道**. 日本生理学雑誌. **85(3)**: 64-65, 2023.
- 第44回若手ジャーナルクラブ（名古屋）。**Muscle LIM Protein Force-Sensing Mediates Sarcomeric Biomechanical Signaling in Human Familial Hypertrophic Cardiomyopathy**. 2023年6月8日
- 薬理学セミナー（名古屋）。**心筋へのメカニカルストレスの作用**. 2023年1月13日

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

大矢 進

- 薬理学エドキュレーター（日本薬理学会）
- 大学丸ごと研究室体験「筋肉に対する薬の作用を見て、薬物治療を考える」（受入れ人数4名）。2023年8月3日

鬼頭 宏彰

- 薬理学エドキュレーター（日本薬理学会）
- 大学丸ごと研究室体験「筋肉に対する薬の作用を見て、薬物治療を考える」（受入れ人数4名）。2023年8月3日
- 名古屋市立大学・医療系学部・研究科連携教育委員会（AMEC）委員
インタープロフェッショナル・ヘルスケア論 医薬看連携地域参加型学習 2023

山口 陽平

- 生理学エドキュレーター（日本生理学会）
- 大学丸ごと研究室体験「筋肉に対する薬の作用を見て、薬物治療を考える」（受入れ人数4名）。2023年8月3日

—細菌学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Fujimoto N, Nagaoka K, Tatsuno I, Oishi H, Tomita M, Hasegawa T, Tanaka Y, Matsumoto T. **Wavelength dependence of ultraviolet light inactivation for SARS-CoV-2 omicron variants.** Sci Rep. **13(1)**: 9706, 2023.

Minami M, Konishi T, Taira M, Makino T. **Ulcer-healing effects of jumihaidokuto extract in a mouse model of methicillin-resistant Staphylococcus aureus causing skin infection.** Traditional & Kampo Medicine. **10(2)**: 159-167, 2023

【和文業績】

南正明, 中村峰夫. SARS-CoV-2 タンパク質刺激による肺胞マクロファージのサイトカイン産生に対するハスカップの効果. アグリバイオ. **7(7)**: 643-646, 2023

南正明, 漢方薬・排膿散の線維芽細胞に対する作用. 別冊 B10 Clinica. **12(1)**: 113-117, 2023

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	長谷川忠男	1(0)	1(0)	0(0)
講師	立野一郎	1(0)	1(0)	0(0)
講師	南正明	3(3)	1(1)	2(2)
助教	井坂雅徳	0(0)	0(0)	0(0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

長谷川 忠男. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 3 年度—令和 6 年度、1,000 千円/4,290 千円

長谷川 忠男. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 4 年度—令和 7 年度、150 千円/4,160 千円

立野 一郎. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 3 年度—令和 6 年度、150 千円

立野 一郎. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 4 年度—令和 7 年度、
150 千円

南正明. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 1 年度—令和 5 年度、4,290 千円

南正明. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 1 年度—令和 5 年度、
112 千円/4,290 千円

南正明. 共同研究費（ジェーピーエス製薬）. 令和 5 年 6 月—令和 6 年 5 月、
1,294 千円

南正明. 共同研究費（有限会社中村薬局）. 令和 5 年度—令和 7 年 3 月、220 千円

井坂 雅徳. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 4 年度—令和 7 年度、
640 千円/4,420 千円

井坂 雅徳. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 3 年度—令和 5 年度、
150 千円

【その他】

なし

—免疫学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Minohara K, Imai M, Matoba T, Wing JB, Shime H, Odanaka M, Uraki R, Kawakita D, Toyama T, Takahashi S, Morita A, Murakami S, Ohkura N, Sakaguchi S, Iwasaki S, Yamazaki S. **Mature dendritic cells enriched in regulatory molecules may control regulatory T cells and the prognosis of head and neck cancer.** *Cancer Sci.* **114(4):** 1256-1269, 2023.

【和文業績】

山崎 小百合 「紫外線による制御性 T 細胞の増殖・誘導」 皮膚科 科学評論社 4(4):416-422, 2023 年.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	山崎 小百合	2(2)	1(1)	1(1)
准教授	志馬 寛明	1(0)	1(0)	0(0)
講師	杉山 大介	0(0)	0(0)	0(0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

該当無し

【外部資金獲得実績】

山崎 小百合. 文部科学省科学研究費（挑戦的研究（開拓）・代表）. 令和3年度-令和5年度、6,722千円/19,900千円

山崎 小百合. 文部科学省国際共同研究加速基金（国際共同研究強化B・代表）. 平成31年度-令和3年度（延長）、1,762千円/14,100千円

杉山 大介. 文部科学省科学研究費（若手研究・代表）. 令和4年度-令和6年度、1,774千円/3,500千円

杉山 大介. 受託研究費（AMED・分担）. 令和5年度、2,570千円

山崎 小百合. 研究助成金（特定非営利活動法人 日本免疫学会）. 令和4年12月、300千円/300千円

山崎 小百合. 研究助成金（公益財団法人 武田科学振興財団）. 令和3年10月、8,210千円/8,400千円

志馬 寛明. 研究助成金（公益財団法人 武田科学振興財団）. 平成29年4月、1,119千円/1,868千円

【その他】

・ 内部資金獲得実績

志馬 寛明. 名古屋市立大学 令和5年度特別研究奨励費(科学研究費獲得活性化事業/「イ」基盤研究B獲得に向けた支援経費). 令和5年5月-令和6年3月、1,050千円

・ 国際学会発表(招待講演)

山崎 小百合. WMU and NTU Joint Seminar. Divers roles of Treg-DC crosstalk in regulation of immunity. 2023年12月18日

・ 国内学会発表(招待講演)

山崎 小百合. (特別講演) 第39回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会. 頭頸部がんのユニークな免疫微小環境. 2023年8月4日

・ 国際学会発表(ポスター)

Yamazaki S, Minohara K, Imai M, Matoba T, Wing JB, Shime H, Odanaka M, Uraki R, Kawakita D, Toyama T, Takahashi S, Morita A, Murakami S, Ohkura N, Sakaguchi S, Iwasaki S. Dendritic cell-regulatory T cell crosstalk in the tumor microenvironment influences the prognosis of human head and neck cancer. First International Societies for Investigative Dermatology (ISID) Meeting. 2023年5月10日

・ 国内学会発表(ポスター)

蓑原潔、今井優樹、的場拓磨、James B Wing、志馬寛明、小田中瑞夕、浦木隆太、川北大介、遠山達也、高橋智、森田明理、村上信五、大倉永也、坂口志文、岩崎真一、山崎小百合. NGS EXPO 2023. 頭頸部扁平上皮癌の腫瘍微小環境における制御性T細胞および樹状細胞の役割について. 2023年11月15日

・ 主要な国内学会活動の参加状況

山崎 小百合. AMED 課題評価・採択評価委員
日本免疫学会. ダイバーシティ・キャリア支援委員
公益財団法人 国際医学研究振興財団. 学術委員
日本研究皮膚科学会. ISID2023 実行委員
日本研究皮膚科学会. ダイバーシティ委員
日本免疫学会. 評議員
日本研究皮膚科学会. 評議員
日本学術振興会. 特別研究員審査員

アウトリーチ・社会貢献

山崎 小百合. 「免疫をコントロールする重要な二つの細胞-制御性T細胞と樹状細胞」
第24回免疫サマースクール講師 2023年8月

山崎 小百合. 名古屋大学医学部招聘教員 医学部学生への講義 2023年5月

山崎 小百合. シンガポール Nanyang Technological University 博士課程審査委員

山崎 小百合. Journal of Experimental Medicine. Advisory Editorial Board

・ 著書

山崎 小百合. 「もっとよくわかる! 腫瘍免疫学」(担当:分担執筆, 範囲:第1章-2 がんに対する免疫応答調節 — 免疫監視と免疫寛容/第2章-2 排除相における免疫監視機構) 実験医学別冊 羊土社 2023年3月

・ セミナー・シンポジウム主催

山崎 小百合. 第9回免疫学セミナー(講師:名古屋大学助教 杉山大介先生)

「がん免疫研究におけるトランスレーショナルリサーチおよびリバーストランスレー

シヨナルリサーチ」2023年5月

山崎 小百合. **第8回免疫学セミナー** (講師：京都大学特定助教 安田圭子先生)
「①Satb1 は病原性 Th17 細胞の GM-CSF および PD-1 発現を制御する ②RNA 結合蛋白に着目した抗 HIV-1 生体防御応答」2023年2月

<研究活動実績>

【欧文業績】

Yoshida T, Muramatsu H, Wakamatsu M, Sajiki D, Murakami N, Kitazawa H, Okamoto Y, Taniguchi R, Kataoka S, Narita A, Hama A, Okuno Y, Takahashi Y. **Clinical and molecular features of CBL-mutated juvenile myelomonocytic leukemia**. *Haematologica*. **108(11)**: 3115-3119, 2023.

Yamashita D, Muramatsu H, Narita A, Wakamatsu M, Tsumura Y, Sajiki D, Maemura R, Yamamori A, Imai M, Narita K, Kataoka S, Taniguchi R, Nishio N, Okuno Y, Fujita N, Koh K, Umeda K, Morihana E, Iwafuchi H, Ito M, Kojima S, Hama A, Takahashi Y. **Hematological abnormalities in Jacobsen syndrome: cytopenia of varying severities and morphological abnormalities in peripheral blood and bone marrow**. *Haematologica*. **108(12)**: 3438-3443, 2023.

Takeichi T, Ito Y, Lee JYW, Murase C, Okuno Y, Muro Y, McGrath JA, Akiyama M. **KLK11 ichthyosis: large truncal hyperkeratotic pigmented plaques underscore a distinct autosomal dominant disorder of cornification**. *Br J Dermatol*. **189(1)**: 134-136, 2023.

Sugimoto A, Watanabe T, Matsuoka K, Okuno Y, Yanagi Y, Narita Y, Mabuchi S, Nobusue H, Sugihara E, Hirayama M, Ide T, Onouchi T, Sato Y, Kanda T, Saya H, Iwatani Y, Kimura H, Murata T. **Growth Transformation of B Cells by Epstein-Barr Virus Requires IMPDH2 Induction and Nucleolar Hypertrophy**. *Microbiol Spectr*. **11(4)**: e0044023, 2023.

Sakai T, Okuno Y, Murakami N, Shimoyama Y, Imagama S, Nishida Y. **Case report: Novel NIPBL-BEND2 fusion gene identified in osteoblastoma-like phosphaturic mesenchymal tumor of the fibula**. *Front Oncol*. **12**: 956472, 2022.

Oshima K, Hinoki A, Uchida H, Tanaka Y, Okuno Y, Go Y, Shiota C, Tainaka T, Sumida W, Yokota K, Makita S, Takimoto A, Kano Y, Sawa S. **Single-cell RNA sequencing of intestinal immune cells in neonatal necrotizing enterocolitis**. *Pediatr Surg Int*. **39(1)**: 179, 2023.

Murata T, Iwahori S, Okuno Y, Nishitsuji H, Yanagi Y, Watashi K, Wakita T, Kimura H, Shimotohno K. **N6-methyladenosine Modification of Hepatitis B Virus RNA in the Coding Region of HBx**. *Int J Mol Sci*. **24(3)**, 2023.

Imashuku S, Suemori SI, Wakamatsu M, Okuno Y, Muramatsu H, Makino S, Miyoshi T, Chonabayashi K, Kanno H. **Juvenile Hemochromatosis With Non-transfused Hemolytic Anemia Caused by a De Novo PIEZO1 Gene Mutation**. *J Pediatr Hematol Oncol*. **45(4)**: e510-e513, 2023.

Al-Kzayer LFY, Saeed RM, Ghali HH, Tanaka M, Al-Jadiry MF, Faraj SA, Al-Hadad SA, Al Abdullah HMS, Majeed AA, Qadir AO, Abdullah DA, Noori KD, Hama ZM, Muhsin AA, Al-Doski AA, Al-Agele YS, Malallah AH, Al-Badrani KS, Khaleel AMA, Kamata M, Hamada M, Kojima S, Nakazawa Y, Okuno Y. **Comprehensive genetic analyses of childhood acute leukemia in Iraq using next-generation sequencing**. *Transl Pediatr*. **12(5)**: 827-844, 2023.

Yamamori A, Hamada M, Muramatsu H, Wakamatsu M, Hama A, Narita A, Tsumura Y, Yoshida T, Doi T, Terada K, Higa T, Yamamoto N, Miura H, Shiota M, Watanabe K, Yoshida N, Maemura R, Imai M, Miwata S, Narita K, Kataoka S, Taniguchi R, Suzuki K, Kawashima N, Nishio N, Iwafuchi H, Ito M, Kojima S, Okuno Y, Takahashi Y. **Germline and somatic RUNX1 variants in a pediatric bone marrow failure cohort**. *Am J Hematol*. **98(5)**: E102-E105, 2023.

Hamada M, Muramatsu H, Torii Y, Suzuki K, Narita A, Yoshida T, Imaiya M, Yamamori A, Wakamatsu M, Miwata S, Narita K, Kataoka S, Kawashima N, Taniguchi R, Nishikawa E, Nishio N, Ito Y, Kojima S, Takahashi Y. **Human leukocyte antigen 7/8-matched unrelated bone marrow transplantation using anti-thymocyte globulin in children.** Int J Hematol. **118(1): 125-130, 2023.**

【和文業績】

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	奥野友介	10 (1)	10(1)	0
講師	濱田太立	3 (1)	3(1)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

奥野 友介. 文部科学省科学研究費(基盤 B・代表). 令和 4 年度-令和 7 年度. 1,140 千円/13,500 千円

奥野 友介. 文部科学省科学研究費(基盤 B・分担). 令和 4 年度-令和 8 年度. 200 千円

奥野 友介. 文部科学省科学研究費(基盤 B・分担). 令和 4 年度-令和 8 年度. 1,600 千円

奥野 友介. 文部科学省科学研究費(基盤 C・分担). 令和 2 年度-令和 6 年度. 200 千円

奥野 友介. 文部科学省科学研究費(基盤 C・分担). 令和 4 年度-令和 7 年度. 50 千円

奥野 友介. 文部科学省科学研究費(基盤 C・分担). 令和 5 年度-令和 7 年度. 100 千円

奥野 友介. 受託研究費 (AMED・代表). 令和 4 年度-令和 6 年度. 1,300 千円

奥野 友介. 受託研究費 (AMED・代表). 令和 5 年度. 5,300 千円

奥野 友介. 受託研究費 (AMED・分担). 令和 5 年度. 2,000 千円

奥野 友介. 受託研究費 (AMED・分担). 令和 5 年度. 1,000 千円

奥野 友介. 受託研究費 (AMED・分担). 令和 5 年度. 769 千円

奥野 友介. 受託研究費 (AMED・分担). 令和 5 年度. 1,000 千円

奥野 友介. 厚生労働科学研究費 (分担). 令和 5 年度. 100 千円

奥野 友介. 研究助成金(一般社団法人 名古屋小児がん基金) 令和 5 年度-令和 10 年

度. 5,000 千円

奥野 友介. 研究助成金(公益財団法人 大幸財団) 令和5年度-令和6年度. 2,400 千円

濱田 太立. 受託研究費 (AMED・代表) . 令和5年度. 13,650 千円

濱田 太立. 受託研究費 (AMED・分担) . 令和5年度. 1,000 千円

濱田 太立. 文部科学省科学研究費(若手・基金). 令和4年度-令和6年度. 1,700 千円

濱田 太立. 厚生労働科学研究費 (分担) . 令和5年度. 100 千円

—病態モデル医学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Nishio Y, Kato K, Tran Mau-Them F, Futagawa H, Quélin C, Masuda S, Vitobello A, Otsuji S, Shawki HH, Oishi H, Thauvin-Robinet C, Takenouchi T, Kosaki K, Takahashi Y, Saitoh S. **Gain-of-function MYCN causes a megalencephaly-polydactyly syndrome manifesting mirror phenotypes of Feingold syndrome.** HGG Adv. **4(4)**: 100238, 2023.

Yamada M, Warabi E, Oishi H, Lira VA, Okutsu M. **Muscle p62 stimulates the expression of antioxidant proteins alleviating cancer cachexia.** FASEB J. **37(9)**: e23156, 2023.

Li L, Li J, Guan H, Oishi H, Takahashi S, Zhang C. **Human umbilical cord mesenchymal stem cells in diabetes mellitus and its complications: applications and research advances.** Int J Med Sci. **20(11)**: 1492-1507, 2023.

Fujimoto N, Nagaoka K, Tatsuno I, Oishi H, Tomita M, Hasegawa T, Tanaka Y, Matsumoto T. **Wavelength dependence of ultraviolet light inactivation for SARS-CoV-2 omicron variants.** Sci Rep. **13(1)**: 9706, 2023.

Darwish MIM, Moustafa AM, Youssef AM, Mansour M, Yousef AI, El Omri A, Shawki HH, Mohamed MF, Hassaneen HM, Abdelhamid IA, Oishi H. **Novel Tetrahydro-[1,2,4]triazolo[3,4-a]isoquinoline Chalcones Suppress Breast Carcinoma through Cell Cycle Arrests and Apoptosis.** Molecules. **28(8)**: 3338, 2023.

【和文業績】

なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	大石 久史	5	5	0
助教	Shawki Hossam	2	2	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

大石 久史. 文部科学省科学研究費(基盤 B・分担). 令和 3 年度-令和 5 年度、500 千円

大石 久史. 文部科学省科学研究費(基盤 B・分担). 令和 4 年度-令和 7 年度、300 千円

大石 久史. 文部科学省科学研究費(基盤 C・代表). 令和 5 年度-令和 7 年度、1,400 千円/3,700 千円

ホッサム ハッサン シヤキ モハメド. 文部科学省科学研究費(基盤 C・代表). 令和 5 年度-令和 7 年度、1,300 千円/3,600 千円

【その他】

なし

<研究活動実績>

【欧文業績】

《名古屋市立大学》

Kobayashi M, Yokogawa N, Kato S, Sasagawa T, Tsuchiya H, Nakashima H, Segi N, Ito S, Funayama T, Eto F, Yamaji A, Yamane J, Nori S, Furuya T, Yunde A, Nakajima H, Yamada T, Hasegawa T, Terashima Y, Hirota R, Suzuki H, Imajo Y, Ikegami S, Uehara M, Tonomura H, Sakata M, Hashimoto K, Onoda Y, Kawaguchi K, Haruta Y, Suzuki N, Kato K, Uei H, Sawada H, Nakanishi K, Misaki K, Terai H, Tamai K, Kuroda A, Inoue G, Kakutani K, Kakiuchi Y, Kiyasu K, Tominaga H, Tokumoto H, Iizuka Y, Takasawa E, Akeda K, Takegami N, Funao H, Oshima Y, Kaito T, Sakai D, Yoshii T, Ohba T, Otsuki B, Seki S, Miyazaki M, Ishihara M, Okada S, Imagama S, Watanabe K. **Risk factors for early mortality in older patients with traumatic cervical spine injuries-A multicenter retrospective study of 1512 cases.** J Clin Med. **12(2)**: 708, 2023.

Okuwaki S, Funayama T, Koda M, Eto F, Yamaji A, Yokogawa N, Sasagawa T, Ando K, Nakashima H, Segi N, Watanabe K, Nori S, Takeda K, Furuya T, Yunde A, Nakajima H, Yamada T, Hasegawa T, Terashima Y, Hirota R, Suzuki H, Imajo Y, Ikegami S, Uehara M, Tonomura H, Sakata M, Hashimoto K, Onoda Y, Kawaguchi K, Haruta Y, Suzuki N, Kato K, Uei H, Sawada H, Nakanishi K, Misaki K, Terai H, Tamai K, Shirasawa E, Inoue G, Kakutani K, Kakiuchi Y, Kiyasu K, Tominaga H, Tokumoto H, Iizuka Y, Takasawa E, Akeda K, Takegami N, Funao H, Oshima Y, Kaito T, Sakai D, Yoshii T, Ohba T, Otsuki B, Seki S, Miyazaki M, Ishihara M, Okada S, Imagama S, Kato S. **Characteristics of the cervical spine and cervical cord injuries in older adults with cervical ossification of the posterior longitudinal ligament.** Sci Rep. **13(1)**: 2689, 2023.

Sakai H, Watanabe N, Kuroyanagi G, Fukuoka M, Usami T, Ueki Y, Murakami H. **Clinical and radiographic outcomes of primary total hip arthroplasty with the revelation hip system using density mapping.** Eur J Orthop Surg Traumatol. **33(2)**: 435-440, 2023.

Paholpak P, Wisanuyotin T, Sirichativapee W, Sirichativapee W, Kosuwon W, Wongratanacheewin J, Sangsin A, Kasai Y, Murakami H. **Clinical results of total en bloc spondylectomy using a single posterior approach in spinal metastasis patients: Experiences from Thailand.** Asia Pac J Clin Oncol. **19(1)**: 96-103, 2023.

Shimizu T, Kato S, Demura S, Shinmura K, Yokogawa N, Kurokawa Y, Yoshioka K, Murakami H, Kawahara N, Tsuchiya H. **Characteristics and risk factors of instrumentation failure following total en bloc spondylectomy.** Bone Joint J. **105-B(2)**: 172-179, 2023.

Usami T, Takada N, Nishida K, Sakai H, Iwata H, Yonezu H, Sekiya I, Nagaya Y, Ueki Y, Murakami H, Kuroyanagi G. **Fixation of intra-articular calcaneal fractures: A comparative study of the postoperative outcome between HA/PPLA screws and locking plates.** Heliyon. **9(3)**: e14046, 2023.

Yamada Y, Yokogawa N, Kato S, Sasagawa T, Tsuchiya H, Nakashima H, Segi N, Ito S, Funayama T, Eto F, Yamaji A, Yamane J, Nori S, Furuya T, Yunde A, Nakajima H, Yamada T, Hasegawa T, Terashima Y, Hirota R, Suzuki H, Imajo Y, Ikegami S, Uehara M, Tonomura H, Sakata M, Hashimoto K, Onoda Y, Kawaguchi K, Haruta Y, Suzuki N, Kato K, Uei H, Sawada H, Nakanishi K, Misaki K, Terai H, Tamai K, Kuroda A, Inoue G, Kakutani K, Kakiuchi Y, Kiyasu K, Tominaga H, Tokumoto H, Iizuka Y, Takasawa E, Akeda K, Takegami N, Funao H, Oshima Y, Kaito T, Sakai D, Yoshii T, Ohba T, Otsuki B, Seki S, Miyazaki M, Ishihara M, Okada S, Imagama S, Watanabe K. **Effects of dementia on outcomes after cervical spine injuries in elderly patients: evaluation of 1512 cases in a nationwide multicenter study in Japan.** *J Clin Med.* **12(5)**: 1867, 2023.

Aiba H, Spazzoli B, Tsukamoto S, Mavrogenis AF, Hermann T, Kimura H, Murakami H, Donati DM, Errani C. **Current Concepts in the Resection of Bone Tumors Using a Patient-Specific Three-Dimensional Printed Cutting Guide.** *Curr Oncol.* **30(4)**:3859-3870, 2023.

Takenaga T, Yoshida M, Chan CK, Musahl V, Debski RE, Lin A. **Direction of non-recoverable strain in the glenohumeral capsule following multiple anterior dislocations: Implications for anatomic Bankart repair.** *J Orthop Res.* **41(3)**: 479-488, 2023.

Tamai K, Terai H, Nakamura H, Yokogawa N, Sasagawa T, Nakashima H, Segi N, Ito S, Funayama T, Eto F, Yamaji A, Watanabe K, Yamane J, Takeda K, Furuya T, Yunde A, Nakajima H, Yamada T, Hasegawa T, Terashima Y, Hirota R, Suzuki H, Imajo Y, Ikegami S, Uehara M, Tonomura H, Sakata M, Hashimoto K, Onoda Y, Kawaguchi K, Haruta Y, Suzuki N, Kato K, Uei H, Sawada H, Nakanishi K, Misaki K, Kuroda A, Inoue G, Kakutani K, Kakiuchi Y, Kiyasu K, Tominaga H, Tokumoto H, Iizuka Y, Takasawa E, Akeda K, Takegami N, Funao H, Oshima Y, Kaito T, Sakai D, Yoshii T, Ohba T, Otsuki B, Seki S, Miyazaki M, Ishihara M, Okada S, Imagama S, Kato S. **Delirium risk score in elderly patients with cervical spinal cord injury and/or cervical fracture.** *J Clin Med.* **12(6)**: 2387, 2023.

Aiba H, Kamei M, Ito Y, Takeda R, Yamada S, Okamoto H, Hayashi K, Miwa S, Kawaguchi Y, Saito S, Sakai T, Murakami H, Kimura H. **Outcomes of window therapy with carboplatin and ifosfamide for pediatric osteosarcoma: A Case Series.** *Children (Basel).* **10(4)**: 736, 2023.

Usami T, Takada N, Iwata H, Sakai H, Hattori Y, Sekiya I, Ueki Y, Nagaya Y, Murakami H, Kuroyanagi G. **A biomechanical analysis of the effect of hydroxyapatite augmentation for trochanteric femoral fractures.** *Exp Ther Med.* **25(6)**: 256, 2023.

Kawanishi Y, Kobayashi M, Yasuma S, Fukushima H, Kato J, Murase A, Takenaga T, Yoshida M, Kuroyanagi G, Kawaguchi Y, Nagaya Y, Murakami H, Nozaki M. **An Analysis of the Femoral Drilling Angle to Avoid Tunnel Collision during Double-Bundle Anterior Cruciate Ligament and Anterolateral Ligament Reconstruction on the Knee.** *J Knee Surg.* **36(5)**: 483-490, 2023

Tezuka T, Sakai T, Imagama S, Takahashi H, Takaso M, Aizawa T, Otani K, Okuda S, Kato S, Kanemura T, Kawaguchi Y, Konishi H, Suda K, Terai H, Nakanishi K, Nishida K, Machino M, Miyakoshi N, Murakami H, Yamato Y, Yukawa Y, Medical Safety Promotion Committee of The

Japanese Society for Spine Surgery and Related Research. **Management of antithrombotic drugs before elective spine surgery: A nationwide web-based questionnaire survey in Japan.** Spine Surg Relat Res. **7(5)**: 428-435, 2023.

Kato S, Demura S, Yokogawa N, Shimizu T, Kobayashi M, Yamada Y, Murakami H, Tsuchiya H. **Metastasectomy of spinal lesions from thyroid carcinomas.** Bone Joint J. **105-B(5)**: 575-582, 2023.

Yoshida M, Takenaga T, Chan CK, Nazzal EM, Musahl V, Debski RE, Lin A. **Increased superior translation following multiple simulated anterior dislocations of the shoulder.** Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. **31(5)**: 1963-1969, 2023.

Inoue J, Yasui Y, Sasahara J, Takenaga T, Wakabayashi K, Nozaki M, Kobayashi M, Ha M, Fukushima H, Kato J, Miyamoto W, Kawano H, Murakami H, Yoshida M. **Comparison of Visibility and Risk of Neurovascular Tissue Injury Between Portals in Needle Arthroscopy of the Anterior Ankle Joint: A Cadaveric Study.** Orthop J Sports Med. **11(6)**: 2325967123117447, 2023

Suzuki H, Funaba M, Imajo Y, Yokogawa N, Sasagawa T, Ando K, Nakashima H, Segi N, Funayama T, Eto F, Watanabe K, Yamane J, Furuya T, Nakajima H, Hasegawa T, Terashima Y, Ikegami S, Inoue G, Kaito T, Kato S; Japan Association of Spine Surgeons with Ambition (JASA) Study Group. **Blunt cerebrovascular injury in the elderly with traumatic cervical spine injuries: results of a retrospective multi-center study of 1512 cases in Japan.** J Neurotrauma. **40(11-12)**: 1164-1172, 2023.

Kawai M, Demura S, Kato S, Yokogawa N, Shimizu T, Kurokawa Y, Kobayashi M, Yamada Y, Nagatani S, Uto T, Murakami H. **The Impact of frailty on postoperative complications in total en bloc spondylectomy for spinal tumors.** J Clin Med. **12(12)**: 461, 2023.

Yokogawa N, Kato S, Shimizu T, Kurokawa Y, Kobayashi M, Yamada Y, Nagatani S, Kawai M, Uto T, Murakami H, Kawahara N, Demura S. **Clinical outcomes of total en bloc spondylectomy for previously irradiated spinal metastases: A retrospective propensity score-matched comparative study.** J Clin Med. **12(14)**: 4603, 2023.

Demura S, Kato S, Yoshioka K, Shinmura K, Yokogawa N, Shimizu T, Annen R, Kobayashi M, Yamada Y, Nagatani S, Kurokawa Y, Murakami H, Tsuchiya H. **The influence of costal resection on pulmonary function after total en bloc spondylectomy for spine tumor.** J Orthop Sci. **28(5)**: 972-975, 2023.

Aiba H, Miwa Shinji, Murakami H, Kimura H. **Special Issue: "Pediatric Orthopedic Malignancy: Types, Symptoms, and Treatment"**. Children (Basel). **13;10(9)**: 1545, 2023

Hirota R, Terashima Y, Ohnishi H, Yamashita T, Yokogawa N, Sasagawa T, Nakashima H, Segi N, Ito S, Funayama T, Eto F, Yamaji A, Watanabe K, Nori S, Takeda K, Furuya T, Yunde A,

Nakajima H, Yamada T, Hasegawa T, Suzuki H, Imajo Y, Ikegami S, Uehara M, Tonomura H, Sakata M, Hashimoto K, Onoda Y, Kawaguchi K, Haruta Y, Suzuki N, Kato K, Uei H, Sawada H, Nakanishi K, Misaki K, Terai H, Tamai K, Kuroda A, Inoue G, Kakutani K, Kakiuchi Y, Kiyasu K, Tominaga H, Tokumoto H, Iizuka Y, Takasawa E, Akeda K, Takegami N, Funao H, Oshima Y, Kaito T, Sakai D, Yoshii T, Ohba T, Otsuki B, Seki S, Miyazaki M, Ishihara M, Okada S, Imagama S, Kato S. **Prognostic impact of respiratory dysfunction in elderly patients with cervical spinal cord injury and/or fractures: a multicenter survey.** *Eur Spine J.* **32(10)**: 3522-3532, 2023.

Nambu K, Numata H, Yoshitani J, Suzuki K, Takemoto N, Kimura H, Komine N, Goshima K, Mikami Y, Hatsuchi Y, Ishikawa T, Higuchi T, Oku N, Asai K, Morinaga S. **Ten-Year Clinical Outcomes of Endoscope-Assisted Minimally Invasive Surgical Decompression for lumbar spinal stenosis with degenerative spondylolisthesis and comparison with conservative treatment.** *Spine Surg Relat Res.* **8(1)**: 73-82, 2023.

Shibata R, Takeda S, Takahashi H, Mitsuya S, Matsumoto K, Kobayashi M, Kawaguchi Y, Murakami H, Usami T. **Outcomes of spring-locking plate fixation method using locking mesh plate/box plate for posterior wall fractures of the acetabulum: a retrospective single-center study.** *Injury.* **55(2)**: 111172, 2023.

Yagi K, Kishima K, Tezuka F, Morimoto M, Yamashita K, Takata Y, Sakai T, Maeda T, Sairyō K. **Advantages of revision transforaminal full-endoscopic spine surgery in patients who have previously undergone posterior spine surgery.** *J Neurol Surg A Cent Eur Neurosurg.* **84(6)**: 528-535, 2023.

Imamura A, Kuroyanagi G, Usami T, Sato T, Horiba M, Sakai H, Takahashi A, Ueki Y, Matsukawa N, Murakami H. **Levodopa-carbidopa intestinal gel injection for patient with severe Parkinson's disease followed by total hip arthroplasty: A case report and literature review.** *Orthop Surg.* **15(11)**: 2993-2999, 2023.

Takimoto R, Kamigaki T, Ito H, Saito M, Takizawa K, Soejima K, Yasuda H, Ohgino K, Terai H, Tomita KA, Miura M, Mizukoshi E, Miyashita T, Nakamoto Y, Hayashi K, Miwa S, Takeuchi A, Kimura H, Mochizuki T. **Safety evaluation of immune-cell therapy for malignant tumor in the Cancer Immune-cell Therapy Evaluation Group (CITEG).** *Cytotherapy.* **25(11)**: 1229-1235, 2023.

Kato S, Demura S, Shinmura K, Yokogawa N, Murakami H. **Reply to the editor regarding the article: A modified spinal reconstruction method reduces instrumentation failure in total en bloc spondylectomy for spinal tumors.** *Spine Surg Relat Res.* **7(6)**: 561-562, 2023.

Nakamura T, Sakai T, Tsukushi S, Kimura H, Wasa J, Hosono K, Izubuchi Y, Kozawa E, Nagano A, Asanuma KA, Sudo A, Nishida Y. **Clinical outcome in patients with high-grade soft-tissue sarcoma receiving prosthetic replacement after tumor resection of the lower extremities: Tokai Musculoskeletal Oncology Consortium Study.** *In Vivo.* **37(6)**: 2642-2647, 2023.

Goto Y, Kato K, Yagi K, Kawaguchi Y, Yonezu H, Koshimae T, Waguri-Nagaya Y, Murakami H, Suzuki N. **Transforming growth factor- β induces interleukin-6 secretion from human ligamentum flavum-derived cells through partial activation of p38 and p44/42 mitogen-activated protein kinases.** Asian Spine Journal. **17(6)**: 997-1003, 2023.

《東部医療センター》

Otsuka Y, Kondo T, Aoki H, Goto Y, Kawaguchi Y, Waguri-Nagaya Y, Miyazawa K, Goto S, Aoyama M. **IL-1 β promotes osteoclastogenesis by increasing the expression of IGF2 and chemokines in non-osteoclastic cells.** J Pharmacol Sci. **151(1)**: 1-9, 2023.

Azuma T, Misaki K, Kusaoi M, Suzuki Y, Higa S, Kumon Y, Yoshitama T, Naniwa T, Yamada S, Okano T, Takeuchi K, Ikeda K, Higami K, Inoo M, Sawada T, Kang C, Hayashi M, Nagaya Y, Hagiwara, T, Shono E, Himeno S, Tanaka E, Inoue E, Yoshizawa Y, Kadode M, Yamanaka H, Harigai M. **Influence of concomitant methotrexate use on the clinical effectiveness, retention, and safety of abatacept in biologic-naïve patients with rheumatoid arthritis: Post-hoc subgroup analysis of the ORIGAMI study.** Mod Rheumatol. **33(2)**: 271-278, 2023.

Hattori Y, Kawaguchi Y, Usami T, Waguri-Nagaya Y, Murakami H, Okamoto H. **Median nerve recovery and morphological change on MRI at 24 months after open carpal tunnel release.** J Hand Surg Asian Pac. **28(2)**: 197-204, 2023.

《みどり市民病院》

Takahashi H, Takeda S, Shibata R, Kurahashi S, Ito H, Matsumoto K, Mitsuya S, Yamauchi KI. **Posterior sternoclavicular joint dislocation with thoracic costovertebral joints fracture-dislocations.** Trauma Case Rep. **43(9)**: 100766, 2023.

Ito H, Takeda S, Takahashi H, Kurahashi S, Kobayashi M, Shibata R. **Home based exercise therapy for the upper extremity using a hand incubator.** JPRAS Open. **37**: 175-177, 2023.

Takeda S, Yamamoto M, Tanaka Y, Mitsuya S, Yamauchi KI, Hirata H. **A nerve-to-implant distance as a novel predictor for lateral femoral cutaneous nerve injuries after anterior subcutaneous pelvic internal fixation.** Nagoya J Med Sci. **85(3)**: 569-578, 2023.

Ito H, Takeda S, Takahashi H, Kobayashi M, Kurahashi S, Shibata R. **A young man with anterior chest pain.** J Am Coll Emerg Physicians Open. **4(4)**: e13020, 2023.

Ito H, Takeda S, Matsuno Y, Takahashi H, Yamauchi KI. **A rare case of the axillary necrotizing fasciitis.** Nagoya J Med Sci. **85(3)**: 619-625, 2023.

【和文業績】

《名古屋市立大学》

村上英樹, 出村 諭, 加藤仁志. Total en bloc spondylectomy ー手術を進歩させるための基礎研究一. 日整会誌. 97(1): 60-64, 2023.

加藤仁志, 村上英樹. 骨転移に対する局所治療 ー根治的手術の意義と治療成績を中心に一. 泌尿器外科. 36(2): 119-125, 2023.

加藤健太, 木村浩明, 齋藤志朗, 村上英樹. 仙骨に発生した慢性骨髄炎の1例. 中部日本整形外科災害外科学会雑誌. 66(2): 203-204, 2023

加藤賢治, 鈴木伸幸, 八木 清, 後藤祐太, 村上英樹. 骨髄腫治療中, 放射線治療後も脊椎病変の圧壊を来たし手術にいたった2例の経験. 東海脊椎外科. 37: 20-25, 2023.

岡本秀貴, 武田真輔, 上用祐土, 服部勇介, 村上英樹, 川口洋平. 【神経の扱い方をマスターするー術中の確実な温存と再建】《神経再生と再建の最新トピックス》 神経再生誘導チューブ・人工神経の現在と将来. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科. 95(6): 456-461, 2023.

川口善治, 今釜史郎, 高橋 寛, 高相晶士, 相澤俊峰, 大谷晃司, 奥田眞也, 加藤仁志, 金村徳相, 小西宏昭, 酒井紀典, 須田浩太, 手束文威, 中西一夫, 西田康太郎, 町野正明, 宮腰尚久, 村上英樹, 大和 雄, 湯川, 泰紹, JSSR 安全医療推進委員会. 脊椎手術における高位確認に関するアンケート調査 (脊椎手術のヒヤリハット). J Spine Res. 14(5): 748-752, 2023.

河 命守, 若林健二郎, 坪井義晃, 梅村彦太郎, 焼田有希恵, 村上英樹. 0脚に対する装具治療の効果. 日本小児整形外科学会雑誌. 32(1): 105-108, 2023.

吉田雅人, 武長徹也, 井上淳平, 山内 翔, 村上英樹. 【肩の鏡視下手術の基本手技】肩関節拘縮に対する鏡視下関節包切離術. Monthly Book Orthopaedics. 36(8): 59-64, 2023.

桑山 剛, 木村浩明, 相羽久輝, 齋藤志朗, 酒井貴央, 村上英樹. 脛骨骨繊維性異形成に対して液体窒素処理骨で再建を行った1例. 中部整災誌. 66(5): 865-866, 2023.

山内 翔, 武長徹也, 土屋篤志, 竹内聡志, 井上淳平, 大久保徳夫, 植田晋太郎, 大野智也, 窪谷海星, 村上英樹, 吉田雅人. 鏡視下Bankart-Bristow変法における大胸筋ポータルと前下方ポータルのガイドピン刺入角度の検討. 肩関節. 47(1): 54-57, 2023.

岡本秀貴, 川口洋平, 上用祐土, 五十棲秀幸, 服部勇介, 武田真輔. 【神経修復の多様性】人工神経の開発経緯と有効な使用法. 日本マイクロサージャリー学会会誌. 36(3): 92-97, 2023.

八木 清. 【脊椎内視鏡下手術の進化・深化】 FESS 全内視鏡下 Trans-Kambin 固定術 (Full endo-KLIF) (解説). 臨床整形外科. 58(9): 1147-1153, 2023.

村上英樹, 鈴木伸幸, 加藤賢治, 八木 清, 後藤祐太. 上位腰椎に対する TES 横隔膜脚の解剖とその処理. 脊椎脊髄. 36(10): 719-721, 2023.

武長徹也, 吉田雅人, 土屋篤志, 岡本秀貴, 後藤英之, 杉本勝正. 肘関節鏡手術における NanoScope の有用性. 日本肘関節学会誌. 30(2): 418-422, 2023.

福島裕晃, 野崎正浩, 加藤治朗, 花木俊太, 村上英樹. ROSA を用いた TKA のインプラント設置精度-従来法との比較-. 東海関節. 15: 56-62, 2023.

福島裕晃, 野崎正浩, 加藤治朗, 花木俊太, 小林 真, 川西佑典, 村上英樹. ロボット支援人工膝関節置換術のインプラント設置精度の検討 従来法と比較して. 日本人工関節学会誌. 53: 199-200, 2023.

河 命守, 若林健二郎, 坪井義晃, 焼田有希恵, 梅村彦太郎, 村上英樹. Bassett 靭帯障害の 2 例. 日本小児整形外科雑誌. 32(2): 148-152, 2023

《東部医療センター》

白神宗男, 鈴木伸幸. 腹臥位腰椎手術中に周期的な異常高血圧により術後診断された褐色細胞腫の 1 例. 中部整形外科災害外科雑誌. 66(1): 47, 2023.

安間三四郎, 宇佐美琢也, 白神宗男, 上用祐土, 南谷千帆, 服部勇介, 加藤桜子, 近藤凌平, 渡邊創一朗, 永谷祐子. 人工膝関節全置換術におけるコンポーネントの設置位置が膝蓋大腿関節圧に与える影響. 日本関節病学会誌. 42(1): 22-29, 2023.

上用祐土, 川口洋平, 立松尚衛, 服部勇介, 岡本秀貴, 千田博也. 当院における 5 年間の骨性マレット指に対する手術治療成績の検討. 日手会誌. 39(6): 865-870, 2023.

渡邊創一朗, 上用祐土, 安間三四郎, 宇佐美琢也, 福田俊嗣, 永谷祐子. 鎖骨両端骨折に対し観血的整復固定術を行った 1 例. 臨床雑誌整形外科. 74(10): 1069-1071, 2023.

安間三四郎, 宇佐美琢也, 加藤桜子, 近藤凌平, 渡邊創一朗, 服部勇介, 白神宗男, 上用祐土, 南谷千帆, 永谷祐子. 当院における外反変形膝に対する人工膝関節全置換術の手術手技の検討. 日本人工関節学会雑誌. 53: 451-452, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
主任教授	村上 英樹	34(16)	20(5)	14(11)
准教授	野崎 正浩	3(2)	2(0)	2(2)
講師	鈴木 伸幸	10(0)	7(0)	3(0)
講師	木村 浩明	8(2)	6(0)	2(2)
講師	加藤 賢治	9(2)	7(1)	2(1)
講師	武長 徹也	7(2)	4(1)	3(1)
講師	川口 洋平	9(0)	6(0)	3(0)
助教	坂井 宏章	4(1)	4(1)	0(0)
助教	河 命守	3(2)	1(0)	2(2)
助教	阿部 健作	0(0)	0(0)	0(0)
助教	福島 裕晃	3(2)	2(0)	2(2)
助教	坪内 希親	0(0)	0(0)	0(0)
寄附講座講師	吉田 雅人	7(3)	4(1)	3(2)
寄附講座助教	八木 清	5(2)	2(1)	3(1)
寄附講座助教	山内 翔	2(1)	0(0)	2(1)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	永谷 祐子	10(3)	7(0)	3(3)
准教授	南谷 千帆	2(0)	0(0)	2(0)
講師	安間 三四郎	4(2)	1(0)	3(2)
講師	上用 祐士	6(1)	0(0)	6(1)
助教	白神 宗男	3(1)	0(0)	3(1)
助教	服部 勇介	7(1)	2(1)	5(0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	稻田 充	0(0)	0(0)	0(0)
准教授	早川 高志	0(0)	0(0)	0(0)
助教	山中 真徳	0(0)	0(0)	0(0)
助教	内山田 修一	0(0)	0(0)	0(0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（みどり）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
准教授	小林 真	6(0)	5(0)	1(0)
助教	鷹羽 慶之	0(0)	0(0)	0(0)
助教	池田 麻記子	0(0)	0(0)	0(0)
助教	武田 真輔	8(0)	6(0)	2(0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（みらい）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	若林 健二郎	2(1)	0	2(1)
助教	大野 智也	1(0)	0	1(0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

《名古屋市立大学》

村上英樹. 公益財団法人杉浦記念財団. 第12回杉浦地域医療振興助成. 新しいストレッチングプログラムによる糖代謝と動脈硬化改善の検証, 令和5年度

《東部医療センター》

永谷祐子. 公立大学法人名古屋市立大学. 理事長表彰. 令和5年度

《西部医療センター》

稲田 充. 第9回前方側方進入手術学会. 優秀演題賞. 胸腰椎移行部へのアプローチの教育資材, 令和5年度

【外部資金獲得実績】

《名古屋市立大学》

村上英樹. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和2年度-令和6年度、910千円/4,550千円

村上英樹. 研究助成金（第12回杉浦地域医療振興助成）. 令和5年度、105千円

木村浩明. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度-令和5年度、13千円

川口洋平. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 4 年度-令和 6 年度、1,040 千円/3,640 千円

川口洋平. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-令和 7 年度、40 千円

八木 清. 文部科学省科学研究費 (若手). 令和 4 年度-令和 8 年度、650 千円/4,160 千円

《東部医療センター》

永谷祐子. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 5 年度-令和 7 年度、1,040 千円/4,680 千円

上用祐士. 文部科学省科学研究費 (若手 B). 令和 5 年度-令和 7 年度、1,170 千円/4,680 千円

【その他】

< 国際学会 >

《名古屋市立大学》

Goto Y, Kato K, Yagi K, Koshimae T, Murakami H, Suzuki N. Orthopaedic Research Society 2023 Annual Meeting (ORS). **Celecoxib Inhibits IL-1-Stimulated IL-6 Secretion from Human Ligamentum Flavum-Derived Cells**. 2023, 2/10-14.

Yamauchi S, Takenaga T, Tsuchiya A, Takeuchi S, Inoue J, Ono T, Kuboya K, Murakami H, Yoshida M. International Society of Arthroscopy, Knee Surgery and Orthopaedic Sports Medicine (ISAKOS) Congress 2023. **A comparative study of the insertion angles of guidewire between pectoralis major and anteroinferior portals in modified arthroscopic Bankart-Bristow procedure**. 2023/6/18-6/21.

Yagi K. The Pacific and Asian Society of the Minimally Invasive Spine Surgery (PASMIS). **How to perform local anesthesia for endoscopic spine surgery**. 2023/7/13-7/15.

Kimura H, Aiba H, Saito S, Sakai T, Murakami H. The 14th Asia Pacific Musculoskeletal Tumor Society Meeting. **Revision arthroplasty for tumor prosthesis at distal femur**. 2023/10/4-10/7.

《東部医療センター》

Joyo Y, Kawaguchi Y, Yonezu H, Yasuma S, Shiraga H, Nozaki M, Aoyama M, Murakami H, Waguri-Nagaya Y. 43rd SICOT Orthopaedic World Congress. **The Jak inhibitor (baricitinib) inhibits IFN γ -induced gliostatin expression in human fibroblast-like synoviocytes**. 2023/11/21-23.

Hattori Y, Kawaguchi Y, Usami T, Waguri-Nagaya Y, Murakami H, Okamoto H. 第 20 回日仏

整形外科学会. **Postoperative clinical outcomes and morphological changes on MRI following open carpal tunnel release.** 2023/7/8.

《みどり市民病院》

Takaba K, Takeuchi S, Lesniak B, Mushal V, Onishi K. American Orthopaedic Society for Sports Medicine 2023 Annual Meeting (AOSSM). **Vascularity Assessment of Quadriceps Tendon Donor Site After Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Using Ultrasound with Superb Microvascular Imaging (SMI).** 2023/7/13-16.

<国内学会：シンポジウム・パネルディスカッション>

《名古屋市立大学》

吉田雅人, 武長徹也, 野崎正浩, 小林 真, 福島裕晃, 加藤治朗, 黒柳 元, 坂井宏章, 宇佐美琢也, 村上英樹. 第34回日本整形外科超音波学会学術集会. **超音波画像描出のための肘外側側副靭帯複合体の解剖学的検討.** シンポジウム「beyond the border session 1 超音波解剖と臨床解剖 -beyond the border-」. 2023/7/8-9.

村上英樹. 第30回記念日本脊椎・脊髄神経手術手技学会学術集会. **TES(腫瘍脊椎骨全摘術) / TES (total en bloc spondylectomy).** シンポジウム「繋ぐべき脊椎手術手技」. 2023/9/15-16.

村上英樹, 吉田雅人. 第141回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会. “自由闊達な医局”創り. シンポジウム「入局者獲得における取り組みと今後の課題」. 2023/10/6-7.

八木 清, 鈴木伸幸, 加藤賢治, 後藤祐太, 村上英樹. 第26回日本低侵襲脊椎外科学会. **全内視鏡 KLIF：フェローシップから固定術までの道のり.** 2023/11/16-17.

河 命守, 焼田有希恵, 梅村彦太郎, 若林健二郎, 坪井義晃, 和田郁雄, 村上英樹. 第34回日本小児整形外科学会学術集会. **当院における Salter 骨盤骨切り術—良好な治療成績を目指して—.** パネルディスカッション「ソルター手術は進化しているのか？(骨切り法, 固定材料, 矯正損失防止などの工夫)Has our SIO technique Evolved?」. 2023/11/23-24.

<国内学会：一般演題>

《名古屋市立大学》

吉田雅人, 武長徹也, 野崎正浩, 小林 真, 福島裕晃, 加藤治朗, 黒柳 元, 坂井宏章, 宇佐美琢也, 村上英樹. 第28回東海関節鏡研究会. **肩鎖関節脱臼に対する手術療法.** 2023/1/14.

福島裕晃, 野崎正浩, 加藤治朗, 小林 真, 村上英樹. 第28回東海関節鏡研究会. **脛骨前傾骨切り術を併用した multiple revision ACL 再建術の3例.** 2023/1/14.

岡本秀貴, 武長徹也, 吉田雅人. 第 35 回日本肘関節学会学術集会. **小児陳旧性 Monteggia 脱臼骨折の治療経験**. 2023/2/3-4.

吉田雅人, 武長徹也, 井上淳平, 鷹羽慶之, 土屋篤志, 福吉正樹, 中川宏樹, 二村涼, 二村英憲, 松本裕司, 村上英樹, 杉本勝正. 第 35 回日本肘関節学会学術集会. **大学野球選手における尺骨神経脱臼と臨床症状との関連について**. 2023/2/3-4.

武長徹也, 吉田雅人, 井上淳平, 山内 翔, 土屋篤志, 野崎正浩, 岡本秀貴, 後藤英之, 杉本勝正, 村上英樹. 第 35 回日本肘関節学会学術集会. **肘関節鏡手術における NanoScope の有用性**. 2023/2/3-4.

梅村彦太郎, 若林健二郎, 河 命守, 坪井義晃, 和田郁雄, 村上英樹. 第 37 回東海小児整形外科懇話会. **出生直後早期に発症した化膿性股関節炎の治療経験**. 2023/2/5.

坂井宏章, 渡邊宣之, 黒柳 元, 宇佐美琢也, 村上英樹. 第 53 回日本人工関節学会. **側方アプローチを用いた両側同時人工股関節置換術**. 2023/2/17-18.

福島裕晃, 野崎正浩, 加藤治朗, 小林 真, 川西佑典, 村上英樹. 第 53 回日本人工関節学会. **ロボット支援人工膝関節置換術のインプラント設置精度の検討—従来法と比較して—**. 2023/2/17-18.

加藤治朗, 野崎正浩, 福島裕晃, 小林 真, 村上英樹. 第 53 回日本人工関節学会. **トラネキサム酸投与経路の違いによる TKA 周術期出血抑制効果の検討**. 2023/2/17-18.

河 命守. 第 30 回名古屋足外科連携の会. **剣道選手に発症した chondroblastoma の 1 例**. 2023/3/9.

河 命守. 第 30 回名古屋足外科連携の会. **距骨周囲関節の変形が著しい PTTD の 1 例**. 2023/3/9.

後藤祐太, 米津大貴, 篠田 凌, 八木 清, 加藤賢治, 鈴木伸幸, 村上英樹. 第 25 回救急整形外傷シンポジウム (EOTS). **不良な転帰を辿った胸椎破裂骨折に伴う脊髄損傷患者の 1 例**. 2023/3/17-18.

桑山 剛, 木村浩明, 相羽久輝, 齋藤志朗, 酒井貴央, 村上英樹. 第 140 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会. **脛骨骨線維性異形成に対して液体窒素処理骨で再建を行った 1 例**. 2023/4/7-8.

八木 清, 鈴木伸幸, 加藤賢治, 後藤祐太, 村上英樹. 第 52 回日本脊椎脊髄病学会学術集会. **L5/S1 レベルの経椎間孔的全内視鏡下手術 (TF-FES) における foraminoplasty の重要性**. 2023/4/13-15.

後藤祐太, 加藤賢治, 鈴木伸幸, 八木 清, 村上英樹. 第 52 回日本脊椎脊髄病学会学術集会. **化膿性脊椎炎の合併症の検討—重症化の回避のために—**. 2023/4/13-15.

八木 清, 鈴木伸幸, 加藤賢治, 後藤祐太, 村上英樹, 近藤 章, 水野祐一郎. 第 4 回 KLIF を語る会. **KLIF 導入までの軌跡**. 2023/4/15.

坂井宏章, 黒柳 元, 川口洋平. 第 67 回日本リウマチ学会総会・学術集会. **トシリズマブにより寛解が得られた, 胸椎に発生し両下肢麻痺を来した メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の 1 例**. 2023/4/24-26.

吉田雅人, 武長徹也, 野崎正浩, 小林 真, 福島裕晃, 加藤治朗, 黒柳 元, 坂井宏章, 宇佐美琢也, 村上英樹. 第 96 回日本整形外科学会学術総会. **大学野球選手における尺骨神経脱臼と臨床症状との関連について**. 2023/5/11-14.

吉田雅人, 武長徹也, 野崎正浩, 小林 真, 福島裕晃, 加藤治朗, 黒柳 元, 坂井宏章, 宇佐美琢也, 村上英樹. 第 96 回日本整形外科学会学術総会. **僧帽筋下部繊維筋腱移行術における解剖研究**. 2023/5/11-14.

木村浩明, 相羽久輝, 斎藤志朗, 酒井貴央, 村上英樹. 第 96 回日本整形外科学会学術総会. **大腿骨遠位部腫瘍用人工関節再置換例の検討**. 2023/5/11-14.

武長徹也, 吉田雅人, 土屋篤志, 竹内聡志, 井上淳平, 山内 翔, 大野智也, 野崎正浩, 福島裕晃, 村上英樹. 第 96 回日本整形外科学会学術総会. **投球動作の最大外旋位において肋鎖間隙は最も狭小化する一解剖学的研究一**. 2023/5/11-14.

八木 清, 鈴木伸幸, 加藤賢治, 後藤祐太, 村上英樹. 第 96 回日本整形外科学会学術総会. **局所麻酔下に行う経椎間孔的全内視鏡下手術(TF-FES)の臨床成績 : foraminoplasty の有用性**. 2023/5/11-14.

福島裕晃, 野崎正浩, 加藤治朗, 花木俊太, 小林 真, 川西佑典, 村上英樹. 第 96 回日本整形外科学会学術総会. **All-Inside Device を用いた半月板 ramp lesion の術後 1 年成績**. 2023/5/11-14.

福島裕晃, 野崎正浩, 加藤治朗, 花木俊太, 小林 真, 川西佑典, 村上英樹. 第 96 回日本整形外科学会学術総会. **脛骨前傾骨切り術を併用した ACL 再建術の治療経験**. 2023/5/11-14.

加藤治朗, 野崎正浩, 福島裕晃, 花木俊太, 小林 真, 川西佑典, 村上英樹. 第 96 回日本整形外科学会学術総会. **前十字靭帯損傷膝における合併損傷と膝不安定性の関連一前外側複合体, ramp lesion, 外側半月板に着目して一**. 2023/5/11-14.

花木俊太, 野崎正浩, 小林 真, 福島裕晃, 川西佑典, 加藤治朗, 村上英樹. 第 96 回日本整形外科学会学術総会. **Pivot shift grade 3 の高度不安定膝に対する ACL/ALL 同時再建術の術後臨床成績一ACL 単独再建術との比較一**. 2023/5/11-14.

後藤祐太, 加藤賢治, 鈴木伸幸, 八木 清, 村上英樹. 第 96 回日本整形外科学会学術総会. **化膿性脊椎炎の合併症の検討一重症化の回避のために一**. 2023/5/11-14.

後藤祐太, 鈴木伸幸, 加藤賢治, 八木 清, 村上英樹. 第 98 回東海脊椎脊髄病研究会学術集会. 高度脊柱変性後側弯変形矯正術後に生じた急性腹腔動脈圧迫症候群 (ACACS) の 1 例. 2023/6/10.

河 命守, 若林健二郎, 坪井義晃, 焼田有希恵, 梅村彦太郎, 村上英樹. 第 62 回日本小児股関節研究会. 化膿性股関節炎遺残変形の 1 例. 2023/6/22-23.

吉田雅人, 武長徹也, 野崎正浩, 小林 真, 福島裕晃, 加藤治朗, 黒柳 元, 坂井宏章, 宇佐美琢也, 村上英樹. 第 1 回日本スポーツ整形外科学会. 超音波画像描出のための肘外側側副靭帯複合体の解剖学的検討. 2023/6/29-7/1.

武長徹也, 土屋篤志, 川口洋平, 鷹羽慶之, 山内 翔, 窪谷海星, 野崎正浩, 杉本勝正, 村上英樹, 吉田雅人. 第 1 回日本スポーツ整形外科学会. 尺骨矯正骨切りを要した上腕骨小頭離断性骨軟骨炎の 1 例. 2023/6/29-7/1.

八木 清, 鈴木伸幸, 加藤賢治, 後藤祐太, 村上英樹. 第 1 回日本スポーツ整形外科学会. 高度な腰椎側弯を伴う椎間孔狭窄症に対する全内視鏡下椎間孔拡大術の有用性. 2023/6/29-7/1.

福島裕晃, 野崎正浩, 加藤治朗, 花木俊太, 小林 真, 川西佑典, 村上英樹. 第 1 回日本スポーツ整形外科学会. ACL 再建術後移植腱の MRI における成熟度と臨床成績との関係性. 2023/6/29-7/1.

加藤治朗, 野崎正浩, 福島裕晃, 花木俊太, 小林 真, 川西佑典, 村上英樹. 第 1 回日本スポーツ整形外科学会. エコーガイド下に大腿四頭筋血腫除去を行った 3 例. 2023/6/29-7/1.

山内 翔, 武長徹也, 土屋篤志, 竹内聡志, 井上淳平, 大野智也, 窪谷海星, 村上英樹, 吉田雅人. 第 1 回日本スポーツ整形外科学会. ニードル式関節鏡における肘関節内可視範囲の検討. 2023/6/29-7/1.

花木俊太, 野崎正浩, 須田久雄, 山田敏之, 小林 真, 福島裕晃, 加藤治朗, 川西佑典, 村上英樹. 第 1 回日本スポーツ整形外科学会. エコーガイド下穿刺が有効であったプロバスケットボール選手に発症した膝窩動脈外膜嚢腫の 1 例. 2023/6/29-7/1.

木村浩明, 相羽久輝, 齋藤志朗, 酒井貴央, 村上英樹. 第 56 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. 軟部肉腫切除後の股関節周囲遅発性感染・瘻孔形成に対して高気圧酸素療法が奏功した 1 例. 2023/7/13-14.

齋藤志朗, 木村浩明, 酒井貴央, 川口洋平, 岡本秀貴, 村上英樹. 第 56 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会. Tail sign が自然退縮した粘液線維肉腫の 1 例. 2023/7/13-14.

福島裕晃, 野崎正浩, 加藤治朗, 花木俊太, 小林 真, 川西佑典, 村上英樹. 第 16 回東海関節研究会. **ROSA を用いた TKA のインプラント設置精度—従来法との比較—**. 2023/7/22.

坂井宏章, 渡邊宣之, 黒柳 元, 宇佐美琢也, 村上英樹. 第 18 回日本股関節鏡研究会. **鏡視下に手術加療した股関節内(臼蓋側)に発生した類骨骨種の 1 例**. 2023/9/2.

坂井宏章, 黒柳 元, 川口洋平, 永谷祐子. 第 34 回中部リウマチ学会. **フィルゴチニブによる 関節リウマチ治療の短期成績**. 2023/9/15-16.

坂井宏章, 鈴木伸幸, 黒柳 元, 宇佐美琢也, 高橋綾香, 今村篤, 村上英樹. 第 25 回日本骨粗鬆症学会. **人工股関節置換術における術前から術後早期の骨代謝マーカーの変化**. 2023/9/29-10/1.

山本乾人, 川口洋平, 木村浩明, 齋藤志朗, 岡本秀貴, 村上英樹. 第 141 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会. **示指に発生した Extra-articular tenosynovial chondromatosis の 1 例**. 2023/10/6-7.

湯口哲史, 川口洋平, 篠田 凌, 米津大貴, 岡本秀貴, 村上英樹. 第 141 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会. **肘関節脱臼骨折と同側の橈骨遠位端骨折を合併した一例**. 2023/10/6-7.

武長徹也, 吉田雅人, 多和田兼章, 竹内聡志, 鷹羽慶之, 山内 翔, 後藤英之, 村上英樹, 杉本勝正, 土屋篤志. 第 50 回日本肩関節学会学術集会. **大学野球選手における胸郭出口症候群の有病率と病態**. 2023/10/13-14.

山内 翔, 武長徹也, 土屋篤志, 竹内聡志, 井上淳平, 大野智也, 窪谷海星, 村上英樹, 吉田雅人. 第 50 回日本肩関節学会学術集会. **中関節上腕靭帯と下関節上腕靭帯の肩関節前方安定性の関与に関する検討**. 2023/10/13-14.

武長徹也, 吉田雅人, 山内 翔, 井上淳平, 大野智也, 川口洋平, 野崎正浩, 福島裕晃, 村上英樹. 第 38 回日本整形外科学会基礎学術集会. **エコーによる肋骨肋軟骨移行部の同定—解剖学的研究—**. 2023/10/19-20.

八木 清, 鈴木伸幸, 加藤賢治, 後藤祐太, 村上英樹. 第 38 回日本整形外科学会基礎学術集会. **術中分節動脈損傷を避けるための横隔膜内側脚と分節動脈の解剖学的位置関係の検討**. 2023/10/19-20.

福島裕晃, 野崎正浩, 加藤治朗, 花木俊太, 小林 真, 川西佑典, 村上英樹. 第 38 回日本整形外科学会基礎学術集会. **MRI における ACL 再建術後の移植腱成熟度に影響を及ぼす因子の検討**. 2023/10/19-20.

加藤治朗, 野崎正浩, 福島裕晃, 花木俊太, 小林 真, 村上英樹. 第 38 回日本整形外科学会基礎学術集会. **Inertial sensor による pivot shift test 定量評価の検討**. 2023/10/19-20.

山内 翔, 武長徹也, 土屋篤志, 竹内聡志, 井上淳平, 大野智也, 窪谷海星, 村上英樹, 吉田雅人. 第 38 回日本整形外科学会基礎学術集. **NanoScope** による肘関節内可視範囲の検討. 2023/10/19-20.

今村 篤, 黒柳 元, 宇佐美琢也, 堀場充哉, 鹿島崇人, 植木美乃, 村上英樹. 第 38 回日本整形外科学会基礎学術集会. **人工股関節置換術後の急性期リハビリテーションにおけるロボットスーツ HAL®腰タイプの有効性と安全性**. 2023/10/19-20.

河 命守, 焼田有希恵, 梅村彦太郎, 若林健二郎, 坪井義晃, 和田郁雄, 村上英樹. 第 26 回東海足と靴研究会. **比較的稀な第 1 中足骨短縮症の 1 例**. 20223/10/21.

焼田有希恵, 河 命守, 梅村彦太郎, 若林健二郎, 坪井義晃, 和田郁雄, 村上英樹. 第 26 回東海足と靴研究会. **距骨周囲関節の変形が著しい PCFD の 1 例**. 20223/10/21.

河 命守, 焼田有希恵, 梅村彦太郎, 若林健二郎, 坪井義晃, 米津大貴, 村上英樹. 第 47 回日本足の外科学会学術集会. **距骨に発生した軟骨芽細胞腫に対し骨髄鏡視下に治療を行った 1 例**. 2023/10/26-27.

梅村彦太郎, 河 命守, 焼田有希恵, 坪井義晃, 米津大貴, 若林健二郎, 和田郁雄, 村上英樹. 第 47 回日本足の外科学会学術集会. **10 年以上経過観察した先天性内反足に対する Ponseti 法の治療成績**. 2023/10/26-27.

坂井宏章, 渡邊宣之. 第 50 回日本股関節学会. **鏡視下にて手術加療した股関節内に発生した類骨骨種の 2 例**. 2023/10/27-28.

加藤賢治, 鈴木伸幸, 村上英樹. 第 57 回日本側彎症学会学術集会. **瀬本永野式夜間装具は特に腰椎カーブの装具矯正率にすぐれている**. 2023/11/10-11.

焼田有希恵, 河 命守, 梅村彦太郎, 若林健二郎, 坪井義晃, 和田郁雄, 村上英樹. 第 34 回日本小児整形外科学会学術集会. **DDH に対する overhead traction 法の短期治療成績**. 2023/11/23-24.

梅村彦太郎, 河 命守, 焼田有希恵, 坪井義晃, 若林健二郎, 和田郁雄, 村上英樹. 第 34 回日本小児整形外科学会学術集会. **発育性股関節形成不全における股関節不安定性の評価—Shenton 線と MRI 所見との関係—**. 2023/11/23-24.

鈴木伸幸, 加藤賢治, 八木 清, 後藤祐太, 村上英樹. 第 99 回東海脊椎脊髄病研究会学術集会. **二期的成人脊柱変形矯正手術における Bendini の使用経験**. 2023/11/25.

坪内希親, 服部友紀, 坪田真実, 宮崎ゆか, 矢島つかさ, 高須惟人, 松居亮平, 山岸庸太, 笹野 寛. 第 51 回日本救急医学会総会. **患者の訴えをよく聞くことが診断の糸口となったセフトリアキソン脳症の 1 例**. 2023/11/28.

八木 清, 鈴木伸幸, 加藤賢治, 後藤祐太, 村上英樹. 第 31 回日本腰痛学会. 80 歳以上の高齢者に対して施行した局所麻酔下全内視鏡下脊椎手術の術後成績. 2023/12/1-2.

八木 清, 鈴木伸幸, 加藤賢治, 後藤祐太, 村上英樹. 第 31 回日本腰痛学会. 局所麻酔下に行う経椎間孔的全内視鏡下手術(TF-FES)の臨床成績 ; foraminoplasty の有用性. 2023/12/1-2.

野崎正浩, 福島裕晃, 加藤治朗, 花木俊太, 阿部健作, 太田恭平, 小林 真, 川西佑典, 村上英樹. 第 2 回日本膝関節学会. 我々が ACL 再建に ALL 再建を追加する理由. 2023/12/8-9.

加藤治朗, 野崎正浩, 福島裕晃, 花木俊太, 小林 真, 川西佑典, 村上英樹. 第 2 回日本膝関節学会. ACL 損傷膝における回旋不安定性悪化のリスク因子の検討—前外側複合体(ALC), ramp lesion(RL), 外側半月板後根断裂(LMPRT)に着目して—. 2023/12/8-9.

花木俊太, 野崎正浩, 福島裕晃, 加藤治朗, 阿部健作, 小林 真, 川西佑典, 村上英樹. 第 2 回日本膝関節学会. ACL 再建術に伴う半月板縫合術の治癒率—Second look 鏡視による評価—. 2023/12/8-9.

木村浩明, 相羽久輝, 斎藤志朗, 酒井貴央, 村上英樹. 第 16 回金沢骨軟部腫瘍セミナー. 左大腿骨骨腫瘍の 1 例. 2023/12/16.

<国内学会：一般演題>

《東部医療センター》

服部勇介, 岡本秀貴, 川口洋平, 上用祐士. 第 40 回日本人工関節学会. 重度の腱鞘炎に対し持続末梢神経ブロックを用いてリハビリテーションを行った一例. 2023/1/28.

安間三四郎, 宇佐美琢也, 加藤桜子, 近藤凌平, 渡邊創一朗, 服部勇介, 白神宗男, 上用祐士, 南谷千帆, 永谷祐子. 第 53 回日本人工関節学会. 当院における外反変形膝に対する人工膝関節全置換術の手術手技の検討. 2023/2/17-18.

近藤凌平, 上用祐士, 渡邊創一朗, 加藤桜子, 服部勇介, 宇佐美琢也, 白神宗男, 安間三四郎, 南谷千帆, 永谷祐子. 第 25 回救急整形外傷シンポジウム(EOTS). コンパートメント症候群を合併した GustiloII 同側大腿骨解放骨折・脛骨開放骨折(floating knee)の 1 例. 2023/3/17-18.

近藤凌平, 白神宗男, 永谷祐子. 第 140 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会. 診断に難渋した化膿性仙腸関節炎の 1 例. 2023/4/7-8.

服部勇介, 川口洋平, 上用祐士, 永谷祐子, 遠藤浩二郎, 村上英樹, 岡本秀貴. 第 66 回日本手外科学会学術集会. 手根管開放術後 2 年間の臨床経過と MRI による形態学的変化の検討. 2023/4/20-21.

安間三四郎, 宇佐美琢也, 加藤桜子, 近藤凌平, 渡邊創一朗, 服部勇介, 白神宗男, 上用祐土, 南谷千帆, 永谷祐子. 第96回日本整形外科学会学術総会. 人工膝関節全置換術におけるコンポーネントの設置位置と外側支帯解離術が膝蓋大腿関節圧に与える影響. 2023/5/11-14.

白神宗男, 南谷千帆. 東海北陸スパインカンファレンス. DISHを伴う椎体骨折の治療. 2023/6/6.

白神宗男, 南谷千帆. 第98回東海脊椎脊髄病研究会学術集会. 頸椎椎弓形成術1年後にウィルス性髄膜炎を景気に脊髄症状が増悪した1例. 2023/6/10.

近藤凌平, 上用祐土, 永谷祐子. 第52回日本リウマチの外科学会. パニオン皮膚潰瘍の既往がある関節リウマチ前足部関節形成術中にMRSAを検出した1例. 2023/9/1-2.

上用祐土, 安間三四郎, 白神宗男, 服部勇介, 渡邊創一朗, 近藤凌平, 江崎貴大, 奥村聡志, 小本雄介, 南谷千帆, 永谷祐子. 第34回中部リウマチ学会. Deep remissionを目指したジセラカの投与. 2023/9/15-16.

白神宗男, 南谷千帆. 第99回東海脊椎脊髄病研究会学術集会. 牽引台を使用した大腿骨転子部骨折の手術中にDISH合併の胸腰椎骨折を来した2例. 2023/11/25.

安間三四郎, 加藤桜子, 上用祐土, 永谷祐子. 第1回日本膝関節学会. 人工膝関節全置換術における膝蓋大腿関節圧が術後の患者立脚型評価尺度に与える影響. 2023/12/8-9.

<国内学会：一般演題>
《西部医療センター》

稲田 充, 早川高志, 山中真徳, 内山田修一, 浅井隆之, 清水祐輔, 村上英樹. 第9回日本脊椎前方側方侵入手術学会. 胸腰椎移行部へのアプローチの教育資材. 2023/2/4.

内山田修一, 稲田 充, 早川高志, 山中真徳, 浅井隆之, 清水祐輔, 中村俊介, 村上英樹. 第9回日本脊椎前方側方侵入手術学会. 当院のOLIFにおけるFlat Blade Retractorの使用経験. 2023/2/4.

稲田 充, 早川高志, 山中真徳, 内山田修一, 浅井隆之, 清水祐輔, 村上英樹. 第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 頸椎除圧術後C8領域に発生する神経学的障害の検討. 2023/4/13-15.

内山田修一, 稲田 充, 早川高志, 山中真徳, 浅井隆之, 清水祐輔, 中村俊介, 村上英樹. 第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会. 当院における肥満患者に対する脊椎手術の検討 - 肥満患者における当院の新たな対策 -. 2023/4/13-15.

内山田修一, 稲田 充, 早川高志, 山中真徳, 浅井隆之, 清水祐輔, 中村俊介, 村上英樹. 第 99 回東海脊椎脊髄病研究会学術集会. **Foresteir 病に合併した ALS の 1 例**. 2023/11/25.

<国内学会：一般演題>

《みどり市民病院》

小林 真, 野崎正浩, 福島裕晃, 加藤治朗, 村上英樹. 第 53 回日本人工関節学会. **TKA 周術期におけるステロイド全身投与の有用性**. 2023/2/17-18.

小林 真, 野崎正浩, 福島裕晃, 加藤治朗, 村上英樹. 第 2 回東海 Knee Osteotomy and joint Preservation 研究会. **OWDTO(Arc osteotomy)術後に骨折を起こした 2 症例の検討**. 2023/2/25.

鷹羽慶之, 大西賢太郎, 竹内聡志, 面谷 透, Fu F. 第 1 回日本スポーツ整形外科学会 2023. **Superb Microvascular Imaging(SMI)を用いた運動前後の膝前十字靭帯の血流評価**. 2023/6/29-7/1.

鷹羽慶之, 大西賢太郎, 竹内聡志, 面谷 透, Fu F. 第 34 回日本整形外科超音波学会学術集会. **Superb Microvascular Imaging(SMI)を用いた運動前後の膝前十字靭帯、大腿四頭筋、膝蓋腱の血流評価**. 2023/7/8-9.

鷹羽慶之, 竹内聡志, Musahl V, Lin A, Debski R. 第 50 回日本肩関節学会学術集会. **反復性肩関節前方脱臼に対する個々の損傷形態に対応した関節包修復術：バイオメカニクス研究**. 2023/10/13-14.

<国内学会：一般演題>

《みらい光生病院》

大野智也, 武長徹也, 土屋篤志, 竹内聡志, 大久保徳雄, 山内 翔, 窪谷海星, 村上英樹, 吉田雅人. 第 1 回日本スポーツ整形外科学会 2023. **前方ポータル作成による肩関節前方不安定性の解剖学的研究**. 2023/6/29-7/1.

大野智也, 武長徹也, 土屋篤志, 竹内聡志, 大久保徳雄, 山内 翔, 窪谷海星, 村上英樹, 吉田雅人. 第 34 回日本整形外科超音波学会学術集会. **前方ポータル作成による肩関節前方不安定性の解剖学的研究**. 2023/7/8-9.

<著書>

《名古屋市立大学》

吉田雅人. 第 46 章: **転倒・転落による肩肘のケガ (和訳)**. Fredeick M. Azar James H. Beaty 監修. 中島康晴 総監訳. キャンベル整形外科手術書 原書第 14 版 オンラインコンテンツ. 東京: ELSEVIER JAPAN; 2023. 原著 2374-2425 頁に該当

Masuda K, Akeda K, Kato K, Schol J, Sakai D. **Intervertebral Disk Repair and Regeneration—Bioactive Factors and Cell-Based Therapy**. Bruder S and Aaron R 編集. Orthobiologics Scientific and Clinical Solutions for Orthopaedic Surgeons American Academy of Orthopaedic Surgeons. Illinois, 2023. Pp.407-434.

<講演>

《名古屋市立大学》

村上英樹

第9回 Naniwa Orthopedics Seminar (阪大整形外科新年会)。「がんの脊椎転移に対する根治的手術の適応と手術の工夫」。2023/1/7.

第12回名古屋城整形外科地域連携セミナー。「がんの脊椎転移における根治的手術の適応 ～どのような患者を大学に紹介すべきか～」。2023/1/21.

第23回 KSG 研究会。「がんの脊椎転移における根治的手術の適応と進歩」。2023/1/28.

Total en bloc spondylectomy Training Course. 「TES 手術手技のピットホールやコツ」。2023/2/5.

恵美グループ 社内講演会。「脊椎がんを斬る」。2023/2/17.

第20回北勢整形外科懇話会。「がんの脊椎転移に対する根治的手術と疼痛管理」。2023/3/11.

Medtronic Web Seminar. 「TES のコツとピットフォール」。2023/4/26.

Spinal Training Course (TES). 「TES の適応と手技上のコツ Pitfall について」。2023/5/20.

第13回最小侵襲脊椎治療学会 (MIST 学会) 教育研修講演1. 「TES の低侵襲化への工夫 —特に出血対策の Tips—」。2023/6/23.

大雄会病院院内講演会。「いかに20名入局の医局を創り上げたか ～リーダーのあるべき姿を模索して～」。2023/7/10.

第56回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会 ランチョンセミナー10. 「脊椎転移に対する根治的手術 ～骨粗鬆症性椎体骨折と病的骨折の鑑別～」。2023/7/14.

NTUH Spine Tumor Center Symposium. 「The Techniques of Total En Bloc Spondylectomy」。2023/7/22.

下呂ライオンズクラブ例会。「人が増えれば何でもできる！何でもできれば人は集まる！～教授のリーダーシップ論～」。2023/7/26.

第7回横浜運動器未来創生セミナー。「脊椎転移に対する根治的手術」。2023/8/5.

第19回西濃がん診療研究会学術講演会。「がんの脊椎転移への挑戦ー根治的手術の適応やエヌトレクチニブへの期待ー」。2023/9/2.

下呂ライオンズクラブ主催村上英樹先生講演会。「脊椎がん患者さんを救いたい！世界最高難度の手術に挑む～患者さんを救いたい気持ちに働き方改革なんて関係ねえ～」。2023/9/18.

菰野談話会 秋の特別講演会。「いかに3年連続20名入局の医局を創り上げたか～リーダーのあるべき姿を模索して～」。2023/9/21.

第59回大垣市外科連合会学術講演会。「がんの脊椎転移に対する根治的手術～骨粗鬆症性椎体骨折との鑑別も含めて～」。2023/10/21.

令和5年度 第4回兵庫県整形外科医会学術講演会。「脊椎転移に対する腫瘍脊椎骨全摘術の適応と進歩」。2023/10/14.

Spinal Training Course (TES). 「TESの適応と手技上のコツ Pitfall について」。2023/11/5.

第31回日本腰痛学会 教育研修講演1。「半端じゃない腰椎 TES (腫瘍脊椎骨全摘術)の難しさ」。2023/12/1.

SPECIAL LECTURE of Khon Kaen University, Department of Orthopaedics. 「Tips and surgical techniques for total en bloc spondylectomy」。2023/12/13.

野崎正浩

Smith & Nephew Cadaveric Hands-on Evaluation. 「Ramp lesion 修復 All inside device を用いた治療 - 診断から治療 -」。2023/7/17.

鈴木伸幸

脊椎疾患と骨粗鬆症を考える会。「骨粗鬆症治療におけるロモソズマブの位置付けと臨床での実際」。2023/4/27.

NAGOYA Fracture prevention Seminar. 「骨粗鬆症治療におけるロモソズマブの位置付けと臨床での実際」。2023/5/24.

吉田雅人

肩を語る会。「僧帽筋下部線維移行術における解剖学的検討」。2023/5/27.

SMAP セミナー. 「テニス肘に対する保存治療の限界」. 2023/9/18.

木村浩明

転移性肺悪性腫瘍への最新戦略. 「上腕骨近位骨肉腫・転移性肺腫瘍に対する RFA 治療の検討」. 2023/12/7.

加藤賢治

久光製薬株式会社社内後援会. 「腰痛」. 2023/1/12.

桜山 RA-IL-6 セミナー 2023/9/13.

「IL-6 などの炎症反応と脊椎疾患との関係」

腰痛診療について考える会 2023/10/12.

「足がしびれる腰椎由来の神経障害性疼痛の治療」

The 5th Annual Meeting of Korean Biospine Society. 「Intradiscal injection of therapeutic agents for degenerative disc diseases: the rabbit annular-puncture model」. 2023/12/2.

武長徹也

第 32 回健康づくりスポーツフォーラム. 「ケガで野球をあきらめる子どもをなくすために一大人ができること」. 2023/2/4.

ジュニア期の野球障害予防教室. 「野球で発生する肘のスポーツ障害」. 2023/2/5.

第 13 回 Clinical Research Meeting. 「投球障害としての胸郭出口症候群」. 2023/10/9.

運動器エコーセミナー. 「肘関節のエコー」. 2023/10/22.

東三河投球リハビリ勉強会. 「野球選手に発生する胸郭出口症候群について」. 2023/10/27.

第 1 回大崎整形野球障害予防講演会. 「成長期野球選手の障害予防—ドミニカで学んだこと—」. 2023/12/2.

東海地区軟式野球連盟・指導者講習会. 「成長期のスポーツ障害予防」. 2023/12/9.

第 15 回西濃整形外科病診連携カンファレンス. 「人工肩関節置換術—種類と適応—」. 2023/12/21.

川口洋平

愛知県医師会健康教育講座. 「関節リウマチと手の話」. 2023/5/1.

第4回 Immunology Community. 「明日から役立つリウマチ診療」. 2023/6/10.

次世代が挑む関節リウマチ治療を考える会. 「関節リウマチ治療における手外科医の役割」. 2023/6/13.

アステラス製薬株式会社社内講演会. 「関節リウマチ治療における薬物治療の副作用」. 2023/7/21.

第34回日本末梢神経学会スポンサードセミナー2「人工神経最前線 ―ここまでやれる！！―」. 「我々のコラーゲン使用吸収性神経再生誘導材の使用経験」. 2023/9/9.

東海リウマチ Network. 「D2TRA に対する治療戦略について考える」. 2023/9/20.

メトジェクト適正使用講演会. 「関節リウマチ治療薬における注意すべき副作用 ～MTX を中心に自験例より～」. 2023/10/25.

第2回 東海リウマチ Network. 「関節リウマチ治療薬における副作用 ～自験例より～」. 2023/12/13.

坂井宏章

RA 診療 Web セミナー in 尾張北部. 「RA 診療における JAK 阻害剤の可能性 ～ジセレカの使用経験を踏まえて～」. 2023/3/2.

ジセレカ適正使用講演会 in 青森. 「RA 診療における JAK 阻害剤の可能性 ～ジセレカの使用経験を踏まえて～」. 2023/3/6.

旭化成社内勉強会. 「関節リウマチ治療におけるケブザラの使いどころ」. 2023/4/20.

RA 治療 Up to date in 三河. 「高齢リウマチ患者における JAK 阻害剤という選択肢 ～ジセレカの使用経験を踏まえて～」. 2023/5/10.

整形外科リウマチ seminar. 「関節リウマチにおける IL6 阻害剤の使い所 ～サリルマブという選択肢～」. 2023/5/24.

JAKi Expert Lecture Meeting in NAGOYA・OSAKA. 「高齢リウマチ患者における JAK 阻害剤という選択肢 ～ジセレカの使用経験を踏まえて～」. 2023/8/1.

Tokai Young expert in Rheumatology. 「関節リウマチ患者のロコモティブシンドロームを考える」. 2023/8/3.

小牧 RA フォーラム. 「関節リウマチ治療と ロコモティブシンドロームについて」. 2023/9/13.

RA 治療 Up to date in 瀬戸尾張旭. 「RA 診療における JAK 阻害剤の可能性 ～ジセレカ 90 例の使用経験を踏まえて～」. 2023/9/14.

ウパダシチニブの適正使用を考える会. 「JAK-IR にウパダシチニブを 使用した 2 例」. 2023/9/27.

RA 診療セミナー in 尾張西部. 「RA 診療における JAK 阻害剤の可能性 ～ジセレカの 使用経験を踏まえて～」. 2023/9/30.

ギリアド・サイエンシズ社内勉強会. 「ジセレカを用いた関節リウマチの治療戦略」. 2023/10/5.

第 2 弾！初心者向け関節リウマチセミナー. 「RA 患者の周術期管理と 骨粗鬆症治療 の重要性」. 2023/10/11.

第 11 回尾張地区整形外科セミナー. 「身体機能向上を目指した関節リウマチ診療 ～関 節リウマチ患者のロコモティブシンドロームを考える～」. 2023/10/28.

JAKi Lecture Seminar in Central Japan. 「RA 診療における JAK 阻害剤の可能性 ～ジセレ カ 90 例の使用経験を踏まえて～」. 2023/11/16.

Specialist と Generalist をつなぐ関節リウマチ WEB セミナー in 尾北. 「整形外科医が 考える関節リウマチ治療」. 2023/11/22.

河 命守

第 37 回日本靴医学会学術集会. 「こどもの足病セミナー「脚長不等と足部形成不全」」. 2023/9/2.

八木 清

第一三共株式会社社内勉強会. 「腰椎変性疾患に対する局所麻酔下に行う最小侵襲全内 視鏡下脊椎手術」. 2023/6/1.

旭化成ファーマ社内勉強会. 「脊椎固定術と骨癒合について」. 2023/8/24.

第 99 回東海脊椎脊髄病研究会学術集会. 「腰椎変性疾患に対する経椎間孔経路全内視 鏡下脊椎手術 (TF-FESS) の有用性」. 2023/11/25.

NAGOYA KLIF SEMINAR～名古屋で低侵襲脊椎固定術を学ぶ会～. 「腰椎変性疾患に 対する椎体間固定術の低侵襲化」. 2023/12/19.

坪内希親

淑徳大学健康医療科学部スポーツ・健康医科学科 救急救命学専攻講師. 「救急疾病Ⅱ—「筋骨格系疾患」. 2023/11/20.

淑徳大学健康医療科学部スポーツ・健康医科学科 救急救命学専攻講師. 「救急疾病Ⅱ—「目耳鼻の疾患」. 2023/11/27.

《東部医療センター》

早川高志

第5回斯整会 SPINE MEETING 基調講演. 「脊椎インプラント手術における骨粗鬆症マネージメント—骨形成促進剤の役割—」. 2023/12/5.

上用祐士

若水カンファランス. 「当院における手外科診療—紹介患者様のその後の経過も含めて—」. 2023/6/21.

第3回斯整会 RA MEETING. 「当院におけるリウマチ手外科手術」. 2023/11/8.

骨折連鎖を防ごう—二次性骨折予防のための地域連携—. 「急性期病院における二次性骨折予防の現状と課題」. 2023/12/20.

白神宗男

第一三共株式会社社員研修会. 「脊椎外科における外科治療と薬物療法」. 2023/2/7.

東部整形外科連携セミナー. 「高齢者椎体骨折と脊髄損傷の治療」. 2023/11/21.

《西部医療センター》

稲田 充

ウェルフェア 2023. 「腰痛を知る・腰痛と戦う」. 2023/5/25.

第13回最少侵襲脊椎治療学会. 「さらに低侵襲を目指した CBT ASD に対する 2nd 手術治療」. 2023/6/24.

第31回日本腰痛学会. 「当院の腰椎後方椎体間固定術で使用した椎体間 Cag の変遷 近年導入した Expandable Cage の功罪」. 2023/12/1.

《みどり市民病院》

小林 真

看護学研究科・昭和生涯学習センター共催講座. 「足腰との付き合い方—病気の基本知識とその対策—」. 2023/1/13.

ウェルフェア 2023. 「中高年の膝関節疾患治療の最前線」. 2023/5/26.

中高年の膝関節疾患治療の最前線. 「当院における変形性膝関節症の治療方針 ～整形外科の特徴と今後のビジョン～」. 2023/5/27.

第2回みどり地域医療研究会. 「当院における変形性膝関節症の治療方針 ～整形外科の特徴と今後のビジョン～」. 2023/9/6.

緑生涯学習センター共催講座. 「中高年の膝の痛みとその対策」. 2023/9/15.

市民公開講座. 「初期変形性膝関節症に対する治療 ～やりたい事を諦めない膝の痛みの治療方法～」. 2023/10/10.

運動器エコーセミナー. 「膝エコー」. 2023/10/22.

鷹羽慶之

みどり病診連携講演会. 「肩関節疾患の治療～みどり市民病院の方向性～」. 2023/5/27.

《みらい光生病院》

大野智也

第2回北勢地区骨粗鬆症治療講演会. 「肩関節の機能回復を目指して」. 2023/5/18.

<社会貢献活動>

村上英樹

一般社団法人 MOS ストレッチング協会 理事長

Total en bloc spondylectomy Training Course を開催

Spinal Training Course (TES)を主催 (2024/5/20, 2024/11/5)

タイ Khon Kaen 大学 Visiting Professor (2024/12/11-14)

野崎正浩

トヨタ自動車女子バスケットボール部アンテロープス：チームドクター

2023年冬季スキー国体 愛知県選手団 帯同ドクター

2023年 日本プロゴルフツアー 東建ホームメイトカップ トーナメントドクター

吉田雅人

社会人野球 王子硬式野球部：サポートドクター

社会人野球 東海 REX 硬式野球部：サポートドクター

社会人野球 東邦ガス硬式野球部：サポートドクター
名城大学アメリカンフットボール部：チームドクター
Xリーグ 名古屋サイクロンズ：サポートドクター
東邦高校野球部：チームドクター
東邦大学硬式野球部：サポートドクター
フットサルチーム名古屋オーシャンズ：帯同ドクター
2023年度：名古屋市少年野球検診
2023年度：ジュニアアスリートメディカルチェック
ドラゴンズジュニアメディカルチェック
ドラゴンズアカデミーメディカルチェック

武長徹也

中日ドラゴンズ：チームドクター
名古屋オーシャンズ（フットサル）：チームドクター
東海理化硬式野球部・ヤマハ硬式野球部：サポートドクター
中京大中京高校硬式野球部メディカルチェック
2023年度：名古屋市少年野球検診
ドラゴンズジュニア・ドラゴンズアカデミーメディカルチェック
2023年度：名古屋市ジュニアアスリートメディカルチェック

河 命守

2023年度：名古屋市ジュニアアスリートメディカルチェック

八木 清

2023年度：名古屋市ジュニアアスリートメディカルチェック

福島裕晃

ヴィアティン三重女子サッカー：チームドクター
名古屋商科大学アメリカンフットボール部：チームドクター
JAPAN ゴルフツアー開幕戦 東建ホームメイトカップ：帯同ドクター

坪内希親

名古屋市立大学病院看護特定行為研修4期 講師
名古屋市大医療・保健学び直し講座 2023年度秋期「災害・救急医療」講師 災害時の筋骨格系への対応

山内 翔

2023年度：名古屋市ジュニアアスリートメディカルチェック
ドラゴンズジュニアメディカルチェック

《東部医療センター》

上用祐士

2023 年度全日本学生テニス選手権大会 大会責任ドクター

服部勇介

2023 年度全日本学生テニス選手権大会：大会ドクター

ATP 四日市チャレンジャー2023：大会ドクター

《みどり市民病院》

鷹羽慶之

2023 年度名古屋市少年野球検診

JBLA 特別企画 工藤公康氏の野球教室 スタッフ

《みらい光生病院》

大野智也

2023 年度：名古屋市少年野球検診

2023 年度：名古屋市ジュニアアスリート メディカルチェック

<その他>

《名古屋市立大学病院》

村上英樹

世界初の脊椎再建術成功. 大分合同新聞. 2023/3/6

野球が好き. 中日新聞. 2023/4/12

名医が選んだ全国最強の名医 63 人. 週刊ポスト. 2023/6/9, 16

脊椎がん 治療法を解説 名市大・村上主任教授 下呂で講演 700 人. 読売新聞愛知県版. 2023/9/20

脊椎がん 仕組みや治療語る 下呂 名市大・村上主任教授講演. 読売新聞岐阜県版. 2023/9/20

Total En Bloc Spondylectomy (TES) の実際. 株式会社クオトミー 脊椎外科手術ビデオアトラス 動画作成

隣接椎体まで浸潤する骨巨細胞腫に対する根治的手術（腫瘍脊椎骨全摘術：TES）. e-
Thoth（医療従事者向け会員制ウェブサイト） 動画作成

坪内希親

熱中症？コロナ？慎重対応. 中日新聞. 2023/7/31

ニュースウオッチ 9_関東大震災 100 年特集. NHK ニュース. 2023/8/30

—リハビリテーション医学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

<名古屋市立大学>

Koketsu S, Matsubara K, Ueki Y, Shinohara Y, Inoue K, Murakami S, Ueki T. **The defects of the hippocampal ripples and theta rhythm in depression, and the effects of physical exercise on their amelioration.** *Heliyon.* **10:** e23738, 2023.

Kuroyanagi G, Hioki T, Matsushima-Nishiwaki R, Kozawa O, Tokuda H. **HSP70 inhibits or amplifies the bFGF-induced release of IL-6 in osteoblasts.** *Mol Med Rep.***28:** 230, 2023.

Imamura A, Kuroyanagi G, Usami T, Sato T, Horiba M, Sakai H, Takahashi A, Ueki Y, Matsukawa N, Murakami H. **Levodopa-Carbidopa Intestinal Gel Injection for Patient with Severe Parkinson's Disease Followed by Total Hip Arthroplasty: A Case Report and Literature Review.** *Orthop Surg.* **15(11):** 2993-2999, 2023.

Kuroyanagi G, Hioki T, Tachi J, Matsushima-Nishiwaki R, Iida H, Tokuda H, Kozawa O. **Resveratrol inhibits basic fibroblast growth factor-induced macrophage colony-stimulating factor synthesis via the PI3-kinase/Akt pathway in osteoblasts.** *Biosci Biotechnol Biochem.* **87(12):** 1462-1469, 2023.

Kuroyanagi G, Kamiya N, Yamaguchi R, Kim HKW. **Interleukin-6 receptor blockade improves bone healing following ischemic osteonecrosis in adolescent mice.** *Osteoarthritis Cartilage Open.* **5(4):** 100386, 2023.

Usami T, Takada N, Iwata H, Sakai H, Hattori Y, Sekiya I, Ueki Y, Nagaya Y, Murakami H, Kuroyanagi G. **A biomechanical analysis of the effect of hydroxyapatite augmentation for trochanteric femoral fractures.** *Exp Ther Med.* **25(6):** 256, 2023.

Kuroyanagi G, Hioki T, Tachi J, Matsushima-Nishiwaki R, Iida H, Kozawa O, Tokuda H. **Oncostatin M stimulates prostaglandin D2-induced osteoprotegerin and interleukin-6 synthesis in osteoblasts.** *Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids.* **192:** 102575, 2023.

Iwata H, Takada N, Kuroyanagi G, Usami T, Sekiya I, Murakami H. **Pin and Wire System Fixation for the Treatment of Comminuted Patella Fractures.** *Orthopedics.* **46:** 291-296, 2023.

Usami T, Takada N, Nishida K, Sakai H, Iwata H, Yonezu H, Sekiya I, Nagaya Y, Ueki Y, Murakami H, Kuroyanagi G. **Fixation of intra-articular calcaneal fractures: A comparative study of the postoperative outcome between HA/PPLA screws and locking plates.** *Heliyon.* **9:** e14046, 2023.

Hioki T, Kuroyanagi G, Matsushima-Nishiwaki R, Kozawa O, Tokuda H. **Oncostatin M attenuates tumor necrosis factor- α -induced synthesis of macrophage-colony stimulating factor via suppression of Akt in osteoblasts.** *Connect Tissue Res.* **64(2):** 139-147, 2023.

Sakai H, Watanabe N, Kuroyanagi G, Fukuoka M, Usami T, Ueki Y, Murakami H. **Clinical and radiographic outcomes of primary total hip arthroplasty with the revelation hip system using density mapping.** *Eur J Orthop Surg Traumatol.* **33:** 435-440, 2023.

Shimizu Y, Tanikawa M, Horiba M, Sahashi K, Kawashima S, Kandori A, Yamanaka T,

Nishikawa Y, Matsukawa N, Ueki Y, Mase M. **Clinical utility of paced finger tapping assessment in idiopathic normal pressure hydrocephalus.** Front Hum Neurosci. **23**: 17, 2023.

Nojima I, Horiba M, Sahashi K, Koganemaru S, Murakami S, Aoyama K, Matsukawa N, Ono Y, Mima T, Ueki Y. **Gait-combined closed-loop brain stimulation can improve walking dynamics in Parkinsonian gait disturbances: a randomised-control trial.** J Neurol Neurosurg Psychiatry. **94(11)**: 938-944,2023.

【和文業績】

石田 和人, 大場 頌子, 塚田 晋太郎, 松原 弘記, 植木 美乃. 高脂肪食摂取により生ずる「抑うつ様行動」は時間制限給餌により改善する. 基礎理学療法学 26 : S163-2-S163-2, 2023

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
主任教授	植木 美乃	8	7 (1)	1 (1)
講師	黒柳 元	10	10 (4)	0
助教	松原 弘記	1	1 (0)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

<名古屋市立大学>

黒柳 元 **斯整会**. 斯整会学術賞. Oncostatin M stimulates prostaglandin D2-induced osteoprotegerin and interleukin-6 synthesis in osteoblasts, 令和5年10月

黒柳 元. **公益財団法人杉浦記念財団**. 第12回杉浦地域医療振興助成. 大骸骨近位部骨折患者の二次性骨折を予防する医療システムの構築, 令和5年5月

【外部資金獲得実績】

<名古屋市立大学>

黒柳 元. 文部科学省科学科研費（若手研究・代表）. 平成31年-令和6年、750千円/4,160千円

黒柳 元. 共同研究費. 令和4年-令和8年、1,300千円/3,000千円

松原 弘記. 文部科学省科学研究費（研究活動スタート支援・代表）. 令和5年度-令和6年度、1,500千円/3,000千円

松原 弘記. 第十二回杉浦地域振興助成（分担）. 令和5年度、300千円/2,000千円

<みらい光生病院>

植木 美乃. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 5 年-令和 8 年、1,100 千円

植木 美乃. 文部科学省科学研究費 (基盤 A・分担). 令和 5 年-令和 9 年、300 千円

植木 美乃. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 5 年-令和 9 年、300 千円

植木 美乃. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 5 年-令和 9 年、1,000 千円

植木 美乃. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 3 年-令和 8 年、150 千円

植木 美乃. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年-令和 7 年、50 千円

植木 美乃. 共同研究費. 令和 5 年-令和 8 年、5,130 千円

【その他】

≪国内学会発表≫

<名古屋市立大学>

岡本秀貴, 武長徹也, 吉田雅人. 第 35 回日本肘関節学会学術集会. 小児陳旧性 Monteggia 脱臼骨折の治療経験. 2023/2/3-4

岡本秀貴, 村上里奈, 黒柳元, 青山公紀, 小林尚史, 松原弘記, 植木美乃. 第 52 回日本リハビリテーション医学会中部・東海地方会学術集会. 小児陳旧性 Monteggia 脱臼骨折の術後リハビリテーション. 2023/2/4

坂井 宏章, 渡邊 宣之, 黒柳 元, 宇佐美 琢也, 村上 英樹. 日本人工関節学会. 側方アプローチを用いた両側同時人工股関節置換術. 2023/2/17-18

黒柳 元, 磯部 雄貴, 井口 普敬, 坂井 宏章, 宇佐美 琢也, 山田 邦雄, 村上 英樹. 日本人工関節学会. 神経線維腫症 I 型による変形性股関節症に対する人工股関節置換術の治療経験. 2023/2/17-18

坂井 宏章, 黒柳 元, 川口 洋平. 日本リウマチ学会総会・学術集会. トシリズマブにより寛解が得られた, 胸椎に発生し両下肢麻痺を来したメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の 1 例. 2023/4/24-26

小林 絢水, 可知 裕章, 八木 了, 小林 尚史, 村上 里奈, 植木 美乃. 第 60 回日本リハビリテーション医学会. 当院における自動車運転再開支援の結果とその後の運転再開状況について. 2023/5

黒柳 元, 日置 智之, 西脇 理英, 徳田 治彦, 小澤 修, 村上 英樹. 日本整形外科学会学術総会. オンコスタチン M は、骨芽細胞において、Akt の活性化を阻害し、TNF- α

によるマクロファージコロニー刺激因子の産生を抑制する. 2023/5/11-14

井田 墨童, 黒柳元, 植木美乃. 日本リハビリテーション医学会学術集会. 下肢変形性関節症患者の歩行時の力学的エネルギー変換効率に人工関節置換術により改善する. 2023/6/29-7/2

村上里奈, 松原弘記, 稲熊祐輔, 黒柳元, 植木美乃. 第55回日本医学教育学会大会. 医学生による嚙下検査インフォームドコンセントの導入. 2023/7/28-29

松原弘記, 満間典雅, 村上里奈, 岡本秀貴, 植木美乃. 第53回日本リハビリテーション医学会中部・東海地方会学術集会. ベッドサイド眼球運動訓練で眼球運動障害が改善した両側 MLF 症候群と両眼外転障害を認めた急性期脳幹梗塞の一例. 2023/9/9

坂井宏章, 川口洋平, 黒柳元, 永谷祐子. 中部リウマチ学会. フィルゴチニブによる関節リウマチ治療の短期成績. 2023/9/15-16

松原弘記, 黒柳元, 井田墨童, 村上里奈, 岡本秀貴, 植木美乃. 第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. Microsoft 社製 Kinect V2 を用いた歩行解析による大腿骨近位部骨折術後の歩容評価と歩行予後予測指標の検討. 2023/11/3-5

黒柳元, 岡本秀貴, 村上里奈, 松原弘記, 佐藤美紀, 鬼頭陽平, 相羽久輝, 植木美乃. 第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 人工股関節置換術後患者に対する HAL®腰タイプを用いた急性期リハビリテーション. 2023/11/3-5

岡本秀貴, 村上里奈, 黒柳元, 松原弘記, 佐藤美紀, 鬼頭陽平, 相羽久輝, 稲熊祐輔, 植木美乃. 第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 小指基節骨変形治療骨折に対して持続尺骨神経ブロックを用いた早期リハビリテーションの治療経験. 2023/11/3-5

岡本秀貴, 村上里奈, 黒柳元, 青山公紀, 松原弘記, 佐藤美紀, 鬼頭陽平, 相場久輝, 稲熊祐輔, 植木美乃. 日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 小指基節骨変形治療骨折に対して持続尺骨神経ブロックを用いた早期リハビリテーションの治療経験. 2023/11/3-5

額真之介, 松原弘記, 植木美乃, 篠原良章, 井上浩一, 村上里奈, 植木孝俊. 第50回日本脳科学会. 運動が海馬活動障害とうつ病態を改善する神経基盤の解明. 2023/12/3-4

<みらい光生病院>

清水陽子, 堀場充哉, 佐橋健斗, 谷川元紀, 山田茂樹, 川嶋将司, 神鳥明彦, 松川則之, 植木美乃, 間瀬光人. 第24回日本正常圧水頭症学会. 突発性正常圧水頭症疑い患者のタップテスト前後における定量的指タッピング評価. 2023/2

伊東慶一, 佐藤頭世, 佐藤美紀, 植木美乃. 第52回日本リハビリテーション医学会

中部東海地方会. 身寄りなし入院に対する回復期リハビリ病院での取り組み. 2023/2

小林絢水, 植木美乃, 村上里奈. 第52回日本リハビリテーション医学会 中部東海地方会. 地域医療病院における高齢社の安全な経口摂取推進の取り組み. 2023/2

中村祐実, 山下豊, 細江拓也, 清水陽子, 丸尾典生, 堀場充哉, 植木美乃. 愛知県理学療法学会. 心筋梗塞患者に対してチェックリストを用いた非監視型リハビリの限界. 2023/3

仙頭佳起, 中村知寿, 安藤翔悟, 野木村茜, 中西俊之, 植木美乃, 道川誠, 祖父江和哉. 第27回日本神経麻酔集中治療学会. 術前の血清フロチリンレベルと術後の神経認知障害の寒冷性検索: 前向き観察研究. 2023/4

中馬孝容, 小林庸子, 植木美乃, 加世田ゆみ子, 小森哲夫. 第60回日本リハビリテーション医学会. 難病患者の地域リハビリテーション医療の課題について. 2023/5

今村篤, 黒柳元, 宇佐美琢也, 堀場充哉, 鹿島崇人, 植木美乃, 村上英樹. 日本整形外科学会. 人工関節置換術後の急性期リハビリテーションにおけるロボットスーツHAL腰タイプの有効性と安全性. 2023/8

佐藤豊大, 谷口葉子, 藤岡哲平, 川嶋将司, 大喜多賢治, 植木美乃, 久保田英嗣, 松川則之. 第64回日本神経学会学術集会. パーキンソン病のL-ドパ持続経腸療法(LCIG)導入症例における治療薬の使用状況. 2023/9

勝野由大, 辰巳寛, 佐藤堯俊, 高橋摩耶, 諸藤久和, 植木美乃. 第47回日本高次脳機能障害学会. 失語症訓練支援アプリケーション(KOTOREHA)による短期集中療法が及ぼす臨床結果. 2023/10

坪井理佳, 佐橋健斗, 山下豊, 前野健, 植木美乃. 日本作業療法学会. 肺がんによる転移性脳腫瘍術後の1症例の作業療法の経過. 2023.11

生田旭洋, 石黒正樹, 岡元信弥, 若泉賢也, 石田和人, 植木美乃, 稲垣亜紀, 堀本佳彦. 第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 高頻度反復性経頭蓋磁気刺激(rTMS)と集中的理学療法における歩行能力向上と体幹機能の関連について. 2023/11/3-5.

《講演》

<名古屋市立大学>

岡本秀貴, 札幌スポーツ医科学セミナー. 「手指・手関節のスポーツ傷害」. 2023/8/20

黒柳元, 関節リウマチ診療Webセミナー. 「関節リウマチ治療におけるフィルゴチニブの役割～使用経験を踏まえて～」. 2023/1/5

黒柳元, 第14回愛知整形外科医会. 「股関節の構造と痛みの出現するメカニズムと

治療・リハビリテーション」. 2023/3/11

黒柳 元, 名古屋市立大学最新医学講座オープンカレッジ. 「股関節の構造と痛みの出現するメカニズムと治療」. 2023/4/19

黒柳 元, 第1回3回シリーズ! 第2弾! 初心者向け関節リウマチセミナー. 「RA治療のおさらいと医師のアカデミックなキャリア形成を目指して」. 2023/7/4

黒柳 元, Lilly Jak Conference in Chiba. 「関節リウマチ治療におけるオルミエントの有効性と安全性」. 2023/7/19

黒柳 元, TNF α 阻害薬ナゾラを考える WEB Seminar. 「最新の TNF- α 阻害剤「ナゾラ[®]」の有効性・安全性について」. 2023/8/30

黒柳 元, リウマチ診療 Web セミナー. 「関節リウマチ治療におけるフィルゴチニブの役割～使用経験を踏まえて～」. 2023/9/12

黒柳 元, 東濃 Jak Conference. 「関節リウマチ治療における Balicitinib の有効性と安全性」. 2023/9/19

黒柳 元, Lilly RA Web Conference. 「関節リウマチ治療におけるバリシチニブの治療経験」. 2023/11/15

<みらい光生病院>

植木美乃, 第47回静岡リハビリテーション医学会. 「神経疾患におけるニューロリハビリテーション」. 2023/8/26

植木美乃, 第7回日本リハビリテーション医学会. 「神経疾患の新規歩行リハビリテーション治療」. 2023/11/3

《治療》

<名古屋市立大学>

松原弘記 (治療責任医師). 小児脳性麻痺等に伴う立位・歩行障害を主体とした運動姿勢障害に対する粗大運動能力の向上効果を検証するための生体電位等で随意コントロールされた装着型サイボーグHALに関する医師主導治療: 多施設共同ランダム化並行群間比較試験. 2023/10

《著書》

<みらい光生病院>

植木美乃. 日本医師会. リハビリテーションが必要となる疾患 神経筋疾患 Parkinson 病. 2023/10

<研究活動実績>

【欧文業績】

Hirayama T, Fujimori M, Ito Y, Ishida Y, Tsumura A, Ozawa M, Maeda N, Yamamoto K, Takita S, Mori M, Tanaka K, Horibe K, Akechi T. **Feasibility and preliminary effectiveness of a psychosocial support program for adolescent and young adult cancer patients in clinical practice: a retrospective observational study.** Support Care Cancer. **31(2):** 146, 2023

Akechi T, Yamaguchi T, Uchida M, Imai F, Momino K, Katsuki F, Sakurai N, Miyaji T, Mashiko T, Horikoshi M, Furukawa TA, Yoshimura A, Ohno S, Uehiro N, Higaki K, Hasegawa Y, Akahane K, Uchitomi Y, Iwata H. **Smartphone Psychotherapy Reduces Fear of Cancer Recurrence Among Breast Cancer Survivors: A Fully Decentralized Randomized Controlled Clinical Trial (J-SUPPORT 1703 Study).** J Clin Oncol. **41(5):** 1069-1078, 2023

Katsuki F, Yamada A, Kondo M, Sawada H, Watanabe N, Akechi T. **Association between social support for mothers of patients with eating disorders and mothers' active listening attitude: a cohort study.** Biopsychosoc Med. **17(1):** 4, 2023

Furukawa TA, Tajika A, Sakata M, Luo Y, Toyomoto R, Horikoshi M, Akechi T, Kawakami N, Nakayama T, Kondo N, Fukuma S, Noma H, Christensen H, Kessler RC, Cuijpers P, Wason JMS. **Four 2×2 factorial trials of smartphone CBT to reduce subthreshold depression and to prevent new depressive episodes among adults in the community-RESiLIENT trial (Resilience Enhancement with Smartphone in LIVING ENvironments): a master protocol.** BMJ Open. **24. 13(2):**e067850, 2023

Obama K, Fujimori M, Okamura M, Kadowaki M, Ueno T, Boku N, Mori M, Akechi T, Yamaguchi T, Oyamada S, Okizaki A, Miyaji T, Sakurai N, Uchitomi Y. **Effectiveness of a facilitation programme using a mobile application for initiating advance care planning discussions between patients with advanced cancer and healthcare providers: protocol for a randomised controlled trial (J-SUPPORT 2104).** BMJ Open. **13(3):** e069557, 2023

Toyomoto R, Sakata M, Yoshida K, Luo Y, Nakagami Y, Uwatoko T, Shimamoto T, Sahker E, Tajika A, Suga H, Ito H, Sumi M, Muto T, Ito M, Ichikawa H, Ikegawa M, Shiraishi N, Watanabe T, Watkins ER, Noma H, Horikoshi M, Iwami T, Furukawa TA. **Prognostic factors and effect modifiers for personalisation of internet-based cognitive behavioural therapy among university students with subthreshold depression: A secondary analysis of a factorial trial.** J Affect Disord. **322:** 156-162, 2023

Watanabe T, Akechi T. **The mediating role of psychological flexibility in the association of autistic-like traits with burnout and depression in medical students during clinical clerkships in Japan: a university-based cross-sectional study.** BMC Psychiatry. **23(1):** 302, 2023

Toshishige Y, Kondo M, Watanabe T, Yamada A, Hashimoto H, Okazaki J, Tokuyama N, Kuwabara J, Mizushima H, Akechi T. **Association between marital satisfaction of female patients with persistent depressive disorder, and their own and husbands' autism spectrum**

disorder or attention deficit/hyperactivity disorder traits. PCN Rep. **2(2):** e95, 2023

Uchida M, Furukawa TA, Yamaguchi T, Imai F, Momino K, Katsuki F, Sakurai N, Miyaji T, Horikoshi M, Iwata H, Zenda S, Iwatani T, Ogawa A, Inoue A, Abe M, Toyama T, Uchitomi Y, Matsuoka H, Noma H, Akechi T. **Optimization of smartphone psychotherapy for depression and anxiety among patients with cancer using the multiphase optimization strategy (MOST) framework and decentralized clinical trial system (SMartphone Intervention to LEssen depression/Anxiety and GAIN resilience: SMILE AGAIN project): a protocol for a randomized controlled trial.** *Trials.* **24(1):** 344, 2023

Ninomiya K, Inoue D, Sugimoto K, Tanaka C, Murofushi K, Okuyama T, Watanuki S, Imamura CK, Sakai D, Sakurai N, Watanabe K, Tamura K, Saeki T, Ishiguro H. **Significance of the comprehensive geriatric assessment in the administration of chemotherapy to older adults with cancer: Recommendations by the Japanese Geriatric Oncology Guideline Committee.** *J Geriatr Oncol.* **14(5):** 101485, 2023

Hasegawa T, Ito Y, Furukawa Y, Okuyama T, Kojima N, Uchida M, Tasaki Y, Suzuki N, Ishida K, Kashima S, Kubota Y, Akechi T. **Specialized Palliative Care and Intensity of End-of-Life Care Among Adolescents and Young Adults with Cancer: A Medical Chart Review.** *J Adolesc Young Adult Oncol.* **12(4):** 488-495, 2023

Sadahiro R, Hatta K, Yamaguchi T, Masanori E, Matsuda Y, Ogawa A, Iwata Y, Tokoro A, Nakahara R, Hirayama T, Yanai Y, Ogawa Y, Kayano A, Ariyoshi K, Oyamada S, Uchitomi Y, Akechi T, Yamamoto N, Okita N, Yorikane E, Shimada K, Furukawa T, Hashimoto H, Maeda M, Sato T, Sekimoto A, Sasaki C, Saito E, Uezono Y, Matsuoka H. **A multi-centre, double-blind, randomized, placebo-controlled trial to evaluate the effectiveness and safety of ramelteon for the prevention of postoperative delirium in elderly cancer patients: a study protocol for JORTC-PON2/J-SUPPORT2103/NCCH2103.** *Jpn J Clin Oncol.* **53(9):** 851-857, 2023

Matsuda Y, Tanimukai H, Inoue S, Hirayama T, Kanno Y, Kitaura Y, Inada S, Koji Sugano, Yoshimura M, Harashima S, Wada S, Hasegawa T, Okamoto Y, Dotani C, Takeuchi M, Kako J, Sadahiro R, Kishi Y, Uchida M, Ogawa A, Inagaki M, Okuyama T. **A revision of JPOS/JASCC clinical guidelines for delirium in adult cancer patients: a summary of recommendation statements.** *Japanese Journal of Clinical Oncology.* **53(9):** 808–822, 2023

Kurusu K, Harashima S, Fujimori M, Akechi T, Yoshiuchi K, Uchitomi Y. **Regional disparities in suicide among patients with cancer: A nationwide population-based study in Japan.** *Cancer Med.* **12(19):** 20052-20058, 2023

Shiraishi N, Sakata M, Toyomoto R, Yoshida K, Luo Y, Nakagami Y, Tajika A, Watanabe T, Sahker E, Uwatoko T, Shimamoto T, Iwami T, Furukawa TA. **Dynamics of depressive states among university students in Japan during the COVID-19 pandemic: an interrupted time series analysis.** *Ann Gen Psychiatry.* **22(38),** 2023

Watanabe T., Kondo M., Sakai, M, Akechi T. **Acceptance and commitment training for reducing burnout in medical students during a clinical clerkship in psychiatry and palliative care: A pilot study.** *Journal of Contextual Behavioral Science.* **30:** 20-30, 2023

Okami T, Toshishige Y, Kondo M, Okazaki J, Mizushima H, Akechi T. **Interpersonal**

psychotherapy for comorbid prolonged grief disorder and persistent depressive disorder in a Japanese patient: A case report. PCN Rep. 11;2(4): e161, 2023

Toshishige Y, Kondo M, Ito Y, Hashimoto H, Okazaki J, Okami T, Mizushima H, Akechi T. Interpersonal psychotherapy for bereavement-related major depressive disorder in Japan: a pilot study. Cogent Psychology. 11.1: 2294617, 2023

【和文業績】

藤澤大介, 奥山徹, 内富庸介, 藤森麻衣子, 島津太一, 稲垣正俊, 貞廣良一, 吉川栄省, 浅海くるみ, 阿部晃子, 荒井幸子, 五十嵐友里, 市倉加奈子, 今井晶子, 采野優, 大谷弘行, 岡島美朗, 岡村優子, 茅野綾子, 倉田明子, 小早川誠, 佐藤温, 竹内恵美, 田村法子, 馬場知子, 久村和穂, 松本禎久, 樺野香苗, 柳井優子. 「実装を視野に入れたがん患者の精神心理的な支援に関する診療ガイドラインの開発研究」がん患者の気持ちのつらさガイドライン. 実装を視野に入れたがん患者の精神心理的な支援に関する診療ガイドラインの開発研究 令和4年度 総括・分担研究報告書(Web) 2023年

音羽 健司. 【不安症再考】不安症の遺伝子研究. 精神科. 42(2): 202-208, 2023年

音羽 健司. 【プライマリケア医に必要な情報をまるっと整理 くすりの使い方便利帳】(第9章)神経系に作用する薬剤 ベンゾジアゼピン系抗不安薬. 内科. 131(4): 1024-1028, 2023年

山田 敦朗. 【いま,知っておきたい発達障害 Q&A 98】診断 身体科入院中で発達障害を疑われる患者さんへの対応のコツを教えてください. 精神医学. 65(5): 602-603, 2023年

東 英樹. 【てんかん レジデントが知っておきたい診断や治療のコツ!】Vignette 4 入院治療 併存症 発作周辺期精神症状. 精神. Resident 4(2): 141-143, 2023年

小川 晴香, 白石 直, 明智 龍男. 増大号特集 いま,知っておきたい発達障害 Q&A 98 5 鑑別と併存 Q53 摂食障害と発達障害を合併している大人は,高齢化するほど治療が困難となるように思います. 対応のコツがあれば教えてください. 精神医学. 65(5): 687-688, 2023年

岡見 拓哉, 久保田 陽介, 内田 恵, 奥山 徹, 投石 浩次, 明智 龍男. 肥満症治療センターにおける精神科の役割と活動報告 精神神経学雑誌. 2023 特別号: S700, 2023年

大屋 久晴, 白石 直, 渡邊 孝文, 明智 龍男. COVID-19 発生後の希死念慮を主訴とした大学病院精神科コンサルテーションの実情. 精神神経学雑誌. 2023 特別号: S590, 2023年

山田 敦朗. 【精神科医療の必須検査-精神科医が知っておきたい臨床検査の最前線】非定型発達を評価するための検査とその結果の解釈 起立性調節障害の合併を疑った際の対応を含めて. 精神医学. 65(6): 912-921, 2023年

利重 裕子. 若手精神科医のための臨床研究事始め-症例報告からランダム化比較試験まで 対人関係療法を複雑性 PTSD に実施して改善をみた一例. 精神神経学雑誌. 2023 特別号: S619, 2023年6月

利重 裕子. 死別の精神医学 遺族のうつ病に対する対人関係療法の応用. 精神神経学雑誌. 2023 特別号: S336, 2023 年

土野 有稀, 坂田 晴耶, 吉田 優, 山田 敦朗. 双極性障害の精神状態悪化と判断されて精神科病院を受診した COVID-19 陽性の 2 例 症例報告. 精神神経学雑誌. 125(7): 643-, 2023 年

山田 敦朗. 【子どものうつ病に気づく】子どものうつ病は周囲の大人(親や教師)にどのように見えているのか. 精神医学. 65(7): 1007-1015, 2023 年

東 英樹, 明智 龍男. 意識をなくす発作と関連する脳波領域の検討. てんかん研究. 41(2): 429-429, 2023 年

東 英樹, 明智 龍男. 位相空間の再構成された強直間代発作時脳波は心電図と筋電図変化を反映している. 臨床神経生理学. 51(5): 599, 2023 年

利重裕子. 【周産期メンタルヘルスの最先端】周産期うつ病に対する対人関係療法—治療と予防—. 精神科治療学. 38(12): 1419 - 1424, 2023 年

【各教員の論文数 (桜山)】

職 名	氏 名	論文数	内訳	
			欧 文	和 文
教授	明智龍男	17(13)	14(10)	3(3)
講師	山田敦朗 (2023.8.～こころの発達医学寄附講座)	6(3)	2(0)	4(3)
講師	東英樹	3(3)	0(0)	3(3)
講師	白石直	4(1)	2(1)	2(0)
助教	中口智博	0(0)	0(0)	0(0)
助教	安井禎	0(0)	0(0)	0(0)
助教	渡辺孝文	6(2)	5(2)	1(0)
助教	利重裕子	6(5)	3(2)	3(3)

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す (教授の場合は最終著者の論文も含む)

【各教員の論文数 (東部)】

職 名	氏 名	論文数	内訳	
			欧 文	和 文
教授	音羽健司	2(0)	0(0)	2(2)

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す (教授の場合は最終著者の論文も含む)

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	奥山徹	5(1)	3(1)	2(0)
准教授	持田圭仁	0(0)	0(0)	0(0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

明智 龍男. 受託研究費（AMED・代表）. 令和4年度-令和6年度、8,620千円/25,970千円

明智 龍男. 受託研究費（AMED・分担）. 令和3年度-令和5年度、100千円

明智 龍男. 受託研究費（AMED・分担）. 令和3年度-令和5年度、300千円

明智 龍男. 受託研究費（AMED・分担）. 令和3年度-令和7年度、500千円

明智 龍男. 厚生労働科学研究費（分担）. 令和5年度、100千円

明智 龍男. 厚生労働科学研究費（分担）. 令和5年度、200千円

明智 龍男. 文部科学省科学研究費（基盤B・代表）. 令和5年度-令和8年度、3,000千円/13,900千円

明智 龍男. 文部科学省科学研究費（萌芽（開拓）・代表）. 令和4年度-令和7年度、3,600千円/19,700千円

明智 龍男. 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）. 令和5年度-令和8年度、500千円

明智 龍男. 文部科学省科学研究費（萌芽・分担）. 令和5年度-令和7年度、500千円

内田 恵. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和4年度-令和7年度、480千円/2,200千円

白石 直. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和5年度-令和8年度、1,020千円/3,600千円

白石 直. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度-令和5年度、10千円

中口 智博. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和5年度-令和8年度、600千円/3,600千円

渡辺 孝文. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和5年度-令和8年度、600千円/3,100千円

利重 裕子. 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）. 令和5年度-令和7年度、100千円

【その他】

国際学会発表（ポスター）

Uchida M, Akechi T, Morita T, Igarashi N, Shima Y, Miyashita M, Terminal delirium related distress is associated with bereaved prolonged grief disorder. Clinical Oncology Society of Australia 50th Annual Meeting. 2-4. Nov.2023

国際学会発表（ポスター）

Yuko Toshishige, Keiichiro Adachi, Takayuki Iwayama, Yasunori Oishi, Masaki Kondo, Mirai So, Hiroko Maekawa, Takuya Okami, Tatsuo Akechi, Hiroko Mizushima
10th Conference of the International Society of Interpersonal Psychotherapy
IPT Workshops in Japan - Toward better IPT in clinical practice -
2024年3月13日－15日

国際学会発表（口頭）

Takuya Okami, Yuko Toshishige, Masaki Kondo, Junya Okazaki, Tatsuo Akechi, Hiroko Mizushima
10th Conference of the International Society of Interpersonal Psychotherapy
Interpersonal Psychotherapy for Prolonged Grief Disorder Comorbid with Persistent Depressive Disorder : A Case Study in Japan
2024年3月13日－15日

<研究活動実績>

【欧文業績】

Uchida M, Tanikawa M, Nishikawa Y, Yamanaka T, Ueki T, Mase M. **Endoscope-Controlled High Frontal Approach for Dural Arteriovenous Fistula in Anterior Cranial Fossa.** *World Neurosurg.* **175** :e421-e427,2023.

Shimizu Y, Tanikawa M, Horiba M, Sahashi K, Kawashima S, Kandori A, Yamanaka T, Nishikawa Y, Matsukawa N, Ueki Y, Mase M. **Clinical utility of paced finger tapping assessment in idiopathic normal pressure hydrocephalus.** *Front Hum Neurosci.* **17**: 1109670, 2023.

Katano H, Mase M. **Long non-coding RNA expression in calcified carotid plaques.** *Atherosclerosis* **379**: S31-32, 2023

Chiyoda H, Kobayashi S, Yokoi K, Iwata O, Katano H. **Acquired hydrocephalus following hypoxic ischemic encephalopathy without intraventricular hemorrhage: A case report.** *J Neonatal Perinatal Med* **16(3)**: 569-571, 2023

Yamada S, Tanikawa M, Matsushita Y, Fujinami R, Yamada H, Sakomi K, Sakata T, Inagaki H, Yokoo H, Ichimura K, Mase M. **SEGA-like circumscribed astrocytoma in a non-NF1 patient, harboring molecular profile of GBM. A case report.** *Neuropathology* **2023 Nov 2.** doi: 10.1111/neup.12948,2023.

Sakata T, Tanikawa M, Yamada H, Fujinami R, Nishikawa Y, Yamada S, Mase M. **Minimally invasive treatment for glioblastoma through endoscopic surgery including tumor embolization when necessary: a technical note.** *Front Neurol.* **2023 Apr 21;14**:1170045. doi: 10.3389/fneur.2023.1170045. eCollection 2023.

Yamada S, Aoyagi Y, Iseki C, Kondo T, Kobayashi Y; Ueda S, Mori K, Fukami T, Tanikawa M, Mase M, Hoshimaru M; Masatsune Ishikawa; Yasuyuki Ohta. **Quantitative Gait Feature Assessment on Two-Dimensional Body Axis Projection Planes Converted from Three-Dimensional Coordinates Estimated with a Deep Learning Smartphone App.** *Sensors* **23(2)** 617-617. 2023.

Yamada S, Mase M. **Cerebrospinal Fluid Production and Absorption and Ventricular Enlargement Mechanisms in Hydrocephalus.** *Neurologia Medico-Chirurgica* **15;63(4)**:141-151. 2023.

Yamada S, Hiratsuka S, Otani T, Ii S, Wada S, Oshima M, Nozaki K, Watanabe Y. **Usefulness of intravoxel incoherent motion MRI for visualizing slow cerebrospinal fluid motion.** *Fluids and Barriers of the CNS* **20(1)** 16-16. 2023.

Yamada S, Otani T, Ii S, Kawano H, Nozaki K, Wada S, Oshima M, Watanabe Y. **Aging-related volume changes in the brain and cerebrospinal fluid using artificial intelligence-automated segmentation.** *European Radiology* **33(10)**:7099-7112. 2023.

Yamada S, Ito H, Matsumasa H, Tanikawa M, Ii S, Otani T, Wada S, Oshima M, Watanabe Y, Mase M. **Tightened sulci in the high convexities as a noteworthy feature of idiopathic normal pressure hydrocephalus.** *World Neurosurgery* **176**:e427-e437. 2023

Maeda S, Otani T, Yamada S, Watanabe Y, Ilik SY, Wada S. **Biomechanical effects of hyperdynamic cerebrospinal fluid flow through the cerebral aqueduct in idiopathic normal pressure hydrocephalus patients.** *Journal of Biomechanics* **156**: 111671-111671, 2023.

Iseki C, Hayasaka T, Yanagawa H, Komoriya Y, Kondo T, Hoshi M, Fukami T, Kobayashi Y, Ueda S, Kawamae K, Ishikawa M, Yamada S, Aoyagi, Ohta Y. **Artificial Intelligence Distinguishes Pathological Gait: The Analysis of Markerless Motion Capture Gait Data Acquired by an iOS Application (TDPT-GT)**. *Sensors* **23(13)**: 6217-6217. 2023.

Kawano H, Yamada S, Watanabe Y, Ii S, Otani T, Ito H, Okada K, Iseki C, Tanikawa M, Wada S, Oshima M, Mase M, Yoshida K. **Aging and Sex Differences in Brain Volume and Cerebral Blood Flow**. *Aging and Disease (Online ahead of print. DOI: 10.14336/AD.2023.1122)* 2023

Yamada S, Ito H, Tanikawa M, Ii S, Otani T, Wada S, Oshima M, Watanabe Y, Mase M. **Age-related changes in cerebrospinal fluid dynamics in the pathogenesis of chronic hydrocephalus in adults**. *World Neurosurgery* **2023 Oct;178**:351-358.doi: 10.1016/j.wneu.2023.07.110. Epub 2023 Jul 28.2023.

Katano H, Nishikawa Y, Uchida M, Yamanaka T, Hayashi Y, Yamada S, Tanikawa M, Kazuo Yamada K, Mase M. **Secular trends and features of thalamic hemorrhages compared with other hypertensive intracerebral hemorrhages: an 18-year single-center retrospective assessment**. *Frontiers in Neurology* **14** 1205091-1205091, 2023.

Otani O, Nishimura N, Yamashita H, Ii S, Yamada S, Watanabe T, Oshima M, Wada S. **Computational modeling of multiscale collateral blood supply in a whole-brain-scale arterial network**. *PLoS Computational Biology*. **19(9)** :e1011452,2023.

Iseki C, Suzuki S, Fukami T, Yamada S, Hayasaka T, Kondo T, Masayuki Hoshi M, Ueda S, Kobayashi Y, Ishikawa M, Kanno S, Suzuki K, Aoyagi Y, Ohta Y. **Fluctuations in Upper and Lower Body Movement during Walking in Normal Pressure Hydrocephalus and Parkinson's Disease Assessed by Motion Capture with a Smartphone Application, TDPT-GT**. *Sensors* **18;23(22)**:9263,2023.

Shimizu Y, Tanikawa M, Horiba M, Sahashi K, Kawashima S, Kandori A, Yamanaka T, Nishikawa Y, Matsukawa N, Ueki Y, Mase M. **Clinical utility of paced finger tapping assessment in idiopathic normal pressure hydrocephalus**. *Front Hum Neurosci*. **2023 Feb 23;17**:1109670. PMID: 36908708 , 2023

Sakata T, Tanikawa M, Yamada H, Fujinami R, Nishikawa Y, Yamada S, Mase M. **Minimally invasive treatment for glioblastoma through endoscopic surgery including tumor embolization when necessary: a technical note**. *Front Neurol*. **2023 Apr 21;14**:1170045. PMID: 37153685.2023

Nishikawa Y, Yamada S, Uchida M, Yamanaka T, Hayashi Y, Katano H, Tanikawa M, Iwama T, Iihara K, Morioka M. Mase M. **Japanese nationwide questionnaire survey on delayed cerebral infarction due to vasospasm after subarachnoid hemorrhage**. *Front Neurol*. **2023 Nov 2;14**:1296995. doi:10.3389/fneur.2023.1296995. eCollection 2023.PMID: 38020653,2023.

Yamanaka T, Ueki T, Mase M, Inoue K. **Arbitrary Ca²⁺ regulation for endothelial nitric oxide, NFAT and NF-κB activities by an optogenetic approach** *Frontiers in Pharmacology* **2023 Jan 10;13**:1076116. doi: 10.3389/fphar.2022.1076116,2023.

Yamanaka T, Nishikawa Y, Iwata T, Shibata T, Uchida M, Hayashi Y, Katano H, Tanikawa M, Yamada S, Mase M. **Preventive effect of intermittent cerebrospinal fluid drainage for secondary chronic hydrocephalus after aneurysmal subarachnoid hemorrhage**. *Fluids and Barriers of the CNS* **2023 Dec 6;20(1)**:91. doi: 10.1186/s12987-023-00486-5.

Taishaku A, Ohno T, Iwata T, Shibata H, Ishida M, Aihara N. **Reversible Bilateral Transverse Sinus Occlusion Treated by Lumboperitoneal Shunt in Idiopathic Intracranial Hypertension: A Case Report** *NMC Case Report Journal* **10**, 327–330, 2023

【和文業績】

間瀬光人：序章 高次脳機能傷害とは（医学的解説），高次脳機能傷害のある人に” 伝わる説明” 便利帳，名古屋市総合リハビリテーションセンター著，山田和雄・日比野敬明・稲垣亜紀・間瀬光人（監修），pp2-5（中央法規出版，東京，2023）

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	間瀬光人	17 (14)	16	1
准教授	片野広之	5 (2)	5	0
准教授	谷川元紀	12 (0)	12	0
講師	山田茂樹	16 (7)	16	0
助教	西川祐介	8 (1)	8	0
助教	山田紘史	3 (0)	3	0
助教	柴田帝式	1 (0)	1	0
助教	山中智康	7 (2)	7	0
助教	内田充	4 (1)	4	0
病院助教	藤浪亮太	3 (0)	3	0
病院助教	林祐樹	3 (0)	3	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	相原徳孝	1 (1)	1	0
准教授	大野貴之	1 (0)	1	0
助教	柴田広海	1 (0)	1	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
部長	大蔵篤彦	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（みどり）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
准教授	坂田知宏	3 (2)	3	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（みらい）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
准教授	藤田政隆			

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

片野広之. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度-令和5年度、1,100千円/3,300千円

谷川元紀. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和4年度-令和7年度、600千円/3,200千円

山田茂樹. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度-令和6年度、1,000千円/3,200千円

山田紘史. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和4年度-令和7年度、900千円/3,200千円

間瀬光人. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和5年度、80千円

山田茂樹. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和5年度、200千円

間瀬光人. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和5年度、166千円

山田茂樹. 文部科学省科学研究費（基盤A・分担）. 令和5年度、700千円

山田茂樹. 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）. 令和5年度、150千円

山田茂樹. 高性能汎用計算機高度利用事業費補助金. 令和5年度、2,500千円

山田茂樹. 大阪ガスグループ福祉財団 大阪ガスグループ福祉財団「調査・研究助成」、令和5年度

山田茂樹. 公益財団法人大樹生命厚生財団 医学研究特別助成 第31回医学研究特別助成、令和5年度

山田茂樹. 共同研究費（富士フィルム）. 令和5年度、564千円

【その他】

間瀬光人: Hydrocephalus 2022 参加報告: Dynamic ADC analysis During Cardiac Cycle in Positive and Negative CSF Tap Test Groups in Possible Idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus). 第 23 回日本正常圧水頭症学会. 令和 5 年 2 月 18 日 (北見)

間瀬光人: CST 推進委員会・厚生労働省班会議合同企画・総合討論「これからのカダバ―サージカルトレーニング」. 第 123 回日本外科学会定期学術集会. 令和 5 年 4 月 29 日 (東京)

間瀬光人, 西川裕介: スパズム原点回帰. Stroke2023 (シンポジウム). 令和 5 年 3 月 16 日 (横浜)

間瀬光人, 西川祐介: 症候性血栓化動脈瘤に対する髄液リンパ系ドレナージを用いた低侵襲治療戦略. 脳神経外科 Expert WEB Seminar (特別講演). 令和 5 年 6 月 2 日 (東京, WEB)

間瀬光人: 脳および脳室の形態と Neurofluid 動態: 生理学的意義と物理学的考察. 2023 神経内視鏡 in 福岡 (特別講演). 令和 5 年 6 月 7 日 (博多)

間瀬光人, 林 絵美, 日比野 新, 伊藤由麿, 飯田昭彦, 宮地利明, 森 悦朗: 脳から髄液腔への水分子移動: PET study. Prepontine cistern への移行が最も早いのはなぜか? 京都髄液フォーラム 2023. 令和 5 年 8 月 6 日 (京都)

Mitsuhiro Mase: Treatment - Insertion of Ventricular Catheter. Normal Pressure Hydrocephalus - PreMeeting Seminar. The Fifteenth Meeting of Hydrocephalus Society (Hydrocephalus 2023) (oral), 2023/08/25 (Hamburg, Germany).

Mitsuhiro Mase: Complications of Ventricular Shunt Placement. The Fifteenth Meeting of Hydrocephalus Society (Hydrocephalus 2023) (symposium, Shunt complications), 2023/08/28 (Hamburg, Germany).

Mase M, Hayashi E, Hibino S, Ito Y, Iida A, Miyati T, Mori E: Changes of water turnover in brain and CSF spaces in patients with idiopathic normal pressure hydrocephalus; Dynamic PET study using H2150. The 9th Congress of the Croatian Neurosurgical Society, & Joint meeting with Czech Neurosurgical Society and Collaborative Meeting with German Society of Neurosurgery and Croatian-Japanese Pre-congress Symposium on Normal Pressure Hydrocephalus (Invited Speaker), 2023/10/12 (Zadar, Croatia)

間瀬光人, 西川裕介, 内田 充, 山中智康: 最新の脳血管攣縮治療のエビデンス. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会 (シンポジウム). 令和 5 年 10 月 26 日 (横浜)

間瀬光人, 山田茂樹, 山中智康, 西川裕介: Neurofluid 異常から見た iNPH の病態. 第 7 回日本脳神経外科認知症学会 (基調講演). 令和 5 年 11 月 4 日 (沖縄)

間瀬光人, 林 絵美, 日比野 新, 伊藤由麿, 飯田昭彦, 宮地利明, 森 悦朗: 水分子の髄液腔への移行: Dynamic PET study. Prepontine cistern への移行が最も早いのはなぜか? 第 15 回日本水頭症脳脊髄液学会 (JSHCSF 2023). 令和 5 年 11 月 11 日 (富山)

Mitsuhiro Mase: Code AIS; The protocol acute ischemic stroke treatment in primary ischemic center, Nagoya City University Hospital. The 50th Anniversary Celebration the diplomatic establishment between Vietnam and Japan, The 50th Year of ASEAN-Japan Friendship and Cooperation, The 7th International Conference on Innovative Biology Medicine and Engineering (ICIBME). (Special

Lecture 1), 2023/11/24 (Hanoi, Vietnam)

Mitsuhiro Mase: Recent Advance of CSF Physiology. The 50th Anniversary Celebration the diplomatic establishment between Vietnam and Japan, The 50th Year of ASEAN-Japan Friendship and Cooperation, The 7th International Conference on Innovative Biology Medicine and Engineering (ICIBME). (Special Lecture 2), 2023/11/24 (Hanoi, Vietnam)

片野広之、西川祐介、内田 充、山中智康、間瀬光人. 頸動脈プラーク安定化機構解明のための遺伝子解析. 第 48 回日本脳卒中学会 2023 年 3 月 16-18 日 横浜

Katano H, Mase M. Long non-coding RNA expression in calcified carotid plaques. The 91th European Atherosclerosis Society Congress (EAS 2023, ONLINE) 2023. 5. 21-24, Mannheim

片野広之、リヤヒ・アラム サデグ、西川祐介、内田 充、山中智康、林 裕樹、山田紘史、山田茂樹、谷川元紀、間瀬光人. 有限要素解析による石灰化プラークに対する頸動脈ステント留置術シミュレーションの試み. 第 81 回日本脳神経外科学会総会 2023 年 10 月 25-27 日 横浜

谷川元紀、坂田知宏、山田紘史、藤浪亮太、間瀬光人: 脳実質内病変に対する内視鏡下シリンドー手術. 第 30 回日本神経内視鏡学会 (シンポジウム 神経内視鏡手術のベリックとアドバンス) 2023. 11. 17 名古屋

谷川元紀、山田紘史、藤浪亮太、間瀬光人: 内視鏡下 occipital transtentorial approach の一般化に向けて. 第 30 回日本神経内視鏡学会 (シンポジウム 神経内視鏡手術アプローチの一般化に向けて) 2023. 11. 16 名古屋

谷川元紀、山田紘史、藤浪亮太、間瀬光人: 内視鏡下 occipital transtentorial approach の長所と短所. 社団法人日本脳神経外科学会第 82 回総会 (ビデオシンポジウム 脳深部腫瘍の手術) 2023. 10. 25 横浜

山田茂樹 Innovations in iNPH Diagnosis: Analyzing Imaging and Gait Impairment through Deep Learning (Oral) 2nd KNUCH International Symposium on Hydrocephalus 2023/12/8 Daegu

山田茂樹 Advancements in iNPH Diagnosis: Evaluating Imaging and Gait Impairment with Deep Learning (Oral) 2nd Korean Dementia Association NPH Research Group International Symposium on Hydrocephalus 2023/12/7 Seoul

山田茂樹 特発性正常圧水頭症への早期介入: ICT を活用した正常圧水頭症の診断 (口頭) 第 42 回日本認知症学会学術集会 2023/11/24 奈良

山田茂樹 神経内視鏡医に必要な最新の髄液生理学 ~ここまで分かった, ここまで見える: 水頭症における 髄液動態の最新画像【ランチョンセミナー】 第 30 回日本神経内視鏡学会 2023/11/16 名古屋

山田茂樹 水頭症・脳脊髄液の臨床研究をめぐる国際動向 ~ Hydrocephalus 2023 に参加して【ランチョンセミナー】 第 15 回日本水頭症脳脊髄液学会 2023/11/11 富山

山田茂樹, 山中 智康, 間瀬 光人 第三脳室底開窓術が無効であった若年性水頭症 (口頭) 第 15 回日本水頭症脳脊髄液学会 2023/11/11 富山

山田茂樹 iNPH の国際的潮流 (口頭) 福岡 iNPH 研究会 2023 2023/11/1 博多

山田茂樹 転倒と物忘れで発見される高齢者の慢性水頭症 (iNPH) 掛川市・袋井市 高齢者水頭症セミナー 2023/10/19 掛川

Shigeki Yamada, Yoshiyuki Watanabe, Tomohiro Otani, Satoshi Ii, Hirotaka Ito, Chifumi Iseki, Motoki Tanikawa, Shigeo Wada, Marie Oshima, Mitsuhiro Mase Integrating four-dimensional flow MRI & intravoxel incoherent motion MRI for cerebrospinal fluid dynamics (Oral) The 8th Annual Scientific Meeting of the ISMRM Japanese Chapter (ISMRM JPC 2023 Karuizawa) 2023/9/23 Karuizawa

Shigeki Yamada, Satoshi Ii, Tomohiro Otani, Hirotaka Ito, Motoki Tanikawa, Chifumi Iseki, Yoshiyuki Watanabe, Shigeo Wada, Marie Oshima, Mitsuhiro Mase Neuroimaging: Advances in 3D and 4D imaging of CSF & AI-based diagnosis of DESH (Oral) Hydrocephalus 2023 2023/8/27 Hamburg

Shigeki Yamada Physiology of CSF Circulation: What can imaging tell about CSF Physiology Hydrocephalus 2023 2023/8/26 Hamburg

山田茂樹 脳脊髄液の動態仮説の転換と iNPH 診療 岐阜 iNPH セミナー 2023/8/17 岐阜

山田茂樹 高齢者の水頭症の手術適応 第 117 回東三河脳神経外科懇話会 2023/7/13 豊川

山田茂樹, 伊藤広貴, 松政宏典, 伊井仁志, 前田修作, 武石直樹, 大谷智仁, 谷川元紀, 渡邊嘉之, 和田成生, 大島まり, 間瀬光人 「特発性正常圧水頭症と類縁疾患: 診断と治療の最前線」 深層学習を用いた 3 次元 MRI からの DESH 自動検出と領域抽出 第 32 回日本脳ドック学会総会 2023/6/23 岩手

山田茂樹, 伊藤広貴, 松政宏典, 伊井仁志, 前田修作, 武石直樹, 大谷智仁, 谷川元紀, 渡邊嘉之, 和田成生, 大島まり, 間瀬光人 AI による臓器抽出: 脳と脳脊髄液の自動抽出・領域分割と AI-CAD 第 62 回日本生体医工学会大会 2023/5/18 名古屋

山田茂樹 これからの認知症診療に活躍する脳ドックと iNPH 第 33 回山形認知症研究会 2023/4/8 山形

山田茂樹 なぜ特発性正常圧水頭症 (iNPH) は脳神経内科専門医の診療を必要とするのか? 日本神経学会東海北陸地区生涯教育講演会 2023/3/12 名古屋

山田茂樹 自立で長生きしよう 特発性正常圧水頭症について～治る歩行障害や認知症～iNPH の病態 第 24 回日本正常圧水頭症学会学術集会 2023/2/19 北見

山田茂樹 自立で長生きしよう 特発性正常圧水頭症について～治る歩行障害や認知症～iNPH の病態 第 24 回日本正常圧水頭症学会学術集会 2023/2/19 北見

山田茂樹 進化する特発性正常圧水頭症ガイドライン <タップテスト評価の第 3 版の改良点と問題点> 第 24 回日本正常圧水頭症学会学術集会 2023/2/19 北見

山田茂樹 Hydrocephalus 2022 参加報告 第 24 回日本正常圧水頭症学会学術集会 2023/2/18 北見

山田茂樹 iNPH を学ぼう <診断: 髄液排泄試験> 第 24 回日本正常圧水頭症学会学術集会 2023/2/18 北見

山田茂樹 脳脊髄液と脳の環境問題から iNPH の病態を考える 第 24 回日本正常圧水頭症学会学術集会 プレミーティングセミナー 北見

岡雄一, 間瀬光人 罹病期間の長いパーキンソン病に対する DBS 日本脳神経外科学会第 82 回学術総会 2023.10.25 横浜

西川祐介, 山田茂樹, 林裕樹, 山中智康, 内田充, 片野広之, 森岡基浩, 飯原弘二, 岩間亨 脳血管攣縮による脳梗塞を抑える management は何か? アンケート調査結果報告

シンポジウム1「これまでの SAH の治療・管理」第 39 回スパズム・シンポジウム
2023. 3. 16-18 横浜

西川祐介 林裕樹 山中智康 内田充 井上裕康 大村真弘 間瀬光人 脳動静脈奇形塞栓術における穿通枝と皮質枝に分けた塞栓物質の使い分け 第 52 回日本脳卒中の外科学術集会 2023. 3. 16-18 横浜

西川祐介 間瀬光人 DAVF の TAE を成功に導く Coil と Balloon の使いどころ スポンサードシンポジウム 第 32 回脳神経外科手術と機器学会 2023. 4. 19 富山

西川祐介、坂田知宏、林裕樹、山中智康、内田充、藤浪亮太、山田紘史、山田茂樹、谷川元紀、片野広之、間瀬光人 ヒストアクリルを用いた腫瘍内血管塞栓術の tips シンポジウム脳血管内治療のフォアフロント 第 82 回日本脳神経外科学会総会 2023. 9. 25-9. 27 横浜

西川祐介 山田茂樹、林裕樹 山中智康 内田充 片野広之 森岡基浩、飯原弘二、岩間亨 Clazosentan 導入前の本邦の DCI 治療の現在—脳卒中の外科学会 全国アンケート調査結果報告— シンポジウム脳血管攣縮の現在 第 82 回日本脳神経外科学会総会 2023. 9. 25-9. 27 横浜

西川祐介 間瀬光人 進行性認知症が治療により改善した硬膜動静脈瘻 シンポジウム脳血管障害と認知機能 第 7 回日本脳神経外科認知症学会 2023. 11. 3-4 那覇

西川祐介 林裕樹 山中智康 内田充 井上裕康 大村真弘 間瀬光人 Meet the Expert Catalyst 6 と Vecta46 を軸とする出血させない combination technique 第 39 回日本脳神経血管内治療学会総会 2023. 11. 23-25 京都

西川祐介、坂田知宏、林裕樹、山中智康、内田充、藤浪亮太、山田紘史、山田茂樹、谷川元紀、片野広之、間瀬光人 拡張/蛇行した腫瘍内血管を狙う脳血管からの脳腫瘍塞栓術 第 39 回日本脳神経血管内治療学会総会 2023. 11. 23-25 京都

山田紘史、谷川元紀、坂田知宏、藤浪亮太、間瀬光人
鏡視下手術における 3D 対応ヘッドマウントディスプレイの有用性について
第 82 回日本脳神経外科学会総会 2023. 10. 25-27 横浜

山中智康 間欠的髄液ドレナージによるくも膜下出血後の二次性正常圧水頭症発症抑制の可能性 STROKE2023 2023/3/17 横浜

山中智康 間欠的脳髄液ドレナージのくも膜下出血後水頭症に対する発症予防効果 第 82 回学術総会 2023/10/25 横浜

山中智康 PREMIERE 適応によって Flow diverter 治療の恩恵を受けやすい症例の検討 第 39 回日本脳神経血管内治療学会学術集会 2023/11/24

藤浪亮太 谷川元紀 山田茂樹 坂田知宏 山田紘史 間瀬光人 松果体部アプローチにおける大脳鎌と静脈洞の関係 ; CT-A による検討 第 46 回日本脳神経 CI 学会総会 2023/1/21 千葉

藤浪亮太 谷川元紀 山田茂樹 坂田知宏 山田紘史 間瀬光人 内視鏡下松果体部アプローチにおける大脳鎌および静脈洞交会の variation に関する考察 第 52 回神経放射線学会 2023/2/18 東京

藤浪亮太 谷川元紀 山田茂樹 山田紘史 間瀬光人 内視鏡下後頭部経テント到達法における後頭葉の牽引幅に注目したアプローチ選択 第 82 回日本脳神経外科学会総会 2023/10/27 横浜

藤浪亮太 谷川元紀 山田茂樹 山田紘史 間瀬光人 内視鏡下 Occipital transtentorial approach のアプローチ側選択と後頭葉牽引幅に関する解剖学的検討 2023/11/16 名古屋

—こころの発達医学寄附講座—

＜研究活動実績＞

【欧文業績】

Nakagawa A, Sukigara M, Nomura K, Nagai Y, Miyachi T. **Attentional differences in audiovisual face perception between full- and preterm very low birthweight toddlers.** Acta Paediatr. **112(8)**:1715-1724, 2023

【和文業績】

なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	永井幸代	1(0)	1(0)	0(0)
教授	山田敦朗	0(0)	0(0)	0(0)
助教	大橋圭	0(0)	0(0)	0(0)
助教	山田理恵	0(0)	0(0)	0(0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

なし

【その他】

【永井幸代】

小児の精神と神経 編集委員

【山田敦朗】

児童青年精神医学会 代議員

Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports Field Editor

【大橋圭】

小児の精神と神経 編集委員

【山田理恵助教】

- ・名古屋市立大学医療心理センター 臨床心理相談室 嘱託相談員
- ・日本福祉大学看護学部 非常勤講師 「人間関係論」 8コマ 2023年度 後期
- ・名古屋市北保健センター 幼児発達相談 月1回半日 2023年10月～（継続中）

- ・児童発達支援センター・エデュリー コンサルテーション 月1回1時間
2023年8月～（継続中）

—産科婦人科学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Mohanto NC, Ito Y, Kato S, Ebara T, Kaneko K, Tsuchiyama T, Sugiura-Ogasawara M, Saitoh S, Kamijima M. **Quantitative Measurement of Phthalate Exposure Biomarker Levels in Diaper- Extracted Urine of Japanese Toddlers and Cumulative Risk Assessment: An Adjunct Study of JECS Birth Cohort.** Environ Sci Technol. **57(1)**: 395-404, 2023.

Yoshida A, Kaneko K, Aoyama K, Yamaguchi N, Suzuki A, Kato S, Ebara T, Sugiura-Ogasawara M, Kamijima M, Saitoh S, The Japan Environment And Children's Study Group. **Relationship between Birth Order and Postnatal Growth until 4 Years of Age: The Japan Environment and Children's Study.** Children(Basel). **10(3)**: 557, 2023.

Imai K, Aoyama K, Goto T, Kitaori T, Iguchi T, Sasano H, Hattori T, Sugiura-Ogasawara M, Saitoh S. **Hematocolpos due to lower vaginal agenesis in an adolescent girl.** Acute Med Surg. **10(1)**: e832, 2023.

Goto S, Ozaki Y, Ozawa F, Yoshihara H, Ujvari D, Kitaori T, Sugiura-Ogasawara M. **Impaired decidualization and relative increase of PROK1 expression in the decidua of patients with unexplained recurrent pregnancy loss showing insulin resistance.** J Reprod Immunol. **160**: 104155, 2023.

Nishikawa R, Sugiura-Ogasawara M, Ebara T, Matsuki T, Tamada H, Kato S, Kaneko K, Saitoh S, Kamijima M; Japan Environment and Children's Study Group. **Adverse pregnancy outcomes of cancer survivors and infectious disease in their infants: The Japan Environment and Children's Study.** Oncol Lett. **25(3)**: 100, 2023.

Watanabe S, Yoshikai K, Matsuda Y, Miyai S, Sawada Y, Kurahashi H, Sawada T. **The effect of early irregular cell division of human embryos on blastocyst euploidy: Considerations from the subsequent development of the blastomeres by direct or reverse cleavage.** F S Sci. **4**: 21-29, 2023.

Goto T, Goto S, Ozawa F, Yoshihara H, Kitaori T, Komura M, Takahashi S, Ozaki Y, Sugiura-Ogasawara M. **The association between chronic deciduitis and recurrent pregnancy loss.** J Reprod Immunol. **156**: 103824, 2023.

Yamashita H, Nakayama K, Kanno K, Ishibashi T, Ishikawa M, Sato S, Iida K, Razia S, Kyo S. **Identifying the Carcinogenic Mechanism of Malignant Struma Ovarii Using Whole-Exome Sequencing and DNA Methylation Analysis.** Curr Issues Mol Biol. **45(3)**: 1843-1851, 2023.

Sato S, Nakayama K, Kanno K, Sultana R, Ishikawa M, Ishibashi T, Yamashita H, Kyo S. **Frequent PIK3CA mutation in normal endometrial gland drives spheroid formation and may be involved in stem cell propagation.** Cancer Sci. **114(6)**: 2335-2344, 2023.

Sawada K, Nakayama K, Razia S, Yamashita H, Ishibashi T, Ishikawa M, Kanno K, Sato S, Nakayama S, Otsuki Y, Kyo S. **Promising Therapeutic Impact of Immune Checkpoint Inhibitors in Type II Endometrial Cancer Patients with Deficient Mismatch Repair Status.** Healthcare(Basel). **11(8)**: 1073, 2023.

Razia S, Nakayama K, Yamashita H, Ishibashi T, Ishikawa M, Kanno K, Sato S, Kyo S. **Histological and Genetic Diversity in Ovarian Mucinous Carcinomas: A Pilot Study.** Curr Oncol. **30(4)**: 4052-4059, 2023.

Ishikawa M, Nakayama K, Razia S, Yamashita H, Ishibashi T, Haraga H, Kanno K, Ishikawa N, Kyo S. **The Case of an Endometrial Cancer Patient with Breast Cancer Who Has Achieved Long-Term Survival via Letrozole Monotherapy.** Curr Issues Mol Biol. **45(4)**: 2908-2916,

2023.

Machino H, Dozen A, Konaka M, Komatsu M, Nakamura K, Ikawa N, Shozu K, Asada K, Kaneko S, Yoshida H, Kato T, Nakayama K, Saloura V, Kyo S, Hamamoto R. **Integrative analysis reveals early epigenetic alterations in high-grade serous ovarian carcinomas.** *Exp Mol Med.* **55(10):** 2205-2219, 2023.

Bando N, Nakayama N, Kashiwa K, Horike R, Fujimoto A, Egawa M, Adachi M, Saji H, Kira B, Nakayama K, Okayama A, Katayama S. **Co-existence of malnutrition and sarcopenia and its related factors in a long-term nursing care facility: A cross-sectional study.** *Heliyon.* **9(11):** e22245, 2023.

Ito K, Nakagawa M, Shimokawa M, Hori k, Tashima I, Goto m, Yanagida S, Suzuki j, Kaya r, Kawabata A, Yamada K, Park j, Nasu H, Nishio S, Kondo E, Kaneda M, Tsubamoto H, Arakawa A, Nagasawa T, Motohashi T. **Phase II study of gemcitabine, cisplatin, and bevacizumab for first recurrent and refractory ovarian clear cell carcinoma Kansai Clinical Oncology Group-G1601.** *Anti-Cancer Drugs.* **34(7):** 857-865, 2023.

Mori R, Hayakawa T, Hirayama M, Ozawa F, Yoshihara H, Goto S, Kitaori T, Ozaki Y, Sugiura-Ogasawara M. **Cervicovaginal microbiome in patients with recurrent pregnancy loss.** *J Reprod Immunol.* **157:**103944, 2023.

【和文業績】

鬼頭慧子, 後藤志信, 小笠原桜, 野村佳美, 篠田弥紀, 大谷綾乃, 吉原紘行, 伴野千尋, 澤田祐季, 北折珠央, 鈴木伸宏, 加藤佑希康, 近藤明希, 杉浦真弓. **妊娠初期に後天性 von Willebrand 症候群を呈した本態性血小板血症合併妊娠の1例.** *東海産婦人科学会雑誌.* **59:** 143-148, 2023.

加藤尚希, 尾崎康彦, 時岡礼奈, 粟生晃司, 倉本泰葉, 野々部恵, 川端俊一, 牧野明香里, 田尻佐和子, 中元永理, 荒川敦志, 西川尚実. **妊娠高血圧腎症を併発した後天性血友病合併妊娠の1例.** *東海産科婦人科学会雑誌.* **59:** 189-196, 2023.

粟生晃司, 尾崎 馨, 大谷綾乃, 鈴木伸宏, 杉浦真弓, 西川尚実, 尾崎康彦. **妊娠 24 週の超低出生体重児の帝王切開において硫酸マグネシウムとニトログリセリンを併用し低侵襲な娩出を目指した1例.** *東海産科婦人科学会雑誌.* **59:** 177-183, 2023.

吉武仙達, 後藤志信, 川村祐司, 野村佳美, 北折珠央, 鈴木伸宏, 内木 綾, 村瀬貴幸, 尾崎康彦, 杉浦真弓, 西川尚実. **双胎妊娠の1児に脳瘤を認めた1例.** *東海産科婦人科学会雑誌.* **59:** 169-175, 2023.

西本麻衣, 荒川敦志, 菅野颯, 倉本泰葉, 野々部恵, 川端俊一, 牧野明香里, 田尻佐和子, 中元永理, 西川尚実, 尾崎康彦. **外陰部に発生した Eccrine porocarcinoma の一例.** *東海産科婦人科学会雑誌.* **59:** 245-249, 2023.

鈴木奈香, 西川隆太郎, 矢野好隆, 後藤崇人, 小川紫野, 間瀬聖子, 松本洋介, 佐藤 剛, 杉浦真弓. **がん遺伝子パネル検査を利用し治療が奏功した再発子宮体癌・卵巣癌の重複癌の1例.** *東海産科婦人科学会雑誌.* **59:** 313-317, 2023.

菅野 颯, 中元永理, 西本麻衣, 倉本泰葉, 佐藤 玲, 野々部恵, 川端俊一, 牧野明香里, 田尻佐和子, 西川尚実, 尾崎康彦, 荒川敦志. **Pembrolizumab 投与で長期奏効が得られた MSI-High 子宮体癌 3 症例.** *東海産科婦人科学会雑誌.* **59:** 339-346, 2023.

杉浦真弓. **不育症の定義・頻度・原因 生殖医療の必修知識 2023 年版.** 日本生殖医学会編. 467-472, 2023.

杉浦真弓. **不育症の予防 生殖医療の必修知識 2023 年版.** 日本生殖医学会編. 506-512, 2023.

杉浦真弓, 佐藤 剛. 不妊症・不育症患者に対する着床前遺伝学的検査 日本医師会雑誌 特別号「遺伝を考える」五十嵐隆, 小杉真司, 杉浦真弓, 中金 斉, 松原洋一 編. 日本医師会雑誌 118-122, 2023.

杉浦真弓. 流産(習慣流産・不育症を含む) 今日の治療指針 2024 年版. 医学書院. 1374-1375, 2023.

杉浦真弓. 絨毛検体を用いた絨毛染色体検査 臨床検査データブック 2023-2024 高久 史麿, 黒川 清, 春日雅人, 北村 聖, 大谷宏明 編. 医学書院. 737, 2023.

杉浦真弓. 生命の誕生をめぐる先端医療 NEW エッセンシャル法医学第 6 版. 長尾正崇 編. 医歯薬出版株式会社. 466-475, 2023.

後藤志信, 鈴木伸宏. II 胎児の病態管理 F 腹壁異常 62 臍帯ヘルニア 周産期マニュアル. 南山堂. 369-374, 2023.

後藤志信, 鈴木伸宏. II 胎児の病態管理 F 腹壁異常 63 腹壁破裂 周産期マニュアル 胎児疾患の診断から管理まで. 南山堂 375-379, 2023.

吉原紘行, 杉浦真弓. 子宮奇形 - 分類と不育との関係 臨床婦人科産科. 医学書院. 77(4): 160-167, 2023.

杉浦真弓, 大須賀穰, 山本圭子, 金子佳代子. プレコンセプションケアの目指すことー 現状と課題 特集: プレコンセプションケア. 日本医師会雑誌 152: 593-603, 2023.

杉浦真弓. 今、改めて考える、流産、死産、新生児死亡 ~自然流産の原因究明と次妊 娠時への対応. 周産期医学. 53: 717-722, 2023.

杉浦真弓. 不育症の検査 特集: 生殖医療の新たな展開. Amnis. 113: 33-38, 2023.

杉浦真弓. 総論 不妊症・不育症診療の Overview. Medical Science Digest. 49: 6-9, 2023.

鈴木伸宏. NIPT の種類と原理・限界 特集: 産婦人科医のための臨床遺伝必修知識. 産 婦人科の実践. 72: 871-878, 2023.

佐藤 剛. 遺伝を考える「均衡型染色体相互転座に起因する不育症カップルの胚に対す る FISH 法での PGT-SR」. 日本医師会雑誌 152: 52-53, 2023.

北折珠央. 不育症の原因と疫学、検査と治療. メディカルサイエンスダイジェスト. 2023

熊谷恭子, 尾崎康彦. 「早産予防・治療の現在地- 最新の標準を探る: 早産予防の戦略、 子宮頸管ペッサリー」. 臨床婦人科産科. 77(8): 790-795, 2023.

中山健太郎, 山下 瞳, 京 哲. 図表・チャートでパッと理解! ここまでわかった産婦人 科の病態生理 (第 2 章) 腫瘍 子宮体がん. 産科と婦人科. 90: 174-176, 2023.

尾崎康彦. 治療法の再整理とアップデートのために、専門家による私の治療、胎位異 常・回旋異常. 日本医事新報. 5169: 52-53, 2023.

尾崎康彦, 神田里美. 「名市大医療・保健学びなおし講座 “Birth Tour”」の紹介. 東 京母性衛生学会誌. 39(1): 8-14, 2023.

野々部恵, 尾崎康彦. 吸引法による妊娠初期の流産処置 -安全・安心でこころとから だに優しい流産手術法の選択肢. 周産期医学. 53: 741-744, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	杉浦 真弓	11	7	4
准教授	佐藤 剛	1	0	1
准教授	鈴木 伸宏	3	0	3
講師	北折 珠央	5	3	2
講師	後藤 志信	5	3	2
助教	西川 隆太郎	2	1	1
助教	間瀬 聖子	1	0	1
助教	澤田 祐季	2	1	1
助教	小川 紫野	1	0	1
助教	吉原 紘行	4	3	1
助教	松本 洋介	1	0	1
助教	伴野 千尋	1	0	1

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	中山 健太郎	7	7	0
准教授	小島 和寿	0	0	0
講師	石橋 朋佳	5	5	0
助教(診療担当)	近藤 好美	0	0	0
助教(診療担当)	倉本 泰葉	3	0	3
助教(診療担当)	佐藤 玲	1	0	1

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	尾崎 康彦	8	3	5
教授	荒川 敦志	4	1	3
准教授	西川 尚実	5	0	5
助教	北舘 祐	0	0	0
助教	林 祥太郎	0	0	0
助教(診療担当)	野々部 恵	3	0	3
助教(診療担当)	加藤 尚希	1	0	1
助教(診療担当)	近藤 恵美	0	0	0
助教(診療担当)	栗生 晃司	0	0	2

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

杉浦 真弓. 文部科学省特色のある共同研究拠点の整備の推進事業～機能強化支援.
令和3年度～令和5年度、14,175千円/47,425千円

杉浦 真弓. 文部科学省科学研究費（基盤B・代表）. 令和4年度～令和7年度、3,900千円/13,390千円

杉浦 真弓. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和4年度～令和6年度、100千円

杉浦 真弓. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和5年度～令和7年度、100千円

杉浦 真弓. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和5年度～令和7年度、50千円

鈴木伸宏. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度～令和5年度、1,170千円/4,160千円

佐藤 剛. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度～令和5年度、1,430千円/4,160千円

佐藤 剛. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和4年度～令和7年度、50千円

佐藤 剛. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和4年度～令和7年度、50千円

後藤志信. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和4年度～令和6年度、1,170千円/3,900千円

小笠原桜. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和4年度～令和6年度、1,560千円/4,160千円

矢野好隆. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和5年度～令和7年度、1,820千円/4,550千円

吉原 紘行. 文部科学省科学研究費（若手研究・代表）. 令和3年度～令和6年度、390千円/4,550千円

吉原紘行. 受託研究費（AMED・代表）. 令和5年度～令和6年度、7,000千円/14,000千円

吉原紘行. 研究助成金（日東学術振興財団）. 令和5年度、300千円

吉原紘行. 研究助成金（堀科学芸術振興財団）. 令和5年度、2,000千円

吉原紘行. 研究助成金（神澤医学研究振興財団）. 令和5年度、500千円

中山健太郎. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度～令和6年度、1,300千円/4,290千円

石橋朋佳. 文部科学省科学研究費（若手研究・代表）. 令和3年度～令和5年度、

1,560千円/4,550千円

尾崎 康彦. 文部科学省科学研究費(基盤C・分担). 令和4年度～令和6年度、100千円

【その他】

国際学会発表(ポスター/口頭)

Sugiura-Ogasawara M. 6th World Congress on Recurrent Pregnancy Loss. Pregnancy outcomes among women with RPL. 2023年2月1日～4日

Goto S. 6th World Congress on Recurrent Pregnancy Loss. The role of decidua in recurrent pregnancy loss. 2023年2月1日～4日

Matsumoto Y. 6th World Congress on Recurrent Pregnancy Loss. Epigenetic mechanism in RPL. 2023年2月1日～4日

Yoshihara H. 6th World Congress on Recurrent Pregnancy Loss. Case presentation. 2023年2月1日～4日

Yoshihara H, Goto S, Kitaori T, Sugiura-Ogasawara M. 6th World Congress on Recurrent Pregnancy Loss. ANA significance in RPL. 2023年2月1日～4日

Ozaki Y, Goto S, Ozawa F, Yoshihara H, Kitaori T, Umemoto Y, Sugiura-Ogasawara M. The 1st Asian Congress for Reproductive Immunology(ACRI). Role of Calpain in Human Sperm for Fertilization. 2023年4月8日～9日

Goto S, Ozawa F, Yoshihara H, Kitaori T, Ozaki Y, Sugiura-Ogasawara M. The 1st Asian Congress for Reproductive Immunology(ACRI). Role of PROK1 in decidua of patients with unexplained recurrent pregnancy loss showing insulin hypersecretion. 2023年4月8日～9日

Tanaka T, Usami T, Ishikawa M, Kondo E, Kagabu M, Hirabayashi K, Matsumura N, Sato S, Nishimura M, Arakawa A, Nakamura K, Konno Y, Takehara K, Fujiwara S, Sueoka K, Nakamura H, Koh I, Ito K, Hongo A. European Society of Gynaecological Oncology. Retrospective re-evaluation of platinum-free interval and chemotherapeutic effect against subsequent platinum-containing chemotherapy in recurrent ovarian cancer patients initially treated by chemotherapy with bevacizumab. 2023年9月28日～10月1日

Kato N, Ozaki Y, Tajiri S, Nakamoto E, Arakawa A, Nishikawa N. The 22nd Congress of the Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies(FAOPS 2023). A case of pregnancy complicated with acquired haemophilia A and Preeclampsia. 2023年10月7日～9日

Wakimoto H, Yano H, Oshiro M, Tanaka T, Sato T, Imamine H, Iwata O, Saitoh S. The 22nd Congress of the Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies(FAOPS 2023). A Multicenter Study of Early-Onset and Late-Onset Group B Streptococcal Disease, 2017-2021. 2023年10月7日～9日

Fujiwara S, Nishie R, Ito F, Taniguchi M, Aoki M, Nakai H, Tasaki K, Yoshioka E, Hori K, Arakawa A, Koike T, Bomoto Y, Motohashi T, Ito K. Annual Global Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS 2023). A prospective cohort study of Ninjin'yoeitou for fatigue, malaise, anorexia and anemia during Olaparib treatment for patients with ovarian cancer; KCOG-G1904 study. 2023年11月5日～7日

主要な国内学会活動の参加状況

伴野千尋, 佐藤 剛, 矢野好隆, 吉原紘行, 澤田祐季, 松本洋介, 杉浦真弓. 第13回日本がん・生殖医学会学術集会. 妊孕性温存を目的とした精子凍結時の精液所見の検討. 2023年2月25日~26日

小笠原桜, 鈴森伸宏, 大谷綾乃, 澤田祐季, 後藤志信, 熊谷恭子, 武田恵利, 杉浦真弓. 第25回中部出生前医療研究会. 双胎妊婦に対してNIPTを実施した症例についての検討. 2023年3月4日

時岡礼奈, 牧野明香里, 尾崎 馨, 吉武仙達, 加藤尚希, 栗生晃司, 川村祐司, 倉本泰葉, 近藤恵美, 野々部恵, 川端俊一, 田尻佐和子, 中元永理, 西川尚実, 尾崎康彦, 間瀬聖子, 荒川敦志. 第143回東海産科婦人科学会. 漿液性子宮内膜上皮内癌 (Serous endometrial intraepithelial carcinoma:SEIC) の一例. 2023年3月11日~12日

尾崎 馨, 西川尚実, 時岡礼奈, 吉武仙達, 加藤尚希, 倉本泰葉, 栗生晃司, 野々部恵, 近藤恵美, 牧野明香里, 川端俊一, 田尻佐和子, 中元永理, 荒川敦志, 尾崎康彦. 第143回東海産科婦人科学会. 分娩後にCOVID-19陽性が判明した3症例. 2023年3月11日~12日

加藤尚希, 尾崎康彦, 野々部恵, 荒川敦志, 石川 操, 濱川 隆, 辻 恵理, 上原侑里子, 原 賢康, 西川尚実. 第143回東海産科婦人科学会. 直腸腸管重複症と鑑別困難であった卵巣膿瘍の1例. 2023年3月11日~12日

入山高行, 小笠原桜, 尾崎康彦. 第143回東海産科婦人科学会. 鉗子分娩ハンズオンセミナー. 2023年3月11日~12日

内藤麻衣, 澤田祐季, 久留宮徹, 矢野好隆, 篠田弥紀, 野村佳美, 小笠原桜, 大谷綾乃, 吉原紘行, 伴野千尋, 後藤志信, 北折珠央, 鈴森伸宏, 田中 基, 杉浦真弓. 第143回東海産科婦人科学会. 硬膜外分娩における絶食管理中の糖補液変更による分娩への影響. 2023年3月11日~12日

佐藤 玲, 近藤好美, 犬塚早紀, 倉兼さとみ, 関宏一郎, 小島和寿, 村上 勇. 第143回東海産科婦人科学会. 不妊治療目的の腹腔鏡下手術中に判明した結核性腹膜炎の1例. 2023年3月11日~12日

時岡礼奈, 牧野明香里, 中元永理, 菅野颯, 川村祐司, 野々部恵, 川端俊一, 田尻佐和子, 西川尚実, 尾崎康彦, 間瀬聖子, 石川操, 荒川敦志. 第143回東海産科婦人科学会. 漿液性子宮内膜上皮内癌の1例. 2023年3月11日~12日

北折珠央. 第31回日本医学会総会. シンポジウム: 革新的医療技術の最前線/生殖機能障害と不妊症・不育症治療の現在と未来「不育症診療の課題と展望」. 2023年4月21日

鈴森伸宏. 第75回日本産科婦人科学会学術講演会. 国内におけるNIPTの体制とその課題(イブニングセミナー). 2023年5月12日~14日

Goto S, Ozawa F, Yoshihara H, Kitaori T, Ozaki Y, Sugiura M. 第75回日本産科婦人科学会学術講演会. Role of PROK1 in decidua of patients with unexplained recurrent pregnancy loss showing insulin hypersecretion. 2023年5月12日~14日

Ozawa F, Goto S, Yoshihara H, Kitaori T, Ozaki Y, Sugiura M. 第75回日本産科婦人科学会学術講演会. Clinical significance of MMP-2 and periostin in patients with recurrent pregnancy loss. 2023年5月12日~14日

Yamashita H, Nakayama K, Ishibashi T, Ishikawa M, Seiya S, Iida K, Kyo S. 第75回日本産科婦人科学会学術講演会. Investigating the Mechanism of Resistance to PARP Inhibitors: Genetic Analysis of an Ovarian Cancer Patient with Germline BRCA1 Variant who became resistant to PARP inhibitors. 2023年5月12日～14日

加藤尚希, 尾崎康彦, 野村佳美, 川端俊一, 松本洋介, 中元永理, 荒川敦志, 西川尚実. 第75回日本産科婦人科学会学術講演会. 当施設におけるMEAの治療成績および合併症の検討. 2023年5月12日～14日

粟生晃司, 尾崎康彦, 野々部恵, 大谷綾乃, 川端俊一, 牧野明香里, 田尻佐和子, 中元永理, 鈴森伸宏, 荒川敦志, 西川尚実. 第75回日本産科婦人科学会学術講演会. 超低出生体重児の分娩においてニトログリセリンを用いた低侵襲的な帝王切開術を計画し生児を得た3症例. 2023年5月12日～14日

西川尚実, 加藤尚希, 粟生晃司, 富田泰葉, 野々部恵, 牧野明香里, 川端俊一, 田尻佐和子, 中元永理, 荒川敦志, 尾崎康彦. 第75回日本産科婦人科学会学術講演会. 当院におけるCOVID19陽性者の経膈分娩への対応の変遷. 2023年5月12日～14日

青山和史. 第75回日本産科婦人科学会学術講演会. 分娩数の増加は病院の財務状況を改善するのか～公立病院を実証的に分析する～. 2023年5月12日～14日

野村佳美, 後藤志信, 小笠原桜, 大谷綾乃, 伴野千尋, 澤田祐季, 北折珠央, 鈴森伸宏, 杉浦真弓. 第75回日本産科婦人科学会学術講演会. 当院で周産期管理した胎児18トリソミーについての検討. 2023年5月12日～14日

石川雅子, 中山健太郎, 山下 瞳, 佐藤誠也, 皆本敏子, 菅野晃輔, 中川恭子, 原賀 光, 飯田幸司, 京 哲. 第75回日本産科婦人科学会学術講演会. 妊娠初期に発見された子宮頸部細胞診異常の臨床的転帰. 2023年5月12日～14日

鈴森伸宏. 第41回愛知県母性衛生学会学術集会. 教育講演: 先進医療の中の遺伝子診断・出生前診断 2023年5月21日

絹田結香, 中井利枝, 関澤 香, 川端俊一, 富田泰葉, 西川尚実, 尾崎康彦. 第31回愛知分娩監視研究会. 鉗子分娩後の異常出血にて当院に搬送後、子宮破裂と診断された硬膜外分娩の症例. 2023年6月4日

後藤志信. 令和5年度 妊娠・授乳サポート薬剤師養成講座/第2回公開講演会. 妊娠中の女性と胎児の生理、先天異常について. 2023年6月4日

鈴森伸宏. IBSセミナー. 染色体・神経疾患の着床前診断・出生前診断について. 2023年6月6日

北折珠央. 名古屋市立大学連携講座. 女性ホルモンとカラダの変化. 2023年6月13日

澤田祐季, 佐藤 剛, 矢野好隆, 吉原紘行, 伴野千尋, 松本洋介, 後藤志信, 北折珠央, 鈴森伸宏, 尾崎康彦, 杉浦真弓. 第44回中部生殖医学会学術集会. 不育症に不妊症を合併した症例の検討. 2023年6月17日

成田明日香, 野々部恵, 吉金智子, 時岡礼奈, 吉武仙達, 加藤尚希, 粟生晃司, 近藤恵美, 林祥太郎, 川端俊一, 牧野明香里, 田尻佐和子, 中元永理, 荒川敦志, 尾崎康彦, 西川尚実. 第117回愛知県産科婦人科学会学術講演会. 当院で経験した子宮動脈塞栓術(UAE)後の妊娠例についての検討. 2023年7月1日

熊谷円香, 小笠原桜, 足尾 陽, 澤田祐季, 後藤志信, 北折珠央, 鈴森伸宏, 杉浦真弓. 第117回愛知県産科婦人科学会学術講演会. 硬膜外麻酔下に子宮破裂を生じ診断に苦慮した一例. 2023年7月1日

村上真凧, 内村優太, 高木佳苗, 川合政輝, 足尾 陽, 矢野好隆, 野村佳美, 小笠原桜, 大谷綾乃, 伴野千尋, 澤田祐季, 後藤志信, 北折珠央, 鈴森伸宏, 杉浦真弓. 第117回

愛知県産科婦人科学会学術講演会. 産褥期に重症の急性膵炎を来した1例. 2023年7月1日

鈴森伸宏. 第59回日本周産期・新生児医学会学術集会. 出生前検査を考えると き シンポジウム「改めて考える出生前診断」. 2023年7月9日～11日

足尾 陽, 柴田茉里, 松川 泰, 熊谷恭子, 木村直美, 大谷綾乃, 後藤志信, 鈴森伸宏, 杉浦真弓. 第59回日本周産期・新生児医学会学術集会. 臍帯嚢胞と臍帯浮腫を併発した胎児尿膜遺残の一例. 2023年7月9日～11日

篠田弥紀, 後藤志信, 内村優太, 小笠原桜, 野村佳美, 大谷綾乃, 伴野千尋, 澤田祐季, 北折珠央, 鈴森伸宏, 田中 基, 杉浦真弓. 第59回日本周産期・新生児医学会学術集会. 硬膜外分娩を選択した女性の産後うつ病リスクの評価. 2023年7月9日～11日

小笠原桜, 北折珠央, 篠田弥紀, 野村佳美, 大谷綾乃, 後藤志信, 鈴森伸宏, 杉浦真弓. 第59回日本周産期・新生児医学会学術集会. 当院で分娩した45歳以上の高年妊婦における周産期予後の検討. 2023年7月9日～11日

深谷聡子, 加藤 晋, 鈴木智子, 花井知奈美, 津田兼之介, 岩田幸子, 岩田欧介, 齋藤伸治, 吉原紘行, 後藤志信, 北折珠央, 鈴森伸宏. 第59回日本周産期・新生児医学会学術集会. 免疫性血小板減少症 (NAIT) 既往母体に対する分娩前抗体検査の意義. 2023年7月9日～11日

田尻佐和子, 加藤尚希, 粟生晃司, 野々部恵, 川端俊一, 中元永理, 西川尚実, 尾崎康彦. 第59回日本周産期・新生児医学会学術集会. 妊娠・授乳関連骨粗鬆症に対して断乳せず薬物療法を行い、次子の周産期管理をした一例. 2023年7月9日～11日

川端俊一, 西川尚実, 加藤尚希, 粟生晃司, 野々部恵, 田尻佐和子, 中元永理, 谷村知繁, 小林 悟, 山本和之, 鈴木啓二, 後藤玄夫, 尾崎康彦. 第59回日本周産期・新生児医学会学術集会. 1絨毛膜2羊膜双胎の1児に完全内蔵逆位を認めた1例. 2023年7月9日～11日

中川恭子, 皆本敏子, 石橋朋佳, 石川雅子, 折出亜希, 原賀 光, 金崎春彦, 中山健太郎, 京 哲. 第59回日本周産期・新生児医学会学術集会. 疾患の受容が困難であった5p欠損症候群の一例. 2023年7月9日～11日

原賀 光, 皆本敏子, 中川恭子, 石橋朋佳, 石川雅子, 折出亜希, 中山健太郎, 金崎春彦, 京 哲. 第59回日本周産期・新生児医学会学術集会. 母体搬送における当院での産科・救急医の連携体制. 2023年7月9日～11日

加嶋洋子, 中井英勝, 望月亜矢子, 平嶋泰之, 勝田隆博, 西尾 真, 吉岡恵美, 竹中基記, 奈須家栄, 藤原聡枝, 寄木香織, 森 泰輔, 金田倫子, 近藤英司, 荒川敦志, 長野浩明, 松村謙臣, 伊藤公彦. 第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 婦人科悪性腫瘍におけるMSI-high腫瘍についての多施設共同研究. 2023年7月14日～16日

西江瑠璃, 藤原聡枝, 伊東史学, 谷口真紀子, 青木稚人, 中井英勝, 松村謙臣, 田崎和人, 西尾 真, 吉岡恵美, 堀 謙輔, 荒川敦志, 小池大我, 坊本佳優, 早崎 容, 本橋 卓, 伊藤公彦. 第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 卵巣癌に対するオラパリブ使用時に発現する疲労・倦怠感・食欲不振・貧血における人参養栄湯の効果についての前向き観察研究: KCOG-G1904 study. 2023年7月14日～16日

田中圭紀, 宇佐美知香, 石川雅子, 近藤英司, 利部正裕, 平林 啓, 松村謙臣, 佐藤慎也, 西村正人, 荒川敦志, 中村圭一郎, 金野陽輔, 竹原和宏, 藤原聡枝, 末岡幸太郎, 中村紘子, 古宇家正, 伊藤公彦, 本郷淳司. 第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. Bevacizumab併用化学療法後の再発卵巣癌のプラチナ製剤free期間と化学療法効果の後方視的再検討. 2023年7月14日～16日

中山健太郎, 石橋朋佳, 石川雅子, 山下 瞳, 菅野晃輔, 島田愛里香, 中川恭子, 原賀光, スルタナ・ラジア, ソヘル・ハシブル・イスラム, 清野 透, 京 哲. 第65回日本

婦人科腫瘍学会学術講演会. シンポジウム: 婦人科発癌の謎に迫る～ここまでわかった分子機序「in vitro 発癌モデルを駆使した卵巣癌発生機構の再検証」. 2023年7月14日～16日

菅野晃輔, 中山健太郎, 島田愛里香, 原賀 光, 中川恭子, 石川雅子, 石橋朋佳, 山下瞳, スルタナ・ラジア, 佐藤誠也, 京 哲. 第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 子宮内膜症上皮細胞におけるがん遺伝子変異の臨床・生物学的意義の検討. 2023年7月14日～16日

石川雅子, 中山健太郎, 山下 瞳, 石橋朋佳, 京 哲. 第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 極めて急速な経過をたどった, 若年発症 HPV 非依存性扁平上皮癌の2例. 2023年7月14日～16日

中川恭子, 中山健太郎, 石川雅子, 山下 瞳, 石橋朋佳, 京 哲. 第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 病理診断に苦慮した若年性卵巣癌の1例. 2023年7月14日～16日

石川雅子, 中山健太郎, 澤田希代加, 山下 瞳, 石橋朋佳, 京 哲. 第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 境界悪性腫瘍, 悪性腫瘍の診断に難渋した若年性巨大卵巣腫瘍の1例. 2023年7月14日～16日

山下 瞳, 中山健太郎, 石橋朋佳, 石川雅子, 飯田幸司, スルタナ・ラジア, 京 哲. 第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. PARP 阻害剤耐性のメカニズム解明 生殖系列BRCA1 変異を有する卵巣癌患者の遺伝子解析 (Investigating the Mechanism of Resistance to PARP Inhibitors: Genetic Analysis of an Ovarian Cancer Patient with Germline BRCA1 Variant). 2023年7月14日～16日

原賀 光, 石川雅子, 山下 瞳, 石橋朋佳, 中山健太郎, 京 哲. 第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 当科におけるレンバチニブ, ペムブロリズマブ治療の現状. 2023年7月14日～16日

杉浦真弓. 第5回日本不育症学会学術集会. 教育セミナー: 不育症のGenetics. 2023年7月15日～16日

後藤志信. 第5回日本不育症学会学術集会. シンポジウム1: 不育・不妊症における凝固異常と抗リン脂質抗体「不育症におけるThrombophilia」. 2023年7月15日～16日

後藤崇人, 後藤志信, 小澤史子, 吉原紘行, 北折珠央, 小村正行, 高橋 智, 尾崎康彦, 杉浦真弓. 第5回日本不育症学会学術集会. 慢性子宮脱落膜炎(Chronic diciduitis)の不育症への関与. 2023年7月15日～16日

大谷綾乃, 小笠原桜, 伴野千尋, 後藤志信, 北折珠央, 杉浦真弓. 第5回日本不育症学会学術集会. 「子供の健康と環境に関する全国調査」による既往流産回数と体外受精の有無と分娩前後の母体の抑うつとの関連についての検討. 2023年7月15日～16日

杉浦真弓. 第335回青森県臨床産婦人科医会. 特別講演: 不育症のOverview. 2023年7月22日

中山健太郎. 三重大学セミナー講演. 婦人科癌と代謝栄養学. 2023年7月27日

小澤史子, 後藤志信, 杉浦真弓, 尾崎康彦. 第28回日本病態プロテアーゼ学会学術集会. シンポジウム: MMP を介した病態・診断・治療「不育症病態におけるMMPの存在と意義」. 2023年8月25日～26日

後藤志信, 小澤史子, 北折珠央, 杉浦真弓, 尾崎康彦. 第28回日本病態プロテアーゼ学会学術集会. インスリン抵抗性を示す原因不明不育症患者の脱落膜組織におけるPROK1, IGFBP-1, Calpain7の役割. 2023年8月25日～26日

青山和史, 熊谷恭子, 尾崎康彦. 名市大医療・保健学びなおし講座. 名市大医療・保健学びなおし講座, Birth Tour 2023 -安全・安心はお産を目指して!-. 2023年9月7日

日～12月21日

尾崎康彦. 骨盤位分娩ハンズオンセミナー、鉗子分娩ハンズオンセミナー. 第3回気仙三陸ALSOプロバイダーコース. 2023年9月9日～10日

後藤崇人, 間瀬聖子, 小川紫野, 篠田弥紀, 塩澤文子, 内藤麻衣, 浅井大策, 熊谷円香, 西川隆太郎. 第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会. 悪性腫瘍と術前診断された虫垂内膜炎の一例. 2023年9月16日

佐藤 玲, 近藤好美, 倉本泰葉, 石橋朋佳, 倉兼さとみ, 関宏一郎, 小島和寿, 村上 勇, 中山健太郎. 第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会. 大量血性腹水貯留を認め審査腹腔鏡を行い子宮内膜症と診断した1例. 2023年9月16日

原賀 光, 皆本敏子, 榎原 貫, 中川恭子, 岡田裕枝, 山下 瞳, 石橋朋佳, 折出亜希, 中山健太郎, 金崎春彦, 京 哲. 第75回中国四国産婦人科学会. 母体搬送における当院での産科・救急医の連携体制. 2023年9月18日

菅野晃輔, 中山健太郎, 榎原 貫, 原賀 光, 中川恭子, 山下 瞳, 石橋朋佳, 石川雅子, 京 哲. 第75回中国四国産婦人科学会. 子宮内膜症上皮細胞における癌遺伝子変異の臨床、生物学的意義について. 2023年9月18日

青山和史, 尾崎康彦. 名市大医療・保健学びなおし講座. Birth Tour 2023 -安全・安心なお産を目指して- “いい感じを目指して” 胎児心拍数モニタリングを極める!. 2023年9月21日

鈴森伸宏. トヨタ記念病院ゲノム医療講演会. 生殖・周産期の遺伝カウンセリング. 2023年9月22日

久保田 淳, 田尻佐和子, 山根佑基, 荒川耕平, 梶 昭太, 渡邊久美子, 西川尚実, 尾崎康彦, 荒川敦志, 今枝憲郎. 第97回日本糖尿病学会中部地方会. 型糖尿病合併妊娠の分娩後にケトアシトシスと大腸菌による菌血症を合併した1例. 2023年9月23日～24日

尾崎康彦, 梅本幸裕. 県民公開講座、医療従事者による健康応援フェスタ COLORFUL 彩. ペアで取り組む不妊症治療. 2023年9月24日

尾崎康彦, 梅本幸裕. 第55回日本臨床分子形態学会. シンポジウム3: 婦人科癌研究の温故知新「in vitro 発癌モデルを用いた卵巣癌発生機構の解明」. 2023年9月30日

Kumagai K, Suzumori N, Takeda E, Goto S, Otani A, Taguchi I, Yamaoka K, Sato R, Tanabe A, Sugiura M. 第68回日本人類遺伝学会大会. Transitions of background for non-invasive perinatal testing; a single center analysis. 2023年10月11日～14日

片岡千鶴, 金澤由紀子, 長屋里美, 間辺利江, 尾崎康彦, 小坂崇之. 第64回日本母性衛生学会総会・学術集会. 妊娠中の「胎動」と「妊婦のこころ」の変化とその関連についての検討: 母親の寄り添った保健指導を目指して. 2023年10月13日～14日

高木佳苗, 塩澤文子, 村上真風, 浅井大策, 後藤崇人, 篠田弥紀, 小川紫野, 間瀬聖子, 松本洋介, 西川隆太郎, 佐藤 剛, 杉浦真弓. 第118回愛知産科婦人科学会学術講演会. 再発子宮頸癌に対するペムプロリズム単独療法中に発症した劇症1型糖尿病の1例. 2023年10月14日

川合政輝, 足尾 陽, 熊谷円香, 内村優太, 野村佳美, 小笠原桜, 大谷綾乃, 伴野千尋, 澤田裕季, 後藤志信, 北折珠央, 鈴森伸宏, 杉浦真弓. 第118回愛知産科婦人科学会学術講演会. 分娩後に可逆性脳血管攣縮症候群を発症した一例. 2023年10月14日

倉本泰葉, 小島和寿, 近藤好美, 佐藤 玲, 石橋朋佳, 倉兼さとみ, 関宏一郎, 小久保佳真, 廣島希彦, 村上 勇, 中山健太郎. 第118回愛知産科婦人科学会学術講演会. CT

ガイド下ドレナージで寛解した癒着防止材に起因する化学性腹膜炎と考えられた 1 例。
2023 年 10 月 14 日

鈴森伸宏. 日本人類遺伝学会第 67 回大会. NIPT の有用性と展望 教育プログラム.
2023 年 10 月 14 日～17 日

Takeda E, Suzumori N, Kumagai K, Taguchi I, Yamaoka K, Sato R, Tanabe A, Goto S, Otani A, Sugiura M. 日本人類遺伝学会第 67 回大会. Factors associated with high mental stress of pregnant women undergoing NIPT and changes after genetic counseling. 2023 年 10 月 14 日～17 日

Kumagai K, Suzumori N, Takeda E, Goto S, Otani A, Taguchi I, Yamaoka K, Sato R, Tanabe A, Sugiura M. 日本人類遺伝学会第 67 回大会. Transitions of background for non-invasive perinatal testing; a single center analysis. 2023 年 10 月 14 日～17 日

尾崎康彦. 札幌 ALSO プロバイダーコース 2023 秋. 鉗子分娩ハンズオンセミナー(web 開催). 2023 年 10 月 14 日～15 日

北折珠央. イルミナ・アドバイザーセミナー. NIPT の現況と未来. 2023 年 10 月 15 日

鈴森伸宏. 女性の健康フェスタ 2023. 更年期のココロとカラダ. 2023 年 10 月 15 日

青山和史, 伊藤雄二. 第 8 回 ALSO-Japan 学術集会. コマンド&コントロールを実践するための準備. 2023 年 10 月 28 日

尾崎康彦. 市立恵那病院 ALSO プロバイダーコース. 鉗子分娩ハンズオンセミナー. 2023 年 10 月 21 日～22 日

佐藤 剛. 第 39 回名古屋市立大学薬学部卒業後教育講座. 不妊症の診断と治療 ～新しい命の誕生と家族の幸せのために. 2023 年 10 月 22 日

間瀬聖子, 矢野好隆, 塩澤文子, 後藤崇人, 篠田弥紀, 小川紫野, 西川隆太郎, 杉浦真弓. 第 23 回東海産婦人科内視鏡研究会学術講演会. ストによる子宮内膜破綻出血のため緊急でマイクロ波子宮内膜焼灼術 (MEA) を施行した 1 例. 2023 年 10 月 28 日

佐藤 剛. 名古屋市総務局令和 5 年度イクボス育成講演会. 不妊症診療の実際と心身への影響 ～新しい家族の誕生を目指しながら働き続けられる職場づくり～. 2023 年 11 月 1 日

松本洋介, 佐藤 剛, 矢野好隆, 吉原紘行, 澤田祐季, 伴野千尋, 杉浦真弓. 第 68 回日本生殖医学会学術講演会・総会. 妊孕性温存を目的とした精子凍結時の精液所見の検討. 2023 年 11 月 9 日～10 日

小澤史子, 後藤志信, 吉原紘行, 北折珠央, 杉浦真弓, 尾崎康彦. 第 38 回日本生殖免疫学会学術集会. 不育症病態における MMP-2 および Periostin の存在と意義. 2023 年 11 月 24 日

北折珠央, 佐藤 剛, 後藤崇人, 西川隆太郎, 杉浦真弓, 佐藤秀吉, 鳥山和宏. 第 38 回日本女性医学学会学術集会. 先天性膈欠損症に対して組織代用人工繊維布と口蓋粘膜を用いて腹腔鏡・子宮鏡補助下造膈術と子宮口形成術を施行した 1 例. 2023 年 12 月 2 日

小笠原桜. 第 127 回日本産科麻酔学会学術集会. シンポジウム 2 教育委員会特別企画: 産後のマイナートラブル これって無痛分娩のせいですか?. 2023 年 12 月 2 日

加藤順子, 尾崎康彦, 田中 基, 堀田祐志, 近藤勝弘, 杉浦真弓, 祖父江和哉, 日比陽子. 第 127 回日本産科麻酔学会学術集会. 安全な硬膜外分娩の実施に向けた薬剤師に

よる取り組み. 2023年12月2日

絹田結香, 関澤 香, 川端俊一, 富田泰葉, 西川尚実, 尾崎康彦, 草間宣好, 笹野信子, 田中 基. 第127回日本産科麻酔学会学術集会. 周産期センターにおける硬膜外分娩取扱施設としての役割. 2023年12月2日

佐藤 剛. 第74回名古屋市立大学医学会総会. 特別講演Ⅲ: ヒト着床前胚の遺伝学的情報の解析. 2023年12月3日

青山和史, 尾崎康彦. 令和5年救急救命士養成教育講座. 産婦人科・周産期疾患に係る講義 周産期の出血. 2023年12月11日

北折珠央. 第8回日本不育症学会認定医講習会. 不育症について ~初級者編~. 2023年12月13日~25日

鈴森伸宏. 第9回日本産科婦人科遺伝診療学会. 周産期講義: 高年妊娠における対応. 2023年12月16日

浜之上はるか, 鈴森伸宏, 植木有紗, 三宅秀彦, 澤井英明. 第9回日本産科婦人科遺伝診療学会. 性分化異常症における遺伝カウンセリング ロールプレイ研修会. 2023年12月16日

大谷綾乃, 鈴森伸宏, 熊谷恭子, 後藤志信, 杉浦真弓. 第9回日本産科婦人科遺伝診療学会. 胎児水頭症と関節拘縮でフォローし出生後に魚鱗癬症候群と判明した一例. 2023年12月16日

主要な国内学会活動の参加状況

杉浦真弓. 日本不育症学会. 理事長

杉浦真弓. 日本産科婦人科学会. 理事、PGD小委員会委員

杉浦真弓. 日本生殖医学会. 理事

杉浦真弓. 日本生殖免疫学会. 理事

杉浦真弓. 日本産婦人科・新生児血液学会. 理事

杉浦真弓. 日本産科婦人科遺伝診療学会. 理事

杉浦真弓. 日本母性衛生学会. 理事

佐藤 剛. 日本産科婦人科学会. 代議員

佐藤 剛. 日本生殖医学会. 代議員、中部ブロック幹事

佐藤 剛. 中部生殖医学会定. 款評議員、幹事

尾崎康彦. 日本産科婦人科学会. 代議員

尾崎康彦. 日本病態プロテアーゼ学会. 理事長

尾崎康彦. 日本生殖免疫学会. 評議員

<研究活動実績>

【欧文業績】

Shimozato A, Ohashi K, Saitoh S. **Two case reports of extended-release guanfacine overdose in children.** *Pediatr Int.* **65(1)**: e15424, 2023.

Suzuki T, Ito Y, Ito T, Kidokoro H, Noritake K, Tsujimura K, Saitoh S, Yamamoto H, Ochi N, Ishihara N, Yasui I, Sugiura H, Nakata T, Natsume J. **Pathological gait in Rett syndrome: Quantitative evaluation using three-dimensional gait analysis.** *Eur J Paediatr Neurol.* **42**: 15-21, 2023.

Inoue Y, Tsuchida N, Okamoto N, Shuichi S, Ohashi K, Saitoh S, Ogawa A, Hamada K, Sakamoto M, Miyake N, Hamanaka K, Fujita A, Koshimizu E, Miyatake S, Mizuguchi T, Ogata K, Uchiyama Y, Matsumoto N. **Three KINSSHIP syndrome patients with mosaic and germline AFF3 variants.** *Clin Genet.* **103(5)**: 590-595, 2023.

Mohanto NC, Ito Y, Kato S, Ebara T, Kaneko K, Tsuchiyama T, Sugiura-Ogasawara M, Saitoh S, Kamijima M. **Quantitative Measurement of Phthalate Exposure Biomarker Levels in Diaper-Extracted Urine of Japanese Toddlers and Cumulative Risk Assessment: An Adjunct Study of JECS Birth Cohort.** *Environ Sci Technol.* **57(1)**: 395-404, 2023.

Nagai Y, Mizutani Y, Nomura K, Uemura O, Saitoh S, Iwata O. **Autistic traits of children born very preterm assessed using Autism Diagnostic Observation Schedule, Second Edition.** *Early Hum Dev.* **176**: 105716, 2023.

Nishikawa R, Sugiura-Ogasawara M, Ebara T, Matsuki T, Tamada H, Kato S, Kaneko K, Saitoh S, Kamijima M; **Japan Environment and Children's Study Group.** **Adverse pregnancy outcomes of cancer survivors and infectious disease in their infants: The Japan Environment and Children's Study.** *Oncol Lett.* **25(3)**: 100, 2023.

Fujimoto M, Nakamura Y, Iwaki T, Sato E, Ieda D, Hattori A, Shiraki A, Mizuno S, Saitoh S. **Angelman syndrome with mosaic paternal uniparental disomy suggestive of mitotic nondisjunction.** *J Hum Genet.* **68(2)**: 87-90, 2023.

Yoshida A, Aoyama K, Yamaguchi N, Suzuki A, Mizuno H, Tada H, Saitoh S. **An infant with a heterozygous variant of ABCG5 presented with hypercholesterolemia only during breastfeeding.** *Clin Pediatr Endocrinol.* **32(2)**: 114-118, 2023.

Nakahara E, Yamamoto KS, Ogura H, Aoki T, Utsugisawa T, Azuma K, Akagawa H, Watanabe K, Muraoka M, Nakamura F, Kamei M, Tatebayashi K, Shinozuka J, Yamane T, Hibino M, Katsura Y, Nakano-Akamatsu S, Kadowaki N, Maru Y, Ito E, Ohga S, Yagasaki H, Morioka I, Yamamoto T, Kanno H. **Variant spectrum of PIEZO1 and KCNN4 in Japanese patients with dehydrated hereditary stomatocytosis.** *Hum Genome Var.* **10(1)**:8, 2023.

Imai K, Aoyama K, Goto T, Kitaori T, Iguchi T, Sasano H, Hattori T, Sugiura-Ogasawara M, Saitoh S. **Hematocolpos due to lower vaginal agenesis in an adolescent girl.** *Acute Med Surg.* **10(1)**: e832, 2023.

Aoki H, Shibasaki J, Tsuda K, Yamamoto K, Takeuchi A, Sugiyama Y, Isayama T, Mukai T, Ioroi T, Yutaka N, Takahashi A, Tokuhisa T, Nabetani M, Iwata O; Baby Cooling Registry of Japan Collaboration Team. **Predictive value of the Thompson score for short-term adverse outcomes in neonatal encephalopathy.** *Pediatr Res.* **93(4)**: 1057-1063, 2023.

Yoshida A, Kaneko K, Aoyama K, Yamaguchi N, Suzuki A, Kato S, Ebara T, Sugiura-Ogasawara M, Kamijima M, Saitoh S, **The Japan Environment And Children's Study Group.** **Relationship between Birth Order and Postnatal Growth until 4 Years of Age: The**

Japan Environment and Children's Study. Children (Basel). **10(3)**: 557, 2023.

Nakaoka A, Nomura T, Ozeki K, Suzuki T, Kusumoto S, Iida S, Saitoh S. **Two cases of transplant-acquired food allergy who developed re-sensitization after a negative oral food challenge.** Allergy Asthma Clin Immunol. **19(1)**: 24, 2023.

Miyake N, Tsurusaki Y, Fukai R, Kushima I, Okamoto N, Ohashi K, Nakamura K, Hashimoto R, Hiraki Y, Son S, Kato M, Sakai Y, Osaka H, Deguchi K, Matsuishi T, Takeshita S, Fattal-Valevski A, Ekhilevitch N, Tohyama J, Yap P, Keng WT, Kobayashi H, Takubo K, Okada T, Saitoh S, Yasuda Y, Murai T, Nakamura K, Ohga S, Matsumoto A, Inoue K, Saikusa T, Hershkovitz T, Kobayashi Y, Morikawa M, Ito A, Hara T, Uno Y, Seiwa C, Ishizuka K, Shirahata E, Fujita A, Koshimizu E, Miyatake S, Takata A, Mizuguchi T, Ozaki N, Matsumoto N. **Molecular diagnosis of 405 individuals with autism spectrum disorder.** Eur J Hum Genet. Epub ahead of print, 2023.

Otsuji S, Nishio Y, Tsujita M, Rio M, Huber C, Antón-Plágaro C, Mizuno S, Kawano Y, Miyatake S, Simon M, van Binsbergen E, van Jaarsveld RH, Matsumoto N, Cormier-Daire V, J Cullen P, Saitoh S, Kato K. **Clinical diversity and molecular mechanism of VPS35L-associated Ritscher-Schinzel syndrome.** J Med Genet. **60(4)**: 359-367, 2023.

Mizuochi T, Iwama I, Inui A, Ito Y, Takaki Y, Mushiake S, Tokuhara D, Ishige T, Ito K, Murakami J, Hishiki H, Mikami H, Bessho K, Kato K, Yasuda R, Yamashita Y, Tanaka Y, Tajiri H. **Real-world efficacy and safety of glecaprevir/pibrentasvir in Japanese adolescents with chronic hepatitis C: a prospective multicenter study.** J Gastroenterol. **58(4)**: 405-412, 2023.

Healy MD, McNally KE, Butkovič R, Chilton M, Kato K, Sacharz J, McConville C, Moody ERR, Shaw S, Planelles-Herrero VJ, Yadav SKN, Ross J, Borucu U, Palmer CS, Chen KE, Croll TI, Hall RJ, Caruana NJ, Ghai R, Nguyen THD, Heesom KJ, Saitoh S, Berger I, Schaffitzel C, Williams TA, Stroud DA, Derivery E, Collins BM, Cullen PJ. **Structure of the endosomal Commander complex linked to Ritscher-Schinzel syndrome.** Cell. **186(10)**: 2219-2237.e29, 2023.

Hisano T, Okada J, Tsuda K, Iwata S, Saitoh S, Iwata O. **Control variables of serum ferritin concentrations in hospitalized newborn infants: an observational study.** Sci Rep. **13(1)**: 8424, 2023.

Chiyoda H, Kobayashi S, Yokoi K, Iwata O, Katano H. **Acquired hydrocephalus following hypoxic ischemic encephalopathy without intraventricular hemorrhage: A case report.** J Neonatal Perinatal Med. **16(3)**: 569-571, 2023.

Fujimoto HM, Fujimoto M, Sugiura T, Nakane S, Wakano Y, Sato E, Oshita H, Togawa Y, Sugimoto M, Kato T, Yasuda K, Muramatsu K, Saitoh S. **Novel SPEG variants in a neonate with severe dilated cardiomyopathy and relatively mild hypotonia.** Hum Genome Var. **10(1)**:24, 2023.

Nishio Y, Kato K, Tran Mau-Them F, Futagawa H, Quélin C, Masuda S, Vitobello A, Otsuji S, Shawki HH, Oishi H, Thauvin-Robinet C, Takenouchi T, Kosaki K, Takahashi Y, Saitoh S. **Gain-of-function MYCN causes a megalencephaly-polydactyly syndrome manifesting mirror phenotypes of Feingold syndrome.** HGG Adv. **4(4)**: 100238, 2023.

Kato K, Umetsu S, Togawa T, Ito K, Kawabata T, Arinaga-Hino T, Tsumura N, Yasuda R, Mihara Y, Kusano H, Ito S, Imagawa K, Hayashi H, Inui A, Yamashita Y, Mizuochi T. **Clinicopathologic Features, Genetics, Treatment, and Long-Term Outcomes in Japanese Children and Young Adults with Benign Recurrent Intrahepatic Cholestasis: A Multicenter Study.** J Clin Med. **12(18)**: 5979, 2023.

Go K, Horiba K, Yamamoto H, Morimoto Y, Fukasawa Y, Ohashi N, Yasuda K, Ishikawa Y, Kuraishi K, Suzuki K, Ito Y, Takahashi Y, Kato T. **Dysbiosis of gut microbiota in patients with protein-losing enteropathy after the Fontan procedure.** Int J Cardiol. **396**: 131554, 2023.

Tsuda K, Shibasaki J, Takeuchi A, Mukai T, Sugiyama Y, Isayama T, Ioroi T, Takahashi A, Yutaka N, Iwata O; Baby Cooling Registry of Japan. **Prolonged requirements for mechanical ventilation and tube feeding support predicted 18-month outcomes for neonatal encephalopathy.** *Acta Paediatr.* **112(4)**:734-741, 2023.

Kato S, Iwata O, Kato H, Fukaya S, Imai Y, Saitoh S. **Furin Regulates the Alveolarization of Neonatal Lungs in a Mouse Model of Hyperoxic Lung Injury.** *Biomolecules.* **13(11)**: 1656, 2023.

Numaguchi A, Ishii A, Natsume J, Saitoh S, Aoki Y, Yoshikawa T, Isobe I, Okumura A, Seno H, Takahashi Y. **Medical records as screening tools for child death review in Japan.** *Pediatr Int.* **65(1)**: e15692, 2023.

Yokoi K, Iwata O, Kobayashi S, Jinnou H, Kato S, Saitoh S, Goto H. **Intrauterine Inflammation, Excessive Fetal Growth and Respiratory Morbidities in Moderate-To-Late Preterm Neonates.** *Neonatology.* **121(2)**: 258-265, 2023.

【和文業績】

伊藤 孝一, 武田 理沙, 戸川 貴夫, 杉浦 時雄, 齋藤 伸治. **B型肝炎ワクチン接種後の一過性HBs抗原血症.** *日本小児科学会雑誌.* **127(5)**: 720-724, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	齋藤伸治	21	20(9)	1
准教授	岩田欧介	7	7(3)	0
講師	野村孝泰	1	1(1)	0
助教	鈴木一孝	1	1	0
助教	神農英雄	1	1	0
助教	亀井美智	1	1	0
助教	篠原務	0	0	0
助教	津田兼之介	3	3(1)	0
助教	根岸豊	0	0	0
助教	青山幸平	3	3(2)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
准教授	服部文子	1	1	0
講師	遠藤剛	0	0	0
講師	伊藤孝一	3	2	1(1)
助教	武内温子	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	伊藤康彦	0	0	0
准教授	濱嶋直樹	0	0	0
准教授	加藤丈典	1	1	0
准教授	神岡直美	0	0	0
講師	小林悟	2	2(1)	0
講師	横井暁子	2	2(1)	0
助教	中垣麻里	0	0	0
助教	吉田悟	0	0	0
助教	中村泰久	0	0	0
助教	春日部こずえ	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

- ・齋藤 伸治. 文部科学省科学研究費(基盤 C・分担). 令和 5 年度-令和 7 年度、300 千円
- ・齋藤 伸治. 文部科学省科学研究費(基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 6 年度、100 千円
- ・齋藤 伸治. 文部科学省科学研究費(基盤 S・分担). 令和 2 年度-令和 6 年度、300 千円
- ・齋藤 伸治. 文部科学省科学研究費(基盤 B・代表). 令和 2 年度-令和 5 年度、1,600 千円/9,700 千円

- ・齋藤 伸治. 受託研究費(AMED・分担). 令和 5 年度、4,000 千円
- ・齋藤 伸治. 受託研究費(AMED・分担). 令和 5 年度、1,000 千円
- ・齋藤 伸治. 受託研究費(AMED・分担). 令和 5 年度、2,000 千円
- ・齋藤 伸治. 受託研究費(AMED・代表). 令和 5 年度、10,000 千円
- ・齋藤 伸治. 受託研究費(AMED・分担). 令和 5 年度、1,600 千円
- ・齋藤 伸治. 受託研究費(AMED・分担). 令和 5 年度、1,000 千円
- ・齋藤 伸治. 受託研究費(AMED・分担). 令和 5 年度、4,000 千円
- ・齋藤 伸治. 受託研究費(AMED・分担). 令和 5 年度、1,000 千円

- ・齋藤 伸治. 厚生労働省科学研究費(分担). 令和 5 年度、800 千円
- ・齋藤 伸治. 厚生労働省科学研究費(代表). 令和 4 年度-令和 5 年度、1,300 千円

- ・齋藤 伸治. 治験研究費(武田薬品). 令和 5 年度-令和 8 年度、33,000 円
- ・齋藤 伸治. 治験研究費(バイエル薬品). 令和 3 年度-令和 5 年度、44,000 円
- ・齋藤 伸治. 治験研究費(公益財団法人かずさ DNA 研究所). 令和 2 年度-令和 7 年度、186,190 円
- ・齋藤 伸治. 治験研究費(ノーベルファーマ株式会社). 令和 2 年度-令和 4 年度、22,000 円
- ・齋藤 伸治. 治験研究費(バイエル薬品). 平成 30 年度-令和 5 年度、22,000 円
- ・齋藤 伸治. 治験研究費(アレクシオンファーマ株式会社). 平成 29-令和 7 年度、66,000 円

- ・岩田 欧介. 文部科学省科学研究費(基盤 A・代表). 令和 5 年度、1,850 千円
- ・岩田 欧介. 文部科学省科学研究費(基盤 B・分担). 令和 5 年度-令和 8 年度、300 千円
- ・岩田 欧介. 受託研究費(JST・代表). 令和 5 年度、5,000 千円
- ・岩田 欧介. 受託研究費(AMED・分担). 令和 5 年度、250 千円
- ・岩田 欧介. 受託研究費(JST・代表). 令和 4 年度-令和 5 年度、3,700 千円

- ・亀井 美智. 受託研究費(AMED・分担). 令和 5 年度、200 千円
- ・亀井 美智. 研究助成金(マルホ株式会社). 令和 5 年度、252 千円
- ・亀井 美智. 受託研究費(AMED・分担). 令和 5 年度-令和 7 年度、550 千円
- ・亀井 美智. 文部科学省科学研究費(基盤 C・代表). 令和 3 年度-令和 6 年度、1,140 千円/2,690 千円

- ・野村 孝泰. 研究助成金(公益財団法人ニッポンハム食の未来財団). 令和 5 年度、1,680 千円

- ・青山 幸平. 文部科学省科学研究費(基盤 C・代表). 令和 5 年度-令和 7 年度、1400 千円/2,600 千円
- ・青山 幸平. 受託研究費(株式会社リニカル). 令和 4 年度-令和 5 年度、25,385 円

- ・津田 兼之介. 研究助成金(公益財団法人 日東学術振興財団). 令和 5 年度-令和 6 年度、500 千円
- ・津田 兼之介. 研究助成金(公益財団法人 母子健康協会). 令和 5 年度-令和 7 年度、1,400 千円

- ・篠原 務. 研究助成金(公益財団法人 川野小児医学奨学財団). 令和5年度、1,500千円
- ・大橋 圭. 文部科学省科学研究費(若手・代表). 令和5年度-令和7年度、2,300千円/3,600千円
- ・大橋 圭. 文部科学省科学研究費(基盤B・分担). 令和5年度-令和10年度、50,000円
- ・戸川 貴夫. 受託研究費(AMED・分担). 令和5年度、1,000千円
- ・戸川 貴夫. 受託研究費(AMED・分担). 令和5年度、2,700千円
- ・加藤 耕治. 文部科学省科学研究費(若手・代表). 令和5年度-令和6年度、1,800千円/3,600千円
- ・加藤 耕治. 文部科学省科学研究費(特別研究員奨励費). 令和5年度-令和7年度、1,400千円/2,800千円
- ・加藤 耕治. 文部科学省科学研究費(若手研究者雇用支援事業). 令和5年度-令和7年度、5,172千円
- ・加藤 耕治. 文部科学省科学研究費(研スタ・代表). 令和5年度-令和6年度、205千円
- ・服部 文子. 受託研究費(大鵬薬品工業株式会社). 令和4年度-令和9年度、464千円
- ・服部 文子. 受託研究費(学校法人東京女子医科大学). 令和4年度-令和6年度、1,100千円
- ・服部 文子. 受託研究費(独立行政法人 国立病院機構大阪刀根山医療センター). 令和5年度-令和6年度、700千円
- ・今井 一徳. 文部科学省科学研究費(基盤B. 令和5年度-令和7年度、1,326,192円

【その他】

〈学内研究費〉

- ・横井 暁子. 特別研究奨励費 令和5年度-令和6年度、250千円

<研究活動実績>

【欧文業績】

- 1: Hijioka M, Manabe T, Saito T. **Multifactorial glial responses and their contributions to AD continuum.** *Clinical and Experimental Neuroimmunology*. **14(2)**: 82-91, 2023.
- 2: Daniels MJD, Lefevre L, Szymkowiak S, Drake A, McCulloch L, Tzioras M, Barrington J, Dando OR, He X, Mohammad M, Sasaguri H, Saito T, Saido TC, Spires-Jones TL, McColl BW. **Cystatin F (*Cst7*) drives sex-dependent changes in microglia in an amyloid-driven model of Alzheimer's disease.** *Elife*. **12**: e85279, 2023.
- 3: Benskey MJ, Panoushek S, Saito T, Saido TC, Grabinski T, Kanaan NM. **Behavioral and neuropathological characterization over the adult lifespan of the human tau knock-in mouse.** *Front Aging Neurosci*. **15**: 1265151, 2023.
- 4: Izuo N, Watanabe N, Noda Y, Saito T, Saido TC, Yokote K, Hotta H, Shimizu T. **Insulin resistance induces earlier initiation of cognitive dysfunction mediated by cholinergic deregulation in a mouse model of Alzheimer's disease.** *Aging Cell*. **11**: e13994, 2023.
- 5: Ito S, Yagi R, Ogata S, Masuda T, Saito T, Saido T, Ohtsuki S. **Proteomic alterations in the brain and blood-brain barrier during brain A β accumulation in an APP knock-in mouse model of Alzheimer's disease.** *Fluids Barriers CNS*. **20(1)**: 66, 2023.
- 6: Zhao X, Zeng W, Xu H, Sun Z, Hu Y, Peng B, McBride JD, Duan J, Deng J, Zhang B, Kim SJ, Zoll B, Saito T, Sasaguri H, Saido TC, Ballatore C, Yao H, Wang Z, Trojanowski JQ, Brunden KR, Lee VM, He Z. **A microtubule stabilizer ameliorates protein pathogenesis and neurodegeneration in mouse models of repetitive traumatic brain injury.** *Sci Transl Med*. **15(713)**: eabo6889, 2023.
- 7: Nutma E, Fancy N, Weinert M, Tsartsalis S, Marzin MC, Muirhead RCJ, Falk I, Breur M, de Bruin J, Hollaus D, Pieterman R, Anink J, Story D, Chandran S, Tang J, Trolese MC, Saito T, Saido TC, Wiltshire KH, Beltran-Lobo P, Phillips A, Antel J, Healy L, Dorion MF, Galloway DA, Benoit RY, Amossé Q, Ceyzériat K, Badina AM, Kövari E, Bendotti C, Aronica E, Radulescu CI, Wong JH, Barron AM, Smith AM, Barnes SJ, Hampton DW, van der Valk P, Jacobson S, Howell OW, Baker D, Kipp M, Kaddatz H, Tournier BB, Millet P, Matthews PM, Moore CS, Amor S, Owen DR. **Translocator protein is a marker of activated microglia in rodent models but not human neurodegenerative diseases.** *Nat Commun*. **14(1)**:5247, 2023
- 8: Ho H, Kejzar N, Sasaguri H, Saito T, Saido TC, De Strooper B, Bauza M, Krupic J. **A fully automated home cage for long-term continuous phenotyping of mouse cognition and behavior.** *Cell Rep Methods*. **3(7)**: 100532, 2023
- 9: Ni X, Inoue R, Wu Y, Yoshida T, Yaku K, Nakagawa T, Saito T, Saido TC, Takao K, Mori H. **Regional contributions of D-serine to Alzheimer's disease pathology in male *App*^{NL-G-F/NL-G-F} mice.** *Front Aging Neurosci*. **15**: 1211067, 2023.
- 10: Trojan E, Curzytek K, Cieřlik P, Wierońska JM, Graff J, Lasoń W, Saito T, Saido TC, Basta-Kaim A. **Prenatal stress aggravates age-dependent cognitive decline, insulin signaling dysfunction, and the pro-inflammatory response in the *APP*^{NL-F/NL-F} mouse model of Alzheimer's disease.** *Neurobiol Dis*. **184**: 106219, 2023.
- 11.: Hoshi K, Kanno M, Goto A, Ugawa Y, Furukawa K, Arai H, Miyajima M, Takahashi K, Hattori K, Kan K, Saito T, Yamaguchi Y, Mitsufuji T, Araki N, Hashimoto Y. **Brain-Derived Major Glycoproteins Are Possible Biomarkers for Altered Metabolism of Cerebrospinal Fluid in Neurological Diseases.** *Int J Mol Sci*. **24(7)**: 6084, 2023.

- 12: Depp C, Sun T, Sasmita AO, Spieth L, Berghoff SA, Nazarenko T, Overhoff K, Steixner-Kumar AA, Subramanian S, Arinrad S, Ruhwedel T, Möbius W, Göbbels S, Saher G, Werner HB, Damkou A, Zampar S, Wirths O, Thalmann M, Simons M, [Saito T](#), Saido T, Krueger-Burg D, Kawaguchi R, Willem M, Haass C, Geschwind D, Ehrenreich H, Stassart R, Nave KA. **Myelin dysfunction drives amyloid- β deposition in models of Alzheimer's disease.** *Nature*. **618(7964)**: 349-357, 2023.
- 13: Brady ES, Griffiths J, Andrianova L, Bielska MH, [Saito T](#), Saido TC, Randall AD, Tamagnini F, Witton J, Craig MT. **Alterations to parvalbumin-expressing interneuron function and associated network oscillations in the hippocampal - medial prefrontal cortex circuit during natural sleep in App^{NL-G-F/NL-G-F} mice.** *Neurobiol Dis*. **182**: 06151, 2023.
- 14: Kilian JG, Mejias-Ortega M, Hsu HW, Herman DA, Vidal J, Arechavala RJ, Renusch S, Dalal H, Hasen I, Ting A, Rodriguez-Ortiz CJ, Lim SL, Lin X, Vu J, [Saito T](#), Saido TC, Kleinman MT, Kitazawa M. **Exposure to quasi-ultrafine particulate matter accelerates memory impairment and Alzheimer's disease-like neuropathology in the AppNL-G-F knock-in mouse model.** *Toxicol Sci*. **193(2)**: 175-191, 2023.
- 15: Iguchi A, Takatori S, Kimura S, Muneto H, Wang K, Etani H, Ito G, Sato H, Hori Y, Sasaki J, [Saito T](#), Saido TC, Ikezu T, Takai T, Sasaki T, Tomita T. **INPP5D modulates TREM2 loss-of-function phenotypes in a β -amyloidosis mouse model.** *iScience*. **26(4)**: 106375, 2023.
- 16: Sato W, Watanabe-Takahashi M, Murata T, Utsunomiya-Tate N, Motoyama J, Anzai M, Ishihara S, Nishioka N, Uchiyama H, Togashi J, Nishihara S, Kawasaki K, [Saito T](#), Saido TC, Funamoto S, Nishikawa K. **A tailored tetravalent peptide displays dual functions to inhibit amyloid β production and aggregation.** *Commun Biol*. **6(1)**: 383, 2023.
- 17: Hata S, Saito H, Kakiuchi T, Fukumoto D, Yamamoto S, Kasuga K, Kimura A, Moteki K, Abe R, Adachi S, Kinoshita S, Yoshizawa-Kumagaye K, Nishio H, [Saito T](#), Saido TC, Yamamoto T, Nishimura M, Taru H, Sobu Y, Ohba H, Nishiyama S, Harada N, Ikeuchi T, Tsukada H, Ouchi Y, Suzuki T. **Brain p3-Alc β peptide restores neuronal viability impaired by Alzheimer's amyloid β -peptide.** *EMBO Mol Med*. **15(5)**: e17052, 2023.
- 18: Andersson E, Schultz N, [Saito T](#), Saido TC, Blennow K, Gouras GK, Zetterberg H, Hansson O. **Cerebral A β deposition precedes reduced cerebrospinal fluid and serum A β 42/A β 40 ratios in the App^{NL-F/NL-F} knock-in mouse model of Alzheimer's disease.** *Alzheimers Res Ther*. **15(1)**: 64, 2023.
- 19: Kaneko R, Matsui A, Watanabe M, Harada Y, Kanamori M, Awata N, Kawazoe M, Takao T, Kobayashi Y, Kikutake C, Suyama M, [Saito T](#), Saido TC, Ito M. **Increased neutrophils in inflammatory bowel disease accelerate the accumulation of amyloid plaques in the mouse model of Alzheimer's disease.** *Inflamm Regen*. **43(1)**: 20, 2023.
- 20: Sonoda R, Kuramoto E, Minami S, Matsumoto SE, Ohyagi Y, [Saito T](#), Saido T, Noguchi K, Goto T. **Reduced Autophagy in Aged Trigeminal Neurons Causes Amyloid β Diffusion.** *J Dent Res*. **102(8)**: 938-946, 2023.
- 21: Yoshimura R, Miyasaka T, Funamoto S, [Saito T](#), Saido TC, Ikegawa M, Kakuda N. **The senile plaque: Morphological differences in APP knock-in mice brains by fixatives.** *Brain Behav*. **13(4)**: e2953, 2023.
- 22: Park H, Cho B, Kim H, [Saito T](#), Saido TC, Won KJ, Kim J. **Single-cell RNA-sequencing identifies disease-associated oligodendrocytes in male APPNL-G-F and 5XFAD mice.** *Nat Commun*. **14(1)**: 802, 2023.
- 23: Morrissey ZD, Gao J, Zhan L, Li W, Fortel I, Saido T, [Saito T](#), Bakker A, Mackin S, Ajilore O, Lazarov O, Leow AD. **Hippocampal functional connectivity across age in an App knock-in mouse model of Alzheimer's disease.** *Front Aging Neurosci*. **(14)**: 1085989, 2023.

- 24: Hashimoto S, Matsuba Y, Takahashi M, Kamano N, Watamura N, Sasaguri H, Takado Y, Yoshihara Y, Saito T, Saido TC. **Neuronal glutathione loss leads to neurodegeneration involving gasdermin activation.** Sci Rep. **13(1)**: 1109, 2023.
- 25: Honda K, Saito Y, Saito H, Toyoda M, Abe R, Saito T, Saido TC, Michikawa M, Taru H, Sobu Y, Hata S, Nakaya T, Suzuki T. **Accumulation of amyloid- β in the brain of mouse models of Alzheimer's disease is modified by altered gene expression in the presence of human apoE isoforms during aging.** Neurobiol Aging. **3**: 63-74, 2023.
- 26: Yang Y, Zhang W, Murzin AG, Schweighauser M, Huang M, Lövestam S, Peak-Chew SY, Saito T, Saido TC, Macdonald J, Lavenir I, Ghetti B, Graff C, Kumar A, Nordberg A, Goedert M, Scheres SHW. **Cryo-EM structures of amyloid- β filaments with the Arctic mutation (E22G) from human and mouse brains.** Acta Neuropathol. **145(3)**: 325-333, 2023.
- 27: Islam A, Saito T, Saido T, Ali AB. **Presubiculum principal cells are preserved from degeneration in knock-in APP/TAU mouse models of Alzheimer's disease.** Semin Cell Dev Biol. **139**: 55-72, 2023.

【和文業績】

- 1: 眞鍋 達也, 齊藤 貴志. アルツハイマー病のモデル開発 一前臨床モデルから臨床モデルへ. 週刊医学のあゆみ. **287(13)**: 909-915, 2023.
- 2: 眞鍋 達也, 齊藤 貴志. アルツハイマー病の動物モデルの現状と今後の展望. 実験医学増刊. **41(12)**: 137-143, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	齊藤 貴志	29 (3)	27 (1)	2 (2)
講師	朝光 かおり	0	0	0
助教	肱岡 雅宣	1 (1)	1 (1)	0
特任助教	眞鍋 達也	3 (3)	1 (1)	2 (2)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

齊藤 貴志. Clarivate Analytics 社. 2023 年 Highly Cited Researchers*（高被引用論文著者）に選出, 令和 6 年 11 月

*Highly Cited Researchers とは、世界中で多く引用された論文の筆者のこと。Clarivate Analytics 社が公表しているもので、10 年以上にわたり高い評価を受け、影響力のある研究者であることを意味する。自然科学、社会科学、および Cross-Field の研究領域で、被引用数が上位 1%に入る論文筆者が選出されている。

【外部資金獲得実績】

齊藤 貴志. 文部科学省科学研究費（基盤 B・分担）. 令和 5 年度、300 千円

齊藤 貴志. 文部科学省科学研究費（基盤 B・分担）. 令和 5 年度、200 千円

齊藤 貴志. 受託研究費（AMED・分担）. 令和 5 年度、16,210 千円

齊藤 貴志. 研究助成金 (公益財団法人 三菱財団) . 令和 4 年 10 月-令和 5 年 9 月、5,000 千円

齊藤 貴志. 受託研究費 (JST・分担) . 令和 3 年度-令和 7 年度、29,000 千円/76,154 千円

齊藤 貴志. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・代表) . 令和 2 年度-令和 5 年度、2,400 千円/13,800 千円

肱岡 雅宣. 研究助成金 (公益財団法人 日東学術振興財団) . 令和 5 年 12 月-令和 7 年 12 月、2,000 千円

肱岡 雅宣. 研究助成金 (熊本大学薬学部同窓会 熊薬研究助成会) . 令和 5 年度、500 千円

肱岡 雅宣. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表) . 令和 4 年度-令和 6 年度、800 千円/3,200 千円

眞鍋 達也. 文部科学省科学研究費 (研究活動スタート支援・代表) . 令和 4 年-令和 6 年度、1,100 千円/2,200 千円.

【その他】

内部資金獲得状況

朝光 かおり 学内競争的資金 (名古屋市立大学 特別研究奨励費・代表) . 令和 5 年度、250 千円

眞鍋 達也. 学内競争的資金 (名古屋市立大学 研究奨励費・代表) . 令和 5 年度、600 千円.

招待講演

Takashi Saito. Semester's seminar at Institute of Anatomy of the University of Zurich (Univ Zurich) . Multifactorial glial responses and their contributions to Alzheimer's disease (AD) continuum. 2023年5月30日

Takashi Saito. Stroke-Immunology Meeting 2023 (EMBO Workshop). Role of glial responses underlying pathogenesis of Alzheimer's disease. 2023 年 9 月 19 日

国際学会発表：口頭

Masanori Hijioka. Stroke-Immunology Meeting 2023 (EMBO Workshop). Elucidation of the pathophysiological roles of leukotriene B₄ in a mouse model of intracerebral hemorrhage. 2023 年 9 月 21 日

国際学会発表：ポスター

Xiaopeng Wen, Masanori Hijioka, Takeshi Inoue, Kiyokazu Agata, Yoshihisa Kitamura. 19th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology, MEK/ERK signaling promotes the regeneration of dopaminergic nerve circuit in the planarian, an invertebrate flatworm. 2023 年 7 月 5 日

Natsumi Iwashita, Xiaopeng Wen, Sora Nozaki, Masanori Hijioka, Yoshihisa Kitamura. 19th

World Congress of Basic and Clinical Pharmacology. Galantamine reduced α -synuclein aggregation by inducing autophagy through activation of the α 7-nicotinic acetylcholine receptors. 2023年7月6日

国内学会シンポジウム（講演）

Tatsuya Manabe, Takashi Saito, Michael Thomas Heneka. 第128回解剖学会総会・全国学術集会. Systemic inflammation challenging the ageing brains. 2023年3月18-20日

齊藤 貴志. 医療薬学フォーラム 2023. アルツハイマー病の克服を目指して～モデルマウス開発からの応用展開. 2023年7月22日

齊藤 貴志. 第96回日本生化学会. アルツハイマー病におけるグリア応答と脳内環境. 2023年10月31日

国内学会発表：ポスター

Koto Matsubayashi, Xiaopeng Wen, Masanori Hijioka, Takeshi Inoue, Kiyokazu Agata, Yoshihisa Kitamura. 第21回武田科学振興財団生命科学シンポジウム. Reconstitution of dopaminergic nerve circuit in planarian, an invertebrate flatworm. 2023年1月27日

上西涼平, 肱岡雅宣, 齊藤貴志. 日本薬学会第143年会. CXCL10の欠損はtauopathyモデルマウスでタウ病理を軽減する. 2023年3月28日

上西涼平, 肱岡雅宣, 齊藤貴志. 第96回日本生化学会大会. タウオパチーモデルマウスにおけるケモカインCXCL10の機能解析. 2023年10月31日

主要な国内学会活動の参加状況

齊藤 貴志

日本生化学会、評議員、代議員

日本認知症学会、代議員、倫理委員、基礎研究促進委員

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

教育活動

齊藤 貴志

熊本県立宇土中・高等学校 スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員

国内講演

1. 齊藤 貴志. 「アルツハイマー病の脳内環境の理解と制御へ」 鹿児島大学医歯学総合研究科大学院セミナー（鹿児島大学 2023年6月20日）
2. 齊藤 貴志. 「アルツハイマー病モデルマウスの開発から病態解明へ」 第一薬科大学大学院特別講義（Zoom 2023年7月7日）
3. 齊藤 貴志. 「認知症研究の最前線」 名古屋市立大学市民公開講座（2023年10月14日）

—神経発達症遺伝学—

＜研究活動実績＞

【欧文業績】

International League Against Epilepsy Consortium on Complex Epilepsies(including Yamakawa K, Suzuki T). **GWAS meta-analysis of over 29,000 people with epilepsy identifies 26 risk loci and subtype-specific genetic architecture.** Nat Genet. **55(9)**:1471-1482, 2023.

Montanucci L, Lewis-Smith D, Collins RL, Niestroj LM, Parthasarathy S, Xian J, Ganesan S, Macnee M, Brünger T, Thomas RH, Talkowski M; Epi25 Collaborative(including Yamakawa K, Suzuki T); Helbig I, Leu C, Lal D. **Genome-wide identification and phenotypic characterization of seizure-associated copy number variations in 741,075 individuals.** Nat Commun. **14(1)**:4392, 2023.

Bundalian L, Su YY, Chen S, Velluva A, Kirstein AS, Garten A, Biskup S, Battke F, Lal D, Heyne HO, Platzer K, Lin CC, Lemke JR, Le Duc D; Epi25 Collaborative(including Yamakawa K, Suzuki T). **Epilepsies of presumed genetic etiology show enrichment of rare variants that occur in the general population.** Am J Hum Genet. **110(7)**:1110-1122, 2023.

Yamagata T, Ogiwara I, Tatsukawa T, Suzuki T, Otsuka Y, Imaeda N, Mazaki E, Inoue I, Tokonami N, Hibi Y, Itohara S, Yamakawa K. **Scn1a-GFP transgenic mouse revealed Nav1.1 expression in neocortical pyramidal tract projection neurons.** Elife. **12**:e87495, 2023.

【和文業績】

柏木晴香、堀内智子、寺田隆哉、金澤智 名古屋市立大学との連携による新型コロナウイルスD 模型展示の製作 名古屋市科学館紀要 第49号: 15-16, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	山川 和弘	4(1)	4(1)	0
講師	鈴木 俊光	3(0)	3(0)	0
助教	金澤 智	1(0)	0(0)	1
特任助教	山形 哲司	1(1)	1(1)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

該当なし

【外部資金獲得実績】

山川 和弘, 文科省科学研究費（基盤B・代表）. 令和5年度-令和7年度、5,400千円/14,500千円

山形 哲司, 文科省科学研究費（基盤C・代表）. 令和5年度-令和7年度、1,560千円/3,700千円

金澤 智. 研究助成金 (日本イーライリリー株式会社). 令和5年12月-令和6年3月、2,000千円

金澤 智. 共同研究費 (株式会社ファーマフーズ). 令和5年度-令和6年度、5,000千円

金澤 智. 文部科学省科学研究費 (基盤C・分担). 令和5年度、100千円

金澤 智. 受託研究費 (AMED・分担). 令和5年度、3,077千円

山川 和弘. 研究助成金 (内藤記念科学奨励金・研究助成). 令和4年12月-令和6年9月、3,000千円

鈴木 俊光. 文科省科学研究費 (基盤C・代表). 令和4年度-令和6年度、1,000千円/3,200千円

金澤 智. 共同研究費 (株式会社ファーマフーズ). 令和4年度-令和6年度、5,000千円

【その他】

招待講演

山川 和弘. ジェネシスヘルスケア株式会社. てんかん・神経発達症の分子遺伝学、新生モザイク変異・全ゲノム配列解析の意義. 2023年10月17日

国内外学会における発表 (ポスター/口頭)

三浦 陽子, 金澤 智. 「先進ゲノム支援」2023年度拡大班会議. パンヌス内新生血管細胞の特徴を見出し、新規関節リウマチ治療戦略を探る. 2023年12月25日~26日

金澤 智, 三浦 陽子. 第46回日本分子生物学会年会. SARS-CoV-2 レセプターの ACE2 は特発性肺線維症で増加傾向を示すが、ウイルス感染状態では発現量が減少する
Pathophysiological conditions induced by SARS-CoV-2 infection reduce ACE2 expression in the lung. 2023年11月27日~12月1日

三浦 陽子, 金澤 智. 第46回日本分子生物学会年会. 特発性肺線維症マウスモデル由来の PCLS 肺はブレオマイシン処理により gH2AX が核周囲に発現し、より強い老化状態になる. 2023年11月27日~12月1日

山形 哲司, 山川 和弘. 日本人類遺伝学会第68回大会. Abstract Submission Number: 1252、Abstract Title: Detailed distribution analysis of epilepsy/neurodevelopmental disorder proteins Nav1.1 and Nav1.2. 2023年10月11日-14日

鈴木 俊光, 山川 和弘. 第56回日本てんかん学会学術集会. 一般演題口演17: 側頭葉てんかん責任遺伝子の同定および発症メカニズムの解明. 2023年10月19日-22日

金澤 智. ERS2023 欧州呼吸器学会. Bleomycin does not directly cause fibrosis in precision-cut lung slices, PCLS. 2023年9月9日~13日

Toshimitsu Suzuki, Kazuhiro Yamakawa. 第46回日本神経科学大会. Inversed effects of Nav1.2 deficiency at medial prefrontal cortex and ventral tegmental area for prepulse inhibition in acoustic startle response. 2023年7月31日-8月5日

三浦 陽子, 金澤 智. 第44回日本炎症・再生医学会. SARS-CoV-2 レセプターの ACE2 は特発性肺線維症で増加傾向を示すが、ウイルス感染状態では発現量が減少する. 2023年7月12日~13日

金澤 智, 三浦 陽子. 第50回日本毒性学会学術年会. ブレオマイシンは肺由来 Precision-cut lung slices(PCLS)に対し直接線維化を進めない. 2023年6月19日~21日

石原 慶, 河下 映里, 山川 和弘, 秋葉 聡. 第2回 生命金属科学シンポジウム. ダウン症モデルマウス脳での銅蓄積による記憶学習障害. 2023年5月20日-21日

山川 和弘, 鈴木 俊光. 第65回日本小児神経学会学術集会. 口演:ナトリウムチャンネル遺伝子 SCN2A 変異による神経発達症発症メカニズム. 2023年5月24日-27日

三浦 陽子, 金澤 智. 第63回日本呼吸器学会学術講演会. Induced-UIP マウスモデル由来 PCLS は線維化因子添加による線維産性能が高い. 2023年4月28日~30日

神保 里菜, 高田 修治, 斉藤 美知子, 山川 和弘, 河下 映里, 左合 治彦, 秋葉 聡, 石原 慶一. 日本薬学会第143年会. ダウン症脳での銅蓄積の責任遺伝子座の絞り込み
Narrowing the genetic region in which genes responsible for copper accumulation exist in the brain with Down syndrome. 2023年3月25日-28日

千代 華歩, 河下 映里, 秋葉 聡, 山川 和弘, 石原 慶一. 日本薬学会第143年会. ダウン症モデルマウスにおける脳での銅蓄積と情動記憶障害の相関性 Correlation between brain copper accumulation and emotional memory impairment in mouse models of Down syndrome. 2023年3月25日-28日

他大学での学部講義/大学院講義

金澤 智. 生命倫理入門. 名城大学 人間学部講義

—神経毒性学分野—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Tominaga S, Yoshioka H, Yokota S, Tsukiboshi Y, Suzui M, Nagai M, Hara H, Maeda T, Miura N. **Copper-induced diurnal hepatic toxicity is associated 1 with Cry2 and Per1 in mice.** Environ. Health. Prev. Med. **28**: 78, 2023.

Ouchida J, Ozaki T, Segi N, Suzuki Y, Imagama S, Kadomatsu K, Sakamoto K. **Glypican-2 defines age-dependent axonal response to chondroitin sulfate.** Exp. Neurol. **366**: 114444, 2023.

Sultana N, Fukamachi K, Roy DC, Xu J, Tsuda H, Suzui M. **mRNA expression levels of CCL4, IL6, and CXCL2 in multiwalled carbon nanotube induced lung tumors in rats.** Fundam. Toxicol. Sci. **10(4)**: 137-141, 2023.

Yoshioka H, Yokota S, Tominaga S, Tsukiboshi Y, Suzui M, Shinohara Y, Yoshikawa M, Sasaki H, Sasaki N, Maeda T, Miura N. **Involvement of Bmal1 and Clock in Bromobenzene Metabolite-Induced Diurnal Renal Toxicity.** Biol. Pharm. Bull. **46(6)**: 824-829, 2023.

Sultana N, Fukamachi K, Xu J, Tsuda H, Suzui M. **mRNA expression profile of cytokines in rat primary alveolar macrophages treated with multiwalled carbon nanotube (MWCNT).** Fundam. Toxicol. Sci. **10(1)**: 27-30, 2023.

【和文業績】

該当なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	酒々井 眞澄	4 (2)	4 (2)	0
講師	深町 勝巳	2	2	0
助教	尾崎 智也	1	1	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

該当無し

【外部資金獲得実績】

尾崎 智也. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 5 年度-令和 7 年度、1,200 千円/3,600 千円

【その他】

国際シンポジウム発表（口頭）

尾崎智也, 2023 Hallym University-Nagoya City University International Symposium. Protamine promotes axon regrowth and improves motor dysfunction after spinal cord injury in mice. 2023 年 5 月 18 日、招待講演

国内学会発表（ポスター）

Sultana Nahida、深町勝巳、安藤さえ子、倉地秀明、Roy Chandra Dipankar、酒々井眞澄.
第40回日本毒性病理学会総会及び学術集会. Acute toxicity of palmitoyl piperidinopiperidine in rats. 2024年1月23日

Roy Chandra Dipankar、Sultana Nahida、深町勝巳、尾崎智也、倉地秀明、酒々井眞澄.
第40回日本毒性病理学会総会及び学術集会. Cytotoxicity and antiangiogenic effects of a newly synthesized agent, dimethylaminopropyl hexadecanamide piperidinopiperidine in rats. 2024年1月24日

尾崎 智也、荻原 琳、鈴木 佑治、Roy Dipankar Chandra、坂元 一真、門松 健治、酒々井 眞澄. 第42回日本糖質学会年会 プロタミンは dystrophic growth cone の形成を阻害し脊髄損傷に伴う運動障害を改善する. 2023年9月7-9日

国内学会活動

酒々井眞澄. J Toxcol Sci. Editorial Board
酒々井眞澄. 日本がん予防学会 評議員
酒々井眞澄. 日本毒性病理学会 評議員
酒々井眞澄. 日本毒性学会 評議員
酒々井眞澄. 岐阜県スポーツドクター協議会 理事

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

酒々井眞澄. 進化型実務家教員養成プログラム TEEP 実施委員
酒々井眞澄. 名古屋市立大学蝶ヶ岳ボランティア診療班代表

—神経発達・再生医学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Sawada M, Hamaguchi A, Mano N, Yoshida Y, Uemura A, Sawamoto K. **PlexinD1 signaling controls domain-specific dendritic development in newborn neurons in the postnatal olfactory bulb.** Front Neurosci. **17**:1143130, 2023.

Wen C, Matsumoto M, Sawada M, Sawamoto K, Kimura KD. **Seg2Link: an efficient and versatile solution for semi-automatic cell segmentation in 3D image stacks.** Sci Rep. **13**(1): 7109, 2023.

Ieda N, Sawada M, Oguchi R, Itoh M, Hirakata S, Saitoh D, Nakao A, Kawaguchi M, Sawamoto K, Yoshihara T, Mori Y, Nakagawa H. **An optochemical oxygen scavenger enabling spatiotemporal control of hypoxia.** Angew Chem Int Ed Engl. **62**(20): e202217585, 2023.

Ohno Y, Nakajima C, Ajioka I, Muraoka T, Yaguchi A, Fujioka T, Akimoto S, Matsuo M, Lotfy A, Nakamura S, Herranz-Perez V, Garcia-Verdugo JM, Matsukawa N, Kaneko N, Sawamoto K. **Amphiphilic peptide-tagged N-cadherin forms radial glial-like fibers that enhance neuronal migration in injured brain and promote sensorimotor recovery.** Biomaterials. **294**: 122003, 2023.

【和文業績】

中島 徳彦、澤田 雅人、澤本 和延. ニューロンの移動と再生を促進する足場. 細胞. **55**: 16-19, 2023.

樽松 千紘、澤本 和延. 大人の神経細胞を接続する「シナプス」の数を調節するしくみ. 生化学. **95** (4): 537-540, 2023.

大野 雄也、藤岡 哲平、澤本 和延. 内在性神経再生機構による脳梗塞治療にむけて. Medical Science Digest. **49**: 274-275, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	澤本 和延	7 (5)	4 (2)	3 (3)
講師	澤田 雅人	4 (1)	3 (1)	1
特任助教	中嶋 智佳子	1 (1)	1 (1)	
特任助教	松本 真実	1	1	

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

松本真実. 日本再生医療学会. 第23回日本再生医療学会総会 優秀演題賞. 細胞接着制御因子の活性抑制は新生ニューロンの移動促進および脳機能回復に寄与する, 令和6年3月

【外部資金獲得実績】

澤本和延. 文部科学省科学研究費 (基盤C・分担). 令和5年度-令和7年度、100千円

久保山和哉. 文部科学省科学研究費 (基盤C・代表). 令和5年度-令和7年度、1,200千円/3,600千円

竹村晶子. 文部科学省科学研究費 (基盤C・代表). 令和5年度-令和7年度、1,400千円/3,600千円

松本真実. 研究助成金 (公益財団法人 日東学術振興財団). 令和5年11月-令和7年12月、2,000千円

中嶋智佳子. 文部科学省科学研究費 (研究活動スタート支援・代表). 令和5年度-令和6年度、1,100千円/2,200千円

澤本和延. 受託研究費 (JSPS 研究拠点形成事業・代表). 令和5年度-令和9年度、18,000千円

澤田雅人. 研究助成金 (公益財団法人 テルモ生命科学振興財団). 令和4年11月-令和6年3月、2,000千円

澤本和延. 研究助成金 (公益財団法人 武田科学振興財団). 令和4年8月-令和9年5月、40,320千円

松本真実. 文部科学省科学研究費 (若手・代表). 令和4年度-令和5年度、2,700千円/3,500千円

澤田雅人. 研究助成金 (公益財団法人 日東学術振興財団). 令和4年1月-令和5年12月、1,000千円

澤本和延. 文部科学省科学研究費 (基盤B・分担). 令和3年度-令和5年度、700千円

澤田雅人. 文部科学省科学研究費 (基盤C・代表). 令和3年度-令和5年度、1,300千円/3,200千円

澤本和延. 文部科学省科学研究費 (基盤B・分担). 令和3年度-令和5年度、700千円

澤田雅人. 文部科学省科学研究費 (基盤C・代表). 令和3年度-令和5年度、1,300千円/3,200千円

澤田雅人. 研究助成金 (公益財団法人 堀科学芸術振興財団). 令和3年4月-令和5年3月、1,000千円

澤本和延. 文部科学省科学研究費 (基盤S・代表). 令和2年度-令和6年度、23,900千円/119,900千円

澤本和延. 受託研究費 (AMED・代表). 令和元年度-令和6年度、46,500千円

【その他】

1) 主な国内学会・国際学会における発表

松本真実、松下勝義、Wen Chentao、樽松千紘、太田晴子、澤田雅人、木村幸太郎、大野伸彦、澤本和延. 第 23 回日本再生医療学会総会. 細胞接着制御因子の活性抑制は新生ニューロンの移動促進および脳機能回復に寄与する. 2024.3.23

※優秀演題賞受賞

澤本和延. 第 23 回日本再生医療学会総会. 脳再生におけるニューロンの移動・再生機構と操作技術. 2024.3.21

中嶋智佳子、澤田雅人、梅田恵里花、高木佑真、中島徳彦、久保山和哉、金子奈穂子、山本悟暁、中村春野、島田直樹、中村耕一郎、松野久美子、上杉昭二、Nynke A. Vepřek、Florian Küllmer、Veselin Nasufović、内山博允、中田克、大塚祐二、伊藤泰行、Vicente Herranz-Pérez、José Manuel García-Verdugo、大野伸彦、Hans-Dieter Arndt、Dirk Trauner、田畑泰彦、五十嵐道弘、澤本和延. 2023 年度 NCU ライフサイエンス・脳神経科学研究所 合同リトリート. 新生ニューロンの成長円錐による移動制御機構ならびに傷害脳の機能回復. 2024.3.14

松本真実、松下勝義、Wen Chentao、樽松千紘、太田晴子、Huy Bang Nguyen、Truc Quynh Thai、Vicente Herranz-Perez、澤田雅人、木村幸太郎、Jose Manuel Garcia-Verdugo、右龍徳、大野伸彦、澤本和延. 2023 年度 NCU ライフサイエンス・脳神経科学研究所 合同リトリート. Polysialic acid-mediated adhesion inhibition promotes the collective migration of neurons and recovery of brain function. 2024.3.14

荻野崇、斎藤明里、澤田雅人、竹村晶子、長瀬次郎、河瀬穂乃美、稲田浩之、Vicente Herranz-Pérez、向山洋介、依馬正次、José Manuel García-Verdugo、鍋倉淳一、澤本和延. 第 17 回神経発生討論会・第 20 回成体脳のニューロン新生懇談会合同大会. Blood flow regulates neuronal migration in the adult olfactory bulb. 2024.3.9

松本真実、松下勝義、Wen Chentao、樽松千紘、太田晴子、Huy Bang Nguyen、Truc Quynh Thai、Vicente Herranz-Perez、澤田雅人、木村幸太郎、Jose Manuel Garcia-Verdugo、右龍徳、大野伸彦、澤本和延. 第 17 回神経発生討論会・第 20 回成体脳のニューロン新生懇談会合同大会. 細胞接着因子の抑制は成体脳内を集団移動する新生ニューロンの移動を促進する. 2024.3.9

中嶋智佳子、澤田雅人、梅田恵里花、高木佑真、中島徳彦、久保山和哉、金子奈穂子、山本悟暁、中村春野、島田直樹、中村耕一郎、松野久美子、上杉昭二、Nynke A. Vepřek、lorian Küllmer、Veselin Nasufović、内山博允、中田克、大塚祐二、伊藤泰行、Vicente Herranz-Pérez、José Manuel García-Verdugo、大野伸彦、Hans-Dieter Arndt、Dirk Trauner、田畑泰彦、五十嵐道弘、澤本和延. 第 17 回神経発生討論会・第 20 回成体脳のニューロン新生懇談会合同大会. 傷害脳内のニューロン移動を制御する成長円錐の同定. 2024.3.8

澤本和延. 第 7 回包括的神経グリア研究会 (UNG2024). 生後脳における新生ニューロンの移動：メカニズムの解明と再生医療への応用. 2024.1.27

Masato Sawada, Ayato Hamaguchi, Naomichi Mano, Yutaka Yoshida, Akiyoshi Uemura, Kazunobu Sawamoto. 名古屋大学脳とこころの研究センター 第 8 回東海地区連携拡大ワークショップ. PlexinD1 signaling controls domain-specific dendritic development in newborn neurons in the postnatal olfactory bulb. 2023.12.9

澤本和延. 第 1 回脳修復研究会. 損傷した脳の修復過程における新生ニューロンの移動機構. 2023.12.6

Takashi Ogino, Akari Saito, Masato Sawada, Shoko Takemura, Jiro Nagase, Honomi Kawase, Hiroyuki. Inada, Vicente Herranz-Pérez, Yoh-suke Mukouyama, Masatsugu Ema, José Manuel García-Verdugo, Junichi Nabekura, Kazunobu Sawamoto. 第 20 回国際シンポジウム「味覚嗅覚の分子神経機構」(ISMNTOP2023). Neuronal migration depends on blood flow in the adult olfactory bulb. 2023.11.26

澤本和延. 第7回国際先端生物学・医学・工学会議. Brain regenerative medicine based on technologies to promote neuronal migration. 2023.11.24

澤本和延. 第2回ライブセッション in 再生医療. 細胞移動促進による神経再生医療技術の開発. 2023.10.2

澤本和延. 海馬と高次脳機能学会. 生後脳におけるニューロン移動機構と再生促進技術への応用. 2023.10.1

澤本和延. 第1回ライブセッション in 再生医療. 脳細胞の移動・再生を促進する技術. 2023.9.14

Chikako Nakajima, Yuya Ohno, Masato Sawada, Naoko Kaneko, Kazunobu Sawamoto. 第46回日本神経科学大会. Introduction of biomaterial scaffolds promotes neuronal migration and functional recovery after brain injury. 2023.8.3

Chikako Nakajima, Yuya Ohno, Masato Sawada, Naoko Kaneko, Kazunobu Sawamoto. 第64回日本神経病理学会総会学術研究会/第66回日本神経化学会大会 合同大会. Promotion of neuronal migration to the site of brain injury facilitates functional recovery. 2023.7.8

澤本和延. 第64回日本神経病理学会総会学術研究会/第66回日本神経化学会大会 合同大会. 脳細胞のライブイメージング：基礎と応用. 2023.7.6

澤田雅人、澤本和延. 第1回日本神経化学会若手 KYOUEI. 生後脳におけるニューロンの移動・成熟機構. 2023.6.24

竹村晶子、澤本和延. 第1回日本神経化学会若手 KYOUEI. 早産モデルマウス研究で脳室下帯における神経幹細胞形成機構解明を目指す. 2023.6.24

澤本和延. 日本麻酔科学会第70回年次学術集会. 脳傷害後のニューロン再生機構とその応用. 2023.6.2

樽松千紘、澤田雅人、大村谷昌樹、田中基樹、久保山和哉、荻野崇、松本真実、大石久史、稲田浩之、石戸友梨、榊原悠紀菜、Huy Bang Nguyen、Truc Quynh Thai、高坂新一、大野伸彦、山田麻紀、浅井真人、曾我部正博、鍋倉淳一、浅野謙一、田中正人、澤本和延. 全国学生リトリート. ミクログリアによるホスファチジルセリン依存的な成体新生ニューロンのシナプス貪食. 2023.4.23

樽松千紘、澤田雅人、大村谷昌樹、田中基樹、久保山和哉、荻野崇、松本真実、大石久史、稲田浩之、石戸友梨、榊原悠紀菜、Huy Bang Nguyen、Truc Quynh Thai、高坂新一、大野伸彦、山田麻紀、浅井真人、曾我部正博、鍋倉淳一、浅野謙一、田中正人、澤本和延. 全国学生リトリート. ミクログリアはホスファチジルセリン依存的に成体新生ニューロンのシナプスを貪食する. 2023.4.22-23

※優秀演題賞受賞

2) 主要な国内学会活動の参加状況

澤本和延. 成体脳のニューロン新生懇談会. 代表
澤本和延. 一般社団法人 医療・環境・再生研究機構(MERRO). 理事
澤本和延. 神経発生討論会. 世話人
澤本和延. 海馬と高次脳機能学会. 世話人
澤本和延. 第1回 MERRO 東大寺奉納学術会議. 実行委員
澤本和延. ISSCR 2024 Annual Meeting. Abstract Reviewer
澤本和延. ISSCR 2023 Annual Meeting. Abstract Reviewer
澤本和延. 第23回日本再生医療学会総会. 査読委員
澤本和延. 第97回日本生化学会大会. プログラム委員
澤本和延. 日本神経化学会. 優秀賞・奨励賞選考委員会 委員長

澤本和延. 日本神経化学会. 学会史編纂委員
澤本和延. 日本神経化学会. 出版・広報委員会 委員長
澤本和延. 日本神経化学会. 理事
澤本和延. 第47回日本神経科学大会/第67回日本神経化学会大会/第46回日本生物学的精神医学会年会 合同大会 (NEURO2024). プログラム委員
澤本和延. 第64回日本神経病理学総会学術研究会/第66回日本神経化学大会. プログラム委員
澤本和延. 第68回日本神経化学会大会. 大会長
澤本和延. 日本神経科学学会. 評議員
澤本和延. 日本再生医療学会. 再生医療誌編集委員
澤本和延. 日本再生医療学会. 理事
澤本和延. 日本再生医療学会. 代議員
澤本和延. 脳の医学・生物学研究会. 代表幹事
澤田雅人. 日本神経化学会. 将来計画委員
中嶋智佳子. 成体脳のニューロン新生懇談会. 運営委員 (広報担当)
竹村晶子. 日本神経化学会. 将来計画委員
竹村晶子. 日本神経化学会. 研究助成金等候補者選考委員会 副委員長

3) 研究以外の活動において特筆すべき実績

2024年3月8日～9日 第17回神経発生討論会・第20回成体脳のニューロン新生懇談会合同大会を名古屋市立大学にて開催した。日本で神経発生・再生研究に従事する大学院生、若手研究者、研究室主宰者が集まり、2日間で最新の成果を共有した。韓国の研究所からの参加もあり、国際的なネットワークの拡充につながった。

2023年8月30日～9月20日 University College London・野海友理香さんを短期間の研究生として受け入れた。

研究内容

加齢にともなった脳室下帯周囲における神経新生の評価

成果

幼若期と老齢期の霊長類・マーモセット、および齧歯類・マウスの脳切片を用いて、霊長類では新生ニューロンの加齢に伴った減少がより著しいことがわかった。

2023年8月19日 日本学術会議・第13回形態科学シンポジウム 生命科学の魅力を語る高校生のための集い～再生のしくみと応用～を開催し、愛知県内をはじめとする全国の高校から参加者を集め、名古屋市立大学にて生命科学に関する講演や著名な研究者を招いてのパネルディスカッションを行った。阿形清和先生（基礎生物学研究所所長）、谷口英樹先生（東京大学医科学研究所所長）にご講演いただいた。

—認知機能病態学—

＜研究活動実績＞

【欧文業績】

Miyagami Y, Honshuku Y, Nomura H, Minami M, Hitora-Imamura N. **Evaluation of behavioural selection processes in conflict scenarios using a newly developed mouse behavioural paradigm.** Scientific Reports. **13**: 20006, 2023.

【和文業績】

平野 匡佑, 野村 洋. 【時間の神経科学-時を生み出すところと脳の仕組み】時間の心理学と神経科学 失われた記憶想起の回復. Clinical Neuroscience. **41(8)**: 1063-1066, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
寄附講座教授	野村 洋	2 (1)	1 (0)	1 (1)
寄附講座助教	森下 良一	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

野村 洋. 文部科学省科学研究費（基盤B・代表）. 令和5年度-令和7年度、4,800千円/14,300千円

森下 良一. 文部科学省科学研究費（若手研究・代表）. 令和5年度-令和6年度、1,900千円/ 3,600千円

野村 洋. 研究助成金（公益財団法人 鈴木謙三記念医科学応用研究財団）. 令和5年12月-令和6年12月、2,000千円

森下 良一. 文部科学省科学研究費（研究活動スタート支援・代表）. 令和4年度-令和5年度、1,100千円/2,200千円

野村 洋. 文部科学省科学研究費（挑戦的研究(萌芽)・代表）. 令和4年度-令和5年度、2,000千円/4,900千円

野村 洋. 文部科学省科学研究費（学術領域研究（B）・分担）. 令和4年度-令和6年度、4,200千円/12,600千円

野村 洋. 文部科学省科学研究費（学術領域研究（B）・分担）. 令和4年度-令和6年度、400千円/1,200千円

野村 洋. 受託研究費（AMED-CREST・分担）. 令和4年度、10,700千円

野村 洋. 受託研究費 (JST・代表). 令和3年度-令和5年度、5,300千円/20,000千円

【その他】

国内学会発表 (口頭)

野村洋. 第64回日本神経病理学会総会学術研究会・第66回日本神経化学学会大会. 記憶の想起と忘却を調節するヒスタミン神経の活動. 2023年7月7日

平野匡佑、南雅文、野村洋. 第33回神経行動薬理若手研究者の集い. 連合学習における多領域の神経集団活動. 2023年12月13日

井筒 蓮太郎、森下良一、高村 侑希、西村 京華、横井 雄斗、人羅 (今村) 菜津子、南 雅文、野村 洋. 第144回日本薬理学会近畿部会. 記憶想起を調節するヒスタミン神経活動動態. 2024年3月20日

貝田 千太郎、高村 侑希、平野 匡佑、森下良一、野村 洋. 第144回日本薬理学会近畿部会. ヒスタミン H3 受容体逆作動薬 / 拮抗薬による大脳皮質広域神経活動の調節. 2024年3月20日

国内学会発表 (ポスター)

森下良一、久保 絢女、西村 京華、高村 侑希、横井 雄斗、人羅 (今村) 菜津子、南 雅文、野村 洋. 第46回日本神経科学大会. 記憶想起時のヒスタミン神経の活動動態. 2023年8月2日

高村 侑希、森下良一、西村 京華、人羅 (今村) 菜津子、南 雅文、野村 洋. 第53回日本神経精神薬理学会年会. ヒスタミン神経による記憶想起の調節. 2023年9月8日

Yuki Takamura, Yoshikazu Morishita, Kyoka Nishimura, Natsuko Hitora-Imamura, Masabumi Minami, Hiroshi Nomura. Histamine neuron activity regulates the transition between memory recall and non-recall. 生理研研究会記憶研究会 2023. 2023年9月26日

Yuto Yokoi, Ayame Kubo, Kyoka Nishimura, Yoshikazu Morishita, Masabumi Minami, Hiroshi Nomura. Chemogenetic activation of histamine neurons promotes retrieval of forgotten object memory through perirhinal H2 receptor activation. 第97回日本薬理学会年会. 2023年12月15日

主要な国内学会活動の参加状況

野村 洋. 日本薬理学会 学術評議員

野村 洋. 日本神経精神薬理学会 評議員

野村 洋. 神経行動薬理若手研究者の集い 世話人

野村 洋. 日本薬理学会 薬理学エデュケーター

野村 洋. Frontiers in Behavioral Neuroscience, Review Editor

学内研究費 (特別研究奨励費) 獲得

森下良一. 特別研究奨励費 (代表). 令和4年度-令和5年度 1,400千円/2,100千円

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

野村 洋

痛みの診療最前線 2023 講師「慢性痛とところの相互関係」. 2023 年 5 月 17 日
2023 年度 大学丸ごと研究室体験「市立大学・市立高校 高大連携講座」. 2023 年 8 月 9 日

北海道大学大学院薬学研究院招へい教員. 2023 年

第 40 回 IBS セミナー開催「睡眠制御機構研究の最前線」名古屋市立大学神経薬理学分

野 糸 和彦教授. 2023 年 11 月 17 日

森下 良一

2023 年度 大学丸ごと研究室体験「市立大学・市立高校 高大連携講座」. 2023 年 8 月 9 日

<研究活動実績>

【欧文業績】

<名古屋市立大学>

- Osaki T, Hibino S, Murahata Y, Amaha T, Yokoe I, Yamashita M, Nomoto A, Yano S, Tanaka M, Kataoka H, Okamoto Y. **Vascular-targeted photodynamic therapy with glucose-conjugated chlorin e6 for dogs with spontaneously occurring tumours.** *Vet Med Sci.* **9(6)**: 2534-2541. 2023
- Thorell K, Muñoz-Ramírez ZY, Wang D, Sandoval-Motta S, Boscolo Agostini R, Ghirotto S, Torres RC; HpGP Research Network (Shimura T); Falush D, Camargo MC, Rabkin CS. **The Helicobacter pylori Genome Project: insights into H. pylori population structure from analysis of a worldwide collection of complete genomes.** *Nat Commun.* **14(1)**: 8184. 2023.
- Tasaki Y, Sugiyama Y, Hamamoto S, Naiki T, Uemura T, Yokota K, Kawakita D, Nakamura M, Ogawa R, Shimura T, Mimura Y, Hotta Y, Odagiri K, Ito N, Iida M, Kimura Y, Komatsu H, Kataoka H, Takiguchi S, Morita A, Iwasaki S, Okuda K, Niimi A, Yasui T, Furukawa-Hibi Y. **Eosinophil may be a predictor of immune-related adverse events induced by different immune checkpoint inhibitor types: A retrospective multidisciplinary study.** *Cancer Med.* **12(24)**: 21666-21679. 2023.
- Yasui H, Okita Y, Nakamura M, Sagawa T, Watanabe T, Kataoka K, Manaka D, Shiraiishi K, Akazawa N, Okuno T, Shimura T, Shiozawa M, Sunakawa Y, Ota H, Kotaka M, Okuyama H, Takeuchi M, Ichikawa W, Fujii M, Tsuji A. **Ramucirumab plus FOLFIRI as second-line treatment for patients with RAS wild-type metastatic colorectal cancer previously treated with anti-EGFR antibody: JACCRO CC-16.** *ESMO Open.* **8(5)**: 101636. 2023.
- Zhu B, Wang X, Shimura T, Huang AC, Kong N, Dai Y, Fang J, Guo P, Ying JE. **Development of potent antibody drug conjugates against ICAM1+ cancer cells in preclinical models of cholangiocarcinoma.** *NPJ Precis Oncol.* **7(1)**: 93. 2023.
- Zhang P, Tao C, Shimura T, Huang AC, Kong N, Dai Y, Yao S, Xi Y, Wang X, Fang J, Moses MA, Guo P. **ICAM1 antibody drug conjugates exert potent antitumor activity in papillary and anaplastic thyroid carcinoma.** *iScience.* **26(8)**: 107272. 2023.
- Okuda Y, Shimura T*, Uno K, Yamada T, Nukui T, Mizushima T, Takenaka Y, Itoh K, Inagaki Y, Ozeki T, Nagao K, Ebi M, Uchida E, Nomura S, Nojiri Y, Togawa S, Sugimura N, Fukusada S, Iwasaki H, Katano T, Kataoka H. **A multicenter case-control study of self-expanding metallic stent versus trans-anal colorectal tube for stage II/III non-right-sided obstructive colon cancer.** *J Gastroenterol.* **58(3)**: 217-228. 2023.
- Kojima Y, Tanaka M, Sasaki M, Ozeki K, Shimura T, Kubota E, Kataoka H. **Induction of Ferroptosis by Photodynamic Therapy and Enhancement of Antitumor Effect with Ferroptosis inducers.** *Journal of Gastroenterology.* **59(2)**: 81-94 . 2023.
- Ozeki K, Katano T, Tanida S, Kataoka H. **Pyostomatitis Vegetans and Pyoderma Gangrenosum after Total Colectomy.** *Intern Med.* **62(4)**: 661-663. 2023.
- Sasaki M, Tanaka M, Kojima Y, Nishie H, Shimura T, Kubota E, Kataoka H. **Anti-tumor immunity enhancement by photodynamic therapy with talaporfin sodium and anti-programmed death 1 antibody.** *Mol Ther Oncolytics.* **2:28**:118-131.2023.
- Sugimura N, Kubota E, Mori Y, Aoyama M, Tanaka M, Shimura T, Tanida S, Johnston RN, Kataoka H. **Reovirus combined with a STING agonist enhances anti-tumor immunity in a mouse model of colorectal cancer.** *Cancer Immunol Immunother.* **72(11)**: 3593-3608. 2023.

- Kanno T, Katano T, Ogawa I, Iwao T, Matsunaga T and Kataoka H. **Protective Effect of Irsogladine against Aspirin-Induced Mucosal Injury in Human Induced Pluripotent Stem Cell-Derived Small Intestine**. *Medicina*. **59(1)**: 92. 2023.
- Yoshida M, Yukawa H, Hayashi K, Naitoh I, Miyabe K, Hori Y, Natsume M, Jinno N, Kato A, Kachi K, Asano G, Sahashi H, Toyohara T, Kuno K, Kito Y, Kondo H, Hirano A, Okumura F, Anbe K, Baba Y, Kataoka H, Tanaka Y. **Clinical impact of bile-derived exosomal microRNAs as novel diagnostic and prognostic biomarkers for biliary tract cancers**. *Cancer Sci*. **114(1)**: 295-305, 2023.
- Yoshida M, Naitoh I, Hayashi K, Hori Y, Kato A, Kachi K, Asano G, Sahashi H, Toyohara T, Kuno K, Kito Y, Kataoka H. **Theoretical step approach with ‘Three-pillar’ device assistance for successful endoscopic transpapillary gallbladder drainage**. *PloS One*. **18(2)**: 2023.
- Inoue T, Yoshida M, Suzuki Y, Kitano R, Urakabe K, Haneda K, Okumura F, Naitoh I. **Comparison of the long-term outcomes of EUS-guided gallbladder drainage and endoscopic transpapillary gallbladder drainage for calculous cholecystitis in poor surgical candidates: a multicenter propensity score-matched analysis**. *Gastrointest Endosc*. **98(3)**: 362-370, 2023.
- Inoue T, Suzuki Y, Yoshida M, Naitoh I, Okumura F, Kitano R, Haneda K, Hayashi K, Yoneda M. **Long-Term Impact of Endoscopic Gallbladder Stenting for Calculous Cholecystitis in Poor Surgical Candidates: A Multi-center Comparative Study**. *Dig Dis Sci*. **68(4)**: 1529-1538, 2023.
- Kuno K, Hori Y, Matsuura K, Hayashi K, Naitoh I, Yoshida M, Kataoka H. **Intra-abdominal haemorrhage following an endoscopic retrograde cholangiopancreatography-related procedure: a rare complication**. *Endoscopy*. **55(S 01)**: E340-E341, 2023.
- Hori Y, Kato A, Kachi K, Ichino Y, Naitoh I, Yoshida M, Kataoka H. **Successful removal of a fractured pancreatic stent using a novel thin-tapered drill dilator**. *Endosc Int Open*. **11(11)**: E1078-E1079, 2023.
- Tokura J, Yoshio T, Hayashi S, Yamamoto M, Asai S, Yakushijin T, Ikezawa K, Nagaike K, Takagi T, Fujisawa T, Yamada T, Tsumura H, Maetani I, Hori Y, Ihara H, Matsunaga K, Kuwai T, Ito Y, Hasatani K, Komeda Y, Kurita A, Yamaguchi S, Maruyama H, Iwashita T, Takenaka M, Hosono M, Nishida T. **Medical radiation exposure during gastrointestinal enteral metallic stent placement: Post hoc analysis of the REX-GI study**. *JGH Open*. **7(12)**: 869-874, 2023.
- Hori Y, Kato A, Naitoh I, Hayashi K, Yoshida M, Kachi K, Kataoka H. **Use of a transpapillary stent as a guidepost for endoscopic ultrasound-guided pancreatic duct drainage in the treatment of disconnected pancreatic duct syndrome**. *Endoscopy*. **55(S 01)**: E262-E263, 2023.
- Hayashi S, Takenaka M, Kogure H, Yakushijin T, Nakai Y, Ikezawa K, Yamaguchi S, Fujisawa T, Tamaru Y, Maetani I, Maruyama H, Asai S, Takagi T, Nagaike K, Hori Y, Sumiyoshi T, Tsumura H, Doyama H, Yoshio T, Hara K, Abe S, Oda I, Kato M, Nebiki H, Mikami T, Miyazaki M, Matsunaga K, Hosono M, Nishida T. **A follow-up questionnaire survey 2022 on radiation protection among 464 medical staff from 34 endoscopy-fluoroscopy departments in Japan**. *DEN Open*. **3(1)**: e227. 2023.
- Kato A, Yoshida M, Hori Y, Kachi K, Sahashi H, Toyohara T, Adachi A, Kuno K, Kito Y, Kataoka H. **The novel technique of drainage stenting using a tapered sheath dilator in endoscopic ultrasound-guided biliary drainage**. *DEN Open*. **4(1)**: e303, 2023.

- Kato A, Yoshida M, Hori Y, Kachi K, Sahashi H, Adachi A, Kataoka H. **Basket-assisted method for removal of floating pancreatic stones by electronic hydraulic lithotripsy through peroral pancreatoscopy.** *Endosc Int Open.* **11(11)**: E1080-1081, 2023.
- Toyohara T, Yoshida M, Miyabe K, Hayashi K, Naitoh I, Kondo H, Hori Y, Kato A, Kachi K, Asano G, Sahashi H, Adachi A, Kuno K, Kito Y, Matsuo Y, Kataoka H. **Dual role of autotaxin as novel biomarker and therapeutic target in pancreatic neuroendocrine neoplasms.** *Cancer Science.* **114(12)**: 4571-4582, 2023..
- Tahata Y, Hikita H, Mochida S, Enomoto N, Ido A, Kuroda H, Miki D, Kurosaki M, Hiasa Y, Sakamori R, Kawada N, Yamashita T, Suda G, Yatsuhashi H, Yoshiji H, Kato N, Takami T, Nakao K, Matsuura K, Asahina Y, Itoh Y, Tateishi R, Nakamoto Y, Kakazu E, Terai S, Shimizu M, Ueno Y, Akuta N, Miyazaki M, Nozaki Y, Kabayama M, Sobue S, Moriuchi A, Miyaki T, Kodama T, Tatsumi T, Yamada T, Takehara T. **Posttreatment liver function, but not baseline liver function stratifies patient survival after direct-acting antiviral treatment in decompensated cirrhosis with hepatitis C virus.** *J Gastroenterol.* **58(12)**: 1211-1221, 2023.
- Suzuki T, Matsuura K (Corresponding author), Watanabe T, Matsui T, Ogawa S, Kawamura H, Kuno K, Fujiwara K, Nojiri S, Kataoka H, Tanaka Y. **Kinetics of iTACT-HbcrAg and -HbsAg assays in chronic hepatitis B patients with hepatitis B surface antigen seroclearance.** *J of Med Virol.* **95(9)**: e29109, 2023.
- Uojima H, Nakabayashi K, Yamasaki K, Sugiyama M, Ishii N, Shirabe K, Kyoutou T, Ueda K, Takahama Y, Tamaki N, Kurosaki M, Hidaka H, Kusano C, Amano K, Kawaguchi T, Taketomi A, Joshita S, Umemura T, Murakawa M, Asahina Y, Suzuki T, Matsuura K, NiShimura T, Iijima H, Sakamoto K, Ito K, Nishina S, Hino K, Toyoda H, Yatsuhashi H, Kage M, Mizokami M. **New chemiluminescent enzyme immunoassay for quantitative measurement of Mac-2 binding protein glycosylation isomer in chronic liver disease.** *J Gastroenterol.* **58(12)**: 1252-1260, 2023.
- Suzuki T, Matsuura K (Corresponding author), Suzuki Y, Okumura F, Nagura Y, Sobue S, Matoya S, Miyaki T, Kimura Y, Kusakabe A, Narahara S, Tokunaga T, Nagaoka K, Kuroyanagi K, Kawamura H, Kuno K, Fujiwara K, Nojiri S, Kataoka H, Tanaka Y. **Serum CXCL10 levels at the start of the second course of atezolizumab plus bevacizumab therapy predict therapeutic efficacy in patients with advanced BCLC stage C hepatocellular carcinoma: A multicenter analysis.** *Cancer Medicine.* **13(1)**: e6876, 2023.
- Ota M, Oiwa Y, Mki Y, Utaka I, Arima S, Matsuo Y, Makino T, Nojiri S. **Evaluation of capsules containing Valeriana fauriei root extract for sleep improvement: A randomized, double-blind, placebo-controlled, cross-over comparative trial Tradit.** *Kampo Med.* **10**: 177–184, 2023.
- Ota M, Oiwa Y, Mki Y, Utaka I, Arima S, Matsuo Y, Makino T, Nojiri S. **Safety evaluation of continuous administration of a high dose of Valeriana fauriei root extract in mice and in humans through an open-label study Tradit.** *Kampo Med.* **10**: 269–277, 2023.
- Ohue-Kitano R, Nonaka H, Nishida A, Masujima Y, Takahashi D, Ikeda T, Uwamizu A, Tanaka M, Kohjima M, Igarashi M, Katoh H, Tanaka T, Inoue A, Suganami T, Hase K, Ogawa Y, Aoki J and Kimura I. **Medium-chain fatty acids suppress lipotoxicity-induced hepatic fibrosis via the immunomodulating receptor GPR84.** *JCI Insight,* **8(2)**: e165469, 2023.
- Park G, Fukasawa K, Horie T, Masuo Y, Inaba Y, Tatsuno T, Yamada T, Tokumura K, Iwahashi S, Iezaki T, Kaneda K, Kato Y, Ishigaki Y, Mieda M, Tanaka T, Ogawa K, Ochi H, Sato S, Shi Y, Inoue H, Lee H, and Hinoi E. **I-Type amino acid transporter 1 in hypothalamic neurons in mice maintains energy and bone homeostasis.** *JCI Insight.* **8(7)**: e154925, 2023.

- Takemoto M, Hayashi A, Inaba Y, Tanaka T, Chun T, Hayashi H, Kasama K, Saiki A, Sasaki A, Okazumi S, Matsubara H, Tatsuno I. **Safety and effectiveness of metabolic surgery in older Japanese patients.** *Ann Gastroenterol Surg*, **7(5)**: 750-756, 2023.
- Jinno N, Yoshida M, Hayashi K, Naitoh I, Hori Y, Natsume M, Kataoka H. **Endoscopic ultrasound-guided biliary recanalization with a novel rendezvous inflated balloon-assisted technique for isolated bile leakage.** *Endoscopy*.**55(S 01)**: E813-E814. 2023.
- Kuraku S, Kaiya H, Tanaka T, and Hyodo S. **Evolution of Vertebrate Hormones and Their Receptors: Insights from Non-Osteichthyan Genomes.** *Annu. Rev. Anim. Biosci*, **11**:163-182, 2023

<名古屋市立大学医学部附属東部医療センター>

- Ban T, Kubota Y, Hayashi K, Takahama T, Sasoh S, Ando T, Joh T. **A novel technique of endoscopic introducer-assisted transpapillary gallbladder aspiration prior to drainage in a patient with acute cholecystitis.** *Endoscopy*. **55(S 01)**: E480-E481. 2023.
- Ban T, Hayashi K, Kubota Y, Urano M, Takahama T, Matsuo Y, Joh T. **Introducer-assisted endoscopic transpapillary gallbladder biopsy for indeterminate gallbladder fundal wall thickness.** *Endoscopy*. **55(S 01)**: E382-E383. 2023 .
- Kachi K, Naitoh I, Ban T, Hayashi K, Yoshida M, Hori Y, Natsume M, Kato A, Kito Y, Saito K, Matsuo Y, Kato H, Naiki-Ito A, Takahashi S, Notohara K, Kataoka H. **Concomitant Pancreatic Ductal Adenocarcinoma and Type 1 Autoimmune Pancreatitis: A Potential Issue in the Diagnosis of Carcinoma by Endoscopic Ultrasound-guided Fine-needle Biopsy.** *Intern Med*. **15;62(4)**: 545-551. 2023
- Yuki D, Matsuo Y, Keisuke N, Hiromichi M, Tomokatsu K, Yuichi H, Hiroyuki I, Kenta S, Tatsuya T, Mamoru M, Hiroyuki K, Michihiro Y, Itaru Na, Kazuki H, Ryo O, Hiroki T, Shuji T. **Simultaneous presentation and resection of esophageal cancer and metastasis to the pancreas: a case report with literature review.** *Mol Clin Oncol*.**17;20(1)**. 2023
- Matoya S, Suzuki T, Matsuura K, Suzuki Y, Okumura F, Nagura Y, Sobue S, Kuroyanagi K, Kusakabe A, Koguchi H, Hasegawa I, Miyaki T, Tanaka Y, Kondo H, Kimura Y, Ozasa A, Kawamura H, Kuno K, Fujiwara K, Nojiri S, Kataoka H; **Sakurayama Liver Study Group (SLSG).** **The neutrophil-to-lymphocyte ratio at the start of the second course during atezolizumab plus bevacizumab therapy predicts therapeutic efficacy in patients with advanced hepatocellular carcinoma: A multicenter analysis.** *Hepatol Res*. **53(6)**: 511-521.2023.
- Kurimoto J, Takagi H, Miyata T, Kawaguchi Y, Hodai Y, Tsumura T, Hagiwara D, Kobayashi T, Yasuda Y, Sugiyama M, Onoue T, Iwama S, Suga H, Banno R, Katsuki T, Ando F, Uchida S, Arima H. **Mineralocorticoids induce polyuria by reducing apical aquaporin-2 expression of the kidney in partial vasopressin deficiency.** *Endocrine Journal*. **70**: 295-304. 2023
- Miwata T, Suga H, Kawaguchi Y, Sakakibara M, Kano M, Taga S, Soen M, Ozaki H, Asano T, Sasaki H, Miyata T, Yasuda Y, Kobayashi T, Sugiyama M, Onoue T, Takagi H, Hagiwara D, Iwama S, Arima H. **Generation of hypothalamic neural stem cell-like cells in vitro from human pluripotent stem cells.** *Stem Cell Reports*. **18**: 869-883. 2023.

<名古屋市立大学医学部附属西部医療センター>

- Mori Y, Nishikawa SG, Fratiloiu AR, Tsutsui M, Kataoka H, Joh T, Johnston RN. **Modulation of Reoviral Cytolysis (I): Combination Therapeutics.** *Viruses*. **15(7)**: 1472, 2023.
- Matoya S, Suzuki T, Matsuura K, Suzuki Y, Okumura F, Nagura Y, Sobue S, Kuroyanagi K, Kusakabe A, Koguchi H, Hasegawa I, Miyaki T, Tanaka Y, Kondo H, Kimura Y, Ozasa A, Kawamura H, Kuno K, Fujiwara K, Nojiri S, Kataoka H;Sakurayama Liver Study Group

(SLSG). **The neutrophil-to-lymphocyte ratio at the start of the second course during atezolizumab plus bevacizumab therapy predicts therapeutic efficacy in patients with advanced hepatocellular carcinoma: A multicenter analysis.** Hepatol Res. **53(6)**: 511-521, 2023.

- Watanabe K, Nojima M, Nakase H, Sato T, Matsuura M, Aoyama N, Kobayashi T, Sakuraba H, Nishishita M, Yokoyama K, Esaki M, Hirai F, Nagahori M, Nanjo S, Omori T, Tanida S, Yokoyama Y, Mori Ya K, Maemoto A, Handa O, Ohmiya N, Tsuchiya K, Shinzaki S, Kato S, Uraoka T, Tanaka H, Takatsu N, Nishida A, Umeno J, Nakamura M, Mishima Y, Fujiya M, Tsuchida K, Hiraoka S, Okabe M, Toyonaga T, Matsuoka K, Andoh A, Hirota Y, Hisamatsu T, on behalf of the J-COMBAT study group. **Trajectory analyses to identify persistently low responders to COVID-19 vaccination in patients with inflammatory bowel disease: a prospective multicentre controlled study, J-COMBAT.** Japanese Society of Gastroenterology. **58(10)**: 1015-1029, 2023

<名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院>

- Kubota K, Oguchi T, Fujimori N, Yamada K, Naitoh I, Okabe Y, Iwasaki E, Masamune A, Ikeura T, Kamisawa T, Inoue D, Kumagi T, Ogura T, Kodama Y, Katanuma A, Hirano K, Inui K, Isayama H, Sakagami J, Nishino T, Kanno A, Kurita Y, Okazaki K, Nakamura S; Collaborators. **Steroid therapy has an acceptable role as the initial treatment in autoimmune pancreatitis patients with pancreatic cyst formation: Based on a Japanese nationwide study.** J Hepatobiliary Pancreat Sci. **30(5)**: 664-677, 2023
- Kubota K, Kamisawa T, Nakazawa T, Tanaka A, Naitoh I, Kurita Y, Takikawa H, Unno M, Kawa S, Masamune A, Nakamura S, Okazaki K; Collaborators. **Reducing relapse through maintenance steroid treatment can decrease the cancer risk in patients with IgG4-sclerosing cholangitis: Based on a Japanese nationwide study.** J Gastroenterol Hepatol. **38(4)**: 556-564, 2023
- Naitoh I, Hori Y. **Can large duodenal covered metal stents reduce the risk of stent migration?** Dig Endosc. **35(1)**: 122-123, 2023
- Naitoh I, Inoue T. **Optimal endoscopic drainage strategy for unresectable malignant hilar biliary obstruction.** Clin Endosc. **56(2)**:135-142, 2023

【和文業績】

<名古屋市立大学>

- 西垣 瑠里子、片岡 洋望. **免疫チェックポイント阻害薬関連有害事象 (irAE) と考えられた胃炎の2例.** 潰瘍. **50**: 14-17, 2023.
- 管野 琢也、片野 敬仁、西垣 瑠里子、尾関 啓司、久保田 英嗣、片岡 洋望. **ヒト iPS 細胞由来腸管上皮を用いたアスピリン小腸粘膜傷害モデルの樹立-イルソグラジンの粘膜保護作用の検討.** 学会誌「潰瘍」. **50**: 35-40, 2023
- 松崎 一平、川平 洋、堀 寧、斎藤 真. **医療労働関連 MSDs 研究部会主催 第1回 医療 MSDs 懇話会.** 人間工学. **59(1)**: 41-42, 2023
- 鈴木 孝典、松浦 健太郎 (corresponding author)、水野 晶紫、名倉 義人、藤原 圭、片岡 洋望. **B型慢性肝炎に対してテノホビル・アラフェナミド投与中に Fanconi 症候群が再燃した1例.** 肝臓. **64(2)**:59-65, 2023
- 掛地 吉弘、伊東 文生、片岡 洋望. 佐竹 悠良. **コアシンポジウム総括 消化管腫瘍の新展開 2021~2023.** 日本消化管学会雑誌. **7(1)**, 43-51, 2023.
- 松浦 健太郎、田中 靖人. **肝疾患に関わる遺伝子多型.** 臨床検査 Vol.67 NO.10 1064-1070. 2023
- 田中 智洋. **肥満症専門医に聞く 肥満症診療における対話の重要性と栄養士の役割.** 臨床栄養 **142(1)**:90-93, 2023.

- ・ 田中 智洋. 序文 総説企画 **最新消化管ホルモン学—肥満症薬物療法の近未来像と展望を語る**. 肥満研究 **29(3)**: 75, 2023
- ・ 青谷 大介. **グレリン:体組成異常治療の突破口となるか? 刺激と阻害の生理学と薬理学**. 総説企画 最新消化管ホルモン学—肥満症薬物療法の近未来像と展望を語る. 肥満研究 **29(3)**: 102-106, 2023
- ・ 田中 智洋. 第2特集 **肥満糖尿病患者とのかかわりかたについて考える**. 糖尿病ケアプラス **20巻4号** pp76-77 1.総論 メディカ出版 2023.
- ・ 青谷 大介 (分担執筆). 第2特集 **肥満糖尿病患者とのかかわりかたについて考える** 糖尿病ケアプラス **20巻4号** pp84-87 メディカ出版 2023.
- ・ 片岡 洋望. **H. pylori 感染胃炎**. 今日の治療指針 2023年 **P. 468-9**, 全2121頁
- ・ 久保田 英嗣. **ストレスと胃の病気**. 名市大ブックス **13**. 2023
- ・ 田中 智洋 (分担執筆). 名市大ブックス **13 ストレスとは?~あなたに合う生き方のヒント**. 名市大ブックス **13pp68-75** ストレスと糖尿病の切っても切れない関係. 中日新聞社 名古屋市立大学 編 2023

<名古屋市立大学医学部附属東部医療センター>

- ・ 平山 陽太, 林 香月, 近藤 啓, 内藤 格, 吉田 道弘, 堀 寧. **肝尾状葉病変に対する超音波内視鏡下穿刺吸引法の有用性**. 日本胆道学会誌 Video Report **37(4)**: 825- 827, 2023
- ・ 高木 博史. **中枢性尿崩症の病態と治療**. 糖尿病・内分泌代謝科. **56(5)**, 604-609, 2023
- ・ 高木 博史. **抗利尿ホルモン不適合分泌症候群 (SIADH)**. Medical Practice **40(7)**, 1087-1091, 2023
- ・ 林 香月. 特集 **10年前の常識は非常識!? イマドキ消化器診療にアップデート疾患【膵癌】** Medicina **60(1)** 165-169 2023.
- ・ 伊藤 恵介. 特集 **10年前の常識は非常識!? イマドキ消化器診療にアップデート疾患【胃・十二指腸潰瘍 (消化性潰瘍)】** Medicina **60(1)** 76-81 2023.
- ・ 伊藤 恵介. 特集 **症例から読み解く 高齢者診療ステップアップ 目で見るとレーニング EB ウィルス関連胃癌** Medicina **60(9)** 1540 2023.
- ・ 林 香月. 日本臨床検査医学会「臨床検査のガイドライン JSLM2024」第2章 症候 題目: 黄疸 182-185 2023

<名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院>

- ・ 内藤 格, 中沢 貴宏. **IgG4 関連硬化性胆管炎の診断と治療**. 胆道. **37**; 831-838, 2023
- ・ 内藤 格, 中沢 貴宏, 能登原 憲司, 吉田 道弘, 堀 寧, 片岡 洋望. **自己免疫性膵炎における内視鏡診断の位置づけ**. 臨床消化器内科. **38**; 1640-1646, 2023.
- ・ 内藤 格, 井上 匡央, 吉田 道弘. **肝門部 SEMS 留置手技 (Side by side) の実際とコツ (動画付)**. 胆と膵. **44** 臨時増刊特大号; 1069-1074, 2023
- ・ 内藤 格, 中沢 貴宏. **自己免疫性膵炎および IgG4 関連硬化性胆管炎の診断における内視鏡的逆行性胆管膵管造影法と胆管腔内超音波検査法**. 超音波医学. **50**; 47-54, 2023

- ・ 西江 裕忠、片岡 洋望. 高齢者の消化器疾患 憩室症. 日本臨牀. 81 ; 284-290, 2023
- ・ 内藤 格、中沢 貴宏、林 香月、吉田 道弘. 非腫瘍性疾患病理アトラス 内視鏡による胆道検査法と病理検体の採取. 文光堂 159-164、2023

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	片岡 洋望	29(1)	22	7
教授	野尻 俊輔	6	6	0
教授	谷田 論史	3	3	0
准教授	久保田 英嗣	5(1)	3	2
准教授	藤原 圭	5	4	1
准教授	田中 智洋	8(4)	4	4
准教授	志村 貴也	9(1)	9	0
講師	青谷 大介	2(2)	0	2
講師	松浦 健太郎	9(4)	7(2)	2(2)
講師	尾関 啓司	3(1)	2	1
講師	吉田 道弘	13(7)	12	1
助教	小山 博之	0	0	0
助教	田中 守	5(2)	5	0
助教	堀 寧	14(3)	13	1
助教	加藤 晃久	8(4)	8	0
助教	水野 裕介	0	0	0
助教	杉村 直美	2(1)	2	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	林 香月	14(3)	10	4(3)
准教授	伊藤 恵介	3	1	2 (2)
准教授	近藤 啓	5	4	1
准教授	高木 博史	4(1)	2(1)	2(2)
助教	宮澤 怜加	0	0	0
助教(診療担当)	中林 廉太	0	0	0
助教(診療担当)	中川 真里絵	0	0	0
助教(診療担当)	伊勢村 昌也	0	0	0
助教(診療担当)	猪飼 千咲	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	今枝 憲郎	0	0	0
准教授	土田 研司	1	1	0
准教授	木村 吉秀	0	0	0
准教授	森 義徳	2(1)	2	0
助教	北川 美香	0	0	0

助教	梶 昭太	0	0	0
助教(診療担当)	今津 充季	0	0	0
助教(診療担当)	富田 優作	0	0	0
助教(診療担当)	荒川 耕平	0	0	0
助教(診療担当)	富田 優作	0	0	0
助教(診療担当)	金岩 弘樹	0	0	0
助教(診療担当)	中井 俊介	0	0	0
助教(診療担当)	前田 英貴	0	0	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（みどり）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	内藤 格	20(9)	14	6
准教授	西江 裕忠	2(1)	1	1
助教	浅野 剛	3	3	0
助教	野尻 優	1	1	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（みらい）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授(診療担当)	妹尾 恭司	0	0	0
准教授	菅内 文中	0	0	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

<名古屋市立大学>

- ・ 西垣 瑠里子. **日本潰瘍学会**. 第50回潰瘍学会. 優秀演題賞. 免疫チェックポイント阻害薬関連有害事象(irAE)と考えられた胃炎の2例, 2023/2/5
- ・ Sasaki Makiko. Top 10% of all AGA abstracts selected for poster presentation, Digestive Disease Week, 2023/5/8
- ・ 田中 智洋. **IMPROVE2023 (Paris)** RUNNER UP ポスター賞. BMI Distribution and Obesity Prevalence
- ・ in Patients with Pituitary Dysfunction — A Single Centre Study Japan
- ・ 鈴木 孝典. AbbVie Elimination Award 2023 優秀研究賞
- ・ 鈴木 孝典. 第146回 名古屋肝疾患研究会. 優秀演題賞
- ・ 鈴木 孝典. 第36回 日本消化器病学会. 日本消化器病学会奨励賞
- ・ 井村 尚斗. **日本内科学会**. 第249回東海地方会. 優秀演題賞
- ・ 菅野 琢也. GI bioregulation 学会. Best presenter 賞 優秀賞. 2023/1
- ・ 久我 祐介. **日本神経内分泌学会** 第22回若手研究奨励賞(YIA). 肥満症患者における脳領域特異的炎症と内科減量治療の影響—MRIによる解析. (指導医：青谷大介、田中 智洋)

<名古屋市立大学医学部附属東部医療センター>

- ・ 平山陽太（指導医：林 香月）. 『研修医・専攻医奨励賞』受賞 当院における高トリグリセリド血症に伴う急性膵炎（HTG-AP）の現状. 第138回日本消化器病学会東海支部例会. 2023/06/17
- ・ 第110回日本消化器病学会総会（2024/5/9～11日（徳島）に招待され優秀演題として発表予定）
- ・ 神谷昌宏（指導医：林 香月）. 『研修医・専攻医奨励賞』受賞. 成人Wilson病の1例. 第139回日本消化器病学会東海支部例会. 2023/11/18
- ・ 小林彩香（指導医：林 香月）. 『若手研究者優秀演題奨励賞』受賞. 繰り返す感染性肝嚢胞に対するLAMSによる超音波内視鏡下嚢孔形成術の1例. 第66回日本消化器内視鏡学会東海支部. 2023/12/02
- ・ 佐藤 椋（指導医：林 香月）. 『若手研究者優秀演題奨励賞』胆道鏡にて閉塞性黄疸を来す胆管壁内嚢胞を確認し経乳頭の嚢胞開窓術を施行した1例. 第66回日本消化器内視鏡学会東海支部. 2023/12/02
- ・ 第107回日本消化器内視鏡学会総会（2024/5/30日～6/1（品川）に招待され優秀演題として発表予定）
- ・ 神谷 昌宏（指導医：近藤 啓）. 『若手研究者優秀演題奨励賞』受賞. 保存的治療にて改善しえたSB(Sengstaken-Blakemore)チューブによる医原性食道穿孔の1例. 66回日本消化器内視鏡学会東海支部例会. 2023/12/02 ウィンクあいち
- ・ 山本 純也. 第96回日本内分泌学会学術総会. 愛・内分泌賞 W-411 嗅神経芽細胞腫による異所性ACTH症候群の一例. 2023/7
- ・ 2023年度 日本胆道学会賞受賞論文（2024年 日本胆道学会で授賞式）雑誌名（巻号）：胆道 37巻4号 825～827（2023）論文名：肝尾状葉病変に対する超音波内視鏡下穿刺吸引法の有用性 <Video Report> 著者名：平山 陽太、林 香月（責任者）、近藤 啓、内藤 格、吉田 道弘、堀 寧

<名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院>

- ・ 内藤 格. DEN Best Reviewers Award 2022. 2023/5

【外部資金獲得実績】

<名古屋市立大学>

- ・ 片岡 洋望. 受託研究費（AMED・代表）. 令和5年度、5,000千円.
- ・ 片岡 洋望. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和5年度～令和7年度、1,820千円/4,680千円.
- ・ 片岡 洋望. 共同研究費（富士フイルム株式会社）. 令和5年度～令和7年度、500千円.
- ・ 福定 繁紀. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和5年度～令和7年度、1,430千円/4,680千円
- ・ 田中 守. 文部科学省科学研究費（基盤C）. 令和5年度～令和7年度、1,400千円/4,290千円
- ・ 田中 守. 公益財団法人 内視鏡医学研究振興財団 内視鏡医学研究医海外派遣助成. 令和5年度、250千円
- ・ 佐々木 槇子. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和5年度～令和6年度、4,680千円

- ・ 志村 貴也. 文部科学省研究費（基盤 C・代表）. 令和 3 年度-令和 5 年度、900 千円/4,160 千円
- ・ 志村 貴也. 研究助成金（一般財団法人日本消化器病学会）. 令和 5 年度-令和 7 年度、1,000 千円/3,000 千円
- ・ 志村 貴也. 研究助成金（公益財団法人豊秋奨学会）（2022 年 4 月-2024 年 3 月）、2,200 千円
- ・ 志村 貴也. 文部科学省研究費（基盤 C・分担）. 令和 5 年度-令和 6 年度、「膵液リキッドバイオプシー研究：エクソソーム解析による膵疾患新規バイオマーカー開拓」、100 千円/300 千円
- ・ 吉田 道弘. 文部科学省科学研究費（基盤 C）. 令和 5 年度-令和 7 年度、総額 4,680 千円. 膵液リキッドバイオプシー研究：エクソソーム解析による膵疾患新規バイオマーカー開拓
- ・ 近藤 啓. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 5 年度-令和 7 年度、1,100 千円/4,680 千円.
- ・ 吉田 道弘. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 5 年度、300 千円
- ・ 吉田 道弘. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 2 年-令和 5 年、4,290 千円.
- ・ 宮部 勝之. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 4 年度-令和 6 年度、500 千円/4,160 千円.
- ・
- ・ 吉田 道弘. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 4 年度-令和 6 年度、100 千円/4,160 千円.
- ・
- ・ 吉田 道弘. 研究助成金（公益財団法人日本膵臓病研究財団）. 700 千円.
- ・ 堀 寧. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 4 年度-令和 6 年度、総額 4,160 千円. 人間工学に基づいた、新発想の X 線防護衣の開発
- ・ 堀 寧. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和 4 年度-令和 6 年度、1,300 千円/4,680 千円.
- ・ 堀 寧. 文部科学省科学研究費（基盤 B・分担）. 令和 5 年度-令和 7 年度、200 千円/18,720 千円.
- ・ 堀 寧. 研究助成金（公益財団法人内視鏡医学研究振興財団）. 令和 4 年度-令和 5 年度. 500 千円.
- ・ 堀 寧. 研究助成金（堀科学芸術振興財団）. 令和 5 年度-令和 6 年度、2,000 千円.
- ・ 堀 寧. 研究助成金（公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団）. 令和 5 年度-令和 6 年度.
- ・ 加藤 晃久. 文部科学省科学研究費（若手研究・代表）. 令和 4 年度-令和 6 年度、1,200 千円/468 万円.
- ・ 松浦 健太郎. 文部科学省科学研究費（基金）. 令和 5 年度-令和 7 年度、1,300 千円/4,680 千円
- ・ 松浦 健太郎. 受託研究費（AMED・分担）. 令和 5 年度、800 千円

- ・ 鈴木 孝典. 研究助成金（豊秋奨学金）. 令和5年度-令和7年度、1,500千円
- ・ 河村 逸外. 研究助成金（東洋医学研究財団）. 令和5年度-令和6年度、800千円.
- ・ 田中 智洋. 科学研究費補助金（基盤C・代表）. 令和4年度-令和6年度、1,100千円/4,160千円.
- ・ 青谷 大介. 文部科学省科学研究費（代表・基盤C）. 令和4年度-令和8年度、1,000千円/4,290千円.
- ・ 小山 博之. 文部科学省科学研究費（分担・基盤C）. 令和4年度-令和8年度、1,000千円
- ・ 田中 智洋. 文部科学省科学研究費（分担・基盤C）. 令和4年度-令和8年度、1,000千円
- ・ 竹田 勝志. 文部科学省科学研究費（若手研究・代表）. 令和5年度-令和8年度1,100千円/4,810千円.
竹田 勝志. 文部科学省科学研究費（基金）. 令和4年度-令和5年度、1,100千円/2,200千円.
- ・ 田中 智洋. 研究助成金（喫煙科学研究財団）. 令和5年度、2,000千円.

<名古屋市立大学医学部附属西部医療センター>

- ・ 北川 美香. 学術研究助成基金助成金（科学研究費助成事業 基盤研究C）. 令和2年度-令和6年度、4,290千円
- ・ 北川 美香. 特別研究奨励費（科学研究費獲得活性化事業）. 令和5年度-令和6年度、250千円

<名古屋市立大学医学部附属東部医療センター>

- ・ 林 香月. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和4年度-令和6年度、3,200千円. 人間工学に基づいた、新発想のX線防護衣の開発
- ・ 近藤 啓. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和5年度-令和6年度、3,200千円. 膵神経内分泌腫瘍における新規 Theragnostic target の解明：オートタキシンへの期待
- ・ 高木 博史. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度-令和5年度、1,430千円/4,030千円
- ・ 高木 博史. 厚生労働科学研究費（分担）. 令和5年度、250千円

【全国学会発表】

<桜山>

- ・ 志村 貴也、奥田 悠介、片岡 洋望. パネルディスカッション1：食道癌バイオマーカー・予後因子における臨床的意義と治療応用. PD1-6. 「食道癌早期診断をめざした新規尿中miRNAバイオマーカー」. 第77回日本食道学会学術総会. 大阪国際会議場（大阪）. 2023/6/29
- ・ Shimura T, Iwasaki H, Kataoka H. シンポジウム1（英語）：Innovative synergy in the collaboration of surgical and endoluminal approaches. 「The current status of laparoscopy endoscopy cooperative surgery for nonampullary duodenal tumors」. 第105回日本消化器内視鏡学会総会. グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール（東京）&オンライン開催. 2023/5/25

- ・ 岩崎 弘靖、志村 貴也、片岡 洋望. パネルディスカッション1：高齢者消化管腫瘍に対する内視鏡治療の現状と予後。「高齢者における pT1 大腸癌に対する治療戦略」. 第 109 回日本消化器病学会総会. 出島メッセ長崎（長崎）. 2023/4/6
- ・ Iwasaki H, Shimura T, Kataoka H. Poster：消化器 8（大腸 2）. 「The order of TAS-102 and regorafenib for refractory metastatic colorectal cancer」. JSM02023：第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会国立京都国際会館.（福岡）2023/3/18
- ・ 西垣 瑠里子、尾関 啓司、片岡 洋望. シンポジウム：免疫チェックポイント阻害薬関連有害事象（irAE）と考えられた胃炎の 2 例. 第 50 回日本潰瘍学会/第 19 回消化管学会総会学術集会. 2023/2/4-5 東京
- ・ 田中 守、佐々木 槇子、小島 悠揮、西江 裕忠、尾関 啓司、志村 貴也、久保田 英嗣、片岡 洋望. ワークショップ 2 高齢者・フレイル食道癌患者に対する光線力学療法の有効性. 第 77 回日本食道学会学術集会. 2023/6/29 大阪
- ・ 小島 悠揮、田中 守、佐々木 槇子、片岡 洋望. JPA シンポジウム 2 Photodynamic therapy (PDT)における ferroptosis 誘導と ferroptosis 誘導剤併用における抗腫瘍効果の検討. 2023/11/25 東京
- ・ 佐々木 槇子. コアシンポジウム 2 消化管腫瘍の新展開・治療効果の診断と治療法選択 光線力学療法による癌免疫誘導と免疫チェックポイント阻害薬併用による相乗効果. 第 19 回日本消化管学会総会学術集会. 2023/2/4 東京
- ・ 佐々木 槇子. Poster Sessions タラポルフィン PDT と STING アゴニストの併用による抗腫瘍効果の検討. 第 82 回日本癌学会学術総会. 2023/9/22 神奈川
- ・ 佐々木 槇子. JPA&JPNS 合同シンポジウム 癌免疫活性化を目指した免疫チェックポイント阻害薬併用光線力学療法の検討. 2023/11/25 東京
- ・ 杉村 直美、志村 貴也、佐々木 槇子、奥田 悠介、福定 繁紀、水野 裕介、岩崎 弘靖、西江 裕忠、田中守、片岡 洋望. Poster「消化器（大腸1）」リアルワールドにおける高齢者切除不能再発大腸癌に対する薬物治療戦略. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2023/3/18 福岡
- ・ デジタルポスターセッション消 043/大腸（腫瘍）2
- ・ 杉村 直美、志村 貴也、西垣 瑠里子、黒柳 恵太、佐々木 槇子、福定 繁紀、水野 裕介、岩崎 弘靖、田中 守、片岡 洋望. MSI-H 大腸癌に対する免疫チェックポイント阻害剤の治療成績 ～ステージ 3 大腸癌に対する有効性もふくめて～. 第 31 回日本消化器関連学会週間（JDDW2023）. 2023/11/3 神戸
- ・ 管野 琢也、片野 敬仁、片岡 洋望. シンポジウム 2 ヒト iPS 細胞由来腸管上皮を用いたアスピリン小腸粘膜傷害モデルの樹立-イルソグラジンの粘膜保護作用の検討. GI week 2023. 2023/2/4 東京
- ・ 吉田 道弘、田中 靖人、片岡 洋望. (ワークショップ)胆道癌における胆汁中エクソソーム miRNA 新規バイオマーカー. 第 109 回消化器病学会総会. 2023/4/6 長崎
- ・ 吉田 道弘、内藤 格、片岡 洋望. (パネルディスカッション) 経口胆道・膵管鏡の新技术：3Fr. マイクロカテーテルを用いた選択的カニューレーション法. 第 105 回消化器内視鏡学会総会. 2023/5/25 東京
- ・ Yoshida M, Toyohara T, Sahashi H, Kato A, Kataoka H, Tanaka Y. (English oral presentation) Bile-derived exosomal miR-451a and miR-3619-3p represents valuable diagnostic markers for biliary tract cancers. 第 82 回日本癌学会学術総会. 2023/9/23 横浜
- ・ 吉田 道弘、内藤 格、堀 寧、加藤 晃久、加地 謙太、浅野 剛、佐橋 秀典、豊原 祥資、久野 佳世子、鬼頭 佑輔、片岡 洋望. (デジタルポスター) 胆膵病変に対

する 3Fr. マイクロカテーテルを用いた内視鏡診療の新展開. JDDW2023.
2023/11/4 神戸

- 山田 颯人、稲場 彩香、榎原 毅、堀 寧、林 香月、山田 泰之. (一般演題) 内視鏡医の放射線防護衣による着用中の負担を軽減する防護衣補助具の開発. 日本人間工学学会第 64 回大会. 2023/8/31 千葉
- 山田 颯人、稲場 彩香、榎原 毅、堀 寧、林 香月、山田 泰之. (一般演題) 医療放射線防護衣による負担を軽減する補助具の開発. ROBOMECH2023 in Nagoya. 2023/6/30 名古屋
- 加藤 晃久、吉田 道弘、片岡 洋望. (ワークショップ) EUS 下ドレナージにおける内視鏡用シースイントロデューサーで目指す安全かつ確実なステント留置の確立. 第 105 回日本消化器内視鏡学会総会. 2023/5/27 東京
- 加藤 晃久、内藤 格、林 香月、吉田 道弘、堀 寧、加地 謙太、浅野 剛、佐橋 秀典、豊原 祥資、鬼頭佑輔、片岡 洋望. (一般演題) 悪性胆管狭窄診断における胆管擦過デバイスの細胞採取量の定量解析. 第 109 回日本消化器病学会総会. 2023/4/8 長崎
- 鬼頭 佑輔、大岩 拓矢、浦壁 憲司、貫井 嵩之、鈴木 健人、蓑輪 彬久、鈴木 雄太、羽根田 賢一、水島 隆史、奥村 文浩. (一般演題) 術前診断により過大手術侵襲を回避し得た胆嚢内乳頭状腫瘍(ICPN : Intracystic papillary neoplasm of gallbladder) の 1 例. 第 109 回日本消化器病学会総会. 2023/4/6 長崎
- Kato A, Sahashi H, Yoshida M, Kataoka H. (ポスター発表) Inhibition of tyrosine kinase receptor RON suppresses invasive behavior by regulating hypoxia inducible factor 1 alpha in pancreatic cancer. (膵癌の腫瘍進展における RON 受容体と HIF1a の関連性). 第 82 回日本癌学会学術総会. 2023/9/23 横浜
- Kato A, Yoshida M, Kataoka H. (International Session) Drainage stenting with a tapered sheath dilator prevents bile leakage in endoscopic ultrasound-guided biliary drainage. 第 31 回日本消化器関連学会週間(JDDW 2023). 2023/11/3 神戸
- 加地 謙太、吉田 道弘、内藤 格. (デジタルポスター34/胆汁漏 2) 当院における術後胆汁漏の内視鏡的治療成績および難症例に対する集学的治療の実績. 第 59 回日本胆道学会学術総会. 2023/9/14 札幌
- 加地 謙太、内藤 格、鬼頭 佑輔、豊原 祥資、久野 佳世子、佐橋 秀典、浅野 剛、加藤 晃久、堀 寧、吉田 道弘、片岡 洋望. (デジタルポスター75/自己免疫性膵炎 2) 自己免疫性膵炎に対するステロイドパルス療法の有効性と安全性の検討. 第 65 回日本消化器病学会大会. 2023/11/4 神戸 (JDDW)
- 豊原 祥資、吉田 道弘、片岡 洋望. (ワークショップ 11. 膵神経内分泌腫瘍診療の進歩) 「膵神経内分泌腫瘍におけるオートタキシンの診断マーカーおよび治療ターゲットの可能性」. 第 109 回日本消化器病学会総会. 2023/4/8 長崎
- 豊原 祥資、吉田 道弘、宮部 勝之、鬼頭 佑輔、佐橋 秀典、浅野 剛、加地 謙太、加藤 晃久、堀 寧、内藤 格、片岡 洋望. (パネルディスカッション 2. 膵神経内分泌腫瘍のバイオマーカーの展望) 「膵神経内分泌腫瘍におけるオートタキシンの新規 Theranostics target としての可能性」. 第 54 回日本膵臓学会大会 2023/7/21. 博多
- Toyohara T, Yoshida M, Miyabe K, Kito Y, Adachi A, Kuno K, Sahashi H, Kachi K, Kato A, Hori Y, Kataoka H. (English oral presentation) Autotaxin as a novel potential target of 'Theranostics' for pancreatic neuroendocrine neoplasms. 第 82 回日本癌学会学術総会. 2023/9/23 横浜

- Toyohara T, Yoshida M, Kataoka H. (ワークショップ8. 肝胆膵希少疾患の診療体系の構築) 「The utility of autotaxin as a target of ‘theranostics’ for pancreatic neuroendocrine neoplasms」. JDDW2023 2023/11/2 神戸
- 藤原 圭、野尻 俊輔、木村 吉秀. B型肝炎ウイルスにおけるN6メチルアデノシン修飾モチーフ配列の保存性に関する検討. 第59回日本肝臓学会総会. 2023/6/16 奈良コンベンションセンター 奈良
- 鈴木 孝典、河村 逸外、久野 佳世子、松浦 健太郎、藤原 圭、片岡 洋望、田中 靖人. 病態別HBsAg消失例における高感度HBコア関連抗原測定の意味. 第109回日本消化器病学会総会. 2023/4/7 出島メッセ長崎 長崎市
- 松浦 健太郎、名倉 義人、田中 靖人. (パネルディスカッション6) DAA治療後の血清CXCL10高値はSVR後の肝線維化非改善に関連する. 第59回日本肝臓学会総会. 2023/6/15 奈良コンベンションセンター 奈良
- 的屋 奨、鈴木 孝典、松浦 健太郎、鈴木 雄太、奥村 文浩、名倉 義人、祖父江 聡、日下部 篤宣、長谷川 泉、宮木 知克、田中 義人、近藤 啓、木村 吉秀、小笹 貴士、河村 逸外、藤原 圭、野尻 俊輔. 切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法中の好中球リンパ球比は治療効果を予測する. 第59回日本肝臓学会総会. 2023/6/16 奈良コンベンションセンター 奈良
- 河村 逸外、藤原 圭、鈴木 孝典、松浦 健太郎、木村 吉秀. 初発肝細胞癌に対する陽子線治療の成績・治療後経過についての検討. 第59回日本肝臓学会総会. 2023/6/16 奈良コンベンションセンター 奈良
- 鈴木 孝典、松浦 健太郎、藤原 圭. (シンポジウムSY3-8) HBV再活性化予防のために投与された核酸アナログ製剤中止条件の検討. 第59回日本肝臓学会総会. 2023/6/16 奈良コンベンションセンター 奈良
- 井上 貴子、鈴木 孝典、田守 昭博、松浦 健太郎、飯尾 悦子、長岡 克弥、立山 雅邦、瀬戸山 博子、吉丸 洋子、渡邊 丈久、田中 靖人. HBV再活性化診断における高感度iTACT抗原検査の臨床的意義. 第59回日本肝臓学会総会. 2023/6/15 奈良コンベンションセンター 奈良
- 鈴木 孝典、松浦 健太郎、田中 靖人. アテゾリズマブ・ベバシズマブ療法開始3週後の血清CXCL10値はBCLC stage Cの進行肝細胞癌患者の治療効果を予測する. 第27回日本肝臓学会大会. 神戸コンベンションセンター 2023/11/3
- 松浦 健太郎、鈴木 孝典、的屋 奨、鈴木 雄太、奥村 文浩、名倉 義人、祖父江 聡、加藤 大介、日下部 篤宣、長谷川 泉、宮木 知克、近藤 啓、木村 吉秀、小笹 貴士、河村 逸外、久野 佳世子、藤原 圭、野尻 俊輔. 切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法における治療効果予測因子の検討. 第27回日本肝臓学会大会. 神戸コンベンションセンター 2023/11/2
- 河村 逸外、松浦 健太郎、伊藤 孝一、田中 靖人、鈴木 孝典、藤原 圭. B型肝炎ウイルス母子感染ハイリスク妊婦への核酸アナログ投与経験. 第27回日本肝臓学会大会 神戸コンベンションセンター 2023/11/2
- 河村 逸外、松浦 健太郎、木村 吉秀、鈴木 孝典、藤原 圭. 初発肝細胞癌に対する陽子線治療例の検討 ～年齢、再発後次治療に着目して～. 第27回日本肝臓学会大会 神戸コンベンションセンター. 2023/11/3
- 野尻 俊輔. 基調講演 わが国における漢方医療の現状 ～名市大漢方医学センターの診療を含めて～. 第19回日本消化管学会総会学術集会 ワorkshop9 エビデンスに基づく漢方診療. 2023/2/4 京王プラザホテル

- ・ 田中 智洋. (共催セミナー) 多点を攻めて波動を制するー基礎インスリン/GLP-1配合注射剤への期待ー. 第26回日本病態栄養学会年次学術集会 共催セミナー. 2023/1/15 京都
- ・ 小山 博之、浜田 けい子、長谷川 千恵、清水 優希、久我 祐介、竹田 勝志、青谷 大介、田中 智洋. (一般口演) サルコペニアモデルマウスにおける耐糖能異常の病態解析. 第66回日本糖尿病学会年次学術集会. 2023/5/11 鹿児島
- ・ 田中 智洋. (共催セミナー) 異所性脂肪蓄積から考えるこれからの糖尿病治療. 第66回日本糖尿病学会年次学術集会 イブニングセミナー. 2023/5/12 鹿児島
- ・ 竹本 稔、林 愛子、稲葉 洋介、田中 智洋、全 泰和、林 秀樹、笠間 和典、齋木 厚人、佐々木 章、岡住 慎一、松原 久裕、龍野 一郎. (一般口演) 高齢者高度肥満症患者の減量・代謝改善手術に関する検討 第2報. -第66回日本糖尿病学会年次学術集会. 2023/5/13 鹿児島
- ・ 田中 智洋. (シンポジウム) 脳を知り、脳を変えるー肥満症の医学・医療のパラダイムシフトを目指して. 第96回日本内分泌学会学術総会. 2023/6/1 名古屋
- ・ 久我 祐介、青谷 大介、長谷川 千恵、清水 優希、竹田 勝志、服部 麗、小山 博之、川口 毅恒、田中 達也、樋渡 昭雄、瀧口 修司、片岡 洋望、田中 智洋. (一般口演) MRIによる肥満症患者の視床下部炎症の評価のこころみー入院による短期内科減量治療の影響. 第96回日本内分泌学会学術総会. 2023/6/1 名古屋
- ・ 小山 博之、加藤 春佳、浜田 けい子、伊藤 隆彦、竹田 勝志、服部 麗、佐川 弘之、青谷 大介、田中 智洋. (一般口演) 甲状腺組織の異常過程がCTにて連続的に追跡できた症例. 第96回日本内分泌学会学術総会. 2023/6/1-3 名古屋
- ・ 位田 敬明、青谷 大介、森貞 直哉、加藤 春佳、浜田 けい子、伊藤 隆彦、竹田 勝志、服部 麗、小山 博之、野津 寛大、田中 智洋. (一般口演) 学校健診での尿糖陽性を契機にMODY5の診断に至った一例. 第96回日本内分泌学会学術総会. 2023/6/1-3 名古屋 オンデマンド配信
- ・ 竹本 稔、林 愛子、稲葉 洋介、田中 智洋、全 泰和、龍野 一郎. (一般口演) 減量・代謝改善手術の適応年齢に関する検討 第2報. 第96回日本内分泌学会学術総会. 2023/6/1-3 名古屋 オンデマンド配信
- ・ 森 一憲、青谷 大介、浜田 けい子、伊藤 隆彦、位田 敬明、加藤 春佳、清水 優希、竹田 勝志、服部 麗、小山 博之、田中 智洋、濱本周造、安井 孝周、村瀬 貴幸、高橋 智. (一般口演) 急速な増大とともに機能性を獲得した高齢者の副腎癌の一例. 第96回日本内分泌学会学術総会. 2023/6/1-3 名古屋 オンデマンド配信
- ・ 田中 智洋. (共催セミナー) 糖尿病治療を通して異所性脂肪蓄積に挑む. 第96回日本内分泌学会学術総会 ランチョンセミナー. 2023/6/2 名古屋
- ・ 加藤 春佳、青谷 大介、位田 敬明、浜田 けい子、竹田 勝志、伊藤 隆彦、服部 麗、小山 博之、中野 さつき、太田 裕也、河田 侑、村瀬 貴幸、安井 孝周、瀬尾 由広、田中 智洋. (一般口演) 褐色細胞腫クリーゼの亜急性期に副腎腫瘍摘出によって循環動態が改善した1例. 第96回日本内分泌学会学術総会. 2023/6/3 名古屋
- ・ 久我 祐介、青谷 大介、長谷川 千恵、浜田 けい子、清水 優希、竹田 勝志、小山 博之、川口 毅恒、田中 達也、樋渡 昭雄、瀧口 修司、片岡 洋望、田中 智洋. (若手研究奨励賞 (YIA) 審査講演) 肥満症患者における脳領域特異的炎症と内科減量治療の影響ーMRIによる解析. 若手研究奨励賞 (YIA) 受賞. 第49回日本神経内分泌学会学術集会. 2023/10/27 岡山
- ・ 成瀬 兼人、八木 崇志、小山 博之、青谷 大介、谷川 元紀、片岡 洋望、間瀬 光人、高木 博史、田中 智洋. (一般口演) 間脳下垂体疾患患者におけるBMIと肥

満者の比率に関する検討. 第 49 回日本神経内分泌学会学術集会. 2023/10/27 岡山

- ・ 田中 達也、小川 了、藤田 康平、齋藤 正樹、伊藤 直、早川 俊輔、原田 真之資、佐川 弘之、小山 博之、青谷 大介、田中 智洋、山田 悠史、高橋 広城、松尾 洋一、瀧口 修司. (シンポジウム) 胃管狭窄難治症例から学んだ合併症対策. 第 44 回日本肥満学会・第 41 回日本肥満症治療学会学術集会. 2023/11/25 仙台
- ・ 竹田 勝志、青谷 大介、橋本 大哉、浜田 けい子、長谷川 千恵、清水 優希、久我 祐介、安藤 豪将、八木 崇志、小山 博之、白木 茂博、横地 隆、神谷 武、片岡 洋望、田中 智洋. (一般口演) 喫煙状況の違いが BMI ならびに動脈硬化性疾患発症リスクに及ぼす影響. 第 44 回日本肥満学会・第 41 回日本肥満症治療学会学術集会. 2023/11/25 仙台
- ・ 松村 裕代、長谷川 千恵、青谷 大介、竹田 勝志、清水 優希、浜田 けい子、久我 祐介、小山 博之、田中 達也、早川 俊輔、澤本 伸克、中尾 一和、瀧口 修司、田中 智洋. (一般口演) リラグルチドの食行動および食欲関連神経活動に対する効果の検討. 第 44 回日本肥満学会・第 41 回日本肥満症治療学会学術集会. 2023/11/25 仙台
- ・ 早川 俊輔、田中 達也、小川 了、山田 悠史、藤田 康平、齋藤 正樹、原田 真之資、伊藤 直、佐川 弘之、小山 博之、青谷 大介、高橋 広城、松尾 洋一、田中 智洋、瀧口 修司. (一般口演) 基本チェックリストを用いたスリーブ状胃切除術患者のフレイル有病率と減量効果予測の検討. 第 44 回日本肥満学会・第 41 回日本肥満症治療学会学術集会. 2023/11/25 仙台
- ・ 竹本 稔、林 愛子、林 秀樹、稲葉 洋介、河野 貴史、石田 晶子、田中 智洋、全 泰和、笠間 和典、齋木 厚人、佐々木 章、岡住 慎一、松原 久裕、龍野 一郎. (一般口演) 高齢者肥満外科手術適用委員会 委員会報告. 第 44 回日本肥満学会・第 41 回日本肥満症治療学会学術集会. 2023/11/25 仙台
- ・ 田中 智洋. (教育講演) 肥満症診療に真正面から挑むー生活習慣病の源流克服のために. 第 44 回日本肥満学会・第 41 回日本肥満症治療学会. 2023/11/26 仙台
- ・ 中尾 一和、山内 一郎、堀井 和子、日下部 徹、田中 智洋. (一般口演) 部分性脂肪萎縮症の血中レプチン濃度とレプチン分泌指数. 第 44 回日本肥満学会・第 41 回日本肥満症治療学会学術集会. 2023/11/26 仙台
- ・ 成瀬 兼人、青谷 大介、高木 博史、八木 崇志、小山 博之、早川 俊輔、田中 達也、小川 了、谷川 元紀、間瀬 光人、瀧口 修司、片岡 洋望、田中 智洋. (一般口演) 視床下部性肥満診療の現状ー名古屋市立大学病院における実態調査. 第 44 回日本肥満学会・第 41 回日本肥満症治療学会学術集会. 2023/11/26 仙台
- ・ 小山 博之、森 一憲、村井 裕美、加藤 春佳、伊藤 隆彦、竹田 勝志、早川 俊輔、青谷 大介、田中 達也、小川 了、瀧口 修司、田中 智洋. (一般口演) 耐糖能の観点からみた減量手術後の骨格筋量維持の重要性. 第 44 回日本肥満学会・第 41 回日本肥満症治療学会学術集会. 2023/11/26 仙台
- ・ 八木 崇志、久保田 英嗣、浜田 けい子、長谷川 千恵、清水 優希、久我 祐介、伊藤 隆彦、竹田 勝志、小山 博之、青谷 大介、田中 智洋. (一般口演) カナグリフロジンによる大腸がん増殖抑制のメカニズム.
- ・ 第 44 回日本肥満学会・第 41 回日本肥満症治療学会学術集会. 2023/11/26 仙台
- ・ 田中 智洋. (共催セミナー) データの融合から目指す肥満症・肥満合併糖尿病の理解と克服. 第 8 回日本糖尿病・生活習慣病ヒューマンデータ学会 年次学術集会ランチョンセミナー. 2023/12/1 富山

<名古屋市立大学医学部附属東部医療センター>

- ・ 加藤 晃久、内藤 格、林 香月、吉田 道弘、堀 寧、加地 謙太、浅野 剛、佐橋 秀典、豊原 祥資、鬼頭佑輔、片岡 洋望. (一般演題) 悪性胆管狭窄診断における胆管擦過デバイスの細胞採取量の定量解析. 第 109 回日本消化器病学会総会. 2023/4/7
- ・ 山田 颯人、稲場 彩香、榎原 毅、堀 寧、林 香月、山田 泰之. (一般演題) 内視鏡医の放射線防護衣による着用中の負担を軽減する防護衣補助具の開発[P1E5-11]. 第 64 回人間工学学会. 2023/9/7
- ・ 佐藤 椋、鈴木 孝典、松浦 健太郎、鈴木 雄太、奥村 文浩、名倉 義人、祖父江 聡、日下部 篤宣、長谷川 泉、的屋 奨、宮木 知克、田中 義人、近藤 啓、木村 吉秀、小笹 貴士、河村 逸外、藤原 圭、野尻 俊輔. (シンポジウム1)「進行肝細胞癌薬物治療のストラテジー」切除不能肝細胞癌に対してアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法が施行された患者における投与中の prognostic nutritional index の有用性について. 第 45 回肝臓学会西部会 京都国際会館. 2023/12/07
- ・ 高木 博史. クリニカルアワー8 下垂体疾患の診断と治療「低ナトリウム血症」. 第 96 回日本内分泌学会学術総会. 2023/06/02 名古屋
- ・ 中林 廉太、竹内 了哉、平林 真代、柴田 雅央、高木 博史. オンデマンド配信 一般演題 (WEB 発表: 骨代謝、副甲状腺: 臨床 (3)). その他 甲状腺腫瘍との鑑別を要し甲状腺片葉との合併切除を施行した副甲状腺腺腫の 1 例. 第 96 回日本内分泌学会学術総会. 2023/06/01 名古屋
- ・ 山本 純也、竹内 了哉、中林 廉太、平林 真代、鈴木 元彦、高木 博史. オンデマンド配信 一般演題 (WEB 発表: ホルモンと腫瘍 (神経内分泌腫瘍を含む)): 臨床 嗅神経芽細胞腫による異所性 ACTH 症候群の一例. 第 96 回日本内分泌学会学術総会. 2023/06/01 名古屋
- ・ 廣瀬 友矩、高木 博史、久納 光皓、佐々木 智之、孫 汝楠、杉山 摩利子、坂野 僚一、有馬 寛. 口演 127 薬物療法: SGLT2 阻害薬 6 III-127-1 Dapagliflozin は脂質と食塩の過剰摂取によって生じる耐糖能異常を改善する. 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会. 2023/05/13 鹿児島
- ・ 成瀬 兼人、八木 崇志、小山 博之、青谷 大介、谷川 元紀、片岡 洋望、間瀬 光人、高木 博史、田中 智洋. 一般演題 (臨床系) 視床下部疾患・HPA 系 jns4 9002-00059 間脳下垂体疾患患者における B M I と肥満者の比率に関する検討. 第 49 回日本神経内分泌学会学術集会. 2023/10/27 岡山

<名古屋市立大学医学部附属西部医療センター>

- ・ 大脇 聖楽、森 義徳. (ポスターセッション 24) Encorafenib+Cetuximab 併用療法が長期に奏効した BRAFV600E 変異陽性大腸神経内分泌癌の一例. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2023/3/17 福岡
- ・ 河村 逸外、藤原 圭、鈴木 孝典、松浦 健太郎、木村 吉秀. (一般演題) 初発肝細胞癌に対する陽子線治療の成績・治療後経過についての検討. 第 59 回日本肝臓学会総会. 2023/6/15 奈良
- ・ 藤原 圭、野尻 俊輔、木村 吉秀. (一般演題) B 型肝炎ウイルスにおける N6 メチルアデノシン修飾モチーフ配列の保存性に関する検討. 第 59 回日本肝臓学会総会. 2023/6/15 奈良
- ・ 的屋 奨、鈴木 孝典、松浦 健太郎、鈴木 雄太、奥村 文浩、名倉 義人、祖父江 聡、日下部 篤宣、長谷川 泉、宮木 知克、田中 義人、近藤 啓、木村 吉秀、小笹 貴士、河村 逸外、藤原 圭、野尻 俊輔. (一般演題) 切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法中の好中球リンパ球比は治療効果を予測する. 第 59 回日本肝臓学会総会. 2023/6/15 奈良

- ・ 梶 昭太、伊藤 峻介、久保田 淳、山根 祐基、荒川 耕平、渡邊 久美子、今枝 憲郎. 原発性副甲状腺機能亢進症の精査中にプランマー病を診断した一例. 第 33 回臨床内分泌 Update. 2023/11/3 横浜

<名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院>

- ・ 内藤 格. (ポストグラデュエイトコース) 原発性硬化性胆管炎と IgG4 関連硬化性胆管炎の診断と治療. 第 109 回日本消化器病学会総会. 2023/4/8 長崎
- ・ 西江 裕忠、田中 達也、青谷 大介、田中 智洋、瀧口 修司、片岡 洋望. (シンポジウム) 高度肥満患者に対する減量手術の便通への影響. 第 13 回 肥満と消化器疾患研究会. 2023/4/5 長崎

【地方会発表】

<桜山>

- ・ 片岡 洋望. 教育講演 1. 食道疾患の診断・治療の進歩. 第 49 回教育講演プログラム. 日本消化器病学会東海支部第 138 回例会. 2023/6/17 名古屋国際会議場 名古屋
- ・ 福定 繁紀、志村 貴也、片岡 洋望. (シンポジウム) 「当院における食道 ESD 後広範囲粘膜欠損例に対する狭窄予防の現状」. 第 66 回消化器内視鏡学会東海支部例会. 2023/12/2 名古屋
- ・ 宇野 好、久保田 英嗣、Bum-Joo Cho、片岡 洋望. (シンポジウム) 「人工知能による大腸内視鏡診断支援システムの開発に向けた国際共同研究の取り組み」. 日本消化器病学会東海支部第 139 回例会シンポジウム 1. 2023/11/18 岐阜
- ・ 尾関 啓司. 「潰瘍性大腸炎におけるウパダシチニブの有用性について」. 第 66 回日本消化器病内視鏡学会東海支部例会 スポンサーセミナー. 2023/12/2 名古屋
- ・ 岩崎 弘靖、志村 貴也、片岡 洋望. シンポジウム 1: 高齢者に対する消化管疾患診療の現状. : S1-6.1 高齢者 pT1 大腸癌の長期治療成績の検討. 日本消化器病学会東海支部第 138 回例会. 名古屋国際会議場 (名古屋). 2023/6/17
- ・ 児玉 明里、堀 寧、松浦 健太郎、久野 佳世子、鬼頭 佑輔、加地 謙太、加藤 晃久、佐橋 秀典、豊原 祥資、吉田 道弘、片岡 洋望. (支部研修医・専攻医 Award 受賞者セッション) 胆汁漏に対して内視鏡的胆道ドレナージ施行後に腹腔内出血をきたした一例. 第 138 回日本消化器病学会東海支部例会. 2023/6/17 名古屋
- ・ 鬼頭 佑輔、加藤 晃久、吉田 道弘. (シンポジウム) 胆管擦過デバイスはブラシ細胞診と比べて悪性胆管狭窄の診断に本当に有用なのか? 第 138 回日本消化器病学会東海支部例会. 2023/6/17 名古屋
- ・ 松崎 一平、鈴木 浩之、川平 洋、斎藤 真、浅田 晴之、榎原 毅、下村 義弘、鈴木 一弥、堀 寧、常見 麻英. (一般演題) Participatory Project Design Toolkit を活用した医療労働関連 MSDs 研究部会運営. 日本人間工学会東海支部 2023 年研究大会. 2023/11/11 名古屋
- ・ 堀 寧、榎原 毅、林 香月、吉田 道弘、加藤 晃久、加地 謙太、佐橋 秀典、片岡 洋望. (シンポジウム) X 線防護衣による筋骨格系疲労を軽減する人間工学的アプローチ法の検証. 第 139 回日本消化器病学会 東海支部例会. 2023/11/18 岐阜
- ・ 井村 尚斗、加地 謙太、久野 佳世子、佐橋 秀典、加藤 晃久、堀 寧、吉田 道弘、内藤 格、片岡 洋望. (一般演題) 1 型自己免疫性膵炎に併発した膵頭部癌の一例. 日本内科学会第 251 回東海地方会 2023/10/15 名古屋
- ・ 酒井 崇、加地 謙太、鬼頭 佑輔、豊原 祥資、久野 佳世子、佐橋 秀典、加藤 晃久、堀 寧、吉田 道弘、片岡 洋望. (一般演題) EUS-FNB が診断に有用であった

膝悪性リンパ腫の2例. 日本消化器病学会東海支部第139回例会. 2023/11/18 岐阜

- 岡本 宜樹、加藤 晃久、加地 謙太、吉田 道弘、堀 寧、佐橋 秀典、豊原 祥資、安達 明央、久野 佳世子、鬼頭 佑輔、片岡 洋望. (若手研究者優秀演題奨励賞選定セッション) 迷入した金属ステントに対して内視鏡用シースデバイスを用いて安全に抜去し得た1例. 第66回日本消化器内視鏡学会東海支部例会. 2023/12/2 名古屋
- 井村 尚斗、鈴木 孝典、河村 逸外、久野 佳世子、松浦 健太郎、藤原 圭、野尻 俊輔、片岡 洋望. 原因不明の肝障害・肝乏血性腫瘍の精査で判明した成人発症II型シトルリン血症の1例. 第249回日本内科学会東海地方会. 2023/2/19 JP タワー名古屋ホール&カンファレンス
- 加藤 大介、鈴木 孝典、松浦 健太郎. (シンポジウム2-2) 切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法中の好中球リンパ球比の有用性. 日本消化器病学会東海支部第138回例会. 2023/6/17 名古屋国際会議場
- 鈴木 孝典、松浦 健太郎、藤原 圭. (シンポジウム2-1) 非ウイルス性肝疾患患者における肝線維化進展・肝発癌症例囲い込みの検討. 日本消化器病学会東海支部第138回例会. 2023/6/17 名古屋国際会議場
- 岡山 幸平、鈴木 孝典、松浦 健太郎、奥村 文浩、祖父江 聡、日下部 篤宣、長谷川 泉、的屋 奨、藤原 圭、片岡 洋望. (シンポジウム1) 「消化器がんの診断と治療 up to date」 切除不能肝細胞癌一次治療におけるアテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法の予後予測因子についての検討. 日本消化器病学会東海支部例会第139回例会. 2023/11/18 長良川国際会議場 岐阜
- 佐藤 椋、鈴木 孝典、松浦 健太郎. (シンポジウム1-2) 切除不能肝細胞癌に対してアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法が施行された患者における投与中のprognostic nutritional indexの有用性について. 第45回日本肝臓学会西部会. 2023/12/7 京都国際会館 京都
- 鈴木 孝典、松浦 健太郎、田中 靖人. (ワークショップ2-12) 高感度iTACT抗原測定からみるHBsAg陰性化症例の病態別の特徴. 第45回日本肝臓学会西部会. 2023/12/7 京都国際会館 京都
- 河村 逸外、藤原 圭、鈴木 孝典、松浦 健太郎. BRT0 施行例の臨床経過に関する検討～治療前後の肝予備能の推移, 食道静脈瘤発現に着目して～. 第45回日本肝臓学会西部会. 2023/12/8 京都国際会館 京都
- 田中 智洋. (教育講演) 肥満症の医学と医療—UPDATE2023. 第85回日本内科学会東海支部生涯教育講演会. 2023/2/19 名古屋 ハイブリッド開催
- 村井 裕美、小山 博之、浜田 けい子、竹田 勝志、服部 麗、青谷 大介、間所 佑太、田中 智洋. (一般口演) 意識障害から回復しADL改善を認めた低血糖脳症の1例. 日本内科学会東海支部主催第249回東海地方会. 2023/2/19 名古屋 ハイブリッド開催
- 田中 智洋. (ディベートセッションアドバイザー) テーマ1「より善い肥満症治療方針決定を何で判断する?」. テーマ2「肥満症治療における内科医の視点、外科医の視点」. 第97回日本糖尿病学会中部地方会. 2023/9/23 名古屋
- 田中 智洋. (シンポジウム) 「薬物療法のアルゴリズム」の先を読む—肥満合併例の適剤適所. シンポジウム② テーマ1「肥満をともなった2型糖尿病 GIP/GLP1R co-agonist, GLP-1R agonist, SGLT2i をどう使い分けるか?」. 第97回日本糖尿病学会中部地方会. 2023/9/24 名古屋

- ・ 田中 智洋. (シンポジウム) 脳の脂質蓄積と炎症から考える肥満と糖尿病. シンポジウム⑤ テーマ「糖尿病食事療法・運動療法の進歩」. 第 97 回日本糖尿病学会中部地方会. 2023/9/24 名古屋
- ・ 田中 智洋. (共催セミナー)「糖尿病内科医が考える－ARNI が拓く新時代の高血圧治療」. 第 97 回日本糖尿病学会中部地方会. 2023/9/24 名古屋
- ・ 松村 裕代、長谷川 千恵、青谷 大介、竹田 勝志、清水 優希、浜田 けい子、久我 祐介、小山 博之、澤本 伸克、中尾 一和、田中 智洋. (一般口演) リラグルチドの食行動および食欲関連神経活動に対する効果の検討. 第 97 回日本糖尿病学会中部地方会. 2023/9/24 名古屋
- ・ 加藤 春佳、竹田 勝志、松村 裕代、森 一憲、村井 裕美、伊藤 隆彦、小山 博之、青谷 大介、田中 智洋. (一般口演) . バセドウ病の診断から 50 年後に 1 型糖尿病を発症した多腺性自己免疫症候群 3 型の一例. 第 97 回日本糖尿病学会中部地方会. 2023/9/24 名古屋
- ・ 成瀬 兼人、小山 博之、村井 裕美、森 一憲、浜田 けい子、加藤 春佳、竹田 勝志、伊藤 隆彦、青谷 大介、田中 智洋. (一般口演) ステロイド産生性および機能性の有無の判断に難渋する両側副腎偶発腫の一例. 第 23 回日本内分泌学会東海支部学術集会. 2023/10/7 名古屋
- ・ 田中 智洋. (共催セミナー)「今、源流に挑む 2 型糖尿病治療を目指して」. 第 23 回日本内分泌学会東海支部学術集会. 2023/10/7 名古屋
- ・ 田中 智洋. (共催セミナー)「今、源流に挑む 2 型糖尿病治療を目指して」. 第 60 回日本糖尿病学会近畿地方会. 2023/10/14 神戸
- ・ 小山 博之、森 一憲、村井 裕美、加藤 春佳、清水 優希、竹田 勝志、伊藤 隆彦、青谷 大介、田中 智洋. (一般口演) 免疫チェックポイント阻害薬による甲状腺組織の破壊過程が CT にて連続的に追跡できた一例. 第 34 回日本老年医学会東海地方会. 2023/10/21 名古屋
- ・ 田中 智洋. (特別講演) 糖尿病医療を変える治療となるか？－持続性 GIP/GLP-1 受容体作動薬を理解する－. 第 23 回日本内分泌学会北海道支部学術集会. 2023/10/22 札幌

<名古屋市立大学医学部附属東部医療センター>

- ・ 小林 彩香、林 香月、猪飼 千咲、中川 真里絵、武仲 祐弥、荒木 幸子、小島 尚代、西垣 信宏、近藤 啓、伊藤 恵介. (一般演題) 健常成人に発症したサイトメガロウイルス胃炎・十二指腸炎の 1 例. 第 249 回日本内科学会東海地方会. 2023/02/19
- ・ 服部 智子、西垣 瑠里子、水野 裕介、岩崎 弘靖、西江 裕忠、田中 守、尾関 啓司、志村 貴也、久保田 英嗣、片岡 洋望. (一般演題) 診断に苦慮した腹膜サルコイドーシスの 1 例. 第 249 回日本内科学会東海地方会. 2023/02/19
- ・ 上田 晶彦、松尾 洋一、浅野 剛、山本 誠也、楠戸 夏城、加藤 知克、林 祐一、今藤 裕之、齊藤 健太、森本 守、小川 了、高橋 広城、三井 章、木村 昌弘、吉田 道弘、内藤 格、林 香月、瀧口 修司. (一般演題) 異時性四重複癌を併発した膵頭部膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) の 1 例. DP-20. 日本癌局所療法研究会. 2023/6/2
- ・ 神谷 昌宏、荒木 幸子、佐藤 棕、服部 智子、小林 彩香、猪飼 千咲、平山 陽太、中川 真里絵、庄田 怜加、武仲 祐弥、小島 尚代、西垣 信宏、近藤 啓、伊藤 恵介、稲熊 真悟、植松 宏、坪井 謙、木村 昌弘、林 香月. (一般演題) EUS-FNA と経皮的針生検を施行した高分化型と脱分化型の後腹膜脂肪肉腫の 1 例. 第 138 回日本消化器病学会東海支部例会. 2023/06/17

- ・ 平山 陽太、林 香月、小林 彩香、猪飼 千咲、中川 真里絵、庄田 怜加、武仲 祐弥、荒木 幸子、西垣 信宏、小島 尚代、近藤 啓、伊藤 恵介. (一般演題) 当院における高トリグリセリド血症に伴う急性膵炎 (HTG-AP) の現状. 第 138 回日本消化器病学会東海支部例会. 2023/06/17
- ・ 山田 颯人、稲場 彩香、榎原 毅、堀 寧、林 香月、山田 泰之. (一般演題) 内視鏡医の放射線防護衣による着用中の負担を軽減する防護衣補助具の開発. ロボティクス・メカトロニクス講演会 2023 in Nagoya 主催 一般社団法人 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門 ロボティクス・メカトロニクスとデザイン思考の融合(1) Robotics, Mechatronics and Design Thinking(1). 2023/06/30 名古屋
- ・ 榎原 毅、松崎 一平、堀 寧、常見 麻芙、山田 泰之、鎌倉 快之、林 香月. (一般演題) 内視鏡医療従事者の筋骨格系障害と人間工学対策: scoping review. 日本産業衛生学会作業関連性運動器障害研究会第 29 回定例会. 2023/9/23. 日本赤十字看護大学
- ・ 田中 秀和、小池 清美、水谷 南美、武仲 祐弥、上用 祐士、林 香月. (一般演題) 熱帯熱マラリアにより AKI に至るも透析を離脱し得た 1 例. 第 251 回日本内科学会東海地方会. 2023/10/01
- ・ 林 香月. (講演) 胆膵領域における高齢者診療と治療. 第 34 回日本老年医学会東海地方会 代議員報告. 2023/10/21
- ・ 常見 麻芙、榎原 毅、堀 寧、林 香月、松崎 一平、玉田 葉月、山田 翔太、酒井 一輝、松崎 一基、上島 通浩. (基調講演) 内視鏡治療介助者の筋骨格系症状に関するスコーピングレビュー(3B3). 日本人間工学会東海支部 2023 年研究大会. 2023/11/11
- ・ 猪飼 千咲、中川 真里絵、庄田 怜加、武仲 祐弥、荒木 幸子、西垣 信宏、小島 尚代、近藤 啓、伊藤 恵介、林 香月. (シンポジウム 2) 「消化器疾患診療における医療安全—各施設での取り組み— 医療安全の観点から女性医師における内視鏡手技関連疲労度の検討. 日本消化器病学会東海支部第 139 回例会. 2023/11/18
- ・ 神谷 昌宏、佐藤 棕、服部 智子、小林 彩香、猪飼 千咲、中川 真里絵、庄田 怜加、武仲 祐弥、荒木 幸子、小島 尚代、西垣 信宏、近藤 啓、伊藤 恵介、林 香月. (一般演題) 成人 Wilson 病の 1 例. 日本消化器病学会東海支部第 139 回例会. 2023/11/18
- ・ 平山 陽太、小島 尚代、三崎 大輔、神谷 昌宏、佐藤 棕、服部 智子、小林 彩香、猪飼 千咲、庄田 怜加、中川 真里絵、武仲 祐弥、荒木 幸子、西垣 信宏、近藤 啓、伊藤 恵介、林 香月. (一般演題) 膵癌による悪性肝門部狭窄に対して一期的 EUS-HDS+HGS を施行した 1 例. 2023/12/02 ウィンクあいち
- ・ 小林 彩香、林 香月、服部 智子、佐藤 棕、神谷 昌宏、猪飼 千咲、中川 真里絵、武仲 祐弥、荒木 幸子、小島 尚代、西垣 信宏、近藤 啓、伊藤 恵介. (一般演題) 繰り返す感染性肝嚢胞に対する LAMS による超音波内視鏡下瘻孔形成術の 1 例. 2023/12/02 ウィンクあいち
- ・ 猪飼 千咲、近藤 啓、林 香月. (シンポジウム 2) S 2 -14 肝尾状葉病変に対する超音波内視鏡下穿刺術の有用性. 第 66 回日本消化器内視鏡学会東海支部例会. 2023/12/2 ウィンクあいち
- ・ 武仲 祐弥、志村 貴也、伊藤 恵介. (シンポジウム 1) 消化管内視鏡診療の最前線 根治切除可能閉塞性遠位結腸癌に対する経肛門イレウス管と大腸ステントの短期治療成績の比較検討: 多施設共同症例対照研究の結果から. 第 66 回日本消化器内視鏡学会東海支部例会. 2023/12/2 ウィンクあいち

- ・ 佐藤 椋、林 香月、神谷 昌宏、服部 智子、小林 彩香、猪飼 千咲、中川 真里絵、庄田 怜加、武仲 祐弥、荒木 幸子、西垣 信宏、小島 尚代、近藤 啓、伊藤 恵介。 (一般演題) 胆道鏡にて閉塞性黄疸を来す胆管壁内嚢胞を確認し経乳頭的嚢胞開窓術を施行した1例。 第66回日本消化器内視鏡学会東海支部例会。 2023/12/2 ウィンクあいち
- ・ 神谷 昌宏、近藤 啓、佐藤 椋、服部 智子、小林 彩香、猪飼 千咲、中川 真里絵、庄田 怜加、武仲 祐弥、荒木 幸子、西垣 信宏、小島 尚代、伊藤 恵介、林 香月。 (一般演題) 保存的治療にて改善しえたSB (Sengstaken-Blakemore) チューブによる医原性食道穿孔の1例。 66回日本消化器内視鏡学会東海支部例会。 2023/12/02 ウィンクあいち
- ・ 田中 秀和、林 香月。 (研究班報告) 【熱帯病治療薬研究班】令和5年度班会議 当院で経験した重症熱帯熱マラリアの救命症例。 2023/12/02 東京+WEB
- ・ 林 香月。 (研究班報告) 【熱帯病治療薬研究班】東海地区施設研究班代表者 熱帯熱マラリア 年度事例報告会。 2023/12/02 東京+WEB
- ・ 竹内 了哉、森 一憲、荒川 真里奈、服部 正隆、中林 廉太、伊勢村 昌也、平林 真代、磯野 裕司、高木 博史。 5-E SMBG・CGM・リアルタイムCGM E-10 低血糖昏睡から回復後に痙攣重責を呈した膵性糖尿病の1例。 第97回日本糖尿病学会中部地方会。 2023/09/24 名古屋
- ・ 中林 廉太、荒川 真里奈、服部 正隆、竹内 了哉、伊勢村 昌也、平林 真代、中川 真里絵、高木 博史。 6-E 興味ある症例① E-15 保存的治療で改善が得られた高トリグリセリド血症による急性膵炎の1例。 第97回日本糖尿病学会中部地方会。 2023/09/24 名古屋

<名古屋市立大学医学部附属西部医療センター>

- ・ 森島 陽、北川 美香、金山 朋祐、橋本 真耶佳、前田 英貴、中井 俊介、今津 充季、金岩 弘樹、富田 優作、山口 彩奈、平野 敦之、森 義徳、木村 吉秀、土田 研司、妹尾 恭司。 トファシチニブが著効した5-ASA不耐、ステロイド依存性難治性潰瘍性大腸炎の1例。 第138回日本消化器病学会東海支部例会。 2023/6/17 名古屋
- ・ 前田 英貴、森 義徳、中井 俊介、今津 充季、金岩 弘樹、富田 優作、山口 彩奈、北川 美香、平野 敦之、木村 吉秀、土田 研司。 アテゾリズマブ投与で発症したirAE赤芽球癆の1例。 日本消化器病学会 東海支部139回例会。 2023/11/18 岐阜
- ・ 中井 俊介。 初期対応に難渋した上行結腸静脈瘤破裂による出血性ショックの症例。 第66回日本消化器内視鏡学会東海支部例会。 2023/12/2 名古屋
- ・ 守屋 健志、伊藤 峻介、渡邊 久美子、荒川 耕平、篠崎 隆裕、今枝 憲郎。 低Na血症を契機に診断されたSIADHの関与も疑われた症候性ラトケ嚢胞の1例。 第250回日本内科学科東海地方会。 2023/6/25 桑名
- ・ 久保田 淳、田尻 佐和子、山根 祐基、荒川 耕平、梶 昭太、渡邊 久美子、西川 尚実、尾崎 康彦、荒川 敦志、今枝 憲郎。 1型糖尿病合併妊娠の分娩後にケトアシトスと大腸菌による菌血症を合併した1例。 第97回日本糖尿病学会中部地方会。 2023/9/24 名古屋
- ・ 山根 祐基、久保田 淳、荒川 敦志、梶 昭太、渡邊 久美子、今枝 憲郎。 気腫性膀胱炎と気腫性腎盂腎炎を併発した2型糖尿病の1例。 第251回日本内科学会東海地方会。 2023/10/15 名古屋

<名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院>

- ・ 稲垣 貴文、野尻 優、浅野 剛、西江 裕忠、内藤 格. (一般演題)内視鏡的胃瘻チューブ回収困難例に対して経皮経瘻孔的にバンパーを切離し経食道的に回収した一例. 第66回日本消化器内視鏡学会東海支部例会. 2023/12/2

【国際学会発表】

<桜山>

- ・ Kataoka H, Sasaki M, Tanaka M. Advantages of the second-generation photodynamic therapy using talaporfin sodium for local failure after chemoradiotherapy for esophageal cancer. ACG 2023 Annual Meeting, October 23 (20-25), 2023, Vancouver Convention Centre (West Building), Vancouver, BC, Canada.
- ・ Shimura T, Okuda Y, Iwasaki H, Fukusada S, Sugimura N, Yamada T, Abe Y, Taguchi A, Kataoka H. Poster. Novel urinary protein biomarker panel for early detection of colorectal cancer. UEG Week 2023. Bella Center: Copenhagen, Denmark. 2023/10/14-17
- ・ Ozeki T, Shimura T, Iwasaki H, Katano T, Okuda Y, Mizuno Y, Sugimura N, Fukusada S, Kataoka H. Poster. A SINGLE-CENTER, PROSPECTIVE COHORT STUDY OF NEW ELECTROCOAGULATION SYSTEM FOR PREVENTING COLORECTAL POST-ESD COAGULATION SYNDROME (NewPEC study). UEG Week 2023. Bella Center, Copenhagen, Denmark. 2023/10/14-17
- ・ Shoji H, Makiyama A, Katsuya H, Okano N, Negoro Y, Kito Y, Akiyoshi K, Shinozaki K, Yamamoto Y, Kawakami T, Tsuji Y, Kirishima T, Hirao M, Shimura T, Takeshita S, Funakoshi S, Shimokawa M, Yamazaki K, Hironaka S, Muro K. Plenary Session. A randomized phase II study comparing S-1 plus oxaliplatin with S-1 monotherapy for elderly patients with advanced gastric cancer: WJOG8315G. The 15th International Gastric Cancer Congress (IGCC) 2023. PACIFICO Yokohama (Yokohama, Japan). 2023/6/15
- ・ Okuda Y, Shimura T, Uno K, Yamada T, Nukui T, Mizushima T, Takenaka Y, Ito K, Inagaki Y, Ozeki T, Nagao K, Ebi M, Uchida E, Nomura S, Nojiri Y, Togawa S, Kataoka H. POSTER Session -ASGE Colon and Rectum I. A MULTICENTER CASE-CONTROL STUDY ON LONG-TERM OUTCOMES OF SELF-EXPANDING METALLIC STENT VERSUS TRANS-ANAL COLORECTAL TUBE FOR STAGE II/III NON-RIGHT-SIDED OBSTRUCTIVE COLON CANCER. DDW 2023, McCormick Place, Chicago, IL & online. 2023/5/6
- ・ Tanaka M, Sasaki M, Kataoka H. ORAL presentation THE ANTITUMOR EFFECT OF TALAPORFIN PHOTO DYNAMIC THERAPY (PDT) COMBINED WITH A STING AGONIST. Digestive Disease Week. 2023/5/8 Chicago
- ・ Fukusada S, Shimura T, Natsume M, Kubota E, Kataoka H. Obesity promotes pancreatic ductal adenocarcinoma by osteopontin-secreted adipocytes. United European Gastroenterology Week (UEGW). 2023/10/14-17. Copenhagen, Denmark.
- ・ Sasaki M. Poster session ANTI-TUMOR IMMUNITY ENHANCEMENT BY PHOTODYNAMIC THERAPY WITH TALAPORFIN SODIUM AND ANTI-PROGRAMMED DEATH 1 ANTIBODY. Digestive Disease Week. 2023/5/8 Chicago
- ・ Uno K, Shimura T, Fukusada S, Sugimura N, Mizuno Y, Kataoka H. THE IMPACT OF PROTON PUMP INHIBITOR OR POTASSIUM-COMPETITIVE ACID BLOCKER FOR PREDICTING THE CURALITY OF ENDOSCOPIC RESECTION IN ULCERATIVE EARLY GASTRIC CANCER. UEGW 2023. 2023/10/14-17. Copenhagen, Denmark.
- ・ Tsunemi M, Ebara T, Hori Y, Yamada S, Matsuzaki I, Sakai K, Tamada H, Kamijima M. (Poster)Effects of Inserting Stretch Breaks on Neck/Upper Limb Movements for Endoscopy Assistants -Case Report from Motion Tracking Analysis. JES-ESK Joint Symposium, September 7 2023, Chiba, Japan

- Toyohara T, Yoshida M, Miyabe K, Kito Y, Kuno K, Adachi A, Sahashi H, Kachi K, Kato A, Hori Y, Kataoka H. (Poster)Autotaxin is a novel biomarker and therapeutic target in pancreatic neuroendocrine neoplasms. Asian Pacific Digestive week (APDW) Dec. 9, 2023. Bangkok, Thailand
- Maria Buti, Jeong Heo, Yasuhito Tanaka, Pietro Andreone, Masanori Atsukawa, Joaquín Cabezas, Eric Chak, Carla S Coffin, Kei Fujiwara, Natalya Gankina, Stuart Gordon, Ewa Janczewska, Atsumasa Komori, Pietro Lampertico, Stuart McPherson, Viacheslav Morozov, Junqi Niu, Robert Plesniak, Sébastien Poulin, Pablo Ryan, Olga Sagalova, Guoping Sheng, Natalya Voloshina, Qing Xie, Hyung Joon Yim, Susan Dixon, Melanie Paff, Leigh Felton, Max Lee, Thomas Greene, Divya Lakshminarayanan, Helene Plein, Amir Youssef, Rob Elston, Stuart Kendrick, Dickens Theodore. Pegylated interferon reduces relapses following bepirovirsen treatment in participants with chronic hepatitis B virus infection on nucleos(t)ide analogs: end of study results from the Phase 2b B-Together study. Oral presentation. American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Nov. 10-14, 2023, Boston, USA.
- Takako Inoue, Takanori Suzuki, Kentaro Matsuura, Etsuko Iio, Katsuya Nagaoka, Masakuni Tateyama, Hiroko Setoyama, Yoko Yoshimaru, Takehisa Watanabe, Yasuhito Tanaka. Clinical evaluation of highly sensitive iTACT hepatitis B core-related antigen and hepatitis B surface antigen assays in the management of HBV reactivation. EASL 2023 Nov. 21-24, June, 2022, Vienna, Austria
- Yuki Tahata, Hayato Hikita, Satoshi Mochida, Nobuyuki Enomoto, Akio Ido, Hidekatsu Kuroda, Daiki Miki, Masayuki Kurosaki, Yoichi Hiasa, Ryotaro Sakamori, Norifumi Kawada, Taro Yamashita, Goki Suda, Hiroshi Yatsuhashi, Hitoshi Yoshiji, Naoya Kato, Taro Takami, Kazuhiko Nakao, Kentaro Matsuura, Yasuhiro Asahina, Yoshito Itoh, Ryosuke Tateishi, Yasunari Nakamoto, Eiji Kakazu, Shuji Terai, Masahito Shimizu, Yoshiyuki Ueno, Norio Akuta, Takahiro Kodama, Tomohide Tatsumi, Tomomi Yamada, Tetsuo Takehara. Post-treatment liver function, but not baseline liver function, predicts survival in hepatitis C virus patients with decompensated cirrhosis after direct-acting antiviral treatment. EASL CONGRESS 2023. Nov. 21-24, June, 2023, Vienna, Austria
- Takako Inoue, Takanori Suzuki, Takehisa Watanabe, Etsuko Iio, Katsuya Nagaoka, Hiroko Setoyama, Yoko Yoshimaru, Kentaro Matsuura and Yasuhito Tanaka. Clinical application of novel highly sensitive hepatitis B surface antigen and hepatitis B core-related antigen assays for management of HBV reactivation. American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Nov. 10-14, 2023, Boston, USA.
- Yuki Tahata, Hayato Hikita, Ryotaro Sakamori, Akinobu Takaki, Masayuki Kurosaki, Kentaro Matsuura, Yasuhiro Takikawa, Hiroshi Yatsuhashi, Yoshiyuki Ueno, Takahiro Kodama, Tomohide Tatsumi and Tetsuo Takehara. Long-term survival and hepatocellular carcinoma development in hepatitis C virus patients with decompensated cirrhosis after direct-acting antiviral treatment: a long-term follow-up study of Japanese phase 3 trial cohort. American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Nov. 10-14, 2023, Boston, USA.
- Yuki Tahata, Hayato Hikita, Satoshi Mochida, Nobuyuki Enomoto, Akio Ido, Hidekatsu Kuroda, Daiki Miki, Masayuki Kurosaki, Yoichi Hiasa, Ryotaro Sakamori, Norifumi Kawada, Taro Yamashita, Goki Suda, Hiroshi Yatsuhashi, Hitoshi Yoshiji, Naoya Kato, Taro Takami, Kazuhiko Nakao, Kentaro Matsuura, Yasuhiro Asahina, Yoshito Itoh, Ryosuke Tateishi, Yasunari Nakamoto, Eiji Kakazu, Shuji Terai, Masahito Shimizu, Yoshiyuki Ueno, Norio Akuta, Takahiro Kodama, Tomohide Tatsumi, Tomomi Yamada and Tetsuo Takehara. Posttreatment child-pugh class stratifies patient survival after directacting antiviral treatment in hepatitis C virus-associated decompesated cirrhosis. American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Nov. 10-14, 2023, Boston, USA.

- Takako Inoue, Hisayoshi Watanabe, Etsuko Iio, Masaya Onishi, Kei Moriya, Hideto Kawaratani, Yutaka Suzuki, Kentaro Matsuura, Hitoshi Yoshiji and Yasuhito Tanaka. Characteristics of the intestinal environment and its relationship to disease progression based on the fecal bile acids composition before and after hepatitis C virus elimination. American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Nov. 10-14, 2023, Boston, USA.
- Takako Inoue, Hisayoshi Watanabe, Etsuko Iio, Masaya Onishi, Kei Moriya, Hideto Kawaratani, Yutaka Suzuki, Kentaro Matsuura, Hitoshi Yoshiji and Yasuhito Tanaka. Cluster analysis of the characteristics of fecal bile acid composition and causes of dysbiosis in chronic hepatitis C. American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Nov. 10-14, 2023, Boston, USA.
- Haruki Uojima, Masashi Mizokam, Kazumi Yamasaki, Masaya Sugiyama, Ken Shirabe, Kiyooki Ito, Yasuhiro Asahina, Takumi Kawaguchi, Hidenori Toyoda, Masayuki Kurosaki, Akinobu Taketomi, Takeji Umemura, Kentaro Matsuura, Hiroko Iijima, Sohji Nishina, Hiroshi Yatsuhashi, Masayoshi Kage and Hisashi Hidaka. Serum mac-2 binding protein glycosylation isomer (M2BPGi) shows different values in different liver diseases by the newly developed quantitative M2BPGi method, strongly suggesting the existence of subtypes of M2BPGi. American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD). Nov. 10-14, 2023, Boston, USA.
- Tanaka T, Yagi T, Kubota E, and Kataoka H. (ポスター) Glucose-independent suppression of colon cancer cell growth by canagliflozin, a sodium-glucose cotransporter-2 inhibitor. 6th International Symposium of Kyoto Biomolecular Mass Spectrometry Society, 2023/1/30-31 京都
- Tanaka T. (ポスター) Multi-Omics-based Analysis of the Hypothalamic Remodeling in Murine Models of Obesity.
- the 30th European Congress on Obesity (ECO 2023), Dublin 2023/5/17-20
- Tanaka T. (ポスター) BMI Distribution and Obesity Prevalence in Patients with Pituitary Dysfunction — A Single Centre Study Japan. ポスター賞受賞 IMPROVE 2023, Paris 2023/12/13-15

【特許出願】

<名古屋市立大学>

- 志村 貴也 (研究開発代表者)、奥田 悠介、片岡 洋望、田口 歩、阿部 雄一. 大腸がんバイオマーカーおよびその用途. 出願人：公立大学法人名古屋市立大学. 2023/6/2. 国際出願 (PCT/JP2023/020674)
- 志村 貴也 (研究開発代表者)、奥田 悠介、片岡 洋望. 食道癌の内視鏡治療の適応の判断を補助する方法、診断キット. 出願人：公立大学法人名古屋市立大学. 国際出願の指定国移行：米国 (US18/036733) (移行日：2023/5/12)、欧州 (EP21894508.7) (移行日：2023/5/10)、中国 (PZS2304956-1-GJ) (移行日：2023/5/11)、韓国 (KR10-2023-7017175) (移行日：2023/5/19)
- 堀 寧 (代表発明者). 放射線等防護衣着用時の負担軽減を実現する補助具
- 堀 寧 (代表発明者). 内視鏡治療時の左手操作負担軽減を実現する補助具

<名古屋市立大学医学部附属東部医療センター>

- 林 香月 (学外共同発明者). 内視鏡治療時の左手操作負担軽減を実現する補助具 JST 特許出願支援申請 (S2023-0218-N0) 特願 2023-083345 着用保護具 (法政大学、名古屋市立大学)

【学内研究費】

- 片岡 洋望. 名市大特別研究奨励費 (代表). 腫瘍血管を標的とした次世代光線力学

療法の開発. 令和4年度-令和5年度、2,250千円/7,500千円.

・加地 謙太. 特別研究奨励費. 令和5年度、600千円. CYSLTR1 および 5-L0 を対象とした抗ロイコトリエン薬の胆道癌治療薬としての新規開発

・佐橋 秀典. 特別研究奨励費. 令和5年度、425千円. 血管新生の機序に着目したWNK1 阻害薬の胆道癌治療薬としての新規開発

<研究活動実績>

【欧文業績】

Tasaki Y, Sugiyama Y, Hamamoto S, Naiki T, Uemura T, Yokota K, Kawakita D, Nakamura M, Ogawa R, Shimura T, Mimura Y, Hotta Y, Odagiri K, Ito N, Iida M, Kimura Y, Komatsu H, Kataoka H, Takiguchi S, Morita A, Iwasaki S, Okuda K, Niimi A, Yasui T, Furukawa-Hibi Y. **Eosinophil may be a predictor of immune-related adverse events induced by different immune checkpoint inhibitor types: A retrospective multidisciplinary study.** *Cancer Med.* Dec; **12(24)**: 21666-21679, 2023.

Uemura T, Kenmotsu H, Hazama D, Teraoka S, Kobe H, Azuma K, Yamaguchi T, Masuda T, Yokoyama T, Otsubo K, Haratani K, Hayakawa D, Oki M, Takemoto S, Ozaki T, Akashi Y, Hata A, Hashimoto H, Yamamoto N, Nakagawa K. **Liquid biopsy detects genomic drivers in NSCLC without EGFR mutations by single-plex testing: WJOG13620L.** *Cancer Med.* Dec; **12(23)**: 21097-21110, 2023

Song WJ, Dupont L, Birring SS, Chung KF, Dąbrowska M, Diczpinigaitis P, Ribas CD, Fontana G, Gibson PG, Guilleminault L, Hull JH, Idzko M, Kardos P, Kim HJ, Lai K, Lavorini F, Millqvist E, Morice AH, Niimi A, Parker SM, Satia I, Smith JA, van den Berg JW, McGarvey LP. **Consensus goals and standards for specialist cough clinics: the NEUROCOUGH international Delphi study.** *ERJ Open Res.* Nov 20; **9(6)**: 00618-2023, 2023.

Sugihara T, Uchida HA, Yoshifuji H, Maejima Y, Naniwa T, Katsumata Y, Okazaki T, Ishizaki J, Murakawa Y, Ogawa N, Dobashi H, Horita T, Tanaka Y, Furuta S, Takeuchi T, Komagata Y, Nakaoka Y, Harigai M. **Association between the patterns of large-vessel lesions and treatment outcomes in patients with large-vessel giant cell arteritis.** *Mod Rheumatol.* Nov 1; **33(6)**: 1145-1153, 2023.

Maeda S, Hashimoto H, Maeda T, Tamechika SY, Isogai S, Naniwa T, Niimi A. **High-dimensional analysis of T-cell profiling variations following belimumab treatment in systemic lupus erythematosus.** *Lupus Sci Med.* Oct; **10(2)**: e000976, 2023

Yamaba Y, Yoshihara M, Takakuwa O, Iwata H, Ogino H, Sakane T, Haneda H, Nakao M, Yamada K, Inoue Y, Kunii E, Akita K. **Factors related to fixedness after transbronchial fiducial marker placement for image-guided proton therapy: A retrospective study.** *Respir Investig.* Sep; **61(5)**: 636-642, 2023.

Nishiyama H, Kanemitsu Y, Hara J, Fukumitsu K, Takeda N, Kurokawa R, Ito K, Tajiri T, Fukuda S, Uemura T, Ohkubo H, Maeno K, Ito Y, Oguri T, Takemura M, Niimi A. **Bronchial thermoplasty improves cough hypersensitivity and cough in severe asthmatics.** *Respir Med.* Sep; **216**: 107303, 2023.

Kita N, Tomita N, Takaoka T, Matsuura A, Okazaki D, Niwa M, Torii A, Takano S, Mekata Y, Niimi A, Hiwatashi A. **Symptomatic radiation-induced rib fractures after stereotactic body radiotherapy for early-stage non-small cell lung cancer.** *Clin Transl Radiat Oncol.* Sep 25; **43**: 100683, 2023.

Ito K, Kanemitsu Y, Fukumitsu K, Tajiri T, Nishiyama H, Mori Y, Fukuda S, Uemura T, Ohkubo H, Maeno K, Ito Y, Oguri T, Takemura M, Niimi A. **Targeting the interleukin-5 pathway improves cough hypersensitivity in patients with severe uncontrolled asthma.** *Ann Allergy Asthma Immunol.* Aug; **131(2)**: 203-208.e1, 2023.

Fukumitsu K, Ning Y, Kanemitsu Y, Tajiri T, Okuda K, Fukuda S, Uemura T, Ohkubo H, Takemura M, Maeno K, Ito Y, Oguri T, Takakuwa O, Niimi A. **Tracheal Glomus Tumor Complicated with Asthma Exacerbation in a Pregnant Woman.** *Intern Med.* Jul 15; **62(14)**: 2123-2128, 2023.

Lai K, Satia I, Song WJ, Wang G, Niimi A, Pattemore P, Chang AB, Gibson PG, Chung KF. **Cough and cough hypersensitivity as treatable traits of asthma.** *Lancet Respir Med.* Jul; **11(7)**: 650-662, 2023.

Fukumitsu K, Kanemitsu Y, Kurokawa R, Takeda N, Tajiri T, Nishiyama H, Ito K, Inoue Y, Yamamoto S, Mori Y, Fukuda S, Uemura T, Ohkubo H, Maeno K, Ito Y, Oguri T, Takemura M, Niimi A. **Tiotropium for refractory cough in asthma via cough reflex sensitivity: A randomized, parallel, open-label trial.** *Ann Allergy Asthma Immunol.* Jul; **131(1)**: 59-68.e3, 2023

Kita N, Tomita N, Takaoka T, Okazaki D, Niwa M, Torii A, Takano S, Mekata Y, Niimi A, Hiwatashi A. **Clinical and dosimetric factors for symptomatic radiation pneumonitis after stereotactic body radiotherapy for early-stage non-small cell lung cancer.** *Clin Transl Radiat Oncol.* Jun 2; **41**: 100648, 2023.

Dicpinigaitis PV, Morice AH, Smith JA, Sher MR, Vaezi M, Guilleminault L, Niimi A, Gude K, Krahn U, Saarinen R, Pires PV, Wosnitza M, McGarvey L; PAGANINI Investigators. **Efficacy and Safety of Eliapixant in Refractory Chronic Cough: The Randomized, Placebo-Controlled Phase 2b PAGANINI Study.** *Lung.* Jun; **201(3)**: 255-266, 2023.

Niimi A, Fukunaga K, Taniguchi M, Nakamura Y, Tagaya E, Horiguchi T, Yokoyama A, Yamaguchi M, Nagata M. **Executive summary: Japanese guidelines for adult asthma (JGL) 2021.** *Allergol Int. Apr;* **72(2)**: 207-226, 2023.

Ito K, Kanemitsu Y, Kamiya T, Fukumitsu K, Takeda N, Tajiri T, Kurokawa R, Nishiyama N, Yap J, Fukuda S, Uemura T, Ohkubo H, Maeno K, Ito Y, Oguri T, Takemura M, Niimi A. **Functional gastrointestinal disorders are associated with capsaicin cough sensitivity in severe asthma.** *Allergol Int. Apr;* **72(2)**: 271-278, 2023.

Tamechika SY, Ohmura SI, Maeda S, Naniwa T. **Efficacy of denosumab on bisphosphonate-treated osteoporosis and osteopenia in systemic rheumatic disease patients receiving glucocorticoids.** *J Bone Miner Metab.* **41(2)**: 203-211, 2023.

Niimi A, Kanemitsu Y, Tajiri T, Sumi K, Mikami T, Kondo N. **Real-life effectiveness of indacaterol/glycopyrronium/mometasone for symptomatic relief of cough after switching from inhaled corticosteroid/long-acting β_2 -agonist therapy in patients with asthma: REACH study design.** *ERJ Open Res.* **9(2)**: 00452-2022, 2023.

Azuma T, Misaki K, Kusaoi M, Suzuki Y, Higa S, Kumon Y, Yoshitama T, Naniwa T, Yamada S, Okano T, Takeuchi K, Ikeda K, Higami K, Inoo M, Sawada T, Kang C, Hayashi M, Nagaya Y, Hagiwara T, Shono E, Himeno Shinkichi, Tanaka E, Inoue E, Yoshizawa Y, Kadode M, Yamanaka H, Harigai M. **Influence of concomitant methotrexate use on the clinical effectiveness, retention, and safety of abatacept in biologic-naïve patients with rheumatoid arthritis: Post-hoc subgroup analysis of the ORIGAMI study.** *Mod Rheumatol.* 2; **33(2)**: 271-278, 2023.

McGarvey L, Smith JA, Morice A, Biring SS, Chung KF, Dicpinigaitis PV, Niimi A, Benninger MS, Sher M, Matsunaga Y, Miyazaki S, Machida M, Ishihara H, Mahmood A, Gomez JC. **A Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled, Parallel-Group Phase 2b Trial of P2X3 Receptor Antagonist Sivopixant for Refractory or Unexplained Chronic Cough.** *Lung.* **1(1)**: 25-35, 2023.

Kita N, Tomita N, Takaoka T, Sudo S, Tsuzuki Y, Okazaki D, Niwa M, Torii A, Takano S, Niimi A, Hiwatashi A. **Comparison of Recurrence Patterns between Adenocarcinoma and Squamous Cell Carcinoma after Stereotactic Body Radiotherapy for Early-Stage Lung Cancer.** *Cancers (Basel).* **15(3)**: 887, 2023.

Tajiri T, Suzuki M, Kutsuna T, Nishiyama H, Ito K, Takeda N, Fukumitsu K, Kanemitsu Y, Fukuda S, Uemura T, Ohkubo H, Maeno K, Ito Y, Oguri T, Takemura M, Yoshikawa K, Niimi

A. Specific IgE Response and Omalizumab Responsiveness in Severe Allergic Asthma. *J Asthma Allergy.* **16:** 149-157, 2023.

Kanemitsu Y, Kurokawa R, Akamatsu T, Fukumitsu K, Fukuda S, Ito Y, Takeda N, Nishiyama H, Ito K, Tajiri T, Mori Y, Uemura T, Ohkubo H, Takemura M, Maeno K, Oguri T, Shirai T, Niimi A. **Decreased capsaicin cough reflex sensitivity predicts hospitalization due to COPD.** *BMJ Open Respir Res.* **10(1):** e001283, 2023.

【和文業績】

新実彰男. 喘息とその周辺疾患. 呼吸器ジャーナル. 71(3): 364-371, 2023.

新実彰男. 喘息治療の進歩. 日内会誌. 112(9): 1771-78, 2023.

新実彰男. 咳嗽の分類とメカニズム. 呼吸器内科. 44(1):1-7, 2023.

田尻智子. 喘鳴. 薬局. 南山堂. 73(8):56-60, 2023

鈴木元彦, 田尻智子, 金光禎寛. アレルギー性鼻炎に対する生物学的製剤の現状と将来. MB ENTONI. 286: 21-30, 2023.

金光禎寛. 喘息による咳嗽. 呼吸器内科. 44(1):53-60, 2023.

福光研介. 咳受容体感受性検査の実際. 呼吸器内科. 44(1):106-111, 2023.

加藤千晶, 高桑修, 山羽悠介, 山田一貴, 吉原実鈴, 國井英治, 秋田憲志. 子宮頸癌を合併し Paradoxical Reaction を呈した結核性腹膜炎の1例. 結核. 98(3): 89-93, 2023.

山田一貴, 山羽悠介, 井上芳次, 榮枝幸紀, 吉原実鈴, 國井英治, 中沢陽子, 秋田憲志. 抗MOG抗体陽性視神経炎の治療中に発症した間質性肺炎の1例. 日内会誌. 117(10): 1937-41. 2023.

藤田浩平, 大久保仁嗣. 肺線維症の画像診断. 現代医学. 70(1): 41-46, 2023.

磯谷俊太郎, 前田伸治. 多機能性 T 細胞と自己免疫性疾患. 別冊 BIO Clinica 慢性炎症と疾患 特集「膠原病」. 12(2): 103-107, 2023

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	新実 彰男	21(14)	18(11)	3(3)
准教授	伊藤 穰	7(0)	7(0)	0
講師	田尻 智子	10(2)	8(1)	2(1)
講師	上村 剛大	9(1)	9(1)	0
講師	金光 禎寛	10(7)	8(6)	2(1)
助教	福田 悟史	7(0)	7(0)	0
助教	福光 研介	8(3)	7(2)	1(1)
助教	森 裕太	3(0)	3(0)	0
准教授*	小栗 鉄也	7(0)	7(0)	0
講師*	竹村 昌也	7(0)	7(0)	0
准教授	難波 大夫	4(1)	4(1)	0
講師	前田 伸治	3(2)	2(1)	1(1)
助教	為近 真也	2(1)	2(1)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	前田 浩義	0	0	0
助教	荒川 聡介	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	秋田 憲志	3(3)	1(1)	2(2)
教授	速水 芳仁	0	0	0
助教	井上 芳次	3(0)	2(0)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（みどり）】

			内訳	
職名	氏名	論文数	欧文	和文
准教授	大久保 仁嗣	8(1)	7(0)	1(1)
助教	中野 暁子	0	0	0
助教	堀内 実	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（みらい）】

			内訳	
職名	氏名	論文数	欧文	和文
准教授	利根川 賢	0	0	0
助教	西山 裕乃	6(1)	6(1)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

田尻 智子. 日本アレルギー学会. 2023 年度サノフィ優秀論文賞. Pathophysiological relevance of sputum MUC5AC and MUC5B levels in patients with mild asthma, 令和 5 年 6 月

前田 伸治. 日本リウマチ学会. 秀逸ポスター賞 第 67 回日本リウマチ学会総会. 全身性エリテマトーデスにおける Belimumab 治療がもたらす T 細胞免疫プロファイリング変化の高次元解析, 令和 5 年 4 月

【外部資金獲得実績】

新実 彰男. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和5年4月-令和7年3月
1,690千円/4,810千円

新実 彰男. 研究助成金（大鵬薬品工業株式会社）. 令和5年4月-研究終了、100
千円

大久保 仁嗣. 研究助成金（ベーリンガーインゲルハイム株式会社）. 令和5年4
月-令和7年3月、500千円

田尻 智子. 文部科学省科学研究費（若手） 令和3年-令和6年3月、700千円/910
千円

上村 剛大. 研究助成金（日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社）. 令和5年
4月-令和6年3月、300千円

福田 悟史. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表） 令和5年4月-令和8年3月、
1,820千円/4,680千円

福光 研介. 文部科学省科学研究費（若手）. 令和2年4月-令和6年3月、390千
円/2,600千円

伊藤 圭馬. 研究助成金（一般社団法人 日本呼吸器学会）. 令和5年12月-令和6
年11月、1,500千円

前田 伸治. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度-令和6年度、780
千円/4,030千円

爲近 真也. 文部科学省科学研究費（若手）. 令和5年度-令和7年度、2,340千円
/4,550千円

【その他】

<国際学会>

Tajiri T, Nishiyama H, Ito K, Mori Y, Fukumitsu K, Kanemitsu Y, Fukuda S, Uemura T, Maeno K, Ito Y, Oguri T, Takemura M, Niimi A. American Thoracic Society. Impact of the COVID-19 pandemic on clinic visit behavior among adult patients with asthma. 2023/5

Fukumitsu K, Kanemitsu Y, Ito K, Nishiyama N, Tajiri T, Mori Y, Fukuda S, Uemura T, Ohkubo H, Ito Y, Oguri T, Takemura M, Niimi A. European Respiratory Society annual congress. Inflammatory phenotype categorized by proximal and distal airway in patients with stable asthma. 2023/9/10

Ohkubo H, Fujita K, Nakano A, Mori Y, Fukumitsu K, Fukuda S, Kanemitsu Y, Uemura T, Tajiri T, Maeno K, Ito Y, Oguri T, Ozawa Y, Murase T, Niimi A. International Congress on Frailty and Sarcopenia Research. Frequency and impact on clinical outcomes of sarcopenia in patients with idiopathic pulmonary fibrosis. 2023

Ohkubo H, Fujita K, Nakano A, Ito K, Mori Y, Fukumitsu K, Fukuda S, Kanemitsu Y, Uemura T, Tajiri T, Maeno K, Ito Y, Oguri T, Ozawa Y, Murase Y, Niimi A. International Congress on Frailty and Sarcopenia Research. Erector spine muscle areas associated with daily step count in patients with idiopathic pulmonary fibrosis. 2023

<国内学会>

田尻智子. 第9回総合アレルギー講習会. ステロイド依存性重症喘息における生物学的製剤の使い方. 2023年3月

新実彰男. 第63回日本呼吸器学会学術講演会. 喘息での非 T2 型メカニズム 神経学的機序の関与. 2023年4月

新実彰男. 第63回日本呼吸器学会学術講演会. 英語論文の書き方セミナー Respiratory Investigation (RI) 誌の新企画と今後の方向性. 2023年4月

森祐太, 伊藤穰, 大久保仁嗣, 加藤千博, 福光研介, 福田悟史, 金光禎寛, 上村剛大, 田尻智子, 前野健, 新実彰男. 第63回日本呼吸器学会学術講演会. COVID-19 肺炎の定量的 CT 画像解析. 2023年4月

鈴木悠斗, 前野健, 堀内実, 曾根一輝, 福田悟史, 上村剛大, 森祐太, 福光研介, 金光禎寛, 田尻智子, 大久保仁嗣, 竹村昌也, 伊藤穰, 小栗鉄也, 新実彰男. 第63回日本呼吸器学会学術講演会. 当院での免疫チェックポイント阻害薬治療により気管支喘息を発症した癌患者の後方視的検討. 2023年4月

新実彰男, 金光禎寛, 田尻智子, 鷺見和也, 三上俊明, 近藤則彦. 第63回日本呼吸器学会学術講演会. 中用量 ICS/LABA 抵抗性の喘息性咳嗽に対する中用量 IND/GLY/MF の有効性: REACH study 研究デザイン. 2023年4月

西山裕乃, 田尻智子, 伊藤圭馬, 森祐太, 福光研介, 金光禎寛, 福田悟史, 上村剛大, 大久保仁嗣, 竹村昌也, 前野健, 伊藤穰, 小栗鉄也, 新実彰男. 第63回日本呼吸器学会学術講演会. 新型コロナウイルス感染拡大による新規受診喘息患者数, 喘息重症度および通院継続状況の経年変化. 2023年4月

五明凌平, 上村剛大, 井上芳次, 福田悟史, 羽柴文貴, 原悠美, 山川英夫, 森祐太, 福光研介, 金光禎寛, 田尻智子, 大久保仁嗣, 前野健, 伊藤穰, 正木彩子, 中村敦, 新実彰男. 第63回日本呼吸器学会学術講演会. 気管支鏡検査後の急速な悪化に免疫チェックポイント阻害薬併用化学療法が有効であった肺腺癌の1例. 2023年4月

速水 芳仁. 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会. 特徴的な自覚症状に乏しかった巨細胞性動脈炎の1例. 2023年4月

山本実佳, 田尻智子, 森祐太, 福光研介, 福田悟史, 金光禎寛, 上村剛大, 大久保仁嗣, 伊藤穰, 新実彰男. 第121回日本内科学会総会. 学術講演会. 住環境中の Penicillium 属

の関与が疑われたアレルギー性気管支肺真菌症の1例, 2023年4月

金光禎寛, 西山裕乃, 原文介, 福光研介, 武田典久, 黒川良太, 伊藤圭馬, 田尻智子, 福田悟史, 上村剛大, 大久保仁嗣, 前野健, 伊藤穰, 小栗鉄也, 竹村昌也, 新実彰男. 第25回日本咳嗽学会学術大会. 気管支熱形成術の重症喘息による咳に対する効果. 2023年9月

田中達也, 金光禎寛, 森祐太, 新実彰男. 第25回日本咳嗽学会学術大会. ゲーファピキサントの効果を咳視覚的アナログスケールで長期にわたり評価した難治性喘息性咳嗽の2例. 2023年9月

金光禎寛, 黒川良太, 赤松泰介, 福田悟史, 福光研介, 天草勇輝, 鈴木達朗, 伊藤圭馬, 森祐太, 上村剛大, 田尻智子, 小澤良之, 伊藤穰, 白井敏博, 新実彰男. 第25回日本咳嗽学会学術大会. 気腫型/非気腫型COPDにおける咳関連QoLに影響する因子の検討. 2023年9月

伊藤圭馬, 金光禎寛, 森祐太, 鈴木達朗, 西山裕乃, 福光研介, 田尻智子, 福田悟史, 上村剛大, 伊藤穰, 新実彰男. 第25回日本咳嗽学会学術大会. 機能性ディスペプシアは喘息患者の咳重症度、咳関連QoL低下と関連する. 2023年9月

石浦嘉久, 藤村政樹, 小川晴彦, 原文介, 新谷博元, 保澤総一郎, 熱田了, 村木正人, 塩谷隆信, 雨宮徳直, 新実彰男. 第72回日本アレルギー学会学術大会. 日本での慢性咳嗽における診療実態に関する多施設共同前向き観察研究からのアレルギー性咳嗽の重要性の検討. 2023年10月

矢上晶子, 近藤康人, 今泉和良, 伊藤浩明, 高里良宏, 伊藤理, 縣裕篤, 新実彰男, 金光禎寛, 石井誠, 若原恵子, 堀口高彦. 第72回日本アレルギー学会学術大会. 愛知県の医療連携パスによるアレルギー診療の質・患者満足度向上に関する検討. 2023年10月

金光禎寛, 黒川良太, 赤松泰介, 伊藤圭馬, 福田悟史, 福光研介, 森祐太, 上村剛大, 田尻智子, 伊藤穰, 白井敏博, 新実彰男. 第72回日本アレルギー学会学術大会. COPDにおける黄色ブドウ球菌エンテロトキシン感作と2型炎症/喘息合併の関連性に関する検討. 2023年10月

田尻智子, 鈴木元彦, 為近真也, 伊藤圭馬, 森祐太, 福光研介, 福田悟史, 金光禎寛, 上村剛大, 竹村昌也, 伊藤穰, 小栗鉄也, 新実彰男. 第72回日本アレルギー学会学術大会. 繰り返す眩暈および耳介軟骨炎で再発性多発軟骨炎と診断された重症喘息の1例. 2023年10月

羽田裕司, 坂根理司, 羽喰英美, 秋田憲志, 國井英治, 山羽悠介, 原悠美, 大脇壮太. 第64回日本肺癌学会学術集会. Pembrolizumab開始後1年4ヶ月後にpseudoprogressionをきたした1例. 2023年11月

坂根理司, 羽喰英美, 大脇壮太, 原悠美, 山羽悠介, 國井英治, 秋田憲志, 羽田裕司. 第64回日本肺癌学会学術集会. アテゾリズマブによる術後補助化学療法の治療経験. 2023年11月

國井英治, 大脇壮太, 原悠美, 吉原実鈴, 山羽悠介, 羽喰英美, 坂根理司, 羽田裕司, 濱嶋直樹, 秋田憲志. 第64回日本肺癌学会学術集会. 当院で実施された胸部悪性腫瘍に対する包括的ゲノムプロファイリング検査の有用性に関する検討. 2023年11月

大脇壮太, 山羽悠介, 原悠美, 吉原実鈴, 國井英治, 羽喰英美, 坂根理司, 羽田裕司, 秋田憲志. 第64回日本肺癌学会学術集会. irAEによりPembrolizumab継続が困難であったが、Atezolizumabへの変更で治療継続が可能となったNSCLCの3例. 2023年11月

戸田早苗, 上村剛大, 小栗鉄也, 曾根一輝, 堀内実, 鈴木悠斗, 山本清花, 香川友祐, 福田悟史, 前野健, 福光研介, 金光禎寛, 田尻智子, 伊藤穰, 新実彰男. 第64回日本肺癌学会学術集会. 肺癌治療におけるABCC10遺伝子多型とタキサン系抗癌剤の治療効果と副作用. 2023年11月

<研究以外の活動において特筆すべき実績>

すべてのスタッフが病棟業務や外来業務に従事し、呼吸器・アレルギー内科、及びリウマチ・膠原病内科の診療に貢献した。

教育面においてはすべてのスタッフが学生・研修医・若手医師に対して講義や指導を行った。また、金光禎寛は医学教育センターの副センター長として、福光研介は医学教育センターの委員として、医学教育センターの高桑修教授と共に、医学生の教育に尽力した。中でも、BRJ (beyond resident project) 活動の一環として、胸部単純エックス線写真の読影や医師としてのプロフェッショナリズムについて指導した。

<研究活動実績>

【欧文業績】

【桜山】

- 1 Choi K, Kwon W, Shin D, Lee S, Hwang D, Zhang J, Nam C, Shin E, Doh J, Chen S, Kakuta T, Toth G, Piroth Z, Hakeem A, Uretsky B, Hokama Y, Tanaka N, Lim H, Ito T, Matsuo A, Azzalini L, Leesar M, Daemen J, Collison D, Collet C, Bruyne B, Koo B, Park T, Yang J, Song Y, Hahn J, Choi S, Gwon H, Lee J. **Differential Impact of Fractional Flow Reserve Measured After Coronary Stent Implantation by Left Ventricular Dysfunction.** JACC Asia. **12**; **4**: 229-240. 2023.
- 2 Kusunose K, Tsuji T, Hirata Y, Takahashi T, Sata M, Sato K, Albakaa N, Ishizu T, Kotoku J, Seo Y; JSE-TAVI investigators. **Unsupervised cluster analysis reveals different phenotypes in patients after transcatheter aortic valve replacement.** Eur Heart J Open. **20**; **4**(1): oead136, 2023.
- 3 Yokoi M, Ito T, Kawada Y, Mizoguchi T, Yamamoto J, Mori K, Nakasuka K, Kikuchi S, Fujita H, Kitada S, Goto T, Seo Y. **Malondialdehyde-Modified Low-Density Lipoprotein as a Predictor of Major Adverse Limb Events after Endovascular Therapy in Patients with Lower Extremity Arterial Disease.** J Atheroscler Thromb. **1**; **30**(11): 1612-1621. 2023 Nov.
- 4 Hamaya R, Goto S, Hwang D, Zhang J, Yang S, Lee J, Hoshino M, Nam C, Shin E, Doh J, Chen S, Toth G, Piroth Z, Hakeem A, Uretsky B, Hokama Y, Tanaka N, Lim H, Ito T, Matsuo A, Azzalini L, Leesar M, Collet C, Koo B, Bruyne B, Kakuta T. **Machine-learning-based prediction of fractional flow reserve after percutaneous coronary intervention.** Atherosclerosis. **383**: 117310. 2023 Oct.
- 5 Sekimoto S, Murakami Y, Seo Y. **Atrial echo beats as a novel mechanism of periodic fluctuation in cycle length of atrial tachycardia.** Pacing Clin Electrophysiol. **46**(9): 1145-1148. 2023 Sep.
- 6 Yang S, Hwang D, Zhang J, Park J, Pil Yun J, Myung Lee J, Nam C, Shin E, Doh J, Chen S, Kakuta T, Toth G, Piroth Z, Johnson N, Hakeem A, Uretsky B, Hokama Y, Tanaka N, Lim H, Ito T, Matsuo A, Azzalini L, Leesar A, Neleman T, M van Mieghem N, Diletti R, Daemen J, Collison D, Collet C, De Bruyne B, Koo B. **Clinical and Vessel Characteristics Associated With Hard Outcomes After PCI and Their Combined Prognostic Implications.** J Am Heart Assoc. **5**; **12**(17): e030572. 2023 Sep.
- 7 Seo Y. **Time to Reconsider Ejection Fraction in Heart Failure: Reclassification Needed Beyond Ejection Fraction.** JACC Asia. **22**; **3**(5): 752-754. 2023 Aug.
- 8 Sato K, Seo Y, Ishizu T, Albakaa NK, Izumo M, Okada A, Izumi C, Inami S, Takeda Y, Onishi T, Izumi Y, Kumagai A, Fukuda T, Takahashi N, Kitai T, Iwano H, Sugawara S, Akasaka K, Harada K, Masaoka Y, Kusunose K, Tanabe K, Sakamoto T, Takamura T, Ieda M. **Cardiac Reversibility and Survival After Transcatheter Aortic Valve Implantation in Patients With Low-Gradient Aortic Stenosis.** J Am Heart Assoc. **15**; **12**(16): e029717. 2023 Aug.
- 9 Mizoguchi T, Sugiura T, Kawada Y, Yamamoto J, Yokoi M, Nakasuka K, Mori K, Kikuchi S, Ito T, Kitada S, Goto T, Seo Y. **Association Between Aortic Stiffness and Exercise Tolerance in Patients at the Risk Stage of Heart Failure.** Circ J. **25**; **87**(8): 1075-1084. 2023 Jul.
- 10 Fujii K, Nakayama I, Izawa J, Iida N, Seo Y, Yamamoto M, Uenishi N, Terasawa T, Iwata M. **Association between intrarenal venous flow from Doppler ultrasonography and acute kidney injury in patients with sepsis in critical care: a prospective, exploratory observational study.** Crit Care. **10**; **27**(1): 278. 2023 Jul.

11 Yokoi M, Ito T, Yamamoto J, Mori K, Nakasuka K, Fujita H, Kitada S, Goto T, Seo Y. **Intra-procedural Thrombotic Events during Percutaneous Coronary Intervention Due to Acquired Antithrombin Deficiency-related Heparin Resistance Successfully Treated with Antithrombin Gamma Supplementation.** Intern Med. **15;62(12)**: 1785-1788. 2023 Jun.

12 Ohte N, Tanaka A, Kitada S, Yamada T, Eguchi K, Teragawa H, Takeishi Y, Kodama K, Seo Y, Node K; CANDLE Trial Investigators. **Influence of left ventricular ejection fraction on the reduction in N-terminal pro-brain natriuretic peptide by canagliflozin in patients with heart failure and type 2 diabetes: A sub analysis of the CANDLE trial.** J Cardiol. **81(6)**: 508-512. 2023 Jun.

13 Ohte N, Kikuchi S, Seo Y. **Cardiac mechanical baseline for heart failure with preserved ejection fraction beyond the underlying aetiology.** Eur Heart J Cardiovasc Imaging. **24;24(5)**: e90. 2023 Mar.

14 Ohte N, Kikuchi S, Iwahashi N, Kinugasa Y, Dohi, K, Takase H, Masai K, Inoue K, Okumura T, Hachiya K, Kitada S, Seo Y; **EASY HFpEF Investigators.** **Unfavourable outcomes in patients with heart failure with higher preserved left ventricular ejection fraction.** Eur Heart J Cardiovasc Imaging. **17;24(3)**: 293-300. 2023 Feb.

15 Mizoguchi T, Sugiura T, Kawada Y, Yamamoto J, Yokoi M, Nakasuka K, Mori K, Kikuchi S, Ito T, Kitada S, Goto T, Seo Y. **Association Between Aortic Stiffness and Exercise Tolerance in Patients at the Risk Stage of Heart Failure.** Circulation Journal. **10**.1253. 2023

16 Nakayama T, Yamamoto J, Ozeki T, Tsuruta Y, Yokoi M, Aoi T, Mori Y, Hori M, Tsujita M, Shirasawa Y, Kondo C, Yasuda K, Murata M, Kinoshita Y, Suzuki S, Fukuda M, Yamazaki C, Ikehara N, Sugiura M, Goto T, Hashimoto H, Yajima K, Maruyama S, Morozumi K, Seo Y. **Non-A Blood Type Is a Risk Factor for Poor Cardio-Cerebrovascular Outcomes in Patients Undergoing Dialysis.** Biomedicines. **6;11(2)**: 592. 2023 Feb

【東部】

1 Hayashi K, Hachiya K, Yonezu K, Otani N, Furuya K, Miura I, Tomoe T, Sugiyama T, Wada Y, Takahashi N, Uemura N. **A Heart Failure Smartphone Application That Nudges Patients/Physicians Toward Optimal Medical Therapy - Development and Usability Study -.** Circulation Reports. **5(12)**: 459-462, 2023.

2 Sekimoto S, Murakami Y, Seo Y. **Atrial echo beats as a novel mechanism of periodic fluctuation in cycle length of atrial tachycardia.** Pacing Clin Electrophysiol. **46(9)**: 1145-1148, 2023.

3 Ohte N, Kikuchi S, Iwahashi N, Kinugasa Y, Dohi, K, Takase H, Masai K, Inoue K, Okumura T, Hachiya K, Kitada S, Seo Y; **EASY HFpEF Investigators.** **Unfavourable outcomes in patients with heart failure with higher preserved left ventricular ejection fraction.** Eur Heart J Cardiovasc Imaging. **17;24(3)**: 293-300. 2023 Feb.

【西部】

1 Nakayama T, Yamamoto J, Ozeki T, Tsuruta Y, Yokoi M, Aoi T, Mori Y, Hori M, Tsujita M, Shirasawa Y, Kondo C, Yasuda K, Murata M, Kinoshita Y, Suzuki S, Fukuda M, Yamazaki C, Ikehara N, Sugiura M, Goto T, Hashimoto H, Yajima K, Maruyama S, Morozumi K, Seo Y. **Non-A Blood Type Is a Risk Factor for Poor Cardio-Cerebrovascular Outcomes in Patients Undergoing Dialysis.** Biomedicines. **6;11(2):** 592. 2023 Feb

【みどり】

なし

【みらい】

Gyoten I, Shigemori H, Takagi T, Kosaka Y, Shigenaga Y, Kakizaki M, Miura S, Kanto A, Ando R, Oguri T, Yamashita S, Matsuo Y, and Takakuwa O. **A new online platform system which connects community-based medical institutions to medical students in the post-COVID-19 era.** Nagoya Medical Journal. **57:** 83-90, 2023

【和文業績】

【桜山】

- 1 瀬尾 由広. 巻頭言 古代から続くうっ血との戦い. 特集心不全のうっ血学. 心エコー Vol. 24:No. 12, 2023.
- 2 北田 修一. 肺動脈楔入圧は左室充満圧評価に万能な指標か? 特集心不全のうっ血学. 心エコー Vol. 24 No. 12: p1160-p1169, 2023.
- 3 瀬尾 由広. Point of case ultrasound(POCUS)の活用. 伊藤 浩・山下 武志編. 循環器疾患最新の治療. 2024-2025: p42-46, 2023.
- 4 瀬尾 由広. 心筋症を診る上での心エコーの有用性. 日本臨床 2023 第81巻・第11号(通巻1244号): p1655-p1662. 特集心筋症—基礎・臨床の最新動向—, 2023.
- 5 河田 侑, 瀬尾 由広. ドプラ法によるARの重症度評価. 心エコー. Vol. 24 No. 11: p1073-p1079, 2023.
- 6 香山 京美, 瀬尾 由広. 特集 三尖弁閉鎖不全症 循環器内科医が知っておくべき重要知識と最新の知見. Heart View Vol. 27 No. 11: p28(1020)-p34(1026), 2023.
- 7 瀬尾 由広. 労作時息切れは、労作時の検査で診断を. Medical Practice 40 巻10号: p1618, 2023.
- 8 瀬尾 由広. 僧帽弁逸脱症. 特集 高中性脂肪血症の治療戦略. 週刊 日本医事新報 5183号: p44, 2023.
- 9 河田 侑, 瀬尾 由広. 疣腫の再発? Saphylococcus aureusによる僧帽弁位感染性心内膜炎術後の1例. 心エコー. Vol. 24 No. 7: p726-p730, 2023.
- 10 瀬尾 由広. 循環器内科からみた腎うっ血. 腎臓内科. 第17巻4号: p413-419, 2023.

【東部】

和田 靖明. 胸痛を訴える患者の診断. Heart View. 27(2): p112-p117, 2023.

山田博胤, 和田 靖明. 心房細動における心エコーレポートの書き方. Medical Technology. 51(3): p287-291, 2023.

山田博胤, 和田 靖明. 心臓 POCUS 特集にあたって. レジデントノート. 25(9): p1584-p1585, 2023.

小室あゆみ, 和田 靖明. 心不全のガイドライン-HFrEF, 急性心不全. 心エコー. 4(10): p940-p947, 2023.

【西部】

なし

【みどり】

なし

【みらい】

なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	瀬尾 由広	22	13	9
講師	後藤 利彦	5	5	0
講師	北田 修一	7	6	1
講師	伊藤 剛	7	7	0
助教*1	菊池 祥平	5	5	0
助教	森 賢人	4	4	0
助教	山邊 小百合	0	0	0
助教	山本 惇貴	5	5	0
助教	横井 雅史	5	5	0
助教	溝口 達也	3	3	0
助教	河田 侑	4	2	2

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

*所属は中央臨床検査部

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	和田 靖明	4	0	4
講師	村井 俊介	0	0	0
講師	市橋 拓	0	0	0

講師*1	関本 暁	1	1	0
講師*2	蜂矢 健太	1	1	0
教授*3	村上 善正	1	1	0
准教授*4	佐伯 知昭	0	0	0
准教授*5	山下 純世	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

*1&2:3月まで講師診療担当、4月から講師

*3:3月で退官

*4&5:3月まで、4月からみどりとみらいにて教授就任

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	矢島 和裕	1	1	0
講師	杉浦 真人	1	1	0
講師	中山 貴文	1	1	0
助教*	大石 悠香子	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

*12月から西部にて助教（診療担当）で異動

【各教員の論文数（みどり）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授*	佐伯 知昭	0	0	0
助教	中澤 あい	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

*4月からみどりにて教授就任

【各教員の論文数（みらい）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授*	山下 純世	1	0	1
准教授	杉本 匡史	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

*4月からみらいにて教授就任

【表彰・受賞】

【桜山】

なし

【東部】

なし

【西部】

なし

【みどり】

なし

【みらい】

なし

【外部資金獲得実績】

【桜山】

- 1 瀬尾 由広. 研究助成金（持田製薬株式会社）. 令和5年12月-令和6年11月、168千円
- 2 後藤 利彦. 治臨研（一般財団法人生産開発科学研究所）. 令和5年11月-令和6年3月、280千円
- 3 菊池 祥平. メディカルプリンター評価事業協力金. 令和5年11月-令和6年3月、15千円
- 4 瀬尾 由広. 研究助成金（大塚製薬株式会社）. 令和5年7月-令和11年3月、840千円
- 5 瀬尾 由広. 共同研究費（キャノンメディカルシステムズ株式会社）. 令和5年7月-令和6年7月、769千円
- 6 溝口 達也. 製販後調査研究費（第一三共株式会社）. 令和5年5月-令和6年3月、11千円
- 7 瀬尾 由広. 研究助成金（PDR ファーマ株式会社）. 令和5年4月-令和6年3月、168千円
- 8 瀬尾 由広. 研究助成金（日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社）. 令和5年4月-令和8年3月、420千円
- 9 山本 淳貴. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和5年度-令和8年度、1,800千円/3,100千円
- 10 菊池 祥平. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和5年度-令和8年度、100千円/200千円

- 11 瀬尾 由広. 製販後調査研究費 (ファイザーR&D 合同会社). 令和 5 年 4 月-令和 7 年 3 月、33 千円
- 12 北田 修一. 受託研究費 (国立大学法人佐賀大学). 令和 5 年 4 月-令和 7 年 3 月、153,846 円
- 13 山本 淳貴. 研究助成金 (一般財団法人朝日インテック・宮田尚彦 医療技術支援財団). 令和 5 年 1 月-令和 11 年 12 月、1,000 千円
- 14 瀬尾 由広. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 4 年度-令和 6 年度、2,200 千円/3,200 千円
- 15 瀬尾 由広. 横井雅史文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 4 年度-令和 8 年度、20 千円/100 千円
- 16 後藤 利彦. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 4 年度-令和 8 年度、1,900 千円/3,100 千円
- 17 伊藤 剛. 横井雅史文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 4 年度-令和 8 年度、20 千円/100 千円
- 18 横井雅史. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 4 年度-令和 8 年度、560 千円/2,900 千円
- 19 瀬尾 由広. 研究助成金 (日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社). 令和 4 年 4 月-令和 7 年 3 月、420 千円
- 20 瀬尾 由広. 共同研究費 (キャノンメディカルシステムズ株式会社). 令和 4 年 7 月-令和 5 年 7 月、769 千円
- 21 瀬尾 由広. 受託研究費 (国立研究開発法人国立循環器病研究センター). 令和 4 年 10 月-令和 7 年 12 月、57 千円
- 22 山本 淳貴. 治験費 (ヤンセンファーマ株式会社). 令和 3 年 4 月-令和 8 年 12 月、1,372 千円
- 23 伊藤 剛. 文部科学省科学研究費 (若手研究・代表). 令和 3 年度-令和 5 年度、500 千円/3,400 千円
- 24 横井 雅史. 治臨研 (医療法人錦秀会). 令和 3 年 4 月-令和 7 年 10 月、272 千円
- 25 森 賢人. 文部科学省科学研究費 (若手研究・代表). 令和 2 年度-令和 5 年度、800 千円/3,400 千円
- 26 山本 淳貴. 製販後調査研究費 (日本新薬株式会社). 平成 30 年 10 月-令和 5 年 9 月、132 千円
- 27 山本 淳貴. 製販後調査研究費 (日本新薬株式会社). 平成 30 年 10 月-令和 5 年 9 月、33 千円
- 28 山本 淳貴. 製販後調査研究費 (ヤンセンファーマ株式会社). 平成 29 年 4 月-令和 5 年 4 月、66 千円

【東部】

1 市橋 拓. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和5年度-令和8年度. 1,430千円/4,550千円

【西部】

1 中山 貴文. 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）. 令和4年度-令和7年度、200千円/800千円

2 1中山 貴文. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和3年度-令和7年度、700千円/3,600千円

【みどり】

なし

【みらい】

1 山下 純世. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和4年度-令和7年度、4,160千円.

【その他】

【桜山】

学会発表（海外）

1 Yoshihiro Seo. ESC: European Society of Cardiology 2023. HFpEF prevention Strategies, diagnosis, and treatment: a practical overview. 2023.8.25 – 28

2 Wataru Suzuki, Shohei Kikuchi, Yu Kawada, Toshihiko Goto, Tetsuya Amano, Yoshihiro Seo. ESC: European Society of Cardiology 2023. Diagnostic accuracy of apical sparing pattern in transthyretin-delivered cardiac amyloidosis assessed by two-dimensional strain echocardiography. 2023.8.25 – 28

学会発表（国内）

1 後藤利彦、森賢人、桜井勇明、大石悠香子、瀬尾由広. 第4回日本不整脈心電学会東海・北陸支部地方会. ペースメーカー症例における左室収縮機能が保たれた心不全. 2024年3月23日

2 後藤利彦、森賢人、大石悠香子、桜井勇明、新谷康広、鶴田芳朗、河田侑、溝口達也、山本惇貴、横井雅吏、山邊小百合、菊池祥平、伊藤剛、北田修一、福田英克、瀬尾由広. 第88回日本循環器学会学術集会. Maintenance of Sinus Rhythm Reduces Serum Uric Acid Levels in Patients with Atrial Fibrillation. 2024年3月8日-10日

3 北田修一、河田侑、鶴田芳朗、新谷康広、山本惇貴、菊池祥平、瀬尾由広. 第88回日本循環器学会学術集会. The Difference in Apical Sparing Strain Patterns Changes as Ejection Fraction Increases between Wild-type Transthyretin and Light-chain Cardiac Amyloidosis. 2024年3月8日-10日

- 4 北田修一、中須賀公亮、河田侑、鶴田芳朗、新谷康広、森賢人、菊池祥平、瀬尾由広。第88回日本循環器学会学術集会。Impact of Decreased Intrinsic Left Atrial Compliance on Development of Heart Failure after Catheter Ablation for Paroxysmal Atrial Fibrillation. 2024年3月8日-10日
- 5 菊池祥平、鈴木航、河田侑、香山京美、溝口達也、山本惇貴、森賢人、横井雅史、伊藤剛、北田修一、後藤利彦、瀬尾由広。第88回日本循環器学会学術集会。Diagnostic Accuracy of Left Ventricular Radial Strain for Transthyretin Cardiac Amyloidosis. 2024年3月8日-10日
- 6 山邊小百合、板谷慶一、澤崎司、藤吉一馬、大石悠香子、桜井勇明、香山京美、新谷康広、鶴田芳朗、河田侑、溝口達也、山本惇貴、横井雅史、森賢人、菊池祥平、伊藤剛、北田修一、後藤利彦、須田久雄、瀬尾由広。第88回日本循環器学会学術集会。Double Root Replacement in a Patient with Right Ventricular Outflow Tract Stenosis and Neo-aortic Root Dilatation after Ross Operation. 2024年3月8日-10日
- 7 Masashi Yokoi, Tsuyoshi Ito, Yomei Sakurai, Kiyomi Kayama, Yasuhiro Shintani, Yu Kawada, Yoshiro Tsuruta, Tatsuya Mizoguchi, Junki Yamamoto, Sayuri Yamabe, Kento Mori, Shohei Kikuchi, Shuichi Kitada, Toshihiko Goto, Yoshihiro Seo。第88回日本循環器学会学術集会。A Novel Post-Closure Technique in the Bedside Removal of Large-Bore Sheaths after IMPELLA Hemodynamic Support. 2024年3月8日-10日
- 8 Tatsuya Mizoguchi, Yu Kawada, Junki Yamamoto, Masashi Yokoi, Sayuri Yamabe, Kento Mori, Shohei Kikuchi, Tsuyoshi Ito, Shuichi Kitada, Toshihiko Goto, Yoshihiro Seo。第88回日本循環器学会学術集会。The Effect of Oral Iron, Erythropoiesis-Stimulating Agent, and Hypoxia Inducible Factor Prolyl Hydroxylase to Cardio-Renal Anemia Iron Deficiency Syndrome. 2024年3月8日-10日
- 9 Tatsuya Mizoguchi, Yu Kawada, Junki Yamamoto, Masashi Yokoi, Sayuri Yamabe, Kento Mori, Shohei Kikuchi, Tsuyoshi Ito, Shuichi Kitada, Toshihiko Goto, Yoshihiro Seo。第88回日本循環器学会学術集会。The Investigation of the Predictor of the Responder of Outpatient Cardiac Rehabilitation by Using Cardiopulmonary Exercise Test and Echocardiography. 2024年3月8日-10日
- 10 Yu Kawada, Shuichi Kitada, Yoshiro Tsuruta, Tatsuya Mizoguchi, Junki Yamamoto, Masashi Yokoi, Shohei Kikuchi, Tsuyoshi Ito, Toshiko Goto, Yoshihiro Seo。第88回日本循環器学会学術集会。Atrial Natriuretic Peptide Deficiency Progresses with Left Atrial Remodeling, Stratifying the Risk of Developing Heart Failure with Preserved Ejection Fraction. 2024年3月8日-10日
- 11 鶴田芳朗、北田修一、河田侑、新谷康広、溝口達也、山本惇貴、横井雅史、菊池祥平、伊藤剛、後藤利彦、瀬尾由広。第88回日本循環器学会学術集会。The Barthel Index at One Week after Admission for Heart Failure Associated with Poor ADL at Discharge in Elderly Patients. 2024年3月8日-10日
- 12 Yomei Sakurai, Toshihiko Goto, Kento Mori, Yoshihiro Seo。第88回日本循環器学会学術集会。A Case of Atrial Tachycardia (AT) of Right Atrial Appendage Origin with Adenosine Triphosphate (ATP) Sensitivity. 2024年3月8日-10日
- 13 後藤利彦、森賢人、桜井勇明、大石悠香子、瀬尾由広。第16回植込みデバイス関連冬季大会。ペースメーカー症例における左室収縮機能が保たれた心不全。2024年2月9日-10日
- 14 瀬尾由広。日本心エコー学会第28回冬期講習会。心膜疾患(CP、タンポナーデ)をエコーと圧データから語り尽くす。2024年1月20日-21日
- 15 山邊小百合、香山京美、菊池祥平、安田昌広、木村瞳、篠原務、鈴木一孝、河瀬匠、板谷慶一、須田久雄、瀬尾由広。第25回日本成人先天性心疾患学会総会。

学術集会. Ross 手術後の右室流出路狭窄と新大動脈基部拡大に対して Double Root Replacement を施行した 1 例. 2024 年 1 月 6 日-8 日

16 香山京美、瀬尾由広、菊池祥平、山邊小百合、板谷慶一. 第 25 回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会. Ebstein 病による右心不全の評価に負荷検査が有用であった 1 例. 2024 年 1 月 6 日-8 日

17 瀬尾由広. 第 13 回日本心臓弁膜症学会. 心臓弁膜症の 4DCT をリアルタイム 3DCG で見てみよう. 2023 年 11 月 17 日-18 日

18 菊池祥平. 第 13 回日本心臓弁膜症学会. 手術適応の評価に心肺運動負荷試験が有用であった、フォロー四徴症術後の 1 例. 2023 年 11 月 17-18 日

19 桜井勇明、後藤利彦、森賢人、瀬尾由広. カテーテルアブレーション 関連秋季大会 2023. 鋸歯状波様の 12 誘導心電図所見を呈した左房内リエントリー性心房頻拍の 1 例. 2023 年 11 月 17 日-19 日

16 横井雅史. 日本心血管インターベンション治療学会第 49 回 東海北陸地方会. ACS で期待される Orsiro Mission のパフォーマンスと長期成績. 2023 年 11 月 10 日-11 日

20 横井雅史、大石悠香子、桜井勇明、香山京美、新谷康広、河田侑、鶴田芳朗、溝口達也、山本惇貴、山邊小百合、森賢人、菊池祥平、伊藤剛、北田修一、後藤利彦、瀬尾由広. 日本循環器学会第 162 回東海・第 147 回北陸合同地方会. MINOCA に合併した心室中隔破裂の 1 例. 2023 年 10 月 21 日-22

21 鶴田芳朗、大石悠香子、河田侑、山本惇貴、菊池祥平、伊藤剛、北田修一、後藤利彦、瀬尾由広. 日本循環器学会第 162 回東海・第 147 回北陸合同地方会. 心筋脂肪酸代謝障害を認めた虚血性心疾患による若年発症心不全の 1 例. 2023 年 10 月 21 日-22

22 澤崎司、香山京美、横井雅史、菊池祥平、伊藤剛、北田修一、後藤利彦、瀬尾由広. 日本循環器学会第 162 回東海・第 147 回北陸合同地方会. 急性心不全加療中に滲出性心膜炎を合併し、右心不全が憎悪した 1 例. 2023 年 10 月 21 日-22

23 藤吉一馬、香山京美、榛原梓良、板谷慶一、菊池祥平、瀬尾由広、須田久雄. 日本循環器学会第 162 回東海・第 147 回北陸合同地方会. 心臓超音波検査で偶発的に発見された巨大左房内腫瘍の 1 例. 2023 年 10 月 21 日-22 日

24 桜井勇明、森賢人、後藤利彦、瀬尾由広. 日本循環器学会第 162 回東海・第 147 回北陸合同地方会. 鋸歯状波様の 12 誘導心電図所見を呈した左房内リエントリー性心房頻拍の 1 例. 2023 年 10 月 21 日-22

25 北田修一. 第 27 回日本心不全学会学術集会. J-CASE データベースでみる左室駆出率の保たれた野生型トランスサイレチン心アミロイドーシスの心エコー所見. 2023 年 10 月 6 日-8 日

26 Yu Kawada, Shuichi Kitada, Yoshiro Tsuruta, Shohei Kikuchi, Yoshihiro Seo. 第 27 回日本心不全学会学術集会. Atrial natriuretic peptide deficiency associated with structural and functional Left atrial remodeling. 2023 年 10 月 6 日-8 日

27 鶴田芳朗、北田修一、河田侑、新谷康広、山本惇貴、横井雅史、菊池祥平、伊藤剛、後藤利彦、瀬尾由広. 第 27 回日本心不全学会学術集会. 認知症の合併は急性非代償性心不全からの身体的健康の回復を阻害する. 2023 年 10 月 6 日日

28 Masashi Yokoi, Tsuyoshi Ito, Kiyomi Kayama, Yoshiro Tsuruta, Yasuhiro Shintani, Yu Kawada, Tatsuya Mizoguchi, Junki Yamamoto, Sayuri Yamabe, KentoMori, Shohei Kikuchi, Shuichi Kitada, Toshihiko Goto, Yoshihiro Seo. 第 31 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会. Impact of malondialdehyde-modified low-density lipoprotein on clinical outcomes after endovascular therapy in patients with lower extremity arterial disease. 2023 年 8

月 4 日-6 日

29 北田修一. 日本心エコー図学会第 32 回夏季講習会. HFpEF の評価に運動負荷心エコーを活かす. 2023 年 7 月 22 日-23 日

30 Toshihiko Goto, Kento Mori, Yukako Oishi, Marina Kato, Kosuke Nakasuka, Yoshihiro Seo. 第 69 回日本不整脈心電学会学術大会. Maintenance of sinus rhythm reduces serum uric acid levels in patients with atrial fibrillation. 2023 年 7 月 6 日-9 日

31 瀬尾由広. 第 11 回 Structural Heart Disease 診療のための心エコー図研修会. ビデオセッション左心耳閉鎖術. 2023 年 6 月 11 日

32 瀬尾由広. 第 48 回日本超音波検査学会学術集会. 心筋壁運動の定量化の歴史と将来の臨床的有用性. 2023 年 6 月 10 日

33 伊藤剛. 第 161 回日本循環器学会東海地方会. 慢性冠症候群診療における診療の最前線と残された課題. 2023 年 6 月 3 日

34 横井雅史, 鈴木航, 新谷康広, 河田侑, 鶴田芳朗, 溝口達也, 山本惇貴, 山邊小百合, 森賢人, 菊池祥平, 伊藤剛, 北田修一, 後藤利彦, 瀬尾由広. 第 161 回日本循環器学会東海地方会. 冠微小循環障害を伴った透析誘発性気絶心筋の 1 例. 2023 年 6 月 3 日

35 鈴木航, 菊池祥平, 河田侑, 齋藤 雄平, 須田久雄, 天野哲也, 瀬尾由広. 第 161 回日本循環器学会東海地方会. 僧帽弁輪石灰化に併発した再発性腫瘍の 1 例. 2023 年 6 月 3 日

36 山本惇貴, 藤吉一馬, 新谷康広, 鶴田芳朗, 瀬尾由広. 第 161 回日本循環器学会東海地方会. 左室破裂による心タンポナーデへの胸骨圧迫により心膜裂創を生じ大量出血のため救命困難であった 1 例. 2023 年 6 月 3 日

37 鶴田芳朗, 新谷康広, 河田侑, 山本惇貴, 北田修一, 瀬尾由広. 第 161 回日本循環器学会東海地方会. 冠動脈病変を有さず心筋症の表現型を呈する TGCV が疑われた初発心不全の 1 例. 2023 年 6 月 3 日

38 伊藤剛, 中山貴文, 河田侑, 溝口達也, 山本惇貴, 横井雅史, 森賢人, 菊池祥平, 北田修一, 後藤利彦, 瀬尾由広. 第 161 回日本循環器学会東海地方会. PTSMA の標的血管の同定に冠動脈 CT が有用であった 1 例. 2023 年 6 月 3 日

39 伊藤剛, 中山貴文, 溝口達也, 河田侑, 山本惇貴, 横井雅史, 森賢人, 菊池祥平, 北田修一, 後藤利彦, 瀬尾由広. 第 161 回日本循環器学会東海地方会. 大動脈弁狭窄症を合併した閉塞性肥大型心筋症に対し PTSMA を施行した 1 例. 2023 年 6 月 3 日

40 新谷康広, 北田修一, 溝口達也, 瀬尾由広. 第 161 回日本循環器学会東海地方会. ファロー四徴根治術後遠隔期における運動耐容能低下に心臓リハビリテーションが有効であった 1 例. 2023 年 6 月 3 日

40 森賢人, 後藤利彦, 大石悠香子, 桜井勇明, 関本暁, 菊池祥平, 瀬尾由広. 第 161 回日本循環器学会東海地方会. 肥大型心筋症に伴う心尖部心室瘤起源の心室頻拍に対して心外膜アブレーションを行なった 1 例. 2023 年 6 月 3 日

41 溝口達也, 河田侑, 山本惇貴, 森賢人, 伊藤剛, 北田修一, 後藤利彦, 瀬尾由広. 第 161 回日本循環器学会東海地方会. 炭酸リチウム服用中の洞不全症候群の 1 例. 2023 年 6 月 3 日

42 桜井勇明, 関本暁, 大仲由晃, 植田隆寛, 工藤瑠於, 蜂矢健太, 市橋拓, 吉田孝幸, 山下純世, 佐伯知昭, 村上善正, 瀬尾由広. 第 161 回日本循環器学会東海地方会. 遺伝子診断にて確定診断が得られた高齢先天性 QT 延長症候群の 1 例. 2023 年 6 月 3 日

43 梶川奨真, 北田修一, 河田侑, 山本惇貴, 横井雅史, 菊池祥平, 伊藤 剛, 後藤利彦,

瀬尾由広. 第 161 回日本循環器学会東海地方会. 完全房室ブロックへの移行が心不全の改善に結びついた拡張型心筋症の 1 例. 2023 年 6 月 3 日

44 瀬尾由広. 日本超音波医学会第 96 回学術集会. 左房に関わる諸問題を心エコー図で診る. 2023 年 5 月 27 日-31 日

45 瀬尾由広. 日本超音波医学会第 96 回学術集会. 左心房の機能と病態の融合を目指した 4D ストレイン心エコーの応用; 心房細動基質に迫る. 2023 年 5 月 27 日-31 日

46 瀬尾由広. 日本超音波医学会第 96 回学術集会. 認定超音波検査士取得のための報告書等作成時のポイントと注意点(循環器領域). 2023 年 5 月 27 日-31 日

47 北田修一, 河田侑, 山本惇貴, 菊池祥平, 伊藤剛, 瀬尾由広. 日本超音波医学会第 96 回学術集会. 重症大動脈弁狭窄症に合併する僧帽弁逆流への介入は高齢患者にとって必要か? 2023 年 5 月 27 日-31 日

48 菊池祥平. 日本超音波医学会第 96 回学術集会. 心不全診療に活かす腎血管エコー: SMI を用いた新しい腎内循環動態イメージング. 2023 年 5 月 27 日-31 日

49 河田侑, 北田修一, 鈴木航, 菊池祥平, 瀬尾由広. 日本超音波医学会第 96 回学術集会. 運動負荷心エコー図で, HFpEF の肺高血圧を知るだけでなく識る. 2023 年 5 月 27 日-31 日

50 岩田恵理子, 北田修一, 河田侑, 鶴田芳朗, 山本惇貴, 横井雅史, 伊藤剛, 菊池祥平, 瀬尾由広. 第 120 回日本内科学会総会. 交通外傷が契機となった無症候性重症三尖弁逆流に対して弁形成術を施行した 1 例. 2023 年 4 月 14 日-16 日

【東部】

学会発表 (国内)

1 和田靖明. 第 51 回日本救急医学会総会学術集会. モーニングセミナー: ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)の新たな活用法を探る. 2023 年 11 月 30 日

2 市橋拓. CVIT 2023. Mid-term outcomes after Drug coated balloon treatment in Acute Coronary Syndromes. 2023 年 8 月 4 日

3 和田靖明. 第 15 回日本ポイントオブケア超音波学会学術集会. 心不全ハンズオン: 傍胸骨アプローチの診かた. 2023 年 7 月 15 日

4 市橋拓. 第 161 回日本循環器学会東海地方会. 急性冠症候群 PCI 後完全房室ブロックを呈した一例. 2023 年 6 月 3 日

5 蜂矢健太. 第 161 回日本循環器学会東海地方会. 自然退縮を認めた心筋梗塞後仮性心室瘤の一例. 2023 年 6 月 3 日

6 森賢人, 後藤利彦, 大石悠香子, 桜井勇明, 関本暁, 菊池祥平, 瀬尾由広. 第 161 回日本循環器学会東海地方会. 肥大型心筋症に伴う心尖部心室瘤起源の心室頻拍に対して心外膜アブレーションを行なった 1 例. 2023 年 6 月 3 日

7 桜井勇明, 関本暁, 大仲由晃, 植田隆寛, 工藤瑠於, 蜂矢健太, 市橋拓, 吉田孝幸, 山下純世, 佐伯知昭, 村上善正, 瀬尾由広. 第 161 回日本循環器学会東海地方会. 遺伝子診断にて確定診断が得られた高齢先天性 QT 延長症候群の 1 例 2023 年 6 月 3 日

8 和田靖明. 日本超音波医学会第 96 回学術集会. ワークショップ: Z 世代の臨床実習における心エコー実習. 2023 年 5 月 28 日

9 蜂矢健太. 第 87 回日本循環器学会学術集会. Efficacy and Safety of Mineralocorticoid

Receptor Antagonist Use in Late-Elderly with Heart Failure. 2023年3月10日

10 工藤瑠於. 第87回日本循環器学会学術総会. Ruptured Infected Abdominal Aortic Aneurysm Following Treatment for Salmonella Bacteremia. 2023年3月10日

11 和田靖明. 日本心エコー図学会第27回冬期講習会. 230121_古今東西コントラバナー: Mモード法. 2023年1月21日

【西部】

学会発表 (国内)

1 矢島和裕. 第88回日本循環器学会. ExTRa Mapping Score Predicts Recurrence after Pulmonary Vein Isolation in Patients with Persistent Atrial Fibrillation. 2024年3月8日-10日

2 山邊小百合、板谷慶一、澤崎司、藤吉一馬、大石悠香子、桜井勇明、香山京美、新谷康広、鶴田芳朗、河田侑、溝口達也、山本惇貴、横井雅史、森賢人、菊池祥平、伊藤剛、北田修一、後藤利彦、須田久雄、瀬尾由広. 第88回日本循環器学会学術集会. Double Root Replacement in a Patient with Right Ventricular Outflow Tract Stenosis and Neo-aortic Root Dilatation after Ross Operation. 2024年3月8日-10日

3 伊藤剛、中山貴文、河田侑、溝口達也、山本惇貴、横井雅史、森賢人、菊池祥平、北田修一、後藤利彦、瀬尾由広. 第161回日本循環器学会東海地方会. PTSMAの標的血管の同定に冠動脈CTが有用であった1例. 2023年6月3日

4 伊藤剛、中山貴文、溝口達也、河田侑、山本惇貴、横井雅史、森賢人、菊池祥平、北田修一、後藤利彦、瀬尾由広. 第161回日本循環器学会東海地方会. 大動脈弁狭窄症を合併した閉塞性肥大型心筋症に対しPTSMAを施行した1例. 2023年6月3日

【みどり】

学会発表 (国内)

1 佐伯知昭. 日本不整脈心電学会第4回東海・北陸支部地方会. MRSAによる感染性心内膜炎の人工ペースメーカを抜去した1例. 2024年3月23日

2 佐伯知昭、中澤あい. 第252回日本内科学会東海地方会. 医原性副腎不全が強く示唆された1例. 2024年2月18日

3 佐伯知昭. 第27回日本病態栄養学会年次学術集会. 経口摂取不良の心不全入院患者における中心静脈栄養開始時期と院内死亡の検討. 2024年1月27日

4 佐伯知昭、中澤あい. 日本循環器学会第162回東海・第147回北陸合同地方会. 慢性心不全におけるSGLT2阻害薬の尿中ナトリウム排泄への作用. 2023年10月22日

5 佐伯知昭、中澤あい. 第251回日本内科学会東海地方会. フォンダパリヌクスナトリウムが有用だった高齢肺塞栓の1例. 2023年10月15日

6 佐伯知昭. 第27回日本心不全学会学術集会. 慢性心不全におけるミネラルコルチコイド受容体拮抗薬の尿中ナトリウム排泄への作用. 2023年10月6日

7 市橋拓、大仲由晃、工藤瑠於、桜井勇明、蜂矢健太、佐伯知昭、村上善正、大手信之. 第31回日本心血管インターベンション治療学会学術会議 CVIT2023. 急性冠症候群に対するDCBの中期成績. 2023年8月4日

8 佐伯知昭. 第 161 回日本循環器学会東海地方会. 慢性心不全におけるミネラルコルチコイド受容体拮抗薬の尿中 Na 排泄への作用. 2023 年 6 月 3 日

【みらい】

なし

主要な国内学会活動の参加状況

【桜山】

瀬尾由広. 一般社団法人日本心エコー図学会. 副理事長
瀬尾由広. 一般社団法人日本心不全学会. 理事
瀬尾由広. 公益社団法人日本超音波医学会. 理事
瀬尾由広. 日本弁膜症学会. 理事
瀬尾由広. 一般社団法人日本内科学会. 評議員
瀬尾由広. 一般社団法人日本循環器学会. 社員
瀬尾由広. 一般社団法人日本心臓病学会. 社員(代議員)
瀬尾由広. 日本成人病(生活習慣病)学会. 評議員
瀬尾由広. 一般社団法人日本心血管画像動態学会. 評議員
瀬尾由広. 日本循環器学会東海支部. 役員(幹事)

【東部】

和田靖明. 日本超音波医学会. 代議員.
和田靖明. 日本超音波医学会. 災害対応委員会委員.
和田靖明. 日本心エコー図学会. 代議員.
和田靖明. 日本心エコー図学会. 顕彰委員会委員.
和田靖明. 日本心エコー図学会. 教育委員会委員.
和田靖明. 日本心エコー図学会. 広報委員会委員.
和田靖明. 日本心エコー図学会. 心エコー図専門医試験結果判定部会委員.
山下純世. 日本内科学会東海支部評議員.
山下純世. 日本高血圧学会. 評議員.
山下純世. 日本高血圧学会. 利益相反委員会委員長.
山下純世. 日本高血圧学会. ダイバーシティ推進委員会委員.
山下純世. 循環器病予防療養指導士セミナー 講師.
(日本高血圧学会・日本循環器病予防学会・日本動脈硬化学会・日本心臓病学会認定)

【西部】

なし

【みどり】

なし

【みらい】

山下純世. 日本内科学会東海支部評議員.

山下純世. 日本高血圧学会. 評議員.

山下純世. 日本高血圧学会. 利益相反委員会委員長.

山下純世. 日本高血圧学会. ダイバーシティ推進委員会委員.

山下純世. 循環器病予防療養指導士セミナー 講師.

(日本高血圧学会・日本循環器病予防学会・日本動脈硬化学会・日本心臓病学会認定)

杉本匡史. 日本循環器学会. 総務委員会情報広報部会 委員

杉本匡史. 日本高血圧学会. フューチャープラン委員会 委員

杉本匡史. 日本高血圧学会. TF-A：行政と連携した医療システム構築 委員

その他

【桜山】

教育活動

瀬尾由広. 日本心エコー図学会第28回冬期講習会. 心膜疾患(CP、タンポナーデ)をエコーと圧データから語り尽くす 2024年1月20日

【東部】

なし

【西部】

なし

【みどり】

なし

【みらい】

教育活動

山下 純世. OSCE 外部評価者

山下 純世. 名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院内科専門研修プログラム管理委員会委員長

山下 純世. BRJ 心電図読影レクチャー (M1対象)

社会貢献

山下 純世. 令和5年度 大府市食育推進員主催市民向け講座・会員学習会 講師

山下 純世. 名古屋市指定難病審査会委員. 愛知県指定難病審査会委員.

学内研究費

【桜山】

伊藤 剛. 目的積立金（研究力強化臨床研究）. 令和5年10月、150千円

横井 雅史. 目的積立金（研究力強化臨床研究）. 令和5年10月、150千円

河田 侑. 特別研究奨励費. 令和5年度、600千円

北田 修一. 特別研究奨励費. 令和5年度、600千円

菊池 祥平. 特別研究奨励費. 令和5年度、50千円

<研究活動実績>

【欧文業績】

- 1] Hasegawa T, Imaizumi T, Hamano T, Murotani K, Fujii N, Komaba H, Ando M, Maruyama S, Nangaku M, Nitta K, Hirakata H, Isaka Y, Wada T, Fukagawa M. **Association between serum iron markers, iron supplementation and cardiovascular morbidity in pre-dialysis chronic kidney disease.** *Nephrol Dial Transplant.* **38(12)**: 2713-2722, 2023.
- 2] Nishimoto M, Murashima M, Kokubu M, Matsui M, Eriguchi M, Samejima KI, Akai Y, Tsuruya K. **The use of anti-adrenergic agents as a predictor of acute kidney injury and delayed recovery of kidney function: the NARA-AKI cohort study.** *Hypertens Res.* **46(11)**: 2470-2477, 2023.
- 3] Doi Y, Hamano T, Yamaguchi S, Sakaguchi Y, Kaimori JY, Isaka Y. **Mediators between canagliflozin and renoprotection vary depending on patient characteristics: Insights from the CREDENCE trial.** *Diabetes Obes Metab.* **25(10)**: 2944-2953, 2023.
- 4] Murashima M, Fujii N, Goto S, Hasegawa T, Abe M, Hanafusa N, Fukagawa M, Hamano T. **Associations of calcium, phosphate and intact parathyroid hormone levels with mortality, residual kidney function and technical failure among patients on peritoneal dialysis.** *Clin Kidney J.* **16(11)**: 1957-1964, 2023.
- 5] Murashima M, Hamano T, Abe M, Masakane I. **Comparable outcomes between a combination of peritoneal dialysis with once-weekly haemodialysis and thrice-weekly haemodialysis: a prospective cohort study.** *Nephrol Dial Transplant.* **38(10)**: 2143-2151, 2023.
- 6] Murashima M, Ambe K, Aoki Y, Kasugai T, Tomonari T, Ono M, Mizuno M, Tohkin M, Hamano T. **Epidemiology and predictors of hyponatremia in a contemporary cohort of patients with malignancy: a retrospective cohort study.** *Clin Kidney J.* **16(11)**: 2072-2081, 2023.
- 7] Ueno S, Murashima M, Ogawa R, Saito M, Ito S, Hayakawa S, Okubo T, Sagawa H, Tanaka T, Takahashi H, Matsuo Y, Mitsui A, Kimura M, Hamano T, Takiguchi S. **The cisplatin-induced acute kidney injury is a novel risk factor for postoperative complications in patients with esophageal cancer: a retrospective cohort study.** *BMC Surg.* **23(1)**: 67, 2023.
- 8] Imaizumi T, Fujii N, Hamano T, Yang W, Taguri M, Kansal M, Mehta R, Shafi T, Taliercio J, Go A, Rao P, Hamm LL, Deo R, Maruyama S, Fukagawa M, Feldman HI; CRIC Study Investigators. **Excess risk of cardiovascular events in patients in the United States vs. Japan with chronic kidney disease is mediated mainly by left ventricular structure and function.** *Kidney Int.* **103(5)**: 949-961, 2023.
- 9] Hoshino J, Abe M, Hamano T, Hasegawa T, Wada A, Nakai S, Hanafusa N, Masakane I, Nitta

K. Glycated albumin to glycated hemoglobin ratio and mortality in diabetic patients on dialysis: a new association. Nephrol Dial Transplant. **38(5)**: 1309-1317, 2023.

10] Jahan N, Ohsaki H, Kaneko K, Rahman A, Nishiyama T, Koizumi M, Yamanaka S, Kitada K, Sugiura Y, Matsui K, Yokoo T, Hamano T, Kuro-O M, Itou T, Suzuki M, Ueda K, Nishiyama A. **Possible contribution of phosphate to the pathogenesis of chronic kidney disease in dolphins.** Sci Rep. **13(1)**: 5161, 2023

11] Murakami M, Fujii N, Kanda E, Kikuchi K, Wada A, Hamano T, Masakane I. **Association of Four Types of Vascular Access Including Arterial Superficialization with Mortality in Maintenance Hemodialysis Patients: A Nationwide Cohort Study in Japan.** Am J Nephrol. **54(3-4)**: 83-94, 2023.

12] Fujii H, Hamano T, Tsuchiya K, Kuragano T, Joki N, Tsuruya K, Honda H, Uemura Y, Nitta K; PARAMOUNT Study Investigators. **Not baseline but time-dependent erythropoiesis-stimulating agent responsiveness predicts cardiovascular disease in hemodialysis patients receiving epoetin beta pegol: A multicenter prospective PARAMOUNT-HD Study.** Int J Cardiol. **375**: 110-118, 2023.

13] Nakamura J, Yamamoto T, Takabatake Y, Namba-Hamano T, Minami S, Takahashi A, Matsuda J, Sakai S, Yonishi H, Maeda S, Matsui S, Matsui I, Hamano T, Takahashi M, Goto M, Izumi Y, Bamba T, Sasai M, Yamamoto M, Matsusaka T, Niimura F, Yanagita M, Nakamura S, Yoshimori T, Ballabio A, Isaka Y. **TFEB-mediated lysosomal exocytosis alleviates high-fat diet-induced lipotoxicity in the kidney.** JCI Insight. **8(4)**: e162498, 2023.

14] Hamano T, Imaizumi T, Hasegawa T, Fujii N, Komaba H, Ando M, Nangaku M, Nitta K, Hirakata H, Isaka Y, Wada T, Maruyama S, Fukagawa M. **Biopsy-proven CKD etiology and outcomes: the Chronic Kidney Disease Japan Cohort (CKD-JAC) study.** Nephrol Dial Transplant. **38(2)**: 384-395, 2023.

【和文業績】

1] 村島 美穂. 【**病因・病態生理から読み解く腎・泌尿器疾患のすべて**】全身性疾患に伴う腎障害 HIV 関連腎症(解説). 腎と透析 **95(増刊)**:274-278, 2023

2] 濱野 高行. 【**CKD-MBD の新しい潮流**】新規 CKD-MBD 治療薬 新規リン低下薬 DS-2330b(NaPi-IIb 阻害薬)と EOS789(NaPi-IIb,PiT-1,PiT-2 阻害薬)(解説). 腎と透析 **95(3)**: 418-421, 2023

3] 村島 美穂. 【**透析と麻酔**】(PART1)透析医療について 透析記録の読み方 普段の透析情報を入院中管理に生かす(解説). LiSA. 別冊 **30(23)**: 53-58, 2023

4] 水野 晶紫, 濱野 高行. ネフローゼにおけるうっ血腎(解説). 腎臓内科. **17(4)**: 474-479, 2023

5] 濱野 高行. 【**心腎連関・腎うっ血の病態と治療**】心腎保護を發揮する薬剤 トルバ

プタンの腎保護効果(解説). 腎臓内科. 17(4): 400-404, 2023

6) 濱野 高行. 【慢性腎臓病における血管石灰化の病態と治療】基礎と臨床の両面からリンと血管石灰化(EPISODE 研究)(解説). 腎臓内科. 17(1): 35-41, 2023

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	濱野 高行	13 (5)	13 (5)	4
助教	村島 美穂	5 (4)	5 (4)	2
助教	水野 晶紫	1 (0)	1 (0)	1 (0)
助教	小野 水面	1 (0)	1 (0)	0
助教	友斉 達也	1 (0)	1 (0)	0
病院助教	春日井 貴久	1 (0)	1 (0)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
准教授	小池 清美	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
准教授	菅 憲広	0	0	0
助教	宮口 祐樹	0	0	0
助教	山村 愛美	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

濱野 高行. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 3 年度-令和 5 年度、260 千円/4, 160 千円

濱野 高行. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 4 年度-令和 7 年度、65 千円/195 千円

村島 美穂. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和 3 年度-令和 6 年度、260 千円

円/4,160 千円

小野 水面. 文部科学省科学研究費(若手・代表). 令和3年度-令和6年度、520千円/4,550千円

濱野 高行. 学術奨励寄附金(扶桑薬品工業株式会社). 令和5年度、200千円

濱野 高行. 共同研究費(鳥居薬品株式会社). 令和5年4月-令和6年9月、5,000千円

濱野 高行. 学術奨励寄附金(旭化成ファーマ株式会社). 令和5年6月-令和6年3月、200千円

濱野 高行. 学術奨励寄附金(医療法人生寿会). 令和5年度、1,000千円

濱野 高行. 学術奨励寄附金(協和キリン株式会社). 令和5年6月-令和6年6月、200千円

濱野 高行. 学術奨励寄附金(株式会社三和化学研究所). 令和5年4月-令和7年3月、1,000千円

濱野 高行. 学術奨励寄附金(鳥居薬品株式会社). 令和5年7月-令和6年6月、500千円

濱野 高行. 学術奨励寄附金(持田製薬株式会社). 令和5年12月-令和6年11月、200千円

濱野 高行. 受託研究費(アステラス製薬株式会社). 令和4年1月-令和7年2月、3,300千円

小野 水面. 治験関係研究費(バイエル薬品株式会社). 令和3年12月-令和8年3月、443千円

濱野 高行. 治験関係研究費(協和キリン株式会社). 令和3年12月-令和7年8月、396千円

濱野 高行. 治験関係研究費(エイツーヘルスケア株式会社). 令和4年10月-令和9年7月、264千円

【学会発表】

水野 晶紫, 春日井 貴久, 友斉 達也, 小野 水面, 村島 美穂, 濱野 高行. 日本内科学会総会. ネフローゼ症候群におけるうっ血腎と Overfilling. 2023年4月

村島 美穂, 小野 水面, 水野 晶紫, 春日井 貴久, 濱野 高行. 第66回日本腎臓学会学術

総会. 名古屋市立大学病院における電解質バスターズの取り組み. 2023年6月

遠山 直志, 今泉 貴広, 藤井 直彦, 長谷川 毅, 駒場 大峰, 濱野 高行, 深川 雅史. 第66回日本腎臓学会学術総会. 保存期 CKD 患者におけるアルブミン尿, 蛋白尿の変化と腎予後との関連 (CKD-JAC II 研究). 2023年6月

西山 成, 北田 研人, 山中 修一郎, 横尾 隆, 濱野 高行, ヤハン ノウリン. 第66回日本腎臓学会学術総会. 高齢イルカで生じる CKD リスクにおけるリンの関与. 2023年6月

5] 土井 洋平, 濱野 高行, 猪阪 善隆. 第66回日本腎臓学会学術総会. 患者背景により Canagliflozin の腎保護効果媒介因子・割合は異なる～CREDESCENCE trial～. 2023年6月

6] 山村 愛美, 家田 研人, 宮口 祐樹, 菅 憲広, 濱野 高行. 第66回日本腎臓学会学術総会. 慢性腎臓病患者における SGLT2 阻害薬の投与による血清マグネシウム濃度変化の検討. 2023年6月

7] 赤木 瞭太, 山本 伸也, 松原 雄, 前田 咲弥子, 田邊 香, 鮫島 謙一, 鶴屋 和彦, 原重雄, 小野 水面, 濱野 高行, 柳田 素子. 第66回日本腎臓学会学術総会. 免疫チェックポイント阻害剤 (ICI) 関連の膜性腎症 (MN) が疑われた5症例の臨床学的・病理学的解析. 2023年6月

8] 西本 雅俊, 村島 美穂, 國分 麻依子, 松井 勝, 江里口 雅裕, 鮫島 謙一, 赤井 靖宏, 鶴屋 和彦. 第66回日本腎臓学会学術総会. 交感神経遮断薬の使用と術後 AKI, およびその後の腎障害の遷延との関連. 2023年6月

9] 友斉 達也, 井出 敦基, 春日井 貴久, 小野 水面, 水野 晶紫, 村島 美穂, 濱野 高行. 第66回日本腎臓学会学術総会. CKD 合併, 輸血依存性, ESA 抵抗性の血液疾患に対する HIF-PH 阻害薬 (HIF-PHI) の使用経験. 2023年6月

10] Miho Murashima, Naohiko Fujii, Takayuki Hamano, Shunsuke Goto, Takeshi Hasegawa, Masanori Abe, Norio Hanafusa, Masafumi Fukagawa. 第66回日本腎臓学会学術総会. **Residual kidney function modifies the effect of cinacalcet on serum phosphate levels among peritoneal dialysis (PD) patients.** 2023年6月

11] Takahisa Kasugai, Miho Murashima, Tatsuya Tomonari, Minamo Ono, Masashi Mizuno, Takayuki Hamano. 第66回日本腎臓学会学術総会. **Lower kidney volume is associated with acute kidney injury following cardiovascular surgery independent of eGFR.** 2023年6月

12] 中井 滋, 伊藤 孝仁, 柴田 和彦, 小澤 潔, 松岡 哲平, 前田 兼徳, 大橋 靖, 濱野 高行, 花房 規男, 新里 高弘, 政金 生人, 大河 原晋. 第68回日本透析医学会学術集会総会. 尿酸モデル指標は血管イベント予後と関係する. 2023年6月

13] 村島 美穂. 第68回日本透析医学会学術集会総会. 腹膜透析患者における CKD-MBD. 2023年6月

- 14] 平塚 真紀、小山 勝志、藤川 純一、細萱 真一郎、濱野 高行. 第 68 回日本透析医学会学術集会総会. **ダルベポエチン α からエポエチン κ に切替時の Hb 変化と鉄投与経路**. 2023 年 6 月
- 15] 五島 隆宏、齋藤 愛美、家田 研人、宮口 祐樹、菅 憲広、濱野 高行. 第 68 回日本透析医学会学術集会総会. **視神経脊髄炎に対する血漿交換療法早期導入の有効性**. 2023 年 6 月
- 16] 村島 美穂、藤井 直彦、後藤 俊介、長谷川 毅、阿部 雅紀、花房 規男、深川 雅史、濱野 高行. 第 68 回日本透析医学会学術集会総会. **PD 患者における Ca, リン, PTH とアウトカムの関連**. 2023 年 6 月
- 17] 河原崎 宏雄、後藤 俊介、内田 大輔、土井 洋平、宮内 隆政、大迫 希代美、濱野 高行、深川 雅史. 第 68 回日本透析医学会学術集会総会. **移植患者における MBD**. 2023 年 6 月
- 18] 友斉 達也、難波 倫子、春日井 貴久、小野 水面、水野 晶紫、村島 美穂、濱野 高行. 第 81 回中部日本糸球体腎炎談話会. **原発性マクログロブリン血症による急性腎不全で透析導入となった一例**. 2023 年 7 月
- 19] 出来 佑都、安部 賀央里、頭金 正博、和知野 千春、木村 和哲、日比 陽子、近藤 勝弘、村島 美穂、濱野 高行. **電子カルテ情報と機械学習を用いたバンコマイシン誘発性急性腎障害の予測手法開発**. 第 9 回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム. 2023 年 9 月
- 20] 青木 優佳、安部 賀央里、頭金 正博、村島 美穂、濱野 高行、和知野 千春、木村 和哲、日比 陽子、近藤 勝弘. **電子カルテ情報と機械学習を活用したシスプラチン誘発性急性腎障害の予測モデルの構築**. 第 9 回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム. 2023 年 9 月
- 21] 井手 敦基、太田 圭祐、神代 崇一郎、濱野 高行. **シャント造影と CAG 用狭窄指摘深層学習による物体検出モデルの流用**. 2023 年 9 月
- 22] 井手 敦基、太田 圭祐、神代 崇一郎、濱野 高行. 第 53 回日本腎臓学会東部学術大会. **DWH(データウェアハウス)による院内保険病名・処方・BMI 経過と腎機能推移の検討**. 2023 年 9 月
- 23] 井手 敦基、太田 圭祐、神代 崇一郎、濱野 高行. 第 53 回日本腎臓学会東部学術大会. **GFR スロープと腎皮質容積の関係-CT からの臓器同定と検査推移**. 2023 年 9 月
- 24] 村島 美穂. 第 29 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会. **PD HD 併用療法と心血管系・感染合併症について 合同シンポジウム 1 (日本腎不全合併症医学会)「PD 特性を踏まえた合併症進展防止」**. 2023 年 9 月

- 25] 横井 佑典、山村 愛美、家田 研人、五島 隆宏、宮口 祐樹、菅 憲広、三井 章、濱野 高行. 第 29 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会. **COVID-19 に感染後、フィブリンによる PD カテーテル閉塞を併発した腹膜透析導入の一例**. 2023 年 9 月
- 26] 宮口 祐樹、齋藤 愛美、家田 研人、五島 隆宏、菅 憲広、加藤 聡美、濱野 高行. 第 25 回日本骨粗鬆症学会. **Tubulointerstitial nephritis with IgM-positive plasma cells に合併した続発性骨粗鬆症に対してロモソズマブで治療を行った 1 例**. 2023 年 9 月
- 27] 五島 隆宏、山村 愛美、家田 研人、宮口 祐樹、菅 憲広、濱野 高行. 第 53 回日本腎臓学会西部学術大会. **Zoledronic Acid による薬剤性 Fanconi 症候群の一例**. 2023 年 10 月
- 28] 石川 香林、山村 愛美、家田 研人、宮口 祐樹、菅 憲広、野津 寛大、濱野 高行. **腎外症状を欠き、遺伝子検査で常染色体顕性 Alport 症候群と考えられた一例**. 第 53 回日本腎臓学会西部学術大会. 2023 年 10 月
- 29] 小野 水面、水野 晶紫、村島 美穂、友齋 達也、春日井 貴久、濱野 高行. 第 53 回日本腎臓学会西部学術大会. **電解質バスターズ名市大モデルでの警告基準改変による依頼数の変化について**. 2023 年 10 月
- 30] 山村 愛美、宮口 祐樹、家田 研人、菅 憲広、高橋 直生、濱野 高行. 第 53 回日本腎臓学会西部学術大会. **腎生検で診断しえた IgM-κ 型 M 蛋白血症を伴った Tubulointerstitial nephritis with IgM-positive plasma cells (IgMPC-TIN) の 1 例**. 2023 年 10 月
- 31] 濱野 高行. **CKD-MBD ガイドライン改訂の方向性 (教育講演)**. 第 53 回日本腎臓学会西部学術大会. 2023 年 10 月
- 32] 西本 雅俊、村島 美穂、鶴屋 和彦. 第 53 回日本腎臓学会西部学術大会. **非心臓手術後の AKI についての臨床研究**. 2023 年 10 月
- 33] 濱野 高行. 日本腎臓病薬物療法学会. **令和時代の腎性貧血治療**. 2023 年 10 月
- 34] 谷口 正智、村島 美穂、前田 利朗、政金 生人. 第 25 回日本在宅血液透析学会. **HHD/LHD 合同研究を模索する (WG セッション)**. 2023 年 11 月
- 35] 青木 優佳、安部 賀央里、頭金 正博、村島 美穂、濱野 高行. 第 33 回日本医療薬学会年会. **悪性腫瘍患者における化学療法中の低ナトリウム血症を予測する機械学習モデルの構築およびリスク因子の検討**. 2023 年 11 月
- 36] 恵口 拓馬、藤岡 哲平、大喜多 賢治、松川 則之、村島 美穂、濱野 高行、早川 智章、東 洋輔、堀田 祐志、前田 康博. 第 251 回日本内科学会東海地方会. **セファゾリン誘発脳症の 1 例**. 2023 年 10 月
- 37] Komaba H, Imaizumi T, Hamano T, Fujii N, Abe M, Hanafusa N, Fukagawa M. **Lower**

parathyroid hormone levels are associated with lower risk of fractures in Japanese hemodialysis patients: a nationwide cohort study. American Society of Nephrology, Kidney Week, Nov 2023.

38] Toyama T, Imaizumi T, Fujii N, Komaba H, Hamano T, Fukagawa M. **Association between changes in urinary albumin and protein excretion and risk of kidney failure in patients with CKD. The CKD-JAC Study.** American Society of Nephrology, Kidney Week, Nov 2023.

39] Murashima M, Kasugai T, Tomonari T, Ono M, Mizuno M, Hamano T. **Improvement in anemia by SGLT2 inhibitors were more prominent among those with inflammation.** American Society of Nephrology, Kidney Week, Nov 2023.

40] Nishimoto M, Murashima M, Kokubu M, Matsui M, Eriguchi M, Samejima K, Akai Y, Tsuruya K. **The use of anti-adrenergic agents as a predictor of AKI and delayed recovery of kidney function: The NARA-AKI cohort study.** American Society of Nephrology, Kidney Week, Nov 2023.

41] Kasugai T, Murashima M, Tomonari T, Ono M, Mizuno M, Hamano T. **Smaller kidney volume is associated with AKI following cardiovascular surgery, especially among patients treated with renin-angiotensin system inhibitors.** American Society of Nephrology, Kidney Week, Nov 2023.

42] 服部 麗(名古屋市立大学病院 内分泌・糖尿病内科), 小山 博之, 青谷 大介, 村島 美穂, 濱野 高行, 田中 智洋. 糖尿病患者における心不全疑い例の頻度とリスク因子の解析. 貧血の意義. 第96回日本糖尿病学会中部地方会. 2023年11月

43] 水野 晶紫 春日井 貴久 友斉 達也 小野 水面 村島 美穂 濱野 高行. **糖尿病性腎臓病 (DKD) の heterogeneity.** 第34回日本糖尿病性腎症研究会. 2023年12月

44] 宮口 祐樹 村島 美穂 春日井 貴久, 友斉 達也, 小野 水面, 水野 晶紫, 菅 憲広, 濱野 高行. **悪性腫瘍患者における低 Na 血症リスク因子の影響を修飾する介入可能な因子の検討.** 第13回腎不全研究会. 2023年12月

45] 青木 優佳, 安部 賀央里, 頭金 正博, 村島 美穂, 濱野 高行, 和知野 千春, 木村 和哲, 日比 陽子, 近藤 勝弘. **電子カルテ情報と機械学習を活用したシスプラチン誘発性急性腎障害の予測モデルの構築.** 第44回日本臨床薬理学会学術集会. 2023年12月

<研究活動実績>

【欧文業績】

Kano Y, Uchida Y, Kan H, Sakurai K, Kobayashi S, Seko K, Mizutani K, Usami T, Takada K, Matsukawa N. **Assessing white matter microstructural changes in idiopathic normal pressure hydrocephalus using voxel-based R2* relaxometry analysis.** *Front Neurol.* **14:** 1251230, 2023.

Yoshimoto T, Ishiyama H, Hattori Y, Nishimura K, Okada Y, Watanabe H, Ohyagi Y, Akaiwa Y, Miyamoto T, Kawamoto M, Ichijo M, Inoue H, Matsukawa N, Mizuno T, Matsuyama H, Tomimoto H, Kawakami D, Toyoda K, Koga M, Ihara M. **Association of thyroid peroxidase antibody with the RNF213 p.R4810K variant in ischemic stroke/transient ischemic attack.** *Atherosclerosis.* **382:** 117281, 2023.

Imamura A, Kuroyanagi G, Usami T, Sato T, Horiba M, Sakai H, Takahashi A, Ueki Y, Matsukawa N, Murakami H. **Levodopa-Carbidopa Intestinal Gel Injection for Patient with Severe Parkinson's Disease Followed by Total Hip Arthroplasty: A Case Report and Literature Review.** *Orthop Surg.* **15(11):** 2993-2999, 2023.

Arakawa I, Muramatsu I, Uwada J, Sada K, Matsukawa N, Masuoka T. **Acetylcholine release from striatal cholinergic interneurons is controlled differently depending on the firing pattern.** *J Neurochem.* **167(1):**38-51, 2023.

Uchida Y, Kan H, Furukawa G, Onda K, Sakurai K, Takada K, Matsukawa N, Oishi K. **Relationship between brain iron dynamics and blood-brain barrier function during childhood: a quantitative magnetic resonance imaging study.** *Fluids Barriers CNS.* **20(1):** 60, 2023.

Ikebe Y, Sato R, Amemiya T, Udo N, Matsushima M, Yabe I, Yamaguchi A, Sasaki M, Harada M, Matsukawa N, Kawata Y, Bito Y, Shirai T, Ochi H, Kudo K. **Prediction of amyloid positron emission tomography positivity using multiple regression analysis of quantitative susceptibility mapping.** *Magn Reson Imaging.* **103:** 192-197, 2023.

Uchida Y, Shao X, Montagne A, Matsukawa N. **Editorial: Imaging of the blood-brain barrier in Alzheimer's disease and related disorders.** *Front Aging Neurosci.* **15:** 1252581, 2023.

Nojima I, Horiba M, Sahashi K, Koganemaru S, Murakami S, Aoyama K, Matsukawa N, Ono Y, Mima T, Ueki Y. **Gait-combined closed-loop brain stimulation can improve walking dynamics in Parkinsonian gait disturbances: a randomised-control trial.** *J Neurol Neurosurg Psychiatry.* **94(11):** 938-944, 2023.

Madokoro Y, Kato D, Tsuda Y, Arakawa I, Suzuki K, Sato T, Mizuno M, Uchida Y, Ojika K, Matsukawa N. **Direct Enhancement Effect of Hippocampal Cholinergic Neurostimulating Peptide on Cholinergic Activity in the Hippocampus.** *Int J Mol Sci.* **24(10):**8916, 2023.

Shimizu Y, Tanikawa M, Horiba M, Sahashi K, Kawashima S, Kandori A, Yamanaka T, Nishikawa Y, Matsukawa N, Ueki Y, Mase M. **Clinical utility of paced finger tapping assessment in idiopathic normal pressure hydrocephalus.** *Front Hum Neurosci.* **17:** 1109670, 2023.

Uchida Y, Kan H, Sakurai K, Oishi K, Matsukawa N. **Contributions of blood-brain barrier imaging to neurovascular unit pathophysiology of Alzheimer's disease and related dementias.** Front Aging Neurosci. **15**: 1111448, 2023.

Ohno Y, Nakajima C, Ajioka I, Muraoka T, Yaguchi A, Fujioka T, Akimoto S, Matsuo M, Lotfy A, Nakamura S, Herranz-Pérez V, García-Verdugo JM, Matsukawa N, Kaneko N, Sawamoto K. **Amphiphilic peptide-tagged N-cadherin forms radial glial-like fibers that enhance neuronal migration in injured brain and promote sensorimotor recovery.** Biomaterials. **294**: 122003, 2023.

Yamaguchi A, Kudo K, Sato R, Kawata Y, Udo N, Matsushima M, Yabe I, Sasaki M, Harada M, Matsukawa N, Shirai T, Ochi H, Bito Y. **Efficacy of Quantitative Susceptibility Mapping with Brain Surface Correction and Vein Removal for Detecting Increase Magnetic Susceptibility in Patients with Alzheimer's Disease.** Magn Reson Med Sci. **22(1)**: 87-94, 2023.

【和文業績】

古井 萌子, 的場 拓磨, 佐藤 豊大, 川北 大介, 村嶋 明大, 蓑原 潔, 中井一之, 岩城 翔, 柘植 博之, 金屋 歳三, 岩崎 真一. **反復する脳梗塞に対し茎状突起切断術が有効であった Eagle 症候群例.** 頭頸部外科. **33(3)**: 375-378, 2023.

加納 裕也, 近藤 蔵人, 瀬古 健登, 高田 幸児, 山本 光晴, 磯野 裕司, 山田 健太郎, 宮武 仁志, 湯浅 浩之, 松川 則之. **初期診療で可逆性脳血管攣縮症候群を見逃さないための患者背景・発症誘因・急性期 MRI 画像所見の検討.** 日本頭痛学会誌. **50(1)**: 167-172, 2023.

大野 雄也, 藤岡 哲平, 澤本 和延. **内在性神経再生機構による脳梗塞治療にむけて.** Medical Science Digests. **49(5)**: 274-275, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	松川 則之	14(5)	13(4)	1(1)
講師	大村 眞弘	0	0	0
講師	大喜多 賢治	0	0	0
助教	川嶋 将司	1(0)	1(0)	0
助教	水野 将行	1(0)	1(0)	0
助教	藤岡 哲平	2(0)	1(0)	1(0)
助教	佐藤 豊大	2(0)	1(0)	1(0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授(診療担当)	山田 健太郎	1(0)	0	1(0)
講師(診療担当)	北村 太郎	0	0	0
助教(診療担当)	磯野 裕司	1(0)	0	1(0)
助教(診療担当)	下谷 直輝	0	0	0
助教(診療担当)	藤井 藍	0	0	0
助教(診療担当)	柴田 治人	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授(診療担当)	豊田 剛成	0	0	0
講師	山田 剛平	0	0	0
助教	久野 智之	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

松川則之. 文部科学省科学研究費(基盤B・分担). 令和2年度-令和5年度、13,500千円

松川則之. 文部科学省科学研究費(基盤B・分担). 令和4年度-令和6年度、13,600千円

藤岡哲平. 文部科学省科学研究費(若手・基金). 平成30年度-令和5年度、0千円/1,700千円

佐藤豊大. 文部科学省科学研究費(若手・基金). 令和5年度-令和7年度、780千円/2,100千円

間所佑太. 文部科学省科学研究費(若手・基金). 令和5年度-令和7年度、2,470千円/4,680千円

豊田剛成. 文部科学省科学研究費(基盤C・代表). 平成31年度-令和5年度、0千円/2,600千円

山田剛平. 文部科学省科学研究費(若手・基金). 平成31年度-令和5年度、0千円/3,300千円

松川則之. 共同研究費(株式会社 Splink). 令和3年度-令和8年度、10千円

松川則之. 共同研究費(株式会社 Medicolab). 令和5年度-令和8年度、261千円

松川則之. 受託研究費(AMED・分担). 令和4年度-令和6年度、1,740千円

松川則之. 受託研究費(AMED・分担). 令和5年度-令和6年度、2,300千円

松川則之. 受託研究費 (AMED・分担). 令和 5 年度-令和 6 年度、2,500 千円
松川則之. 受託研究費 (AMED・分担). 令和 4 年度-令和 6 年度、50 千円
松川則之. 研究助成金 (大塚製薬株式会社). 令和 5 年度-令和 11 年度、420 千円
松川則之. 研究助成金 (PDR ファーマ株式会社). 令和 5 年度-令和 11 年度、168 千円
松川則之. 研究助成金 (日本血液製剤機構). 令和 5 年度-令和 11 年度、168 千円
松川則之. 研究助成金 (中外製薬株式会社). 令和 5 年度-令和 11 年度、252 千円
松川則之. 研究助成金 (協和キリン株式会社). 令和 5 年度-令和 11 年度、420 千円
松川則之. 研究助成金 (住友ファーマ株式会社). 令和 5 年度-令和 11 年度、420 千円
松川則之. 研究助成金 (第一三共株式会社). 令和 2 年度-令和 8 年度、840 千円
松川則之. 研究助成金 (武田薬品工業株式会社). 令和 2 年度-令和 8 年度、840 千円
松川則之. 研究助成金 (大塚製薬株式会社). 令和 2 年度-令和 7 年度、420 千円
松川則之. 研究助成金 (エーザイ株式会社). 令和 3 年度-令和 11 年度、840 千円
松川則之. 研究助成金 (中外製薬株式会社). 令和 3 年度-令和 11 年度、252 千円
松川則之. 研究助成金 (第一三共株式会社). 令和 4 年度-令和 11 年度、420 千円
松川則之. 研究助成金 (アステラス製薬株式会社). 平成 31 年度-令和 6 年度、420 千円
藤岡哲平. 研究助成金 (学術奨励寄附金 (研究助成)). 令和 4 年度-令和 6 年度、441 千円
松川則之. 治験関連研究費 (バイオジェンジャパン)、令和 3 年度-令和 6 年度、44 千円
松川則之. 治験関連研究費 (エーザイ株式会社)、令和 4 年度-令和 7 年度、44 千円
大喜多賢治. 治験関連研究費 (武田薬品工業株式会社)、平成 30 年度-令和 7 年度、528 千円

【その他】

松川則之. 日本神経学会. 代議員, 日本認知症学会. 代議員, 日本内科学会東海支部
評議員, 日本神経治療学会. 代議員, 日本老年医学会. 代議員
大村眞弘. 日本神経学会. 評議員
大喜多賢治. 日本神経学会. 評議員
水野将行. 第 64 回日本神経学会学術大会. 当院における AChR 抗体陰性全身型 MG 症
例. 2023 年 6 月 2 日
佐藤豊大. 第 64 回日本神経学会学術大会. パーキンソン病の L-ドパ持続経腸療法
(LCIG) 導入症例における治療薬の使用状況. 2023 年 6 月 3 日
久野智之. 第 64 回日本神経学会学術大会. 脳梗塞の再発を契機にファブリー病の診断
に至った 1 例. 2023 年 5 月 31 日
山田剛平. 第 64 回日本神経学会学術大会. 首下がり徴候を主訴に来院した患者の臨床
像. 2023 年 5 月 31 日

<研究活動実績>

【欧文業績】

1. Jo T, Yoshihara S, Okuyama Y, Fujii K, Henzan T, Kahata K, Yamazaki R, Takeda W, Umezawa Y, Fukushima K, Ashida T, Yamada-Fujiwara M, Hanajiri R, Yonetani N, Tada Y, Shimura Y, Nishikii H, Shiba N, Mimura N, Ando J, Sato T, Nakashima Y, Ikemoto J, Iwaki K, Fujiwara SI, Ri M, Nagamura-Inoue T, Tanosaki R, Arai Y. **Risk factors for CAR-T cell manufacturing failure among DLBCL patients: A nationwide survey in Japan.** Br J Haematol. **2(2)**: 256-266, 2023.
2. Hasegawa T, Ito Y, Furukawa Y, Okuyama T, Kojima N, Uchida M, Tasaki Y, Suzuki N, Ishida K, Kashima S, Kubota Y, Akechi T. **Specialized Palliative Care and Intensity of End-of-Life Care Among Adolescents and Young Adults with Cancer: A Medical Chart Review.** J Adolesc Young Adult Oncol. **12(4)**: 488-495, 2023.
3. Hokland P, Fernández II, Freeman SD, Gjertsen BT, Jin J, Murthy V, Yanada M, Ganser A. **AML in the elderly-A global view.** Br J Haematol. **203(5)**: 760-773, 2023.
4. Marumo Y, Yoshida T, Ina K, Matsunaga N, Furukawa Y, Kamiya A, Kataoka T, Kayukawa S. **Diagnosis of a SMARCA4-deficient undifferentiated tumor using multigene panel testing: A case report.** Clin Case Rep. **29;11(9)**: e7854, 2023.
5. Lesokhin AM, Tomasson MH, Arnulf B, Bahlis NJ, Miles Prince H, Niesvizky R, Rodríguez-Otero P, Martínez-Lopez J, Koehne G, Touzeau C, Jethava Y, Quach H, Depaus J, Yokoyama H, Gabayan AE, Stevens DA, Nooka AK, Manier S, Raje N, Iida S, Raab MS, Searle E, Leip E, Sullivan ST, Conte U, Elmeliogy M, Czibere A, Viqueira A, Mohty M. **Elranatamab in relapsed or refractory multiple myeloma: phase 2 MagnetisMM-3 trial results.** Nat Med. **29(9)**: 2259-2267, 2023.
6. Suzuki K, Wechalekar AD, Kim K, Shimazaki C, Kim JS, Ikezoe T, Min CK, Zhou F, Cai Z, Chen X, Iida S, Katoh N, Fujisaki T, Shin HJ, Tran N, Qin X, Vasey SY, Tromp B, Weiss BM, Comenzo RL, Kastiris E, Lu J. **Daratumumab plus bortezomib, cyclophosphamide, and dexamethasone in Asian patients with newly diagnosed AL amyloidosis: subgroup analysis of ANDROMEDA .** Ann Hematol. **102(4)**:863-876, 2023.
7. Hiramatsu H, Yokomori R, Shengyi L, Tanaka N, Mori S, Kiyotani K, Gotoh O, Kusumoto S, Nakano N, Suehiro Y, Ito A, Choi I, Ohtsuka E, Hidaka M, Nosaka K, Yoshimitsu M, Imaizumi Y, Iida S, Utsunomiya A, Noda T, Nishikawa H, Ueda R, Sanda T, Ishida T. **Clinical landscape of TP73 structural variants in ATL patients.** Leukemia. **37(12)**: 2502-2506, 2023.
8. Kameda K, Yanagiya R, Miyatake Y, Carreras J, Higuchi H, Murayama H, Ishida T, Ito A, Iida S, Fukuhara N, Harigae H, Fujioka Y, Takahashi N, Wada H, Ishida F, Nakazawa H, Ishihara R, Murakami Y, Tagawa H, Matsuura T, Nakagawa S, Iwabuchi S, Hashimoto S, Imadome KI, Nakamura N, Ishizawa K, Kanda Y, Ando K, Kotani A. **The hepatic niche leads to aggressive natural killer cell leukemia proliferation through the transferrin-transferrin receptor 1 axis.** Blood. **142(4)**:352-364, 2023.

9. Fujikawa K, Saito T, Kurose K, Kojima T, Funakoshi T, Sato E, Kakimi K, Iida S, Doki Y, Oka M, Ueda R, Wada H. **Integrated analysis of phase 1a and 1b randomized controlled trials; Treg-targeted cancer immunotherapy with the humanized anti-CCR4 antibody, KW-0761, for advanced solid tumors.** PLoS One. 20;**18(9)**:e0291772, 2023.
10. Raje N, Mateos MV, Iida S, Reece D. **Clinical evidence for immune-based strategies in early-line multiple myeloma: current challenges in decision-making for subsequent therapy.** Blood Cancer J.**13(1)**: 41, 2023.
11. Hagiwara H, Nakayama T, Hashimoto H, Kusumoto S, Fukuta H, Kamiya T, Ikuta K, Iida S. **Risk factors associated with overall survival in patients with multiple myeloma following carfilzomib treatment: A retrospective study from a large claims database in Japan.** Cancer Med. **12(19)**: 19361-19371, 2023.
12. Yamamoto Y, Kondo M, Hotta Y, Tashiro Y, Sanagawa A, Kataoka T, Furukawa-Hibi Y, Ri M, Komatsu H, Iida S, Kimura K. A12. **The Relationship between Changes in Serum Element Concentrations and Pathological Condition and Disease Status in Japanese Multiple Myeloma Patients: A Pilot Study and Literature Review.** Asian Pac J Cancer Prev.;**24(7)**: 2493-2503, 2023.
13. Chng WJ, Lonial S, Morgan GJ, Iida S, Moreau P, Kumar SK, Twumasi-Ankrah P, Villarreal M, Dash AB, Vorog A, Zhang X, Suryanarayan K, Labotka R, Dimopoulos MA, Rajkumar SV. 13. **A pooled analysis of outcomes according to cytogenetic abnormalities in patients receiving ixazomib- vs placebo-based therapy for multiple myeloma.** Blood Cancer J. **13(1)**: 14, 2023.
14. Handa H, Ishida T, Ozaki S, Mori A, Kato K, Iida S. **Treatment pattern and clinical outcomes in multiple myeloma patients in Japan using the Medical Data Vision claims database.** PLoS One. **18(4)**: e0283931, 2023.
15. Takamatsu H, Matsuda T, Mizuno S, Takahashi T, Fuchida SI, Hanamura I, Kataoka K, Tsukada N, Matsumoto M, Hangaishi A, Doki N, Uchida N, Sawa M, Maruyama Y, Kurahashi S, Nagafuji K, Harazaki Y, Kako S, Iida S, Ichinohe T, Kanda Y, Atsuta Y, Sunami K; Multiple Myeloma Working Group in the Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy. **Changing trends in the risk factors for second primary malignancies after autologous stem cell transplantation for multiple myeloma before and after the introduction of proteasome inhibitors and immunomodulatory drugs.** Haematologica. **108(12)**: 3399-3408, 2023.
16. Fuchida SI, Ogura M, Ishida T, Hata H, Handa H, Katoh N, Nakaseko C, Sunami K, Katayama Y, Nobata H, Oshiro K, Iida S, Sekijima Y, Naiki H, Shimazaki C. **A retrospective analysis of clinical features and treatment outcome in 21 patients with immunoglobulin M-related light-chain amyloidosis in Japan: a study from the Amyloidosis Research Committee.** Int J Hematol. **118(4)**: 443-449, 2023.
17. Hiramatsu H, Nosaka K, Kusumoto S, Nakano N, Choi I, Yoshimitsu M, Imaizumi Y, Hidaka M, Sasaki H, Makiyama J, Ohtsuka E, Jo T, Ogata M, Ito A, Yonekura K, Tatetsu H, Kato T, Kawakita T, Suehiro Y, Ishitsuka K, Iida S, Matsutani T, Nishikawa H, Utsunomiya A, Ueda R, Ishida T. **Landscape of immunoglobulin heavy chain γ gene class switch recombination in patients with adult T-cell leukemia-lymphoma.** Haematologica.**108(4)**: 1173-1178, 2023.

18. Iida S, Sunami K, Mishima Y, Fujii T, Kato H, Terao T, Matsuzawa Y, Matsubara M, Crossman T, Kremer BE, Gupta I. **Safety, pharmacokinetics, and efficacy of belantamab mafodotin monotherapy in Japanese patients with relapsed or refractory multiple myeloma: DREAMM-11.** *Int J Hematol.* **118(5)**: 596-608, 2023.
19. Sunami K, Fuchida SI, Suzuki K, Ri M, Matsumoto M, Shimazaki C, Asaoku H, Shibayama H, Ishizawa K, Takamatsu H, Ikeda T, Maruyama D, Imada K, Uchiyama M, Kiguchi T, Iyama S, Murakami H, Onishi R, Tada K, Iida S. **Anti-CD38 antibody isatuximab monotherapy for Japanese individuals with relapsed/refractory multiple myeloma: An update of the phase 1/2 ISLANDs study.** *Hematol Oncol.* **41(3)**:442-452,2023.
20. Kinoshita S, Komatsu H, Fujinami H, Yoshida T, Suzuki T, Narita T, Ito A, Ri M, Kusumoto S, Iida S. **Recurrent pain attacks during romiplostim treatment in a patient with ITP carrying a heterozygous MEFV mutation.** *Int J Hematol.* **117(2)**:283-286, 2023.
21. Nakaoka A, Nomura T, Ozeki K, Suzuki T, Kusumoto S, Iida S, Saitoh S. **Two cases of transplant-acquired food allergy who developed resensitization after a negative oral food challenge.** *Allergy Asthma Clin Immunol.* **19(1)**:24, 2023.
22. Asano A, Ri M, Masaki A, Maeda Y, Tachita T, Hirade K, Marumo Y, Nakashima T, Hagiwara S, Kinoshita S, Suzuki T, Narita T, Kusumoto S, Komatsu H, Inagaki H, Iida S. **Aberrant tryptophan metabolism leads to unfavorable outcomes in lenalidomide-treated myeloma patients.** *Hematol Oncol.* **41(3)**: 424-433, 2023.
23. Suzuki T, Maruyama D, Machida R, Kataoka T, Fukushima N, Takayama N, Ohba R, Omachi K, Imaizumi Y, Tokunaga M, Katsuya H, Yoshida I, Sunami K, Kurosawa M, Kubota N, Morimoto H, Kobayashi M, Yamamoto K, Kameoka Y, Kagami Y, Tabayashi T, Maruta M, Kobayashi T, Iida S, Nagai H. **Prognostic impact of the UK Myeloma Research Alliance Risk Profile in transplant-ineligible patients with multiple myeloma who received a melphalan, prednisolone, and bortezomib regimen: A supplementary analysis of JCOG1105.** *Hematol Oncol.* **41(3)**: 590-593, 2023.
24. Suzuki T, Kusumoto S, Kamezaki Y, Hashimoto H, Nishitarumizu N, Nakanishi Y, Kato Y, Kawai A, Matsunaga N, Ebina T, Nakamura T, Marumo Y, Oiwa K, Kinoshita S, Narita T, Ito A, Inagaki A, Ri M, Komatsu H, Aritsu T, Iida S. **A comprehensive evaluation of humoral immune response to second and third SARS-CoV-2 mRNA vaccination in patients with malignant lymphoma.** *Int J Hematol.* **117(6)**: 900-909, 2023.
25. Suzuki T, Kusumoto S, Kamezaki Y, Hashimoto H, Nishitarumizu N, Nakanishi Y, Kato Y, Kawai A, Matsunaga N, Ebina T, Nakamura T, Marumo Y, Oiwa K, Kinoshita S, Narita T, Ito A, Inagaki A, Ri M, Komatsu H, Aritsu T, Iida S. **Humoral and cellular immune response to second and third severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 mRNA vaccine in patients with plasma cell dyscrasia.** *Cancer Med.* **12(12)**:13135-13144, 2023.
26. Ishida T, Nakakoji M, Murata T, Matsuyama F, Iida S. **Evaluating process utilities for the treatment burden of chemotherapy in multiple myeloma in Japan: a time trade-off valuation study.** *J Med Econ.* **26(1)**:565-573, 2023.
27. Nakanishi Y, Marumo Y, Ri M, Kinoshita S, Suzuki T, Narita T, Kusumoto S, Komatsu H, Iida S. **Laryngeal edema as a symptom of local cytokine release syndrome after BCMA-targeting CAR-T therapy for relapsed and refractory multiple myeloma.** *Int J Hematol.* **118(5)**:647-651, 2023.

28. Suzuki T, Yokomori R, Sanda T, Kikuchi T, Marumo Y, Kinoshita S, Narita T, Masaki A, Ito A, Ri M, Kusumoto S, Komatsu H, Inagaki H, Iida S. **Case report: Genomic analysis of a therapy-related chronic myelomonocytic leukemia with KMT2A rearrangement that progressed to acute myeloid leukemia with acute promyelocytic leukemia-like features.** Front Oncol. 13:1116418, 2023.
29. Tasaki Y, Sugiyama Y, Hamamoto S, Naiki T, Uemura T, Yokota K, Kawakita D, Nakamura M, Ogawa R, Shimura T, Mimura Y, Hotta Y, Odagiri K, Ito N, Iida M, Kimura Y, Komatsu H, Kataoka H, Takiguchi S, Morita A, Iwasaki S, Okuda K, Niimi A, Yasui T, Furukawa-Hibi Y. **Eosinophil may be a predictor of immune-related adverse events induced by different immune checkpoint inhibitor types: A retrospective multidisciplinary study.** Cancer Med. **12(24)**:21666-21679, 2023.
30. Matsuoka A, Fujimori M, Koyama T, Sato A, Mori K, Hirata M, Tanabe N, Nakachi K, Kato S, Okamoto H, Ogawa K, Komatsu H, Iwasaku M, Miyaji T, Uchitomi Y. **Prevalence of psychological distress and associated factors among patients undergoing comprehensive genomic profiling testing: protocol for a multicentre, prospective, observational study.** BMJ Open. **13(11)**:e072472, 2023.

【和文業績】

1. 金森貴之【多発性骨髄腫update-診断・治療の最新動向-】診断と治療 診断/治療効果の評価法 多発性骨髄腫におけるプレシジョン医療】日本臨床 81巻6号 Page875-880(2023. 06)
2. 飯田真介 Editorial 多発性骨髄腫と類縁疾患. 日本内科学会雑誌 2023; 112(7): 1185-1187.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	飯田 真介	25	25(12)	1
教授	小松 弘和	9	9	0
准教授	三田 貴臣	2	2	0
准教授	李 政樹	9	9	0
講師	成田 朋子	6	2	0
助教	鈴木 智貴	7	7(4)	0
助教	木下 史緒理	6	6(1)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	柳田 正光	1	1	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
助教	金森 貴之	1	0	1
助教	鈴木 奈々	1	1	0
助教	松永 尚大	2	2	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

特記事項なし

【外部資金獲得実績】

飯田 真介. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和2年度-令和6年度、4,290千円

飯田 真介. 受託研究費（国立がん研究センターがん研究開発費・分担）. 令和5年度、1,200千円

飯田 真介. 厚生労働科学研究費（分担）. 令和5年度、400千円

飯田 真介. 共同研究費（Chordia Therapeutics 株式会社）. 令和3年11月-令和6年8月、2500千円

飯田 真介. 受託研究費（AMED・分担）. 令和5年度、520千円

飯田 真介. 研究助成金（中外製薬株式会社）. 令和5年10月、2,000千円

飯田 真介. 治験費（協和キリン株式会社）. 令和5年度、363千円

飯田 真介. 治験費（グラクソ・スミスクライン株式会社）. 令和5年度、1,354千円

飯田 真介. 治験費（日本イーライリリー株式会社）. 令和5年度, 1,303千円

飯田 真介. 治験費（ノバルティスファーマ株式会社）. 令和5年度, 1,788千円

飯田 真介. 治験費（武田薬品工業株式会社）. 令和5年度, 1,793千円

飯田 真介. 治験費（ヤンセンファーマ株式会社）. 令和5年度, 2,017千円

飯田 真介. 治験費（アッヴィ合同会社）. 令和5年度, 723千円

飯田 真介. 治験費（アムジェン株式会社）. 令和5年度, 8,762千円

飯田 真介. 治験費（ファイザー株式会社）. 令和5年度, 2,827千円

飯田 真介. 治験費（IQVIA サービスーズジャパン株式会社）. 令和5年度, 653千円

飯田 真介. 治験費（中外製薬株式会社）. 令和5年度, 790千円

飯田 真介. 治験費（サノフィ株式会社）. 令和5年度, 2,994千円

三田 貴臣. 文部科学省科学研究費（帰国発展・代表）. 令和2年度-令和6年度, 61,620千円

成田 朋子. 研究助成金（日本血液学会）. 令和5年10月, 300千円

李 政樹. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和4年度-令和6年度, 4,160千円

李 政樹. 共同研究費（第一三共株式会社）. 令和3年3月-令和6年3月, 5,000千円

李 政樹. 共同研究費（第一三共株式会社）. 令和5年10月-令和7年3月, 5,000千円

鈴木 智貴. 文部科学省科学研究費（若手研究・代表）. 令和2年度-令和6年度, 4,160千円

鈴木 智貴. 共同研究費（シスメックス株式会社）. 令和3年8月-令和8年8月, 5,000千円

【その他】

国際学会発表

1. Lu Wang, Tze King Tan, Hyoju Kim, Dennis Kappei, Shi Hao Tan, A. Thomas Look, Takaomi Sanda, ASCL1 dimerizes with TCF12 protein and activates BMP-SMAD1 pathway during subtype switching from mesenchymal towards adrenergic neuroblastoma, **AACR annual meeting 2023**, 2023, Orlando, US.
2. Tomotaka Suzuki (Nagoya, JP) Dai Maruyama (Chuo-ku, JP) Ryunosuke Machida (Chuo-ku, JP) Yuta Ito (Chuo-ku, JP) Keisuke Kataoka (Fujisawa, JP) Hirokazu N. Randomized phase III study of daratumumab (D) versus bortezomib plus D as a maintenance therapy after D-MPB for elderly or non-elderly patients refusing transplant with untreated multiple myeloma (JCOG1911, B-DASH study), **ESMO Asia 2023**, 2023, Singapore.
3. Shinya Hagiwara, Ri Masaki, Arisa Asano, Ayako Masaki, Yoshiaki Marumo, Kentaro Hirade, Takahiro Nakashima, Shiori Kinoshita, Tomotaka Suzuki, Tomoko Narita, Hirokazu Komatsu, Shinsuke Iida. Potential immunosuppressive effects of extracellular vesicles from patients with multiple myeloma. **EHA2023**, 2023, Frankfurt.
(EHA2023にて他3件発表あり)
4. Takahiro Nakashima, Tomotaka Suzuki, Gakuto Ogawa, Kazuyuki Shimada, Tsutomu Kobayashi, Dai Maruyama, Wataru Munakata, KenOhmachi, Tomohiro Kinoshita, Kiyoshi Ando, Hirokazu Nagai. The Prognostic Impact of Relative DoseIntensity of Vincristine in R-CHOP for Untreated Patients with Diffuse Large B-Cell Lymphoma: A Supplementary Analysis of JCOG0601. **ASH2023**, 2023, San Diego.
5. Tomotaka Suzuki*, Rui Yokomorimi*, Takaomi Sanda, Hiroki Yano, Takaki Kikuchi, Takashi Kanamori, Atsushi Inagaki, Takashi Yoshida, Satoshi Kayukawa, Yoshiko Oshima, Hirokazu Sasaki, Shiori Kinoshita, Tomoko Narita, Ayako Masaki, Masaki Ri, Shigeru Kusumoto, Hirokazu Komatsu, Hiroshi Inagaki, Shinsuke Iida. Whole exome sequencing analysis of diffuse large B-cell lymphoma that progressed to central nervous system. **ASH2023**, 2023, San Diego.
(ASH2023にて他4件発表あり)

主要な国内学会活動の参加状況

1. 急性骨髄性白血病と卵巣癌に対する、膜型 TNF を標的としたキメラ抗原受容体導入 T 細胞の開発 中島 貴裕, 吉川 聡明, 伊藤 雄介, 井上 聡, 飯田 真介, 石川 裕一, 清井 仁, 籠谷 勇紀
第 82 回日本癌学会学術集会, 2023, 9 月, 横浜
2. Simplified frailty scale における frail 患者のさらなる層別化
加藤 佑希康, 鈴木 智貴, 橋本 大哉, 西垂水 希美, 近藤 明希, 中西 陽子, 松永 尚大, 海老名 徹, 丸茂 義晃, 浅野 有彩, 木下 史緒理, 成田 朋子, 李 政樹, 楠本 茂, 小松 弘和, 飯田 真介 第 85 回日本血液学会学術集会 85 回、2024 年 10 月, 東京
3. 骨髄腫細胞株由来細胞外小胞の免疫抑制効果 萩原 真也, 李 政樹, 海老名 徹, 丸茂 義晃, 中村 智幸, 平出 賢太郎, 中島 貴裕, 浅野 有彩, 木下 史緒理, 成田 朋子, 正木 彩子, 小松 弘和, 飯田 真介 第 85 回日本血液学会学術集会 85 回、2024 年 10 月, 東京
(第 85 回日本血液学会学術集会において他 7 件発表あり)

学内研究費獲得状況

1. 飯田 真介. 名古屋市立特別研究奨励費（井上靖道代表・分担）. 令和5年度、500千円

<研究活動実績>

【欧文業績】

Fukuda N, Toriuchi K, Mimoto R, Aoki H, Kakita H, Suzuki Y, Takeshita S, Tamura T, Yamamura H, Inoue Y, Hayashi H, Yamada Y, Aoyama M. **Hypothermia Attenuates Neurotoxic Microglial Activation via TRPV4**. *Neurochemical Research*. **49(3)**: 800-813, 2023.

Nakanishi T, Tsuji T, Sento Y, Hashimoto H, Fujiwara K, Sobue K. **Association between postinduction hypotension and postoperative mortality a single-centre retrospective cohort study**. *Canadian Journal of Anesthesia*. **71(3)**: 343-352, 2023.

Sato R, Kato R, So M, Sugiura T, Sobue K. **Pericapsular nerve group block for osteoarthritis-related chronic hip joint pain: a case report**. *JA Clinical Reports*. **9(1)**: 78, 2023.

Tsuji T, Sento Y, Kamimura Y, Kawasaki T, Sobue K. **Rapid Response System and Limitations of Medical Treatment Among Children With Clinical Deterioration in Japan_ A Multicenter Retrospective Cohort Study**. *Journal of Palliative Medicine*. **27(2)**: 241-245, 2023.

Kamimura Y, Yamamoto N, Shiroshita A, Miura T, Tsuji T, Someko H, Imai E, Kimura R, Sobue K. **Comparative efficacy of ultrasound guidance or conventional anatomical landmarks for neuraxial puncture in adult patients a systematic review and network meta-analysis**. *British Journal of Anaesthesia*. **132(5)**: 1097-1111, 2023.

Akimaru S, Nakanishi T, Hasegawa T, Sobue K. **Anesthetic Management of Inguinal Hernia Surgery Using a Second-Generation Supraglottic Airway in a Patient With Trisomy18: A Case Report**. *Cureus*. **15(9)**: e45337, 2023.

Kamimura Y, Kamijo K, Banno M, Tsuji T, Aoki Y, Ito H, Tanaka M, Sobue K. **Efficacy of intravenous dexamethasone on postoperative pain after caesarean delivery under spinal anaesthesia with an intrathecal long-acting opioid: a systematic review and meta-analysis**. *Journal of Anesthesia*. **37(3)**: 416-425, 2023.

Nakanishi T, Fujiwara K, Sobue K. **Prediction Model of Postoperative Pain Exacerbation Using a Wearable Electrocardiogram Sensor**. *Annu Int Conf IEEE Eng Med Biol Soc*. **2023**: 1-4, 2023.

Nakanishi T, Kato S, Tamura T, Kako E, Sobue K. **Malposition of a pulmonary artery catheter in the left ventricle: a case report**. *JA Clinical Reports*. **9(1)**: 29, 2023.

Nakanishi T, Sento Y, Kamimura Y, Nakamura R, Hashimoto H, Okuda K, Nakanishi R, Sobue K. **Combined use of the ProSeal laryngeal mask airway and a bronchial blocker vs. a double lumen endobronchial tube in thoracoscopic surgery**. *Journal of Clinical Anesthesia*. **88**: 111136, 2023.

Nakanishi T, Sakamoto S, Yoshimura M, Fujiwara K, Toriumi T. **Learning curve of i-gel insertion in novices using a cumulative sum analysis**. *Scientific Reports*. **13(1)**: 7121, 2023.

Tsuji T, Sento Y, Nakanishi T, Tamura T, Kako E, Sato I, Kawakami K, Kawasaki T, Naito T, Fujitani S, Sobue K. **Incidence and factors associated with newly implemented do-not-attempt-resuscitation orders among deteriorating patients after rapid response system activation: A retrospective observational study using a Japanese multicenter database**. *Acute Medicine & Surgery*. **10**: e870, 2023.

Itazu R, Yano H, Kondo S, Hata N, Tamura T, Hirate H, Sobue K. **Methicillin-resistant Staphylococcus aureus cross-transmission in an intensive care unit: Tow high-profile cases analysis using the PCR-based open reading frame typing method.** NAGOYA MEDICAL JOURNAL. **57**:73-82, 2022.

Hashimoto M, Sato A, Sento Y, Kamimura Y, Kako E, Okuda M, Tachi N, Okumura Y, Kuroda I, Hoshijima H, Ito H, Sobue K. **3M microfoam™ surgical tape prevents nasal pressure injury associated with nasotracheal intubation: A randomized double-blind trial.** Medicine (Baltimore). **102**(2): e32679, 2022.

Tomita N, Hotta Y, Ito H, Naiki-Ito A, Matsuta K, Yamamoto Y, Ohashi K, Hayakawa T, Sanagawa A, Horita Y, Kondo M, Kataoka T, Takahashi S, Sobue K, Kimura K. **High preoperative serum strontium levels increase the risk of acute kidney injury after cardiopulmonary bypass.** Clinical and Experimental Nephrology. **27**(4): 382-891, 2022.

【和文業績】

川津 文子, 徐 民恵, 祖父江 和哉. **心肺蘇生後の多発肋骨骨折に対して集中治療室で硬膜外鎮痛を施行した1症例.** 日本ペインクリニック学会誌. **30**(11): 22-24, 2023.

青木 優祐, 加古 英介, 徐 民恵, 杉浦 健之, 田中 基, 祖父江 和哉. **腹腔鏡下肝切除術中の硬膜外局所麻酔薬投与量が術直後の痛みと嘔気を与える影響 後ろ向きコホート研究.** 日本臨床麻酔学会誌. **43**(6): S196, 2023.

星加 麻衣子, 草間 宣好, 加藤 利奈, 佐藤 玲子, 杉浦 健之, 祖父江 和哉. **鎖骨骨幹部骨折術後の遷延性術後痛に対し鎖骨上神経パルス高周波法が有効であった1症例.** 日本ペインクリニック学会誌. **30**(10): 232-235, 2023.

酒井 美枝, 杉浦 健之, 永田 富義, 青木 晃大, 山本 恵美子, 近藤 真前. **当院いたみセンターに紹介された慢性痛患者像の把握と多職種介入内容の検討.** 日本ペインクリニック学会誌. **30**(10): 241-243, 2023.

中井 俊宏. **【シンプル解説だから“教える”にも役立つ 人工呼吸の苦手克服キーワード】VILIとVALI.** みんなの呼吸器 Respica. **21**(5): 688-691, 2023

中井 俊宏. **【シンプル解説だから“教える”にも役立つ 人工呼吸の苦手克服キーワード】P-SILI(自発呼吸誘発性肺傷害).** みんなの呼吸器 Respica. **21**(5): 692-695, 2023

祖父江 和哉. **症例ライブラリー 術中の低血圧 麻酔導入後, 思わぬ落とし穴が待っていた.** LiSA. **30**(9): 926-929, 2023

堀井 雅, 中西 俊之, 祖父江 和哉. **声帯腫瘍合併患者の肺葉切除術において先行留置した気管支ブロッカーと声門上器具を併用して 一側肺換気を行った1症例.** 日本臨床麻酔学会誌. **43**(5): 395-399, 2023.

森島 陽, 笹野 信子. **ガドリニウムMRI造影剤によるアナフィラキシーから心肺停止と急激なDICをきたした1症例.** 日本集中治療医学会誌. **30**(5): 405-409, 2023.

佐藤 玲子, 加藤 利奈, 草間 宣好, 加古 英介, 杉浦 健之, 祖父江 和哉. **診断が困難であった特発性眼窩炎症による二次性三叉神経痛の1症例.** 日本ペインクリニック学会誌. **30**(8): 215-219, 2023

柴田 結佳, 加古 英介, 影山 翔一, 富田 新也, 秋丸 慎太郎, 中井 俊宏, 辻 達也, 太田 晴子, 田村 哲也, 祖父江 和哉. **瞳孔記録計で計測した瞳孔反応による大血管手術後の神経学的障害の予測に関する後ろ向き観察研究.** 日本集中治療医学会誌. **30**(Suppl. 1): S669, 2023.

富田 新也, 濱田 一央, 秋丸 慎太郎, 青木 優祐, 中井 俊宏, 太田 晴子, 加古 英介, 徐 民恵, 田村 哲也, 祖父江 和哉. 褐色細胞腫クリーゼによる心原性ショックに対して VA-ECMO 導入後早期に手術して救命できた 1 例. 日本集中治療医学会雑誌. 30(Suppl. 1): S765, 2023.

山添 大輝, 徐 民恵, 佐藤 玲子, 加藤 利奈, 太田 晴子, 加古 英介, 薊 隆文, 杉浦 健之, 祖父江 和哉. ミノキシジル外用後に発症した全身の異常感覚と疼痛に対し牛車腎気丸が奏功した一例. 日本ペインクリニック学会誌. 30(プログラム号): 215, 2023.

佐藤 玲子, 加藤 利奈, 杉浦 健之, 太田 晴子, 加古 英介, 徐 民恵, 祖父江 和哉. 変形性股関節症による慢性股関節痛を pericapsular nerve group ブロックで治療した 1 例. 日本ペインクリニック学会誌. 30(6): 156, 2023.

中井 俊宏, 加古 英介, 杉山 ももこ, 田村 哲也, 服部 友紀, 笹野 寛, 祖父江 和哉. 急速に進行した気道閉塞に対して予防的に気管挿管を行った COVID-19 合併外傷性咽頭後間隙血腫症例. 日本救急医学会雑誌. 34(6): 252-257, 2023.

中西 俊之, 藤原 幸一, 仙頭 佳起, 祖父江 和哉. ウェアラブル心電計と経静脈的患者自己調節鎮痛法を用いた手術後の痛み増強を予測する AI の開発. 人工知能学会全国大会論文集 JSAI2023. 2023.

伊藤 秀和, 藤掛 数馬, 畑 七奈子, 可児 里美, 祖父江 和哉. 精度管理されたハンデイー型 POCT 装置と据え置き型装置における血液ガス, 電解質, 血糖, ヘモグロビン値の比較検討. 医療機器学. 93(1): 59-64, 2022.

上村 友二, 田中 基. 帝王切開・経膈分娩後の疼痛管理. 臨床婦人科産科. 77(1): 79-86, 2023.

【各教員の論文数 (桜山)】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	祖父江 和哉	26(25)	13(12)	13(13)
教授(診療担当)	田中 基	3(1)	1	2
教授(診療担当)	杉浦 健之	7	1	6
講師	徐 民恵	6	1	5
講師	田村 哲也	7	4	3
講師	加古 英介	10	3	7
講師	太田 晴子	4	0	4
講師(助教級)	上村 友二	6(2)	5	1
助教	加藤 利奈	5	1	4
助教	藤掛 数馬	1	0	1
助教	青木 優祐	3(1)	1	2
助教	中西 俊之	9(6)	7(5)	2(1)
助教	中井 俊宏	5(3)	0	5(3)
助教	山添 大輝	1(1)	0	1(1)

注: () 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す (教授の場合は最終著者の論文も含む)

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授（診療担当）	笹野 信子	1(1)	0	1(1)
准教授	草間 宣好	2	0	2

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

徐 民恵. 一般社団法人日本ペインクリニック学会. 第6回川柳大賞. 入賞, 令和5年7月

中西 俊之. 一般社団法人人工知能学会. 2023年度人工知能学会全国大会（第37回）優秀賞. ウェアラブル心電計と経静脈的患者自己調節鎮痛法を用いた手術後の痛み増強を予測するAIの開発, 令和5年7月

Fujita Yoshihito. 2nd Joint Scientific Congress of JSICM/ TSCCM/TSECCM(JKT). Best Presenter Award. The Incidents of Myocardial Injury after Non-cardiac surgery in Asian people population, 令和5年10月

Nobuko Sasano. 12th Annual John Hopkins Critical Care Rehabilitation Conference. Best Oral Presentation Award. Aiming for Humanization of Intensive Care through Rehabilitation. 令和5年11月

【外部資金獲得実績】

<科研費>

祖父江 和哉. 文部科学省科学研究費（基盤 B・代表）. 令和3年度-令和6年度、1,150千円/13,100千円

祖父江 和哉. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和4年度-令和6年度、50千円

祖父江 和哉. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和4年度-令和6年度、100千円

祖父江 和哉. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和4年度-令和6年度、50千円

祖父江 和哉. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和5年度-令和7年度、50千円

祖父江 和哉. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和5年度-令和7年度、50千円

祖父江 和哉. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和5年度-令和7年度、100千円

祖父江 和哉. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和5年度-令和7年度、50千円

祖父江 和哉. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-令和 7 年度、60 千円

田中 基. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 5 年度-令和 7 年度、100 千円/3,600 千円

杉浦 健之. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 3 年度-令和 7 年度、300 千円/3,100 千円

杉浦 健之. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 4 年度-令和 6 年度、10 千円

杉浦 健之. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 4 年度-令和 9 年度、120 千円

杉浦 健之. 厚生労働省科学研究費 (分担). 令和 5 年度、400 千円

藤田 義人. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 4 年度-令和 6 年度、1,974 千円

笹野 信子. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 5 年度-令和 7 年度、1,400 千円/3,600 千円

徐 民恵. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 5 年度-令和 7 年度、800 千円/3,600 千円

田村 哲也. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 4 年度-令和 6 年度、600 千円/2,700 千円

田村 哲也. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-令和 7 年度、50 千円

加古 英介. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 4 年度-令和 6 年度、800 千円/3,000 千円

太田 晴子. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 5 年度-令和 7 年度、140 千円/3,600 千円

太田 晴子. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 7 年度、50 千円

上村 友二. 文部科学省科学研究費 (若手・代表). 令和 5 年度-令和 7 年度、140 千円/3,600 千円

上村 友二. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 3 年度-令和 6 年度、10 千円

加藤 利奈. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 5 年度-令和 7 年度、500 千円/3,600 千円

藤掛 数馬. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 3 年度-令和 7 年度、25 千円

青木 優祐. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 4 年度-令和 6 年度、600 千円/3,200 千円

中西 俊之. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 3 年度-令和 6 年度、100 千円

<研究助成>

中西 俊之. 研究助成金 (公益財団法人 日東学術振興財団). 令和 5 年度-令和 7 年度、2,000 千円

<その他>

杉浦 健之. 厚生労働省慢性疼痛診療システム構築モデル事業費. 令和 5 年度、3,831 千円

杉浦 健之. 受託研究費 (AMED・分担). 令和 4 年度、20 千円

中西 俊之. 受託研究費 (JST・代表). 令和 5 年度、1,745 千円

【その他】

<国際学会発表 (口頭) >

Sasano N. Aiming for Humanization of Intensive Care through Rehabilitation. 12th Annual John Hopkins Critical Care Rehabilitation Conference. 2023.11.8-11.11. (Balimore U.S.A. /Web)

Nakanishi T, Fujiwara K, Sobue K. APSIPA ASC 2023. Prediction Model of Postoperative Pain Exacerbation Using a Wearable Electrocardiogram Sensor. 2023.10.31-11.3. (Taipei Taiwan)

Fujita Y, Ito H, Shimomura T, Fujiwara Y. 2nd Joint Scientific Congress of JSICM/ TSCCM/TSECCM(JKT). The Incidents of Myocardial Injury after Non-cardiac surgery in Asian people population. 2023.10.14-10.15. (Taipei Taiwan)

Sasano N. World Congress on Nursing Education & Practice. With the Goal of Humanization of Intensive Care: How can we implement the human-centered care in the ICU?. 2023.7.17 (Frankfurt Germany /Web)

Nakanishi T, Fujiwara K, Sobue K. IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC). Prediction model of postoperative pain exacerbation using an intravenous patient-controlled analgesia device and a wearable electrocardiogram sensor. 2023.7.24-7.27. (Sydney Australia)

Sasano N, Yasuda M, Uehara T, Takahashi R, Kusama N. The 23rd Joint Scientific Congress of Korean Society of Critical Care Medicine and Japanese Society of Intensive Care Medicine. Medical personnel's perceptions of out-of-ICU activities for physical, mental, and humanized care. 2023.4.27-4.28. (South Korea Seoul)

<国内学会発表 (口頭) >

得地 春名, 佐野 文昭, 日本臨床麻酔学会第 43 回大会. 左用二腔チューブ及び気管支ブロッカーによる一側肺換気が困難であった 2 症例. 2023. 12. 7-12. 9

高木 翔一郎, 中西 俊之, 山崎 貴史, 上村 友二, 加古 英介, 祖父江 和哉. 日本臨床麻酔学会第 43 回大会. 上大静脈遮断を要する縦隔腫瘍切除術において外頸静脈-下肢静脈シャントの血流を計測して管理した 1 症例. 2023. 12. 7-12. 9

佐藤 玲子, 田村 哲也, 友成 毅, 仙頭 佳起, 徐 民恵, 杉浦 健之, 祖父江 和哉. 日本臨床麻酔学会第 43 回大会. がん光免疫療法に対する周術期鎮痛プロトコルの作成～術後 ICU までシームレスに疼痛管理できた 2 症例～. 2023. 12. 7-12. 9

佐々木 拓海, 中西 俊之, 加古 英介, 祖父江 和哉. 日本臨床麻酔学会第 43 回大会. 臨床工学技士の補助業務による麻酔科医の負担軽減と現行で未認可の業務への期待度: 単施設アンケート調査. 2023. 12. 7-12. 9

青木 優祐, 加古 英介, 徐 民恵, 杉浦 健之, 田中 基, 祖父江 和哉. 日本臨床麻酔学会第 43 回大会. 腹腔鏡下肝切除術中の硬膜外局所麻酔薬投与量が術直後の痛みと嘔気に与える影響: 後ろ向きコホート研究. 2023. 12. 7-12. 9

加古 英介. 日本臨床麻酔学会第 43 回大会. シンポジウム 2 (ICU 関連) -3 多臓器不全の管理の進歩 腎機能保護の進歩. 2023. 12. 7-12. 9

田中 基. 第 11 回新胎児学研究会. 特別講演 2 母体の麻酔が胎児に与える影響. 2023. 11. 4

杉浦 健之, 青木 晃大, 永田 富義, 酒井 美枝, 山本 恵美子, 黒柳 元, 佐藤 玲子, 加藤 利奈, 太田 晴子, 徐 民恵. 第 16 回日本運動器疼痛学会. 集学的治療介入による慢性筋骨格系疼痛患者の睡眠障害への影響. 2023. 11. 3-11. 4

酒井 美枝, 佐藤 玲子, 山本 恵美子, 青木 晃大, 永田 富義, 杉浦 健之. 第 16 回日本運動器疼痛学会. アクセプタンス&コミットメント・セラピーを行い, 3 カ月で QOL が改善した 慢性二次性筋骨格系痛の症例. 2023. 11. 3-11. 4

山村 薫平, 森島 徹朗. 心臓血管麻酔学会第 28 回学術大会. 急性大動脈解離の緊急手術の際にアンデキサネットにより生じた人工心肺回路内血栓症および凝固異常の 1 例. 2023. 9. 16-9. 17

木下 育実, 山村 薫平, 柴田 結佳, 佐野 文昭, 工藤 妙, 森島 徹朗. 日本麻酔科学会東海・北陸支部第 21 回学術集会. Off-pump CABG 後に残存筋弛緩を認めた 2 症例. 2023. 9. 2

古田 美郷, 永森 達也, 青木 優祐, 徐 民恵, 加古 英介, 祖父江 和哉. 日本麻酔科学会東海・北陸支部第 21 回学術集会. BMI67 の高度肥満患者に対する高流量酸素鼻カニューレを活用した周術期管理 (優秀演題) . 2023. 9. 2

藤田 義人, 伊藤 洋, 下村 毅, 藤原 祥裕. 第 37 回日本 Shock 学会. 非心臓術後心血管合併症発生における術後トロポニン測定の有用性に関する検討: 単施設、コホート、観察研究. 2023. 8. 13-8. 19

山添 大輝, 徐 民恵, 佐藤 玲子, 加藤 利奈, 太田 晴子, 加古 英介, 薊 隆文, 杉浦 健之, 祖父江 和哉. 日本ペインクリニック学会第 57 回学術集会. ミノキシジル外用後に発症した全身の異常感覚と疼痛に対し牛車腎気丸が奏功した一例. 2023. 7. 13-7. 15

稲垣 諒将, 加藤 利奈, 草間 宣好, 太田 晴子, 星加 麻衣子, 佐藤 玲子, 大堀 久, 杉浦 健之, 祖父江 和哉. 日本ペインクリニック学会第 57 回学術集会. 血流障害に伴う手指痛に星状神経節ブロックと腕神経叢ブロックが奏功した 1 症例. 2023. 7. 13-7. 15

中西 俊之. 第 6 回気道管理学会学術集会 MDIC セミナー 声門上器具. 2023. 7. 1

田村 哲也, 丸谷 幸子, 岩田 麻衣子, 永田 千恵, 祖父江 和哉. 日本集中治療医学会第 7 回東海北陸支部学術集会. Patient-centered approach の取り組み 「治療方針の決定が困難な患者への対応」. 2023. 6. 17

岩田 麻衣子, 岩見 静佳, 丸谷 幸子, 永田 千恵, 田村 哲也. 日本集中治療医学会第 7 回東海北陸支部学術集会. ICU survivors の QOL 改善を見据えての取り組み 「当院 ICU での PICS 予防の取り組みと課題」. 2023. 6. 17

笠原 央達, 佐野 文昭, 得地 春名, 山田 育美, 大塚 醇, 柴田 結佳, 下谷 彩, 山村 薫平, 工藤 妙, 森島 徹朗. 日本集中治療医学会第 7 回東海北陸支部学術集会. 高度の循環不全を合併した重症熱帯熱マラリアに対して集学的治療を行い救命できた 1 例. 2023. 6. 17

大塚 醇, 山村 薫平, 得地 春名, 木下 育美, 笠原 央達, 下谷 彩, 柴田 結佳, 佐野 文昭, 工藤 妙, 森島 徹朗. 日本集中治療医学会第7回東海北陸支部学術集会. 急性冠症候群 (ACS) を契機に SGLT-2 阻害薬による正常血糖アシドーシス (EDKA) を発症した1例. 2023. 6. 17

堀井 雅, 田村 哲也, 古田 美郷, 森下 博隆, 山添 大輝, 永森 達也, 青木 優祐, 中井 俊宏, 加古 英介, 祖父江 和哉. 日本集中治療医学会第7回東海北陸支部学術集会. 上行大動脈人工血管置換術後にたこつば症候群から心室中隔穿孔を合併した1例. 2023. 6. 17

友成 毅, 上村 友二, 青木 優祐, 中井 俊宏, 山添 大輝, 永森 達也, 濱田 一央, 稲垣 麻優, 祖父江 和哉. 日本集中治療医学会第7回東海北陸支部学術集会. 電気インピーダンス・トモグラフィ (EIT) を用いたことで体外式膜型人工肺導入を回避できた高度肥満の1例. 2023. 6. 17

稲葉 守彦, 安田 雅美, 鈴木 辰幸, 藤井 裕也, 草間 宣好, 笹野 信子. 日本集中治療医学会第7回東海北陸支部学術集会. 体重 100kg 以上の肥満患者 3 例における座位の重要性と早期離床の実践に関する報告. 2023. 6. 17

加藤 利奈, 有馬 菜千枝, 杉浦 健之. 第73回日本東洋医学会学術総会. 腹部手術後の前皮神経絞扼症候群に対して漢方治療が有効であった1症例. 2023. 6. 16-6. 18

有馬 菜千枝, 勝見 さち代, 加藤 利奈, 杉浦 健之, 野尻 俊輔. 第73回日本東洋医学会学術総会. CPAP 療法中の鼻閉に対する漢方治療. 2023. 6. 16-6. 18

中西 俊之, 藤原 幸一, 仙頭 佳起, 祖父江 和哉. 人工知能学会全国大会 (第37回). ウェアラブル心電計と経静脈的患者自己調節鎮痛法を用いた手術後の痛み増強を予測する AI の開発 (優秀賞受賞). 2023. 6. 6-6. 9

中西 俊之, 辻 達也, 仙頭 佳起, 橋本 大哉, 藤原 幸一, 祖父江 和哉. 日本麻酔科学会第70回学術集会. 麻酔導入後の低血圧と術後死亡との関連 (多変量ロジスティック回帰モデルと不均衡データを分類する機械学習アルゴリズム RUSBoost を用いた検討): 単施設後ろ向き観察研究 (優秀演題). 2023. 6. 1-6. 3

辻 達也, 仙頭 佳起, 祖父江 和哉. 日本麻酔科学会第70回学術集会. 「質の高い臨床研究を実現するためのプロトコール作成～世界水準のエビデンス発信に向けて～」 「処置に伴う鎮静・鎮痛」の疫学調査に基づいたシミュレーション教育プログラム実践による臨床効果の検証: 研究プロトコール (分断時系列分析). 2023. 6. 1-6. 3

仙頭 佳起, 中村 知寿, 安藤 翔悟, 野木村 茜, 中西 俊之, 辻 達也, 上村 友二, 佐藤 會士, 加古 英介, 鈴木 伸幸, 橋本 大哉, 渋谷 恭之, 植木 美乃, 道川 誠, 祖父江 和哉. 第27回日本神経麻酔集中治療学会. 術前の血清フロチリンレベルと術後の神経認知障害の関連性探索: 前向き観察研究 (パイロットスタディ). 2023. 5. 19-5. 20

仙頭 佳起, 鄭 且均, 中村 知寿, 周 春雨, Abdullatif Mona, 志田 恭子, 藤掛 数馬, 太田 晴子, 加古 英介, 田村 哲也, 祖父江 和哉, 道川 誠. 第27回日本神経麻酔集中治療学会. 全身麻酔と開腹手術が脳のリン酸化タウ蛋白質レベルに及ぼす影響: アルツハイマー病モデルマウスを用いた検討. 2023. 5. 19-5. 20

佐々木 拓海, 中西 俊之, 秋丸 慎太郎, 祖父江 和哉. 第34回日本臨床モニター学会総会. 上大静脈再建を要した前縦隔腫瘍摘出術において外頸静脈-下肢静脈間の外シヤントを作成して術中管理した1例. 2023. 4. 29-4. 30

草間 宣好. 日本区域麻酔学会第10回学術集会. 高度側弯症妊婦の硬膜外併用脊髄くも膜下麻酔に超音波プレスキャンが有用であった1症例. 2023. 4. 14-4. 15

酒井 美枝. 第52回日本慢性疼痛学会. 名古屋市立大学病院いたみセンターにおける

多職種診療システム：心理職の立場から。2023. 3. 9-3. 11

柴田 結佳, 加古 英介, 影山 翔一, 富田 新也, 秋丸 慎太郎, 中井 俊宏, 辻 達也, 太田 晴子, 田村 哲也, 祖父江 和哉. 第50回日本集中治療医学会学術集会. 瞳孔記録計で計測した瞳孔反応による大血管手術後の神経学的障害の予測に関する後ろ向き観察研究. 2023. 3. 2-3. 4

富田 新也, 濱田 一央, 秋丸 慎太郎, 青木 優祐, 中井 俊宏, 太田 晴子, 加古 英介, 徐 民恵, 田村 哲也, 祖父江 和哉. 第50回日本集中治療医学会学術集会. 褐色細胞腫クリーゼによる心原性ショックに対して VA-ECMO 導入後早期に手術して救命できた1例. 2023. 3. 2-3. 4

下谷 彩, 山村 薫平, 木下 育実, 大塚 醇, 笠原 央達, 佐野 文昭, 井口 広靖, 工藤 妙, 森島 徹朗. 第50回日本集中治療医学会学術集会. 輪状甲状靭帯穿刺キット挿入時に咽頭内迷入した一例. 2023. 3. 2-3. 4

佐藤 玲子, 加藤 利奈, 杉浦 健之, 太田 晴子, 加古 英介, 徐 民恵, 祖父江 和哉. 日本ペインクリニック学会 第3回東海・北陸支部学術集会. 変形性股関節症による慢性股関節痛を Pericapsular nerve group ブロックで治療した一例. 2023. 2. 25

祖父江 和哉. 第4回日本周麻酔期看護医学会学術集会. 周麻酔期の安全管理. 2023. 2. 2-2. 5

<国内学会発表 (ポスター) >

谷 絢花, 横井 礼子, 加藤 利奈, 上村 友二, 田中 基, 祖父江 和哉. 日本麻酔科学会東海・北陸支部第21回学術集会. 重症僧帽弁閉鎖不全症合併双胎妊婦の帝王切開術において SequentialCSEA による麻酔管理を行った1例. 2023. 9. 2

中西 俊之, 辻 達也, 仙頭 佳起, 橋本 大哉, 藤原 幸一, 祖父江 和哉. 日本麻酔科学会第70回学術集会. 累積和を用いた初期研修医における i-gel 挿入のラーニングカーブの検討：単施設前向き観察研究. 2023. 6. 1-6. 3

<国内学会 座長・司会・講師など>

祖父江 和哉. 日本臨床麻酔学会第43回大会. 教育講演13 (麻酔関連7) 麻酔科医として知っておきたい圧波形の見方. 座長. 2023. 12. 7-12. 9

杉浦 健之. 日本臨床麻酔学会第43回大会. 神経ブロックハンズオンセミナー上級編 下肢ブロック：鼠径上腸骨筋膜下ブロック、坐骨神経ブロック (傍仙骨～殿下部). インストラクター. 2023. 12. 7-12. 9

祖父江 和哉. 日本臨床麻酔学会第43回大会. 教育講演8 (麻酔関連5) 気道管理戦略—疑問から解決への道を探る—. 座長. 2023. 12. 7-12. 9

田中 基. 日本臨床麻酔学会第43回大会. ポスター8 ハイリスク症例. 座長. 2023. 12. 7-12. 9

中西 俊之. 日本臨床麻酔学会第43回大会. シミュレーション講習2 DAM ハンズオンセミナー (認定講習). インストラクター. 2023. 12. 7-12. 9

青木 優祐. 第127回日本産科麻酔学会学術集会. 超音波ハンズオン (簡易胸壁心エコー). インストラクター. 2023. 12. 2-12. 3

青木 優祐. 第127回日本産科麻酔学会学術集会. ポスター 分娩鎮痛 (システム). 座長. 2023. 12. 2-12. 3

祖父江 和哉. 日本手術医学会第45回総会. アフタヌーンセミナー エイミーPCAの進化そして術後疼痛管理はエイミーviewerで楽になる. 司会. 2023. 11. 24-11. 25

杉浦 健之, 第 16 回日本運動器疼痛学会, 一般口演「術後痛 1」, 座長, 2023. 11. 3-11. 4

田中 基, 日本小児麻酔学会第 28 回大会, 一般演題 ポスター発表, 座長, 2023. 10. 7-10. 8

加古 英介, 心臓血管麻酔学会第 28 回学術大会, 教育講演 心臓血管術後の脳神経管理, 講師, 2023. 9. 16-9. 17

中西 俊之, 心臓血管麻酔学会第 28 回学術大会, パネルディスカッション 体液管理・IN-OUT バランス管理「ICU での輸液バランスをどのように考えるか」, 講師, 2023. 9. 16-9. 17

加古 英介, 心臓血管麻酔学会第 28 回学術大会, シンポジウム 術中から術後へのスムーズな集中治療管理への移行, 講師, 2023. 9. 16-9. 17

祖父江 和哉, 日本麻酔科学会東海・北陸支部第 21 回学術集会, 共済セミナー 補助循環と循環モニターの今とこれから, 座長, 2023. 9. 2

祖父江 和哉, 日本麻酔科学会東海・北陸支部第 21 回学術集会, 特別講演 麻酔科医師が担う(周術期)医学の将来, 座長, 2023. 9. 2

太田 晴子, 日本麻酔科学会東海・北陸支部第 21 回学術集会, ポスター 呼吸管理 I, 座長, 2023. 9. 2

徐 民恵, 日本麻酔科学会東海・北陸支部第 21 回学術集会, ポスター 小児, 座長, 2023. 9. 2

加藤 利奈, 日本麻酔科学会東海・北陸支部第 21 回学術集会, ポスター 困難気道, 座長, 2023. 9. 2

祖父江 和哉, 第 17 回日本臨床栄養代謝学会中部支部学術集会, 教育講演 重症患者の急性期栄養療法～各ガイドラインの概説と最新の知見、当院における取り組み～, 座長, 2023. 7. 22

田中 基, 第 59 回日本周産期・新生児医学会学術集会, ワークショップ 13 循環器病合併妊娠における医療連携, 講演, 2023. 7. 9-7. 11

田中 基, 第 59 回日本周産期・新生児医学会学術集会, シンポジウム 4 産科麻酔と児の短期的・長期的アウトカム, 座長, 2023. 7. 9-7. 11

祖父江 和哉, 日本集中治療医学会 第 7 回東海北陸支部学術集会, ランチョンセミナー グリコカリックスで再考する微小循環 ～急性期輸液の体液動態とは～, 座長, 2023. 6. 17

祖父江 和哉, 日本麻酔科学会第 70 回学術集会, 共済セミナー「あったらいいな」を実現-麻酔記録システムの携帯端末入力、表示、データ活用の新時代, 座長, 2023. 6. 1-6. 3

徐 民恵, 日本麻酔科学会第 70 回学術集会, 共済セミナー 多職種参加型の術後回診チームが行う術後管理 名古屋市立大学病院の取り組み, 講演, 2023. 6. 1-6. 3

杉浦 健之, 日本麻酔科学会第 70 回学術集会, ペイン緩和・局所麻酔(基礎), 優秀演題審査員, 2023. 6. 1-6. 3

中西 俊之, 日本麻酔科学会第 70 回学術集会, 共済セミナー 術中の肺リクルートメント下手技戦略, 講演, 2023. 6. 1-6. 3

祖父江 和哉. 第 27 回日本神経麻酔集中治療学会. イブニングセミナー 筋弛緩モニターの使用 100%を目指して. 座長. 2023. 5. 19-5. 20

祖父江 和哉. 日本区域麻酔学会第 10 回学術集会. ポスター4 合併症 1. 座長. 2023. 4. 14-4. 15

杉浦 健之. 日本区域麻酔学会第 10 回学術集会. ポスター12 ペインクリニック 2. 座長 (コメンテーター). 2023. 4. 14-4. 15

徐 民恵. 日本区域麻酔学会第 10 回学術集会. 教育講演 6 (ハンズオンワークショップ 認定講義 6) 下肢の神経叢・神経ブロック. インストラクター. 2023. 4. 14-4. 15

祖父江 和哉. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会. きいてみんさい若鮎の話〜研究. 座長. 2023. 3. 2-3. 4

田村 哲也. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会. 一般演題 17 研究. 座長. 2023. 3. 2-3. 4

笹野 信子. 第 50 回日本集中治療医学会学術集会. 一般演題 リハビリテーション①. 座長. 2023. 3. 2-3. 4

青木 優祐. 第 11 回産科麻酔に参加しよう. ケースディスカッションテーブル. ファシリテーター. 2023. 2. 11

< 主要な国内学会活動の参加状況 >

祖父江 和哉. 日本麻酔科学会. 代議員

祖父江 和哉. 日本麻酔科学会. ICAPS2024 (International Conference on Anesthesia Patient Safety2024) プログラム担当委員

祖父江 和哉. 日本麻酔科学会. 安全委員会 副委員長

祖父江 和哉. 日本麻酔科学会. 医薬品適正評価対策専門部会 部会長

祖父江 和哉. 日本麻酔科学会. 第 3 部会 (認定医、認定病院認定) 部会員

祖父江 和哉. 日本麻酔科学会. 東海・北陸支部運営委員会 総務担当委員

祖父江 和哉. 日本麻酔科学会. 術前絶飲食ガイドライン改定ワーキンググループ ワーキンググループ長

祖父江 和哉. 日本麻酔科学会. 2023 年度 第 62 回麻酔科専門医試験 試験委員 当日試験官 (口頭)

祖父江 和哉. 日本麻酔科学会. 第 71 回学術集会実行委員会 第 6 救急・ICU ワーキンググループ長

祖父江 和哉. 日本麻酔科学会. 第 71 回学術集会実行委員会委員

祖父江 和哉. 日本麻酔科学会. 2022 年度 International Conference on Anesthesia Patient Safety 2024 (ICAPS2024) 実行委員会 プログラム担当委員

祖父江 和哉. 日本麻酔科学会. APSF ニュースレター日本語版作成ワーキンググループ ワーキンググループ長

祖父江 和哉. 日本麻酔科学会. 第 62 回麻酔科専門医試験 認定審査委員会 第 1 部会 (専門医認定) 筆記試験メンバー

祖父江 和哉. 日本静脈経腸栄養学会. 理事

祖父江 和哉. 日本臨床栄養代謝学会 代議員

祖父江 和哉. 日本臨床栄養代謝学会 支部世話人

祖父江 和哉. 日本臨床栄養代謝学会. 臨床栄養コンセンサス検討委員会 周術期・救急集中治療ワーキングチームチーム長

祖父江 和哉. 日本集中治療医学会. 支部運営委員会委員

祖父江 和哉. 日本老年麻酔学会. 評議員

祖父江 和哉. 日本区域麻酔学会. 評議員

祖父江 和哉. 日本区域麻酔学会. 倫理委員会委員

祖父江 和哉. 日本小児麻酔学会 代議員

祖父江 和哉. 日本臨床麻酔学会 理事

祖父江 和哉. 日本臨床麻酔学会 評議員

祖父江 和哉. 日本臨床麻酔学会 広報委員会 委員長

田中 基. 日本麻酔科学会. 代議員
田中 基. 日本周産期新生児学会. 評議員
田中 基. 日本小児麻酔学会. 評議員
田中 基. 日本産科麻酔学会. 評議員

杉浦 健之. 日本麻酔科学会. 代議員
杉浦 健之. 日本区域麻酔学会. 評議員
杉浦 健之. 日本ペインクリニック学会 理事
杉浦 健之. 日本ペインクリニック学会 評議員
杉浦 健之. 日本運動器疼痛学会. 評議員

笹野 信子. 日本麻酔科学会. 代議員
笹野 信子. 日本集中治療医学会. 評議員
笹野 信子. 日本集中治療医学会. 東海北陸支部連絡協議会委員
笹野 信子. アメリカ心臓協会. ACLS, BLS インストラクター
笹野 信子. 日本救急医学会. ICLS ディレクター、インストラクター

田村 哲也. 日本集中治療医学会. 評議員

加古 英介. 日本心臓血管麻酔学会. 評議員

徐 民恵. 日本区域麻酔学会. 日本区域麻酔検定試験 (J-RACE) 試験監督、試験問題作成委員.

<教育活動・社会貢献>

祖父江 和哉. 名古屋市職員傷病審議会. 意見検討書作成医師. 2023. 4-2024. 3

祖父江 和哉. 豊川市民病院特定行為に係る周術期特定行為研修の外部評価者.
2022. 4. 1-2023. 3. 31

笹野 信子. 愛知県. 災害医療コーディネーター. 2017-2023

笹野 信子. 厚生労働省. 日本統括 DMAT. 2018-2025

祖父江 和哉. 社会保険診療報酬支払基金愛知支部. 愛知県社会保険診療報酬請求書審査委員会 審査委員. 2023. 6. 1-2025. 5. 31

田村 哲也, 上村 友二. 救急救命士養成教育実技シミュレーション. 講師. 2023. 6-2024. 1

祖父江 和哉. 東海地区 TIVA Web セミナー. 座長. 2023. 12. 22 (名古屋市立大学 /WEB)

杉浦 健之. 令和 5 年度慢性疼痛診療システム均てん化等モデル事業 慢性疼痛診療研修会. 企画. 2023. 11. 25 (成田記念病院)

加藤 利奈. 令和 5 年度慢性疼痛診療システム均てん化等モデル事業 慢性疼痛診療研修会. ファシリテーター. 2023. 11. 25 (成田記念病院)

徐 民恵. 日本区域麻酔学会認定ハンズオンワークショップ 第 6 回桜山区域麻酔セミナー (SaSRA). 主催. 2023. 11. 18 (名古屋市立大学)

草間 宣好, 杉浦 健之, 徐 民恵, 他. 日本区域麻酔学会認定ハンズオンワークショップ 第 6 回桜山区域麻酔セミナー (SaSRA). インストラクター. 2023. 11. 18 (名古屋市立大学)

杉浦 健之. 第 3 回ペインクリニック・インターベンショナル治療 桜山カダバーハンズオン. ハンズオンセミナー企画・主催. 2023. 10. 14-10. 15 (名古屋市立大学)

杉浦 健之. 滋賀県湖北市医師会 高齢者の疼痛ケアを考える～神経障害性疼痛へのアプローチ講演会. 講師. 2023. 10. 19 (WEB)

中西 俊之. 東京慈恵会医科大学 麻酔科学講座. 講師. 2023. 9. 6 (WEB)

杉浦 健之. 令和 5 年度慢性疼痛診療システム均てん化等モデル事業 医療者向け慢性の痛みオータムキャンプ. 講師. 2023. 9. 9-9. 10 (愛知医科大学)

祖父江和哉. 周術期ソリューションのコンセプト及び課題と解決方法に関するアドバイス. 2023. 9. 15 (日本光電工業株式会社 総合技術開発センター)

田村 哲也. さくらやま抗菌化学療法セミナー (抗菌化学療法指導医教育企画) 「重症感染症の管理～J-SSCG2022 バンドル～」. 講演. 2023. 8. 31 (名古屋市立大学)

祖父江 和哉. 株式会社大塚製薬工場 第 8 回急性期輸液管理研究会. 特別講演座長、当番世話人. 2023. 8. 26 (品川プリンスホテルアネックスタワー5F プリンスホール)

田中 基. リバティコーチング株式会社. セミナー講師、ファシリテーター. 2023. 8. 19-20 (オフィスパーク名駅カンファレンスセンター)

杉浦 健之. 名古屋市立大学 医療・保健 学びなおし講座 痛みの治療最前線 2023～カラダとココロの両面からのアプローチ～「慢性痛に対する多職種診療」コーディネーター. 2023. 4. 5-7. 19 (名古屋市立大学)

田村 哲也, 徐 民恵, 他. 名古屋市立大学 医療・保健 学びなおし講座 痛みの治療最前線 2023. 講師. 名古屋市立大学

杉浦 健之. 日本福祉大学 疾病論 講義. 講師. 2023. 5. 8, 5. 15 (日本福祉大学)

田中 基. 第 11 回麻酔科医のための産科麻酔プロフェッショナルセミナー. 世話人. 2023. 2. 10-2. 11 (浜松)

上村 友二, 青木 優祐. 第 11 回麻酔科医のための産科麻酔プロフェッショナルセミナー. インストラクター. 2023. 2. 10-2. 11 (浜松)

青木 優祐. J-MELS ベーシック講習会. インストラクター. 2023. 1. 28 (名古屋市立大学)

<著書>

中井 俊宏, 祖父江 和哉. 分担執筆, 13 章 ステロイド. 日本麻酔科医会連合出版部 (編集). 臨床麻酔薬理学書. 中山書店. 2023 年 12 月

<内部資金獲得業績>

中西 俊之. 特別研究奨励費. 令和 5 年度、600 千円

—放射線医学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Kita N, Tomita N, Takaoka T, Sudo S, Tsuzuki Y, Okazaki D, Niwa M, Torii A, Takano S, Niimi A, Hiwatashi A. **Comparison of Recurrence Patterns between Adenocarcinoma and Squamous Cell Carcinoma after Stereotactic Body Radiotherapy for Early-Stage Lung Cancer.** *Cancers (Basel)*. **15(3)**: 887, 2023.

Takano S, Shibamoto Y, Wang Z, Kondo T, Hashimoto S, Kawai T, Hiwatashi A. **Optimal timing of a γ H2AX analysis to predict cellular lethal damage in cultured tumor cell lines after exposure to diagnostic and therapeutic radiation doses.** *J Radiat Res*. **64(2)**: 317-327, 2023.

Takaoka T, Yanagi T, Tanaka A, Kiriya Y, Tanaka Y, Kondo T, Takano S, Takahashi S, Shibamoto Y, Tomita N, Hiwatashi A. **Acute genitourinary toxicity of pencil beam scanning proton therapy for localized prostate cancer: utility of the transition zone index and average urinary flow rate in predicting acute urinary retention.** *Jpn J Clin Oncol*. **53(5)**: 419-428, 2023.

Kita N, Tomita N, Takaoka T, Okazaki D, Niwa M, Torii A, Takano S, Mekata Y, Niimi A, Hiwatashi A. **Clinical and dosimetric factors for symptomatic radiation pneumonitis after stereotactic body radiotherapy for early-stage non-small cell lung cancer.** *Clin Transl Radiat Oncol*. **41**: 100648, 2023.

Torii A, Tomita N, Kuno M, Nishio M, Yamada Y, Takaoka T, Okazaki D, Niwa M, Kita N, Takano S, Murao T, Ogawa Y, Hiwatashi A. **Intensity-modulated radiation therapy with the central shielding technique for patients with uterine cervical cancer.** *J Radiat Res*. **64(4)**: 720-727, 2023.

Niwa M, Tomita N, Takaoka T, Takano H, Makita C, Matsuo M, Adachi S, Oshima Y, Yamamoto S, Kuno M, Miyakawa A, Okazaki D, Torii A, Kita N, Takano S, Nakamura M, Kato H, Morita A, Hiwatashi A. **Clinical Outcomes of Radiation Therapy for Angiosarcoma of the Scalp and Face: A Multi-Institutional Observational Study.** *Cancers (Basel)*. **15(14)**: 3696, 2023.

Kita N, Tomita N, Takaoka T, Matsuura A, Okazaki D, Niwa M, Torii A, Takano S, Mekata Y, Niimi A, Hiwatashi A. **Symptomatic radiation-induced rib fractures after stereotactic body radiotherapy for early-stage non-small cell lung cancer.** *Clin Transl Radiat Oncol*. **43**: 100683, 2023.

Iida M, Murai T, Kuno M, Osumi K, Nakanishi-Imai M, Okazaki D, Murase T, Kawakita D, Iwasaki S, Inagaki H, Tomita N, Shibamoto Y, Hiwatashi A. **Importance of the Number and Location of Lymph Node Metastasis in Oropharyngeal Cancer.** *In Vivo*. **2023**. **37(5)**: 2210-2218, 2023.

Tomita N, Hayashi N, Mizuno T, Kitagawa Y, Yasui K, Saito Y, Sudo S, Takano S, Kita N, Torii A, Niwa M, Okazaki D, Takaoka T, Kawakita D, Iwasaki S, Hiwatashi A. **Dosimetric and radiobiological analyses of a de-escalation strategy for elective nodal regions in human papillomavirus-associated oropharyngeal cancer.** *Tech Innov Patient Support Radiat Oncol*. **28**: 100221, 2023.

Ogawa M, Kan H, Urano M, Kawai T, Nakajima H, Murai K, Miyaji H, Toyama T, Hiwatashi A. **Three-compartment spectral diffusion analysis for breast cancer magnetic resonance imaging.** *Magn Reson Imaging*. **103**: 179-184, 2023.

Yasui K, Omi Y, Shimomura A, Muramatsu R, Iwata H, Ogino H, Hayashi N. **Dosimetric impact of systematic spot position errors in spot scanning proton therapy of head and neck tumor.** Journal of Cancer Research and Therapeutics 19, 2023.

Aibe N, Ogino H, Wakatsuki M, Fujikawa K, Teramukai S, Fukumitsu N, Shiba S, Yamamoto N, Nomoto A, Ono T, Oguri M, Yamaguchi H, Numajiri H, Shibuya K, Okazaki S, Miyasaka Y, Okonogi N, Murata K, Tatebe H, Motegi A, Okimoto T, Yoshino T, Mandai M, Katoh N, Tsuji H, Sakurai H. **Comprehensive analysis of Japanese nationwide cohort data of particle beam therapy for pulmonary, liver and lymph node oligometastases: particle beam therapy versus high-precision X-ray radiotherapy.** Journal of radiation research. 64:69-83, 2023.

Iwasa T, Adachi S, Ogiso H, Takada E, Mabuchi M, Suzuki Y, Yamauchi O, Saito K, Iwashita T, Ogino H, Shimizu M. **Severe skin ulcer caused by taking lenvatinib after proton beam therapy.** Clinical journal of gastroenterology. 16: 588-592, 2023.

Yamazaki H, Shibuya K, Kimoto T, Suzuki M, Murakami M, Terashima K, Okimoto T, Iuzumi T, Sakurai H, Wakatsuki M, Suzuki O, Katoh N, Arimura T, Ogino T, Takagi M, Araya M, Waki T, Matsumoto S, Ogino H, Fukumoto T, Ohtsuka M. **Proton beam therapy for extrahepatic biliary tract cancer: Analysis with prospective multi-institutional patients' registration database, Proton-Net.** Clinical and translational radiation oncology. 41: 100634, 2023.

Yamaba Y, Yoshihara M, Takakuwa O, Iwata H, Ogino H, Sakane T, Haneda H, Nakao M, Yamada K, Inoue Y, Kunii E, Akita K. **Factors related to fixedness after transbronchial fiducial marker placement for image-guided proton therapy: A retrospective study.** Respiratory investigation. 61: 636-642, 2023.

Sakane T, Nakajima K, Iwata H, Nakano T, Hagui E, Oguri M, Nomura K, Hattori Y, Ogino H, Haneda H. **Lobectomy Versus Proton Therapy for Stage I Non-small Cell Lung Cancer.** The Journal of thoracic and cardiovascular surgery. 166: 1490-1501, 2023.

Yamaguchi H, Fukumitsu N, Numajiri H, Ogino H, Katoh N, Okimoto T, Suzuki M, Sakurai H. The Japanese nationwide cohort data of proton beam therapy for liver oligometastasis in esophagogastric cancer patients. Journal of radiation research. 64:926-932, 2023.

Mizumoto M, Ogino H, Okumura T, Terashima K, Murakami M, Ogino T, Tamamura H, Akimoto T, Waki T, Katoh N, Araya M, Onoe T, Takagi M, Iwata H, Numajiri H, Okimoto T, Uchinami Y, Maruo K, Shibuya K, Sakurai H. **Proton beam therapy for hepatocellular carcinoma: Multicenter prospective registry study in Japan.** International Journal of Radiation Oncology, Biology, Physics 1;118(3):725-733, 2023.

Kawamura H, Nakamura K, Yoshioka Y, Itasaka S, Tomita N, Onishi M, Iwata H, Aizawa T, Kikuchi K, Nagata K, Nakamura K, Nishioka K, Ishiyama H, Ueno S, Kokubo M, Yamazaki H,

Watanabe K, Toyoda T, Akimoto T; JROSG Working Subgroup of Urologic Oncology. **Radiotherapy for ductal carcinoma of the prostate: an analysis based on the Japanese radiation oncology study group survey.** Jpn J Clin Oncol. 53:146-152, 2023.

Yogo K, Kodaira S, Kusumoto T, Kitamura H, Toshito T, Iwata H, Umezawa M, Yamada M, Miyoshi T, Komori M, Yasuda H, Kataoka J, Yamamoto S. **Luminescence imaging of water irradiated by protons under FLASH radiation therapy conditions.** Phys Med Biol. 68(15), 2023.

Tatebe H, Harada H, Mori K, Iwata H, Akimoto T, Murakami M, Waki T, Ogino T, Nakamura M, Taguchi H, Nakayama H, Satouchi M, Aoyama H. **Clinical results of proton beam radiotherapy for inoperable stage III non-small cell lung cancer: a Japanese national registry study.** J Radiat Res. 64(Supplement_1): i8-i15, 2023.

Mizumoto M, Terashima K, Makishima H, Suzuki M, Ogino T, Waki T, Iwata H, Tamamura H, Uchinami Y, Akimoto T, Okimoto T, Iizumi T, Murakami M, Katoh N, Maruo K, Shibuya K, Sakurai H. **Proton beam therapy for intrahepatic cholangiocarcinoma: A multicenter prospective registry study in Japan.** Liver Cancer. 13(2): 161-168, 2023.

【和文業績】

樋渡 昭雄. **大きな静脈.** 300例で学ぶ読影レポートの流儀. 52, 2023.

樋渡 昭雄. **異常血管塊.** 300例で学ぶ読影レポートの流儀. 53, 2023.

樋渡 昭雄. **偶然見つかった異常な flow void.** 300例で学ぶ読影レポートの流儀. 54, 2023.

樋渡 昭雄. **Intimal flap.** 300例で学ぶ読影レポートの流儀. 55, 2023.

樋渡 昭雄. **ニューリーダーが見据える放射線科の将来 結局はチーム医療の推進? .** JCR ニュース. 249. 8, 2023.

塚本 康二, 川北 大介, 的場 拓磨, 高野 学, 小栗 恵介, 村嶋 明大, 蓑原 潔, 角谷 尚悟, 中井 一之, 岩城 翔, 柘植 博之, 田中 伸和, 今泉 冴恵, 近藤 綾乃, 北條 渉, 岩田 宏満, 讃岐 徹治, 岩崎 真一. **集学的治療を行った鼻腔粘膜悪性黒色腫の臨床的検討.** 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会会報. 126(69): 786-793, 2023

三好 拓人, 松田 浩二, 野村 拓也, 荻野 浩幸, 岩田 宏満, 歳藤 利行, 大町 千尋, 八木 雅史, 清水 伸一, 濱谷 紀彰, 坪内 俊郎, 高階 正彰, 小川 和彦, 金井 達明, 梅澤 真澄. **粒子線治療システムを用いた超高線量率照射による FLASH 効果研究の現状と課題.** 放射線生物研究 8(2): 128-149, 2023

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	樋渡 昭雄	15(15)	10(10)	5(5)
准教授	富田夏夫	17 (1)	17 (1)	0
講師	浦野みすぎ	1	1	0
助教	高岡大樹	9	9	0
助教	岡崎 大	8	8	0
助教	丹羽正成	8 (2)	8 (2)	0
助教	鳥居 暁	8 (1)	8 (1)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授（診療担当）	荻野浩幸	9	8	1
准教授	岩田宏満	9	8	1
講師	服部有希子	1	1	0
助教	中寫晃一朗	1	1	0
助教（診療担当）	都築侑介	1	1	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

山本 達仁. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和5年度-令和7年度、2,600千円/3,700千円

川口 毅恒. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和5年度-令和7年度、2,600千円/3,600千円

河合 辰哉. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和5年度-令和7年度、3,120千円/4,810千円

橋爪 卓也. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和5年度-令和7年度、1,820千円

千円/4,680千円

廣島 希彦. 文部科学省科学研究費(若手研究). 令和5年度-令和7年度、1,820千円/4,680千円

菅 博人. 文部科学省科学研究費(基盤C・分担). 令和5年度-令和7年度、2,730千円/4,680千円

岩田宏満. 受託研究費(国立がん研究センター研究開発費・分担) 200千円

岩田宏満. 研究助成金(公益財団法人武田科学振興財団). 2,000千円

岩田宏満. 受託研究費(AMED・分担). 380千円

岩田宏満. 受託研究費(AMED・分担). 300千円

岩田宏満. 受託研究費(AMED・分担). 300千円

高石拓. 共同研究費(富士フイルム株式会社) 300千円

高野聖矢. 研究助成金(公益信託第24回日本医学会総会記念医学振興基金). 300千円

【その他】

Hiromitsu Iwata. The 65st American Society for Therapeutic Radiology and Oncology Annual Meeting. Phase II clinical trial of hypofractionated image-guided proton therapy with 12 fractions for prostate cancer. 2023年10月1-4日

Hiromitsu Iwata. The 3rd Annual Conference of the Asia-Oceania Particle Therapy Co-Operative Group. Acute genitourinary toxicity of hypofractionated image-guided proton therapy with 12 fractions for localized prostate cancer. 2023年11月24-26日

Masahiro Nakashima. Radiological Society of North America (RSNA) 2023: 109th Annual meeting. Photon-counting detector CT could visualize brachial plexus: A new method to evaluate nervous system, 2023年11月26日~30日

Tatsuhito Yamamoto. Radiological Society of North America (RSNA)2023. Iodine quantification in bone marrow using photon-counting detector CT: a phantom study.2023年11月26-30日

Masaya Kisohara. Radiological Society of North America (RSNA)2023. Myocardial Strain Analysis Using Feature Tracking. 2023年11月26日~30日

Misugi Urano. Radiological Society of North America (RSNA)2023. Diagnostic Potential of Photon-Counting Detector Computed Tomography to evaluate breast cancer patients. 2023年11月26日~30日

【学内研究費】

岩田宏満 特別研究奨励費 4,170 千円

<研究活動実績>

【欧文業績】

Arihisa W, Kondo T, Yamaguchi K, Matsumoto J, Nakanishi H, Kunii Y, Akatsu H, Hino M, Hashizume Y, Sato S, Sato S, Niwa SI, Yabe H, Sasaki T, Shigenobu S, Setou M. **Lipid-correlated alterations in the transcriptome are enriched in several specific pathways in the postmortem prefrontal cortex of Japanese patients with schizophrenia.** *Neuropsychopharmacol Rep.* **43(3):**403-413, 2023.

S Kunugi, H Akatsu, K Watanabe. **Effect of ankle weight loading and walking speed on metabolic and neuromuscular responses and lower limb kinematics during treadmill walking.** *Sport Sciences for Health.* 20 (1) : 1-8, 2023.

Hirono T, Kunugi S, Yoshimura A, Ueda S, Goto R, Akatsu H, Watanabe K. **Effects of home-based bodyweight squat training on neuromuscular properties in community-dwelling older adults.** *Aging Clin Exp Res.* 35 (5) : 1043-1053, 2023.

S Narouei, H Akatsu, K Watanabe. **Acute effects of ankle weight loading on regional activity of rectus femoris muscle and lower-extremity kinematics during walking in older adults.** *Kinesiology.* 55(1) : 13-20, 2023.

Do TV, Manabe T, Vu GV, Nong VM, Fujikura Y, Phan D, Pham TT, Do CD, Doan TT, Nguyen NT, Nguyen TQ, Dong TV, Luong CQ, Manabe H, Kambayashi D, Hoang AV, Vu NV, Trinh GK, Do SN, Kamiya T, Ohara H, Nguyen CV, Dang TQ, Kudo K, Dao CX. **Clinical characteristics and mortality risk among critically ill patients with COVID-19 owing to the B.1.617.2 (Delta) variant in Vietnam: A retrospective observational study.** *PLoS One.* **18(1):** e0279713, 2023.

Kikuchi M, Oda R, Ohara H. **A case of fever of unknown origin caused by multiple microorganism infections that mimicked adult-onset Still's disease.** *Journal of Hospital General Medicine.* **5(5) :** 204-211, 2023.

Kikuchi M, Oda R, Ohara H. **A case of fever of unknown origin caused by multiple microorganism infections that mimicked adult-onset Still's disease.** *Journal of Hospital General Medicine.* **5(5) :** 204-211, 2023.

Kikuchi M. **Identification of alcoholism and problematic drinking habits.** *Journal of Hospital General Medicine.* **5(1) :** 10-10, 2023.

【和文業績】

清水志乃, 松本晃治, 赤津裕康, 遠山育夫, 清水猛史. **鼻腔で検出されるアルツハイマー病特異的タンパク質について.** *耳鼻咽喉科ニューロサイエンス.* **36 :** 15-15, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授（診療担当）	赤津裕康	5	4	1

【各教員の論文数（西部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
院長	大原弘隆	2	2	
教授（診療担当）	菊地基雄	2	2	

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

宮崎 景. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和5年度-令和7年度、1,000千円/3,600千円

赤津裕康. 厚生労働省科学研究費（分担）. 令和5年度-令和6年度、300千円/600千円

赤津裕康. 森永乳業株式会社（共同研究・代表）. 令和4年度-令和5年度、19,130千円

赤津裕康. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和4年度-令和6年度、50千円/150千円

赤津裕康. 文部科学省科学研究費（基盤B・代表）. 令和2年度-令和5年度、1,500千円/13,500千円

赤津裕康. 文部科学省科学研究費（挑戦的研究（開拓）・分担）. 令和2年度-令和5年度、1,000千円/4,000千円

赤津裕康. 文部科学省科学研究費（基盤A・分担）. 令和元年度-令和5年度、500千円/2,500千円

川出義浩. 厚生労働省科学研究費（分担）. 令和5年度-令和6年度、300千円/600千円

川出義浩. 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）. 令和2年度-令和5年度、50千円/250千円

大原弘隆. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和4年度-令和6年度、100千円/300千円

大原弘隆. 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）. 令和2年度-令和5年度、50千円/200千円

菊地基雄. ノバルティスファーマ株式会社（受託研究費・代表）. 令和4年度-令和8年度、219千円

【その他】

宮崎 景. 【患者さんの質問にどう答えますか？-言葉の意味を読み解きハートに響く返答集】診療編 予防・治療 (Question43) 健康診断のオプションは何を追加すればよいですか?. *Medicine*. 60 (11) 1885-1887. 2023 年 10 月

宮崎 景. 【患者さんの質問にどう答えますか？-言葉の意味を読み解きハートに響く返答集】診療編 予防・治療 (Question44) 健診でピロリ菌抗体が陽性と言われました。どうすればよいですか?. *Medicine*. 60 (11) 1888-1889. 2023 年 10 月

赤津裕康. 「アルツハイマー病 疾患修飾薬と血液バイオマーカー」. *現代医学*. 70 (2) 24-28. 2023 年 12 月

堀内孝彦, 大澤勲, 宮田敏行, 赤津裕康, 今井優樹, 大谷克城, 奥健志, 関根英治, 塚本浩, 中尾実樹 et. 「遺伝性血管性浮腫(Hereditary angioedema:HAE)診療ガイドライン改訂 2023 年版」補体. 60(1) : 23-23. 2023 年 8 月

川出義浩. 第 27 回アジア太平洋呼吸器学会 (APSR2023) . Changes for disease clusters of COVID-19 cases in a central region of Japan. 2023 年 11 月 18 日

山田知世, 長水正也, 久田宜範, 朝倉宏紀, 菊地基雄. Covid-19 治療後に発症し Penicillium 属による脳膿瘍に対して抗真菌薬併用療法を行った一例. *日本化学療法学会雑誌*. 71(4) : 491-492. 2023 年 7 月

菊地基雄, 森下修行, 北野貴子, 北條優希 (担当:編者(編著者)). 飲酒と健康. 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター総合内科. 2024 年 3 月

—地域医療学—

＜研究活動実績＞

【欧文業績】

なし

【和文業績】

なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
寄附講座教授	兼松 孝好	0	0	0
寄附講座講師	後藤 道子	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

兼松孝好. 厚生労働科学研究費（代表）. 令和5年度-令和6年度、3,990千円/7,980千円

後藤道子. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和5年度-令和7年度、50千円/150千円

後藤道子. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 平成30年度-令和4年度、698千円/3,300千円

【その他】

兼松孝好 愛知県地域枠キャリアコーディネーターとして、計4回の「キャリアコーディネーター連絡会議」、計2回の「地域枠医師赴任調整部会」、地域枠学生との意見交換会に参加し、愛知4大学の地域枠関係者と協議を行った。

兼松孝好 総合診療専門医研修プログラムの作成

兼松孝好 POCUS (Point of Care Ultrasound) 講習会にてインストラクターを務めた 2023年8月19-20日

兼松孝好 東部医療センターJMECC 内科救急蘇生コースにてインストラクターを務めた 2023年11月3日

兼松孝好 東部医療センターICLS 救急蘇生コースにてインストラクターを務めた 2024年1月20日

後藤道子 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構認定模擬患者機構認定オンライン講習会に評価者として参加 2024年1月27日

後藤道子 2023 年度共用試験実施評価機構主催標準模擬患者新規養成・認定講習会（PF1）に評価者として参加 2024 年 2 月 3 日
後藤道子 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構認定模擬患者委員会小委員会出席 2024 年 2 月 27 日
後藤道子 自治医科大学における公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構認定模擬患者認定試験（PF1）に評価者として参加 2024 年 3 月 2 日
後藤道子 2023 年度共用試験実施評価機構主催標準模擬患者新規養成・認定講習会（PF1）に評価者として参加 2024 年 3 月 9 日
後藤道子 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構認定模擬患者委員会小委員会出席 2024 年 3 月 26 日
後藤道子 福島医科大における公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構認定模擬患者認定試験（PF1）に評価者として参加 2024 年 3 月 27 日

—地域包括医療学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

なし

【和文業績】

なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
寄附講座講師	鈴木 幹三	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

なし

【その他】

中島啓、鈴木幹三、青島正大、村端真由美、近藤亨子、大藤さところ、福島若葉、前田章子、廣田良夫. 第63回日本呼吸器学会学術講演会. 小児へのPCV13導入後の高齢者市中肺炎に対するPPSV23の有効性：多施設共同症例対照研究. 2023年4月30日

—臨床薬学分野—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Sugiyama Y, Naiki T, Tasaki Y, Mimura Y, Etani T, Noda Y, Nozaki S, Shimizu N, Banno R, Nagai T, Isobe T, Ando R, Moritoki Y, Kataoka T, Odagiri K, Aoki M, Gonda M, Yasui T, Hibi Y. **GNRI sustainability during one cycle of first-line chemotherapy as a prognostic indicator in patients with metastatic urothelial carcinoma.** *Oncology*. **101(4)**: 224-233, 2023.

Tomiyama N, Tasaki Y, Hamamoto S, Sugiyama Y, Naiki T, Etani T, Taguchi K, Matsuyama N, Sue Y, Mimura Y, Odagiri K, Noda Y, Aoki M, Moritoki Y, Nozaki S, Kurokawa S, Okada A, Kawai N, Furukawa-Hibi Y, Yasui T. **Hemoglobin and neutrophil levels stratified according to International Metastatic Renal Cell Carcinoma Database Consortium risk predict the effectiveness of ipilimumab plus nivolumab in patients with advanced metastatic renal cell carcinoma.** *Int J Urol*. **30(9)**: 754-761, 2023.

Tomita N, Hotta Y, Ito H, Naiki-Ito A, Matsuta K, Yamamoto Y, Ohashi K, Hayakawa T, Sanagawa A, Horita Y, Kondo M, Kataoka T, Takahashi S, Sobue K, Kimura K. **High preoperative serum strontium levels increase the risk of acute kidney injury after cardiopulmonary bypass.** *Clin Exp Nephrol*. **27(4)**:382-391, 2023.

Mori T, Hotta Y, Ieda N, Kataoka T, Nakagawa H, Kimura K. **Efficacy of a red-light controllable nitric oxide releaser for neurogenic erectile dysfunction; a study using a rat model of cavernous nerve injury.** *World J Mens Health*. **41(4)**:909-919, 2023.

Yamamoto Y, Hotta Y, Tomita N, Naiki-Ito A, Kitagawa A, Kuboshiki U, Hagita T, Noda M, Sanagawa A, Kataoka T, Kondo M, Furukawa-Hibi Y, Takahashi S, Kimura K. **Changes in zinc and manganese concentrations in cisplatin-induced acute kidney injury.** *Biochem Biophys Rep*. **33**:101417, 2023.

Yamamoto Y, Kondo M, Hotta Y, Tashiro Y, Sanagawa A, Kataoka T, Furukawa-Hibi Y, Ri M, Komatsu H, Iida S, Kimura K. **The relationship between changes in serum element concentrations and pathological condition and disease status in Japanese multiple myeloma patients: A pilot study and literature review.** *Asian Pac J Cancer Prev*. **24(7)**:2493-2503, 2023.

Kawata R, Hotta Y, Kataoka T, Hibi Y, Ota Y, Hamakawa T, Kubota Y, Yasui T, Kimura K. **Short-term effects of suprapubic catheterization on detrusor muscle contraction in a rat model of postoperative urinary dysfunction.** *Continence*. **24(7)**:2493-2503, 2023.

Asaoka M, Horita Y, Wachino C, Kondo S, Hotta Y, Kataoka T, Sanagawa A, Hayakawa T, Nakamura A, Kimura K. **Clinical usefulness of the “MN Criteria” – the *Clostridioides difficile* infection severity scoring system – in the Japanese setting.** *Intern Med*. **62(1)**:59-67, 2023.

Sanagawa A, Hayakawa T, Nishida E, Yamamoto A, Ikumi K, Mori Y, Hotta Y, Kimura K, Furukawa-Hibi Y, Morita A. **Impact of body mass index on the severity of bexarotene-associated hypertriglyceridemia: A post-hoc analysis of an open-labeled clinical study of combined bexarotene and phototherapy in Japanese patients with cutaneous T-cell lymphoma.** *J Dermatol*. **50(7)**:917-926, 2023.

Ieda N, Nakamura A, Tomita N, Ohkubo K, Izumi R, Hotta Y, Kawaguchi M, Kimura K, Nakagawa H. **A BODIPY-picolinium-cation conjugate as a blue-light-responsive caged group.** RSC Adv. **24(7)**:2493-2503, 2023.

Horita Y, Asaoka M, Iida M, Kato H, Wachino C, Mitamura K, Ohashi K, Mimura Y, Hotta Y, Kataoka T, Nakamura A, Kimura K. **Development and evaluation of a novel software program, SAKURA-TDM, for area under the concentration-time curve-guided vancomycin dosing: A short communication.** Ther Drug Monit. **45(2)**:245-250, 2023.

Tasaki Y, Sugiyama Y, Hamamoto S, Naiki T, Uemura T, Yokota K, Kawakita D, Nakamura M, Ogawa R, Shimura T, Mimura Y, Hotta Y, Odagiri K, Ito N, Iida M, Kimura Y, Komatsu H, Kataoka H, Takiguchi S, Morita A, Iwasaki S, Okuda K, Niimi A, Yasui T, Furukawa-Hibi Y. **Eosinophil may be a predictor for immune-related adverse events induced by different immune checkpoint inhibitor types: A retrospective multidisciplinary study.** Cancer Medicine. **12(24)**:21666-21679, 2023.

Kataoka T, Hotta Y, Kimura K. **A review of experimental techniques for erectile function researches and development of medical technology using animal erectile dysfunction models in sexual and reproductive medicine.** Reprod Med Biol. **22(1)**:e12513, 2023.

Nasu I, Kondo M, Uozumi R, Takada S, Nawata S, Iihara H, Okumura Y, Takemoto M, Mino K, Sasaki T, Hirose C, Aomori T, Shimano R, Maeno K, Oizumi S, Kusumoto S, Ohno Y, Ikemura S, Takai D, Hara A, Kawazoe H, Nakamura T. **Prognostic Model of Baseline Medications plus Neutrophil-to-lymphocyte Ratio in Patients with Advanced Non-small-cell Lung Cancer Receiving Immune Checkpoint Inhibitor plus Platinum Doublet: A Multicenter Retrospective Study.** J Cancer. **14(5)**: 676-688. 2023

【和文業績】

堀田 祐志、大山 享也、片岡 智哉、日比 陽子、木村 和哲. **勃起と射精のメカニズムについて.** 日本性機能学会雑誌. **38(1)**. 3-14, 2023.

堀田 祐志、片岡 智哉、日比 陽子、木村 和哲. **下部尿路機能障害の治療を目指した光制御可能な NO ドナーの開発.** 日本排尿機能学会誌. **33(2)**.445-446. 2023.

堀田 祐志、家田 直弥. **難治性勃起不全の新規治療薬を目指した光制御可能な NO ドナーの開発.** アグリバイオ. **7(3)**: 73-77, 2023.

片岡 智哉、堀田 祐志、日比 陽子、木村 和哲. **LOH に効果のある機能性食品.** アンチ・エイジング医学. **19(3)**: 024(222)-028(226), 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	日比 陽子	9 (2)	6 (2)	3
准教授	堀田 祐志	15 (7)	12 (5)	4 (3)
講師	堀田 康弘	3	3	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	近藤 勝弘	4	4	0
講師	西出 景子	0	0	0
助教	和知野 千春	2	2	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

日比 陽子. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和4年度-令和6年度、1,100千円/3,700千円

日比 陽子. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和4年度-令和6年度、50千円

日比 陽子. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和4年度-令和6年度、100千円

日比 陽子. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和4年度-令和6年度、200千円

日比 陽子. 研究助成金（日本化薬株式会社）. 令和3年4月-令和4年3月、200千円

日比 陽子. 研究助成金（持田製薬株式会社）. 令和3年9月-令和4年8月、100千円

日比 陽子. 研究助成金（中外製薬株式会社）. 令和3年11月-、300千円

堀田 祐志. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度-令和5年度、1,000千円/3,600千円

堀田 祐志. 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）. 令和3年度-令和6年度、100千円

堀田 祐志. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度-令和5年度、350千円

堀田 祐志. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度-令和5年度、200千円

堀田 祐志. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度-令和5年度、100千円

堀田 祐志. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和3年度-令和5年度、200千円

堀田 祐志. 共同研究費（株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所）. 令和5年12月-令和6年11月、1,000千円

堀田 祐志. 共同研究費（小林製薬株式会社）. 令和4年6月-令和7年5月、2,000千円

堀田 祐志. 共同研究費 (カムイファーマ株式会社) . 令和 3 年 10 月-令和 7 年 3 月、500 千円

堀田 祐志. 研究助成金 (公益財団法人ライフサイエンス振興財団) . 令和 5 年 10 月-令和 5 年 12 月、385 千円

堀田 祐志. 研究助成金 (一般財団法人横山臨床薬理研究助成基金) . 令和 5 年 11 月-令和 6 年 6 月、1,000 千円

堀田 祐志. 令和 4 年度特別研究奨励費. (外部研究資金獲得活性化事業) . 令和 4 年度-令和 5 年度、650 千円

堀田 康弘. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表) . 令和 5 年度-令和 7 年度、720 千円/5,000 千円

堀田 康弘. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) . 令和 5 年度-令和 7 年度、200 千円

堀田 康弘. 研究助成金 (公益財団法人 中富健康科学振興財団) . 令和 4 年 1 月-令和 6 年 12 月、1,500 千円

近藤 勝弘. 文部科学省科学研究費 (若手・代表) . 令和 4 年度-令和 6 年度、1,000 千円/3,500 千円

和知野 千春. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表) . 令和元年度-令和 5 年度、463 千円/4,290 千円

【その他】

学会発表

【国際学会】

Hotta Y, Oyama K, Mori T, Kataoka T, Furukawa-Hibi Y, Kimura K: Effects of a red light-controllable nitric oxide donor, NORD-1, on diabetes mellitus-induced erectile dysfunction in rats. The 24th World Meeting on Sexual Medicine, Dubai, UAE. 2023.12

Noda M, Hotta Y, Naiki A, Tomita N, Sanagawa A, Kataoka T, Hibi Y, Takahashi S, Kimura K: Antifibrotic effects of tadalafil, a phosphodiesterase 5 inhibitor, with PAI1 downregulation via cGMP in rats and fibroblasts. American Society of Nephrology Kidney Week 2023, Philadelphia, USA, 2023.11

Kawata R, Hotta Y, Kataoka T, Hibi Y, Matsuyama N, Ota Y, Kato T, Hamakawa T, Kubota Y, Yasui T, Kimura K: Effects of catheterization on detrusor muscle contraction after bilateral accessory nerve injury in rats. The 17th Pan-Pacific Continence Society (PPCS) Meeting. Kaohsiung, Taiwan. 2023.10

Kawata R, Hotta Y, Matsumoto S, Kataoka T, Hibi Y, Yamamoto T, Kimura K. Effects of bone marrow-derived stem cell lysate on detrusor muscle contraction in neurogenic overflow urinary incontinence rat model. International Continence Society 2023, Toronto, Canada, 2023.9

Yasuhiro Horita, Yoko Hibi. Development and Evaluation of a Novel Software Program, SAKURA-TDM, for AUC-guided Vancomycin Dosing. The 39th Annual Meeting for the Japanese Society of Therapeutic Drug Monitoring. International symposium. 2023.06.24.

【国内学会】

堀田祐志, 大山享也, 家田直弥, 片岡智哉, 日比陽子, 中川秀彦, 木村和哲. 光応答性一酸化窒素ドナーの難治性勃起不全への効果について～糖尿病性勃起不全モデルを用いた検討～, 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023, 名古屋, 2023. 11

高森雄貴, 堀田祐志, 川田龍哉, 片岡智哉, 日比陽子, 太田裕也, 濱川 隆, 窪田泰江, 安井孝周, 木村和哲. 骨盤内神経損傷による溢流性尿失禁ラットの尿道収縮弛緩機能の変化についての検討, 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023, 名古屋, 2023. 11

堀田康弘, 飯田萌子, 朝岡みなみ, 加藤秀紀, 和知野千春, 大橋一輝, 三村佳久, 野村有紀, 小田切州広, 江崎哲夫, Charles A. Peloquin, 河原昌美, 堀田祐志, 中村敦, 木村和哲, 日比陽子. 抗菌薬の薬物動態・薬力学に関する研究とTDM研究から学んだこと. 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会. 2023年11月12日.

松浦 光莉, 藤原 信二, 和知野 千春, 増田 賢一, 丹村 貴之, 西出 景子, 近藤 勝弘. 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023. 災害備蓄薬品の適正かつ効率的な管理を目指したローリングストック化の取り組み. 11月12日 (2023)

近藤 勝弘, 日比 陽子, 家田 啓史, 樋口 耕平, 榊原 隆志, 栗島 直希, 外海 友規. 第33回日本医療薬学会年会 (シンポジウム). 2023年11月3日-5日

和知野千春, 早川智章, 堀田康弘, 小林紀香, 堀田祐志, 江崎哲夫, 日比陽子. 術中抗菌薬評価支援システムの構築による抗菌薬使用の可視化と最適化の試み. 第33回日本医療薬学会年会. 2023年11月5日.

飯田萌子, 堀田康弘, 広瀬永愛, 朝岡みなみ, 木村理恵, 大橋一輝, 加藤秀紀, 江崎哲夫, 河原昌美, 堀田祐志, 中村 敦, 日比陽子. バンコマイシンの初期投与設計で腎障害を回避するための目標 AUC. 第33回日本医療薬学会年会. 2023年11月4日.

加藤秀紀, 堀田康弘, 朝岡みなみ, 和知野千春, 飯田萌子, 三村佳久, 杉山洋介, 江崎哲夫, 堀田祐志, 日比陽子. バンコマイシンの AUC 評価の臨床導入後の腎障害発現率と治療域達成率調査. 第33回日本医療薬学会年会. 2023年11月4日.

朝岡みなみ, 堀田康弘, 堀田祐志, 日比陽子. テイコプラニンのクリアランスに腎機能や体格が及ぼす影響. 第33回日本医療薬学会年会. 2023年11月4日.

小林紀香, 和知野千春, 早川智章, 堀田康弘, 堀田祐志, 日比陽子. *Corynebacterium* 属菌血症に関連する患者背景についての検討. 第33回日本医療薬学会年会. 2023年11月4日.

中村 大学, 小川 了, 菱谷 まどか, 朝岡 みなみ, 田中 達也, 堀田 祐志, 近藤 勝弘, 瀧口 修司, 日比 陽子. 第61回日本癌治療学会学術集会 (一般演題/口頭). 2023年10月19日-21日

川田龍哉, 堀田祐志, 片岡智哉, 日比陽子, 松山奈有佳, 太田裕也, 加藤大貴, 濱川隆, 窪田泰江, 安井孝周, 木村和哲: 膀胱留置カテーテルによる導尿が排尿筋収縮力に及ぼす影響—神経因性溢流性尿失禁時と正常時におけるラットを用いた研究—, 第30回日本排尿機能学会, 千葉, 2023. 9

大山享也, 堀田祐志, 家田直弥, 片岡智哉, 日比陽子, 中川秀彦, 木村和哲. 糖尿病性 ED モデルラットを用いた赤色光応答性 NO ドナー「NORD-1」の有用性の検討, 日本性機能学会第 33 回学術総会・第 31 回日本性機能学会西部総会, 高知, 2023. 9

堀田祐志, 片岡智哉, 日比陽子, 木村和哲. 光制御可能な NO ドナーを応用した ED 治療を目指して. 日本性機能学会第 33 回学術総会・第 31 回日本性機能学会西部総会, 高知, 2023. 9

出来佑都, 安部賀央里, 頭金正博, 和知野千春, 木村和哲, 日比陽子, 近藤勝弘, 村島美穂, 濱野高行. 電子カルテ情報と機械学習を用いたバンコマイシン誘発性急性腎障害の予測手法開発. 第 9 回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム. 9 月 16 日 (2023)

川田龍哉, 堀田祐志, 片岡智哉, 日比陽子, 松山奈有佳, 太田裕也, 加藤大貴, 濱川隆, 窪田泰江, 安井孝周, 木村和哲: 神経因性溢流性尿失禁モデルラットの排尿筋収縮力に対する導尿の影響, 第 65 回日本平滑筋学会総会, 東京, 2023. 8

大山享也, 堀田祐志, 家田直弥, 片岡智哉, 日比陽子, 中川秀彦, 木村和哲. 赤色光応答性 NO ドナーによる糖尿病性勃起不全の改善効果および全身血圧への影響に関する基礎研究, 日本アンドロロジー学会第 42 回学術大会, 名古屋, 2023. 6

堀田祐志, 片岡智哉, 日比陽子, 木村和哲. ED 治療の現状と未来-基礎研究の知見も交えて-. 日本性機能学会第 33 回学術総会・日本アンドロロジー学会第 42 回学術大会, 愛知, 2023. 6

飯田萌子, 杉山洋介, 田崎慶彦, 三村佳久, 小田切州広, 木村優花, 伊藤菜浪, 堀田康弘, 日比陽子. 乳がん患者のがん疼痛コントロールはパンデミックの影響を受けるのか. 第 16 回日本緩和医療薬学会年会. 2023 年 5 月 27 日.

堀田康弘, 加藤秀紀, 朝岡みなみ, 飯田萌子, 堀田祐志, 和知野千春, 木村理恵, 大橋一輝, 三村佳久, 江崎哲夫, 広瀬永愛, 河原昌美, 日比陽子. 新規 TDM 支援ソフト SAKURA-TDM と既存のソフトを用いた薬物動態パラメータ推定精度の比較評価. 日本薬学会 第 143 年会. 2023 年 3 月 26 日.

竹本 将士, 近藤 勝弘, 外海 友規, 手崎 世織, 後藤 佳奈, 中村 大学, 大橋 一輝, 菱谷 まどか, 日比 陽子. 第 12 回日本臨床腫瘍薬学会学術大会 (一般演題/口頭). 2023 年 3 月 4 日-5 日

その他学会活動

日比陽子. 日本薬理学会. 評議員

堀田祐志. 日本性機能学会. 評議員.

堀田祐志. 日本性機能学会. 専門医制度委員.

堀田祐志. 日本排尿機能学会. 代議員.

堀田祐志. 日本アンドロロジー学会. 評議員.

堀田祐志. 日本薬理学会. 評議員

堀田祐志. 日本平滑筋学会. 若手の会世話人.

研究以外の活動において特筆すべき実績があれば自由に報告可。

堀田康弘、新規 TDM 支援ソフト SAKURA-TDM の開発と臨床応用。愛知学院大学 医療生命薬学研究所 第 10 回サイエンスフォーラム。2023 年 3 月 7 日。

—先進急性期医療学（救急科）—

＜研究活動実績＞

【欧文業績】

Imai K, Aoyama K, Goto T, Kitaori T, Iguchi T, Sasano H, Hattori T, Sugiura- Ogasawara M, Saitoh S. Hematocolpos due to lower vaginal agenesis in an adolescent girl. Acute Med Surg. 10(1): e832, 2023.

【和文業績】

笹野寛, 松居亮平, 服部友紀. 新型コロナウイルス感染症パンデミックに伴い明確になったエアロゾル感染様式. 人工呼吸. 40 巻 2 号: 150-156, 2023.

中井俊宏, 加古英介, 杉山ももこ, 田村哲也, 服部友紀, 笹野寛, 祖父江和哉. 急速に進行した気道閉塞に対して予防的に気管挿管を行った COVID-19 合併外傷性咽頭後間隙血腫症例. 日本救急医学会雑誌. 34 巻 6 号: 252-257, 2023.

伊藤真規, 杉山ももこ, 高橋紀帆, 宮崎ゆか, 坪内希親, 松居亮平, 今井一徳, 山岸庸太, 笹野寛, 服部友紀. 名古屋市内の介護施設における救急搬送の問題点とその原因 介護施設の視点から. 日本臨床救急医学会雑誌. 26 巻 1 号: 31-39, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授(診療担当)	服部友紀	4(2)	1(0)	3(2)
教授(診療担当)	笹野寛	4(3)	1(0)	3(1)
講師	山岸庸太	1(0)	0(0)	1(0)
助教	松居亮平	2(0)	0(0)	2(0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

特になし

【外部資金獲得実績】

服部友紀. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）令和 4 年度-令和 6 年度、100 千円

服部友紀. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）令和 2 年度-令和 6 年度、1,000 千円

服部友紀. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）令和 3 年度-令和 6 年度、500 千円

松居亮平. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）令和 4 年度-令和 7 年度、4,030 千円

【その他】

国際(なし)・国内学会発表

宮崎ゆか. 第 50 回日本集中治療医学会総会・学術集会. COVID-19 肺炎患者における Flash glucose monitoring system を用いた血糖管理の有効性の検討. 2023 年 3 月 2 日

服部友紀. 第 50 回日本集中治療医学会総会・学術集会. 敗血症病態での血管内皮由来過分極(EDH)の減弱と回復のメカニズム. 2023 年 3 月 2 日 (シンポジウム)

高橋紀帆. 第 59 回日本腹部救急医学会総会. 空腸憩室穿通を来した COVID-19 の 1 例. 2023 年 3 月 9 日

早川智章. 第 28 回日本災害医学会総会・学術集会. 「BGAN Pointer」を用いた衛星電話「EXPLORER710」のアンテナ設置場所の探索とアプリの有用性の検証について. 2023 年 3 月 9 日

服部友紀. 第 28 回日本災害医学会総会・学術集会. COVID-19 パンデミックが愛知県の救急医療に与えた影響. 2023 年 3 月 9 日

木下拓也. 第 26 回日本臨床救急医学会総会・学術集会. 愛知県救急救命士再教育事業から判明したアドレナリン自己注射薬使用に関する課題. 2023 年 7 月 27 日

服部友紀. 第 26 回日本臨床救急医学会総会・学術集会. 急性期脳梗塞に対する治療時間改善の取り組み Code AIS 導入による「迅速な血栓回収療法」への改革. 2023 年 7 月 27 日

坪田真実. 第 51 回日本救急医学会総会. 超音波画像における動脈拍動がプローベで圧迫すると増大する機序は何か?. 2023 年 11 月 28 日

坪内希親. 第 51 回日本救急医学会総会. 患者の訴えをよく聞くことが診断の糸口となったセフトリアキソン脳症の 1 例. 2023 年 11 月 28 日

* 学会役員

服部友紀 日本災害医学会. 評議員
服部友紀. 日本臨床救急医学会. 評議員
服部友紀. 日本救命医療学会. 評議員
服部友紀. 日本集中治療医学会. 評議員
服部友紀. 日本集中治療医学会. 東海北陸支部連絡協議会委員
服部友紀. 日本中毒学会西日本地方会. 幹事
服部友紀. 日本脳低温療法・体温管理法学会. 幹事
服部友紀. 日本救急医学会中部地方会. 理事

< 教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績 >

服部友紀

- 愛知県医師会救急委員会委員
著書; 愛知医報 2023 介護施設から3次救急病院へ搬送された高齢者の診療～救急医の視点から～ p5
- 救急・災害医療シンポジウム(愛知県医師会主催)シンポジスト 2023 年 3 月 4 日
- 愛知県医師会 PTLs 講習会インストラクター(2023 年 12 月 17 日)
- 名古屋市立大学病院 院内 ICLS 研修会コースディレクター (2023 年 7 月 14 日&12 月 15 日開催)
- JATEC インストラクター
- AHA BLS/ACLS インストラクター

山岸庸太

- 愛知県災害医療コーディネーター研修会講師(2023 年 1 月 22 日)
- 愛知 DMAT 養成研修会インストラクター(2023 年 3 月 25-26 日、11 月 3-4 日)

- 日本 DMAT 養成・技能維持講習会インストラクター(2023年3月20-21日、8月28-29日)
- 中部地区 DMAT ブロック訓練インストラクター(2023年9月29-30日)
- 名古屋市消防(救急隊)との事例検討会
- 瑞穂区医師会災害訓練アドバイザー(2023年10月21日)
- JATEC インストラクター

松居亮平

- JATEC インストラクター

***他施設・他大学への講義・講師**

名古屋市救命士養成所 講師(服部、笹野、山岸、松居)

名古屋市消防学校 講師(服部、山岸、松居)

愛知淑徳大学健康医療科学部救急救命学専攻 講師(服部、山岸、松居、坪内)

日本福祉大学健康科学部講師(服部、山岸、松居)

名市大医療・保健 学び直し講座「災害・救急医療」講師(笹野、服部、山岸、松居 *笹野はコーディネーター)

名古屋市立大学進化型実務家教員養成プログラム(TEEP)講師(笹野、服部、山岸、松居 *笹野は主責任者)

名古屋市立大学大学院医学研究科 修士課程 減災・医療概論 講師(服部、笹野、山岸、松居 *服部、笹野は主責任者)

—救命救急医療学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

- 1: Oami T, Abe T, Nakada TA, Imaeda T, Aizimu T, Takahashi N, Yamao Y, Nakagawa S, Ogura H, Shime N, Umemura Y, Matsushima A, Fushimi K. **Association between hospital spending and in-hospital mortality of patients with sepsis based on a Japanese nationwide medical claims database study.** *Heliyon*. **10(1)**: e23480, 2023.
- 2: Greenhalgh DG, Hill DM, Burmeister DM, Matsushima A, et al. **Surviving Sepsis After Burn Campaign.** *Burns*. **49(7)**: 1487-1524, 2023.
- 3: Oami T, Imaeda T, Nakada TA, Abe T, Takahashi N, Yamao Y, Nakagawa S, Ogura H, Shime N, Umemura Y, Matsushima A, Fushimi K. **Mortality analysis among sepsis patients in and out of intensive care units using the Japanese nationwide medical claims database: a study by the Japan Sepsis Alliance study group.** *J Intensive Care*. **11(1)**: 2, 2023.
- 4: Imai K, Aoyama K, Goto T, Kitaori T, Iguchi T, Sasano H, Hattori T, Sugiura-Ogasawara M, Saitoh S. **Hematocolpos due to lower vaginal agenesis in an adolescent girl.** *Acute Med Surg*. **10(1)**: e832, 2023.

【和文業績】

1. 井上 貴昭, 岸邊 美幸, 黒柳 美里, 佐藤 幸男, 根本 充, 林 稔, 廣瀬 智也, 松嶋 麻子, 森田 尚樹, 吉村 有矢, 佐々木 淳一. **日本熱傷学会熱傷入院患者レジストリー 2011 10年間の解析報告.** *熱傷*. **49 卷(5号)**: 242-251, 2023.
2. 三浦 敏靖, 松嶋 麻子, 下谷 直輝, 山田 健太郎. **硬膜動静脈瘻によるてんかん重積状態の3例.** *Journal of Japan Society of Neurological Emergencies & Critical Care*. **(35 卷2号)**: 27-31, 2023.

【各教員の論文数（東部）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	松嶋麻子	5(5)	3(3)	2(2)
准教授(診療担当)	三浦敏靖	1	0	1
講師	今井一徳	1	1	0

注：() 内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

松嶋 麻子. 愛知県警察. 感謝状. 交通死亡事故抑止対策. 令和6年1月

【外部資金獲得実績】

松嶋 麻子. 厚生労働科学研究費（分担）. 令和3年度-5年度、150千円
松嶋 麻子. 文部科学研究費助成事業（基盤研究C・代表） 令和4年度-6年度
/1,350千円 5,000千円
今井 一徳. 文部科学研究費助成事業（基盤研究C・代表） 令和3年度-5年度
/1,100千円 3,200千円
今井 一徳. 厚生労働科学研究（研究協力者）
今井 一徳. 日本災害医学会学会主導研究. 令和5年度. 250千円
三浦 敏靖. 厚生労働科学研究費（分担）. 令和1年度-5年度、260千円

【その他】

松嶋麻子. 日本救急医学会. 理事・評議員
松嶋麻子. 日本熱傷学会. 評議員
松嶋麻子. 日本中毒学会. 評議員
今井一徳. 日本災害医学会. 評議員

松嶋麻子、加藤明裕：G7 広島サミット 首脳対応医療班
松嶋麻子、加藤明裕：名古屋マラソンフェスティバル医療班
松嶋麻子：愛知県警交通死亡事故抑止アドバイザー
松嶋麻子：愛知県救急搬送対策協議会専門家委員
三浦敏靖：愛知県災害医療コーディネーター
今井一徳：能登半島地震 DMAT ロジスティックチーム
三浦敏靖、今井一徳：名古屋市立大学医学部附属東部医療センター日本 DMAT 隊
加藤明裕：名古屋市立大学医学部附属東部医療センター愛知 DMAT 隊

—環境労働衛生学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Fukuda S, Tanaka S, Kawakami C, Kobayashi T, Ito S; Japan Environment and Children's Study Group. (Kamijima M, Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Maternal Serum Folic Acid Levels and Onset of Kawasaki Disease in Offspring During Infancy.** Japan Environment and Children's Study Group. JAMA Netw Open. **6(12)**: e2349942, 2023.

Motoki N, Inaba Y, Toubou H, Hasegawa K, Shibazaki T, Tsukahara T, Nomiyama T; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. (Kamijima M, Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Impact of dog and/or cat ownership on functional constipation at 3 years of age: the Japan Environment and Children's study.**BMC Pediatr. **23(1)**: 595, 2023.

Motoki N, Inaba Y, Toubou H, Hasegawa K, Shibazaki T, Tsukahara T, Nomiyama T; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. (Kamijima M, Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Impact of breastfeeding during infancy on functional constipation at 3 years of age: the Japan Environment and Children's Study.** Int Breastfeed J. **18(1)**: 57, 2023.

Nishihama Y, Nakayama SF, Isobe T, Kamijima M; Japan Environment Children's Study Group. **Association between maternal urinary neonicotinoid concentrations and child development in the Japan Environment and Children's Study.** Environ Int. **181**: 108267, 2023.

Okoshi K, Sakurai K, Yamamoto M, Mori C; Japan Environment and Children's Study group. (Kamijima M, Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Maternal antibiotic exposure and childhood allergies: The Japan Environment and Children's Study.** J Allergy Clin Immunol Glob. **2(4)**: 100137, 2023.

Yamamoto M, Mezawa H, Sakurai K, Mori C; Japan Environment and Children's Study Group. (Kamijima M, Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Screen Time and Developmental Performance Among Children at 1-3 Years of Age in the Japan Environment and Children's Study.** JAMA Pediatr. **177(11)** , 2023.

Suwannarin N, Isobe T, Nishihama Y, Ito Y, Kamijima M, Ebara T, Sugiura-Ogasawara M, Nishikawa N, Nakai K, Minamikawa Y, Nakayama SF. **Concentrations of Neonicotinoid insecticides and their metabolites in multiple urine samples collected from pregnant women in Japan.** Environ Res. 117506, 2023.

Watanabe M, Eguchi A, Sakurai K, Yamamoto M, Mori C; Japan Environment Children's Study (JECS) Group. ([Kamijima M](#), Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Prediction of gestational diabetes mellitus using machine learning from birth cohort data of the Japan Environment and Children's Study.** *Sci Rep.* **13(1)**: 17419, 2023.

Nagata A, Masumoto T, Nishigori H, Nakagawa T, Otani S, Kurozawa Y; Japan Environment and Children's Study Group. ([Kamijima M](#), Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Neurodevelopmental Outcomes Among Offspring Exposed to Corticosteroid and B2-Adrenergic Agonists In Utero.** *JAMA Netw Open.* **6(10)**: e2339347, 2023.

Yang G, Hisada A, Yamamoto M, Kawanami A, Mori C, Sakurai K; Japan Environment, Children's Study (JECS) Group. ([Kamijima M](#), Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Effect of nausea and vomiting during pregnancy on mother-to-infant bonding and the mediation effect of postpartum depression: the Japan Environment and Children's Study.** *BMC Pregnancy Childbirth.* **23(1)**: 704, 2023.

Go H, Hashimoto K, Maeda H, Ogasawara K, Kume Y, Murata T, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Nishigori H, Ikeda-Araki A, Fujimori K, Yasumura S, Hosoya M; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. ([Kamijima M](#), Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Cord blood triglyceride and total cholesterol in preterm and term neonates: reference values and associated factors from the Japan Environment and Children's Study.** *Eur J Pediatr.* **182(10)**: 4547-4556, 2023.

Tsuchiyama T, [Ito Y](#), Taniguchi M, Katsuhara M, Miyazaki H, [Kamijima M](#). **Residue levels of organophosphate pesticides and dialkylphosphates in agricultural products in Japan.** *Environ Res.* **234**: 116518, 2023.

Fujita N, Mezawa H, Pak K, Uemura O, Yamamoto-Hanada K, Sato M, Saito-Abe M, Miyaji Y, Yang L, Nishizato M, Ohya Y, Ishikura K, Hamasaki Y, Sakai T, Yamamoto K, Ito S, Honda M, Gotoh Y; Japan Environment, Children's Study Group. ([Kamijima M](#), Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Reference blood pressure values obtained using the auscultation method for 2-year-old Japanese children: from the Japan Environment and Children's Study.** *Clin Exp Nephrol.* **27(10)**:857-864, 2023.

Miyazaki J, Ikehara S, Tanigawa K, Kimura T, Ueda K, Ozono K, Kimura T, Kobayashi Y, Yamazaki S, Kamijima M, Sobue T, Iso H; Japan Environment, Children's Study JECS Group. ([Kamijima M](#), Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Prenatal exposure to selenium, mercury, and manganese during pregnancy and allergic diseases in early childhood: The Japan Environment and Children's study.** *Environ*

Int. **179**: 108123, 2023.

Shinohara S, Horiuchi S, Shinohara R, Otawa S, Kushima M, Miyake K, Yui H, Kojima R, Ooka T, Akiyama Y, Yokomichi H, Yamagata Z; Japan Environment and Children's Study Group. ([Kamijima M](#), Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **A nationwide, prospective, cohort study on exogenous oxytocin and delays in early child development: the Japan environment and children's study.** Eur J Pediatr. **182(9)**: 4059-4068, 2023.

Murata T, Isogami H, Imaizumi K, Fukuda T, Kyojuka H, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Nishigori H, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. ([Kamijima M](#), Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Association between gestational age at threatened preterm birth diagnosis and incidence of preterm birth: the Japan Environment and Children's Study.** Sci Rep. **13(1)**: 12839, 2023.

Miyake K, Horiuchi S, Shinohara R, Kushima M, Otawa S, Yui H, Akiyama Y, Ooka T, Kojima R, Yokomichi H, Mochizuki K, Yamagata Z; Japan Environment Children's Study Group. ([Kamijima M](#), Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Maternal dietary fiber intake during pregnancy and child development: the Japan Environment and Children's Study.** Front Nutr. **10**: 1203669, 2023.

Miyake K, Mochizuki K, Kushima M, Shinohara R, Horiuchi S, Otawa S, Akiyama Y, Ooka T, Kojima R, Yokomichi H, Yamagata Z; Japan Environment and Children's Study Group. ([Kamijima M](#), Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Maternal protein intake in early pregnancy and child development at age 3 years.** Pediatr Res. **94(1)**: 392-399, 2023.

Mitsuda N, Eitoku M, Yamasaki K, J-P NA, Fujieda M, Maeda N, Suganuma N; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. ([Kamijima M](#), Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Association between maternal cholesterol level during pregnancy and placental weight and birthweight ratio: data from the Japan Environment and Children's Study.** BMC Pregnancy Childbirth. **23(1)**: 484, 2023.

Yoshida T, Matsumura K, Hatakeyama T, Inadera H; Japan Environment, Children's Study Group. ([Kamijima M](#), Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Association between Cesarean section and neurodevelopmental disorders in a Japanese birth cohort: the Japan Environment and Children's Study.** BMC Pediatr. **23(1)**: 306, 2023.

Kikuchi K, Michikawa T, Morokuma S, Hamada N, Suetsugu Y, Ikeda S, Nakahara K, Kato K, Ochiai M, Shibata E, Tsuji M, Shimono M, Kawamoto T, Ohga S, Kusuhara K; Japan

Environment and Children's Study Group. ([Kamijima M](#), Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Sleep quality and temperament in association with autism spectrum disorder among infants in Japan.** *Commun Med (Lond)*. **3(1):82**, 2023.

Nishigori H, Nishigori T, Obara T, Suzuki T, Mori M, Imaizumi K, Murata T, Kyozuka H, Ogata Y, Sato A, Shinoki K, Yasumura S, Hosoya M, Hashimoto K, Fujimori K; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. ([Kamijima M](#), Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Prenatal folic acid supplement/dietary folate and cognitive development in 4-year-old offspring from the Japan Environment and Children's Study.** *Sci Rep*. **13(1):9541**, 2023.

Murata T, Kyozuka H, Fukuda T, Imaizumi K, Isogami H, Yasuda S, Yamaguchi A, Sato A, Ogata Y, Shinoki K, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto K, Fujimori K, Nishigori H; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. ([Kamijima M](#), Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Meconium-stained amniotic fluid and offspring allergies: The Japan Environment and Children's Study.** *Pediatr Allergy Immunol*. **34(5): e13956**, 2023.

Irahara M, Yamamoto-Hanada K, Sato M, Saito-Abe M, Miyaji Y, Yang L, Nishizato M, Kumasaka N, Mezawa H, Ohya Y; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. ([Kamijima M](#), Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Endotoxin concentration and persistent eczema in early childhood.** *J Dermatol*. **50(5): 646-655**, 2023.

Futakawa K, Matsumura K, Tsuchida A, Konishi M, Sasaki H, Mezawa H, Yamamoto-Hanada K, Inadera H, Hasegawa T; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. ([Kamijima M](#), Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Longitudinal study of the relationship between number of prior miscarriages or stillbirths and changes in quality of life of pregnant women: the Japan Environment and Children's Study (JECS).** *BMC Pregnancy Childbirth*. **23(1): 297**, 2023.

Terashita S, Yoshida T, Matsumura K, Hatakeyama T, Inadera H; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. ([Kamijima M](#), Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Caesarean section and childhood obesity at age 3 years derived from the Japan Environment and Children's Study.** *Sci Rep*. **13(1): 6535**, 2023.

Kato T, Adachi Y, Tsuchida A, Matsumura K, Murakami S, Shimizu M, Wada T, Okabe H, Hashimoto K, Hosoya M, Inadera H; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. ([Kamijima M](#), Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M,

Katoh T). **Association of soap use when bathing 18-month-old infants with the prevalence of allergic diseases at age 3 years: The Japan Environment and Children's Study.** *Pediatr Allergy Immunol.* **34(4)**: e13949, 2023.

Hirata K, Ueda K, Wada K, Ikehara S, Tanigawa K, Kimura T, Ozono K, Iso H; Japan Environment, Children's Study Group. (Kamijima M, Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Correction to: Long-term outcomes of children with neonatal transfer: the Japan Environment and Children's Study.** *Eur J Pediatr.* **182(4)**: 1933, 2023.

Yamamoto-Hanada K, Pak K, Saito-Abe M, Sato M, Miyaji Y, Mezawa H, Nishizato M, Yang L, Kumasaka N, Nomura I, Ohya Y; Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. (Kamijima M, Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Prenatal antibiotic use, caesarean delivery and offspring's food protein-induced enterocolitis syndrome: A National Birth Cohort (JECS).** *Clin Exp Allergy.* **53(4)**: 479-483, 2023.

Yoshida A, Kaneko K, Aoyama K, Yamaguchi N, Suzuki A, Kato S, Ebara T, Sugiura-Ogasawara M, Kamijima M, Saitoh S. The Japan Environment And Children's Study Group. (Kamijima M, Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Relationship between Birth Order and Postnatal Growth until 4 Years of Age: The Japan Environment and Children's Study.** *Children (Basel).* **10(3)**: 557, 2023.

Nishikawa R, Sugiura-Ogasawara M, Ebara T, Matsuki T, Tamada H, Kato S, Kaneko K, Saitoh S, Kamijima M; Japan Environment and Children's Study Group. (Kamijima M, Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Adverse pregnancy outcomes of cancer survivors and infectious disease in their infants: The Japan Environment and Children's Study.** *Oncol Lett.* **25(3)**: 100, 2023.

Miyake K, Kushima M, Shinohara R, Horiuchi S, Otawa S, Akiyama Y, Ooka T, Kojima R, Yokomichi H, Yamagata Z; Japan Environment and Children's Study Group. (Kamijima M, Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Maternal smoking status before and during pregnancy and bronchial asthma at 3 years of age: a prospective cohort study.** *Sci Rep.* **13(1)**: 3234, 2023.

Tsuchida A, Itazawa T, Matsumura K, Yokomichi H, Yamagata Z, Adachi Y, Inadera H; Japan Environment and Children's Study Group. (Kamijima M, Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Inadera H, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Kageyama S, Suganuma N, Ohga M, Katoh T). **Season of birth and atopic dermatitis in early infancy: results from the Japan Environment and Children's Study.** *BMC Pediatr.* **23(1)**: 78, 2023.

Mohanto NC, Ito Y, Kato S, Ebara T, Kaneko K, Tsuchiyama T, Sugiura-Ogasawara M, Saitoh

S, Kamijima M. **Quantitative Measurement of Phthalate Exposure Biomarker Levels in Diaper-Extracted Urine of Japanese Toddlers and Cumulative Risk Assessment: An Adjunct Study of JECS Birth Cohort.** Environ Sci Technol. **57(1)**: 395-404, 2023.

Terajima T, Inoue H, Shimomura K, Iwasaki F, Sasaki A, Ito Y, Kamijima M, Tomizawa M. **Organophosphate agent action at the fatty acid amide hydrolase enhancing anandamide-induced apoptosis in NG108-15 cells.** J Toxicol Sci. **48(7)**: 421-428, 2023.

Abdalkader R, Chaleckis R, Fujita T. **Early Differentiation Signatures in Human Induced Pluripotent Stem Cells Determined by Non-Targeted Metabolomics Analysis.** Metabolites. **13(6)**: 706, 2023.

Nakayama SF, St-Amand A, Pollock T, Apel P, Bamai YA, Barr DB, Bessems J, Calafat AM, Castaño A, Covaci A, Duca RC, Faure S, Galea KS, Hays S, Hopf NB, Ito Y, Jeddi MZ, Kolossa-Gehring M, Kumar E, LaKind JS, López ME, Louro H, Macey K, Makris KC, Melnyk L, Murawski A, Naiman J, Nassif J, Noisel N, Poddalgoda D, Quirós-Alcalá L, Rafiee A, Rambaud L, Silva MJ, Ueyama J, Verner MA, Waras MN, Werry K. **Interpreting biomonitoring data: Introducing the international human biomonitoring (i-HBM) working group's health-based guidance value (HB2GV) dashboard.** Int J Hyg Environ Health **247**:114046, 2023

【和文業績】

那須（中島）民江、伊藤由起、内藤久雄、上島通浩。トリクロロエチレンの職業病とそれを補完する基礎研究。産業衛生学雑誌。 **65(4)**： 171-182, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	上島通浩	36(5)	35(4)	1(1)
准教授	伊藤由起	6(2)	5(2)	1
助教	加藤沙耶香	3	3	0
助教	ハレツキス ロマ ナス	1	1	0
特任講師	金子佳世	3(1)	3(1)	0
特任講師	平岡大樹	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

伊藤由起。2023年度名古屋市立大学。令和5年度理事長表彰「研究B」領域、令和5年

【外部資金獲得実績】

上島通浩。子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査愛知ユニットセンター）（代表）委託業務。配分額非公開（産科婦人科学分野、新生児・小児医学分野等

と共同で実施)

- 上島通浩. 環境省環境研究総合推進費 (代表, 分担: 伊藤由起). 令和3年度-令和5年度、27,000千円/81,000千円
- 上島通浩. 文部科学省科学研究費 (基盤A・代表, 分担: 金子佳世、加藤沙耶香、ハレツキス ロマナス). 令和4年度-令和7年度、5,600千円/33,100千円
- 上島通浩. 科学技術振興機構 共創の場形成支援プログラム育成型近未来こども環境デザイン拠点 (代表). 令和4年度-5年度、2,000千円/19,230千円
- 上島通浩. (AMED・分担). 令和5年度、200千円
- 伊藤由起. 文部科学省科学研究費 (基盤B・代表). 令和3年度-令和5年度、4,100千円/13,400千円
- 金子佳世. 文部科学省科学研究費 (若手研究・代表). 令和3年度-令和5年度、600千円/3,500千円
- 加藤沙耶香. 文部科学省科学研究費 (基盤C・代表). 令和5年度-8年度、2,700千円/3,600千円
- 加藤沙耶香. ソルト・サイエンス研究財団. 令和5年度、1,100千円
- ハレツキス ロマナス. 特別研究奨励費. 令和5年度、240千円
- ハレツキス ロマナス. 挑戦的研究(萌芽) (分担). 令和4年度-令和6年度、300千円
- 平岡大樹. 文部科学省科学研究費 (国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))・代表). 令和4年度-6年度、4,000千円/9,000千円

【その他】

学会発表

国際学会

Aya Yoshida, Kayo Kaneko, Kohei Aoyama, Naoya Yamaguchi, Atsushi Suzuki, Sayaka Kato, Takeshi Ebara, Mayumi Sugiura-Ogasawara, Michihiro Kamijima, Shinji Saitoh. Relationship between Birth Order and Postnatal Growth until 4 Years of Age: The Japan Environment and Children's Study. The 18th Congress of Asian Society for Pediatric Research. 2023/11/11

Nayan Chandra Mohanto, Yuki Ito, Sayaka Kato, Takeshi Ebara, Kayo Kaneko, Michihiro Kamijima. Cumulative risk assessment of environmental phthalates using longitudinal human biomonitoring data in children: the Japan Environment and Children's Study. International Society of Exposure Science 2023 Annual meeting. 2023/8/31

Yuki Ito, Michihiro Kamijima. Occupational Exposure Limits Recommended by The Japan Society for Occupational Health. International Society of Exposure Science 2023 Annual meeting. 2023/8/27-31

Hazuki Tamada, Takeshi Ebara, Taro Matsuki, Sayaka Kato, Hirotaka Sato, Yuki Ito, Shinji Saitoh, Michihiro Kamijima, Mayumi Sugiura-Ogasawara. Ready-Meal Consumption during Pregnancy and Birth Outcomes: The Japan Environment and Children's Study. the 6th World Congress on Recurrent Pregnancy Loss. 2023/2/1-4

国内学会

伊藤由起、加藤沙耶香、湊京子、上島通浩. 第94回日本衛生学会. エコチル調査参加小6児童の Transient elastography による肝硬度と脂肪肝指標について. 2024/3/8

湊京子、伊藤由起、加藤沙耶香、館明日香、金子佳世、上島通浩. 第94回日本衛生学会. エコチル調査愛知ユニットセンターにおける小6学童期検査の参加者属性と参加動機. 2024/3/8

岩崎楓生、ハレツキス ロマナス、伊藤由起、柴山裕希、加藤沙耶香、富澤元博、上島通浩. 第94回日本衛生学会学術総会. 環境化学物質のインハウス MS2 ライブラリを用いた一般集団の曝露評価. 2024/3/7-9

柴山裕希、ハレツキス ロマナス、伊藤由起、岩崎楓生、加藤沙耶香、富澤元博、上島通浩. 第94回日本衛生学会学術総会. マウス尿を用いた医薬品等の網羅的分析法の開発と一般集団の曝露評価. 2024/3/7-9

高木麻衣、上山純、伊藤由起、磯部友彦、岩井美幸、小林弥生、上島通浩、中山祥嗣. 第94回日本衛生学会学術総会. 日本人小児のピレスロイド系殺虫剤類曝露の評価. 2024/3/7-9

金子佳世、吉田あや、青山幸平、山口直哉、鈴木敦詞、加藤沙耶香、榎原毅、杉浦真弓、上島通浩、齋藤伸治. 第34回日本疫学会学術集会. 出生順位と出生時から4歳までの成長の関連. 2024/2/2

ハレツキス ロマナス、和佐田ひと実、伊藤由起、加藤沙耶香、富澤元博、上島通浩. 第50回産業中毒・生物学的モニタリング研究会. ヒト生物学的モニタリングのためのマウス尿を用いた殺菌剤代謝物 MS2 スペクトルライブラリーの作成. 2023/11/17-18

岩崎楓生、ハレツキス ロマナス、伊藤由起、柴山裕希、加藤沙耶香、富澤元博、上島通浩. 日本産業衛生学会第50回産業中毒・生物学的モニタリング研究会. マウス尿を用いた産業化学物質の網羅的分析法の開発と一般集団における曝露評価. 2023/11/17

伊藤由起、加藤沙耶香、金子佳世、湊京子、若山貴成、上島通浩. 日本公衆衛生学会総会. エコチル調査参加者における香り付き製品の使用実態調査. 2023/11/1

金子佳世、伊藤由起、加藤沙耶香、八谷寛、上島通浩. 日本公衆衛生学会総会. 妊娠中期母体血清脂肪酸レベルと児の8歳時点のBMI・血圧の関連. 2023/11/1

玉田葉月、榎原毅、吉原紘行、後藤志信、北折珠央、松木太郎、加藤沙耶香、佐藤博貴、伊藤由起、齋藤伸治、上島通浩、杉浦真弓. 第5回日本不育症学会学術集会. 妊娠中における調理済み食品摂取の妊娠帰結への影響：エコチル調査. 2023/7/15

加藤沙耶香、伊藤由起、金子佳世、湊京子、中川朝子、Romanas Chaleckis、上島通浩. 第69回東海公衆衛生学会. 学童におけるクレアチニン1日尿中排泄量の予測.

2023/7/8

中根昇吾、伊藤由起、金子佳世、加藤沙耶香、湊京子、Romanas Chaleckis、榎原毅、上島通浩、第96回日本産業衛生学会. エコチル調査参加成人女性における口腔衛生状態と心臓足首血管指数の関連. 2023/5/11

講演, シンポジウムなど

上島通浩 他 エコチル調査の社会貢献と今後の発展. 第94回日本衛生学会 2024/3/8

上島通浩 他 第13回エコチル調査シンポジウム. 2024/2/18

上島通浩 他 少子化に関する国際対話イベント. 共創の場シンポジウム. 2024/1/21

上島通浩 東海衛生行政研究会. 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)について. 2023/10/14

上島通浩 他 エコチル調査のこれまでの成果と今後の展開. 第82回日本公衆衛生学会総会. 2023/11/2

上島通浩 他 許容濃度委員会シンポジウム. 第96回日本産業衛生学会. 2023/5/11

書籍

辻一郎, 上島通浩 他(編集) シンプル衛生公衆衛生学 2023. 南江堂

主要な学会活動

上島通浩

日本産業衛生学会 理事・代議員・東海地方会理事・許容濃度委員会委員・専門医制度委員会評価委員

日本衛生学会代議員

日本疫学会代議員

日本毒性学会評議員

東海公衆衛生学会評議員

伊藤由起

日本産業衛生学会 代議員・東海地方会理事、産業衛生技術部会本部幹事・東海地方会世話人、許容濃度委員会 起案委員、Journal of Occupational Health・産業衛生学雑誌・Environmental and Occupational Health Practice 誌 編集委員会委員、

日本衛生学会代議員

日本毒性学会 Fundamental Toxicological Sciences, Editorial Board

International Society of Exposure Science (国際環境曝露科学会) International human biomonitoring guidance values (i-HBM) working group member

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

外部委員・非常勤講師など

上島通浩

国立研究開発法人国立環境研究所参与

国立環境研究所子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)運営委員長（研究代表者）

環境省有害大気汚染物質健康リスク評価等専門委員ワーキンググループ委員、有害大気汚染物質対策調査検討会委員

環境省化学物質の人へのばく露量モニタリング調査検討委員

農林水産省農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会委員

農林水産省農業資材審議会専門委員

厚生労働大臣登録「建築物環境衛生管理技術者等講習会」教授

独立行政法人労働者健康安全機構 業績評価委員会労働安全衛生研究評価部会 専門委員

愛知労働局労働衛生指導医

愛知県健康・快適居住環境専門家

愛知県貝類出荷自主規制解除判定会議構成員

名古屋市食の安全・安心推進会議会長

名古屋市保健所運営協議会副会長

順天堂大学非常勤講師

高知大学非常勤講師

名古屋大学非常勤講師

伊藤由起

環境省 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査) 曝露評価専門委員会委員、曝露評価専門委員会精度管理分科会委員

愛知県環境影響評価審査会委員

名古屋市環境審議会委員

名古屋大学 非常勤講師

加藤沙耶香

名古屋市北区保健センター 乳児発達相談

エコチル調査愛知ユニットセンター

(名古屋市立大学母と子どもの健康・環境総合研究センター)

1. 愛知ユニットセンターの役割

名古屋市立大学は、環境省の事業「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」を国立環境研究所より受託している。エコチル調査は環境省が企画・立案し、国立環境研究所エコチル調査コアセンターに設置される運営委員会が調査計画を決定する。調査実施に関してはコアセンターが調査をとりまとめ、メディカルサポートセンター（国立成育医療研究センター）が医学面でのサポートを行い、全国 15 地域の大学等に設置されたユニットセンターは、調査地区において参加協力者に関する調査実務を担い、調査で得られたデータの解析と論文化をおこなう。

本学では、エコチル調査を実施するために医学研究科に「母と子どもの健康・環境総合研究センター（エコチル調査愛知ユニットセンター）」を設置し、医学研究科を挙げて調査を継続実施するための体制を整えている。エコチル調査愛知ユニットセンターは、調査地区である名古屋市北区と一宮市での調査を運営する役割を担っている。また、環境労働衛生学、産科婦人科学、新生児・小児医学等の研究者が、各自の専門的知見から、エコチル調査で得られたデータを解析し、学術論文としてまとめ、エコチル調査の成果の発信に努めている。

2. 運営体制

エコチル調査は全国各地に調査指定地域を設け、小学校の学年・学級によっては 4 割近くの児童が参加する調査であることから、調査実施にあたり地域内の協力医療機関、行政、医師会等との連携による強固な実施体制を構築している。2014 年 3 月に調査参加者の募集（リクルート期）が終わり、以後、フォローアップ期に入り今日に至る。この間、地域の行政機関、医療機関、医師会をはじめとする医療関係団体、市民団体等と連携して協力体制を構築している。2023 年度も前年度と同様に、各機関・組織等の代表をエコチル調査愛知ユニットセンター運営協議会、名古屋市北区エコチル調査推進委員会、一宮市エコチル調査推進委員会に招聘し、エコチル調査の継続・推進に向けた助言を得ている。

3. 調査の実績

2010 年度の調査開始から 13 年間が経過した 2024 年 3 月時点で、約 5,300 名（追跡率約 95%）の子どもが継続的に調査に参加している。2023 年度には参加者全員を対象とする質問票調査を 2 回、特定の疾患に罹患した場合に医療情報を収集する疾患情報登録調査、当該年度に小学 6 年生となる参加者を対象に全国統一の方法により行う対面調査（学童期検査）、脱落乳歯に含まれる化学物質を分析し、胎児期から乳児期の長期的な化学物質による曝露状況を調べるための乳歯回収調査、参加者の 5%の方（約 270 人）を対象に特定の項目を調べる対面調査（詳細調査）、エコチル調査の全国統一プロトコルとは別に愛知ユニットセンター独自に計画する追加調査を実施した。また、エコチル調査は子どもが 13 歳になるまでの計画で進めていたが、参加者や関係者の協力により国民の健康や環境の向上に役立つ多くの成果が得られていることもあり、2023 年 3 月に 13 歳以降も調査を継続することが決まった。2023 年度から対象の参加者には 13 歳以降調査継続のための継続同意を取得することになり、イベントや対面調査の場で、参加者コミュニケーションを活かしつつ、積極的に継続同意に向けて取り組んでいる。

4. 研究成果

エコチル調査愛知ユニットセンターの研究成果については、環境労働衛生学の研究活動実績に記載した。

—公衆衛生学分野—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Tomida S, Koyama T, Ozaki E, Takashima N, Morita M, Sakaguchi K, Naoi Y, Nishida Y, Hara M, Hishida A, Tamura T, Okada R, Kubo Y, Otonari J, Ikezaki H, Nakamura Y, Kusakabe M, Tanoue S, Koriyama C, Koyanagi YN, Ito H, Suzuki S, Otani T, Miyagawa N, Okami Y, Arisawa K, Watanabe T, Kuriki K, Wakai K, Matsuo K. **Seven-plus hours of daily sedentary time and the subsequent risk of breast cancer: Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study.** *Cancer Science*. **115(2)**: 611-622, 2023.

Ito S, Koshino A, Komura M, Kato S, Otani T, Wang C, Ueki A, Takahashi H, Ebi M, Ogasawara N, Tsuzuki T, Kasai K, Kasugai K, Takiguchi S, Takahashi S, Inaguma S. **Characterization of colorectal cancer by hierarchical clustering analyses of five immune cell markers.** *Pathology International*. **74(1)**: 13-25, 2023.

Ito T, Otani T, Anzai T, Okumura T, Takahashi K. **Potential Biases of the Transmission Risks of COVID-19 estimated by Contact Tracing Surveys in Japan.** *Epidemiology, Biostatistics and Public Health*. **18(1)**: 55-61, 2023.

Scammell BH, Tchio C, Nishiyama T, Louie TL, Dashti HS, Nakatochi M, Zee PC, Daghlas I, Momozawa Y, Cai J, Ollila HM, Redline S, Wakai K, Sofer T, Suzuki S, Lane JM, Saxena R. **Multi-ancestry genome-wide analysis identifies shared genetic effects and common genetic variants for self-reported sleep duration.** *Hum Mol Genet*. **32(18)**: 2797-2807, 2023.

Kurasawa S, Imaizumi T, Maruyama S, Tanaka K, Kubo Y, Nagayoshi M, Ikezaki H, Suzuki S, Koyama T, Koriyama C, Kadota A, Katsuura-Kamano S, Kuriki K, Wakai K, Matsuo K. **Association of kidney function with cancer incidence and its influence on cancer risk of smoking: The Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study.** *Int J Cancer*. **153(4)**: 732-741, 2023.

Tamura T, Wakai K, Kato Y, Tamada Y, Kubo Y, Okada R, Nagayoshi M, Hishida A, Imaeda N, Goto C, Ikezaki H, Otonari J, Hara M, Tanaka K, Nakamura Y, Kusakabe M, Ibusuki R, Koriyama C, Oze I, Ito H, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Ozaki E, Kuriki K, Kondo K, Takashima N, Watanabe T, Katsuura-Kamano S, Matsuo K. **Dietary carbohydrate and fat intakes and risk of mortality in the Japanese population: the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study.** *J Nutr*. **153(3)**: 2352-2368, 2023.

Senda J, Ito K, Kotake T, Mizuno M, Kishimoto H, Yasui K, Nakagawa-Senda H, Katsuno M, Nishida Y, Sobue G. **Association between National Institutes of Health Stroke Scale and Functional Independence Measure scores in patients with ischemic stroke from convalescent rehabilitation outcomes.** *Nagoya J Med Sci*. **85(3)**: 428-443, 2023.

Iimori H, Nishina S, Hieda O, Goseki T, Nishikawa N, Suzuki S, Hikoya A, Komori M, Suzuki H, Yoshida T, Hayashi S, Mori T, Kimura A, Morimoto T, Shimizu Y, Negishi T, Shimizu T, Yokoyama Y, Sugiyama Y, Azuma N, Sato M. **Clinical presentations of acquired comitant esotropia in 5-35 years old Japanese and digital device usage: a multicenter registry data analysis study.** *Jpn J Ophthalmol*. **67(6)**: 629-636, 2023.

Ishikawa H, Yamada M, Sato Y, Tanaka S, Chino A, Tajika M, Doyama H, Takayama T, Ohda Y, Horimatsu T, Sano Y, Tanakaya K, Ikematsu H, Saida Y, Ishida H, Takeuchi Y, Kashida H, Kiriya S, Hori S, Lee K, Tashiro J, Kobayashi N, Nakajima T, Suzuki S, Mutoh M, J-FAPP Study III Group. **Intensive endoscopic resection for downstaging of polyp burden in patients with familial adenomatous polyposis (J-FAPP Study III): a multicenter prospective interventional study.** *Endoscopy*. **55(4)**: 344-352, 2023.

Hara M, Nishida Y, Tanaka K, Shimanoe C, Koga K, Furukawa T, Higaki Y, Shinchi K, Ikezaki H, Murata M, Takeuchi K, Tamura T, Hishida A, Kadomatsu Y, Matsuo K, Oze I, Mikami H, Kusakabe M, Takezaki T, Ibusuki R, [Suzuki S](#), [Nakagawa-Senda H](#), Matsu D, Koyama T, Kuriki K, Takashima N, Nakamura Y, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Wakai K, for the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort (J-MICC) study. **Moderate-to-vigorous physical activity and sedentary behavior are independently associated with renal function: A Cross-sectional study.** *J Epidemiol.* **33(6)**: 285-293, 2023.

Nagayoshi M, Takeuchi K, Tamada Y, Kato Y, Kubo Y, Okada R, Tamura T, Hishida A, Otonari J, Ikezaki H, Nishida Y, Shimanoe C, Koyanagi YN, Matsuo K, Mikami H, Kusakabe M, Nishimoto D, Shibuya K, [Suzuki S](#), [Nishiyama T](#), Ozaki E, Watanabe I, Kuriki K, Takashima N, Kadota A, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Wakai K. **Sex-specific relationship between stress coping strategies and all-cause mortality: Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study.** *J Epidemiol.* **33(5)**: 236-245, 2023.

Nindita Y, Nakatochi M, Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Nishimoto D, Shimatani K, Takezaki T, Ikezaki H, Murata M, Hara M, Nishida Y, Tamura T, Hishida A, Nagoyoshi M, Okada R, Matsuo K, Ito H, Mikami M, Nakamura Y, [Otani T](#), [Suzuki S](#), Koyama T, Ozaki E, Kuriki K, Takashima N, Miyagawa N, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Momozawa Y, Kubo M, Takeuchi K, Wakai K. **Population-based impact of smoking drinking, and genetic factors on HDL-Cholesterol levels in J-MICC Study participants.** *J Epidemiol.* **33(4)**: 193-200, 2023.

Nakamura S, Fang X, Saito Y, Narimatsu H, Ota A, Ikezaki H, Shimanoe C, Tanaka K, Kubo Y, Tsukamoto M, Tamura T, Hishida A, Oze I, Koyanagi YN, Nakamura Y, Kusakabe M, Takezaki T, Nishimoto D, [Suzuki S](#), [Otani T](#), Kuriyama N, Matsui D, Kuriki K, Kadota A, Nakamura Y, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Nakatochi M, Momozawa Y, Kubo M, Takeuchi K, Wakai K. **Effects of gene-lifestyle interactions on obesity based on a multi-locus risk score: A cross-sectional analysis.** *Plos One.* **18(2)**: e0279169, 2023.

Kitaoka K, Miura K, Takashima N, Kadota A, Harada A, Nakamura Y, Kita Y, Yano Y, Tamura T, Nagayoshi M, Okada R, Kubo Y, [Suzuki S](#), [Nishiyama T](#), Tanoue S, Koriyama C, Kuriki K, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Nishida Y, Shimanoe C, Ozaki E, Matsui D, Ikezaki H, Otonari J, Oze I, Koyanagi Y, Nakamura Y, Kusakabe M, Wakai K, Matsuo K; J-MICC Research Group. **Association between dietary patterns and serum low density lipoprotein cholesterol in Japanese women and men: The Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study.** *J Atheroscler Thromb.* **30**: 1427-1447, 2023.

Makino T, Suzuki F, [Nishiyama T](#), Ishibashi S, Nakamichi H, Iida T, Shimada S, Tomari S, Imanari E, Higashi T, Fukumoto S, Kurata S, Mizuno Y, Kimura T, Kuru Y, Morimoto T, Kosaka H. **Psychometrics of the kiddie schedule for affective disorders and schizophrenia present and lifetime version for DSM-5 in Japanese outpatients.** *Int J Methods Psychiatr Res.* e1957, 2023.

Adachi J, Aoki Y, Izumi H, [Nishiyama T](#), Nakayama A, Sana M, Morimoto K, Kaetsu A, Shirozu T, Osumi E, Matsuoka M, Hayakawa E, Maeda N, Machida J, Nagao T, Tokita Y. **Novel WNT10A variant in a Japanese case of nonsyndromic oligodontia.** *Hum Genome Var.* **10**: 3, 2023.

Sakashita T, Nakamura Y, Sutoh Y, Shimizu A, Hachiya T, Otsuka-Yamasaki Y, Takashima N, Kadota Y, Miura K, Kita Y, Ikezaki H, Otonari J, Tanaka K, Shimanoe C, Koyama T, Watanabe I, [Suzuki S](#), [Nakagawa-Senda H](#), Hishida A, Tamura T, Kato Y, Okada R, Kuriki K, Katsuura-Kamano S, Watanabe T, Tanoue S, Koriyama C, Oze I, Koyanagi N, Nakamura Y, Kusakabe M, Nakatochi M, Momozawa Y, Wakai K, Matsuo K. **Comparison of the loci associated with HbA1c and blood glucose levels identified by a genome-wide association study in the Japanese population.** *Diabetol Int.* **14(2)**: 188-198, 2023.

Kamishima H, [Watanabe M](#), [Otani T](#), Imaeda N, Goto C, Fujita H, [Nakagawa-Senda H](#), [Nishiyama T](#), [Sunayama M](#), Tamada T, [Suzuki S](#). **Association of night shift work with dietary intake and BMI: J-MICC Okazaki Study.** *Nagoya Med J.* **57**: 133-148, 2023.

Watanabe T, Arisawa K, Nguyen TV, Ishizu M, Katsuura-Kamao S, Hishida A, Tamura T, Kato Y, Okada R, Ibusuki R, Koriyama C, Suzuki S, Otani T, Koyama T, Tomida S, Kuriki K, Takashima N, Miyagawa N, Wakai K, Matsuo K; Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study Group. **Coffee and metabolic phenotypes: A cross-sectional analysis of the Japan multi-institutional collaborative cohort (J-MICC) study.** Nutr Metab Cardiovasc Dis. **33(3):** 620-630, 2023.

【和文業績】

鈴木貞夫. HPV ワクチンの副反応に関する名古屋データ. 日医雑誌. **151(12):** 2099-2103, 2023.

鈴木貞夫. HPV ワクチンと接種後症状:名古屋スタディからの知見を中心に. Clinical Virology. **51(1):** 29-33, 2023.

高橋邦彦, 大谷隆浩. 災害・事故時における迅速対応統合プラットフォームの開発. 地球環境. **28(2):** 187-194, 2023.

木下美紀, 大谷隆浩, 鈴木貞夫, 藤田紀乃, 和田昭彦, 松井 寛, 大島慶太, 長岡 芳. 人間ドック男性受診者における血清 LDL コレステロール値と身体特性・生活習慣の関連. 人間ドック. **37(5):** 783-791, 2023.

中川弘子. コーヒー摂取と肝疾患リスクの関係について. 食と医療. **27:** 6-13, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	鈴木貞夫	17(2)	14(0)	3(2)
准教授	西山 毅	6(0)	6(0)	0
講師	大谷隆浩	9(0)	7(0)	2(0)
講師	中川弘子	6(1)	5(0)	1(1)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【外部資金獲得実績】

鈴木 貞夫. 文部科学省科学研究費（新学術領域研究:研究領域提案型・分担）令和4年度-令和9年度、3,630千円/296,800千円

鈴木 貞夫. 文部科学省科学研究費（基盤B・代表）令和2年度-令和6年度、1,100千円/1,200千円

西山 毅. 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）令和2年度-令和6年度、100千円/1,200千円

西山 毅. 文部科学省科学研究費（基盤B・代表）令和4年度-令和7年度、10千円/600千円

鈴木 貞夫. 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）令和4年度-令和7年度、40千円

大谷 隆浩. 文部科学省科学研究費（基盤B・分担）令和4年度-令和7年度、50千円

大谷 隆浩. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表) 令和 3 年度-令和 6 年度、3,100 千円/3,100 千円

中川 弘子. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表) 令和 5 年度-令和 8 年度、1,000 千円/1,200 千円

大谷 隆浩. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) 令和 5 年度-令和 8 年度、100 千円

大谷 隆浩. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担) 令和 3 年度-令和 6 年度、150 千円

西山 毅. 厚生労働省科学研究費 (分担) . 令和 5 年度、200 千円

大谷 隆浩. 文部科学省科学研究費 (基盤 A・分担) . 令和 5 年度-令和 7 年度、800 千円/16,600 千円

西山 毅. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担) 令和 5 年度-令和 7 年度、100 千円

中川弘子. 文部科学省科学研究費 (国際共同研究加速基金・分担) . 令和 5 年度-令和 9 年度、50 千円

西山 毅. 研究助成金 (公益財団法人 痛風・尿酸財団) 令和 5 年 4 月 1 日-令和 7 年 3 月 31 日、200 千円

【その他】

1) 国際学会発表

Nakagawa H, Nagata T, Otani T, Sunayama M, Nishiyama T, Yamada T, Suzuki S. The inverse association between coffee consumption and serum triglyceride levels among Japanese adults. 8th Int Conference on Global Public Health 2023. 口演、2023.10.19.

2) 主な国内学会発表

西山 毅. 外在化障害評価尺度 ADHD-rating scale-5 と Disruptive Behavior Disorders Rating Scale の心理測定研究: 養育者と教師からの報告をどのように使えば良いか? 第 64 回日本児童青年精神医学会総会, 口演, 2023. 11. 15.

鈴木貞夫. HPV ワクチンの接種後症状: 名古屋スタディの結果と展望. 第 143 回日本産科婦人科学会、指導講習会講演、2023. 3. 11.

野木村茜、大谷隆浩、野口泰司、中川弘子、渡邊美貴、山田珠樹、鈴木貞夫. 多世代同居と主観的健康感の関連. 第 33 回日本疫学会学術総会, ポスター、2023. 2. 3.

西山 毅、大谷隆浩、中川弘子、砂山真琴、渡邊美貴、鈴木貞夫. 発達障害の閾値化特性が全死亡に及ぼす影響. 第 33 回日本疫学会学術総会、オンデマンド、2023. 2. 1-3.

砂山真琴、麻美直美、西山毅、大谷隆浩、中川弘子、柴田清、山田珠樹、鈴木貞夫. 自己評価の青年期体型と壮年期以後の転倒に基づく骨折との関連の縦断研究: J-MICC 岡崎研究. 第 33 回日本疫学会学術総会、オンデマンド、2023. 2. 1-3.

【教育活動】

鈴木貞夫

医療法人社団カナード 講演会「世田谷モデルの講演会」2023 年 10 月 19 日

同志社女子大学 「同志社女子大学薬学部 早期体験学習 I 及び研究室セミナー」2023年6月7日

衛生・公衆衛生合同ゼミナール 講演「HPV ワクチンと接種後症状の関連：名古屋スタディをめぐって」2023年5月16日

第63回日本呼吸器学会学術講演会 IDC 講習会 講演「COVID-19 がもたらした感染症疫学へのインパクトと今後の展望」2023年4月30日

第143回東海産科婦人科学会 指導医講習会「HPV ワクチンの接種後症状：名古屋スタディの結果と展望」2023年3月11日

第38回神戸臨床腫瘍研究会 特別講演「HPV ワクチンに関する最新の話題」2023年2月11日

西山 毅

難病教育講演会「Schaaf-Yang 症候群の全国調査」2023年10月25日

大谷隆造

名古屋市救急救命研修所外来講師. 救急救命士養成教育. 2023年8月29日、9月26日、10月13日

名古屋市ロボット・AI・IoT 人材育成事業経営人材育成講座 講師 「AI・IoT 概論。」2023年8月25日

修文大学非常勤講師. 看護学生へのデータサイエンス授業. 2023年4月-2023年9月(15回)

中川弘子

名古屋市衛生管理医師. 名古屋職員の精神衛生管理の指導等. 2023年(15回)

愛知教育大学. 愛知教育大学教育学部 衛生学・公衆衛生学講座講師. NGO における国際保健活動. 2023年1月17日

—法医学分野—

<研究活動実績>

【欧文業績】

1. Kanno S, Hirano S, Monma-Otaki J, Kato H, Fukuta M, Nakamura Y, Aoki Y. Plasma membrane damage triggered by benzalkonium chloride and cetylpyridinium chloride induces G(0)/G(1) cell cycle arrest via Cdc6 reduction in human lung epithelial cells. J Toxicol Sci. 48(2): 75-86, 2023.
2. Kanno S, Sakamoto T, Fukuta M, Kato H, Aoki Y. Stability of exosomes in the postmortem serum and preliminary study on exosomal miRNA expression profiling in serum from myocardial infarction cadavers. Int J Legal Med. 137(3): 825-834, 2023.
3. Kato H, Kanno S, Fukuta M, Yaguchi T, Aoki Y. Cadavers found outdoor in whom fungal growth was observed on the body surface: Consideration of the role of mycology in forensic medicine. Leg Med (Tokyo). 65, 2023.
4. Kato H, Kanno S, Ohtaki J, Fukuta M, Nakamura Y, Aoki Y. A lethal case of massive hemorrhage after percutaneous liver biopsy in a patient with thrombasthenia. Leg Med (Tokyo). 65, 2023.

【和文業績】

1. 加藤 秀章, 菅野 さな枝, 福田 真未子, 大瀧 純, 中村 昌美, 青木 康博. 虐待による頭部外傷が疑われた乳児頭蓋骨骨折の2例. 法医学の実際と研究. 11(66): 119-125, 2023.
2. 加藤 秀章, 菅野 さな枝, 福田 真未子, 大瀧 純, 中村 昌美, 矢口 貴志, 青木 康博. 屋内で発見された遺体に付着した真菌の分離同定と法医学的考察. 法医学の実際と研究. 66: 127-133, 2023.
3. 大瀧 純, 加藤 みなみ, 福田 真未子, 青木 康博. 家畜および愛玩動物の血液中一酸化炭素ヘモグロビン飽和度測定. 法医学の実際と研究. 66: 157-158, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	青木 康博	7(7)	4(4)	3(3)
准教授	加藤 秀章	6(4)	4(2)	2(2)
准教授	菅野 さな枝	6(2)	4(2)	2(0)
講師	福田 真未子	7(0)	4(0)	3(0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

1. 大瀧 純. 特定非営利活動法人 日本法医学会. 法医技術功労賞. 令和5年6月

【外部資金獲得実績】

1. 青木 康博. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和4年度-令和6年度、900千円/2,400千円
2. 菅野 さな枝. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和3年度-令和5年度、1,100千円/2,800千円
3. 福田 真未子. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和4年度-令和6年度、1,400千円/3,500千円
4. 福田 真未子. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和4年度-令和6年度、60千円

【その他】

国際学会発表（ポスター）

1. Kanno S, Hirano S, Kato H, Fukuta M, Takase H, Aoki Y. The 62nd Annual Meeting of the Society of Toxicology. Effects of methamphetamine on gene expression related to cardiac function in rat heart. 19-23 Mar 2023
2. Kanno S, Hirano S, Monma-Otaki J, Kato H, Fukuta M, Nakamura Y, Aoki Y. 60th Annual Meeting of the International Association of Forensic Toxicologists. G0/G1 cell cycle arrest via Cdc6 depletion by benzalkonium chloride- and cetylpyridinium chloride-triggered plasma membrane damage in human lung epithelial cells. 27-30 Aug 2023

国内学会発表（口頭）

1. 福田 真未子, 伊藤 理子, 中村 昌美, 加藤 秀章, 青木 康博. 第28回 日本SIDS・乳幼児突然死予防学会雑誌. メッセル憩室間膜血管帯による絞扼性腸閉塞の幼児剖検例. 2023年2月18-19日
2. 福田 真未子, 琵琶坂仁, 舟山真人, 菅野 さな枝, 加藤 秀章, 青木 康博. 第107次日本法医学会学術全国集会. 恥骨結合部3次元像を用いた形態変化定量化による年齢推定. 2023年6月7-9日
3. 福田 真未子, 中村 昌美, 大瀧 純, 菅野 さな枝, 加藤 秀章, 青木 康博. 第45回 日本法医学会学術中部地方会. 心へのムコ多糖沈着により致死性不整脈をきたしたと考えられる小児死亡事例. 2023年9月30日

国内学会発表（ポスター）

1. 加藤 秀章, 大瀧 純, 中村 昌美, 菅野 さな枝, 福田 真未子, 青木 康博. 第107次日本法医学会学術全国集会. Abusive Head Traumaとの鑑別を有した乳児頭部外傷の3例. 2023年6月7-9日
2. 菅野 さな枝, 大瀧 純, 加藤 秀章, 福田 真未子, 中村 昌美, 青木 康博. 第107次日本法医学会学術全国集会. 陽イオン性殺菌剤曝露によるヒト肺胞上皮細胞に対する細胞膜毒性とシグナル伝達経路. 2023年6月7-9日
3. 大瀧 純, 菅野 さな枝, 加藤 秀章, 福田 真未子, 中村 昌美, 青木 康博. 日本法中毒学会 第42年会. メタンフェタミン投与ラットの心臓におけるERストレスおよびapoptosis関連タンパクの発現量の変化. 2023年6月29-30日
4. 福田 真未子, 藤井 宏治, 水野 なつ子, 加藤 秀章, 青木 康博. 日本DNA多型学会 第32回学術集会. 常染色体STR21座位の日本集団データにおけるHardy-Weinberg平衡の検討. 2023年11月16-17日

＜社会貢献活動実績＞

1. 司法解剖 114件, 死因・身元調査法解剖 23件.
2. 菅野 さな枝, 大瀧 純. 解剖以外の薬毒物分析（本学救急科嘱託）5件
3. 福田 真未子. 戦没者遺骨鑑定：遺骨検体 15件, 遺族検体 16件.
4. 青木 康博. 児童相談所嘱託の創傷鑑定 16件
5. 青木 康博. 第2回愛知県死因究明等推進協議会 委員. 2023年2月
6. 加藤 秀章. 名古屋市児童相談所法医学勉強会 講師. 2023年6月
7. 青木 康博, 菅野 さな枝, 福田 真未子, 大瀧 純. 法医遺伝学・法中毒学の実務的実験. 大学丸ごと研究室体験：市立大学・市立高校 高大連携講座. 2023年8月
8. 青木 康博. 県営名古屋空港災害訓練検視部門への参加・指導. 2023年10月
9. 青木 康博, 福田 真未子. 中部国際空港災害訓練検視部門への参加・指導. 2023年10月

10. 加藤 秀章. 名古屋地方検察庁刑事司法勉強会 講師. 2023 年 11 月
11. 加藤 秀章. 性被害者支援専門看護師 (SANE) 養成セミナー 講師. 2023 年 12 月

—医学・医療情報管理学—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Katano H, Nishikawa Y, Uchida M, Yamanaka T, Hayashi Y, Yamada S, Tanikawa M, Yamada K, Mase M. **Secular trends and features of thalamic hemorrhages compared with other hypertensive intracerebral hemorrhages: an 18-year single-center retrospective assessment.** Front Neurol. **15(14)**: 1205091, 2023.

Katano H, Mase M. **Long non-coding RNA expression in calcified carotid plaques.** Atherosclerosis. **379(Suppl.)**: S31-2, 2023.

Chiyoda H, Kobayashi S, Yokoi K, Iwata O, Katano H. **Acquired hydrocephalus following hypoxic ischemic encephalopathy without intraventricular hemorrhage: A case report.** J Neonatal Perinatal Med. **16(3)**: 569-571, 2023.

Nishikawa Y, Yamada S, Uchida M, Yamanaka T, Hayashi Y, Katano H, Tanikawa M, Iwama T, Iihara K, Morioka M, Mase M. **Japanese nationwide questionnaire survey on delayed cerebral infarction due to vasospasm after subarachnoid hemorrhage.** Front Neurol. **2(14)**: 1296995, 2023.

Yamanaka T, Nishikawa Y, Iwata T, Shibata T, Uchida M, Hayashi Y, Katano H, Tanikawa M, Yamada S, Mase M. **Preventive effect of intermittent cerebrospinal fluid drainage for secondary chronic hydrocephalus after aneurysmal subarachnoid hemorrhage.** Fluids Barriers CNS. **20(1)**: 91, 2023.

【和文業績】

なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
准教授	片野 広之	5	5	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

片野広之. 文部科学省科学研究費（基盤C・代表）. 令和2年度-令和5年度、1,100千円/5,000千円

【その他】

国際学会発表（ポスター）

Hiroyuki Katano. The 91th European Atherosclerosis Society Congress (EAS 2023). Long non-coding RNA expression in calcified carotid plaques. 2023.5.21-24

主要な国内学会活動の参加状況

片野 広之. 第 48 回日本脳卒中学会 (STROKE2023) 准教授

片野 広之. 第 81 回日本脳神経外科学会総会 准教授

片野 広之. 第 43 回日本脳神経外科コンgres総会 准教授

片野 広之. 第 24 回日本医療情報学会学術大会 准教授

—医学・医療教育学分野—

＜研究活動実績＞

【欧文業績】

Tanemura N, Kakizaki M, Kusumi, T, Onodera R, Tominaga Y, Araki M, Chiba T. **Differences in consumers' perceptions based on the description order/amount of benefit–risk information on foods: A randomized comparative survey in Japan.** British Food Journal. **125(8)** 2023.

Fukumitsu K, Ning Y, Kanemitsu Y, Tajiri T, Okuda K, Fukuda S, Uemura T, Ohkubo H, Takemura M, Maeno K, Ito Y, Oguri T, Takakuwa O, Niimi A. **Tracheal Glomus Tumor Complicated with Asthma Exacerbation in a Pregnant Woman.** Intern Med. **62(14):** 2123-2128, 2023

Yamaba Y, Yoshihara M, Takakuwa O, Iwata H, Ogino H, Sakane T, Haneda H, Nakao M, Yamada K, Inoue Y, Kuni E, Akita K. **Factors related to fixedness after transbronchial fiducial marker placement for image-guided proton therapy: A retrospective study.** Resoi investing. **61(5):** 636-642, 2023.

Tanemura N, Kakizaki M, Kusumi T, Onodera R, Tominaga Y, Araki M, Chiba T. **Information integration through benefit-risk messages on food with quality-adjusted life years from the public agency in Japan: a randomized control study.** Nutrire. **48(18):** article number 18, 2023.

Gyoten I, Shigemori H, Takagi T, Kosaka Y, Shigenaga Y, Kakizaki M, Miura S, Kanto A, Ando R, Oguri T, Yamashita S, Matuo Y, Takakuwa O. **A new online platform system which connects community-based medical institutions to medical students in the post-COVID-19 era.** Nagoya Med. J. **57(2):** 83-90, 2023.

Tanemura N, Kakizaki M, Kusumi T, Onodera R, Tominaga Y, Araki M, Chiba T. **The initial assessment of single/multiple scales in public risk perception in food safety research: a scoping review.** Nutrire.,**48(1):** article number 28, 2023.

【和文業績】

加藤千晶, 高桑 修, 山羽悠介, 山田一貴, 吉原実鈴, 國井英治, 秋田憲志. **子宮頸癌を合併し Paradoxical Reaction を呈した結核性腹膜炎の1例.** 結核. **98(3):** 89-93. 2023.

高桑 修, 柿崎真沙子. **地域医療と医学生を繋ぐ“教育プラットフォーム”の開発.** BIO Clinica. **38(8):** 694-698. 2023.

丹治史也, 南部泰士, 柿崎真沙子, 嶋谷圭一, 西本大策, 黒澤昌洋. **日本の看護系大学における Institutional Research 活動・業務の実態.** 医学教育. **54(1):** 69-79, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	高桑 修	5(3)	3(1)	2(2)
寄附講座准教授	恒川 幸司	0(0)	0(0)	0(0)
講師	柿崎真沙子	6(0)	4(0)	2(0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の

論文も含む)

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

柿崎真沙子. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 2 年度-令和 6 年度, 65 千円

柿崎真沙子. 厚生労働省科学研究費補助金 (分担). 令和 3 年度-令和 6 年度, 40 千円

柿崎 真沙子. 文部科学省科学研究費 (基盤 A・分担). 令和 3 年度-令和 8 年度, 200 千円

高桑 修. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 4 年度-令和 6 年度, 600 千円

柿崎真沙子. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 4 年度-令和 6 年度, 42 千円

恒川幸司. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・代表). 令和 5 年度-令和 9 年度, 1,500 千円/3,600 千円

恒川幸司. 文部科学省科学研究費 (基盤 B・分担). 令和 5 年度-令和 8 年度, 200 千円

恒川幸司. 文部科学省科学研究費 (基盤 C・分担). 令和 5 年度-令和 7 年度, 100 千円

【その他】

主要な国内学会活動の参加状況

高桑 修. 日本医学教育学会 医学教育モデル・コア・カリキュラム調査研究特別委員会 FD 普及のためのインフラ整備 (インフラチーム). サブリーダー.

柿崎真沙子. 日本疫学会, 広報委員会メディア連携ワーキンググループ

柿崎真沙子. 日本疫学会, 代議員

恒川 幸司. 日本医学教育学会. 入学者選抜部会 部会員

恒川 幸司. 日本医学教育学会. 教育プログラム評価推進委員会 委員

国内学会発表(一部)

以下第 55 回日本医学教育学会大会 (2023 年 7 月 28 日、29 日、@長崎県長崎市)

高桑 修, 柿崎 真沙子, 植田典浩, 伊藤栄作, 宮本真豪, 鳥居暁子, 貫戸明子, 小西 泰介, 三浦聖子.

臨床実習でのフィードバックを促し蓄積する工夫 「指差し評価表」の導入 .

医学教育 54(Suppl.):135-135, 2023 年 7 月.

高桑 修, 柿崎真沙子, 植田典浩, 伊藤栄作, 宮本真豪, 鳥居暁子, 貫戸明子, 小西 泰介, 三浦聖子.

臨床実習における診療科横断プログラム「スチューデントドクターズデイ」の導入

医学教育 54(Suppl.), :229-229 2023 年 7 月.

堀田真千子, 山崎優実, 川村直矢, 栗本真緒, 原田悠希, 半谷和嗣, 水野太陽, 山本滉樹, 下田侑, 宇佐美諄 ….

学生自律的な活動での学び Learning Community と自己決定理論の視点から.

医学教育 54(Suppl.): 170-170, 2023 年 7 月.

柿崎真沙子, 田中里枝子, 福田光輝, 藤坂康司, 脇田妙子, 高桑修.

初年次多職種連携実習における地域公共図書館との連携 2 年目の事例報告.

医学教育 54(Suppl.) :278-278, 2023 年 7 月.

以下第 38 回医学情報サービス研究大会 (2023 年 7 月 1 日 (土) 2 日 (日) @高知県高知市)

柿崎真沙子, 田中里枝子, 福田光輝, 藤坂康司, 脇田 子, 和田彩子, 高桑修. **医療系学部初年次多職種連携実習における地域公共図書館との連携 2 年目の事例報告.** 医学情報サービス研究大会抄録集 38 回: 32-32, 2023 年 7 月.

—次世代医療開発学分野—

<研究活動実績>

【欧文業績】

1. Van Do T, Manabe T, Van Vu G, Minh Nong V, Fujikura Y, Phan D, The Pham T, Duy Do C, Thu Doan T, Trung Nguyen N, Quoc Nguyen T, Van Dong T, Manabe T, Quac Luong C, Kambayashi D, Viet Hoang A, Van Vu N, Kim Trinh G, Ngoc Do S, Kamiya T, Ohara H, Van Nguyen C, Quoc Dang T, Kudo K, Xuan Dao C. **Clinical characteristics and mortality risk among critically ill patients with COVID-19 owing to the B.1.617.2 (Delta) variant in Vietnam: A retrospective observational study.** PLoS One. **18(1)**: e0279713, 2023.
2. Fujikura Y, Somekawa K, Manabe T, Horita N, Takahashi H, Higa F, Yatera K, Miyashita N, Imamura Y, Iwanaga N, Mukae H, Kawana A. **Aetiological agents of adult community-acquired pneumonia in Japan: systematic review and meta-analysis of published data.** BMJ Open Respir Res, **10(1)**: e001800, 2023.
3. Kambayashi D, Manabe T, Hirohara M. **Adaptations in the role of pharmacists under the conditions of the COVID-19 pandemic: a systematic review and meta-analysis.** BMC Health Serv Res, **23(1)**: 72, 2023.
4. Nakada K, Oshio A, Matsubashi N, Iwakiri K, Kamiya T, Manabe N, Joh T, Higuchi K, Haruma K. **Causal effect of anxiety and depression status on the symptoms of gastroesophageal reflux disease and functional dyspepsia during proton pump inhibitor therapy.** Esophagus. **20(2)**: 309-16, 2023.
5. Ito K, kanemitsu Y, Kamiya T, Fukumitsu K, Takeda N, Tajiri T, Kurokawa R, Nishiyama H, Yap J, Fukuda S, Uemura T, Ohkubo H, maeno K, Ito Y, Oguri T, Takemura M, Niimi A. **Functional gastrointestinal disorders are associated with capsaicin cough sensitivity in sever asthma.** Allergol Int. **72(2)**: 271-278, 2023.
6. Fukuta H, Goto T, Kamiya T. **Association of epicardial fat with cardiac structure and function and cardiovascular outcomes: A protocol for systematic review and meta-analysis.** PLoS One. **18(4)**: e0283482, 2023.
7. Funada S, Luo Y, Kataoka Y, Yoshioka T, Fujita Y, Yoshida S, Katsura M, Tada M, Nishioka N, Nakamura Y, Ueno K, Uozumi R, Furukawa TA, **Detectuoin bias in open-label trials of anticancer drugs: a meta-epidemiological study.** BMJ Evid Based Med. **28(6)**: 372-82, 2023.
8. Fukuta H, Goto T, Kamiya T. **Effects of beta-blocker withdrawal in patients with heart failure with preserved ejection fraction: A protocol for systematic review and meta-analysis.** PLoS One. **18(11)**: e0294347, 2023.

9. Hagiwara H, Nakayama T, Hashimoto H, Kusumoto S, Fukuta H, Kamiya T, Ikuta K, Iida S. **Risk factors associated with overall survival in patients with multiple myeloma following carfilzomib treatment: A retrospective study from a large claims database in Japan.** Cancer Med. **12(19)**: 19361-19371, 2023.

【和文業績】

なし

【各教員の論文数（桜山）】

			内訳	
職名	氏名	論文数	欧文	和文
教授	神谷 武	6 (2)	6 (2)	0
准教授	福田 英克	3 (2)	3 (2)	0
准教授	間辺 利江	3 (0)	3 (0)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【各教員の論文数（東部）】

			内訳	
職名	氏名	論文数	欧文	和文
助教	多田 昌史	1 (1)	1 (1)	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

神谷 武. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 5 年度－令和 7 年度、1,690 千円/4,680 千円

福田英克. 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 5 年度－令和 7 年度、1,500 千円/4,680 千円

間辺利江. 文部科学省科学研究費（国際共同研究強化B・代表）. 令和2年度-令和6年度、18,720千円

【その他】

学会発表

<国際学会> (ポスター/口頭)

1. Takeshi Kamiya, Michiko Shikano, Hidekatsu Fukuta. United European Gastroenterology Week 2023. The inhibitory effect of KEISHI-KA SHAKUYAKU-TO(TJ-60), a traditional Japanese herbal medicine, on visceral pain induced by colorectal distension. 2023年10月, Copenhagen, Denmark
2. Naoki Yamada, Masafumi Tada, Mami Tsubota, Masaki Ando, Kenta Hachiya, Kentaro Yamada, Asako Matsushima, Hiroyuki Hayashi. European Emergency Medicine Congress 2023, Barcelona. Enhancing risk stratification by adding a higher cut-off value of high-sensitivity troponin I assay to the High-STEACS pathway. 19/9/2023
2. Toshie Manabe, Chinh Quoc Luong, Son Ngoc Do, Thanh Van Do, Giap Van Vu, Yuji Fujikura, Hiroki Manabe, Vuong Minh Nong, Quynh Thi Pham, Thai Quoc Nguyen, Yoshihiro Kawade, Dan Kambayashi, Tuan Anh Nguyen, Thach The Pham, Nhan Van Vu, Anh Viet Hoang, Cuong Duy Do, Tuan Quoc Dang, Chi Van Nguyen, Koichiro Kudo, Co Xuan Dao. The 27th Congress of the Asia Pacific Society of Respiratory. Similarities and differences between COVID-19-induced and typical ARDS at the time of hospital. 2023年11月, Singapore
4. Toshie Manabe. The International Scientific Conference on Emerging and Re-emerging infectious diseases. How to conduct clinical research using the example of studies on COVID-19 in Vietnam. 2023年3月, Vietnam
5. Toshie Manabe. The International Scientific Conference on Emerging and Re-emerging infectious diseases CONFERENCE ON INFECTIOUS AND TROPICAL DISEASES- BACH MAI HOSPITAL. Clinical characteristics and mortality risk among critically ill patients with COVID-19 owing to the B.1.617. 2023年3月, Vietnam

<国内学会> (口頭)

1. 神谷 武、鹿野美千子、志馬景子、間辺利江、福田英克. 第65回日本平滑筋学会総会、(企画セッション1 基礎と臨床の両方向のアプローチから解き明かす慢性便秘症の病態) 放射線不透過マーカー法による結腸通過時間測定・結腸運動機能評価。2023年8月4日。
2. 神谷 武、春日井邦夫、金澤 素、富田寿彦、鳥居 明、中島 淳、眞部紀明、三輪洋人. 第21回日本消化管学会総会。(パネルディスカッション) X線不透過マーカー法による大腸通過時間測定のプライマリケア医における位置付け。2023年2月10日。
3. 金澤由紀子、片岡千鶴、長屋里美、小坂崇之、尾崎康彦、間辺利江。「胎動」と「妊婦のころ」の変化とその関連についての検討：母親に寄り添った保健指導を目指して」第64回日本母性衛生学会総会・学術集会、2023年10月

学会活動

神谷 武：

日本神経消化器病学会. 理事.
日本消化器病学会. 財団評議員.
日本消化管学会. 代議員.

日本平滑筋学会. 理事
日本臨床薬理学会. 評議員
日本心身医学会. 代議員

学会主催；第56回日本心身医学会中部地方会 2023年12月2日

学術貢献

福田英克

Scientific Reports (Nature publishing group), Editorial board member

教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績

神谷 武

講演：

1. 第8回日本不育症学会認定講習会、講師
2. 愛知県医師会臨床研究倫理研修会、講師
3. 熱田区医師会学術講演会、講師
4. 令和5年度名古屋市立大学第1回臨床研究実施セミナー、講師
5. 令和5年度名古屋市立大学第3回臨床研究実施セミナー、講師

各種委員：

1. (独)医薬品医療機器総合機構(PMDA)専門委員
2. 名古屋市疫学倫理審査委員会委員長
3. 名古屋市中心療育センター研究倫理審査委員会委員長
4. 蒲郡市民病院再生医療審査委員会委員

福田英克

令和5年度名古屋市立大学第5回臨床研究実施セミナー、講師

令和5年度名古屋市立大学第7回臨床研究実施セミナー、講師

令和5年度名古屋市立大学第11回臨床研究実施セミナー、講師

学内研究費

間辺利江、特別研究奨励費(名古屋市立大学・代表)令和5年度、1,050千円

—臨床感染制御学—

＜研究活動実績＞

【欧文業績】

1. Toshiki E, Kondo S, Nakamura A, Yasui T, et al. Clinical characteristics of *Raoultella ornithinolytica* bacteremia and antimicrobial susceptibility of *Raoultella ornithinolytica*. J Infect Chemother 29(5):554-557, 2023
2. Tokimatsu I, Matsumoto T, Nakamura A, et al. Nationwide surveillance of bacterial respiratory pathogens conducted by the surveillance committee of the Japanese Society of Chemotherapy, the Japanese Association for Infectious Diseases, and the Japanese Society for Clinical Microbiology in 2019–2020: General view of the pathogens' antibacterial susceptibility. J Infect Chemother 29:731-743, 2023.
3. Horita Y, Nakamura A, Kimura K et al. Development and evaluation of a novel software program, SAKURA-TDM, for area under the concentration-time curve-guided vancomycin dosing: A short communication. The Drug Monit 45(2), 245-250, 2023
4. Asaoka M, Nakamura A, Kimura K et al. Clinical Usefulness of the “MN Criteria” – the *Clostridioides difficile* Infection Severity Scoring System – in the Japanese Setting. Intern Med 62(1):59-67, 2023

【和文業績】

1. 中村 敦：デジタル版「Current Decision Support」（改訂版）2023
2. 中村 敦：VII呼吸器感染症 A 成人の肺炎 A-3 医療介護関連肺炎 A-3 ウイルス性肺炎．日本感染症学会・日本化学療法学会 JAID/JSC 感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会編：JAID/JSC 感染症治療ガイド．163-167, 2023
3. 中村 敦：第2章 宿主の臓器・組織別にみる感染症と病原体 1. 呼吸器感染症．ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進③ 臨床微生物・医動物 第4版 1刷（メディカ出版）；38-46, 2023.
4. 長谷川 千尋：輸入感染症・寄生虫症の診断と治療．日本口腔感染症学会雑誌；3-14, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	中村 敦	7 (3)	4 (0)	3 (3)

【各教員の論文数（みどり）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
教授	長谷川千尋	1	0	1

【表彰・受賞】

長谷川千尋：瑞友会賞

【外部資金獲得実績】

中村 敦. 文部科学省科学研究費（基盤C・分担）. 令和5年度-8年度、200千円/5,000千円

中村 敦. 中富健康科学振興財団研究助成（分担）. 令和4年度-5年度、200千円/1,500千円

【その他】

国内学会（指定演題）

- 1) 中村 敦. 第249回日本内科学会東海地方会. 第85回東海支部主催生涯教育講演会. 新型コロナウイルス感染症の診療と対応. 2023.2.19
- 2) 中村 敦. 第52回日本嫌気性菌感染症学会. *Clostridioides difficile* 感染症の新たな展開に向けて. 2023.3.4
- 3) 中村 敦. 第38回日本環境感染学会総会. *Clostridioides difficile* 感染症のアウトブレイク対応. 2023.7.22

1. 国内学会（一般演題）

- 1) 恵谷俊紀, 中村 敦, 安井孝周, 他. 第34回日本臨床微生物学会総会・学術集会. *Staphylococcus saprophyticus* の感受性サーベイランスとその臨床像. 2023.2.4
- 2) 田代 渉, 中村 敦, 國島広之, 他. 第52回日本嫌気性菌感染症学会. *Clostridioides difficile* 感染症に対する fidaxomicin 及び vancomycin の有効性・安全性評価: システムティックレビュー&メタ解析. 2023.3.4
- 3) 柴田治人, 中村 敦, 松川則之, 他. 第165回日本神経学会東海北陸地方会. 頭部MRIにて基底核病変 (Lentiform fork sign) を呈した COVID-19 associated encephalopathy の一例. 2023.3.11
- 4) 五明凌平, 中村 敦, 新実彰男, 他. 第63回日本呼吸器学会学術講演会. 気管支鏡検査後の急速な悪化に免疫チェックポイント阻害薬併用化学療法が有効であった肺腺癌の1例. 2023.4.30
- 5) 伊藤 穰, 田上由紀子, 小川綾花, 中村 敦. 第38回日本環境感染学会総会. 院内 COVID-19 クラスターと手指衛生遵守率の関連性について. 2023.7.22
- 6) 恵谷俊紀, 永井隆, 中村 敦. 第38回日本環境感染学会総会. 当院における *Providencia rettgeri* の臨床像と抗菌薬感受性. 2023.7.22
- 7) 飯田萌子, 堀田康弘, 中村 敦, 日比陽子, 他. 第33回日本医療薬学会年会. バンコマイシンの初期投与設計時の目標 AUC に関する後方視的観察研究. 2023.11.4

2. その他講演

- 1) 中村 敦. COVID-19 Seminar in Nagoya. 私たちの COVID-19 への対応. 2023.3.10
- 2) 中村 敦. 第10回昇龍道フォーラム. 名古屋市立大学病院の感染症対策への取り組み. 2023.6.3
- 3) 中村 敦. 第15回中部感染症・化療フォーラム. コロナ禍の AMR 対策—AMR 対策アクションプラン 2016-2020 の検証—. 2023.7.1
- 4) 中村 敦. 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター令和5年度第2回院内感染

- 対策研修講演会. *Clostridioides difficile* 感染症. 2023. 8. 9
- 5) 中村 敦. 豊田地域医療センター感染対策講演会. 最近の感染管理の動向. 2023. 8. 22
 - 6) 中村 敦. 愛知県立時習館高校東京支部例会時習サロン. 感染症から身を守る～コロナ禍の経験を活かして～. 2023. 10. 14
 - 7) 中村 敦. 第 55 回東海抗菌化学療法研究会. 新たな結核の話題. 2023. 11. 30
 - 8) 長谷川 千尋. 緑生涯学習講演会. 油断できない海外からの感染症. 2023. 9. 1
 - 9) 長谷川 千尋. 社保研究会. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の 4 年間を振り返る ～未知の感染症に対してどのように対応し, その経験をどのように活かしていくか～. 2024. 2. 3

3. 主な学会活動

- 1) 中村 敦. 日本嫌気性菌感染症学会: 理事, 雑誌編集委員長, 学会奨励賞選考委員長, 第 51 回学術集会受賞講演座長
- 2) 中村 敦. 日本感染症学会: 常務理事 (広報担当), 編集委員長, 第 97 回学術講演会教育講演座長
- 3) 中村 敦. 日本化学療法学会: 評議員, ガイドライン作成委員, 西日本支部総会教育講演座長
- 4) 中村 敦. 日本呼吸器学会: 代議員, 東海地方会代議員・監事, 第 63 回学術講演会 ICD 講習会座長
- 5) 中村 敦. 日本結核・非結核性抗酸菌症学会: 代議員, 認定制度委員, 第 98 回学術集会要望演題座長
- 6) 中村 敦. 日本呼吸器内視鏡学会: 評議員
- 7) 中村 敦. 日本環境感染学会: 評議員, ガイドライン作成委員

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

1. 学生教育

中村 敦: 医学生講義・臨床実習・OSCE、大学院講義、教養講義
長谷川千尋: 医学生講義

2. その他講義

中村 敦: 病院職員講習、メディカルサポート研修
中村 敦: CU インфекションセミナーコーディネーター・座長
中村 敦: さくらやま抗菌化学療法セミナーコーディネーター・座長
長谷川千尋: 名古屋南部感染症研究会コーディネーター・座長

—中央臨床検査部—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Inoue T, Watanabe T, Tanaka Y. **Hepatitis B core-related antigen: a novel and promising surrogate biomarker to guide anti-HBV therapy.** Clin Mol Hepatol. **29(4)**: 851-868, 2023.
Yagi S, Inoue T, Tanaka Y. **Improved basic performance of iTACT-HBcrAg assay.** J Hepatology. **79(3)**: e133-e134, 2023.

Suzuki T, Matsuura K, Urakabe K, Okumura F, Kawamura H, Sobue S, Matoya S, Miyaki T, Kimura Y, Kato D, Kusakabe A, Tanaka Y, Ozasa A, Nagura Y, Fujiwara K, Nojiri S, Hagiwara S, Kusumoto S, Inoue T, Tanaka Y, Kataoka H. **Outcome of nucleos(t)ide analog cessation in patients with treatment for prevention of or against hepatitis B virus reactivation.** Hepatol Res. **53(4)**: 289-300, 2023.

Wong DK, Inoue T, Mak LY, Hui RW, Fung J, Cheung KS, Seto WK, Tanaka Y, Yuen MF. **A longitudinal study to detect hepatitis B surface and core-related antigens in chronic hepatitis B patients with hepatitis B surface antigen seroclearance using highly sensitive assays.** J Clin Virol. **160**: 105375, 2023.

Inoue T, Tanaka Y. **Section I HEPATITIS: ADVANCES IN CLINICAL EVALUATION 2. Noninvasive assessments of disease severity: biomarkers.** Comprehensive Guide to Advances in Hepatitis. 31-60, 2023.

【和文業績】

井上 泰輔、井出 達也、内田 義人、小川 浩司、井上 貴子、末次 淳、池上 正、瀬戸山 博子、井上 淳、柿崎 暁、榎本 大、立木 佐知子、遠藤 美月、永田 賢治、是永 匡紹、拠点病院以外の肝疾患専門医療機関における院内肝炎ウイルス陽性者対策調査。肝臓。64 巻(12), 649-652, 2023.

大根 久美子、可児 里美、北村 由之、鷲 陽香、金子 敦、大橋 実、菊池 祥平、田中 靖人、井上 貴子 高感度 HB コア関連抗原全自動測定系におけるキャリアオーバーの検証。肝臓。64 巻(12), 656-659, 2023.

廣田 健一、井上 貴子、小川 浩司、荒生 祥尚、遠藤 美月、池上 正、戸島 洋貴、末次 淳、柿崎 暁、瀬戸山 博子、榎本 大、是永 匡紹 肝炎ウイルス陽性者対策が急がれる非肝臓専門科は？。肝臓。64 巻(11), 587-589, 2023.

磯田 広史、榎本 大、高橋 宏和、大野 高嗣、井上 泰輔、池上 正、井出 達也、徳本 良雄、小川 浩司、瀬戸山 博子、内田 義人、橋本 まさみ、廣田 健一、柿崎 暁、立木 佐知子、井上 貴子、遠藤 美月、島上 哲朗、荒生 祥尚、井上 淳、末次 淳、永田 賢治、是永 匡紹 肝疾患診療連携拠点病院における肝炎医療コーディネーターの現状（第 2 報）。肝臓。64 巻(10), 510-513, 2023.

井上 貴子、加治屋 幹人、加藤 正美、本山 智得、山崎 健次、内堀 典保、是永 匡紹.
歯科医師のB型肝炎ワクチン接種状況にみられる問題点. 肝臓. **64巻(3)**, 150-151, 2023.
 鈴木 孝典、井上 貴子、田中 靖人. **B型肝炎 治療 シーケンシャル療法**. 日本臨床. **81**
 (増刊7 ウイルス性肝炎学 2023), 401-406, 2023.

井上 貴子、田中 靖人. **マイクロバイオームとウイルス性肝炎**. 肝胆膵. **86巻(3)**, 325-331, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職 名	氏 名	論文数	内訳	
			欧 文	和 文
准教授	井上 貴子	12 (6)	5 (2)	7 (4)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

井上 貴子, **ロシュ株式会社**. Infectious Disease Award. Clinical efficacy of a novel, high-sensitivity HBcrAg assay in the management of chronic hepatitis B and HBV reactivation, 2024年2月

井上 貴子, **American Association for the Study of Liver Diseases**. The Liver Meeting Presidential Poster of Distinction. Cluster analysis of the characteristics of fecal bile acid composition and causes of dysbiosis in chronic hepatitis C, 2023年11月

【外部資金獲得実績】

井上 貴子, 厚生労働科学研究費(分担). 令和5年度-令和7年度, 2,000千円

井上 貴子, 厚生労働科学研究費(分担). 令和3年度-令和5年度, 1,000千円

井上 貴子, 文部科学省科学研究費(挑戦(萌芽)・分担). 令和4年度-令和5年度、387,238千円

井上 貴子, 文部科学省科学研究費(基盤C・代表). 令和4年度-令和5年度、3,100千円

井上 貴子, 受託研究費(AMED・分担). 令和5年度, 500千円

井上 貴子, 受託研究費(富士レビオ株式会社)令和2年度-令和6年度, 2,039千円

井上 貴子. 共同研究費(富士レビオ株式会社). 令和5年度-令和7年度, 461千円

井上 貴子. 共同研究費(東ソー株式会社). 令和5年度-令和7年度, 150千円

井上 貴子. 共同研究費(富士レビオ株式会社). 令和4年度-令和6年度, 1,000千円

井上 貴子. 共同研究費(シスメックス株式会社). 令和4年度-令和6年度, 500千円

井上 貴子, 共同研究費(シスメックス株式会社). 令和3年度-令和5年度, 282千円

【その他】

国際学会発表

Inoue T, Shizuma Y, Kato M, Kondo Y, Miyano T, Ito N, Uchibori N, Korenaga M. APASL 2024 Kyoto, The role for the hepatitis medical care coordinator training course proposed by a dental association, March 27-31, 2024.

Inoue T, Watanabe H, Iio E, Ohnishi M, Isogawa M, Kawashima K, Moriya K, Kawaratani H, Suzuki Y, Matsuura K, Yoshiji H, Tanaka Y. AASLD The Liver Meeting, Cluster analysis of the characteristics of fecal bile acid composition and causes of dysbiosis in chronic hepatitis C. Nov. 10-14, 2023. Presidential Poster of Distinction (優秀演題賞) を受賞

Inoue T, Watanabe H, Iio E, Onishi M, Moriya K, Kawaratani H, Suzuki Y, Matsuura K, Yoshiji H, Tanaka Y. AASLD The Liver Meeting, Characteristics of the intestinal environment and its relationship to disease progression based on the fecal bile acids composition before and after hepatitis C virus elimination. Nov. 10-14, 2023.

Inoue T, Suzuki T, Watanabe T, Iio E, Nagaoka K, Setoyama H, Yoshimaru Y, Matsuura K, Tanaka Y. AASLD The Liver Meeting, Clinical application of novel highly sensitive hepatitis B surface antigen and hepatitis B core-related antigen assays for management of HBV reactivation. Nov. 10-14, 2023.

Inoue T, Suzuki T, Matsuura K, Iio E, Nagaoka K, Tateyama M, Setoyama H, Yoshimaru Y, Watanabe T, Tanaka Y. EASL The International Liver Congress, Clinical evaluation of highly sensitive iTACT hepatitis B core-related antigen and hepatitis B surface antigen assays in the management of HBV reactivation. June 22-26, 2023.

主要な国内学会活動の参加状況

井上 貴子、日本臨床検査医学会 評議員 (2019年度～)

同・日本臨床検査医学会専門医試験作成委員 (2019年度～)

同・東海北陸支部幹事 (2021年7月～)

井上 貴子、日本内科学会 東海支部評議員 (2019年度～)

井上 貴子、日本肝臓学会 西部会評議員 (2021年度～)

同・評議員 (2024年度～)

同・研究助成委員会委員 (2024年7月～)

井上 貴子、日本臨床化学会 東海北陸支部幹事 (2021年7月～)

同・評議員 (2023年4月1日～)

—緩和ケアセンター—

<研究活動実績>

【欧文業績】

Takagi Y, Sato J, Yamamoto Y, Matsunuma R, Watanabe H, Mori M, Hasegawa T, Matsuda Y, Kako J, Kasahara Y, Goya S, Kohara H, Nakayama T, Yamaguchi T. **Opioids for the management of dyspnea in cancer patients: a systematic review and meta-analysis.** *Int J Clin Oncol.* **28(8)**: 999-1010, 2023.

Matsuda Y, Tanimukai H, Inoue S, Hirayama T, Kanno Y, Kitaura Y, Inada S, Sugano K, Yoshimura M, Harashima S, Wada S, Hasegawa T, Okamoto Y, Dotani C, Takeuchi M, Kako J, Sadahiro R, Kishi Y, Uchida M, Ogawa A, Inagaki M, Okuyama T. **A revision of JPOS/JASCC clinical guidelines for delirium in adult cancer patients: a summary of recommendation statements.** *Jpn J Clin Oncol.* **53(9)**: 808-822, 2023.

Hasegawa T, Ochi T, Goya S, Matsuda Y, Kako J, Watanabe H, Kasahara Y, Kohara H, Mori M, Nakayama T, Yamaguchi T. **Efficacy of supplemental oxygen for dyspnea relief in patients with advanced progressive illness: A systematic review and meta-analysis.** *Respir Investig.* **61(4)**: 418-437, 2023.

Mori M, Miwa S, Ikari T, Kako J, Hasegawa T, Matsunuma R, Suzuki K, Matsuda Y, Watanabe H, Morita T, Yamaguchi T. **Current Management Options for Dyspnea in Cancer Patients.** *Curr Treat Options Oncol.* **24(6)**: 565-579, 2023.

Hasegawa T, Ito Y, Furukawa Y, Okuyama T, Kojima N, Uchida M, Tasaki Y, Suzuki N, Ishida K, Kashima S, Kubota Y, Akechi T. **Specialized Palliative Care and Intensity of End-of-Life Care Among Adolescents and Young Adults with Cancer: A Medical Chart Review.** *J Adolesc Young Adult Oncol.* **12(4)**: 488-495, 2023.

Uchida M, Furukawa TA, Yamaguchi T, Imai F, Momino K, Katsuki F, Sakurai N, Miyaji T, Horikoshi M, Iwata H, Zenda S, Iwatani T, Ogawa A, Inoue A, Abe M, Toyama T, Uchitomi Y, Matsuoka H, Noma H, Akechi T. **Optimization of smartphone psychotherapy for depression and anxiety among patients with cancer using the multiphase optimization strategy(MOST) framework and decentralized clinical trial system (SMartphone Intervention to Lessen depression/Anxiety and GAIN resilience: SMILE AGAIN project): a protocol for a randomized controlled trial.** *et Al. Trials.* **24(1)**:344, 2023

Akechi T, Yamaguchi T, Uchida M, Imai F, Momino K, Katsuki F, Sakurai N, Miyaji T, Mashiko T, Horikoshi M, Furukawa TA, Yoshimura A, Ohno S, Uehiro N, Higaki K, Hasegawa Y, Akahane K, Uchitomi Y, Iwata H. **Smartphone Psychotherapy Reduces Fear of Cancer Recurrence Among Breast Cancer Survivors: A Fully Decentralized Randomized Controlled Clinical Trial (J-SUPPORT 1703 Study).** *J Clin Oncol.* **10;41(5)**:1069-1078, 2023

【和文業績】

大澤 友裕(岐阜市民病院 薬剤部), 飯原 大稔, 浅野 裕紀, 長谷川 貴昭, 梅田 道, 安田 昌宏, 舘 知也, 澤 祥幸, 吉村 知哲, 水井 貴詞, 笠原 千嗣. **多施設共通のアプリ・ワークシート作成の取り組みとその副作用評価.** *日本臨床腫瘍薬学会雑誌.* **33**: 10-16, 2023.

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
講師	内田 恵	3	3(1)	0(0)
助教	長谷川貴昭	6	5(3)	1(0)
助教	菊池 志乃	0	0(0)	0(0)

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

内田 恵. 特定非営利活動法人日本緩和医療学会. 第 28 回日本緩和医療学会学術大会
優秀演題賞. 令和 5 年 7 月

長谷川 貴昭. 特定非営利活動法人日本緩和医療学会. 第 28 回日本緩和医療学会学術
大会優秀演題賞. 令和 5 年 7 月

【外部資金獲得実績】

<記入要領>

内田恵 文部科学省科学研究費（基盤 C・代表）. 令和 4 年度-令和 7 年度、
540 千円/1, 222 千円

長谷川貴昭. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和 5 年度-令和 9 年度、
1, 040 千円/4, 550 千円

長谷川貴昭. 文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）. 令和 4 年度-令和 7 年度、
100 千円

菊池志乃. 文部科学省科学研究費（若手・代表）. 令和 5 年度-令和 8 年度、
1, 950 千円/3, 600 千円

菊池志乃. 文部科学省科学研究費（研究スタートアップ・代表）. 令和 4 年度-令和 5
年度、1, 430 千円/2, 200 千円

菊池志乃. KDDI 財団調査研究助成. 2023 年度-2025 年度、3, 000 千円

【その他】

国際学会発表（ポスター）

Uchida M, Akechi T, Morita T, Igarashi N, Shima Y, Miyashita M, Terminal delirium related
distress is associated with bereaved prolonged grief disorder. Clinical Oncology Society of
Australia 50th Annual Meeting. 2-4. Nov.2023

主要な国内学会活動の参加状況

内田恵 日本サイコオンコロジー学会 代議員

内田恵. 日本サイコオンコロジー学会. ガイドライン策定委員会 せん妄小委員会

長谷川貴昭. 日本緩和医療学会. 学術大会支援メンバーWG

長谷川貴昭. 日本緩和医療学会. 呼吸器症状ガイドライン改訂 WG

長谷川貴昭. 日本サイコオンコロジー学会. ガイドライン策定委員会 せん妄小委員会

—医療デザイン研究センター—

<研究活動実績>

【欧文業績】

なし

【和文業績】

なし

【各教員の論文数（桜山）】

職名	氏名	論文数	内訳	
			欧文	和文
講師	寺田 隆哉	0	0	0

注：（ ）内の数字は筆頭著者又は責任著者の論文を表す（教授の場合は最終著者の論文も含む）

【表彰・受賞】

なし

【外部資金獲得実績】

寺田 隆哉、文部科学省科学研究費（基盤 C・分担）、令和 3 年度-令和 5 年度、200 千円

【その他】

《セミナー等登壇》

寺田隆哉、医療・介護機器開発を始める前に聞く講演会（主催：名古屋市、名古屋産業振興公社）「医療デザイン研究センターの役割と期待する成果」、2023 年 8 月 4 日

寺田隆哉、介護機器開発チャレンジワークショップ（主催：名古屋市、名古屋産業振興公社）「介護機器の品質評価について」、2023 年 12 月 14 日

<教育活動・臨床業務等の特筆すべき実績>

- ・ヘルスケアイノベーション推進会議 委員（名古屋市経済局、名古屋産業振興公社）
- ・中部医療産業化ネットワーク会議 委員（中部経済産業局）

第2章

教育活動実績

2023年度

医学部教育要項

名古屋市立大学

目 次

1	医学部医学科の皆さんへ	1
2	医学部の沿革	2
3	シラバスを読むにあたって	3
	(1) シラバスの意義	3
	(2) シラバスに記載されている項目の説明	3
4	医学部・医学部附属病院の理念と目的、基本方針	5
	(1) 医学部	5
	(2) 名古屋市立大学病院	5
	(3) 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター	5
	(4) 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター	5
	(5) 名古屋名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院	6
	(6) 名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院	6
5	卒業時の到達目標と教育課程の可視化	7
	(1) 卒業時到達目標（卒業時コンピテンシー、ディプロマ・ポリシー）	7
	(2) カリキュラム・ポリシー	8
	(3) カリキュラム・マップ	9
	(4) カリキュラム・ツリー	10
6	履修要項	11
	(1) カリキュラムの特徴	11
	(2) 日程・時間割	13
	ア 学事日程	13
	イ 1年 授業時間割	14
	ウ 2年4月～12月 授業時間割	15
	エ 2年1月～12月 授業時間割	16
	オ 3年1月～4年12月 授業時間割	17
	カ 4年1月～5年10月 授業時間割	18
	キ 5年11月～6年 授業時間割	20
	(3) 授業時間・講義室	21
	(4) 専門教育授業科目	21
	ア 授業科目一覧	21
	イ 医学教育モデル・コア・カリキュラム対応一覧	23
	ウ 選択制コース	28
	(5) 試験・成績評価	29
	ア 出席要件	29
	イ 成績評価	29
	ウ 試験の種類	30
	エ 成績疑問票	30
	オ 試験における不正行為の禁止	30
	カ レポート課題作成時の注意	31
	(6) 進級要件・卒業要件	31
	(7) 受講態度・講義資料について	32
	(8) 授業評価、学修成果の達成度評価	33
	(9) 暴風警報発令時等における授業・試験について	33
	(10) 実習参加資格にかかる抗体検査・ワクチン接種及び保険加入について	35
7	学生支援・指導体制	36
	(1) 学生委員会・学年担任	36
	(2) 連絡担当教員制度（M1・M2）	36
	(3) メンター制度（臨床実習学生）	37
8	その他の学生生活上の案内・注意事項	38
	(1) 医学部事務室について	38
	(2) 学生への連絡方法	38
	(3) 学生から事務室への連絡方法	38
	(4) 講義室、研修室の利用	38
	(5) ロッカーの利用	39
	(6) 学内無線LAN（ncuwifi）	39
	(7) 学生自治会・学生代表委員会について	39
	(8) 住所・氏名等の変更	39
	(9) 学生証について	40
	(10) 証明書、学割の発行について	40
	(11) 駐輪許可登録	40
	(12) 休学・復学・退学	40
	(13) 遺失物・拾得物	40
	(14) 自家用車の乗入れの禁止	40
9	専門教育科目の内容	41
	(1) 1年次	42
	総合医学コース	43
	社会医学コース	45
	(2) 基礎医学（2年次4月～12月）	48
	解剖学コース	49
	肉眼解剖学	49
	組織学・発生学・神経解剖学	49
	生化学コース	52
	物質と代謝	52
	分子と細胞	52
	生理学コース	55
	植物的機能系	55
	動物的機能系	57
	総合医学コース	58
	水平統合基礎	58

	行動科学・地域医療学コース	コミュニティ・ヘルスケア基礎	60
		行動科学	62
	研究能力養成コース	学術論文入門	64
(3)	臨床基礎医学（2年次1月～3年次12月）		66
	感染微生物コース	医動物学	67
		細菌学	69
		ウイルス学	71
	免疫学コース	免疫学	73
	病理学コース	病態病理／臨床病理	75
	薬理学コース	薬理学	77
	社会医学コース	法医学	79
		医学・医療倫理	81
	行動科学・地域医療学コース	神経科学	83
		疼痛科学	85
		コミュニティ・ヘルスケア応用	87
	研究能力養成コース	Scientific Writing and Presentation	89
		先端研究	91
		遺伝医学	93
	臨床能力養成コース	救命救急	95
	総合医学コース	水平統合病態	97
(4)	臨床医学（3年次1月～4年次12月）		100
	臨床医学コース	血液・造血器・リンパ系	101
		神経系（神経内科）	103
		（脳神経外科）	105
		皮膚系	107
		運動器系・リハビリテーション	109
		循環器系	111
		呼吸器系	113
		消化器系・内視鏡	115
		腎・尿路系（腎臓内科）	117
		（泌尿器科）	119
		生殖機能（泌尿器科）	121
		生殖機能（婦人科）	123
		妊娠と分娩	125
		乳房	127
		内分泌・栄養・代謝系	129
		眼・視覚系	131
		耳鼻・咽喉・口腔系	133
		精神系	135
		臨床感染症学	137
		成長と発達／発生	139
		麻酔科学・集中治療医学	141
		疼痛医学（痛みと行動科学）	143
		食事と栄養療法	145
		放射線等を用いる診断と治療	147
		輸血と移植	149
		膠原病	151
		臨床腫瘍学	153
		救急科	155
		漢方医学	157
		臨床処方学	159
	社会医学コース	予防医学基礎	161
	臨床能力養成コース	基本臨床技能実習	163
		臨床診断推論	165
	行動科学・地域医療学コース	コミュニティ・ヘルスケア発展	167
(5)	6年次		170
	社会医学コース	予防医学応用1	171
		予防医学応用2	173
		法医学	175
※臨床実習・選択制臨床実習の内容については、「臨床実習の手引き」を参照すること。			
10	規程・資料集		177
	(1) 医学部履修規程（2022年1月発布版）		177
	(2) 医学教育モデル・コア・カリキュラム		188
	(3) 成績疑問票		190
	(4) 再（追）試験受験願・試験欠席届		192
	(5) 名古屋市立大学医学部第4学年の試験に関する一般的な注意事項		193
	(6) 共用試験についての留意事項		194
	(7) 卒業試験 総合客観試験について		195
	(8) 名古屋市立大学医学部 臨床実習資格基準		196
	(9) 名古屋市立大学医学部 医療系実習参加資格基準		196
	(10) アンプロフェッショナルな行動・態度のみられた学生の評価と対応		197
	(11) 定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針		199
	(12) SNS利用時の注意事項		201
	(13) 名古屋市立大学医学部学生代表委員会規約		202
11	キャンパスマップ		206
	(1) 桜山（川澄）キャンパス建物配置図		206
	(2) 医学部基礎教育棟		207
	(3) 医学研究棟		208
	(4) 西棟		209

1. 医学部医学科の皆さんへ

名古屋市立大学における医学部教育は文部科学省から公表されている医学教育モデル・コア・カリキュラムに沿う形で各講義・実習が構成されています。また、本学医学部が設定した学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）として①科学者としての医師、②臨床家としての医師、③社会における医師、④プロフェッショナルとしての医師、の4つを掲げています。これらのディプロマ・ポリシーに合わせた医師を育てるために、それぞれについて卒業時到達目標（卒業時コンピテンシー）を設定しています。医学部教育においては、これらの目標に到達できるような教育を提供することが教員の責務であり、学生諸君にとっては「何を教えられたか」ではなく、「何ができるようになったか」というものが大事であるということです。このような教育を学修成果基盤型教育と呼んでいます。カリキュラム自体は基礎医学から臨床医学へと徐々に積み上げる形で構成されていますが、大学受験で経験してきた詰め込み型学習ではなく、明確化された到達目標に合わせて何が理解できるようになったか、何が実施できるようになったかを常に意識しながら講義に臨んでいただきたいと思います。それらの学習目標については医学部教育要項 9 ページに卒業時到達目標として記載されていますので、ぜひ熟読しておいてください。

名古屋市立大学独自の教育プログラムとして「医薬看連携地域参加型学習」があります。これは医学部、薬学部、看護学部の医療系3学部を持つ特徴を生かした多職種連携教育カリキュラムで、3学部の1年生が混成した10～11人からなるグループを構成して、医療保健福祉施設、学校、学区連絡協議会、地域振興会などの地域コミュニティ機関を担当、あるいは山間部・離島などに出向いて地域における諸問題、ニーズを見出し、それらについて学生ならではの視点から課題解決に向けた活動を行うものです。この活動を通じて将来の医療チームの一員としての自覚、医師としての社会貢献、プロフェッショナリズムを修得することを目指しています。また、3年次には全員が基礎医学講座のいずれかに所属して、最先端の医学研究を経験する基礎自主研修が組まれています。基礎自主研修では、学生諸君が基礎研究に触れる事で研究のプロセスを理解し、自身の科学的思考力を鍛えることに重点を置いています。医学領域においてみられる種々の現象に対して疑問を感じ、それを解明するためにどのような解析を行えば良いのか、得られた結果をどのように解釈するのか、というプロセスを実践することで論理的な思考能力を鍛錬することができます。このような倫理的思考能力は将来臨床医として活躍する場においても常に必要とされるものです。

現在の医学教育では国際基準に合わせる形で臨床実習が72週間あります。臨床実習に臨むにあたって、十分な医学知識・技能・態度を有していることを判断するために共用試験である①医学知識を問うコンピューターを用いた試験（computer-based test, CBT）、②基本的な診察技能、患者に対する態度等を問う診療参加型臨床実習前客観的臨床能力試験（pre-clinical clerkship objective structured clinical examination, pre-CC OSCE）に合格して、student doctorの資格を得なければなりません。今年度からCBT、pre-CC OSCEは公的化（国家試験化）されます。すなわち、今までは各大学がそれぞれの合格基準を設定していましたが、今年度からは全大学で統一した合格基準で判定されることとなります。また、卒業時には診療参加型臨床実習後 OSCE（Post-CC OSCE）に合格する必要があります。これらは全て、学生諸君が卒業後に行う臨床研修をスムーズに開始できるようにするために卒前の臨床実習を底上げする形で充実させることを目的に設定されています。

医師は患者の命を預かる重責のある職業であり、そのためにはヒトに対する優しさ、思いやりを持つと同時に診療のための優れた知識・技能が必須です。また、医学発展のための探究心も不可欠です。患者に信頼される優れた医師になるためにも、本学ディプロマ・ポリシーを常に意識しながら勉学に励んでくれることを期待します。

2023年3月

名古屋市立大学医学部長 高橋 智

2. 医学部の沿革

- 1943年4月 名古屋市立女子高等医学専門学校開校
- 1948年4月 名古屋女子医科大学開学
- 1949年10月 名古屋市議会において名古屋女子医科大学と名古屋薬科大学を統合して、名古屋市立大学とする決議案
- 1950年4月 名古屋市立大学設置(旧制医学部入学定員 40名)
- 1951年3月 名古屋市立女子高等医学専門学校閉校
- 1952年4月 新制医学部医学科設置 (入学定員 40名)
- 1955年4月 医学部進学課程設置に伴い、同課程および薬学部一般教育系列の教育を行う教養部を設置
- 1958年9月 医学部を田辺キャンパスから川澄キャンパスに移転
- 1959年5月 旧制医学研究科に学位論文審査権附与
- 1960年11月 医学部図書館を附属病院内から川澄キャンパスへ移転
- 1961年3月 旧制医学部および同研究科廃止
- 1961年4月 大学院医学研究科 (博士課程) 設置
- 1963年4月 医学部医学科入学定員を 60名に増員
- 1966年11月 附属病院を改築、新病院 (川澄キャンパス) にて診療開始
- 1975年4月 医学部医学科入学定員を 80名に増員
- 1975年9月 医学部図書館・講堂完成
- 1977年6月 基礎教育棟完成
- 1981年5月 附属病院増築工事完成
- 1987年4月 医学部分子医学研究所発足
- 1992年12月 医学研究科実験動物研究教育センター完成
- 1996年3月 医学研究科・医学部研究棟完成
- 2000年4月 医学研究科の専攻を再編し、入学定員を 27名から 52名に増員
- 2002年4月 大学院部局化
- 2004年1月 附属病院の病棟・中央診療棟が稼働開始
- 2006年4月 名古屋市立大学の独立行政法人化
- 2007年5月 附属病院の外来診療棟が稼働開始
- 2008年4月 医学研究科修士課程 (入学定員 10名) を設置
- 2009年4月 医学部の入学定員を 92名に増員
- 2010年4月 医学部の入学定員を 95名に増員
- 2012年5月 附属病院の東棟 (喜谷記念がん治療センター) 稼働開始
- 2014年11月 不育症研究センターを設置
- 2015年4月 医学部の入学定員を 97名に増員
- 2015年10月 医学研究科・医学部未来プランを策定
- 2017年1月 先端医療技術イノベーションセンターを設置
- 2019年10月 脳神経科学研究所を開設
- 2021年4月 名古屋市立東部・西部医療センターを名古屋市立大学医学部附属病院化
- 2023年4月 名古屋市立緑市民病院、名古屋市厚生院附属病院を名古屋市立大学医学部附属病院化

3. シラバスを読むにあたって

(1) シラバスの意義

シラバスは、個々の授業科目の目的、内容、目標、予定、成績評価の方法など、授業の概要を示したものである。各授業科目は、医学部の教育理念・目標に沿って、年次ごとに開講されているが、6年間の教育課程における個々の授業科目の目的、学修内容、到達目標、成績評価基準等を明示することによって、教育課程の内容を保証するとともに、学生が、いつ、何を、何のために、どのようにして学び、どこまで到達するべきかを知る学修指針として重要な役割を果たす。以下の点を理解した上でシラバスを活用し、高い学修効果をあげるように心がけてほしい。

- ①各授業を受ける前に、シラバスには必ず目を通し、その内容を理解した上で臨むこと。
- ②シラバスの到達目標は、「能動的に学ぶ目標」であり、「受動的に教えられる」ものではない。意欲的な学修態度を持ち、自ら課題を発見し、解決する力を身につけることが必要である。授業で理解が十分できなければ、教員へ積極的に質問すること。
- ③「到達目標」として記載された事柄については、学生自らが説明でき、実践できることが求められる。学生が「良医」となるために身に付けなければならないものは、単なる知識にとどまらず、技能・態度を含めた多角的な能力である。
- ④示された評価法により、学生は「到達目標」に示された能力を身につけることができたかを測られる。各授業科目でどのような評価を受けるかを十分に理解すること。
- ⑤名古屋市立大学医学部の教育課程は、学生が「良医」となるために必要な能力、卒業時到達目標に示された17項目の能力を、6年間を通して身につけられるよう、一貫した形で編成されている。卒業時の到達目標に示された17項目の能力について、現在の自分がどこまで到達しているのかを確認しながら学修をすすめること。

(2) シラバスに記載されている項目の説明

授業目的・目標	当該授業科目を学ぶ目的と一般目標
キーワード	授業科目の概要を理解しやすくするための、授業で扱う主なトピックスに関するキーワード
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	当該授業科目が、4領域17項目の卒業時到達目標のどの目標の修得に関連しているかを示している。
学修到達目標	学生が、この授業科目を修得した時点で身につけておかなければならない能力とそのレベルを具体的に記述している。また、医学教育モデル・コア・カリキュラムの該当項目についても記載している。
成績評価基準	・秀（90点以上）、優（80点以上）、良（70点以上）、可（60点以上） ・合格／不合格 により成績を評価する。

授業概要	到達目標を踏まえた、授業の中で行うことの概要
授業計画	授業回ごとの授業内容や担当教員
授業時間外の学修	課題を課して次回までに提出するなど、授業時間外の学修として教員が学生に望むこと。
成績評価方法	小テスト、課題レポート、中間試験、期末試験、実習態度等、学修到達目標に対する達成度をどのように評価するか。
教科書・テキスト	指定の教科書、参考書。教科書を使用しない場合はその旨を記載。
参考文献	学修上の参考となる文献等
履修上の注意事項	受講する上での注意事項、授業中の態度や遅刻、途中退出の取扱い、資料の配布方法、課題提出のルール、持ち物、服装など。
履修者への要望事項	事前に学んでおくとい分野や、基礎知識を得るために読んでおくとい文献等、学生に望むこと。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、PBL、TBL、体験学習、ロールプレイなど、単なる講義でない授業方法を実施する場合の内容。
連絡先・オフィスアワー	学生が教員に質問・相談できる時間や、連絡先を記載。 ※教員を訪問する際には、原則として事前連絡を行うこと。
実務経験を生かした教育の取り組み	令和2年度から開始された「授業料減免及び給付型奨学金制度」で必要な実務経験のある教員による授業科目の配置。
備考	学生へのメッセージ、科目の補足情報等
関連 URL	履修にあたって参考になるウェブサイトの URL

4. 医学部・医学部附属病院の理念と目的、基本方針

本学医学部生が所属する名古屋市立大学医学部及びその附属3病院についての理念と目的、基本方針を示す。

(1) 医学部

教育研究上の目的

- (1) 人間味にあふれ、深い医学知識と技術を備えた医師を育成すること
- (2) 人類の未来に貢献する医学研究を行い、その成果を社会に還元すること
- (3) 名古屋都市圏の中核医育機関として地域住民の健康と福祉増進に貢献できる医師を育成すること

人材の養成に関する目的

- (1) 科学者としての医師を養成すること
- (2) 臨床家としての医師を養成すること
- (3) 社会における医師を養成すること
- (4) プロフェッショナルとしての医師を養成すること

(名古屋市立大学人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的に関する規程)

(2) 名古屋市立大学病院

理念

- ・ 地域の中核医療機関として、高度かつ安全で開かれた医療を提供するとともに、高い専門性と倫理観を兼ね備えた医療人を育成します

基本方針

- ・ 名古屋都市圏の中核医療機関として、高度先進かつ先端医療を提供し、市民の健康と福祉を増進します
- ・ 高度情報化のもとに開かれた医療を提供し、情報公開と医療安全に努めます
- ・ 救急・災害医療センターを開設し、救急・災害医療機能を強化します
- ・ 医学教育を充実し、高い倫理観を持ち信頼される医療人を育成します
- ・ 優れた医学研究の推進を通じて、社会に貢献します

(3) 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター

基本理念

- ・ 安全かつ高度な医療を提供し、市民のいのちと健康を守るとともに優れた医療人を育成します

基本方針

- ・ 心臓血管・脳血管疾患などに対する高度・専門医療の充実に努めます
- ・ 救命救急センター・災害拠点病院としての機能を果たします
- ・ 第二種感染症指定医療機関としての機能を果たします
- ・ 地域の医療機関と連携し、地域医療の発展に貢献します
- ・ 医学教育を充実し、優れた医療人を育成するとともに、医学の発展に寄与する研究及び情報発信を行います

(4) 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター

理念

- ・ 地域に根差した大学病院として高度かつ安心な医療を提供するとともに優れた医療人を育成します

基本方針

- ・ 公立大学病院の使命を自覚し、安心安全で質の高い医療を提供します
- ・ がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センターとして、がん医療、小児・周産期医療の充実に努めます
- ・ 地域の医療機関と連携し、地域医療の発展に貢献します
- ・ 充実した医学教育のもと、人間味豊かな優れた医療人を育成します
- ・ 医学研究を推進し、新しい医療の創出を進めます

(5) 名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院

理念

- ・地域の健康未来を創造する大学病院として、安全で高度な医療の提供とともに地域医療の持続的発展に貢献する医療人を育成します

基本方針

- ・急性期医療及び回復期医療をワンストップで提供し、「治し支える医療」を実践します
- ・安全で高度かつ先進的な医療の創出とともに、地域医療のニーズに的確・迅速に応えます
- ・地域包括ケアシステムの深化・発展に寄与し、地域との調和及び共生を目指します
- ・「地域を診る心」と「常に学ぶ心」を大切にする誠実で優れた医療人を育成します
- ・先制的かつ集学的な予防医学研究の推進により健康社会の実現に貢献します

(6) 名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院

理念

- ・「健康寿命日本一の名古屋」を目指す医療を地域と連携して提供するとともに、百寿社会に資する先端研究を行い、優れた医療人を育成します

基本方針

- ・横断的な診療を担うセンター機能の提供による先駆的な医療を提供します
- ・自立・自活や生活の質(QOL)の向上に向けて、心身機能回復・維持を目指した医療を提供します
- ・地域包括ケアの拠点として臨床・イノベーションを推進します
- ・高い専門性と倫理観を持ち、医療・介護を支える優れた人材を育成します
- ・健康長寿に資する臨床研究とデータサイエンスに取り組みます

5. 卒業時の到達目標と教育課程の可視化

(1) 卒業時到達目標（卒業時コンピテンシー、ディプロマ・ポリシー）

卒業時到達目標（卒業時コンピテンシー）とは、各学生が卒業時に身に付けておくべき能力を示したものであり、同時に学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）として、この能力を身に着けた者に学位を授与することを規定している。

本学医学部学生が卒業時点において身につけているべき能力を4領域に分けて示す。当学部のカリキュラムは、これらの4領域を各学年で学習し、4領域の能力が到着目標に向かってバランス良く向上することを目指している（卒業時コンピテンシー）。

医学部では、人間味にあふれ、深い医学知識と技術を備えた医師を養成するという教育上の目的に鑑み、以下の能力を有すると認められた者に対し、卒業を認定し、学士(医学)の学位を授与します（ディプロマ・ポリシー）。

領域Ⅰ 科学者としての医師

- a ヒトの正常な構造、機能、行動および疾病の病因・病態を理解、研究し、医学の発展に貢献することができる。
- b 臨床データや文献等の情報を吟味し、その妥当性や適用の有無を決定することができる。
- c 基本的な臨床手技を行うことができる。
- d 科学的知識や科学的理解の限界を認識し、全ての科学的知見は常に更新される性質のものであることを理解できる。

領域Ⅱ 臨床家としての医師

- a 患者・医師関係の意義を理解し、良好な関係を築くことができる。
- b 医療面接や系統的な身体診察によって臨床所見や兆候を捉え、それらを解釈し、適切な検査や治療法を選択できる。
- c 重要な医学的知見や医療情報を、さまざまな立場の人に対し適切に説明、発表することができる。
- d 医療情報の記録、管理を適切に行うことができる。
- e 医療における安全性を理解し、適切な危機管理ができる。

領域Ⅲ 社会における医師

- a 様々な生活環境や国および世界の健康、疾病の動向を評価し、対処できる。
- b 個人および集団の健康を規定する因子を考察し、健康増進、疾病予防の方策を立案できる。
- c 保健、医療、福祉に関する法や制度を社会的動向の中で理解し、活用することができる。
- d 多職種連携による地域包括ケアシステムの構築に貢献できる。

領域Ⅳ プロフェッショナルとしての医師

- a プロフェッショナルとして人間愛と倫理性に溢れ、かつ冷静な行動をとることができる。
- b 多職種と協調して行動し、必要な時にリーダーシップを発揮することができる。
- c 自分の身体的、精神的状況を把握し、ストレスに適切に対応して、必要な時には率直に支援を求めることができる。
- d 継続的に自身の医学知識、医療技術の向上に務めることができる。

(2) カリキュラム・ポリシー

カリキュラム・ポリシーは、教育課程の編成・実施方針を示したものである。

ディプロマ・ポリシーで示した医師としての能力の以下の4領域

- I 科学者としての医師
- II 臨床家としての医師
- III 社会における医師
- IV プロフェッショナルとしての医師

を各学年で巡回しつつ学修します。これにより、各領域の能力をバランス良く徐々に高め、学修目標を達成します。

1年次では、領域Iとして豊かな人間性の陶冶と幅広い教養を身につけるため、教養教育科目および専門科目としての医学入門を通じて科学としての医学を学ぶための基礎を形成します。領域IIとして医薬看連携地域参加型学習を通じ医療者としての基本技能を修得します。領域IIIとして医薬看連携地域参加型学習を通じ地域医療での課題解決をテーマとする学修を行うとともに、医学情報学の学修により必要な情報処理能力を修得します。領域IVとして一般教養科目及び医学入門を通じて医師に相応しい素養を養います。

2～3年次では、領域Iとして基礎医学、臨床基礎医学を学びます。さらに3年次の基礎自主研修を通じて、医師に求められる科学者としての堅実な基盤と広い視野を形成します。また、医学英語を学び、科学者としての研究能力に必要な英語力を修得します。領域IIとして救急救命処置を学修します。領域IIIとして法医学、行動科学、コミュニティ・ヘルスケアを学ぶと共に、社会医学領域の実践的な活動を経験します。領域IVとして医学・医療倫理を学修します。

3年次後半から4年次では、領域Iとして臨床医学を学び、基本的な医学知識を診療活動に参加できるレベルまで高めます。領域IIとして基本医療技能をさらに高め、医療系大学間共用試験（CBT、OSCE）により診療実習に参加できるレベルを担保します。領域IIIとして社会医学を学び、社会と医学との関わりを理解します。領域IVとして医学・医療の様々な側面の学修を通じ、医師に求められる姿勢や態度を学びます。

4年次後半から5年、6年次では、すべての診療科における診療参加型臨床実習および社会医学実習、選択制の診療参加型臨床実習を行います。これらの実践を通じ、領域I～IVの能力をディプロマ・ポリシーが求めるレベルまで総合的に高めます。

実践

PBL・TBLなどのアクティブ・ラーニング方式を導入し、学生の主体的な学修を促します。

4年次後半から6年次では、学生が診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら、医師としての職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な内容を学修する診療参加型臨床実習を行います。

学修成果の評価方法

必要とされる知識・技能・態度の評価は、筆記試験、レポート、ポートフォリオ、共用試験（CBT、OSCE、Post-CC OSCE）、中間発表等の形成的評価、ピア評価などを用いて実施します。

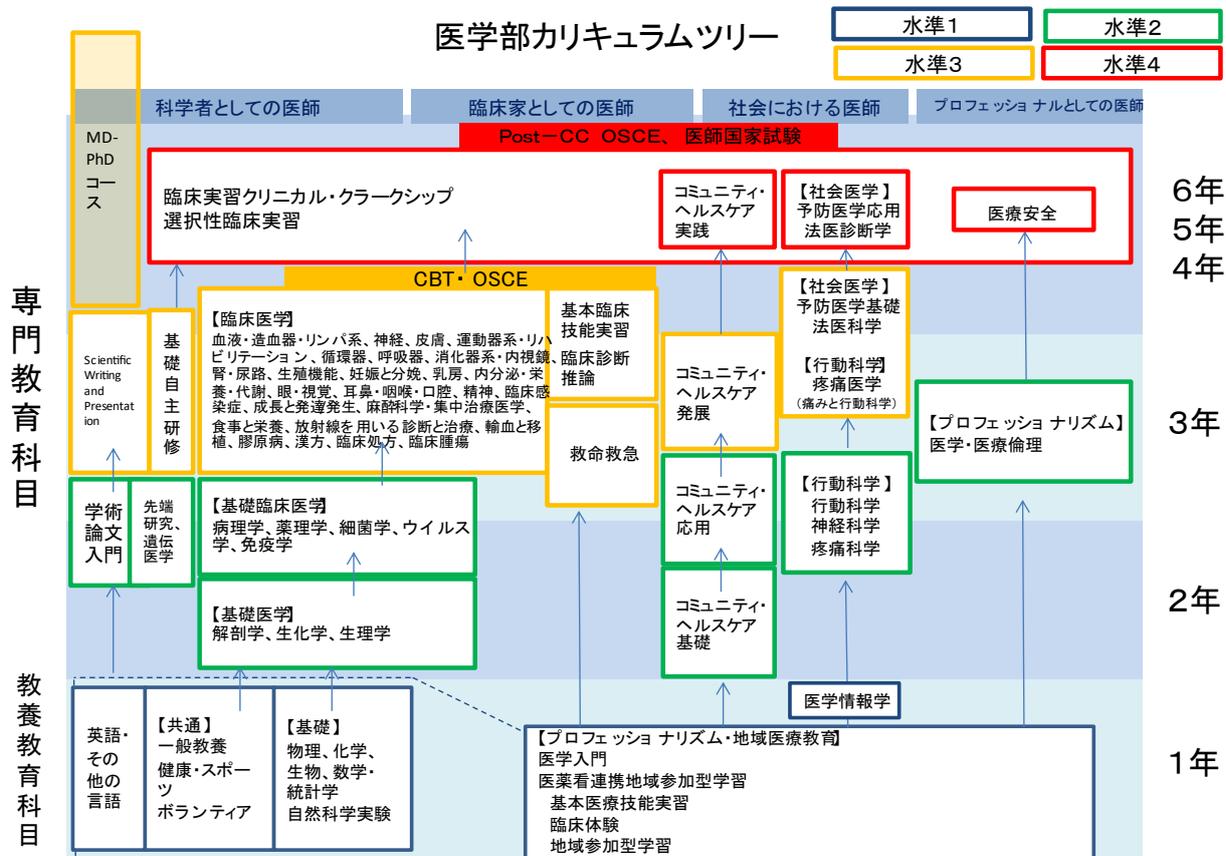
(3) カリキュラム・マップ

カリキュラム・マップは、各授業科目と卒業時到達目標に示した17項目の能力の対応を示したものである。

名古屋市立大学カリキュラムマップ																		
		医学部学士課程																
分類	科目名	I 科学者としての医師				II 臨床家としての医師				III 社会における医師				IV プロフェッショナルとしての			ナンバリング	
		a ヒトの病原因・病態を理解し、研究し、医学の発展に貢献することができる。	b 臨床データや文献等の情報を吟味し、その妥当性や適用の有無を決定することができる。	c 重要な医学的知見や医療情報を、さまざまな立場の人に対し適切に説明発表することができる。	d 科学的知識や科学的理解の限界を認識し、全体的な科学的知見を常に更新される性質のものであることを理解できる。	a 患者・医師関係の意義を理解し、良好な関係を築くことができる。	b 医療面接や系統的な身体診察によって所見や病候を捉え、それらを解釈し、適切な検査や治療法を選択できる。	c 基本的な臨床手技を行うことができる。	d 医療情報の記録・管理を適切に行うことができる。	e 医療における安全性を理解し、適切な危機管理ができる。	a 個人および集団の健康を規定する因子を考察し、健康増進・疾病予防の方策を立案できる。	b 様々な生活環境や国および世界の健康、疾病の動向を評価し、対処できる。	c 社会的動向の中で理解し、活用することができる。	d 多職種連携による地域包括ケアシステムの構築に貢献できる。	a 倫理性に溢れ、かつ冷静な人間愛と論理性に溢れる。	b プロフェッショナルとして人間愛と論理性に溢れ、かつ冷静な人間愛と論理性に溢れる。		c 多職種と協働して行動し、必要な時にリーダーシップを発揮することができる。
		関連する項目には○を、より強く関連する項目は◎を付している。																
1学年 専門教育	医学入門				○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	1011001	
	医学情報学		◎	○	○	○			○	○			○	○		○	1011002	
2学年 専門教育	解剖学 (内眼解剖学)	◎		○	○												1012001	
	解剖学 (組織学・発生学・神経解剖学)	◎		○	○												1012002	
	物質と代謝	◎		○	○												1012003	
	分子と細胞	◎		○	○												1012004	
	植物の機能系	◎		○	○												1012005	
	動物の機能系	◎		○	○												1012006	
	水平統合基礎	◎		○	○												1012007	
	学術論文入門		◎	◎	○				○								○	1012008
	コミュニティ・ヘルスクエア基礎 (IPE)													○	◎	○	◎	1012009
	病態病理/臨床病理	◎		○	○					○	○					○	○	1013001
薬理学	◎		○	○					○	○				○			1013002	
法医学	○		○	○									◎	◎			1013003	
神経科学	◎		○	○													1013004	
疼痛科学	◎		○	○					○	○							1013005	
医学・医療倫理				○	○		○	○		○			◎	◎			1013006	
コミュニティ・ヘルスクエア応用 (IPE)													◎			○	1013007	
Scientific Writing & Presentation		◎	◎	○													○	1013008
先端研究		○	○	◎												◎	◎	1013009
救命救急	○		○	○					◎	○					◎		○	1013010
水平統合病態	○	○	○	○					○	○					○	○	○	1013011
動物学	◎	○	○	○														1013012
細菌学	◎	○	○	○														1013013
ウイルス学	◎	○	○	○														1013014
免疫学	◎	○	○	○												○	○	1013015
基礎自主研修	◎	◎	◎	◎														1013016
遺伝医学	◎																	1013017
血液・造血器・リンパ系	◎	○	○												○			1014001
神経系 (神経内科)	◎			○	○			◎	○	○								1014002
神経系 (脳神経外科)	◎	○	○	○	○			◎	○	○					○			1014003
皮膚系								◎	○									1014004
運動器系/リハビリテーション	◎		○	○				◎	○	○				○		○		1014005
循環器系	◎							◎	○									1014006
呼吸器系	◎							◎						○				1014007
消化器系・内視鏡			○	○										○	○			1014008
腎・尿路系 (腎臓内科)	◎	○	○	○				◎										1014009
腎・尿路系 (泌尿器科)	◎	○	○	○	○			◎		○								1014010
生殖機能 (泌尿器科)	◎	○						◎										1014011
生殖機能 (婦人科)	◎	○						◎							○			1014012
妊娠と分娩	◎	○	○	○				◎	○	○				○	○			1014013
乳房	◎	○	○	○	○			◎										1014014
内分泌・栄養・代謝系	◎	○	○	○	○			◎										1014015
眼・視覚系	◎																	1014016
耳鼻・咽喉・口腔系	◎							◎										1014017
精神系	◎	○	○	○	○			◎						○	○	○		1014018
臨床感染症学																		1014019
成長と発達/発生	◎	○						◎		○				○	○			1014020
麻酔科学・集中治療医学	◎			○	○													1014021
食事と栄養療法																		1014022
放射線を用いる診断と治療	◎								○	○	○							1014023
輸血と移植														○				1014024
膠原病								◎										1014025
漢方医学		○						◎							○			1014026
臨床処方学								◎	○	○								1014027
臨床腫瘍学									○									1014028
救急科			○											○				1014029
疼痛医学 (痛みと行動科学)	○		○	○	◎									○	○			1014030
臨床診断推論		○						◎										1014031
予防医学基礎		○											◎	○	○			1014032
コミュニティ・ヘルスクエア発展 (IPE)													◎	◎	○	○		1014033
基本臨床技能実習/OSCE								◎	◎	◎								1014034
臨床実習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1014035
コミュニティ・ヘルスクエア実践 (IPE)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1014036
予防医学応用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎								1014037
法医学診断学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○								1014038
選択性臨床実習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1014039

(4) カリキュラム・ツリー

カリキュラム・ツリーは、6年間の医学教育の学修の順序や、授業科目間の系統性を図示したものである。



2021年12月改訂

6. 履修要項

(1) カリキュラムの特徴

ア. 学修成果基盤型教育

名古屋市立大学医学部では、医学生が卒業時に達成する学修成果を 4 領域・17 項目の能力として設定し、この能力を修得するために、各学年で 4 領域を巡回しつつ徐々に能力を目標水準に近づける構造のカリキュラムを実施している。このような「どれだけの能力を身につけたか」を重視する教育は、学修成果基盤型教育（Outcome Based Education）と呼ばれ、「どれだけの時間をかけた教育か」を重視するプロセス基盤型教育と対比される。

イ. 医学教育モデル・コア・カリキュラムへの準拠

医学教育モデル・コア・カリキュラムとは、全国医科大学・医学部共通で取り組むべき「コア」の教育内容を示したものであり、本学医学教育は、このモデル・コア・カリキュラムを基本としてカリキュラムを編成している。コアとなる内容はカリキュラム全体の概ね3分の2であり、残り3分の1は大学独自のカリキュラムであるが、その重要性は同等であることに留意する必要がある。

資料 医学教育モデル・コア・カリキュラム 参照

ウ. 医学教育分野別評価適合

医学・医療のグローバル化を背景に、医師が国境を超えて活動することが求められる現代においては、医学教育の質が国際基準に達しているかの保証が求められており、日本では全国の医科大学・医学部が日本医学教育評価機構（JACME）による「医学教育分野別評価」を受審することとされている。名古屋市立大学医学部は、2019年に受審し、評価基準に適合していることが認定された。

エ. 診療参加型臨床実習

医学部 4 年 1 月から開始する臨床実習は、実際の医療現場に入り、臨床の各診療科で実際の患者さんの診察・治療を体験する。この臨床実習では、単に教員の実施している治療を見学するのではなく、学生が診療チームの一員となって、実際の診療業務を分担しながら、医師の職業的な知識・思考法・技能・態度を学ぶ。

オ. 学部横断型プログラム・

・コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラム

エイジング・イン・プレイス（AIP）社会における医学・医療の発展と向上の必要性を理解し、医療のプロフェッショナルとしての使命感と多職種協働能力を持った人材を育成するためのプログラムである。本プログラムは、学部横断型プログラムとして看護学部生、薬学部生も受講することができる。本プログラムに含まれる授業科目は、下記のとおりである。

科目	配当年次	開設学部
医薬看連携地域参加型学習 (インタープロフェッショナル・ヘルスケア論)	1	教養教育
コミュニティ・ヘルスケア基礎	2	医学部専門教育
コミュニティ・ヘルスケア応用	3	
コミュニティ・ヘルスケア発展	4	
コミュニティ・ヘルスケア実践	4・5	

・慢性疼痛患者の生きる力を支える人材育成プログラム

「慢性的な痛み」に対して、通常の薬物療法などの身体的治療だけでなく、認知行動療法をはじめとする精神心理的介入と医師、看護師、心理士、理学療法士などによる多職種によるアプローチが有用であることから、慢性疼痛に関する統合的治療を学び、治療者・援助者としての能力を身につけるためのプログラムである。

本プログラムは、医学部・看護学部・薬学部及び人文社会学部が連携して実施し、学部横断型プログラムとして看護学部生、薬学部生も受講することができる。本プログラムに含まれる授業科目は、下記のとおりである。

科目	配当年次	開設学部
医薬看連携地域参加型学習 (インタープロフェッショナル・ヘルスケア論)	1	教養教育
疼痛科学	3	医学部専門教育
痛みと行動科学	3・4	
臨床実習 (いたみセンター実習)	5・6	

カ. 統合型カリキュラム

医療における問題解決には、様々な領域の知識・技術の活用が求められるため、1科目で複数の専門領域を統合して学ぶカリキュラムを設定している。領域別統合カリキュラム、臓器別統合カリキュラムを取り入れている科目は下記のとおりである。

科目名	配当年次
水平統合基礎	2
水平統合病態	3
神経科学	3
臨床医学コースに属する科目	4

(2) 日程・時間割

ア. 学事日程

区分	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	行事	
2023	1 月		5日 授業開始 ガイダンス	6日 授業開始 ガイダンス	10日 実習開始	10日 実習再開		
	2 月						推薦入試 前期入試	
	3 月							
	4 月	5日 入学式 6日 学部別ガイダンス 12日 授業開始	3日 ガイダンス 4日 授業開始	21日～ 春季休業	18日～ 春季休業	18日～春季休業 27日 実習再開	18日～春季休業 総合客観試験1 27日 実習再開	5日入学式
	5 月							
	6 月				セメスター2試験			
	7 月			基礎自主研修 ガイダンス	セメスター3試験			
	8 月	5日～ 夏季休業	25日～	19日～	29日～	5日～	29日～	夏オープンキャンパス
	9 月	25日 授業開始	28日 授業開始	28日 授業開始 (基礎自主研修)	28日 授業開始 23, 24日 OSCE	21日 実習再開	総合客観試験1再試 28日 プライマリ・ケア実習 社会医学	
	10 月		17日 解剖感謝式	基礎自主研修	21, 22日 OSCE予備日 (兼追再試験)	実習後半開始	7日 Post-CC OSCE	川澄祭 秋オープンキャンパス
	11 月		基礎自主研修発表会	基礎自主研修 発表会	セメスター4試験 16日 CBT セメスター再試験		4日 Post-CC OSCE追再試験 総合客観試験2 国家試験出願手続	
	12 月		進級判定 14日～	進級判定 12日～	CBT再試験 進級判定 臨床実習事前教育 白衣授与式 16日～	23日～		
2024	1 月	23日～ 冬季休業 10日 授業開始	5日 (予定) 授業開始	5日 (予定) 授業開始	9日 (予定) 実習開始	9日 (予定) 実習再開	卒業判定	
	2 月						国家試験受験	推薦入試 前期入試
	3 月	進級判定					卒業式	卒業式

イ. 1年 授業時間割

	月					火					水					木					金																				
	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4																
前期	27					28					29					30					31																				
	3	新入生合同ガイダンス				4	英語力調査				5	入学式				6	学部別ガイダンス				7																				
	10	合宿オリエンテーション				11					12	教養教育				13	教養教育				14	医薬看連携地域参加型学習																			
	17	教養教育				18	教養教育				19	教養教育				20	教養教育				21	医薬看連携地域参加型学習																			
	24													25					26									27													
	1													2					3	憲法記念日						4	みどりの日				5	こどもの日									
	8					9					10	教養教育				11	教養教育				12	医薬看連携地域参加型学習																			
	15					16					17																	18													
	22					23					24																	25													
	29	教養教育				30	教養教育				31	教養教育				1	教養教育				2	教養教育																			
	5					6					7					8					9																				
	12					13					14	教養教育				15	教養教育				16	教養教育																			
	19					20					21					22					23																				
	26					27					28					29					30																				
	3					4					5					6					7																				
	10					11					12					13					14																				
	17	海の日(授業開講日)				18					19					20					21																				
	24	教養教育				25					26					27					28																				
	31	教養・前期期末試験				1	教養・前期期末試験				2	教養・前期期末試験				3	教養・前期期末試験				4	教養・前期期末試験																			
	7	夏季休業(～9/24)				8	夏季休業				9	夏季休業				10	夏季休業				11	山の日																			
	14																					15					16					17									
	21																					22					23					24									
	28					29					30	前期追試験・再試験(8/30-9/1)				31	前期追試験・再試験(8/30-9/1)				1	前期追試験・再試験(8/30-9/1)																			
	後期	4	夏季休業				5	夏季休業				6	夏季休業				7	夏季休業				8	夏季休業																		
		11	夏季休業				12	夏季休業				13	夏季休業				14	夏季休業				15	夏季休業																		
		18	敬老の日				19	敬老の日				20	敬老の日				21	敬老の日				22	敬老の日																		
		25	教養教育				26	教養教育				27	教養教育				28	教養教育				29	教養教育																		
		2	医薬看連携地域参加型学習				3	教養教育				4	教養教育				5	教養教育				6	医学入門				7	教養教育													
9		スポーツの日(授業開講日)					10					教養教育					11					教養教育				12	教養教育				13	教養教育									
16																						17					18					19					20				
23						24					25					26					27																				
30						31					1					2					3	文化の日(授業開講日)																			
6						7					8					9					10																				
13		教養教育				14	教養教育				15	教養教育				16	教養教育				17	教養教育																			
20						21					22	補講日(通常授業なし)				23	勤労感謝の日				24	勤労感謝の日																			
27						28					29	教養教育				30	教養教育				1	医学入門																			
4						5					6	教養教育				7	教養教育				8	教養教育																			
11						12					13	教養教育				14	教養教育				15	教養教育																			
18						19					20	教養教育				21	教養教育				22	教養教育																			
25		冬季休業				26	冬季休業				27	冬季休業				28	冬季休業				29	冬季休業																			
1		冬季休業				2	冬季休業				3	冬季休業				4	冬季休業				5	冬季休業																			
8						9					10	教養教育				11	教養教育				12	教養教育																			
15		教養教育				16	教養教育				17	教養教育				18	教養教育				19	医学入門																			
22						23					24					25					26																				
29		教養 後期期末試験				30	教養 後期期末試験				31	教養 後期期末試験				1	教養 後期期末試験				2	教養 後期期末試験																			
5					医学情報	6				医学情報	7				医学情報	8					9	医入 試験																			
12		振替休日				13	振替休日				14	振替休日				15	振替休日				16	振替休日																			
19		後期追試験・再試験				20	後期追試験・再試験				21	後期追試験・再試験				22	後期追試験・再試験				23	天皇誕生日																			
26						27					28					29					1	医入 再試																			
3		4				5					6					7					8																				

ウ. 2年4月～12月 授業時間割

	月				火				水				木				金								
	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4
4	27					28					29					30					31				
	3	M2オリエンテーション				4	組織	肉眼			5	入学式				6	組織	肉眼			7	組織実習	CHC		
	10	生理	生化			11	生化				12	組織	肉眼			13					14				
	17					18					19		骨実習			20					21				
	24					25					26		解剖実習			27			解剖実習		28			解剖実習	
5	1					2			解剖実習		3	憲法記念日				4	みどりの日				5	こどもの日			
	8					9					10	組織	解剖実習			11	生化	B肝検査			12	組織実習	解剖実習		
	15					16					17					18		解剖実習			19				
	22					23					24					25					26				
	29					30					31					1					2				
6	5					6					7	組織実習				8					9				
	12					13					14					15					16				
	19					20					21					22					23			B肝接種1	
	26					27					28					29					30			自習	
	3	自習	解剖1本試			4		生理			5		生理			6		組織実習			7	生理			
10	生理	生化			11					12					13					14	生理		自習		
17	海の日				18	自習	生化1本試			19					20	生理	B肝接種2			21	自習				
24	組織実習試験				25					26					27					28					
8	31					1					2					3					4				
	7					8					9					10					11	山の日			
	14					15					16					17					18				
	21					22					23					24					25				
	28	自習	生理中間試験			29	生化	行動科学			30	生理	行動科学			31	生理	自習			1	自習	2解中間試験		
9	4	生化実習				5	生化実習				6	生化実習				7	生化実習				8	生理			
	11	生理				12	生化実習	生化予備			13	生化実習	生化予備			14	生理				15				
	18	敬老の日				19	自習	生理			20	生理				21	生理実習				22	生理実習			
	25	生化実習				26	生化実習				27	生化実習				28	生化実習				29	生理	自習		
	2	自習	解剖2本試			3	生化実習	生化予備			4	生化実習	生化予備			5	生理実習				6	生理実習			
10	9	スポーツの日				10	生理	生理実習討論			11	生理	生理実習討論			12					13	生理予備	自習		
	16	自習	生化2本試			17	自習	解剖感謝式			18	生理実習				19					20	生理実習			
	23	生理実習討論	生理予備			24		水平統合			25	生理実習討論	自習			26	生理実習予備				27	川澄祭準備			
	30	川澄祭後片付け				31						1	論文入門	水平統合			2	水平統合	自習			3	文化の日		
	6	自習	植物本試			7	アクティブ学習				8					9	アクティブ学習				10	水平統合予備	自習		
13		動物本試			14					15		アクティブ学習			16					17	論文入門	アクティブ学習			
11	20		解剖1再試			21					22	自習	生化1再試			23	勤労感謝の日				24	基礎自主研修成果発表会			
	27		解剖2再試			28	アクティブ学習	B肝接種3			29	論文入門	アクティブ学習			30	自習	生化2再試			1	論文入門	アクティブ学習		
	4	アクティブ学習				5	自習	植生再試			6					7	アクティブ学習				8	自習	動生再試		
	11	アクティブ学習	論文入門			12	アクティブ学習				13					14					15				

水平統合基礎：循環器系、呼吸器系、消化器系、腎泌尿器系、神経系、内分泌系

※アクティブ学習：論文入門における課題学習、自主学習を指す

エ. 2年1月～3年12月 授業時間割

	月				火				水				木				金								
	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4
1	26					27					28					29					30				
	2					3					4					5	ウイルス	細菌			6	薬理		細菌	
	9	成人の日				10	ウイルス	法医			11	病理	病理			12					13				
	16	細菌	免疫			17					18		B肝検査			19					20				
	23					24					25		病理			26		細菌実習			27			細菌実習	
2	30					31					1					2					3				
	6					7					8					9					10				
	13					14					15					16					17				
	20					21	医動物				22	免疫	医動物			23	天皇誕生日				24			細菌	
	27	ウイルス実習				28	ウイルス実習				1	免疫	病理実習			2	免疫				3				
3	6	医動物				7	医動物	免疫	法医		8	病理				9	免疫	免疫実習			10				
	13	自習	細菌本試			14	医動物				15	病理	病理実習			16	免疫実習				17				自習
	20		薬理中間			21	春分の日				22					23					24				
	27					28					29					30					31				
	3					4					5	病理実習				6	救命救急	薬理実習			7	薬理		薬理	
4	10	法医	SciWriting			11	病理	法医			12	病理	病理			13					14				自習
	17	自習	ウイルス本試			18					19					20					21				薬理
	24	SciWriting	神経科学			25	病理実習				26		病理実習			27					28				自習
	1	自習	免疫本試			2	自習				3	憲法記念日				4	みどりの日				5	こどもの日			
5	8	細菌再試	神経科学			9	病理	法医実習			10	病理実習				11	先端研究	神経科学			12	薬理予備		CHC	
	15	SciWriting				16	病理実習				17	病理				18					19				
	22	ウイルス再試				23	病理				24	病理実習	病理実習			25					26	救命救急(M1実習)		自習	
	29	自習	薬理本試			30	病理実習				31					1	自習				2			CHC	
6	5	神経科学予備	SciWriting			6			先端研究		7		病理予備			8	疼痛科学				9			自習	
	12	自習	法医試験			13	病理	SciWriting			14	病理				15	病理実習	病理実習			16	病理予備		CHC	
	19	SciWriting	水平統合			20	病理予備	水平統合			21	病理実習	医療倫理			22		病理予備			23	医療倫理			
	26	免疫再試	遺伝医学			27	医療倫理	遺伝医学			28	病理実習試験	水平統合予備			29	病理予備	遺伝医学			30			自習	
7	3	自習	神経科学本試			4	病理実習試験	水平統合			5	自習	水平統合予備			6	自習	医療倫理試験			7	水平統合予備			
	10		病理2本試			11	基礎自主研修オリエン				12	基礎自主研修オリエン				13	自習				14	自習			
	17	海の日				18	病理1本試	自習			19					20					21				
8	24					25					26					27					28				
	31					1					2					3					4				
	7					8					9					10					11	山の日			
9	14					15					16					17					18				
	21					22			法医再試		23					24					25			薬理再試	
	28	基礎自主研修開始				29					30					31					1				
	4					5					6					7					8				
	11					12					13					14					15				
10	18	敬老の日				19					20					21					22				
	25					26					27					28					29				
	2					3					4					5					6				
	9	スポーツの日				10					11					12					13				
11	16					17					18					19					20				
	23					24					25					26					27				
	30					31					1					2					3	文化の日			
	6					7					8					9					10				
12	13					14					15					16					17				
	20					21					22					23	勤労感謝の日				24	基礎自主研修成果発表			
	27					28			病理2再試		29	レポート作成期間				30	レポート作成期間				1	医療倫理再試	レポート作成		
12	4					5			病理1再試		6					7					8	神経科学再試			
	11	レポート提出期限				12	進級判定				13					14					15				

オ. 3年1月～4年12月 授業時間割

		月				火				水				木				金				土				日										
		日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4	日	1	2	3	4
1	26	冬季休業				27	冬季休業				28	冬季休業				29	冬季休業				30	冬季休業														
	2	冬季休業				3					4	呼吸器				5	循環器				6	腎・尿														
	9	成人の日				10	急性期医療				11					12					13															
	16	腎・尿				17					18					19					20															
	23	循環器				24	救急				25	循環器				26					27															
2	30					31	腎・尿				1	基本臨床技能実習				2	救急				3															
	6					7	痛みと行動科学				8	腎・尿				9	呼吸器				10															
	13	循環器				14					15					16	呼吸器				17	腎・尿														
	20					21	急性期医療				22					23	S1試験				24	天皇誕生日														
	27	生殖機能				28	神経				29	食事と栄養療法				30	消化器				31	消化器														
3	6					7	乳房				8					9					10															
	13					14					15	消化器				16					17															
	20					21	春分の日				22	春期休業				23	春期休業				24	春期休業														
	27					28					29					30					31															
	3	生殖機能				4	神経				5	神経				6	神経				7	内分泌														
4	10					11	乳房				12	CHC				13	消化器				14	内分泌														
	17	各種検査				18	基本臨床技能実習				19	基本臨床技能実習				20	内分泌				21															
	24	妊娠と分娩				25					26					27	神経				28															
	1					2					3	憲法記念日				4	みどりの日				5	こどもの日														
	8	妊娠と分娩				9	神経				10	神経				11	神経				12	社会医学														
5	15					16	基本臨床技能実習				17	基本臨床技能実習				18	社会医学				19	内分泌														
	22	妊娠と分娩				23	処方学				24	処方学				25	神経				26	社会医学														
	29	社会医学				30	社会医学				31					1	S2試験				2	S2試験														
	5	成長と発達				6	精神				7	眼・視覚				8	耳鼻				9	社会医学														
	12	耳鼻				13	成長と発達				14					15	眼・視覚				16	社会医学														
6	19					20					21					22					23															
	26					27					28	基本臨床技能実習				29	社会医学				30															
	3					4					5					6					7	社会医学														
	10	耳鼻				11	精神				12	成長と発達				13	社会医学				14	成長と発達														
	17	海の日				18	精神				19	成長と発達				20					21															
7	24	社会医学試験				25					26					27	S3試験				28	S3試験														
	31	夏季休業				1	夏季休業				2	夏季休業				3	夏季休業				4	夏季休業														
	7					8					9					10					11	山の日														
	14					15					16					17					18															
	21					22					23					24					25															
8	28	基本臨床技能実習				29	運動器・リハ				30	漢方				31	皮膚				1	基本臨床技能実習														
	4	運動器・リハ				5	輸血				6	血液・造血				7					8	放射線等を用いる診断と治療														
	11	皮膚				12					13					14					15															
	18	敬老の日				19					20	技能実習				21	OSCE事前準備				22	OSCE事前準備														
	25	運動器・リハ				26					27	血液・造血				28	皮膚				29	皮膚														
9	2	皮膚				3	運動器・リハ				4	腫瘍学				5	血液・造血				6	放射線等を用いる診断と治療														
	9	スポーツの日				10	腫瘍学				11	腫瘍学				12	腫瘍学				13	放射線等を用いる診断と治療														
	16	腫瘍学				17	感染				18	感染				19	腫瘍学				20	CBT体験テスト														
	23					24	感染				25					26					27	川澄祭														
	30					31					1	S4試験				2	S4試験				3	文化の日														
10	6					7					8					9					10															
	13					14					15	(CBT事前準備)				16	C B T				17															
	20	セメスター1・2再試				21	セメスター1・2再試				22	セメスター1・2再試				23	勤労感謝の日				24															
	27	セメスター3・4再試				28	セメスター3・4再試				29	セメスター3・4再試				30					1															
	4					5					6	(CBT再試事前準備)				7	CBT追再試				8															
11	11	臨床実習事前教育				12	臨床実習事前教育・進級判定				13	電子カルテ講習				14	電子カルテ講習				15	白衣授与式														
	18	冬季休業				19	冬季休業				20	冬季休業				21	冬季休業				22	冬季休業														
	25					26					27					28					29															
	1					2					3					4					5															
	8	成人の日				9					10					11					12															

セメスター1

セメスター2

セメスター3

OSCE
セメスター4

力. 4年1月~5年10月 授業時間割

2023年1月~10月 (臨床実習前半 4年次1月~3月/5年次4月~10月)																					
2023年	月	火	水	木	金	肝 膵 化 器 内 科	消 化 器 外 科	呼 吸 器 外 科	呼 吸 器 内 科	心 臓 血 管 外 科	心 臓 血 管 内 科	脳 神 經 外 科	脳 神 經 内 科	産 婦 人 科	小 児 外 科	小 児 内 科	救 急 内 科	総 合 内 科	病 理 学 ・ 感 染 病 学 ・ 検 査 科	放 射 線 医 療 科 ・ 核 医 学 科	
01/02	~	01/06	01/02	01/03	01/04	01/05	01/06	冬季休業													
01/09	~	01/13	01/09	01/10	01/11	01/12	01/13	A	B	C	D2	D1	E1	E2	F	G	H1	H2	I	1	
01/16	~	01/20	01/16	01/17	01/18	01/19	01/20	A	B	C	D2	D1	E1	E2	F	G	H1	H2	I	2	
01/23	~	01/27	01/23	01/24	01/25	01/26	01/27	A	B	C	D1	D2	E2	E1	F	G	H2	H1	I	3	
01/30	~	02/03	01/30	01/31	02/01	02/02	02/03	A	B	C	D1	D2	E2	E1	F	G	H2	H1	I	4	
02/06	~	02/10	02/06	02/07	02/08	02/09	02/10	I	A	B	C2	C1	D1	D2	E	F	G1	G2	H	5	
02/13	~	02/17	02/13	02/14	02/15	02/16	02/17	I	A	B	C2	C1	D1	D2	E	F	G1	G2	H	6	
02/20	~	02/24	02/20	02/21	02/22	02/23	02/24	I	A	B	C1	C2	D2	D1	E	F	G2	G1	H	7	
02/27	~	03/03	02/27	02/28	03/01	03/02	03/03	I	A	B	C1	C2	D2	D1	E	F	G2	G1	H	8	
03/06	~	03/10	03/06	03/07	03/08	03/09	03/10	H	I	A	B2	B1	C1	C2	D	E	F1	F2	G	9	
03/13	~	03/17	03/13	03/14	03/15	03/16	03/17	H	I	A	B2	B1	C1	C2	D	E	F1	F2	G	10	
03/20	~	03/24	03/20	03/21	03/22	03/23	03/24	春季休業													
03/27	~	03/31	03/27	03/28	03/29	03/30	03/31	H	I	A	B1	B2	C2	C1	D	E	F2	F1	G	11	
04/03	~	04/07	04/03	04/04	04/05	04/06	04/07	H	I	A	B1	B2	C2	C1	D	E	F2	F1	G	12	
04/10	~	04/14	04/10	04/11	04/12	04/13	04/14	G	H	I	A2	A1	B1	B2	C	D	E1	E2	F	13	
04/17	~	04/21	04/17	04/18	04/19	04/20	04/21	G	H	I	A2	A1	B1	B2	C	D	E1	E2	F	14	
04/24	~	04/28	04/24	04/25	04/26	04/27	04/28	G	H	I	A1	A2	B2	B1	C	D	E2	E1	F	15	
05/01	~	05/05	05/01	05/02	05/03	05/04	05/05	GW													
05/08	~	05/12	05/08	05/09	05/10	05/11	05/12	G	H	I	A1	A2	B2	B1	C	D	E2	E1	F	16	
05/15	~	05/19	05/15	05/16	05/17	05/18	05/19	F	G	H	I2	I1	A1	A2	B	C	D1	D2	E	17	
05/22	~	05/26	05/22	05/23	05/24	05/25	05/26	F	G	H	I2	I1	A1	A2	B	C	D1	D2	E	18	
05/29	~	06/02	05/29	05/30	05/31	06/01	06/02	F	G	H	I1	I2	A2	A1	B	C	D2	D1	E	19	
06/05	~	06/09	06/05	06/06	06/07	06/08	06/09	F	G	H	I1	I2	A2	A1	B	C	D2	D1	E	20	
06/12	~	06/16	06/12	06/13	06/14	06/15	06/16	E	F	G	H2	H1	I1	I2	A	B	C1	C2	D	21	
06/19	~	06/23	06/19	06/20	06/21	06/22	06/23	E	F	G	H2	H1	I1	I2	A	B	C1	C2	D	22	
06/26	~	06/30	06/26	06/27	06/28	06/29	06/30	E	F	G	H1	H2	I2	I1	A	B	C2	C1	D	23	
07/03	~	07/07	07/03	07/04	07/05	07/06	07/07	E	F	G	H1	H2	I2	I1	A	B	C2	C1	D	24	
07/10	~	07/14	07/10	07/11	07/12	07/13	07/14	D	E	F	G2	G1	H1	H2	I	A	B1	B2	C	25	
07/17	~	07/21	07/17	07/18	07/19	07/20	07/21	D	E	F	G2	G1	H1	H2	I	A	B1	B2	C	26	
07/24	~	07/28	07/24	07/25	07/26	07/27	07/28	D	E	F	G1	G2	H2	H1	I	A	B2	B1	C	27	
07/31	~	08/04	07/31	08/01	08/02	08/03	08/04	D	E	F	G1	G2	H2	H1	I	A	B2	B1	C	28	
08/07	~	08/11	08/07	08/08	08/09	08/10	08/11	夏季休業													
08/14	~	08/18	08/14	08/15	08/16	08/17	08/18														
08/21	~	08/25	08/21	08/22	08/23	08/24	08/25	C	D	E	F2	F1	G1	G2	H	I	A1	A2	B	29	
08/28	~	09/01	08/28	08/29	08/30	08/31	09/01	C	D	E	F2	F1	G1	G2	H	I	A1	A2	B	30	
09/04	~	09/08	09/04	09/05	09/06	09/07	09/08	C	D	E	F1	F2	G2	G1	H	I	A2	A1	B	31	
09/11	~	09/15	09/11	09/12	09/13	09/14	09/15	C	D	E	F1	F2	G2	G1	H	I	A2	A1	B	32	
09/18	~	09/22	09/18	09/19	09/20	09/21	09/22	B	C	D	E2	E1	F1	F2	G	H	I1	I2	A	33	
09/25	~	09/29	09/25	09/26	09/27	09/28	09/29	B	C	D	E2	E1	F1	F2	G	H	I1	I2	A	34	
10/02	~	10/06	10/02	10/03	10/04	10/05	10/06	B	C	D	E1	E2	F2	F1	G	H	I2	I1	A	35	
10/09	~	10/13	10/09	10/10	10/11	10/12	10/13	B	C	D	E1	E2	F2	F1	G	H	I2	I1	A	36	

(参考) 2023年10月～ 臨床実習スケジュール (予定)

2023年10月～24年9月 (臨床実習後半 5年次10月～3月/6年次4月～9月)											麻酔科	整形外科	膠原病内科	血液内科	耳鼻咽喉科	眼科	小児泌尿器科	腎臓内科	形成外科	乳腺外科	内分泌糖尿病科	緩和ケア部	精神科	臨床実習制
2023年		月	火	水	木	金	部科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	科	
10/16	～	10/20	10/16	10/17	10/18	10/19	10/20	A	B	C2	C1	D2	D1	E	F	G2	G1	H2	H1	I			37	
10/23	～	10/27	10/23	10/24	10/25	10/26	10/27	A	B	C2	C1	D2	D1	E	F	G2	G1	H2	H1	I			38	
10/30	～	11/03	10/30	10/31	11/01	11/02	11/03	A	B	C1	C2	D1	D2	E	F	G1	G2	H1	H2	I			39	
11/06	～	11/10	11/06	11/07	11/08	11/09	11/10	A	B	C1	C2	D1	D2	E	F	G1	G2	H1	H2	I			40	
11/13	～	11/17	11/13	11/14	11/15	11/16	11/17	I	A	B2	B1	C2	C1	D	E	F2	F1	G2	G1	H			41	
11/20	～	11/24	11/20	11/21	11/22	11/23	11/24	I	A	B2	B1	C2	C1	D	E	F2	F1	G2	G1	H			42	
11/27	～	12/01	11/27	11/28	11/29	11/30	12/01	I	A	B1	B2	C1	C2	D	E	F1	F2	G1	G2	H			43	
12/04	～	12/08	12/04	12/05	12/06	12/07	12/08	I	A	B1	B2	C1	C2	D	E	F1	F2	G1	G2	H			44	
12/11	～	12/15	12/11	12/12	12/13	12/14	12/15	H	I	A2	A1	B2	B1	C	D	E2	E1	F2	F1	G			45	
12/18	～	12/22	12/18	12/19	12/20	12/21	12/22	H	I	A2	A1	B2	B1	C	D	E2	E1	F2	F1	G			46	
12/25	～	12/29	12/25	12/26	12/27	12/28	12/29	冬季休業																
01/01	～	01/05	01/01	01/02	01/03	01/04	01/05																	
01/08	～	01/12	01/08	01/09	01/10	01/11	01/12	H	I	A1	A2	B1	B2	C	D	E1	E2	F1	F2	G			47	
01/15	～	01/19	01/15	01/16	01/17	01/18	01/19	H	I	A1	A2	B1	B2	C	D	E1	E2	F1	F2	G			48	
01/22	～	01/26	01/22	01/23	01/24	01/25	01/26	G	H	I2	I1	A2	A1	B	C	D2	D1	E2	E1	F			49	
01/29	～	02/02	01/29	01/30	01/31	02/01	02/02	G	H	I2	I1	A2	A1	B	C	D2	D1	E2	E1	F			50	
02/05	～	02/09	02/05	02/06	02/07	02/08	02/09	G	H	I1	I2	A1	A2	B	C	D1	D2	E1	E2	F			51	
02/12	～	02/16	02/12	02/13	02/14	02/15	02/16	G	H	I1	I2	A1	A2	B	C	D1	D2	E1	E2	F			52	
02/19	～	02/23	02/19	02/20	02/21	02/22	02/23	F	G	H2	H1	I2	I1	A	B	C2	C1	D2	D1	E			53	
02/26	～	03/01	02/26	02/27	02/28	02/29	03/01	F	G	H2	H1	I2	I1	A	B	C2	C1	D2	D1	E			54	
03/04	～	03/08	03/04	03/05	03/06	03/07	03/08	F	G	H1	H2	I1	I2	A	B	C1	C2	D1	D2	E			55	
03/11	～	03/15	03/11	03/12	03/13	03/14	03/15	F	G	H1	H2	I1	I2	A	B	C1	C2	D1	D2	E			56	
03/18	～	03/22	03/18	03/19	03/20	03/21	03/22	春季休業															3/21 3/22総合客観試験1	
03/25	～	03/29	03/25	03/26	03/27	03/28	03/29	E	F	G2	G1	H2	H1	I	A	B2	B1	C2	C1	D			57	
04/01	～	04/05	04/01	04/02	04/03	04/04	04/05	E	F	G2	G1	H2	H1	I	A	B2	B1	C2	C1	D			58	
04/08	～	04/12	04/08	04/09	04/10	04/11	04/12	E	F	G1	G2	H1	H2	I	A	B1	B2	C1	C2	D			59	
04/15	～	04/19	04/15	04/16	04/17	04/18	04/19	E	F	G1	G2	H1	H2	I	A	B1	B2	C1	C2	D			60	
04/22	～	04/26	04/22	04/23	04/24	04/25	04/26	D	E	F2	F1	G2	G1	H	I	A2	A1	B2	B1	C			61	
04/29	～	05/03	04/29	04/30	05/01	05/02	05/03	GW																
05/06	～	05/10	05/06	05/07	05/08	05/09	05/10	D	E	F2	F1	G2	G1	H	I	A2	A1	B2	B1	C			62	
05/13	～	05/17	05/13	05/14	05/15	05/16	05/17	D	E	F1	F2	G1	G2	H	I	A1	A2	B1	B2	C			63	
05/20	～	05/24	05/20	05/21	05/22	05/23	05/24	D	E	F1	F2	G1	G2	H	I	A1	A2	B1	B2	C			64	
05/27	～	05/31	05/27	05/28	05/29	05/30	05/31	休暇																
06/03	～	06/07	06/03	06/04	06/05	06/06	06/07	C	D	E2	E1	F2	F1	G	H	I2	I1	A2	A1	B			65	
06/10	～	06/14	06/10	06/11	06/12	06/13	06/14	C	D	E2	E1	F2	F1	G	H	I2	I1	A2	A1	B			66	
06/17	～	06/21	06/17	06/18	06/19	06/20	06/21	C	D	E1	E2	F1	F2	G	H	I1	I2	A1	A2	B			67	
06/24	～	06/28	06/24	06/25	06/26	06/27	06/28	C	D	E1	E2	F1	F2	G	H	I1	I2	A1	A2	B			68	
07/01	～	07/05	07/01	07/02	07/03	07/04	07/05	B	C	D2	D1	E2	E1	F	G	H2	H1	I2	I1	A			69	
07/08	～	07/12	07/08	07/09	07/10	07/11	07/12	B	C	D2	D1	E2	E1	F	G	H2	H1	I2	I1	A			70	
07/15	～	07/19	07/15	07/16	07/17	07/18	07/19	B	C	D1	D2	E1	E2	F	G	H1	H2	I1	I2	A			71	
07/22	～	07/26	07/22	07/23	07/24	07/25	07/26	B	C	D1	D2	E1	E2	F	G	H1	H2	I1	I2	A			72	
07/29	～	08/02	07/29	07/30	07/31	08/01	08/02	夏季休業																
08/05	～	08/09	08/05	08/06	08/07	08/08	08/09																	
08/12	～	08/16	08/12	08/13	08/14	08/15	08/16																	
08/19	～	08/23	08/19	08/20	08/21	08/22	08/23																	
08/26	～	08/30	08/26	08/27	08/28	08/29	08/30																	
09/02	～	09/06	09/02	09/03	09/04	09/05	09/06	プライマリ・ケア																
09/09	～	09/13	09/09	09/10	09/11	09/12	09/13	社会医学																
09/16	～	09/20	09/16	09/17	09/18	09/19	09/20																	
09/23	～	09/27	09/23	09/24	09/25	09/26	09/27																	
09/30	～	10/04	09/30	10/01	10/02	10/03	10/04																	
10/07	～	10/11	10/07	10/08	10/09	10/10	10/11																	
10/14	～	10/18	10/14	10/15	10/16	10/17	10/18																	
10/21	～	10/25	10/21	10/22	10/23	10/24	10/25																	
10/28	～	11/01	10/28	10/29	10/30	10/31	11/01																	
11/04	～	11/08	11/04	11/05	11/06	11/07	11/08																	
11/11	～	11/15	11/11	11/12	11/13	11/14	11/15																	
11/18	～	11/22	11/18	11/19	11/20	11/21	11/22																	
11/25	～	11/29	11/25	11/26	11/27	11/28	11/29																	
12/02	～	12/06	12/02	12/03	12/04	12/05	12/06																	
12/09	～	12/13	12/09	12/10	12/11	12/12	12/13																	
12/16	～	12/20	12/16	12/17	12/18	12/19	12/20																	
12/23	～	12/27	12/23	12/24	12/25	12/26	12/27																	
12/30	～	01/03	12/30	12/31	01/01	01/02	01/03																	
01/06	～	01/10	01/06	01/07	01/08	01/09	01/10																	
01/13	～	01/17	01/13	01/14	01/15	01/16	01/17																	

キ. 5年11月～6年 授業時間割

2022年10月～23年7月 (臨床実習後半 5年次10月～3月 / 6年次4月～7月)							薬麻 劑酔	リ整 ハ形 ビ外 リ科	膠 原 病 内 科	血 液 内 科	口 腔 外 科	眼 科	小 兒 泌 尿 器 科	形 皮 成 外 科	乳 腺 外 科	内 分 泌 糖 尿 病 科	緩 和 み セ ン タ ー 部	精 神 科	臨 選 床 実 習 制									
月	火	水	木	金	部科	部科	部科	部科	部科	部科	部科	部科	部科	部科	部科	部科	部科	部科										
10/24	～	10/28	10/24	10/25	10/26	10/27	10/28	A	B	C2	C1	D2	D1	E	F	G2	G1	H2	H1	I	37							
10/31	～	11/04	10/31	11/01	11/02	11/03	11/04	A	B	C2	C1	D2	D1	E	F	G2	G1	H2	H1	I	38							
11/07	～	11/11	11/07	11/08	11/09	11/10	11/11	A	B	C1	C2	D1	D2	E	F	G1	G2	H1	H2	I	39							
11/14	～	11/18	11/14	11/15	11/16	11/17	11/18	A	B	C1	C2	D1	D2	E	F	G1	G2	H1	H2	I	40							
11/21	～	11/25	11/21	11/22	11/23	11/24	11/25	I	A	B2	B1	C2	C1	D	E	F	G	H			41							
11/28	～	12/02	11/28	11/29	11/30	12/01	12/02	I	A	B2	B1	C2	C1	D	E	F	G	H			42							
12/05	～	12/09	12/05	12/06	12/07	12/08	12/09	I	A	B1	B2	C1	C2	D	E	F	G	H			43							
12/12	～	12/16	12/12	12/13	12/14	12/15	12/16	I	A	B1	B2	C1	C2	D	E	F	G	H			44							
12/19	～	12/23	12/19	12/20	12/21	12/22	12/23	H	I	A2	A1	B2	B1	C	D	E2	E1	F2	F1	G	45							
12/26	～	12/30	12/26	12/27	12/28	12/29	12/30	冬季休業																				
01/02	～	01/06	01/02	01/03	01/04	01/05	01/06																					
01/09	～	01/13	01/09	01/10	01/11	01/12	01/13	H	I	A2	A1	B2	B1	C	D	E2	E1	F2	F1	G	46							
01/16	～	01/20	01/16	01/17	01/18	01/19	01/20	H	I	A1	A2	B1	B2	C	D	E1	E2	F1	F2	G	47							
01/23	～	01/27	01/23	01/24	01/25	01/26	01/27	H	I	A1	A2	B1	B2	C	D	E1	E2	F1	F2	G	48							
01/30	～	02/03	01/30	01/31	02/01	02/02	02/03	G	H	I2	I1	A2	A1	B	C	D2	D1	E2	E1	F	49							
02/06	～	02/10	02/06	02/07	02/08	02/09	02/10	G	H	I2	I1	A2	A1	B	C	D2	D1	E2	E1	F	50							
02/13	～	02/17	02/13	02/14	02/15	02/16	02/17	G	H	I1	I2	A1	A2	B	C	D1	D2	E1	E2	F	51							
02/20	～	02/24	02/20	02/21	02/22	02/23	02/24	G	H	I1	I2	A1	A2	B	C	D1	D2	E1	E2	F	52							
02/27	～	03/03	02/27	02/28	03/01	03/02	03/03	F	G	H2	H1	I2	I1	A	B	C2	C1	D2	D1	E	53							
03/06	～	03/10	03/06	03/07	03/08	03/09	03/10	F	G	H2	H1	I2	I1	A	B	C2	C1	D2	D1	E	54							
03/13	～	03/17	03/13	03/14	03/15	03/16	03/17	F	G	H1	H2	I1	I2	A	B	C1	C2	D1	D2	E	55							
03/20	～	03/24	03/20	03/21	03/22	03/23	03/24	春季休業								3/23	3/24	総合客観試験1										
03/27	～	03/31	03/27	03/28	03/29	03/30	03/31	F	G	H1	H2	I1	I2	A	B	C1	C2	D1	D2	E	56							
04/03	～	04/07	04/03	04/04	04/05	04/06	04/07	E	F	G2	G1	H2	H1	I	A	B2	B1	C2	C1	D	57							
04/10	～	04/14	04/10	04/11	04/12	04/13	04/14	E	F	G2	G1	H2	H1	I	A	B2	B1	C2	C1	D	58							
04/17	～	04/21	04/17	04/18	04/19	04/20	04/21	E	F	G1	G2	H1	H2	I	A	B1	B2	C1	C2	D	59							
04/24	～	04/28	04/24	04/25	04/26	04/27	04/28	E	F	G1	G2	H1	H2	I	A	B1	B2	C1	C2	D	60							
05/01	～	05/05	05/01	05/02	05/03	05/04	05/05	GW																				
05/08	～	05/12	05/08	05/09	05/10	05/11	05/12	D	E	F2	F1	G2	G1	H	I	A2	A1	B2	B1	C	61							
05/15	～	05/19	05/15	05/16	05/17	05/18	05/19	D	E	F2	F1	G2	G1	H	I	A2	A1	B2	B1	C	62							
05/22	～	05/26	05/22	05/23	05/24	05/25	05/26	D	E	F1	F2	G1	G2	H	I	A1	A2	B1	B2	C	63							
05/29	～	06/02	05/29	05/30	05/31	06/01	06/02	D	E	F1	F2	G1	G2	H	I	A1	A2	B1	B2	C	64							
06/05	～	06/09	06/05	06/06	06/07	06/08	06/09	C	D	E2	E1	F2	F1	G	H	I2	I1	A2	A1	B	65							
06/12	～	06/16	06/12	06/13	06/14	06/15	06/16	C	D	E2	E1	F2	F1	G	H	I2	I1	A2	A1	B	66							
06/19	～	06/23	06/19	06/20	06/21	06/22	06/23	C	D	E1	E2	F1	F2	G	H	I1	I2	A1	A2	B	67							
06/26	～	06/30	06/26	06/27	06/28	06/29	06/30	C	D	E1	E2	F1	F2	G	H	I1	I2	A1	A2	B	68							
07/03	～	07/07	07/03	07/04	07/05	07/06	07/07	B	C	D2	D1	E2	E1	F	G	H2	H1	I2	I1	A	69							
07/10	～	07/14	07/10	07/11	07/12	07/13	07/14	B	C	D2	D1	E2	E1	F	G	H2	H1	I2	I1	A	70							
07/17	～	07/21	07/17	07/18	07/19	07/20	07/21	B	C	D1	D2	E1	E2	F	G	H1	H2	I1	I2	A	71							
07/24	～	07/28	07/24	07/25	07/26	07/27	07/28	B	C	D1	D2	E1	E2	F	G	H1	H2	I1	I2	A	72							
07/31	～	08/04	07/31	08/01	08/02	08/03	08/04	夏季休業																				
08/07	～	08/11	08/07	08/08	08/09	08/10	08/11																					
08/14	～	08/18	08/14	08/15	08/16	08/17	08/18																					
08/21	～	08/25	08/21	08/22	08/23	08/24	08/25																					
08/28	～	09/01	08/28	08/29	08/30	08/31	09/01																					
09/04	～	09/08	09/04	09/05	09/06	09/07	09/08																					
09/11	～	09/15	09/11	09/12	09/13	09/14	09/15																					
09/18	～	09/22	09/18	09/19	09/20	09/21	09/22																					
09/25	～	09/29	09/25	09/26	09/27	09/28	09/29																					
10/02	～	10/06	10/02	10/03	10/04	10/05	10/06																					
10/09	～	10/13	10/09	10/10	10/11	10/12	10/13																					
10/16	～	10/20	10/16	10/17	10/18	10/19	10/20																					
10/23	～	10/27	10/23	10/24	10/25	10/26	10/27																					
10/30	～	11/03	10/30	10/31	11/01	11/02	11/03																					
11/06	～	11/10	11/06	11/07	11/08	11/09	11/10																					
11/13	～	11/17	11/13	11/14	11/15	11/16	11/17																					
11/20	～	11/24	11/20	11/21	11/22	11/23	11/24																					
11/27	～	12/01	11/27	11/28	11/29	11/30	12/01																					
12/04	～	12/08	12/04	12/05	12/06	12/07	12/08																					
12/11	～	12/15	12/11	12/12	12/13	12/14	12/15																					
12/18	～	12/22	12/18	12/19	12/20	12/21	12/22																					
12/25	～	12/29	12/25	12/26	12/27	12/28	12/29																					
01/01	～	01/05	01/01	01/02	01/03	01/04	01/05																					
01/08	～	01/12	01/08	01/09	01/10	01/11	01/12																					
01/15	～	01/19	01/15	01/16	01/17	01/18	01/19																					

(3) 授業時間・講義室

授業時間は次のとおりとする。

1時限 9:00～10:30 2時限 10:40～12:10 3時限 13:00～14:30 4時限 14:40～16:10

ただし、授業科目によっては、開始・終了時刻が異なる場合がある。特に臨床実習については、開始時刻・終了時刻ともに各診療科によって異なる。担当教員の指示に従うこと。

専門教育における各学年の講義室は原則として以下のとおりとする。

学年	講義室
1年次	講義室 1
2年次（2年4月～12月）	講義室 2
3年次（2年1月～3年12月）	講義室 3
4年次（3年1月～4年12月）	講義室 A 又は B

※新型コロナウイルスへの対応等により、変更する場合がある。

(4) 専門教育授業科目

ア. 授業科目一覧

区分	授業科目		配当年次
	コース名	ユニット名	
基礎医学	解剖学コース	肉眼解剖学	2
		組織学・発生学・神経解剖学	2
	生化学コース	物質と代謝	2
		分子と細胞	2
	生理学コース	植物的機能系	2
		動物的機能系	2
臨床基礎医学	病理学コース	病態病理	3
		臨床病理	3
	薬理学コース	薬理学	3
		感染微生物コース	医動物学
	細菌学		3
	ウイルス学		3
免疫学コース	免疫学	3	
社会医学	社会医学コース	予防医学基礎	4
		予防医学応用	6
		法医学	3
		法医診断学	6
		医学・医療倫理	3
		医学情報学	1
臨床医学	臨床医学コース	血液・造血器・リンパ系	4
		神経系（神経内科）	4
		神経系（脳神経外科）	4
		皮膚系	4
		運動器系・リハビリテーション	4
		循環器系	4
		呼吸器系	4
		消化器系・内視鏡	4
		腎・尿路系（腎臓内科）	4
		腎・尿路系（泌尿器科）	4
		生殖機能（泌尿器科）	4
		生殖機能（婦人科）	4
		妊娠と分娩	4
		乳房	4
内分泌・栄養・代謝系	4		

		眼・視覚系	4
		耳鼻・咽喉・口腔系	4
		精神系	4
		臨床感染症学	4
		成長と発達／発生	4
		麻酔科学・集中治療医学	4
		食事と栄養療法	4
		放射線等を用いる診断と治療	4
		輸血と移植	4
		膠原病	4
		臨床腫瘍学	4
		救急科	4
		漢方医学	4
		臨床処方学	4
臨床実習	臨床実習コース	臨床実習	4・5・6
		選択制臨床実習	5・6
統合教育	総合医学コース	医学入門	1
		水平統合基礎	2
		水平統合病態	3
	行動科学・地域医療学コース	行動科学	3
		神経科学	3
		疼痛科学	3
		疼痛医学（痛みと行動科学）	4
		コミュニティ・ヘルスケア基礎（IPE）	2
		コミュニティ・ヘルスケア応用（IPE）	3
		コミュニティ・ヘルスケア発展（IPE）	4
	コミュニティ・ヘルスケア実践（IPE）	4・5	
	研究能力養成コース	学術論文入門	2
		Scientific Writing and Presentation	3
		先端研究	3
		遺伝医学	3
	臨床能力養成コース	基礎自主研修	3
		救命救急	3
		臨床診断推論	4
	選択制コース	基本臨床技能実習	4
		MD-PhD コース	-
BRJ 活動		-	

イ. 医学教育モデル・コア・カリキュラム対応一覧

		M1		M2						M3																					
		医入	医情	肉解	組織	生化	生理	水基	C基	行動	論文	医動	細菌	ウイ	免疫	病理	薬理	法医	倫理	神科	疼痛	C志	SW	先端	救急	遺伝	水病				
A 医師として求められる基本的な資質・能力																															
A-1 プロフェッショナルリズム																															
A-1-1	医の倫理と生命倫理	7	○																												
A-1-2	患者中心の視点	8	○																												
A-1-3	医師としての責務と裁量権	8	○																												
A-2 医学知識と問題対応能力																															
A-2-1	課題探求・解決能力	9	○							○																					
A-2-2	学修の在り方	10	○							○																					
A-3 診療技能と患者ケア																															
A-3-1	全人的実践的能力	6																													
A-4 コミュニケーション能力																															
A-4-1	コミュニケーション	9																													
A-4-2	患者と医師の関係	9																													
A-5 チーム医療の実践																															
A-5-1	患者中心のチーム医療	9																													
A-6 医療の質と安全管理																															
A-6-1	安全性の確保	6	○																												
A-6-2	医療上の事故等への対応と予防	6	○																												
A-6-3	医療従事者の健康と安全	4	○																												
A-7 社会における医療の実践																															
A-7-1	地域医療への貢献	9	○																												
A-7-2	国際医療への貢献	6	○																												
A-8 科学的探究																															
A-8-1	医学研究への志向の涵養	6																													
A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢																															
A-9-1	生涯学習への準備	6	○																												
B 社会と医学・医療 集団に対する医療																															
B-1 統計の基礎																															
B-1-1	統計の基礎	3									○																				
B-1-2	統計手法の適用	2																													
B-1-3	根拠に基づいた医療(EBM)	4																													
B-1-4	疫学と予防医学	5	○																												
B-1-5	生活習慣とリスク	7	○																												
B-1-6	社会・環境と健康	5																													
B-1-7	地域医療・地域保健	7	○	○																											
B-1-8	保健・医療・福祉・介護の制度	6	○	○																											
B-1-9	国際保健	3	○																												
B-2 法医学と関連法規																															
B-2-1	死と法	7																													
B-2-2	診療情報と諸証明書	4																													
B-3 医学研究と倫理																															
B-3-1	倫理規範と実践倫理	1																													
B-4 医療に関連のある社会科学領域																															
B-4-1	医師に求められる社会性	13	○																												
C 医学一般 生命現象の科学																															
C-1 生命の最小単位ー細胞																															
C-1-1	生命の最小単位ー細胞	6																													
C-1-2	生物の進化	1																													
C-2 個体の構成と機能																															
C-2-1	細胞の構成と機能	5																													
C-2-2	組織・各臓器の構成・機能と位置関係	8																													
C-2-3	個体の調節機能とホメオスタシス	10																													
C-2-4	個体の発生	6																													
C-2-5	生体物質の代謝	3																													
C-3 個体の反応																															
C-3-1	生体と微生物	7																													
C-3-2	免疫と生体防御	5																													
C-3-3	生体と薬物	2																													
C-4 病因と病態																															
C-4-1	遺伝的多様性と疾患	5																													
C-4-2	細胞傷害・変性と細胞死	3																													
C-4-3	代謝障害	3																													
C-4-4	循環障害、臓器不全	5																													
C-4-5	炎症と創傷治癒	8																													
C-4-6	腫瘍	11																													
C-5 人の行動と心理																															
C-5-1	人の行動	7																													
C-5-2	行動の成り立ち	7																													
C-5-3	動機付け	7																													
C-5-4	ストレス	7																													
C-5-5	生涯発達	7																													
C-5-6	個人差	6																													
C-5-7	対人関係と対人コミュニケーション	9																													
C-5-8	行動変容における理論と技法	6	○																												
D 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療 血液・造血器・リンパ系																															
D-1 血液・造血器・リンパ系																															
D-1-1	構造と機能	9																													
D-1-2	診断と検査の基本	7																													
D-1-3	症候	7																													
D-1-4	疾患	8																													
D-2 神経系																															
D-2-1	構造と機能	7																													
D-2-2	診断と検査の基本	5																													
D-2-3	症候	6																													
D-2-4	疾患	7																													
D-3 皮膚系																															
D-3-1	構造と機能	8																													
D-3-2	診断と検査の基本	6																													
D-3-3	症候	6																													
D-3-4	疾患	6																													

・BRJ 活動

通常カリキュラムの枠を超えて、医師としての実践的なスキルを身につけるための活動として、BRJ (Beyond the Resident Project) 活動がある。活動の運営は学生が主体的に行い、教員の協力のもと胸部 X 線や心電図の読影、腹部超音波検査、臨床推論などを学んでいる。単にスキルの修得だけでなく、その過程における指導医や先輩、共に学ぶ仲間と過ごす時間の中から、医師としてのプロフェッショナルリズムやキャリア意識の醸成までを目標としている。名古屋市立大学医学部では、カリキュラムにおける選択制科目の一つとして位置付け、活動を支援している。

(5) 試験・成績評価

ア. 出席要件

次のいずれかを満たさない授業科目については、原則として失格とし、試験その他の評価を受けることができない。

- ① 実習については、その授業時間数のすべてに出席すること
- ② 実習以外の講義等については、その授業時間数の7割以上出席すること

やむを得ない理由※により授業を欠席した場合には、「特別欠席届」を記入し、担当教員の確認・押印を受けた上で、医療人育成課事務室に提出すること。その際には、原則として、診断書や病院を受診した際の領収書、事故証明等、理由を証明する書類を添えること。

ただし、欠席届を提出しても出席したことにはならない。担当教員の判断により、補講・追加実習の受講、レポート課題の提出等の補完を求めることがある。

欠席届を提出しない場合は、いかなる理由であっても「やむを得ない理由」とは認められない。

※やむを得ない理由の例

病気、ケガ、天災、公共交通機関の途絶、冠婚葬祭、その他のやむを得ない事情

(令和4年1月より実習出席要件を改定)

イ. 成績評価

授業科目の成績は、試験やレポート課題等を 100 点満点とした点数により採点し、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とし、原則として次のように表示する。

評点	評価	判定	内容
90 点以上	秀	合格	学修到達目標を越えたレベルを達成している
80 点以上	優	合格	学修到達目標を十分に達成している
70 点以上	良	合格	学修到達目標を達成している
60 点以上	可	合格	学修到達目標を最低限達成している
60 点未満	不可	不合格	学習到達目標を達成できていない

なお、科目により、合否のみの評価となることがある。

再試験による成績評価は、最高 60 点を限度として採点する。

臨床実習の評価については、別に定める。

ウ. 試験の種別

・定期試験・随時試験

定期試験は、授業科目を終了するときに行う。ただし、科目により、中間試験等、随時試験を行うことがある。試験日程については、時間割及び各授業科目の予定表を参照。

・第4学年における試験

第4学年では、通常の試験の他に「セメスター試験（臨床実習資格認定試験）」、「共用試験 OSCE・CBT」を実施する。詳細は、資料「名古屋市立大学医学部第4学年の試験に関する一般的な注意事項」を参照。

・卒業試験

第6学年では、卒業試験として、「共用試験 Post-CC OSCE」と「総合客観試験」を行う。総合客観試験については、資料「卒業試験 総合客観試験について」を参照。

・追試験

疾病その他やむを得ない理由により試験当日出席できない者は、追試験を願い出ることができる。担当教員の許可を受けた上で、事務室に「追試験受験願」及び「試験欠席届」を提出すること。その際、欠席の理由を証明する書面を添えること（資料「再（追）試験受験願・試験欠席届」）。

・再試験

試験に不合格となった科目については、担当教員の許可を受けて、再試験受験願を提出することにより、再試験を1回受けることができる（資料「再（追）試験受験願・試験欠席届」）。

エ. 成績疑問票

成績評価について疑問のある場合に、その評価の内容を知ることができる制度である。

成績評価に関して疑問のある学生は、成績発表後1週間以内に、成績疑問票を医療人育成課事務室に提出すること。ただし、安易に成績の再考や救済を求める内容のものは提出できない（資料「成績疑問票」）。

学生から提出された成績疑問票は、受け付けてから原則1週間以内に担当教員が回答し、医療人育成課事務室に提出される。医療人育成課事務室は、提出された回答を速やかに学生に提示する。

オ. 試験における不正行為の禁止

試験にあたっては、以下の点に留意し、試験監督者の指示に従って厳正に受験すること。

- ①学生証を試験監督者が見やすい、机上の場所に置くこと。
※学生証を忘れた場合は、事務室で身分証明書を提示し、臨時の「仮身分証明証」の発行を受ける。
- ②机中には、事前に許可されているものを除き、原則として筆記用具（鉛筆又はシャープペンシル、消しゴム）以外の用具を置いてはいけない。
- ③携帯電話・スマートフォン等の電子機器は必ず電源を切り、収納すること。
- ④遅刻は原則として認められない。交通機関の遅れなど正当な理由がある場合は試験監督者に申し出ること。
- ⑤試験開始後30分経過後は理由の如何にかかわらず入室できない。
- ⑥試験監督者の注意に違反した者には、退場を命ずることがある。

不正行為が発覚した場合は、懲戒処分（戒告、停学、退学）等の対象とする。また、その学年における全ての科目の履修及び成績を無効にする等、相応の措置がとられる。

資料「定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針」

カ. レポート課題作成時の注意

レポートは、自分で調べたことや考えたこと等を自分の文章で記述するものである。他の文献等を調べ学ぶことは非常に重要であるが、それを引用する場合にはルールがある。引用する場合は、引用した部分とそれに関する自分の考えの部分をはっきりと区別して示す必要がある。他人の文章、図表をあたかも自分のオリジナルであるかのように利用することは、「剽窃」（盗作）であり、定期試験等に代わるレポート課題に関しては、「定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針」に基づき、試験におけるカンニングと同様に不正行為とみなされ処分等の対象となる。授業においても指導されるレポート作成に当たってのルールを守ってレポートを提出すること。

(6) 進級要件・卒業要件

ア. 教養教育科目については所定の単位を取得できない者、専門教育科目については各年次で配当された授業科目を1科目でも修得できない者は、進級または卒業できない。

各年次における進級判定・卒業判定の対象科目及び実施時期は、下記のとおりとする。

対象年次	判定の対象となる授業科目	判定時期
1年	1年次に配当される教養教育科目及び専門教育科目	3月
2年	2年次4月～12月の配当科目	12月
3年	2年次1月～3年次12月の配当科目	12月
4年	3年次1月～4年次12月の配当科目及び 共用試験 OSCE・CBT	12月
5年	4年次1月～5年次11月の配当科目 ※	12月
6年	5年次11月～6年次の配当科目及び 卒業試験（共用試験 Post-CC OSCE、総合客観試験）	1月

イ. 2年次及び3年次については、前項の規定にかかわらず下記のとおり仮進級制度を定める。

1. 目的：原則として各学年の必修科目修了者を進級とするが、教育的効果を考慮し条件を満たした学生に限り仮進級制度を適用し進級を許可する。
2. 対象となる学年：M2、M3
3. 対象となる科目：M2、M3の各分野の主要科目（ただし社会医学は試験（M4の7月に実施）からCBTまでの期間が短いため対象外とする）
4. 対象となる学生：各学年修了時に未修了科目が2科目までの者
5. 仮進級制度の適用：条件を満たす全ての学生に適用される。学生は仮進級と原級留置を選択することはできない。
6. 仮進級時の修了期限：前学年の未修了科目は当該学年の修了時までには修了すること。M3修了時までには全てのM2未修了科目を修了できなかった場合はM3で原級留置とする。M4修了時までには全てのM3未修了科目を修了できなかった場合はM4で原級留置とし、OSCE及びCBTを受験することはできない。

7. 仮進級時の未修了科目の履修について：未修了科目が履修できない場合、各分野の責任で学生の学力向上を目的とした指導（例：課題を課す、補講を行うなど）を行う。仮進級後に次学年で原級留置になった場合（注に示された例）は、原則は未修了科目を履修とする。
8. 仮進級時の未修了科目の試験について：試験の時期は担当講座に一任するが、試験は各学年で2回を上限とする。
- ウ. 臨床実習については、4年次1月～5年次11月を前半、5年次11月～6年次を後半とし、前半が終了した段階で合格判定を行う。合格基準は下記の通り（臨床実習の手引き参照）
- ア. 臨床実習前半の診療科をすべて合格していること
 - イ. 「アンプロフェッショナルな評価・態度のみられた学生の評価と対応」により原級留置との評価を受けていないこと
- 不合格となった場合は原級留置となり、下級学年の1月から実習をやり直す。
- 資料：「アンプロフェッショナルな評価・態度のみられた学生の評価と対応」
- エ. 6年次に原級留置となった場合、臨床実習、共用試験 Post-CC OSCE、総合客観試験などの科目で不合格になったかによるが、判定が出た時点でできるだけ速やかに下級学年の実習に合流することとする。
- オ. 原級留置となった場合、専門教育科目については、原則として、当該学年で配当された全科目を再履修しなければならない。ただし、教授会の議を経て、学部長より指定された科目については再履修を要しない。
- カ. 共用試験については、合格していても原級留置となった場合は再受験しなければならない（共用試験結果を次年度に持ち越すことはできない）。
- キ. 次に該当する者は除籍となる。
- ①入学あるいは進級後3年に至っても、次年次に進級できない場合
 - ②在学年数が入学後8年に至っても、5年次に進級できない場合
 - ③在学年数が12年に至っても卒業要件を満たさない場合

(7) 受講態度・講義資料について

- ①授業中は、名古屋市立大学医学部の学生として規律正しい態度で受講すること。
- ②私語、居眠り、途中入室、途中退室等は、他の学生の迷惑となるだけでなく、教員に対しても学生としての礼を欠く行為である。
- ③特に臨床実習では、診療に参加するにあたり患者さんに対して失礼のないよう、身だしなみ等に十分注意すること。
- ④講義資料の撮影、録画、スクリーンショットの保存は禁止とする。必要な場合は教員の許可を得ること。講義資料の無断配布、ネット上への公開も同様に厳禁とする。

(8) 授業評価、学修成果の達成度評価

ア. 学生による授業評価

各授業科目が効果的に実施されているか、学生自身が授業に対し意欲的に取り組んでいるかを評価し、授業科目の改善に役立てるため、授業科目の中間時点、終了時点で「学生による授業評価アンケート」を実施する。学務情報システムを通じて、必ず回答すること。

イ. 学修成果の達成度自己評価

前述のように、医学教育課程は、4領域 17 項目の卒業時到達目標の獲得に向けて編成されている。学生は、学年が進む中で、自らの能力がどの段階にあるかを確認することが必要である。主に各学年のオリエンテーションの場で、「学修成果の達成度自己評価」を実施する。

(9) 暴風警報発令時等における授業・試験について

ア. 暴風警報・暴風雪警報発令時における授業・試験について

名古屋地方気象台から、「愛知県西部」又は「尾張東部、尾張西部、知多地域、西三河南部、西三河北西部のいずれかの区域」又は「名古屋市」に暴風警報・暴風雪警報が発令された場合の授業・試験についての取り扱いは、以下のとおりとする。

ただし、所属学部又は担当教員から特別な指示がある場合は、この限りではない。電話での問い合わせは受け付けないので、ラジオ・テレビ等の報道で確認のうえ、各自判断すること。

① 授業・試験の開始前に発令された場合

解除の時刻	区分	休講または試験が中止となる時限	授業または試験を行う時限
午前7時まで		なし（開講する）	通常どおり
午前7時から午前10時まで		第1時限及び第2時限	第3時限以降
午前10時すぎ		当日実施予定の全ての時限	実施しません

② 授業・試験の開始後に発令された場合

原則として授業は休講とし、試験は中止とするが、状況によっては続行することもある。
なお、中止となった試験については、各学部の指示に従うこと。

③ 居住地または通学経路内に発令された場合

居住地又は通学経路内に発令されている間は、登校しないこと。

ただし、愛知県西部、尾張東部、尾張西部、知多地域、西三河南部、西三河北西部、名古屋市のいずれにも発令されていなければ、授業・試験は通常どおり行う。

これに該当し、授業・試験を欠席する学生は、「特別欠席届」を後日すみやかに医療人育成課事務室に提出するなど所定の手続きを行うこと。欠席した日の気象状況については、日本気象協会ホームページの警報発表履歴で確認する。

④ その他の気象警報が発令された場合

暴風警報・暴風雪警報に限らず、その他の気象警報（大雨警報、大雪警報等）発令時において、学長、副学長等が必要と判断した場合は、授業・試験を中止することがある。その場合の学生への周知は、大学ホームページやポータルサイトより行う。

イ. 公共交通機関運休時の対応について

① 大雨・強風・大雪等の気象状況による公共交通機関の運休の場合

通学経路に係る公共交通機関が運休している場合、無理な登校はしないで下さい。

ただし、愛知県西部、尾張東部、尾張西部、知多地域、西三河南部、西三河北西部、名古屋市のいずれにも暴風警報・暴風雪警報が発令されていないければ、授業・試験は通常どおり行われています。

これに該当し、授業・試験を欠席する学生は、「特別欠席届」を後日すみやかに各学部事務室又は山の畑事務室に提出するなど所定の手続きを行って下さい。その場合、運休の事実を証明する書類が必要となります。

② 交通ストの場合

名古屋市営交通、東海旅客鉄道（JR東海）、名古屋鉄道（名鉄）の3社のうち2社以上がストライキを行った場合の授業・試験の取扱は、「授業・試験の開始前に発令された場合」で掲げた表に準ずるものとします。

③ その他の事由による公共交通機関の運休の場合

事故等により、公共交通機関が運休し、授業・試験に出席できなかった場合は、「大雨・強風・大雪等の気象状況による公共交通機関の運休の場合」に準じて各学部事務室又は山の畑事務室にて、所定の手続きを行って下さい。

ウ. 「南海トラフ地震に関する情報」が発表された場合における授業・試験等について

平成29年11月1日に「南海トラフ地震に関連する情報」の運用が開始され、これに伴い、現在、東海地震のみに着目した「東海地震に関連する情報」の発表は行われなくなりました。

授業等の実施中に「南海トラフ地震に関する情報」が発表された場合は、大学からの指示に従って行動してください。また、登校前や登校途中の場合は、安全な場所で待機するとともに各自で情報収集に努め、安全を確保してください。

〔参考〕南海トラフ地震に関連する情報の種類と発表条件（気象庁ホームページ）

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/index.html>

「南海トラフ地震に関連する情報」は、南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせするもので、この情報の種類と発表条件は以下のとおりです。

情報の種類	情報の発表条件
南海トラフ地震に関連する情報（臨時）	<ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合 ・観測された現象を調査した結果、南海トラフ地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合 ・観測された現象を調査した結果、南海トラフ地震発生の可能性が相対的に高まった状態ではないと評価された場合
南海トラフ地震に関連する情報（定例）	・「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合において評価した調査結果を発表する場合

○本情報の運用開始に伴い、東海地震のみに着目した情報（東海地震に関連する情報）の発表は行っていません。

○南海トラフ沿いで異常な現象が観測されず、本情報の発表がないまま、突発的に南海トラフ地震が発生することもあります。

〔参考〕地震発生時の行動について

名古屋市立大学滝子キャンパス「ポケット防災」（滝子キャンパス自主防災委員会作成）

(10) 実習参加資格にかかる抗体検査・ワクチン接種及び保険加入について

ア. 抗体検査・ワクチン接種

医学部では、1年次から附属病院をはじめ、医療機関での実習を行う。学生自身の感染予防及び患者等への感染拡大防止のため、下記の抗体検査、ワクチン接種を義務付けている。

	実施時期	備考
四種抗体 （麻疹、風疹、ムンプス、水痘）	1年次	入学前に抗体検査結果を各自実施し、「医薬看連携地域参加型学習」の講義時に検査結果及び過去の接種歴を提出する。抗体がないもしくは基準値に満たない場合は、6月末までに各自ワクチン接種を行った上で、接種記録を事務室に提出する。 ※詳細は入学時資料及びオリエンテーションで指示する。
B型肝炎	2年次	抗体検査の結果、陰性であった場合には、3回の接種及び接種後の抗体検査を行う。検査・接種は医学部で実施する。
結核免疫検査 (T-SPOT)	4年次	結核感染の有無を臨床実習開始前に検査する。検査は医学部で実施する。

また、インフルエンザ予防接種については、接種を推奨する。

イ. 保険加入について

臨床現場等、教育活動中の学生が怪我をしたり、相手に怪我をさせたりする危険がある。また、実習・実験中は針刺し事故などの接触感染のおそれがある。そのような事故に備えて、医学部生には、下記の保険への加入を義務付けている。

傷害保険	学生教育研究災害傷害保険 (学研災)	教育研究活動中に生じた事故によって身体に被る傷害を補償するもの。
	接触感染予防保険金支払特約	臨床実習中の接触感染に対する感染症予防措置を受けた場合の補償。
賠償保険	医学生教育研究賠償保険 (Cコース：医学賠)	教育研究活動中に、他人にケガを負わせた場合、他人の財物を損壊した場合等により、法律上の損害賠償責任を負担することにより被る損害を補償するもの。 ※Cコースは、医療系関連学部での活動を補償

ただし、さらに補償が手厚い保険（学研災付帯学生生活総合保険、大学生協の学生総合共済保険等）への加入を妨げるものではない。

保険に関する手続きは、「学生生活のてびき」と学生課学生支援係、大学生協で確認すること。

ウ. 実習参加要件について

上記ア、イは、医療系実習及び臨床実習の参加要件の一部である。

資料「名古屋市立大学医学部 臨床実習資格基準」「名古屋市立大学医学部 医療系実習参加資格基準」参照のこと。

7. 学生支援・指導体制

(1) 学生委員会・学年担任

医学部では、学生支援のための組織として、「学生委員会」を設置している。

学生委員会は、学生の修学、厚生福祉、保健、課外活動、学生団体、その他の学生生活に関する事項を扱う組織である。学生委員会では、学生からの相談に応じるため、相談窓口となる学年担任を置いている。相談事がある場合は、学年担任へ連絡をとること。

※担当教員の詳細は、オリエンテーション等で周知する。

学生委員会

学年	委員	所属
委員長	1名	副医学部長（教育担当）
精神科教員教員	1名	精神・認知・講堂医学分野教員
各学年担任	各学年2名	基礎系分野教授3名 臨床系分野教授3名 准教授・講師・助教 3名で構成 M1～M3は基礎系分野教員 M4～M6は臨床系分野教員が担当する。

(2) 連絡担当教員制度（M1・M2）

上記の学年担任に合わせて、M1・M2では、学生を4・5名のグループに振り分け、各グループを基礎系

分野教員が担当することで、幅広く相談できる体制を整えている。学業や学生生活、将来の方向性など、何か気になることがあれば、決められた担当分野の連絡担当教員に気軽に相談してほしい。

※グループ分け・担当教員は、4月に発表する。

連絡担当教員を担当する基礎系分野

統合解剖学	機能組織学	神経生化学	細胞生化学	細胞生理学
脳神経生理学	実験病態病理学	臨床病態病理学	免疫学	細菌学
薬理学	環境労働衛生学	公衆衛生学	法医学	ウイルス学
病態モデル医学	医学・医療教育学	神経発達症遺伝学	神経毒性学	神経発達・再生医学
認知症科学				

(3) メンター制度（臨床実習学生）

臨床実習に入った M4・5・6 の学生については、「メンター制度」を整備している。メンター制度は、臨床系講師以上の教員が、「臨床実習の相談役」として、学生 1～2 名を担当し、臨床実習ポートフォリオの評価・指導を通じて、①教員・学生間の信頼関係を深める、②医師としてのロールモデルを示し、学生のプロフェッショナリズム醸成を助ける、③学生の不安を軽減し、学習意欲を高めることを目的としている。

学生は、定められた時期にポートフォリオの内容確認のためメンター教員と面談を行うこと。また、実習中の学習や生活で不安に思うことがあれば、随時メンター教員に相談すること。

※詳細は「臨床実習の手引」を参照すること。

8. その他の学生生活上の案内・注意事項

学生生活上の案内・注意事項については、下記とともに、「学生生活のてびき」を参照すること。

(1) 医学部事務室について

部署名	医療人育成課 医学教育係
場所	桜山キャンパス 医学研究棟 1階
執務時間	平日 8:30～17:00
メールアドレス	medkyomu@sec.nagoya-cu.ac.jp
電話番号	052-853-8545

(2) 学生への連絡方法

- ・以下の連絡方法で、教員・事務室から連絡を行うので、必ず確認すること。
- ・連絡を見なかったことによる不利益は学生の責任となるので、注意すること。

連絡方法	備考
掲示板	・研究棟 1階（事務室前） 事務連絡、授業・試験関係 ・研究棟 2階（ロッカー前） 各種案内 ・基礎教育棟 1階 各種案内
学年代表を通じた連絡	・M2以降は、学年代表（3名）を通じても学年全体へ連絡事項を周知する。学生間での連絡網を構築し参加すること。
学務情報システム	・全学からの一般的な事務連絡、教養教育、一部の専門教育では、学務情報システムを通じて連絡する。
メール連絡	・学生個別の重要な連絡は、大学から付与されたアドレスに連絡する。 < c学籍番号@ed.nagoya-cu.ac.jp > ・学務情報システムで、普段利用しているアドレスへ転送設定する等必ず受信し確認できる環境を整えること。
電話	・緊急時は、直接個人の携帯電話に連絡する場合がある。

(3) 学生から事務室への連絡方法

- ・原則窓口対応とする。
- ・事務室からの連絡に対する返信や緊急の場合は、上記メールアドレス、電話へ連絡すること。
- ・その際、必ず「所属学年、学籍番号、氏名」を伝えること。

(4) 講義室、研修室の利用

- ・自主学習の環境として下表の部屋を使用可能としている。以下を守って利用すること。

- ①利用時間を厳守すること。
- ②共用の学習スペースであることを認識し、学生どうしで譲り合い、節度をもって利用すること。
- ③使用後は、消灯、エアコンの電源を消すなど原状復帰を行うこと。ゴミは持ち帰ること。
- ④授業、試験、団体活動等で利用できない場合がある。
- ⑤部活動等で利用する場合は、他の利用学生に十分配慮すること。

場所	利用時間	備考
基礎教育棟 講義室 1・2・3	平日 講義終了後 24時まで 土日祝日 7時～24時まで	
西棟 3階 研修室 1～12	平日 7時～24時まで 土日祝日 7時～24時まで	病院施設のため、病院スタッフが勤務している。廊下等での私語、スマートフォンの利用等は控えること。

- ・6年生には、医師国家試験対策のため、基礎教育棟5階、厚生会館2階を勉強部屋として貸与している。

(5) ロッカーの利用

- ・各人にロッカーを貸与する。

学年	場所
第1～3学年	基礎教育棟 1階
第4～6学年	研究棟 2階

- ・盗難を防止するため、貴重品は厳重に管理し、必ず各人で鍵を取り付けること。
- ・整理整頓を心がけること。放置されている物品は予告なく処分することがある。
- ・各人の責による破損等は、学生の負担により原状復帰をする必要がある。
- ・第6学年の卒業後に、第3学年の学生のロッカー移動を行う。

(6) 学内無線 LAN (ncuwifi)

以下の場所で利用可能である。接続方法は、大学ホームページで確認すること。

	設置場所
基礎教育棟	1階 ロビー
	2階 講義室 1・2
	5階 講義室 3、M6 勉強部屋
研究棟	1階 ロビー
	11階 講義室 A・B
西棟	1階 シミュレーションセンター 多目的室、周産期・新生児室、研修室 1、内視鏡室、模擬病室
	3階 研修室 1～12、多目的研修室

(令和3年9月現在)

※厚生会館食堂は、キャリアの無線 LAN が利用可能

(7) 学生自治会・学生代表委員会について

医学部学生の自治組織として、「医学部学生代表委員会」がある。医学部学生全員を構成員として、学生間の交流を深め、大学教職員と連携してよりよい学生生活を送るための活動を行うものである。

医学教育に関しては、学生代表委員のカリキュラム担当学生が、医学部の教務委員会（カリキュラム企画・運営委員会）に委員として参加し、学生目線から教職員と連携して医学教育の改革に取り組む体制としている。

資料：名古屋市立大学医学部学生代表委員会規約 参照

(8) 住所・氏名等の変更

- ・住所、氏名、電話番号、メールアドレス等が変更になった場合は、学務情報システム上で更新すること。

- ・氏名が変更になった場合は「改正（名）届」を記入し、戸籍抄本等とともに提出すること。

(9) 学生証について

- ・常に携行すること。詳細は「学生生活のてびき」参照。
- ・紛失した場合の再発行の手続きは、学生課学生支援係（滝子キャンパス3号館1F）にて行う。

(10) 証明書、学割の発行について

各種証明書、学割は、総合情報センター川澄分館（図書館）1階に設置されている「証明書自動発行機」で発行できる。

発行可能な証明書	
在学証明書	
学業成績証明書	
卒業見込証明書	※第6学年のみ
学割証	
健康診断受検証明書	

※自動発行機のメンテナンス等で自動発行できない場合は、医療人育成課窓口で対応する。
事務室で発行する場合は即時発行ができないため、余裕をもって申請すること。

(11) 駐輪許可登録

医学部生が桜山キャンパスに自転車で通学する場合は、駐輪許可が必要である。事務室で申請を行い、許可シールを自転車に貼り付けること。他学部生は原則として許可シールの発行はできない。

(12) 休学・復学・退学

休学	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病その他の理由で3ヶ月以上就学が困難な状況が見込まれる場合は、「休学届」（疾病による場合は診断書の添付が必要）を記入作成の上、事務室へ提出し、学長の許可を得る必要がある。 ・休学期間は在学年数には参入されない。 ・休学できる期間は、通算して3年である。 ・なお、休学にあたっては、事前に学生委員と面談し、休学の理由および休学によって生じる修学上の問題について十分に相談する必要がある。
復学	<ul style="list-style-type: none"> ・休学している学生が、休学許可期間の途中または満了時に復学を希望する場合は、復学願を事務室へ提出すること。
退学	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病その他の理由で学業を継続することが困難となり、退学しようとする場合は、「休学届」を記入作成の上、事務室へ提出し、学長の許可を得る必要がある。 ・退学にあたっては、事前に学生委員と面談し、退学理由、将来の進路等について十分に相談すること。

(13) 遺失物・拾得物

- ・学内での遺失物に関する問い合わせ、拾得物の届出は、下記防災センターに問い合わせること。
 - ①医学部防災センター 研究棟1階
 - ②病院防災センター 附属病院中央診療棟 1階

(14) 自家用車の乗入れの禁止

- ・学生が、自家用車で桜山キャンパス内に乗り入れることは厳禁とする。

9. 専門教育科目の内容

(1) 1 年次

開講年度	2023年度
科目名	総合医学コース・医学入門ユニット
専門・教養	専門
担当教員	
講義期間・曜日・時限	

授業目的・目標	<p>医師は科学者であり、その仕事は、病気に苦しむ患者さんの精神的・肉体的な治療にとどまらず、その発症の予防法や原因の探究、医療制度の改革、ヒトを含む生物の真理探究など、考える以上にそのカバーする領域は広く、M1学生は卒業後に様々な分野で活躍することが期待されている。活躍する人材には、その基盤となる分子生物学を含む知識と人間力が求められる。</p> <p>本コースでは、分子生物学の基礎知識の一部を学ぶとともに、様々な分野の第一線で活躍中の医師から、その仕事の内容を学び、また将来に対するアドバイスをいただき、“将来どんな医者として社会貢献していくのか”を考えるキャリアパスのための講義である。特に、各分野で活躍する医師の“人柄”を感じていただき、人間力を磨ききっかけとしていただきたい。</p>
キーワード	医療制度、禁煙教育、矯正医療、キャリアパス、分子生物医学の基礎
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1d, 2a, 2e, 3a, 3c, 4a, 4d
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 講義内容の分子生物学基礎と医学知識を理解できる。 第一線で活躍する医師の仕事を学び、共通する“人柄”を感じ人間力を高めるきっかけとする。 基本的な医学専門用語を日本語・英語で理解し、正確に記載できる。 <p>【該当するモデルコアカリ】 A-1), A-2), A-6), A-7), A-9), B-1-4), B-1-5), B-1-7), B-1-8), B-1-9), B-4-1), C-5-8), D-9, E-2</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している）</p> <p>優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している）</p> <p>良：70点以上（学修到達目標を達成している）</p> <p>可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	講義テーマごとの講義
授業計画	<p>学長、医学研究科長・病院長経験者、厚生労働省医系技官などを含む、各分野の第一線で活躍中の医師によるその専門分野の紹介、その仕事内容と経験に基づくM1学生へのメッセージを含んだ総論講義、分子生物学の基本を理解する講義を行う。</p> <p>また、性行為感染症、タバコの害、Basic Life Supportなどの医学生として知っておくべき内容の講義も実施する。</p> <p>さらに、英語化されたグローバル時代に対応すべく医学英語の課題を自主学習し、単語試験により確認する。</p>
授業時間外の学修（準備学習を含む）	講義内容を、教科書や図書書籍によって自己学習することが求められる。
成績評価方法	<p>70%以上の出席をもって本試験を受験することができる。ただし欠席・遅刻の場合には事前連絡すること。正当な理由なく欠席・遅刻の場合には本試験の受験資格を与えない。</p> <p>また、本試験に先立ち英単語試験を実施し、95%以上の得点をもって本試験の受験資格者とする。また復習試験も随時実施し、良好な成績者は本試験を免除する。本試験は、講義内容の理解度と自己学習能力を論述試験から判定する。</p>
教科書・テキスト	<p>1 新・大学生物学の教科書 第2巻分子遺伝学 ブルーバックス<講談社> 2,200円</p> <p>2 医学生のための(必須)医学英語 <金芳堂> 3,300円</p> <p>3 名市大ブックス 第11巻 <中日新聞社> 1,000円</p>
参考文献	
履修上の注意事項	初回の講義で全体のオリエンテーションを行い、その際に医学英語の課題を提示する。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	各講義の内容について、自主勉強が求められる
連絡先・オフィスアワー	<p>担当教員 : 医学研究棟7階 脳神経生理学 飛田秀樹</p> <p>電話番号(外線) : 052-853-8134</p> <p>電子メール : hhida@med.nagoya-cu.ac.jp</p>
実務経験を活かした教育の取組	「医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。」
備考	試験は教養試験期間とは別に行う、日程は改めて1月下旬に知らせる
関連URL	

医学入門ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
学長	浅井 清文 (元小児科医／基礎研究者)
厚生労働省・医系技官	大森 豊録 (元学長特別補佐)
蒲郡市民病院CEO	城 卓志 (消化器代謝内科学・前教授、名誉教授)
学習院女子大・教授	土屋 有里子 (専門：日本文化、死生学)
公衆衛生学・教授	鈴木 貞夫
細胞生化学・教授	加藤 洋一
細胞生化学・講師	嶋田 逸誠
西部医療センター・教授 (診療担当)	尾崎 康彦
脳神経生理学・教授	飛田 秀樹

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容 (仮題)	担当者
10	6	金	1	ガイダンス／医学情報処理 (図書館 (文献検索) 実習)	飛田 秀樹
	6	金	2	ガイダンス／医学情報処理 (図書館 (文献検索) 実習)	川澄分館職員
10	13	金	1,2	プロフェッショナルリズム 1 : (タイトル未定)	浅井 清文
10	20	金	1	大学生の生物学 1 : セントラルドグマ 1 (教科書 10.2, 11.1, 11.2, 11.3)	嶋田 逸誠
			2	大学生の生物学 2 : セントラルドグマ 2 (教科書 11.4, 11.5, 11.6)	嶋田 逸誠
10	27	金	1	プロフェッショナルリズム 2 : AEDの原理と実践	飛田 秀樹
		金	2	休講 (川澄祭準備)	
11	10	金	1,2	大学生の生物学 3 : 遺伝子発現の制御 1 (教科書 13.1, 13.2, 13.3)	加藤 洋一
				大学生の生物学 4 : 遺伝子発現の制御 2 (教科書 13.4, 13.5)	加藤 洋一
11	17	金	1	自習	
		金	2	プロフェッショナルリズム 4 : : 禁煙	鈴木 貞夫
11	24	金	1,2	保健医療 1 : この国の医療と福祉のかたちをつくる	大森 豊録
12	1	金	1,2	保健医療 2 : ①「排卵予知法と妊娠診断法」②「STOP THE STD!」	尾崎 康彦
12	8	金	1,2	予備日	
12	15	金	1	大学生の生物学 5 : DNAの複製 (教科書 10.3, 10.4, 10.5)	
			2	大学生の生物学 6 : 遺伝子変異と疾患 (教科書 12.1, 12.2, 12.3, 12.4, 12.5)	
12	22	金	1	中間試験 (医学英語および講義内容)	
		金	2	保健医療 3 : 監察医制度について	法務省名古屋管区
1	12	金	1,2	保健医療 4 : 未来の医療に向けて	城 卓志
1	19	金	1	プロフェッショナルリズム 5 : 医学の歴史と生命倫理	飛田 秀樹
		金	2	プロフェッショナルリズム 6 : 日本人の死生観	土屋 有里子
1	26	金	1,2	予備日	
2	1	金		教養試験期間	
2	9	金	1,2	本試験 (医学英語および講義内容)	

- # 教科書 新・大学生物学の教科書 第2巻分子遺伝学 ブルーボックス<講談社> 2,200円
11hi 名古屋市大ブックス第11巻 いきいき心臓とはつつ生活<中日新聞社> 1100円
英語単語 医学生のための (必須) 医学英語 <金芳堂> 3,300円

開講年度	2023年度
科目名	医学情報学
専門・教養	専門
担当教員	佐藤泰正（大須病院院長、内科）、井出政芳（北津島病院内科）、片野広之（医学医療情報管理学准教授、情報管理教育センター、脳神経外科）、早川富博（厚生連足助病院名誉院長、内科）、岸 真司（日赤愛知医療センター名古屋第二病院医療情報管理センター長、小児科）、佐野芳彦（作曲家、ト・ヘン取締役）＜順不同・敬称略＞
講義期間・曜日・時限	2024/2/5-13、月・火・水曜日、3～4限

授業目的・目標	【授業目的】医学とは、疾病の予防・診断および治療を目的として、研究を行う学問であり、このために医学は多くの情報を収集し意志決定を行うという情報処理過程を含んでいる。従って、基礎医学、臨床医学、社会医学を問わず、医学にはその基盤として情報科学が存在する。医学情報学は、一般の情報科学の医学的応用にとどまらず、医学と一体となってその基礎を形作っている固有の科学である。 【授業目標】「医学情報学」の講義を通して、専門化が進んだ医学・医療の総合化、医療を行う上での効率化、医学・医療の中で必要とされるあらゆる意志決定の基礎を理解する。
キーワード	情報管理/保険制度/カルテ論/機械学習/地域医療/解の探索/情報伝達
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域I-b, c, d, II-a, d, e, III-c, d, IV-a, d
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 医学・医療情報管理学（医学情報学）の基本理念と概略を総論として理解できる。 2. 将来の医療の担い手として必要な情報の入手、管理、利用および提供などに関する知識、実務、倫理を医学情報学の基礎として習得する。 3. 実際の臨床現場での応用について、診療情報の扱い方、地域医療、保険制度などを含め様々なテーマから習得する。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-1-1, 2, A-2-1, A-4-1, 2, A-7-1, B-1-7, 8, 9, B-2-2, B-3-1, B-4-1, B-5-1, 2, 8
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1年後期 16時間 1. 医学・医療情報管理学（医学情報学）総論 2. 医学情報学の基礎と応用 3. 情報セキュリティ・保険制度 4. 記号論・知識ベース・地域医療・遺伝的アルゴリズム・医用画像情報 5. 情報伝達・音情報・ユニバーサルデザイン
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、下記参考文献などの関連箇所を参考にして該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。また、各講義の感想、自分の意見などを400字程度にまとめたものを提出すること（小レポート、出席点 5x8=40）。
成績評価方法	講義は出席度、参加態度、質問頻度、質問内容および出席後の小レポートの提出、内容などで評価する（配分40%）。全講義終了後の医学情報に関する本レポート（テーマは自由選択。講義で扱ったテーマや、その他医学情報学に関するものであれば可。A4で3枚程度。配分60%）は単位認定試験の代替として医学部履修規程第15条に準ずる。（従って出席要件を満たさないものはレポート提出資格を失う。）レポートは内容の妥当性、独自性、適切な文献・資料の引用、自分の意見・論理の展開などで評価する。なお、講義中の私語など授業態度不良者、および指定したレポート提出期限を守らない者はすべて単位認定不可とする。
教科書・テキスト	特に指定しない
参考文献	医療情報「医学・医療編」「医療情報システム編」「情報処理技術編」日本医療情報学会 篠原出版社（図書館にあります。）
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。講義内容変更あり得るので、掲示に注意。講義中私語は厳禁。（守れない者は退室させる。授業態度不良者は単位認定不可とする。）
履修者への要望事項	特になし。
アクティブ・ラーニング	最後に学生と各講師との質疑応答・意見交換（ディベート）を行うので、積極的に発言すること。
連絡先・オフィスアワー	担当教員 : 片野広之 電話番号（外線） : 052-853-8286（脳神経外科医局） 電子メール : med-info@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー : 平日9-17時
実務経験を活かした教育の取組	主に医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

令和5年度 第1学年

医学情報学ユニット 担当教員(順不同)

所属・職名	氏名
大須病院院長、内科	佐藤泰正
厚生連足助病院名誉院長、内科	早川富博
医学医療情報管理学准教授、脳神経外科	片野広之
回精会 北津島病院 内科	井出政芳
日赤愛知医療センター名古屋第二病院 医療情報管理センター長、小児科	岸 真司
作曲家、ト・ヘン取締役	佐野芳彦

R6(2024)年 医学情報学授業計画(予定*)

月	日	曜日	時限	内 容(仮)	担当者(敬称略)
2024.2	5	月	3	医学情報学総論・情報セキュリティ	片野広之
2	5	月	4	解の探索(遺伝的アルゴリズム)	岸 真司
2	6	火	3	医学情報とナッジ	片野広之
2	6	火	4	中山間部医療・医療福祉とICT	早川富博
2	7	水	3	医療保険制度	片野広之
2	7	水	4	医療記号論とエスノメソドロジー	井出政芳
2	13	火	3	知識ベース・高血圧処方支援システム～機械学習	佐藤泰正
2	13	火	4	音楽のユニヴァーサルデザイン	佐野芳彦

2024.2.5-13 第3限 13:00-14:30 第4限 14:40-16:10

講義会場: 病院3階大ホール

* 講義内容変更あり得ますので、掲示に注意してください。

** 講義中私語厳禁。守れない人は退出させます。

(2) 基礎医学 (2 年次 4 月~12 月)

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	解剖学コース 肉眼解剖学ユニット/組織学・発生学・神経解剖学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	植木孝俊、井上浩一、菊島健児、森本浩之（以上、統合解剖学） 鶴川真也、植田高史、熊本奈都子、柴田泰宏、島田昌一、石田雄介（以上、機能組織学）
講義期間・曜日・時間	解剖学講義および実習予定表を参照

授業目的・目標	<p>【授業目的】 解剖学の目的は、人体の構造を明らかにし、形態の上から生命の本態を追究することにある。解剖学は、肉眼によって剖出と観察を行う「肉眼解剖学（系統解剖学）」と顕微鏡を用いて人体の微細な構造を明らかにする「顕微解剖学（組織学）」とに大別され、両方を学ぶ必要がある。さらに、「骨学」で、人体の骨格の成り立ちと、その機能を骨格本で学ぶとともに、「発生学」を学び、人体の発生・成熟過程を知る必要がある。これらの学問は、医学・医学研究の礎となるものであり、十分な学習と知識の習得が必要である。また、特に、「肉眼解剖学実習」においては、ご献体への接し方を通じ、医療者に必要とされる倫理観、服務態度を涵養するほか、実習場で解剖を限なく実施するための医療チーム内の信頼関係の構築、意思疎通の円滑化の術を習得する。さらに、「実習オリエンテーション」、「解剖感謝式」にて、ご献体下さった方のご遺志に触れ、ご遺族と交流することにより、医療人の社会的責務を理解、認識する。</p> <p>【授業目標】 人体の構造・発生に関して、巨視的・微視的に説明できる能力を身につける。医療人に必要とされる倫理観、服務態度、チームワークを円滑に実施するためのコミュニケーション能力、リーダーシップを涵養、習得する。また、医療人としての社会的責務を理解、認識する。</p>
キーワード	肉眼解剖学、骨学、組織学、発生学、神経解剖学、ご献体
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域1a、1c、1d、1Va、1Vb、1Vc、1vd
学習到達目標	<p>近年、新しい研究方法の導入によって、解剖学の上に新しい知識が限りなく加えられつつある。特に、超微細構造の研究は、細胞生物学を中心とする生化学分野での研究領域拡大と相まって、生体内における諸種構造の機能的意義の解明を一段促進しており、今日では、形態と機能を互いに分離して論ずることは不可能である。すなわち、解剖学では、新しい研究の成果は歴史的に築き上げられた膨大な基礎的事実の上に加えられる。その結果、解剖学の講義内容は日ごとに増加している。しかも、それは、学生が自ら解剖し、あるいは模倣し、よく考えることによってはじめて生きた知識となるのであって、解剖学を正しく理解するには、ただ単に各部位の名称を受動的に暗記するのではなく、人体の精巧な構造と機能に興味を抱き、探究心に導かれた自主的な学習態度が必要である。</p> <p>一方、学生が卒業後に医療の現場で患者に接し、多職種連携によるチーム医療をリーダーシップをとりながら円滑に実施するためには、高い倫理観と社会的責務の認識に裏付けられた医療者としての適切な服務態度を身に付けることが必要である。解剖学では、特にご献体での実習において、実習場で作業する中で、それら医療者に必須な倫理観、服務態度、コミュニケーション能力、リーダーシップの涵養と習得、および、社会的責務の理解と認識を促す。</p> <p>学習到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎医学の十分な知識を有する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 細胞の基本構造を説明できる。 (2) 各組織・各臓器の構造と位置関係を肉眼・光学顕微鏡・電子顕微鏡レベルで説明できる。 (3) 臓体と器官が形成される発生過程を説明できる。 2. 医療者に必要とされる倫理観を概説できる。 3. 医療者に求められる服務態度について概説できる。 4. 医療者の社会的責務について概説できる。 5. チームワークを円滑に遂行するための信頼関係の構築、意思疎通ができる。 6. チームワークを主導し目標を達成することができる。 <p>該当するモデル・コア・カリキュラム A-1、A-2、A-4、A-5、A-8、A-9、B-3、B-4、C-1、C-2、D-1-1、D-2-1、D-3-1、D-4-1、D-5-1、D-6-1、D-7-1、D-8-1、D-9-1、D-10-1、D-11-1、D-12-1、D-13-1、D-14-1、E-7、E-8、E-9</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学習到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学習到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学習到達目標を達成している） 可：60点以上（学習到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	<p>（講義）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序 論 2. 発生学 3. 組織学総論 4. 運動器系 5. 循環器系 6. 消化器系 7. 呼吸器系 8. 泌尿生殖器系 9. 内分泌系 10. 神経系 11. 感覚器系 <p>（実習）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 肉眼解剖学実習（実習オリエンテーション、実習、解剖感謝式） 2. 骨学実習 3. 組織学実習 4. 脳実習
授業計画	講義および実習予定表を参照のこと。随時、必要に応じて指示する。
授業時間外の学修（準備学習を含む）	予定表を確認の上、参考図書該当箇所を予習してから講義に臨むこと。神経解剖学の教科書に関しては、間違った記述が散見されるので、最低3種類は目を通すことが望ましい。講義終了後は、知識を定着させるため、復習すること。実習には、事前に教科書を熟読し、手順を把握してから臨むこと。また、実習終了後、観察事項について復習すること。
成績評価方法	各ユニットごとに、筆記試験、レポートなどの課題、講義と実習への出席状況、受講態度、実習達成度評価（実習スケッチ、口頭試験、実習態度、実習レポートなどにより評価）などにより総合的に判定し、60%以上の学習習得度を達成したと判断した場合に合格とする。また、肉眼解剖学ユニットにおいては、実習達成度評価が及第点（達成度60%）に達しないと判断されたときは、本試験の受験を認めない場合がある。
教科書・テキスト	<p>（解剖学、肉眼解剖学実習、骨学実習） 教科書 解剖学講義 伊藤春（南山堂） 解剖実習の手引き 寺田春水・藤田恒夫著（南山堂） 骨学のすゝめ 中野隆著（南山堂） ネット解剖学アトラス 原書第7版 または 同電子書籍付セット版（南山堂） 参考書 イラスト解剖学（第10版） 松村謙児著（中外医学社） 入門組織学 牛木辰男著（南山堂）</p> <p>（発生学） ムーア人体発生学（第11版）：K.L.Mooreら 著 大谷 浩 監訳（医歯薬出版） ラングマン人体発生学（第11版）：T.W.Sadler 著 安田延生ら 訳（医学書院） ギルバート発生生物学：Scott F.Gilbert 著 阿形清和・高橋淑子 監訳（MEDSI）</p> <p>（神経解剖学） 神経解剖学講義ノート：寺島俊雄 著（金芳堂） マーティン神経解剖学 ― テキストとアトラス（第4版）：野村 峰ら 監訳（西村書店） ハインズ神経解剖学アトラス（第5版）：Duane E.Haines 著 佐藤二美 訳（MEDSI） 機能解剖で斬る神経系疾患（第2版）：中野 隆 編著（メディカルプレス）</p> <p>（組織学） 標準組織学（総論・各論）（第6版）：藤田尚男・藤田恒夫 著（医学書院） 現代の組織学（改訂第3版）：山田安正 著（金原出版） 新編カラートラス組織・細胞学：岩永敏彦・木村俊介・小林純子 著（医歯薬出版） ジュンケイラ組織学（第5版）：坂井健雄・川上達人 監訳（丸善出版） 組織細胞生物学（原書第3版）：内山安男 翻訳（南山堂）</p>
参考文献	テキストや参考図書の中で挙げられている参考文献。講義時間中にも紹介する。
履修上の注意事項	講義資料は、原則、当日配布。
履修者への要望事項	肉眼解剖学実習、解剖感謝式には、華美な服飾（イヤリング、ネイルなど）、髪染めをせずに臨むこと。
アクティブ・ラーニング	肉眼解剖学実習においては臨床医学系教員による病態に関連する実習課題の提示と、課題の実習グループによる検討を行う。
連絡先・オフィスアワー	<p>連絡先 解剖学1/統合解剖学 電話：853-8121 （担当：植木 ueki@med.nagoya-cu.ac.jp） 解剖学2/機能組織学 電話：853-8126 （担当：鶴川 ugawa@med.nagoya-cu.ac.jp）</p> <p>オフィスアワー 平日8：45～17：15（事前に連絡すること）</p>
実務経験を活かした教育の取組	
備考	
関連URL	

解剖学コース 肉眼解剖学ユニット 担当教員

所属・職名
 統合解剖学分野 教授
 統合解剖学分野 准教授
 統合解剖学分野 講師
 統合解剖学分野 博士研究員

氏名
 植木 孝俊
 井上 浩一
 菊島 健児
 森本 浩之

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	4	火	3	解剖学ガイダンス、代謝内分泌系	植木
4	4	火	4	循環器系1	植木
4	6	木	3	循環器系2	植木
4	6	木	4	呼吸器系	植木
4	11	火	3	運動器系1	菊島
4	11	火	4	運動器系2	菊島
4	12	水	3	運動器系3	菊島
4	12	水	4	運動器系4	森本
4	13	木	3	運動器系5	森本
4	13	木	4	運動器系6	森本
4	18	火	3	消化器系1	井上
4	18	火	4	消化器系2	井上
4	19	水	3	骨学実習1 (基礎教育棟3階組織実習室)	解剖学1全教員
4	19	水	4	骨学実習2 (基礎教育棟3階組織実習室)	解剖学1全教員
4	20	木	3	消化器系3	井上
4	20	木	4	泌尿器系	井上
4	25	火	3	生殖器系1	菊島
4	25	火	4	生殖器系2	菊島
4	26	水	3・4	肉眼解剖学実習1 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
4	27	木	3・4	肉眼解剖学実習2 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
4	28	金	3・4	肉眼解剖学実習3 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	2	火	3・4	肉眼解剖学実習4 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	9	火	3・4	肉眼解剖学実習5 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	10	水	3・4	肉眼解剖学実習6 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	12	金	3・4	肉眼解剖学実習7 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	16	火	3・4	肉眼解剖学実習8 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	17	水	3・4	肉眼解剖学実習9 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	18	木	3・4	肉眼解剖学実習10 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	19	金	3・4	肉眼解剖学実習11 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	23	火	3・4	肉眼解剖学実習12 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	24	水	3・4	肉眼解剖学実習13 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	25	木	3・4	肉眼解剖学実習14 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	26	金	3・4	肉眼解剖学実習15 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	30	火	3・4	肉眼解剖学実習16 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
5	31	水	3・4	肉眼解剖学実習17 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	1	木	3・4	肉眼解剖学実習18 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	2	金	3・4	肉眼解剖学実習19 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	6	火	3・4	肉眼解剖学実習20 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	7	水	3・4	肉眼解剖学実習21 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	8	木	3・4	肉眼解剖学実習22 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	9	金	3・4	肉眼解剖学実習23 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	13	火	3・4	肉眼解剖学実習24 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	14	水	3・4	肉眼解剖学実習25 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	15	木	3・4	肉眼解剖学実習26 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	16	金	3・4	肉眼解剖学実習27 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	20	火	3・4	肉眼解剖学実習28 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	21	水	3・4	肉眼解剖学実習29 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	22	木	3・4	肉眼解剖学実習30 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
6	27	火	3・4	肉眼解剖学実習31 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学2全教員
6	28	水	3・4	肉眼解剖学実習32 (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学2全教員
6	29	木	3・4	肉眼解剖学実習33 (納棺) (基礎教育棟6階解剖実習室)	解剖学1全教員
7	3	月	3・4	本試験	
10	17	火	3・4	解剖感謝式 (さくら講堂)	
11	20	月	3・4	再試験	

解剖学コース 組織学・発生学・神経解剖学ユニット 担当教員

所属・職名
 機能組織学分野 教授
 機能組織学分野 准教授
 機能組織学分野 講師
 機能組織学分野 助教
 大阪大学大学院 医学系研究科 教授
 東北医科薬科大学 医学部 教授

氏名
 鵜川 真也
 植田 高史
 熊本 奈都子
 柴田 泰宏
 島田 昌一
 石田 雄介

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
4	5	水	1・2	組織学総論(1)・(2)	柴田 泰宏
	6	木	1	組織学総論(3)	柴田 泰宏
	6	木	2	組織学総論(4)	熊本 奈都子
	7	金	1・2	組織学実習(1)	全教員
	12	水	1	神経解剖学(1)	熊本 奈都子
	12	水	2	感覚器(1)	熊本 奈都子
	13	木	1	発生学総論(1)	植田 高史
	13	木	2	神経解剖学(2)	鵜川 真也
	14	金	1・2	組織学実習(2)	全教員
	19	水	1	発生学総論(2)	植田 高史
	19	水	2	神経解剖学(3)	鵜川 真也
	20	木	1	発生学各論(1)	植田 高史
	20	木	2	神経解剖学(4)	鵜川 真也
	21	金	1・2	組織学実習(3)	全教員
	26	水	1	発生学各論(2)	植田 高史
	26	水	2	神経解剖学(5)	鵜川 真也
	27	木	1	感覚器(2)	鵜川 真也
	27	木	2	神経解剖学(6)	鵜川 真也
	28	金	1・2	組織学実習(4)	全教員
5	10	水	1・2	感覚器(3)・(4)	石田 雄介
	12	金	1・2	組織学実習(5)	全教員
	17	水	1・2	神経解剖学(7)・(8)	島田 昌一
	19	金	1・2	組織学実習(6)	全教員
	24	水	1	発生学各論(3)	植田 高史
	24	水	2	神経解剖学(9)	鵜川 真也
	26	金	1・2	組織学実習(7)	全教員
	31	水	1	発生学各論(4)	植田 高史
	31	水	2	神経解剖学(10)	鵜川 真也
6	2	金	1・2	組織学実習(8)	全教員
	7	水	1・2	組織学実習(9)	全教員
	9	金	1・2	組織学実習(10)	全教員
	14	水	1・2	組織学実習(11)	全教員
	16	金	1・2	組織学実習(12)	全教員
	21	水	1・2	組織学実習(13)	全教員
	23	金	1・2	組織学実習(14)	全教員
	27	火	3・4	肉眼解剖学実習(31)	全教員
	28	水	1・2	組織学実習予備日	
	28	水	3・4	肉眼解剖学実習(32)	全教員
	30	金	1・2	組織学実習予備日	
7	5	水	1・2	組織学実習(15)	全教員
	6	木	3・4	組織学実習(16)	全教員
	12	水	1・2	組織学実習(17)	全教員
	13	木	3・4	組織学実習(18)	全教員
	19	水	1・2	組織学実習(19)	全教員
	24	月	AM・PM	組織学総論・各論・実習試験	全教員
9	1	金	3・4	中間試験	全教員
10	2	月	3・4	本試験	全教員
	17	火	PM	解剖感謝式	
11	27	月	3・4	再試験	全教員

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	生化学コース・物質と代謝／分子と細胞ユニット
専門・教養	専門
担当教員	1) 物質と代謝ユニット：(医学部)加藤洋一、鄭 且均、藤嶋、辻田麻紀 非常勤講師：(国立長寿医療センター) 里 直行、(国立長寿医療センター) 渡辺 研、道川 誠 2) 分子と細胞ユニット：(医学部)加藤洋一、嶋田逸誠、二宮裕将、横本 寛、今井優樹、志馬寛明 非常勤講師：(医学部)岡本 尚、(東京大学)中西 真、(愛知県医療療養総合センター)中西圭子、(岐阜医療科学大学)石黒啓司
講義期間・曜日・時限	生化学講義および実習予定表を参照
授業目的・目標	卒業時コンピテンシー：領域1 1) 細胞を構成する細胞膜、細胞小器官の構造と機能を理解するとともに、遺伝子からタンパクへの流れに基づく生命現象を学び、遺伝子工学の手法と応用やヒトゲノムの解析を理解する。 2) 細胞の共通の属性である細胞周期、細胞骨格、タンパク質および脂質の細胞内輸送、さらには神経細胞等の特殊化した細胞機能を理解する。さらに、細胞表面から核内にある情報伝達経路について詳細な分子機構を理解する。 3) 生体における脂質・糖質・タンパク質、酵素、ビタミン等の物質の構造と機能を学び、さらにこれらがどのように代謝と呼ばれる、合成・分解・変換の反応を受け、エネルギーを発生させ、生体の機能を発現させるのかを理解する。
キーワード	細胞膜、細胞小器官、遺伝子、細胞周期、代謝、糖質、脂質、タンパク質、酵素、ビタミン
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】領域1a, 1c, 1d
学習到達目標	【細胞の構造と機能 (0-1-1, 0-2-1)】 1) 細胞の構造と細胞小器官の機能を説明できる。 2) 細胞内のエネルギー変換を説明できる。 3) 細胞骨格の構造と機能を概説できる。 4) アクチンフィラメント系による細胞運動を説明できる。 5) 細胞同士の接着と結合様式を説明できる。 6) 細胞膜の構造と細胞膜を介する物質の能動・受動輸送過程を概説できる。 7) 細胞膜を介する分泌と吸収の過程を説明できる。 8) 細胞内輸送システムを説明できる。 9) 受容体を介する細胞内シグナル伝達の過程と機能を概説できる。 10) 細胞周期と細胞死の過程を概説できる。 【遺伝的多様性と疾患 (0-4-1)】 1) Mendelの法則、ミトコンドリア遺伝、インプリンティング及び多因子遺伝の説明、ならびに遺伝型と表現型の関係を説明できる。 2) 染色体の構造を概説し、ゲノムと染色体及び遺伝子の構造と関係性、体細胞分裂及び減数分裂における染色体の挙動を説明できる。 3) 遺伝病についてその遺伝形式と病因を説明できる。 4) デオキシリボ核酸(DNA)からリボ核酸(RNA)への転写、タンパク質合成に至る翻訳を含む遺伝情報の発現及び調節(セントラルドグマ)を説明できる。 5) デオキシリボ核酸の複製と修復を概説できる。 6) 体分析・DNA配列決定を含むゲノム解析技術を概説できる。 【生体物質の代謝(0-2-5)】 1) 酵素の機能と調節を説明できる。 2) 解糖の経路と調節機構を説明できる。 3) クエン酸回路を説明できる。 4) 電子伝達系と酸化的リン酸化を説明できる。 5) 糖新生の経路と調節機構を説明できる。 6) グリコーゲンの合成と分解の経路を説明できる。 7) 五炭糖リン酸回路の意義を説明できる。 8) 脂質の合成と分解を説明できる。 9) リポタンパクの構造と代謝を説明できる。 10) タンパク質の合成と分解を説明できる。 11) アミノ酸の異化と尿素合成の経路を概説できる。 12) ヘム・ホルフィリンの代謝を説明できる。 13) スクワレノイドの合成・異化・再利用経路を説明できる。 14) 酸化ストレス(フリーラジカル、活性酸素)の発生と作用を説明できる。 15) ビタミンの種類と作用を説明できる。 16) エネルギー代謝(エネルギーの定義、食品中のエネルギー値、エネルギー消費量、推定エネルギー必要量)を理解し、空腹(飢餓)時、食後(過食時)と運動時における代謝を説明できる。 【代謝障害(0-4-3)】 1) 糖・タンパク質・アミノ酸、脂質代謝異常の病態を説明できる。 2) 核酸・スクワレノイド代謝異常の病態を説明できる。 3) ビタミン、微量元素の代謝異常の病態を説明できる。 4) 肥満に起因する代謝障害の病態を説明できる。 【加齢と老化(E-8)】 加齢と老化によって伴う神経変性疾患であるアルツハイマー病を説明できる。
成績評価基準	秀：90点以上(学習到達目標を越えたレベルを達成している) 優：80点以上(学習到達目標を十分に達成している) 良：70点以上(学習到達目標を達成している) 可：60点以上(学習到達目標を最低限度達成している)
授業概要	1. 細胞の構造と機能 (0-1-1, 0-2-1) 2. 遺伝的多様性と疾患 (0-4-1) 3. 生体物質の代謝 (0-2-5) 4. 代謝障害 (0-4-3) 5. 加齢と老化 (E-8)
授業計画	1) 物質と代謝ユニット：ガイドランス1、タンパク質7、糖質8、脂質6、酵素3、生体酸化2、ビタミン3、スクワレノイド代謝1。 2) 分子と細胞ユニット：総論2、核酸1、遺伝学1、DNA複製1、染色体分配1、DNA修復1、転写と遺伝子発現1、RNAエディティング・マイクロナRNA1、翻訳2、ゲノム科学1、バイオイノフォマティクス1、膜輸送1、細胞内輸送2、細胞間情報伝達2、エネルギー変換1、細胞骨格1、細胞周期1、免疫基礎2、実験技術1、疾患4、学生発表4。 ※講義の一部を学生による講義形式の発表とし、相互に研鑽した内容について質疑を行う。また、論文抄読により学生が自ら研鑽・理解した内容につきディスカッションする。
授業時間外の学習(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の内容を事前に予習した上で、講義に臨むこと。 授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
成績評価方法	各ユニットごとに、筆記試験、実習口頭試験、実習レポートにより総合判定し、60%の理解度を達成したものを合格とする。
教科書・テキスト	教員より配布されるプリントが各講義の中心となる。参考テキストとして適宜、以下の生化学・分子生物学のテキストを利用すること。 (物質と代謝) ハーパー・生化学 丸善出版事業部 デプリン生化学-臨床の理解のために 丸善出版事業部 レーニンジャー・生化学 廣川書店 ヴォート・生化学 東京化学同人 ストライヤー生化学 東京化学同人 イラストレイテッド生化学 丸善出版事業部 (分子と細胞) 細胞の分子生物学(ニュートンプレス) 羊土社 診療・研究にダイレクトにつながる遺伝医学 羊土社
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要項事項	生化学は、分子生物学を含む広範な領域をカバーしているため暗記中心では対応できない。内容の理解を第一に。理解できないことは積極的に教員に質問すること。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。「物質と代謝」ユニットでは、学生グループがテーマについてプレゼンテーションを行う。「分子と細胞」ユニットでは、学生一人一人がテーマについて数分間のプレゼンテーションを行う。
連絡先・オフィスアワー	電話番号(外線)：853-8141(神経生化学)、853-8146(細胞生化学) オフィスアワー：月～金 8:45-17:15(事前に連絡すること)
実務経験を活かした教育の取組	
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。授業時間外の学習について、講義内容を十分に理解するために、配布されたプリントや上に記載したテキスト等にあたり、授業に関連した箇所を掘り下げて学習すること。
関連URL	

生化学コース 物質と代謝ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 細胞生化学分野・教授	加藤 洋一
医学研究科 神経生化学分野・准教授	鄭 且均
医学研究科 神経生化学分野・准教授	鄒 鞏
医学研究科 神経生化学分野・講師	辻田 麻紀
非常勤講師	道川 誠
国立長寿医療研究センター・客員教授	里 直行
国立長寿医療研究センター・客員教授	渡辺 研

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	10	月	3	ガイダンス	鄭
4	10	月	4	タンパク質1(アミノ酸とペプチド、タンパク質の構造)	道川
4	11	火	1	酵素1(酵素の分子構造と機能、レーニンジャー新化学第5版(上)、p267-p283参考、授業日までに予習しておく)	鄭
4	11	火	2	糖質1(代謝概観と糖質の消化・吸収、カラー生化学p315-323、イラストレイテッド生化学p101-107)	鄒
4	17	月	3	タンパク質2(タンパク質の分離・精製・解析法)	道川
4	17	月	4	タンパク質3(アミノ酸、タンパク質の合成、輸送)	道川
4	18	火	1	脂質1(リッピンコト・イラストレイテッド生化学(LC)、15章)	辻田
4	18	火	2	酵素2(酵素の反応速度と阻害物質1、レーニンジャー新化学第5版(上)、p283-p338参考、授業日までに予習しておく)	鄭
4	24	月	3	タンパク質4(タンパク質の機能1)	道川
4	24	月	4	タンパク質5(タンパク質・アミノ酸の分解、尿素回路)	道川
4	25	火	1	糖質2(解糖、イラストレイテッド生化学p111-131)	鄒
4	25	火	2	脂質2(ハーバー・イラストレイテッド生化学(IH)、22,23,25章)(LC、16章)	辻田
5	1	月	3	酵素3(酵素の反応速度と阻害物質2、レーニンジャー新化学第5版(上)、p283-p338参考、授業日までに予習しておく)	鄭
5	1	月	4	脂質3(LC、16章)(IH、22、23章)	辻田
5	2	火	2	脂質4(IH、24章)(LC、17章)	辻田
5	8	月	3	糖質3(TCA回路、イラストレイテッド生化学p133-141、p89-95)	鄒
5	8	月	4	ビタミン1(ビタミン一般論、ハーバー生化学第30版、p633-p653、授業日までに予習しておく)	鄭
5	9	火	1	タンパク質6(タンパク質の機能2)	渡辺(客員教授)
5	11	木	1	ビタミン2(水溶性ビタミン、ハーバー生化学第30版、p633-p653、授業日までに予習しておく)	鄭
5	11	木	2	タンパク質7(タンパク質代謝と老化・疾患)	里(客員教授)
5	15	月	3	糖質4(糖新生と血糖の調節、イラストレイテッド生化学p146-153、ハーバー生化学p194-203)	鄒
5	15	月	4	ビタミン3(脂溶性ビタミン、ハーバー生化学第30版、p633-p653、授業日までに予習しておく)	鄭
5	18	木	1	糖質5(グリコーゲン代謝と単糖、二糖の代謝、イラストレイテッド生化学p155-177)	鄒
5	18	木	2	生体酸化1(医科生化学 4章1-4)	辻田
5	22	月	3	糖質6(ペントースリン酸経路とNAPDH、イラストレイテッド生化学p179-191)	鄒
5	22	月	4	脂質5(IH、26章)(LC、18章)	辻田
5	23	火	2	ヌクレオチド代謝	加藤
5	25	木	1	糖質7(グリコサミノグリカン、イラストレイテッド生化学p193-201)	鄒
5	25	木	2	生体酸化2(医科生化学 4章5)	辻田
5	29	月	3	糖質8(糖タンパク質、イラストレイテッド生化学p201-209)	鄒
5	29	月	4	脂質6(ヴォート生化学、25章)	辻田
5	30	火	1	学生発表	全教員
5	30	火	2	学生発表	全教員
7	18	火	3	生化学 物質と代謝ユニット 筆記試験	
11	22	水	3	生化学 物質と代謝ユニット 筆記試験(再試験)	

月	日	曜日	時限		担当者
8	29	火	1		鄭
9	4	月	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
	5	火	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
	6	水	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
	7	木	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
	12	火	1, 2	タンパク質化学実習ーディスカッションまたは予備日	全教員
	13	水	1, 2	タンパク質化学実習ーディスカッションまたは予備日	全教員
	25	月	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
	26	火	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
	27	水	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
	28	木	1, 2, 3, 4	タンパク質化学実習	全教員
10	3	火	1, 2	タンパク質化学実習ーディスカッションまたは予備日	全教員
	4	水	1, 2	タンパク質化学実習ーディスカッションまたは予備日	全教員

生化学コース 分子と細胞ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
細胞生化学分野・教授	加藤洋一
細胞生物学分野・講師	二宮裕将
細胞生物学分野・講師	嶋田逸誠
細胞生物学分野・助教	橋本寛
免疫学・教授	山崎小百合
免疫学・講師	志馬寛明
非常勤講師(名市大・医・名誉教授)	岡本尚
非常勤講師(東大医科研・教授)	中西真
非常勤講師(愛知県医療療育総合センター)	中西圭子
非常勤講師(岐阜医科大・保・教授)	石黒啓司

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	1	木	1	分子生物学総論	加藤
	1	木	2	核酸とその構造	中西(圭)
	5	月	3	クロマチン構造と基本転写因子	二宮
	5	月	4	遺伝子発現制御機構・転写の活性化と抑制	二宮
	6	火	1	予備日	
	6	火	2	スプライシング・RNAエディティング・マイクロRNA	加藤
	8	木	1	翻訳1	橋本
	8	木	2	翻訳2および翻訳後修飾	橋本
	12	月	3	ゲノム科学	岡本
	12	月	4	バイオインフォーマティクス	岡本
	13	火	1	DNAの複製と再構成	加藤
	13	火	2	DNA修復機構	加藤
	15	木	1	基礎遺伝学	加藤
	15	木	2	染色体分配	加藤
	19	月	3	病気と遺伝子	石黒
	19	月	4	病気と遺伝子	石黒
	20	火	1	細胞生物学総論	加藤
	20	火	2	細胞周期と細胞死	加藤
	22	木	1	膜構造と膜輸送	加藤
	22	木	2	細胞骨格	加藤
	26	月	3	ガンと生化学	中西(真)
	26	月	4	ガンと生化学	中西(真)
	27	火	1	細胞内タンパク輸送(小胞体、ゴルジ体、エンドサイトーシス、エキソサイトーシス)	嶋田
	27	火	2	細胞内タンパク輸送(核、ミトコンドリア)	嶋田
	29	木	1	エネルギー変換:ミトコンドリア	加藤
	29	木	2	シグナルと転写	加藤
7	4	火	1	免疫学の基礎(1)	山崎
	4	火	2	免疫学の基礎(2)	志馬
	6	木	1	情報伝達と発生	加藤
	6	木	2	組換えDNA 実験法の原理	加藤
	10	月	3	学生発表	全教員
	10	月	4	学生発表	全教員
	11	火	1	学生発表	全教員
	11	火	2	学生発表	全教員
	13	木	1	予備日	
	13	木	2	予備日	

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
8	29	火	2	生化学実習(分子生物学編) 総論と各論	全教員
9	4	月	1,2,3,4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	5	火	1,2,3,4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	6	水	1,2,3,4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	7	木	1,2,3,4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	12	火	1,2,3,4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	13	水	1,2,3,4	予備日	全教員
	25	月	1,2,3,4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	26	火	1,2,3,4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	27	水	1,2,3,4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	28	木	1,2,3,4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
10	3	火	1,2,3,4	生化学実習(分子生物学編)	全教員
	4	水	1,2,3,4	予備日	全教員

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
10	16	月	3,4	分子と細胞ユニット 筆記試験	
11	30	木	3,4	分子と細胞ユニット 再試験	

開講年度	2023年度
科目名	生理学コース・植物的機能系／動物的功能系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	飛田秀樹、橋谷 光、田尻直輝、清水健史、三井 烈、高野博充、中森裕之、上野新也、瀬尾由広、中里浩一、福田道雄、富永真琴、田中謙二、近藤高史
講義期間・曜日・時限	

授業目的・目標	生理学では、生体の正常な機能を細胞、組織、器官の各レベルで理解し、それらが統合され個体として機能している仕組みを学習する。断片的な知識習得にとどまることなく系統的に学習することにより、生体機能制御系が有機的に連関していることを理解し、生命現象の精巧かつ巧妙な仕組みを実感してもらいたい。臨床医学で学ぶ様々な疾病は、正常な生体機能が損なわれた状態であることから、生理学は臨床医学を理解するために不可欠な基盤となっている。
キーワード	細胞リズム、筋肉の多様性、情動形成、運動機構
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1a, 1c, 1d
学習到達目標	講義の各項目で学習する生理機能について、分子、細胞、組織、器官それぞれのレベルで理解し、説明できるようにする。その上で、各生理機能の生命機能の中での位置づけや役割などを考察し、他の生理機能との関連や生命体としての統合を説明できるようにする。 【該当するモデルコアカリ】 C-1-1, C-2-1, C-2-3, C-2-4, C-5-1, C-5-2, C-5-3, C-5-4, C-5-5, C-5-7, D-1, D-4, D-5, D-6, D-7, D-8, D-9, D-10, D-12, D-13, D-14, E-7
成績評価基準	秀:学修到達目標を越えたレベルを達成している 優:学修到達目標を十分に達成している 良:学修到達目標を達成している 可:学修到達目標を最低限達成している
授業概要	
授業計画	動物的功能系ユニットと植物的機能系ユニットに分け、講義・実習を行う。 講義： パワーポイント、配布資料、板書などにより生理機能を解説する。 実習： 全体を8グループに分け、各グループが全て8項目について実習(終日)を行い、日を改めて実習内容についての発表・討議を行い、レポートを提出する。 4月以降順次講義を行い、実習関連項目の講義終了後(9月以降)に実習を行う。講義は、生理学の主要な分野について概説し、自主学習するための指針を与える。実習では、生体および摘出標本を用いて生理活動を体験しながら、講義で学修した内容の理解を深める。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	講義： 授業計画表を確認の上、あらかじめテキスト(参考文献)で該当項目を予習してから受講することが不可欠であり、講義終了後には小テストを実施して理解度を確認する。質問は講義後速やかに行って問題点を解決し、復習して学修内容を定着させることが重要である。 実習： 対応する講義内容を十分に復習、理解してから参加する必要がある。実習から討論まで、討論からレポート提出までの期間に各人およびグループで十分な考察と討議を行うことにより、理解を深めて定着させることが可能となる。
成績評価方法	夏休み明けに実施する両ユニット合同中間試験、講義・実習終了後に実施する各ユニット毎の期末試験を実施する。おおよその配点比率は出席・実習態度(10%程度)、中間試験(30%程度)、期末試験(60%程度)とするが、これらを総合的かつ客観的に判定し、M2における生理学について、必要な学習理解度と学習姿勢に達成した者を合格とする。
教科書・テキスト	標準生理学 第9版 医学書院 Textbook of Medical Physiology 13th Edition Guyton & Hall, Elsevier 2018
参考文献	
履修上の注意事項	実習は実験動物や人体を使用し、補講が困難である。従って、受講できない場合や実習態度に問題がある場合は、翌年に再受講(留年)することになるので真摯な態度で実習に臨むこと。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション
連絡先・オフィスアワー	研究棟7階西側 (植物的機能系ユニット:853-8131; 動物的功能系ユニット:853-8136) 質問に際しては、自ら調べて理解する努力を十分に行うこと。講義内容レポート、解答例添削、正誤確認などは行わない。必ず事前にメール等(大学ホームページ参照)で担当教員にアポイントを取ること、またメールでの質問・回答を活用すること。
実務経験を活かした教育の取組	
備考	
関連URL	

植物的機能系ユニット 担当教員

所属・職名

細胞生理学 教授
 脳神経生理学 教授
 細胞生理学 講師
 脳神経生理学 講師
 細胞生理学 助教
 細胞生理学 助教
 循環器内科 教授
 日本体育大学 教授
 増子クリニック 副院長

氏名

橋谷 光
 飛田秀樹
 三井 烈
 清水健史
 高野博充
 中森裕之
 瀬尾由広
 中里浩一
 福田道雄

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	10	月	1	オリエンテーション	飛田
4	17	月	1	腎1	高野
4	24	月	1	腎2	高野
5	1	月	1	腎3	高野
5	8	月	1	腎4	高野
5	15	月	1	酸塩基1	高野
5	22	月	1	酸塩基2	高野
5	29	月	1	心臓1	橋谷
6	5	月	1	心臓2	橋谷
6	12	月	1	心臓3	橋谷
6	19	月	1	心臓4	橋谷
6	26	月	1	微小循環	三井
7	4	火	3	循環1	橋谷
7	5	水	3	循環2	橋谷
7	7	金	2	血管	三井
7	7	金	3	呼吸1	清水
7	7	金	4	呼吸2	清水
7	10	月	1	呼吸3	清水
7	11	火	3	特殊循環	三井
7	12	水	3	平滑筋1	三井
7	12	水	4	血液1	三井
7	14	金	2	平滑筋2	三井
7	19	水	3	血液2	橋谷
7	19	水	4	血液3	中森
7	20	木	1	自律神経	飛田
8	28	月	3~4	生理学 中間試験	全教員
8	30	水	1	内分泌1	飛田
8	30	水	2	消化管1	中森
8	31	木	1	内分泌2	飛田
8	31	木	2	消化管2	中森
9	8	金	1	内分泌3	飛田
9	8	金	2	消化吸収1	中森
9	11	月	1	内分泌4	飛田
9	11	月	2	消化吸収2	中森
9	14	木	1	排尿機能	橋谷
9	14	木	2	内分泌5	飛田
9	15	金	1	実習説明	全教員
9	15	金	2	細胞リズム	橋谷
9	15	金	3	特別講義(心臓)	瀬尾
9	15	金	4	特別講義(腎臓)	福田
9	20	水	1~4	実習1	全教員
9	21	木	1~4	実習2	全教員
9	22	金	1~4	実習3	全教員
9	29	金	1	実習討論1	全教員
9	29	金	2	実習討論2	全教員
10	5	木	1~4	実習4	全教員
10	6	金	1	(予備日)	
10	10	火	3	実習討論3	全教員
10	10	火	4	実習討論4	全教員
10	11	水	1~4	実習5	全教員
10	12	木	1~4	実習6	全教員
10	18	水	1~4	実習7	全教員
10	19	木	1~4	実習8	全教員
10	20	金	1	実習討論5	全教員
10	20	金	2	実習討論6	全教員
10	20	金	3	筋肉と代謝・循環	橋谷
10	20	金	4	特別講義(加齢と筋肉)	中里
10	23	月	3	実習討論7	全教員
10	23	月	4	実習討論8	全教員
10	25	水	1~4	(実習 予備日)	全教員
10	26	木	1~2	(実習討論 予備日)	全教員
11	6	月	3~4	植物生理 本試験	全教員
12	5	火	3~4	植物生理 再試験	全教員

動物の機能系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
脳神経生理学 教授	飛田秀樹
細胞生理学 教授	橋谷 光
脳神経生理学 准教授	田尻直輝
脳神経生理学 講師	清水健史
細胞生理学 講師	三井 烈
脳神経生理学 助教	上野新也
細胞生理学 助教	高野博充
細胞生理学 助教	中森裕之
自然科学研究機構 生理学研究所 教授	富永真琴

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	10	月	1	オリエンテーション／膜	飛田
4	10	月	2	興奮1	清水
4	17	月	2	興奮2	清水
4	24	月	2	チャネル	田尻
5	1	月	2	シナプス	上野
5	8	月	2	骨格筋1	橋谷
5	15	月	2	骨格筋2	橋谷
5	22	月	2	体性感覚	飛田
5	29	月	2	視覚1	田尻
6	5	月	2	視覚2	田尻
6	12	月	2	視覚3	田尻
6	19	月	2	運動1	飛田
6	26	月	2	運動2	飛田
7	4	火	4	聴覚	田尻
7	5	水	4	平衡覚	田尻
7	7	金	1	脳機能	上野
7	10	月	2	運動3	飛田
7	11	火	4	基底核	上野
7	14	金	1	小脳	上野
7	20	木	2	味覚・嗅覚	上野
8	28	月	3～4	生理学 中間試験	全教員
9	8	金	3	脳の発生	清水
9	8	金	4	大脳皮質	上野
9	11	月	3	視床下部	飛田
9	11	月	4	辺縁系	飛田
9	14	木	3～4	特別講義1	富永
9	15	金	1	実習説明	全教員
9	19	火	3	記憶	飛田
9	19	火	4	概日リズム	田尻
9	20	水	1～4	実習1	全教員
9	21	木	1～4	実習2	全教員
9	22	金	1～4	実習3	全教員
9	29	金	1	実習討論1	全教員
9	29	金	2	実習討論2	全教員
10	5	木	1～4	実習4	全教員
10	6	金	2	体温調節	田尻
10	6	金	3～4	特別講義2	(未定)
10	10	火	3	実習討論3	全教員
10	10	火	4	実習討論4	全教員
10	11	水	1～4	実習5	全教員
10	12	木	1～4	実習6	全教員
10	18	水	1～4	実習7	全教員
10	19	木	1～4	実習8	全教員
10	20	金	1	実習討論5	全教員
10	20	金	2	実習討論6	全教員
10	23	月	1～2	脳研究	飛田
10	23	月	3	実習討論7	全教員
10	23	月	4	実習討論8	全教員
10	25	水	1～4	(実習 予備日)	全教員
10	26	木	1～2	(実習討論 予備日)	全教員
11	13	月	3～4	動物生理 本試験	全教員
12	8	金	3～4	動物生理 再試験	全教員

開講年度	2023年度
科目名	総合医学コース・水平統合基礎ユニット
専門・教養	専門
担当教員	飛田秀樹、橋谷 光、加藤洋一、植田高史、井上浩一、高野博充、片岡洋望、松川則之、伊藤 剛、島野泰暢
講義期間・曜日・時限	11月上旬から実施

授業目的・目標	生体の正常な構造と機能を、解剖学・生化学・生理学の講義と実習を通じて概ね理解できたM2終盤の時期に、臨床医学で学ぶ様々な疾病が、正常な生体機能が損なわれた状態であることを念頭に置きながら、生体機能が有機的に関連していることを横断的に理解する。
キーワード	虚血性心疾患治療の基礎的根拠、消化器疾病病態、人工透析のメカニズム、脳神経疾患の基礎
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1a, 1c, 1d
学習到達目標	臨床で重要となる疾患を視野に入れつつ、解剖・生化・生理学で学んだ知識を統合的に理解することを学習到達目標とする。 【該当するモデルコアカリ】 C-1-1, C-2-1, C-2-3, C-2-4, C-5-1, C-5-2, C-5-3, C-5-4, C-5-5, C-5-7, D-1, D-4, D-5, D-6, D-7, D-8, D-9, D-10, D-12, D-13, D-14, E-7
成績評価基準	秀：学修到達目標を越えたレベルを達成している 優：学修到達目標を十分に達成している 良：学修到達目標を達成している 可：学修到達目標を最低限達成している
授業概要	循環器系、消化器系、呼吸器系、内分泌系、腎泌尿器系、脳神経系に絞り、臨床で重要となる疾患のより深い理解に繋げるための解剖・生化・生理の統合的講義を行う。
授業計画	循環器系では、虚血性心疾患を理解するための解剖生理を統合的に講義する。消化器系では、消化器疾患の病態を理解するための解剖生理を統合的に講義する。呼吸器系では、気管支ぜんそくを中心とする呼吸器疾患を理解するための解剖生理を講義する。内分泌障害では、バセドウ病と痛風に焦点を当てて生化学の統合的講義をする。腎泌尿器系では、透析治療を理解するための解剖生理の統合的講義を行う。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	
成績評価方法	動物生理ユニットの試験と同じ日程時間内で、講義における理解度を試験する。これにより到達目標を達成した者を合格とする。
教科書・テキスト	各講義に於いて紹介される
参考文献	
履修上の注意事項	
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	なし
連絡先・オフィスアワー	研究棟7階(脳神経生理学 飛田:853-8136) および 各担当教員 質問に際しては、まず自ら理解する努力を十分に行うこと。講義のリポートや解答例の添削は行わない。 必ず事前にメール等(大学ホームページ参照)で担当教員にアポイントを取ること、またメールでの質問・回答を活用すること。
実務経験を活かした教育の取組	
備考	
関連URL	

2023年10月～2023年11月 第2学年

水平統合基礎ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
脳神経生理学 教授	飛田 秀樹
細胞生理学 教授	橋谷 光
細胞生化学 教授	加藤 洋一
機能組織学 准教授	植田 高史
統合解剖学 准教授	井上 浩一
細胞生理学 助教	高野 博充
消化器・代謝内科学 教授	片岡 洋望
脳神経内科学 教授	松川 則之
循環器内科学 講師	伊藤 剛
五条川リハビリテーション病院 院長	島野 泰暢

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
10	24	火	3	内分泌／代謝系（バセドウ病と痛風の病態理解）	加藤 洋一
	24	火	4	呼吸器系（呼吸器疾患の理解のための解剖・生理）	井上 浩一
10	31	火	3	脳神経系（脳神経疾患の理解のための解剖・生理）	飛田 秀樹
	31	火	4	脳神経系（脳神経疾患の臨床病態：脳卒中と神経変性疾患）	松川 則之
11	1	水	3	腎泌尿器系（透析治療を理解するための解剖・生理）	高野 博充
	1	水	4	腎泌尿器系（透析治療の基礎的根拠）	島野 泰暢
11	2	木	1	循環器系（虚血性心疾患を理解するための解剖・生理）	橋谷 光
	2	木	2	循環器系（虚血性心疾患治療の基礎的根拠）	伊藤 剛
11	8	水	3	予備日	
	8	水	4	予備日	
11	10	金	1	消化器系（消化器疾患を理解するための解剖・生理）	植田 高史
	10	金	2	消化器系（消化器疾患病態のメカニズム）	片岡 洋望

開講年度	2023年度
科目名	コミュニティヘルスケア卒前教育 行動科学・地域医療学コース コミュニティ・ヘルスケア基礎 (IPE) ユニット
専門・教養	専門
担当教員	医学部：赤津裕康、川出義浩、渋谷恭之、村上里奈 看護学部：金子典代 非常勤講師：五島明
講義期間・曜日・時限	セメスター2 (2023/4/7～2023/4/21)、第1, 2, 3金曜日、3～4限目

授業目的・目標	【授業目的】 超高齢社会が進む中で今後の医療を取り巻く地域社会を理解するため 【授業目標】 地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域における多職種連携、認知症サポーターの重要性を理解する
キーワード	地域包括ケアシステム, 多職種連携
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	2b, 3a, 3b, 3c, 3d, 4a, 4b
学習到達目標	【学習到達目標】 1. コミュニティヘルスケアの概念、歴史的背景等を理解し、地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域における保健・医療・福祉・介護の分野間および行政を含む多職種間の連携の必要性を説明できる。 2. 多職種の医療・保健・福祉専門職、患者・利用者、その家族、地域の人々など、様々な立場の人が違った視点から医療現場に関わっていることを理解する。 3. 在宅療養と入院または施設入所との関係について、総合的な考察ができる。 4. 認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人や家族を支援することができる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-7-1)、B-1-7) 地域医療への貢献、 B-4-1) 医師に求められる社会性、E-8-1) 老化と高齢者の特徴
成績評価基準	秀：90点以上 (学修到達目標を越えたレベルを達成している) 優：80点以上 (学修到達目標を十分に達成している) 良：70点以上 (学修到達目標を達成している) 可：60点以上 (学修到達目標を最低限達成している)
授業概要	本科目は、エイジング・イン・プレイス (AIP) 社会における医学・医療の発展と向上の必要性を理解し、医療のプロフェッショナルとしてそれを担う使命感と、その基盤となる多職種協働能力を持った人材を育成するためのプログラムの一環である。 講義は6コマであるが、1時間毎で講師は8名で対応する。授業時間内に名古屋市認知症サポーター養成講座を受講し、オレンジリングを取得する。
授業計画	2023年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	準備学習は特に必要ない。幅広い教養に基づいて、将来を見据えた医師像を自分なりに形成出来る様、各方面の読書に励んでほしい。
成績評価方法	毎回授業後に記載提出するレスポンスカードを採点：各10点満点、7コマ計70点とする。最終講義の最後20分 (10問程度) で30点満点の試験を行う。合計100点で評価する。
教科書・テキスト	
参考文献	地域医療学入門 (診断と治療社)
履修上の注意事項	名古屋市立大学では本科目を医学部・薬学部・看護学の専門科目に位置づける (学部によって必修・選択・自由科目のいずれかとなる)。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	本講座は座学主体でアクティブ・ラーニングの形式とはならない
連絡先・オフィスアワー	担当教員名 : 赤津裕康、川出義浩 電話番号 (外線) : 052-853-8501 午前9時から午後5時まで (月～金) 電子メール : akatu@med.nagoya-cu.ac.jp / ykawade@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー : 地域包括ケア推進・研究センター (外来診療棟 4階)
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	平成25年度入学者から適用 「インタープロフェッショナル・ヘルスケア論」「コミュニティ・ヘルスケア基礎」「コミュニティ・ヘルスケア応用」「コミュニティ・ヘルスケア発展」「コミュニティ・ヘルスケア実践」の単位をすべて修得すれば、コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの修了認定を受けることができる。なお、「インタープロフェッショナル・ヘルスケア論」は教養教育科目「医薬看護連携地域参加型学習」として履修する。プログラム履修についての詳しい内容は担当教員に確認すること。
関連URL	

2023年度 第2学年

コミュニティ・ヘルスケア基礎ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
地域医療教育学 教授(診療担当)	赤津 裕康
名古屋市緑保健センター 所長	五島 明
地域医療教育学 特任准教授	川出 義浩
口腔外科学 教授	渋谷 恭之
看護学部 国際保健看護学 准教授	金子 典代
リハビリテーション医学 助教	村上 里奈
瑞穂区東部いきいき支援センター分室	小林 紀子

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	7	金	3-4	コミュニティ・ヘルスケア概論	赤津 裕康
				少子高齢化社会での行政と保健所の役割	五島 明
				病院・地域における薬剤師の役割	川出 義浩
4	14	金	3-4	病院・地域における看護師・保健師の役割	金子 典代
				病院・地域における歯科医師、歯科衛生士の役割	渋谷 恭之
				病院・地域におけるリハビリテーションの役割	村上 里奈
4	21	金	3-4	認知症サポート養成講座	いきいき
				認知症の基本	赤津 裕康
				試験	

開講年度	2023年度1月～2023年12月
科目名	行動科学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	上島通浩、植田典浩、榎原毅、柿崎真沙子
講義期間・曜日・時限	2023/8/29～2023/8/30

授業目的・目標	【授業目的】人間の行動と心理の決定要因を理解し、治療的または予防的な介入効果を評価して患者・集団・社会の行動変容を引き出す力は医師に求められる資質のひとつである。このことを理解し、各科目を履修する上での意識付けを行う。 【授業目標】人間の行動の法則性を探求する行動科学の全体像や心理学的側面とともに、その各構成要素を医学専門課程のどこで学ぶかを、理解する。
キーワード	行動、動機付け、生涯発達、個人差、対人コミュニケーション、行動変容
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅰc、領域Ⅱa、領域Ⅲb、領域Ⅳc
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 卒業までの各学年、各科目で行動科学のどのような構成要素に関する授業が行われるか、理解する。 2. 健康と疾病に関する行動を形作る、生涯発達の過程を説明できる。 3. 医師としての行動決定はどのような科学的根拠に基づくべきであるかを説明できる。 4. 個人の違いにあわせて集団や個人の健康行動への変容を引き出す方法論があることを理解できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-2-1) 課題探求・解決能力、A-2-2) 学修の在り方、A-4-1) コミュニケーション、A-4-2) 患者と医師の関係、B-1-5) 生活習慣とリスク、B-1-6) 社会・環境と健康、B-4-1) 医師に求められる社会性、C-5-1) 人の行動、C-5-2) 行動の成り立ち、C-5-3) 動機付け、C-5-4) ストレス、C-5-5) 生涯発達、C-5-6) 個人差、C-5-7) 対人関係と対人コミュニケーション、C-5-8) 行動変容における理論と技法、E-8-1) 加齢と老化
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 医師に行動科学が必要な理由と卒業までに学ぶ内容の全体像と各構成要素を説明する。 2. 生まれてから死ぬまでに人がたどる発達の過程を考察する。 3. 医師としての行動決定に必要な科学的根拠の評価について解説する。 4. 人や集団の健康行動や行動変容がどのように生じるか、公衆衛生学的視点から解説する。
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、本科目で授業を行う単元に相当する箇所の内容を、下記の参考書等で自習すること。
成績評価方法	成績評価は定期試験100%とし、動物生理の試験時間枠の中で行う（行動科学として100点満点、所要10～15分程度、多肢選択式または正誤問題）。行動科学の基礎的概念が理解できているかを評価する。
教科書・テキスト	特に指定しません。
参考文献	「行動医学テキスト」（日本行動医学会編）、「Behavioral Science」(B. Fedem)、「健康行動学：その理論、研究、実践の最新動向」（木原雅子ら訳）
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	授業の中でグループディスカッションを行う場合がある。
連絡先・オフィスアワー	担当教員：上島通浩 電話番号（外線）：052-853-8171 電子メール：eisei@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー：10:00～16:00（月曜～金曜） 会議等で不在の場合があるので、在室を確認してから来室することが望ましい。
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験または専門家としての社会実装経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	
関連URL	

2023年度 第2学年

行動科学ユニット 担当教員

所属・職名
環境労働衛生学・教授
医学・医療教育学・講師
医療人育成学・講師
産業医科大学・教授

氏名
上島通浩
植田典浩
柿崎真沙子
榎原 毅

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
8	29	火	3	行動科学ガイダンス	上島通浩
			4	生涯発達	植田典浩
8	30	水	3	健康情報とリテラシー	柿崎真沙子
			4	行動変容における理論と技法	榎原 毅
11	13	月	3・4	試験(動物生理の試験時間の中で実施)	

開講年度	2022年度
科目名	研究能力養成コース・学術論文入門ユニット
専門・教養	専門
担当教員	植木孝俊、鶴川真也、加藤洋一、飛田秀樹、大石久史、酒々井真澄、山川 和弘、澤本和延、齋藤貴志、鄭 且均、三井 烈、深町勝巳
講義期間・曜日・時限	9月下旬から12月上旬にかけ実施、不定期のため別紙日程表を参照

授業目的・目標	計10コマ程度の輪読会を実施する。期間内に、学術論文の検索法、科学的論文の読み方、実験手法の原理の理解、学術内容の論理的思考法を学ぶ。
キーワード	先端研究の理解、実験手法の理解、論理性的理解
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1b, 1c, 1d, 2d, 4d
学習到達目標	興味をもった医学の先端科学的内容を知ることを中心に、英語原著論文を抵抗なく手に取り、その内容を理解する為の基本的姿勢や知識を身につける。 【該当するモデルコアカリ】 B-1-1), B-1-3), C-1
成績評価基準	秀:学修到達目標を越えたレベルを達成している 優:学修到達目標を十分に達成している 良:学修到達目標を達成している 可:学修到達目標を最低限達成している
授業概要	教員が提示するテーマの中から一つを選び、8~9人のグループに分かれ、そのテーマに関する総説および英語原著論文を輪読する。
授業計画	先ず最初に、図書館での文献検索やPubMedを用いた文献検索する事を学ぶ。その後、提示された中から興味をもったテーマを選び、担当教員のもとに8~9人のグループに分かれ、そのテーマに関する総説および英語原著論文を輪読する。最終的に、一つの論文を読み、その内容についてレポートを作成する。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	論文を読み調べ、事前に内容を軽く理解する必要がある
成績評価方法	ユニット終了後に関連論文を読み、その内容をまとめたレポートを作成する。レポート提出などを含めた総合判定を担当教員およびユニット責任者で行い、到達目標を達成した者を合格とする。
教科書・テキスト	各教員により、総説または原著論文が随時提示される
参考文献	
履修上の注意事項	教員の都合により実施日が変更される可能性がある。その際には、教員と学生との話し合いの中で別途日程を調整することになる。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、プレゼンテーション
連絡先・オフィスアワー	研究棟7階(脳神経生理学 飛田:853-8136) および 各担当教員
実務経験を活かした教育の取組	
備考	各グループ初回授業において、予習・復習について指示するので、その指示に従うこと。
関連URL	

2023年11月～2023年12月 第2学年

学術論文入門ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
統合解剖学	植木 孝俊
機能組織学	鷗川 眞也
神経生化学	辻田 麻紀
細胞生化学	加藤 洋一
細胞生理学	三井 烈
脳神経生理学	飛田 秀樹
病態モデル医学	大石 久史
神経毒性学	酒々井 真澄
神経毒性学	深町 勝巳
神経発達症遺伝学	山川 和弘
神経発達・再生医学	澤本 和延
認知症科学	齋藤 貴志

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
11	1	水	1, 2	導入説明・文献検索法	飛田・川澄分館
11	8	水	1, 2	論文読解1	全教員
11	15	水	1, 2	論文読解2	全教員
11	17	金	1, 2	論文読解3	全教員
11	29	水	1, 2	論文読解4	全教員
12	1	金	1, 2	論文読解5	全教員
12	6	水	1, 2	論文読解6	全教員
12	11	月	3, 4	論文読解7	全教員
12	13	水	1, 2	予備日	全教員

(3) 臨床基礎医学 (2年次1月~3年次12月)

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	感染微生物コース・医動物学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	奥野友介（ウイルス学分野・教授）、濱田太立（ウイルス学分野・講師）、長谷川忠男（細菌学分野・教授）、山崎小百合（免疫学分野・教授）、改正恒康（和歌山県立医科大学・教授）、谷口（塩田）裕子（九段病院皮膚科・部長）
講義期間・曜日・時限	2023年2月21日～3月14日

授業目的・目標	医動物学は人の感染症の原因となる原生動物および動物とそれによる疾病を研究する学問である。原虫および蠕虫感染症を取り扱う寄生虫学と、節足動物や脊椎動物が直接的、間接的に関与する主として取り扱う衛生動物学とからなる。本科目では寄生虫という生き物を理解するように努めると共に寄生虫疾患の病理、発症機序、診断、治療、疫学およびその予防に関する知識を習得する。また寄生虫疾患は発展途上国では重要な地位を占めており、今後いっそう重要となる発展途上国の医療に対する我が国の関わりの仕方やグローバル化に伴う輸入感染症の問題についても理解を深める。
キーワード	原虫類、蠕虫類、人獣共通寄生虫症、感染経路、治療
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a-d
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原虫類・蠕虫類の分類および形態学的特徴を理解している。 2. 寄生虫の生活史、感染経路と感染疫学的意義を理解している。 3. 寄生虫感染宿主の生体防御の特徴を理解している。 4. 日和見寄生虫症と寄生虫症の重症化を理解している。 5. 各臓器・器官の主な寄生虫症を理解している。 6. 人獣共通寄生虫症を理解している。 7. 寄生虫症の診断、治療と予防の概要を理解している。 <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】</p> <p>C-3-1) 生体と微生物、C-3-2) 免疫と生体防御、C-4-5) 炎症と創傷治療、D-7 消化器系、D-3) 皮膚系、E-2 感染症、E-3 腫瘍、E-4 免疫・アレルギー</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している）</p> <p>優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している）</p> <p>良：70点以上（学修到達目標を達成している）</p> <p>可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	2023年度医動物学講義予定を参照
授業計画	2023年度医動物学講義予定を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。理解が不完全であった項目については、繰り返し復習して修得に努めること。講義・アクティブラーニング：予習・復習を各自でしっかりと行うこと
成績評価方法	<p>筆記試験(100)点満点</p> <p>*筆記試験60点未満の場合、アクティブラーニング、授業参加度、授業態度、レポートを参考とする。全てを総合的に検討し、必要な理解度と学習姿勢に達した者を合格とする。</p>
教科書・テキスト	寄生虫学テキスト 上村清、木村英作、金子明ら著 文光堂
参考文献	<p>標準医動物学 石井明、鎮西康雄、太田伸生編、医学書院</p> <p>図説人体寄生虫学 吉田幸雄著、南山堂</p> <p>熱帯医学 竹田美文編、南山堂</p> <p>国際保健医療学 日本国際保健医療学会編、杏林書院</p>
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。実技実習がある場合は白衣を忘れないようにすること。講義の録画、録音、写真撮影等をしないこと。講義資料は授業に出席している学生さんのためのものであるため、SNS、オンラインなどで拡散をしないこと。
履修者への要望事項	医動物学は臨床の現場でも遭遇するので、将来患者様の力になれるように積極的に真面目に学ぶこと。
アクティブ・ラーニング	新型コロナウイルス感染対策を取りつつ、各講義中に可能な範囲でアクティブラーニングを口行う（対面またはオンライン）。
連絡先・オフィスアワー	<p>担当教員 : 濱田太立</p> <p>電話番号（外線）: 052-853-8191</p> <p>電子メール : mhamada@med.nagoya-cu.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 平日9:00～17:00</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員または免疫学を専門とする研究者としての経験を持つ教員が担当する。
備考	質問などがある場合は、必ず事前に上記の連絡先にオフィスアワーに連絡をとること。
関連URL	https://yusukeokuno.com/

2023年1月～2023年12月 第3学年

医動物学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
ウイルス学分野 教授	奥野 友介
ウイルス学分野 講師	濱田 太立
細菌学分野 教授	長谷川 忠男
免疫学分野 教授	山崎 小百合
和歌山県立医科大学 教授	改正 恒康
九段坂病院皮膚科 部長	谷口（塩田） 裕子

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
2	21	火	1	医動物学総論	奥野
2	21	火	2	医動物学各論(1)線虫、幼虫移行症	濱田
2	22	水	2	臨床現場の医動物	谷口（塩田）・山崎
3	6	月	1	医動物学各論(2)マラリア、トキソプラズマ	長谷川
3	6	月	2	医動物学各論(3)条虫、吸虫	改正・山崎
3	7	火	1	(予備)	-
3	14	火	1-2	医動物学各論アクティブラーニング	教室員全員

開講年度	2023年度
科目名	感染微生物コース・細菌学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	長谷川忠男、立野一郎、南 正明、井坂雅徳
講義期間・曜日・時限	1月5日から3月3日・月曜日・1-2限、木金曜日・3-4時限

授業目的・目標	(目的)病原微生物のヒトへの侵襲を防ぎ、感染症の予防および診断、治療に役立てることができるようになるため。 (目標)感染症が医学全般の中で占める位置および臨床医学との関連性を理解し、ヒトへの侵襲起こす病原微生物の基礎知識を修得する。
キーワード	細菌の生理、細菌の病原性、病原細菌の取り扱い、病原因子
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I
学習到達目標	1. 独立した生物である細菌そのものについて理解し説明できる。 2. これら細菌の病原性発現において発現してくる生物学的現象について理解し説明できる。 3. 感染症の診断、治療(抗菌剤)や予防(滅菌・消毒、ワクチン)について理解し説明できる。 4. 細菌の培養、形態観察、性状検査などについて理解し実施できる。 5. 病原性の強い細菌や真菌を含めて多くの病原体を使用して慎重な取扱法を習得する。 6. 学生各自の検体から菌を分離させて、身近な常在菌について認識する。 7. 生体に感染した場合に発生する複雑な現象について理解し説明できる。 8. 病原微生物のヒトへの侵襲すなわち感染症の治療について理解し説明できる。 【該当するモデルコアカリ】C-3-1)、D-3、D-6、D-7、E-2-1)、E-2-2)、E-2-4)、F-2-3)
成績評価基準	秀:学修到達目標を越えたレベルを達成している 優:学修到達目標を十分に達成している 良:学修到達目標を達成している 可:学修到達目標を最低限達成している
授業概要	(講義要目) 1. 細菌学総論 細菌の形態と微細構造、細菌の増殖と代謝 細菌の変異および遺伝子の伝達機構、細菌の病原性因子と生体の感染防御機構 抗菌薬の作用機構と薬剤耐性機構、常在細菌叢の役割と日和見感染症 臨床材料の採取法と細菌学的診断法 2. 細菌学各論 病原細菌の諸性質と感染症との関係 (実習要目) 1. 細菌学の実習 光学顕微鏡による細菌の形態観察、培地の作製法と純培養法・分離培養法 細菌の性状検査と分離同定法、抗菌薬の作用
授業計画	2023年度細菌学授業予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、参考図書の該当箇所を予習してから講義に臨むこと。 日頃から新聞や雑誌に掲載された細菌感染症(食中毒や院内感染を含む)に関する記事を読んでおくこと。記事の内容に不明な点がある場合は、参考図書等を利用して調べることを。
成績評価方法	筆記試験
教科書・テキスト	なし
参考文献	病原微生物学 荒川宜親・神谷 茂・柳 雄介編、東京化学同人 標準微生物学 中込 治・神谷 茂編、医学書院 医科細菌学 笹川千尋・林 哲也編、南江堂 ブラック微生物学 Jacquelyn G. Black、丸善 標準感染症学 齋藤 厚・那須 勝・江崎孝行編、医学書院 現代微生物入門 南嶋洋一・水口康雄・中山宏明著、南山堂 細菌の逆襲 吉川昌之介著、中公新書 人はなぜ病院で感染するのか? 太田美智男著、NHK出版 微生物 vs. 人類 加藤延夫著、講談社現代新書 戸田新細菌学 吉田真一・柳 雄介・吉開泰信編、南山堂 新しい微生物学 大野尚仁・笹津備規編、廣川書店 微生物学 今井康之・増澤俊幸編、南江堂 微生物学 神谷 茂・河野 茂監訳、medical science international
履修上の注意事項	講義時に資料を配布する。遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	予備日に講義等を振り替えることがあるので、掲示に注意すること
アクティブ・ラーニング	実習の中で、それぞれの課題についてグループディスカッションをさせている。
連絡先・オフィスアワー	電話番号(外線):052-853-8166(内線:8164) オフィスアワー:月~金 9:00-18:00(事前に連絡すること)
実務経験を活かした教育の取組	なし
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

感染微生物コース・細菌学ユニット担当教員

所属・職名
 細菌学分野・教授
 細菌学分野・講師
 細菌学分野・講師
 細菌学分野・学内講師

氏名
 長谷川 忠男
 立野 一郎
 南 正明
 井坂 雅徳

感染微生物コース・細菌学ユニット授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	5	木	3	細菌の構造、分類、増殖	長谷川
			4	細菌感染、常在菌、細菌感染症の検査と診断	長谷川
	6	金	3	細菌の遺伝学(1)	立野
			4	細菌の遺伝学(2)	立野
	12	木	3	抗生物質の作用機構と耐性菌	井坂
			4	生体防御機構と生体の反応	長谷川
	13	金	3	細菌の病原因子	長谷川
			4	院内感染、消毒・滅菌、食中毒、感染症予防法	長谷川
	16	月	1	細菌学各論(1): グラム陽性球菌(ブドウ球菌)	長谷川
			2	細菌学各論(2): グラム陽性球菌(レンサ球菌)	長谷川
	19	木	3	細菌学各論(3): 有芽胞菌、グラム陽性無芽胞桿菌	長谷川
			4	細菌学各論(4): 放線菌とその関連細菌	長谷川
	20	金	3	細菌学各論(5): グラム陰性通性嫌気性桿菌Ⅰ	立野
			4	細菌学各論(6): グラム陰性通性嫌気性桿菌Ⅱ	立野
	23	月	1	細菌学各論(7): スピロヘータ、レプトスピラ、らせん菌	井坂
			2	細菌学各論(8): マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア	井坂
	26	木	3	実習(1) 培地作成・純培養法 1班	長谷川・井坂
			4	実習(2) 手指・毛髪に付着細菌の培養 1班	立野・長谷川
1	27	金	3	実習(3) グラム染色及び観察 1班	井坂・立野
			4	実習(4) 手指・毛髪に付着細菌の染色及び観察 1班	長谷川・井坂

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	30	月	1	細菌学各論(9): 無芽胞偏性嫌気性グラム陰性桿菌	井坂
			2	細菌学各論(10): グラム陰性球菌	井坂
2	2	木	3	実習(5) 培地作成・純培養法 2班	長谷川・井坂
			4	実習(6) 手指・毛髪に付着細菌の培養 2班	立野・長谷川
	3	金	3	実習(7) グラム染色及び観察 2班	井坂・立野
			4	実習(8) 手指・毛髪に付着細菌の染色及び観察 2班	長谷川・井坂
	6	月	1	細菌学各論(11): グラム陰性通性嫌気性桿菌Ⅲ	立野
			2	細菌学各論(12): グラム陰性好気性桿菌	立野
	9	木	3	実習(9) ブドウ球菌・レンサ球菌の分離培養 1班	立野・長谷川
			4	実習(10) 鼻腔のブドウ球菌等の培養、環境菌の観察 1班	井坂・立野
	10	金	3	実習(11) ブドウ球菌・レンサ球菌観察 1班	長谷川・井坂
			4	実習(12) 鼻腔分離菌の観察・グラム染色試験 1班	立野・長谷川
	13	月	1	ワクチン	井坂
			2	真菌	長谷川
	16	木	3	実習(13) ブドウ球菌・レンサ球菌の分離培養 2班	立野・長谷川
			4	実習(14) 鼻腔のブドウ球菌等の培養、環境菌の観察 2班	井坂・立野
	17	金	3	実習(15) ブドウ球菌・レンサ球菌観察 2班	長谷川・井坂
			4	実習(16) 鼻腔分離菌の観察・グラム染色試験 2班	立野・長谷川
2	20	月	1	細菌感染症(1)	南
			2	細菌感染症(2)	南
	24	金	3	細菌感染症(3)	南
			4	細菌感染症(4)	南
3	3	金	3	総括	長谷川
			4	総括	長谷川

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	ウイルス学
専門・教養	専門
担当教員	奥野友介（ウイルス学分野・教授）、濱田太立（ウイルス学分野・講師）、田中靖人（熊本大学・消化器内科学講座・教授）、岡本尚（名古屋市立大学・細胞分子生物学分野・名誉教授）、小原道法（東京都医学総合研究所・感染制御プロジェクト・特別客員研究員）、五十川正記（国立感染症研究所・治療薬・ワクチン開発研究センター・第二室・室長）、佐藤好隆（名古屋大学・ウイルス学・准教授）、川田潤一（名古屋大学・小児科学・准教授）、渡辺崇広（名古屋大学・ウイルス学・助教）、三宅康之（名古屋大学・ウイルス学・助教）、鳥居ゆか（名古屋大学・小児科学・助教）
講義期間・曜日・時限	2023年1月5日～2月28日

授業目的・目標	<p>【授業目的】 ウイルスは、日常臨床で最も高頻度に遭遇する疾患である感染症を引き起こすことに加えて、難病やがんの原因にもなる。ウイルスとそれが引き起こす代表的な疾患を理解することで、臨床医学を学ぶための基盤を構築する。</p> <p>【授業目標】 ウイルスは、遺伝情報を有するが自己増殖できない感染性の構造体である。生物である他の病原体とは異なるウイルスの特有的な性質を理解する。ヒトの疾患の原因となるウイルスを中心に、その分類・多様性や、予防法・治療法を学習する。なお、プリオンはウイルスではないが、ウイルス学の範囲で扱う。</p>
キーワード	ウイルス、感染予防、ワクチン、抗ウイルス薬、プリオン
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域I a, d
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ウイルスの種類と特徴を理解している。 2. ウイルスの増殖の仕方を理解している。 3. ウイルスに関連する疾患の性質と特徴を理解している。 4. ワクチンと抗ウイルス薬を理解している。 5. プリオンについて理解している。 <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】</p> <p>C-3-1) 生体と微生物 C-3-2) 免疫と生体防御 E-2 感染症</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	（講義）2023年度感染微生物コース-ウイルス学授業予定表を参照 （実習）ウイルスの分離培養と同定
授業計画	2023年度感染微生物コース-ウイルス学授業予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。実習：事前にどのように実験を進めていくか教科書を熟読した上で、実習に臨むこと。また、実験終了後、得られた実験結果について、よく考察すること。
成績評価方法	筆記試験（100点満点） 筆記試験60点未満の場合、レポート提出率、授業参加度、授業態度などにより加点評価することがある。
教科書・テキスト	なし。講義資料をよく整理してください。
参考文献	「微生物学」畑中正一、嶋田甚五郎 編（文光堂） 「標準微生物学」平松啓一 監修（医学書院） 「医科ウイルス学」高田賢蔵 編（南江堂） これらに加え、テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	現時点では予定がありませんが、検討中。
連絡先・オフィスアワー	担当教員：濱田太立 電話番号（外線）：052-853-8191 電子メール：mhamada@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー：平日9:00～17:00
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	講義終了時に、復習を兼ねた小テストを行うことがある。
関連URL	https://yusukeokuno.com/

ウイルス学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
ウイルス学分野 教授	奥野 友介
ウイルス学分野 講師	濱田 太立
熊本大学 消化器内科学講座 教授	田中 靖人
名古屋市立大学 細胞分子生物学分野 名誉教授	岡本 尚
東京都医学総合研究所 感染制御プロジェクト 特別客員研究員	小原 道法
国立感染症研究所 治療薬・ワクチン開発研究センター 第二室 室長	五十川 正記
名古屋大学 ウイルス学 准教授	佐藤 好隆
名古屋大学 小児科学 准教授	川田 潤一
名古屋大学 ウイルス学 助教	渡辺 崇広
名古屋大学 ウイルス学 助教	三宅 康之
名古屋大学 小児科学 助教	鳥居 ゆか

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	5	木	1-2	ウイルス学入門	奥野
1	10	火	1-2	DNAウイルスとヘルペスウイルス	渡辺
1	12	木	1	神経病原性ウイルス	濱田
1	12	木	2	(予備)	-
1	17	火	1-2	RNAウイルス	三宅
1	19	木	1	ウイルスの多様性	五十川
1	19	木	2	ウイルスと免疫	五十川
1	24	火	1	ウイルス発がん	奥野
1	24	火	2	ウイルス感染症の検査・診断	奥野
1	26	木	1-2	小児期のウイルス感染症	川田
1	31	火	1	ウイルスを利用した治療薬開発	濱田
1	31	火	2	レトロウイルスとAIDS	岡本
2	2	木	1-2	肝炎ウイルス	田中
2	7	火	1	(予備)	-
2	7	火	2	ATLとその他のヒトレトロウイルス	岡本
2	9	木	1	先天性感染症	鳥居
2	9	木	2	新型コロナウイルス感染症	小原
2	14	火	1	下痢症ウイルス	佐藤
2	14	火	2	ワクチンと抗ウイルス薬	佐藤
2	16	木	1-2	(予備)	-
2	27	月	1-2	ウイルスの分離培養と同定	教室員全員
2	28	火	1-4	ウイルスの分離培養と同定	教室員全員
4	17	月	3-4	本試	教室員全員
5	22	月	1-2	再試	教室員全員

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	免疫学コース・免疫学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	山崎小百合(免疫学 教授)、今井優樹(免疫学 講師)、志馬寛明(免疫学 講師) 非常勤講師：西川博嘉(名古屋大学教授・国立がんセンター分隊長)、 改正恒康(和歌山県立医大 教授)、築地 信(星薬科大学 准教授) Guido Ferlazzo(メッシーナ大学 教授)、Mikael Karlsson(カロリンスカ研究所 教授)
講義期間・曜日・時限	2023年1月16日(月)～3月16日(木)月曜3-4時限 水曜1-2時限 木曜1-4時限

授業目的・目標	(目的) 免疫とは生体にとって不可欠な生体防御機構である。免疫がどのように維持、調節されているのかを学ぶ。 (目標) 生体防御反応における免疫系の分子の基礎、細胞免疫学的基礎を学び、それらの制御不全による病態の理解や疾病の治療に対処しうる知識を身につける。
キーワード	自然免疫、獲得免疫、樹状細胞、制御性T細胞、免疫学的自己寛容
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a-d, II a, III a, b, IV a-d
学習到達目標	【学習到達目標】 ① 免疫系の一般特性：生体防御機構における免疫系の特徴(特異性、多様性、寛容、記憶)を説明できる。免疫反応における組織と細胞を説明できる。免疫学的自己寛容とその破壊を説明できる。自然免疫と獲得免疫の違いを説明できる。 ② 免疫反応の調節機構：抗原レセプターからのシグナルの調節機構を説明できる。サイトカイン、ケモカインの特徴を説明できる。 ③ 自己と非自己の識別に関与する分子とその役割：MHCクラスIとクラスIIの構造、抗原提示経路が説明できる。抗体、BCR、TIRの構造と反応様式を説明できる。T細胞活性化における副刺激分子の役割を説明できる。遺伝子再構成に基づく、多様性獲得の機構を説明できる。免疫寛容、免疫制御を概説できる。 ④ 疾患と免疫：ウイルス、細菌、寄生虫に対する免疫応答の特徴を説明できる。先天性および後天性免疫不全症を概説できる。自己免疫疾患の発症を概説できる。アレルギー発症の機構を概説できる。腫瘍免疫の特徴を概説できる。移植免疫の特徴を概説できる。最新の免疫学研究と治療の関わりを概説できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 C-3-1) 生体と微生物、C-3-2) 免疫と生体防御、C-4-5) 炎症と創傷治療、C-4-6) 腫瘍、 D-1) 血液・造血器・リンパ系、D-3) 皮膚系、D-14) 耳鼻・咽喉・口腔系、 E-2) 感染症、E-3) 腫瘍、E-4) 免疫・アレルギー、E-8) 加齢と老化
成績評価基準	秀：90点以上(学習到達目標を越えたレベルを達成している) 優：80点以上(学習到達目標を十分に達成している) 良：70点以上(学習到達目標を達成している) 可：60点以上(学習到達目標を最低限達成している)
授業概要	講義(全26回) ①免疫序論・概念・歴史・リンパ組織・免疫反応概論 ②生体防御機構1 ③生体防御機構2 補体系 ④自然免疫系・TLR ⑤免疫担当細胞1(マクロファージ・顆粒球) ⑥樹状細胞 ⑦免疫担当細胞2(T、B、NK、NKT) ⑧抗原提示・MHC・副刺激分子 ⑨B細胞の基礎・抗体産生 ⑩自己寛容 Treg ⑪T細胞の機能とシグナル伝達・T細胞分化 ⑫自己免疫疾患 ⑬サイトカインの機能とシグナル伝達・接着分子 ⑭B細胞の機能とシグナル伝達・B細胞レパトア ⑮獲得免疫系・抗体の多様性・遺伝子再構成 ⑯アレルギー ⑰腫瘍免疫 ⑱移植免疫 ⑲粘膜免疫・腸管免疫 ⑳感染免疫 ㉑NK細胞・自然リンパ球 ㉒遺伝子改変マウス・樹状細胞サブセット ㉓マクロファージ・B細胞 ㉔炎症とがん ㉕アポトーシス・オートファジー・異物排除 ㉖皮膚免疫・神経免疫・老化と免疫・免疫不全症 実習(全2回) ①抗原抗体反応1・2 ②免疫細胞1・2・3・まとめ
授業計画	新型コロナウイルス感染対策を取り、可能な範囲でアクティブラーニングを行う(海外の講師以外は対面の予定であるが、状況によりオンラインも)。2023年度免疫学授業計画表を参照。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	講義・アクティブラーニング：予習・復習を各自でしっかりと行うこと。2023年度免疫学授業計画表を確認の上、教科書・テキストの該当箇所を予習して、講義に臨むことが望ましい。 実習：授業の復習を行い、どのように実験を進めていくか理解をしておくこと。得られた実験結果について、よく考察すること。
成績評価方法	・定期試験 ・出席状況(実習は全2回なので、全て参加が必須であるが、新型コロナウイルス感染対策のため体調不良の場合は考慮するので必ずimmunol@med.nagoya-cu.ac.jpと事務に連絡すること。) ・アクティブラーニング・授業・実習へ積極的かつ誠実に参加しているか ・レポートへの取組姿勢 ・免疫学主催の講演会への参加など 全てを総合的に検討し、M3免疫学について必要な理解度と学習姿勢に達した者を合格とする。
教科書・テキスト	教科書：授業中に教員が使用する資料には下記の書籍を用いる。 JANEWAY'S IMMUNOBIOLOGY Kenneth Murphy & Casey Weaver著、南江堂 免疫生物学 笹月健彦・吉開泰信監訳、南江堂(上記の日本語版) 免疫学―基礎と臨床―(東京化学同人) 稲葉カヨ訳
参考文献	参考図書： 感染と免疫 入村達郎、築地信 他(東京化学同人) スタンダード免疫学 小林芳郎他編、大谷真志、築地信他著 エッセンシャル免疫学 笹月健彦監訳、メディカルサイエンスインターナショナル 医系免疫学 矢田純一著、中外医学社 Cellular and Molecular Immunology Abul Abbas著、南江堂 シンプル免疫学 中島泉・高橋利忠・吉開泰信共著、南江堂 免疫ペディア 熊ノ郷淳編集、羊土社 もっとよくわかる免疫学 河本宏著、羊土社 免疫学コア講義 熊ノ郷淳・阪口薫雄・竹田潔・吉田裕樹編集、南山堂 ゼロから実践する 遺伝統計学セミナー～疾患とゲノムを結びつける 岡田陸象著、羊土社 免疫の守護者 制御性T細胞とはなにか(ブルーバックス) 坂口志文著、講談社
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。実習実習がある場合は白衣を忘れないようにすること。 講義の録音、録音、写真撮影等をしていないこと。講義資料は授業に出席している学生さんのためのものであるため、SNS、オンラインなどで拡散をしないこと。
履修者への要望事項	免疫学は臨床医学の広い分野に関連する。 将来患者様の力になれるように積極的に真面目に学ぶこと。
アクティブ・ラーニング	新型コロナウイルス感染対策を取りつつ、各講義中に可能な範囲でアクティブラーニングを行う(対面またはオンライン)。
連絡先・オフィスマナー	担当教員 : 免疫学分野：山崎、今井、志馬 電話番号(外線) : 052-853-8186 電子メール : immunol@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスマナー : 月、水 12:00～16:00(事前に連絡すること)
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員または免疫学を専門とする研究者としての経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	質問などがある場合は、必ず事前に上記の連絡先にオフィスマナーに連絡をとること。
関連URL	

免疫学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
免疫学分野・教授	山崎 小百合
免疫学分野・講師	今井 優樹
免疫学分野・講師	志馬 寛明
名古屋大学・教授・ 国立がん研究センター免疫TR分野・分野長	西川 博嘉
和歌山医大・教授	改正 恒康
星薬科大学・准教授	築地 信
メッシーナ大学・教授	Guido Ferlazzo
カロリンスカ研究所・教授	Mikael Karlsson

免疫学 授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
1	16	月	3	免疫学序論・概念・歴史・リンパ組織・免疫反応概論	山崎
			4	生体防御機構1	今井
	23	月	3	生体防御機構2 補体系	今井
			4	自然免疫系・TLR	志馬
	30	月	3	免疫担当細胞1(マクロファージ、顆粒球)	志馬
			4	樹状細胞I	山崎
2	6	月	3	免疫担当細胞2(T、B、NK、NKT)	今井
			4	抗原提示・MHC・副刺激分子	山崎
	13	月	3	B細胞の基礎・抗体産生	今井
			4	自己寛容 Treg	山崎
	20	月	3	T細胞の機能とシグナル伝達・T細胞分化	今井
			4	自己免疫疾患	山崎
	22	水	1	サイトカインの機能とシグナル伝達・接着分子	志馬
			2	(医動物谷口先生講義・3/7(火)2限目志馬先生の講義といれかえ)	
	27	月	3	B細胞の機能とシグナル伝達・B細胞レパトア	築地
			4	獲得免疫系・抗体の多様性・遺伝子再構成	築地
3	1	水	1	アレルギー	山崎
			2	腫瘍免疫	西川
	2	木	1	移植免疫	山崎
			2	粘膜免疫・腸管免疫	志馬
			3	感染免疫	今井
			4	NK細胞・自然リンパ球	山崎/Ferlazzo(オンライン)
	6	月	3	遺伝子改変マウス・樹状細胞サブセット	改正
			4	マクロファージ・B細胞	山崎/Karlsson(オンライン)
	7	火	2	炎症とがん (2/22(水)2限目医動物 谷口先生の講義といれかえ)	志馬
	9	木	1	アポトーシス・オートファジー・異物排除	志馬
			2	皮膚免疫・神経免疫・老化と免疫・免疫不全症	山崎
			3	実習 抗原抗体反応1	全教員
			4	実習 抗原抗体反応2	全教員
	16	木	1	実習 免疫細胞1	全教員
			2	実習 免疫細胞2	全教員
			3	実習 免疫細胞3	全教員
			4	実習 免疫細胞まとめ	全教員
5	1	月	3-4	本試験	全教員
6	26	月	1-2	再試験	全教員

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	病理学コース 病態病理・臨床病理
専門・教養	専門
担当教員	<p>実験病態病理学（病理学第1講座） 教授 高橋 智、福熊 真悟（東部医療センター）、渋谷 恭之（口腔外科学） 准教授 内木 隼 講師 加藤 寛之 助教 小村 理行 非常勤講師 津田 洋幸、小川 久美子、山下 聡</p> <p>臨床病態病理学（病理学第2講座） 教授 福垣 宏 准教授 村瀬 貴幸（病院病理部） 准教授 正木 彰子 助教 津田 香那 助教 藤井 慶一郎 非常勤講師 岩崎靖、服部日出雄</p>
講義期間・曜日・時限	2023年1月11日(水)～7月18日(火) 火曜日 1限-2限、水曜日 1限-4限 木曜日1-4限

授業目的・目標	<p>生物には形態と機能の両面がある。この二つの面が有機的に統合され個体の生命現象が営まれている。人間の疾病も病的な機能状態（臨床症状）とその形態像（病理所見）により規定されることが多く、絶えず両者の対比検討が行われている。</p> <p>病理学はこれらの探求のため病理形態を基礎とし疾病の起こり方、原因、進展の様相、治療効果の判定等に至るまで考究する。従って病理学では疾患の形態学的所見を詳細に観察し、克明に記載する訓練と疾病を相互関連性の上になたてて総合する力を養うことが必要である。</p> <p>これらの目的のため、疾患臓器を肉眼的に観察し、その組織学的変化を顕微鏡によって観察し記録することにより疾病の形態像を有機的に把握する。また、その背後の超微形態像、分子生物学的変化についても学ぶ。</p>
キーワード	<p>実験病態病理学（病理学第1講座） 腫瘍学 消化器 肝・胆・膵 乳腺 皮膚 腎・泌尿器 口腔 臨床病態病理学（病理学第2講座） 循環器 血液 呼吸器 神経 骨・軟部</p>
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I-a, d、II-d, e、III-a, b、IV-a, b, d
学習到達目標	<p>【学習到達目標】 病理形態を基盤として、疾患の成り立ち、種類、その原因を系統的に理解できるようにする。</p> <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】 C-4-2)細胞傷害・変性と細胞死、C-4-3) 代謝障害、C-4-4) 循環障害、臓器不全、C-4-5) 炎症と創傷治癒、C-4-6) 腫瘍、D-1 血液・造血器・リンパ系、D-2 神経系、D-3 皮膚系、D-4 運動器（筋骨格）系、D-5 循環器系、D-6 呼吸器系、D-7 消化器系、D-8 腎・尿路系、D-9 生殖機能、D-11 乳房、D-12 内分泌・栄養・代謝系、D-14 耳鼻・咽喉・口腔系、E-2 感染症、E-3 腫瘍、E-4 免疫・アレルギー、E-5 物理・化学的因子による疾患、E-6 放射線の生体影響と放射線障害、E-8 加齢と老化、E-9 人の死</p>
成績評価基準	<p>秀：学修到達目標を越えたレベルを達成している 優：学修到達目標を十分に達成している 良：学修到達目標を達成している 可：学修到達目標を最低限達成している</p>
授業概要	<p>医学部3年（2022年1月より実施） ・病理学総論 ・病理学各論 【講義】 【実験病態病理学】 口腔、咽喉、頸部、消化管・腹膜、肝臓、胆嚢、膵臓、泌尿器、男性生殖器、女性生殖器、乳腺、皮膚、小児病理 【臨床病態病理学】 循環器、呼吸器、縦隔組織、造血器、リンパ組織、内分泌臓器、中枢神経系、骨軟部組織、細胞診断 【実習】 肉眼病理学（必要に応じて行う）、組織病理学</p>
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	<p>授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施することもあるので、復習しておくこと。</p>
成績評価方法	<p>実験病態病理学（病理学第1講座） 実習試験 不合格者は本試験より10点減点（6割以上で合格） 本試験 60点以上合格</p> <p>臨床病態病理学（病理学第2講座） 本試験90% 実習試験10%を基準に評価する。</p>
教科書・テキスト	
参考文献	<p>参考文献） 標準病理学第6版、北川昌伸編集、医学書院、2019 ロビンス基礎病理学原書10版、Vinay Kumar他、丸善出版、2021 Robbins Basic Pathology10th ed.、Vinay Kumar他、W.B. Saunders Company、2018 カラー Robbins 病理学－臨床医学への基盤－ E.ルービン他編著 西村書店 2017 組織病理アトラス第6版、深山正久他、文光堂、2015 病理組織の見方と鑑別診断カラーアトラス第6版、吉野正他、医歯薬出版、2018</p>
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	実習授業ではグループで臨床を検討することもある。
連絡先・オフィスアワー	<p>実験病態病理学 高橋智 月曜日～金曜日、16:00-17:15（事前に連絡が必要）、 医学部研究棟5階 外線052-853-8156 E-mail : sattak@med.nagoya-cu.ac.jp</p> <p>臨床病態病理学 福垣宏 月曜日～金曜日、16:00-17:15（事前に連絡が必要）、 医学部研究棟5階 外線052-853-8161 E-mail : hinagaki@med.nagoya-cu.ac.jp</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

病理学コース 担当教員

所属・職名(第1病理)	氏名
実験病理学分野・教授	高橋 智
実験病理学(東部医療センター)・教授	稲熊 真悟
口腔外科学分野・教授	洪谷 恭之
実験病理学分野・准教授	内木 綾
実験病理学分野・講師	加藤 寛之
実験病理学分野・助教	小村 理行
名古屋市立大学・特任教授	津田 洋幸
国立医薬品食品衛生研究所・病理部・部長	小川 久美子
前橋工科大学・情報・生命工学群・教授	山下 聡

所属・職名(第2病理)	氏名
臨床病理学分野・教授	稲垣 宏
臨床病理学分野(病院病理部)・准教授	村瀬 貴幸
臨床病理学分野・准教授	正木 彩子
臨床病理学分野・助教	津田 香那
臨床病理学分野・助教	藤井 慶一郎
愛知医科大学・医学部・教授	岩崎 靖
名古屋徳州会病院 病理診断部長	服部 日出雄

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者		
1	11	水	1	病理学入門	2 稲垣		
			2	実験病理学入門	1 高橋		
			3	腫瘍病理学-1(腫瘍の概念と特徴・原因)	1 加藤		
			4	腫瘍病理学-2(転移・進展)	1 加藤		
1	18	水	1	先天異常・奇形	1 高橋		
			2	消化器病理-唾液腺・食道	1 加藤		
1	25	水	1	傷害に対する組織反応-1	2 稲垣		
			2	傷害に対する組織反応-2	2 稲垣		
			3	代謝障害	2 藤井		
			4	循環器病理(総論)	2 正木		
2	1	水	1	縦隔の病理	2 村瀬		
			2	循環器病理(心)	2 村瀬		
			3	感染症	2 藤井		
			4	免疫病理学	2 正木		
2	8	水	1	血液病理-1	2 稲垣		
			2	血液病理-2	2 稲垣		
			3	消化器病理-胃1	1 小村		
			4	消化器病理-胃2	1 小村		
2	15	水	1	呼吸器病理-1	2 村瀬		
			2	呼吸器病理-2	2 村瀬		
			3	毒性病理学-1	1 津田(注)		
			4	毒性病理学-2	1 津田(注)		
2	22	水	3	脳腫瘍の病理	2 津田		
			4	運動器・膠原病の病理	2 津田		
			3	1	3	実習(消化器-1)	① 小村
			4	実習(消化器-2)	① 小村		
3	8	水	1	消化器病理-腸1	1 稲熊		
			2	消化器病理-腸2	1 稲熊		
			3	内分泌病理の病理	2 津田		
			4	自習(予備日)			
3	15	水	1	肝臓の病理-1	1 内木		
			2	肝臓の病理-2	1 内木		
			3	実習(循環器-1)	② 第2病理全員		
			4	実習(循環器-2)	② 第2病理全員		
4	5	水	1	実習(内分泌-1)	② 第2病理全員		
			2	実習(内分泌-2)	② 第2病理全員		
			3	実習(消化器-3)	① 小村		
			4	実習(消化器-4)	① 小村		
4	11	火	1	神経病理-1	2 岩崎		
			2	神経病理-2	2 岩崎		
4	12	水	1	自習(予備日)			
			2	自習(予備日)			
			3	病理遺伝子診断	2 藤井		
			4	骨・軟部腫瘍の病理	2 津田		
4	18	火	1	神経病理-3	2 岩崎		
			2	神経病理-4	2 岩崎		
4	19	水	1	泌尿器病理-1(腎臓-1)	1 高橋		
			2	泌尿器病理-2(腎臓-2)	1 高橋		
			3	リンパ組織病理-1	2 正木		
			4	リンパ組織病理-2	2 正木		
4	25	火	1	実習(神経-1)	② 岩崎		
			2	実習(神経-2)	② 岩崎		
4	26	水	1	肝臓病理-3	1 加藤		
			2	生殖器病理-1(前立腺・精巣)	1 高橋		
			3	膵臓の病理-1(含む胆道)	1 内木		
			4	膵臓の病理-2	1 内木		
5	9	火	1	細胞診断学	2 服部		
			2	泌尿器病理-3(膀胱)	1 内木		
5	10	水	1	実習(消化器-5)	① 稲熊		
			2	実習(消化器-6)	① 稲熊		
			3	実習(呼吸器-1)	② 第2病理全員		
			4	実習(呼吸器-2)	② 第2病理全員		

月	日	曜日	時限	内容	担当者
5	16	火	1	実習(肝臓-1)	① 加藤
			2	実習(肝臓-2)	① 加藤
5	17	水	1	乳腺病理	1 高橋
			2	皮膚・感覚器病理	1 小川
			3	実習(血液-1)	② 第2病理全員
			4	実習(血液-2)	② 第2病理全員
5	23	火	1	小児病理	1 稲熊
			2	腫瘍の分子病理学	1 山下
5	24	水	1	肺癌の病理	2 村瀬
			2	循環器病理(血管)	2 正木
			3	実習(呼吸器-3)	② 第2病理全員
			4	実習(呼吸器-4)	② 第2病理全員
5	30	火	1	実習(乳腺・生殖器-1)	① 加藤
			2	実習(乳腺・生殖器-2)	① 加藤
5	31	水	1	実習(肺癌・縦隔腫瘍-1)	② 第2病理全員
			2	実習(肺癌・縦隔腫瘍-2)	② 第2病理全員
			3	実習(血液-3)	② 第2病理全員
6	6	火	1	実習(血液-4)	② 第2病理全員
			2	実習(皮膚-1)	① 小村
6	7	水	1	実習(皮膚-2)	① 小村
			2	実習(泌尿器-1)	① 高橋
			3	実習(泌尿器-2)	① 高橋
			4	自習(予備日)	
6	13	火	1	歯、口腔病理-1	1 渋谷
			2	歯、口腔病理-2	1 渋谷
6	14	水	1	生殖器病理-2(子宮)	1 小村
			2	生殖器病理-3(胎盤・卵管・卵巣)	① 高橋
			3	自習(予備日)	
			4	自習(予備日)	
6	15	木	1	実習(骨軟部-1)	② 第2病理全員
			2	実習(骨軟部-2)	② 第2病理全員
			3	実習(リンパ組織-1)	② 第2病理全員
			4	実習(リンパ組織-2)	② 第2病理全員
6	20	火	1	実習(胆道・膵臓-1)	① 内木
			2	実習(胆道・膵臓-2)	① 内木
6	21	水	1	実習(泌尿器-3)	① 加藤
			2	実習(泌尿器-4)	① 加藤
			3	自習(予備日)	
			4	自習(予備日)	
6	22	木	1	実習(生殖器-3)	① 内木
			2	実習(生殖器-4)	① 内木
			3	自習(予備日)	
			4	自習(予備日)	
6	27	火	1	自習(予備日)	
			2	実習試験(2病)	
6	28	水	1	実習試験(2病)	
			2	実習試験(2病)	
7	4	火	1	実習試験(1病)	
			2	実習試験(1病)	
7	10	月	3	病理2本試験	
			4	病理2本試験	
	18	火	1	病理1本試験	
			2	病理1本試験	

開講年度	2023年1月～2023年5月
科目名	薬理学コース・薬理学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	大矢 進、鬼頭 宏彰、山口 陽平、遠藤 京子、齊藤 貴志、野村 洋、今井 優樹、伊藤 猛雄、山崎 大樹
講義期間・曜日・時限	前期(1/6～5/12)・木曜日3・4限目、金曜日1・2限目、または3・4限目

授業目的・目標	【授業目的】薬物と生体の相互作用について理解し、安全かつ適切な薬物療法を行うための基本的な学識を身につけるため。 【授業目標】最新の薬物療法に対応できる基礎的知識を修得し、治療薬適用の具体例や薬物療法の展望について理解する。
キーワード	中枢神経系作用薬、自律神経系作用薬、循環器系作用薬、消化器系作用薬、免疫、呼吸器系作用薬
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域1a, 1d
学習到達目標	1. 薬理作用の基本的概念とその定量的表現、薬物の副作用と毒性、薬物の長期反復投与の問題点について説明できる。 2. 各種病態における薬物の生体調節作用を理解し、基本的かつ重要な薬物についてその薬理作用、作用機序、副作用および薬物代謝を説明できる。 3. 種々の薬物の臨床適応の具体例を挙げ、実際の薬物療法について説明できる。 4. 薬物投与方法と薬物の体内動態について説明できる。 5. 薬物相互作用、薬物反応の個人差について、具体例を挙げ、説明できる。 【該当するモデルコアカリ】C-3-3)、C-5-6)、D-1-4)、D-2-4)、D-5-4)、D-6-4)、D-7-4)、D-9-4)、D-12-4)、D-13-4)、E-3-3)、E-4-3)
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している） ※ 履修規程のとおり、評価する。
授業概要	講義（全30回） 1. 総論 2. 自律神経系作用薬 3. 体性神経系作用薬 4. 中枢神経系作用薬 5. 循環器系作用薬 6. 消化器系作用薬 7. 代謝・内分泌系作用薬 8. 免疫・炎症系作用薬 9. 血液系作用薬 10. 呼吸器系作用薬 11. 抗がん薬 実習（全4回） 1. 薬物の吸収・分布・排泄 2. 自律神経系作用薬 3. 循環器作用薬（シミュレーション学習） 4. 末梢性筋弛緩薬 演習（アクティブラーニング）（全1回、180分）
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	講義：学修内容が多いため、教科書を予習すること（1週当たり60分程度）。また、解剖学及び生理学で学修した関連知識を復習すること。講義中に実施する演習問題等で修得の到達度を各自確認し、学修内容を復習すること（1週当たり60分程度）。 実習：事前に実習書（実習ガイダンス時に配布予定）を熟読し、使用する薬物の薬理作用について理解すること。
成績評価方法	筆記試験（中間試験40%、期末試験40%）、実習レポート（20%） 実習レポートでは、特に独自性を評価の対象とする（実習ガイダンスにて説明）。アクティブラーニングにおける取組姿勢や発表・参加の態度についても適宜評価する。
教科書・テキスト	「薬がみえる」 vol. 1-4、メディックメディア
参考文献	「詳解 薬理学」香月博志、成田 年、川畑篤史 編著 廣川書店 「NEW薬理学 改訂第7版」田中千賀子、加藤隆一、成宮 周 編集 南江堂 「Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics」, ed. Brunton, L.L., Chabner, B.A., Knollman, B.C. (eds) McGraw-Hill
履修上の注意事項	講義資料は、講義前にWebにアップロードする。履修規程を理解しておくこと。
履修者への要望事項	講義前に生理学、生化学、解剖学で学修した関連知識について復習すること。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニングでは、10名程度を1グループとして、事前に指定した課題（疾患）に関してグループディスカッションした内容をまとめる。口頭発表によりプレゼンテーションし、質疑応答を行う。
連絡先・オフィスアワー	月～金 9:00～17:00(事前に連絡すること)・電話 052-853-8151 (内線8151) (研究棟8F) 大矢 進 (sohya@med.nagoya-cu.ac.jp) 鬼頭 宏彰 (kito@med.nagoya-cu.ac.jp) 山口 陽平 (y.yamagu@med.nagoya-cu.ac.jp) 遠藤 京子 (k.endo@med.nagoya-cu.ac.jp) 齊藤 貴志 (saito-t@med.nagoya-cu.ac.jp) 野村 洋 (hnomura@med.nagoya-cu.ac.jp)
実務経験を活かした教育の取組	特にありません。
備考	中間試験、期末試験の試験範囲はそれぞれ全体の半分ですが、再試験の試験範囲は、全体になります。
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/med/

薬理学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
薬理学分野・教授	大矢 進
薬理学分野・講師	鬼頭 宏彰
薬理学分野・助教	山口 陽平
薬理学分野・助教	遠藤 京子
認知症科学分野・教授	齊藤 貴志
認知機能病態学分野・教授	野村 洋
免疫学分野・講師	今井 優樹
名誉教授	伊藤 猛雄
国立医薬品食品衛生研究所・薬理部・第二室長	山崎 大樹

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	6	金	1	薬理学総論(1)	大矢
1	6	金	2	薬理学総論(2)・薬物依存	大矢
1	13	金	1	末梢性・中枢性筋弛緩薬(1)	鬼頭
1	13	金	2	末梢性・中枢性筋弛緩薬(2)	鬼頭
1	20	金	1	副交感神経刺激薬	大矢
1	20	金	2	副交感神経遮断薬	大矢
1	27	金	1	交感神経刺激薬	大矢
1	27	金	2	交感神経遮断薬・緑内障治療薬	大矢
2	3	金	1	消化器系疾患治療薬(1)	大矢
2	3	金	2	消化器系疾患治療薬(2)	大矢
2	10	金	1	呼吸器系・内分泌系疾患治療薬	大矢
2	10	金	2	脂質異常症・高尿酸血症治療薬	鬼頭
2	17	金	1	認知症治療薬	齊藤
2	17	金	2	パーキンソン病治療薬・片頭痛治療薬	大矢
2	24	金	1	糖尿病治療薬	伊藤
2	24	金	2	抗がん薬(化学療法薬)	鬼頭
3	3	金	1	免疫・炎症・アレルギー系疾患治療薬(1)	今井
3	3	金	2	免疫・炎症・アレルギー系疾患治療薬(2)	今井
3	10	金	1	血液系疾患治療薬	遠藤
3	10	金	2	心不全治療薬	山口
3	17	金	1	抗不整脈薬	山口
3	17	金	2	利尿薬・実習ガイダンス	鬼頭
3	20	月	3	中間試験	
4	6	木	3,4	薬理学実習(1)	大矢、鬼頭、山口、遠藤
4	7	金	1	睡眠薬・抗不安薬	大矢
4	7	金	2	抗てんかん薬	大矢
4	7	金	3	全身麻酔薬・鎮痛薬	遠藤
4	7	金	4	狭心症治療薬	鬼頭
4	13	金	3,4	薬理学実習(2)	大矢、鬼頭、山口、遠藤
4	14	金	1	高血圧・低血圧治療薬	鬼頭
4	14	金	2	血管拡張薬	鬼頭
4	20	木	3,4	薬理学実習(3)	大矢、鬼頭、山口、遠藤
4	21	金	1	統合失調症治療薬	野村
4	21	金	2	気分障害治療薬	大矢
4	21	金	3	ヒトiPS心筋細胞の創薬応用と新規 <i>in vitro</i> 試験法開発におけるヒト外挿性	山崎
4	21	金	4	予備	
4	27	木	3,4	薬理学実習(4)	大矢、鬼頭、山口、遠藤
4	28	金	1	薬理学演習(アクティブラーニング)	大矢、鬼頭、山口、遠藤
4	28	金	2	薬理学演習(アクティブラーニング)	大矢、鬼頭、山口、遠藤
5	12	金	1	予備	
5	12	金	2	予備	
5	29	月	3	期末試験	
8	25	金	3	再試験	

開講年度	2023年度
科目名	社会医学コース・法医学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	青木康博、加藤秀章、菅野さな枝、福田真未子 非常勤講師：安達 登、三枝 聖、山田良広
履修期間・曜日・時限	2022年1月～2022年5月・火曜・3～4限、4月10日（月）1～2限

授業目的・目標	授業目的：法医学の専門領域に対する医学・医療および社会からの要請を理解する。 授業目標：法病理学、法中毒学、法医人類学等に関する基礎的知識を習得し、法医学的諸問題について、臨機応変かつ確に案件処理ができる能力を修得する。
キーワード	法病理学、法中毒学、法医道伝学、法医人類学、法歯学
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	Ia, Ic, IIIb, IIIc, IVd
学習到達目標	1. 法医学が果たすべき社会的義務について説明できる。 2. 生活反応、死後変化の原因・鑑別法を説明できる。 3. 各種損傷の成因および特徴的所見を説明できる。 4. 窒息死体の所見および死に至る機序を説明できる。 5. 異常環境における死について所見を説明できる。 6. 突然死、内因性急死の医学的・社会的問題について説明できる。 7. 小児の死に関連する法的・医学的問題について説明できる。 8. 死因の概念を説明できる。 9. 個人識別の基本原則を説明できる。 10. DNA多型、血液型についてその生化学的・遺伝学的背景を説明できる。 11. 大規模災害時の法医学活動の概要を説明できる。 12. 有機リン剤、有機塩素剤による中毒死の死体所見と機序が説明できる。 13. 有毒ガスによる中毒死の死体所見の特徴と機序が説明できる。 14. 堂せい剤中毒の機序が説明できる。 15. 薬物に対する精神的依存および身体的依存について説明できる。 【該当するモデルコアカリ】 B-2-1) 死と法、B-2-2) 診療情報と諸明書、E-9 人の死 F-1-37) 外傷・熱傷
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	講義項目 1. 法病理学 1) 死後経過時間 a. 死体現象 b. 昆虫学的証拠による推定 2) 損傷（鈍器損傷、鋭器損傷、銃器損傷、交通事故損傷） 3) 窒息、致命的頸部圧迫 4) 内因性急死 5) 小児法医学 6) 異常環境による死 2. 法中毒学 1) アルコールの法医学 2) 有毒ガスによる中毒 3) 農薬 4) 乱用薬物 5) 工業化学物質、その他 3. 個人識別 1) 法歯学的個人識別 2) 遺伝形質による個人識別およびヒトの系統解析 3) 骨検査 4) 大規模災害時の法医学活動 (実習) 1. 血液型、2. 法中毒学的検査、3. DNA多型、4. 血痕検査 具体的な講義・実習日程については別表を参照されたい。
授業計画	2021年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	事前に配布される資料がある場合、それを用いて予習をしておくこと。 特に実習書については、事前に目を通し、実習の目的および手順について理解しておくこと。また、実験終了後に得られた実験結果について、よく考察すること。
成績評価方法	筆記試験 100%（但し全実習の出席を要件とする） 筆記試験においては、法医学の各分野に関する基礎的知識や解釈だけでなく、問題解決能力も評価のポイントとする。また特に実習内容の理解度については、個別の項目ごとに評価する。
教科書・テキスト	特に教科書を指定しないが、法医学に関し系統的に記載された下記の成書等を利用して学習されたい。 「法医学 改訂4版」福島弘文監修 南山堂 2022年 「標準法医学 第8版」池田典昭・木下博之編 医学書院 2022年 「NEWエッセシャル法医学 第5版」高取健彦監修 医歯薬出版 2019年 「死体検案ハンドブック 第4版」近藤稔和・木下博之編 金芳堂 2020年 「Knight's Forensic Pathology 4th ed」Saukko P, Knight B. CRC Press 2016年
参考文献	講義ノートなどをLiveCampus上にて公開する 「薬物乱用・中毒百科-覚醒剤から咳止めまで」内藤裕史著 南江堂 2011年 「死体検案マニュアル2017」日本法医学会編 日本法医学会 2017年
履修上の注意事項	一部の講義資料はLive Campus 経由で配布する。
履修者への要望事項	生化学、解剖学、病理学、薬理学等で得た知識と連関付けて内容を理解するように努められたい。
アクティブ・ラーニング	症例検討など問題解決型授業を行う。
連絡先・オフィスアワー	担当教員 : 青木康博 電話番号(外線) : 052-853-8181(内線) : 8179, 8181) 電子メール : aakiy@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー : 月、火、水、金 8:00～18:00 (事前に連絡すること)
実務経験を活かした教育の取組	法医実務（解剖鑑定・法中毒学的検査等）の経験を有する教員が全講義・実習を担当する。
備考	第6学年法医学診断学にて、発展的な演習を行う。
関連URL	http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/legal_dir/

2023年1月～2023年12月 第3学年

法医科学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科法医学分野 教授	青木康博
医学研究科法医学分野 准教授	加藤秀章
医学研究科法医学分野 准教授	菅野さな枝
医学研究科法医学分野 助教	福田真未子
山梨大学 教授	安達 登
岩手医科大学 准教授	三枝 聖
神奈川歯科大学 教授	山田良広

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	10	火	3	法医学総論	青木康博
			4	死体現象・死後経過時間	青木康博
1	17	火	3	損傷総論	青木康博
			4	鈍器損傷	青木康博
1	24	火	3	鋭器損傷	青木康博
			4	銃器損傷	青木康博
1	31	火	3	臓器別損傷・損傷死死因	青木康博
			4	窒息総論	青木康博
2	7	火	3	頸部圧迫	青木康博
			4	溺水・水中死体	青木康博
2	14	火	3	法医人類学特講	安達 登
			4	法昆虫学	三枝 聖
2	21	火	3	交通事故損傷I	青木康博
			4	交通事故損傷II	青木康博
3	7	火	3	焼死/寒冷死・感電	加藤秀章
			4	内因性急死	加藤秀章
3	14	火	3	虐待	加藤秀章
			4	嬰兒殺	加藤秀章
4	10	月	1	法中毒学総論（遠隔授業）	菅野さな枝
			2	法中毒学各論（遠隔授業）	菅野さな枝
4	11	火	3	骨検査	青木康博
			4	血液型	青木康博
4	18	火	3	DNA多型	福田真未子
			4	個人識別・大規模災害	青木康博
4	25	火	3	法歯学	山田良広
			4	DNA鑑定	福田真未子
5	9	火	3	実習I 法医学の物体検査	全教員
			4	実習I 法医学の物体検査	全教員
5	16	火	3	実習II 法医学の物体検査	全教員
			4	実習II 法医学の物体検査	全教員
5	23	火	3	実習III 法中毒学の検査	全教員
			4	実習III 法中毒学の検査	全教員
5	30	火	3	実習IV 法中毒学の検査	全教員
			4	実習IV 法中毒学の検査	全教員

開講年度	2023年度
科目名	社会医学コース・医学・医療倫理ユニット
専門・教養	専門
担当教員	齋藤伸治、杉浦真弓、神谷 武、戸澤啓一、鈴木伸宏、岡本 尚、内田 恵、青木康博
講義期間・曜日・時限	6月21日(水)3・4限、23日(金)1・2限、27日(火)1・2限、30日(金)1・2限

授業目的・目標	医療を行い、あるいは医学の研究開発を行う上ではさまざまな倫理的な問題と向き合う必要があり、またその普遍的倫理を基盤とした法的な制約、規制等がある。本講義では臨床実務上および臨床研究実施上生ずる諸問題につき検討することを通じ、医学・医療倫理に関する基礎的知識や思考法をさまざまな側面から学び、理解する。
キーワード	医学研究倫理、インフォームド・コンセント、医療倫理、終末期医療
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	1c, 11a, 11d, 11e, 111c, 11Va
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学・医療の発達に伴って生ずる倫理的諸問題を指摘できる。 2. ベルモント三原則、ヘルシンキ宣言について説明できる。 3. 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」「臨床研究法」について概説できる。 4. 医学研究、臨床試験、治研の目的やデザインについて、法的規制と関連付けて説明できる。 5. 医学研究におけるデュアルユース問題と対策について概説できる。 6. 生殖医療の現状およびその倫理的問題について、法的規制と関連付けて説明できる。 7. 遺伝子診断・遺伝医療の基本的事項を指摘し、遺伝カウンセリングのあり方について概説できる。 8. 患者の自己決定権や患者-医師関係に関する原則および具体的対応手順について説明できる。 9. 終末期医療およびその倫理的・法的問題について概説できる。 10. 医療事故の発生要因を理解し、医療の安全を確保するシステム・制度のあり方を概説できる。 11. 守秘義務に関する医療倫理と刑事司法との関係について概説できる。 <p>【該当するモデルコアカリ】 A-1-1) 医の倫理と生命倫理, A-1-2) 患者中心の視点, A-1-3) 医師としての責務と裁量権, A-4-1) コミュニケーション, A-4-2) 患者と医師の関係, A-6-1) 安全性の確保, A-6-2) 医療上の事故等への対処と予防, B-2-1) 死と法, B-2-2) 診療情報と諸証明書, B-3-1) 倫理規範と実践倫理, B-4-1) 医師に求められる社会性, E-1-1) 遺伝医療・ゲノム医療と情報の特性, E-9-1) 生物的死と社会的死, F-2-16) 緩和ケア, F-3-3) 診療録(カルテ)</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している）</p> <p>優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している）</p> <p>良：70点以上（学修到達目標を達成している）</p> <p>可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学研究に関する倫理的原則やそれに基づく指針について、具体的に学習する。 2. 医学研究、臨床試験、治研に関する制度、倫理的・法的規制について学習する。 3. 生殖医療、遺伝子診断、遺伝医療および遺伝カウンセリングの現状、倫理的問題、法的規制について学習する。 4. あるべき患者-医師関係に根ざした患者の自己決定権の上に成り立つ医療のイメージを学習する。 5. 医療の安全確保に関する制度設計や基本原則について学習する。 6. 医療倫理と法規制との相互関係について、具体的に学習する。
授業計画	2021年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	下記参考文献を参照し、予・復習をされたい。
成績評価方法（令和元年度までの項目名称「成績評価基準」）	規定以上の出席を前提に、定期試験の結果で評価する。
教科書・テキスト	・各講義において資料を配布する。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文部科学省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」 http://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/n1443_01.pdf ・ 日本学術会議「提言：病原体研究に関するデュアルユース問題」 http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-t184-2.pdf ・ 日本医師会「医師の職業倫理指針」 http://dl.med.or.jp/dl-med/teireikaiken/20161012_2.pdf ・ インフォームドコンセントの在り方に関する検討会報告書(1995年) http://www.umin.ac.jp/inf-consent.htm ・ 厚生労働省「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」 https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10802000-Iseikyoku-Shidouka/0000197701.pdf
履修上の注意事項	
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	対話・議論型授業を取り入れる。
連絡先・オフィスアワー	<p>担当教員：青木康博 電話番号（外線）：052-853-8179 電子メール：aoki@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー：月曜日～金曜日（09:00～18:00 随時）</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師としての実務経験を有する教員が全講義を担当する。
備考	
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年

医学・医療倫理ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
新生児・小児医学分野 教授	齋藤伸治
産科婦人科学分野 教授	杉浦真弓
次世代医療開発分野 教授	神谷 武
医療安全学分野 教授	戸澤啓一
共同教育研究センター 准教授	鈴木伸宏
名誉教授(前細胞分子生物学分野 教授)	岡本 尚
緩和ケア部 助教	内田 恵
法医学分野 教授	青木康博

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	21	水	3	医学研究倫理	齋藤伸治
6	21	水	4	生殖医療とヒトゲノム倫理	杉浦真弓
6	23	金	1	臨床研究・治験と医療倫理	神谷 武
6	23	金	2	インフォームド・コンセント	戸澤啓一
6	27	火	1	遺伝カウンセリング	鈴木伸宏
6	27	火	2	医学研究とデュアルユース問題: 研究倫理をどのように担保すべきか	岡本 尚
6	30	金	1	ターミナル・ケア	内田 恵
6	30	金	2	刑事司法と医療倫理	青木康博

開講年度	2023年度
科目名	神経科学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	松川則之、飛田秀樹、鶴川真也、澤本和延、植木美乃、野村 洋、服部光治、福田敦夫、和氣弘明、佐野裕美
講義期間・曜日・時限	2023年5月8日（月）から6月5日（月）

授業目的・目標	脳機能を支える分子基盤を理解し、神経疾患の原因、治療、予防などを理解するための基本知識を得るために、神経科学領域の分子、細胞レベルでの基礎知識を習得するとともに、神経疾患の病因の分子基盤を理解する。
キーワード	神経最先端研究、新研究手法、神経科学
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	1a, 1d, 4d
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系を構成する細胞の特性を説明できる。 2. 神経系の発生を説明できる。 3. 神経伝達物質の種類、シナプスの種類と構造、シナプス伝達の機序を説明できる。 4. 神経系におけるトランスポーターの機能を説明できる。 5. 神経系にみられる可塑性、記憶、学習の分子基盤について説明できる。 6. 神経の変性と再生の機序を理解する。 7. 神経疾患および精神疾患の分子基盤を理解する。 <p>【該当するモデルコアカリ】 A-8-1) 医学研究への志向の涵養 A-9-1) 生涯学習への準備 C-2-2)-(1) 組織・各臓器の構造と機能 C-2-3)-(1) 情報伝達の基本 C-2-3)-(2) 神経による情報伝達の基礎</p>
成績評価基準	合格：60点以上（学修到達目標を達成している）
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・動物的機能と情動の生後発達 2. 神経再生医学 3. 感覚器の分子生物学 4. 脳内出血後の神経回路シフト 5. 記憶・学習の神経機構 6. 神経変性疾患の分子生物学 7. パーキンソン病の病態と先端研究 8. 大脳基底核の最先端研究 9. 光を利用した最先端研究（グリアと神経病態） 10. 神経・精神疾患とクロライドホメオダイナミクス 11. 神経細胞移動の分子機構とその疾患 12. 脳の中の自己ニューロンと他者ニューロン
授業計画	2023年度 神経科学ユニット授業計画を参照のこと
授業時間外の学修（準備学習を含む）	
成績評価方法	筆記試験
教科書・テキスト	
参考文献	参考文献 "Principles of Neural Science" Eric R.Kandel et al., McGraw-Hill Publishing Co. "Basic Neurochemistry" George Siegel et al., Raven Press
履修上の注意事項	
履修者への要望事項	2年で学習した解剖学、生理学、生化学における関連項目を復習の上（予習に相当）講義に臨むこと。最新の研究内容についての講義は、配布プリントを元に復習すること。
アクティブ・ラーニング	
連絡先・オフィスアワー	担当教員 : 医学研究棟7階 医学研究科脳神経生理学分野 飛田秀樹 電話番号（外線）：052-853-8134 電子メール : hhida@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	
備考	
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年

神経科学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名	
脳神経内科学 教授	松川 則之	
脳神経生理学 教授	飛田 秀樹	責任者
機能組織学 教授	鵜川 眞也	
神経発達・再生医学 教授	澤本 和延	
リハビリテーション医学 教授	植木 美乃	
認知機能病態学 教授	野村 洋	
薬学部 病態生化学 教授	服部 光治	
浜松医科大・神経生理学 特命研究教授	福田 敦夫	
生理学研究所 認知行動発達研究部門 教授	磯田 昌岐	
名古屋大学・第一解剖学 教授	和氣 弘明	
藤田医科大 精神神経病態解明センター 准教授	佐野 裕美	

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
5	8	3	月	オリエンテーション・動物的機能と情動の生後発達	飛田 秀樹
		4	月	神経再生医学	澤本 和延
5	11	3	木	感覚器の分子生物学	鵜川 眞也
		4	木	脳内出血後の神経回路シフト	飛田 秀樹
5	15	3	月	記憶・学習の神経機構	野村 洋
		4	月	神経変性疾患の分子生物学	松川 則之
5	18	3	木	パーキンソン病の病態と先端研究(仮)	植木 美乃
		4	木	大脳基底核の最先端研究(仮)	佐野 裕美
5	22	3	月	予備日	
		4	月	予備日	
5	25	3	木	光を利用した最先端研究(仮)	和氣 弘明
		4	木	神経・精神疾患とCI homeodynamics	福田 敦夫
6	1	3	木	神経細胞移動の分子機構とその疾患との関連	服部 光治
		4	木	脳の中の自己ニューロンと他者ニューロン	磯田 昌岐
6	5	1	月	予備日	
		2	月	予備日	

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	行動科学・地域医療学コース・疼痛科学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	祖父江和哉、植木孝俊、大澤匡弘、杉浦健之
講義期間・曜日・時限	6月8日（木）

授業目的・目標	疼痛に関する基礎医学的知識を断片的ではなく、科目横断的に理解し、習得する。
キーワード	痛み、行動科学、中枢神経、末梢神経
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1a, 1d, 2d, 3a, 4d
学習到達目標	疼痛に関する基礎医学的知識を学習し、将来、質の高い疼痛管理を様々な診療科や医療チームのなかで提供するための基礎知識を習得する。 【該当するモデルコアカリ】 A-8-1) 医学研究への志向の涵養 C-2-3)-(2) 神経による情報伝達の基礎
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	痛みの神経科学 動物モデルを用いた行動科学の研究 痛みと中枢神経系イメージング 動物モデルを使用した慢性疼痛に関する研究
授業計画	2022年度 疼痛科学ユニット授業計画を参照のこと
授業時間外の学修（準備学習を含む）	講義内容の予習と復習を行うこと
成績評価方法	客観試験（神経科学試験の一部として行います）
教科書・テキスト	各講義にて配布される資料を参照すること
参考文献	
履修上の注意事項	
履修者への要望事項	2年生で学習した解剖学、生理学、生化学、感染微生物学などを前もって復習した上で講義に臨むこと
アクティブ・ラーニング	
連絡先・オフィスアワー	担当教員 : 麻酔科学・集中治療医学分野 祖父江和哉 電話番号（外線） : 052-853-8281（直通） 電子メール : secretary@ncu-masui.jp（秘書） オフィスアワー : 平日（月～金）午前9時～午後5時
実務経験を活かした教育の取組	医師・薬剤師としての臨床経験を持つ教員や痛みに関する基礎研究を行っている教員が講義を担当する。
備考	
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

疼痛科学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
麻酔科学・集中治療医学分野・教授	祖父江和哉
麻酔科学・集中治療医学分野疼痛科学部門・教授	杉浦健之
統合解剖学分野・教授	植木孝俊
非常勤講師(薬学研究科神経薬理学・准教授)	大澤匡弘

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	8	木	1	行動科学と動物モデル	大澤
			2	動物モデルを使用した慢性疼痛に関する研究	大澤
			3	痛みと中枢神経系イメージング	植木
			4	痛みの神経科学	杉浦

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	コミュニティヘルスケア卒前教育 行動科学・地域医療学 コース コミュニティ・ヘルスケア応用 (IPE) ユニット
専門・教養	専門
担当教員	医学研究科：植田典浩、高桑 修、酒々井眞澄、大石久史、川出義浩、柿崎真沙子、村上里奈 薬学研究科：鈴木 匡、坂下真大、青木啓将 看護学研究科：明石恵子、金子典代
講義期間・曜日・時限	2023年5月12日(金)～2023年6月23日(金)
授業目的・目標	【授業目的】医療系の学生として、人に対する理解を深め、コミュニケーション能力を身につけることを目的としている。 【授業目標】医療を提供するための基盤を修得し、医療者になることへの自覚を深めるのを目標としている。地域在住高齢者の日常生活環境を認識し、健康維持や療養・介護のニーズを調査することにより、将来に向けての提案書を作成する。
キーワード	コミュニティ、ヘルスケア、国際生活機能分類 (ICF)、エイジング・イン・プレイス (AIP)、多職種連携教育 (IPE)
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅰの c 領域Ⅱの b, d 領域Ⅲの a, b, c, d 領域Ⅳの a, c
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 老化と高齢者の特徴、超高齢社会における医療の課題について理解している。 2. 国際生活機能分類 (ICF) の基本的概念を理解し、個人の生活上の課題を適切に評価できる。 3. 疾病予防や健康増進の必要性を理解している (マイルストーン111-1(1)レベルB) 4. 地域社会におけるコミュニティヘルスケアの仕組みと役割を理解している (マイルストーン111-2(1)レベルB) 5. 相手の心理・背景を理解し、誠実な態度で信頼関係を築くことができる (マイルストーン11-2(1)レベルA) 6. 他者との関係形成には相手の立場や気持ちへの理解と配慮が必要であることを理解している (マイルストーン11-2(2)レベルA) 7. グループ学習において、必要な情報共有しつつグループ内の信頼関係を構築できる (マイルストーン11-2(3)レベルB) 8. グループ実習において、構成員間の意見の相違を調整し、円滑で効果的活動に協力できる (マイルストーン11-3(3)レベルB) 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-2-1) 課題探求・解決能力、A-2-2) 学修の在り方、A-4-1) コミュニケーション、A-4-2) 患者と医師の関係、A-7-1) 地域医療への貢献、B-1-6) 社会・環境と健康、B-1-7) 地域医療・地域保健、B-4-1) 医師に求められる社会性、C-5-7) 対人関係と対人コミュニケーション、E-8-1) 加齢と老化、F-2-14) リハビリテーション、F-2-15) 在宅医療と介護、F-3-2) 医療面接
成績評価基準	秀：学修到達目標を越えたレベルを達成している 優：学修到達目標を十分に達成している 良：学修到達目標を達成している 可：学修到達目標を最低限達成している
授業概要	エイジング・イン・プレイス (AIP) 社会における医学・医療の発展と向上の必要性を理解し、医療のプロフェッショナルとしてそれを担う使命感と、その基盤となる多職種協働能力を持った人材を育成するためのプログラムの一環である。 地域高齢者を対象とする調査実習と、そのための準備としての講義、実習の成果をまとめるグループワークで構成されている。
授業計画	詳細については、授業計画表を参照。 講義・グループワーク：全6回(5/12 3-4限、6/2 3-4限、6/23 3-4限) 調査実習：2回、5/19と6/16、5月12日(金) 4限目に説明会を行う。 調査実習については下記のように予定しているが、コロナ感染の状況などにより変更となる場合がある。 13:00に講義室に集合し連絡事項等を確認。OHCセンター等に移動し、グループ毎に高齢者から生活や健康状態についての話を聞き取りを行う。 グループおよび個人の課題として、①健康と暮らしのプロファイル、②国際生活機能分類 (ICF) 整理チャート、③エイジング・イン・プレイス (AIP) に向けた提案書、等を作成する。
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、医療系学生チーム訪問実習マニュアル(オリエンテーション時に配布)を予習した上で、実習に臨むこと。 国際生活機能分類 (ICF) の基本的概念について自己学習すること。 エイジング・イン・プレイス (AIP) の基本的概念について自己学習すること。
成績評価方法	原則として全日程への出席を求める。特に実習・グループワークについては原則遅刻、早退は認めない。特段の理由なく欠席の場合および課題が提出されない場合は、総括評価(含否評価)の対象としない。 総括評価(含否評価) ①学修到達目標1～4(50%)：グループおよび個人の課題を評価する ②学修到達目標5～8(50%)：グループ・調査実習時の態度や姿勢等からルーブリック表を用いて評価する。特に調査実習において医学生として不適切な態度や行動がみられる場合は指導のうえ欠席扱いとする場合がある。 ①②がいずれも合格基準を満たす場合に合格とする。
教科書・テキスト	医療系学生チーム訪問実習マニュアル(オリエンテーション時に配布)
参考文献	講義時間中に紹介します。
履修上の注意事項	名古屋市立大学では本科目を医学部・薬学部・看護学の専門科目に位置づける(学部によって必修・選択・自由科目のいずれかとなる)。 学外実習中にトラブルや懸念事項が生じたときは、自分たちだけで判断せずに担当教員に報告し相談すること(各チームに1人の担当教員が割り当てられる)。 集合時間、提出期限は厳守すること。
履修者への要望事項	第1回目の講義までに2年時に履修したコミュニティ・ヘルスケア基礎で学んだ超高齢社会の課題について、自分なりの考えをまとめておいてほしい。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	担当教員：植田典浩、(責任教員)高桑 修：医学・医療教育学 電話番号(外線)：052-853-8537 電子メール：nueda@med.nagoya-cu.ac.jp, takakuwa@med.nagoya-cu.ac.jp グループ担当教員との連絡方法はオリエンテーション時に指示する。
実務経験を活かした教育の取組	医師、薬剤師、看護師、としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	平成25年度入学者から適用 「インタープロフェッショナルヘルスケア論」「コミュニティヘルスケア基礎」「コミュニティヘルスケア応用」「コミュニティヘルスケア発展」「コミュニティヘルスケア実践」の単位をすべて修得すれば、コミュニティヘルスケア卒前教育プログラムの修了認定を受けることができる。なお、「インタープロフェッショナルヘルスケア論」は、教養教育科目「医療連携地域参加型学習」として履修する。プログラム履修についての詳しい内容は担当教員に確認すること。
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年

CHC応用ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 医学・医療教育学 教授	高桑 修
医学研究科 医学・医療教育学 講師	植田典浩
医学研究科 神経毒性学 教授	酒々井眞澄
医学研究科 病態モデル医学 教授	大石久史
医学研究科 地域医療教育学 特任准教授	川出義浩
医学研究科 医療人育成学 特任講師	柿崎真沙子
医学研究科 リハビリテーション医学 助教	村上里奈
薬学研究科 臨床薬学教育研究センター 教授	鈴木 匡
薬学研究科 臨床薬学教育研究センター 講師	坂下真大
薬学研究科 病態解析学 助教	青木啓将
看護学研究科 クリティカルケア看護学 教授	明石恵子
看護学研究科 国際保健看護学 教授	金子典代

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
5	12	金	3	講義:超高齢社会の課題／加齢と老化	植田
5	12	金	4	オリエンテーション:訪問実習から何を学ぶか?	担当教員
5	19	金	3-4	第1回調査実習	担当教員
6	2	金	3-4	グループワーク:ニーズを調査するための計画をたてる	植田
6	16	金	3-4	第2回調査実習	担当教員
6	23	金	3	国際生活機能分類(ICF)の作成 家庭訪問実習で学んだことの共有	植田
6	23	金	4	グループワーク:「エイジング・イン・プレイス に向けた提案書」の作成	担当教員

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	行動科学・地域医療学コース Scientific Writing and Presentationユニット
専門・教養	専門
担当教員	授業計画表を参照
履修期間・曜日・時限	月曜日1-2限(4/24, 5/15, 6/19)、月曜日3-4限(4/10, 6/5)、火曜日3-4限(6/13)

授業目的・目標	医学領域の調査・研究成果を世界の研究者に適切に伝えられるようになるために、英語による科学的文書の作成とプレゼンテーションの基本知識と技法、倫理、科学的な文章を作成することの醍醐味や面白さを学ぶ。
キーワード	科学統計解析、科学作文技術、プレゼンテーション、論文投稿、研究倫理
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅰの b, c, d 領域Ⅱの d 領域Ⅳの d
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 原著論文の役割と意義、構造、倫理を理解することで、医学研究の文献等の情報を吟味してその基本的な妥当性を評価できるようになる。 2. 研究結果から、英文で Title, Abstract, Figure, Table からなる報告を作成する基本的な技術を修得する。医学的知見や医療情報を英語で説明し、国際的に発表することができるようになる。 3. 科学論文の作成の方法、発表における倫理、公表のルールを理解することで、医学論文から得られる科学的知識や科学的理解には限界があり、またそれらは常に更新されていることを理解する。 4. 医学研究の意義、方法、醍醐味を知ること、生涯にわたって継続的に医学知識の向上に務める基本的な姿勢を身につけることができる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-2-2、A-8-1、A-7-2
成績評価基準	秀：学修到達目標を越えたレベルを達成している 優：学修到達目標を十分に達成している 良：学修到達目標を達成している 可：学修到達目標を最低限達成している
授業概要	Mini lecture と 個人作業 の繰り返しによる授業を行う。科学的記述では、General to Specific を基本構造として、Research question と Answer を明確にしたParagraph writing を行う事を授業全体を通じて学習する。科学的報告の作成技術を学び、国際標準に沿ったGraphics(図表)の作成技術およびプレゼンテーションの技法を習得する。授業で学んだ研究データのまとめ方と英文abstractの書き方を基に、与えられたデータから Graphics および Abstract を作成し、教員による査読を経て、受理(accept)されることをもって合格とする。
授業計画	授業計画表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業で学んだ研究データのまとめ方と英文abstractの書き方を基に、 ①与えられたデータから Graphics(図表) および Abstract を作成し、onlineで査読者(匿名教員)に提出する。 ②査読者からonlineで返送される査読コメントに基づいて、必要な改訂を行い再提出する。 ③査読者によって受理されるまで②③を繰り返す。
成績評価方法	①演習で作成する プロダクト(図や文章など)と小テスト(dictation)の回答をもって出席とする。 ②指定されたデータを基に、Graphics(図表) および Abstract を作成し、提出すること。 ③提出された Graphics および Abstract に対して電子メールで返送される査読結果に基づき必要な改訂を行い、2週間以内にメールで再提出すること。 ④Graphics および Abstract が9月30日までに受理されること。 ⑤査読に対する改訂版と返事を2週間以内に提出しなかった場合は、毎回、追加課題が課される。その場合は④とともに全ての追加課題を9月30日までに終了することが求められる。 以上、①による出席と、②～⑤を全て満たすことを持って合格とする。 Abstract提出先: ncuswp@gmail.com メールの件名: Abstract_学籍番号_氏名 ←学籍番号を記載すること。(出席番号は不可) Abstract file名: Abstract_学籍番号_氏名.docx
教科書・テキスト	参考書 ・ A practical guide to the use of scientific English : a skeleton approach for written and oral presentation in the medical field Malcolm A. Moore and Hiroyuki Tsuda, APOCP ・ ライフ・サイエンスにおける 英語論文の書き方 市原 A. エリザベス、共立出版 ・ 科学論文のセンスを磨く 鈴木英次、化学同人
参考文献	
履修上の注意事項	①宿題をもとにしたdictationの小テストを授業開始時に毎回行うので、遅刻をしないこと。 ②指定された形式を守らない Graphics(図表) および Abstract は査読されず、正しい形式での再提出を求められます。 ③Graphics および Abstract は合格水準に達するまで再提出が求められます。 ④Graphics および Abstract の修正を指示された時は修正した点を明記して2週間以内に再提出してください。 ⑤再提出が期限より遅れた場合は追加課題が課されます。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	授業で学んだ研究データのまとめ方と英文abstractの書き方を基に、下記のようにアクティブ・ラーニングを行う。 ①個人作業により、Graphics(図表) および Abstractを作成する。 ②査読者から返送される査読コメントに基づいて、必要な修正を行い2週間以内に再提出する。 ③査読者によって受理されるまで②③を繰り返す。
連絡先・オフィスアワー	担当教員 : 植田典浩(医学・医療教育学) 電話番号(外線) : 052-853-8537 電子メール : nueda@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー : 月火木金: 9時から16時、水: 9時から10時
実務経験を活かした教育の取組	研究者として一線で研究活動を行っている教員が授業・実習、アクティブ・ラーニングにおける査読者を担当する。
備考	
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年

Scientific Writing and Presentationユニット 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 医学・医療教育学 講師	植田 典浩
至学館大学 教授	三浦 裕
名古屋大学 環境医学研究所 特任助教	加藤 耕治
医学研究科 循環器内科学 助教	中須賀 公亮
名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 視覚科学 教授	野崎 実穂
医学研究科 神経発達症遺伝学 学内講師	金澤 智
医学研究科 神経生化学 講師	辻田 麻紀
医学研究科 リハビリテーション医学 助教	村上 里奈
医学研究科 細胞生化学 講師	嶋田 逸誠

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
4	10	月	3	Orientation / Good slide presentation	植田 典浩
4	10	月	4	Why scientific writing?	三浦 裕
4	24	月	1	Statistical analysis of data	加藤 耕治
4	24	月	2	Graphics for scientific reports	中須賀 公亮
5	15	月	1-2	Create your graphics.	全教員
6	5	月	3	Which color shall we choose?	野崎 実穂
6	5	月	4	Structure of scientific reports	金澤 智
6	13	火	3	Title and body of abstract	辻田 麻紀
6	13	火	4	Ethics; scientific misconduct	村上 里奈
6	19	月	1-2	Write your abstract!	全教員

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	先端研究ユニット
専門・教養	専門
担当教員	酒々井眞澄、山川和弘、齊藤貴志、深町勝巳、澤田雅人、尾崎智也
講義期間・曜日・時限	2022年5月11日（木）から 6月6日（火）

授業目的・目標	脳神経科学研究所を中心に行われている研究について学び、基礎医学研究について理解を深める。
キーワード	脳科学・腫瘍・創薬
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1b, 1d, 3a, 3b, 4d
学習到達目標	基礎医学の知識をもとに、先端的な医学研究について理解するとともに、それぞれの研究における成果についても説明できる。 【該当するモデルコアカリ】 A-8-1) 医学研究への志向の涵養, A-9-1) 生涯学習への準備, B-1-6) 社会・環境と健康, C-2-3) 個体の調節機構とホメオスタシス, C-4-1) 遺伝的多様性と疾患, C-4-2) 細胞傷害・変性と細胞死, C-4-6) 腫瘍, D-2-3) 神経系症候, D-2-4) 神経系疾患, E-5-2) 物理・化学的因子による疾患症候
成績評価基準	秀：学修到達目標を越えたレベルを達成している 優：学修到達目標を十分に達成している 良：学修到達目標を達成している 可：学修到達目標を最低限達成している
授業概要	1. 発がん動物モデルとその応用 2. 発達障害とてんかんの分子遺伝学 3. 嗅覚とニューロン新生 4. 認知症・アルツハイマー病研究の最前線 5. 神経再生を阻害する分子 6. リード化合物と創薬科学
授業計画	
授業時間外の学修（準備学習を含む）	毎回講義の最後に講義のポイントアンケートを実施するので、これまでの講義や実習で学習した内容の概要を予習しておくこと
成績評価方法	出席、講義のポイントアンケート、レポートなどを総合的に評価する
教科書・テキスト	各講義にて配布される資料を参照すること
参考文献	各講義にて配布される資料を参照すること
履修上の注意事項	講義参加度、受講態度、提出物の期限厳守
履修者への要望事項	これまでの講義や実習で学習した内容をふまえた上で受講すること
アクティブ・ラーニング	必要に応じて適宜実施する
連絡先・オフィスアワー	担当教員 : 酒々井眞澄 電話番号（外線） : 052-853-8991 電子メール : suzui@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー : 平日9時～17時にアポイントを取ること。
実務経験を活かした教育の取組	
備考	
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年

先端研究ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
神経毒性学分野 教授	酒々井眞澄
神経発達症遺伝学分野 教授	山川和弘
認知症科学分野 教授	齊藤貴志
神経毒性学分野 講師	深町勝巳
神経発達・再生医学分野 講師	澤田雅人
神経毒性学分野 助教	尾崎智也

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
5	11	木	1	発がん動物モデルとその応用	深町勝巳
5	11	木	2	発達障害とてんかんの分子遺伝学	山川和弘
5	18	木	1	嗅覚とニューロン新生	澤田雅人
5	18	木	2	認知症・アルツハイマー病研究の最前線	齊藤貴志
5	25	木	1	神経再生を阻害する分子	尾崎智也
6	6	火	4	リード化合物と創薬科学	酒々井眞澄

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・遺伝医学
専門・教養	専門
担当教員	新生児・小児医学分野 教授 齊藤伸治、 神経発達症遺伝学分野 教授 山川和弘、 産科婦人科学 病院教授 鈴木伸宏、
講義期間・曜日・時限	6月26日(3,4限)、6月27日(3,4限)、6月29日(3,4限)

授業目的・目標	【授業目的】 遺伝医学の基礎および最近の動向について学ぶ。 【授業目標】 遺伝医学の基礎および最近の動向について通じる。
キーワード	遺伝医学、ゲノム、遺伝子、遺伝疾患、遺伝子診断
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a IVa
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 遺伝医学の知識をもとに、先端的な遺伝医学研究についても理解する。 2. それぞれの研究における課題を説明できる。 3. 研究の持つ臨床応用の可能性について説明できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-1-1) 医の倫理と生命倫理 A-4) コミュニケーション能力 A-8) 科学的探求 A-9) 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 B-1) 集団に対する医療 B-3) 医学研究と倫理 C-1) 生命現象の科学 C-2) 個体の構成と機能 C-3) 個体の反応 C-4) 病因と病態 C-5) 人の行動と心理 D) 人体各臓器の正常構造と機能、病態、診断、治療 E) 全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療 C-4-1) 遺伝的多様性と疾患 E-1) 遺伝医療・ゲノム医療
成績評価基準	秀: 90点以上 (学修到達目標を越えたレベルを達成している) 優: 80点以上 (学修到達目標を十分に達成している) 良: 70点以上 (学修到達目標を達成している) 可: 60点以上 (学修到達目標を最低限達成している)
授業概要	臨床医学と関連の深い基礎医学(臨床基礎分野)の理解がほぼ終了した者を対象に、各領域でのトピックスもしくは研究の最前線となっている事について講義を行う。これにより、それぞれの領域が密接に関連していることや、狭い領域にとらわれない幅広い知識・思考が現在の医学を理解する上で重要であることを学ぶ。
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	レポート、小テスト、授業態度などにより判定する
教科書・テキスト	トンブソン&トンブソン遺伝医学 第2版 メディカル・サイエンス・インターナショナル
参考文献	
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	特になし。
連絡先・オフィスアワー	山川和弘 公立大学法人名古屋市立大学 大学院医学研究科 脳神経科学研究所 神経発達症遺伝学分野 教授 〒467-8601 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1 電話番号(外線): 052-853-8206 (直通) 電子メール: yamakawa@med.nagoya-cu.ac.jp ※原則としてメールで連絡してください。 オフィスアワー: 10:00～17:00 [月曜から金曜] 要事前連絡
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験もしくは基礎研究実績を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業外の学習について ①授業計画を確認の上、教科書の該当分野を予習したうえで、講義に臨むこと
関連URL	研究室ホームページ: http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/neurogenet/

2023年1月～2023年12月 第3学年

遺伝医学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
新生児・小児医学分野 教授	齊藤伸治
神経発達症遺伝学分野 教授	山川和弘
共同研究教育センター 病院教授	鈴木伸宏

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	26	月	3	ヒトゲノムの多様性と変異・疾患	齊藤伸治
			4	ヒトゲノムの多様性と変異・疾患	齊藤伸治
6	27	火	3	疾患の遺伝的背景・原因遺伝子	山川和弘
			4	疾患の遺伝的背景・原因遺伝子	山川和弘
6	29	木	3	遺伝カウンセリングと倫理的社会的課題	鈴木伸宏
			4	遺伝カウンセリングと倫理的社会的課題	鈴木伸宏

開講年度	2023年度
科目名	基本診療能力コース・救急救命
専門・教養	専門
担当教員	服部友紀・山岸庸太・宮崎ゆか・矢島つかさ・村上里奈
講義期間・曜日・時限	4月6, 13, 20, 27日(講義・実習)、5月19, 26日, 6月2, 9日(新一年生へのBLS指導) いつれの日も1, 2時限(午前)

授業目的・目標	授業目的；救急救命処置の学習を通じ、技能を修得する。医学生として必要な救急蘇生法・応急手当を修得する。新しく改定されたガイドライン2020に基づいた最新の1次救命処置(BLS)を指導するための知識、コミュニケーション能力を身につける 授業目標；BLSの修得と後輩への指導ができるようになること
キーワード	一次救命処置(BLS)、応急手当、災害医療、低体温症、インストラクション
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	1a, 1c, 2c, 2e, 4a, 4b, 4d
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 蘇生の必要な成人・小児・乳児に対して適切な一次救命処置を行うことができる 一般的な応急手当法を施すことができる 災害時に医学生としてできることを知る 一次救命処置を(新一年生に)指導することができる <p>【該当するモデルコアカリキュラム】 A-3-1) 全人的実践能力、A-4-1) コミュニケーション、A-7-1) 地域医療への貢献、 B-1-7) 地域医療・地域保健 B-4-1) 医師に求められる社会性、C-4-4) 循環障害・臓器不全、E-9) 人の死 F-3-6)-4) 基本的臨床主義・救命処置</p>
成績評価基準	秀：90点以上；学修到達目標を越えたレベルを達成している 優：80点以上；学修到達目標を十分に達成している 良：70点以上；学修到達目標を達成している 可：60点以上；学修到達目標を最低限達成している
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 1年次に学習した一次救命処置(BLS)実技を完全に修得する。 窒息者に対する気道の異物除去法や創傷処置など応急手当の方法を学習する。 医学生として災害時にすべきことを学習する。 医学部・薬学部・看護学部1年生へ一次救命処置(BLS)を指導する(ことを通じてBLSを深く学ぶ)。
授業計画	授業計画表(別資料)に記載
授業時間外の学修(準備学習を含む)	講義については特に予習の必要はないが、講義後に復習しCPR、応急手当を実践できるようになること 1年生へのBLS指導については、講義で学ぶ通り「人に教える」重要性を認識して、講義資料をしっかりと復習・修得して望むこと
成績評価方法	講義の参加とBLS動画の提出を持って合格とする(動画提出については変更の可能性あり)
教科書・テキスト	救急蘇生法の指針2020(市民用)(厚生労働省)、JRC蘇生ガイドライン2020
参考文献	追加資料は講義の際に配布
履修上の注意事項	節度ある態度で望むこと
履修者への要望事項	講義・実習について、遅刻欠席の場合には理由を付して連絡すること。
アクティブ・ラーニング	BLSの講義はシミュレーターを用いて行う。 BLS講義後にシナリオを付与するので行なったBLSを動画に収める 1年生へBLSについてインストラクションする
連絡先・オフィスアワー	担当教員：救急科 服部友紀(はっとりともり) 電話番号(外線)：052-851-5511 内線 4732 電子メール：thattori@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	第1回目の授業までに、1年次に学習したBLSの手順を十分に復習しておくこと。 BLSの一連の手順等についてビデオ撮影シファイル提出する(コロナ感染症の流行によっては中止となる可能性あり) 詳細は初回の講義の際に説明する
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第2学年・第3学年

救急救命ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 先進急性期医療学 教授	服部友紀
名古屋市立大学病院 災害医療センター長	山岸庸太
名古屋市立大学病院 助教	宮崎ゆか
名古屋市立大学病院 助教	矢島つかさ

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	6	木	1	一次救命処置（BLS）の重要性の理解と習得	服部友紀
			2	小児・乳児のBLS	宮崎ゆか
4	13	木	1	医学生として知っておくべき応急手当	矢島つかさ
			2	医学生として知っておくべき応急手当	矢島つかさ
4	20	木	1	BLS・応急手当（実習）	宮崎・矢島
			2	BLS・応急手当（実習）	宮崎・矢島
4	27	木	1	災害現場での実際の医療活動について	山岸庸太
			2	災害時に医学生としてどう行動すべきか	山岸庸太
5	19	金	1-2	医学部・薬学部・看護学部1年生に対するBLS指導	服部・宮崎・矢島
5	26	金	1-2	医学部・薬学部・看護学部1年生に対するBLS指導	服部・宮崎・矢島
6	2	金	1-2	医学部・薬学部・看護学部1年生に対するBLS指導	服部・宮崎・矢島
6	9	金	1-2	医学部・薬学部・看護学部1年生に対するBLS指導	服部・宮崎・矢島

開講年度	2023年度
科目名	総合医学コース・水平統合病態ユニット
専門・教養	専門
担当教員	細菌学分野 教授 長谷川忠男、ウイルス学分野 教授 奥野友介、臨床病態病理学分野 教授 稲垣 宏、実験病態病理学分野 教授 高橋 智、薬理学分野 教授 大矢 進、法医学分野 教授 青木康博、神経毒性学分野 教授 酒々井真澄、免疫学分野 教授 山崎小百合、
講義期間・曜日・時限	2023年6月19日(月)～7月7日(水)
授業目的・目標	感染・免疫、臓器障害の二つのテーマについて基礎医学を中心とする立場から授業を行う。
キーワード	臓器障害、中毒、感染、免疫、薬剤、ゲノム、遺伝子
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅰ-a, b, c, d、Ⅱ-d, e、Ⅲ-a, b, c、Ⅳ-a, b, d
学習到達目標	1. 臨床基礎医学の知識をもとに、先端的な医学研究について理解する。 2. それぞれの研究における課題を説明できる。 3. 研究の持つ臨床応用の可能性について説明できる。 【該当するモデルコアカリ】 C-3-1) 生体と微生物, C-3-2) 免疫と生体防御, C-3-3) 生体と薬物, C-4-6) 腫瘍
成績評価基準	秀:学修到達目標を越えたレベルを達成している 優:学修到達目標を十分に達成している 良:学修到達目標を達成している 可:学修到達目標を最低限達成している
授業概要	臨床医学と関連の深い基礎医学(臨床基礎分野)の理解がほぼ終了した者を対象に、各領域でのトピックスもしくは研究の最前線となっている事について講義を行う。これにより、それぞれの領域が密接に関連していることや、狭い領域にとらわれない幅広い知識・思考が現在の医学を理解する上で重要であることを学ぶ。
授業計画	8分野の講師による講義
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、これまでの基礎の講義を復習の上講義に臨むこと。 授業内容をテキストや参考図書を参考にして復習しておくこと。
成績評価方法	レポート、小テスト、授業態度などにより判定する
教科書・テキスト	講義担当教員の所属する分野が推奨するテキストなど
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	
連絡先・オフィスアワー	担当教員 : 細菌学分野 長谷川忠男(医学部研究棟9階) 電話番号(外線): 052-853-8166(内線: 8164) 電子メール : tadaoh@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー : 月曜日～金曜日
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	これまでの基礎の講義と異なる観点からの授業ですので、今後の臨床医学の講義の理解が深まると思います。
関連URL	

水平統合病態ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
細菌学分野 教授	長谷川忠男
ウイルス学分野 教授	奥野友介
臨床病態病理学分野 教授	稲垣 宏
免疫学分野 教授	山崎小百合
神経毒性学分野 教授	酒々井真澄
実験病態病理学分野 教授	高橋 智
薬理学分野 教授	大矢 進
法医学分野 教授	青木康博

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	19	月	3	感染・免疫 ① 細菌学	長谷川忠男
			4	感染・免疫 ② 臨床病態病理学	稲垣 宏
6	20	火	3	感染・免疫 ③ ウイルス学	奥野友介
			4	感染・免疫 ④ 免疫学	山崎小百合
6	28	水	3	予備	
			4	予備	
7	4	火	3	臓器障害－副作用と毒性－①	高橋 智
			4	臓器障害－副作用と毒性－②	酒々井真澄
7	5	水	3	臓器障害－副作用と毒性－③ 中毒病態へ法医学的アプローチ	青木康博
			4	臓器障害－副作用と毒性－④	大矢 進
7	7	金	1	予備	
			2	予備	

(4) 臨床医学 (3 年次 1 月~4 年次 12 月)

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・血液・造血器・リンパ系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	飯田真介 小松弘和 楠本茂 李政樹 成田朋子 鈴木智貴 亀井美智 正木彩子 木下史緒理 伊藤康彦 金森貴之 非常勤講師：松下 正
講義期間・曜日・時限	セメスター4 (2023/9/6～2023/10/19)

授業目的・目標	血液・リンパ系疾患患者の診療に必要な基本的知識や集学的治療の重要性を理解するために(目的)、血液・リンパ系疾患の疫学、病態、診断学、標準的治療法に関する基礎的知識を習得する(目標)。さらに血液疾患の学習を通して、新しい分子標的治療、再生医療等、先端医療における臨床応用についての理解を深める(目標)。
キーワード	貧血、リンパ節腫大、発熱(不明熱)、造血器腫瘍、分子標的療法
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	I a, I b, I c, II a, III a, IV a
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 血液・リンパ系器官の解剖と細胞の形態学的特徴を説明できる。 血液・リンパ系器官の正常機能と病的異常の概論を説明できる。 血液・リンパ系疾患の(分子)病態や遺伝・環境要因についての概要を説明できる。 造血幹細胞の分化・機能について説明できる。 造血器腫瘍の病理診断、遺伝子診断の特徴とその限界について説明できる。 造血器腫瘍に対する化学療法の基本理論、作用機序、主な副作用と支持療法を説明できる。 血液・リンパ系疾患に対する分子標的療法の特徴、種類、開発法について説明できる。 造血細胞移植療法の理論と適応、実際について説明できる。 出血性疾患・血栓性疾患の病態、診断、治療について説明できる。 貧血の定義、病態、主要疾患についての診断、治療について説明できる。 急性白血病、慢性白血病の違いを形態、分子機構、治療法の観点から説明できる。 骨髄増殖性疾患の分類と分子機序、及び診断、治療、予後について説明できる。 悪性リンパ腫の分子機序及び治療法につき、病理学及び病期分類に基づいて説明できる。 多発性骨髄腫の診断、治療、さらには最近の分子標的治療の進歩について説明できる。 小児の血液疾患・腫瘍性疾患の病態を理解し、治療法と予後について説明できる。 <p>【該当するモデルコアリ：D-1, F-1-1, F-1-26, F-1-27】”</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上(学修到達目標を越えたレベルを達成している)</p> <p>優：80点以上(学修到達目標を十分に達成している)</p> <p>良：70点以上(学修到達目標を達成している)</p> <p>可：60点以上(学修到達目標を最低限達成している)</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 造血幹細胞分化とサイトカイン、細胞表面抗原解析 先天性血栓傾向と播種性血管内凝固症候群 血友病と類縁疾患 血小板減少症(ITP/TTP)と機能異常症 鉄欠乏性貧血・二次性貧血と巨赤芽球性貧血 溶血性貧血と造血不全 血液像・骨髄像の見方 小児血液・腫瘍(1) 小児血液・腫瘍(2) 急性白血病 骨髄異形成症候群 骨髄増殖性疾患・慢性骨髄性白血病 悪性リンパ腫(成人T細胞性白血病リンパ腫を含む) 形質細胞腫瘍 造血幹細胞移植療法 造血器疾患合併感染症
授業計画	血液・造血器・リンパ系授業予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、教科書(参考文献)の該当箇所を予習した上で、講義に望むこと
成績評価方法	セメスター試験(80)点満点、アクティブラーニング(発表10、参加態度10、計20)点満点 本試は以上2項目の合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。 再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。”
教科書・テキスト	カラーテキスト血液病学 第2版 中外医学社 造血器腫瘍アトラス 改訂第5版 日本医事新報社 Up To Date (https://www.uptodate.com/contents/search) Wintrobe's Clinical Hematology WHO Classification Tumours of Haematopoietic and Lymphoid Tissues (IARC) ”
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。 小児血液・腫瘍学(日本小児血液・がん学会編)診断と治療社
履修上の注意事項	連絡のない遅刻・欠席をしないこと。
履修者への要望事項	アクティブ・ラーニングまでに、貧血、リンパ節腫大、発熱(不明熱)の鑑別診断に関する基礎知識を予習しておくことが望ましい。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	電話番号(外線)：052-853-8738 内線は8738(血液・腫瘍内科学医局) 電子メール：bloodsec@med.nagoya-cu.ac.jp(血液・腫瘍内科学医局) オフィスアワー：月曜から金曜 AM9～PM5
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	

血液・造血器・リンパ系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名	所属・職名	氏名
血液・腫瘍内科学 教授	飯田真介	新生児・小児医学 助教	亀井美智
臨床腫瘍部 教授	小松弘和	臨床病態病理学 准教授	正木彩子
血液・腫瘍内科学 准教授	楠本 茂	西部医療センター小児科 教授	伊藤康彦
輸血・細胞療法部 講師	李 政樹	西部医療センター血液・腫瘍内科 助教	金森貴之
血液・腫瘍内科学 講師	成田朋子	外来講師(名古屋大学)	松下 正
血液・腫瘍内科学 助教	鈴木智貴		
臨床腫瘍部 助教	木下史緒理		

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
9	6	水	1	鉄欠乏性・二次性貧血と巨赤芽球性貧血	小松弘和
9	6	水	2	血友病と類縁疾患	伊藤康彦
9	6	水	3	悪性リンパ腫(成人T細胞性白血病リンパ腫を含む)	楠本 茂
9	6	水	4	急性白血病	成田朋子
9	13	水	1	血小板減少症(ITP/TTP)と機能異常症	李 政樹
9	13	水	2	小児血液・腫瘍(小児血液疾患①)	亀井美智
9	13	水	3	造血幹細胞移植療法	李 政樹
9	13	水	4	造血器疾患合併感染症	木下 史緒理
9	27	水	1	溶血性貧血と造血不全	鈴木智貴
9	27	水	2	小児血液・腫瘍(小児血液疾患②)	亀井美智
9	27	水	3	骨髄異形成症候群	金森 貴之
9	27	水	4	骨髄増殖性疾患・慢性骨髄性白血病	成田朋子
10	4	水	1	造血幹細胞分化とサイトカイン、細胞表面抗原解析	正木彩子
10	4	水	3	Active Learning	鈴木・他1名
10	4	水	4	Active Learning	鈴木・他1名
10	5	木	1	形質細胞腫瘍	飯田真介
10	5	木	2	血液像・骨髄像の見方	飯田真介
10	19	木	2	先天性血栓傾向と播種性血管内凝固症候群	松下 正

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・神経系ユニット（神経内科学）
専門・教養	専門
担当教員	松川則之、大村真弘、大喜多賢治、川嶋将司、水野将行、藤岡哲平、佐藤豊大 （非常勤講師）望月秀樹、加藤大輔
講義期間・曜日・時限	セメスター3（2023/2/28～2023/5/25）、火・水・木曜日、1・2限目

授業目的・目標	<p>【授業目的】 本コースでは中枢神経疾患、末梢神経疾患、骨格筋疾患の診断と治療を習得するため、その理解に必要な神経系の解剖学、生理学、病理学、薬理学などの基礎医学領域を復習しながら概説する。</p> <p>【授業目標】 各疾患の病態を理解した上で、診断と治療に至る流れを習得してもらう。</p>
キーワード	神経診察、高位診断、脳血管障害、神経変性疾患
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域1a, 1d, 2b, 2c, 4d
学習到達目標	<p>【学習到達目標】 神経系の解剖、生理、機能について説明できる。 神経症候から病巣を推定することができ、その理由を説明できる。 神経系の病態（炎症、血管障害、変性など）について説明できる。 神経系の検査の適応、意義、結果の解釈について説明できる。 神経内科疾患の診断、病態生理、治療について説明できる。</p> <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-2 神経系、F-1-8 けいれん、F-1-19 嚥下困難・障害、F-1-32 もの忘れ F-1-33 頭痛、F-1-34 運動麻痺・筋力低下、F-3-5 神経、G-4-4（10）腰椎穿刺</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系総論 2. 脳血管障害（虚血性、出血性） 3. 神経変性疾患（認知症、脊髄小脳変性症、パーキンソン症候群、運動ニューロン病） 4. 機能的疾患（てんかん、頭痛） 5. 筋疾患・末梢神経疾患・脊髄疾患 6. 脱髄疾患（中枢、末梢） 7. 神経系代謝性疾患・中毒
授業計画	<p>神経系コース（神経内科）授業計画表を参照。 神経系コース46時限の23時限分を神経内科が担当。 理解を深めるための小テストを、講義中と終わりに行い、提出する。 アクティブラーニングとして、3回のグループ発表も予定。（ただしweb講義の場合は中止）</p>
授業時間外の学修（準備学習を含む）	講義後に該当領域を教科書などで復習、再確認しておくこと。
成績評価方法	<p>講義ごと小テスト結果、アクティブラーニングの発表内容とその取り組み・参加態度を評価する。 評価配分は、セメスター試験80%、小テスト・アクティブラーニングを20%とする。</p>
教科書・テキスト	<p>「病気がみえる7 脳・神経」 MEDIC MEDIA 「ベッドサイドの神経の診かた」 田崎義昭、斎藤佳雄編 南山堂</p>
参考文献	<p>「神経内科ハンドブック」 水野美邦編 医学書院</p>
履修上の注意事項	講義途中での入退室は原則認めない。
履修者への要望事項	基礎医学で学んだ神経解剖学、神経生理学の教科書を適宜見直すと理解しやすい。
アクティブ・ラーニング	<p>事前に提示された課題をグループごとに調べて発表する。 （グループワークとプレゼンテーション） 計3回を予定、ただしweb講義の場合は行わない。</p>
連絡先・オフィスアワー	<p>担当教員 : 大喜多賢治 電話番号（外線） : 052-853-8094（神経内科医局、平日9時～17時） 電子メール : shinkei@med.nagoya-cu.ac.jp ※原則としてメールで連絡してください。</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	http://ncu-shinkeinaika.jp

神経系ユニット（脳神経内科） 担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 神経内科学教授	松川 則之
医学研究科 神経内科学講師	大村 眞弘
医学研究科 神経内科学講師	大喜多 賢治
医学研究科 神経内科学助教	川嶋 将司
医学研究科 神経内科学助教	水野 将行
医学研究科 神経内科学助教	藤岡 哲平
医学研究科 神経内科学病院助教	佐藤 豊大
名古屋大学医学研究科 分子細胞学助教	加藤 大輔
大阪大学大学院医学系研究科・医学部 情報統合医学講座 神経内科学教授	望月 秀樹

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
2	28	火	1	神経機能解剖学と症候学（1）	松川 則之
			2	神経機能解剖学と症候学（2）	松川 則之
3	7	火	1	神経系の検査法（1）	小テスト提出 大喜多 賢治
			2	神経系の検査法（2）	小テスト提出 大喜多 賢治
	14	火	1	虚血性脳血管障害	大村 眞弘
			2	出血性脳血管障害	大村 眞弘
4	4	火	1	脳血管内治療	課題の発表 大村 眞弘
			2	アルツハイマー型認知症	松川 則之
	5	水	1	運動ニューロン病	小テスト提出 大喜多 賢治
			2	脊髄疾患	水野 将行
	6	木	1	パーキンソン病	川嶋 将司
			2	脱髄性疾患	藤岡 哲平
	11	火	1	神経系の代謝・中毒疾患	水野 将行
			2	その他の認知症	課題の発表 松川 則之
	12	水	1	末梢神経・自律神経疾患	佐藤 豊大
			2	機能的疾患（頭痛、てんかん）	小テスト提出 大喜多 賢治
	13	木	1	パーキンソン症候群	課題の発表 藤岡 哲平
			2	脊髄小脳変性症	川嶋 将司
	18	火	1	生体イメージングで明らかにする神経内科疾患の病態	加藤 大輔
	19	水	1	意識障害	小テスト提出 大喜多 賢治
			2	筋疾患	佐藤 豊大
	20	木	1	高次脳機能障害・復習	小テスト提出 大喜多 賢治
2			「特別講義」	望月 秀樹	

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・神経系ユニット（脳神経外科）
専門・教養	専門
担当教員	間瀬 光人、片野 広之、谷川 元紀、山田茂樹、岡 雄一、西川 祐介、内田充、山中 智康 非常勤講師：大蔵 篤彦
講義期間・曜日・時限	セメスター2 神経20, 25～46

授業目的・目標	本コースでは中枢神経疾患、末梢神経疾患、骨格筋疾患の診断・治療およびその理解に必要な神経解剖学、神経生理学、神経病理学、神経薬理学、神経化学などの基礎知識についても復習しながら学んでもらう。これらの疾患について、主に脳神経外科的視点から解説する。自己学習の時間も設けて、自ら疑問に思ったことを自ら調べ、科学的に多角的に判断する姿勢を身につける。
キーワード	脳、脊髄、血管、腫瘍、小児
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域 I a、II b
学習到達目標	神経系の解剖、生理、機能について説明できる。 神経症候から病巣を推定することができ、その理由を説明できる。 神経系の病態（炎症、血管障害、腫瘍、変性など）について説明できる。 神経系の検査の適応、意義、結果の解釈について説明できる。 脳神経外科疾患の診断、病態生理、手術適応、手術法について説明できる。 【該当するモデルコアカリキュラム】 A-2-2学修の在り方、B-1-5生活習慣とリスク、C-4-2細胞障害・変性と細胞死、C-4-3代謝障害、C-4-4循環障害、臓器不全、C-4-5炎症と創傷治癒、C-4-6腫瘍、F-1-33 頭痛、D-2神経系
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	中枢神経疾患、末梢神経疾患、骨格筋疾患の診断・治療およびその理解に必要な神経解剖学、神経生理学、神経病理学、神経薬理学、神経化学などの基礎知識をもとに、主に脳神経外科的視点から解説する。
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
成績評価方法	セメスター試験 90点満点 + アクティブラーニング 10点満点 (アクティブラーニングは、発表・参加態度を参考とする)
教科書・テキスト	ニュースタンダード脳神経外科学 第3版 三輪書店 標準脳神経外科学 第14版 医学書院 脳卒中治療ガイドライン2015 協和企画 ベッドサイドの神経の診かた 第18版 南山堂
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献など
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	1つの講義に1班5名程度の学生を割り当て、1班ずつ試験問題と解説を作成する 作成した試験問題は、専用のメールアドレス (nsbsl@med.nagoya-cu.ac.jp)宛にWORD文書またはテキストファイルに入力したものを添付して送信する。 講義の最終日に学生が作成した問題で試験を行い、学生が1班1問ずつ回答と解説を発表する。 注1 この学生が作成する問題はセメスター試験の問題とは異なるものである。 注2 脳神経内科の講義内容は学生が試験問題を作成する範囲に含まれません。
連絡先・オフィスアワー	担当教員 : 脳神経外科 医局長 西川祐介（常時） 電話番号（外線）：052-853-8286 脳神経外科代表 電子メール : ncunoge@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	https://noge.med.nagoya-cu.ac.jp

神経系ユニット（脳神経外科） 担当教員

所属・職名	氏名
脳神経外科 教授	間瀬光人
医学・医療情報学 准教授	片野広之
脳神経外科 講師	谷川元紀
脳神経外科 外部講師（名古屋市立大学医学部附属西部医療センター）	大蔵篤彦
脳神経外科 講師	山田茂樹
脳神経外科 病院講師	岡 雄一
脳神経外科 助教	西川祐介
脳神経外科 助教	内田充
脳神経外科 助教	山中智康
脳神経外科 病院助教	藤浪亮太

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	18	火	2	脳神経外科オリエンテーション 脳循環代謝・脳浮腫、頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア	間瀬光人
4	25	火	1	くも膜下出血・脳動脈瘤	内田充
4	25	火	2	脳血管内治療 硬膜動静脈瘻・静脈洞血栓症	間瀬光人
4	26	水	1	水頭症（小児）	片野広之
4	26	水	2	水頭症（成人）	山田茂樹
4	27	木	1	脳虚血の外科（1）（頸動脈病変・EC-ICバイパス）	片野広之
4	27	木	2	脳虚血の外科（2）（もやもや病など）	西川祐介
4	27	木	3	脳虚血の外科（3）（血栓回収療法）	西川祐介
4	27	木	4	脳出血の外科（高血圧性脳出血、脳動静脈奇形、海綿状血管腫など）	西川祐介
5	9	火	1	小児脳神経外科（中枢神経の発達と奇形）	片野広之
5	9	火	2	脳腫瘍総論	谷川元紀
5	10	水	1	神経上皮系腫瘍（1）（神経膠腫など）	坂田知宏
5	10	水	2	神経上皮系腫瘍（2）（胎児性腫瘍など）	坂田知宏
5	11	木	1	間葉系腫瘍・末梢神経腫瘍	谷川元紀
5	11	木	2	傍鞍部腫瘍	谷川元紀
5	16	火	1	松果体部腫瘍（胚細胞腫瘍など）	谷川元紀
5	16	火	2	頭部外傷	山中智康
5	17	水	1	転移性脳腫瘍・悪性リンパ腫など	藤浪亮太
5	17	水	2	パーキンソン病の外科	岡 雄一
5	18	木	1	脊椎椎間板障害	大蔵篤彦
5	18	木	2	脊髄腫瘍・脊髄血管奇形・脊髄外傷・ITB療法	大蔵篤彦
5	25	木	1	機能的疾患の外科（神経圧迫症候群、てんかん、不随意運動）	岡 雄一
5	25	木	2	学生による模擬試験と解説	間瀬光人

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・皮膚系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	森田、鳥山、加藤、中村、井汲、榎原（非常勤医師）、澤田（非常勤講師）、西尾（非常勤講師）、西田（非常勤講師）、古橋（非常勤医師）
講義期間・曜日・時限	セメスター4（2023/8/31～2023/10/2）（月曜3～4限、木曜1～2限、金曜1～2限）

授業目的・目標	皮膚科学は単なる皮膚に原因する疾患を対象とするだけの学問ではなく、身体他の部分からの異常を背景として生じる疾患をも含む広い範囲を追求する科学である。したがって皮膚コースではいわゆる「皮膚病」を学ぶのではなく、皮膚に生じた変化を全身を基盤としてどのように考えて行くか（目標）、実際的には皮膚に起こっている変化（皮疹のみかた）を正確にとらえ、その原因をどのように追求していくか、どのような検査を行うべきか、その結果どのような背景を考えるべきか、治療はどのようにして行くべきか、などの考え方を深める。
キーワード	皮膚の組織構造、皮膚検査法、湿疹・皮膚炎、治療
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域Ⅱb, c及び領域Ⅳd
学習到達目標	皮膚の構造と機能を理解する(C-2-2, E-8)。 皮膚の検査の基本を理解し、説明できる(D-3, F-2-4)。 皮膚の疾患の各論に関して理解して、重要なポイントを説明できる(D-3, F-1-12, F-1-37)。 皮膚疾患の治療の考え方を理解し、基本的な治療方法を説明できる(C-4-5, C-4-6, D-3, F-2-9, 一般手技2), 3), 外科手技1)-6)。
成績評価基準	秀：90点以上 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	（講義要目） 皮膚の組織構造・細胞・生理 皮膚検査法・皮膚アレルギー検査法・微生物検査法 湿疹・皮膚炎 皮疹からみた膠原病 蕁麻疹、薬疹、紅斑症 感染症 皮膚良性腫瘍・悪性腫瘍 水疱症 炎症性角化症・角化症 潰瘍治療
授業計画	担当教員・講義予定表を参照（各講義において実習形式や実際の検査用機械などに触れる体験を行う）
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	セメスター試験
教科書・テキスト	チャート式カラー皮膚科（医学評論社）、あたらしい皮膚科学（中山書店）、皮膚病アトラス
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	担当教員：森田明理 電話番号（外線）：052-853-8261 電子メール：amorita@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー：月曜、木曜 午前（事前に連絡すること）
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

皮膚系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
加齢環境皮膚科・教授	森田明理
形成外科・教授	鳥山和宏
加齢環境皮膚科・准教授	加藤裕史
加齢環境皮膚科・講師	中村元樹
加齢環境皮膚科・助教	井汲今日子
市立西部医療センター・臨床教授（非常勤講師）	澤田啓生
旭ろうさい病院・部長（非常勤講師）	榊原代幸
豊川市民病院・部長（非常勤講師）	西尾栄一
岡崎市民病院・統括部長（非常勤講師）	西田絵美
春日井市民病院・医長（非常勤講師）	古橋卓也

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
8	31	木	1	皮膚の組織構造・細胞・生理	森田
8	31	木	2	皮膚検査法・皮膚アレルギー検査法・微生物検査法	森田
9	4	月	3	光線治療・レーザー治療	森田
9	4	月	4	皮疹からみた膠原病	森田
9	7	木	1	蕁麻疹・薬疹・紅斑症・紅皮症・皮膚免疫	西尾（非常勤講師）
9	7	木	2	皮膚良性腫瘍・母斑・母斑症	古橋（非常勤講師）
9	11	月	3	皮膚形成外科	鳥山
9	11	月	4	紫斑・血流障害・血管炎	榊原（非常勤講師）
9	14	木	1	水疱症・膿疱症	森田
9	14	木	2	乾癬と角化症	森田
9	25	月	3	皮膚症状から考える皮膚科疾患への治療アプローチ	井汲
9	25	月	4	湿疹・皮膚炎	澤田（非常勤講師）
9	28	木	1	感染症1 梅毒・性病・HIV感染症・動物性皮膚疾患	中村
9	28	木	2	感染症2 細菌感染症・ウイルス感染症・皮膚結核	加藤
9	29	金	1	褥瘡・熱傷治療、潰瘍治療	加藤
9	29	金	2	皮膚悪性腫瘍（上皮系・メラノーマ）	加藤
10	2	月	3	皮膚のリンパ腫・皮膚間葉系腫瘍	井汲
10	2	月	4	感染症3 色素異常・皮膚形成異常・代謝異常表在性・深在性真菌症・ハンセン病	西田（非常勤講師）

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・運動器系/リハビリテーションユニット
専門・教養	専門
担当教員	整形外科：村上英樹、岡本秀貴、鈴木伸幸、野崎正浩、木村浩明、吉田雅人(運動器スポーツ先進医学寄附講座)、加藤賢治、武長徹也、川口洋平、河 命守、八木 清、福島裕晃、武田真輔(緑市民病院) リハビリテーション：植木美乃、黒柳 元、村上里奈、松原弘記、青山公紀 非常勤講師：和田郁雄、多和田 忍
講義期間・曜日・時限	セメスター4 (2023/8/29～2022/10/4)、月・火曜日、1～2限目

授業目的・目標	【授業目的と目標】 骨、軟骨、筋肉および靭帯など、運動器系の正常構造と機能を理解し、主な運動器疾患の原因、症候、診断と治療について学び、臨床実習に必要な基礎知識を習得する。 リハビリテーションの基本について学ぶ。
キーワード	スポーツ整形、外傷、関節疾患、脊椎疾患、骨軟部腫瘍、小児整形、手の外科、リハビリ
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	Ia, Ic, IIb, IIc, IIIb, IIIc, IVb, IVd
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 骨折、関節脱臼やスポーツ障害の診断や治療について理解する。 2. 先天性股関節脱臼など小児に特有の疾患や先天異常について理解する。 3. 関節リウマチや変形性関節症など各種関節疾患の原因、診断、治療について理解する。 4. 腰椎椎間板ヘルニア、頸椎症性脊髄症や脊髄損傷など脊椎の疾患や外傷について理解する。 5. 四肢の絞扼性神経障害について理解する。 6. 骨粗鬆症の病態とそれに伴う障害について理解する。 7. リハビリテーションの概念と適応を理解する。 8. リハビリテーション・チームの構成を理解し、医師の役割を説明できる。 9. 理学療法、作業療法と言語聴覚療法を概説できる。 10. 主な歩行補助具、車椅子、義肢(義手、義足)と装具を概説できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-2) 医学知識と問題対応能力、A-3) 診療技能と患者ケア、A-6) 医療の質と安全管理、A-5-1) 患者中心のチーム医療、B-1-4) 疫学と予防医学、B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度、C-2-2) 組織・各臓器の構成、機能と位置関係、C-4-6) 腫瘍、D-4) 運動器(筋骨格)系、E-7) 成長と発達、F-1-34) 運動麻痺・筋力低下、F-1-35) 腰部疼痛、F-1-36) 関節痛・関節腫脹、F-1-37) 外傷・熱傷、F-2-14) リハビリテーション
成績評価基準	秀：90点以上(学修到達目標を越えたレベルを達成している) 優：80点以上(学修到達目標を十分に達成している) 良：70点以上(学修到達目標を達成している) 可：60点以上(学修到達目標を最低限達成している)
授業概要	1. リハビリテーション総論 2. 摂食嚥下障害のリハビリテーション 3. 小児のリハビリテーション 4. 運動器・内部障害のリハビリテーション 5. 義肢・装具とリハビリテーション 6. 中枢神経のリハビリテーション 7. 整形外科総論 8. 救急外傷(骨折、脱臼、捻挫) 9. 骨粗鬆症 10. 頸椎、腰椎疾患、脊柱変形 11. 骨軟部腫瘍 12. 小児整形外科 13. 脊椎・脊髄の外傷、スポーツ障害 14. 感染性疾患 15. 手の外科、末梢神経障害 16. 膝の変性疾患 17. 膝のスポーツ障害 18. 肩・肘のスポーツ障害 19. 関節リウマチ 20. 股関節疾患
授業計画	2023年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、参考文献や事前配布資料などで予習した上で、講義に臨むこと。授業後は、講義資料を用いて復習し、内容の習得に努めること。
成績評価方法	本試はセメスター試験のみで、合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。 ※再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。 アクティブラーニングについては参考とし、成績には加味しない。
教科書・テキスト	なし
参考文献	病気がみえるvol.11 運動器・整形外科 医療情報科学研究所編集, メディックメディア ¥4,180 標準整形外科学 井樋 栄二著, 医学書院 ¥10,340 標準リハビリテーション医学 津山直一監修, 医学書院 ¥7,480
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	「小児のリハビリテーション」では対話型授業を行う予定です。
連絡先・オフィスアワー	担当教員 : 吉田雅人(整形外科)、村上里奈(リハビリテーション医学) 電話番号(外線) : 整形外科医局(研究棟6階) 052-853-8236 リハビリテーション医学医局(研究棟2階) 052-853-8733 電子メール : 整形外科 : seikei@med.nagoya-cu.ac.jp リハビリテーション医学 : rehab@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー : 月～金 9:00～17:00
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	整形外科ホームページ https://www.ncu-ortho.jp/ リハビリテーション医学ホームページ https://ncu-rehab.jp/

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

運動器系・リハビリテーションユニット 担当教員

所属・職名	氏名
整形外科学分野 教授	村上英樹
整形外科学分野 准教授	岡本秀貴
整形外科学分野 講師	鈴木伸幸
整形外科学分野 講師	野崎正浩
整形外科学分野 講師	木村浩明
運動器スポーツ先進医学寄附講座 講師	吉田雅人
整形外科学分野 助教	加藤賢治
整形外科学分野 助教	武長徹也
整形外科学分野 助教	川口洋平
整形外科学分野 助教	河 命守
運動器スポーツ先進医学寄附講座 助教	八木 清
整形外科学分野 病院助教	福島裕晃
緑市民病院 整形外科学分野 准教授	武田真輔
リハビリテーション医学 教授	植木美乃
リハビリテーション医学 講師	黒柳 元
リハビリテーション医学 助教	村上里奈
リハビリテーション医学 助教	松原弘記
リハビリテーション医学 非常勤講師	和田郁雄
リハビリテーション医学 非常勤講師	多和田忍
名古屋市立大学医学部附属東部医療センターリハビリテーション科 講師	青山公紀

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
8	29	火	1	リハビリテーション総論	植木美乃
8	29	火	2	摂食嚥下障害のリハビリテーション	松原弘記
9	4	月	1	小児のリハビリテーション	多和田忍
9	4	月	2	運動器・内部障害のリハビリテーション	村上里奈
9	5	火	1	中枢神経のリハビリテーション	植木美乃
9	5	火	2	義肢・装具とリハビリテーション	和田郁雄
9	11	月	1	整形外科総論	村上英樹
9	11	月	2	救急外傷（骨折、脱臼、捻挫）	武田真輔
9	12	火	1	骨粗鬆症	鈴木伸幸
9	12	火	2	頚椎疾患、腰椎疾患、脊柱変形	加藤賢治
9	19	火	1	骨軟部腫瘍	木村浩明
9	19	火	2	小児整形外科	河 命守
9	25	月	1	脊椎・脊髄の外傷、スポーツ障害	八木 清
9	25	月	2	肩・肘の変性疾患	武長徹也
9	26	火	1	手の外科、末梢神経障害	岡本秀貴
9	26	火	2	膝の変性疾患	福島裕晃
10	2	月	1	膝のスポーツ障害	野崎正浩
10	2	月	2	肩・肘のスポーツ障害	吉田雅人
10	3	火	1	関節リウマチ	川口洋平
10	3	火	2	股関節疾患	黒柳 元

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床実習コース・循環器内科ユニット
専門・教養	専門
担当教員	学内：瀬尾由広、後藤利彦、北田修一、伊藤 剛、村井俊介、菊池祥平(中央臨床検査部)、横井雅史、山本惇貴、河田侑、新谷康広、溝口達也、森賢人 学外：東部医療センター/西部医療センター/豊川市民病院/蒲都市市民病院の指導医資格を有する教育担当臨床教員
講義期間・曜日・時限	セメスター1 (2022年1月4日～2022年2月21日) 月・水・木曜日：1・2・3・4時限)

授業目的・目標	【目的】小児から成人に至る多様な循環器疾患や循環動態を理解し、基礎的な臨床能力を養成する。 【目標】循環器に関わる生理・解剖・病理・薬理の知識を習得し、疾患の診断技術と検査結果の評価について学習し、薬物や手術などによる基本的治療戦略への理解を深め、演習などを通して臨床実習の準備を行う。
キーワード	循環器、心臓、血管、成人、小児
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 Ia, Ib, Ic, Id, IIb, IIc, II d
学習到達目標	1. 生理学、解剖学、生化学の基礎知識を再学習し、循環器疾患が理解できる (Ia, Ib)。 2. 心不全や循環不全の原因を列挙し、諸検査から循環を評価できる (Ia, Ib)。 3. 心電図を理解し、心電図の記録ならびに不整脈や病態を診断できる (Ia, IIb, IIc)。 4. 発生学や構築学の見地から先天性心疾患を理解し、手術法が選択できる (Ia, Ib, IIb)。 5. 弁膜疾患の病態を理解し、内科と外科による治療の選択と評価ができる (Ia, Ib, IIb)。 6. 虚血性心疾患を理解し、適切な治療戦略が選択できる (Ia, Ib, IIb)。 7. 動脈硬化の成因と病態を理解し、各種疾患の治療法を列挙し選択できる (Ia, Ib, IIb)。 8. 血圧異常の病態を理解し、多様な治療法について説明できる (Ia, Ib, IIc)。 9. 心筋疾患、心膜疾患、心臓腫瘍について理解できる (Ia, Ib, IIb)。 10. 循環器疾患を急性期と慢性期から捉え、治療法を説明できる (Ib, Ic, Id, II d)。 11. 循環器疾患と生活習慣の関連を学び、予防法と指導内容を説明できる (Ib, Ic, Id, II d)。 【該当するモデルコアカリ】 B-1-5, C-4-4, D-5, F-1-10, F-1-11, F-1-16, F-1-17, F-1-18
成績評価基準	秀：90点以上 (学修到達目標を越えたレベルを達成している) 優：80点以上 (学修到達目標を十分に達成している) 良：70点以上 (学修到達目標を達成している) 可：60点以上 (学修到達目標を最低限達成している)
授業概要	本科目は小児と成人の循環器疾患に対する内科的、外科的な立場からの講義と心電図診断など演習からなる。多様な循環器疾患の病態生理、心機能・循環動態を学び治療戦略を考察する。
授業計画	2023年度担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	講義・演習は2023年度循環器コース授業計画表に基づいて行う。授業時間外学習として、第1回授業までにM3病態生理の講義で配布した心機能・心電図に関する資料およびM3薬理学の講義で配布した心不全と不整脈・抗不整脈薬に関する資料を復習しておくこと。各講義毎にその日の復習すべき事項を明示するので次回講義までに確実に復習すること。
成績評価方法	セメスター試験 100点満点 本試験はセメスター試験のみで、合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。 再試験は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。 アクティブラーニングとその他項目については参考とし、成績には加味しない。
教科書・テキスト	日本循環器学会編：循環器病ガイドラインシリーズ (日本循環器学会ホームページ) Braunwald's Heart Disease 第11版 Mann/Zipes/Libby/Bonow編, Elsevier出版 図解心電図テキスト 村川祐二訳, 文光堂 ハーバード大学テキスト心臓病の病態生理 Leonard S. Lilly編、川名正敏他, MEDSi社 心不全治療に心エコーを活かす 瀬尾由広他著, MWDICAL VIEW社 臨床発達心臓病学 第3版 高尾篤良他編, 中外医学社 新心臓血管外科テキスト 安達秀雄他編, 中外医学社 心臓外科チームのための基本手術マニュアル 三石緒著, ヘルス出版
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	真摯な態度で取り組むこと。
アクティブ・ラーニング	レポート提出、ショートテスト、プレゼンテーションなどを取り入れた授業を行う。
連絡先・オフィスアワー	電話番号 (外線) : 052-853-8221 (内科)、052-853-8246 (小児科)、052-853-8099 (心臓血管外科) 電子メール : seo_sec@med.nagoya-cu.ac.jp (内科)、ped_sec@med.nagoya-cu.ac.jp (小児科)、herz@med.nagoya-cu.ac.jp (心臓血管外科) オフィスアワー : 月～金曜日 9:00～16:00 (医局秘書を通じて各講義の担当教員に連絡の事)
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	循環器内科ホームページ http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/inter3_dir/ 循環器病ガイドラインシリーズ https://www.j-circ.or.jp/guideline/guideline-series/

循環器系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名	所属・職名	氏名
循環器内科学 教授	瀬尾由広	心臓血管外科学 教授	須田久雄
循環器内科学 准教授 (東部)	山下純世	心臓血管外科学 講師	齋藤雄平
循環器内科学 講師	後藤利彦	心臓血管外科学 講師	板谷慶一
循環器内科学 講師	北田修一	心臓血管外科学 助教	山田敏之
循環器内科学 講師	伊藤 剛		
中央臨床検査部 助教	菊池祥平		
循環器内科学 助教	中須賀公亮	新生児 小児医学 助教	鈴木一孝
循環器内科学 助教	森 賢人	新生児 小児医学 助教	篠原 務
循環器内科学 助教	横井雅史		
循環器内科学 助教	山本惇貴		
循環器内科学 助教	溝口達也		
循環器内科学 助教	河田侑		

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	5	木	1	循環器内科症候論/心音・心雑音	瀬尾教授
	5	木	2	循環器外科学総論	須田教授
	12	木	1	心エコー・心臓核医学	菊池助教
	12	木	2	心電図・波形診断	中須賀助教
	16	月	3	心臓発生と先天性心疾患	鈴木助教
	16	月	4	臨床心機能	瀬尾教授
	19	木	1	心臓カテーテル検査・治療	横井助教
	19	木	2	不整脈(I) 頻脈性不整脈	中須賀助教
	23	月	3	胎児循環と先天性心疾患	鈴木助教
	23	月	4	急性心不全	北田講師
	25	水	1	高血圧の診断と治療	溝口助教
	25	水	2	不整脈(II) 徐脈性不整脈	後藤講師
	26	木	1	心房細動	中須賀助教
	26	木	2	慢性心不全	瀬尾教授
	30	月	3	僧帽弁疾患	河田助教
	30	月	4	大動脈弁疾患	瀬尾教授
2	1	水	1	不整脈デバイス治療	後藤講師
	1	水	2	動脈硬化の成因	山下准教授
	2	木	3	慢性冠動脈疾患	伊藤講師
	2	木	4	心電図波形・不整脈演習	森助教
	6	月	3	肺高血圧と右心不全	山本助教
	6	月	4	末梢閉塞性動脈疾患、静脈血栓塞栓症	伊藤講師
	9	木	3	急性冠症候群	伊藤講師
	9	木	4	小児先天性心疾患の外科	板谷講師
	13	月	1	小児の後天性心疾患 (川崎病・心筋症・肺高血圧)	篠原助教
	13	月	2	弁膜症の外科	齋藤講師
	13	月	3	二次性心筋症	北田講師
	13	月	4	虚血性心疾患の外科	山田助教
	16	木	3	成人先天性心疾患の外科	板谷講師
	16	木	4	心筋炎・特発性心筋症	北田講師
	20	月	1	心膜疾患	瀬尾教授
	20	月	2	感染性心内膜炎・心臓腫瘍	菊池助教
	20	月	3	末梢血管・静脈疾患の外科	齋藤講師
	20	月	4	大動脈瘤・大動脈解離の外科	須田教授

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・呼吸器系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	新実彰男、奥田勝裕、中村 敦、羽田裕司、伊藤 穂、前野 健、近藤知史、大久保仁嗣、横田圭右、立松 勉、田尻智子、上村剛大、福田悟史、金光禎寛、小田梨紗、加藤 晋、野村孝泰、中村龍二 非常勤講師：樋田豊明、横山多佳子、森山悟、加藤文典
講義期間・曜日・時限	

授業目的・目標	呼吸器疾患に対する理解を深め、これに対応できる能力を身につけるため、呼吸器疾患の病態、診断、治療、予防に関して学ぶ。
キーワード	呼吸器、肺、縦隔、感染症、アレルギー、腫瘍
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	I a, I b, I c, II b, III b
学習到達目標	代表的な呼吸器疾患の病態を理解する。 臨床データを基に診断ができる。 実例について内科的あるいは外科的な治療方針を説明できる。 呼吸器稀少疾患について説明できる。 環境要因、生活習慣による呼吸器疾患の予防について説明できる。 【該当するモデルコアカリ】D-6 呼吸器系、E-2 感染症、E-3 腫瘍、E-4 免疫・アレルギー、E-7 成長と発達
成績評価基準	マークシート試験 秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	呼吸器の機能と症候、呼吸器の検査、喘息、慢性閉塞性肺疾患、慢性咳嗽、肺癌、縦隔腫瘍、感染症、びまん性肺疾患、胸膜疾患、重症筋無力症、小児呼吸器疾患、小児呼吸器外科、胸部外傷、その他
授業計画	担当教員・講義予定表を参照。深い理解と効率的な知識習得のため、テキスト及び参考文献などで授業時間外に学習することをすすめる。 一部の授業においては、課題や症例が提示され、関連する臨床医学の情報を種々の手段で調べ診断と治療法を個々およびグループで見出す。その結果を発表し、討論しながら問題点を整理する形式で行われる。
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	セメスター試験（100）点満点 *セメスター試験が60点未満の場合、講義の参加態度を参考とする。
教科書・テキスト	新臨床内科学（医学書院）、ハリソン内科学 第4版 pp1805-1899（メディカル・サイエンス・インターナショナル）、フレイザー呼吸器病学エッセンス（西村書店）、呼吸器外科学（南山堂）、General Thoracic Surgery（Shields編、Lippincott Williams & Wilkins）、縦隔の外科-手術手技アトラス（南山堂）、呼吸器外科手術書（金芳堂）、肺癌診療ガイドライン（日本肺癌学会編）
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	講義中の私語、出入りは慎むこと
履修者への要望事項	講義中の私語、出入りは慎むこと
アクティブ・ラーニング	講師の先生の裁量でアクティブラーニングを行う。
連絡先・オフィスアワー	【呼吸器・免疫アレルギー内科学】 担当教員：新実彰男 電話番号（外線）：052-853-8216 電子メール：a.niimi@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー：月 13-14時（事前に連絡） 【呼吸器・小児外科学】 担当教員：奥田勝裕 電話番号（外線）：052-853-8231 電子メール：kokuda@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー：月 14-15時（事前に連絡）
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

呼吸器系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
呼吸器・免疫アレルギー内科学 教授	新実彰男
呼吸器・小児外科学 教授	奥田勝裕
臨床感染制御学 教授	中村 敦
名古屋市立大学医学部附属 西部医療センター 教授	羽田裕司
呼吸器・免疫アレルギー内科学 准教授	伊藤 稜
呼吸器・免疫アレルギー内科学 准教授	前野 健
呼吸器・小児外科学 病院准教授	近藤知史
呼吸器・免疫アレルギー内科学 講師	大久保仁嗣
呼吸器・小児外科学 講師	横田圭右
呼吸器・小児外科学 講師	立松 勉
呼吸器・免疫アレルギー内科学 助教	田尻智子
呼吸器・免疫アレルギー内科学 助教	上村剛大
呼吸器・免疫アレルギー内科学 助教	福田悟史
呼吸器・免疫アレルギー内科学 助教	金光禎寛
呼吸器・小児外科学 助教	小田梨紗
新生児・小児医学 助教	加藤 晋
新生児・小児医学 助教	野村孝泰
呼吸器・小児外科学 病院助教	中村龍二
非常勤講師(中部国際医療センター)	樋田豊明
非常勤講師(旭労災病院)	横山多佳子
非常勤講師(トヨタ記念病院)	森山 悟
非常勤講師(豊橋市民病院)	加藤文典

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	4	水	1	呼吸器疾患の診断と検査	上村剛大
1	4	水	2	肺癌(症候・診断)	上村剛大
1	4	水	3	縦隔(総論)	小田梨紗
1	4	水	4	呼吸器感染症(抗酸菌感染症以外)	中村敦
1	6	金	2	呼吸器疾患の特徴と魅力、総論・症候	新実彰男
1	6	金	3	気管支喘息	新実彰男
1	11	水	1	呼吸器外科手術前術中術後管理	横田圭右
1	11	水	2	びまん性肺疾患(総論)	福田悟史
1	11	水	3	縦隔(各論)	立松勉
1	11	水	4	小児呼吸器外科 中枢気道疾患	近藤知史
1	13	金	2	胸部エックス線・呼吸不全	前野健
1	13	金	3	じん肺と石綿(アスベスト)関連疾患	横山多佳子
1	18	水	1	新生児呼吸生理	加藤文典
1	18	水	2	新生児呼吸疾患	加藤文典
1	18	水	3	胸膜疾患(内科)	田尻 智子
1	18	水	4	小児呼吸器外科 末梢気道疾患	近藤知史
1	20	金	2	喘息以外のアレルギー性呼吸器疾患、COPD	新実彰男
1	20	金	3	肺癌(総論、疫学)	羽田裕司
1	24	火	4	気道疾患・喘息(小児)	野村孝泰
1	25	水	3	気管支拡張症・嚢胞性肺疾患	大久保仁嗣
1	25	水	4	びまん性肺疾患(各論)	金光禎寛
1	27	金	2	肺癌(化学療法)	樋田豊明
1	27	金	3		
2	3	金	2	胸部外傷(各論)	中村龍二
2	3	金	3		
2	9	木	1	肺実質、横隔膜疾患(小児)	加藤晋
2	10	金	2	肺癌外科治療1	奥田勝裕
2	10	金	3	肺癌外科治療2	奥田勝裕
2	16	木	1	抗酸菌感染症	伊藤稜
2	16	木	2	胸膜疾患(外科)	森山悟
2	17	金	2	肺癌に対する集学的治療(個別化治療)	奥田勝裕
2	17	金	3	慢性咳嗽	新実彰男

開講年度	2022年1月～2022年12月
科目名	臨床医学コース・消化器系・内視鏡ユニット
専門・教養	専門
担当教員	(内科)片岡洋望、谷田諭史、林 香月、藤原 圭、久保田英嗣、内藤 格、志村貴也、 松浦健太郎、尾関啓司、吉田道弘、田中 守 (外科)瀧口修司、松尾洋一、高橋広域、小川 了、森本 守、田中達也、志賀一慶、 佐川弘之、齊藤健太、大久保友貴、今藤裕之、牛込 創 (口腔外科)横井基夫、竹本 隆、 (次世代医療開発学)神谷 武、 (地域医療教育研究センター)野尻俊輔 (非常勤講師)中沢貴宏、祖父江聡
講義期間・曜日・時限	セメスター2 (3月3日～4月7日) 計30コマ

授業目的・目標	消化器系の解剖、機能を把握し、主要な消化器系疾患の病態生理、診断、治療を学び、臨床実習に必要な基礎的知識を習得することを目的とする。
キーワード	口腔、食道、胃、小腸、大腸、肛門、肝臓、胆道、膵臓、腹部救急、腹部手術
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	領域 I a
学習到達目標	1. 消化器系の正常構造と機能を理解する。 2. 主要な消化器系疾患の病因について理解する。 3. 正確な診断方法を選択し、鑑別すべき疾患を理解する。 4. 最適な治療法について理解する。 5. 消化器内視鏡の適応、診断、治療方法について理解する。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-4-2)患者と医師の関係、B-4-1)医師に求められる社会性、 D-7)人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療構造と機能、消化器系、 E-3)全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療、腫瘍、 F-1-20) 腹痛、F-2-6)内視鏡を用いる診断と治療
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 口腔疾患と治療法 2. 食道疾患の診断と治療 3. 胃疾患の診断と治療 4. 小腸・大腸疾患の診断と治療 5. 肝疾患の診断と治療 6. 胆道・膵疾患の診断と治療 7. 腹部救急疾患の診断と治療
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	筆記試験80%、出席及び授業態度20%
教科書・テキスト	
参考文献	Bock's Gastroenterology 5th ed. Haubrich ed, Saunders 1995 Textbook of Gastroenterology 5th ed. Yamada ed, John Wiley & Sons 2011 内視鏡所見のよみ方と鑑別診断 上部消化管 第2版・下部消化管 第2版 医学書院 カラー版消化器病学基礎と臨床 西村書店 2013 消化管内視鏡診断テキスト1.2.3 文光堂 2008 消化器内視鏡ガイドライン 第3版 医学書院 2006 消化器外科手術のための解剖学 食道、胃・十二指腸、腹壁・ヘルニア メジカルビュー社 1999 オクルージョンの臨床 第2版 Peter E. Dawson, 1993 歯科衛生士のための口腔外科学 2011年
履修上の注意事項	体調管理に努め、発熱・感冒症状などある場合は申し出ること。遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	講義のなかで、実際の症例提示を行い、検査、診断、治療などについて考えさせる。
連絡先・オフィスアワー	担当教員 : 消化器代謝内科学 田中 守 電話番号(外線) : 052-853-8211 電子メール : mtanaka@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー : 平日(月～金) 午前9時から午後5時
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

消化器系・内視鏡ユニット 担当教員

所属・職名	氏名	所属・職名	氏名
消化器・代謝内科学 教授	片岡洋望	消化器外科学 教授	瀧口修司
次世代医療開発学 教授	神谷 武	消化器外科学 教授 (診療担当)	松尾洋一
地域医療教育研究センター 教授	野尻俊輔	消化器外科学 准教授	高橋広城
消化器・代謝内科学 准教授	谷田諭史	消化器外科学 講師	小川 了
消化器・代謝内科学 准教授	林 香月	消化器外科学 講師	森本 守
消化器・代謝内科学 准教授	久保田英嗣	消化器外科学 助教	田中達也
消化器・代謝内科学 講師	藤原 圭	消化器外科学 助教	志賀一慶
消化器・代謝内科学 講師	内藤 格	消化器外科学 助教	佐川弘之
消化器・代謝内科学 講師	志村貴也	消化器外科学 助教	大久保友貴
消化器・代謝内科学 講師	松浦健太郎	消化器外科学 助教	齊藤健太
消化器・代謝内科学 講師	尾関啓司	消化器外科学 助教	今藤裕之
消化器・代謝内科学 講師	吉田道弘	消化器外科学 助教	牛込創
消化器・代謝内科学 助教	田中 守		
非常勤講師 (中田内科クリニック)	中沢貴宏	口腔外科学・名誉教授	横井基夫
消化器内科・高度医療教育センター教授 (西部医療センター)	妹尾恭司	口腔外科学・地域医療教育研究センター教授	竹本 隆
非常勤講師 (春日井市民病院)	祖父江 聡		

授業計画

月日	曜日	時限	授業項目	授業内容	担当	教官
3月2日	木	1	口腔	舌の診かたについて	口外	横井基夫
		2	食道、胃	消化器疾患と消化管内視鏡	内科	久保田英嗣
		3	内視鏡	胃食道逆流症、機能性消化管疾患	内科	神谷 武
		4	内視鏡	ピロリ感染症	内科	片岡洋望
3月3日	金	1	胆道	胆道外科	外科	齊藤健太
		2	肝臓	肝臓外科	外科	森本 守
		3	膵臓	膵炎	内科	内藤 格
		4	肝臓	肝癌の内科的治療	内科	松浦健太郎
3月9日	木	1	肝臓	肝硬変と合併疾患	内科	野尻俊輔
		2	肝臓	ウイルス性肝疾患	内科	祖父江聡
		3	口腔	口腔所見と病態	口外	竹本 隆
		4	胆道	胆道1	内科	中沢貴宏
3月10日	金	1	膵臓	膵腫瘍	内科	吉田道弘
		2	大腸	炎症性腸疾患	内科	谷田諭史
		3	胆道	胆道2	内科	林 香月
		4	大腸	大腸癌 ¹ 、大腸癌	内科	志村貴也
3月15日	水	1	胃	胃腫瘍	内科	田中 守
		2	内視鏡	小腸・大腸疾患	内科	尾関啓司
		3	小腸・ヘルニア	小腸外科・ヘルニア	外科	田中達也
		4	外科総論	外科総論	外科	瀧口修司
3月16日	木	1	食道	食道外科	外科	小川 了
		2	直腸・肛門	大腸外科1 (直腸・肛門)	外科	高橋広城
		3	膵臓	膵臓外科	外科	松尾洋一
		4	腹部外傷	腹部外傷	外科	大久保友貴
3月17日	金	1	食道、胃	食道腫瘍	内科	妹尾恭司
		2	肝臓	肝機能検査、画像診断	内科	藤原 圭
		3	急性腹症	急性腹症	外科	今藤裕之
		4	胃	胃外科	外科	佐川弘之
4月6日	木	3	結腸	大腸外科2 (結腸)	外科	志賀一慶
		4	腹腔鏡手術	腹腔鏡手術	外科	牛込創

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・腎・尿路ユニット
専門・教養	専門
担当教員	濱野高行、水野晶菜、小野水面、村島美穂、友斉達也、春日井貴久 非常勤講師：猪阪善隆(大阪大学大学院医学系研究科 腎臓内科学)
講義期間・曜日・時限	セメスター1 (2020/1/16～2020/2/17) 月曜日 1・2限目、火曜日 4限目、水曜日 1・2限目 金曜日 1限目

授業目的・目標	<p>【授業目的】 腎臓は尿を作ることで体内環境を維持し、また血圧や貧血の調整に関わる重要臓器である。臨床腎臓病学全般について学ぶとともに、腎症候学・診断学、一次性・二次性糸球体疾患、ネフローゼ症候群、急性腎障害(AKI)、慢性腎臓病(CKD)、慢性腎不全・血液透析および腹膜透析療法について実際の臨床症例を用いて講義を行う。</p> <p>【授業目標】 腎・尿路の役割を理解するために、糸球体・間質疾患、体液・電解質異常などを理解し、腎臓の視点からプライマリケアにも役立つ診察、診断、治療に必要な知識を習得する。症例検討会ではディスカッション能力を高める。医師国家試験に準じた臨床問題にもチャレンジする。</p>
キーワード	腎臓、電解質、利尿薬、酸塩基平衡、尿検査、間質尿管疾患、糸球体疾患、急性腎障害、慢性腎臓病、腎臓病理、腎代替療法
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a, I b, II b
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 腎・尿路系の解剖、機能、生理について述べるができる。 2. 尿所見・尿検査について診断的意義や鑑別点を述べるができる。 3. 体液・電解質・血圧異常について、その病態、治療を述べるができる。 4. 糸球体疾患、間質疾患について、その病態、治療を述べるができる。 5. 腎不全について、その病態、治療を述べるができる。 6. 腎臓病をきたす全身性疾患について病態、治療を述べるができる。 7. シェント手術で手洗い・ガウンテクニック・介助・皮膚縫合・創部ドレッシングを修得。 7. 腎代替療法について、適応を述べるができる。 8. 症例検討会において学生同士での提示、議論ができる。 <p>【該当するモデルコアカリ】 C-2-2組織・各臓器の構成、機能と位置関係、C-2-3個体の調節機能とホメオスタシス、D-8腎・尿路系(体液・電解質バランスを含む)、F-1-4体重減少・体重増加、F-1-10脱水、F-1-11浮腫、F-1-28尿量・排尿の異常、F-1-29血尿・タンパク尿、F-2-3臨床検査、F-2-4病理診断、F-2-8薬物治療の基本原則、F-2-11食事・栄養療法と輸液療法、F-2-12医療機器と人工臓器</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上(学修到達目標を越えたレベルを達成している)</p> <p>優：80点以上(学修到達目標を十分に達成している)</p> <p>良：70点以上(学修到達目標を達成している)</p> <p>可：60点以上(学修到達目標を最低限達成している)</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 尿検査の実際(血尿・蛋白尿)、腎機能の見方(24時間尿・eGFR) 2. 酸塩基平衡とK代謝異常 3. CKD-MBD 4. 血液透析、移植 5. 水・Na代謝・利尿薬 6. ネフローゼ症候群 7. 糸球体疾患の腎病理 8. 急性腎障害、急性血液浄化 9. 遺伝性腎疾患(多発性のう胞腎、Fabry病、Alport症候群) 10. 二次性腎症 11. 二次性高血圧 12. CKDと腎性貧血 13. DKD、腎硬化症 14. 間質尿管疾患 15. 腹膜透析
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
成績評価方法	<p>セメスター試験(100)点満点</p> <p>*セメスター試験が60点未満の場合、アクティブラーニングを10点を上限としてプラスする。アクティブラーニングは、発表・参加態度を参考とする。</p>
教科書・テキスト	<p>教科書は指定はしないが、下記参考に講義資料を作成し配布する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床腎臓内科学 編集 安田隆 平和伸二 小山雄太 発行 南山堂 2. プロフェッショナル腎臓病学 編者 南学正臣 発行 中外医学社 3. Clinical Physiology of Acid-Base and Electrolyte Disorders (5th Ed) McGraw-Hill 4. Heptinstall's Pathology of the Kidney (6th Ed) Lippincott Williams & Wilkins
参考文献	<p>腎臓内科レジデントマニュアル 改訂第8版 編者 今井園裕 発行 診断と治療社</p> <p>腎生検診断Navi 改訂第2版 編者 片渕律子 発行 メディカルビュー社</p> <p>腎生検病理アトラス 改訂版 編集 日本人病理協会/日本腎臓学会 発行 東京医学社</p> <p>Brenner & Rector's the Kidney, 11th ed., in 2 vols. 著者: A. S. L. Yu, G. M. Chertow, V. A. Luyckx, et al. 出版 ELSEVIER</p>
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	<p>担当教員 : 友斉達也(内線 3602)</p> <p>電話番号(外線) : 052-858-7429(腎臓内科医局秘書直通)</p> <p>電子メール : tomonari@med.nagoya-cu.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 9:00～17:00 [月曜および水曜～金曜]</p> <p>※原則として急ぎでない限りはメールで連絡してください。</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/med/

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

腎・尿路系ユニット（腎臓内科）担当教員

所属・職名	氏名
医学研究科 腎臓内科学 教授	濱野 高行
医学研究科 腎臓内科学 助教	水野 晶紫
医学研究科 腎臓内科学 助教	小野 水面
医学研究科 腎臓内科学 助教	村島 美穂
医学研究科 腎臓内科学 助教(学生指導担当)	友斉 達也
医学研究科 腎臓内科学 病院助教	春日井 貴久

非常勤講師(大阪大学大学院医学系研究科 腎臓内科学 教授) 猪阪 善隆

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
1	16	月	1	水・Na代謝・利尿薬	猪阪 善隆
1	16	月	2	尿検査の実際(血尿・蛋白尿)、腎機能の見方(24時間尿・eGFR)	友斉 達也
1	23	月	1	DKD、腎硬化症、慢性糸球体腎炎の診断・治療	春日井 貴久
1	23	月	2	酸塩基平衡とNa/K代謝異常(+Active Learning)	友斉 達也
1	30	月	1	糸球体疾患の腎病理	春日井 貴久
1	30	月	2	急性腎障害、急性血液浄化(+Active Learning)	村島 美穂
1	31	火	4	ネフローゼ症候群(+Active Learning)	水野 晶紫
2	2	木	2	CKDと腎性貧血	濱野 高行
2	6	月	1	遺伝性腎疾患(ADPKD、Alport症候群 Fabry病)	友斉 達也
2	6	月	2	二次性高血圧症	村島 美穂
2	8	水	1	二次性腎症(SLE、アミロイドーシスなど)	水野 晶紫
2	8	水	2	CKD-MBD	濱野 高行
2	15	水	1	間質尿細管疾患	小野 水面
2	15	水	2	血液透析・腎移植	小野 水面
2	17	金	1	腹膜透析	村島 美穂

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・腎・尿路系ユニット（泌尿器科）
専門・教養	専門
担当教員	安井孝周、林 祐太郎、丸山哲史、河合憲康、岡田淳志、水野健太郎、安藤亮介、濱本周造、内木 拓、田口和己・恵谷俊紀
講義期間・曜日・時限	セメスターI 1月6日～2月17日 11コマ

授業目的・目標	【授業目的】腎・泌尿器の役割を理解するために、腎実質・腎盂・尿管・膀胱・尿道の解剖と機能の関する知識を確認し、それらに特有の病態、疾患などを理解し、診断から手術に至る様々な知識を総合的に習得する。 【授業目標】超高齢化社会において、泌尿器癌・排尿障害を正確に診断し治療に結びつけることは医師としての素養である。また救急における尿路結石・血尿・尿路の対応、少子化における男子不妊症の取扱い、腎移植に対する知識・対応を習得することを目標とする。
キーワード	副腎・腎・尿管・発生
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域1a-d, 11a-e, 111b, 1va, d
学習到達目標	1. 腎・泌尿器の解剖・発生、症候・検査について、述べるができる。 2. 腎・泌尿器の先天異常、発生について、述べるができる。 3. 尿路結石の成因・治療を述べるができる。 4. 副腎疾患・腎腫瘍について、その病態、治療を述べるができる。 5. 腎盂・尿管・膀胱腫瘍について、その病態、治療を述べるができる。 6. 腎・泌尿器の炎症と外傷について、その病態、治療を述べるができる。 7. 腎不全、腎移植について、その病態、治療を述べるができる。 【該当するモデルコアカリ】 C-2-4) 個体の発生 D-8 腎・尿路系(体液・電解質バランスを含む) D-12-4)-(3) 副甲状腺疾患とカルシウム代謝異常 D-12-4)-(4) 副腎皮質・髓質疾患 F-1-11) 浮腫 F-1-25) 腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘍、F-1-28) 尿量・排尿の異常、 F-1-29) 血尿・タンパク尿、F-1-37) 外傷・熱傷
成績評価基準	秀: 90点以上(学修到達目標を越えたレベルを達成している) 優: 80点以上(学修到達目標を十分に達成している) 良: 70点以上(学修到達目標を達成している) 可: 60点以上(学修到達目標を最低限達成している)
授業概要	1. 腎・泌尿器の解剖・生理、症候・検査 2. 腎・泌尿器の発生 3. 腎・泌尿器の炎症と外傷 4. 腎・泌尿器の先天異常 5. 尿路結石の成因 6. 尿路結石の治療 7. アクティブラーニング(結石、感染、炎症、外傷) 8. 腎不全・腎移植 9. 副腎疾患・腎腫瘍 10. 腎盂・尿管・膀胱腫瘍 11. アクティブラーニング(副腎・腎・尿路上皮腫瘍、腎移植) ※「2. 腎・泌尿器の発生」「4. 腎・泌尿器の先天異常」についてのアクティブラーニングは、生殖機能コースでの範囲となります。 ※アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症の感染状況によって対面形式もしくはZoomによる実施となります。
授業計画	授業予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	初回の講義までに、教科書・テキストなどで予習しておくこと。 アクティブラーニングはTBL(team-based learning)形式で行い、講義始めに小テストがあります。 アクティブラーニング・試験はテキスト・参考文献からも出題されます。 ※アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症の感染状況によって、講義室もしくはZoomによる小テストを行います。
成績評価方法	セメスター試験 80%、アクティブラーニング 20% ※アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症の感染状況によって、講義室もしくはZoomによる小テストを行います。
教科書・テキスト	教科書: 標準泌尿器科学 第9版 医学書院 病気がみえる vol8 腎・泌尿器 MEDIC MEDIA 参考資料: 講義配布プリント
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	講義開始時間の1分前までに着席していること。 スマホでの講義撮影・動画撮影・録音は禁止する。 講義の途中入室・途中退室は特別な事情がある場合に、 講師の許可 を得たものに限る。 講義中に不在が判明した場合、いかなる理由であっても欠席扱いとします。 アクティブラーニングの小テストで不正が発覚した場合は、本試験の受験資格を含めて剥奪する。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニングはTBL(team-based learning)形式で行い、講義始めに小テストがあります。 アクティブラーニングの小テストは、本試験の20%に相当する。 アクティブラーニング・試験はテキスト・参考文献からも出題されます。 アクティブラーニングの小テストで不正が発覚した場合は、本試験の受験資格を含めて剥奪する。 ※「2. 腎・泌尿器の先天異常」「4. 腎・泌尿器の発生」についてのアクティブラーニングは、生殖機能コースでの範囲となります。 ※アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症の感染状況によって、講義室もしくはZoomによる小テストを行います。
連絡先・オフィスアワー	担当教員 : 岡田 淳志 准教授 電話番号(外線) : 052-853-8266 (医局) 電子メール : a-okada@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー : 月～金 9:00～17:00
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	臨床現場に出た際に必要となる知識を学ぶ1度切りの機会です。 また講義をする医師は、20年後の自分たちの姿であると認識し、礼節をもって講義に臨んで下さい。
関連URL	教室HP https://ncu-uro.jp/ 教室facebookページ https://www.facebook.com/ncunephrourology

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

腎・尿路ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
腎・泌尿器科学分野・教授	安井 孝周
小児泌尿器科学分野・教授	林 祐太郎
医学研究科 腎・泌尿器科学 東部医療センター教授	丸山 哲史
地域医療研究教育センター・教授	安藤 亮介
腎・泌尿器科学分野・准教授	河合 憲康
腎・泌尿器科学分野・准教授	岡田 淳志
小児泌尿器科学分野・准教授	水野 健太郎
腎・泌尿器科学分野・講師	濱本 周造
腎・泌尿器科学分野・講師	内木 拓
腎・泌尿器科学分野・講師	田口 和己

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	6	金	1	腎・泌尿器の解剖・生理、症候・検査	安井 孝周
1	6	金	4	腎・泌尿器の発生	林 祐太郎
1	13	金	1	腎・泌尿器の炎症と外傷	丸山 哲史
1	13	金	4	腎・泌尿器の先天異常	水野 健太郎
1	20	金	1	尿路結石の成因	田口 和己
1	20	金	4	尿路結石の治療	濱本 周造
1	27	金	1	アクティブラーニング(結石、感染、炎症、外傷)	岡田・恵谷
1	27	金	4	副腎疾患・腎腫瘍	河合 憲康
2	3	金	1	腎不全・腎移植	安藤 亮介
2	3	金	4	腎盂・尿管・膀胱腫瘍	内木 拓
2	17	金	4	アクティブラーニング(副腎・腎・尿路上皮腫瘍、腎移植)	岡田・恵谷

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・生殖機能ユニット（泌尿器科）
専門・教養	専門
担当教員	安井孝周、林 祐太郎、戸澤啓一、梅本幸裕、窪田泰江、河合憲康、水野健太郎、野々村祝夫
講義期間・曜日・時限	セメスター2（2023年2月27日～4月17日）月曜日・3,4限（ただし4月17日のみ2限）

授業目的・目標	【授業目的】 下部尿路・男性生殖器の役割を理解するために、膀胱・前立腺・尿道・精巣の解剖と機能の関する知識を確認し、それらに特有の病態、疾患などを理解し、診断から手術に至る様々な知識を総合的に習得する。 【授業目標】 超高齢化社会において、下部尿路・男性生殖器疾患を正確に診断し治療に結びつけることは医師としての素養であるので、このための知識を習得する。
キーワード	男性生殖器・前立腺・精巣・男子不妊症
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域1a-d, 11a-e, 111b, 1vd
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 生殖腺の構造と機能、性周期について正しく理解し、説明できる。 2. 不妊症について理解し、説明できる。 3. 生殖器腫瘍の診断・治療について理解し、説明できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-9 生殖機能 E-3 腫瘍
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 男性生殖器の機能、症候と検査 2. 性分化疾患の診断・治療 3. 男性生殖器の先天異常 4. EDの診断と治療・STI 5. 男性不妊症の系統診断と治療 6. 前立腺癌 7. 精巣腫瘍 8. 前立腺肥大症・下部尿路通過障害 9. Female Urology/神経因性膀胱 10. アクティブラーニング（小児・先天異常・不妊） 11. アクティブラーニング（前立腺・尿道・精巣腫瘍・排尿）
授業計画	2023年度 生殖機能コース授業予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	初回の講義までに、教科書・テキストなどで予習しておくこと。 アクティブラーニングは、TBL (team-based learning) 形式で行い、講義始めに小テストがあります。 アクティブラーニング・試験はテキスト・参考文献からも出題されます。
成績評価方法	セメスター試験 80%、アクティブラーニング 20% ※アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症の感染状況によって、講義室もしくはZoomによる小テストを行います。
教科書・テキスト	教科書：標準泌尿器科学（第9版）医学書院 病気がみえる vol18 腎・泌尿器 MEDIC MEDIA 参考資料：講義配布プリント
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	講義開始時間の1分前までに着席していること。講義の途中入室・途中退室は特別な事情がある場合に限るものとする。 スマホでの講義撮影・動画撮影・録音は禁止します。
履修者への要望事項	特にありません
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニングは、TBL (team-based learning) 形式で行い、講義始めに小テストがあります。 アクティブラーニング・試験はテキスト・参考文献からも出題されます。 ※アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症の感染状況によって、講義室もしくはZoomによる小テストを行います。
連絡先・オフィスアワー	担当教員：岡田 淳志 准教授 電話番号（外線）：052-853-8266(医局) 電子メール：a-okada@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー：月～金 9:00～17:00
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	臨床現場に出た際に必要となる知識を学ぶ1度切りの機会です。 また講義をする医師は、20年後の自分たちの姿であると認識し、礼節をもって講義に臨んで下さい。
関連URL	教室HP https://ncu-uro.jp/ 教室facebookページ https://www.facebook.com/ncunephrourology

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

生殖機能系ユニット(泌尿器科) 担当教員

所属・職名	氏名
腎・泌尿器科学分野・教授	安井 孝周
小児泌尿器科学分野・教授	林 祐太郎
医療安全管理学分野・教授	戸澤 啓一
医学部附属西部医療センター・教授	梅本 幸裕
看護学部先端医療看護学・教授	窪田 泰江
腎・泌尿器科学分野・准教授	河合 憲康
小児泌尿器科学分野・准教授	水野 健太郎

非常勤講師

大阪大学大学院医学研究科泌尿器科・教授	野々村 祝夫
---------------------	--------

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
2	27	月	3	男性生殖器の機能、症候と検査口	安井 孝周
2	27	月	4	男性生殖器の先天異常	林 祐太郎
3	6	月	3	性分化疾患の診断・治療	水野健太郎
3	6	月	4	前立腺癌	野々村 祝夫
3	13	月	3	Female Urology・神経因性膀胱	窪田 泰江
3	13	月	4	アクティブラーニング(小児・先天異常)	水野健太郎
4	3	月	3	男性不妊症の系統診断と治療	梅本 幸裕
4	3	月	4	EDの診断と治療・STI	梅本 幸裕
4	10	月	3	精巣腫瘍	戸澤 啓一
4	10	月	4	前立腺肥大症・下部尿路通過障害	河合 憲康
4	17	月	2	アクティブラーニング(前立腺・尿道・精巣腫瘍・排尿)	未定

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・生殖機能ユニット（婦人科）
専門・教養	専門
担当教員	杉浦真弓、荒川敦志、佐藤 剛、後藤志信、西川隆太郎
講義期間・曜日・時限	セメスター2（2023年2月27日～4月17日）月曜日 1,2限

授業目的・目標	【授業目的】女性生殖器および生殖に関わる疾患を扱う医師にとって必要となる、基本的知識、技術について理解し、修得するため。 【授業目標】女性生殖器の発生、構造、機能について正しく理解し、さらにその疾患の原因、病理、形態、症候、病態生理を正確に把握し、診断や治療法の基本を正しく理解することを目標とする。
キーワード	性分化、生殖内分泌、月経異常、不妊症、婦人科腫瘍
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域 Ia, Ib, Ic, Id, IIb, IIe, IIIb, IVd
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 女性生殖器の発生、構造、機能について正しく理解している。 2. 女性の正常な性分化およびその異常について正しく理解している。 3. 女性の生殖内分泌機構や排卵の機序およびその破綻の結果生じる月経異常や不妊症について正しく理解している。 4. 婦人科腫瘍の検査・診断、良悪性の鑑別、治療について正しく理解している。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 C-2-4) 個体の発生、C-4-1) 遺伝的多様性と疾患、C-4-6) 腫瘍、D-9生殖機能、E-3腫瘍、E-7-4) 成長と発達（思春期）、E-8-1) 加齢と老化、F-1-20) 腹痛、F-1-30) 月経異常、F-2-4) 病理診断、F-2-5) 放射線等を用いる診断と治療、F-2-6) 内視鏡を用いる診断と治療、F-2-7) 超音波を用いる診断と治療、F-2-9) 外科的治療と周術期管理
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 女性生殖器の構造と機能・発生と性分化・内外生殖器の先天異常 2. 性周期発現と排卵の機序・性腺刺激ホルモンとステロイド 3. 月経異常の診断と治療 4. 女性不妊症の系統診断と治療 5. 婦人科腫瘍学総論 6. 子宮頸癌 7. 子宮体癌・絨毛性疾患 8. 卵巣腫瘍・化学療法 9. 子宮内膜症・子宮筋腫 10. アクティブラーニング：婦人科内分泌疾患 11. アクティブラーニング：婦人科腫瘍
授業計画	2023年度 生殖機能（婦人科） 授業計画を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 講義内容を正しく修得できるよう、テキストや参考図書および講義での配付資料により復習し理解を深める。さらに講義では触れられなかった講義内容に関わる項目についても自己学習により知識を広め、理解・修得に努めること。
成績評価方法	セメスター試験：80点満点 アクティブラーニング：参加態度10+提出物10=20点満点 本試験は以上2項目の合計点を100点満点とし、泌尿器科領域の配点と合算し6割未満を不合格とする。再試験は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。
教科書・テキスト	テキスト：「プリンシプル産科婦人科学 婦人科編」メディカルビュー 第3版、「病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科」MEDIC MEDIA 第4版
参考文献	テキストにあげられている参考文献
履修上の注意事項	講義の途中入室・途中退室は、原則認めない。特別な事情がある場合は、必ず講義担当者に申し出ること。病欠の場合は教育研究課に連絡すること。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	TBL(team-based learnig)形式で行い、全員参加型である。積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	担当教員：佐藤 剛、北折珠央 電話番号（外線）：産科婦人科 医局 853-8241（内線8241） 電子メール：og_sato@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー：平日 8:00 - 17:00
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	講義での疑問点や十分な理解に至らなかった事項については、そのまましておかず、教員への積極的な質問・確認や自己学修により解決するよう努めること。
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

生殖機能系ユニット(婦人科) 担当教員

所属・職名	氏名
産科婦人科学分野 教授	杉浦真弓
名古屋市立大学医学部附属 西部医療センター 教授(診療担当)	荒川敦志
産科婦人科学分野 准教授	佐藤 剛
産科婦人科学分野 講師	後藤志信
産科婦人科学分野 助教	西川隆太郎

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
2	27	月	1	女性生殖器の構造と機能・発生と性分化・内外生殖器の先天異常	杉浦真弓
2	27	月	2	性周期発現と排卵の機序・性腺刺激ホルモンとステロイド	杉浦真弓
3	6	月	1	月経異常の診断と治療	杉浦真弓
3	6	月	2	女性不妊症の系統診断と治療	佐藤 剛
3	13	月	1	子宮内膜症・子宮筋腫	後藤志信
3	13	月	2	アクティブラーニング(婦人科内分泌疾患)	佐藤 剛
4	3	月	1	婦人科腫瘍学総論	西川隆太郎
4	3	月	2	子宮頸癌	西川隆太郎
4	10	月	1	子宮体癌・絨毛性疾患	荒川敦志
4	10	月	2	卵巣腫瘍・化学療法	荒川敦志
4	17	月	1	アクティブラーニング(婦人科腫瘍)	西川隆太郎

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・妊娠と分娩 ユニット
専門・教養	専門
担当教員	杉浦真弓、尾崎康彦、鈴森伸宏、佐藤 剛、北折珠央、後藤志信
講義期間・曜日・時限	セメスター2（2023年4月24日～5月22日）月曜日 1, 2, 3, 4 限

授業目的・目標	基礎医学の中で修得した女性の解剖、生理、病理の理解をもとに、基本的な知識の修得を目標とし、さらに分子細胞生物学の著しい進歩による新しい知見も含めて理解することを目的とする。具体的には基本的産科知識（正常妊娠、正常分娩）を正確に習得し、異常妊娠・分娩・産褥について病態やリスクの程度を理解し、その管理法を学習する。また胎児心拍モニタリングや超音波断層法などの医療工学機器により得られた胎児情報についてその原理と結果の評価について理解し、得られるデータに対する適切な臨床的判断を学習・修得することを目標とする。
キーワード	妊娠、分娩、産褥、胎児、産科麻酔
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域 Ia, Ib, Ic, Id, IIb, IIe, IIIb, IVd
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 妊娠の生理を理解している。 2. 異常妊娠・合併症妊娠について理解している。 3. 産科検査法を理解している。 4. 胎児の状態に関する検査法とその評価について理解している。 5. 正常分娩経過について理解している。 6. 異常分娩とその管理について理解している。 7. 産科手術について理解している。 8. 産科危機的出血、産科DIC等の産科救急について理解している。 9. 産科麻酔について理解している。 10. 正常な産褥経過およびその異常について理解している。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 C-2-4) 個体の発生、D-9 生殖機能、D-10 妊娠と分娩、E-1 遺伝医療・ゲノム医療、E-7-1) 成長と発達（胎児・新生児）、F-1-5) ショック、F-1-20) 腹痛、F-1-21) 悪心・嘔吐、F-1-30) 月経異常、F-1-31) 不安・抑うつ、F-2-7) 超音波を用いる診断と治療、F-2-9) 外科的治療と周術期管理、F-2-10) 麻酔
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 妊娠の診断と妊娠・分娩に伴う解剖学的・生理学的変化 2. 異常妊娠（流産・異所性妊娠・多胎妊娠・胎児体勢異常） 3. 胎児の発達・産科超音波検査法・出生前診断法 4. 胎児・胎盤機能検査法・胎児心拍数モニタリング 5. 妊娠合併症（耐糖能異常・血液凝固障害・内分泌疾患・妊娠高血圧症候群） 6. 切迫早産の治療法・陣痛の調整法 7. 胎盤位置異常・常位胎盤早期剥離 8. 正常分娩 9. 異常分娩 10. 産科手術・産科麻酔 11. 産科出血・産科DIC 12. 産褥期（子宮復古不全・産褥熱・乳腺疾患・メンタルケア） 13. アクティブラーニング1, 2
授業計画	2023年度 妊娠と分娩 授業計画を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 講義内容を正しく修得できるよう、テキストや参考図書および講義での配付資料により復習し理解を深める。さらに講義では触れられなかった講義内容に関わる項目についても自己学習により知識を広め、理解・修得に努めること。
成績評価方法	セメスター試験：80点満点 アクティブラーニング：参加態度10+提出物10=20点満点 本試は以上2項目の合計点を100点満点とし6割未満を不合格とする。再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。
教科書・テキスト	テキスト：「プリンシプル産科婦人科学 産科編」メディカルビュー 第3版、「病気がみえる vol.10 産科」MEDIC MEDIA 第4版
参考文献	テキストにあげられている参考文献
履修上の注意事項	講義の途中入室・途中退室は、原則認めない。特別な事情がある場合は、必ず講義担当者に申し出ること。 病欠の場合は医療人育成課に連絡すること。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	TBL(team-based learnig)形式で行い、全員参加型である。積極的に議論へ参加すること。
連絡先・オフィスアワー	担当教員：佐藤 剛、北折珠央 電話番号（外線）：産科婦人科 医局 853-8241（内線8241） 電子メール：e-mail: og.sato@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー：平日 8:00 - 17:00
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	講義での疑問点や十分な理解に至らなかった事項については、そのまましておかず、教員への積極的な質問・確認や自己学修により解決するよう努めること。
関連URL	

妊娠と分娩ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
産科婦人科学分野 教授	杉浦真弓
名古屋市立大学医学部附属 西部医療センター 教授(診療担当)	尾崎康彦
産科婦人科学分野 病院教授	鈴木伸宏
産科婦人科学分野 准教授	佐藤 剛
産科婦人科学分野 講師	北折珠央
産科婦人科学分野 講師	後藤志信

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	24	月	1	妊娠の診断と妊娠・分娩に伴う解剖学的・生理学的変化	佐藤 剛
4	24	月	2	胎児の発達・産科超音波検査法・出生前診断法	鈴木伸宏
4	24	月	3	胎児-胎盤機能検査法・胎児心拍数モニタリング	鈴木伸宏
4	24	月	4	切迫早産の治療法・陣痛の調整法	北折珠央
5	8	月	1	異常妊娠(流産・異所性妊娠・多胎妊娠・胎位体勢異常)	杉浦真弓
5	8	月	2	胎盤位置異常・常位胎盤早期剥離	鈴木伸宏
5	8	月	3	妊娠合併症1(耐糖能異常・血液凝固障害・内分泌疾患)	北折珠央
5	8	月	4	妊娠合併症2(妊娠高血圧症候群)	北折珠央
5	15	月	1	正常分娩1	尾崎康彦
5	15	月	2	正常分娩2	尾崎康彦
5	15	月	3	アクティブラーニング1	鈴木伸宏
5	15	月	4	産褥期(子宮復古不全・産褥熱・乳腺疾患・メンタルケア)	北折珠央
5	22	月	1	産科出血・産科DIC	佐藤 剛
5	22	月	2	異常分娩	尾崎康彦
5	22	月	3	産科手術・産科麻酔	後藤志信
5	22	月	4	アクティブラーニング2	尾崎康彦

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・乳房ユニット
専門・教養	専門
担当教員	医学部：遠山竜也、髙瀬友美、藤田崇史、浅野倫子 非常勤講師：愛知県がんセンター：岩田広治、神奈川県立がんセンター：山下年成
講義期間・曜日・時限	セメスター2（2021/2/28～2021/4/4）火曜日、3・4限目

授業目的・目標	授業目的：乳房の疾患領域における医学、医療、福祉に関し、乳腺専門医の役割と必要性について基本的な認識を得るため 授業目標：乳房の解剖、生理、病態、疾患、標準的治療法に関して基礎的知識を修得し、乳房診療特有の検査などを実施する。
キーワード	乳房、乳がん、胸部
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	領域 I b、I c、II a、II b
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 乳房の構造と機能、および女性ホルモンの正常乳腺組織および乳がんへの影響について説明できる 2. 乳がんの疫学と診断方法が説明できる 3. 乳がんに対する手術療法が説明できる 4. 乳がんに対する薬物療法（内分泌療法、化学療法、分子標的療法、免疫療法）が説明できる 5. がんに対する臨床試験について説明できる 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-11、F-3-5)-4)
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	乳がんの基礎：乳癌とホルモン 乳がんの疫学・診断 乳がんの手術療法 乳がんの薬物療法 がん治療 ー標準治療と臨床試験ー 乳房コース：総括講義
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	“授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと”
成績評価方法	“セメスター試験（100）点満点 *セメスター試験が60点未満の場合、最初の講義時のレポートを10点を上限としてプラスする。”
教科書・テキスト	
参考文献	1. 「病気がみえる vol.9:婦人科・乳腺外科」医療情報科学研究所（編集） 2. 「乳腺腫瘍学」日本乳癌学会（編集）金原出版 3. 「乳癌診療ガイドライン」日本乳癌学会（編集）金原出版
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特になし。
アクティブ・ラーニング	対話・議論型授業を一部行う
連絡先・オフィスアワー	担当教員：遠山竜也 電話番号（外線）：052-853-8336 電子メール：t.toyama@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー：10時～17時
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げてください。
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

乳房ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
乳腺外科学分野 教授	遠山竜也
乳腺外科学分野 講師	鰐淵友美
乳腺外科学分野 講師	藤田崇史
神奈川県立がんセンター 乳腺内分泌外科 部長	山下年成
愛知県がんセンター病院 副院長・乳腺科部長	岩田広治

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
2	28	火	3	乳がんの基礎:乳がんとホルモン	遠山竜也
2	28	火	4	乳がんの薬物療法1(ホルモン療法・免疫療法)	遠山竜也
3	7	火	3	乳がんの疫学・診断	山下年成
3	7	火	4	がん治療ー標準治療と臨床試験ー	岩田広治
3	14	火	3	乳がんの薬物療法2(化学療法・分子標的療法)	鰐淵友美
3	14	火	4	乳がんの手術療法	藤田崇史
4	4	火	3	乳房コース:総括講義	遠山竜也

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・内分泌・栄養・代謝系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	田中智洋、青谷大介、小山博之、服部 麗、今枝憲郎、高木博史、青山幸平、野尻俊輔 非常勤講師：伊藤哲哉、加藤岳史、小川浩平、水野達央
講義期間・曜日・時限	セメスター2（2023年4月7日～2023年5月19日）

授業目的・目標	【授業目的】 内分泌・代謝疾患の診断・治療のための基本となる知識と考え方を学ぶ 【授業目標】 (1)人体の動的恒常性維持機構の基盤となる内分泌・栄養・代謝システムを理解する。(2)恒常性の破綻としての内分泌・代謝疾患の疾病概念と病態生理を理解し、診断と治療の基本を修得する。(3)内分泌・代謝学の理解を通して内科診断学・治療学の基本を学ぶ。
キーワード	糖尿病、代謝、視床下部・下垂体、副腎、甲状腺、副甲状腺
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	1a, b, c, d, 2c, 3a, b
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 内科学における中心的分野、内分泌・代謝学の学習を通して内科学の基本となる考え方を身につけ、診断・治療を実践するための基礎を修得する。 2. 解剖学・生理学・生化学・遺伝学などの基礎医学知識を動員して、個々の患者に即した病態生理の理解と説明ができる。 3. 内分泌・代謝疾患領域における臨床推論のプロセスを体験し、診断や治療方針の策定や予後予測について人に説明できる。 4. 次年度以降のBSLにおいて担当患者の診療プロセスにスムーズに参加し、症例に基づいたレポートの作成に支障のないレベルの知識と考え方を身につける。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-12) 内分泌・栄養・代謝系
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	総論（内分泌疾患、栄養疾患、代謝疾患についての基本的考え方）と各論（各疾患の疫学、疾病概念、病態生理、診断学、治療学）の学習を通して、臨床研修の前段階としてのBSLに必須の知識を修得する。
授業計画	1. 内分泌・代謝内科学総論・特論 2. 糖尿病とは何か 病態生理・慢性合併症・治療目標 3. 糖尿病治療論 4. 肥満、やせ、メタボリックシンドローム 5. ビタミン欠乏症と過剰症 6. 脂質代謝異常 7. 代謝性肝疾患 8. ミネラル代謝異常、骨代謝異常、副甲状腺疾患 9. 消化管ホルモンおよび産生腫瘍 10. 糖尿病の急性合併症・意識障害 11. 1型糖尿病特論 12. 高アンモニア血症・アミノ酸代謝異常 13. 先天性糖代謝異常症・ライソゾーム病 14. 視床下部・下垂体 15. 副腎口 16. 甲状腺 17. 小児の甲状腺疾患 18. 小児の成長ホルモン治療 19. アクティブラーニング（症例に即したグループワーク・プレゼンテーション）
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、教科書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。配布資料を活用しての復習を实践されたい。
成績評価方法	セメスター試験（100）点満点 *ただし、セメスター試験が60点未満の場合、授業・アクティブラーニングへの積極的参加の評価を10点を上限としてプラスする。授業・アクティブラーニングは、質問・一部講義における問いかけへの返答・発表・参加態度を参考とし評価する。
教科書・テキスト	病気がみえる③ 糖尿病・代謝・内分泌 メディックメディア 糖尿病治療ガイド 日本糖尿病学会編、南江堂 最新内分泌代謝学 診断と治療社 小児内分泌疾患を楽しく学ぶ 診断と治療社
参考文献	内科学書 改訂第9版 Vol.5 内分泌疾患、代謝・栄養疾患 中山書店 Williams Textbook of Endocrinology 14th edition Elsevier Standards of Medical Care in Diabetes-2021 (https://care.diabetesjournals.org/content/44/Supplement_1)
履修上の注意事項	特に無し
履修者への要望事項	質問をすることで学びを深めることができます。講義期間中に1人1問の質問を目指して積極的に質問を。「求めよ、さらば与えられん」。
アクティブ・ラーニング	10名前後の学生グループに分かれ、それぞれのグループで各1モデル症例を担当、グループ内で必要な情報と検査、鑑別すべき疾患、鑑別プロセス、臨床診断、治療方針の決定、長期予後の予測や考察を行う。これらをパワーポイント（PDFも可）の資料にまとめ、全員に対してプレゼンテーションする。同級生からの質問に答えることで議論を通して互いに理解を深める。
連絡先・オフィスアワー	担当教員 : 消化器・代謝内科学分野 准教授 田中智洋 電話番号（外線） : 052-853-8211（医局）、4783（院内PHS） 電子メール : tttanaka@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー : 9:00～17:00（急急でない要件は原則メールでご連絡ください）
実務経験を活かした教育の取組	内分泌代謝・糖尿病内科専門医・指導医を初め、内分泌・代謝内科診療、肝臓病診療、小児内分泌診療のエキスパートが、臨床医学としての内分泌・代謝学の基本的考え方、基礎知識から実症例を題材とした診療の実際までを解説する。
備考	内科学の中核的領域である内分泌・代謝内科学の学習を通して、内科診療のための基礎知識、基本的考え方と実践を学ぼう。
関連URL	https://ncu-shotai.ac/

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

内分泌・栄養・代謝系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
消化器・代謝内科学分野 准教授	田中智洋
消化器・代謝内科学分野 講師	青谷大介
消化器・代謝内科学分野 助教	小山博之
消化器・代謝内科学分野 病院助教	服部 麗
新生児・小児医学分野 助教	青山幸平
医学部附属西部医療センター 消化器・代謝内科学分野 教授	今枝憲郎
医学部附属東部医療センター 消化器・代謝内科学分野 講師	高木博史
地域医療教育研究センター 教授	野尻俊輔
藤田医科大学 小児科 教授	伊藤哲哉
豊川市民病院 糖尿病内分泌内科 部長	加藤岳史
旭労災病院 糖尿病内分泌内科 部長	小川浩平
刈谷豊田総合病院 糖尿病・内分泌内科 部長	水野達央

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	7	金	1	内分泌・代謝内科学総論	田中智洋
4	7	金	2	糖尿病とは何か 病態生理・慢性合併症・治療目標	田中智洋
4	7	金	3	糖尿病治療論	青谷大介
4	7	金	4	肥満、やせ、メタボリックシンドローム	水野達央
4	13	木	3	ビタミン欠乏症と過剰症	小山博之
4	13	木	4	脂質代謝異常	加藤岳史
4	14	金	1	代謝性肝疾患	野尻俊輔
4	14	金	2	ミネラル代謝異常、骨代謝異常、副甲状腺疾患	青谷大介
4	14	金	3	消化管ホルモンおよび産生腫瘍／アクティブラーニングオリエンテー	小山博之
4	14	金	4	糖尿病の急性合併症・意識障害	小川浩平
4	20	木	3	1型糖尿病特論	服部麗
4	20	木	4	高アンモニア血症・アミノ酸代謝異常	伊藤哲哉
4	21	金	1	副腎1	田中智洋
4	21	金	2	先天性糖代謝異常症・ライソゾーム病	伊藤哲哉
4	21	金	3	視床下部・下垂体 1	高木博史
4	21	金	4	視床下部・下垂体 2	高木博史
4	28	金	1	副腎2	田中智洋
4	28	金	2	内分泌・代謝内科学特論／アクティブラーニング準備	田中智洋
4	28	金	3	甲状腺1	今枝憲郎
4	28	金	4	甲状腺2	今枝憲郎
5	19	金	1	アクティブラーニング発表	田中智洋ほか
5	19	金	2	アクティブラーニング発表	田中智洋ほか
5	19	金	3	小児の甲状腺疾患	青山幸平
5	19	金	4	小児の成長ホルモン治療	青山幸平

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・眼・視覚系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	安川力 平野佳男 加藤亜紀 木村雅代 森田裕 小椋俊太郎 桑山創一郎 小南あおい 野崎実穂 中沢陽子
講義期間・曜日・時限	セメスター3 (2023/6/5～2023/7/6)、水曜日 1～4限目、木曜日 3,4限目

授業目的・目標	【授業目的】 眼球とその付属器および視覚系の疾患について、その原因、病態、症候、診断、治療に関し ての知識を習得し、最新の眼科治療法、症候から診断に至るプロセスを学ぶ。 【授業目標】 学生自ら考えながら問題解決に到達できることを目標とする。
キーワード	眼球、眼付属器、視路
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 1a, c, IVd
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 眼球とその付属器および視路についての解剖、生理について説明できる。 2. 解剖は豚眼を実際に解剖することでよりいっそう理解を深める。 3. 眼科検査について説明できる。 4. 直像鏡ではお互い眼底を観察しあい、患者への対応の仕方、患者のを気持ちを理解すると共に、より眼球の構造を理解する。 5. 眼、視覚疾患の病因、病態について説明できる。 6. 眼疾患の治療について説明できる。 7. 患者の症候、検査所見から診断、治療にいたるプロセスを述べられる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-13 眼・視覚系
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	(講義) 1視覚系の構造と機能 2眼科検査法 3外眼部疾患 4緑内障 5水晶体 6網膜硝子体疾患 7ぶどう膜炎疾患 8神経眼科 9小児眼科 10全身疾患と眼 11眼の外傷・救急 12眼科治療学 13眼科臨床診断学 14眼科のtranslational research (実習) 眼局所解剖（豚眼解剖実習）、直像鏡を用いた眼底実習、眼科疾患PBL
授業計画	2023年度 担当教員・徐行計画表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	1) 授業計画表を確認の上、参考文献の該当箇所を予習した上で講義に臨むこと。 2) 各授業において教科書以外の予習・復習について指示することがあるので、その指示に従うこと。
成績評価方法	セメスター試験 90点 *アクティブラーニング 10点。アクティブラーニングは、発表・参加態度を評価とする。
教科書・テキスト	
参考文献	“現代の眼科学” 監修 所 敬、編集 吉田 晃敏/谷原 秀信、金原出版 “Ophthalmology : An illustrated colour text 4th edition”, M. Batterbury, B. Bowling, Elsevier/Churchill, Livingstone, 2018
履修上の注意事項	豚眼解剖実習の際には白衣を持参すること。解剖実習、眼底実習は2グループに分けて行う。PBL1回目、2回目は前の講義が終わり次第開始するので前の講義に出席できない際には注意すること。
履修者への要望事項	特になし。
アクティブ・ラーニング	眼球解剖1時間、眼底実習1時間、眼科疾患PBL5時間を行う。PBLでは積極的に議論に参加すること。実習でお互いに協力し合うこと。
連絡先・オフィスアワー	担当教員 : 安川 力、小椋 俊太郎 電話番号(外線) : 052-853-8251(内線8251) 電子メール : yasukawa@med.nagoya-cu.ac.jp(安川 力)、s-ogura@med.nagoya-cu.ac.jp(小椋 俊太郎) オフィスアワー : 月曜日～金曜日 9:00～17:00
実務経験を活かした教育の取組	「医師」としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

眼・視覚系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
視覚科学・教授	安川 力
視覚科学・准教授	平野 佳男
視覚科学・講師	加藤 亜紀
視覚科学・講師	木村 雅代
視覚科学・助教	森田 裕
視覚科学・助教	小椋 俊太郎
視覚科学・助教	桑山 創一郎
視覚科学・病院助教	小南 あおい
東部医療センター 教授	野崎 実穂
西部医療センター 准教授	中沢 陽子
客員教授	玉井 一司

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	7	水	1	オリエンテーション、視覚系の構造と機能	安川
	7	水	2	眼科検査法	木村
	7	水	3	眼科実習1解剖	木村
	7	水	4	眼科実習2解剖	木村
	8	木	3	水晶体疾患	野崎
	8	木	4	緑内障	野崎
	14	水	1	ぶどう膜疾患	加藤
	14	水	2	網膜硝子体疾患1	森田
	14	水	3	網膜硝子体疾患2	平野
	14	水	4	神経眼科	玉井
	15	木	3	外眼部・角結膜疾患(60分)	桑山
	15	木	4	PBL1	桑山
	21	水	1	眼科実習2 直像鏡	桑山・小南
	21	水	2	眼科実習3 直像鏡	桑山・小南
	21	水	3	眼科のtranslational research	安川
	21	水	4	小児眼科	中沢
	22	木	3	全身疾患と眼(60分)	小南
	22	木	4	PBL2	小南
	29	木	3	眼科救急(60分)	小椋
	29	木	4	PBL発表準備	小椋
7	6	木	3	PBL発表・総括	加藤・小椋
	6	木	4	PBL発表・総括	加藤・小椋

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・耳鼻・咽喉・口腔系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	岩崎真一、鳥山和宏、鈴木元彦、讃岐徹治、川北大介、佐藤慎太郎、江崎伸一、蒲谷嘉代子、的場拓磨、南方寿哉、有馬菜千枝、佐藤秀吉、竹本直樹 非常勤講師：高橋真理子、中村善久、花井信広
講義期間・曜日・時限	セメスター3（2022/6/5～2023/7/10）、月・木曜日、1～4限目

授業目的・目標	<p>【授業目的】 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の専門領域における医学、医療、福祉に関しこの分野の専門医の役割と必要性について基本的な認識を得るため</p> <p>【授業目標】 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学が扱う領域の解剖、生理、病態、疾患、標準的治療法に 関して基礎的知識を修得し、耳鼻咽喉科特有の検査などを実習する。さらに頭蓋底外科、嚥下障害の診断と治療といった他科との境界領域、人工内耳をはじめとする先端的治療法、全身疾患と耳鼻咽喉科などに対する理解を深める。</p>
キーワード	耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頭頸部
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	領域 I a、II b
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の概念を理解し説明できる 2. 耳科学、神経耳科学に関する構造と機能ならびに検査法を説明できる 3. 外耳・中耳・内耳・顔面神経の代表疾患の疫学・病態・治療を説明できる 4. 鼻副鼻腔の構造と機能、検査法を説明できる 5. 鼻副鼻腔の代表疾患につき疫学・病態・治療を説明できる 6. 口腔咽頭・喉頭の構造と機能ならびに検査法を説明できる 7. 口腔咽頭・喉頭の代表疾患につき疫学・病態・治療を説明できる 8. 耳鼻咽喉科救急疾患について理解し、治療法を説明できる 9. 頭蓋底外科、人工内耳、人工中耳、について理解し説明できる 10. 全身疾患と耳鼻咽喉科との関わりについて理解し説明できる <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-14、E-1, 2, 3, 4, 6, 7, 8、F-1-1, 9, 15, 19, 27、F-2-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 14、G-2-9, 19, 27</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の役割と魅力 2. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の構造と生理 3. 病態、代表的疾患とその診断 4. 標準的治療法 5. 感覚器の検査と新しい治療方法 6. 救急疾患 7. 全身疾患と耳鼻咽喉科 8. 側頭骨、頭蓋底外科 9. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科のリハビリ 10. 形成外科
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。講義後には知識を定着させ、理解を深めるために復習をしておくこと。
成績評価方法	<p>セメスター試験 90点満点 アクティブラーニング 10点満点 合計 100点満点 *アクティブラーニングは、発表・参加態度を参考とする。</p>
教科書・テキスト	<p>新耳鼻咽喉科学 切替一郎ほか、南山堂 標準耳鼻咽喉科・頭頸部外科類 大森孝一ほか、医学書院 病気が見える13耳鼻咽喉科 松村譲児ほか、メディックメディア</p>
参考文献	<p>Head and Neck Surgery Naumann HH, Georg Thieme Verlag 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 森山寛ほか、医学書院 新 図説耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 全5巻 メジカルビュー社 耳鼻咽喉科 診療プラクティス 文光堂 症状から一発診断耳鼻咽喉科専門医はこう見立てる 村上信五ほか、総合医学社</p>
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	リハビリテーションの実践やグループワークを取り入れた授業を行う。 リハビリテーション、グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	<p>担当教員 : 蒲谷嘉代子 医局秘書に伝言可 電話番号(外線) : 052-853-8256 電子メール : meikyo@med.nagoya-cu.ac.jp (秘書宛て) オフィスアワー : 月曜から金曜 9:00～17:00</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	http://ncu-ent.umin.jp/

耳鼻・咽喉・口腔系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 教授	岩崎真一
名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 教授	鈴木元彦
形成外科学 教授	鳥山和宏
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 准教授	讚岐徹治
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 准教授	川北大介
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 講師	佐藤慎太郎
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 講師	江崎伸一
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 講師	蒲谷嘉代子
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 助教	的場拓磨
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 助教	南方寿哉
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 助教	有馬菜千枝
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 助教	竹本直樹
形成外科学 助教	佐藤秀吉
愛知学院大学歯学部外科学(耳鼻咽喉科) 准教授	高橋真理子
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 耳鼻咽喉科部長	中村善久
愛知県がんセンター頭頸部外科部長	花井信広

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
6	5	月	3	耳鼻咽喉科の役割・総論	岩崎真一
6	5	月	4	睡眠 基礎と臨床	有馬菜千枝
6	8	木	1	めまいの基礎と検査	岩崎真一
6	8	木	2	聴覚:解剖・生理・疾患、聴覚検査	蒲谷嘉代子
6	12	月	3	喉頭:解剖と疾患、音声外科	讚岐徹治
6	12	月	4	鼻副鼻腔:解剖・生理・疾患、アレルギー疾患	鈴木元彦
6	15	木	1	鼻副鼻腔腫瘍、嗅覚、味覚	中村善久
6	15	木	2	外耳・中耳:解剖・生理・疾患、顔面神経	南方寿哉
6	19	月	3	めまいの臨床とアクティブラーニング	蒲谷嘉代子
6	19	月	4	嚥下障害の臨床とアクティブラーニング	讚岐徹治
6	22	木	1	全身疾患との関連	高橋真理子
6	22	木	2	救急疾患(異物、外傷、気管食道)	的場拓磨
6	26	月	3	口腔咽頭1:解剖・生理 炎症性疾患と睡眠時無呼吸症候群	佐藤慎太郎
6	26	月	4	口腔咽頭2:疾患、唾液腺疾患	江崎伸一
7	3	月	3	頸部の解剖、頭頸部悪性腫瘍1	川北大介
7	3	月	4	頭頸部悪性腫瘍2	花井信広
7	10	月	3	形成外科総論	鳥山和宏
7	10	月	4	頭頸部再建	佐藤秀吉

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・精神系ユニット
専門・教養	専門
担当教員	医学部：明智龍男、東 英樹、山田敦朗、久保田陽介、中口智博、内田 恵、白石 直、渡辺孝文、利重裕子 西部医療センター：奥山 徹、持田圭仁、大学院人間文化研究科：小川 成、南山大学：中野有美、南知多病院：仲秋秀太郎
履修期間・曜日・時限	セメスター3（2023/6/6～2023/7/18）、火曜日、1～2限目

授業目的・目標	【授業目的】 先進国では病気による国民のQOL損失の最大の原因は精神疾患によるものであることが示唆されていることに加え、身体疾患患者やプライマリーケアを受診する患者においても、高頻度に抑うつ、不安などの精神症状が認められることが示されている。従って、本コースでは専門科を問わず、全ての医師に求められる、精神症状および精神疾患に関する基本的な認識を得ることを目的とする 【授業目標】 広く精神疾患についての診断や治療法の基本に関して理解を深めることを目標とする。
キーワード	気分障害、統合失調症、不安障害、認知行動療法、コンサルテーション
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域 1a, 1b, 1c, 1d, 2a, 2b, 2d, 3a, 3b, 3c, 3d, 3d, 4a, 4b, 4c, 4d
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 精神医学の概念および疾病分類学を理解し説明できる。 2. 心理検査、症状評価法などの精神医学的検査法について説明できる。 3. 精神疾患に対する薬物療法について説明できる。 4. 認知行動療法などの精神療法について説明できる。 5. 児童および青年期にみられる精神疾患について説明できる。 6. 一般身体疾患による精神障害、コンサルテーション精神医学について説明できる。 7. 統合失調症およびその他の精神病性障害について説明できる。 8. 抑うつ症状群について説明できる。 9. 双極性障害について説明できる。 10. 不安症群、強迫症、摂食障害について説明できる。 11. 認知症その他老年期の精神疾患について説明できる。 12. 心的外傷およびストレス関連障害群、解離症群、身体症状症について説明できる。 13. 日本における精神保健福祉の法規と制度について説明できる。 14. 睡眠覚醒障害群、てんかんについて説明できる。 15. 精神作用物質関連障害 について説明できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 D-15)精神系、F-1-3)食思(欲)不振、F1-1-4)体重減少・増加、F-1-8)けいれん、F-1-17)動悸、F-1-31)不安・抑うつ
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 精神医学総論 2. 精神科検査法 3. 薬物療法 4. 精神療法 5. 児童精神医学 6. 症状精神病・コンサルテーション精神医学 7. 統合失調症 8. 抑うつ障害群 9. 双極性障害 10. 不安症群、強迫症、摂食障害 11. 認知症その他老年期の精神疾患 12. PTSD、解離症群、身体症状症 13. 精神保健福祉法 14. てんかん、睡眠-覚醒障害群 15. 精神作用物質関連障害
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 授業の際に過去の授業の内容について質問されても答えられるよう、復習しておくこと。
成績評価方法	セメスター試験（100点満点）
教科書・テキスト	カプラン臨床精神医学テキスト 第3版 メディカルサイエンスインターナショナル 標準精神医学 第8版 尾崎紀夫、三村将他編、医学書院 精神科診察・診断学 古川壽亮、神庭重信編著、医学書院 精神科における予診・初診・初期治療 笠原嘉、星和書店 内科医のための精神症状の見方と対応 宮岡等、医学書院 DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル 日本精神神経学会監修、医学書院
参考文献	
履修上の注意事項	精神腫瘍学(サイコオンコロジー)については、臨床腫瘍学コースで講義する
履修者への要望事項	最終的な講義計画は初回の講義時に配布する。 外部講師による特別講義が予定されている場合には必ず出席すること。
アクティブ・ラーニング	対話・議論型授業
連絡先・オフィスアワー	担当教員 : 東 英樹 電話番号(外線) : 052-853-8271 電子メール : azma@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー : 適時(事前に連絡すること)
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	http://www.ncpsychiatry.com/

精神系ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
精神・認知・行動医学分野 教授	明智龍男
精神・認知・行動医学分野 講師	東 英樹
精神・認知・行動医学分野 講師	山田敦朗
精神・認知・行動医学分野 助教	中口智博
精神・認知・行動医学分野 助教	利重裕子
精神・認知・行動医学分野 助教	白石 直
精神・認知・行動医学分野 助教	渡辺孝文
緩和ケア部 講師	内田 恵
西部医療センター精神科・児童精神科 教授	奥山 徹
西部医療センター精神科・児童精神科 准教授	持田圭仁
医療政策・経営科学 講師	久保田陽介
名古屋市立大学 大学院人間文化研究科 教授	小川 成
南山大学 人文学部心理人間学科 教授	中野有美
南知多病院 診療部長	仲秋秀太郎

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	6	火	1	精神医学総論	明智龍男
6	6	火	2	精神科治療:精神療法(認知行動療法を中心に)	中野有美
6	13	火	1	精神科治療:薬物療法および身体的治療法	渡辺孝文
6	13	火	2	精神科検査法:心理検査、症状評価尺度、画像検査、生理検査	利重裕子
6	20	火	1	気分障害(1)	奥山 徹
6	20	火	2	気分障害(2)	持田圭仁
6	27	火	1	不安症群、強迫症および関連症群、食行動障害および摂食障害群	小川 成
6	27	火	2	統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害群	白石 直
7	4	火	1	神経発達症群その他児童・思春期の精神疾患	山田敦朗
7	4	火	2	認知症その他老年期の精神疾患	仲秋秀太郎
7	11	火	1	心的外傷およびストレス因関連障害群、解離症群、身体症状症および関連症群	中口智博
7	11	火	2	医学的疾患による精神障害およびコンサルテーション精神医学	内田 恵
7	18	火	1	精神保健福祉法、睡眠-覚醒障害群、てんかん	東 英樹
7	18	火	2	精神作用物質関連障害	久保田陽介

開講年度	2023年度
科目名	臨床医学コース・臨床感染症学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	担当教員・講義予定表を参照
講義期間・曜日・時限	担当教員・講義予定表を参照

授業目的・目標	<p>【授業目的】 感染症学の理解には、これまで勉強してきた微生物学、薬理学、解剖学等の基礎医学と内科学、外科学等の臨床医学、さらには公衆衛生学などの知識が必要である。これらの知識をもとに、実際の感染症に対する予防法や診断治療方法について学ぶ。特にプライマリケアにおける感染症を中心とした各臓器別に実践的な学習（症例提示）を行う。</p> <p>【授業目標】 診断から治療、感染予防対策まで幅広く学び、医師として最低限の感染症の知識を習得し、臨床実習に備える。</p>
キーワード	感染症、感染経路、検査、治療、予防
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	III-a, b, d
学習到達目標	<p>【学習到達目標】 感染症の病態を理解し、診断・治療の合理的解釈ができる。実際の各種感染症に対する予防法や診断治療方法を習得する。</p> <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-2) 医学知識と問題対応能力 C-3-1) 生体と微生物 E-2) 感染症</p>
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	輸入感染症 プライマリケアにおける感染症（呼吸器領域） プライマリケアにおける感染症（耳鼻科領域） プライマリケアにおける感染症（消化器領域） 婦人科領域の感染症（性感染症含む） 泌尿器科領域の感染症（性感染症含む） 小児感染症 中枢神経系感染症 外科・周術期感染症 日和見感染症と院内感染 感染症の臨床検査 抗菌薬の適正使用 感染予防対策
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。理解が不完全であった項目については、繰り返し復習して修得に努めること。
成績評価方法	セメスター試験（100）点満点；出席率が70%未満の場合は、本試験の受験資格なし。 *セメスター試験が60点未満の場合は不合格のため再試験。
教科書・テキスト	<p>【要点整理】： クエスチョン・バンクCBT 2019 vol.3 プール問題 臨床後編 メディックメディア STEP内科2 血液・感染症 海馬書房 病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 メディックメディア 新・病態生理でできた内科学9 感染症 医学教育出版社 iMedicine 第10巻 感染症 リプロ・サイエンス(発刊予定)</p> <p>【成書】： 標準感染症学 医学書院 標準微生物学 医学書院</p> <p>【臨床】： レジデントのための感染症診療マニュアル 医学書院 New専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ 11 感染症 日本医事新報社</p> <p>【基礎医学】： ブラック微生物学 丸善 微生物学250ポイント 金芳堂</p>
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介する。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特になし。
アクティブ・ラーニング	該当なし。
連絡先・オフィスアワー	<p>【臨床感染制御学】 担当教員：中村敦 電話番号（外線）：052-851-5511（PHS：3332） 電子メール：anakamur@med.nagoya-cu.ac.jp</p> <p>【呼吸器・免疫アレルギー内科学】 担当教員：速水梓乃（医局秘書） 電話番号（外線）：052-851-5511（内線：8216） 電子メール：2n-resp@med.nagoya-cu.ac.jp</p>
実務経験を活かした教育の取組	臨床経験を持つ医師・医療専門職員が講義を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/section/central/kansen/

臨床感染症学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
臨床感染制御学 教授	中村 敦
東部医療センター感染症科教授	長谷川千尋
地域医療教育研究センター 教授	谷田諭史
産科婦人科・周産期母子医療センター 病院教授	鈴木伸宏
呼吸器・免疫アレルギー内科学 准教授	伊藤 穰
耳鼻咽喉・頭頸部外科学 講師	江崎伸一
腎・泌尿器科学 講師	恵谷俊紀
小児科・分べん成育先端医療センター 助教	伊藤孝一
消化器外科学 助教	柳田 剛
脳神経内科学 助教	川嶋将司
感染制御室 副室長・主査	小川綾花
診療技術部 臨床検査技術科 微生物検査係長	近藤周平
薬剤部・感染制御室 専従薬剤師	和知野千春

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
10	11	水	3	輸入感染症	長谷川千尋
10	11	水	4	感染症の臨床検査	近藤周平
10	17	火	1	抗菌薬の適正使用	和知野千春
10	17	火	2	プライマリケアにおける感染症(呼吸器領域)	伊藤 穰
10	17	火	3	プライマリケアにおける感染症(耳鼻科領域)	江崎伸一
10	17	火	4	プライマリケアにおける感染症(消化器領域)	谷田諭史
10	18	水	1	婦人科領域の感染症(性感染症含む)	鈴木伸宏
10	18	水	2	予備日	
10	18	水	3	小児感染症	伊藤孝一
10	18	水	4	中枢神経系感染症	川嶋将司
10	24	火	1	泌尿器科領域の感染症(性感染症含む)	恵谷俊紀
10	24	火	2	感染予防対策	小川綾花
10	24	火	3	日和見感染症と院内感染	中村 敦
10	24	火	4	外科・周術期感染症	柳田 剛

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	成長と発達／発生
専門・教養	専門
担当教員	<小児科> 齋藤伸治（教授）、岩田欧介（准教授）、服部文字（准教授）、野村孝泰（講師）、伊藤孝一（講師）、青山幸平（助教）、亀井美智（助教）、津田兼之介（助教）、根岸豊（助教）、神農英雄（助教）、岩田幸子（病院助教）、横井暁子（病院助教）、大橋圭（病院助教） <非常勤講師> 藤田直也、宮地泰士、岩田直美、戸川貴夫 <小児外科> 近藤知史（病院准教授）高木大輔（病院講師） <救急科> 今井一徳（東部医療センター講師）
講義期間・曜日・時限	別紙参照

授業目的・目標	1. 一般医として各専門領域で小児患者を診療する場合に欠かせない小児病態生理を学習する。2. 救急医療やプライマリケアで小児科を診療する上で必須となる発育・発達、生理的特性を理解する。3. 小児の病態生理、診断、治療法、そして重症児のトリアージ基準を理解する。4. 家族の中でのこどもの幸せを実現するための幅広い見方・考え方を習得する。
キーワード	発育・発達・呼吸循環・免疫・神経・代謝、小児によく見られる外科的疾患
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅰ a, b, c and d 領域Ⅲ a, b, c and d 領域Ⅳ a and d
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 小児特有の生理と病態の概念を理解し説明できる 2. 疾病を有する小児の初期評価・トリアージ方法について理解し説明できる 3. 小児の代表的内科疾患の疫学・病態・治療を理解し説明できる 4. 小児期の代表的な外科疾患の疫学・病態・手術法を含めた治療を理解し説明できる 5. 小児期の疾病予防およびワクチン接種について理解し、その意義について説明できる 6. 早産児及び病的成熟新生児の呼吸循環のトランジションについて理解し説明できる 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-1-1, A-1-2, A-1-3, A-2-1, A-2-2, A-3-1, A-4-1, A-4-2, A-5-1, A-6-1, A-7-1, A-7-2, A-8-1, A-9-1, B-1-3, B-1-4, B-1-5, B-1-6, B-1-7, B-1-8, B-1-9, B-2-1, C-4-5, C-4-6, C-5-5, C-5-6, C-5-7, D-6, D-7, E-3, E-7-1, E-7-2, E-7-3, E-7-4, F-1-1, F-2-2, F-3-1, F-3-2, F-3-3, F-3-4, F-1-15, F-1-20, F-1-21, F-1-22, F-1-23, F-1-24, F-1-25, F-1-27, F-2-9, F-3-5, F-3-5, F-3-5, F-3-5, F-3-5, F-3-5, F-3-6, F-3-6, F-3-6, G-1-1, G-1-1, G-2-1, G-2-2, G-2-3, G-2-4, G-2-5, G-2-6, G-2-7, G-2-8, G-2-9, G-2-10, G-2-11, G-2-12, G-2-13, G-2-14, G-2-15, G-2-16, G-2-18, G-2-19, G-2-20, G-2-21, G-2-22, G-2-23, G-2-24, G-2-25, G-2-26, G-2-27, G-2-28, G-2-29, G-2-33, G-2-34, G-3-1, G-3-2, G-3-3, G-3-4, G-4-1, G-4-4
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	“Children are not miniature adults.”と言われるように、小児は成人と比較して解剖学的にも生理学的にも異なる特徴を有している。本講義では、家族・学校・社会の中でのこどもの健康と幸せを実現するための必須知識を、正常像から連続する病態生理の理解、診断・介入プランの立案、治療効果の評価を通じて学ぶ。また、予防接種や健診などの疾病を予防するための小児保健についても学習する。
授業計画	将来幅広い分野で小児を診療する場合に必要な知識として、1. なごモンディジーズの診断と重症例のトリアージ、2. 各臓器別の専門疾患の概略の理解、3. 疾病を予防したり、早期にスクリーニングするための戦略や政策の理解、4. 1～3を理解するために必要な小児特有の病態生理や発育・発達の特徴をカバーする講義を、これらの分野のエキスパートによる参加型の講義を多用しながら行う。小児外科については、特に新生児外科疾患において専門性が高いため、知識獲得を中心とした講義形式にて行う（M4）。
授業時間外の学修（準備学習を含む）	実習にて学習した疾患について、書籍やインターネット等を用いて掘り下げ、実習中に得られなかったことの補完、得たことの検証を行なう。また、これから学習する疾患が分かるときには、あらかじめ概略を調べておく。
成績評価方法（令和元年度までの項目名称「成績評価基準」）	セメスター試験（60）点満点 アクティブラーニング（発表20、積極性20、計40）点満点 本試は以上3項目の合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。
教科書・テキスト	Nelson Textbook of Pediatrics, 20th Edition, by Robert M, Elsevier（日本語訳第19版）； 標準小児科学 第8版 監修 内山聖 医学書院；標準小児外科学 第6版 監修 伊藤泰雄 医学書院
参考文献	
履修上の注意事項	時間外にも所定のテキストの該当部分を学習すること
履修者への要望事項	小児医療に携わる多職種チームの一員として、病児のプロブレム解消のために責任感を持って取り組み、いかなる困難な局面においても与えられた最善の情報とエビデンスから最善の判断を選択することを実践的に体感してほしい。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニングを取り入れ、提示された症例から問題点を設定、情報収集、予測、介入法の提案ができるようにする。
連絡先・オフィスアワー	担当教員：岩田欧介 准教授 電話番号（外線）：052-853-8246 電子メール：o.iwata@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	臨床経験豊かな教員が症例を多く取り入れた実践的な講義を行う。
備考	授業計画表を確認の上、教科書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
関連URL	

成長と発達／発生ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
新生児・小児医学分野 教授	齋藤 伸治
新生児・小児医学分野 准教授	岩田 欧介
新生児・小児医学分野 准教授（東部医療センター）	服部 文子
新生児・小児医学分野 講師	野村 孝泰
新生児・小児医学分野 講師（東部医療センター）	伊藤 孝一
新生児・小児医学分野 助教	青山 幸平
新生児・小児医学分野 助教	亀井 美智
新生児・小児医学分野 助教	津田兼之介
新生児・小児医学分野 助教	根岸 豊
新生児・小児医学分野 助教	神農 英雄
新生児・小児医学分野 病院助教	岩田 幸子
新生児・小児医学分野 病院助教	大橋 圭
新生児・小児医学分野 病院助教	横井 暁子
小児外科 病院准教授	近藤 知史
小児外科 病院講師	高木 大輔
救急科 講師（東部医療センター）	今井 一徳
あいち小児保健医療総合センター 腎臓科 内科部長	藤田 直也（非常勤講師）
名古屋西部地域療育センター 所長	宮地 泰士（非常勤講師）
豊橋市民病院 小児科	戸川 貴夫（非常勤講師）
あいち小児保健医療総合センター 予防診療科 医長	岩田 直美（非常勤講師）

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
6	5	月	1	小児と小児医療の特徴	齋藤 伸治
			2	乳幼児健診と小児保健	齋藤 伸治
6	6	火	3	性腺・副腎疾患	青山 幸平
			4	小児糖尿病	青山 幸平
6	12	月	1	ウイルス感染症・予防接種	岩田 幸子
			2	消化管閉鎖症および直腸肛門奇形	高木 大輔
6	13	火	3	頭頸部、腹壁形成異常	近藤 知史
			4	肝・胆・膵	戸川 貴夫
6	19	月	1	免疫不全	齋藤 伸治
			2	小児の診療と治療～概論	神農 英雄
6	20	火	3	アレルギー疾患（喘息以外）	野村 孝泰
			4	新生児総論 胎児疾患	岩田 欧介
6	26	月	1	食道・上部消化管疾患および腹膜炎	高木 大輔
			2	リウマチ性疾患	岩田 直美
6	27	火	3	小児固形悪性腫瘍	近藤 知史
			4	虐待と児童福祉	宮地 泰士
7	3	月	1	小児の事故・救急	今井 一徳
			2	その他の感染症（ウイルス他）	津田 兼之介
7	4	火	3	肝胆膵、脾疾患	近藤 知史
			4	消化管	伊藤 孝一
7	10	月	1	小児血液・腫瘍（総論・小児固形腫瘍）	亀井 美智
			2	早産と新生児疾患	岩田 欧介
7	11	火	3	細菌感染症	横井 暁子
			4	小児の成長と発達	岩田 欧介
7	18	火	3	遺伝・先天異常	齋藤 伸治
			4	神経発達症とその関連疾患	大橋 圭
7	19	水	1	腎	藤田 直也
			2	小児の水・電解質と脱水	岩田 欧介
			3	神経疾患～てんかんを中心に	根岸 豊
			4	筋疾患	服部 文子
7	21	金	3	神経系の先天奇形	齋藤 伸治
			4	新生児症例の臨床推論	岩田 欧介

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・麻酔科学・集中治療医学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	祖父江和哉
講義期間・曜日・時限	1月10日（火）、1月17日（火）、2月21日（火）

授業目的・目標	【授業目的】患者の病態を全臓器にわたって包括的に理解する医師と足るために、急性期の患者の全身管理を理解する。 【授業目標】麻酔科医が関与する周術期管理と集中治療の基本知識を身につけ、全身管理を理解した医師となる基礎を固める。
キーワード	麻酔、周術期管理、周産期麻酔、集中治療
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	I-a、I-d、II-b
学習到達目標	1. 術前の患者評価の方法について述べるができる。 2. 麻酔を概説できる。 3. 麻酔科医が行う術後管理について述べるができる。 4. 集中治療が必要な患者を判断し、必要性を述べるができる。 5. 集中治療で行われる治療を概説できる。 6. 医療における痛み管理の重要性を説明できる。 7. 周産期医療における麻酔科医の役割を説明できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 F-1-5)、F-1-6)、F-2-9)、F-2-10)
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	急性期の患者の全身管理を理解するため、麻酔科医が関与する周術期管理の基本と集中治療に必要な生理学と治療法について解説する。
授業計画	授業計画表に示す通り 講義 10回 症例検討 2回
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	事前に講義テーマについて概要を学習して講義に臨むこと。 毎回講義の最初に前回授業内容に係る小テスト（レスポンスカードへ記載）を実施するので、それらの問いを中心に復習すること。
成績評価方法	1. セメスター試験80%、症例検討20% 2. 講義参加度、講義中の態度、発言頻度、質問頻度、毎講義後の小テスト（レスポンスカード）の内容により評価する。 3. 症例検討は、参加度、取り組み態度、発言頻度、質問頻度、グループ活動の成果により評価する。
教科書・テキスト	「ミラー麻酔科学」編集 ロナルド・D・ミラー 監修 武田純三（MEDSi） 「ICUブック第4版」ポール・L・マリノ 翻訳 稲田英一（MEDSi）
参考文献	
履修上の注意事項	講義資料は、事前にPDFで配布する。 レスポンスカードの提出は、当該講義終了まで。期限を超えた提出は、認めない。
履修者への要望事項	講義はBSLで最低限の知識を身につけることを目的とする。よって、講義内容は、基本的として学べべき項目を提示する。さらに、より詳細な内容は自己学習で補完すること。
アクティブ・ラーニング	症例検討は、グループワークおよびプレゼンテーション
連絡先・オフィスアワー	担当教員 : 麻酔科学・集中治療医学分野 祖父江和哉 電話番号（外線）：052-853-8281（直通） オフィスアワー : 平日（月～金）午前9時～午後4時
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

麻酔科学・集中治療医学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
麻酔科学・集中治療医学分野・教授	祖父江和哉
麻酔科学・集中治療医学分野周産期麻酔部門・教授	田中 基
看護学部・教授	薊 隆文

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	10	火	1	<麻酔・ICU>麻酔科学とは、周術期医学とは(総論)	祖父江和哉
			2	<麻酔>術前管理 患者の術前評価・前投薬	祖父江和哉
			3	<麻酔>臨床薬理 鎮静薬、筋弛緩薬	祖父江和哉
			4	<麻酔>区域麻酔、局所麻酔薬	祖父江和哉
1	17	火	1	<麻酔>術後管理	祖父江和哉
			2	<麻酔>気道管理	薊 隆文
			3	<麻酔・ICU>臨床生理 重症患者の管理に必要な呼吸生理学	薊 隆文
			4	<麻酔>周産期麻酔	田中 基
2	21	火	1	<麻酔・ICU>臨床生理 循環生理学・ショックの病態と生理	祖父江和哉
			2	<ICU>感染症 ICUの感染症・感染予防	祖父江和哉
			3	<麻酔>症例検討：症例提示とグループワーク	祖父江和哉
			4	<麻酔>症例検討：発表と討論	祖父江和哉

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・疼痛医学（痛みと行動科学）ユニット
専門・教養	専門
担当教員	太田晴子、酒井美枝、徐 民恵、杉浦健之
講義期間・曜日・時限	セメスター1（2023/2/7～2022/2/14）、火曜日、1～4限目

授業目的・目標	<p>【授業目的】 疼痛医学の専門領域における医学、医療、福祉に関し、この分野の専門医の役割と必要性について基本的な認識を得るために、本講義を学ぶ。また、その過程で、行動科学の視点を知ることを目指す。</p> <p>【授業目標】 疼痛疾患に関わる広範な領域の解剖、生理、病態、疾患、標準的治療法、行動科学の理論や技法に関して基礎的知識を習得し、全人的医療に対する理解を深める。さらに、痛みを持った患者に対して、集学的な対応の重要性を理解し、基本的な対応ができる医療人となることを目標とする。</p>
キーワード	急性痛、慢性痛、生物心理社会モデル、行動科学
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域Ⅰ-a, c, d、Ⅱ-a、Ⅲ-c、Ⅳ-b, d
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疼痛科学の概念を理解し説明できる 2. 医療における痛み管理の重要性を説明できる。 3. 侵害受容・痛み認知に関する基盤構造と機能ならびに検査法を説明できる 4. 急性痛の代表疾患の疫学・病態・治療を説明できる 5. 慢性痛の評価を説明し、実践できる 6. 慢性痛に対する集学的治療を概説できる 7. 行動科学に関する理論や技法を理解し説明できる 8. 痛み診療を含む様々な医療現場において、全人的理解に基づく基本的な対応ができる <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】A-1-2, A-3-1, A-5-1, B-1-5, C-2-3, C-4-5, C-5, D-2, D-4, D-15, F-1, F-2, G-2</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している）</p> <p>優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している）</p> <p>良：70点以上（学修到達目標を達成している）</p> <p>可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・疼痛医学総論：痛み医療総論（杉浦） ・診断：痛みの分類と評価（太田） ・治療法（1）：痛みの運動療法（杉浦） ・治療法（2）：痛みの薬物療法・インターベンショナル治療（徐） ・医療現場における行動科学（酒井） ・慢性痛と精神・心理・社会的要因（酒井） ・行動の基本原則（酒井） ・慢性痛への行動科学的アプローチ（酒井）
授業計画	担当教員・授業計画表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	<p>セメスター試験（100）点満点</p> <p>*セメスター試験が60点未満の場合、講義レスポンスカード、アクティブラーニングをそれぞれ10点を上限としてプラスする。講義レスポンスカードの内容の妥当性・独自性、アクティブラーニングの発表・参加態度を参考とする。</p>
教科書・テキスト	疼痛医学（医学書院）、神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン（真興交易）、慢性疼痛診療ガイドライン（真興交易）、ペインクリニック治療指針（真興交易）
参考文献	Bonica's Management of Pain, Wall & Melzack's Textbook of Pain、行動分析学入門、行動医学テキスト
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	後半の行動科学に関する一部の授業で、グループワークもしくはロールプレイを行う。その際は積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	<p>担当教員：杉浦健之 内線3449</p> <p>電話番号（外線）：052-851-5511 内線2288</p> <p>電子メール：tsugiura@med.nagoya-cu.ac.jp ※原則としてメールで連絡してください。</p> <p>オフィスアワー：9：00～17：00 [月曜から金曜] 要事前連絡</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師、公認心理師・臨床心理士としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	https://itami-net.or.jp

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

疼痛医学(痛みと行動科学)ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
麻酔科学・集中治療医学分野	杉浦健之
麻酔科学・集中治療医学分野	徐 民恵
麻酔科学・集中治療医学分野	太田晴子
麻酔科学・集中治療医学分野	酒井美枝

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
2	7	火	1	疼痛医学総論: 痛み医療総論	杉浦健之
			2	診断: 痛みの病態と評価	太田晴子
			3	治療法(1): 痛みの運動療法	杉浦健之
			4	治療法(2): 痛みの薬物療法・インターベンショナル治療	徐 民恵
2	14	火	1	医療現場における行動科学	酒井美枝
			2	慢性痛と精神-心理-社会的要因	酒井美枝
			3	行動の基本原理	酒井美枝
			4	慢性痛への行動科学的アプローチ	酒井美枝

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース 食事と栄養療法ユニット
専門・教養	専門
担当教員	濱野高行、田中智洋、高木大輔、山田悠史 非常勤講師：土岐祐一郎、三井章、山下純世
講義期間・曜日・時限	セメスター2 (2023/2/28～2023/5/25)

授業目的・目標	栄養療法の重要性を認識し、経口食事療法、強制栄養法を理解する。
キーワード	栄養評価、外科代謝、食事療法、輸液、経腸栄養
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	領域Ia、I Ib
学習到達目標	1: 食品と栄養素の関係を説明でき、代表的食品の蛋白、エネルギー量を計算できる。 2: 栄養評価ができる。 3: 腎疾患、糖尿病、高血圧、肥満症の食事療法を説明できる。 4: 外科代謝栄養及び、外科術後の栄養障害について理解する。 5: 静脈・経腸栄養法を理解する。 6: 小児、成人の輸液を理解する。 【該当するモデルコアカリ】D-7,D-8, D-12, F-2-11
成績評価基準	秀：セメスター試験90点以上 優：セメスター試験80点以上 良：セメスター試験70点以上 可：セメスター試験60点以上
授業概要	1: 臨床栄養管理（食事の基本） 2: 小児輸液管理 3: 高血圧に対する食事療法 4: 慢性腎不全に対する食事療法 5: 糖尿病・肥満症に対する食事療法 6: 総合科学としての分子病態栄養学 7: 高齢者の栄養管理 8: 消化器外科術後の栄養障害
授業計画	小児～成人の栄養管理、経管栄養と経腸栄養の違い、補液の原則、電解質管理を実例を中心に説明する。
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業時間外の学習（授業概要項目参照） 1: 受講前に1日分の食事記録を書いてみる 2: 小児外科学の教科書（例：標準小児外科学）にて復習 3: 第一セメスターで学習した高血圧各論の復習 4: 第一セメスターで学習した腎不全各論の復習 5: 授業計画表を確認の上、教科書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと 6: 授業計画表を確認の上、教科書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと 7: 授業計画表を確認の上、教科書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと
成績評価方法	セメスター試験（100）点満点 アクティブラーニング（参考）点満点 その他（具体的に）（参考）点満点 本試はセメスター試験のみで、合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。 再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。 アクティブラーニングとその他項目については参考とし、成績には加味しない。
教科書・テキスト	セメスター試験（100）点満点 アクティブラーニング（参考）点満点 その他（具体的に）（参考）点満点 本試はセメスター試験のみで、合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。 再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。 アクティブラーニングとその他項目については参考とし、成績には加味しない。
参考文献	
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、グループディスカッション
連絡先・オフィスアワー	担当教員：消化器外科 小川 了 電話番号（外線）：052-853-8226（内線：3686） 電子メール：r-ogawa@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師・管理栄養士としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

食事と栄養療法ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
腎臓内科 教授	濱野高行
内分泌・糖尿病内科 准教授	田中智洋
小児・移植外科 病院講師	高木大輔
栄養管理係・係長	山田悠史
非常勤講師 大阪大学 消化器外科 教授	土岐祐一郎
非常勤講師 名古屋市立大学附属西部医療センター 消化器外科 教	三井 章
非常勤講師 名古屋市立大学附属西部医療センター 循環器内科 教	山下 純世

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
3	1	水	1	臨床栄養管理(食事の基本)	山田悠史
3	1	水	2	高血圧に対する食事療法	山下 純世
3	1	水	3	慢性腎不全に対する食事療法	濱野高行
3	1	木	4	消化器外科術後の栄養障害	土岐祐一郎
3	8	水	1	糖尿病・肥満症に対する食事療法	田中智洋
3	8	水	2	総合科学としての分子病態栄養学	田中智洋
3	8	水	3	小児輸液管理	高木大輔
3	8	水	4	高齢者の栄養管理	三井 章

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・放射線等を用いる診断と治療ユニット
専門・教養	専門
担当教員	樋渡昭雄、富田夏夫、下平政史、中川基生、河合辰哉、小川正樹、浦野みずぎ、川口毅恒、太田賢吾、鈴木一史、山本達仁、中山敬太、高岡大樹、岡崎大、木曾原昌也、中島雅大、丹羽正成、鳥居暁、大場翔太、荻野浩幸、岩田宏満
講義期間・曜日・時限	セメスター4（2023年9月8日～10月13日）

授業目的・目標	医療における放射線医学の役割を理解するために（目的）、放射線治療、画像診断、IVRそれぞれの基本的考え方を修得する（目標）。
キーワード	放射線治療、画像診断、IVR
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	領域 Ia、Ic、IIa、IIb、IIc、II d、IIe、IVd
学習到達目標	<p>【学習到達目標】 放射線治療の基本的知識を説明できる。 治療中及び治療後の患者管理を述べることができる。 画像診断：画像の成り立ちを理解し、各領域ごとに基本的読影方法を説明できる。 IVRの適応と内容、合併症・副作用を述べることができる。</p> <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】 E-6：放射線の生体影響と放射線障害、F-2-5：放射線等を用いる診断と治療</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	講義
授業計画	放射線医学M4講義予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、参考文献等により該当箇所を予習した上で、実習に臨むこと
成績評価方法	<p>セメスター試験 90点満点 アクティブラーニング 10点 *アクティブラーニングは、発表・参加態度を参考とする。</p>
教科書・テキスト	
参考文献	標準放射線医学 第7版（医学書院）
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	グループワークを取り入れた授業を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	<p>担当教員 : 浦野みずぎ 電話番号（外線）：放射線科医局 853-8276（内線8276） 電子メール : radon@med.nagoya-cu.ac.jp ※欠席・遅刻の場合は、必ずメール連絡すること。 オフィスアワー : 月～金：09:00～17:00（但し事前に連絡すること）</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

放射線等を用いる診断と治療ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
放射線科 教授	樋渡昭雄
放射線科 准教授	富田夏夫
放射線科 准教授	下平政史
放射線科 講師	中川基生
放射線科 講師	河合辰哉
放射線科 講師	小川正樹
放射線科 助教	浦野みすぎ
中央放射線部 助教	川口毅恒
中央放射線部 助教	太田賢吾
放射線科 助教	山本達仁
放射線科 助教	中山敬太
放射線科 助教	木曾原昌也
放射線科 助教	中島雅大
放射線科 助教	大場翔太
高度医療教育研究センター 教授	荻野浩幸
西部医療センター陽子線治療科 准教授	岩田宏満

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
9	8	金	1	CT・MRIの基本/小児画像診断	中川基生
			2	核医学	川口毅恒
			3	放射線治療概論	富田夏夫
			4	放射線生物学	岩田宏満
9	15	金	1	胸部画像診断1	中島雅大
			2	泌尿生殖器画像診断	木曾原昌也
			3	X線・CT・MRIの基礎 放射線総論	樋渡昭雄
			4	粒子線治療	荻野浩幸
9	29	金	3	IVR1	中山敬太
			4	IVR2	下平政史
10	6	金	1	放射線治療各論1	高岡大樹
			2	高精度放射線治療	岡崎大
			3	救急画像診断	小川正樹
			4	乳腺画像診断	浦野みすぎ
10	13	金	1	放射線治療各論2	富田夏夫
			2	心血管画像診断	鈴木一史
			3	腹部画像診断	河合辰哉
			4	放射線治療各論3	丹羽正成

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・輸血と移植ユニット
専門・教養	専門
担当教員	近藤知史、鈴木達也、藤原 圭、田村哲也、李 政樹、松浦健太郎
履修期間・曜日・時限	2023年9月4日～2023年10月2日・火曜日・3限4限

授業目的・目標	<p>【授業目的】輸血および移植医療について、臨床実習に必要な知識だけでなく将来臨床医となった場合に応用できるための基本事項を身につける。また医療や医療行政による健康被害の歴史から教訓を学ぶ。</p> <p>【授業目標】目標は、輸血に必要な検査および副作用について学び、血液浄化療法から細胞治療、最近の輸血製剤に関する問題点までを理解する。また臓器移植について脳死と臓器移植に関連する法律を理解する。臓器移植の対象となる基本的な病態と適応、移植免疫に関する基礎知識から肝移植を中心とした臓器移植の実態と、術前術後管理および移植に伴う倫理面に関する事項を理解する。集団予防接種等によるB型肝炎感染被害拡大の歴史と教訓について認識・理解する。</p>
キーワード	日本の臓器移植の現状と肝移植、輸血と細胞治療にまつわる諸問題、肝炎virus、肝不全と治療
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域Ⅱe、Ⅲc、Ⅳa、Ⅳb、Ⅳd
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 輸血管理業務の概念を理解し、輸血関連検査項目の内容、意義を説明できる。 2. 輸血療法の適応の判断、実施に関する注意点、血液製剤の適正使用について理解し、説明できる。 3. 輸血施行時におこる合併症・副作用について理解でき、その対応方法について述べるができる。 4. 移植免疫の概要について理解でき、造血幹細胞移植をはじめ細胞治療について述べることができる。 5. 脳死判定と脳死臓器移植の手続きについて述べるができる。 6. 臓器移植の対象となる病態と適応について述べるができる。 7. 移植免疫および移植に伴う感染症の特徴を述べることができる。 8. 肝移植の実態について理解し、説明できる。 <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】</p> <p>A-1-1) 医の倫理と生命倫理、A-2) 医学知識と問題対応能力、B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度、B-2-1) 死と法、C-3-1) 生体と微生物、C-4-4) 循環障害、臓器不全、D-1) 血液・造血器・リンパ系、D-7) 消化器系、E-2) 感染症、F-1-24) 黄疸、F-2-13) 輸血と移植</p>
成績評価基準	<p>秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している）</p> <p>優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している）</p> <p>良：70点以上（学修到達目標を達成している）</p> <p>可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）</p>
授業概要	<p>(講義要目)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臓器移植総論と臓器移植に関わる法律 移植適応となる小児疾患 2. 臓器移植に伴う感染症（肝移植を中心に） 3. 輸血管理業務・輸血検査 4. 輸血療法・適正輸血 5. B型肝炎ウイルス感染要因と再活性化 6. 重症肝不全の治療 7. 血液浄化療法 8. 肝移植、生体肝移植 9. 輸血合併症・副作用 10. 移植免疫・細胞治療
授業計画	<p>授業概要を参照</p> <p>あらかじめ授業概要から得られる情報を基に、教科書や参考文献・各種ホームページを参照しながら予習した上で、講義に臨むこと。内容と時間配分によっては、討議形式も随時行う。なお、講義内容を講義後にクラウドにアップロードする場合もある。</p>
授業時間外の学修(準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。
成績評価方法	<p>セメスター試験（100点）で、6割以上を合格とする。再試験も同じとする。</p> <p>[以下の項目について評価する]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 輸血管理業務の概念、輸血関連検査項目の内容、意義を理解できているか。 2. 輸血療法の適応の判断、実施に関する注意点、血液製剤の適正使用について理解できているか。 3. 輸血施行時におこる合併症・副作用、その対応方法について理解ができているか。 4. 移植免疫の概要、造血幹細胞移植をはじめ細胞治療について理解ができているか。 5. 脳死判定と脳死臓器移植の手続きについて理解ができているか。 6. 臓器移植の対象となる病態と適応について理解ができているか。 7. 移植免疫および移植に伴う感染症の特徴について理解ができているか。 8. 肝移植の実態について理解ができているか。
教科書・テキスト	<p>(テキスト)</p> <p>血液型と輸血検査 第2版 大久保康人著、医歯薬出版</p> <p>輸血ハンドブック 関口定美著、医学書院</p> <p>分子細胞免疫学 原著第9版 中尾篤人監訳、エルゼビア・ジャパン</p> <p>標準外科学 第14版 畠山勝義著、医学書院</p>
参考文献	<p>(参考図書)</p> <p>血液製剤の使用にあたって 第4版 血液製剤調査機構編集、(株)じほう</p> <p>イラストレイテッド免疫学 原書2版 リッピンコットシリーズ</p> <p>免疫ペディア～101のイラストで免疫学・臨床免疫学に強くなる！ 羊土社</p> <p>サイトカインの最新線-疾患とのかかわりを探る 野俊夫編、羊土社</p> <p>Annual Review 免疫 2008 菊池浩吉他編、中外医学社</p> <p>実践・輸血マニュアル～自己血輸血輸血療法全般の理解を求めて 臨本信博編、医薬ジャーナル</p> <p>日本急性血液浄化学会標準マニュアル 日本急性血液浄化学会編集、医学図書出版</p> <p>ICU/CCUの急性血液浄化療法の考え方、使い方 中外医学社</p> <p>(公社)日本臓器移植ネットワークホームページ https://www.jotnw.or.jp/</p> <p>一般社団法人 日本移植学会ホームページ http://www.asas.or.jp/jst/</p>
履修上の注意事項	やむを得ない事情が無い限り遅刻・欠席をしないこと。
履修者への要望事項	講義前に、該当内容部分についてテキスト等により予習をしてください。
アクティブ・ラーニング	学習内容が複数の専門領域に渡るため、自己学習と講義を中心とする。
連絡先・オフィスアワー	<p>担当教員 : 近藤知史</p> <p>電話番号(外線) : 052-853-8231, 内線8231、PHS3343</p> <p>電子メール : s.kondo@med.nagoya-cu.ac.jp ※原則としてメールで連絡してください。</p> <p>オフィスアワー : 9:00～17:00 [月・木・金の各午後] 要事前連絡</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	自己学習が視野・視点を広げることにつながる。
関連URL	<p>https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/section/central/yuketsu/</p> <p>https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/section/central/icu/</p>

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

輸血と移植ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
腫瘍・免疫外科学 病院准教授 小児外科 部長	近藤知史
輸血・細胞療法部 副部長 講師	李 政樹
麻酔科 副部長 講師	田村哲也
消化器・代謝内科学 講師	藤原 圭
肝・膵臓内科 副部長	松浦健太郎
消化器・代謝内科学 講師 肝疾患センター 副室長	安井稔博
藤田医科大学 小児外科学	

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
9	5	火	3	臓器移植総論と臓器移植に関わる法律 移植適応となる小児疾患	近藤知史
9	5	火	4	臓器移植に伴う感染症(肝移植を中心に)	近藤知史
9	12	火	3	輸血管理業務・輸血検査	李 政樹
9	12	火	4	輸血療法・適正輸血	李 政樹
9	19	火	3	B型肝炎ウイルス感染要因と再活性化	松浦健太郎
9	19	火	4	重症肝不全の治療	藤原 圭
9	26	火	3	血液浄化療法	田村哲也
9	26	火	4	肝移植, 生体肝移植	安井稔博
10	3	火	3	輸血合併症・副作用	李 政樹
10	3	火	4	移植免疫・細胞治療	李 政樹

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・膠原病ユニット
専門・教養	専門
担当教員	難波大夫、前田伸治、爲近真也、山邊 徹、上原幸治、磯谷俊太郎
講義期間・曜日・時限	セメスター4 (2023/8/31、9/7、9/14、9/28)、木曜日、3～4限目

授業目的・目標	<p>【授業目的】関節リウマチなどの膠原病の診療を含めリウマチ科の専門領域における医学、医療、福祉に関しこの分野の専門医の役割と必要性について基本的な認識を得るため</p> <p>【授業目標】リウマチ学が扱う領域の解剖学、免疫学およびそれらの知識に基づく筋骨格系身体診察、自己抗体など検査、X線や超音波、MRIなどの画像診断ならびに膠原病の疾患概念、代表的なりウマチ性疾患の病態、臨床像、分類基準、グルココルチコイド薬、免疫抑制薬、生物学的製剤など分子標的学リウマチ薬の適応や副作用及びその管理に関する基礎的知識を修得し理解を深める。</p>
キーワード	筋骨格、自己免疫疾患、膠原病、関節炎、多臓器疾患、免疫調整薬、グルココルチコイド
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域 I a、I b
学習到達目標	<p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リウマチ学・膠原病学の概念を理解し説明できる 2. 筋骨格系の構造や機能、免疫系の構造や機能を概説し、自己抗体など検査法を説明できる 3. 膠原病と自己免疫疾患を概説し、その種類を列挙できる 4. 関節腫脹や圧痛をきたす原因と病態生理ならびに疾患を列挙できる 5. 膠原病に特徴的な皮疹やその他の臓器症候を説明し、関連する疾患を列挙できる 6. 関節リウマチの病態生理、症候、診断、治療とリハビリテーションを説明できる 7. 関節リウマチ、脊椎関節炎の関節外症状を説明できる 8. 成人スチル病の症候、診断と治療を説明できる 9. 全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、全身性強皮症、多発性筋炎、皮膚筋炎、全身性血管炎、ベーチェット病の病態生理、侵されやすい臓器病変、症候、診断や分類基準を説明できる 10. グルココルチコイド薬や免疫抑制薬、生物学的製剤など分子標的薬の作用機序、効果、適応、副作用など安全管理について説明できる 11. リウマチ性疾患患者の管理における多職種チーム医療の必要性を説明できる 12. 患者中心の視点の必要性を説明できる <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】</p> <p>A-1-2)、A-1-3)、A-4-1)、A-4-2)、A-5-1)、C-3-2)、C-4-1)、C-4-5)、D-4、E-4-1)、E-4-2)、E-4-3)、F-1-1)、F-1-2)、F-1-27)、F-1-29)、F-1-34)、F-1-35)、F-1-36)、F-2-1)、F-2-2)、F-2-3)、F-2-5)、F-2-7)、F-2-8)、F-3-1)、F-3-2)、F-3-3)、F-3-4)、F-3-5)-(1)、F-3-5)-(2)、F-3-5)-(7)</p>
成績評価基準	<p>秀：90%以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している）</p> <p>優：80%以上（学修到達目標を十分に達成している）</p> <p>良：70%以上（学修到達目標を達成している）</p> <p>可：60%以上（学修到達目標を最低限達成している）</p> <p>不可：60%未満</p>
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. リウマチ性疾患の診断に必要な診察や検査 2. 関節リウマチ、脊椎関節炎、成人スチル病、結晶誘発性関節炎 3. 血管炎症候群、ベーチェット病、抗リン脂質抗体症候群 4. 全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、線維筋痛症 5. 皮膚筋炎、多発性筋炎、全身性強皮症、混合性結合組織病 6. リウマチ性疾患の治療 7. 症例検討（アクティブラーニング） 8. 症例検討（アクティブラーニング）
授業計画	担当教員・講義予定表を参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	<p>【授業時間外の学習】</p> <p>講義の前までに、講義項目に関する事前配布資料や下記の参考文献（教科書）の該当箇所を熟読すること。不明な点があれば積極的に質問をすること。授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。</p>
成績評価方法	セメスター試験にて成績判定を行い6割未満を不合格とする。再試も6割未満を不合格とする。
教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・リウマチ病学テキスト 改訂第3版 診断と治療社 ・関節リウマチ診療ガイドライン2014 メディカルレビュー社 ・関節リウマチ治療におけるメトトレキサート(MTX)診療ガイドライン 2016年改訂版 羊土社 ・全身性エリテマトーデス臨床マニュアル 第3版 日本医事新報社 ・シェーグレン症候群の診断と治療マニュアル 改訂第2版 ・多発性筋炎・皮膚筋炎治療ガイドライン 診断と治療社 ・ANCA関連血管炎診療ガイドライン2017 診断と治療社 ・全身性強皮症診療ガイドライン - 公益社団法人日本皮膚科学会 <p>https://www.dermatol.or.jp/uploads/uploads/files/guideline/1372907289_3.pdf</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膠原病学 改訂第6版 塩沢俊一、丸善 ・膠原病診療ノート 第3版 三森明夫、日本医事新報社 ・リウマチ病診療ビジュアルテキスト 第2版 上野征夫、医学書院 ・日本リウマチ学会 ガイドライン <p>http://www.ryumachi-jp.com/guideline.html</p> <ul style="list-style-type: none"> ・European League Against Rheumatism (EULAR) Recommendations: Recommendations for management <p>https://www.eular.org/recommendations_management.cfm</p> <ul style="list-style-type: none"> ・American College of Rheumatology (ACR) Clinical Practice Guidelines <p>https://www.rheumatology.org/Practice-Quality/Clinical-Support/Clinical-Practice-Guidelines</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Arthritis and Allied Conditions: A Textbook of Rheumatology 15th ed. Koopman WJ, Moreland LW. Lippincott Williams and Wilkins. ・Practical Rheumatology 3rd ed. Hochberg MC, Silman AJ, Smolen JS, Weinblatt ME, Weisman MH. Mosby.
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	特にありません。
アクティブ・ラーニング	グループワークによる症例検討を行う。グループワークでは積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	<p>担当教員 : 難波大夫、前田伸治</p> <p>電話番号(外線) : 052-853-8216 (呼吸器・免疫アレルギー内科学教室)</p> <p>電子メール : tnaniwa@med.nagoya-cu.ac.jp (難波大夫)、snb51961@med.nagoya-cu.ac.jp (前田伸治)</p> <p>オフィスアワー : 9:00～17:00 [月曜から金曜]</p> <p>※面談が必要な場合は、事前にメール等にて日時を確認ください</p>
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	授業を通して疑問に思った点、興味・関心をもった点については、検索し自己学習することにより視野を広げていただきたい。
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/med/

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

膠原病ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
呼吸器・免疫アレルギー内科学 准教授	難波大夫
呼吸器・免疫アレルギー内科学 講師	前田伸治
呼吸器・免疫アレルギー内科学 病院助教	爲近真也

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
8	31	木	3	リウマチ性疾患の診断に必要な診察や検査	難波大夫
8	31	木	4	関節リウマチ、脊椎関節炎、成人スチル病、結晶誘発性関節炎	爲近真也
9	7	木	3	血管炎症候群、ベーチェット病、抗リン脂質抗体症候群	難波大夫
9	7	木	4	全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、線維筋痛症	前田伸治
9	14	木	3	皮膚筋炎、多発性筋炎、全身性強皮症、混合性結合組織病	難波大夫
9	14	木	4	リウマチ性疾患の治療	前田伸治
9	28	木	3	リウマチ性疾患の検討1(グループ発表)	爲近真也
9	28	木	4	リウマチ性疾患の検討2(グループ発表)	爲近真也

開講年度	2023年度
科目名	臨床医学コース・臨床腫瘍学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	学内：奥山 徹 木下 史緒理 小松 弘和 鈴木 貞夫 鈴木 奈々 高橋 智 遠山 竜也 富田 夏夫 前野 健 松尾 洋一 外来：安藤 正志 近藤 豊 三田 貴臣 前田 徹 室 圭 吉田 達哉
講義期間・曜日・時限	2023年10月4日(水)～2023年10月23日(月)

授業目的・目標	医師として、がん患者の診療に必要な基本的知識や集学的治療の重要性を理解するために（目的）、がんの疫学、がん細胞の分子・生物学的特性や病態、診断学、標準的治療法に関する基礎的知識を臓器横断的に習得する。さらにはがん検診の意義や、がん患者およびその家族の心理的、社会的問題や新しい診断・治療法の開発に関する理解を深める（目標）
キーワード	エビデンスに基いた医療、集学的治療、チーム医療、患者中心の医療、先端のがん医療
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 1d, 2d, 3a, 3d, 4d
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床腫瘍学の概念を説明できる。 2. がんの疫学の定義と動向を説明できる。 3. がん細胞の生物学的特徴、分子病態や遺伝・環境要因について説明できる。 4. がんの浸潤や転移のメカニズムについて説明できる。 5. がんの病理診断、遺伝子診断の特徴とその限界について説明できる。 6. 抗癌剤の薬物動態、薬力学的解析とその遺伝的多様性について説明できる。 7. 化学療法の基本理論、作用機序、主な副作用と支持療法を説明できる。 8. 分子標的療法の特徴、種類、開発法について説明できる。 9. 放射線生物学、がんの放射線治療の基本理論と適応について説明できる。 10. がんの手術適応、根治手術と縮小手術の原則について説明できる。 11. 腫瘍抗原、細胞免疫療法の概念が説明できる。 12. がんの臨床試験の特徴について説明できる。 13. がん診療における標準的治療の確立過程を理解しEBMを利用できる。 14. がんの予防や集団検診の意義と臨床疫学方法論について説明できる。 15. 精神腫瘍学の概念を理解し、全人的医療に貢献できる。 16. 癌性疼痛について理解し、緩和医療、終末期医療について説明できる。 17. Oncologic emergencyについて理解し、説明できる。 18. がん患者と向き合う基本的姿勢、インフォームドコンセントについて説明できる。 <p>【該当するモデルコアカリ】 B-1-3 根拠に基づいた医療(EBM)、B-1-4 疫学と予防医学、 C-4-6 腫瘍、E-3 腫瘍、E-6 放射線の生体影響と放射線障害、E-9 人の死、F-2-4 病理診断、F-2-5 放射線を用いる診断と治療、F-2-6 内視鏡を用いる診断と治療、F-2-8 薬物治療の基本理、F-2-9 外科的治療と周術期管理、F-2-16 緩和ケア</p>
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. がんの記述疫学・がんの予防 2. がんの病理診断 3. がんの細胞生物学 4. がんのゲノミクス 5. 抗がん剤の薬物動態・薬力学 6. がん診療における現状と諸問題（倫理を含む） 7. がんの臨床試験 8. がんの放射線治療 9. がんの手術療法 10. 希少がん（化学療法を含む） 11. 疼痛緩和 12. 分子標的療法 13. がんの免疫療法 14. がん治療におけるEBM 15. 精神腫瘍学 16. Oncologic Emergency(腫瘍随伴症候群を含む) 17. 18. Active learning
授業計画	2022年度臨床腫瘍学授業予定表を参照
授業時間外の学修（準備学習を含む）	各講義までに、「入門腫瘍内科学」の該当ページ（目次参照）を読んでおくこと。さらに知識を深めるためには、「新臨床腫瘍学」の該当ページを読むとよい。英文に親しむ意味では、「The MD Anderson Manual of Medical Oncology」（臨床）、「The Genetic Basis of Human Cancer」（基礎）も利用するとよい。
成績評価方法	セメスター試験 80点満点、アクティブラーニング20点（発表・レポート10点、参加態度10点） 満点 本試は以上2項目の合計点を100点満点とし、6割未満を不合格とする。再試は試験の点数のみで6割未満を不合格とする。
教科書・テキスト	「入門腫瘍内科学」監修 日本臨床腫瘍学会 篠原出版社
参考文献	「新臨床腫瘍学」第5版 日本臨床腫瘍学会 南江堂 「The MD Anderson Manual of Medical Oncology」Edited by Kantarjian HM, Wolf RA and Koller CA., Mc Graw Hill Co. Inc. 「The Genetic Basis of Human Cancer」Edited by Vogelstein B & Kinzler KW., Mc Graw Hill Co. Inc. 講義時間中にも紹介しませぬ。
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	各講義までに、「入門腫瘍内科学」の該当ページ（目次参照）を読んでおくこと。さらに知識を深めるためには、「新臨床腫瘍学」の該当ページを読むとよい。英文に親しむ意味では、「The MD Anderson Manual of Medical Oncology」（臨床）、「The Genetic Basis of Human Cancer」（基礎）も利用するとよい。
アクティブ・ラーニング	積極的に議論を取り入れる。
連絡先・オフィスアワー	電話番号（外線）：052-853-8738（内線：8738） 電子メール：komatsu@med.nagoya-cu.ac.jp bloodsec@med.nagoya-cu.ac.jp（血液腫瘍内科学医局） オフィスアワー：月曜から金曜 AM9～PM5
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	

臨床腫瘍学ユニット 担当教員

所属・職名	氏名	所属・職名	氏名
臨床腫瘍部 教授	小松弘和	化学療法部 助教	木下史緒理
公衆衛生学 助教	中川弘子	西部医療センター緩和ケアセンター 助教	鈴木奈々
実験病態病理学 教授	高橋 智	外来講師 (名古屋大学)	近藤 豊
乳腺外科学 教授	遠山竜也	外来講師 (金城学院大学)	前田 徹
西部医療センター精神科・緩和ケアセンター	奥山 徹	外来講師 (愛知県がんセンター)	室 圭
呼吸器・免疫・アレルギー内科学 准教授	前野 健	外来講師 (愛知県がんセンター)	安藤正志
消化器外科学 教授	松尾洋一	外来講師 (シンガポール大学)	三田貴臣
放射線医学 准教授	富田夏夫	外来講師 (国立がん研究センター)	吉田 達哉

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
10	4	水	2	がん診療における現状と諸問題(倫理を含む)	安藤正志
10	10	火	1	希少がん・難治がん・高齢者がん/(化学療法を含む)	木下史緒理
10	10	火	2	がん治療におけるEBM	遠山竜也
10	10	火	3	がんの臨床試験	室 圭
10	10	火	4	がんの細胞生物学	近藤 豊
10	11	水	1	緩和ケア	鈴木奈々
10	11	水	2	がんの記述疫学・がんの予防	中川 弘子
10	12	木	1	精神腫瘍学	奥山 徹
10	12	木	2	がんの免疫療法	吉田達哉
10	16	月	1	がんの手術療法	松尾洋一
10	16	月	2	がんの病理診断	高橋 智
10	16	月	3	分子標的療法	前野 健
10	16	月	4	がん薬物療法の支持療法(腫瘍随伴症候群含む)	小松弘和
10	19	木	1	癌のゲノミクス	三田貴臣
10	23	月	1	抗がん剤の薬物動態・薬力学	前田 徹
10	23	月	2	がんの放射線治療	富田夏夫
10	23	月	3	Active Learning	小松/木下
10	23	月	4	Active Learning	小松/木下

開講年度	2023年度
科目名	臨床医学コース・救急科ユニット
専門・教養	専門
担当教員	服部友紀、笹野寛、松嶋麻子、山岸庸太、三浦敏靖、今井一徳、間瀬則文、竹内昭憲
講義期間・曜日・時限	2023年1月24日1-3限、1月31日1-3限、2月2日1限、2月9日1限（計8限）

授業目的・目標	授業目的：COVID-19に救急医がどのように対応したか、需要が増加する一方の救急医療をどのような仕組みで対応しているのか、救急医の役割とは何かを学ぶ。診療に時間的余裕のない救急患者の緊急度と重症度を如何に見分けて診療するかその診療手順を学ぶ。心停止、外傷、中毒など救急患者に特有の疾患について学ぶ。災害時の特殊な考え方と医療体制について学ぶ。 授業目標：救急診療に必要な考え方について理解を深める
キーワード	心肺蘇生術、多発外傷、急性中毒、災害医療、プレホスピタルケア、COVID-19重症者の対応
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	I c, II b, IV a, IV b
学習到達目標	【学習到達目標、該当するモデルコアカリキュラム】 ・日本及び愛知県の救急診療体制を理解する；A-7-1) 地域医療への貢献 ・救急医の役割について理解する；A-1) プロフェッショナルリズム ・日本の災害時の医療体制と多数傷病者の診療の考え方を理解する；A-7) 社会における医療の実践、A-5) チーム医療の実践 ・心停止患者に対する救急処置(2次救命処置：ALS)を理解する；F-1-6) 心停止、A-5) チーム医療の実践、F-2-2) 根拠に基づいた医療(EBM)、F-3-6-4) 救命処置、G-4-4) シミュレーション教育 ・種々の中毒疾患の診療を理解する；E-5) 物理・化学的因子による疾患、F-1-7) 意識障害・失神、F-1-8) けいれん ・外傷患者の診療について学習する；F-1-37) 外傷・熱傷、F-2-5) 放射線等を用いる診断と治療 ・プレホスピタルケアの重要性を理解する；A-7) 社会における医療の実践、A-7-1) 地域医療への貢献、F-3-6-4) 救命処置 ・ショックの鑑別法を学習する；F-1-5) ショック、F-2-7) 超音波を用いる診断と治療、F-1-10) 脱水 ・症状から必要な検査を行い診断から治療までグループ討論する；F-2-1) 臨床推論、F-2-3) 臨床検査、F-3-1) 問題志向型システムと臨床診断推論、F-3-4) 臨床判断、F-3-5-2) 全身状態とバイタルサイン
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	・プレホスピタルケア、外傷、熱傷、中毒、2次救命処置、内科救急疾患について講義を行う ・シミュレーション形式で2次救命処置：ALSを実践する ・提示した症状から、緊急性の判断、検査、診断、治療について議論する
授業計画	授業計画表に別途記載
授業時間外の学修（準備学習を含む）	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
成績評価方法	セメスター試験（100）点満点
教科書・テキスト	救急診療指針（へるす出版）、DMAT標準テキスト（へるす出版）、JRC蘇生ガイドライン（医学書院） 講義・実習に臨む前に上記教科書の該当する項目を熟読しておくこと 昨年の救急科講義資料を再確認しておくこと
参考文献	テキストや参考図書にあげられている参考文献。講義時間中にも紹介します
履修上の注意事項	止むを得ず遅刻・欠席の場合は理由を添えて報告すること
履修者への要望事項	M1, M3で習得した一次救命処置(BLS)についてはしっかり復讐しておくこと
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、ロールプレイを取り入れた講義を行う
連絡先・オフィスアワー	担当教員：救急科 服部 電話番号（外線）：052-851-5511（内線 4732） メールアドレス：thattori@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	シミュレーション形式では動きやすい服装で。最初の講義で救急総論の他、オリエンテーションを兼ねて以降の講義内容についても解説する
関連URL	なし

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

救急科ユニット 担当教員

所属・職名	担当教員
救急科・教授	服部友紀
救急科・教授	笹野寛
東部医療センター 救急科・教授	松嶋麻子
災害医療センター・センター長	山岸庸太
東部医療センター救急科・准教授	三浦敏靖
東部医療センター救急科・助教	今井一徳
江南厚生病院・副院長、救急科・部長、救命救急センター長	竹内昭憲
中津川市民病院病院前救急科・部長	間瀬則文

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	24	火	1	救急医療～救急医の役割～	服部友紀
1	24	火	2	救急患者の評価と診療	今井一徳
1	24	火	3	内科救急疾患の見方	三浦敏靖
1	31	火	1	外傷患者の診療～緊急度と重症度を見極める～	松嶋麻子
1	31	火	2	ERでよく見る中毒疾患	笹野寛
1	31	火	3	災害時医療～大災害時の医療体制と多数傷病者への診療～	山岸庸太
2	2	木	1	ガイドライン2020に基づく2次救命処置	竹内昭憲
2	9	木	2	プレホスピタルケアの重要性～ドクターカー&ドクターヘリ	間瀬則文

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床医学コース・漢方医学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	野尻俊輔、木村和哲、牧野利明、松尾洋一、種村光代、戸澤啓一、有馬菜千枝、加藤利奈
講義期間・曜日・時限	8月29日3、4限目。 8月30日1、2、3、4限目
授業目的・目標	【授業目的】 診療に必要な漢方薬治療の基本(漢方医学の基本概念、診療方法、漢方処方法の運用)を学ぶ。 【授業目標】 全人的視野を養い、漢方薬を含めた患者のための最良の治療指針を選択できる
キーワード	漢方、証、生薬、気・血・水
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	1a, 11b, 111b, 1Va
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 漢方医学と西洋医学の基本的相違を説明できる。 2. 漢方医学の特徴・基本的概念を説明できる。 (気・血・水・陰陽・虚実・表裏・寒熱を理解する) 3. 漢方医学の診断方法を説明できる。 (四診<望診・聞診・問診・切診>を理解する) 4. 漢方医学の「証」について説明できる。(随証治療を理解する) 5. 漢方方剤の構成生薬、薬理作用、適応症を説明できる。 6. 漢方処方法の代表的副作用や使用上の注意事項を説明できる。 7. 漢方医学のEBMと東西医学の統合について概説できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 F-2-1 臨床推論, F-2-8 薬物治療の基本原則
成績評価基準	合格：60点以上(学習到達目標を達成している)。レポートと出席で総合的に判定する。
授業概要	1. 漢方医学総論・歴史 2. 漢方医学の概念 3. 漢方医学の薬物治療 4. 漢方医学の診断法と治療 5. (消化器)内科、外科、産婦人科、泌尿器科、耳鼻科、いたみ における漢方治療の実際
授業計画	別紙のとおり、90分を2名ないしは1名の講師で担当する。 授業のなかで、実際の煎じ薬を調整し、服用体験を行う。
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、テキストや参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと
成績評価方法	出席とレポート提出
教科書・テキスト	基本がわかる漢方医学講義 日本漢方医学教育協議会、羊土社 学生のための漢方医学テキスト 日本東洋医学会編、南江堂 入門 漢方医学 日本東洋医学会編、南江堂 実践漢方医学 日本東洋医学会編、南江堂 EBM漢方 寺澤捷年他、医歯薬出版 和漢診療学 寺澤捷年、医学書院
参考文献	医学生のための漢方医学【基礎】 安井廣迪、東洋学術出版社 漢方・中医学講座シリーズ 入江祥史ほか、医歯薬出版 女性の頻用漢方イラストレイテッド 川口恵子、永井書店
履修上の注意事項	静粛に受講すること
履修者への要望事項	静粛に受講すること
アクティブ・ラーニング	漢方薬を実際に煎じて服用体験をする
連絡先・オフィスアワー	担当教員 : 消化器・代謝内科 野尻俊輔 電話番号(外線) : 052-853-8211 (PHS : 3361)
実務経験を活かした教育の取組	漢方薬への知識が豊かな教員および臨床経験をもつ教員が講義・実習を担当する
備考	授業時間外の学習は授業開始前に「基本がわかる漢方医学講義 日本漢方医学教育協議会、羊土社」を一読しておくことと理解がしやすい。
関連URL	

2022年1月～2022年12月 第3学年・第4学年

漢方医学セミナーユニット 担当教員

所属・職名	氏名
耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野 病院助教	有馬菜千枝
臨床薬剤学分野 教授	木村和哲
種村ウイメンズ クリニック 院長	種村光代
腎・泌尿器科学分野 准教授	戸澤啓一
地域医療教育研究センター 教授	野尻俊輔
薬学部生薬学分野 教授	牧野利明
消化器外科学分野 臨床教授	松尾洋一
麻酔科 助教	加藤利奈

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
8	29	火	3前半	漢方医学の歴史と概要	木村和哲
8	29	火	3後半	漢方医学の診断と証の概念	野尻俊輔
8	29	火	4前半	内科と漢方	野尻俊輔
8	29	火	4後半	いたみと漢方	加藤利奈
8	30	水	1	泌尿器科領域における漢方診療	戸澤啓一
8	30	水	2前半	外科と漢方	松尾洋一
8	30	水	2後半	耳鼻咽喉科(睡眠)と漢方	有馬菜千枝
8	30	水	3	生薬学入門	牧野利明
8	30	水	4	女性医療と漢方	種村光代

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床処方学セミナー
専門・教養	専門
担当教員	日比陽子、堀田康弘
講義期間・曜日・時限	セメスター2 2023年5月23日（火）・5月24日（水）、1・2限

授業目的・目標	【授業目的】投与される薬剤が安全かつ効果的に使用するため。 【授業目標】適正な薬物治療をするために処方せんの書き方を習得する。また、薬剤の使用法や医療制度に関する理解を深めるため、臨床薬理学、処方学の知識を修得する。
キーワード	処方箋、麻薬・向精神薬、治療薬物モニタリング、後発医薬品
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	領域2b, 2c, 2d, 2e
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 処方せんの種類を説明できる。 2. 処方せんの記載事項を理解し説明できる。 3. 内服薬・外用薬・注射薬の種類を概説できる。 4. 麻薬および向精神薬の管理を説明できる。 5. 治療薬物モニタリング(TDM)の必要性を説明できる。 6. PK/PD理論を概説できる。 7. 病院における調剤と医薬品管理を説明できる。 8. 後発（ジェネリック）医薬品の特徴を説明できる。 9. レジメンによるがん化学療法における申請、治療の過程を説明できる。 10. 包括医療費支払い制度(DPC)、クリニカルパスにおける薬物治療を説明できる。 【該当するモデルコアカリキュラム】 B-2-2) 診療情報と諸証明書、F-2-8) 薬物治療の基本原則
成績評価基準	秀:学修到達目標を越えたレベルを達成している 優:学修到達目標を十分に達成している 良:学修到達目標を達成している 可:学修到達目標を最低限達成している
授業概要	1. 処方設計の考え方 2. 処方せん発行とその注意事項 3. 処方解析の仕方 4. 薬物動態学的の応用 5. 医薬品安全管理の実際
授業計画	講義、演習 5月23日（火）1限・2限 5月24日（水）1限・2限
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	授業計画表を確認の上、参考図書の該当箇所を予習した上で、講義に臨むこと。 授業の最初に前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと。
成績評価方法	3回以上講義へ出席し、受講時の態度、提出物等を評価する。
教科書・テキスト	(テキスト) 配布資料にて行う
参考文献	(参考図書) 「調剤指針」日本薬剤師会編（薬事日報社） 「臨床薬理学」日本臨床薬理学会編（医学書院） 「臨床薬物動態学」澤田康文編（医学書院） 「疾患と今日の処方」福田保他編（医歯薬出版） 「和漢診療学」寺澤捷年（医学書院）
履修上の注意事項	遅刻、欠席をしないこと。
履修者への要望事項	静粛に受講すること
アクティブ・ラーニング	議論型授業を取り入れた授業を行う。議論型授業では積極的に議論に参加すること。
連絡先・オフィスアワー	担当教員 : 堀田康弘 電話番号（外線）: 052-851-5511（内線 3981） 電子メール : phhorita@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー : 月～金 14:00～17:00
実務経験を活かした教育の取組	薬剤師としての実務経験を持つ教員が講義を担当する。
備考	「授業時間外の学習」授業前に「調剤指針」の5章、6章を読んでおくこと。
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

臨床処方学ユニット 担当教員

所属・職名
臨床薬学分野・教授
臨床薬学分野・講師

氏名
日比 陽子
堀田 康弘

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
5	23	火	1	臨床処方学の講義	日比陽子
5	23	火	2	臨床処方学の講義・確認テスト	日比陽子
5	24	水	1	臨床処方学の講義	堀田康弘
5	24	水	2	臨床処方学の講義・確認テスト	堀田康弘

開講年度	2023年度
科目名	社会医学（予防医学基礎）
専門・教養	専門
担当教員	鈴木貞夫、西山 毅、大谷隆浩、中川弘子、上島通浩、伊藤由起、金子佳世、加藤沙耶香、ハレツキス ロマナス、細野晃弘、玉腰浩司、森 亮太、永谷照男、小嶋雅代、鷲見 学、榎原 毅
講義期間・曜日・時限	2023年5月12日（金）～7月24日（月）

授業目的・目標	社会医学は、人間の健康問題を宿主要因（性・年齢、心理的要因、遺伝要因などの個人の特性）、環境要因（物理・化学的環境、生物学的環境、社会的環境）との関連で捉え、個人および集団における疾病予防と健康増進のあり方を明らかにする総合的な実践科学である。将来、医師として、現実社会の中で健康問題を解決し予防医学的活動を展開する際に必要な基礎的な知識や考え方を講義・実習を通して習得する。
キーワード	社会保障、地域保健、産業保健、環境保健、保健統計、疫学、根拠に基づいた医療（EBM）
ディプロマ・ポリシー（卒業時コンピテンシー）との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 I b, II d, III a, III b, III c, III d
学習到達目標	1. 社会医学の目的、意義、歴史、政策等を理解する。 2. 保健医療制度と医療資源・保健統計・保健指導の現状と動向を説明できる。 3. 地域保健・学校保健・産業保健・環境保健・国際保健等の概要を説明できる。 4. 健康問題の集団的解析に必要な統計学手法を理解する。 【該当するモデルコアカリ】 A-7社会における医療の実践、B-1集団に対する医療、B-4医療に関連のある社会科学領域 C-5人の行動と心理、E-5物理・化学的因子による疾患
成績評価基準	秀：学習到達目標を越えたレベルを達成している 優：学習到達目標を十分に達成している 良：学習到達目標を達成している 可：学習到達目標を最低限達成している 実習は積み上げ式で行うため全回出席を求める。課題レポートの提出は必須である。
授業概要	授業は担当教員が行う講義と各実習から構成される。担当教員・講義予定を参照
授業計画	<講義項目> 1. 社会医学総論（歴史・政策等） 2. 保健統計（現状と動向、各種指標の計算等）と疫学総論・各論（EBM手法を含む） 3. 地域保健・学校保健・産業保健・環境保健・国際保健等の総論・各論 4. 地域医療問題、医療経済 5. 疫学データ処理の実例 6. 保健所・市町村保健センターの活動と役割 *講義内容についての小テスト <社会医学テーマ実習> テーマごとに形成する自主グループでの実地見学・調査・解析・討論とその結果の発表・レポート作成 <疫学統計実習> 1. 地域の保健指標、疫学データ解析、疾病診断・スクリーニング等の基礎 2. 基礎医学実験における実験計画の立て方、サンプルサイズの決め方 3. 統計解析ソフトを用いたデータ処理
授業時間外の学修（準備学習を含む）	教科書の該当箇所を読み込むことが望まれる。「疫学統計実習」では、ハンドアウトを確認し、あらかじめ内容を理解し、実習に臨むこと。解析後、得られた解析結果について充分に考察して、レポートにまとめること。
成績評価方法	定期試験成績100%。学習到達目標が達成できているかを評価する。レポート提出状況・内容は、定期試験の点数の一部を構成する（最大10%）。なお、履修規定に規定された回数の出席が確認できない場合は定期試験の受験資格を失うので、注意すること。
教科書・テキスト	原則として、毎回、資料を配布する。参考書（(1)、(2)はいずれか可）を手元において予習復習に活用することが望ましい。(3)は通読する必要はなく、辞書的に使用する。統計数値、政策は毎年アップデートされるため、国家試験前には最新年度のものを参照すること。
参考文献	<参考書> (1) NEW 予防医学・公衆衛生学 南江堂、(2) シンプル衛生公衆衛生学 南江堂、 (3) 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 (4) Basic Epidemiology WHO（日本語版あり）
履修上の注意事項	疫学統計実習は遅刻すると授業についていけなくなるので注意すること。
履修者への要望事項	また、テーマ実習における学外施設の訪問などの実習は、訪問先の方々のご厚意により成り立っている。医学生として見られていることを自覚し、遅刻・欠席しないことはもちろん、挨拶・服装・私語等に注意を払うこと。
アクティブ・ラーニング	「社会医学テーマ実習」では、テーマごとにグループを形成し、実地見学、調査、データ解析、グループ討論を行い、その結果をまとめ、報告会においてプレゼンテーションを行う。また、グループごとにレポートを作成し、「社会医学テーマ実習報告書」として製本する。
連絡先・オフィスアワー	担当教員：環境労働衛生学 上島 電話番号（外線）：853-8171 オフィスアワー：平日（月曜日～金曜日）9：00～17：00 （会議等で教員が不在の場合もあるので、事前に確認すること）
実務経験を活かした教育の取組	
備考	不明な点があれば積極的に教員に質問し、十分な理解を得るよう努めること。
関連URL	

社会医学(予防医学基礎)コース 担当教員

所属・職名	氏名	非常勤講師	氏名
環境労働衛生学・教授	上島 通浩	名古屋市保健福祉局	小嶋 雅代
環境労働衛生学・准教授	伊藤 由起	厚生労働省 医政局	鷺見 学
環境労働衛生学・特任講師	金子 佳世	名古屋市名東保健福祉センター	細野 晃弘
環境労働衛生学・助教	加藤 沙耶香	医療法人八事の森(理事長)	森 亮太
環境労働衛生学・特任助教	ハレツキス ロマナス		永谷 照男
公衆衛生学・教授	鈴木 貞夫	名古屋大学	玉腰 浩司
公衆衛生学・准教授	西山 毅	産業医科大学	榎原 毅
公衆衛生学・講師	大谷 隆浩		
公衆衛生学・助教	中川 弘子		

授業計画

講義・社会医学テーマ実習:研究棟11階 講義室B、統計実習:基礎教育棟3階 情報処理室

月	日	曜日	時限	内容	担当者
5	12	金	1	社会医学総論	鈴木
			2	EBMの理論と実践(1)-治療・予防	西山
			3	保健統計(1)-疾病頻度の評価と比較	大谷
			4	疫学(1)-因果関係とEBM	鈴木
	23	火	3	社会医学テーマ学習(1) オリエンテーション	全教員
			4	環境保健(1)-総論	伊藤
	26	金	1	産業保健(1)-総論	上島
			2	産業保健(2)-有機化学物質と健康	上島
			3	産業保健(3)-無機化合物と健康	伊藤
			4	地域保健・地域医療(1)-保健所・市町村保健センター	細野
	29	月	1	EBMの理論と実践(2)-予後予測	西山
			2	保健統計(2)-厚生指標	大谷
3			環境保健(2)-大気・水環境汚染と廃棄物対策	伊藤	
4			環境保健(3)-食品衛生と国民栄養	伊藤	
30	火	1	EBMの理論と実践(3)-診断検査	西山	
		2	疫学(2)-疫学研究のデザイン	鈴木	
		3	保健医療論	上島	
		4	社会医学テーマ学習(2) 計画	全教員	
6	9	金	1	統計実習(1): 疫学データ解析	鈴木・西山・大谷・中川
			2	記述等計量、計数値の解析、相関と回帰、交絡の補正、多変量回帰(線型回帰、ロジスティック回帰)分析	
			3	地域保健・地域医療(2)-街医者発信: 医師の資格でできること	森
			4	疫学(3)-国際保健	鷺見
16	金	1	統計実習(2): 疾病診断とスクリーニングの基礎	鈴木・西山・大谷・中川	
		2	感度、特異度、ROC曲線		
		3	社会医学テーマ学習(3)		全教員
		4			
23	金	1	統計実習(3): 地域の保健指標	鈴木・西山・大谷・中川	
		2	人口、死亡率、粗死亡率、年齢調整死亡率、生命表、平均寿命、平均余命		
		3	行動科学(1)-意思決定と行動変容の理論と実践		榎原
		4	産業保健(4)-作業態様と健康		榎原
29	木	1	EBMの理論と実践(4)-系統的レビュー	西山	
		2	疫学(4)-世界の疾病とSDGs達成に向けた公衆衛生活動	中川	
30	金	1	産業保健(5)-交代制勤務・過重労働と健康	上島	
		2	行動科学(2)-社会行動医学と意思決定	鈴木	
		3	学校保健	加藤	
		4	母子保健	玉腰	
7	6	木	1	統計実習(4): 実験デザイン概論、統計解析基礎、小レポート	上島・伊藤・加藤
			2	(実験計画基礎、記述統計量、サンプルサイズ、検定力、効果量、乱塊法、誤差、バイアス、変動係数、 α/β エラー、統計的仮説検定、多重比較)	
	7	金	1	統計実習(5): 統計解析応用、論文精読、実験計画立案	上島・伊藤・加藤
			2	(実験計画応用、一元配置、二元配置、欠損値、外れ値、対数変換、経時測定分散分析、主効果、交互作用、傾向検定、ICC/Kappa係数)	
13	木		3	社会医学テーマ学習(4)	全教員
			4		
			1	地域保健・地域医療(3)-フレイル予防、医療と福祉の一体的実施	小嶋
			2	疫学(5)-長寿・少子社会と健康	永谷
14	金		3	環境保健(4)-室内環境・衛生動物と健康	伊藤
			4	環境保健(5)-災害と健康	伊藤
			1	統計実習(6): 課題演習、レポート作成	上島・伊藤・加藤
			2		
20	木		3	社会医学テーマ学習(5) まとめ、報告会準備	全教員
			4		
			1	多様な文化的背景をもつ個人・集団における疾病予防	金子
			2	疫学(6)-循環器疾患、肥満とその関連疾患	永谷
21	金		3	健康増進と障害者福祉	加藤
			4	産業保健(6)-物理的要因 まとめ	上島
			1	社会医学テーマ学習(6) 報告会	全教員
			2		
24	月		1	社会医学試験	全教員
			2		

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床能力養成コース 基本臨床技能実習
専門・教養	専門
担当教員	高桑 修、植田典浩、兼松孝好、川北大介、菊池祥平、上村剛大、藤原 圭、大喜多賢治、岡本秀貴、山本惇貴、小川 了、中村 敦、笹野 寛
講義期間・曜日・時限	基本臨床技能コース担当教員・スケジュールを参照

授業目的・目標	診療参加型臨床実習において診療に主体的に参加し、診療チームの一員として実質的な診療機能を担うことができるために、一般診療に必要な医師としての態度および診療技能を修得する。
キーワード	医療面接、臨床技能、身体診察、基本的臨床手技
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	IIb、IIc
学習到達目標	<p>医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版)の「F-3 基本的診療技能」に示されている以下の項目について修得することを目標としている。</p> <p>【医療面接】 ①適切な身だしなみ、言葉遣い及び態度で患者に接することができる。②医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。 ③病歴(主訴、現病歴、常用薬、アレルギー歴、既往歴、家族歴、嗜好、生活習慣、社会歴・職業歴、生活環境、家庭環境、海外渡航歴、システムレビュー)を聴き取り、情報を取捨選択し整理できる。④診察時に患者に適切な体位(立位、座位、半座位、臥位、砕石位)を説明できる。</p> <p>【身体診察】 〈基本事項〉 ①患者の立場を尊重し、信頼を得ることができる。②患者の安全を重視し、有害事象が生じた場合は適切に対応ができる。 ③患者のプライバシー、羞恥心、苦痛に配慮し、個人情報等を守秘できる。④感染を予防するため、診察前後の標準予防策(standard precautions)ができる。 ⑤身だしなみ、言葉遣い及び態度等に気を配ることができる。 〈全身状態とバイタルサイン〉 ①身長・体重を測定し、body mass index <BMI>の算出、栄養状態を評価できる。②上腕で触診、聴診法により血圧を測定できる。 ③両側の橈骨動脈で脈拍を診察できる。④呼吸数を測定し、呼吸の異常の有無を確認できる。⑤腋窩で体温を測定できる。 ⑥下肢の動脈の触診を実施できる。⑦全身の外観(体系、栄養、姿勢、歩行、顔貌、皮膚、発声)を評価できる。 〈頭頸部〉 ①頭部(顔貌、頭髪、頭皮、頭蓋)の診察ができる。②眼(視野、瞳孔、対光反射、眼球運動・突出、結膜)の診察ができる。 ③耳介およびその周囲を観察できる。④耳鏡で外耳道、鼓膜を観察できる。⑤口唇、口腔、咽頭、扁桃の診察ができる。 ⑥鼻(全体の形状や皮膚の所見)、副鼻腔の診察ができる。⑦甲状腺、頸部血管、唾液腺の診察ができる。⑧頭頸部リンパ節の診察ができる。 〈胸部〉 ①胸部の視診、触診、打診ができる。②呼吸音と副雑音の聴診ができる。③心音と心雑音の聴診ができる。④背部の叩打痛を確認できる。 〈腹部〉 ①腹部の視診、聴診ができる。②区分に応じて腹部の打診、触診ができる。③腸雑音、血管雑音の聴診ができる。 〈神経〉 ①意識レベルを判定できる。②脳神経系の診察ができる(眼底検査を含む)。③腱反射の診察ができる。④小脳機能・運動系の診察ができる。 ⑤感覚系(触覚)の診察ができる。⑥髄膜刺激所見(項部硬直)を確認できる。 〈四肢と脊柱〉 ①四肢と脊柱(弯曲、疼痛)の診察ができる。②関節(可動域、腫脹、疼痛、変形)の診察ができる。 〈基本的臨床手技〉 ①静脈採血をシミュレータで実施できる。②手指衛生等の標準予防策(standard precautions)を実施できる。③12誘導心電図を記録できる。 ④経皮的酸素飽和度を測定できる。⑤手術や手技のための手洗いができる。⑥手術室におけるガウンテクニックができる。 〈救急救命処置〉 ①緊急性の高い状況かどうかをある程度判断できるようになる。②一次救命処置を実施できる。</p> <p>【該当するモデル・コア・カリキュラム】F-3-2、F-3-5、F-3-6</p>
成績評価基準	秀：90点以上(学修到達目標を越えたレベルを達成している) 優：80点以上(学修到達目標を十分に達成している) 良：70点以上(学修到達目標を達成している) 可：60点以上(学修到達目標を最低限達成している)
授業概要	医学部4年次に実施。1学年を2グループに分け、グループ毎に基本臨床技能の実習を行う。
授業計画	2023年度基本臨床技能実習担当教員・スケジュールを参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	下記サイトからDVD映像を視聴して講義・実習に臨むこと。 https://www.nagoya-cu.ac.jp/med/kyouyousiken/
成績評価方法	形成的評価を各ユニットの中で適宜行い、共用試験 臨床実習前客観的臨床能力試験(Pre-Clinical Clerkship Objective Structured Clinical Examination: Pre-CC OSCE)による総合的評価を行う。 OSCE本試験：2023年9月23日(土)および24日(日) 追・再試験(兼本試予備日)：10月21日(土)および22日(日)
教科書・テキスト	①診療参加型臨床実習に参加する学生に必要なとされる技能と態度に関する学修(学習)・評価項目(臨床実習前OSCE) ((公社)医療系大学間共用試験実施評価機構) https://www.cato.or.jp/cbt/medical-osce/index.html ②診療参加型臨床実習に必要な技能と態度 教育・学習用DVD ((社)医療系大学間共用試験実施評価機構) 医学部Webサイト>学生教職員の方>共用試験(OSCE・Post-CC OSCE)のDVD映像視聴 https://www.nagoya-cu.ac.jp/med/kyouyousiken/
参考文献	・医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成28年度改訂版) ・共用試験ガイドブック(ほぼ一年ごとに改訂されます)←4年生の全員に配付予定
履修上の注意事項	臨床実習と同様の服装・身だしなみで参加すること(清潔な白衣を着用。ハイヒール、ブーツ、サンダル等の履物は禁止)。各回の会場、持ち物等は掲示等により指示するので、各自で必ず確認すること。時間厳守。
履修者への要望事項	基本臨床技能実習で使用する聴診器(膜型とベル型が分かれたタイプ)を実習開始までに購入すること。
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ、プレゼンテーション、シミュレーション学習、グループディスカッション
連絡先・オフィスアワー	担当教員 : 医学・医療教育学 高桑 修、植田典浩 電話番号(外線) : 052-853-8537 電子メール : nueda@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー : 月火木金：9時から16時、水：9時から10時
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	https://www.cato.or.jp/

臨床能力養成コース 基本臨床技能実習 担当教員

科目責任者
科目調整担当者

医学・医療教育学 高桑 修 教授
医学・医療教育学 植田典浩 講師

領域名		領域責任者	
医療面接		地域医療学	兼松孝好 教授
頭頸部診察		耳鼻咽喉・頭頸部外科学	川北大介 准教授
全身状態とバイタルサイン		循環器内科学（中央臨床検査部）	菊池祥平 助教
胸部診察（循環器）		呼吸器・免疫アレルギー内科学	上村剛大 助教
胸部診察（呼吸器）		消化器・代謝内科学	藤原 圭 准教授
腹部診察		神経内科学	大喜多賢治 講師
神経診察		整形外科学	岡本秀貴 准教授
四肢と脊柱		循環器内科学	山本惇貴 助教
基本的臨床手技		消化器外科学（中央手術部）	小川 了 講師
感染対策	外科手技	臨床感染制御学	中村 敦 教授
	一般手技		
救急救命処置		先進急性期医療学	笹野 寛 教授

授業計画

		全身状態とバイタルサイン 胸部診察1（循環器）	胸部診察2（呼吸器）
2月1日（水）	3・4限	講義 全員（3限）	講義 全員（4限）
2月8日（水）	3・4限	実習 Aグループ	実習 Bグループ
2月15日（水）	3・4限	実習 Bグループ	実習 Aグループ
		医療面接（1回目）	四肢と脊柱
4月11日（火）	3限	講義 全員（3限）	
4月18日（火）	3・4限	実習 Aグループ	実習 Bグループ
4月25日（火）	3・4限	実習 Bグループ	実習 Aグループ
		神経診察（1回目）	
4月12日（水）	3・4限	講義 全員（3限）	
4月19日（水）	3・4限	実習 Aグループ	
4月26日（水）	3・4限	実習 Bグループ	
		医療面接（2回目）	腹部診察（1回目）
4月11日（火）	4限		講義 全員（4限）
5月9日（火）	3・4限	実習 Aグループ	実習 Bグループ
5月16日（火）	3・4限	実習 Bグループ	実習 Aグループ
		神経（2回目）	基本的臨床手技
5月10日（水）	3・4限	実習 Aグループ	実習 Bグループ
5月17日（水）	3・4限	実習 Bグループ	実習 Aグループ
		感染対策（外科手技）	頭頸部の診察
5月11日（木）	3・4限	講義 全員（3限）	講義 全員（4限）
5月18日（木）	3・4限	実習 Aグループ	
5月25日（木）	3・4限	実習 Bグループ	
7月12日（水）	3・4限		実習 全員
		救命救急処置	
6月28日（水）	1限	講義 全員（1限）	
7月5日（水）	1・2限	実習（1～2限）	
		神経診察（3回目）	
6月28日（水）	3・4限	実習 Aグループ	
7月5日（水）	3・4限	実習 Bグループ	
		腹部診察（2回目）	
8月28日（月）	3・4限	実習 Aグループ	
9月1日（金）	3・4限	実習 Bグループ	
		感染対策（一般手技）	
9月1日（金）	1・2限	実習 全員	
		総復習	
9月20日（水）	3・4限	各実習の復習	
		本試験	
9月23日（土）	終日	全員	
9月24日（日）			
		追再試験（兼 本試験の予備日）	
10月21日（土）	終日	追再試験対象者（予備日として実施の場合は全員）	
10月22日（日）			

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	臨床診断推論 (Basic) および臨床診断推論 (Advanced)
専門・教養	専門
担当教員	兼松孝好, 赤津裕康, 鈴木幹三, 大原弘隆
講義期間・曜日・時限	[Basic] 1月5日, 12日, 19日, 26日の各3・4限 計8コマ [Advanced] 10月5日, 10月12日, 10月19日の各3・4限 計6コマ

授業目的・目標	【授業目的】医師として適切な臨床診断が下せるよう、自己研鑽とチームダイナミクスの双方を用いて模擬体験をしながら、臨床診断推論の方法を習得する。 【授業目標】臨床診断がより正しくできる為に、問題志向型システムを用いた病歴聴取やカルテ記載ができると共に、臨床診断推論の具体的な手法を学ぶ。また、グループ討論の中から、より妥当な診断を得る経験を通して、チームダイナミクスの有用性や他者の意見の尊重などを重ねて学ぶ。
キーワード	臨床診断推論, カルテ記載, 医療面接
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	領域I abc, 領域II abod, 領域IV ad
学習到達目標	【学習到達目標】 1. 問題志向型システムを意識したカルテ記載ができる。(F-3-1, F-3-3) 2. 診断推論に必要な病歴聴取や身体所見, 検査項目の確認ができる。(F-2-1, F-3-5-(1)) 3. 全身倦怠感, 腹痛, 頭痛に対し, 診断推論を図ることができる。(F-1-2, F-1-20, F-1-33) 4. 課題に対して小グループ討論により論理を展開し, 解決するための手段を提示できる。 5. チームダイナミクスを理解し, 他者との比較により自己学習課題を見つけることができる。 6. 診断推論に基づいて, 議論を行うことができる。(F-3-4) 7. 自発的な生涯自己学習を行うことができる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 (F-1 診療の基本) F-1-2) 全身倦怠感, F-1-20) 腹痛, F-1-33) 頭痛, (F-2 基本的診療知識) F-2-1) 臨床推論 (F-3 基本的診療技能) F-3-1) 問題志向型システムと臨床診断推論, F-3-2) 医療面接 F-3-3) 診療録 (カルテ), F-3-4) 臨床判断, F-3-5) 身体診察 (G-4 診療科臨床実習) G-4-4) シミュレーション教育
成績評価基準	秀: 学習到達目標を越えたレベルを達成している 優: 学習到達目標を十分に達成している 良: 学習到達目標を達成している 可: 学習到達目標を最低限達成している
授業概要	双方向講義, シミュレーション学習, TBL学習などのアクティブ・ラーニングを行う。 TBL形式によるグループ討論と学習を行った後, 診断の絞り込みを行う。最後にまとめの講義が行われる。(オンライン形式であっても, 同様の手法で実施する。)
授業計画	【Basic】 (予定) 1月05日 (木) 1-2限 双方向講義 (「腹痛」の症例提示, ディスカッション) 1月12日 (木) 1-2限 シミュレーション学習 (「腹痛」のカルテ学習) 1月19日 (木) 1-2限 TBL形式 (「腹痛」の症例提示, ディスカッション) 1月26日 (木) 1-2限 TBL形式 (「頭痛」の症例提示, ディスカッション) 【Advanced】 (予定) 10月05日 (木) 3-4限 TBL形式 (「全身倦怠感」の症例提示, ディスカッション) 10月12日 (木) 3-4限 TBL形式 (「腹痛」の症例提示, ディスカッション) 10月19日 (木) 3-4限 TBL形式 (「頭痛」の症例提示, ディスカッション) ・双方向講義については, 腹痛を題材として, 基本的な診断推論の手法を学ぶ。 ・シミュレーション学習では, カルテの書き方について, カルテの1例を題材に学習する。 ・TBLでは症例が主訴, 医療面接情報, 身体所見, 検査所見の順に提示され, それぞれのところでのような疾患・病態が考えられ, その鑑別にはどのような情報があればよいかを検討する。議論の中で自分達の理解できていない項目が明確になるため, これを学習課題とし, 分担して学習し, これを持ち寄って次週にグループ学習を行う。最後にまとめの講義で診断が提示されるとともに, 考えるべき重要な項目が指摘される。 ・一部または全講義を, オンライン形式で行う可能性があります。(内容については対面形式でもオンライン形式でも変更はありません。)
授業時間外の学習(準備学習を含む)	・講義実習について, 遅刻・欠席・早退の場合には理由を付して連絡すること。 ・連絡のない遅刻・欠席・早退については最大3倍の遅刻・欠席・早退時間として算定する。 ・学生自身にとって不利益が大きいため, 理由がない遅刻・欠席・早退は履修を認めない。
成績評価方法	各講義において, 課題を提出し採点する。課題は, 学習に対する理解度の確認の他, 参加態度なども点数化する。複数回の課題を評価し, 基準点を満たすものを合格とする。
教科書・テキスト	テキスト・適切な参考文献を自ら探して選択することも学習課題のひとつとする。
参考文献	例示 ・医学生からの診断推論～今日もホームランかつばそうぜ (山中克郎) (羊土社) ・診断推論Step by Step 症例提示の6ステップで鑑別診断を絞り込む (酒見英太) (新興医学出版社)
履修上の注意事項	・講義実習について, 遅刻・欠席・早退の場合には理由を付して連絡すること。 ・連絡のない遅刻・欠席・早退については最大3倍の遅刻・欠席・早退時間として算定する。 ・学生自身にとって不利益が大きいため, 理由がない遅刻・欠席・早退は履修を認めない。
履修者への要望事項	事前に「扱う症候(腹痛, 頭痛, 全身倦怠感)」を指定された場合は, 独自に予習を行うこと。 予習の方法は各自で選択するため, 参考図書などの指定はない。
アクティブ・ラーニング	双方向講義, シミュレーション学習, TBL (チーム基盤型学習) 学習
連絡先・オフィスアワー	火・木 12:00～13:00 連絡先: 地域医療教育学分野 兼松孝好 電話: 052-853-8527 メールアドレス: kanecore@med.nagoya-cu.ac.jp
実務経験を活かした教育の取組	実際の症例をベースとした症例提示を行うため, 極めて実践的である。 臨床教員が, 外来診療を行う経験を疑似体験できる。 医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第3学年・第4学年

臨床診断推論ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
地域医療学(寄附講座) 教授	兼松孝好
地域医療教育学 教授(診療担当)	赤津裕康
地域包括医療学(寄附講座) 講師	鈴木幹三
西部医療センター 病院長	大原弘隆

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
1	5	木	1, 2	双方向講義(「腹痛」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好
1	12	木	1, 2	シミュレーション学習(「腹痛」のカルテ学習)	兼松孝好
1	19	木	1, 2	TBL形式(「腹痛」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好
1	26	木	1, 2	TBL形式(「頭痛」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好
10	5	木	3, 4	TBL形式(「全身倦怠感」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好
10	12	木	3, 4	TBL形式(「腹痛」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好
10	19	木	3, 4	TBL形式(「頭痛」の症例提示, ディスカッション)	兼松孝好

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	コミュニティヘルスケア卒前教育 行動科学・地域医療学コース コミュニティ・ヘルスケア発展 (IPE)ユニット
専門・教養	専門
担当教員	医学部：赤津裕康、川出義浩
講義期間・曜日・時限	Semester 2 2023/4/5(水)、2023/4/17(月) 3～4限目

授業目的・目標	【授業目的】 認知症終末期症例から超高齢社会、認知症の現実を把握する 【授業目標】 1) 主治医意見書の概要が説明でき作成できる、2) 認知症高齢者を理解する、3) ACPについて提案できる
キーワード	超高齢社会、介護保険、アドバンスケアプランニング (ACP:人生会議)
ディプロマ・ポリシー (卒業時コンピテンシー) との関連	2a, 2d, 3c, 3d, 4a, 4b
学習到達目標	【学習到達目標】 SBO 1: 高齢者個別のニーズを把握することができる。 SBO 2: 高齢者の課題に対し、多職種・地域で対応する方策を提案できる。 SBO 3: 認知症予防や介護のためのコミュニティ・ヘルスプロモーション活動を提案できる。 SBO 4: Advance care planningの必要性を説明できる。 SBO 5: AIP社会における医療者の役割を説明できる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-1-1, 2, 3) プロフェッショナルリズム、B-2-1) 死と法、 B-4-1) 医師に求められる社会性、E-8-1) 老化と高齢者の特徴、E-9-1) 生物的死と社会的死、F-2-15) 在宅医療と介護、F-2-16) 緩和ケア、G-2-32) 物忘れ
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	本科目は、超高齢社会における、認知症、多死の問題に焦点をあてつつ、具体的症例に関して検討するとともに、自らの問題としてもとらえつつ、医師としての向き合い方をともに学びたい。
授業計画	1) 高齢者の特性を把握し、その身体的・精神的・社会的状況の理解を進める。 2) 症例を取り上げつつ、主事意見書の概略を把握し高齢者のニーズにあった介護サービスの提供を理解する。 3) 認知症の進行とその末期の状況を学び、末期高齢者の問題を具体的に捉え、終末期の状態に向けたアドバイスができる素養を習得する。
授業時間外の学修 (準備学習を含む)	超高齢社会を迎えての国の施策に関する情報収集を行っておく。自らの人生に関しても将来の社会情勢を見据えて考え、医師になったときにアドバイスが行える準備を進めておく。
成績評価方法	主治医意見書の記載と提出：45点満点、3コマは講義後のレスポンスカードの提出：各5点満点の計15点満点、最終講義最後の30分で試験を行う：40点満点 合計100点で評価する。
教科書・テキスト	
参考文献	なごや認知症あんしんナビ (http://n-renkei.jp/index.html) ACPトレーニングパッケージ (http://www.ncgg.go.jp/zaitaku1/eol/acp/acp_training_p.html)
履修上の注意事項	本科目は、コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの選択科目であり、医学部・薬学部・看護学部横断型プログラムとして履修する。
履修者への要望事項	
アクティブ・ラーニング	グループワーク、グループディスカッション
連絡先・オフィスアワー	担当教員名：赤津裕康、川出義浩 電話番号（外線）：052-853-8501 午前9時から午後5時まで（月～金） 電子メール：akatu@med.nagoya-cu.ac.jp / ykawade@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー：地域包括ケア推進・研究センター（外来診療棟4階）
実務経験を活かした教育の取組	医師としての臨床経験を持つ教員が講義・実習を担当する。
備考	「インタープロフェッショナル・ヘルスケア論」「コミュニティ・ヘルスケア基礎」「コミュニティ・ヘルスケア応用」「コミュニティ・ヘルスケア発展」「コミュニティ・ヘルスケア実践」の単位をすべて修得すれば、コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラムの修了認定を受けることができる。
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第4学年

コミュニティ・ヘルスケア発展(IPE) ユニット 担当教員

所属・職名	氏名
地域医療教育学分野教授(診療担当)	赤津 裕康
地域医療教育学分野特任准教授	川出 義浩
みどり訪問クリニック院長	姜 琪鎬

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
4	5	水	3	主治医意見書の書き方	赤津
			4	死の体験授業	姜 琪鎬
4	17	月	3	老年医学概論	赤津、川出
			4	アドバンスケアプランニング、最後30分で試験	赤津、川出

(5) 6 年次

開講年度	2023年度
科目名	社会医学コース・予防医学応用1ユニット
専門・教養	専門
担当教員	上島通浩、伊藤由起、加藤沙耶香
講義期間・曜日・時限	2023年9月11日(月)～9月15日(金)3.4限

授業目的・目標	第6学年における社会医学（予防医学応用）コース(1)では、これまでに学んだ医学の知識を総合して医師としての実践活動に生かせるようになることが目標となる。症例・事例検討とそのプレゼンテーションを通じ、社会医学的な諸問題を医療の現場を意識しつつ学び、応用力を養う。
キーワード	労災保険法、健康管理手帳、産業医学、両立支援、安全配慮義務
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	1c, 2a, 3a, 3b, 3c, 4a, 4b
学習到達目標	1. 症例・事例検討を通じて医療の現場における社会医学の視点や実践活動を理解する。 2. 課題解決に向けた説得力あるプレゼンテーションが患者や医療関係者にできるようになる。 【該当するモデル・コア・カリキュラム】 A-3-1) 全人的実践的能力、A-4-1) コミュニケーション、A-4-2) 患者と医師の関係、B-1-6) 社会・環境と健康、B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度、B-4-1) 医師に求められる社会性、C-5-7) 対人関係と対人コミュニケーション、D-6-4)-(3) 閉塞性換気障害・拘束性換気障害をきたす肺疾患
成績評価基準	秀：90点以上（学修到達目標を越えたレベルを達成している） 優：80点以上（学修到達目標を十分に達成している） 良：70点以上（学修到達目標を達成している） 可：60点以上（学修到達目標を最低限達成している）
授業概要	1. 症例・事例の検討：症例・事例を社会医学的側面からグループで検討し、発表する。また、必要な手続きに用いる診断書の作成練習を行う。 2. 講義：症例・事例検討に関連した内容の講義を行う。
授業計画	全5回（症例・事例の提示および関連内容の講義、学生による検討・レポート作成、プレゼンテーション）
授業時間外の学修（準備学習を含む）	初回の授業で示す授業目的をふまえ、レポートやプレゼンテーション資料の作成に臨むこと。発表については、十分準備を行うこと。
成績評価方法	レポート提出及びプレゼンテーションへの参加は必須。それぞれ以下の基準で評価し、合計点数で成績評価を行う。配点割合はレポート50%、プレゼンテーション50%（グループ発表のため、グループ評価を各人の評価と読み替える）とする。
教科書・テキスト	NEW予防医学・公衆衛生学 改訂第4版（南江堂）。シンプル衛生公衆衛生学（南江堂）。
参考文献	その他、必要な資料は講義時に配布します。
履修上の注意事項	遅刻・欠席をしないこと。
履修者への要望事項	臨床実習を通じて学んだ患者・患者家族に対する姿勢をプレゼンテーションに活かすこと。
アクティブ・ラーニング	初回の授業で提示された症例・課題について、グループごとに担当テーマを決め、調査学習およびプレゼンテーションを行う。
連絡先・オフィスアワー	電話番号（外線）：853-8171 電子メール：kami.jima@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー：月曜日～金曜日（09:00～17:00）（会議等で教員が不在の場合があるので、事前に確認することが望ましい）
実務経験を活かした教育の取組	産業医としての実務経験を有する教員が講義・演習を担当する。
備考	不明な点があれば積極的に教員に質問し、十分な理解を得よう努めること。
関連URL	

2023年度 第6学年

予防医学応用1ユニット 担当教員

所属・職名
環境労働衛生学 教授
環境労働衛生学 准教授
環境労働衛生学 助教

氏 名
上島通浩
伊藤由起
加藤沙耶香

授業計画

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
9	11	月	3	症例・事例検討	上島・伊藤・加藤
9	11	月	4	症例・事例検討	上島・伊藤・加藤
9	14	木	3	症例・事例検討	上島・伊藤・加藤
9	14	木	4	症例・事例検討	上島・伊藤・加藤
9	15	金	4	症例・事例検討	上島・伊藤・加藤

開講年度	2023年1月～2023年12月
科目名	社会医学（予防医学応用）コース（2）
専門・教養	専門
担当教員	鈴木貞夫、西山毅、大谷隆浩、中川弘子
講義期間・曜日・時限	9月12日（火）1・2限、13日（水）1限、14日（木）1・2限

授業目的・目標	第6学年における社会医学（予防医学応用）では、これまでに学んだ医学の知識を総合して医師としての実践活動に活かせるようになることが目標となる。症例・事例検討やプレゼンテーションを通じて、社会医学的な諸問題について、医療や予防の現場を意識しつつ学び、コミュニケーション能力を含んだ応用力を養う。また、臨床疫学手法について理解し、EBMIに活かせるようにする。
キーワード	臨床疫学、生存解析、メタアナリシス、ROC解析
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	【該当する卒業時コンピテンシー】 I b, II d, III a, III b, IV d
学習到達目標	1. 症例・事例検討を通じて予防・社会医学分野における実践活動を理解する。 2. 臨床疫学の基本的事項について説明できる。 3. プレゼンテーション及びコミュニケーション能力を向上させる。 【該当するモデルコアカリ】 B-1集団に対する医療
成績評価基準	秀：学修到達目標を越えたレベルを達成している 優：学修到達目標を十分に達成している 良：学修到達目標を達成している 可：学修到達目標を最低限達成している
授業概要	1. 症例・事例の検討：症例・事例を社会医学的側面から検討する。 2. 臨床疫学実習：コンピュータ室等において講義および実習を行う。 3. 講義：症例・事例検討に関連した内容の講義を行う。
授業計画	<臨床疫学> 1. 予防医学基礎の復習 2. 生存曲線 3. 生存分析、コックスの比例ハザードモデル 4. 検査の正確さの評価、ROC曲線 5. 系統レビューとメタアナリシス
授業時間外の学修(準備学習を含む)	配布された資料を理解し、講義・実習に臨むこと。 演習において、理解が不十分であった項目については、繰り返し復習し修得するとともに、結果について考察すること。
成績評価方法	演習・実習・講義における取り組み、態度、レポートの提出状況・内容等により評価する。
教科書・テキスト	初回に全ての資料を配布する
参考文献	フリー統計ソフトEZR (Easy R) で誰でも簡単統計解析 (南江堂)
履修上の注意事項	毎回の講義内容について配布資料・参考書を基に復習し、不明な点があれば積極的に教員に質問し、十分な理解を得るよう努めること。課題レポートの提出は必須である。
履修者への要望事項	実習は積み上げ式で行うため全回出席を求める。
アクティブ・ラーニング	興味のあるテーマについて論文を選び、メタ解析を行い検討する。
連絡先・オフィスアワー	担当教員：公衆衛生学 鈴木 電話番号（外線）：853-8176 オフィスアワー：平日（月曜日～金曜日）9：00～17：00 （会議等で教員が不在の場合もあるので、事前に確認すること）
実務経験を活かした教育の取組	
備考	
関連URL	

2023年1月～2023年12月 第6学年

予防医学応用2(公衆衛生学) 担当教員

所属・職名	氏名
公衆衛生学 教授	鈴木 貞夫
公衆衛生学 准教授	西山 毅
公衆衛生学 講師	大谷 隆浩
公衆衛生学 助教	中川 弘子

授業計画

基礎教育棟3階 情報処理実習室

月	日	曜日	時限	内 容	担当者
9	12	火	1	予防医学基礎の復習	鈴木・西山・大谷・中川
9	12	火	2	生存曲線	鈴木・西山・大谷・中川
9	13	水	1	生存分析、コックス比例ハザードモデル	鈴木・西山・大谷・中川
9	14	木	1	検査の正確さの評価、ROC曲線	鈴木・西山・大谷・中川
9	14	木	2	系統レビューとメタアナリシス、社会医学のまとめ	鈴木・西山・大谷・中川

開講年度	2023年度
科目名	社会医学コース 法医学診断学ユニット
専門・教養	専門
担当教員	青木康博, 加藤秀章, 菅野さな枝, 福田真未子
講義期間・曜日・時限	9月11日(月) 1, 2限, 12日(火) 3, 4限, 14日(水) 2~4限, 15日(金) 1~3限

授業目的・目標	ICD-10(疾病分類)および死亡診断書(死体検案書)の構造およびその医学的・社会的意義についての理解を深めること, ならびに法医学的問題を有する症例の検討を通じ, 法医学実務への更なる理解を深めることを目的とし, 医師の活動現場において応用可能な法医学的考察力を身につける。
キーワード	死亡診断書, 死体検案, 法病理学, 法中毒学, 法鑑定
ディプロマ・ポリシー(卒業時コンピテンシー)との関連	1a, 1b, 1c, 111b, 1Vd
学習到達目標	1. 法医学分野の実践活動を理解する。 2. 医療現場において生ずる法医学的問題を説明できる。 3. 総合的に死因・死亡の種類を判断し, 死亡診断書(死体検案書)が適切に作成できる。 【該当するモデルコアカリ】A-1-3) 医師としての責務と裁量権, A-2-1) 課題探求・解決能力, A-6-1) 安全性の確保, A-6-2) 医療上の事故等への対処と予防, A-9-1) 生涯学習への準備, B-2-1) 死と法, B-2-2) 診療情報と諸明書, B-4-1) 医師に求められる社会性, D-1 血液・造血器・リンパ系, D-2 神経系, D-5 循環器系, D-6 呼吸器系, D-7 消化器系, E-9) 人の死 F-1-37) 外傷・熱傷, F-2-4) 病理診断
成績評価基準	合格:60点以上(学修到達目標を達成している)
授業概要	死亡診断書作成演習。法医学症例検討演習・発表
授業計画	授業計画表参照
授業時間外の学修(準備学習を含む)	与えられた課題に対し, 臨床医学的観点からも考察が行えるよう, 臨床各科で学んだ内容等を再確認すること。
成績評価方法	提出物・レポート(1/3), プレゼンテーションおよび討論(2/3) 授業参加度, グループ活動の成果等により評価する。
教科書・テキスト	教科書は特にしないが, 内外の法医学, 中毒学等のテキストを参照されたい。
参考文献	
履修上の注意事項	資料は当日または前もって配布する。レポートはLiveCampusを利用して提出すること。
履修者への要望事項	積極的な取り組みを期待する。
アクティブ・ラーニング	グループワーク, グループディスカッション, 調査学習, 全体討論を実施する。
連絡先・オフィスアワー	担当教員 : 青木康博 電話番号(外線) : 052-853-8181 メールアドレス : aokiy@med.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー : 火, 水, 金 9:00~18:00 (事前に連絡すること)
実務経験を活かした教育の取組	法医学実務の経験を有する教員が担当する。
備考	
関連URL	

法医診断学 担当教員

所属・職名	氏名
法医学分野・教授	青木康博
法医学分野・准教授	加藤秀章
法医学分野・講師	菅野さな枝
法医学分野・助教	福田真未子

授業計画

月	日	曜日	時限	内容	担当者
9	11	月	1	症例検討演習ガイドンス・死亡診断書作成(講義, 講義室A)	青木康博
9	11	月	2	死亡診断書作成演習(講義室A・B)	青木康博
9	12	火	3	死亡診断書作成演習(講義室A)	青木康博
9	12	火	4	症例検討演習(講義室A・B)	青木康博
9	13	水	2	症例検討演習(講義室A・B)	全教員
9	13	木	3	症例検討演習(講義室A・B)	全教員
9	13	金	4	症例検討演習(講義室A・B)	全教員
9	15	金	1	症例検討(全体発表, 講義室A・B)	全教員
9	15	金	2	症例検討(全体発表, 講義室A・B)	全教員
9	15	金	3	症例検討(全体発表, 講義室A・B)	全教員

10. 規程・資料集

(1) 医学部履修規程（2022年1月発布版）

名古屋市立大学医学部履修規程

目次

- 第1章 総則（第1条）
- 第2章 教養教育科目（第2条―第13条の4）
- 第3章 専門教育科目（第14条―第20条の2）
- 第3章の2 他学部との単位互換（第20条の3―第20条の8）
- 第4章 進級及び卒業要件（第21条―第25条）
- 第5章 雑則（第26条）
- 附則

（一部改正 平成19年達第52号、平成20年達第41号、平成22年達第37号、平成23年達第1号、平成23年達第16号、令和2年達第11号）

第1章 総則

（趣旨）

第1条 この規程は、名古屋市立大学学則（平成18年公立大学法人名古屋市立大学学則第1号。以下「学則」という。）第41条の規定に基づき、医学部（以下「本学部」という。）の授業科目、授業時間数（教養教育科目にあつては単位数）及び履修方法等（以下「履修方法等」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

（一部改正 平成20年達第41号、令和2年達第11号、令和5年達第24号）

第2章 教養教育科目

（授業科目及び単位数）

第2条 授業科目、配当年次、単位数及び必修・選択・自由の区分は、別表1のとおりとする。

（一部改正 平成27年達第10号）

（単位の計算の基準）

第3条 授業科目の単位数は、45時間の学修内容をもって1単位とし、授業形態に応じて次の各号に定める基準により計算する。

- (1) 講義 15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習 15時間又は30時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実験、実習及び実技 30時間の授業をもって1単位とする。

（一部改正 平成30年達第19号、令和5年達第24号）

（修得必要単位数）

第4条 教養教育科目における修得必要単位数は、別表2のとおりとする。

（履修の届出）

第5条 学生は、年度の始めにおいて、前期及び後期に履修しようとする授業科目について指定された期間内に、所定の手続きにより届け出なければならない。

2 前項の規定により届け出た後期の授業科目については、後期において指定された期間内に所定の手続きにより変更（授業科目の追加を含む。）することができる。

（履修の取消）

第6条 学生は、指定された期間内に所定の手続きにより履修の取り消しをすることができる。

（履修方法）

第7条 必修科目は、配当年次において履修しなければならない。

2 授業時間の重なる授業科目（専門教育科目の授業科目を含む。）は、重複して履修することはできない。

3 第5条の規定により届け出た授業科目以外の授業科目は、履修することができない。

4 既に単位を修得した授業科目は、再履修することはできない。

5 授業科目によっては、履修者数及び履修資格を定めることがある。

6 授業科目のうち、履修するクラスを指定する科目（以下「指定科目」という。）は、原則として指定されたクラス以外で履修することはできない。ただし、指定科目を再履修するため、同一授業時間の別の指定科目が履修できない場合は、指定されたクラス以外で履修できることがある。

（一部改正 平成19年達第52号、令和5年達第24号）

(試験)

第8条 試験については、名古屋市立大学試験及び成績に関する規程（令和5年公立大学法人名古屋市立大学達第8号。以下「試験及び成績に関する規程」という。）第2条に定める。

(一部改正 令和5年達第24号)

(追試験)

第9条 追試験については、試験及び成績に関する規程第4条に定める。

(一部改正 令和5年達第24号)

(再試験)

第10条 試験に不合格となった授業科目については、再試験を受けることができる。

2 再試験を受けることができる学生は、試験の成績が50点以上の者とし、指定された期間内に再試験受験願を提出し、再試験料を納付しなければならない。

(一部改正 平成19年達第52号、平成20年達第41号)

(成績)

第11条 成績及び成績評価については、試験及び成績に関する規程第5条及び第6条に定める。

(一部改正 平成19年達第52号、平成22年達第37号、令和5年達第24号)

(再履修)

第12条 不合格又は失格となった授業科目については、再履修しなければ受験資格を与えない。

2 再履修をしようとする学生は、事前に担当教員の許可を受けなければならない。

3 再履修をする場合、指定科目については原則として前年度所属クラスにおいて履修しなければならない。ただし、授業編成の都合でその授業時間に履修できない場合には、異なる学期又は他のクラスで履修できることがある。

(一部改正 平成19年達第52号)

(入学前の既修得単位の認定)

第13条 入学前の既修得単位の認定は、学則第40条の規定に従い、教授会の議を経て行う。

2 既修得単位の認定を受けようとする学生は、指定された期間内に既修得単位認定申請書を提出しなければならない。

(一部改正 令和5年達第24号)

(学外における学修の単位認定)

第13条の2 学則第40条の2の規定により単位を認定することのできる学修及び単位数は、別表2の2のとおりとする。

2 前項に規定する単位の認定を受けようとする学生は、指定された期間内に学外における学修に係る単位認定申請書を提出しなければならない。

(一部改正 平成20年達第41号)

(履修登録単位数の上限)

第13条の3 1つの学期に履修科目として登録できる単位数の上限は、別に定める場合を除き26単位とする。

(一部改正 平成22年達第37号、平成30年達第19号)

(単位の取消)

第13条の4 学則第31条の規定に基づき授業料の未納により除籍する場合において、授業料の未納期間に修得した単位があるときは、これを取り消す。

(一部改正 平成23年達第1号)

第3章 専門教育科目

(授業科目及び授業時間数)

第14条 授業科目は、別表3のとおりとする。

2 授業科目の時間数及び配当年次は、別に定める。

3 授業科目は、選択制コースを除き必修とする。

4 学校推薦型選抜（中部圏活躍型・名古屋市高大接続型）により入学した学生は、MD-PhDコースを履修しなければならない。

(一部改正 平成31年達第9号、令和3年達第8号)

(試験)

第15条 試験については、試験及び成績に関する規程第2条に定める。

2 試験及び成績に関する規程第2条第3項の規定にかかわらず、実習にあっては、当該授業科目の全時間数への出席がない場合は失格とし、成績評価を行わないものとする。平常の履修実績等により、教授会の議を経て、学部長が当該授業科目を修了する見込みがないと判断した場合も同様とする。

3 前2項に定めるもののほか、試験の実施については別に定める。

(一部改正 平成27年達第47号、平成31年達第9号、令和3年達第98号、令和5年達第24号)

(試験の時期等)

第16条 定期試験は、原則として学期末又はその授業の構成単位を終了するときに行う。

2 随時試験は、その授業科目の担当教員が必要の都度行う。

(再試験)

第17条 試験に不合格となった授業科目については、担当教員の許可を得て、再試験受験願を提出することにより、再試験を1回受けることができる。

2 前項の規定にかかわらず、第5年次及び第6年次に配当又は構成された専門教育科目の試験に不合格となった者のうち、不合格の授業科目が4科目以下の場合は、授業科目ごとにさらに1回に限り再試験を受けることができる。

(一部改正 令和5年達第24号)

(再試験の時期等)

第18条 再試験は、担当教員の定めるところにより行う。

2 再試験は、遅くとも学年末までには終了し、成績評価を行う。

(追試験)

第19条 追試験については、試験及び成績に関する規程第4条に定める。

2 試験及び成績に関する規程第4条第2項に規定する追試験受験願の提出については、事前に担当教員の許可を得て、試験欠席届と併せて提出しなければならない。

3 追試験を行う場合の時期等については、前条第2項の規定を準用する。

(一部改正 平成19年達第52号、令和5年達第24号)

(成績)

第20条 成績及び成績評価については、試験及び成績に関する規程第5条及び第6条に定める。

(一部改正 平成19年達第52号、平成22年達第37号、令和5年達第24号)

(単位の取消)

第20条の2 学則第31条の規定に基づき授業料の未納により除籍する場合において、授業料の未納期間に修得した単位があるときは、これを取り消す。

(一部改正 平成23年達第1号)

第3章の2 他学部との単位互換

(一部改正 平成19年達第52号)

(授業科目)

第20条の3 学生は、別に定めるところにより、他学部の授業科目を履修することができる。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

(履修の届出)

第20条の4 他学部の授業科目の履修を希望する場合は、指定された期間内に所定の様式により届け出なければならない。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

(履修の取消)

第20条の5 他学部の授業科目の履修を取り消す場合は、指定された期間内に所定の様式により届け出なければならない。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

(履修方法)

第20条の6 学生は、他学部の授業科目を履修する場合には、他学部の履修規程等の規定に従い、履修しなければならない。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

(単位の認定及び取消)

第20条の7 他学部の授業科目を履修した学生の単位の認定は、当該学部より送付される成績証明書等に基づき、本学部が行う。

2 学則第31条の規定に基づき授業料の未納により除籍する場合において、授業料の未納期間に修得した単位があるときは、これを取り消す。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

(その他)

第20条の8 単位互換に関し、この規程に定めのない事態が生じた場合には、その対処の方法について、教授会の議を経て、学部長が決定する。

(一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第1号)

第4章 進級及び卒業要件

(進級判定)

第21条 各学年の進級判定は次に定めるところによる。

(1) 次のいずれかに該当する者は、第2年次に進級できない。

ア 第1年次終了時において、第4条に定める修得すべき単位を修得できない者

イ 第1年次に配当された専門教育科目を1科目でも修了できない者

(2) 第2年次以降、各年次に配当又は構成された単位の専門教育科目（各年次において総合試験が実施される場合は、当該試験を含む。）を1科目でも修了できない者は、次年次に進級できない。

(3) 前号の規定にかかわらず、第2年次終了時及び第3年次終了時において、未修了科目が2科目以下の者については仮進級とする。

(4) 仮進級した学年において、前学年の未修了科目が当該学年の終了時までには修了できない場合は、次年次に進級できない。

（一部改正 平成23年達第16号、令和5年達第24号）

（原級留置及び再履修）

第22条 第2年次から第5年次までの次年次に進級できないと判定された者及び第6年次において卒業が不可と判定された者は、原級に留まり、その学年に配当された全科目を再履修しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、教授会の議を経て、学部長が指定した専門教育科目については、再履修を要しない。

（一部改正 平成23年達第16号、平成27年達第47号、令和5年達第24号）

第23条 削除

（一部改正 平成23年達第16号、平成27年達第47号）

（除籍）

第24条 学則第30条第2項の規定に基づき、次のいずれかに該当する者は、除籍する。

(1) 入学あるいは進級後3年に至っても、なお、次年次に進級できない者

(2) 在学年数が入学後8年に至っても、なお、第5年次に進級できない者

（一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第16号、令和5年達第24号）

（卒業の認定）

第25条 所定の期間在学し、第4条に定める修得すべき単位及び第14条に定める全ての授業科目を修得した者は、卒業資格を認定する。ただし、第14条第4項に定める場合においては、MD-PhDコースを修得することを卒業要件に含めない。

（一部改正 平成19年達第52号、平成23年達第16号、令和3年達第8号）

第5章 雑則

（その他）

第26条 この規程に定めるもののほか、履修方法等に関し必要な事項は、教授会の議を経て、学部長が定める。

（一部改正 平成23年達第16号、平成27年達第47号）

附 則

（略）

附 則（令和5年公立大学法人名古屋市立大学達第24号）

（施行期日）

1 この規程は、令和5年4月1日（以下「施行日」という。）から施行する。

（経過措置）

2 この規程による改正後の名古屋市立大学医学部履修規程（以下「改正後規程」という。）第3条第3号並びに別表1及び別表2の規定は、令和5年度以後に入学（転入学、再入学及び学士入学（以下「転入学等」という。）を除く。）する学生について適用し、令和4年度以前に入学した学生に係る履修方法等については、なお従前の例による。

3 前項の規定にかかわらず、令和4年度以前に入学した学生に係る履修方法等について、従前の例によりがたいと教授会が認めた場合は、教授会の議を経て学部長が別に定める。

4 改正後規程第21条第3号及び第4号の規定は、施行日以後において第2年次又は第3年次に属する学生について適用する。

5 令和5年度以後に転入学等する学生に係る履修方法等については、改正後規程の規定にかかわらず、その者の属する学年の在校生の例による。

6 この規程に定めるもののほか、この規程の施行に関し必要な経過措置は、教授会の議を経て学部長が定める。

別表 1

区 分		授 業 科 目	授業 形態	配当 年次	単 位 数		
					必修	選択	自由
共 通 科 目	大 学 特 色 科 目	NCUラーニング・コンパス	講義	1	1		
		ヘルシーライフ	講義	1		2	
		キャリアデザインA	講義	1		2	
		キャリアデザインB	講義	1		2	
		SDGsを考える：医療系	講義	1			2
		SDGsを考える：自然系	講義	1		2	
		SDGsを考える：数理情報系	講義	1		2	
		SDGsを考える：社会科学系	講義	1		2	
		SDGsを考える：人文系	講義	1		2	
		名古屋市政を通してみる現代社会の諸問題	講義	1		2	
		科学館・博物館・美術館から知る名古屋	講義	1		2	
		近世名古屋の歴史	講義	1		2	
		大学生から始めるESD	講義	1		2	
		まちづくり論	講義	1		1	
		キャリアデザイン（実践編）	講義	1		2	
		起業家になる	講義	1		2	
		地域社会で活躍する女性	講義	1		2	
		ワークライフバランスとダイバーシティ	講義	1		2	
		多文化共生と国際貢献	講義	1		2	
		持続可能な社会と私たち	講義	1		2	
		ESDと地域の環境	講義	1		2	
		次世代エネルギーワークショップ	講義	1		2	
		現 代 社 会 の 諸 相	日本国憲法	講義	1		2
	なぜ憲法が必要なのか		講義	1		2	
	現代社会と法		講義	1		2	
	知的財産権入門		講義	1		2	
	人と法と医療		講義	1		2	
	国民所得はどう決まるか？		講義	1		2	
	ゲーム的狀況を科学する		講義	1		2	
	公共政策：健康と暮らしの社会科学		講義	1		2	
	はじめての経営学		講義	1		2	
	企業診断ABC		講義	1		2	
	社会科学のデータ分析		講義	1		2	
	社会学A		講義	1		2	
	社会学B		講義	1		2	
	社会学C		講義	1		2	
	新聞報道の現場から		講義	1		2	
	人間の行動・心理と建築		講義	1		2	
	平和論		講義	1		2	
	私たちの暮らしと政治・行政・地方自治		講義	1		2	
	国際政治		講義	1		2	
	比較政治史		講義	1		2	
	シティズンシップ入門	講義	1		2		
地域力を高めるひとづくり	講義	1		2			
探 求 文 化 と 人 間 性 の	日本文化の理解	講義	1		2		
	人類学	講義	1		2		
	日本語コミュニケーション	講義	1		2		
	囲碁に学ぶ	講義	1		2		
	ヨーロッパの文化と歴史	講義	1		2		
	文化に見る歴史	講義	1		2		

		アメリカ史入門	講義	1		2	
		都市と地域構造の地理学	講義	1		2	
		音楽と文化	講義	1		2	
		デザインと情報	講義	1		2	
		人間と表現	講義	1		2	
		自分とみんなで考える哲学	講義	1		2	
		応用倫理学	講義	1		2	
		心理学概論	講義	1		2	
		心理学入門	講義	1		2	
		西洋の教育と哲学	講義	1		2	
		次世代育成と地域の課題	講義	1		2	
		デジタル時代の人文学	講義	1		2	
		世界を理解するための宗教学	講義	1		2	
		日本の宗教の歴史と文化	講義	1		2	
		キー・コンピテンシー	講義	1		2	
	人間と自然	科学史	講義	1		2	
		環境と社会・制度・政治・経済	講義	1		2	
		環境科学	講義	1		2	
		植物の多様性と環境	講義	1		2	
		動物とヒトの進化多様性	講義	1		2	
		社会と医学	講義	1		2	
		くすりと社会	講義	1		2	
		都市と自然	講義	1		2	
		健康と生活	講義	1		2	
		行動生態学	講義	1		2	
	自然と数理の探求	教養として知っておきたい様々な病気の実態	講義	1			2
		創薬と生命	講義	1		2	
		宇宙のなりたち	講義	1		2	
		植物とバイオテクノロジー	講義	1		2	
		エネルギーのサイエンス	講義	1		2	
		バイオサイエンス入門	講義	1		2	
		情報と数理の世界	講義	1		2	
		データサイエンスへの誘い	講義	1		2	
		地球史入門	講義	1		2	
		地域生態学	講義	1		2	
語学科目	英語	IS: Community	演習	1		1	
		IS: Social Justice	演習	1		1	
		IS: Life & Work	演習	1		1	
		IS: Health & Well-being	演習	1		1	
		IS: The Arts	演習	1		1	
		AE: Make a Difference in Your Community	演習	1		2	
		AE: Interact Internationally	演習	1		2	
		AE: Improve Life Skills	演習	1		2	
		AE: Raise Health/ Environmental Awareness	演習	1		2	
		AE: Produce a Movie	演習	1		2	
		CS: Presentation	演習	1		2	
		CS: Grammar and Usage	演習	1		2	
		CS: TOEIC Preparation	演習	1		2	
		CS: Writing	演習	1		2	
		EM: World News	演習	1		2	

		EM: Popular Culture	演習	1		2	
		EM: Reading for Inspiration	演習	1		2	
		EM: Online Articles and Videos	演習	1		2	
	その他の言語	ドイツ語初級1	演習	1		2	
		ドイツ語初級2	演習	1		2	
		フランス語初級1	演習	1		2	
		フランス語初級2	演習	1		2	
		中国語初級1	演習	1		2	
		中国語初級2	演習	1		2	
		韓国語初級1	演習	1		2	
		韓国語初級2	演習	1		2	
		スペイン語初級1	演習	1		2	
		スペイン語初級2	演習	1		2	
		日本手話初級1	演習	1		2	
		日本手話初級2	演習	1		2	
		ポルトガル語入門	演習	1		2	
		ロシア語入門	演習	1		2	
		イタリア語入門	演習	1		2	
		アラビア語入門	演習	1		2	
		ドイツ語初級会話1	演習	1			2
		ドイツ語初級会話2	演習	1			2
		フランス語初級会話1	演習	1			2
		フランス語初級会話2	演習	1			2
	中国語初級会話1	演習	1			2	
	中国語初級会話2	演習	1			2	
	情報科目	情報リテラシー	講義・演習	1	1		
		医療統計学基礎	講義・演習	1	1		
		データサイエンス・リテラシー	講義・演習	1		1	
	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学	講義	1	1		
	ボランティア科目	ボランティア科目1	実習	1			1
		ボランティア科目2	実習	1			1
基礎科目	物理学	力学	講義	1		2	
		電磁気学	講義	1		2	
		波動・熱力学	講義	1		2	
	化学	有機化学	講義	1		2	
		生体分子化学	講義	1		2	
	生物学	基礎生物学	講義	1		2	
		生物学	講義	1		2	
	自然科学実験	自然科学実験	実験	1	1		
	数学・統計学	微分積分学	講義	1		2	
		線形代数学Ⅰ	講義	1		2	
線形代数学Ⅱ		講義	1		2		
地域参加型学習	医薬看連携地域参加型学習	演習・実習	1	2			

注 本表に掲げる授業科目のほかセミナー及び開放科目を、教授会の議を経て開設し単位を与えることがある。

(一部改正 平成19年達第52号、平成20年達第41号、平成21年達第29号、平成22年達第37号、平成23年達第16号、平成24年達第18号、平成25年達第16号、平成26年達第11号、平成27年達第10号、平成28年達第10号、平成30年達第19号、平成31年達第9号、令和2年達第11号、令和3年達第8号、令和4年達第18号、令和5年達第24号)

別表2

区 分			最低修得必要単位数
共通科目	一般教養科目	大学特色科目	5 単位
		現代社会の諸相	* 8 単位
		文化と人間性の探求	
		人間と自然	
		自然と数理の探求	2 単位
	語学科目	英語	6 単位
		その他の言語	4 単位
	情報科目		2 単位
	健康・スポーツ科目		1 単位
	ランティア科目		
基礎科目	物理学		8 単位
	化学		
	生物学		
	自然科学実験		1 単位
	数学・統計学		4 単位
	地域参加型学習	医薬看連携地域参加型学習	2 単位
教養教育科目合計			43単位

注 単位互換事業により他大学において単位を修得した場合は、教授会の議を経て4単位まで本表*印欄の必要単位数に算入することができる。

(一部改正 平成20年達第41号、平成21年達第29号、平成22年達第37号、平成24年達第18号、平成25年達第16号、平成26年達第11号、平成28年達第10号、平成30年達第19号、令和5年達第24号)

別表2の2

検定試験の種類	語学科目[英語]	
	2単位	4単位
実用英語技能検定	準1級	1級
TOEIC / TOEIC L&R	730～799点	800点以上
TOEFL (iBT)	77～88点	89点以上

注1 申請はいずれか1種類に限る。

注2 認定の対象科目は「CS: TOEIC Preparation (2単位)」又は「CS: Grammar and Usage (2単位)」とし、認定単位は4単位を上限とする。
(一部改正 平成20年達第41号、平成23年達第16号、平成30年達第19号)

別表3

区分	授業科目		授業形態
	コース名	ユニット名	
基礎医学	解剖学コース	肉眼解剖学	講義・実習
		組織学・発生学・神経解剖学	講義・実習
	生化学コース	物質と代謝	講義・実習
		分子と細胞	講義・実習
	生理学コース	植物的機能系	講義・実習
		動物的機能系	講義・実習
臨床基礎医学	病理学コース	病態病理	講義・実習
		臨床病理	講義・実習
	薬理学コース	薬理学	講義・実習
	感染微生物コース	医動物学	講義・実習
		細菌学	講義・実習
		ウイルス学	講義・実習
	免疫学コース	免疫学	講義・実習
社会医学	社会医学コース	予防医学基礎	講義・実習・演習
		予防医学応用	講義・実習・演習
		法医学	講義・実習
		法医診断学	講義・演習
		医学・医療倫理	講義
		医学情報学	講義
臨床医学	臨床医学コース	血液・造血器・リンパ系	講義
		神経系	講義
		皮膚系	講義
		運動器系・リハビリテーション	講義
		循環器系	講義
		呼吸器系	講義
		消化器系・内視鏡	講義
		腎・尿路系	講義

		生殖機能	講義
		妊娠と分娩	講義
		乳房	講義
		内分泌・栄養・代謝系	講義
		眼・視覚系	講義
		耳鼻・咽喉・口腔系	講義
		精神系	講義
		臨床感染症学	講義
		成長と発達／発生	講義
		麻酔科学・集中治療医学	講義
		食事と栄養療法	講義
		放射線等を用いる診断と治療	講義
		輸血と移植	講義
		膠原病	講義
		臨床腫瘍学	講義
		救急科	講義
		漢方医学	講義
		臨床処方学	講義
臨床実習	臨床実習コース	臨床実習	実習
		選択制臨床実習	実習
統合教育	総合医学コース	医学入門	講義
		水平統合基礎	講義
		水平統合病態	講義
	行動科学・地域医療学コース	行動科学	講義
		神経科学	講義
		疼痛科学	講義
		疼痛医学（痛みと行動科学）	講義
		コミュニティ・ヘルスケア基礎（IPE）	講義
		コミュニティ・ヘルスケア応用（IPE）	講義・実習
		コミュニティ・ヘルスケア発展（IPE）	講義
		コミュニティ・ヘルスケア実践（IPE）	実習
	研究能力養成コース	学術論文入門	講義・実習
		Scientific Writing and Presentation	講義
		先端研究	講義
		遺伝医学	講義
		基礎自主研修	実習
	臨床能力養成コース	救命救急	講義・実習
		臨床診断推論	講義・演習
		基本臨床技能実習	講義・実習
	選択制コース	MD-PhDコース	実習
BRJ活動		実習	

注1 必要がある場合、授業科目及び授業時間数は、教授会の議を経て変更することができる。

注2 コミュニティ・ヘルスケア実践は総合内科臨床実習の一部として行う。

注3 上記科目以外に各段階の評価として以下のものを行う。

臨床前教育（臨床実習資格認定試験、共用試験CBT、共用試験OSCE）

卒業試験（共用試験Post-CC OSCE、総合客観試験）

注4 臨床医学コース（漢方医学及び臨床処方学を除く。）及び疼痛医学（痛みと行動科学）の評価は、臨床実習資格認定試験によって行う。

注5 基本臨床技能実習の評価は、共用試験OSCEによって行う。

注6 IPE：Interprofessional Education

（一部改正 平成19年達第52号、平成20年達第41号、平成21年達第29号、平成22年達第37号、平成23年達第16号、平成26年達第11号、平成27年達第10号、平成30年達第19号、平成31年達第9号、令和2年達第11号、令和3年達第8号、令和4年達第18号）

(2) 医学教育モデル・コア・カリキュラム

以下は、医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成 28 年度改訂版）の項目を抜粋したものである。詳細は、文部科学省ウェブサイトを参照すること。

医学教育モデル・コア・カリキュラム(平成 28 年度改訂版) (項目抜粋)

A 医師として求められる基本的な資質・能力	C-4 病因と病態	D-9-2) 診断と検査の基本
A-1 プロフェッショナリズム	C-4-1) 遺伝的多様性と疾患	D-9-3) 症候
A-1-1) 医の倫理と生命倫理	C-4-2) 細胞傷害・変性と細胞死	D-9-4) 疾患
A-1-2) 患者中心の視点	C-4-3) 代謝障害	D-10 妊娠と分娩
A-1-3) 医師としての責務と裁量権	C-4-4) 循環障害、臓器不全	D-10-1) 構造と機能
A-2 医学知識と問題対応能力	C-4-5) 炎症と創傷治癒	D-10-2) 診断と検査の基本
A-2-1) 課題探求・解決能力	C-4-6) 腫瘍	D-10-3) 症候
A-2-2) 学修の在り方	C-5 人の行動と心理	D-10-4) 疾患
A-3 診療技能と患者ケア	C-5-1) 人の行動	D-10-5) 産科手術
A-3-1) 全人的実践的能力	C-5-2) 行動の成り立ち	D-11 乳房
A-4 コミュニケーション能力	C-5-3) 動機付け	D-11-1) 構造と機能
A-4-1) コミュニケーション	C-5-4) ストレス	D-11-2) 診断と検査の基本
A-4-2) 患者と医師の関係	C-5-5) 生涯発達	D-11-3) 症候
A-5 チーム医療の実践	C-5-6) 個人差	D-11-4) 疾患
A-5-1) 患者中心のチーム医療	C-5-7) 対人関係と対人コミュニケーション	D-12 内分泌・栄養・代謝系
A-6 医療の質と安全管理	C-5-8) 行動変容における理論と技法	D-12-1) 構造と機能
A-6-1) 安全性の確保	D 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療	D-12-2) 診断と検査の基本
A-6-2) 医療上の事故等への対処と予防	D-1 血液・造血器・リンパ系	D-12-3) 症候
A-6-3) 医療従事者の健康と安全	D-1-1) 構造と機能	D-12-4) 疾患
A-7 社会における医療の実践	D-1-2) 診断と検査の基本	D-13 眼・視覚系
A-7-1) 地域医療への貢献	D-1-3) 症候	D-13-1) 構造と機能
A-7-2) 国際医療への貢献	D-1-4) 疾患	D-13-2) 診断と検査の基本
A-8 科学的探究	D-2 神経系	D-13-3) 症候
A-8-1) 医学研究への志向の涵養	D-2-1) 構造と機能	D-13-4) 疾患
A-9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	D-2-2) 診断と検査の基本	D-14 耳鼻・咽喉・口腔系
A-9-1) 生涯学習への準備	D-2-3) 症候	D-14-1) 構造と機能
B 社会と医学・医療	D-2-4) 疾患	D-14-2) 診断と検査の基本
B-1 集団に対する医療	D-3 皮膚系	D-14-3) 症候
B-1-1) 統計の基礎	D-3-1) 構造と機能	D-14-4) 疾患
B-1-2) 統計手法の適用	D-3-2) 診断と検査の基本	D-15 精神系
B-1-3) 根拠に基づいた医療<EBM>	D-3-3) 症候	D-15-1) 診断と検査の基本
B-1-4) 疫学と予防医学	D-3-4) 疾患	D-15-2) 症候
B-1-5) 生活習慣とリスク	D-4 運動器(筋骨格)系	D-15-3) 疾患
B-1-6) 社会・環境と健康	D-4-1) 構造と機能	E 全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療
B-1-7) 地域医療・地域保健	D-4-2) 診断と検査の基本	E-1 遺伝医療・ゲノム医療
B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度	D-4-3) 症候	E-1-1) 遺伝医療・ゲノム医療と情報の特性
B-1-9) 国際保健	D-4-4) 疾患	E-2 感染症
B-2 法医学と関連法規	D-5 循環器系	E-2-1) 病態
B-2-1) 死と法	D-5-1) 構造と機能	E-2-2) 診断・検査・治療の基本
B-2-2) 診療情報と諸証明書	D-5-2) 診断と検査の基本	E-2-3) 症候
B-3 医学研究と倫理	D-5-3) 症候	E-2-4) 疾患
B-3-1) 倫理規範と実践倫理	D-5-4) 疾患	E-3 腫瘍
B-4 医療に関連のある社会科学領域	D-6 呼吸器系	E-3-1) 定義・病態
B-4-1) 医師に求められる社会性	D-6-1) 構造と機能	E-3-2) 診断
C 医学一般	D-6-2) 診断と検査の基本	E-3-3) 治療
C-1 生命現象の科学	D-6-3) 症候	E-3-4) 診療の基本的事項
C-1-1) 生命の最小単位－細胞	D-6-4) 疾患	E-3-5) 各論
C-1-2) 生物の進化	D-7 消化器系	E-4 免疫・アレルギー
C-2 個体の構成と機能	D-7-1) 構造と機能	E-4-1) 診断と検査の基本
C-2-1) 細胞の構成と機能	D-7-2) 診断と検査の基本	E-4-2) 症候
C-2-2) 組織・各臓器の構成、機能と位置関係	D-7-3) 症候	E-4-3) 病態と疾患
C-2-3) 個体の調節機能とホメオスタシス	D-7-4) 疾患	E-5 物理・化学的因子による疾患
C-2-4) 個体の発生	D-8 腎・尿路系(体液・電解質バランスを含む)	E-5-1) 診断と検査の基本
C-2-5) 生体物質の代謝	D-8-1) 構造と機能	E-5-2) 症候
C-3 個体の反応	D-8-2) 診断と検査の基本	E-5-3) 疾患
C-3-1) 生体と微生物	D-8-3) 症候	E-6 放射線の生体影響と放射線障害
C-3-2) 免疫と生体防御	D-8-4) 疾患	E-6-1) 生体と放射線
C-3-3) 生体と薬物	D-9 生殖機能	E-6-2) 医療放射線と生体影響
	D-9-1) 構造と機能	E-6-3) 放射線リスクコミュニケーション

- E-6-4) 放射線災害医療
- E-7 成長と発達
 - E-7-1) 胎児・新生児
 - E-7-2) 乳幼児
 - E-7-3) 小児期全般
 - E-7-4) 思春期
- E-8 加齢と老化
 - E-8-1) 老化と高齢者の特徴
- E-9 人の死
 - E-9-1) 生物的死と社会的死

F 診療の基本

- F-1 症候・病態からのアプローチ
 - F-1-1) 発熱
 - F-1-2) 全身倦怠感
 - F-1-3) 食思(欲)不振
 - F-1-4) 体重減少・体重増加
 - F-1-5) ショック
 - F-1-6) 心停止
 - F-1-7) 意識障害・失神
 - F-1-8) けいれん
 - F-1-9) めまい
 - F-1-10) 脱水
 - F-1-11) 浮腫
 - F-1-12) 発疹
 - F-1-13) 咳・痰
 - F-1-14) 血痰・喀血
 - F-1-15) 呼吸困難
 - F-1-16) 胸痛
 - F-1-17) 動悸
 - F-1-18) 胸水
 - F-1-19) 嚥下困難・障害
 - F-1-20) 腹痛
 - F-1-21) 悪心・嘔吐
 - F-1-22) 吐血・下血
 - F-1-23) 便秘・下痢
 - F-1-24) 黄疸
 - F-1-25) 腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘍
 - F-1-26) 貧血
 - F-1-27) リンパ節腫脹
 - F-1-28) 尿量・排尿の異常
 - F-1-29) 血尿・タンパク尿
 - F-1-30) 月経異常
 - F-1-31) 不安・抑うつ
 - F-1-32) もの忘れ
 - F-1-33) 頭痛
 - F-1-34) 運動麻痺・筋力低下
 - F-1-35) 腰背部痛
 - F-1-36) 関節痛・関節腫脹
 - F-1-37) 外傷・熱傷
- F-2 基本的診療知識
 - F-2-1) 臨床推論
 - F-2-2) 根拠に基づいた医療<EBM>
 - F-2-3) 臨床検査
 - F-2-4) 病理診断
 - F-2-5) 放射線等を用いる診断と治療
 - F-2-6) 内視鏡を用いる診断と治療
 - F-2-7) 超音波を用いる診断と治療
 - F-2-8) 薬物治療の基本原則
 - F-2-9) 外科的治療と周術期管理

- F-2-10) 麻酔
- F-2-11) 食事・栄養療法と輸液療法
- F-2-12) 医療機器と人工臓器
- F-2-13) 輸血と移植
- F-2-14) リハビリテーション
- F-2-15) 在宅医療と介護
- F-2-16) 緩和ケア
- F-3 基本的診療技能
 - F-3-1) 問題志向型システムと臨床診断推論
 - F-3-2) 医療面接
 - F-3-3) 診療録(カルテ)
 - F-3-4) 臨床判断
 - F-3-5) 身体診察
 - F-3-6) 基本的臨床手技

G 臨床実習

- G-1 診療の基本
 - G-1-1) 臨床実習
- G-2 臨床推論
 - G-2-1) 発熱
 - G-2-2) 全身倦怠感
 - G-2-3) 食思(欲)不振
 - G-2-4) 体重減少・体重増加
 - G-2-5) ショック
 - G-2-6) 心停止
 - G-2-7) 意識障害・失神
 - G-2-8) けいれん
 - G-2-9) めまい
 - G-2-10) 脱水
 - G-2-11) 浮腫
 - G-2-12) 発疹
 - G-2-13) 咳・痰
 - G-2-14) 血痰・喀血
 - G-2-15) 呼吸困難
 - G-2-16) 胸痛
 - G-2-17) 動悸
 - G-2-18) 胸水
 - G-2-19) 嚥下困難・障害
 - G-2-20) 腹痛
 - G-2-21) 悪心・嘔吐
 - G-2-22) 吐血・下血
 - G-2-23) 便秘・下痢
 - G-2-24) 黄疸
 - G-2-25) 腹部膨隆(腹水を含む)・腫瘍
 - G-2-26) 貧血
 - G-2-27) リンパ節腫脹
 - G-2-28) 尿量・排尿の異常
 - G-2-29) 血尿・タンパク尿
 - G-2-30) 月経異常
 - G-2-31) 不安・抑うつ
 - G-2-32) もの忘れ
 - G-2-33) 頭痛
 - G-2-34) 運動麻痺・筋力低下
 - G-2-35) 腰背部痛
 - G-2-36) 関節痛・関節腫脹
 - G-2-37) 外傷・熱傷
- G-3 基本的臨床手技
 - G-3-1) 一般手技
 - G-3-2) 検査手技
 - G-3-3) 外科手技

- G-3-4) 救命処置
- G-4 診療科臨床実習
 - G-4-1) 必ず経験すべき診療科
内科、外科、小児科、産婦人科、精神科
総合診療科、救急科
 - G-4-2) 上記以外の診療科
 - G-4-3) 地域医療実習
 - G-4-4) シミュレーション教育

(3) 成績疑問票

成績疑問票取扱要綱

(目的)

第1条 この要綱は、成績疑問票の取扱いについて必要な事項を定めることにより、本学における成績評価の透明性を担保することを目的とする。

(疑問票)

第2条 成績疑問票は、別紙様式1とする。

(提出期間)

第3条 成績疑問票の提出期間については、教養教育推進機構（教養教育科目）、各学部及び各研究科（以下「学部等」という。）において適切な時期を定める。

2 申請場所については、学部等を所管する事務室（教養教育科目については教務課）とする。

(回答期間)

第4条 提出された成績疑問票に対しては、受け付けてから1週間以内に回答するものとする。

(周知方法)

第5条 提出期間等の学生への周知方法として、履修要項、掲示板及びポータルサイトへ掲載することとする。

(疑義)

第6条 回答の内容について疑義を申し出た学生に対しては、原則として担当教員が直接説明をすることとする。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、成績疑問票について必要な事項は、教養教育推進機構、各学部及び各研究科において定めるものとする。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

別紙様式1

令和 年 月 日 提出

成績疑問票

(医学部専門科目用)

学部・学年	医学部	年
学籍番号		
氏名		

※太枠内は、必ず記入してください。

試験科目名	
担当教員	
試験実施日	令和 年 月 日
内容	

※学生は、以下の欄は記入しないでください。

回答者氏名	
回答	

医療人育成課

(4) 再（追）試験受験願・試験欠席届

再（追）試験受験願用紙

医学部長 医療人育成課長 医療人育成課

担 当
教授印

再（追）試験受験願

令和 年 月 日

医学部長様

医学部 学年 番

学籍番号

氏 名

令和 年 月 日施行された 学試験に不合格
() のため欠席) となったので、再（追）試験を受験したく
許可下さいますようお願いいたします。

(注) 再・(追) のいずれか不要の文字は抹消すること。
追試験の場合は、試験欠席届を併せて提出すること。

試験欠席届用紙

医学部長 医療人育成課長 医療人育成課

担 当
教授印

試験欠席届

令和 年 月 日

医学部長様

医学部 学年 番

学籍番号

氏 名

下記のとおり、試験に欠席（しましたので・しますので）お届けします。

記

欠席の理由

欠席の日時

欠席の試験科目

(注) 欠席の理由は詳しく記入し、病気の場合は診断書等、事故の場合は事故を証明する
書面をそえること。
追試験を希望する場合は、追試験受験願いを併せて提出すること。

(5) 名古屋市立大学医学部第4学年の試験に関する一般的な注意事項

名古屋市立大学医学部第4学年の試験に関する一般的な注意事項

名古屋市立大学医学部
カリキュラム企画・運営委員会

1. セメスター試験について

4年生の臨床医学は4つのセメスターに分かれ、各セメスターはいくつかのユニットから成り立っている。各セメスターの最後にユニット毎の試験が行われる。試験は情報処理実習室における computer-based testing (CBT)形式で実施されている。試験の可否等については次のように定められている。

- ・ 60点を合格点とする。
- ・ あるセメスターにおいて全ユニットの平均点が60点に満たない場合、そのセメスターの全ての試験を不合格とする。
- ・ セメスター試験の追再試験は年度末に1回行う。追再試験に対する追再試験は行わない。
- ・ 試験問題は、共用試験 CBT や医師国家試験に準拠した形式で作成される。
- ・ 試験の時間割は、セメスター毎に掲示にて発表する。

2. 医学系共用試験

医学系共用試験は、臨床実習開始前の医学生が一定以上の能力と適性を持つことを確保するために、全国共通の基準に基づき行われる試験である。共用試験に合格すると、全国医学部長病院長会議から、Student Doctor の資格が付与され、認定証が発行される。共用試験は、臨床基本技能と態度をみる OSCE と医学・医療に関する知識をみる CBT という2つの試験で構成される。追試験・再試験は1回のみ行う追試験に対する再試験は行わない。

令和3年5月28日医政発0528第1号が公布され、医学系は令和5年4月から臨床実習前共用試験が公的な試験となる。

3. 共用試験の可否基準・成績としての利用方法について

OSCE は、一般診療に関する基本的臨床能力を客観的に評価する試験である。評価項目ごとの得点の合計と、6段階の概略評価で可否を判定する。

CBT は、基礎医学・臨床医学知識の総合的理解力を評価するコンピューターを用いた客観試験である。問題は共用試験実施評価機構にプールされている1万題を越える問題から出題され、受験者ごとに異なる。ただし、採点されるのは過去に一度出題され難易度が分かっている問題のみである。統計的な処理によって全体の難易度は標準化されて、受験者ごとの難易度が等しくなっている。なお、全国医学部長病院長会議はCBTの全国一律の合格ラインを能力値 IRT 359 としているが、本学では能力値 IRT 378 以上であることを合格基準とする。

平成27年度より、全国医学部長病院長会議の通達により、前年度の共用試験結果を次年度に持ちこして利用を認めないこととなった。ついては、他の進級要件を満たせず原級留置となった際には、共用試験も再履修しなければならない。

4. 共用試験の内容に関する守秘義務について

OSCE および CBT からなる共用試験は、医師免許を保持しない医学生に診療参加型臨床実習を行わせることに対する社会や患者の理解を得るために、日本の医学部・医科大学が自主的に行っているものであることから、試験の公正さと厳正さも自ら保証する必要がある。これに基づき、医学生には、受験の前後を問わず、共用試験の運営や受験を通じて知り得た内容についての守秘義務が課されており、この試験の信頼性を損なう行為やそれを疑わせる行為は厳しく禁じられている。

5. 著作権の問題について

本学医学部内の試験問題は、医学部が著作権を有する。昨今こうした問題を収集する外部業者があつて、問題文や画像が流出する事例が相次いでおり、全国的に問題になっている。許可なく学外に漏洩した場合、カンニングと同様、不正行為扱いとするので注意すること。特にインターネット上で自由に閲覧可能なサイトに掲載した場合、大きな問題が起きる可能性がある。

許可を得ずに試験問題文を利用できる範囲は原則として同一学年のみとする。

6. 過去の問題の解答について

過去の問題について一部の正解が公表されているが、問題の適切性や正解は、日進月歩の医学・医療環境において、常に変化している。疫学・統計的なデータはもちろん、診断や治療についても同様である。解答のみを丸暗記する愚行は厳に謹んでもらいたい。

以上

(6) 共用試験についての留意事項

共用試験についての留意事項

共用試験 CBT と OSCE は、医学生に臨床実習をさせてよいかどうかの学生の能力と適性を評価するために実施されている全国的規模の試験です。この試験が適正に行われ、合格できなければ、医学生に医行為をさせてよいという、医師法の違法性を阻却する事由になりません。そのため、入学試験や国家試験と同じような厳正さが求められている試験です。また、この問題を外部に漏洩することも禁じられており、そのことが明らかになった場合には、学生本人の責任が問われるばかりでなく、大学としての責任も問われ、CBT の参加資格が取り消される可能性があります。さらに臨床実習にご協力いただく患者さんからは、そのような大学や学生には協力しないどころか、そのような学生は医師にすべきではないとの意見が出るでしょう。皆さんはそのことを十分認識して、よい成績を収められることを期待します。

共用試験実施機構

* 医師ではない医学生が医行為をすることは、医師法で禁じられています。それにも関わらず学生に医行為を許可するためには、次の事由(違法性の阻却要件)を満たす必要があります。

学生が医療行為を行うことの違法性の阻却要件

1. 必要な能力を有していることの保証
2. 医師が行う場合と同等の安全性の確保

医学教育を行う大学は、CBT と OSCE に合格していることを、学生が必要な能力を有している証拠として、社会に呈示しようとしている。共用試験の公正性の保障がその基盤となる。

共用試験の公平性を妨害する不正な行為が認められた場合は、退学を含め厳正な処分が下されることがある。

共用試験 CBT および OSCE の守秘等に関する説明ならびに同意書より

1. 共用試験 CBT および OSCE の守秘等についての説明

未だ医師免許や歯科医師免許のない医学生や歯学生在臨床実習で医行為をするに当たっては、事前に適切な評価を受けて、十分な能力があることが確認されていなければなりません。その目的のための重要な全国規模での試験が共用試験です。

そのため、この共用試験では、医師国家試験や歯科医師国家試験並みの厳正さが要求され、試験問題は厳重に管理される必要があります。試験問題の漏洩や営利目的利用への加担等、試験の公平性が損なわれるような行為は固く禁止されています。これらの遵守事項違反が認められた場合には、当該学生の共用試験 (CBT, OSCE) 試験結果は取り消され、当該年度の共用試験の受験資格を取り消します。

なお、CBT および OSCE の内容につき万一漏洩等が起こった場合は、平成31年2月22日付の「遵守事項」に準じ、本大学が共用試験に参加できなくなる等の可能性があります。

(7) 卒業試験 総合客観試験について

卒業試験 総合客観試験について

I. 試験の目的

学習の到達度が、必須最低限のレベルに達しているか否かを評価する。

II. 試験の方法

1. 直近4年間の国家試験問題およびその類題を選別・作成し、そこから出題する。各科目の問題数は、最新の国家試験に準ずる割合とする。類題については選択肢の順番の入れ替えや選択肢の一部変更のみとし、試験問題の趣旨や難易度を大きく変えないように配慮する。禁忌問題は設定しない。
2. 合否判定基準は、国家試験のそれに準ずる。不合格者及び欠席者に対しては再試験を実施する。
3. 総合客観試験1の再試不合格者及び欠席者については、総合客観試験2の再試を総合客観試験1の再々試験とみなす。
4. 総合客観試験2の再々試験は行わない。
5. 総合客観試験1および2の両者の合格をもって総合客観試験の合格とする。
6. 最終合否判定は、総合判定会議をもって行う。

III. 2023年の総合客観試験日程

【総合客観試験1】

本試 2023年3月23日(木)、3月24日(金)

対象：全員（2グループにわかれて受験）

再試 2023年8月25日(金)

対象：総合客観試験1本試不合格者及び欠席者

【総合客観試験2】

本試 2023年11月9日(木)、11月10日(金)

対象：全員（2グループにわかれて受験）

再試 2023年12月15日(金)

対象：総合客観試験2の本試不合格者及び欠席者、総合客観試験1の再試不合格者及び欠席者

(8) 名古屋市立大学医学部 臨床実習資格基準

次の基準をすべて満たしていること。

ア. 履修規程で定められた4年生までの教養、専門科目を全て履修していること。

イ. 共用試験OSCE、CBTに合格していること。

ウ. 必要な感染症対策を行っていること。

次の感染症の抗体検査を受け、実習開始までに抗体のないものについては必要な予防接種を受けていること。(接種の記録を大学へ提出すること)

B型肝炎、麻疹、風疹、水痘、ムンプス

また、結核についてはT-SPOTを受けること。

このうち、B型肝炎抗体検査・T-SPOTは大学で実施する。

エ. 学生賠償責任保険に加入していること。

(2017.02.28 医学部教授会決定)

(2021.12.14 医学部教授会決定)

(9) 名古屋市立大学医学部 医療系実習参加資格基準

次の基準を満たしていない学生は医療系実習への参加を認めない。

1. 必要な感染症対策を行っていること。

次の感染症の抗体検査を受け、抗体のないものについては入学年度の6月末日までに必要な予防接種を受けていること。(接種の記録を大学へ提出すること)

- ・検査結果を提出するもの；麻疹、風疹、水痘、ムンプス
- ・ワクチン接種を各自行うもの；麻疹、風疹、水痘、ムンプス
- (・大学で検査およびワクチン接種を行うもの；B型肝炎)

2. 学生賠償責任保険に加入していること。

(2016.02.23 医学部教授会決定)

(10) アンプロフェッショナルな行動・態度のみられた学生の評価と対応

カリキュラム企画・運営委員会

臨床実習小委員会

2021年12月

名古屋市立大学医学部医学科では臨床実習の評価の一つとして、アンプロフェッショナルな行動・態度の評価を行います。「アンプロフェッショナルな学生」は以下のように定義します。

診療参加型臨床実習において、学生の行動を臨床現場で観察していて、特に医療安全の面から、このままでは将来、患者の診療に関わらせることが出来ないと考えられる学生

患者さんの診療に現場であたる臨床医としての視点で、今後この学生が臨床医になって診療に関わる上で、特に医療安全の面から、明らかに不適切と思われる行動や態度が見られた場合、その事例について別紙にできるだけ詳しく記述下さい。その際に、直接ご自身で観察された情報と間接的に得た情報とを可能な限り区別していただくようお願いいたします。

本評価は、各診療科での臨床実習の合否判定とは独立して運用します。臨床実習小委員会で内容を確認し、メンターや臨床実習小委員会委員から注意と指導を行います。

問題行動が繰り返してみられ、改善の認められない場合は、在籍している学年の最初からのやり直しを検討します。決定は、カリキュラム企画・運営委員会、教授会の審議によります。

精神疾患も含め疾病の関与が懸念される場合は、臨床実習小委員会やメンターから保健管理センターの医師に相談し、適切な医療機関を受診するように指導します。

以下にアンプロフェッショナルな学生の例を提示します。京都大学医学部学務委員会臨床実習倫理評価小委員会が提示しています。参考にさせていただいて評価し、報告ください。

- ・初日の集合時間（朝9時）に、連絡なく大幅に遅刻して午後（13時）にしか出てこなかったのみならず、以後毎日、病院の職員が学生宿舎まで迎えに行かなければ、実習に出てこなかった。【診療チームの一員としての責任感】
- ・診療チームの一員として、毎朝、担当患者さん（1名）を回診して、9時からの指導医回診でその状況を報告する役割を与えているが、全く患者さんのところに行かないばかりか、指導医回診で虚偽の報告を行った。【診療チームの一員としての責任感+誠実な行動】
- ・臨床実習に殆ど出席せず、遅刻した症例発表会での発表内容、症例報告レポートの内容が非常に乏しかったため、追加レポートを求めたところ、真夜中に病棟に現れて、カルテのプリントアウトを大量に行った。プリントアウトの最中にナースステーション内でゲームをしていたため、夜勤の看護師が指摘したところ、素直に従わないどころか、「看護師のくせに偉そうなことを言うな」と逆ギレした。【診療チームの一員としての責任感+知識・技能の向上に対する努力+他職種との協働+患者に関する情報の守秘義務】
- ・実習中に何処で何をしているのか分からない上に、PHSで連絡をしても繋がらない。なんとか見つけだして担当患者さんの病状説明（がんの告知）に同席させたところ、居眠りをしてしまい、患者さんが激怒した。【診療チームの一員としての責任感+患者さん/家族に対する態度】

- ・実習中に、連絡なく欠席・遅刻を繰り返した。最終日に、レポートの内容が乏しいことを指摘すると、ふてくされた態度になった。無断欠席・遅刻に関して医学生としてふさわしくないことを伝えると、謝るところか、無言のままプイとそっぽを向いて部屋を出て行った。【診療チームの一員としての責任感+知識・技能の向上に対する努力+指導医/教員の指摘を受け入れる姿勢】
- ・指導医・他の医療スタッフに対して、基本的な挨拶（おはようございます。ありがとうございます。すみません。など）が全くできず、また十分なコミュニケーションもとれない。担当患者さんに対しても同様の態度であったため、患者さんからクレームが来た。そのことを学生に伝えると、「あんな患者は京大病院に来なくていい」と言い出した。【患者さん/家族に対する態度+指導医/教員の指摘を受け入れる姿勢+礼儀と基本的な挨拶および服装】
- ・臨床実習で担当した外国人の患者から、担当学生の態度がよくないとのクレームがあった。これを学生に伝えたところ、「こんなことで文句言うなんて絶対おかしい。あいつら〇〇人って、やっぱり、価値観、変」と、ナースステーションで、患者さんに声が聞こえることも気にせず大声で叫んだ。【患者さん/家族に対する態度+社会的カテゴリーに基づく差別】
- ・Twitter®に「〇〇病院の呼吸器内科で実習中なう。めっちゃ稀な△△病の患者さんの担当になったので勉強が大変(><)。でも若い女の子（しかも家が下宿の近所！）なのでいつも以上に頑張っています！」とツイートし、さらにはFacebook®（自分の下宿の住所が閲覧可能）に友達限定で同じ内容をレントゲン写真つきでアップした。【患者に関する情報の守秘義務】
- ・ある勉強会に参加したところ、製薬会社が後援しており、とても高価な弁当をごちそうになった。以後、製薬会社の後援する弁当付き勉強会に診療科を問わず全て出席した。さらに、どの製薬会社がどの程度の値段の弁当を提供しているかについてのランキング表を写真付きで作り、「こんな弁当がただで食べられるなんて、やっぱ医者ってすげー。でも□□製薬さんにはもうちょっと頑張ってもらわないとね」とのコメントをつけて自身のブログにアップした。【利益相反による弊害】
- ・一緒に住んでいる甥が3日前に病院でインフルエンザと診断された。昨日から自分も熱が出てきたが、次の実習先の診療科は厳しいとの評判を聞いていたので、休まずに臨床実習に出席し、担当患者さん（免疫抑制状態）のベッドサイドに毎日足を運び、看護師とのカンファレンスにも積極的に出席した。「熱っばいの？大丈夫？」と指導医に言われたが、「大丈夫です」とだけ答えた。【院内指針の遵守】
- ・〇〇診療科では、毎朝、担当患者を診察して、その内容をカルテに記録し、指導医に内容を確認してもらうことになっていた。ある日、寝坊して、朝、病院に行けなかった。指導医にはたまたま（寝坊したことが）見つからなかったが、患者さんは検査に行ってしまうと、朝の回診はできなかった。その診療科の教授がとっても怖いという評判だったので、電子カルテの記載時間を修正して（調整して）、午前中に診察したかのように電子カルテに記録した。【不正行為への関与】
- ・朝のカンファレンスにギリギリにやってきたかと思えば、寝ぐせだらけの頭に無精髭、ダメージジーンズ、裸足にクロックス®、実習が始まってから1回も洗濯に出してなさそうな白衣を羽織って前のボタンもとめずに現れた。患者さんやスタッフから苦情が来たため、服装を正すように本人に伝えたが、本人は気にしている様子は全くなく、実習中、ずっと同じような格好で病棟に現れた。【服装+指導医/教員の指摘を受け入れる姿勢】

※「これまでに国内外の大学医学部においてアンプロフェッショナルと評価された行動などを参考に、あくまで評価をする際に参照する目的で作成しました。よって、京都大学医学部医学科にこのような学生が在籍しているというわけではありません。」とのコメントがあります。

(出典：<http://cme.med.kyoto-u.ac.jp/sd/unprofessional.pdf> 京都大学医学研究科 医学教育・国際化推進センター)

(11) 定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針

(平成27年4月1日 学長決定)

名古屋市立大学学生懲戒規程（以下「懲戒規程」という。）第23条の定めるところにより、同規程第3条第1項第4号に掲げる試験等における不正行為に関し、以下のとおり定める。

（定期試験における不正行為の定義）

第1 定期試験において学生が次に掲げる行為を行ったときは、不正行為を行ったものとみなすこととする。

- (1) カンニング（カンニングペーパーを所持し又は見ること、持込みが許可されていないテキスト等を見ること、他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど）をすること。
- (2) 試験時間中に、答えを教えるなど他の受験者を利するような行為をすること。
- (3) 試験時間中に、携帯電話等を使用すること。
- (4) 使用を禁じられた用具を使用して問題を解くこと。
- (5) 試験開始の指示の前に問題を見たり解答を始めること。
- (6) 試験終了の指示に従わず、解答を続けること。
- (7) 試験時間中に、携帯電話、時計等の音（着信、アラーム、振動音等）を長時間鳴らすなど、試験の進行に多大な影響を与えること。
- (8) 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- (9) 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- (10) その他、試験の公平性を損なう行為をすること。

（定期試験に代わるレポート課題における不正行為の定義）

第2 定期試験に代わるレポート課題において学生が次に掲げる行為を行ったときは、不正行為を行ったものとみなすこととする。

- (1) 既に公表されている著作物やウェブサイトに掲載された他人の文章や図表等の全部又は一部を、引用・出典を明示せずに、故意にあたかも自分自身の作成した文章や図表であるかのように利用すること。
- (2) 他人が作成したレポートの全部又は一部を、あたかも自分自身の作成したレポートであるかのように提出すること
- (3) その他、定期試験に代わるレポート課題の公平性を損なう行為をすること。

（懲戒等及び措置）

第3 第1又は第2に規定する不正行為を行ったものとみなされた学生に対しては、懲戒規程に基づき、懲戒処分（戒告、停学若しくは退学）又は学部長等による嚴重注意（以下「懲戒等」という。）を行う。

2 前項に規定する懲戒等とあわせて、学部長等は、学部等の教授会の議を経て、不正行為の態様に応じて次の各号のいずれかの措置を行うものとする。

- (1) その学年における全ての科目の履修及び成績を無効とする。
- (2) その学期における全ての科目の履修を無効とする。ただし、通年科目の取扱いは、学部長等が教授会の議を経て決定する。
- (3) 当該科目の履修を無効とする。なお、不正行為により教養教育の英語科目が無効となった場合は、当該懲戒等が行われた年度には英語検定試験による単位認定は行わない。

3 前項の規定にかかわらず、その学年における医学部専門教育科目のうち、不正行為を行った時点において、既に履修を終えている科目についてはその履修及び成績を無効とし、現に履修中の科目についてはその取扱いを学部長等が教授会の議を経て決定する。

(懲戒等の通知及び公示)

第4 第3に基づき懲戒等及び措置を行うときは、懲戒等の種類に関わらず、当該学生に通知し、及び公示するものとする。

2 前項の通知については、懲戒処分である者にあつては懲戒規程第14条に定めるところにより、学部長等による嚴重注意である者にあつては同条の例により、それぞれ行うものとする。

3 第1項の公示については、懲戒処分である者にあつては懲戒規程第15条に定めるところにより、学部長等による嚴重注意である者にあつては同条の例により、当該学生の所属、学年、懲戒等の種類、懲戒等の理由を掲げるほか、措置の内容を明らかにする。

4 第1項および前項の公示は、次の各号に掲げる場所に掲示することにより行う。

- (1) 当該学生が所属する学部等の掲示板
- (2) 教養教育科目における不正行為の場合、前号に加えて教養教育の掲示板
- (3) 懲戒処分を行う場合、前2号に加えて他の学部及び研究科の掲示板

(その他)

第5 第3に定める懲戒等及び措置の基準については、別に定める。

付 記

1 この指針は、平成27年4月1日から施行し、平成27年度に実施する定期試験及び定期試験に代わるレポート課題から適用する。

2 定期試験に準ずる試験及び集中講義に係る試験についても、この指針を準用する。

3 定期試験に準ずる試験に代わるレポート課題及び集中講義に係る試験に代わるレポート課題についても、この指針を準用する。

【レポート課題作成時の注意】

レポートは、自分で調べたことや考えたこと等を自分の文章で記述するものです。

他の文献等を調べ学ぶことは非常に重要ですが、それを引用する場合はルールがあります。引用する場合は、引用した部分とそれに関する自分の考えの部分をはっきりと区別して示す必要があります。

他人の文章、図表をあたかも自分のオリジナルであるかのように利用することは、「剽窃」（盗作）であり、定期試験等に代わるレポート課題に関しては、「定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針」に基づき、試験におけるカンニングと同様に不正行為とみなされ処分等の対象となります。授業においても指導されるレポート作成に当たってのルールを守ってレポートを提出して下さい。

(12) SNS 利用時の注意事項

名古屋市立大学医学部 SNS 利用時の注意事項

1. 一般的注意事項

ソーシャルメディア（インターネット上のブログ、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）、電子掲示板、動画投稿サイト等、特定または不特定の人に情報共有を行うメディア。Facebook、Twitter、Instagram、LINE 等）への投稿・情報発信は、当事者の学生間では問題無いような書き込みでも、第三者との関わりにより、重大なトラブルになる可能性がある。公開した内容、事案によっては懲戒処分の対象となりうるため、下記に十分に注意すること。

誹謗や中傷になることを投稿しない。

不当に対象者の社会的評価を貶めた場合、名誉棄損として損害賠償の対象になりうる。

個人情報等に関する投稿をしない。

実名でなくても、所属、行動、居住地域など他の人の情報、写真、動画等により、個人を特定できれば個人情報となる。

法やモラルに反する内容を投稿しない。

悪ふざけで投稿した内容でも法やモラルに反していれば、第三者に発見・特定され、処罰の対象となりうる。

大学や職務上（アルバイト等）で知り得た情報を投稿しない。

大学や職務上で知り得た情報を無断で発信することは、守秘義務違反となりうる。また、講義資料等を SNS に投稿することや他のインターネットサイトにアップロードすることを禁止する。

2. 実習における注意事項

カルテの内容など患者情報を漏らしてはならないことは当然であるが、実習の内容、病院等の内部情報（建物、宿舍、指導医や医療関係者の様子など）を投稿しない。実習先施設においても重大な問題となる場合がある。指導内容についての感想などはたとえ良い内容であっても、信頼を損ねることもある。

学生間では問題ないような投稿であっても、個人情報の漏洩、名誉毀損、プライバシー侵害、守秘義務違反となる可能性があるため、

実習にかかわる内容についてソーシャルメディアに投稿することは、個人の感想や関係者への謝辞等も含め、禁止とする。

2020年12月18日

カリキュラム企画・運営委員長

名古屋市立大学 医学部長

(13) 名古屋市立大学医学部学生代表委員会規約

名古屋市立大学医学部学生代表委員会規約

第1章 総則

第1条(規約)

本規約は、名古屋市立大学の医学部学生代表委員会の諸活動を、公正かつ円滑に行うための手段、諸手続きを規定することを目的とする。

第2条(名称)

本会の名称を名古屋市立大学医学部学生代表委員会(以下代表委員会)とする。

第3条(所在地)

本会の事務局を名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄一旧厚生会館2F代表委員会室に置くものとする。

第4条(用語の定義)

この規約において次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定める所による。

(1) 代表委員会会議

代表委員会によって行われる会議。名古屋市立大学医学部の学生組織の学生大会に次ぐ意思決定機関。

(2) 代表委員

医学部の各学年より3名ずつ選出されるものとする。1年生の11月に選出を行うものとする。

(3) 代表委員会執行部

会長、副会長、会計、カリキュラム部門、川澄キャンパス改善部門より成立し、本会を運営することを職責とする。

第2章 目的及び活動

第5条(目的)

本会は、本学医学部学生の学生間の交流を深め、大学教職員と連携して有意義な学生生活を送る環境を育み、もって名古屋市立大学の発展のみならず、地域社会、日本社会の発展に寄与することを目的とする。

第6条(活動内容)

本会は第5条の目的を達成するため、次に掲げる活動を行う。

(1) 本会に所属する団体への支援

(2) 各学年への連絡事項の伝達

(3) 学生生活の向上に関する活動

(4) 医学教育の向上に関する活動

(5) 学生間で調整が必要な事案についての協議

(6) その他目的を達成するために必要な活動

第3章 会員

第7条(会員)

本会は、名古屋市立大学医学部の学生全員を以て組織する。

第8条(会員の権利)

本会の会員は次の権利を有する。

(1) 本会の活動によって生ずる権利を平等に受けること。

(2) 本会のあらゆる組織に意見や要求をすること。

(3) 本会のあらゆる会議に出席すること

(4) 本会の各組織の記録文章を閲読すること。

(5) 本会の諸組織へ、本規約にしたがって参加すること。

(6) 本会執行部に対して解職請求を行うこと。

第9条(会員の権利の保護)

本会の会員は本規約以外のいかなる規約によって、本会の会員たる権利を失わない。

第10条(会員の義務)

(1) 本規約に従うこと

(2) 本会の決定に従うこと。不服がある場合は本規約の規定に伴い、不服申し立てを行うこと。

第4章 団体

第11条(団体)

本会は以下の団体を有する。各団体に関する細則は別記する。

- (1) 代表委員会
- (2) 代表委員会執行部

第12条(代表委員会)

(1) 代表委員の選任

1年次の11月に各学年から3名を選任し、代表委員とする。

(2) 任期

代表委員の任期は原則6年生の卒業時までとする。ただし原級措置を受けた場合はその限りではない。

(3) 解職請求

各学年の構成員の1割の署名があった場合、代表委員に対して解職請求を行うことができる。解職に至った場合、その後1か月以内に新規の委員を選任する。

第13条(代表委員会執行部)

(1) 役職

本執行部は以下の役職より成立するものとする。任期はいずれも選出された当日から次期執行部が選出されるまでの1年とする。

1) 会長

定員を1名とする。諸会議の招集、および議事運営、その他全業務を担当する。ただし、同じ者の再任はこれを認めない。

2) 副会長

定員を1名とする。会長の補佐、全体の調整及び、諸会議の運営。会長が何らかの理由で職務を執行できない場合、その職務を代行する。

3) 会計

定員を1名とする。予算の作成及び執行、決算書の作成を行うものとする。

4) カリキュラム部門

医学部各学年のカリキュラムの改善を目指し、各学年からカリキュラムについて要求を吸い上げ、教員側に提案するなどの活動を行う。

5) 川澄キャンパス改善部門

川澄キャンパスの美化・改善に努める。具体的にはロッカーなどの定期清掃、キャンパス環境・設備改善に対する提案を行う。

(2) 役職の選任

毎年度4月に代表委員による公正な選挙を行うこととする。本選挙の管理は前年度会長が行い、出席委員の過半単を以て選任される。ただし、候補者が定員数であった場合、信任投票を行い、出席委員の過半数の賛成によって信任とする。

(3) 被選挙権

会長は代表委員から選出されるものとする。他の役職はこの限りではない。

(4) 任期

執行部の任期は1年間とする。

(5) 解職請求

名市大医学部代表委員会全構成員の1割の署名があった場合、執行部に対して役職ごとに解職請求を行うことが出来る。解職請求があった場合、学生大会を開催し、解職請求に伴う選挙を行い、過半数の賛成により解職される。解職された場合、1か月以内に再選挙が行われるものとする。

第5章 会議

第14条(会議)

本会は以下の会議を有する。

- (1) 学生大会及び学生投票
- (2) 代表委員会会議

第15条(委任状)

本会の諸会議に欠席する場合、委任状を提出することが出来る。委任状がある場合、会議に出席したものとみなし、議決に際しては委任状を有する代理人が代行するものとする。

第16条(代表委員会会議)

(1)代表委員会 学生大会に次ぐ本会の意思決定機関である。

(2)会議の種類

1)代表委員会会議は、定例会議及び臨時会議とする。

2)定例会議の、次回開催日時は、各定例会議において決定するものとし、必ず1か月に1回は開催するものとする、ただし、夏季・冬季・春季休暇中はこの限りではない。

(3)議長

本会議の議長は代表委員会会長が兼任し、やむを得ず不在の場合は副会長が行うものとする。

(4)会議の招集

1)代表委員会会議は、議長がこれを招集するものとする。

2)代表委員は第16条(2)第3項に関わる事態が発生した場合、議長に対し全委員の1/3以上の賛成を以て臨時会議召集の要請を行うことが出来る。

3)議長は前項に基づく臨時会議召集の要請がある場合で、定例会議の日程では事態の收拾に対し、避けがたい事態が発生すると判断した場合、速やかに臨時会議を招集しなければならない。

(5)成立条件

本会議は全代表委員の過半数の出席を以て成立するものとする。ただし、医学部の実習等で出席できない場合はこの限りではない。

(6)採決

本会議の議決権は代表委員のみが有し、議案は本規約に特別な記述があるものを除いては出席者の過半数を以て議決され、賛否同数の場合、議長が採択するものとする。

第17条(規約)

(1)学生大会

本会の最高意思決定機関であり、本会全会員をもって構成される。

(2)開催

学生大会は代表委員で特別に全委員の2/3以上が必要であると判断した場合及び、代表委員執行部に対する解職請求がなされた場合に開催されるものとする。

(3)議長

学生大会の議事運営は代表委員会会長が兼任し、やむを得ず不在の場合は副会長が行うものとする。

(4)成立条件

学生大会は全構成員の1/3以上が出席した場合、成立するものとする。また、出席できない場合は委任状の提出により出席とみなすものとする。ただし、医学部の実習等で出席できない場合はこの限りではない。

(5)採決

学生大会の議案は本規約に特別な記述があるものを除いては出席者の過半数を以て決議され、賛否同数の場合、議長が採択するものとする。

第6章 会計

第18条(収入)

本会の収入は学友会による援助金、その他によって成り立つものとする。

第19条(予算承認)

本会予算は、執行部会計が立案し、代表委員会会議の出席代表委員の過半数の賛成によって承認されるものとする。

第20条(監査)

本会の決算は毎会計年度3月に代表委員会会議において監査するものとする。

第21条(公開)

本会の予算書、決算書は要求があれば全て学生用掲示板において公開されるものとする。

第22条(会計年度)

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、3月31日に終了する。

第8章 罰則

第23条(代表委員会による処分)

代表委員会は本規約に違反した個人、及び諸団体に対し、代表委員会会議の会一致を以て以下の処分を下すことができる。

- (1) 本会における権利の停止
- (2) 警告、訓告

第24条(処分理由の通知)

代表委員会が前条の行為を行った場合、関係者に対して速やかに処分内容、処分理由を通知しなければならない。

第9章 異議申し立て

第25条(不服申し立て)

(1) 不服申し立て

名古屋市立大学医学部学生、名古屋市立大学医学部が代表する団体は代表委員会の議決、または処分行為により不利益が生ずることが予測されるまたは生じた場合、当該議決・処分行為に対する不服の申し立てを行うことができる。

(2) 不服申し立てに対する対応

不服の申し立てを受けた場合、代表委員会は10日以内に当該人物または当該団体に対し、当該処分行為についての説明または再処分を行わなければならない。

第26条(不服申し立ての際の処分執行の停止)

(1) 処分の執行停止

前条に基づく不服の申し立てがなされた場合、代表委員会は当該処分についての解決がなされるまでの間、当該処分の執行の停止をしなければならない。

(2) 緊急時の処分

前項において、その処分の執行を停止することにより、更に大きな不利益が生ずると判断される場合、当該処分の執行は出席委員の全会一致を以てこれを行うことができる。

第27条(規約違反行為への異議申し立て)

(1) 規約違反行為への異議申し立て

代表委員会の行為について本規約に対して重大な違反の有ることを知った者は議長に対し、当該行為の取り消しを求める直接請求を行うことができる。

(2) 規約違反行為への異議申し立てへの対応前項の直接請求を受けた場合、代表委員会は直ちに当該行為を取り消す、または当該行為の再検討を行わなければならない。

第9章 補則

第28条(規約の改廃)

本規約の改廃は代表委員会の発議により、代表委員会会議出席者の2/3を以て行われるものとする。

第29条(規約の適用範囲)

本規約は名古屋市立大学医学部学生のみ適用するものとする。

附則

本規約は2008年10月1日より発効する。

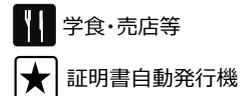
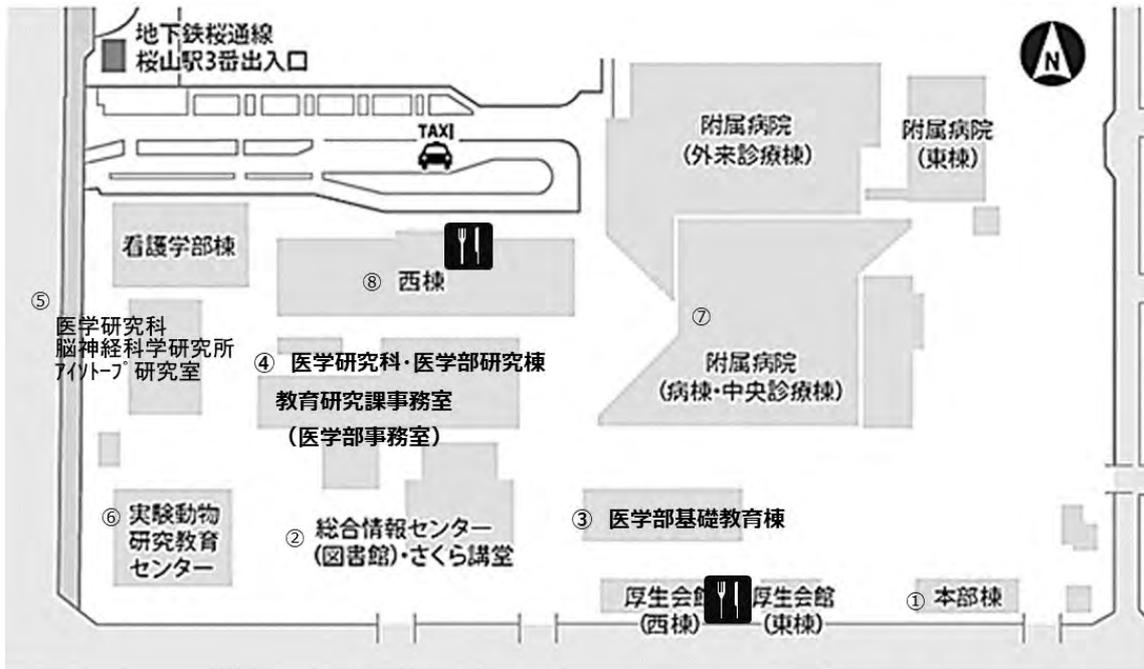
附則

本規約は2017年6月21日より発効する。

11. キャンパスマップ

(1) 桜山（川澄）キャンパス建物配置図

桜山（川澄）キャンパス



① 本部棟

- 4 F 多目的ホール 施設課
- 3 F 学長室
総務課
監査室
- 2 F 学術課
財務課
- 1 F 入試課
企画広報課

② 総合情報センター 川澄分館 (図書館)

- 2 F さくら講堂

③ 基礎教育棟

- 6 F 解剖学実習室
- 5 F 大学院セミナー室
講義室 3
- 4 F 微生物実習室
生体機能学実習室
- 3 F 情報処理実習室 (PC)
顕微形態実習室
- 2 F 講義室 1
講義室 2
セミナー室
談話室
- 1 F 生化・法医実習室
更衣室 (M1-3 ロッカー)

④ 研究棟

- | | | |
|-----------------------------|--|-------|
| 11 F 特別会議室 | 講義室 A | 講義室 B |
| 10 F 環境労働衛生学
公衆衛生学 | 麻酔科学・集中治療医学
精神・認知・行動医学 | |
| 9 F 細菌学
ウイルス学 | 腎・泌尿器科学
放射線医学 | |
| 8 F 薬理学
免疫学 | 耳鼻咽喉・頭頸部外科学
加齢・環境皮膚科学 | |
| 7 F 細胞生理学
脳神経生理学 | 産科婦人科学
視覚科学 | |
| 6 F 病態生化学
細胞生化学 | 整形外科学
脳神経外科学 | |
| 5 F 実験病態病理学
臨床病態病理学 | 消化器外科学
腫瘍・免疫外科学 | |
| 4 F 統合解剖学
機能組織学 | 循環器内科学
新生児・小児医学 | |
| 3 F 法医学
神経内科学
心臓血管外科学 | 消化器・代謝内科学
呼吸器・免疫・アレルギー内科学 | |
| 2 F 地域医療教育学
リハビリテーション医学 | 血液・腫瘍内科学
会議室 共同研究室 | |
| 1 F 研究科長室
防災センター | 更衣室 (M4-6 ロッカー)
臨床セミナー室 | |
| B1 F 中央監視室 | 情報管理・教育センター
共同研究室
保健室
法医解剖室 病理解剖室 | |

⑤ 脳神経科学研究所

- 医学研究科アイソトープ研究室
- 7 F 認知症科学
- 6 F グリア細胞生物学
- 5 F 神経発達症遺伝学
- 4 F 神経毒性学
- 3 F 神経発達・再生医学
- 2 F アイソトープ研究室
- 1 F アイソトープ研究室

⑥ 実験動物研究教育センター

- 病態モデル医学

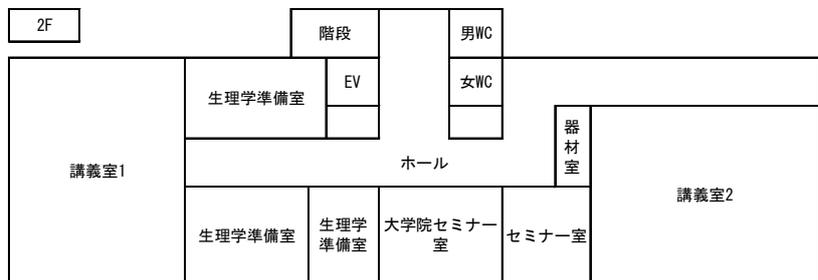
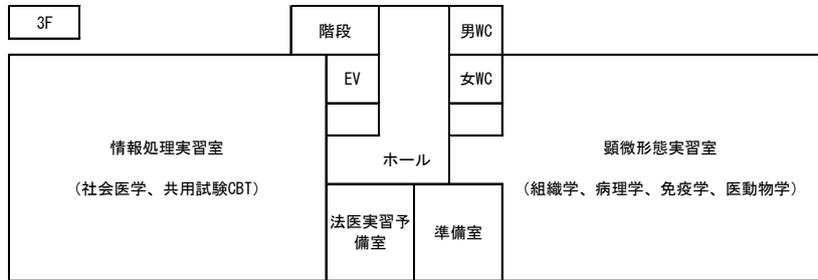
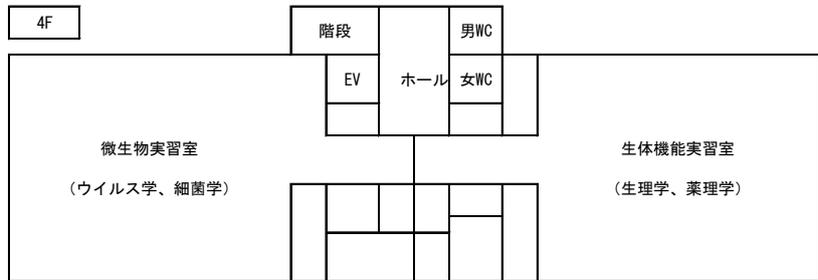
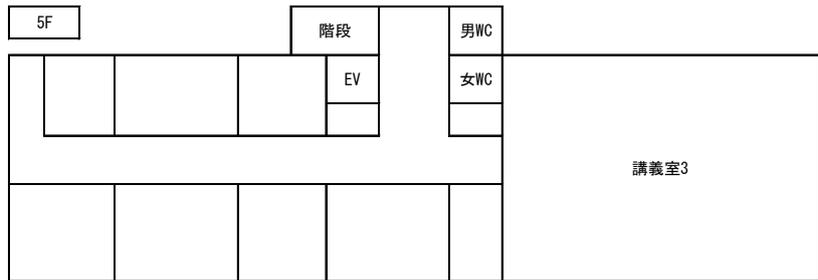
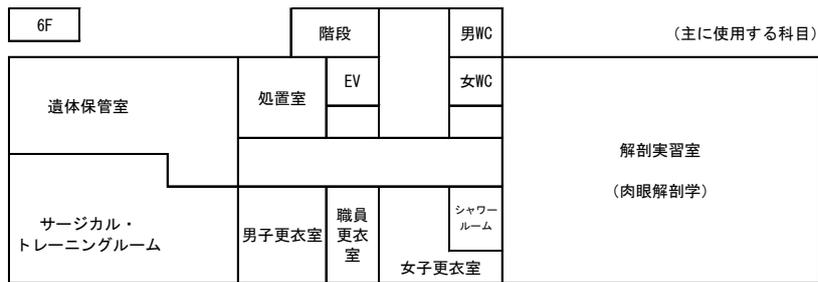
⑦ 病棟・中央診療棟

- 7 F 口腔外科学
- 4 F 腎臓内科学
- 1 F 臨床薬剤学

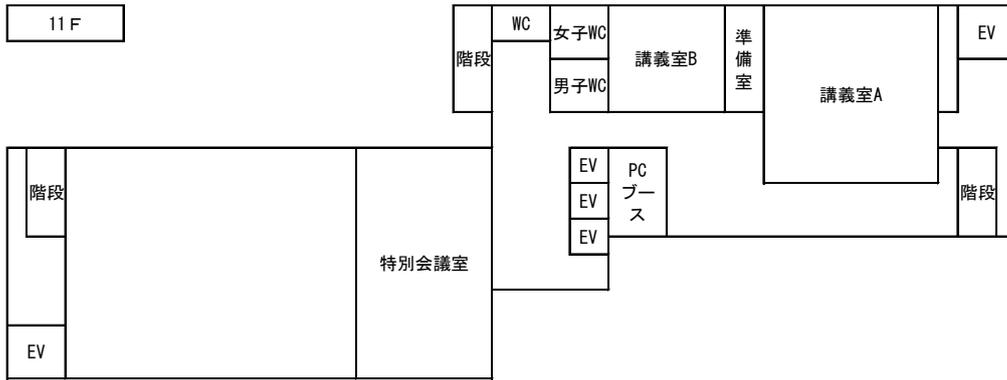
⑧ 西棟

- 3 F 研修室1~12
多目的研修室
- 2 F 乳腺外科学
小児泌尿器科学
- 1 F 臨床シミュレーションセンター
サクラサイドテラス

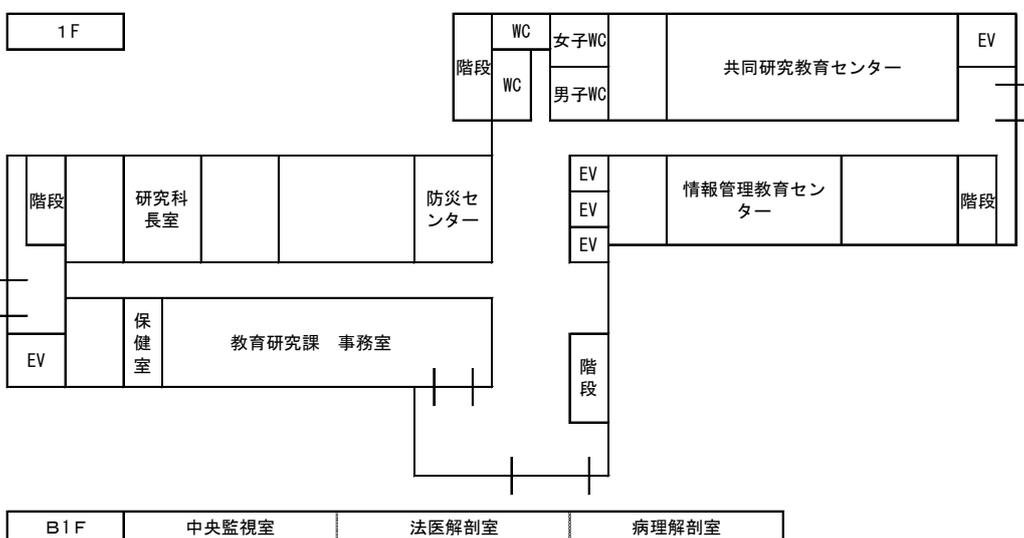
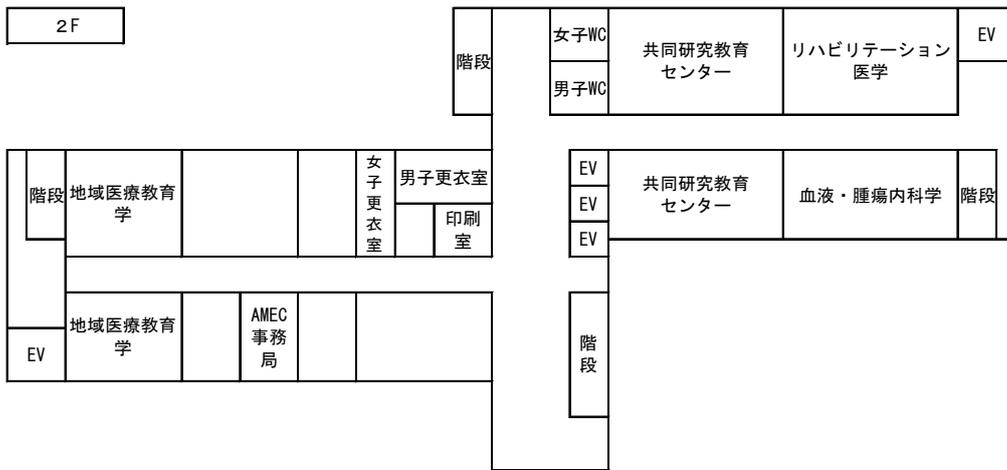
(2) 医学部基礎教育棟



(3) 医学研究棟



10 F	環境労働衛生学	公衆衛生学	麻酔科学・集中治療医学	精神・認知・行動医学
9 F	細菌学	ウイルス学	腎・泌尿器科学	放射線医学
8 F	薬理学	免疫学	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	加齢・環境皮膚科学
7 F	細胞生理学	脳神経生理学	産科婦人科学	視覚科学
6 F	神経生化学	細胞生化学	整形外科科学	脳神経外科学
5 F	実験病態病理学	臨床病態病理学	消化器外科学	腫瘍・免疫外科学
4 F	統合解剖学	機能組織学	循環器内科学	新生児・小児医学
3 F	法医学	神経内科学	心臓血管外科学	消化器・代謝内科学
				呼吸器・免疫・アレルギー内科学



B1 F	中央監視室	法医解剖室	病理解剖室
------	-------	-------	-------

(4) 西棟

3 F												
多目的研修室					階段							
					EV							
階段		倉庫		男子WG						男子WG		階段
				女子WG						女子WG		
研修室1	研修室2	研修室3	研修室4	研修室5	研修室6	研修室7	研修室8	研修室9	研修室10	研修室11	研修室12	

1 F												
					階段							
					EV							
階段		WG		臨床シミュレーションセンター						WG		階段
		模擬病室		内視鏡室	超音波・腹腔鏡	研修室 I		周産期・新生児室		多目的室		

2F は、看護学部が使用

令和 5 年 度

医学研究科修士課程教育要項

(共通科目シラバス)

名古屋市立大学大学院

	目 次	頁
1	人材の養成に関する目的、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー・・・・・・・・	1
	カリキュラムマップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
	カリキュラムツリー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
2	修了要件・履修方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
3	減災・医療コースについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
4	学位論文審査基準・研究計画書・研究指導計画書・・・・・・・・	6
5	共通教育科目 授業日程表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
6	他研究科との単位互換・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
7	共通教育科目シラバス	
	講 義	
	① 生理系医学基礎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
	② 病理系医学基礎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
	③ 実験手法概論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
	④ 臨床医学概論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16
	⑤ 社会医学系基礎・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
	⑥ 基礎医科学概論Ⅰ（英語講義）・・・・・・・・	18
	⑦ 基礎医科学概論Ⅱ（英語講義）・・・・・・・・	19
	⑧ 臨床医療デザイン概論・・・・・・・・	20
	⑨ 臨床医療デザイン特論・・・・・・・・	21
	⑩ 最新医学特論Ⅰ・・・・・・・・	22
	⑪ 最新医学特論Ⅱ・・・・・・・・	23
	⑫ 臨床基礎特論Ⅰ・・・・・・・・	24
	⑬ 臨床基礎特論Ⅱ・・・・・・・・	25
	⑭ 総合認知症特論・・・・・・・・	26
	⑮ 緩和/終末期ケア特論・・・・・・・・	27
	⑯ 減災・医療概論・・・・・・・・	28
	⑰ 減災・医療特論Ⅰ・・・・・・・・	29
	⑱ 減災・医療特論Ⅱ・・・・・・・・	30
	⑲ 脳神経科学講義・・・・・・・・	31
8	専門演習・特別研究科目・・・・・・・・	32
9	脳とこころを理解し、それを社会に還元できる人材の育成プログラム・・・・・・・・	別紙
10	定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分の指針	34

人材の養成に関する目的

修士課程では、高度な専門教育を行い、医科学の専門知識を有する職業人と将来の博士課程進学を含む研究者の養成を目的とする。

ディプロマ・ポリシー

医学研究科は、基礎医学研究者と臨床医学研究者とが自由に最先端の医学研究を共同できる体制を組織して、大学院学生の教育に当たり、独創的かつ広い視野を持つ医学研究者および高度の医療知識と技量を備えた医師を育成するという目的に鑑み、以下の能力を有すると認められた者に対し、医学修士の学位を授与します。

- ・最先端の医学・医療および生命科学領域に関する幅広い知識・能力を修得する。
- ・共通教育科目を通して医学の基本概念と学問領域の位置づけを理解する。
- ・専門演習および特別研究により専門分野における基本的な手技を修得するとともに得られた結果をまとめる力を養う。

本課程に2年以上在学し、共通教育科目14単位、専門演習および特別研究16単位の計30単位を取得後、学位論文を提出し審査および最終試験に合格することが、学位授与の必要要件です。

カリキュラムポリシー

課程編成

医学研究科修士課程のカリキュラムは、医学関連の専門領域で活躍するための能力を身につけることができるように系統的に編成されており、共通教育科目、専門演習および特別研究を修了することが求められます。

実践

1年次には科目選択制の共通教育科目が開講され、最先端の医学・医療および生命科学領域の幅広い知識の修得を目指します。共通教育科目は英語でも開講します。学生は指導教員の専門分野に所属して研究を進め、学生個別に立てられた研究指導計画に基づき、専門演習および特別研究を通じて専門領域の基本概念および技術を修得し学位論文を作成します。

学修成果の評価方法

- ・「最先端の医学・医療および生命科学領域に関する幅広い知識・能力」「医学の基本概念と学問領域の位置づけの理解」の評価は、共通教育科目の成績（講義毎のレポート、口頭試験などの客観的評価を含む総合的評価）に基づいて行います。
- ・「専門分野における基本的な手技」「得られた結果をまとめる能力」については、専門演習および特別研究で養い、研究計画書の内容及び研究室での発表等に基づき、指導教員が評価します。
- ・総合的な学修成果の評価は、プロGRESS発表会と学位論文に基づいて評価します。プロGRESS発表会では、指導教員及び大学院教務委員会委員が学修成果の修得状況について確認します。学位論文は、医学研究科大学院教務委員会において選出された主査1名と副査2名の審査委員からなる審査委員会が開催する公開審査において審査します。

名古屋市立大学カリキュラムマップ

医学研究科修士課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

医学研究科は、基礎医学研究者と臨床医学研究者とが自由に最先端の医学研究を共同できる体制を組織して、大学院学生の教育に当たり、独創的かつ広い視野を持つ医学研究者および高度の医療知識と技量を備えた医師を育成するという目的に鑑み、以下の能力を有すると認められた者に対し、医学修士の学位を授与します。

- (a) 最先端の医学・医療および生命科学領域に関する幅広い知識・能力を修得する。
- (b) 共通教育科目を通して医学の基本概念と学問領域の位置づけを理解する。
- (c) 専門演習および特別研究により専門分野における基本的な手技を修得するとともに得られた結果をまとめる力を養う。

本課程に2年以上在学し、共通教育科目14単位、専門演習および特別研究16単位の計30単位を取得後、学位論文を提出し審査および最終試験に合格することが、学位授与の必要要件です。

分類	科目コード	科目名	幅広い知識・能力	基本概念と学問領域の理解	基本的な手技	結果をまとめる能力	ナンバリング
共通教育科目	MMSE0010	生理系医学基礎	○	○			1115001
	MMBI0003	病理系医学基礎	○	○			1115002
	MMZI0003	実験手法概論	○	○			1115003
	MMRI0001	臨床医学概論	○	○			1115004
	MMSI0005	社会医学系基礎	○	○			1115005
	MMEE0002	基礎医科学概論Ⅰ	○	○			1115006
	MMEE0003	基礎医科学概論Ⅱ	○	○			1115007
	MMDD0001	臨床医療デザイン概論	○	○			1115008
	MMDD0002	臨床医療デザイン特論	○	○			1115009
	MMSA0005	最新医学特論Ⅰ	○	○			1115010
	MMSA0006	最新医学特論Ⅱ	○	○			1115011
	MMRI0004	臨床基礎特論Ⅰ	○	○			1115012
	MMRI0005	臨床基礎特論Ⅱ	○	○			1115013
	MMSO0001	総合認知症特論	○	○			1115014
	MMKA0002	緩和/終末期ケア特論	○	○			1115015
	MMNO0001	脳神経科学講義	○	○			1115016
	MMGE0001	減災・医療概論	○	○			1115017
	MMGE0002	減災・医療特論Ⅰ	○	○			1115018
	MMGE0003	減災・医療特論Ⅱ	○	○			1115019
専門演習	MMSE0005	専門演習Ⅰ			○		1115020
	MMSE0006	専門演習Ⅱ			○		1115021
	MMSE0007	専門演習Ⅲ			○		1116001
	MMSE0008	専門演習Ⅳ			○		1116002
研究別	MMT00001	特別研究Ⅰ				○	1115022
	MMT00002	特別研究Ⅱ				○	1116003

修士課程修了要件・履修方法

【1】 共通教育科目 14 単位修得

共通教育科目は全 19 科目である。

科目名	単位数	開講時間	科目名	単位数	開講時間
①生理系医学基礎	2	昼間	⑩最新医学特論Ⅱ	1	夜間
②病理系医学基礎	2	昼間	⑪臨床基礎特論Ⅰ	1	夜間
③実験手法概論	2	昼間	⑫臨床基礎特論Ⅱ	1	夜間
④臨床医学概論	2	昼間	⑬総合認知症特論	2	夜間
⑤社会医学系基礎	2	昼間	⑭緩和/終末期ケア特論	2	夜間
⑥基礎医科学概論Ⅰ(英語講義)	2	昼間	⑮減災・医療概論	2	夜間
⑦基礎医科学概論Ⅱ(英語講義)	2	昼間	⑯減災・医療特論Ⅰ	2	夜間
⑧臨床医療デザイン概論	2	夜間	⑰減災・医療特論Ⅱ	2	夜間
⑨臨床医療デザイン特論	2	夜間	⑱脳神経科学講義	2	夜間
⑩最新医学特論Ⅰ	1	夜間			

社会人以外の学生は、1年次に、①～⑦の昼間に開講する講義を中心に単位を修得することが望ましい。

社会人学生も、①～⑦を中心に履修することが望ましいが、仕事の都合等により履修できない場合は、⑧～⑱の夜間開講の講義を受講することができる。

なお、社会人学生は1年次だけではなく2年次にも共通教育科目を履修することができる。2年間で14単位を修得することができるよう、計画的に履修すること。

単位認定の判定は、出席率7割以上の学生に対してレポートおよび口答試験などの客観的評価を含む総合的評価により行う。

※医療・減災コースは別記記載

【2】 専門演習・特別研究 16 単位修得

専門演習は、特別研究テーマの遂行に関すると思われる様々な実験技術・方法論について知識の習得を目指す。

特別研究は、研究能力の強化と高度専門職業人の専門性の高度化を目指す。

専門演習・特別研究は、全科目（6科目）必修である。

【3】 以上の 30 単位を修得のうえ、学位（修士）論文を提出し、最終試験に合格しなければならない。

【注】 プロGRESS発表会

2年次の4月初旬（4月入学者）もしくは10月初旬（10月入学者）に開催し、研究内容について中間発表を行う。（詳細は別途通知）

【4】 学位（修士）論文

1. 学位（修士）論文は、未公表であり、日本語又は英語で作成された論文とする。
2. 2年次の12月（4月入学者）もしくは6月（10月入学者）に①学位授与申請書 ②履歴書 ③学位論文 ④論文内容の要旨を提出すること（詳細は別途通知）
3. 学位審査公聴会は、2年次の1月（4月入学者）もしくは7月（10月入学者）（詳細は別途通知）
4. 教授会での判定は、2月に行う（10月入学者は8月）（予定）。

減災・医療コースについて

1. 本コースの趣旨

医学研究科修士課程に「減災・医療コース」を設置しています。中部圏では南海トラフ巨大地震の発生が懸念されるなか、経済的損失への対応に加えて、いわゆる「減災」は大きな課題です。本学は現在、附属病院に「救急・災害医療センター」の建設を進めています。また名古屋市立大学附属東部・西部医療センターは災害拠点病院であり、東部医療センターは救命救急センターを有します。さらに、本学の「第三期中期目標」では「救急医療及び災害医療の拠点として市民の命を守るための機能を強化する」ことが掲げられています。このような背景から、本コースは、減災・医療を担うキャリアアップを支援する教育システムをつくり質の高い教育を実践することで、減災・医療等に貢献できる幅広い人材を育てること、これに関連した研究を推進することを目的としています。

2. 授業科目・単位数・開講時期

下記5科目は必修科目となるため、必ず履修登録時に登録すること。また共通教育科目単位数は14単位を修了要件とすることから、下記を除く共通教育科目①～⑱の科目より4単位を選択し履修すること。

授 業 科 目	必修・選択	単位数	開講時間
④臨床医学概論	必修	2	昼間
⑤社会医学系基礎	必修	2	昼間
⑯減災・医療概論	必修	2	夜間
⑰減災・医療特論Ⅰ	必修	2	夜間
⑱減災・医療特論Ⅱ	必修	2	夜間

3. 修了要件・履修方法

必修科目以外については、「修士課程修了要件・履修方法」と同様。

学位論文審査

名古屋市立大学大学院医学研究科における、修士課程学位論文に関する事項は以下の通りとする。

《学位論文の要件・審査》

- ・修士課程学位論文は、単著であること。また、未公表であり、日本語又は英語により作成されていること。
- ・修士課程学位論文の審査にあたっては、大学院教務委員会にて選任された主査1名と、主査が選任した2名の副査により審査委員会を設置し、公開審査会を開催する。
- ・修士課程学位論文の判定にあたっては、審査委員会の公開審査会を経て、別に定める「修士課程学位論文審査基準」に基づき、審査委員各々が5点法（5点が満点）により評価し、審査委員の評点平均が3点以上の場合、審査委員会の判定を合格とする。審査委員会は、学位授与報告書をもって公開審査会の結果を研究科長に提出し、研究科教授会が審査結果の合否を決定する。
- ・修士課程学位論文の提出の手続きについては、別に定める。

* 修士課程学位論文審査基準

1. 研究の位置づけの理解

研究の背景、意義および目的を理論的にわかりやすく説明できる。

2. 研究に必要な知識と技能の習得

研究の遂行に必要な知識を持ち研究手法および文献の利用法が身についている。

3. 研究結果の提示

研究結果を理論的にわかりやすく説明できる。

4. 研究結果の解釈と展望

研究結果を適切に理解し、その科学的な意義、発展性と今後の計画を説明できる。

5. 質疑応答の内容

審査委員の質問を理解し的確に回答できる。

令和 年度 研究計画書

研究科名・専攻名		学 籍 番 号	
所 属 分 野		指 導 教 員	
フリガナ			
氏 名			

■ 研究課題

題 目	
概 要	

■ 研究計画

学	計画
生	当初計画（二年次）

※本計画書は1年次の5月末（10月入学の場合は11月末）までに作成、指導教員にメールにて送付すること。

※指導教員は担当学生全員分をまとめて毎年6月末（10月入学の場合は12月末）までに大学院担当宛にメールにて送付すること。

令和 年度 研究指導計画書

研究科名・専攻名		学 籍 番 号	
所 属 分 野		指 導 教 員	
フ リ ガ ナ		学 年	年
氏 名			

■研究計画

学 生	進捗状況と本年度の計画と目標（1年生は除く）
教 員	進捗状況とその評価・達成度と本年度の指導計画

※本指導計画書は学生が毎年5月末（10月入学の場合は11月末）までに作成、指導教員にメールにて送付すること。

※指導教員は学生から提出された指導計画書の該当部分に記入、担当学生全員分をまとめて毎年6月末（10月入学の場合は12月末）までに大学院担当宛にメールにて送付すること。

令和5年度修士課程 共通科目 授業日程表

時限	月曜日					火曜日					水曜日					木曜日					金曜日																																																																															
	1	2	3	4	夜	1	2	3	4	夜	1	2	3	4	夜	1	2	3	4	夜	1	2	3	4	夜																																																																											
4月	3					4					5					6					7					10					11					12					13					14					17					18					19					20					21					27					28					29					30					31				
5月	1					2					3 祝日					4 祝日					5 祝日					8					9					10					11					15					16					22					23					29					30																													
6月	5					6					7					8					12					13					19					20					26					27																																																						
7月	3					4					10					17 祝日					24					31					7					14					21					28																																																						
8月	7					14					21					28					4					11 祝日																																																																										
9月	4					11					18 祝日					25																																																																																				
10月	2					9 祝日					16					23					30																																																																															
11月	6					13					20					27																																																																																				
12月	4					11					18					25																																																																																				
1月	1 祝日					8 祝日					15					22					29																																																																															
2月	5					12 祝日					19					26																																																																																				
3月	4					11					18					25																																																																																				

共通教育科目一覧

- ① 生理系医学基礎
- ② 病理系医学基礎
- ③ 実験手法概論
- ④ 臨床医学概論
- ⑤ 社会医学系基礎
- ⑥ 基礎医学概論 I
- ⑦ 基礎医学概論 II
- ⑧ 臨床医療デザイン概論
- ⑨ 臨床医療デザイン特論
- ⑩ 最新医学特論 I
- ⑪ 最新医学特論 II
- ⑫ 臨床基礎特論 I
- ⑬ 臨床基礎特論 II
- ⑭ 総合認知症特論
- ⑮ 緩和/終末期ケア特論
- ⑯ 減災・医療概論
- ⑰ 減災・医療特論 I
- ⑱ 減災・医療特論 II
- ⑲ 脳神経科学講義

1時限: 9:00~10:30 2時限: 10:40~12:10 3時限: 13:00~14:30 4時限: 14:40~16:10 夜間: 18:30~20:00

令和5年度 医学研究科と薬学・経済学・看護学・理学各研究科との単位互換科目

医→薬

博士課程

④生体情報・機能制御医学講義Ⅲ - 緩和医療	後期火曜夜間
⑤生体防御・総合医学講義Ⅰ-基礎医学と臨床医学の融合	後期金曜夜間
⑥生体防御・総合医学講義Ⅱ-がん：発がんメカニズムから最新の診断・治療まで	前期金曜夜間
⑦生体防御・総合医学講義Ⅲ-認知症特論	前期火曜夜間
⑧予防・社会医学講義Ⅰ - 社会医学、疫学統計	後期水曜夜間
⑩脳神経科学特論	後期水曜夜間

修士課程

③共通科目3実験手法概論	8月集中講義
④共通科目4医学概論	前期金曜3・4限
⑤共通科目5社会医学系基礎	前期月曜3・4限
⑥共通科目6基礎医科学概論Ⅰ（英語講義）	後期水曜3限
⑦共通科目7基礎医科学概論Ⅱ（英語講義）	後期水曜4限
⑩共通科目10最新医学特論Ⅰ	前期金曜夜間
⑪共通科目11最新医学特論Ⅱ	後期金曜夜間
⑬脳神経科学講義	後期水曜夜間

薬→医

博士前期課程

医薬品産業特論	前期前半木曜4限
生命倫理特論	前期前半木曜5限
レギュラトリーサイエンス（医薬品安全性評価学）	前期後半木曜6限
創薬生命科学特別講義Ⅲ	後期前半木曜3限
専門科目特論科目 各分野が主催する科目	

博士課程

医薬品安全性評価学（レギュラトリーサイエンス）	前期後半木曜6限
コミュニティファーマシー	前期前半木曜6限
個人差・オーダーメイド医療薬学	前期後半木曜5限
病院臨床薬剤学	後期前半水曜6限

医→経済

医療経済マネジメントコース

修士課程

⑤共通科目5社会医学系基礎	前期月曜3・4限
⑥共通科目6基礎医科学概論Ⅰ（英語講義）	後期水曜3限
⑦共通科目7基礎医科学概論Ⅱ（英語講義）	後期水曜4限

⑩共通科目10最新医学特論 I	前期金曜夜間
⑪共通科目11最新医学特論 II	後期金曜夜間
⑫共通科目12臨床基礎特論 I	前期水曜夜間
⑬共通科目13臨床基礎特論 II	後期水曜夜間
⑭共通科目14総合認知症特論	前期火曜夜間
⑮共通科目15緩和/終末期ケア特論	後期火曜夜間

医→看

修士課程

④共通科目4臨床医学概論	前期金曜3・4限
⑩共通科目10最新医学特論 I	前期金曜夜間
⑪共通科目11最新医学特論 II	後期金曜夜間
⑯減災・医療概論	前期火曜夜間
⑰減災・医療特論 I	後期火曜夜間

医→理

博士課程

⑯脳神経科学特論	後期水曜夜間
----------	--------

修士課程

⑲脳神経科学講義	後期水曜夜間
----------	--------

環境健康安全学大学院コース (ENPHAS)

国費外国人留学生優先配置プログラム (研究科横断型教育プログラム) 提供科目

薬学

博士前期

衛生科学特論	前期後半水曜2限
薬用資源学特論	後期前半木曜4限
レギュラトリーサイエンス	前期後半木曜6限
化学物質と環境	後期集中12月予定
グリーンケミストリー	前期集中6月予定

医学

博士課程

⑫環境健康安全管理学概論 I	後期水曜夜間
⑬環境健康安全管理学概論 II (Iの受講が前提)	前期月曜5限
⑭薬物・毒物代謝学特論	後期金曜5限
⑮毒性病理学特論	前期木曜5限

理学

データサイエンス特論	前期
自然科学と環境持続性 (SDG s) 概論	前期

他研究科との単位互換における内規

第1条 目的

この内規は、名古屋市立大学大学院医学研究科において、同大学大学院他研究科との単位互換の実施に関し、必要な事項を定めること目的としている。

第2条 履修科目等

- (1) 修士課程学生は本学大学院薬学研究科の博士前期課程を履修することができる。
- (2) 博士課程学生は薬学研究科の博士前期課程及び博士課程の授業科目及びシステム自然科学研究科の博士前期課程の授業科目を履修することができる。
- (3) 1項及び2項の定めにより履修できる授業科目は各研究科の専門科目とし、4単位まで履修することができる。

第3条 履修登録

- (1) 学生が、前条の規定により他研究科の授業科目を履修し単位を取得しようとするときは、主指導教員の承認を得なければならない。
- (2) 学生は、所定の期間内に定められた手続きに従って履修登録を行わなければならない。

第4条 単位認定

- (1) 単位認定は、授業科目修了後に他研究科から送付される「成績証明書」等の通知に基づき、共通科目の単位として単位認定する。
- (2) 前項の単位の認定については、教授会の議を経て行うものとする。

第5条 その他

- (1) 前各号に定める事項以外のことが発生した場合は、教授会の議を経て研究科長が決定する。

附則

1. この内規は令和2年4月1日より施行する。
2. 前項の施行日以前に入学した学生についても、これを適用する。

科目区分	共通教育科目 1		
授業科目名	生理系医学基礎		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	飛田 秀樹 教授		
講義内容	ヒトの生命現象やその障害による疾患を理解するためには、まず正常なヒトの構造を、細胞レベル、組織レベル、器官レベルで知ること、また正常な生体のはたらきを知ること、さらには構造と機能を関連づけて理解することが基本となる。人体の主要な組織や器官について、基本的な構造を機能とを関連づけ、分子／細胞レベルから器官レベルまでを講義する。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	4月21日(金) 13:00～14:30	人体のなりたちー解剖学概論ー (統合解剖学講師/菊島健児)	
2	4月21日(金) 14:40～16:10	胸腔内、腹腔内臓器の解剖学 (統合解剖学准教授/井上浩一)	
3	4月24日(月) 13:00～14:30	細胞内シグナル伝達と転写調節(細胞生化学教授 /加藤洋一)	
4	4月24日(月) 14:40～16:10	「顕微解剖学概論」(機能組織学准教授/植田高史)	
5	4月26日(水) 13:00～14:30	神経解剖学概論 (機能組織学講師/熊本奈都子)	
6	4月26日(水) 14:40～16:10	神経変性疾患の分子生物学 (神経生化学准教授/鄧 鶴)	
7	4月28日(金) 13:00～14:30	Biochemistry of Lipids and Lipoproteins (神経生化学講師/辻田麻紀)	
8	4月28日(金) 14:40～16:10	骨格筋とリハビリテーション(脳神経生理学准教授/田尻 直輝)	
9	5月1日(月) 13:00～14:30	消化吸収と腸管運動 (細胞生理学助教/中森 裕之)	
10	5月1日(月) 14:40～16:10	呼吸運動と呼吸調節 (神経生化学准教授/鄭 且均)	
11	5月8日(月) 13:00～14:30	平滑筋の収縮特性 (細胞生理学教授/橋谷 光)	
12	5月10日(水) 13:00～14:30	循環器:ポンプ機能と脈管機能(脳神経生理学教授/飛田秀樹)	
13	5月10日(水) 14:40～16:10	オルガノイドモデルを用いた臓器形成メカニズム (細胞生化学講師/嶋田逸誠)	
14	5月12日(金) 13:00～14:30	局所血流の制御機構 (細胞生理学講師/三井 烈)	
15	5月12日(金) 14:40～16:10	下垂体前葉ホルモンの生理作用 (脳神経生理学教授/飛田秀樹)	
講義場所	オンライン講義(Zoom)		
成績判定方法	レポートおよび口答試験などの客観的評価を含む総合的評価による		
テキスト・参考文献	「人体の解剖生理学」金芳堂 (遠山正彌・高辻功一・木山博資 編集)、「生理学テキスト」文光堂(4,800円)、「細胞の分子生物学」ニュートンプレス(著者:B. Alberts, A. Johnsonら、監訳:中村圭子、松原謙一)、「デブリン生化学」丸善出版(T.M. Devlin著)		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 7階 電話853-8134 飛田 秀樹 e-mail : hhida@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 2		
授業科目名	病理系医学基礎		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	稲垣 宏 教授		
講義内容	病理学は疾患の発症原因を追及し、さらに疾患の診断や治療に有益な情報を提供する学問である。本講義は病理学について基礎を学び、その本質を深く理解することを目的とする。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	5月17日(水) 13:00~14:30	病原細菌と感染症 (細菌学教授/長谷川忠男)	
2	5月17日(水) 14:40~16:10	病理学総論 (実験病態病理学講師/加藤寛之)	
3	5月24日(水) 13:00~14:30	法医病理学 (法医学教授/青木 康博)	
4	5月24日(水) 14:40~16:10	免疫学1 (免疫学講師/志馬寛明)	
5	5月31日(水) 13:00~14:30	脳卒中と認知症(認知症科学助教/肱岡雅宣)	
6	5月31日(水) 14:40~16:10	疾患モデル動物の意義と役割 (病態モデル医学教授/大石 久史)	
7	6月7日(水) 13:00~14:30	血液病理学 (臨床病態病理学准教授/正木彩子)	
8	6月7日(水) 14:40~16:10	感染症と感染予防対策 (中央臨床検査部講師/井上貴子)	
9	6月14日(水) 13:00~14:30	腫瘍病理学 (臨床病態病理学教授/稲垣 宏)	
10	6月14日(水) 14:40~16:10	内分泌病理 (臨床病態病理学助教/津田 香那)	
11	6月20日(火) 14:40~16:10	ゲノム・分子病理学(神経毒性学教授/酒々井眞澄)	
12	6月21日(水) 13:00~14:30	自然免疫と細菌性ワクチン (細菌学講師/井坂雅徳)	
13	6月21日(水) 14:40~16:10	纖毛病の病態 (細胞生化学教授/加藤洋一)	
14	6月28日(水) 13:00~14:30	再生医学 (神経発達・再生医学講師/澤田雅人)	
15	7月5日(水) 13:00~14:30	病態分子薬理学 (薬理学助教/山口陽平)	
講義場所	オンライン講義(Zoom)		
成績判定方法	レポートおよび口答試験などの客観的評価を含む総合的評価による		
テキスト・参考文献	講義に関連する原著論文等		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 5階 電話853-8161 稲垣 宏		
	e-mail : hinagaki@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 3		
授業科目名	実験手法概論		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	鵜川 眞也 教授		
講義内容	医学・生命科学の研究に必要な手法およびその原理を解説する。関連する研究分野は、形態学、生理学、生化学、細胞生物学、発生工学、行動解析など、多岐に渡る。単なる技術論に留まらず、それぞれの手法を使って得られた実験結果をも紹介し、受講者の研究遂行力を養うことを目的とする。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	8月14日(月) 9:00~10:30	細胞培養の基礎とその応用 (脳神経生理学 教授 飛田秀樹)	
2	8月14日(月) 10:40~12:10	蛍光顕微鏡と共焦点顕微鏡の原理と応用 (神経発達・再生医学 講師 澤田雅人)	
3	8月14日(月) 13:00~14:30	吸光・蛍光・発光物質を用いた実験とその応用 (統合解剖学 准教授 井上浩一)	
4	8月14日(月) 14:40~16:10	PCRの原理と応用 (神経毒性学 講師 深町勝巳)	
5	8月15日(火) 9:00~10:30	遺伝子組換えとプラスミド調製法 (神経発達症遺伝学 講師 金澤智)	
6	8月15日(火) 10:40~12:10	遺伝子改変動物の作成とその応用 (認知症科学 教授 齋藤貴志)	
7	8月15日(火) 13:00~14:30	エピジェネティクス解析法(細胞生化学 教授 加藤洋一)	
8	8月15日(火) 14:40~16:10	Western blot法と免疫沈降法 (神経生化学 准教授 鄭 且均)	
9	8月16日(水) 9:00~10:30	動物実験の基礎と発生工学(病態モデル医学 教授 大石久史)	
10	8月16日(水) 10:40~12:10	病態モデル動物の作成と行動解析 (脳神経生理学 准教授 田尻直輝)	
11	8月16日(水) 13:00~14:30	電気生理学の基本:パッチクランプ法とその応用 (薬理学 助教 鬼頭宏彰)	
12	8月16日(水) 14:40~16:10	<i>In situ</i> 機能実験:電気-細胞内Ca ²⁺ -収縮連関 (細胞生理学 教授 橋谷光)	
13	8月17日(木) 9:00~10:30	optogenetics法を用いた gain/loss of function(脳神経生理学 教授 飛田秀樹)	
14	8月17日(木) 10:40~12:10	組織切片の作製法と特殊染色 (機能組織学 准教授 植田高史)	
15	8月17日(木) 13:00~14:30	<i>In situ</i> hybridization (ISH) 法 (機能組織学 教授 鵜川眞也)	
講義場所	オンライン講義(Zoom)		
成績判定方法	レポートおよび口答試験などの客観的評価を含む総合的評価による		
テキスト・参考文献	各講義においてプリント配布		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟4階 電話:853-8126 鵜川 眞也		
	e-mail: ugawa@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 4		
授業科目名	臨床医学概論		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	片岡 洋望 教授		
講義内容	臨床医学各領域の重要事項を基礎から臨床に至るまで講義する。臨床医学の立場から、将来の研究に参考になるような新たな視点を提供したい。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	5月19日(金) 13:00~14:30	急性腎障害の病態と臨床研究 (腎臓内科助教 村島美穂)	
2	5月19日(金) 14:40~16:10	動脈硬化と心筋梗塞の病態および臨床 (循環器内科助教 山本惇貴)	
3	5月26日(金) 13:00~14:30	甲状腺疾患の診断と治療 (消化器・代謝内科学講師 青谷大介)	
4	5月26日(金) 14:40~16:10	呼吸器疾患の診断と治療 (呼吸器・免疫アレルギー内科学准教授 伊藤 穰)	
5	6月2日(金) 13:00~14:30	皮膚疾患の診断と治療(皮膚科講師 中村元樹)	
6	6月2日(金) 14:40~16:10	大腸がんの診断と治療 (消化器外科学准教授 高橋広城)	
7	6月9日(金) 13:00~14:30	IVR(interventional radiology:画像下治療)の基礎と応用 (放射線医学准教授 下平政史)	
8	6月9日(金) 14:40~16:10	輸血・細胞療法 (輸血・細胞療法部講師 李政樹)	
9	6月16日(金) 13:00~14:30	消化管疾患の診断と治療 (消化器・代謝内科学准教授 久保田英嗣)	
10	6月16日(金) 14:40~16:10	精神科領域の診断と治療(精神医学病院助教 利重裕子)	
11	6月23日(金) 13:00~14:30	肝疾患の診断と治療 (消化器・代謝内科学講師 藤原 圭)	
12	6月23日(金) 14:40~16:10	認知症の診断と治療 (神経内科学講師 大喜多賢治)	
13	6月30日(金) 13:00~14:30	「糖尿病とは何か?一病態生理から最新の治療法まで」(消化器・代謝内科学准教授 田中智洋)	
14	6月30日(金) 14:40~16:10	脳卒中の診断と治療 (脳神経外科助教 西川祐介)	
15	7月7日(金) 13:00~14:30	胆膵疾患の診断と治療 (消化器・代謝内科学講師 吉田道弘)	
講義場所	オンライン講義(Zoom)		
成績判定方法	レポートなどの客観的評価を含む総合的評価による		
テキスト・参考文献	内科学(第12版), 朝倉書店, 病気がみえるシリーズ, 医療情報科学研究所(編集)		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟3階消化器・代謝内科学 電話853-8211 片岡洋望 e-mail : hkataoka@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 5		
授業科目名	社会医学系基礎		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	鈴木 貞夫 教授		
講義内容	社会医学は、人間の健康問題が個人要因(性、年齢、個人的遺伝背景、生活習慣)や環境要因(社会的、物理・化学的、生物的環境)とどのように関連するかを明らかにし、個人や集団の疾病予防や健康増進に応用する実践科学である。また、医療と環境の安全を確保し、国民の保健衛生の向上を図る社会の仕組みへの貢献も社会医学を構成する要素である。講義では、社会医学の概要とともに研究の方法論やいくつかのトピックについて解説する。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	5月15日(月) 13:00~14:30	社会医学とは何か (公衆衛生学 教授/鈴木貞夫)	
2	5月15日(月) 14:40~16:10	労働衛生行政 (環境労働衛生学 教授/上島通浩)	
3	5月22日(月) 13:00~14:30	化学物質の取り扱いと管理 (環境労働衛生学 准教授/伊藤由起)	
4	5月22日(月) 14:40~16:10	法医学総論 (法医学 准教授/加藤秀章)	
5	5月29日(月) 13:00~14:30	医療安全のための対話と環境づくり (医療安全管理学 教授/戸澤啓一)	
6	5月29日(月) 14:40~16:10	突然死とその疫学 (法医学 教授/青木康博)	
7	6月5日(月) 13:00~14:30	わが国における医薬品・医療機器の開発 (次世代医療開発学 教授/神谷武)	
8	6月5日(月) 14:40~16:10	ゲノム疫学入門 (公衆衛生学 准教授/西山毅)	
9	6月12日(月) 13:00~14:30	医学教育パラダイム・シフト:最近10年の動向と今後 (医学・医療教育学 教授/高桑修)	
10	6月12日(月) 14:40~16:10	法医学における遺伝情報 (法医学 助教/福田真未子)	
11	6月19日(月) 13:00~14:30	医学データ解析入門 (公衆衛生学 講師/大谷隆浩)	
12	6月19日(月) 14:40~16:10	NGOによる国際保健活動 (公衆衛生学 助教/中川弘子)	
13	6月26日(月) 13:00~14:30	コホート研究とは~疫学研究の裏と表~ (医療人育成学 特任講師/柿崎真沙子)	
14	6月26日(月) 14:40~16:10	情報セキュリティ (医学・医療情報管理学 准教授/片野広之)	
15	7月3日(月) 13:00~14:30	発達障害と社会的な支援 (環境労働衛生学 助教/加藤沙耶香)	
講義場所	オンライン講義(Zoom)		
成績判定方法	レポート等の客観的評価を含む総合的評価による		
テキスト・参考文献	国民衛生の動向(厚生労働統計協会)		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 10階 電話 853-8176 鈴木 貞夫 e-mail : ssuzuki@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 6		
授業科目名	基礎医科学概論 I (英語講義)		
必修・選択区分	修士課程1年選択		
単位認定教員	酒々井 眞澄 教授		
講義内容	The Basic Medical Science Program1&2 provide opportunities in understanding fundamental life systems, interpreting basic principles of medical science, and exploring technical aspects in basic medical research.		
	Date	Respective topic (Instructors)	出席確認
1	October 17 (Tue) 14:40~16:10	Basic Principles of Toxicology (Prof. M.Suzui)	
2	October 18 (Wed) 13:00~14:30	Neural Development and Regeneration 1 (Prof. K.Sawamoto)	
3	October 25 (Wed) 13:00~14:30	How to Write Scientific Papers in English? (Adjunct Prof.Sri Kantha)	
4	November 1 (Wed) 13:00~14:30	Basic Cancer Biology (Lecturer.K.Fukamachi)	
5	November 8 (Wed) 13:00~14:30	DNA Polymorphism and Profiling (Prof. Y.Aoki)	
6	November 15 (Wed) 13:00~14:30	Study Design and EBM (Evidence Based Medicine) (Prof. S.Suzuki)	
7	November 22 (Wed) 13:00~14:30	Molecular mechanisms of Alzheimer's disease (Prof. M.Michikawa)	
8	November 29 (Wed) 13:00~14:30	Neural Basis of Mind Development (Lecturer. K.Kikushima)	
9	December 6 (Wed) 13:00~14:30	Animal Function in Physiology (Prof. H.Hida)	
10	December 13 (Wed) 13:00~14:30	Principles of Diagnostic Pathology (Prof. H.Inagaki)	
11	December 20 (Wed) 13:00~14:30	Genome Editing Technology in Life Science Research (Prof. H.Oishi)	
12	December 27 (Wed) 13:00~14:30	Neural Development and Regeneration 2 (Prof. K.Sawamoto)	
13	January 10 (Wed) 13:00~14:30	Exposome - the totality of lifestyle factors and environmental exposures (Assitant Prof. R. Chaleckis)	
14	January 17 (Wed) 13:00~14:30	Basic Sciences of Poststroke Rehabilitation (Prof. H.Hida)	
15	January 24 (Wed) 13:00~14:30	Molecular Genetics of Epilepsy and Autism (Prof. K. Yamakawa)	
講義場所	オンライン講義(Zoom)		
成績判定方法	レポートおよび口答試験などの客観的評価を含む総合的評価による		
テキスト・参考文献	教科書は指定しない。講師が講義資料(プリント等)を使用する場合がある。		
単位認定教員 連絡先	脳研 4階 神経毒性学 電話853-8991 酒々井 眞澄		
	e-mail : suzui@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 7		
授業科目名	基礎医科学概論Ⅱ(英語講義)		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	大矢 進 教授		
講義内容	Basic Medical Science Programs 1&2 provide opportunities in understanding fundamental life systems, interesting basic principles of medical science, and exploring technical aspects in basic medical research.		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	October 18(Wed) 14:40~16:10	Basic Principles of Cell Culture (President. K. Asai)	
2	October 25(Wed) 14:40~16:10	Basic Pharamcology (Prof. S. Ohya)	
3	November 1(Wed) 14:40~16:10	Bacteriology (Prof. T. Hasegawa)	
4	November 8(Wed) 14:40~16:10	Toxicology and Xenobiotic Metabolism (Lecturer. K. Fukamachi)	
5	November 15(Wed) 14:40~16:10	Pharmacology of Vasodilating Agents (Prof. T. Itoh)	
6	November 21(Tue) 14:40~16:10	Drug Discovery Based on Chemical Biology (Prof. M. Suzui)	
7	November 22(Wed) 14:40~16:10	Principles of gene editing (Prof. Y. Katoh)	
8	December 6(Wed) 14:40~16:10	Basic Cell Physiology (Prof. H. Hashitani)	
9	December 13(Wed) 14:40~16:10	Axon injury (Lecturer T. Ozaki)	
10	December 20(Wed) 14:40~16:10	How Immune Response is Regulated (Prof. S. Yamazaki)	
11	December 27(Wed) 14:40~16:10	Metabolomics in human health (Assistant Prof. R. Chaleckis)	
12	January 10(Wed) 14:40~16:10	The frontline of research for Alzheimer's disease (Prof. T. Saitoh)	
13	January 17(Wed) 14:40~16:10	Introduction to Mass Spectrometry (President. K. Asai)	
14	January 24(Wed) 14:40~16:10	Molecular Mechanisms of Mechanotransduction in Mammalian Sensory Neurons (Assistant Prof. Y. Shibata)	
15	January 31(Wed) 14:40~16:10	Basic viology and genetics (Prof. Y. Okuno)	
講義場所	オンライン講義(Zoom)		
成績判定方法	Comprehensive evaluation including objective evaluation such as reports and oral examinations		
テキスト・参考文献	教科書は指定しない。講師が講義資料を使用する場合がある。		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 8F 電話853-8151 大矢 進		
	e-mail : sohya@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 8		
授業科目名	臨床医療デザイン概論		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	植木 孝俊 教授		
講義内容	臨床の現場におけるニーズの所在を概観し、理工学などの基礎科学研究の成果の橋渡しを推進する方策を探求するため、広く病院診療、看護、リハビリ、精神保健などの最近の動向に触れ、また情報技術の進展に伴う医療のIoT化が、病院などにおける診療システムをどのように変貌させるかの展望を描くための素材を提供する。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	4月20日(木) 18:30~20:00	数値解析基礎(臨床医療デザイン学客員教授/草間晴幸)	
2	4月27日(木) 18:30~20:00	放射線の生体影響と物理の基礎(臨床医療デザイン学助教/寺田隆哉)	
3	5月11日(木) 18:30~20:00	医療工学概論(名古屋工業大学工学研究科教授/藤本英雄)	
4	5月18日(木) 18:30~20:00	知財学概論(創新特許事務所所長/川口康)	
5	5月25日(木) 18:30~20:00	リハビリテーション学概論(日本福祉大学健康科学部教授/浅井友詞)	
6	6月1日(木) 18:30~20:00	看護学概論(豊橋創造大学看護学部教授/河合洋子)	
7	6月8日(木) 18:30~20:00	老人保健学概論(名市大みらい光生病院副部長/藤田政隆)	
8	6月15日(木) 18:30~20:00	AI診断学概論(京都大学医学研究科准教授/大石直也)	
9	6月22日(木) 18:30~20:00	医用ロボットデザイン学概論(臨床医療デザイン学准教授/加藤大香士)	
10	6月29日(木) 18:30~20:00	精神保健学概論(九州大学精神科・名市大統合解剖学客員教授/神庭重信)	
11	7月6日(木) 18:30~20:00	産学連携による新しいリハビリテーション医療技術の導入(愛知淑徳大学健康医療科学部・名市大リハビリテーション医学客員教授/和田郁雄)	
12	7月13日(木) 18:30~20:00	インタラクティブシステム概論(臨床医療デザイン学准教授/埴大)	
13	7月20日(木) 18:30~20:00	ナノテクノロジー・電磁気学概論(臨床医療デザイン学教授/松本貴裕)	
14	7月27日(木) 18:30~20:00	光医学概論(臨床医療デザイン学教授/森田明理)	
15	8月3日(木) 18:30~20:00	脳病態制御工学概論(臨床医療デザイン学教授/植木孝俊)	
講義場所	オンライン講義(Zoom)		
成績判定方法	レポートおよび口答試験などの客観的評価を含む総合的評価による		
テキスト・参考文献	講義時に適宜紹介		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 4階 電話853-8121 植木 孝俊		
	e-mail : ueki@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 9		
授業科目名	臨床医療デザイン特論		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	植木 孝俊 教授 (臨床医療デザイン学・統合解剖学)		
講義内容	病院などの医療現場におけるニーズに照らして、最近の工学的研究及び企業の開発研究の成果を至適化し、臨床医療システムの機能的再構築を図るため、これまでに本分野所属教員が手掛けてきた技術シーズの紹介と、その医療への適用の方策について論じる。また、病院における診療の効率化のための医療のデザインのあり方について各自の専門を踏まえ論じる。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	10月19日(木) 18:30~20:00	医工連携分野における数値解析手法の基礎(臨床医療デザイン学客員教授/草間晴幸)	
2	10月26日(木) 18:30~20:00	医工連携分野における数値解析手法の応用例(臨床医療デザイン学客員教授/草間晴幸)	
3	11月2日(木) 18:30~20:00	精神保健学特論(九州大学精神科・名古屋市大統合解剖学客員教授/神庭重信)	
4	11月9日(木) 18:30~20:00	人工知能学特論(京都大学医学研究科准教授/大石直也)	
5	11月16日(木) 18:30~20:00	ナノテクノロジーと光学技術:基礎(臨床医療デザイン学教授/松本貴裕)	
6	11月30日(木) 18:30~20:00	ナノテクノロジーと光学技術:応用(臨床医療デザイン学教授/松本貴裕)	
7	12月7日(木) 18:30~20:00	インタラクティブシステム(臨床医療デザイン学准教授/埴大)	
8	12月14日(木) 18:30~20:00	先進リハビリテーション(名古屋女子大学医療科学部助手/瀬藤慎之介)	
9	12月21日(木) 18:30~20:00	ロボット手術1(臨床医療デザイン学准教授/加藤大香士)	
10	12月28日(木) 18:30~20:00	ロボット手術2(臨床医療デザイン学准教授/加藤大香士)	
11	1月4日(木) 18:30~20:00	3Dプリンタと医療応用(臨床医療デザイン学助教/寺田隆哉)	
12	1月11日(木) 18:30~20:00	光の基礎知識と応用可能性(臨床医療デザイン学教授/森田明理)	
13	1月18日(木) 18:30~20:00	光線療法機器と今後の展開(臨床医療デザイン学教授/森田明理)	
14	1月25日(木) 18:30~20:00	人工意識(AC)の技術基盤(臨床医療デザイン学教授/植木孝俊)	
15	2月1日(木) 18:30~20:00	老化制御の医学(臨床医療デザイン学教授/植木孝俊)	
講義場所	オンライン講義(Zoom)		
成績判定方法	レポートおよび口答試験などの客観的評価を含む総合的評価による		
テキスト・参考文献	講義時に適宜紹介		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 4階 電話853-8121 植木 孝俊		
	e-mail : ueki@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 10		
授業科目名	最新医学特論 I		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	飯田 真介 教授		
講義内容	基礎医学ならびに臨床医学の最新的话题を提供する。基礎研究の立場からは、最新かつ重要な課題について講義する。また、臨床医学の立場からは、臨床における最新かつ重要な課題について、基礎的研究の結果を交えて講義する。本科目により、基礎医学から臨床医学、臨床医学から基礎医学へとシームレスな知識と思考能力の育成を目的とする。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	6月16日(金) 18:30~20:00	癌の病理診断(E) (実験病態病理学教授 高橋 智)	
2	6月23日(金) 18:30~20:00	癌ゲノムとプレジジョンメディシン(E)(シンガポール大学准教授 三田貴臣)	
3	6月30日(金) 18:30~20:00	肺がん化学療法と抗がん剤耐性(呼吸器・免疫アレルギー内科学准教授 前野健)	
4	7月7日(金) 18:30~20:00	尿路性器癌の診断・治療ー最近の話題(医療安全管理学教授 戸澤啓一)	
5	7月14日(金) 18:30~20:00	臨床病理学(臨床病態病理学教授 稲垣宏)	
6	7月21日(金) 18:30~20:00	これだけは知っておきたい乳がんの基礎知識(乳腺外科学教授 遠山竜也)	
7	7月28日(金) 18:30~20:00	放射線科における癌の臨床(放射線医学教授 樋渡昭雄)	
8	8月4日(金) 18:30~20:00	がんに対する抗体療法と免疫療法(E)(血液・腫瘍内科学教授 飯田真介)	
講義場所	オンライン講義(Zoom)		
成績判定方法	レポート		
テキスト・参考文献	講義に関連する原著論文等		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 2階 電話853-8738 飯田 真介 e-mail : iida@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 11		
授業科目名	最新医学特論Ⅱ		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	祖父江 和哉 教授		
講義内容	<p>基礎医学ならびに臨床医学の最新的话题を提供する。基礎研究の立場からは、最新かつ重要な課題について講義する。また、臨床医学の立場からは、臨床における最新かつ重要な課題について、基礎的研究の結果を交えて講義する。本科目により、基礎医学から臨床医学、臨床医学から基礎医学へとシームレスな知識と思考能力の育成を目的とする。</p> <p>(E): 英語対応(開始時に英語講義希望者がいる場合には英語での講義となります)</p>		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	10月20日(金) 18:30~20:00	内視鏡×人間工学(E) (消化器・代謝内科学 堀寧 助教)	
2	10月27日(金) 18:30~20:00	内臓痛の発生メカニズム (名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 草間宣好 准教授)	
3	11月10日(金) 18:30~20:00	周術期における高次機能障害の発生機序 (麻酔科学・集中治療学 祖父江和哉 教授)	
4	11月17日(金) 18:30~20:00	硬化性胆管炎の診断と治療 (名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 大原弘隆 教授)	
5	11月24日(金) 18:30~20:00	画像診断法と人工知能の融合(E) (統合解剖学 植木孝俊 教授)	
6	12月1日(金) 18:30~20:00	呼吸生理学、高地における順応(E) (看護学研究科 先端医療看護学(麻酔学) 薊隆文 教授)	
7	12月8日(金) 18:30~20:00	呼吸器の構造、機能と病態生理(E) (呼吸器・免疫アレルギー内科学 新実彰男 教授)	
講義場所	オンライン講義(Zoom)		
成績判定方法	レポート、講義出欠状況		
テキスト・参考文献	講義に関連する原著論文等		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 10階 Tel:052-853-8281 祖父江和哉 教授 e-mail : secretary@ncu-masui.jp (秘書)		

科目区分	共通教育科目 12		
授業科目名	臨床基礎特論 I		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	森田 明理教授		
講義内容	様々な角度から生体防御機構とそれに関する疾患について最前線の研究成果を学習するとともに、疾病発生要因としての個人素因、生活習慣、職業環境要因や、社会の中での健康問題に関する分析および最新の知見、厚生行政・医療および関連領域の法および制度などについて学ぶ。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	4月19日(水) 18:30~20:00	細菌感染生体応答1(細菌学教授 長谷川忠男)	
2	4月26日(水) 18:30~20:00	細菌感染生体応答2(細菌学講師 立野一郎)	
3	5月10日(水) 18:30~20:00	がんに対する免疫応答とその制御(免疫学助教 志馬寛明)	
4	5月17日(水) 18:30~20:00	免疫制御を利用した新しい免疫療法(免疫学教授 山崎小百合)	
5	5月24日(水) 18:30~20:00	がん免疫療法の実際(耳鼻咽喉・頭頸部外科学助教 的場拓磨)	
6	5月31日(水) 18:30~20:00	免疫病理学(臨床病態病理学教授 稲垣宏)	
7	6月7日(水) 18:30~20:00	毒性発現の機序、細胞レベルでの機能異常とこれに起因する毒性(EX分子毒性学教授 酒々井眞澄)	
8	6月14日(水) 18:30~20:00	耳鼻科咽喉科領域における免疫疾患—アレルギー性鼻炎を中心に—(高度医療教育研究センター教授 鈴木元彦)	
講義場所	オンライン講義(Zoom)		
成績判定方法	レポート		
テキスト・参考文献	講義に関連する原著論文等		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 8階 電話853-8261 森田明理		
	e-mail : amorita@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 13		
授業科目名	臨床基礎特論Ⅱ		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	上島 通浩 教授		
講義内容	この授業では、健康や社会の安全・安心を確保するためのアプローチや分析法について、発展的な内容を英語で講義する。なお、本授業は博士課程の「環境健康安全学概論I」および「予防・社会医学講義I」の一部を兼ねる。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	10月18日(水) 18:30~20:00	疾病原因としての職業環境要因の解明(環境労働衛生学教授 上島通浩)	
2	10月25日(水) 18:30~20:00	疫学から見た安全性の議論(公衆衛生学教授 鈴木貞夫)	
3	11月1日(水) 18:30~20:00	わが国における医薬品・医療機器開発と薬事行政(次世代医療開発学教授 神谷武)	
4	11月8日(水) 18:30~20:00	大気汚染の歴史と現状(環境労働衛生学准教授 伊藤由起)	
5	11月15日(水) 18:30~20:00	食料生産に関連した食品中および体液中の汚染物質(農薬、抗生物質、ホルモン)(環境労働衛生学特任助教 ハレツキスロマナス)	
6	11月22日(水) 18:30~20:00	死因究明制度(法医学教授 青木康博)	
7	11月29日(水) 18:30~20:00	自閉スペクトラム症と支援(環境労働衛生学助教 加藤沙耶香)	
講義場所	オンライン講義(Zoom)		
成績判定方法	出席、レポート等により成績評価する(詳細は授業で説明)。		
テキスト・参考文献	講義に関連する論文等を、必要に応じ講義担当教員が紹介する。		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 10階 電話853-8171 上島 通浩		
	e-mail : kamijima@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 14		
授業科目名	総合認知症特論		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	松川 則之 教授		
講義内容	<p>認知症診療を包括的に行うために、認知症総合的にマネージメントできる診療医・薬剤師・看護師・理学療法士・作業療法士・医療工学士の育成を目的とする。本コースでは、認知症の基礎・臨床の知識から治療・ケア介入の実践行うべく手法を学ぶ。更には、認知症を中心とした精神・神経疾患のコフオート研究を行うために、コフオートデザイン作成に向けた基礎的知識の習得と実践的な経験を旨とする。</p> <p>SOB 1: アルツハイマー病の病態が説明できる SOB 2: 他の認知症の病態が説明できる SOB 3: 神経心理検査が実施できる SOB 4: 抗認知症薬について説明できる SOB 5: 精神症状とその対症薬を説明できる SOB 6: 認知症のケア方法を立案できる SOB 7: 在宅介護の施設整備の立案ができる SOB 8: 認知症社会資源が説明できる SOB 9: 電気生理・画像を用いた神経機能評価法を説明できる SOB 10: コフオート研究をデザインできる SOB 11: コフオート研究に参加する</p>		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	4月18日(火) 18:30~20:00	認知症総論	神経内科学 松川 則之 教授
2	4月25日(火) 18:30~20:00	アルツハイマー病の基礎	神経内科学 松川 則之 教授
3	5月2日(火) 18:30~20:00	アルツハイマー病の基礎/その他の認知症の基礎	神経内科学 松川 則之 教授
4	5月9日(火) 18:30~20:00	認知症行政とネットワーク	名古屋認知症相談支援センター 鈴木善史
5	5月16日(火) 18:30~20:00	神経心理検査法	日本福祉大学 宮田 美和子 准教授
6	5月23日(火) 18:30~20:00	認知症の画像診断	国立長寿医療研究センター 櫻井 圭太 医長
7	5月30日(火) 18:30~20:00	認知症の臨床	神経内科学 松川 則之 教授
8	6月6日(火) 18:30~20:00	認知症の周辺症状とその対応	地域療養医学 赤津 裕康 教授
9	6月13日(火) 18:30~20:00	認知症のケア	看護高齢者看護学 原沢 優子 准教授
10	6月20日(火) 18:30~20:00	認知症の病診連携の実践	西部医療センター部長 片田 栄一 非常勤講師
11	6月27日(火) 18:30~20:00	認知症の鑑別診断と病態生理(電気生理)	リハビリテーション医学 植木 美乃 教授
12	7月4日(火) 18:30~20:00	脳機能評価法(画像診断法を用いて)	神経内科学 松川 則之 教授
13	7月11日(火) 18:30~20:00	コフオート研究デザイン	公衆衛生学 鈴木 貞夫 教授
14	7月18日(火) 18:30~20:00	認知症の診断バイオマーカー探索	神経内科学 松川 則之 教授
15	7月25日(火) 18:30~20:00	コフオート研究の実践	地域療養医学 赤津 裕康 教授
講義場所	オンライン講義(Zoom)		
成績判定方法	レポート		
テキスト・参考文献	講義に関連する原著論文等		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 3階 電話853-8094 松川則之 e-mail : norim@med.nagoya-cu.ac.jp (秘書 shinkei@med.nagoya-cu.ac.jp)		

科目区分	共通教育科目 15		
授業科目名	緩和/終末期ケア特論		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	明智 龍男 教授		
講義内容	現代の医療においては、死はタブー視され、直視されない傾向が顕著である。一方、わが国では超高齢社会が到来し、がん、心不全、認知症などに罹患し、死の転帰を辿る患者が増加し続けている。緩和ケアとは、「生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処(治療・処置)を行うことによって、苦しみを予防し、和らげることで、クオリティ・オブ・ライフを改善するアプローチ」であり、がんを代表とする致死性の疾患に対する診断時から終末期まで疾患の全ての軌跡を含めた全人的ケアのことを指す。本講義においては、進行性の疾患によって人生の最終段階を迎える患者のQuality of lifeを尊重することを中心的価値観とし、緩和ケアのみならず、死に関する人文社会学的知見などについて、包括的に解説する。□		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	10月17日(火) 18:30~20:00	緩和ケア概論 西部医療センター 精神科 奥山 徹 教授(診療担当)	
2	10月24日(火) 18:30~20:00	痛み 腎・泌尿器科 恵谷 俊紀 講師	
3	10月31日(火) 18:30~20:00	化学療法に関する考え方 :効果、副作用、QOLのバランス 臨床腫瘍部 小松 弘和 教授	
4	11月7日(火) 18:30~20:00	慢性疼痛への心理社会的アプローチ 麻酔科学・集中治療医学 酒井 美枝 特任助教	
5	11月14日(火) 18:30~20:00	薬学の視点から考える緩和ケア 薬学研究科 神経薬理学 大澤 匡弘 准教授	
6	11月21日(火) 18:30~20:00	国のがん対策と緩和ケア 精神・認知・行動医学 久保田 陽介 講師	
7	11月28日(火) 18:30~20:00	がんに伴う身体症状概論 呼吸器・免疫アレルギー内科学 前野 健 准教授	
8	12月5日(火) 18:30~20:00	精神腫瘍学 緩和ケアセンター 内田 恵 講師	
9	12月12日(火) 18:30~20:00	心不全の緩和ケア 循環器内科 北田 修一 講師	
10	12月19日(火) 18:30~20:00	高齢者医療/認知症と緩和ケア 地域医療教育学 赤津 裕康 教授(診療担当)	
11	12月26日(火) 18:30~20:00	アドバンス・ケア・プランニング 緩和ケアセンター 長谷川 貴昭 助教	
12	1月9日(火) 18:30~20:00	看護の視点から考える緩和ケア 看護学部 樺野 香苗 教授	
13	1月16日(火) 18:30~20:00	思想学から見た痛みと死生の関係 人文社会学部 Andrea Castiglioni 講師	
14	1月23日(火) 18:30~20:00	終末期の過ごし方 名古屋徳洲会総合病院 坂本 雅樹 非常勤講師	
15	1月30日(火) 18:30~20:00	コミュニケーションと意思決定 精神・認知・行動医学 明智 龍男 教授	
講義場所	オンライン講義(Zoom)		
成績判定方法	レポート		
テキスト・参考文献	講義に関連する原著論文等		
単位認定教員 連絡先	医学部・医学研究科研究棟 10階 電話853-8271 明智龍男 e-mail : takechi@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目16		
授業科目名	減災・医療概論		
必修・選択区分	修士課程1年必修		
単位認定教員	服部友紀 教授		
講義内容	到達目標 (1)災害現場やCOVID-19パンデミックを実際に対応してきた医療者の実体験に基づく講義を聴講する (2)実体験談から減災・医療について専門的な知識を習得する (3)災害及び急性期医療から復興期医療等について専門知識やスキル修得する (4)(産科医、透析専門医、薬剤師、DMAT看護師から)災害弱者、特殊疾患患者の災害時の対応について学ぶ		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	4月18日(火) 18:30~20:00	災害医療総論①救急医と災害医療 名古屋市立大学医学研究科 先進急性期医療学 教授 服部友紀	
2	4月25日(火) 18:30~20:00	ERの感染対策と診療 名古屋市立大学医学研究科 先進急性期医療学 教授 笹野寛	
3	5月2日(火) 18:30~20:00	災害医療～災害現場での経験～① 名古屋市立大学病院災害医療センター センター長 山岸庸太	
4	5月9日(火) 18:30~20:00	災害医療～災害現場での経験～② 名古屋市立大学病院災害医療センター センター長 山岸庸太	
5	5月16日(火) 18:30~20:00	災害医療と看護師① 愛知医科大学看護学部 成人看護学 伊藤真規	
6	5月23日(火) 18:30~20:00	災害医療と看護師② 名古屋市立大学大学院看護学研究科・看護学部 教授 明石恵子	
7	5月30日(火) 18:30~20:00	新型コロナウイルス感染症の対策 名古屋市立大学医学研究科 先進急性期医療学 教授 服部友紀	
8	6月6日(火) 18:30~20:00	災害時の薬剤師の活動① 名古屋市立大学病院病院薬剤部 薬剤師 大橋一輝	
9	6月13日(火) 18:30~20:00	災害時の薬剤師の活動② 名古屋市立大学病院病院薬剤部 薬剤師 早川智章	
10	6月20日(火) 18:30~20:00	地域包括ケアシステムと災害 名古屋市立大学大学院医学研究科 地域医療教育学分野 教授 赤津裕康	
11	6月27日(火) 18:30~20:00	脳卒中と災害 名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター 救急科・脳神経内科 准教授 三浦敏靖	
12	7月4日(火) 18:30~20:00	災害時の妊婦への対応～コロナ禍にどう対応しているか～ 名古屋市立大学大学院医学研究科 産婦人科 助教 後藤志信	
13	7月10日(月) 18:30~20:00	災害時の透析患者への対応① 名古屋市立大学大学院医学研究科 腎臓内科学 助教 水野晶紫	
14	7月19日(水) 18:30~20:00	災害時の透析患者への対応② 名古屋市立大学大学院医学研究科 腎臓内科学 助教 水野晶紫	
15	7月25日(火) 18:30~20:00	災害医療総論②総括・まとめ 名古屋市立大学医学研究科 先進急性期医療学 教授 服部友紀	
講義場所	オンライン講義(Zoom)		
成績判定方法	レポート、演習評価		
テキスト・参考文献	講義に関する原著論文、配布資料等		
単位認定教員連絡先	e-mail: thattori@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目17		
授業科目名	減災・医療特論 I		
必修・選択区分	修士課程1年必修		
単位認定教員	笹野 寛 教授		
講義内容	到達目標 (1)減災・医療について専門的な知識を習得する (2)災害及び急性期医療に関する緊急事態に対応するための知識やスキル修得する (3)チームの中での役割を理解し、減災・医療での多職種連携の意義を理解する (4)演習や実習をとおしてコミュニケーション能力やリーダーシップ能力を学ぶ		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	9月5日(火) 18:30~20:00	災害医療体制(名古屋市立大学病院災害センター長/山岸庸太)	
2	9月12日(火) 18:30~20:00	気道管理法(名古屋市立大学病院救急科部長/笹野寛)	
3	9月19日(火) 18:30~20:00	災害時の薬局医療支援(岐阜薬科大学実践社会薬学准教授/林秀樹)	
4	9月26日(火) 18:30~20:00	心肺蘇生法と除細動器1(名古屋市立大学病院救急科部長/服部友紀)	
5	10月3日(火) 18:30~20:00	心肺蘇生法と除細動器2(名古屋市立大学病院救急科部長/服部友紀)	
6	10月10日(火) 18:30~20:00	災害時健康危機管理支援チーム(DHEAT)の役割 (名古屋市健康福祉局 医療企画調整官 小嶋 雅代)	
7	10月17日(火) 18:30~20:00	災害時におけるトリアージ (名古屋市立大学病院看護師/ 清水真奈美・寺西幸子)	
8	10月24日(火) 18:30~20:00	脳卒中の初期治療(名古屋市立大学東部医療センター救急科部長/三浦敏靖)	
9	10月31日(火) 18:30~20:00	精神疾患の対応 (名古屋市立大学病院救急科医師/宮崎ゆか)	
10	11月7日(火) 18:30~20:00	災害と感染症(名古屋市立大学東部医療センター救命救急センター長/松嶋麻子)	
11	11月14日(火) 18:30~20:00	アフィラキシーショックへの対応 (名古屋市立大学病院救急科病院助教/松居亮平)	
12	11月21日(火) 18:30~20:00	小児科救急疾患(名古屋市立大学病院救急科病院助教/今井一徳)	
13	11月28日(火) 18:30~20:00	外傷の初期対応(胸部・腹部・骨盤外傷など) (名古屋市立大学病院災害センター長/山岸庸太)	
14	12月5日(火) 18:30~20:00	化学災害・化学物質テロなどの現状と対応 (名古屋市立大学脳神経科学研究所神経毒性学分野教授/酒々井眞澄)	
15	12月12日(火) 18:30~20:00	災害時の骨折などの管理(名古屋市立大学病院救急科病院助教/坪内稀親)	
講義場所	オンライン講義(Zoom)		
成績判定方法	レポート、演習評価		
テキスト・参考文献	講義に関する原著論文、配布資料等		
単位認定教員 絡先	連 e-mail: hsasano@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 18		
授業科目名	減災・医療特論Ⅱ		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	松嶋 麻子 教授		
講義内容	(1) 自然災害からマスギャザリングまで多様な災害医療の実際を学ぶ。 (2) 災害医療について専門的な知識を習得し、災害医療を担う多様な職種の役割を考える。 (3) 減災のための日常の備えやBCP(business continuing plan)作成に中心的な役割を担えるようにする。		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	10月16日(月) 18:30~20:00	災害医療総論・BCP(名古屋市立大学/松嶋麻子)	
2	10月23日(月) 18:30~20:00	横浜市の災害医療(外傷センター、新型コロナ対応など)(藤田医科大学/船曳知弘)	
3	10月30日(月) 18:30~20:00	地震と災害医療(阪神淡路大震災)(大阪大学/織田順)	
4	11月6日(月) 18:30~20:00	マスギャザリング(東京オリンピック・パラリンピック)(筑波大学/井上貴昭)	
5	11月13日(月) 18:30~20:00	災害と熱傷(中京病院/大須賀章倫)	
6	11月20日(月) 18:30~20:00	マスギャザリング(G7、G20)(大阪大学/酒井智彦)	
7	11月27日(月) 18:30~20:00	災害とドクターヘリ(愛知医科大学/津田雅庸)	
8	12月4日(月) 18:30~20:00	マスギャザリング(愛知万博)(常滑市民病院/中川隆)	
9	12月11日(月) 18:30~20:00	災害とDMAT(名古屋市立大学/三浦敏靖)	
10	12月18日(月) 18:30~20:00	災害と小児(名古屋市立大学/今井一徳)	
11	12月25日(月) 18:30~20:00	米国の災害医療(University of Iowa/李相一)	
12	1月15日(月) 18:30~20:00	自衛隊と災害医療(松嶋;特別講演 防衛医大 清住先生)	
13	1月22日(月) 18:30~20:00	地震と災害医療(東日本大震災)(名古屋市立大学/大出靖将)	
14	1月29日(月) 18:30~20:00	災害と感染症(名古屋市立大学/松嶋麻子)	
15	2月5日(月) 18:30~20:00	まとめ(名古屋市立大学/松嶋麻子)	
講義場所	オンライン講義(Zoom)		
成績判定方法	レポートおよび口答試験などの客観的評価を含む総合的評価による		
テキスト・参考文献	講義に関連する原著論文等		
単位認定教員 連絡先	e-mail: asakouab@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目区分	共通教育科目 19		
授業科目名	脳神経科学講義		
必修・選択区分	修士課程1年選択必修		
単位認定教員	澤本 和延 教授		
講義内容	主に脳神経科学研究所の教員(連携研究室教員を含む)が講義を担当し、神経生物学の基礎から、脳神経疾患の病態、治療、創薬まで、脳神経科学に関する様々なトピックを紹介する。医学研究科博士課程、薬学研究科(修士・博士)および理学研究科(修士・博士)の大学院生も受講・単位取得できるように設定する。受講者に応じて日本語または英語で実施する(開始時に英語講義希望者がいる場合は英語で講義を実施する)		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	10月18日(水) 18.30~20.00	神経発達症・てんかん発症機序の解明に向けて(神経発達症遺伝学講師 鈴木俊光)	
2	10月25日(水) 18.30~20.00	学習・記憶における大脳辺縁系の役割(認知機能病態学寄附講座 寄付講座助教 森下良一)	
3	11月1日(水) 18.30~20.00	アルツハイマー病研究の最前線(認知症科学特任助教 眞鍋達也)	
4	11月8日(水) 18.30~20.00	線虫から明らかになった「意思決定のタイミングを決める分子機構」(理学研究科教授 木村幸太郎)	
5	11月15日(水) 18.30~20.00	神経軸索の再生阻害機構(神経毒性学助教 尾崎智也)	
6	11月22日(水) 18.30~20.00	神経細胞移動の分子機構とその関連疾患(薬学研究科教授 服部光治)	
7	11月29日(水) 18.30~20.00	哺乳類の時計中枢からの概日リズム発振機構(豊橋技術科学大学 沼野利佳教授(医学研究科客員教授))	
8	12月6日(水) 18.30~20.00	マイクロ・ナノ技術を医学・生物学研究に活用する(豊橋技術科学大学 永井萌土准教授(医学研究科客員准教授))	
9	12月13日(水) 18.30~20.00	脳出血後のリハビリによる障害運動機能の改善メカニズム(脳神経生理学教授 飛田秀樹)	
10	12月20日(水) 18.30~20.00	細胞内オルガネラを介した脳機能の制御機構(薬学研究科教授 白根道子)	
11	12月27日(水) 18.30~20.00	縦断研究に自己制御機能の初期発達を探る(人間文化研究科教授 中川敦子)	
12	1月10日(水) 18.30~20.00	精神物理学:理論と応用(芸術工学研究科教授 辻村誠一)	
13	1月17日(水) 18.30~20.00	ニューロン再生とグリア細胞(同志社大学教授 金子奈穂子)	
14	1月24日(水) 18.30~20.00	Modern molecular and cellular biotechnology(コペンハーゲン大学Konstantin Khodosevich准教授(医学研究科客員准教授))	
15	1月31日(水) 18.30~20.00	ニューロフルイドの調節機構と機能(脳神経外科学教授 間瀬光人)	
講義場所	オンライン講義(Zoom)		
成績判定方法	レポートおよび口答試験などの客観的評価を含む総合的評価による		
テキスト・参考文献	教科書は指定しない。講師が講義資料(プリント等)を使用する場合がある。		
単位認定教員 連絡先	脳神経科学研究所 3階 電話853-8533 澤本和延 e-mail : sawamoto@med.nagoya-cu.ac.jp		

	専門演習Ⅰ・Ⅱ (1年次) SeminarⅠ・Ⅱ (1st grade)	専門演習Ⅲ・Ⅳ (2年次) SeminarⅢ・Ⅳ (2nd grade)	特別研究Ⅰ (1年次) ResearchⅠ (1st grade)	特別研究Ⅱ (2年次) ResearchⅡ (2nd grade)	主任教員 Program Director
統合解剖学 Integrated Anatomy					植木孝俊教授 Prof.T.Ueki
機能組織学 Anatomy and Neuroscience					鶴川眞也教授 Prof.S.Ugawa
神経生化学 Biochemistry					未定 (to be confirmed)
細胞生化学 Cell Biology					加藤 洋一教授 Prof. Y. Kato
細胞生理学 Cell Physiology					橋谷 光教授 Prof.H.Hashitani
脳神経生理学 Neurophysiology and Brain Science					飛田秀樹教授 Prof.H.Hida
腎・泌尿器科学 Nephro-urology					安井孝周教授 Prof.T.Yasui
実験病態病理学 Experimental Pathology and Tumor Biology					高橋 智教授 Prof.S.Takahashi
臨床病態病理学 Pathology and Molecular Diagnostics					稲垣 宏教授 Prof.H.Inagaki
病態モデル医学 Comparative and Experimental Medicine					大石 久史教授 Prof. H. Oishi
薬理学 Pharmacology					大矢 進教授 Prof. S. Ohya
細菌学 Bacteriology					長谷川忠男教授 Prof.T.Hasegawa
免疫学 Immunology	各2(計4)	各2(計4)	4	4	山崎小百合教授 Prof.S.Yamazaki
ウイルス学 Virology	2 each (total 4)	2 each (total 4)			奥野友介教授 Prof.Y.Okuno
リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine					植木美乃教授 Prof.Y. Ueki
精神・認知・行動医学 Psychiatry and Cognitive-Behavioral Medicine					明智龍男教授 Prof.T.Akechi
産科婦人科学 Obstetrics and Gynecology					杉浦真弓教授 Prof.M.Sugiura
新生児・小児医学 Pediatrics and Neonatology					齋藤伸治教授 Prof.S.Saitoh
認知症科学 Neurocognitive Science					齊藤貴志教授 Prof.T. Saito
グリア細胞生物学 Glial Cell Biology					未定 (to be confirmed)
神経発達症遺伝学 Neurodevelopmental Disorder Genetics					山川和弘教授 Prof.K.Yamakawa
神経毒性学 Neurotoxicology					酒々井眞澄教授 Prof.M.Suzui
神経発達・再生医学 Developmental and Regenerative Biology					澤本和延教授 Pro.K.Sawamoto
認知機能病態学(寄附講座) Cogntive Funjction and Pathology					野村 洋教授 Prof.Nomura
呼吸器・免疫アレルギー内科学 Respiratory Medicine, Allergy and Clinical Immunology					新実彰男教授 Prof.A.Niimi
循環器内科学 Cardiology					瀬尾由広教授 Prof.Y.Seo

	専門演習Ⅰ・Ⅱ (1年次) SeminarⅠ・Ⅱ (1st grade)	専門演習Ⅲ・Ⅳ (2年次) SeminarⅢ・Ⅳ (2nd grade)	特別研究Ⅰ (1年次) ResearchⅠ (1st grade)	特別研究Ⅱ (2年次) ResearchⅡ (2nd grade)	主任教員 Program Director
血液・腫瘍内科学 Hematology and Oncology	各2(計4) 2 each (total 4)	各2(計4) 2 each (total 4)	4	4	飯田真介教授 Prof.S.Iida
麻酔科学・集中治療医学 Anesthesiology and Intensive Care Medicine					祖父江和哉教授 Prof.K.Sobue
先進急性期医療学 Advancing Acute Medicine					笹野 寛教授 Prof.H.Sasano
救命救急医療学 Critical care medical science					服部友紀教授 Prof.T.Hattori
環境労働衛生学 Occupational and Environmental Health					松嶋麻子教授 Prof.A.Matsushima
公衆衛生学 Public Health					上島通浩教授 Prof.M.Kamijima
法医学 Forensic Medicine					鈴木貞夫教授 Prof.S.Suzuki
医学・医療教育学 Medical Education					青木康博教授 Prof.Y.Aoki
次世代医療開発学 Medical Innovation					高桑 修教授 Prof.O.Takakuwa
臨床医療デザイン学 Clinical Medical Design					神谷 武教授 Prof.T.Kamiya
					松本貴裕 教授 他 Prof T Matsumoto

定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針

(定期試験における不正行為の定義)

第1 定期試験において学生が次に掲げる行為を行ったときは、不正行為を行ったものとみなすこととする。

- (1) カンニング（カンニングペーパーを所持又は見ること、持込みが許可されていないテキスト等を見ること、他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど）をすること。
- (2) 試験時間中に、答えを教えるなど他の受験者を利するような行為をすること。
- (3) 試験時間中に、携帯電話等を使用して連絡を取ること。
- (4) 使用を禁じられた用具を使用して問題を解くこと。
- (5) 試験開始の指示の前に問題を見たり解答を始めること。
- (6) 試験終了の指示に従わず、解答を続けること。
- (7) 試験時間中に、携帯電話、時計等の音（着信、アラーム、振動音等）を長時間鳴らすなど、試験の進行に多大な影響を与えること。
- (8) 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- (9) 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- (10) その他、試験の公平性を損なう行為をすること。

(定期試験に代わるレポート課題における不正行為の定義)

第2 定期試験に代わるレポート課題において学生が次に掲げる行為を行ったときは、不正行為を行ったものとみなすこととする。

- (1) 既に公表されている著作物やウェブサイトに掲載された他人の文章や図表等の全部又は一部を、引用・出典を明示せずに、故意にあたかも自分自身の作成した文章や図表であるかのように利用すること。
- (2) 他人が作成したレポートの全部又は一部を、あたかも自分自身の作成したレポートであるかのように提出すること
- (3) その他、定期試験に代わるレポート課題の公平性を損なう行為をすること。

(処分及び措置)

第3 第1又は第2に規定する不正行為を行った学生に対しては、当該学生が所属する学部又は研究科（以下「学部等」という。）の教授会の議を経て、次の各号のいずれかの処分を行うものとする。

- (1) 学部等の長による厳重注意

(2) 名古屋市立大学学則第66条（名古屋市立大学大学院学則第49条において準用する場合を含む。）に基づく学長による懲戒処分（戒告、停学及び退学）

2 前項に規定する処分とあわせて、学部等の長は、学部等の教授会の議を経て、不正行為の態様に応じて次の各号のいずれかの措置を行うものとする。

(1) その学年における全ての科目の履修及び成績を無効とする。

(2) その学期における全ての科目の履修を無効とする。ただし、通年科目の取扱いは、学部等の教授会で決定する。

(3) 当該科目の履修を無効とする。なお、不正行為により教養教育の英語科目が無効となった場合は、当該処分が行われた年度には英語検定試験による単位認定は行わない。

（処分等の通知及び掲示）

第4 第3に基づき処分及び措置を行うときは、処分理由を記載した文書を当該学生に交付することにより通知するとともに、次の各号に掲げる場所に掲示することにより公示する。

(1) 学部等の掲示板

(2) 教養教育科目における不正行為の場合、前号に加えて教養教育の掲示板

(3) 学長による懲戒処分を行う場合、前2号に加えて他の学部及び研究科の掲示板

2 前項に規定する掲示においては、当該学生の所属、学年、処分の種類、処分の理由を明らかにするものとする。

付 記

1 この指針は、平成26年4月1日から施行し、平成26年度に実施する定期試験及び定期試験に代わるレポート課題から適用する。

2 定期試験に準ずる試験及び集中講義に係る試験についても、この指針を準用する。

3 定期試験に準ずる試験に代わるレポート課題及び集中講義に係る試験に代わるレポート課題についても、この指針を準用する。

4 この指針に記載のない事項については、名古屋市立大学懲戒規程に定めるところによる。

【レポート課題作成時の注意】

レポートは、自分で調べたことや考えたこと等を自分の文章で記述するものです。
他の文献等を調べ学ぶことは非常に重要ですが、それを引用する場合はルールがあります。引用する場合は、引用した部分とそれに関する自分の考えの部分をはっきりと区別して示す必要があります。他人の文章、図表をあたかも自分のオリジナルであるかのように利用することは、「剽窃」(盗作)であり、定期試験等に代わるレポート課題に関しては、「定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針」に基づき、試験におけるカンニングと同様に不正行為とみなされ処分等の対象となります。授業においても指導されるレポート作成に当たってのルールを守ってレポートを提出して下さい。

令和5年度

医学研究科修士課程教育要項（共通科目シラバス）

編集 名古屋市立大学大学院医学研究科
名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄1
発行 令和5年4月1日

(学籍番号：

氏名：

)

令和 5 年 度

医学研究科博士課程教育要項

(共通科目シラバス)

名古屋市立大学大学院

目 次

	頁
1 人材の養成に関する目的、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー	1
カリキュラムマップ	2
カリキュラムツリー	7
2 教育課程・修了要件・履修方法	8
3 学位論文審査	11
4 専門科目名・単位数	12
5 大学院博士課程共通科目	14
6 大学院博士課程共通科目授業日程表	15
7 履修登録・単位認定手続(学生)、単位認定方法(教員)	16
8 研究計画書・研究指導計画書	17
9 他研究科との単位互換	19
10 共通科目シラバス	
講 義	
① 生体機能・構造医学講義Ⅰ(動物的機能の異常とその治療に向けて)	22
② 生体情報・機能制御医学講義Ⅰ(生殖・遺伝・発達・内分泌)	23
③ 生体情報・機能制御医学講義Ⅱ(生体防御機構と疾患)	24
④ 生体情報・機能制御医学講義Ⅲ(緩和医療)	25
⑤ 生体防御・総合医学講義Ⅰ(基礎医学と臨床医学の融合)	26
⑥ 生体防御・総合医学講義Ⅱ(がん:発がんメカニズムから最新の診断・治療まで)	27
⑦ 生体防御・総合医学講義Ⅲ(認知症特論)	28
⑧ 予防・社会医学講義Ⅰ(特論と疫学統計実習)	29
⑨ 発展研究特別講義Ⅰ(英語講義)	30
⑩ 発展研究特別講義Ⅱ(英語講義)	31
⑪ 医学基礎研究特別講義(英語講義)	32
⑫ 環境健康安全管理学概論Ⅰ(英語講義)	33
⑬ 環境健康安全管理学概論Ⅱ(英語講義)	34
⑭ 薬物毒物代謝学特論(英語講義)	35
⑮ 毒性病理学特論(英語講義)	36
⑯ 脳神経科学特論	37
最先端研究の学術的セミナー(出席振替制度)	
基礎最新研究特別講義	38
臨床最新研究特別講義	39
11 環境健康安全学大学院コース履修について	40
12 コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースについて	58
13 定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分の指針	69

人材の養成に関する目的

博士課程では、独創的な研究を行う最先端の医学研究者、先端的な医療知識・技術を有した臨床医、さらにはそれらの知識・技術に基づき、医学教育を担い得る人材の養成を目的とする。

ディプロマ・ポリシー

医学研究科は、基礎医学研究者と臨床医学研究者とが自由に最先端の医学研究を共同できる体制を組織して、大学院学生の教育に当たり、独創的かつ広い視野を持つ医学研究者および高度の医療知識と技量を備えた医師を育成するという目的に鑑み、以下の能力を有すると認められた者に対し、医学博士の学位を授与します。

- ・医学・医療における未解決の諸問題に対して、独自の実験・解析法を立案できる。
- ・得られた結果の適切な評価と議論により、問題解決に迫る一連の能力を修得する。

本課程に4年以上在学し、共通科目6単位、専門科目:主科目15単位・副科目5単位および特別研究4単位の計30単位を取得後、学位論文を提出し審査および最終試験に合格することが、学位授与の必要要件です。ただし、研究成果が優れており、評価の高い国際欧文学術誌に発表された場合には、3年で学位授与される場合があります。

カリキュラムポリシー

課程編成

医学研究科博士課程では、ディプロマ・ポリシーに定める能力の修得を目指すとともに、その後に医学・医療分野において世界に伍する一流の研究者となる礎を身につけるため、講義学修により医学・医療全般のより深い知識と専門領域の最先端知識を修得し、さらに研究活動を通じて専門領域の高度先進技術を培うことで研究探究心を育みます。具体的には次のように編成しています。

実践

早期に共通科目および専門科目:主科目・副科目を受講し、特別研究を遂行する上で必要な基礎的知識・技術の修得を目指します。共通科目は英語でも開講します。

- ・特別研究では、指導教員の専門分野に所属して実践的研究活動を実施し、研究開始時に指導教員と協議して作成する研究指導計画に基づき、国際欧文学術誌作成に必要な倫理性・独自性・創造性等に関わる研究能力を培います。
- ・3年次では中間発表会を通じて、課程修了要件となる国際欧文学術誌に公表する論文を作成するための研究成果に対する評価能力、成果に対するプレゼンテーション能力、欧文論文作成能力を養います。
- ・MD-PhDコース選択者には、3年間での学位取得を目指した研究指導、学会発表及び論文執筆指導を行います。

学修成果の評価方法

- ・「独創的かつ広い視野」「高度の医療知識と技量」の評価は、共通科目の成績（講義毎のレポート、口頭試験などの客観的評価を含む総合的評価による）に基づいて行います。
- ・「独自の実験・解析法の立案」「得られた結果の適切な評価と議論による問題解決能力」については、専門科目および特別研究で養い、研究計画書の内容及び研究室での発表等に基づき、指導教員が評価します。
- ・総合的な学修成果の評価は、中間発表会と学位論文に基づいて評価します。中間発表会では、指導教員及び大学院教務委員会委員が学修成果の獲得状況について確認します。学位論文は、医学研究科教授会において選出された主査1名と副査2名の審査委員からなる審査委員会が開催する公開審査において審査します。

名古屋市立大学カリキュラムマップ

医学研究科博士課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

医学研究科は、基礎医学研究者と臨床医学研究者とが自由に最先端の医学研究を共同できる体制を組織して、大学院学生の教育に当たり、独創的かつ広い視野を持つ医学研究者および高度の医療知識と技量を備えた医師を育成するという目的に鑑み、以下の能力を有すると認められた者に対し、医学博士の学位を授与します。

- (a) 医学・医療における未解決の諸問題に対して、独自の実験・解析法を立案できる。
- (b) 得られた結果の適切な評価と議論により、問題解決に迫る一連の能力を修得する。

本課程に4年以上在学し、共通科目6単位、専門科目：主科目15単位・副科目5単位および特別研究4単位の計30単位を取得後、学位論文を提出し審査および最終試験に合格することが、学位授与の必要要件です。ただし、研究成果が優れており、評価の高い国際欧文学術誌に発表された場合には、3年で学位授与される場合があります。

分類	科目コード	科目名	独創的かつ広い視野	医療知識と技量	実験・解析法の立案	問題解決能力	ナンバリング	
共通科目	MDSE0002	生体機能・構造医学講義Ⅰ	○	○			1217001	
	MDSE0009	生体情報・機能制御医学講義Ⅰ	○	○			1217002	
	MDSE0010	生体情報・機能制御医学講義Ⅱ	○	○			1217003	
	MDSE0011	生体情報・機能制御医学講義Ⅲ	○	○			1217004	
	MDSE0016	生体防御・総合医学講義Ⅰ	○	○			1217005	
	MDSE0017	生体防御・総合医学講義Ⅱ	○	○			1217006	
	MDSE0018	生体防御・総合医学講義Ⅲ	○	○			1217007	
	MDY00001	予防・社会医学講義Ⅰ	○	○			1217008	
	MDHA0001	発展研究特別講義Ⅰ（英語講義）	○	○			1217009	
	MDHA0002	発展研究特別講義Ⅱ（英語講義）	○	○			1217010	
	MDKA0001	環境健康安全管理学概論Ⅰ	○	○			1217012	
	MDKA0002	環境健康安全管理学概論Ⅱ	○	○			1217013	
	MDYA0001	薬物・毒物代謝学特論	○	○			1217015	
	MDD00001	毒性病理学特論	○	○			1217014	
	MDN00001	脳神経科学特論	○	○			1217016	
			基礎最新研究特別講義	○	○			1217017
			臨床最新研究特別講義	○	○			1217018
		MDT00001	統合解剖学 講義A			○		1217019
MDT00002		統合解剖学 講義B			○		1217020	
MDT00003		統合解剖学 演習			○		1217021	
MDT00004		統合解剖学 実験・実習A			○		1217022	
MDT00005		統合解剖学 実験・実習B			○		1217023	
MDKI0007		機能組織学 講義A			○		1217024	
MDKI0008		機能組織学 講義B			○		1217025	
MDKI0009		機能組織学 演習			○		1217026	
MDKI0010		機能組織学 実験・実習A			○		1217027	
MDKI0011		機能組織学 実験・実習B			○		1217028	
MDBI0006		神経生化学 講義A			○		1217029	
MDBI0007		神経生化学 講義B			○		1217030	
MDBI0008		神経生化学 演習			○		1217031	
MDBI0009		神経生化学 実験・実習A			○		1217032	
MDBI0010		神経生化学 実験・実習B			○		1217033	
MDSA0036		細胞生化学 講義A			○		1217034	
MDSA0037		細胞生化学 講義B			○		1217035	
MDSA0938		細胞生化学 演習			○		1217036	
MDSA0039		細胞生化学 実験・実習A			○		1217037	
MDSA0040		細胞生化学 実験・実習B			○		1217038	
MDSA0041		細胞生理学 講義A			○		1217039	
MDSA0042		細胞生理学 講義B			○		1217040	
MDSA0043		細胞生理学 演習			○		1217041	
MDSA0044		細胞生理学 実験・実習A			○		1217042	
MDSA0045	細胞生理学 実験・実習B			○		1217043		
MDN00002	脳神経生理学 講義A			○		1217044		
MDN00003	脳神経生理学 講義B			○		1217045		
MDN00004	脳神経生理学 演習			○		1217046		
MDN00005	脳神経生理学 実験・実習A			○		1217047		
MDN00006	脳神経生理学 実験・実習B			○		1217048		

生
体
機
能
・
構
造
医
学
專
攻

MDSI0023	消化器外科学 講義A			○		1217049
MDSI0024	消化器外科学 講義B			○		1217050
MDSI0025	消化器外科学 演習			○		1217051
MDSI0026	消化器外科学 実験・実習A			○		1217052
MDSI0027	消化器外科学 実験・実習B			○		1217053
MDSI0003	腫瘍・免疫外科学 講義A			○		1217054
MDSI0004	腫瘍・免疫外科学 講義B			○		1217055
MDSI0005	腫瘍・免疫外科学 演習			○		1217056
MDSI0006	腫瘍・免疫外科学 実験・実習A			○		1217057
MDSI0907	腫瘍・免疫外科学 実験・実習			○		1217058
MDZI0006	腎・泌尿器科学 講義A			○		1217059
MDZI0007	腎・泌尿器科学 講義B			○		1217060
MDZI0008	腎・泌尿器科学 演習			○		1217061
MDZI0009	腎・泌尿器科学 実験・実習A			○		1217062
MDZI0010	腎・泌尿器科学 実験・実習B			○		1217063
MDSI0013	心臓血管外科学 講義A			○		1217064
MDSI0014	心臓血管外科学 講義B			○		1217065
MDSI0015	心臓血管外科学 演習			○		1217066
MDSI0016	心臓血管外科学 実験・実習A			○		1217067
MDSI0017	心臓血管外科学 実験・実習B			○		1217068
MDNY0001	乳腺外科学 講義A			○		1217069
MDNY0002	乳腺外科学 講義B			○		1217070
MDNY0003	乳腺外科学 演習			○		1217071
MDNY0004	乳腺外科学 実験・実習A			○		1217072
MDNY0005	乳腺外科学 実験・実習B			○		1217073
MDSI0069	小児・泌尿器科学 講義A			○		1217074
MDSI0070	小児・泌尿器科学 講義B			○		1217075
MDSI0071	小児・泌尿器科学 演習			○		1217076
MDSI0072	小児・泌尿器科学 実験・実習A			○		1217077
MDSI0073	小児・泌尿器科学 実験・実習B			○		1217078
MDSI0018	視覚科学 講義A			○		1217079
MDSI0019	視覚科学 講義B			○		1217080
MDSI0020	視覚科学 演習			○		1217081
MDSI0021	視覚科学 実験・実習A			○		1217082
MDSI0022	視覚科学 実験・実習B			○		1217083
MDZI0016	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 講義A			○		1217084
MDZI0017	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 講義B			○		1217085
MDZI0018	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 演習			○		1217086
MDZI0019	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 実験・実習A			○		1217087
MDZI0020	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 実験・実習B			○		1217088
MDKA0005	加齢・環境皮膚科学 講義A			○		1217089
MDKA0006	加齢・環境皮膚科学 講義B			○		1217090
MDKA0007	加齢・環境皮膚科学 演習			○		1217091
MDKA0008	加齢・環境皮膚科学 実験・実習A			○		1217092
MDKA0009	加齢・環境皮膚科学 実験・実習B			○		1217093
MDK00002	口腔外科学 講義A			○		1217094
MDK00003	口腔外科学 講義B			○		1217095
MDK00004	口腔外科学 演習			○		1217096
MDK00005	口腔外科学 実験・実習A			○		1217097
MDK00006	口腔外科学 実験・実習B			○		1217098
MDKE0017	形成外科学 講義A			○		1217099
MDKE0018	形成外科学 講義B			○		1217100
MDKE0019	形成外科学 演習			○		1217101
MDKE0020	形成外科学 実験・実習A			○		1217102
MDKE0021	形成外科学 実験・実習B			○		1217103
MDZI0001	実験病態病理学 講義A			○		1217104
MDZI0002	実験病態病理学 講義B			○		1217105
MDZI0003	実験病態病理学 演習			○		1217106
MDZI0004	実験病態病理学 実験・実習A			○		1217107
MDZI0005	実験病態病理学 実験・実習B			○		1217108
MDRI0001	臨床病態病理学 講義A			○		1217109
MDRI0002	臨床病態病理学 講義B			○		1217110
MDRI0003	臨床病態病理学 演習			○		1217111
MDRI0004	臨床病態病理学 実験・実習A			○		1217112
MDRI0005	臨床病態病理学 実験・実習B			○		1217113

生体情報・機能制御医学専攻

専門科目

MDBI0001	病態モデル医学 講義A			○		1217114
MDBI0002	病態モデル医学 講義B			○		1217115
MDBI0003	病態モデル医学 演習			○		1217116
MDBI0004	病態モデル医学 実験・実習A			○		1217117
MDBI0005	病態モデル医学 実験・実習B			○		1217118
MDYA0001	薬理学 講義A			○		1217119
MDYA0002	薬理学 講義B			○		1217120
MDYA0003	薬理学 演習			○		1217121
MDYA0004	薬理学 実験・実習A			○		1217122
MDYA0005	薬理学 実験・実習B			○		1217123
MDSA0016	細菌学 講義A			○		1217124
MDSA0017	細菌学 講義B			○		1217125
MDSA0018	細菌学 演習			○		1217126
MDSA0019	細菌学 実験・実習A			○		1217127
MDSA0020	細菌学 実験・実習B			○		1217128
MDME0003	免疫学 講義A			○		1217129
MDME0004	免疫学 講義B			○		1217130
MDME0005	免疫学 演習			○		1217131
MDME0006	免疫学 実験・実習A			○		1217132
MDME0007	免疫学 実験・実習B			○		1217133
MDUU0001	ウイルス学 講義A			○		1217134
MDUU0002	ウイルス学 講義B			○		1217135
MDUU0003	ウイルス学 演習			○		1217136
MDUU0004	ウイルス学 実験・実習A			○		1217137
MDUU0005	ウイルス学 実験・実習B			○		1217138
MDSE0049	整形外科学 講義A			○		1217139
MDSE0050	整形外科学 講義B			○		1217140
MDSE0051	整形外科学 演習			○		1217141
MDSE0052	整形外科学 実験・実習A			○		1217142
MDSE0053	整形外科学 実験・実習B			○		1217143
MDRI0041	リハビリテーション医学 講義A			○		1217144
MDRI0042	リハビリテーション医学 講義B			○		1217145
MDRI0043	リハビリテーション医学 演習			○		1217146
MDRI0044	リハビリテーション医学 実験・実習A			○		1217147
MDRI0045	リハビリテーション医学 実験・実習B			○		1217148
MDSE0034	精神・認知・行動医学 講義A			○		1217149
MDSE0035	精神・認知・行動医学 講義B			○		1217150
MDSE0036	精神・認知・行動医学 演習			○		1217151
MDSE0037	精神・認知・行動医学 実験・実習A			○		1217152
MDSE0038	精神・認知・行動医学 実験・実習B			○		1217153
MDSE0054	精神腫瘍学 講義A			○		1217154
MDSE0055	精神腫瘍学 講義B			○		1217155
MDSE0056	精神腫瘍学 演習			○		1217156
MDSE0057	精神腫瘍学 実験・実習A			○		1217157
MDSE0058	精神腫瘍学 実験・実習B			○		1217158
MDN00007	脳神経外科学 講義A			○		1217159
MDN00008	脳神経外科学 講義B			○		1217160
MDN00009	脳神経外科学 演習			○		1217161
MDN00010	脳神経外科学 実験・実習A			○		1217162
MDN00011	脳神経外科学 実験・実習B			○		1217163
MDSA0021	産科婦人科学 講義A			○		1217164
MDSA0022	産科婦人科学 講義B			○		1217165
MDSA0023	産科婦人科学 演習			○		1217166
MDSA0024	産科婦人科学 実験・実習A			○		1217167
MDSA0025	産科婦人科学 実験・実習B			○		1217168
MDSI0038	新生児・小児医学 講義A			○		1217169
MDSI0039	新生児・小児医学 講義B			○		1217170
MDSI0040	新生児・小児医学 演習			○		1217171
MDSI0041	新生児・小児医学 実験・実習A			○		1217172
MDSI0042	新生児・小児医学 実験・実習B			○		1217173
MDNI0001	認知症医学 講義A			○		1217174
MDNI0002	認知症医学 講義B			○		1217175
MDNI0003	認知症医学 演習			○		1217176
MDNI0004	認知症医学 実験・実習A			○		1217177
MDNI0005	認知症医学 実験・実習B			○		1217178

MDGU0001	グリア細胞生物学 講義A			○		1217179
MDGU0002	グリア細胞生物学 講義B			○		1217180
MDGU0003	グリア細胞生物学 演習			○		1217181
MDGU0004	グリア細胞生物学 実験・実習A			○		1217182
MDGU0005	グリア細胞生物学 実験・実習B			○		1217183
MDSI0074	神経発達症遺伝学 講義A			○		1217184
MDSI0075	神経発達症遺伝学 講義B			○		1217185
MDSI0076	神経発達症遺伝学 演習			○		1217186
MDSI0077	神経発達症遺伝学 実験・実習A			○		1217187
MDSI0078	神経発達症遺伝学 実験・実習B			○		1217188
MDSI0079	神経毒性学 講義A			○		1217189
MDSI0080	神経毒性学 講義B			○		1217190
MDSI0081	神経毒性学 演習			○		1217191
MDSI0082	神経毒性学 実験・実習A			○		1217192
MDSI0083	神経毒性学 実験・実習B			○		1217193
MDSI0084	神経発達・再生医学 講義A			○		1217194
MDSI0085	神経発達・再生医学 講義B			○		1217195
MDSI0086	神経発達・再生医学 演習			○		1217196
MDSI0087	神経発達・再生医学 実験・実習A			○		1217197
MDSI0088	神経発達・再生医学 実験・実習B			○		1217198
MDSI0063	消化器・代謝内科学 講義A			○		1217199
MDSI0064	消化器・代謝内科学 講義B			○		1217200
MDSI0065	消化器・代謝内科学 演習			○		1217201
MDSI0066	消化器・代謝内科学 実験・実習A			○		1217202
MDSI0067	消化器・代謝内科学 実験・実習B			○		1217203
MDK00014	呼吸器・免疫アレルギー内科学 講義A			○		1217204
MDK00015	呼吸器・免疫アレルギー内科学 講義B			○		1217205
MDK00016	呼吸器・免疫アレルギー内科学 演習			○		1217206
MDK00017	呼吸器・免疫アレルギー内科学 実験・実習			○		1217207
MDK00018	呼吸器・免疫アレルギー内科学 実験・実習			○		1217208
MDZI0026	循環器内科学 講義A			○		1217209
MDZI0027	循環器内科学 講義B			○		1217210
MDZI0028	循環器内科学 演習			○		1217211
MDZI0029	循環器内科学 実験・実習A			○		1217212
MDZI0030	循環器内科学 実験・実習B			○		1217213
MDZI0031	腎臓内科学 講義A			○		1217214
MDZI0032	腎臓内科学 講義B			○		1217215
MDZI0033	腎臓内科学 演習			○		1217216
MDZI0034	腎臓内科学 実験・実習A			○		1217217
MDZI0035	腎臓内科学 実験・実習B			○		1217218
MDSI0048	神経内科学 講義A			○		1217219
MDSI0049	神経内科学 講義B			○		1217220
MDSI0050	神経内科学 演習			○		1217221
MDSI0051	神経内科学 実験・実習A			○		1217222
MDSI0052	神経内科学 実験・実習B			○		1217223
MDKE0012	血液・腫瘍内科学 講義A			○		1217224
MDKE0013	血液・腫瘍内科学 講義B			○		1217225
MDKE0014	血液・腫瘍内科学 演習			○		1217226
MDKE0015	血液・腫瘍内科学 実験・実習A			○		1217227
MDKE0016	血液・腫瘍内科学 実験・実習B			○		1217228
MDTI0003	地域医療教育学 講義A			○		1217229
MDTI0004	地域医療教育学 講義B			○		1217230
MDTI0005	地域医療教育学 演習			○		1217231
MDTI0006	地域医療教育学 実験・実習A			○		1217232
MDTI0007	地域医療教育学 実験・実習B			○		1217233
MDMA0001	麻酔科学・集中治療医学 講義A			○		1217234
MDMA0002	麻酔科学・集中治療医学 講義B			○		1217235
MDMA0003	麻酔科学・集中治療医学 演習			○		1217236
MDMA0004	麻酔科学・集中治療医学 実験・実習A			○		1217237
MDMA0005	麻酔科学・集中治療医学 実験・実習B			○		1217238
MDH00001	放射線医学 講義A			○		1217239
MDH00002	放射線医学 講義B			○		1217240
MDH00003	放射線医学 演習			○		1217241
MDH00004	放射線医学 実験・実習A			○		1217242
MDH00005	放射線医学 実験・実習B			○		1217243

	MDRI0036	臨床薬剤学 講義A			○	1217244	
	MDRI0037	臨床薬剤学 講義B			○	1217245	
	MDRI0038	臨床薬剤学 演習			○	1217246	
	MDRI0039	臨床薬剤学 実験・実習A			○	1217247	
	MDRI0040	臨床薬剤学 実験・実習B			○	1217248	
	MDSE0066	先進急性期医療学 講義A			○	1217249	
	MDSE0067	先進急性期医療学 講義B			○	1217250	
	MDSE0068	先進急性期医療学 演習			○	1217251	
	MDSE0069	先進急性期医療学 実験・実習A			○	1217252	
	MDSE0070	先進急性期医療学 実験・実習B			○	1217253	
	MDKI0017	救命救急医療学 講義A			○	1217254	
	MDKI0018	救命救急医療学 講義B			○	1217255	
	MDKI0019	救命救急医療学 演習			○	1217256	
	MDKI0020	救命救急医療学 実験・実習A			○	1217257	
	MDKI0021	救命救急医療学 実験・実習B			○	1217258	
予防・社会医学専攻	MDKA0035	環境労働衛生学 講義A			○	1217269	
	MDKA0036	環境労働衛生学 講義B			○	1217270	
	MDKA0037	環境労働衛生学 演習			○	1217271	
	MDKA0038	環境労働衛生学 実験・実習A			○	1217272	
	MDKA0039	環境労働衛生学 実験・実習B			○	1217273	
	MDK00007	公衆衛生学 講義A			○	1217274	
	MDK00008	公衆衛生学 講義B			○	1217275	
	MDK00009	公衆衛生学 演習			○	1217276	
	MDK00010	公衆衛生学 実験・実習A			○	1217277	
	MDK00011	公衆衛生学 実験・実習A			○	1217278	
	MDH00011	法医学 講義A			○	1217279	
	MDH00012	法医学 講義B			○	1217280	
	MDH00013	法医学 演習			○	1217281	
	MDH00014	法医学 実験・実習A			○	1217282	
	MDH00015	法医学 実験・実習B			○	1217283	
	MDII0005	医学・医療情報管理学 講義A			○	1217284	
	MDII0006	医学・医療情報管理学 講義B			○	1217285	
	MDII0007	医学・医療情報管理学 演習			○	1217286	
	MDII0008	医学・医療情報管理学 実験・実習A			○	1217287	
	MDII0009	医学・医療情報管理学 実験・実習B			○	1217288	
	MDII0010	医学・医療教育学 講義A			○	1217289	
	MDII0011	医学・医療教育学 講義B			○	1217290	
	MDII0012	医学・医療教育学 演習			○	1217291	
	MDII0013	医学・医療教育学 実験・実習A			○	1217292	
	MDII0014	医学・医療教育学 実験・実習B			○	1217293	
	MDZI0021	次世代医療開発学 講義A			○	1217294	
	MDZI0022	次世代医療開発学 講義B			○	1217295	
	MDZI0023	次世代医療開発学 演習			○	1217296	
	MDZI0024	次世代医療開発学 実験・実習A			○	1217297	
	MDZI0025	次世代医療開発学 実験・実習B			○	1217298	
	MDII0021	医療安全管理学 講義A			○	1217299	
	MDII0022	医療安全管理学 講義B			○	1217300	
	MDII0023	医療安全管理学 演習			○	1217301	
	MDII0024	医療安全管理学 実験・実習A			○	1217302	
	MDII0025	医療安全管理学 実験・実習B			○	1217303	
	MDRI0046	臨床感染制御学 講義A			○	1217304	
	MDRI0047	臨床感染制御学 講義B			○	1217305	
	MDRI0048	臨床感染制御学 演習			○	1217306	
	MDRI0049	臨床感染制御学 実験・実習A			○	1217307	
	MDRI0050	臨床感染制御学 実験・実習B			○	1217308	
	学 院 環 境 健 康 学 科	MDSA0046	産官学環境健康安全学インターンシップ			○	1217309
	ス コ ー ス 大 康	MDGU0006	グローバルプレゼンテーション			○	1217310
		MDKA0040	環境健康安全学課題解決アクティブラーニング			○	1217311
	特 別 研 究	MDSE0033	生体機能・構造医学 特別研究			○	1217312
		MDSE0059	生体情報・機能制御医学 特別研究			○	1217313
MDSE0065		生体防衛・総合医学 特別研究			○	1217314	
MDY00004		予防・社会医学 特別研究			○	1217315	

教育課程・修了要件・履修方法

(1) 教育課程

教育課程は、下記の3種類の科目群により構成する。

A 共通科目

医学の研究や実践を遂行する上で、各専攻の枠を越え、共通して必要と考えられる基礎的知識・技術の習得、さらには、最先端医学・医療の知識を習得することを目的とした科目である。

B 専門科目

専門分野の知識・技術を習得し、医学研究科大学院学生としての専門性を獲得するとともに、博士論文の立案、作成時に基盤となる知識・技術を習得することを目的とした科目である。専門分野の授業は、各科目とも共通に、講義A、講義B、演習、実験・実習A、実験・実習Bを開講する。

C 特別研究

教員の指導のもと特定の研究テーマを設定し、専門科目、共通科目で習得した知識・技術を応用し、博士論文を作成することを目的とした科目である。

(2) 修了要件

専門科目、共通科目、特別研究にて合計30単位以上を修得し、かつ中間発表会を経たうえで、最終試験及び博士論文の審査に合格すること。中間発表は3年次に行うものとし、原則として口頭発表とする。なお中間発表会は学位申請の必須要件とする。

※令和5年度中間発表会：2023年8月23日(水) 講義室A・B (研究棟11階)

【対象】令和3年度(4月・10月)入学者

【発表形式】口頭発表(10～15分程度)

なお、国費外国人留学生の優先配置を行うプログラム(以下「特別プログラム」)の学生は、共通科目、専門科目、特別研究にて合計37単位以上を修得しなければならない。

A 共通科目

共通科目として開講される講義、演習の中から選択し、原則として1年から2年にかけて3科目6単位以上を修得する。

特別プログラムの学生は、同プログラム向け共通履修科目の中から必ず6科目6単位を選択しなければならない。修得した単位は共通科目6単位として読みかえる。

B 専門科目

1) 主科目

博士論文作成の基盤となる知識・技術を習得するため、専攻に設けた分野を1つ選択し、分野のうちから講義A、講義B、演習、実験・実習A、実験・実習Bが同一名称で構成される授業科目を、主として履修する科目(以下「主科目」という。)として選択し、

1年次に講義4単位、1～2年次に演習3単位及び実験・実習8単位、合計15単位を修得しなければならない。

2) 副科目

主科目において習得する知識・技術の理解を深めるとともに、応用の幅を広げ、博士論文作成の推進を補完するため、副として履修する科目（以下「副科目」という）として所属専攻内の他分野から講義は1年次に、演習、実験・実習は1～2年次に合計5単位以上を修得しなければならない。但し、講義、演習を修得せず、実験・実習のみを修得することはできない。また指導教員と相談のうえ、他専攻の専門科目を選択し、修得することもできる。

なお、特別プログラム向け「環境健康安全学大学院コース」は、独立した専攻分野とみなし、副科目とする。特別プログラムの学生は上述の副科目5単位以上に加え、「環境健康安全学大学院コース」7単位を必ず修得しなければならない。

C 特別研究

1年から4年にかけて4単位以上を修得する。

(注) 授業科目の単位数は、講義は15時間、演習は30時間、実験・実習は45時間、特別研究は30時間で1単位である。

(3) 履修方法

A 共通科目

共通科目は、4専攻の総合性を生かした内容になっているので、選択に当たっては、主科目担当教員の指導のもと、大学院学生としての幅広い知識、技術が習得できるように配慮すること。

特別プログラムの学生は、主科目担当教員の指導のもと、同プログラム向け共通履修科目の中から少なくとも6科目を必ず選択すること。

※基礎最新研究 / 臨床最新研究特別講義

この講義は、当初出席を予定していた講義に出席できなくなり単位を取得できなかった場合に共通科目講義への出席として振替えることができる。（特別講義1回の出席を共通科目講義1回の出席に振替える。）ただし、同講義は不定期開催であるため、なるべく履修した科目に出席するよう努めること。また振替は同じ年度内の講義で行い、振替えなかった特別講義の出席を翌年度に繰り越すことはできない。開講は、研究棟1階エレベーター前掲示板及びメールで随時告知する。

《事前学習について》

講義に関連する原著論文等を事前に確認しておくなど、事前学習に努めること。

B 専門科目

入学時において専攻内に設けられた専門分野を選択し、各々の専門分野の専門科目から主科目としての講義、演習、実験・実習が同一名称の科目を選択しなければならない。

副科目は、主科目との関連で科目を選択する事が望ましい。そのため副科目の選択に当たっては、主科目担当教員による指導を受けること。

特別プログラムの学生は上述の副科目に加え、「環境健康安全学大学院コース」を必ず

履修すること。

C 特別研究

特別研究のテーマは、主科目として選択した科目の研究指導教員による指導に基づいて設定すること。

論文指導は、主指導教員と副指導教員による複数指導体制で実施する。なお、主指導教員には上記研究指導員があたり、副指導教員には原則として副科目の担当教員があたる。従って研究の推進状況に応じ、両指導教員の助言を随時受けること。

(4) 「環境健康安全学大学院コース」について

「2019年度国費外国人留学生の優先配置を行うプログラム」の採択に伴い、令和2年度秋入学より ASEAN 諸国を中心とした地域から学生(国費・私費留学生及び日本人学生)を受け入れることを目的としたコースである。

本コースの履修者は英語による講義、演習、指導等を受け、原則として4年間で修了する。修了要件は、37単位以上(同プログラム向け共通履修科目及び共通科目6単位以上、主科目15単位、副科目12単位以上、特別研究4単位以上)を修得し、かつ3年次の中間発表会を経たうえで、最終試験及び博士論文の審査に合格することで、博士(医学)の学位とコース修了証が授与される。

学位論文審査

名古屋市立大学大学院医学研究科における、博士課程学位論文に関する事項は以下の通りとする。

《学位論文の要件・審査》

- ・博士課程学位論文は、原著論文であること。また、欧文専門学術誌の公表論文であり、共著の場合は学位申請者が当該論文の筆頭著者であること。
- ・博士課程学位論文の審査にあたっては、研究科教授会にて選出された3名の審査員（主査1名、副査2名）により、審査委員会を設置し、公聴会を開催する。
- ・博士課程学位論文の判定にあたっては、審査委員会の公聴会を経て、別に定める「博士課程学位論文審査基準」に基づき、審査委員各々が5点法（5点が満点）により評価し、審査委員の評点平均が3点以上の場合、審査委員会の判定を合格とする。審査委員会は、学位授与報告書をもって公聴会の結果を研究科教授会に報告し、研究科教授会が審査結果の合否を議決する。
- ・博士課程学位論文の提出の手続きについては、別に定める。

*博士課程学位論文審査基準

1. 課題設定の明確性
研究の背景と意義、またそれらに基づく研究の目的を明確に説明ができる。
2. 研究方法の妥当性
研究方法を理解してわかりやすく説明ができる。
3. 論旨の一貫性と論理性
研究目的、方法、結果、考察の過程においてその論旨が一貫しており、かつ論理的に説明ができる。
4. 社会的な貢献と発展性
研究成果の社会貢献と研究の今後の発展性について具体的に説明ができる。
5. 知識の習得
専攻分野の知識が身につけており、審査委員の質疑に回答できる。

注) 3年次の中間発表会での発表が学位申請の必須要件となるので、必ず出席・発表を行うこと。

注) 学位申請には、学位論文1編のほか、博士課程入学日以降に関わった1編～3編の参考論文（原著、総説、著書等）も必要となる。参考論文の内容は、学位論文に関係がなくてもよい。

専門科目名・単位数 Specialized Programs Credits

生体機能・構造医学専攻	講義A	講義B	演習	実験・実習A	実験・実習B	主任教員
Structure and Function in Biomedical Sciences	LectureA	LectureB	Seminar	ExperimentA	ExperimentB	Course Director
統合解剖学 Integrated Anatomy	2	2	3	4	4	植木 孝俊 教授 Prof.T.Ueki
機能組織学 Anatomy and Neuroscience	2	2	3	4	4	鶴川 眞也 教授 Prof.S.Ugawa
神経生化学 Biochemistry	2	2	3	4	4	未定 (to be confirmed)
細胞生化学 Cell Biology	2	2	3	4	4	加藤 洋一 教授 Prof. Y. Kato
細胞生理学 Cell Physiology	2	2	3	4	4	橋谷 光 教授 Prof.H.Hashitani
脳神経生理学 Neurophysiology and Brain Science	2	2	3	4	4	飛田 秀樹 教授 Prof.H.Hida
消化器外科学 Gastroenterological Surgery	2	2	3	4	4	瀧口 修司 教授 Prof.S.Takiguchi
腫瘍・免疫外科学 Oncology, Immunology and Surgery	2	2	3	4	4	奥田 勝裕 教授 Prof. K. Okuda
腎・泌尿器科学 Nephro-urology	2	2	3	4	4	安井 孝周 教授 Prof.T.Yasui
心臓血管外科学 Cardiovascular Surgery	2	2	3	4	4	須田 久雄 教授 Prof.H.Suda
乳腺外科学 Breast Surgery	2	2	3	4	4	遠山 竜也 教授 Prof.T.Toyama
小児・泌尿器科学 Pediatric urology	2	2	3	4	4	林 祐太郎 教授 Prof.Y.Hayashi
視覚科学 Ophthalmology and Visual Science	2	2	3	4	4	安川 力 教授 Prof.T.Yasukawa
耳鼻咽喉・頭頸部外科学 Otolaryngology, Head and Neck Surgery	2	2	3	4	4	岩崎 真一 教授 Prof.S. Iwasaki
加齢・環境皮膚科学 Geriatric and Environmental Dermatology	2	2	3	4	4	森田 明理 教授 Prof.A.Morita
口腔外科学 Oral and Maxillofacial Surgery	2	2	3	4	4	渋谷 恭之 教授 Prof.Y.Shibuya
形成外科学 Plastic Surgery	2	2	3	4	4	鳥山 和宏 教授 Prof.K.Toriyama
生体情報・機能制御医学専攻	講義A	講義B	演習	実験・実習A	実験・実習B	主任教員
Biosignaling and Regulation in Medical Sciences	LectureA	LectureB	Seminar	ExperimentA	ExperimentB	Course Director
実験病態病理学 Experimental Pathology and Tumor Biology	2	2	3	4	4	高橋 智 教授 Prof.S.Takahashi
臨床病態病理学 Pathology and Molecular Diagnostics	2	2	3	4	4	稲垣 宏 教授 Prof.H.Inagaki
病態モデル医学 Comparative and Experimental Medicine	2	2	3	4	4	大石 久史 教授 Prof. H. Oishi
薬理学 Pharmacology	2	2	3	4	4	大矢 進 教授 Prof. S. Ohya
細菌学 Bacteriology	2	2	3	4	4	長谷川 忠男 教授 Prof.T.Hasegawa
免疫学 Immunology	2	2	3	4	4	山崎 小百合 教授 Prof.S.Yamazaki
ウイルス学 Virology	2	2	3	4	4	奥野 友介 教授 Prof.Y.Okuno
整形外科 Orthopedic Surgery	2	2	3	4	4	村上 英樹 教授 Prof.H.Murakami
リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine	2	2	3	4	4	植木 美乃 教授 Prof.Y. Ueki
精神・認知・行動医学 Psychiatry and Cognitive-Behavioral Medicine	2	2	3	4	4	明智 龍男 教授 Prof.T.Akechi
精神腫瘍学(連携大学院) Psycho-Oncology	2	2	3	4	4	内富 庸介 教授 Prof. Y. Uchitomi
脳神経外科学 Neurosurgery	2	2	3	4	4	間瀬 光人 教授 Prof.M.Mase
産科婦人科学 Obstetrics and Gynecology	2	2	3	4	4	杉浦 真弓 教授 Prof.M.Sugiura
新生児・小児医学 Pediatrics and Neonatology	2	2	3	4	4	齋藤 伸治 教授 Prof.S.Saitoh

生体防御・総合医学専攻	講義A	講義B	演習	実験・実習A	実験・実習B	主任教員
Biodefense System and Comprehensive MedicalSciences	LectureA	LectureB	Seminar	ExperimentA	ExperimentB	Course Director
認知症科学 Neurocognitive Science	2	2	3	4	4	齊藤 貴志 教授 Prof.T. Saito
グリア細胞生物学 Glial Cell Biology	2	2	3	4	4	未定 (to be confirmed)
神経発達症遺伝学 Neurodevelopmental Disorder Genetics	2	2	3	4	4	山川 和弘 教授 Prof.K.Yamakawa
神経毒性学 Neurotoxicology	2	2	3	4	4	酒々井 眞澄 教授 Prof.M.Suzui
神経発達・再生医学 Developmental and Regenerative Biology	2	2	3	4	4	澤本 和延 教授 Pro.K.Sawamoto
消化器・代謝内科学 Gastroenterology and Metabolism	2	2	3	4	4	片岡 洋望 教授 Prof.H.Kataoka
呼吸器・免疫アレルギー内科学 Respiratory Medicine, Allergy and Clinical Immunology	2	2	3	4	4	新実 彰男 教授 Prof.A.Niimi
循環器内科学 Cardiology	2	2	3	4	4	瀬尾 由広 教授 Prof.Y.Seo
腎臓内科学 Nephrology	2	2	3	4	4	濱野 高行 教授 Prof.T.Hamano
神経内科学 Neurology	2	2	3	4	4	松川 則之 教授 Prof.N.Matsukawa
地域医療教育学 Community-based Medical Education	2	2	3	4	4	大原 弘隆 教授 Prof.H.Ohara
麻酔科学・集中治療医学 Anesthesiology and Intensive Care Medicine	2	2	3	4	4	祖父江 和哉 教授 Prof.K.Sobue
放射線医学 Radiology	2	2	3	4	4	樋渡 昭雄 教授 Prof.A.Hiwatashi
臨床薬剤学 Clinical Pharmaceutics	2	2	3	4	4	日比 陽子 教授 Prof. Y. Hibi
先進急性期医療学 Advancing Acute Medicine	2	2	3	4	4	笹野 寛 教授 Prof.H.Sasano 服部 友紀 教授 Prof.T.Hattori
救命救急医療学 Critical care medical science	2	2	3	4	4	松嶋 麻子 教授 Prof.A.Matsushima
血液・腫瘍内科学 Hematology and Oncology	2	2	3	4	4	飯田 真介 教授 Prof.S.Iida
予防・社会医学専攻	講義A	講義B	演習	実験・実習A	実験・実習B	主任教員
Community Medicine,Environmental Health Sciencesand Medical Education	LectureA	LectureB	Seminar	ExperimentA	ExperimentB	Course Director
環境労働衛生学 Occupational and Environmental Health	2	2	3	4	4	上島 通浩 教授 Prof.M.Kamijima
公衆衛生学 Public Health	2	2	3	4	4	鈴木 貞夫 教授 Prof.S.Suzuki
法医学 Forensic Medicine	2	2	3	4	4	青木 康博 教授 Prof.Y.Aoki
医学・医療教育学 Medical Education	2	2	3	4	4	高桑 修 教授 Prof.O.Takakuwa
次世代医療開発学 Medical Innovation	2	2	3	4	4	神谷 武 教授 Prof.T.Kamiya
医療安全管理学 Medical safety management	2	2	3	4	4	戸澤 啓一 教授 Prof.K.Tozawa
臨床感染制御学 Clinical infection control	2	2	3	4	4	中村 敦 教授 Prof.A.Nakamura

特別研究	Research Training Program	単位数・Credits
生体機能・構造医学特別研究	Structure and Function in Biomedical Sciences Researh Training Program	4
生体情報・機能制御医学特別研究	Biosignaling and Regulation in Medical Sciences Researh Training Program	4
生体防御・総合医学特別研究	Biodefense System and Comprehensive MedicalSciences Researh Training Program	4
予防・社会医学特別研究	Community Medicine,Environmental Health Sciences and Medical Education Researh Training Program	4

令和5年度大学院博士課程共通科目

April 2023 – March 2024 General Medical Science Courses Schedule: Elective courses for basic education

日程番号 Schedule Number	履修規程上の科目名称 Title of lecture	シラバス等に記載する副題 Subtitle	単位認定教員 Course Director	単位 Credit
①	生体機能・構造医学講義 I	(動物的機能の異常とその治療に向けて)	飛田 秀樹 教授	2
	Lecture1 of Structure and Function Biomedical Sciences: Frontier research in animal function of human being		Prof.H. Hida	
②	生体情報・機能制御医学講義 I	(生殖・遺伝・発達・内分泌)	杉浦 真弓 教授	2
	Lecture1 of Biosignaling and Regulation in Medical Sciences: Reproductive Genetics, Development, Endocrinology		Prof.M. Sugiura	
③	生体情報・機能制御医学講義 II	(生体防御機構と疾患)	森田 明理 教授	2
	Lecture2 of Biosignaling and Regulation in Medical Sciences: Biodefense system and Diseases		Prof.A. Morita	
④	生体情報・機能制御医学講義 III	(緩和医療)	明智 龍男 教授	2
	Lecture3 of Biosignaling and Regulation in Medical Sciences: Palliative Medicine		Prof.T. Akechi	
⑤	生体防御・総合医学講義 I	(基礎医学と臨床医学の融合)	祖父江 和哉 教授	2
	Lecture1 of Biodefense System and Comprehensive Medical Sciences: Fusion of rudimentary medicine and clinical medicine		Prof.K. Sobue	
⑥	生体防御・総合医学講義 II	(がん: 発がんメカニズムから最新の診断・治療まで)	飯田 真介 教授	2
	Lecture2 of Biodefense System and Comprehensive Medical Sciences: Cancer; From molecular pathogenesis to the most recent diagnostic procedures and treatment		Prof.S. Iida	
⑦	生体防御・総合医学講義 III	(認知症特論)	松川 則之 教授	2
	Lecture3 of Biodefense System and Comprehensive Medical Sciences: Intensive course of medical practice for dementia		Prof.N.Matsukawa	
⑧	予防・社会医学講義 I	(社会における医学・医療と疫学統計解析法)	上島 通浩 教授	2
	Lecture 1 of Community Medicine and Environmental Health Sciences: Health science and healthcare management on our society and methods of statistical analyses		Prof.M. Kamijima	
⑨	発展研究特別講義 I	(英語講義)	橋谷 光 教授	2
	Special lecture in advanced reserch I: Recent advances in medical researches		Prof.H. Hashitani	
⑩	発展研究特別講義 II	(英語講義)	加藤 洋一 教授	2
	Special lecture in advanced reserch II: Advanced reserch in medical science will be lectured from faculty members that belongs to the departments of basic science.		Prof.Y. Kato	
⑪	医学基礎研究特別講義 ※外国人学生のみ履修可	(英語講義)	稲垣 宏 教授	2
	Special lecture in medical basic research: Advanced reserch in medical science will be lectured from faculty members that belongs to the departments of basic science.		Prof.H. Inagaki	
⑫	環境健康安全管理学概論 I ※「特別プログラム」学生のみ履修可	(英語講義)	上島 通浩 教授	1
	Introduction of environmental health and safety management I		Prof.M. Kamijima	
⑬	環境健康安全管理学概論 II ※「特別プログラム」学生のみ履修可	(英語講義)	上島 通浩 教授	1
	Introduction of environmental health and safety management II		Prof.M. Kamijima	
⑭	薬物・毒物代謝学特論 ※「特別プログラム」学生のみ履修可	(英語講義)	酒々井 眞澄 教授	1
	Intensive courses of Metabolism of drugs and toxins		Prof.M. Suzui	
⑮	毒性病理学特論 ※「特別プログラム」学生のみ履修可	(英語講義)	高橋 智 教授	1
	Intensive courses of Toxicologic pathology		Prof.S. Takahashi	
⑯	脳神経科学特論		澤本 和延 教授	2
	Advanced Brain Science		Prof.K. Sawamoto	

授業時間 : (5限)午後4時20分～午後5時50分 (夜間) 午後6時30分～午後8時00分

School Hours: (5th period) 4.20pm-5.50pm (evening class) 6.30pm-8pm

令和5年度博士課程 共通科目 授業日程表

	月							火							水							木							金																									
		1	2	3	4	5	夜		1	2	3	4	5	夜		1	2	3	4	5	夜		1	2	3	4	5	夜		1	2	3	4	5	夜																			
4月	3						4	11						12	19							20	27							28	7							14	21							28								
	10						11	18						19	26							27	4							5	12							19	26							23								
	17				⑬	②	18	25						26	31							1	8							9	16							23	30							6								
	24				⑬	②	25	31						1	7							15	22							23	30							6																
5月	1				⑬	②	2	9						10	17							24	31							1	8							9	16							23	30							6
	8				⑬	②	9	16						17	24							31	7							8	16							23	30							6								
	15				⑬	②	16	23						24	31							7	15							16	24							23	31							6								
	22				⑬	②	23	30						31	7							14	22							23	30							6																
	29				⑬	②	30	6						7	14							21	28							29	6							13	21							6								
6月	5					②	6	13						14	21							28	5							6	14							21	28							6								
	12					②	13	20						21	28							5	13							14	21							21	28							6								
	19					②	20	27						28	5							12	20							13	21							21	28							6								
	26					②	27	4						5	12							19	26							27	4							13	20							6								
7月	3					②	4	11						12	19							26	3							4	13							14	21							6								
	10					②	11	18						19	26							3	10							11	19							14	21							6								
	17	祝日					18	25						26	31							7	16							17	24							21	28							6								
	24					②	25	1						2	9							16	23							24	31							21	28							6								
	31					②	1	8						9	16							23	30							31	8							15	22							6								
8月	7						8	15						16	23							30	7							8	16							15	22							6								
	14						15	22						23	30							6	14							15	22							15	22							6								
	21						22	29						30	6							13	20							21	28							15	22							6								
	28						29	5						6	13							20	27							28	5							14	21							6								
9月	4						5	12						13	20							27	4							5	14							15	22							6								
	11						12	19						20	27							4	11							12	20							15	22							6								
	18	祝日					19	26						27	4							11	18							19	26							15	22							6								
	25						26	3						4	11							18	25							24	31							15	22							6								
10月	2						3	10						11	18							25	1							2	10							15	22							6								
	9	祝日					10	17						18	25							1	12							13	20							15	22							6								
	16					⑨	17	24						25	1							8	19							20	27							15	22							6								
	23					⑨	24	31						1	8							15	22							23	30							15	22							6								
	30					⑨	31	7						8	15							2	9							10	17							15	22							6								
11月	6					⑨	7	14						15	22							9	16							17	24							15	22							6								
	13					⑨	14	21						22	29							6	13							14	21							15	22							6								
	20					⑨	21	28						29	6							13	20							17	24							15	22							6								
	27					⑨	28	5						6	13							20	27							10	17							15	22							6								
12月	4					⑨	5	12						13	20							9	16							17	24							15	22							6								
	11					⑨	12	19						20	27							6	13							14	21							15	22							6								
	18					⑨	19	26						27	4							13	20							14	21							15	22							6								
	25					⑨	26	3						4	11							10	17							13	20							15	22							6								
1月	1	祝日					2	9						10	17							8	15							12	19							15	22							6								
	8	祝日					9	16						17	24							7	14							11	18							15	22							6								
	15					⑨	16	23						24	31							14	21							12	19							15	22							6								
	22					⑨	23	30						31	7							13	20							11	18							15	22							6								
	29					⑨	30	6						7	14							10	17							12	19							15	22							6								
2月	5					⑨	6	13						14	21							9	16							13	20							15	22							6								
	12	祝日					13	20						21	28							8	15							12	19							15	22							6								
	19						20	27						28	5							13	20							11	18							15	22							6								
	26						27	4						5	12							10	17							12	19							15	22							6								
3月	4						5	12						13	20							9	16							13	20							15	22							6								
	11						12	19						20	27							8	15							12																								

履修登録・単位認定手続(学 生)

専門科目(主科目)

- ① 大学院入学志願時に志望した科目が、専門科目(主科目)となる。
- ② 履修後、履修簿に単位認定教員の認印を受領すること。

専門科目(副科目)一別紙「履修登録」を提出

- ① 専門科目名・単位数(P5～6)を参照し、主科目以外の専門科目から選択し、履修登録を提出すること。
- ② 履修後、履修簿に単位認定教員の認印を受領すること。

共通科目一別紙「履修登録」を提出

- ① シラバスを参照のうえ、原則として1年から2年にかけて6単位以上修得できるよう選択し、履修登録を提出すること。2年までに修得することが困難な場合は、4年までに修得できるよう計画すること。
なお、単位認定には、ひとつの講義につき7割以上の出席が必須となる。
- ② 開講期終了後、履修簿に共通科目毎に決められている単位認定教員(シラバス参照)の認印を受領すること。

共通科目 — 最新研究特別講義および医学会総会(時期未定:決定後連絡)

同一年度で開催の特別講義および医学会例会・総会に出席することによって、出席率が7割に満たない共通科目の出席として振替えることができる。(例会・総会に90分出席した場合は、共通科目1コマ分の出席とみなす。180分出席した場合は2コマ分の出席となる。最新研究特別講義は1回の出席が共通科目1コマ分と互換される。)
日程未定のため、随時掲示板等で案内される。

単位認定方法(教 員)

- ① 共通科目担当教員は、講義ごとにオンライン上で学生の出席を確認すること。
- ② 共通科目担当教員は、授業終了毎に学生の出席記録を共通科目毎に決められている単位認定教員(シラバス参照)に提出すること。
- ③ 単位認定教員は、出席記録及びレポート等の課題や試験など客観的評価を含む総合的評価により単位を認定し、成績評価と単位認定の結果を教育研究課大学院担当に報告すること。

令和 年度 研究計画書

研究科名・専攻名		学 籍 番 号	
所 属 分 野		指 導 教 員	
フリガナ			
氏 名			

■研究課題

題 目	
概 要	

■研究計画

学 生	計 画	
	当初計画（二年次）	
	当初計画（三年次）	
	当初計画（四年次）	

※本計画書は1年次の5月末（10月入学の場合は11月末）までに作成、指導教員にメールにて送付すること。

※指導教員は担当学生全員分をまとめて毎年6月末（10月入学の場合は12月末）までに大学院担当宛にメールにて送付すること。

令和 年度 研究指導計画書

研究科名・専攻名		学籍番号	
所属分野		指導教員	
フリガナ		学 年	年
氏 名			

■研究計画

学 生	進捗状況と本年度の計画と目標（1年生は除く）
教 員	進捗状況とその評価・達成度と本年度の指導計画

※本指導計画書は学生が毎年5月末（10月入学の場合は11月末）までに作成、指導教員にメールにて送付すること。

※指導教員は学生から提出された指導計画書の該当部分に記入、担当学生全員分をまとめて毎年6月末（10月入学の場合は12月末）までに大学院担当宛にメールにて送付すること。

令和5年度 医学研究科と薬学・経済学・看護学・理学各研究科との単位互換科目

医→薬

博士課程

④生体情報・機能制御医学講義Ⅲ - 緩和医療	後期火曜夜間
⑤生体防御・総合医学講義Ⅰ-基礎医学と臨床医学の融合	後期金曜夜間
⑥生体防御・総合医学講義Ⅱ-がん：発がんメカニズムから最新の診断・治療まで	前期金曜夜間
⑦生体防御・総合医学講義Ⅲ-認知症特論	前期火曜夜間
⑧予防・社会医学講義Ⅰ - 社会医学、疫学統計	後期水曜夜間
⑩脳神経科学特論	後期水曜夜間

修士課程

③共通科目3実験手法概論	8月集中講義
④共通科目4医学概論	前期金曜3・4限
⑤共通科目5社会医学系基礎	前期月曜3・4限
⑥共通科目6基礎医科学概論Ⅰ（英語講義）	後期水曜3限
⑦共通科目7基礎医科学概論Ⅱ（英語講義）	後期水曜4限
⑩共通科目10最新医学特論Ⅰ	前期金曜夜間
⑪共通科目11最新医学特論Ⅱ	後期金曜夜間
⑬脳神経科学講義	後期水曜夜間

薬→医

博士前期課程

医薬品産業特論	前期前半木曜4限
生命倫理特論	前期前半木曜5限
レギュラトリーサイエンス（医薬品安全性評価学）	前期後半木曜6限
創薬生命科学特別講義Ⅲ	後期前半木曜3限
専門科目特論科目 各分野が主催する科目	

博士課程

医薬品安全性評価学（レギュラトリーサイエンス）	前期後半木曜6限
コミュニティファーマシー	前期前半木曜6限
個人差・オーダーメイド医療薬学	前期後半木曜5限
病院臨床薬剤学	後期前半水曜6限

医→経済

医療経済マネジメントコース

修士課程

⑤共通科目5社会医学系基礎	前期月曜3・4限
⑥共通科目6基礎医科学概論Ⅰ（英語講義）	後期水曜3限
⑦共通科目7基礎医科学概論Ⅱ（英語講義）	後期水曜4限

⑩共通科目10最新医学特論 I	前期金曜夜間
⑪共通科目11最新医学特論 II	後期金曜夜間
⑫共通科目12臨床基礎特論 I	前期水曜夜間
⑬共通科目13臨床基礎特論 II	後期水曜夜間
⑭共通科目14総合認知症特論	前期火曜夜間
⑮共通科目15緩和/終末期ケア特論	後期火曜夜間

医→看

修士課程

④共通科目4臨床医学概論	前期金曜3・4限
⑩共通科目10最新医学特論 I	前期金曜夜間
⑪共通科目11最新医学特論 II	後期金曜夜間
⑯減災・医療概論	前期火曜夜間
⑰減災・医療特論I	後期火曜夜間

医→理

博士課程

⑯脳神経科学特論	後期水曜夜間
----------	--------

修士課程

⑲脳神経科学講義	後期水曜夜間
----------	--------

環境健康安全学大学院コース (ENPHAS)

国費外国人留学生優先配置プログラム (研究科横断型教育プログラム) 提供科目

薬学

博士前期

衛生科学特論	前期後半水曜2限
薬用資源学特論	後期前半木曜4限
レギュラトリーサイエンス	前期後半木曜6限
化学物質と環境	後期集中12月予定
グリーンケミストリー	前期集中6月予定

医学

博士課程

⑫環境健康安全管理学概論I	後期水曜夜間
⑬環境健康安全管理学概論II (Iの受講が前提)	前期月曜5限
⑭薬物・毒物代謝学特論	後期金曜5限
⑮毒性病理学特論	前期木曜5限

理学

データサイエンス特論	前期
自然科学と環境持続性 (SDG s) 概論	前期

他研究科との単位互換における内規

第1条 目的

この内規は、名古屋市立大学大学院医学研究科において、同大学大学院他研究科との単位互換の実施に関し、必要な事項を定めること目的としている。

第2条 履修科目等

- (1) 修士課程学生は本学大学院薬学研究科の博士前期課程を履修することができる。
- (2) 博士課程学生は薬学研究科の博士前期課程及び博士課程の授業科目及びシステム自然科学研究科の博士前期課程の授業科目を履修することができる。
- (3) 1項及び2項の定めにより履修できる授業科目は各研究科の専門科目とし、4単位まで履修することができる。

第3条 履修登録

- (1) 学生が、前条の規定により他研究科の授業科目を履修し単位を取得しようとするときは、主指導教員の承認を得なければならない。
- (2) 学生は、所定の期間内に定められた手続きに従って履修登録を行わなければならない。

第4条 単位認定

- (1) 単位認定は、授業科目修了後に他研究科から送付される「成績証明書」等の通知に基づき、共通科目の単位として単位認定する。
- (2) 前項の単位の認定については、教授会の議を経て行うものとする。

第5条 その他

- (1) 前各号に定める事項以外のことが発生した場合は、教授会の議を経て研究科長が決定する。

附則

1. この内規は令和2年4月1日より施行する。
2. 前項の施行日以前に入学した学生についても、これを適用する。

科目名	① 生体機能・構造医学講義Ⅰ－動物の機能の異常とその治療に向けて－ Lecture 1 of Structure and Function Biomedical Sciences: Frontier research in animal function of human being			
単位認定教員	氏名	飛田 秀樹 教授	所属	脳神経生理学
講義情報	単位数	2単位	開講時期	後期
授業の目的と方針	<p>ヒトは外部の状況変化に対応した最適な運動・行動の遂行により、社会的文化的生活を営んでいる。感覚系によるセンシング、記憶にもとづく脳での認知・判断、神経・筋による運動実行系が、健全に作用しているためである。この動物の機能が障害されたさまざまな疾患が知られている。本授業では、この動物の機能の異常疾患に関する研究内容について、幹細胞、再生医療、感覚器、リハビリテーション、小児疾患、医工学等をキーワードとする最先端研究の講義を行う。</p> <p>E: 英語対応(開始時に英語講義希望者がいる場合には英語での講義となります)〃</p>			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	
	10月19日(木)	神経疾患への幹細胞移植と課題	脳神経生理学 飛田 秀樹 教授	
	10月26日(木)	成体脳の幹細胞	再生医学 澤本 和延 教授	
	11月2日(木)	記憶・学習機能の理解と回復に向けた基礎研究	認知機能病態学 野村 洋 教授	
	11月9日(木)	アルツハイマー病の基礎研究(仮)	神経生化学 鄭 且均 准教授	
	11月16日(木)	触覚と味覚のクロストーク	機能組織学 鶴川 真也 教授	
	11月30日(木)	脳の神経再生とリハビリの基礎研究(E)	脳神経生理学 田尻 直輝 准教授	
	12月7日(木)	神経内科的ニューロリハビリの実際	リハビリテーション医学 植木 美乃 教授	
	12月14日(木)	脳虚血の病態と最新治療(E)	脳神経外科学 間瀬 光人 教授	
	12月21日(木)	脳出血後のリハビリによる障害運動機能の改善メカニズム	脳神経生理学 飛田 秀樹 教授	
	12月28日(木)	脳を保護するエリスロポエチン	薬学研究科 青山 峰芳 教授	
	1月4日(木)	脳保護療法の臨床応用…ダーウィンの海と死の谷を越えて	新生児・小児医学 岩田 欧介 准教授	
	1月11日(木)	小児運動機能障害に対するリハビリテーション的アプローチの実際	リハビリテーション医学 村上 里奈 助教	
	1月18日(木)	てんかん・神経発達症の分子遺伝学	神経発達症遺伝学 山川 和弘 教授	
1月25日(木)	器官発生の異常と小児外科、漏斗胸	腫瘍免疫外科学 近藤 知史 病院准教授		
2月1日(木)	脊椎腫瘍の最新治療	整形外科 村上 英樹 教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
開講方法	オンラインにて実施 (Zoom)			
単位認定教員連絡先	医学研究科研究棟7階 脳神経生理学 (電話番号 052-853-8134) 飛田秀樹教授			

科目名	② 生体情報・機能制御医学講義 I ー生殖・遺伝・発達・内分泌ー Lecture 1 of Biosignaling and Regulation in Medical Sciences: Reproductive Genetics, Development, Endocrinology			
単位認定教員	氏名	杉浦 真弓 教授	所属	産科婦人科学
講義情報	単位数	2単位	開講時期	前期
授業の目的と方針	ヒトの生殖・発達に関する遺伝学的、内分泌学的機能について学ぶ。 E: 英語対応(開始時に英語講義希望者がいる場合には英語での講義となります)			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	
	4月17日(月)	生殖医学	産科婦人科学 杉浦 真弓 教授	
	4月24日(月)	染色体複製と分配	細胞生化学 加藤 洋一 教授	
	5月1日(月)	胎児医療	臨床遺伝医療部 鈴木 伸宏 准教授	
	5月8日(月)	ヒト生殖におけるプロテアーゼおよびインヒビターの役割(E)	西部医療センター 産婦人科学 尾崎 康彦 教授	
	5月15日(月)	ゲノムインプリンティングと疾患(E)	新生児・小児医学 齋藤 伸治 教授	
	5月22日(月)	生殖補助医療	産科婦人科学 佐藤 剛 准教授	
	5月29日(月)	細胞活動の共鳴から生体リズム, 脳機能への発達(E)	新生児・小児医学 岩田 欧介 准教授	
	6月5日(月)	男性不妊症	西部医療センター泌尿器科学 梅本 幸裕 教授	
	6月12日(月)	先天性心疾患の外科治療 ー現状と展開ー	東部医療センター 心臓血管外科学 浅野 美樹 教授	
	6月19日(月)	男性性機能障害	臨床薬理学 木村 和哲 教授	
	6月26日(月)	小児腫瘍の基礎(E)	薬学研究科 青山 峰芳 教授	
	7月3日(月)	発達障害	こころの医療センター 山田 敦朗 講師	
	7月10日(月)	神経の発達	医学医療情報管理学 片野 広之 准教授	
7月24日(月)	小児泌尿器疾患	小児泌尿器科学 林 祐太郎 教授		
7月31日(月)	小児先天性外科疾患	腫瘍免疫外科学 近藤 知史 病院准教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
開講方法	オンラインにて実施 (Zoom)			
単位認定教員連絡先	医学研究科研究棟7階 産科婦人科学 (電話番号 052-853-8241) 杉浦真弓教授 : og.mym@med.nagoya-cu.ac.jp			

科目名	③生体情報・機能制御医学講義Ⅱ 一生体防御機構と疾患－ Lecture2 of Biosignaling and Regulation in Medical Sciences: Biodefense system and Diseases			
単位認定教員	氏名	森田 明理 教授	所属	加齢・環境皮膚科学
講義情報	単位数	2単位	開講時期	前期
授業の目的と方針	<p>様々な角度から生体防御機構とそれに関連する疾患について最前線の研究成果を学習することを目的とする。微生物感染に対する生体応答、免疫学の基礎、免疫系の先天的、後天的異常、過剰反応がもたらす疾患(先天的免疫不全症、膠原病、アレルギー疾患)、毒性学について具体的に学ぶ。 E: 英語対応(開始時に英語講義希望者がいる場合には英語での講義となります)</p>			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	
	4月19日(水)	細菌感染生体応答1	細菌学 長谷川 忠男 教授	
	4月26日(水)	細菌感染生体応答2	細菌学 立野一郎 講師	
	5月10日(水)	がんに対する免疫応答とその制御	免疫学 志馬 寛明 講師	
	5月17日(水)	免疫制御を利用した新しい免疫療法	免疫学 山崎 小百合 教授	
	5月24日(水)	がん免疫療法の実際	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 的場 拓磨 助教	
	5月31日(水)	免疫病理学	臨床病態病理学 稲垣 宏 教授	
	6月7日(水)	毒性発現の機序、細胞レベルでの機能異常とこれに起因する毒性(E)	神経毒性学 酒々井 眞澄 教授	
	6月14日(水)	耳鼻咽喉科領域における免疫疾患-アレルギー性鼻炎を中心に-	東部医療センター 鈴木 元彦 教授	
	6月21日(水)	B型肝炎ウイルスと免疫(E)	国立感染症研究所 五十川 正記 室長	
	6月28日(水)	HCV感染が宿主に与える影響	中央臨床検査部 井上 貴子 講師	
	7月5日(水)	B型肝炎ウイルスの病態形成機序	熊本大学 田中 靖人 教授	
	7月12日(水)	炎症性サイトカインを標的としたリウマチ性疾患治療の現状	呼吸器・免疫アレルギー内科学 難波 大夫 病院准教授	
	7月19日(水)	わが国の医療関連感染の管理	臨床感染制御学 中村 敦 教授	
7月26日(水)	関節リウマチの病態と治療法	グリア細胞生物学 川口 洋平		
8月2日(水)	抗原提示と樹状細胞 (E)	加齢・環境皮膚科学 森田 明理 教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
開講方法	オンラインにて実施 (Zoom)			
単位認定教員連絡先	医学研究科研究棟8階 加齢・環境皮膚科学 (電話番号 052-853-8361) 森田明理教授 : amorita@med.nagoya-cu.ac.jp			

科目名	④ 生体情報・機能制御医学講義Ⅲ ー緩和医療ー Lecture3 of Biosignaling and Regulation in Medical Sciences: Palliative Medicine			
単位認定教員	氏名	明智 龍男 教授	所属	精神・認知・行動医学
講義情報	単位数	2単位	開講時期	後期
授業の目的と方針	現代の医療においては、死はタブー視され、直視されない傾向が顕著である。一方、わが国では超高齢社会が到来し、がん、心不全、認知症などに罹患し、死の転帰を辿る患者が増加し続けている。緩和ケアとは、「生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処(治療・処置)を行うことによって、苦しみを予防し、和らげることで、クオリティ・オブ・ライフを改善するアプローチ」であり、がんを代表とする致死性疾患に対する診断時から終末期まで疾患の全ての軌跡を含めた全人的ケアのことを指す。本講義においては、進行性の疾患によって人生の最終段階を迎える患者のQuality of lifeを尊重することを中心的価値観とし、緩和ケアのみならず、死に関する人文社会学的知見などについて、包括的に解説する。			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	
	10月17日(火)	緩和ケア概論	西部医療センター 精神科 奥山 徹 教授(診療担当)	
	10月24日(火)	痛み	腎・泌尿器科 恵谷 俊紀 講師	
	10月31日(火)	化学療法に関する考え方 :効果、副作用、QOLのバランス	臨床腫瘍部 小松 弘和 教授	
	11月7日(火)	慢性疼痛への心理社会的アプローチ	麻酔科学・集中治療医学 酒井 美枝 特任助教	
	11月14日(火)	薬学の視点から考える緩和ケア	薬学研究科 神経薬理学 大澤 匡弘 准教授	
	11月21日(火)	国のがん対策と緩和ケア	精神・認知・行動医学 久保田 陽介 講師	
	11月28日(火)	がんに伴う身体症状概論	呼吸器・免疫アレルギー内科学 前野 健 准教授	
	12月5日(火)	精神腫瘍学	緩和ケアセンター 内田 恵 講師	
	12月12日(火)	心不全の緩和ケア	循環器内科 北田 修一 講師	
	12月19日(火)	高齢者医療/認知症と緩和ケア	地域医療教育学 赤津 裕康 教授(診療担当)	
	12月26日(火)	アドバンス・ケア・プランニング	緩和ケアセンター 長谷川 貴昭 助教	
	1月9日(火)	看護の視点から考える緩和ケア	看護学部 樺野 香苗 教授	
	1月16日(火)	思想学から見た痛みと死生の関係	人文社会学部 Andrea Castiglioni 講師	
1月23日(火)	終末期の過ごし方	名古屋徳洲会総合病院 坂本 雅樹 非常勤講師		
1月30日(火)	コミュニケーションと意思決定	精神・認知・行動医学 明智 龍男 教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
開講方法	オンラインにて実施 (Zoom)			
単位認定教員連絡先	医学研究科研究棟10階 精神・認知・行動医学 (電話番号 052-853-8271) 明智龍男教授 : takechi@med.nagoya-cu.ac.jp			

科目名	⑤ 生体防御・総合医学講義 I —基礎医学と臨床医学の融合— Lecture 1 of Biodefense System and Comprehensive Medical Sciences :Fusion of rudimentary medicine and clinical medicine			
単位認定教員	氏名	祖父江 和哉 教授	所属	麻酔科学・集中治療医学
講義情報	単位数	2単位	開講時期	後期
授業の目的と方針	<p>基礎医学ならびに臨床医学の最新的话题を提供する。基礎研究の立場からは、最新かつ重要な課題について講義する。また、臨床医学の立場からは、臨床における最新かつ重要な課題について、基礎的研究の結果を交えて講義する。本科目により、基礎医学から臨床医学、臨床医学から基礎医学へとシームレスな知識と思考能力の育成を目的とする。</p> <p>(E): 英語対応(開始時に英語講義希望者がいる場合には英語での講義となります)</p>			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	
	10月20日(金)	内視鏡×人間工学(E)	消化器・代謝内科学 堀 寧 助教	
	10月27日(金)	内臓痛の発生メカニズム	名古屋市立大学医学部附属 西部医療センター 草間 宣好 准教授	
	11月10日(金)	周術期における高次脳機能障害の発生機序	麻酔科学・集中治療医学 祖父江 和哉 教授	
	11月17日(金)	硬化性胆管炎の診断と治療	名古屋市立大学医学部附属 西部医療センター 大原 弘隆 教授	
	11月24日(金)	画像診断法と人工知能の融合(E)	統合解剖学 植木 孝俊 教授	
	12月1日(金)	呼吸生理学、高地における順応(E)	看護学研究科 先端医療看護学(麻酔学) 薊 隆文 教授	
	12月8日(金)	呼吸器の構造、機能と病態生理(E)	呼吸器・免疫アレルギー内科学 新実 彰男 教授	
	12月15日(金)	消化器がんに対するバイオマーカー研究(E)	消化器・代謝内科学 志村 貴也 講師	
	12月22日(金)	尿路結石の形成機序	腎・泌尿器科学 安井 孝周 教授	
	1月5日(金)	くも膜下出血後脳血管攣縮の発生機序の解明と治療法の開発	脳神経外科学 間瀬 光人 教授	
	1月12日(金)	腸管粘膜免疫系とその制御	免疫学 志馬 寛明 講師	
	1月19日(金)	臓器機能維持・修復における微小循環の重要性～脳から学ぶ～	九州大学医学研究院 病態機能内科学 吾郷 哲朗 准教授	
	1月26日(金)	不整脈発症リスクに対する細胞内シグナルの影響	静岡県立大学 生体情報分子解析学分野 黒川 洵子 教授	
	2月2日(金)	遺伝性先天性疾患:患者から見つかる新しい遺伝病	新生児・小児医学 齋藤 伸治 教授	
2月9日(金)	平滑筋自動性の発生機構	細胞生理学 橋谷 光 教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
開講方法	オンラインにて実施 (Zoom)			
単位認定教員連絡先	医学研究科研究棟10階 麻酔科学・集中治療医学 (電話番号 052-853-8281) 祖父江和哉教授 : secretary@ncu-masui.jp (麻酔科秘書)			

科目名	⑥ 生体防御・総合医学講義Ⅱ ―がん:発がんメカニズムから最新の診断・治療まで― Lecture 2 of Biodefense System and Comprehensive Medical Sciences: Cancer; From molecular pathogenesis to the most recent diagnostic procedures and treatment			
単位認定教員	氏名	飯田 真介 教授	所属	血液・腫瘍内科学
講義情報	単位数	2単位	開講時期	前期
授業の目的と方針	<p>人類にとって最大の課題となった病の一つは、がんである。本講義の目的は、がんの基礎から臨床まで最新の知識を深めることである。基礎からは、がんの発生、疫学、病理を、臨床的には、総論的に診断、治療を包括的に概論し、さらに各種臓器別がんの特徴を講義する。</p> <p>E: 英語対応(開始時に英語講義希望者がいる場合には英語での講義となります)□</p>			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	
	4月21日(金)	がんの記述疫学(E)	公衆衛生学 中川 弘子 助教	
	4月28日(金)	ガン化と老化を制御する分子機構	東京大学医科学研究所 中西 真 教授	
	5月12日(金)	エピゲノムから見たがん	名古屋大学大学院医学系研究科 近藤 豊 教授	
	5月19日(金)	希少がんの臨床	臨床腫瘍部 小松 弘和 教授	
	5月26日(金)	消化器癌～基礎から臨床へ	消化器外科学 松尾 洋一 教授	
	6月2日(金)	胸部悪性腫瘍の外科治療	腫瘍・免疫外科学 奥田 勝裕 教授	
	6月9日(金)	消化器がんの診断と治療	消化器・代謝内科学 片岡 洋望 教授	
	6月16日(金)	癌の病理診断(E)	実験病態病理学 高橋 智 教授	
	6月23日(金)	癌ゲノムとプレジジョンメディスン(E)	シンガポール国立大学医学部 三田 貴臣 准教授	
	6月30日(金)	肺がん化学療法と抗がん剤耐性	呼吸器・免疫アレルギー内科 前野 健准教授	
	7月7日(金)	尿路性器癌の診断・治療―最近の話題―	医療安全管理学 戸澤 啓一 教授	
	7月14日(金)	腫瘍病理学	臨床病態病理学 稲垣 宏 教授	
	7月21日(金)	これだけは知っておきたい乳がんの基礎知識	乳腺外科学 遠山 竜也 教授	
	7月28日(金)	放射線科における癌の臨床	放射線医学 樋渡 昭雄 教授	
8月4日(金)	がんに対する抗体療法と免疫療法(E)	血液・腫瘍内科学 飯田 真介 教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
開講方法	オンラインにて実施 (Zoom)			
単位認定教員連絡先	医学研究科研究棟2階 血液・腫瘍内科学 (電話番号 052-853-8738) 飯田真介教授			

科目名	⑦生体防御・総合医学講義Ⅲ — 認知症特論— Lecture 3 of Biodefense System and Comprehensive Medical Sciences: Intensive course of medical practice for dementia			
単位認定教員	氏名	松川 則之 教授	所属	神経内科学
講義情報	単位数	2単位	開講時期	前期
授業の目的と方針	<p>認知症診療を包括的に行うために、認知症総合的にマネージメントできる診療医・薬剤師・看護師・理学療法士・作業療法士・医療工学士の育成を目的とする。本コースでは、認知症の基礎・臨床の知識から治療・ケア介入の実践行うべく手法を学ぶ。更には、認知症を中心とした精神・神経疾患のコフォート研究を行うために、コフォートデザイン作成に向けた基礎的知識の習得と実践的な経験を旨とする。</p> <p>SOB 1: アルツハイマー病の病態が説明できる SOB 2: 他の認知症の病態が説明できる SOB 3: 神経心理検査が実施できる SOB 4: 抗認知症薬について説明できる SOB 5: 精神症状とその対症薬を説明できる SOB 6: 認知症のケア方法を立案できる SOB 7: 在宅介護の施設整備の立案ができる SOB 8: 認知症社会資源が説明できる SOB 9: 電気生理・画像を用いた神経機能評価法を説明できる SOB 10: コフォート研究をデザインできる SOB 11: コフォート研究に参加する</p>			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	
	4月18日(火)	認知症総論	神経内科学 松川 則之 教授	
	4月25日(火)	アルツハイマー病の基礎	神経内科学 松川 則之 教授	
	5月2日(火)	アルツハイマー病の基礎／その他の認知症の基礎	神経内科学 松川 則之 教授	
	5月9日(火)	認知症行政とネットワーク	名古屋認知症相談支援センター 鈴木善史	
	5月16日(火)	神経心理検査法	日本福祉大学 宮田 美和子 准教授	
	5月23日(火)	認知症の画像診断	国立長寿医療研究センター 櫻井 圭太 医長	
	5月30日(火)	認知症の臨床	神経内科学 松川 則之 教授	
	6月6日(火)	認知症の周辺症状とその対応	地域療養医学 赤津 裕康 教授	
	6月13日(火)	認知症のケア	看護高齢者看護学 原沢 優子 准教授	
	6月20日(火)	認知症の病診連携の実践	西部医療センター部長 片田 栄一 非常勤講師	
	6月27日(火)	認知症の鑑別診断と病態生理(電気生理)	リハビリテーション医学 植木 美乃 教授	
	7月4日(火)	脳機能評価法(画像診断法を用いて)	神経内科学 松川 則之 教授	
	7月11日(火)	コフォート研究デザイン	公衆衛生学 鈴木 貞夫 教授	
	7月18日(火)	認知症の診断バイオマーカー探索	神経内科学 松川 則之 教授	
7月25日(火)	コフォート研究の実践	地域療養医学 赤津 裕康 教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
開講方法	オンラインにて実施 (Zoom)			
単位認定教員連絡先	医学研究科研究棟3階 神経内科学 (電話番号 052-853-8094) 松川則之教授 : norim@med.nagoya-cu.ac.jp (秘書 : shinkei@med.nagoya-cu.ac.jp)			

科目名	⑧ 予防・社会医学講義 I Lecture 1 of Preventive, Community and Forensic Medicine			
単位認定教員	氏名	上島 通浩 教授	所属	環境労働衛生学
講義情報	単位数	2単位	開講時期	後期
授業の目的と方針	健康に影響を与える個人素因, 生活習慣, 職業環境要因や, 健康問題に関する分析法および最新の知見, 安心・安全な社会実現のための仕組みと取り組み、医療における情報の特性・管理・処理方法などについて、発展的な内容を講義する。また、疫学・統計解析法に習熟するために、統計ソフト('R')を用いた実習を行う。なお、10/18-11/29の授業は英語で行う。			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	
	10月18日(水)	疾病原因としての職業環境要因の解明	環境労働衛生学 上島 通浩 教授	
	10月25日(水)	疫学から見た安全性の議論	公衆衛生学 鈴木 貞夫 教授	
	11月1日(水)	わが国における医薬品・医療機器開発と薬事行政	次世代医療開発学 神谷 武 教授	
	11月8日(水)	大気汚染の歴史と現状	環境労働衛生学 伊藤 由起 准教授	
	11月15日(水)	食料生産に関連した食品中および体液中の汚染物質(農薬、抗生物質、ホルモン)	環境労働衛生学 ハレツキスロマナス 特任助教	
	11月22日(水)	死因究明制度	法医学 青木 康博 教授	
	11月29日(水)	自閉スペクトラム症と支援	環境労働衛生学 加藤沙耶香 助教	
	12月6日(水)	公衆衛生危機管理	学長 浅井 清文	
	12月13日(水)	我が国における児童虐待の現状	法医学 加藤 秀章 准教授	
	12月20日(水)	疫学統計1(統計ソフトR)	公衆衛生学 鈴木 貞夫 教授、 西山 毅 准教授、 大谷隆浩 講師、 中川弘子 助教	
	12月27日(水)	疫学統計2(統計ソフトR)		
	1月10日(水)	疫学統計3(統計ソフトR)		
	1月17日(水)	疫学統計4(統計ソフトR)		
	1月24日(水)	情報科学と医療	医学・医療情報管理学 片野 広之 准教授	
1月31日(水)	生体信号ビッグデータの利活用	医学・医療教育学 植田 典浩 講師		
時間	午後6時30分～午後8時			
開講方法	オンラインにて実施 (Zoom)			
単位認定教員連絡先	医学研究科研究棟10階 環境労働衛生学 (電話番号 052-853-8171) 上島通浩教授 : kamijima@med.nagoya-cu.ac.jp			

科目名	⑨ 発展研究特別講義 I (英語講義) Special lecture in advanced research I			
単位認定教員	氏名	橋谷 光 教授	所属	細胞生理学
講義情報	単位数	2単位	開講時期	後期
授業の目的と方針	Recent advances in medical researches (先端医学研究)			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	
	10月16日(月)	Molecular mechanisms of aging and carcinogenesis	東京大学医科学研究所 中西 真 教授	
	10月23日(月)	Molecular imaging for probing the brain function and its disorders	統合解剖学 植木 孝俊 教授	
	10月30日(月)	Adult neurogenesis	神経発達・再生医学 澤本 和延 教授	
	11月6日(月)	Mechanism in the formation of emotion during the period of development	脳神経生理学 飛田 秀樹 教授	
	11月13日(月)	Cilia - Those cannot be ignore	細胞生化学 加藤 洋一 教授	
	11月20日(月)	Epigenetic dystregulation in human diseases	名古屋大学腫瘍生物学 近藤 豊 教授	
	11月27日(月)	Genome-wide research for viral hepatitis	熊本大学消化器内科学 田中 靖人 教授	
	12月4日(月)	The pathogenesis of Alzheimer's disease and the development of its therapy	病態生化学 道川 誠 教授	
	12月11日(月)	Virulence of Streptococcus pyogenes	細菌学 長谷川 忠男 教授	
	12月18日(月)	DNA polymorphism and profiling	法医学 青木 康博 教授	
	12月25日(月)	Seeking the molecular identities of mechano-electrical transduction channels in auditory hair cells	機能組織学 鶴川 真也 教授	
	1月15日(月)	Drug discovery and design based on chemical biology	神経毒性学 酒々井 真澄 教授	
	1月22日(月)	Regulating immune regulators by dendritic cells	免疫学 山崎 小百合 教授	
	1月29日(月)	The effects of psychological stress on bladder function	Bond University Prof. R.Chess-Williams	
	2月5日(月)	Coupled Calcium Oscillators -A basis for smooth muscle rhythms-	細胞生理学 橋谷 光 教授	
時間	午後6時30分～午後8時			
開講方法	オンラインにて実施 (Zoom)			
単位認定教員連絡先	医学研究科研究棟7階 細胞生理学 (電話番号 052-853-8131) 橋谷光教授			

科目名	⑩ 発展研究特別講義Ⅱ（英語講義） Special lecture in advanced research II			
単位認定教員	氏名	加藤 洋一 教授	所属	細胞生化学
講義情報	単位数	2単位	開講時期	前期
授業の目的と方針	Advanced research in medical science will be lectured from faculty members that belongs to the departments of basic science.			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	
	4月20日(木)	Recent advances in microvascular physiology	細胞生理学 三井 烈 講師	
	4月27日(木)	Roles of TRP channels in mammals	機能組織学 植田 高史 准教授	
	5月11日(木)	Roles of gap junctional intercellular communication in hepatocarcinogenesis	実験病態病理学 内木 綾 准教授	
	5月18日(木)	Detection of chromosomal abnormalities by FISH analysis in malignant tumor	臨床病態病理学 村瀬 貴幸 准教授	
	5月25日(木)	Identification of tumor initiating cells	神経毒性学 深町 勝巳 講師	
	6月1日(木)	Mitochondrial DNA analysis for forensic genetics and medical genetics	法医学 加藤 秀章 准教授	
	6月8日(木)	Significance of zinc in neurobiology	統合解剖学 井上 浩一 准教授	
	6月15日(木)	Recent advances in immunology	免疫学 志馬 寛明 講師	
	6月22日(木)	Molecular mechanisms of group A streptococcal invasive infections	細菌学 立野 一郎 講師	
	6月29日(木)	Mechanisms of morphogenetic cell movements in tissue elongation	細胞生化学 二宮裕将 講師口	
	7月6日(木)	An update on stem cell and rehabilitation therapies for neurological disorders	脳神経生理学 田尻 直輝 准教授	
	7月13日(木)	Ion signaling in bone related cells	薬理学 鬼頭 宏彰 講師	
	7月20日(木)	Neuronal migration and maturation in the adult brain	神経発達・再生医学 澤田 雅人 講師	
	7月27日(木)	Neural Stem cells - past and future-	細胞生化学 嶋田逸誠 講師	
8月3日(木)	The pathogenesis of Alzheimer's disease	神経生化学 鄭 且均 准教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
開講方法	オンラインにて実施（Zoom）			
単位認定教員連絡先	医学研究科研究棟6階 細胞生化学（電話番号 052-853-8144） 加藤洋一教授：kato.41@med.nagoya-cu.ac.jp			

科目名	⑪ 医学基礎研究特別講義(英語講義) Special lecture in medical basic research			
単位認定教員	氏名	稲垣 宏 教授	所属	臨床病態病理学
講義情報	単位数	2単位	開講時期	通年
授業の目的と方針	Advanced research in clinical medicine will be lectured from faculty members. (This course will be lectured in English)			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	
	4月21日(金)	がんの記述疫学(E)	公衆衛生学 中川 弘子 助教	
	5月8日(月)	ヒト生殖におけるプロテアーゼおよびインヒビターの役割(E)	西部医療センター産婦人科学 尾崎 康彦 教授	
	5月15日(月)	ゲノムインプリンティングと疾患(E)	新生児・小児医学 齋藤 伸治 教授	
	5月29日(月)	細胞活動の共鳴から生体リズム, 脳機能への発達(E)	新生児・小児医学 岩田 欧介 准教授	
	6月7日(水)	毒性発現の機序、細胞レベルでの機能異常とこれに起因する毒性(E)	神経毒性学 酒々井 眞澄 教授	
	6月16日(金)	癌の病理診断(E)	実験病態病理学 高橋 智 教授	
	6月21日(水)	B型肝炎ウイルスと免疫(E)	国立感染症研究所 五十川 正記 室長	
	6月23日(金)	癌ゲノムとプレジジョンメディスン(E)	シンガポール国立大学医学部 三田 貴臣 准教授	
	6月26日(月)	小児腫瘍の基礎(E)	薬学研究科 青山 峰芳 教授	
	8月2日(水)	抗原提示と樹状細胞(E)	加齢・環境皮膚科学 森田 明理 教授	
	8月4日(金)	がんに対する抗体療法と免疫療法(E)	血液・腫瘍内科学 飯田 真介 教授	
	11月24日(金)	画像診断法と人工知能の融合(E)	統合解剖学 植木 孝俊 教授	
	11月30日(木)	脳の神経再生とリハビリの基礎研究(E)	脳神経生理 田尻 直輝 准教授	
	12月1日(金)	呼吸生理学、高地における順応(E)	看護学研究科 先端医療看護学(麻酔学) 薊 隆文 教授	
	12月8日(金)	呼吸器の構造、機能と病態生理(E)	呼吸器・免疫アレルギー内科学 新実 彰男 教授	
12月14日(木)	脳虚血の病態と最新治療(E)	脳神経外科学 間瀬 光人 教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
開講方法	オンラインにて実施 (Zoom)			
単位認定教員連絡先	医学研究科研究棟5階 臨床病態病理学 (電話番号 052-853-8161) 稲垣宏教授			

科目名	⑫ 環境健康安全管理学概論 I (英語講義) ※ 本講義は「国費留学生優先配置プログラム / ENPHAS」履修学生のみを対象としています。			
単位認定教員	氏名	上島 通浩 教授	所属	環境労働衛生学
講義情報	単位数	1単位	開講時期	後期
授業の目的と方針	This class aims to introduce topics related to environmental health and safety management. Social systems to prevent adverse health outcomes and to strengthen public health/safety are discussed in the context of regulatory science.			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	
	10月18日(水)	Occupational and environmental factors as disease causes	環境労働衛生学 上島 通浩 教授	
	10月25日(水)	What is 'safety' from Epidemiology?	公衆衛生学 鈴木 貞夫 教授	
	11月1日(水)	Drug and medical device development and pharmaceutical administration in Japan	次世代医療開発学 神谷 武 教授	
	11月8日(水)	Air pollution in Japan -Lessons from Yokkaichi asthma to the present	環境労働衛生学 伊藤 由起 准教授	
	11月15日(水)	Food production-related contaminants (pesticides, antibiotics and hormones) in human diet and biofluids	環境労働衛生学 ハレツキスロマナス特任助教	
	11月22日(水)	Medicolegal death investigation system in Japan	法医学 青木 康博 教授	
	11月29日(水)	Autism spectrum disorder and support	環境労働衛生学 加藤沙耶香 助教	
時間	午後6時30分～午後8時			
開講方法	オンラインにて実施 (Zoom)			
単位認定教員連絡先	医学研究科研究棟10階 環境労働衛生学 (電話番号 052-853-8171) 上島通浩教授 : kamijima@med.nagoya-cu.ac.jp			

科目名	⑬ 環境健康安全管理学概論 II(英語講義) ※ 本講義は「国費留学生優先配置プログラム / ENPHAS」履修学生のみを対象としています。			
単位認定教員	氏名	上島 通浩 教授	所属	環境労働衛生学
講義情報	単位数	1単位	開講時期	前期
授業の目的と方針	The goal of this class is to understand situations and social systems related to ENPHAS that are different between countries. Students are required to research the situation in their home country about the class topics before school hours. They present their research results during class and the whole class discusses the issue and broaden their perspectives.			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	
	4月17日(月)	Occupational and environmental factors as disease causes	環境労働衛生学 上島 通浩 教授	
	4月24日(月)	What is 'safety' from Epidemiology?	公衆衛生学 鈴木 貞夫 教授	
	5月1日(月)	Air pollution in the world	環境労働衛生学 伊藤 由起 准教授	
	5月8日(月)	Drug and medical device development and pharmaceutical administration in the world	次世代医療開発学 神谷 武 教授	
	5月15日(月)	Determinants of maternal, infant, and child health from international perspective	環境労働衛生学 金子佳世 特任講師	
	5月22日(月)	Medicolegal death investigation system in the world	法医学 青木 康博 教授	
	5月29日(月)	Topics in working condition and ergonomics in the world	産業医科大学 榎原 毅 教授	
時間	午後4時20分～午後5時50分			
開講方法	オンラインにて実施 (Zoom)			
単位認定教員連絡先	医学研究科研究棟10階 環境労働衛生学 (電話番号 052-853-8171) 上島通浩教授 : kamijima@med.nagoya-cu.ac.jp			

科目名	⑭ 薬物・毒物代謝学特論（英語講義） ※ 本講義は「国費留学生優先配置プログラム / ENPHAS」履修学生のみを対象としています。			
単位認定教員	氏名	酒々井 眞澄 教授	所属	神経毒性学
講義情報	単位数	1単位	開講時期	後期
授業の目的と方針	Subject Metabolism of xenobiotics Overview Chemical substances are beneficial to humans but may affect the health by the use of them. This subject offers professional skill or expertise for evaluation of harmful effects of the drugs and toxins based on the understanding of scientific evidence in terms of absorption, distribution, metabolism and excretion (ADME).			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	
	10月20日(金)	Theory of ADME (General subject)	神経毒性学 酒々井 眞澄 教授	
	10月27日(金)	Theory of ADME (Special subject)	神経毒性学 深町 勝巳 講師	
	11月10日(金)	Dose response relationship and toxicity (In vitro and in vivo tests)	神経毒性学 尾崎 智也 助教	
	11月17日(金)	Dose response relationship and toxicity (Data on the health)	神経毒性学 深町 勝巳 講師	
	11月24日(金)	Effect of radiation in the developing stage (Experimental evidence and data on the health)	神経毒性学 酒々井 眞澄 教授	
	12月1日(金)	Method and validation of the risk assessment, evaluation and interpretation of the results of the toxicological tests	神経毒性学 深町 勝巳 講師	
	12月8日(金)	Basic theory and application of the risk management and risk communication	神経毒性学 酒々井 眞澄 教授	
時間	午後4時20分～午後5時50分			
開講方法	オンラインにて実施（Zoom）			
単位認定教員連絡先	医学研究科脳神経科学研究所4階 神経毒性学（電話番号 052-853-8991） 酒々井眞澄教授：suzui@med.nagoya-cu.ac.jp			

科目名	⑮ 毒性病理学特論(英語講義) ※ 本講義は「国費留学生優先配置プログラム / ENPHAS」履修学生のみを対象としています。			
単位認定教員	氏名	高橋 智 教授	所属	実験病態病理学
講義情報	単位数	1単位	開講時期	前期
授業の目的と方針	This course is to understand the mechanisms of toxicity and its related histopathological changes in each organ caused by various environmental factors.			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	
	6月22日(木)	Introduction for toxic pathology	実験病態病理学 高橋 智 教授	
	6月29日(木)	Bladder carcinogenesis	大阪公立大学 鈴木周五 准教授口	
	7月6日(木)	Nanomaterial toxicology	名古屋市立大学 津田洋幸 特任教授	
	7月13日(木)	Thresholds of genotoxic carcinogens	大阪公立大学 福島昭治 名誉教授	
	7月20日(木)	Safety evaluation of environmental chemicals	国立医薬品食品衛生研究所 小川久美子 部長	
	7月27日(木)	Toxicologic Pathology of Oxidative Stress-associated Carcinogenesis	実験病態病理学 内木 綾 准教授	
	8月3日(木)	Carcinogenic toxicity and tumor immunoregulation in the pleura	名古屋市立大学附属 東部医療センター 稲熊真悟 教授	
時間	午後4時20分～午後5時50分			
開講方法	オンラインにて実施 (Zoom)			
単位認定教員連絡先	医学研究科研究棟5階 実験病態病理学 (電話番号 052-853-8156) 高橋智教授 : sattak@med.nagoya-cu.ac.jp			

科目名	⑩ 脳神経科学特論 Advanced Brain Science			
単位認定教員	氏名	澤本 和延 教授	所属	神経発達・再生医学
講義情報	単位数	2単位	開講時期	後期
授業の目的と方針	主に脳神経科学研究所の教員(連携研究室教員を含む)が講義を担当し、神経生物学の基礎から、脳神経疾患の病態、治療、創薬まで、脳神経科学に関する様々なトピックを紹介する。 医学研究科修士課程、薬学研究科(修士・博士)および理学研究科(修士・博士)の大学院生も受講・単位取得できるように設定する。講義への出席状況、レポートなどを総合的に評価する。 (開始時に英語講義希望者がいる場合は英語での講義となります)			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	
	10月18日(水)	神経発達症・てんかん発症機序の解明に向けて	神経発達症遺伝学 鈴木俊光 講師	
	10月25日(水)	学習・記憶における大脳辺縁系の役割	認知機能病態学 森下良一 寄附講座助教	
	11月1日(水)	アルツハイマー病研究の最前線	認知症科学 眞鍋達也 特任助教	
	11月8日(水)	線虫から明らかになった「意思決定のタイミングを決める分子機構」	理学研究科 木村幸太郎 教授	
	11月15日(水)	神経軸索の再生阻害機構	神経毒性学 尾崎智也 助教	
	11月22日(水)	神経細胞移動の分子機構とその関連疾患	薬学研究科 服部光治 教授	
	11月29日(水)	哺乳類の時計中枢からの概日リズム発振機構	医学研究科(豊橋技術科学大学) 沼野利佳客員教授	
	12月6日(水)	マイクロ・ナノ技術を医学・生物学研究に活用する	医学研究科(豊橋技術科学大学) 永井萌土客員准教授	
	12月13日(水)	脳出血後のリハビリによる障害運動機能の改善メカニズム	脳神経生理学 飛田秀樹 教授	
	12月20日(水)	細胞内オルガネラを介した脳機能の制御機構	薬学研究科 白根道子 教授	
	12月27日(水)	縦断研究に自己制御機能の初期発達を探る	人間文化研究科 中川敦子 教授	
	1月10日(水)	精神物理学:理論と応用	芸術工学研究科 辻村誠一 教授	
	1月17日(水)	ニューロン再生とグリア細胞	同志社大学 金子奈穂子 教授	
	1月24日(水)	Modern molecular and cellular biotechnology	医学研究科(コペンハーゲン大学) Konstantin Khodosevich客員准教授	
1月31日(水)	ニューロフルイドの調節機構と機能	脳神経外科学 間瀬光人 教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
開講方法	オンラインにて実施 (Zoom)			
単位認定教員連絡先	医学研究科脳神経科学研究所3階 神経発達・再生医学 (052-853-8533) 澤本和延教授 : sawamoto@med.nagoya-cu.ac.jp			

科目名	基礎最新研究特別講義				
	Special Lecture of Hot Topics in Basic Research Area				
単位認定教員	氏名	飛田 秀樹 教授	所属	脳神経生理学	
単位数	本講義1回の出席を共通科目講義1回の出席に振替				
授業の目的と方針	急速に進歩する医学研究において、最先端の研究成果や最新の研究手法を用いた成果を発表するセミナーを聴講する機会は貴重であり、また研究を遂行していく上で非常に重要になっている。本科目は、名古屋市立大学医学会との共催により学内で実施される基礎医学分野に関する最先端研究の学術的セミナーを、大学院博士課程の講義としている。				
履修方法	<p>本学で開催される学術セミナー等について、学術性を主とすることを確認し、医学会との共催を条件として、そのセミナーへの出席を基に基礎最新研究特別講義への出席として認める。</p> <p>講義(セミナー)の開催及び担当教員は掲示版及びE-Mailにて随時告知する。</p> <p>この講義は、当初、出席を予定していた講義に出席できなくなり単位を取得できなかった場合など大学院博士課程への出席として振替えることができる。</p>				
セミナー日程	月・日	セミナー等の内容		講義担当教員 出席確認欄	単位認定教員 確認欄
(注)セミナー等に出席した時は、講義担当教員出席確認欄に当日のうちに認め印またはサインをもらうこと。					

科目名	臨床最新研究特別講義				
	Special Lecture of Hot Topics in Clinical Research Area				
単位認定教員	氏名	新実 彰男 教授	所属	呼吸器・免疫アレルギー内科学	
単位数	本講義1回の出席を共通科目講義1回の出席に振替				
授業の目的と方針	急速に進歩する医学研究において、最先端の研究成果や最新の研究手法を用いた成果を発表するセミナーを聴講する機会は貴重であり、また研究を遂行していく上で非常に重要になっている。本科目は、名古屋市立大学医学会との共催により学内で実施される臨床医学分野に関する最先端研究の学術的セミナーを、大学院博士課程の講義としている。				
履修方法	<p>本学で開催される学術セミナー等について、学術性を主とすることを確認し、医学会との共催を条件として、そのセミナーへの出席を基に臨床最新研究特別講義への出席として認める。</p> <p>講義(セミナー)の開催及び担当教員は掲示版及びE-Mailにて随時告知する。</p> <p>この講義は、当初、出席を予定していた講義に出席できなくなり単位を取得できなかった場合など大学院博士課程への出席として振替えることができる。</p>				
セミナー日程	月・日	セミナー等の内容		講義担当教員 出席確認欄	単位認定教員 確認欄
(注)セミナー等に出席した時は、講義担当教員出席確認欄に当日のうちに認め印またはサインをもらうこと。					

● 「環境健康安全学大学院プログラム Graduate Program of Environmental and Pharmacomedical Safety Sciences) 」の履修について

1. コースの趣旨

大学院医学研究科、薬学研究科、理学研究科の研究科横断型教育プログラムとして、環境と健康の安全学領域に俯瞰的な視野を持ち、SDGs の理念の下、社会的課題の解決に挑戦できる高度プロフェッショナル人材の育成を目的に本コースを設置する。

コースには ASEAN 諸国等から優秀な留学生を受け入れ、日本人学生と共修させることで、国際的意識を醸成し、修了後に日本と ASEAN 諸国の架け橋人材となるために必要な国際感覚を身につけた国際レベルで活躍できる研究者・技術者・行政官等の高度の専門家人材を育成・輩出し環境健康安全学研究ネットワーク形成を目指す。

薬学研究科では博士前期課程 2 年、博士後期課程 3 年の 5 年一貫の博士課程プログラムとして履修する。

2. 履修について

コース履修者は通常の教育課程の履修要件に加え、別表の講義・実習を履修することで本コースを修了することができる。

本コースで開講される授業を受講する際は、必ず専用の「科目履修届」を指定期間内に提出して履修手続きをとること。他研究科で開講する科目は単位互換により履修し、博士前期課程の副科目として単位認定する。

*本コースは全て英語で実施します。

本コースについての詳細な内容や受講についての相談は下記担当教員へ

本プログラムカリキュラム担当教員： レギュラトリーサイエンス分野教授 頭金 正博
薬学研究科 担当教員： 衛生化学分野教授 肥田 重明

3. 授業科目・単位数・開講時期および担当研究科

	科目	項目	単位
講義	共通履修科目 (6 科目を選 択必修科目)	環境健康安全管理学概論 I、II、化学物質と環境特 論、薬物・毒物代謝学特論、データサイエンス特論、 自然科学と環境持続性 (SDGs) 概論、 グリーンケミストリー特論、レギュラトリーサイエン ス特論、毒性病理学特論、衛生化学特論、薬用資源学 特論	6
実習	産官学環境健康安全学インターンシップ		2
	グローバルプレゼンテーション		2
グループワーク	環境健康安全学課題解決アクティブラーニング		3

	授業科目	種別	単位数	開講時期	担当研究科
共通履修 科目（選 択必修） 6単位	環境健康安全管理学概論Ⅰ	講義	1	後期	医学研究科
	環境健康安全管理学概論Ⅱ	講義	1	前期	医学研究科
	薬物・毒物代謝学特論	講義	1	後期	医学研究科
	毒性病理学特論	講義	1	前期	医学研究科
	データサイエンス特論	集中講義	1	前期	理学研究科
	グリーンケミストリー特論	集中講義	1	前期	薬学研究科
	レギュラトリーサイエンス特論	講義	1	前期	薬学研究科
	化学物質と環境特論	集中講義	1	後期	薬学研究科
	衛生化学特論	講義	1	前期	薬学研究科
	薬用資源学特論	講義	1	後期	薬学研究科
	自然科学と環境持続性（SDGs）概論	講義	1	前期	理学研究科
実習・演 習（必 修）	産官学環境健康安全学インターンシ ップ	実習	2	プログラムの前半、後半で各1単 位履修	
	グローバルプレゼンテーション	実習	2	プログラムの前半、後半で各1単 位履修	
	環境健康安全学課題解決アクティ ブラーニング	グループ ワーク	3	1年次後期～2年次	

4. 修了要件

プログラム1・2年（博士前期課程、4年制の1・2年次）

① 共通履修科目 6単位を選択履修する

一部の科目は集中講義として開講される。開講日・開講場所・受講方法などは掲示またはポータルサイトで連絡されるため、留意する。

② 実習科目

- ・産官学環境健康安全学インターンシップ（1単位 / 回）：産学官協働による人材育成を目的に外部機関（国立医薬品食品衛生研究所、国立環境研究所、放射線医学総合研究所等）へのインターンシップを実施することで、リスクアセスメントに対する理解を深める。
- ・グローバルプレゼンテーション（1単位 / 回）：研究テーマに関連する国際学会（米国毒性学会、欧州毒性学会、国際毒性学会等）において筆頭で発表することで、専門会議における英語でのオーラルコミュニケーション力強化を目指す。
- ・環境健康安全学課題解決アクティブラーニング（3単位）：1年次後期～2年次にかけて、留学生と日本人学生からなる3～4名の混成グループで、SDGs及び環境健康安全に関連した課題について課題解決法を見いだすことを目的とするグループワークを実施する

③ 中間発表：2年次修了時に実施し、履修状況を確認する

プログラム3～5年（博士後期課程、4年制コースでは3,4年）

より実践的な環境健康安全学課題解決能力およびコミュニケーション力を養成するため、前期に引き続き、民間企業等も加えた産官学環境健康安全学インターンシップ（1単位）およびグローバルプレゼンテーション（1単位）を履修するとともに、特別研究においては研究計画書、研究指導計画書を年度ごとに作成し研究活動を実施し、最終年次においては、博士論文として研究成果をまとめて、学位審査を受ける

科目履修届

令和 年 月 日

(あて先：授業を開講している研究科)

- 名古屋市立大学医学研究科長 様
- 名古屋市立大学薬学研究科長 様
- 名古屋市立大学理学研究科長 様

- 名古屋市立大学医学研究科
- 名古屋市立大学薬学研究科
- 名古屋市立大学理学研究科
- 博士前期課程・博士課程

_____年 学籍番号_____

氏名_____

下記の授業科目を履修したいので、届出します。

履修時期 令和_____年度

チェック欄	授業科目名	担当研究科	単位	開講時期
	環境健康安全管理学概論Ⅰ	医学研究科	1	後期
	環境健康安全管理学概論Ⅱ	医学研究科	1	前期
	薬物・毒物代謝学特論	医学研究科	1	後期
	毒性病理学特論	医学研究科	1	前期
	データサイエンス特論	理学研究科	1	前期
	自然科学と環境持続性概論	理学研究科	1	前期
	化学物質と環境	薬学研究科	1	後期
	レギュラトリーサイエンス特論	薬学研究科	1	前期
	衛生化学特論	薬学研究科	1	前期
	薬用資源学特論	薬学研究科	1	後期
	グリーンケミストリー	薬学研究科	1	前期

本年度中に履修を希望する科目をチェックすること。

令和5年度 環境健康安全学大学院プログラム 講義時間割

		医学	薬学	理学	
前期	月	火	水	木	金
1 9:00~10:30					
2 10:40~12:10			<後半> 衛生化学特論		
3 13:00~14:30					
4 14:40~16:10					
5 16:20~17:50	<前半> 環境健康安全管理学 概論Ⅱ			<後半> 毒性病理学特論	
6・夜 理/ 18:00~19:30 医・薬/ 18:30~20:00	<後半> 自然科学と環境持続 性(SDGs)概論			<後半> レギュラトリーサイエ ンス	

後期	月	火	水	木	金
1 9:00~10:30					
2 10:40~12:10					
3 13:00~14:30					
4 14:40~16:10				<前半> 薬用資源学特論	
5 16:20~17:50					<前半> 薬物・毒性代謝学特 論
6・夜 理/ 18:00~19:30 医・薬/ 18:30~20:00			<前半> 環境健康安全管理学 概論Ⅰ		

集中講義	
化学物質と環境	12/11~13予定
グリーンケミストリー	6/19 2~5限目 6/20 3~5限目
データサイエンス特論	8/28~30

実習・演習(集中講義)
アクティブラーニング(1年次生)
インターンシップ(2年次生)
グローバルプレゼンテーション(2年次生)

科目名	⑫ 環境健康安全管理学概論 I (英語講義) ※ 本講義は「国費留学生優先配置プログラム / ENPHAS」履修学生のみを対象としています。			
単位認定教員	氏名	上島 通浩 教授	所属	環境労働衛生学
講義情報	単位数	1単位	開講時期	後期
授業の目的と方針	This class aims to introduce topics related to environmental health and safety management. Social systems to prevent adverse health outcomes and to strengthen public health/safety are discussed in the context of regulatory science.			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	
	10月18日(水)	Occupational and environmental factors as disease causes	環境労働衛生学 上島 通浩 教授	
	10月25日(水)	What is 'safety' from Epidemiology?	公衆衛生学 鈴木 貞夫 教授	
	11月1日(水)	Drug and medical device development and pharmaceutical administration in Japan	次世代医療開発学 神谷 武 教授	
	11月8日(水)	Air pollution in Japan -Lessons from Yokkaichi asthma to the present	環境労働衛生学 伊藤 由起 准教授	
	11月15日(水)	Food production-related contaminants (pesticides, antibiotics and hormones) in human diet and biofluids	環境労働衛生学 ハレツキスロマナス特任助教	
	11月22日(水)	Medicolegal death investigation system in Japan	法医学 青木 康博 教授	
	11月29日(水)	Autism spectrum disorder and support	環境労働衛生学 加藤沙耶香 助教	
時間	午後6時30分～午後8時			
開講方法	オンラインにて実施 (Zoom)			
単位認定教員連絡先	医学研究科研究棟10階 環境労働衛生学 (電話番号 052-853-8171) 上島通浩教授 : kamijima@med.nagoya-cu.ac.jp			

科目名	⑬ 環境健康安全管理学概論 II(英語講義) ※ 本講義は「国費留学生優先配置プログラム / ENPHAS」履修学生のみを対象としています。			
単位認定教員	氏名	上島 通浩 教授	所属	環境労働衛生学
講義情報	単位数	1単位	開講時期	前期
授業の目的と方針	The goal of this class is to understand situations and social systems related to ENPHAS that are different between countries. Students are required to research the situation in their home country about the class topics before school hours. They present their research results during class and the whole class discusses the issue and broaden their perspectives.			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	
	4月17日(月)	Occupational and environmental factors as disease causes	環境労働衛生学 上島 通浩 教授	
	4月24日(月)	What is 'safety' from Epidemiology?	公衆衛生学 鈴木 貞夫 教授	
	5月1日(月)	Air pollution in the world	環境労働衛生学 伊藤 由起 准教授	
	5月8日(月)	Drug and medical device development and pharmaceutical administration in the world	次世代医療開発学 神谷 武 教授	
	5月15日(月)	Determinants of maternal, infant, and child health from international perspective	環境労働衛生学 金子佳世 特任講師	
	5月22日(月)	Medicolegal death investigation system in the world	法医学 青木 康博 教授	
	5月29日(月)	Topics in working condition and ergonomics in the world	産業医科大学 榎原 毅 教授	
時間	午後4時20分～午後5時50分			
開講方法	オンラインにて実施 (Zoom)			
単位認定教員連絡先	医学研究科研究棟10階 環境労働衛生学 (電話番号 052-853-8171) 上島通浩教授 : kamijima@med.nagoya-cu.ac.jp			

科目名	⑭ 薬物・毒物代謝学特論（英語講義） ※ 本講義は「国費留学生優先配置プログラム / ENPHAS」履修学生のみを対象としています。			
単位認定教員	氏名	酒々井 眞澄 教授	所属	神経毒性学
講義情報	単位数	1単位	開講時期	後期
授業の目的と方針	<p>Subject Metabolism of xenobiotics</p> <p>Overview Chemical substances are beneficial to humans but may affect the health by the use of them. This subject offers professional skill or expertise for evaluation of harmful effects of the drugs and toxins based on the understanding of scientific evidence in terms of absorption, distribution, metabolism and excretion (ADME).</p>			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	
	10月20日(金)	Theory of ADME (General subject)	神経毒性学 酒々井 眞澄 教授	
	10月27日(金)	Theory of ADME (Special subject)	神経毒性学 深町 勝巳 講師	
	11月10日(金)	Dose response relationship and toxicity (In vitro and in vivo tests)	神経毒性学 尾崎 智也 助教	
	11月17日(金)	Dose response relationship and toxicity (Data on the health)	神経毒性学 深町 勝巳 講師	
	11月24日(金)	Effect of radiation in the developing stage (Experimental evidence and data on the health)	神経毒性学 酒々井 眞澄 教授	
	12月1日(金)	Method and validation of the risk assessment, evaluation and interpretation of the results of the toxicological tests	神経毒性学 深町 勝巳 講師	
	12月8日(金)	Basic theory and application of the risk management and risk communication	神経毒性学 酒々井 眞澄 教授	
時間	午後4時20分～午後5時50分			
開講方法	オンラインにて実施（Zoom）			
単位認定教員連絡先	医学研究科脳神経科学研究所4階 神経毒性学（電話番号 052-853-8991） 酒々井眞澄教授：suzui@med.nagoya-cu.ac.jp			

科目名	⑮ 毒性病理学特論(英語講義) ※ 本講義は「国費留学生優先配置プログラム / ENPHAS」履修学生のみを対象としています。			
単位認定教員	氏名	高橋 智 教授	所属	実験病態病理学
講義情報	単位数	1単位	開講時期	前期
授業の目的と方針	This course is to understand the mechanisms of toxicity and its related histopathological changes in each organ caused by various environmental factors.			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	
	6月22日(木)	Introduction for toxic pathology	実験病態病理学 高橋 智 教授	
	6月29日(木)	Bladder carcinogenesis	大阪公立大学 鈴木周五 准教授口	
	7月6日(木)	Nanomaterial toxicology	名古屋市立大学 津田洋幸 特任教授	
	7月13日(木)	Thresholds of genotoxic carcinogens	大阪公立大学 福島昭治 名誉教授	
	7月20日(木)	Safety evaluation of environmental chemicals	国立医薬品食品衛生研究所 小川久美子 部長	
	7月27日(木)	Toxicologic Pathology of Oxidative Stress-associated Carcinogenesis	実験病態病理学 内木 綾 准教授	
	8月3日(木)	Carcinogenic toxicity and tumor immunoregulation in the pleura	名古屋市立大学附属 東部医療センター 稲熊真悟 教授	
時間	午後4時20分～午後5時50分			
開講方法	オンラインにて実施 (Zoom)			
単位認定教員連絡先	医学研究科研究棟5階 実験病態病理学 (電話番号 052-853-8156) 高橋智教授 : sattak@med.nagoya-cu.ac.jp			

授業科目名	薬用資源学特論 Advanced Pharmacognosy				
単位数	1 単位	開講時間	木 4 後期(前半)	担当者	牧野利明、石内勘一郎、寺坂和祥
<p>□■ 授業の目的・目標</p> <p>生薬学は、医薬品としての生薬に関するさまざまな問題点を克服するための学問としてだけでなく、天然素材の生理活性や応用に関する課題についても取り扱う総合的な学問である。本講義では、生薬学の範囲のうち、天然素材を生産、品質管理、応用という 3 つの側面から、特に最新の研究成果と研究方法を紹介することにより、生薬学の鳥瞰像の一部を認識することを目的・目標とする。</p>					
<p>□■ 学修到達目標</p> <p>(1) 天然由来薬物研究の歴史を知り、基礎薬学研究や医薬品創出を目指した研究・開発に取り組むために必要な創造的思考力と実験技術を習得しえいる。</p> <p>(2) 天然由来薬物の活性と応用に関する研究の現状と、新しい研究動向を知り、創薬科学、生命科学の基礎から先端技術まで幅広く理解している。</p> <p>(3) バイオテクノロジーを利用した天然由来物質の生産と天然資源確保について、研究動向と課題を知り、創薬科学、生命科学の基礎から先端技術まで幅広く理解している。</p> <p>(4) 以上の知識をもとに、社会全体の幸福の実現や持続可能な社会の構築を創造できる。</p>					
<p>□■ 成績評価基準</p> <p>秀:講義終了後に行う議論に毎回、積極的参加し、レポートで自身の意見を十分の論述できる。</p> <p>優:講義終了後に行う議論で 6 回以上発言し、提出したレポートで自身の意見を十分の論述できる。</p> <p>良:講義終了後に行う議論で 4 回以上発言し、提出したレポートで自身の意見を論述できる。</p> <p>可:提出したレポートで天然由来薬物研究に関する自身の意見を論述できる。</p>					
<p>□■ キーワード</p> <p>生薬、天然薬物、漢方薬、統合医療、バイオテクノロジー</p>					
<p>□■ ディプロマ・ポリシーとの関連</p> <p style="text-align: center;">I • II • III • IV</p>					
<p>□■ 授業概要</p> <p>授業では、天然薬物研究の歴史を紹介した後に、その生産、品質、応用に関する新しい研究方法と成果について、具体例を示しながら解説する</p>					
<p>□■ 授業計画</p> <p>以下の内容を ZOOM を用いて講義する。資料、視聴のための URL 等は学務情報システムを用いて講義前に配信する。(1) 漢方薬物研究方法論 1～総論 (2) 臨床生薬学 (3) 漢方薬物研究方法論 2～生薬の薬能の科学的解明の試み (4) 天然資源が生み出す医薬品 (5) 糸状菌由来二次代謝産物の生合成研究 (6) 植物バイオテクノロジー 1～植物の組織培養と代謝工学 (7) 植物バイオテクノロジー 2～植物の代謝産物輸送。</p>					
<p>□■ 授業時間外の学修 (準備学修含む)</p> <p>授業で使用する資料等を事前にポータルシステムで配信するので、あらかじめ予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。講義終了後は、関連分野における記述論文を読み、レポートを作製すること。</p>					
成績評価方法	それぞれの講義の終了後での討論における発言と態度 (30%) 全体終了後のレポート (70%)				
教科書・テキスト	使用せず。適宜、プリントを使用する。				
参考文献	特になし。				
履修要件	特になし。				
履修上の注意事項	講義後の討論に積極的に参加することを求める。英語で講義する。				
アクティブ・ラーニング	それぞれの講義の終了後、討論の時間を設ける。				
連絡先 オフィスアワー	牧野 利明 (研究棟南館 3 階 生薬学分野教授室、052-836-3416) makino@phar.nagoya-cu.ac.jp。オフィスアワー: 月曜日 午後 4 時～6 時 (在室を確認のこと)、ただ在室していればいつでも可。				
備考	講義は英語で行われるが、日本人学生にも配慮する。				
関連 URL	http://www.phar.nagoya-cu.ac.jp/hp/syg/index.html				

授業科目名	衛生化学特論 Advanced Molecular and Cellular Health Science			
単位数	1 単位	開講時間	水 2 前期(後半)	担当者 肥田 重明
<p>□■ 授業の目的・目標【必須】：生活環境は多様化し人類社会の持続可能な発展を担保するためには、生活環境下での環境因子のリスクを理解し、ヒトへの安全性や生活環境の安全を持続的に保持するシステムが必要である。行政あるいは薬剤師などの医療人として、疾病予防・免疫制御という視点から科学に基づくリスクアセスメント、リスクマネジメントに必要な情報を理解し、対策や解決する能力を学ぶ。</p>				
<p>□■ 学修到達目標【必須】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な環境因子の種類・測定法について説明できる。 2. 毒物・化学物質に対する生体反応と健康維持に重要な生体分子機構を説明できる。 3. 化学物質による疾患の治療と環境対策について説明できる。 4. 最新の感染症の予防・診断・治療薬の開発の現状や概念について説明できる。 <p>以上の項目を学修することで、科学の先端的な知識と研究遂行のための基礎的技術を身につける。</p>				
<p>□■ 成績評価基準【必須】</p> <p>秀：公衆衛生・免疫学の観点から世界の現状や問題点を科学的に説明し、新たな提案もできる。 優：公衆衛生・免疫学の観点から世界の現状や問題点を科学的に説明できる。 良：公衆衛生・免疫学の重要性を理解し、説明できる。 可：公衆衛生・免疫学の基本的な概念を説明できる。</p>				
<p>□■ キーワード【必須】 環境因子、感染症、予防、生体反応、公衆衛生</p>				
<p>□■ ディプロマ・ポリシーとの関連【必須】 I ・ II ・ III ・ IV</p>				
<p>□■ 授業概要【必須】：本講義は人間の健康問題を主体要因、環境要因（物理・化学的環境、生物学的環境、社会的環境）との関連で捉え、個人および集団の健康水準を保持増進するための対策を確立することを目的としている。近年、食品に使用される農薬、添加物、環境因子、そして病原体など、健康な生活を脅かす可能性のある化学物質や感染症に対する関心が高まっており、化学的・生物学的知識に基づいて、そのリスクを認識し、その問題に対処する必要がある。行政の対策から、生活習慣、環境の改善を通じた疾病予防や健康増進が重要視されており、食品や生活環境を中心に化学物質と生体の分子相互作用も含めて解説する。</p>				
<p>□■ 授業計画【必須】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 衛生薬学概論 2. 食品と健康：農薬・毒物・環境因子に対する生体反応 3. 感染症に対する対策と治療 I 4. 感染症に対する対策と治療 II 5. 行政における薬事・衛生環境対策と国際協力 6. 産業保健と慢性疾患 7. 加齢に伴う疾患とその予防・診断・治療薬 <p><遠隔授業実施について></p> <p>(1) 原則、遠隔授業[Zoom実施]形式とする。社会人大学院生等はオンデマンド形式も可とする。 (2) 教材は学務情報システムを用いて配布し当該学期中アクセス可能とする。またオンデマンドでは電子メールによる質疑応答・意見提出を行う。</p>				
<p>□■ 授業時間外の学修（準備学修含む）【必須】 学術論文などを用いた学生の自主的な学修を促す。</p>				
成績評価方法【必須】	各講義のレポートの内容（妥当性・独自性）に基づいて評価する： 100 %			
教科書・テキスト【必須】	必要に応じて、プリントを配布する。			
参考文献	必要に応じて、紹介する			
履修要件	特になし			
履修上の注意事項	本講義は英語で実施する			
アクティブ・ラーニング	特になし			
連絡先・オフィスアワー【必須】	肥田重明（衛生化学分野、薬学研究棟南館 4 階）、 TEL:052-836-3592, e-mail:hida@phar.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー：月～木 午後 4 時-6 時（他の曜日・時間も可、在室を確認のこと）			
備考				
関連 URL				

授業科目名	レギュラトリーサイエンス特論 Advanced Regulatory Science				
単位数	1 単位	開講時間	木 6 前期 (後半)	担当者	頭金正博、神谷武、福田英克
<p>□■ 授業の目的・目標：医薬品や医療機器の適正使用には有効性と安全性を科学的に評価することが重要になるため、本特論では、医薬品や医療機器の開発研究や市販後調査での有効性や安全性の評価プロセスに関する知識を習得し、新薬に関する非臨床試験および臨床試験のデータを基にして、市販後での安全対策についての確かな判断ができるようになることを目標とする。</p>					
<p>□■ 学修到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品や医療機器の開発研究を理解し、有効性と安全性の根拠を説明できるようになる。 2. 医薬品や医療機器の承認審査の概略を理解し、承認された科学的根拠を説明できるようになる。 3. 医薬品や医療機器の市販後における有効性と安全性の評価方法を理解し、説明できるようになる。 4. レギュラトリーサイエンスの目的や研究方法等が説明できるようになる。 					
<p>□■ 成績評価基準</p> <p>秀: 医薬品等の有効性と安全性の評価方法の基本的な考え方とプロセスを説明することができる。また、実際のデータを用いて、評価することができる。</p> <p>優: 医薬品等の有効性と安全性の評価方法の基本的な考え方とプロセスを説明することができる。また、実際の評価を批評することができる。</p> <p>良: 医薬品等の有効性と安全性の評価方法の基本的な考え方とプロセスを説明することができる。</p> <p>可: 医薬品等の有効性と安全性の評価方法のプロセスを説明することができる。</p>					
<p>□■ キーワード：医薬品・医療機器開発、臨床試験、市販後調査、市販後安全対策</p>					
<p>□■ ディプロマ・ポリシーとの関連 I ・ II ・ III ・ IV</p>					
<p>□■ 授業概要：医薬品や医療機器の開発段階や市販後における有効性や安全性を評価する方法について概説する。また、臨床研究の実地体制等を紹介する。それらの知識をもとに、非臨床試験および臨床試験のデータを用いて、市販後での安全対策についてセミナー形式の討論を行い、医薬品の有効性と安全性の評価に関する理解を深める。</p>					
<p>□■ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の開発研究における有効性と安全性評価（非臨床試験、臨床試験） 2. 医療機器の開発研究における有効性と安全性評価 3. 治験業務に必要な知識と支援体制 4. 市販後における有効性と安全性評価 5. 薬剤疫学総論 6. レギュラトリーサイエンス研究各論（医薬品、医療機器、化学物質、食品） 7. 新薬に関する市販後安全対策案の作成と発表会 <p>・ 本科目は、遠隔授業(ZOOM)で実施します。社会人大学院生については、事前に申し出があった場合にオンデマンド授業を行います。ただし、7 回講義の「新薬に関する市販後安全対策案の作成と発表会」についてはオンデマンド講義はありません。</p> <p>・ 遠隔授業の資料等については、学務情報システムを用いて、事前に配信します。（配信以降、授業終了まで公開します）</p> <p>・ オンデマンド授業について、質疑応答は「個別質問」、意見交換については「授業掲示板」を学務情報システム内で利用可能です。</p>					
<p>□■ 授業時間外の学修（準備学修含む）：講義ごとに関連する文献等を参照し理解を深めること。</p>					
成績評価方法	講義やグループディスカッションでの課題への取り組み姿勢（30%）と最終プレゼンテーションでの発表内容と質問内容の質と回数（70%）				
教科書・テキスト	講義ごとに参考資料を配布する。				
参考文献	受講時に学習すべき参考書や文献を指示する。				
履修要件	薬理・毒性学の大学学部レベルの知識を必要とする。				
履修上の注意事項	講義とともに受講学生によるプレゼンテーションと討論も行う。本講義は英語で実施する				
アクティブ・ラーニング	新薬として市販が開始された医薬品の審査報告書をもとに、学生自ら市販後安全対策案を策定し、発表を行い議論する。				
連絡先・オフィスアワー	レギュラトリーサイエンス分野 頭金 正博 木曜日 午後 5 時 - 6 時（他の曜日・時間も可、在室を確認のこと）				
備考	関連 URL				

授業科目名	化学物質と環境 Chemicals in the environment			
単位数	1 単位	開講時間	集中講義（後期）	担当者 肥田 重明
<p>□■ 授業の目的・目標【必須】</p> <p>医薬品・農薬を含めた化学物質や動植物の代謝産物は、健康水準の向上に貢献している一方で、健康を害するという問題点も持っている。平均寿命と健康寿命の差を短縮するためにも、地球環境や環境因子と生体の相互作用の理解が重要である。本講義では、地球環境における様々な環境因子と生体の相互作用を薬学的観点から理解し、環境リスクアセスメント、環境リスクマネージメントに繋げることを目的とする。</p>				
<p>□■ 学修到達目標【必須】</p> <p>環境化学物質の基礎・定量方法から生体への影響を理解し、問題解決能力を身につける。</p> <p>1. 化学物質による地球環境や環境衛生への影響と対策を説明できる。</p> <p>2. 薬学的知見から環境化学物質による生体への影響を理解できる。</p>				
<p>□■ 成績評価基準【必須】</p> <p>秀：化学物質と環境について地球環境の現状や問題点を科学的に説明し、評価や提案もできる。</p> <p>優：化学物質の作用や毒性を理解し、健康や地球環境への影響について科学的に説明できる。</p> <p>良：環境における化学物質について薬学領域を基盤として理解し概説できる。</p> <p>可：環境における化学物質について基本的な概念を理解できる。</p>				
<p>□■ キーワード【必須】</p> <p>地球環境、環境因子、環境リスクアセスメント、環境リスクマネージメント、環境と疾患</p>				
<p>□■ ディプロマ・ポリシーとの関連【必須】</p> <p style="text-align: center;">I ・ II ・ III ・ IV</p>				
<p>□■ 授業概要【必須】</p> <p>本科目は、細胞分子薬効解析学、生薬学、薬物動態学、レギュラトリーサイエンス、コロイド・高分子学・衛生化学分野の教員が医薬品・食品・農薬を含めた環境中の化学物質、動植物由来の代謝産物に関する物理的・化学的な基礎知識と生体への作用や地球環境への影響について講義する。</p>				
<p>□■ 授業計画【必須】</p> <p>1. 序論 医薬品による環境への影響</p> <p>2. 低酸素環境下での生体シグナル変化</p> <p>3. 薬用植物栽培と生薬の生産</p> <p>4. 薬物体内動態に関わる環境因子</p> <p>5. 環境中化学物質の毒性評価</p> <p>6. 地球環境の物理化学</p> <p>7. タバコの煙に含まれる化学物質</p> <p><遠隔授業実施について></p> <p>(1) 原則、遠隔授業[Zoom実施]形式とする。社会人大学院生等はオンデマンド形式も可とする。</p> <p>(2) 教材は学務情報システムを用いて配布し当該学期中アクセス可能とする。またオンデマンドでは電子メールによる質疑応答・意見提出を行う。</p>				
<p>□■ 授業時間外の学修（準備学修含む）【必須】 学術論文などを用いた学生の自主的な学修を促す。</p>				
成績評価方法【必須】	各講義のレポートの内容（妥当性・独自性）に基づいて評価する： 100 %			
教科書・テキスト【必須】	必要に応じてプリントを配布する			
参 考 文 献	必要に応じて、紹介する			
履 修 要 件	特になし			
履 修 上 の 注 意 事 項	講義は12月に集中講義として英語で行う。日程は別途周知する。			
アクティブ・ラーニング	特になし			
連 絡 先 ・ オフィスアワー【必須】	肥田重明（衛生化学分野、薬学研究棟南館4階）、 TEL:052-836-3592, e-mail:hida@phar.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー：月～木 午後4時 - 5時 (他の曜日・時間も可、在室を確認のこと)			
備 考				
関 連 U R L				

授業科目名	環境健康安全学課題解決アクティブ・ラーニング (Environmental and Pharmaco-medical Safety Science Active Learning)				
単位数	3 単位	開講時間	集中講義	担当者	肥田 重明
<input type="checkbox"/> ■ 授業の目的・目標 環境健康安全学に関するグローバルレベルでの問題意識やコミュニケーション力および複数の研究科に在籍するプログラムメンバーの共有意識を養成するために、留学生と日本人学生からなる3～4名の混成グループで、SDGs及び環境健康安全に関連した課題について課題解決法を見いだすことを目的とするグループワーク（環境健康安全学課題解決アクティブ・ラーニング）を実施する。					
<input type="checkbox"/> ■ 学修到達目標 環境健康安全学に関する課題について問題解決能力とコミュニケーション力および複数の研究科に在籍するプログラムメンバーの共有意識を養成する					
<input type="checkbox"/> ■ 成績評価基準 秀：環境健康安全学に関する問題点を科学的に説明し、評価や提案もできる。 優：環境健康安全学に関する問題点を科学的に説明できる。 良：環境健康安全学に関する問題点を理解できる。 可：環境健康安全学に関する基本的な概念を理解できる。					
<input type="checkbox"/> ■ キーワード リスクアセスメント、リスクマネジメント、公衆衛生、地球環境、アクティブ・ラーニング					
<input type="checkbox"/> ■ 授業概要 本科目は、留学生と日本人学生からなる3～4名の混成グループで、SDGs及び環境健康安全に関連した課題について課題解決法を見いだすことを目的とするグループワークを実施する。					
<input type="checkbox"/> ■ 授業計画 1. 留学生と日本人学生からなる3～4名の混成グループを構成する。 2. プログラム運営委員会より提示された環境健康安全学に関する課題について解決法についてグループ内で情報収集を行い、解決法について議論する。 3. 各グループで立案した課題解決法をプログラム運営委員会やSDGs専門家を含む発表会において英語で紹介し、質疑応答を行う。 4. 発表会での議論を踏まえて、各グループで最終的な課題解決案の報告書を英文で作成する。 本科目は面接授業を原則とするが、状況により遠隔授業(ZOOM)で行うこともある。遠隔授業を行う場合は、学務情報システムを用いて事前に連絡をする。遠隔授業の資料等も学務情報システムから事前に配布する。					
<input type="checkbox"/> ■ 授業時間外の学修（準備学修含む） 学術論文などを用いた学生の自主的な学修を促す。					
成績評価方法	発表会での発表内容質疑応答、最終報告書をプログラム運営委員会で評価する：100%				
教科書・テキスト	必要に応じてプリントを配布する				
参考文献	必要に応じて、紹介する				
履修要件	「ASEANを中心とする環境健康安全学リーダー人材育成と国際ネットワーク形成プログラム」に所属する学生のみ履修できる。				
履修上の注意事項	本アクティブ・ラーニングは1年次に実施する。				
アクティブ・ラーニング	アクティブ・ラーニングとして実施する。				
連絡先・オフィスアワー	肥田重明（衛生化学分野）、 TEL:052-836-3592, e-mail:hida@phar.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー：月～水 午後4時 - 6時 (他の曜日・時間も可、在室を確認のこと)				
備考					
関連URL					

授業科目名	グローバルプレゼンテーション Global Presentation				
単位数	2 単位	開講時間	集中講義	担 当 者	頭金 正博
<input type="checkbox"/> ■ 授業の目的・目標 国際会議等への参加に向けて、英語による研究発表・討論を行う一連の準備プロセスを習得させるとともに、発表方法などの改善について指導を行う。					
<input type="checkbox"/> ■ 学修到達目標 国際会議等に参加して英語での研究発表・討論を行う。					
<input type="checkbox"/> ■ 成績評価基準 秀：主体的に実施計画を立案・実行し、英語による発表・討論が円滑に行え、国際的な視野からさらなる研究展開を提案できる。 優：主体的に実施計画を立案・実行し、英語による発表・討論が行え、研究展開を提案できる。 良：実施計画を立案・実行し、英語による発表・討論が行える。 可：実施計画に基づいて、英語による発表が行える。					
<input type="checkbox"/> ■ キーワード 国際学会、プレゼンテーション能力、英語					
<input type="checkbox"/> ■ 授業概要 1) 研究発表の内容や具体的な発表について1単位時間分の実施計画を立て、指導教員から事前指導を受ける。 2) 実施計画書、学会の概要を示す資料を2ヶ月前までにプログラム運営委員会へ提出する。(履修申請書 様式1) 3) プログラム運営委員会で実施計画を審査・承認を得る。 4) 英語による研究発表・討論のスキルアップを図るため、英語指導を受ける。 5) 国際会議等に参加して英語での研究発表・討論を行う。 6) 国際学会等への参加後、質疑応答の内容、出席者からのコメント、発表の問題点、将来への展開などについて指導教員と総括を行い、事後指導を受ける。また、報告書をプログラム運営委員会へ提出する。(報告書 様式2) 前期で履修する1単位分は大学院教務企画委員会、教授会での事前・事後の認定を受けること。 国際学会がオンラインで実施される場合は、オンライン参加も認める。					
<input type="checkbox"/> ■ 授業計画：授業概要に沿って、指導教員と実施計画を作成する					
<input type="checkbox"/> ■ 授業時間外の学修（準備学修含む）：分野ごとに定める					
成績評価方法	国際会議等への参加を前提とする。 国際学会等での発表に関する実施報告書：100%				
教科書・テキスト	参 考 文 献				
履 修 要 件	<ul style="list-style-type: none"> ・公式言語として英語が採用されている学会等で、英語による発表を行うこと（参加する学会等の開催地（国内外）は問わない）。 ・海外渡航をする場合は、渡航期間に海外旅行（傷害）保険に加入すること。 ・海外渡航をする場合は、名古屋市立大学における学生の海外教育活動に係る危機管理対応マニュアルに基づき、実習・協定派遣届、緊急連絡先届を学部事務室へ提出すること。 				
履修上の注意事項	前半（理・薬は博士前期課程で実施。医は1年次から2年次に実施。）と後半（は理・薬は博士後期課程で実施。医は3年次から4年次前半にかけて）で実施。薬学は各1単位 <ul style="list-style-type: none"> ・詳細については専攻の判断によるものとする。 ・履修申請書、報告書様式はポータルから入手すること。 				
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、授業計画立案				
連絡先・オフィスアワー	各部門教員に問い合わせること。				
備 考	関 連 URL				

授業科目名	環境健康安全学インターンシップ (Environmental and Pharmaco-medical Safety Science Internship)				
単位数	2単位	開講時間	集中講義	担当者	頭金 正博
<p>□■ 授業の目的・目標：産学官協働により環境健康安全学分野でのリスクアセスメントに対する理解を深めることを目的に、外部機関（国立医薬品食品衛生研究所、国立環境研究所、放射線医学総合研究所等）への産学官環境健康安全学インターンシップを本プログラムの前半と後半にそれぞれ実施する。</p>					
<p>□■ 学修到達目標</p> <p>環境健康安全学に関する公的機関での取り組みを理解し、環境健康安全学に関する問題解決能力を身につける。</p> <p>1. 化学物質による地球環境や公衆衛生への影響や医療におけるリスクアセスメントを説明できる。 2. 産学官のそれぞれの機関での環境健康安全学に関する取り組みを理解する。</p>					
<p>□■ 成績評価基準</p> <p>秀：環境健康安全学に関する公的機関での取り組みを説明し、環境健康安全学に関する問題解決に関する提案ができる。 優：環境健康安全学に関する公的機関での取り組みを理解し、環境健康安全学に関する問題について科学的に説明できる。 良：環境健康安全学に関する公的機関での取り組み理解し概説できる。 可：環境健康安全学に関する公的機関での取り組みを理解できる。</p>					
□■ キーワード：リスクアセスメント、リスクマネジメント、公衆衛生、地球環境					
<p>□■ 授業概要</p> <p>本科目は、外部機関（国立医薬品食品衛生研究所、国立環境研究所、放射線医学総合研究所等）での産学官協働による環境健康安全学インターンシップを実施する。</p>					
<p>□■ 授業計画</p> <p>1) インターンシップに向けて指導教官から事前指導を受け、実施計画書を作成する。 2) 指導教員は実施計画書をプログラム運営委員会に提出する。 3) プログラム運営委員会では、派遣先機関と実施内容等について打ち合わせを行い、受入可能性を協議する。 4) 3)で承認された、インターンシップに参加する。 5) 終了後に派遣先指導教員の成績報告書と学生の作成する実施報告書を指導教員に提出する。 6) 指導教員は5)で作成した報告書類をプログラム運営委員会に提出する。</p> <p>前期で履修する1単位分は大学院教務企画委員会、教授会での事前・事後の認定を受けること。</p> <p>本科目はインターンシップ先の都合で遠隔授業(ZOOM)で行うことがある。遠隔授業を行う場合は、学務情報システムを用いて事前に連絡をする。遠隔授業の資料等も学務情報システムから事前に配布する。</p>					
□■ 授業時間外の学修（準備学修含む）：学術論文などを用いた学生の自主的な学修を促す。					
成績評価方法	実施報告書の内容（妥当性・独自性）と派遣先指導教員の評価に基づいて評価する：100%				
教科書・テキスト	必要に応じてプリントを配布する				
参考文献	必要に応じて、紹介する				
履修要件	「ASEANを中心とする環境健康安全学リーダー人材育成と国際ネットワーク形成プログラム」に所属する学生のみ履修できる。				
履修上の注意事項	前半（理・薬は博士前期課程で実施。医は1年次から2年次に実施。）と後半（理・薬は博士後期課程で実施。医は3年次から4年次前半にかけて）で実施。薬学は各1単位。				
アクティブ・ラーニング	インターンシップとして実施する。				
連絡先・オフィスアワー	頭金正博（レギュラトリーサイエンス分野）、 TEL:052-836-3778, e-mail:tohkin@phar.nagoya-cu.ac.jp オフィスアワー：月～水 午後4時 - 6時 （他の曜日・時間も可、在室を確認のこと）				
備考					
関連URL					

Course title	Introduction to Data Sciences		
Credit	1	Term(Semester)/Day/Period	INTENSIVE Aug.28~30
Instructor	MISAWA,Tetsuya WATANABE, Yuji		
<input type="checkbox"/> Course Aims 授業の目的・目標 : Data science refers to the study of creating new knowledge and value that is scientifically or socially beneficial by analyzing data related to phenomena of interest through the cross-cutting use of advanced information technologies such as statistics, mathematics, programming, and Artificial Intelligence (AI). This discipline is becoming increasingly important as a driving force for the creation of new knowledge and value from the so-called big data that exists in the digital world along with the ever-accelerating progress of ICT. In light of this growing interest in data science, this course aims to provide students with an introductory and basic knowledge of regression analysis and AI applications, which are often used in the fields of statistics and information science.			
<input type="checkbox"/> Course Objectives 学修到達目標 : 1) To acquire the necessary skills and academic knowledge related to regression analysis, and to be able to perform basic data analysis tasks and discuss the results based on these skills. 2) To acquire the fundamental knowledge of programming and AI, and to be able to create simple programs by programming language Python.			
<input type="checkbox"/> Grading Criteria 成績評価基準 : A: Very Good B: Good C: Passed			
<input type="checkbox"/> Keyword キーワード: Regression analysis, EXCEL regression, Programming, Python, AI			
<input type="checkbox"/> Related Diploma Policy ディプロマ・ポリシーとの関連 (a) Specialized Knowledge (b) Problem Solution			
<input type="checkbox"/> Course Outline 授業概要 : In the first half of this course, we will start with an introduction to the least-squares method of estimating regression models, and overview the evaluation methods of the estimation results. We will also briefly touch on logistic regression analysis, which is often used in the medical field, and students are scheduled to practice regression analysis using EXCEL to deepen their understanding. In the second half of this course, we will start with an introduction to the basic grammar of programming by programming language Python for beginners of programming, and overview AI and machine learning. We will also enhance the development of students' skill in creating simple programs using Python.			
<input type="checkbox"/> Course Schedule 授業計画 (By Misawa) (By Watanabe) 1 Regression analysis and least-squares method 4 Python Programming 2 Multiple regression analysis 5 Python programming exercise 3 EXCEL regression analysis exercise 6 AI and machine learning 7 AI programming exercise			
<input type="checkbox"/> Preparation and Review 授業時間外の学修 (準備学修含む) : Students will be required to complete EXCEL exercises on regression data analysis and Python programming exercises outside of class time. For this purpose, please prepare and review the lecture content.			
Grading Categories and Weight	Grading will be decided on based on each teacher's grading criteria (each 50%). Each criteria will be announced in each course.		
Textbooks	The lecture will be given with handouts using the following reference materials as appropriate.		
Reference Books	1) Regression analysis: ・ 縄田和満、「EXCEL による回帰分析入門」朝倉書店、1998 (in Japanese) (NAWATA, Kazumitsu, "EXCEL ni yoru kaikibunseki nyumon", Asakura-shoten,1998) ・ 山本 拓、「計量経済学」新世社、1995 (in Japanese) (YAMAMOTO, Taku, "Keiryō-keizaigaku", Shinsei-sha, 1995). ・ G. S. Maddala Kajal Lahiri, "Introduction to Econometrics" 4th-ed., (2009-12-21), Wiley. 2) Python Programming ・ C. Althoff, "The Self-Taught Programmer: The Definitive Guide to Programming Professionally", Triangle Connection LLC, 2016 ・ クジラ飛行機、「実践力を身につける Python の教科書」マイナビ、2016 (in Japanese) (Kujira Hikoudukue, "Jissenryoku wo minitukeru Python no kyoukasho", Mynavi, 2016)		
Prerequisite	Basic knowledge of probability theory (random variables and probability distributions) and statistics (estimation and testing) as well as experience in EXCEL operation is desirable.		
Notice for Students	The lectures will be conducted using PPT. We will also have some EXCEL statistical exercises and Python programming exercises.		
Active learning	The course will include some statistical and programming exercises.		
Office Hour/Contact	(Misawa) Room# 212, Bld. 3 misawa@econ.nagoya-cu.ac.jp Office hours: Fri. 12:10-13:00	(Watanabe) Room# 315, Bld. 4 yuji@nsc.nagoya-cu.ac.jp Office hours: Tue. 11:00-12:30	
Note		URL for Reference	

Course title		Introduction to Natural Sciences and Sustainable Development Goals (SDGs)					
Credit	1	Term(Semester)/Day/Period	first semester/mon/6 (18:00~19:30)	Instructor		Faculty members	
<input type="checkbox"/> Course Aims 授業の目的・目標: In order to nurture young specialists for Environment and Safety matters, basic concept and knowledge in natural sciences, especially in biological and material sciences, should be a prerequisite for learning advanced and practical subjects. This course aims to provide an introduction to natural sciences connected to issues on sustainable development goals (SDGs), such as SDGs Nos. 3, 7, 9, 14 and 15. Students are requested to have already learned diverse basic courses in natural sciences in the undergraduate level.							
<input type="checkbox"/> Course Objectives 学修到達目標: Students are expected to satisfy the following points in their study achievements. 1) They understand basic concepts in natural sciences. 2) They can tell what environmental and safety problems exist in general. 3) They can tell what scientific approaches are needed to solve those problems.							
<input type="checkbox"/> Grading Criteria 成績評価基準 A: Proficiency in course subjects in the 'excellent' level C: Proficiency in course subjects in the 'good' level B: Proficiency in course subjects in the 'very good' level D: Proficiency in course subjects in the 'failed' level							
<input type="checkbox"/> Keyword キーワード sustainable development goals, biodiversity, life science, material science, analytical chemistry, environmental problems							
<input type="checkbox"/> Related Diploma Policy ディプロマ・ポリシーとの関連							
<input type="checkbox"/> Course Outline 授業概要: Seven lecturers will provide their own topics as outlined below in English. Some may use powerpoint presentations but others may talk with their handouts or writing on the white board. Each lecturer will announce his/her way of evaluation of proficiency in the lecture (either by report or mini-test). Thus, presence at each lecture is very important.							
<input type="checkbox"/> Course Schedule 授業計画 1 Evolution of viruses and scientific countermeasures(6/12;Y.Suzuki) 2 Biodiversity and conservation/sustainable use of genetic resources (6/19;Y.kumazawa) 3 Biological response to stress substance(6/26;M.Okutsu) 4 Understanding animal behaviors by artificial intelligence(7/3;K.Kimura) 5 Chemistry of electric battery(7/10;T.Amaya) 6 Elucidation of fine chemical structures to design useful compounds(7/17;S.Aoyagi) 7 Non-destructive analytical chemistry for the safety of food resources(7/24;N.Katayama)							
<input type="checkbox"/> Preparation and Review 授業時間外の学修 (準備学修含む): Each lecture should be reviewed by yourself with handouts (if any) or other references available to you.							
成績評価方法		Report or mini-test by each lecturer: 100 % (Lack of attendance at lectures without prior approval by the corresponding lecturer will negatively affect your scores)					
Grading Categories and Weight							
教科書・テキスト Textbooks		No particular textbook is assigned.					
参考文献 Reference Books		Recommended reference books may be introduced in lecture.					
履修要件 Prerequisite		Basic and general knowledge in natural sciences in the undergraduate level will be required together with proficiency in English.					
履修上の注意事項 Notice for Students		This is a course on natural sciences at the graduate-course level. Those who did not major in basic (e.g., biology, chemistry, and physics) or advanced (e.g., agriculture, fisheries, pharmacy, and medicine) subjects of natural sciences in their previous academic career would require specially enhanced self-help efforts in preparation and review of this course.					
アクティブ・ラーニング Active learning		Small group discussions may be carried out.					
連絡先・オフィスアワー Office Hour/Contact		Yoshiyuki Suzuki:yossuzuk@nsc.nagoya-cu.ac.jp Yoshinori Kumazawa:kuma@nsc.nagoya-cu.ac.jp Koutarou Kimura:kokimura@nsc.nagoya-cu.ac.jp Mitsuharu Okutsu:okutsu@nsc.nagoya-cu.ac.jp Toru Amaya:amaya@nsc.nagoya-cu.ac.jp Shinobu Aoyagi:aoyagi@nsc.nagoya-cu.ac.jp Noriyoshi Katayama:nory@nsc.nagoya-cu.ac.jp					
備考 Note		URL for Reference					

学部・研究科横断型教育プログラム

《コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースについて》

1. コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースの趣旨

医学研究科博士課程にコミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースを設置する。本コースは、今後予想される病院から在宅への医療ニーズの急速なシフトを、単なる高齢化対策ではなく、未来医療への新しいトレンドとして位置づけ、エイジング・イン・プレイス(AIP)社会の実現および医学・医療の発展と向上を担うコミュニティ・ヘルスケア指導者の養成を目的としている。本コースの修了者は、多職種協働による在宅ケア、認知症ケア、緩和・終末期ケア、コミュニティとの協働による地域包括ケアのコーディネートを含む超高齢社会の多様なニーズに対応し、かつ、未来医療のデザインや開発に貢献することが期待されている。

なお、本コースは、研究科横断型教育プログラムとして認定されており、名古屋市立大学大学院医学研究科・薬学研究科・看護学研究科、名古屋工業大学大学院工学研究科の協力によって運営されている。

2. 指導者養成コースの授業科目・単位数・開講時期・読み替え科目名称

授 業 科 目	必修 選択	単位数	開講時期	医学研究科博士課程での 読み替え科目名称
①地域包括ケアシステム学特論#	必修	2	1年次	
②緩和/終末期ケア学特論	選択	2	1年次	生体情報・機能制御医学講義Ⅲ
③総合認知症学特論	選択	2	1年次	生体防御・総合医学講義Ⅲ
④減災・医療概論	選択	2	1年次	修士共通科目
⑤コミュニティ・ヘルスケア実習 A#	必修	2	1年次	
⑥コミュニティ・ヘルスケア実習 B#	選択	2	2年次	
⑦ヘルスケアデザイン特論##	選択	1	1年次	
⑧医療 ICT 管理学##	選択	1	1年次	
⑨コミュニティ創成特論 A##	選択	1	1年次	

名古屋市立大学大学院看護学研究科開講科目

名古屋工業大学大学院工学研究科開講科目

※ ①、⑤、⑥については看護学部事務室へ問い合わせること。

※ ②、③は医学研究科博士課程 共通科目として開講するため、履修登録の際に選択すること。

※ ④は医学研究科修士課程の科目である。

※ ⑦から⑨については名古屋工業大学 学務課大学院係 (052-735-5070) へ問い合わせること。

3. コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースの修了要件

「コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コース授業科目」の必修科目 4 単位および選択科目 6 単位以上、合計 10 単位以上の修得および下記に示すレポートの提出をコミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースの修了要件とする。

レポートの提出方法

テ ー マ：AIP 社会実現への課題

(超高齢社会で生じている問題の一つに着目して、AIP 社会実現に向けて、自分自身がどのように貢献するのか具体的に記述する)

作成方法：A4 用紙を使用し、40 字×30 行で 2 ページ以内とする。

提出期間： 2024 年 2 月 1 日 (木) ～ 9 日 (金) 17 時

提 出 先：医療人育成課

※レポートを提出する際に「学部・研究科横断型教育プログラム修了証交付申請書」も併せて提出すること。

ただし、本コースの授業科目のうち、名古屋市立大学大学院看護学研究科開講科目、及び名古屋工業大学大学院工学研究科開講科目の一部については、医学研究科博士課程の修了に必要な単位には含まれないため注意すること。

4. コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コースの履修方法等

1) 履修要件

原則として、医師、薬剤師、看護師、理学療法士等の医療福祉系の免許を有する者とする。

2) 履修手続き

履修を希望する学生は、指導教員に相談して許可を得た後に、コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コース「科目履修届」を教育研究課に提出することにより、履修登録を行う。

3) 履修方法

一部の科目は、集中講義として開講され、開講日・開講場所・受講方法などは掲示などにより連絡されるため、留意すること。

4) 修了証

上記 3. による修了要件を満たす者には、修了証が交付される。修了証交付を希望する者は、「学部・研究科横断型教育プログラム修了証交付申請書」を上記 3. に記載しているレポートと併せて、上記提出期間内に医療人育成課に提出する。

科目名	地域包括ケアシステム学特論			
単位認定教員	氏名	明石恵子	所属	看護学研究科周手術期看護学
単位数	2単位			
授業の目的と方針	<p>GIO: 地域の医療機関や市町村等と連携し、超高齢社会における地域包括ケアシステムに対応できるリサーチマインドを持った医療人となるために、地域包括ケアシステム構築の方法を修得する。</p> <p>SBO1:日本における少子高齢化の伸展と医療保険・介護保険の現状を説明できる。 SBO2:地域包括ケアシステムを支える「自助」「互助」「共助」「公助」を説明できる。 SBO3:地域包括ケアシステムにおける諸主体(「本人」「介護者」「介護事業者」「民間企業等の諸団体」「市町村」「都道府県」)が取り組むべき課題を説明できる。 SBO4:地域包括ケアシステムの5つの要素(「住まい」「生活支援」「介護」「医療」「予防」)を説明できる。 SBO 5:地域包括ケアシステムにおける「住まい」「生活支援」「介護」「医療」「予防」のあり方を総合的に議論できる。 SBO6:地域包括ケアシステム構築に向けて、自らの役割や課題を述べることができる。</p>			
授業計画		月日	授業内容	担当教員
	1	5月12日 (金)2限	ガイダンス	看護学研究科:明石恵子
	2	5月12日 (金)3-4限	日本の医療保険・介護保険の現状	医学研究科:赤津裕康
	3		地域包括ケアシステムの背景	
	4	5月16日 (火)3-4限	地域包括ケアシステムにおいて諸主体が取り組むべき方向	看護学研究科:秋山明子
	5			
	6	5月23日 (火)4限	地域包括ケアシステムにおけるACPの取り組み	医学研究科:川出義浩
	7	5月30日 (火)3-4限	地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み(1)	名古屋市健康福祉局高齢福祉部地域ケア推進課:森銀次郎
	8		地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み(2)	名古屋市緑区役所区民福祉部福祉課:近藤絵里子
			地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み(3)	名古屋市瑞穂区役所保健福祉センター福祉部福祉課:吉野文明
	9	6月17日 (土)2-4限	地域包括ケアシステムにおける「住まい」「生活支援」「医療」「介護」のあり方	大阪公立大学大学院看護学研究科:三輪恭子
	10			
	11			
	12	6月27日 (火)3-4限	地域包括ケアシステム構築に向けた議論	看護学研究科:井上高博
	13			
14	7月11日 (火)3-4限	居住地における地域包括ケアシステムの現状と課題に関する議論	看護学研究科:明石恵子	
15				
時間	講義の曜日が異なるため、注意してください。			
場所	看護学部棟 303演習室			
評価	第2-11回の授業への出席とレスポンスカード提出(60%)、第12-13回の議論内容(20%)、第14-15回のプレゼンテーションと議論内容(20%)で評価する。			
備考	履修者が3名に満たない場合は、非開講とすることもある。			

科目名	コミュニティヘルスケア指導者養成コース 緩和・終末期ケア学特論 ※この講義は、医学研究科博士課程共通科目④生体情報・機能制御医学講義Ⅲ—緩和医療—として開講しています。			
単位認定教員	氏名	明智 龍男 教授	所属	精神・認知・行動医学
講義情報	単位数	2単位	開講時期	後期
授業の目的と方針	現代の医療においては、死はタブー視され、直視されない傾向が顕著である。一方、わが国では超高齢社会が到来し、がん、心不全、認知症などに罹患し、死の転帰を辿る患者が増加し続けている。緩和ケアとは、「生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処(治療・処置)を行うことによって、苦しみを予防し、和らげることで、クオリティ・オブ・ライフを改善するアプローチ」であり、がんを代表とする致死性疾患に対する診断時から終末期まで疾患の全ての軌跡を含めた全人的ケアのことを指す。本講義においては、進行性の疾患によって人生の最終段階を迎える患者のQuality of lifeを尊重することを中心的価値観とし、緩和ケアのみならず、死に関する人文社会学的知見などについて、包括的に解説する。			
授業計画	月・日	授業内容	担当教員	
	10月17日(火)	緩和ケア概論	西部医療センター 精神科 奥山 徹 教授(診療担当)	
	10月24日(火)	痛み	腎・泌尿器科 恵谷 俊紀 講師	
	10月31日(火)	化学療法に関する考え方 :効果、副作用、QOLのバランス	臨床腫瘍部 小松 弘和 教授	
	11月7日(火)	慢性疼痛への心理社会的アプローチ	麻酔科学・集中治療医学 酒井 美枝 特任助教	
	11月14日(火)	薬学の視点から考える緩和ケア	薬学研究科 神経薬理学 大澤 匡弘 准教授	
	11月21日(火)	国のがん対策と緩和ケア	精神・認知・行動医学 久保田 陽介 講師	
	11月28日(火)	がんに伴う身体症状概論	呼吸器・免疫アレルギー内科学 前野 健 准教授	
	12月5日(火)	精神腫瘍学	緩和ケアセンター 内田 恵 講師	
	12月12日(火)	心不全の緩和ケア	循環器内科 北田 修一 講師	
	12月19日(火)	高齢者医療/認知症と緩和ケア	地域医療教育学 赤津 裕康 教授(診療担当)	
	12月26日(火)	アドバンス・ケア・プランニング	緩和ケアセンター 長谷川 貴昭 助教	
	1月9日(火)	看護の視点から考える緩和ケア	看護学部 樺野 香苗 教授	
	1月16日(火)	思想学から見た痛みと死生の関係	人文社会学部 Andrea Castiglioni 講師	
1月23日(火)	終末期の過ごし方	名古屋徳洲会総合病院 坂本 雅樹 非常勤講師		
1月30日(火)	コミュニケーションと意思決定	精神・認知・行動医学 明智 龍男 教授		
時間	午後6時30分～午後8時			
開講方法	オンラインにて実施 (Zoom)			
単位認定教員連絡先	医学研究科研究棟10階 精神・認知・行動医学 (電話番号 052-853-8271) 明智龍男教授 : takechi@med.nagoya-cu.ac.jp			

科目名	コミュニティヘルスケア指導者養成コース 総合認知症特論 ※この講義は、医学研究科博士課程 共通科目⑦生体防御・総合医学講義Ⅲ－認知症特論－として開講しています。			
単位認定教員	氏名	松川 則之 教授	所属	神経内科学
講義情報	単位数	2単位	開講時期	前期
授業の目的と方針	<p>認知症診療を包括的に行うために、認知症総合的にマネジメントできる診療医・薬剤師・看護師・理学療法士・作業療法士・医療工学士の育成を目的とする。本コースでは、認知症の基礎・臨床の知識から治療・ケア介入の実践行うべく手法を学ぶ。更には、認知症を中心とした精神・神経疾患のコフォート研究を行うために、コフォートデザイン作成に向けた基礎的知識の習得と実践的な経験を旨とする。</p> <p>SOB 1: アルツハイマー病の病態が説明できる SOB 2: 他の認知症の病態が説明できる SOB 3: 神経心理検査が実施できる SOB 4: 抗認知症薬について説明できる SOB 5: 精神症状とその対症薬を説明できる SOB 6: 認知症のケア方法を立案できる SOB 7: 在宅介護の施設整備の立案ができる SOB 8: 認知症社会資源が説明できる SOB 9: 電気生理・画像を用いた神経機能評価法を説明できる SOB 10: コフォート研究をデザインできる SOB 11: コフォート研究に参加する</p>			
授業計画	月・日	授業内容		担当教員
	4月18日(火)	認知症総論		神経内科学 松川 則之 教授
	4月25日(火)	アルツハイマー病の基礎		神経内科学 松川 則之 教授
	5月2日(火)	アルツハイマー病の基礎／その他の認知症の基礎		神経内科学 松川 則之 教授
	5月9日(火)	認知症行政とネットワーク		名古屋認知症相談支援センター 鈴木善史
	5月16日(火)	神経心理検査法		日本福祉大学 宮田 美和子 准教授
	5月23日(火)	認知症の画像診断		国立長寿医療研究センター 櫻井 圭太 医長
	5月30日(火)	認知症の臨床		神経内科学 松川 則之 教授
	6月6日(火)	認知症の周辺症状とその対応		地域療養医学 赤津 裕康 教授
	6月13日(火)	認知症のケア		看護高齢者看護学 原沢 優子 准教授
	6月20日(火)	認知症の病診連携の実践		西部医療センター部長 片田 栄一 非常勤講師
	6月27日(火)	認知症の鑑別診断と病態生理(電気生理)		リハビリテーション医学 植木 美乃 教授
	7月4日(火)	脳機能評価法(画像診断法を用いて)		神経内科学 松川 則之 教授
	7月11日(火)	コフォート研究デザイン		公衆衛生学 鈴木 貞夫 教授
	7月18日(火)	認知症の診断バイオマーカー探索		神経内科学 松川 則之 教授
7月25日(火)	コフォート研究の実践		地域療養医学 赤津 裕康 教授	
時間	午後6時30分～午後8時			
開講方法	オンラインにて実施 (Zoom)			
単位認定教員連絡先	医学研究科研究棟3階 神経内科学 (電話番号 052-853-8094) 松川則之教授 : norim@med.nagoya-cu.ac.jp (秘書 : shinkei@med.nagoya-cu.ac.jp)			

科目区分	共通教育科目16		
授業科目名	減災・医療概論		
必修・選択区分	修士課程1年必修		
単位認定教員	服部友紀 教授		
講義内容	<p>到達目標</p> <p>(1)災害現場やCOVID-19パンデミックを実際に対応してきた医療者の実体験に基づく講義を聴講する</p> <p>(2)実体験談から減災・医療について専門的な知識を習得する</p> <p>(3)災害及び急性期医療から復興期医療等について専門知識やスキル修得する</p> <p>(4)(産科医、透析専門医、薬剤師、DMAT看護師から)災害弱者、特殊疾患患者の災害時の対応について学ぶ</p>		
	講義日	講義テーマ(所属/担当者)	出席確認
1	4月18日(火) 18:30～20:00	災害医療総論①救急医と災害医療 名古屋市立大学医学研究科 先進急性期医療学 教授 服部友紀	
2	4月25日(火) 18:30～20:00	ERの感染対策と診療 名古屋市立大学医学研究科 先進急性期医療学 教授 笹野寛	
3	5月2日(火) 18:30～20:00	災害医療～災害現場での経験～① 名古屋市立大学病院災害医療センター センター長 山岸庸太	
4	5月9日(火) 18:30～20:00	災害医療～災害現場での経験～② 名古屋市立大学病院災害医療センター センター長 山岸庸太	
5	5月16日(火) 18:30～20:00	災害医療と看護師① 愛知医科大学看護学部 成人看護学 伊藤真規	
6	5月23日(火) 18:30～20:00	災害医療と看護師② 名古屋市立大学大学院看護学研究科・看護学部 教授 明石恵子	
7	5月30日(火) 18:30～20:00	新型コロナウイルス感染症の対策 名古屋市立大学医学研究科 先進急性期医療学 教授 服部友紀	
8	6月6日(火) 18:30～20:00	災害時の薬剤師の活動① 名古屋市立大学病院病院薬剤部 薬剤師 大橋一輝	
9	6月13日(火) 18:30～20:00	災害時の薬剤師の活動② 名古屋市立大学病院病院薬剤部 薬剤師 早川智章	
10	6月20日(火) 18:30～20:00	地域包括ケアシステムと災害 名古屋市立大学大学院医学研究科 地域医療教育学分野 教授 赤津裕康	
11	6月27日(火) 18:30～20:00	脳卒中と災害 名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター 救急科・脳神経内科 准教授 三浦敏靖	
12	7月4日(火) 18:30～20:00	災害時の妊婦への対応～コロナ禍にどう対応しているか～ 名古屋市立大学大学院医学研究科 産婦人科 助教 後藤志信	
13	7月10日(月) 18:30～20:00	災害時の透析患者への対応① 名古屋市立大学大学院医学研究科 腎臓内科学 助教 水野晶紫	
14	7月19日(水) 18:30～20:00	災害時の透析患者への対応② 名古屋市立大学大学院医学研究科 腎臓内科学 助教 水野晶紫	
15	7月25日(火) 18:30～20:00	災害医療総論②総括・まとめ 名古屋市立大学医学研究科 先進急性期医療学 教授 服部友紀	
講義場所	オンライン講義(Zoom)		
成績判定方法	レポート、演習評価		
テキスト・参考文献	講義に関する原著論文、配布資料等		
単位認定教員連絡先	e-mail: thattori@med.nagoya-cu.ac.jp		

科目名	コミュニティ・ヘルスケア実習A			
単位認定教員	氏名	明石恵子	所属	看護学研究科クリティカルケア看護学
単位数	2単位			
授業の目的と方針	<p>エイジング・イン・プレイス(AIP)社会の医学・医療の発展と向上を担うコミュニティ・ヘルスケア指導者を養成するためのプログラムの一環である。学生は、健康調査または健康講座のいずれかを実施し、地域住民の生活と健康を把握し、健康寿命延伸の課題を発見する。</p> <p>GIO: 地域住民の生活と健康を把握し、健康寿命延伸の課題を発見する。 課題に対して、取得している職種の役割を理解する。</p> <p>SBO 1: 特定地域の住民を対象とする健康調査を実施し、その結果を説明できる。 SBO 2: 特定地域の住民を対象とする健康講座を実施し、その結果を評価できる。 SBO 3: 健康調査と健康講座の結果から、当該地域における健康寿命延伸の課題とその解決方法を議論することができる。</p> <p>* 本科目は、「地域包括ケアシステム学特論」の履修を前提としている。</p>			
授業計画	授 業 内 容		担当教員	
	<p>学生の選択によって下記の実習を行い、最後に履修者全員で発表会を行う。 いずれの実習も、瑞穂区または緑区のコミュニティセンター、なごや介護予防・認知症予防プログラム運用施設等を予定している。</p> <p>《健康調査》 1)健康調査の目的と方法を検討し、調査計画書を作成する。 2)担当教員の許可を得て調査を行い、結果を分析する。 3)健康調査の目的・方法・結果・考察を8000字程度でまとめるとともに、発表資料を作成する。</p> <p>《健康講座》 1)健康講座のテーマと目的、方法を検討し、講座実施計画書(教材や参加者アンケートを含む)作成する。 2)担当教員の許可を得て健康講座を行い、その結果を評価する。 3)健康講座の目的・方法(使用教材を含む)・結果・考察を8000字程度でまとめるとともに、発表資料を作成する。</p>		<p>看護学研究科 明石恵子 金子典代</p> <p>医学研究科 赤津裕康 川出義浩</p>	
時間・場所	実習期間・実習場所は、実習希望と学生の都合をふまえて、個別に調整する。			
評価方法	実習への参加度(50%)およびレポート(50%)によって評価する。 レポートの提出期限は、実習最終日の1週間後とする。			

科目名	コミュニティ・ヘルスケア実習B			
単位認定教員	氏名	明石恵子	所属	看護学研究科クリティカルケア看護学
単位数	2単位			
授業の目的と方針	<p>エイジング・イン・プレイス(AIP)社会の医学・医療の発展と向上を担うコミュニティ・ヘルスケア指導者を養成するためのプログラムの一環である。学生は、多職種連携研修会の企画・運営または要介護事例の療養生活支援のいずれかを選択して、地域包括ケアの実際を学ぶ。</p> <p>《多職種連携研修会の企画・運営》 GIO: 在宅医療多職種連携研修会における高齢者の事例検討会を企画・運営する。 SBO 1: 在宅医療多職種連携研修会の企画・運営に参画することができる。 SBO 2: 在宅医療多職種連携研修会に参加し、その評価をすることができる。</p> <p>《要介護事例の療養生活支援》 GIO: 支援を必要とする要介護事例に対する多職種連携チームによる療養生活支援の方法を修得する。 SBO 1: 要介護事例に対して、多職種連携チームによる療養生活支援計画を立案することができる。 SBO 2: 要介護事例に対して、診療/服薬指導/看護/リハビリテーション等を実施することができる。 SBO 3: 要介護事例に対する多職種連携チームによる療養生活支援を評価することができる。</p> <p>* 本科目は、「地域包括ケアシステム学特論」「コミュニティ・ヘルスケア実習A」の履修を前提としている。</p>			
	授 業 内 容		担当教員	
授業計画	<p>《多職種連携研修会への参画と評価》 瑞穂区が実施する多職種連携研修会の企画段階から参加し、実施、評価を行う。 1)在宅医療多職種連携研修会の企画会議に参加し、メンバーの一員としての役割を果たす。 2)在宅医療多職種連携研修会当日は、スタッフとしての役割と研修会ファシリテーターとしての役割を担う。 3)在宅医療多職種連携研修会の結果を評価する。 4)上記の実習経過をもとに、在宅医療多職種連携研修会の企画・運営・評価に考察を加えて、レポートを作成する。</p> <p>《要介護事例の療養生活支援》 取得している資格によって、訪問診療、訪問看護、薬剤管理指導のいずれかの実習を行い、要介護事例に対する療養生活支援の計画・実施・評価を行う。 1)介護保険によって要介護認定されている1事例を担当する。 2)担当事例の「住まい」「生活支援」「介護」「医療」「予防」の状況を把握する。 3)多職種連携チームによる支援計画を立てる。 4)随時、事例を訪問し、支援計画に沿った支援を展開する(最低4回)。 5)機会があれば、多職種カンファレンスに参加する。 6)多職種連携チームによる支援の結果を評価する。 7)上記の実習経過をもとに、担当事例に対する多職種連携チームによる療養生活支援の計画・実施・結果に考察を加えて、レポートを作成する。</p>		看護学研究科 明石恵子 金子典代 医学研究科 赤津裕康 川出義浩	
時間・場所	実習期間・実習場所は、実習先と学生の都合をふまえて、個別に調整する。			
評価方法	実習への参加度(50%)およびレポート(50%)によって評価する。 レポートの提出期限は、実習最終日の1週間後とする。			

授業科目名	ヘルスケアデザイン特論	時間割番号	6001
担当教員名	加藤昇平, 非常勤講師		
学科・年次	工学専攻・博士前期課程1年		
科目区分	複合分野・先端科目	単位数	1
時間割	前期前半(Q1) 木曜9・10時限(16:20-17:50)	授業形態	講義
授業実施方法	<input type="checkbox"/> 対面 <input checked="" type="checkbox"/> オンデマンド <input type="checkbox"/> 同時双方向		
<p>◎授業の目的・達成目標</p> <p>授業の目的：都市型高齢社会において進行する病院診療から在宅診療への医療ニーズのシフトを、単なる人口高齢化対策ではなく未来医療へのトレンドとして捉え、健診や医療機関のみでなく、日常生活環境と情報ネットワークを基盤とするヘルスケア（保健・医療・福祉）の新しいシステムを考える。</p> <p>達成目標：下記の講義で示される未来医療の可能性と課題を知り、新しい医療のデザインや実現に参画しうる素養を身につけるために、未来医療に求められる健康や疾患の概念、医療システム、各職種の役割と、未来医療の基盤技術となる日常活動中の生体情報モニタリング、保健・医療・介護・生活支援ロボット、様々な情報ネットワークおよび膨大な情報（ビッグ・データ）の活用などについて、医学・医療およびICT医工学の最新知見と動向を理解する。</p>			
<p>◎授業計画</p> <p>0. 本講義の説明と導入 (Moodleを用いた(オンデマンド型オンライン)授業の説明)</p> <p>1. 未来医療のための健康と病気の新しい概念 早野順一郎(株式会社ハートビートサイエンスラボ) (4/13)</p> <p>2. 超高齢社会における救急医療と倫理問題 明石恵子(名古屋市立大学大学院・看護学研究科・教授) (4/20)</p> <p>3. 未来医療のための多職種連携 赤津裕康(名古屋市立大学・医学研究科・教授) (4/27)</p> <p>4. 高齢者の発話音声と脳血流に着目した軽度認知症の早期スクリーニング 加藤昇平(名工大大学院・工学研究科 情報工学専攻・教授) (5/11)</p> <p>5. 良く分かる神経変性疾患：医工学実践へ向けて 渡辺宏久(藤田医科大学・医学部・主任教授) (5/18)</p> <p>6. 医療と音楽・エビデンスとナラティブをつなぐもの 佐野芳彦(有限会社ト・ヘン・作曲家) (5/25)</p> <p>7. 地域医療を支える新しい薬局の役割 鈴木匡(名古屋市立大学・薬学研究科・教授) (6/1)</p> <p>8. レポート課題の作成 (6/8)</p>			
<p>◎成績評価の方法</p> <p>オンライン受講記録とレポートによって評価する。</p>			
<p>◎履修にあたっての注意事項及び教室外における準備学修等の指示</p>			

授業科目名	医療ICT管理学特論	時間割番号	6101
担当教員名	加藤昇平, 非常勤講師		
学科・年次	工学専攻・博士前期課程1年		
科目区分	複合分野・先端科目	単位数	1
時間割	前期後半(Q2) 水曜9・10時限(16:20-17:50)	授業形態	講義
授業実施方法	<input type="checkbox"/> 対面 <input checked="" type="checkbox"/> オンデマンド <input type="checkbox"/> 同時双方向		
<p>◎授業の目的・達成目標</p> <p>授業の目的：医療ICT医工学の総論から現在の医工学の範囲と方法論を概観し、医療ICT医工学のあるべき姿を学ぶ。同時に、情報通信を活用した医療情報システムの現況を理解すると共に、情報セキュリティの重要性や在宅医療・介護分野多職種協働における情報共有システムの実践や先進医療機器の利活用法を幅広く学ぶ。</p> <p>達成目標：医療ICT医工学における概論と方法論を説明できる。 在宅医療・介護における情報連携の仕組みの応用を説明できる。 医療フォレンジックや医療情報における情報セキュリティを説明できる。 M2Mなどの在宅における最新医療機器の臨床活用を説明できる。</p>			
<p>◎授業計画</p> <p>1. 本講義の導入、社会的課題の解決手段としてのICT (6/14) 竹尾 淳 (名古屋国際工科専門職大学)</p> <p>2. 医療におけるプライバシー保護と情報セキュリティ (6/21) 白石 善明 (神戸大大学院・工学研究科)</p> <p>3. 医療情報システム 塩川 康成 (キヤノンメディカルシステムズ株式会社) (6/28)</p> <p>4. 医療情報安全管理ガイドラインと医療フォレンジック (法的医療記録他) 間形 文彦 (NTTコミュニケーションズ株式会社) (7/5)</p> <p>5. 薬の研究開発を支援するクラウドサービス 鎌倉 千恵美 (アガサ株式会社) (7/12)</p> <p>6. デジタルヘルスケア-ICTを活用した健康管理 中嶋 宏 (オムロン株式会社) (7/19)</p> <p>7. 課題の多い医療ICTの実情と病院ICT技術者の必要性 (7/26) 城 卓志 (蒲郡市民病院 CEO・名古屋市立大学特命学長補佐)</p> <p>8. レポート課題の作成 (8/2)</p>			
<p>◎成績評価の方法</p> <p>オンライン受講記録とレポートによって評価する。</p>			
<p>◎履修にあたっての注意事項及び教室外における準備学修等の指示</p> <p>「ヘルスケアデザイン特論」(複合分野・先端科目)を前期(Q1)に履修していることが望ましい。</p>			

授業科目名	コミュニティ創成特論A	時間割番号	7103
担当教員名	加藤昇平, 非常勤講師		
学科・年次	工学専攻・博士前期課程1年		
科目区分	工学デザイン科目	単位数	1
時間割	前期後半(Q2) 火曜9・10時限(16:20-17:50)	授業形態	講義
授業実施方法	<input type="checkbox"/> 対面 <input checked="" type="checkbox"/> オンデマンド <input checked="" type="checkbox"/> 同時双方向(第7・8週)		
<p>◎授業の目的・達成目標</p> <p>授業の目的：人口縮小、超高齢社会を迎えた日本において人と人が繋がり、支えあう生活空間として、コミュニティを再生・創成することが急務となってきた。多様な工学技術は、コミュニティの再生・創成に対して、どのように貢献しうるかを理解することが必要である。超高齢化社会に向けて、質の高いエイジング・イン・プレイス（AIP）社会を実現するためのヘルスケア・コミュニティ構築・運営における支援の在り方や仕組みづくりについて知見を習得し、コミュニティ創成の在り方について議論する。コミュニティ工学は、コミュニティと工学の関係を解明する「コミュニティ理論工学」と、コミュニティを支援する技術を解明する「コミュニティ支援工学」により構成される。前者の理解のために、人間にとってのコミュニティの意味や、コミュニケーションと工学技術の関係、さらにコミュニティと工学技術の関係を概観する。後者の理解のために、コミュニケーションを支援する工学技術や、コミュニティの受け皿となる生活空間をつくり出す工学技術の実践的事例をみる。</p> <p>達成目標：コミュニティと工学技術の関係や、コミュニケーションツール、コミュニティ環境に関する工学技術を説明することができるようになる。少子高齢化の現状を踏まえて、住民・患者の視点・立場に立ったものの見方・考え方ができる。</p>			
<p>◎授 業 計 画</p> <p>1. 本講義の導入、超高齢社会とコミュニティの課題 竹尾 淳(名古屋国際工科専門職大学) (6/6)</p> <p>2. 超高齢社会と地域包括ケア 森 銀次郎(名古屋市健康福局) (6/13)</p> <p>3. 医療福祉機器とQOL 畠中 規(横浜総合リハビリテーションセンター) (6/20)</p> <p>4. 中山間地域におけるMB(Mobility Blend)構築によるエイジング・イン・プレイスの実現 剣持 千歩(名古屋大学未来社会創造機構) (6/27)</p> <p>5. 在宅療養と訪問看護ケア 中村 美喜(名古屋市港・熱田訪問看護ステーション) (7/4)</p> <p>6. 建築からみたエイジング・イン・プレイス 三矢 勝司(名古屋工業大学) (7/11)</p> <p>7. 実践的課題解決演習(その1) 大山 裕之(コンティニュー株式会社) (7/18)</p> <p>8. 実践的課題解決演習(その2)・前半の振り返り 大山 裕之(コンティニュー株式会社) (7/25)</p> <p>レポート課題の作成</p>			
<p>◎成績評価の方法</p> <p>オンライン受講記録とレポートによって評価する。</p>			
<p>◎履修にあたっての注意事項及び教室外における準備学修等の指示</p> <p>「ヘルスケアデザイン特論」(複合分野・先端科目)を前期(Q1)に履修していることが望ましい。</p>			

定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針

(定期試験における不正行為の定義)

第1 定期試験において学生が次に掲げる行為を行ったときは、不正行為を行ったものとみなすこととする。

- (1) カンニング（カンニングペーパーを所持又は見ること、持込みが許可されていないテキスト等を見ること、他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど）をすること。
- (2) 試験時間中に、答えを教えるなど他の受験者を利するような行為をすること。
- (3) 試験時間中に、携帯電話等を使用して連絡を取ること。
- (4) 使用を禁じられた用具を使用して問題を解くこと。
- (5) 試験開始の指示の前に問題を見たり解答を始めること。
- (6) 試験終了の指示に従わず、解答を続けること。
- (7) 試験時間中に、携帯電話、時計等の音（着信、アラーム、振動音等）を長時間鳴らすなど、試験の進行に多大な影響を与えること。
- (8) 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- (9) 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- (10) その他、試験の公平性を損なう行為をすること。

(定期試験に代わるレポート課題における不正行為の定義)

第2 定期試験に代わるレポート課題において学生が次に掲げる行為を行ったときは、不正行為を行ったものとみなすこととする。

- (1) 既に公表されている著作物やウェブサイトに掲載された他人の文章や図表等の全部又は一部を、引用・出典を明示せずに、故意にあたかも自分自身の作成した文章や図表であるかのように利用すること。
- (2) 他人が作成したレポートの全部又は一部を、あたかも自分自身の作成したレポートであるかのように提出すること
- (3) その他、定期試験に代わるレポート課題の公平性を損なう行為をすること。

(処分及び措置)

第3 第1又は第2に規定する不正行為を行った学生に対しては、当該学生が所属する学部又は研究科（以下「学部等」という。）の教授会の議を経て、次の各号のいずれかの処分を行うものとする。

- (1) 学部等の長による厳重注意
- (2) 名古屋市立大学学則第66条（名古屋市立大学大学院学則第49条において準用する場合を含む。）に基づく学長による懲戒処分（戒告、停学及び退学）

2 前項に規定する処分とあわせて、学部等の長は、学部等の教授会の議を経て、不正行為の

態様に応じて次の各号のいずれかの措置を行うものとする。

- (1) その学年における全ての科目の履修及び成績を無効とする。
- (2) その学期における全ての科目の履修を無効とする。ただし、通年科目の取扱いは、学部等の教授会で決定する。
- (3) 当該科目の履修を無効とする。なお、不正行為により教養教育の英語科目が無効となった場合は、当該処分が行われた年度には英語検定試験による単位認定は行わない。

(処分等の通知及び掲示)

第4 第3に基づき処分及び措置を行うときは、処分理由を記載した文書を当該学生に交付することにより通知するとともに、次の各号に掲げる場所に掲示することにより公示する。

- (1) 学部等の掲示板
- (2) 教養教育科目における不正行為の場合、前号に加えて教養教育の掲示板
- (3) 学長による懲戒処分を行う場合、前2号に加えて他の学部及び研究科の掲示板

2 前項に規定する掲示においては、当該学生の所属、学年、処分の種類、処分の理由を明らかにするものとする。

付 記

- 1 この指針は、平成26年4月1日から施行し、平成26年度に実施する定期試験及び定期試験に代わるレポート課題から適用する。
- 2 定期試験に準ずる試験及び集中講義に係る試験についても、この指針を準用する。
- 3 定期試験に準ずる試験に代わるレポート課題及び集中講義に係る試験に代わるレポート課題についても、この指針を準用する。
- 4 この指針に記載のない事項については、名古屋市立大学懲戒規程に定めるところによる。

【レポート課題作成時の注意】

レポートは、自分で調べたことや考えたこと等を自分の文章で記述するものです。
他の文献等を調べ学ぶことは非常に重要ですが、それを引用する場合はルールがあります。引用する場合は、引用した部分とそれに関する自分の考えの部分をはっきりと区別して示す必要があります。他人の文章、図表をあたかも自分のオリジナルであるかのように利用することは、「剽窃」（盗作）であり、定期試験等に代わるレポート課題に関しては、「定期試験及び定期試験に代わるレポート課題における不正行為に対する処分等に関する指針」に基づき、試験におけるカンニングと同様に不正行為とみなされ処分等の対象となります。授業においても指導されるレポート作成に当たってのルールを守ってレポートを提出して下さい。

令和5年度

医学研究科博士課程教育要項（共通科目シラバス）

編 集 名古屋市立大学大学院医学研究科
名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄 1
発 行 令和5年4月1日

(学籍番号： 氏名：)

自己点検・評価委員会 委員名簿

	職名	氏名
委員長	医学研究科長	高橋 智
委員	医学研究科副研究科長（教務担当）	齋藤 伸治
委員	医学研究科副研究科長（公開講座・留学生・国際交流担当）	澤本 和延
委員	医学研究科副研究科長（入試担当）	加藤 洋一
委員	医学研究科副研究科長（広報・産学官・研究科間連携担当）	飛田 秀樹
委員	医学研究科副研究科長（研究・共研担当）	片岡 洋望
委員	医学研究科副研究科長（大学院担当）	安井 孝周
委員	病院長	間瀬 光人
委員	副病院長（戦略企画・経営管理担当）	森田 明理